

令和元年度（平成31年度）  
杏林大学研究業績集



杏林大学

## 杏林大学研究業績集発行に寄せて

杏林大学は、研究力強化及び研究活動の活性化を目指し、令和元（平成 31）年度においても、平成 30 年度に引き続き共同研究施設部門に新たな機器を導入する等、研究環境の整備に取り組みました。また、「知的財産ポリシー」に基づき学内の知的財産の活用をすることを旨とし、産学官連携の推進にも注力しています。

大学の研究活動の成果を社会に向けて広く発信していくことは、大学の重要な使命のひとつであり、本学では研究の成果を取り纏めたものを、平成 22 年度より研究業績集として発行しています。令和元（平成 31）年度の研究活動の成果を研究業績集として取り纏め公表することで、学術研究活動が進展し、産学官連携のシーズ発掘に繋がることを期待しています。

全学的な連携を推進するためにも、この研究業績集をご活用頂けることを望んでおります。

令和 3 年 3 月

学 長

大 瀧 純 一



## 研究推進センターのミッション

令和元（平成 31）年度の研究業績集を無事発行できましたこと、皆様に深く御礼申し上げます。

令和元（平成 31）年度は新型コロナウイルス感染症が流行し、なかなか研究も進められない状況が続いていました。その中でも皆様が努力された成果がこの研究業績集だと思います。全学的な連携を推進するためにも、この研究業績集をご活用頂けると幸いです。

三鷹キャンパスでは新しい研究棟の建設が計画されています。これを機会に、杏林大学の研究環境の更なる充実が必要となります。

研究推進センターのミッションは杏林大学の研究者が研究を遂行しやすい環境を整えることです。皆様の個々の努力を結びつけてさらに研究を発展できるよう、研究推進センターでもサポート体制を強化していきます。

引き続き、皆様方のご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

令和 3 年 3 月

研究推進センター長

大木 紫



## 目 次

<b>1</b>	<b>講 演</b> <small>(学会・研究会，国際学会，地域の講演会，ポスターセッション，一般向け公開講座等)</small>	医学部 1		講演・論文・著書・特許等知的財産関係・報告書・その他	医学部
	<b>論 文</b> <small>(原著，総説，依頼総説，症例報告等，専門学術誌に掲載された学術著作等)</small>	保健学部 147			保健学部
	<b>著 書</b> <small>(分担執筆，監修，翻訳，電子メディアを含む)</small>	総合政策学部 183			総合政策学部
	<b>報告書</b> <small>(官公庁，公的機関等)</small>	外国語学部 189			外国語学部
	<b>その他</b> <small>(新聞掲載，メディア出演，受賞，学会主催，巻頭言，対談，オピニオン，特許等)</small>	CCRC研究所 195			CCRC
<b>2</b>	<b>共同研究</b>	199		共同研究	
<b>3</b>	<b>研究費採択一覧</b>	295		研究費採択一覧	
<b>4</b>	<b>学会等の研究活動に対する表彰者一覧</b>	317		学会等の研究活動に対する表彰者一覧	
<b>5</b>	<b>学位論文要旨および審査要旨</b> 医学研究科 保健学研究科 国際協力研究科	321		学位論文要旨および審査要旨	



# 医 学 部

呼吸器内科学教室	3	放射線腫瘍学教室	113
腎臓・リウマチ膠原病内科学教室	6	麻酔科学教室	114
脳神経内科学教室	10	臨床検査医学教室	118
循環器内科学教室	13	総合医療学教室	119
不整脈先進治療学研究講座	22	リハビリテーション医学教室	122
血液内科学教室	23	脳卒中医学教室	124
消化器内科学教室	23	医学教育学教室	127
糖尿病・内分泌・代謝内科学教室	36	肉眼解剖学教室	129
腫瘍内科学教室	39	顕微解剖学教室	130
高齢医学教室	46	統合生理学教室	132
精神神経科学教室	49	病態生理学教室	132
小児科学教室	53	代謝生化学教室	135
消化器・一般外科学教室	56	細胞生化学教室	135
呼吸器・甲状腺外科学教室	63	薬理学教室	135
乳腺外科学教室	65	病理学教室	136
小児外科学教室	66	感染症学教室	141
救急医学教室	67	衛生学公衆衛生学教室	143
脳神経外科学教室	71	法医学教室	144
心臓血管外科学教室	74	共同研究施設RI部門	145
整形外科教室	75	フローサイトメトリー部門	145
皮膚科学教室	83	実験動物施設部門	145
形成外科学教室	86	生物学教室	146
泌尿器科学教室	90	物理学教室	146
遺伝性腎疾患研究講座	94	化学教室	146
眼科学教室	95	英語教室	146
耳鼻咽喉科学教室	103		
産科婦人科学教室	107		
放射線医学教室	111		





## 呼吸器内科学教室

## 講演

1. 皿谷健: 私を魅了した感染症学～感染症の専門家を指そう. 第93回日本感染症学会症学会総会・学術講演会, 名古屋, 2019年4月4日.
2. 石井晴之, 小田未来: How can We analyze HR-CT image effectively?. PAGE試験結果を受けてのGM-CSF吸入療法標準化のための討論会, 東京, 2019年4月11日.
3. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の原因か解明に向けて. 日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019年4月12日.
4. 田澤立之, 鈴木雅, 大河内真也, 朝川勝明, 巽浩一郎, 石井晴之, 泉信有, 山口悦郎, 井上義一, 半田知宏, 富井啓介, 江田良輔, 森本浩之輔, 三上礼子, 田中崇裕, 北村信隆, 高田俊範, 上田隆宏, 中垣和英, 中田光: 自己免疫性肺蛋白症に対するGM-CSF吸入療法. 日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019年4月12日.
5. 北村信隆, 大河内真也, 田澤立之, 石井晴之, 高田俊範, 坂上拓郎, 田中崇裕, 中田光: 自己免疫性肺蛋白症の最新疫学. 日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019年4月12日.
6. Ishii H, Tazawa R, Inoue Y, Handa T, Tomii K, Nakata K: Prognostic analysis of secondary pulmonary alveolar proteinosis: Inspection by one of the world's largest data. 日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019年4月13日.
7. Yamaguchi E, Setoguchi Y, Ichiwata T, Ebina M, Cho K, Tazawa R, Ishii H, Kasai T, Akira M, Arai T, Uchida K, Kida H, Morimoto K, Kitaichi M, Sugimoto C, Hatsuda K, Hirose M, Nakata K, Tomii K, Takada T, Tanaka T, Ohkouchi S: Fatal cases of pulmonary alveolar proteinosis: Japanese nationwide surveillance. 日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019年4月13日.
8. Ohkouchi S, Hirano T, Ishii H, Takizawa H, Inoue Y, Nakata K: Peripheral Alveolar Nitric Oxide Concentration Reflects Macrophage Inflammation in Auto-Immune Pulmonary Alveolar Proteinosis. 日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019年4月13日.
9. 石田学, 寺本信嗣, 清水谷尚宏, 内海健太, 石井晴之, 一和多俊男: 自己免疫性肺胞蛋白症における全肺洗浄による呼気NOの変化について. 日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019年4月14日.
10. 石井晴之: 外来診療におけるピットフォール: 慢性咳嗽の鑑別診断をもとに. 学術講演会, 小平, 2019年4月18日.
11. 石井晴之: 抗線維化薬の治療～Nintedanibの使用経験から～. IPF Academy in TOYOTA, 豊田, 2019年5月22日.
12. 皿谷健: 歴史から振り返るマイコプラズマ感染症. 第46回日本マイコプラズマ学会, 札幌, 2019年5月25日.
13. 皿谷健: 呼吸器疾患の身体所見 肺音を中心に. 第8回Physical examination, 厚木, 2019年5月31日.
14. 皿谷健: 慢性咳嗽～COPD 喘息 ACOを中心に. 第24回三鷹市医師会呼吸器研究会, 三鷹, 2019年6月12日.
15. 友近瞬, 福田のぞみ, 宮岡智花, 高倉裕樹, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 気道異物による閉塞性肺炎が疑われた放線菌症の1例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 2019年6月29日.
16. 石井晴之: 肺胞蛋白症における肺胞マクロファージの細胞形態解析－BALF細胞成分の特徴的所見－. 日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2019年7月4-5日.
17. 皿谷健: 呼吸器感染症診断における気管支鏡検査の意義 免疫抑制状態を中心に. 第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2019年7月4日.
18. 秋澤孝虎, 麻生かおり, 井上真奈美, 高倉裕樹, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 藤原正親, 皿谷健, 石井晴之, 菅間博, 滝澤始: 肺腺癌に対するニボルマブ投与後に潰瘍性病変を伴った十二指腸炎を発症した一例. 日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2019年7月6日.
19. 中島裕美, 小田未来, 斎藤正興, 野田晃成, 佐久間翔, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始, 藤原正親: アテゾリズマブ投与後に喉頭浮腫と血球貧血症候群を来した肺腺癌の1例. 日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 2019年7月13日.
20. 石井晴之: 特発性肺腺維症を考える～診断・治療・予後の問題点～. Respiratory Conference in 愛媛, 松山, 2019年7月24日.
21. 皿谷健: 呼吸器疾患の身体所見 聴診にfocusして. 第3回膠原病身体所見セミナー, 東京, 2019年7月24日.
22. 石井晴之: 喘息・COPDを取り巻く現状. 多摩地区呼吸器セミナー, 武蔵野, 2019年7月25日.
23. 石井晴之: 抗線維化薬の治療～Nintedanibの使用経験から～. IPF Meet the Expert, 東京, 2019年7月27日.
24. 高田佐織: CBDCA+PTX+Bev+Atezolizumabの使用経験. 北多摩肺がん講演会, 武蔵野, 2019年7月31日.
25. 石井晴之: 線維化性肺蛋白症. 第12回大阪呼吸器疾患シンポジウム, 大阪, 2019年8月30日.
26. 石井晴之: 重症喘息の疫学. Severe Asthma management Seminar, 三鷹, 2019年8月31日.
27. 高田佐織: 肺癌における内科的治療. 第176回城西胸部画像研究会, 三鷹, 2019年9月3日.
28. 高田佐織: ICI+Chemoマネジメントについて. 中外eセミナー on Lung Cancer, 調布, 2019年9月5日.
29. 西山敬文, 佐久間翔, 家城恵理子, 石川周成, 中本啓太郎, 高田佐織, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: Trastuzumabによる薬剤性肺障害が考えられた1例. 第653回関東地方会, 東京, 2019年9月14日.
30. 野田晃成, 小田未来, 中島裕美, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始, 下田由莉江, 嶋崎鉄平, 倉井大輔: 皮膚筋炎治療中にM. chelonaeによる播種性非結核性抗酸菌症を合併した一例. 第176回日本結核病学会関東地方会 第236回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 2019年9月21日.
31. Watanabe M, Nakamoto K, Inui T, Sada M, Oda M, Honda K, Tamura M, Ishii H, Takizawa H: IL-33/sST2 balance regulates neutrophilic inflammation in the human airways. ERS International Congress 2019, Spain, September 28th, 2019.
32. 石井晴之: 知っておこう, インフルエンザの正しい知識. 感染症対策～今すぐできる予防と実践～, 横浜市福祉サービス協会研修会, 横浜, 2019年9月30日.
33. 皿谷健: 呼吸器疾患の身体所見のピットフォール～聴診所見にfocusして～. 練馬光が丘病院呼吸器病診連携懇話会, 東京, 2019年10月1日.
34. 石井晴之: 突発性肺腺維症の急性増悪を考えるー知

っておくべきこと,すべきこと。IPF Web Academy, 東京, 2019年10月9日。

35. 皿谷健: 抗感染感染症 ベーシックレクチャー. 第68回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第66回日本化学東日本支部総会, 仙台, 2019年10月17日.
36. 皿谷健: 呼吸器疾患の身体所見. 呼吸器診療スキルアップセミナー, 山形, 2019年10月18日.
37. 皿谷健: 呼吸器感染症の様々な病態について、教えてください!。微生物フォーラム2019 Eiken, 東京, 2019年10月19日.
38. 石井晴之: 「抗線維化薬の治療～Nintedanibの使用経験から～」。びまん性肺疾患Seminar, 横浜, 2019年10月25日.
39. 皿谷健: 呼吸器疾患のPhysical examination 肺音を中心に、実際の音源を用いて. 第4回東京下町呼吸器プライマリケアフォーラム, 東京, 2019年10月25日.
40. 皿谷健: 呼吸器疾患の身体所見 聴診にフォーカスをして. 第17回多摩びまん性肺疾患研究会, 国分寺, 2019年10月30日.
41. 渡辺雅人: 感染症バイオマーカー プロカルシトニン(PCT)–敗血症・肺炎・そして肺結核–. 第89回日本感染症学会西日本地方学術集会 第62回日本感染症学会中日本地方学術集会 第67回日本化学療法学会西日本支部総会, 浜松, 2019年11月7日.
42. 渡辺雅人: 喘息・COPDにおけるUp to Date–病態・治療を中心に–. 北多摩南部吸入療法研究会, 三鷹, 2019年11月7日.
43. 皿谷健: 呼吸器疾患の身体所見: 特発性肺線維症/悪性腫瘍を含めて. 第32回Young Chest Conference, 東京, 2019年11月9日.
44. 渡辺雅人: 喘息と肺気腫 (COPD). 第48回杏林医学会市民公開講演会, 三鷹, 2019年11月16日.
45. 高田佐織: タバコの健康被害、肺の病気を考える 肺癌 内科の立場から. 第48回杏林医学会総会市民公開講演会, 三鷹, 2019年11月16日.
46. 本多紘二郎: 間質性肺炎. 第48回杏林医学会総会市民公開講演, 三鷹, 2019年11月16日.
47. 皿谷健: 呼吸器疾患での補剤の活用. 第1回複十字病院漢方セミナー 地域連携講演会, 清瀬, 2019年11月18日.
48. 石井晴之: 間質性肺炎について考える～突発性肺線維症における過去と現在～. 呼吸器疾患 Seminar in 府中, 府中, 2019年11月19日.
49. 長谷見次郎, 中島裕美, 森田喜久子, 野田晃成, 小田未来, 大熊康介, 中本啓太郎, 田村仁樹, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: オシメルチニブによる薬剤性心筋障害および肺障害を併発した1例. 第237回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 2019年11月23日.
50. 石井晴之: 高齢社会に伴う、喘息・COPD合併治療の最新の話. 府中市医師会学術講演会, 府中, 2019年11月27日.
51. 石井晴之: 抗線維化薬の治療～Nintedanibの使用経験から～. IPF Seminar in内灘, 内灘, 2019年11月29日.
52. 皿谷健: 胸部X線写真、CT画像の読影. 医療技術スキルアップセミナー, 東京, 2019年12月1日.
53. 石井晴之: 間質性肺炎について考える～特発性肺線維症における過去と現在～. 板橋区医師会学術部学術講演会, 東京, 2019年12月2日.
54. 石井晴之: 肺の生活習慣病 (COPD) とIPFの治療を考察する. COPD web conference, 東京, 2019年12

月4日.

55. 佐久間翔, 高田佐織, 平田彩, 小林史, 福田のぞみ, 三倉直, 大熊康介, 小田未来, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高倉裕樹, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 間質性肺炎合併非小細胞肺癌に対するnab-Paclitaxelの使用成績. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月6日.
56. 平田彩, 高田佐織, 佐久間翔, 福田のぞみ, 小林史, 大熊康介, 三倉直, 高倉裕樹, 小田未来, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 免疫チェックポイント阻害剤による免疫関連有害事象発症例の臨床的検証. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月6日.
57. 小林史, 高田佐織, 佐久間翔, 福田のぞみ, 平田彩, 大熊康介, 三倉直, 高倉裕樹, 小田未来, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 高齢者非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害剤の臨床的検討. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月7日.
58. 石井晴之: 抗線維化薬の治療～Nintedanibの使用経験から～. Respiratory Meet The Expert, 熊本, 2019年12月12日.
59. 石井晴之: 「びまん性肺疾患の新たな知見」～肺胞蛋白症と特発性肺線維症を中心に～. Interstitial Lung Disease Seminar, 鳥取, 2020年1月8日.
60. 石井晴之: 杏林大学医学部付属病院呼吸器内科の紹介. 調布呼吸器疾患病診連携の会, 調布, 2020年1月27日.
61. 石井晴之: 適応症拡大されたnintedanibの使用を考える・特発性肺線維症における実臨床データ. OFEV SKYPE Web Seminar, 三鷹, 2020年1月29日.
62. 皿谷健: 歴史から見るマイコプラズマ肺炎～市中、院内肺炎の実症例を含めて～. 第38回福岡感染症研究会, 福岡, 2020年2月7日.
63. 石井晴之: 特発性肺線維症～早期診断の意義を説く～. 日本総合健診医学会第48回大会, 東京, 2020年2月8日.

## 論文

1. Nakata K, Sugi T, Kuroda K, Yoshizawa K, Takada T, Tazawa R, Ueda T, Aoki A, Abe M, Tatsumi K, Eda R, Kondoh S, Morimoto K, Tanaka T, Yamaguchi E, Takahashi A, Oda M, Ishii H, Izumi S, Sugiyama H, Nakagawa A, Tomii K, Suzuki M, Konno S, Ohkouchi S, Hirano T, Handa T, Hirai T, Inoue Y, Arai T, Asakawa K, Sakagami T, Tanaka T, Mikami A, Kitamura N: Validation of a new serum granulocyte-macrophage colony-stimulating factor autoantibody testing kit. ERJ Open Res 27:6(1). 2020. doi : 10. 1183/23120541. 00259-2019
2. Aso J, Kimura H, Ishii H, Saraya T, Kurai D, Matsushima Y, Nagasawa K, Ryo A, Takizawa H: Molecular Evolution of the Fusion Protein (*F*) Gene in Human Respirovirus 3. Front Microbiol 15:10:3054, 2019. doi : 10. 3389/fmicb. 2019. 03054
3. Ishii H: Knowledge of Secondary Pulmonary Alveolar Proteinosis Complicated With Myelodysplastic Syndrome. Intern Med, 2019. doi : 10. 2169/internalmedicine. 4193-19
4. Aso J, Kimura H, Ishii H, Saraya T, Kurai D, Nagasawa K, Matsushima Y, Ryo A, Takizawa H: Molecular evolution of the hemagglutinin-neuraminidase (HN) gene in human respirovirus 3.

- Virus Res 277:197824, 2019. doi: 10. 1016/j. virusres. 2019. 197824
5. Matsushima Y, Mizukoshi F, Sakon N, Doan YH, Ueki Y, Ogawa Y, Motoya T, Tsukagoshi H, Nakamura N, Shigemoto N, Yoshitomi H, Okamoto-Nakagawa R, Suzuki R, Tsutsui R, Terasoma F, Takahashi T, Sadamasu K, Shimizu H, Okabe N, Nagasawa K, Aso J, Ishii H, Kuroda M, Ryo A, Katayama K, Kimura H: Evolutionary Analysis of the *VPI* and RNA-Dependent RNA Polymerase Regions of Human Norovirus GII. P17-GII. 17 in 2013-2017. *Front Microbiol* 27:10:2189, 2019. doi : 10. 3389/fmicb. 2019. 02189
  6. Saraya T, Fujiwara M, Yokoyama T, Takata S, Oka T, Ishii H, Takizawa H: Pathological and Radiological Correlation in Prolonged Myeloperoxidase Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibody-related Diffuse Alveolar Hemosiderosis. *Intern Med* 1:59(3):415-419, 2020. doi:10. 2169/internalmedicine. 3107-19
  7. Inoue D, Marumo S, Ishii H, Fukui M: Secondary pulmonary alveolar proteinosis during corticosteroid therapy for organising pneumonia associated with myelodysplastic syndrome. *BMJ Case Rep* 18:12(9). 2019. doi : 10. 1136/bcr-2019-231055
  8. Nakamoto K, Watanabe M, Sada M, Inui T, Nakamura M, Honda K, Wada H, Ishii H, Takizawa H: *Pseudomonas aeruginosa*-derived flagellin stimulates IL-6 and IL-8 production in human bronchial epithelial cells : A potential mechanism for progression and exacerbation of COPD. *Exp Lung Res* 45(8):255-266, 2019. doi : 10. 1080/01902148. 2019. 1665147
  9. Tazawa R, Ueda T, Abe M, Tatsumi K, Eda R, Kondoh S, Morimoto K, Tanaka T, Yamaguchi E, Takahashi A, Oda M, Ishii H, Izumi S, Sugiyama H, Nakagawa A, Tomii K, Suzuki M, Konno S, Ohkouchi S, Tode N, Handa T, Hirai T, Inoue Y, Arai T, Asakawa K, Sakagami T, Hashimoto A, Tanaka T, Takada T, Mikami A, Kitamura N, Nakata K: Inhaled GM-CSF for Pulmonary Alveolar Proteinosis. *N Engl J Med* 5:381(10):923-932, 2019. doi : 10. 1056/NEJMoa1816216
  10. Nishizawa T, Niikura Y, Akasaka K, Watanabe M, Kurai D, Amano M, Ishii H, Matsushima H, Yamashita N, Takizawa H: Pilot study for risk assessment of aspiration pneumonia based on oral bacteria levels and serum biomarkers. *BMC Infect Dis* 2:19(1):761, 2019. doi : 10. 1186/s12879-019-4327-2
  11. Aso K, Saraya T, Takakura H, Takizawa H: Huge protruded subcutaneous emphysema by thoracic air leakage. *BMJ Case Rep* 28:12(11), 2019. doi : 10. 1136/bcr-2019-232151
  12. Ozaki K, Matsushima Y, Nagasawa K, Aso J, Saraya T, Yoshihara K, Murakami K, Motoya T, Ryo A, Kuroda M, Katayama K, Kimura H: Molecular Evolution of the Protease Region in Norovirus Genogroup II. *Front Microbiol* 14:10:2991, 2020. doi : 10. 3389/fmicb. 2019. 02991
  13. Akizawa T, Saraya T, Takakura H, Fujiwara M, Ishii H, Takizawa H: An extremely rare case of nivolumab-associated macroscopic duodenitis with spontaneous regression. *Respirol Case Rep* 11:8(5):e00582, 2020. doi : 10. 1002/rcr2. 582
  14. Nakamoto K, Watanabe M, Sada M, Inui T, Nakamura M, Honda K, Wada H, Ishii H, Takizawa H: *Pseudomonas aeruginosa*-derived flagellin stimulates IL-6 and IL-8 production in human bronchial epithelial cells : A potential mechanism for progression and exacerbation of COPD. *Exp Lung Res* 45(8): 255-266, 2019.
  15. Nishizawa T, Niikura Y, Akasaka K, Watanabe M, Kurai D, Amano M, Ishii H, Matsushima H, Yamashita N, Takizawa H: Pilot study for risk assessment of aspiration pneumonia based on oral bacteria levels and serum biomarkers. *BMC Infect Dis*: 2:19(1):761, 2019.
  16. Osawa T, Watanabe M, Morimoto K, Okumura M, Yoshiyama T, Ogata H, Goto H, Kudoh S, Ohta K, Sasaki Y: Pilot study for risk assessment of aspiration pneumonia based on oral bacteria levels and serum biomarkers. *The Journal of Infectious Diseases*, 2020.
  17. Nakamoto K, Miyaoka C, Hirata A, Nakamura Y<sup>1</sup>, Nakazato T<sup>1</sup>, Takizawa H (Department of Surgery): Restrictive ventilatory impairment and thrombosis due to a giant liver cyst. *Respirol Case Rep* 8(2): e00524, 2020. doi:10. 1002/rcr2. 524.
  18. 高田佐織 : 肺癌 内科の立場から. 杏林医学会誌, 51巻1号 : 61-63, 2020.
  19. 本多紘二郎 : 間質性肺炎. 杏林医学会誌 51巻1号:p71-73, 2020.
- 著 書**
1. 石井晴之: 肺胞蛋白症. 今日の治療指針. 福井次矢, 高木誠, 小室一成(総編集). 東京, 医学書院, 2020. p324-325.
  2. 皿谷健(分担執筆): 日常の検査と画像に潜むピットフォール 単発の肺結節の悪性リスクをどう判断するか?. 総合診療. 東京, 医学書院, 2019. vol 29. NO9, p948-958.
  3. 皿谷健(分担執筆): 比較的稀な胸水貯留を呈する疾患: 尿毒症性胸膜炎/心膜炎. 東京, 科学評論社, 2019. vol 36: 3-56-61.
  4. 皿谷健(分担執筆): ライトの基準はこうして創られた. 東京, 科学評論社. 2019. vol 36: 81-86.
  5. 皿谷健(分担執筆): 慢性咳嗽、COPD 喘息、ACOを中心に. 東京, 三鷹医人往来. 2019. 第41巻5号p32-36.
  6. 皿谷健: 見逃してはいけない身体所見 胸部のみかた呼吸音. 東京, 日本医師会雑誌, 2019. 第148巻 第8号p1532-1533.
  7. 皿谷健: 臨床写真図鑑 集まれ! よくみる疾患の注目所見. 増刊レジデントノート. 東京, 羊土社, 2019. Vol21-No11, p109-124.
  8. 皿谷健: 質疑応答 プロからプロへ 慢性咳嗽の原因が百日咳と確定する診断方法と治療について. 東京, 日本医事新報, 2019. 12月21日3週号 No.4991 p50-52.
  9. 皿谷健(分担執筆): 外来で診る感染症 感染症診療のコツのコツ “咳”. 東京, 日本医事新報社, 2020. p37-44.
  10. 皿谷健(分担執筆): 循環器系の症候4胸水. 新臨床内科学. 東京, 第10版 医学書院, 2020. p37-38.
  11. 皿谷健(分担執筆): 呼吸器疾患に関連した腎疾患. 腎臓病診療ハンドブック7. 東京, 中外医学社, 2020.

p251-256.

12. 血谷健 (単著) : まるわかり! 肺音聴診. 聴診ポイントから診断アプローチまで. 東京, 南江堂, 2020. ISBN 978-4-524-24981-7.
13. 血谷健: 呼吸器診療ANDS BOOK. 編集 血谷健, 監修 滝澤始. 東京, 中外医学社, 2020. ISBN978-4-498-13044-9.
14. 本多紘二郎 (分担執筆) : 臨床写真図鑑—コモンな疾患編 集まれ! よくみる疾患の注目所見 あらゆる科で役立つ、知識、経験、着眼点をシェアする81症例. レジデントノート増刊号Vol21. 忽那賢志編. 東京, 羊土社, 2019. p121-122.
15. 本多紘二郎, 滝澤始: COPDの画像所見, COPDを知る. 臨床検査. Vol63. 東京, 医学書院, 2019. p856-860.
16. 本多紘二郎, 滝澤始 (分担執筆) : 検査値を読む2020 「CRP」「血沈」「SAA」内科増大号. 4月号. 東京, 南江堂, 2020. p800-803, p804-805.
17. 本多紘二郎 (分担執筆) : 呼吸器診療 ANDS BOOK. 東京, 中外医学社, 2019. p328-335.

#### その他

1. 石井晴之: 外来診療におけるピットフォール—慢性咳嗽の鑑別診断もとに—. 三鷹医人往来. 2020. p9.
2. 血谷健: Dr 血谷の肺音聴取道場. ケアネットTV 計10回シリーズ. 2019年9月25日.
3. 血谷健: カルテの余白. 大同生命保険会社「one hour(ワン・アワー)」。2020年3月号.
4. 血谷健: 新型コロナウイルス肺炎 インタビュー. 北海道新聞. 2020年3月13日.
5. 血谷健: 新型コロナウイルス肺炎 インタビュー. 週刊文春. 2020年3月12日号.
6. 血谷健: 新型コロナウイルス肺炎 インタビュー. 週刊文春. 2020年3月19日号.
7. 血谷健: 新型コロナウイルス肺炎 インタビュー. 週刊文春. 2020年3月26日号.

#### 腎臓・リウマチ膠原病内科学教室

#### 講演

(国際学会・研究会)

1. Kawashima S, Ikegaya N, Kawakami T, Fukuoka K, Karube M, Komagata Y, Kaname S: Analysis of clinical features in ANCA-associated vasculitis treated with rituximab: a single center experience. The 19th International Vasculitis and ANCA Workshop, USA, April 7-10, 2019.
2. Endo A, Komagata Y, Yamagishi K, Kawashima S, Ikegaya N, Fukuoka K, Karube M, Arimura Y, Kaname S: Two distinct subsets of low density granulocytes in ANCA associated vasculitis. The 19th International Vasculitis and ANCA Workshop, USA, 2019.4.8.
3. Kishimoto M: Clinical Characteristics of SpA in Japan. The 8th East Asian Group Of Rheumatology 2019 (EAGOR 2019), Korea, Sep 7, 2019.
4. Ozawa H, Fukui S, Kidoguchi G, Nakai T, Kawaai S, Koido A, Ikeda Y, Suda M, Yanaoka H, Shimizu H, Tamaki H, Tsuda T, Kishimoto M, Yamaguchi K, Okada M: Effect of a Clinical Decision Support System on a Quality Indicator of Glucocorticoid-induced Osteoporosis and Trends of Drug Treatment in a Japanese Hospital. Poster

presentation at the 83rd Annual Scientific Meeting of the ACR, USA, Nov 11, 2019.

5. Fukui S, Kidoguchi G, Nakai T, Kawaai S, Ozawa H, Koido A, Ikeda Y, Suda M, Yanaoka H, Shimizu H, Tamaki H, Tsuda T, Kishimoto M, Yamaguchi K, Okada M: Prevalence of Thyroid Dysfunction with Therapeutic Indication in Patients with Rheumatological Diseases. Poster presentation in the 83rd Annual Scientific Meeting of the ACR, USA, Nov 12, 2019.
6. Van der Heijde, Song IH, Pangan A, Deodhar A, Van den Bosch F, Maksymowych WP, Kim TH, Kishimoto M, Everding A, Sui Y, Wang X, Chu AD, Sieper J: Efficacy and Safety of Upadacitinib in a Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Multicenter Phase 2/3 Clinical Study of Patients with Active Ankylosing Spondylitis. Plenary presentation at the 83rd Annual Scientific Meeting of the ACR, USA, Nov 12, 2019.
7. Fukui S, Kawaai S, Kidoguchi G, Nakai T, Ozawa H, Koido A, Ikeda Y, Suda M, Yanaoka H, Shimizu H, Tamaki H, Tsuda T, Kishimoto M, Yamaguchi K, Okada M: Comparison of Mizoribine with Azathioprine in Efficacy and Safety for ANCA-Associated Vasculitis. Poster presentation in the 83rd Annual Scientific Meeting of the ACR, USA, Nov 11, 2019.
8. Takeno M, Tanaka Y, Kono H, Sugii S, Kishimoto M, Cheng S, McCue S, Paris M, Dobashi H: Efficacy of Apremilast for Oral Ulcers Associated with Active Behçet's Syndrome over 64 Weeks: Long-term Results from the Japanese Subgroup in a Phase III Study. Poster presentation in the 83rd Annual Scientific Meeting of the ACR, USA, Nov 11, 2019.
9. Kawakami T, Nasu K, Shinohara A, Kaname S, Nangaku M: Mint3 Mitigates Renal Fibrosis After Ischemia-Reperfusion Injury Through Protection of Tubular Epithelial Cells from Apoptosis via Upregulation of NF- $\kappa$ B. American Society of Nephrology Kidney Week 2019, USA, November 7th-10th, 2019.
10. Kawashima S, Uchida H, Kawakami T, Fukuoka K, Karube M, Kishimoto M, Komagata Y, Kaname S: Analysis of clinical features in ANCA-associated vasculitis with RPGN: 35 years single center experience. ASN 2019, USANovember 9, 2019.
11. Kaname S: Controversies of classification and terminology for aHUS. Japan aHUS Round table Discussion at ASN2019, USA, 7th November 2019.

#### (国内学会)

1. 軽部美穂, 小澤祐子, 池谷紀子, 川嶋聡子, 川上貴久, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也: 腎機能低下を伴った難治性多発血管炎性肉芽腫症患者における需要に応じたリツキシマブ維持療法の臨床的検討. 第63回日本リウマチ学会総会, 京都, 2019年4月15-17日.
2. 遠藤彰子, 駒形嘉紀, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 軽部美穂, 要伸也: ANCA関連血管炎患者の末梢血Low density granulocytes(LDG)には病勢に相関する2つの異なる亜群がある. 第63回日本リウマチ学会総会, 京都, 2019年4月15-17日.
3. 李恵怜, 川嶋聡子, 久木元光, 駒形嘉紀, 要伸也: 病理所見によりIgG4関連疾患の診断に至った右鎖骨下動脈瘤破裂の一例. 第63回日本リウマチ学会総会,

- 京都, 2019年4月15-17日.
4. 川嶋聡子, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院におけるANCA関連血管炎に対するリツキシマブ療法の現況. 第63回日本リウマチ学会総会, 京都, 2019年4月15-17日.
  5. 福岡利仁, 兵動智夏, 駒形嘉紀, 要伸也: RA治療における腎機能の影響についての臨床的検討. 第63回日本リウマチ学会総会, 京都, 2019年4月15-17日.
  6. 岸本暢将: アバタセプトの安全性と有用性~安全第一~. 第63回日本リウマチ学会総会, 京都, 2019年4月15-17日.
  7. 岸本暢将: Rheumatologistからみた乾癬性関節炎の治療戦略. 第63回日本リウマチ学会総会, 京都, 2019年4月15-17日.
  8. 安倍能之, 土橋浩章, 川上民裕, 林太智, 要伸也, 針谷正祥, 田村直人: 臨床個人調査票に基づいた悪性関節リウマチ患者の特徴と社会生産性の経時的向上に関する解析. 第63回日本リウマチ学会総会, 京都, 2019年4月15-17日.
  9. 要伸也: 腎臓内科医からみた皮膚血管炎. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月7日.
  10. 要伸也: ANCA関連腎炎のマネジメント. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月22日.
  11. 要伸也: 腎臓病療養指導士に期待すること. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
  12. 軽部美穂, 山田裕信, 鈴木裕子, 駒形嘉紀, 要伸也: 血液透析患者における血中可溶性CD40リガンド(sCD40L)濃度の影響. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
  13. 小林知志, 福岡利仁, 兵動智夏, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院の血液透析患者における入院を要した感染症症例の検討. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
  14. 那須かほり, 川上貴久, 篠原明成, 南学正臣: Mint3は尿細管細胞のNF- $\kappa$ B作用亢進によるアポトーシス抑制を介して虚血再灌流傷害後の腎線維化を軽減する. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
  15. 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院における過去35年間のRPGNを呈したANCA関連血管炎の臨床像の検討. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
  16. 福岡利仁, 小澤祐子, 兵動智夏, 李恵怜, 國友理恵, 池谷紀子, 山本陣, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: CKD症例の浮腫に対するトルバプタンの効果についての検討. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
  17. 國沢恭平, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: RPGNを呈するANCA関連血管炎のリツキシマブ治療-当院におけるリツキシマブ治療群と非リツキシマブ治療群-. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
  18. 兵動智夏, 福岡利仁, 小林知志, 駒形嘉紀, 要伸也: 透析患者における皮膚軟部組織感染症に関する臨床的検討. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  19. 小林知志, 福岡利仁, 兵動智夏, 李恵怜, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院の血液透析患者における入院を要した下気道感染症症例の検討. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  20. 山本陣, 福岡利仁, 兵動智夏, 川上貴久, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: ランタン沈着症を認めた透析患者の1例. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  21. 君川祐貴, 軽部美穂, 増古紳太郎, 駒形嘉紀, 要伸也: 発症早期に免疫吸着療法を併用し速やかな改善が得られたループス腎炎の一例. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  22. 小西文晴, 和久昌幸, 佐々木豪, 三宅信之, 山田明, 本田恒雄, 要伸也: 胃癌術後に難治性胃潰瘍を生じ残胃全摘術を必要とした維持透析患者の一例. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  23. 森聖貴, 川上貴久, 國友理恵, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 結核治療歴のある多発血管炎性肉芽腫症の再燃に対し血漿交換が有効であった一例. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  24. 有川滋久, 内田裕子, 池谷紀子, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 寛解維持状態のSLEに血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)を合併し、血漿交換(PE)が著効した一例. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  25. 佐世光, 内田裕子, 李恵怜, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: G群溶連菌による急性腎盂腎炎を生じた高齢維持透析患者一例. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  26. 松野裕樹, 國沢恭平, 兵動智夏, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 血漿交換療法とリツキシマブの併用療法で救命し得た重症型ANCA関連血管炎の一例. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  27. 鮫島未央, 宮川昌悟, 大村章太, 田口慧, 多武保光宏, 福原ひろし, 佐世光, 李恵怜, 川嶋聡子, 要伸也, 船田敏子, 布川雅雄, 吉池信哉, 柴原純二: 両側腎癌、透析導入の1例. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月29日.
  28. 岸本暢将: 乾癬治療のアプローチ「乾癬性関節炎の診断と治療~内科の視点から~」. 第34回日本乾癬学会, 京都, 2019年8月30-31日.
  29. 岸本暢将: 炎症性皮膚疾患治療の最前線乾癬と化膿性汗腺炎を中心に「炎症性疾患とアダリムマブ」. 第34回日本乾癬学会, 京都, 2019年8月30-31日.
  30. 岸本暢将: 日本人の活動性強直性脊椎炎患者を対象としたセクキヌマブ第Ⅲ相試験(MEASURE 2-J). 第29回日本脊椎関節炎学会学術集会, 大阪, 2019年9月14-15日.
  31. 岸本暢将: PAO(PPP)の最新の診断と治療. 日本皮膚科学会 宮城・福島・山形地方会第387回例会, 宮城, 2019年9月29日.
  32. 遠藤彰子, 乳原義文, 要伸也: 腎小動脈血管炎を有するANCA関連血管炎の特徴. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4日.
  33. 山本陣, 増古紳太郎, 長濱清隆, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 巨細胞性動脈炎治療中に不明熱と腎腫大を来し、腎生検にてEBV-LPD合併AINと診断された一例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  34. 内田裕子, 軽部美穂, 佐世光, 李恵怜, 下山田博明, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也: 腎癌再発の経過中に膜性病変を伴うANCA関連腎炎を呈した1例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  35. 有村義宏: ANCA関連血管炎の遺伝的背景. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  36. 李恵怜, 内田裕子, 正路久美, 川上貴久, 駒形嘉紀,

- 要伸也, 下山田博明, 長濱清隆: 腎生検でFSGS tip variantの診断に至った急性発症のネフローゼ症候群の二例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
37. 國沢恭平, 兵動智夏, 久木元光, 軽部美穂, 下山田博明, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也: 骨髄腫腎と半月体形成性糸球体腎炎が混在した腎限局方ANCA関連血管炎の一例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  38. 要伸也: チーム医療で取り組む腎臓病. 第49回日本腎臓学会西部学術大会, 高知, 2019年10月18-19日.
  39. 中島昌典, 内堀歩, 市川弥生子, 中島瑛里子, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 千葉厚郎: 血漿交換療法により進行抑制を認めたMAG抗体陽性ニューロパチーの75歳男性例. 第37回日本神経治療学会学術集会, 横浜, 2019年11月5日.
  40. 横田理代, 小澤祐子, 佐世光, 李恵伶, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: ネフローゼ症候群で再発した抗糸球体基底膜腎炎の一例. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
  41. 岸本暢将: 炎症性皮膚疾患(乾癬および化膿性汗腺炎)におけるアダリムマブの有用性「炎症性疾患・特に乾癬性関節炎におけるアダリムマブの有用性」. 第83回日本皮膚科学会 東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2019年11月16日.
  42. 岸本暢将, 石原陽子, 谷口義典, 西川浩文, 辻成佳: PPP/PsA 治療におけるグセルクマブの可能性 PAOの診断と治療 ～グセルクマブの有用性～. 第30回日本リウマチ学会 関東支部学術集会, 東京, 2019年12月7日.
  43. 李恵伶, 池谷紀子, 國友理恵, 兵動智夏, 小林知志, 小澤祐子, 増古紳太郎, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 船田まどか, 磯村杏那, 柴原純二: 全身性強皮症に合併し、病理所見で判明した肺静脈閉塞症(PVOD)の一例. 第30回日本リウマチ学会 関東支部学術集会, 東京, 2019年12月7日.
- (国内研究会・講演会)
1. 駒形嘉紀: 関節リウマチ発症のメカニズムと最新の内科的治療. 西多摩整形外科フォーラム, 立川, 2019年4月25日.
  2. 駒形嘉紀: 関節リウマチ発症のメカニズムと診療の実際. 膠原病を語る会, 甲府, 2019年5月10日.
  3. 川上貴久: 生活習慣病と腎臓病. 第14回三鷹市民公開講座腎臓について考えるフォーラム, 三鷹, 2019年5月11日.
  4. 福岡利仁: CKD(慢性腎臓病)に関する最近の話題. 第14回三鷹市民公開講座 腎臓について考えるフォーラム, 三鷹, 2019年5月11日.
  5. 福岡利仁: 高齢関節リウマチ・腎臓病併りウマチに対する治療の考え方. ブリストルマイヤーズ Web Seminar, 東京, 2019年5月16日.
  6. 要伸也: 情報提供: 日本腎臓病協会(JKA)とブロック毎のCKD対策について. 第77回三多摩腎疾患治療医会研究会, 三鷹, 2019年5月26日.
  7. 松野裕樹, 國沢恭平, 兵動智夏, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 血漿交換療法とリツキシマブの併用療法で救命し得た重症型ANCA関連血管炎の一例. 第77回三多摩腎疾患治療医会研究会, 三鷹, 2019年5月26日.
  8. 要伸也: 慢性腎臓病(CKD)診療と腎疾患対策の最新情報～腎臓病療養指導士制度を含めて～. 第23回高知腎ぞうを守る会, 高知, 2019年5月30日.
  9. 福岡利仁: RA治療の現状と課題. 東京都病院薬剤師会講演会, 臨床薬学研究会, 東京, 2019年6月6日.
  10. 福岡利仁: CKDとDKD. 田辺三菱Web Seminar, 東京, 2019年6月13日.
  11. 福岡利仁: 関節リウマチの薬物治療と最近の話題・高齢と腎障害を有するRAの管理. イーライ・リリー Web Seminar, 東京, 2019年7月5日.
  12. 要伸也: 腎臓病療養指導士制度の概要と期待される役割. 愛知県腎臓病療養指導士チーム医療セミナー, 名古屋, 2019年7月6日.
  13. 川嶋聡子, 駒形嘉紀: 繰り返す手関節腫脹が発見契機となった甲状腺機能異常症の一例. 第12回多摩RA病診連携の会, 三鷹, 2019年7月11日.
  14. 岸本暢将: PsAハンズオン教育プログラム. 第1回OnPALETTEセミナー, 京都, 2019年8月31日.
  15. 要伸也: 腎臓病療養指導士について. 第5回腎臓セミナー・Nexus Japan, 東京, 2019年8月31日.
  16. 要伸也: CKD診療の実際 ～腎性貧血を中心に～. 三鷹市医師会内科医会学術講演会, 三鷹, 2019年9月17日.
  17. 要伸也: 慢性腎臓病(CKD)診療と腎疾患対策の最新情報～腎臓病療養指導士制度を含めて～. 千葉県腎疾患対策講演会2019, 千葉, 2019年9月19日.
  18. 駒形嘉紀: ANCA関連血管炎の病態とその最新治療. 第51回東京都リウマチ膠原病懇話会, 東京, 2019年9月21日.
  19. 岸本暢将: 脊椎関節炎の最新情報「脊椎関節炎とその周辺疾患の診断と治療」. 日本リウマチ学会中部支部学術集会第31回中部リウマチ学会, 新潟, 2019年9月27-28日.
  20. 要伸也: CKD診療における腎臓病療養指導士制度の現状と今後の課題. 第13回岡山県NDHネットワーク講演会, 岡山, 2019年10月1日.
  21. 駒形嘉紀: 関節リウマチ治療における生物製剤について. 東大和市医師会学術講演会, 東大和, 2019年10月1日.
  22. 岸本暢将: 日常診療で行う関節炎の鑑別診断・感染症を含む-. 第73回Kyoto Orthopaedic Seminar, 京都, 2019年10月8日.
  23. 要伸也: ANCA関連血管炎・腎炎の病態と治療update. 第9回長崎血管炎研究会, 長崎, 2019年10月24日.
  24. 要伸也: 多職種で取り組むCKD重症化予防: 薬物療法のあり方. 第13回日本CKDチーム医療研究会, 東京, 2019年11月2-19日.
  25. 福岡利仁: 膠原病内科医からみた乾癬性関節症. Immune Disease Seminar, 東京, 2019年10月31日.
  26. 福岡利仁: 関節リウマチの治療と最近の話題. RA face to face seminar 2019, 東京, 2019年11月9日.
  27. 柿沼恵, 小林知志, 山本陣, 薄井晃一, 福岡利仁, 佐野彰彦, 倉井大輔, 駒形嘉紀, 要伸也: 大腿骨頸部骨折による入院を契機に結核菌感染が明らかとなった腹膜透析患者の一例. 三多摩腎疾患治療医会, 三鷹, 2019年11月17日.
  28. 柿沼恵, 福岡利仁, 山本陣, 小林知志, 要伸也: 高CRP血症が持続し、大腿骨頸部骨折を呈した一例. 第78回三多摩腎疾患治療医会研究会, 三鷹, 2019年11月17日.
  29. 要伸也: ANCA関連血管炎・腎炎の病態と治療update. 神戸血管炎フォーラム, 神戸, 2019年11月22日.
  30. 岸本暢将: 関節リウマチ薬部療法: bDMARDsとtsDMARDsについて. 第32回日本整形外科学会認定

リウマチ医研修会, 大阪, 2019年11月23日.

31. 福岡利仁: 心腎連関から考える体液管理～うっ血治療を考える. Otsuka Web Seminar, 東京, 2019年12月5日.
32. 要伸也: 慢性腎臓病(CKD)の正しい知識と予防法を身につけよう～重症化させない早めの気づきと早期受診のために～. 令和元年度東京都健康づくり事業推進指導者育成研修, 東京, 2019年12月13日.
33. 要伸也: CKD対策の現状と今後の展開. 船橋市立医療センター・船橋医師会合同研修会, 船橋, 2020年1月21日.
34. 福岡利仁: CKDと合併症管理. 田辺三菱Web Seminar, 東京, 2020年1月21日.
35. 要伸也: ANCA関連血管炎の最新知見～腎炎を中心に～. 第8回北海道血管炎研究会学術講演会, 札幌, 2020年2月14日.
36. 要伸也: 腎臓病 療養指導士制度について～. 慢性腎臓病(CKD) プレスセミナー, 東京, 2020年2月18日.
37. 駒形嘉紀: 関節リウマチにおけるT細胞の役割. 第15回愛媛免疫疾患研究会, 松山, 2020年2月29日.
38. 福岡利仁: RAにおけるCKDと課題. m3 Web講演会, 東京, 2020年3月6日.

## 論 文

(英文)

1. Isobe M, Amano K, Arimura Y, Ishizu A, Ito S, Kaname S, Kobayashi S, Komagata Y, Komuro I, Komori K, Takahashi K, Tanemoto K, Hasegawa H, Harigai M, Fujimoto S, Miyazaki T, Miyata T, Yamada H, Yoshida A, Wada T, Inoue Y, Uchida H, Ota H, Okazaki T, Onimaru M, Kawakami T, Kinouchi R, Kurata A, Kosuge H, Sada K, Shigematsu K, Suematsu E, Sueyoshi E, Sugihara T, Sugiyama H, Takeno M, Tamura N, Tsutsumino M, Dobashi H, Nakaoka Y, Nagasaka K, Maejima Y, Yoshifuji H, Watanabe Y, Ozaki S, Kimura T, Shigematsu H, Yamauchi-Takahara K, Murohara T, Momomura S, on behalf of the JCS Joint Working Group: JCS 2017 Guideline on Management of Vasculitis Syndrome. *Circulation Journal* 84:299-359, 2020.
2. Hayashida M, Miyoshi J, Mitsui T, Miura M, Saito D, Sakuraba A, Kawashima S, Ikegaya N, Fukuoka K, Karube M, Komagata Y, Kaname S, et al.: Elevated fecal calprotectin and lactoferrin associated with small intestinal lesions in patients with Behçet disease. *J Gastroenterol Hepatol*, 2020. Doi: 10.1111/jgh.14995. [Epub ahead of print]
3. Akimoto Y, Yan K, Miura Y, Tsumoto H, Toda T, Fukutomi T, Sugahara D, Kudo A, Arai T, Chiba Y, Kaname S, et al.: O-GlcN acylation and phosphorylation of  $\beta$ -actin serine199 in diabetic nephropathy. *Am J Physiol Renal Physiology* 317: F1359-F1374, 2019.
4. Ito S, Hidaka Y, Inoue N, Kaname S, Kato H, Matsumoto M, Miyakawa Y, Mizuno M, Okada H, Shimono A, Matsuda T, Maruyama S, Fujimura Y, Nangaku M, Kagami S: Safety and effectiveness of eculizumab for pediatric patients with atypical hemolytic-uremic syndrome in Japan: interim analysis of post-marketing surveillance. *Clin Exp Nephrol* (23): 112-121, 2019.
5. Higashihara E, Yamamoto K, Kaname S, Okegawa T, Tanbo M, Yamaguchi T, Shigemori K, Miyazaki I, Yokoyama K, Nutahara K: Age- and height-adjusted total kidney volume growth rate in autosomal dominant polycystic kidney diseases. *Clin Exp Nephrol* 23: 100-111, 2019.
6. Fukuoka K, Miyamoto A, Ozawa Y, Ikegaya N, Maesono T, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: Adult-onset Still's disease-like manifestation accompanying cancer recurrence after long-term remission. *Mod Rheumatol* 29: 704-707, 2019.
7. Kato H, Miyakawa Y, Hidaka Y, Inoue N, Ito S, Kagami S, Kaname S, Matsumoto M, Mizuno M, Matsuda T, Shimono A, Maruyama S, Fujimura Y, Nangaku M, Okada H: Safety and effectiveness of eculizumab for adult patients with atypical hemolytic-uremic syndrome in Japan: interim analysis of post-marketing surveillance. *Clin Exp Nephrol* 23: 65-75, 2019.
8. Tam LS, Wei JC, Aggarwal A, Baek HJ, Cheung PP, Chiowchanwisawakit P, Dans L, Gu J, Hagino N, Kishimoto M, Reyes HM, Soroosh S, Stebbings S, Whittle S, Yeap SS, Lau CS: 2018 APLAR axial spondyloarthritis treatment recommendations. *Int J Rheum Dis* 22(3):340-356, 2019.
9. Lau CS, Chia F, Dans L, Harrison A, Hsieh TY, Jain R, Jung SM, Kishimoto M, Kumar A, Leong KP, Li Z, Lichauco JJ, Louthrenoo W, Luo SF, Mu R, Nash P, Ng CT, Suryana B, Wijaya LK, Yeap SS: 2018 update of the APLAR recommendations for treatment of rheumatoid arthritis. *Int J Rheum Dis* 22(3): 357-375, 2019.
10. Kishimoto M, Taniguchi A, Fujishige A, Kaneko S, Haemmerle S, Porter BO, Kobayashi S: Efficacy and safety of secukinumab in Japanese patients with active ankylosing spondylitis: 24-week results from an open-label phase 3 study (MEASURE 2-J). *Mod Rheumatol* 30(1): 132-140, 2020.
11. Kishimoto M, Yoshida K, Ichikawa N, Inoue H, Kaneko Y, Kawasaki T, Matsui K, Morita M, Suda M, Tada K, Takizawa N, Tamura N, Taniguchi A, Taniguchi Y, Tsuji S, Haji Y, Rokutanda R, Yanaoka H, Cheung PP, Gu J, Kim TH, Luo SF, Okada M, Medina CL, Molto A, Dougados M, Kobayashi S, van der Heijde D, Tomita T: Clinical characteristics of spondyloarthritis patients in Japan in comparison to other regions of the world. *J Rheumatol* 46(8):896-903, 2019.
12. van der Heijde, Song IH, Pangan A, Deodhar A, Van den Bosch F, Maksymowych WP, Kim TH, Kishimoto M, Everding A, Sui Y, Wang X, Chu AD, Sieper J: Efficacy and safety of upadacitinib in patients with active ankylosing spondylitis (SELECT-AXIS 1): a multicenter, randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 2/3 trial. *Lancet* 394:2108-2117, 2019.
13. Kaneko Y, Kawahito Y, Kojima M, Nakayama T, Hirata S, Kishimoto M, Endo H, Seto Y, Ito H, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H: Efficacy and safety of tacrolimus in patients with rheumatoid arthritis - A systematic review and meta-analysis. *Mod Rheumatol* 2020. (Epub ahead of print)



## (和文)

1. 國沢恭平, 要伸也: One Step more 苦手を得意に! 血液ガス(第6回) 一般内科領域編 血液ガスの知識と活用(解説). 日本内科学会雑誌108(11):2309-2313, 2019.
2. 稲永亮平, 和久昌幸, 小西文晴, 佐々木豪, 三宅伸之, 要伸也, 本田恒雄: 齧歯を原因に多彩な中枢神経合併症を呈したLemierre症候群の1例. 日本内科学会雑誌109(1):79-84, 2020.
3. 花房規男, 菊地勘, 川崎路浩, 酒井謙, 杉崎弘章, 小川哲也, 尾田高志, 要伸也, 田島真人, 本田浩一, 大坪茂, 岡本裕美, 安部貴之, 今井早良, 上田聰美, 松田由美子, 吉盛友子, 安藤亮一: 東京都の災害対策医療の現状—東京都透析医会災害対策委員会の取り組み—. 東京都透析医会災害対策委員会. 日本透析医会雑誌34(2):189-200, 2019.
4. 中島昌典, 内堀歩, 市川弥生子, 中島瑛里子, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 千葉厚郎: 血漿交換療法により進行抑制を認めたMAG抗体陽性ニューロパチーの75歳男性例. 神経治療学 36(6):S239, 2019.
5. 要伸也: JKAの活動. 腎臓病療養指導士. 日本腎臓学会誌 61(8):1160-1163, 2019.
6. 要伸也: 腎臓病療養指導士制度. Current Therapy 37(5):85, 2019.
7. 要伸也: 合併症・併存床をもつ関節リウマチ患者のマネジメント: 慢性腎臓病. 薬局70(5):91-98, 2019.
8. 要伸也: CKD療養指導のエキスパートとして期待される「腎臓病療養指導士」. 医薬の門 59:2-4, 2019.
9. 軽部美穂, 要伸也: 顕微鏡的多発血管炎 腎臓専門医の視点より. 腎と透析(86)増刊号:73-79, 2019.
10. 軽部美穂, 要伸也: 血管炎による腎障害(ANCA関連含む). 日本臨床(0047-1852)77(4) 医薬品副作用学(下):131-137, 2019.
11. 川上貴久: 腎性貧血の治療. Medical Practice 36:1272-1276, 2019.
12. 岸本暢将, 多田弥生, 岡田正人: 「乾癬から見た肥満と代謝疾患」特集:内科サブスペシャリティから総合的に考える代謝内分分泌疾患. 日本内科学会第108巻(4):p.708-714, 2019.
13. 岸本暢将: 乾癬性関節炎診療—診断を中心に—特集. 血管炎症候群のupdateリウマチ科61(6):p.611-616, 2019.
14. 福岡利仁, 要伸也: 輸液製剤・特徴, 選び方, つかいかた. 臨時増刊号「実践的輸液ガイド」Medical Practice:34-40, 2020.

## 著書

1. 要伸也(分担執筆): 血管炎に基づく腎病変. 新臨床内科学(第10版). 矢崎義雄監修. 東京, 医学書院, 2020. p.234-238.
2. 要伸也(分担執筆): 腎・尿路感染症. 内科学書. 腎・尿路疾患, 改訂第9版. 南学正臣総編集. 福田恵一, 深川雅史部門編集. 東京, 中山書店, 2019. p.578-581.
3. 要伸也(分担執筆): 腎臓病療養指導士制度. 行動変容アプローチ. 横山啓太郎編集. 東京, クリニコ出版, 2019. p.118-119.
4. 要伸也(分担執筆): 肝疾患に伴う腎病変. 今日の治療指針2020年版. 福井次矢他総編集. 東京, 医学書院, 2020. p.612-614.
5. 要伸也(分担執筆): 膠原病に伴う腎病変. 今日の診断指針, 第8版. 福井次矢他総編集. 東京, 医学書院, 2020. p.35-39.

6. 要伸也(分担執筆): 慢性腎臓病に対するチーム医療. 腎疾患・透析医療の治療2020-2022. 山縣邦弘, 南学正臣編集. 東京, 南江堂, 2020. p.260-262.
7. 川嶋聡子, 要伸也(分担執筆): RPGNとは. CKD・AKI診療 ガイドラインの内側と外側. 成田一衛編集. 東京, 日本医事新報社, 2020. p.234-238.
8. 駒形嘉紀(分担執筆): 多発血管炎性肉芽腫症. 今日の疾患辞典. 佐藤寿彦編集. 東京, プレジジョン, 2019.
9. 駒形嘉紀(分担執筆): 結節性多発動脈炎. 新臨床内科学(第10版). 矢崎義雄監修. 東京, 医学書院, 2020. p.1772-1773.
10. 岸本暢将(分担執筆): 5.腰背部痛. 新臨床内科学(第10版). 矢崎義雄監修. 東京, 医学書院, 2020. p.16-18.
11. 岸本暢将(分担執筆): 6.頸部痛. 新臨床内科学(第10版). 矢崎義雄監修. 東京, 医学書院, 2020. p.18-21.
12. 岸本暢将(分担執筆): 3.脊椎関節炎. 1.強直性脊椎炎. 新臨床内科学(第10版). 矢崎義雄監修. 東京, 医学書院, 2020. p.1782-1784.

## 報告書

1. 要伸也: 令和元年度 第1回東京都糖尿病医療連携協議会議事録. 東京都福祉保健局, 2019年9月26日.

## その他

1. 要伸也: 第51回臨床体液研究会主催. 東京, 2020年2月1日.
2. 要伸也: 序文: 雑誌腎臓 特集号「人生と腎臓」. 日本腎臓財団, 東京, 2020年.
3. 要伸也: 推薦文 腎臓病ハンドブック. 清水秀樹編著, 中外医学社, 東京, 2020年.

## 脳神経内科学教室

## 講演

1. 千葉厚郎: CIDPの診断と治療: 基本と最近の話題. 第13回神経免疫セミナー, 毛呂山, 2019年4月17日.
2. 千葉厚郎: 眼科と神経内科のもう一つの接点: 自己抗体の話. 第10回東京多摩眼科連携セミナー, 三鷹, 2019年5月11日.
3. Chiba A, Uchibori A, Gyohda A: Ca<sup>2+</sup>-dependent anti-GQ1b antibody: From a new assay method to an insight for paranodal gangliosides. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月24日.
4. Tokushige S, Matsuda S, Inomata-Terada S, Ugawa Y, Tsuji S, Terao Y: Premature saccades of normal subjects and patients with neurological diseases. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
5. Inomata-Terada S, Tokushige S, Matsuda S, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Terao Y: Eye hand coordination in hereditary spinocerebellar degeneration: correlation with accuracy of eye position. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
6. 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎, 園生雅弘: 足根管症候群の診断における電気生理学的検査の有用性について. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
7. 高橋和沙, 大石知瑞子, Marjorie Bagnas, 濱田雄一, 西山和利, 園生雅弘: 脛骨神経SEPにおけるCc電極の左右つけ間違いの影響. 第60回日本神経学会学術

- 大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
8. 白鳥嵩之, 大石知瑞子, 宮地洋輔, 上月直樹, 永井健太郎, 千葉厚郎, 園生雅弘: 正中神経伝導検査における尺骨神経へのcurrent spreadの影響についての検討. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
  9. 内堀歩, 茂呂直紀, 澁谷裕彦, 永井健太郎, 綾野水樹, 中島昌典, 徳重真一, 大石知瑞子, 千葉厚郎: CIDP、MMNにおけるIVIg寛解維持療法: 自経例の検討. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
  10. 永井健太郎, 徳重真一, 内堀歩, 上月直樹, 白鳥嵩之, 茂呂直紀, 澁谷裕彦, 吉池信哉, 綾野水樹, 中島昌典, 宮崎泰, 市川弥生子, 菅間博, 千葉厚郎: 海綿静脈洞部または眼窩先端部に炎症性病変を呈した7例の臨床的検討. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22-25日.
  11. 岡崎太一, 永井健太郎, 徳重真一, 白鳥嵩之, 茂呂直紀, 澁谷裕彦, 市川弥生子, 千葉厚郎: 非集積地における家族性アミロイドポリニューロパチーの一家系. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
  12. 宮地洋輔, 大石知瑞子, 神谷久雄, 田中章景, 園生雅弘: 手根管症候群の感覚神経伝導検査の比較法におけるonset潜時とpeak潜時の比較. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
  13. 茂呂直紀, 白鳥嵩之, 澁谷裕彦, 永井健太郎, 中島昌典, 千葉厚郎, 三ツ間智也, 中里陽子, 平野浩一, 千葉知宏, 菅間博: 当院で経験した抗LGI-1抗体陽性脳炎の臨床像. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
  14. 澁谷裕彦, 内堀歩, 茂呂直紀, 白鳥嵩之, 上月直樹, 永井健太郎, 綾野水樹, 中島昌典, 徳重真一, 大石知瑞子, 宮崎泰, 市川弥生子, 千葉篤郎: 脳腫瘍が疑われたがステロイドパルス療法に良好に反応性を認めた脳幹部腫瘍性病変3例. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
  15. 市川弥生子, 丸岡響, 山下ひとみ, 齋藤幹人, 城野喬史, 上月直樹, 白鳥嵩之, 澁谷裕彦, 中島昌典, 本田有子, 天野達雄, 鳥居正剛, 岡野晴子, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 脳梗塞患者における直接阻害型経口抗凝固薬の出血性副作用とゲノム薬理学的検討. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
  16. 山下ひとみ, 天野達雄, 本田有子, 岡野晴子, 鳥居正剛, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: Long insular artery梗塞は塞栓症か. 第61回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
  17. 中島昌典, 内堀歩, 上月直樹, 白鳥嵩之, 茂呂直紀, 澁谷裕彦, 永井健太郎, 綾野水樹, 徳重真一, 大石知瑞子, 宮崎泰, 市川弥生子, 千葉厚郎: 当院の無菌性髄膜炎の経験からみる診断や治療の精度向上の可能性について. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22 - 25日.
  18. 永井健太郎, 白鳥嵩之, 茂呂直紀, 綾野水樹, 千葉知宏, 宮崎泰, 市川弥生子, 柴原純二, 千葉厚郎: 変動する眼球運動障害と視力低下を呈しステロイドが奏功した両側眼窩先端部症候群の77歳男性例. 第229回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2019年6月1日.
  19. 岩本直高, 井須豊彦, 金景成, 森本大二郎, 國保倫子, 大石知瑞子, 園生雅弘, 松野彰: ガングリオンにより足根管症候群を来した症例. 第34回日本脊髄外科学会, 札幌, 2019年6月20 - 21日.
  20. 千葉厚郎: Guillain-Barré症候群自己抗体研究の先の風景: Ca<sup>2+</sup>依存性GQ1b抗体から傍紋輪部ガングリオシドの生物学的意味へ. 第20回東京神経免疫研究会, 東京, 2019年6月21日.
  21. 河野浩之, 本田有子, 天野達雄, 鳥居正剛, 岡野晴子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 悪性腫瘍関連脳梗塞患者におけるD-dimerと生命予後. 第41回日本血栓止血学会学術集会, 三重, 2019年6月21日.
  22. Chiba A, Shiratori T, Uchibori A, Ayano M, Nakajima M, Ooishi C, Ichikawa Y: GD1a/GT1a Ganglioside Complex Antibody in Guillain-Barré Syndrome: Case Report and Studies on the Epitope Formation. Peripheral Nerve Society 2019 Annual Meeting, Italy, June 22nd-25th, 2019.
  23. Uchibori A, Chiba A: Anti-glycolipid antibodies in seven patients with recurrent Guillain-Barre syndrome. Peripheral Nerve Society 2019 Annual Meeting, Italy, June 22nd-25th, 2019.
  24. 千葉厚郎: 自己抗体の探索とその先の風景: Ca<sup>2+</sup>依存性GQ1b抗体から傍紋輪部糖鎖の機能的意義へ. 第6回神経免疫疾患治療研究会, 名古屋, 2019年7月12日.
  25. 澁谷裕彦, 中島昌典, 白鳥嵩之, 永井健太郎, 徳重真一, 市川弥生子, 千葉厚郎: 大動脈解離後に頸髄障害を発症し、ステロイドパルス療法後より意識障害および対麻痺・尿閉を来した77歳男性例. 第71回三鷹ニューロ研究会, 三鷹, 2019年7月18日.
  26. 寺尾安生, 徳重真一, 寺田さとみ, 弓削田晃弘, 宇川義一: 衝動性眼球運動を用いた神経変性疾患における大脳基底核、小脳の機能異常の検出. 第42回神経科学大会, 新潟, 2019年7月25-28日.
  27. 千葉厚郎: 日常診療に潜むパーキンソン病～早期発見のポイントと意義～. 三鷹医師会内科医会学術講演会, 三鷹, 2019年7月31日.
  28. 大石知瑞子: メディカルスタッフ・レジデントセミナー: NCSの基礎およびピットフォール. 第30回日本末梢神経学会学術集会, 金沢, 2019年8月23 - 24日.
  29. 松倉清司, 大石知瑞子, 神谷久雄, 宮地洋輔, 千葉隆司, 古川裕一, 濱田雄一, 北國圭一, 畑中裕己, 園生雅弘: 腰部脊管狭窄症診断における脛骨神経SEPの有用性: F波を含むNCSとの比較. 第30回日本末梢神経学会学術集会, 金沢, 2019年8月23 - 24日.
  30. 内堀歩, 大石知瑞子, 千葉厚郎: 当院で測定した抗CV2/CRMP5抗体陽性末梢神経障害の臨床的特徴. 第30回日本末梢神経学会学術集会, 金沢, 2019年8月23 - 24日.
  31. 徳重真一, 松田俊一, 大山彦光, 下泰司, 梅村淳, 佐々木拓也, 寺田さとみ, 弓削田晃弘, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 服部信孝, 寺尾安生: 脳深部刺激療法が眼球運動に及ぼす影響. 第34回日本大脳基底核研究会, 米子, 2019年8月24 - 25日.
  32. 白鳥嵩之, 中島昌典, 澁谷裕彦, 徳重真一, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: リステリア脊髄膿瘍の77歳男性例. 第230回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2019年9月7日.
  33. 千葉厚郎: 自己抗体の探索とその先の風景: Ca<sup>2+</sup>依存性GQ1b抗体からガングリオシドの生物学的意味へ. 西新宿末梢神経障害セミナー, 東京, 2019年9月17日.
  34. 千葉厚郎: 自己抗体の探索とその先の風景: Ca<sup>2+</sup>依存性GQ1b抗体からガングリオシドの生物学的意味へ. 神経免疫 EXPERT SEMINAR in 愛媛, 松山, 2019年9月20日.

35. Oishi C, Kanbayashi T, Higashihara M, Hatanaka Y, Chiba A, Sonoo M: T1 involvement in postmedian sternotomy plexopathy. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 65th Annual Meeting. USA, October 16th-19th. 2019.
36. Takahashi K, Oishi C, Bagnas M A, Sonoo M: The influence of the right-left of the placement of the contralateral central area electrode in tibial nerve somatosensory evoked potentials. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 65th Annual Meeting, USA, October 16th-19th. 2019.
37. 千葉厚郎：自己抗体の探索とその先の風景：Ca2+依存性GQ1b抗体からガングリオシドの生物学的意味へ。宮崎末梢神経障害セミナー，宮崎，2019年10月10日。
38. 中島昌典，内堀歩，市川弥生子，中島瑛里子，軽部美穂，駒形嘉紀，要伸也，千葉厚郎：血漿交換療法により進行抑制を認めたMAG抗体陽性ニューロパチーの75歳男性例。第37回日本神経治療学会学術集会，横浜，2019年11月6日。
39. 千葉厚郎：免疫介在性末梢神経障害の治療：Update。第37回日本神経治療学会，横浜，2019年11月7日。
40. 千葉厚郎：Guillain-Barré症候群：最近の話題。第37回日本神経治療学会，横浜，2019年11月7日。
41. 千葉厚郎：Guillain-Barré症候群：最近の臨床の話題 + a. 第6回神経免疫疾患を考える会，東京，2019年11月22日。
42. 平山健次，茂呂直紀，永井健太郎，徳重真一，嶋崎鉄兵，倉井大輔，市川弥生子，千葉厚郎：齧歯を感染源としたParvimonas micra菌血症との関連が示唆された眼窩先端症候群の58歳男性例。第72回三鷹ニューロ研究会，三鷹，2019年11月28日。
43. 大石知瑞子，神林隆道，東原真奈，畑中裕己，千葉厚郎，園生雅弘：胸骨切開術後腕神経叢障害の障害レベルについての検討。第49回日本臨床神経生理学会学術大会，福島，2019年11月28-30日。
44. 宮地洋輔，大石知瑞子，神谷久雄，田中章景，園生雅弘：手根管症候群診断のための感覚神経伝導検査の比較法におけるonset潜時とpeak潜時の比較。第49回日本臨床神経生理学会学術大会，福島，2019年11月28-30日。
45. 高橋和沙，大石知瑞子，Bagnas Marjorie，西山和利，園生雅弘：脛骨神経SEPにおけるCc電極の左右つけ間違いの影響。第49回日本臨床神経生理学会学術大会，福島，2019年11月28-30日。
46. 徳重真一，松田俊一，寺田さとみ，濱田雅，宇川義一，辻省次，寺尾安生：Video-oculographyを利用したpremature saccadeの特徴の解析。第49回日本臨床神経生理学会，福島，2019年11月28-30日。
47. 徳重真一，多施設共同研究，宇川義一，寺尾安生：タッピングによる小脳機能の評価。第49回日本臨床神経生理学会，福島，2019年11月28-30日。
48. 平山健次，茂呂直紀，永井健太郎，徳重真一，嶋崎鉄兵，倉井大輔，市川弥生子，千葉厚郎：齧歯を感染源としたParvimonas micra菌血症との関連が示唆された眼窩先端症候群の58歳男性例。第231回日本神経学会関東・甲信越地方会，東京，2019年12月7日。
49. 千葉厚郎：ヒト社会問題としてのパーキンソン病。第2回パーキンソン病地域連携の会，東京，2019年12月11日。
50. 千葉厚郎：自己抗体の探索とその先の風景：Ca2+依存性GQ1b抗体からガングリオシドの生物学的意味へ。ちば末梢神経疾患セミナー，千葉，2019年12月12日。
51. Tokushige S, Terao Y, Matsuda S, Furubayashi T, Sasaki T, Inomata-Terada S, Yugeta A, Hamada M, Tsuji S, Ugawa Y: The 3-second rule in Parkinson's disease: A synchronized tapping study. Takeda Expert Conference on Parkinson's Disease 2020, Tokyo, February 1st-2nd, 2020.
52. 中島昌典，内堀歩，市川弥生子，中島瑛里子，軽部美穂，駒形嘉紀，要伸也，千葉厚郎：長期に亘り血漿交換療法が有用であったMAG抗体陽性ニューロパチーの症例。第13回多摩神経免疫研究会，東京，2020年2月13日。

## 論文

1. 上月直樹，中島昌典，内堀歩，島田大輔<sup>1</sup>，柴原純二<sup>2</sup>，千葉厚郎（<sup>1</sup>杏林大・医・脳外科学，<sup>2</sup>杏林大・医・病理学）：再発性脳梗塞とびまん性くも膜肥厚を呈した抗リン脂質抗体症候群の1例。臨床神経学 59: 662-665, 2019.
2. Naruse H<sup>1</sup>, Takahashi Y<sup>2</sup>, Ishiura H<sup>1</sup>, Matsukawa T<sup>1,3</sup>, Mitsui J<sup>1,3</sup>, Ichikawa Y, Hamada M<sup>1</sup>, Shimizu J<sup>1</sup>, Goto J<sup>4</sup>, Toda T<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>3,5</sup>. (<sup>1</sup>Department of Neurology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, <sup>2</sup> Department of Neurology, National Center Hospital, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>3</sup>Department of Molecular Neurology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, <sup>4</sup>Department of Neurology, International University of Health and Welfare Mita Hospital, <sup>5</sup>International University of Health and Welfare): Prominent Spasticity and Hyperreflexia of the Legs in a Nepalese Patient with Friedreich Ataxia. Intern Med. 58(19):2865-2869, 2019.
3. Ishiura H<sup>1</sup>, Shibata S<sup>1</sup>, Yoshimura J<sup>2</sup>, Suzuki Y<sup>2</sup>, Qu W<sup>2</sup>, Doi K<sup>2,3</sup>, Almansour MA<sup>1</sup>, Kikuchi JK<sup>1</sup>, Taira M<sup>1,4</sup>, Mitsui J<sup>1,5</sup>, Takahashi Y<sup>1,6</sup>, Ichikawa Y, Mano T<sup>1</sup>, Iwata A<sup>1</sup>, Harigaya Y<sup>7</sup>, Matsukawa MK<sup>1</sup>, Matsukawa T<sup>1,5</sup>, Tanaka M<sup>1,8</sup>, Shirota Y<sup>1</sup>, Ohtomo R<sup>1</sup>, Kowa H<sup>1,9</sup>, Date H<sup>1,6</sup>, Mitsue A<sup>1</sup>, Hatsuta H<sup>10,11</sup>, Morimoto S<sup>10</sup>, Murayama S<sup>10</sup>, Shiio Y<sup>12</sup>, Saito Y<sup>13</sup>, Mitsuake A<sup>1</sup>, Kawai M<sup>1</sup>, Sasaki T<sup>1</sup>, Sugiyama Y<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Ohtomo G<sup>1</sup>, Terao Y<sup>14</sup>, Nakazato Y<sup>15</sup>, Takeda A<sup>11</sup>, Sakiyama Y<sup>16</sup>, Umeda-Kameyama Y<sup>17</sup>, Shinmi J<sup>1</sup>, Ogata K<sup>18</sup>, Kohno Y<sup>19</sup>, Lim SY<sup>20</sup>, Tan AH<sup>20</sup>, Shimizu J<sup>1</sup>, Goto J<sup>1,21</sup>, Nishino I<sup>22</sup>, Toda T<sup>1</sup>, Morishita S<sup>2</sup>, Tsuji S<sup>1,5,8</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurology, The University of Tokyo Hospital, <sup>2</sup>Department of Computational Biology and Medical Sciences, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo, <sup>3</sup>School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo University of Technology, <sup>4</sup>Department of Integrative Genomics, Tohoku Medical Megabank Organization, Tohoku University, <sup>5</sup>Department of Molecular Neurology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, <sup>6</sup>Department of Neurology, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>7</sup>Department of Neurology, Maebashi Red Cross Hospital, Maebashi, <sup>8</sup>Institute of Medical Genomics, International University of Health and Welfare, <sup>9</sup>Department of Rehabilitation Science, Kobe University Graduate School of Health Sciences, <sup>10</sup>Department of Neurology and Neuropathology (the Brain Bank for Aging Research), Tokyo

Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology, <sup>11</sup>Department of Neurology, Osaka City University Graduate School of Medicine, <sup>12</sup>Department of Neurology, Tokyo Teishin Hospital, <sup>13</sup>Department of Pathology and Laboratory Medicine, National Center Hospital, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>14</sup>Department of Cell Physiology, <sup>15</sup>Department of Neurology, Saitama Medical University, <sup>16</sup>Department of Neurology, Jichi Medical University, Saitama Medical Center, <sup>17</sup>Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, <sup>18</sup>Department of Neurology, National Hospital Organization Higashisaitama Hospital, <sup>19</sup>Department of Neurology, Ibaraki Prefectural University of Health Sciences, <sup>20</sup>Division of Neurology, Faculty of Medicine, University of Malaya, <sup>21</sup>Department of Neurology, International University of Health and Welfare Mita Hospital, <sup>22</sup>Department of Neuromuscular Research, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry): Noncoding CGG repeat expansions in neuronal intranuclear inclusion disease, oculopharyngodistal myopathy and an overlapping disease. *Nat Genet.* 51(8):1222-1232, 2019.

4. Ichikawa Y, Tanaka M<sup>1,2</sup>, Kurita E, Nakajima M, Tanaka M, Oishi C, Goto J<sup>3</sup>, Tsuji S<sup>1,2,4</sup>, Chiba A (<sup>1</sup>Department of Neurology, The University of Tokyo Hospital, <sup>2</sup>Institute of Medical Genomics, International University of Health and Welfare, <sup>3</sup>Department of Neurology, International University of Health and Welfare Mita Hospital, <sup>4</sup>Department of Molecular Neurology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo): Novel SLC20A2 variant in a Japanese patient with idiopathic basal ganglia calcification-1 (IBGC1) associated with dopa-responsive parkinsonism. *Hum Genome Var* 6:44, 2019. DOI: 10.1038/s41439-019-0073-7

## 著書

1. 千葉厚郎: ギラン・バレー症候群. 今日の治療指針 2020. 福井次矢, 高木誠, 小室一誠総編集. 東京, 医学書院, 2019. p.996-997.
2. 千葉厚郎: Guillain-Barré症候群 (Fisher症候群を含む). 今日の診断指針 第8版. 永井良三総編集. 東京, 医学書院, 2019. p.604-607.

## 循環器内科学教室

### 講演

1. 副島京子: 心房細動治療の進歩. 日野医師会学術講演会, 日野, 2019年4月2日.
2. 河野隆志: 臨床研究会 心不全治療の現状と課題 - 弁膜症や糖尿病合併例での治療進歩を踏まえ. 東京内科医会, 東京, 2019年4月6日.
3. Satoh T: Pressure-wire-mediated BPA for patients with CTEPH. 1st EASOPH and 4th TPHA Pulmonary Hypertensio Forum, Taipei, April 12th, 2019.
4. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 大崎地区学術講演会 抗凝固療法連携フォーラム, 大崎, 2019年4月10日.
5. 小山幸平: OCT/IVUS Guided PCI. OCT ワークショップ in 東京蒲田病院, 東京, 2019年4月12日.

6. 副島京子: 心室頻拍治療のコツ. 不整脈治療研究会, 徳島, 2019年4月17日.
7. 佐藤萌, 明神聡介, 白石泰之, 勝俣良紀, 湯浅慎介, 河野隆志, 山崎真敬, 志水秀行, 福田恵一: 右室内血栓および高度右室機能障害によるペースング不全を契機に診断された心臓サルコイドーシスの1例. 116回日本内科学会総会講演会, 名古屋, 2019年4月26-28日.
8. 副島京子: Epicardial VT Ablation. BIOTRONIK Spring Symposium 2019, 東京, 2019年4月27日.
9. 副島京子: 循環器学会での取り組みについて. 第116回日本内科学会総会・講演会, 名古屋, 2019年4月28日.
10. Soejima K: Disrupting the Atrial Fibrillation Ablation Paradigm: The Rise of the Balloon Technology. When Can Ablation Replace ICD Therapy?. HEART RHYTHM SCIENTIFIC SESSIONS, USA, May 8th- 11th, 2019. 守山英則, 村田光繁, 川上崇史, 片岡雅晴, 木村舞, 平出貴裕, 遠藤仁, 河野隆志, 板橋裕史, 瀬尾由広, 岩男泰, 福田恵一: 肺高血圧症における右室3次元 speckle-tracking法による右室機能評価と右室局所壁運動異常の臨床的意義. 日本心エコー学会第30回学術集会, 松本, 2019年5月10-12日.
11. 副島京子: 連携症例について. 第5回循環器治療 Up to Date, 三鷹, 2019年5月15日.
12. 三輪陽介: 持続性心房細動に対する課題と治療. 第5回循環器治療 Up to Date, 東京, 2019年5月15日.
13. 副島京子: 不整脈治療の最前線 よきパートナーとして臨床工学技士に求めること. 第29回日本臨床工学会 in いわて, 盛岡, 2019年5月18日.
14. 佐藤徹: 最近の当院での肺動脈性肺高血圧症の診断と治療. sGCを考える会 in 東海, 名古屋, 2019年5月18日.
15. 浦田翔一, 重田洋平, 南島俊徳, 合田あゆみ, 金剛寺謙, 副島京子: 冠動脈炎により3枝病変をきたした若年女性の一例. 若手医師のための循環器内科セミナー2019, 東京, 2019年5月18日.
16. 伊藤準之助, 坂田好美, 満田寛子, 井坂葵, 南島俊徳, 古谷充史, 松下健一, 副島京子: 三次元 speckle-tracking心エコーを用いた高リスク非弁膜症性心房細動例の評価. 第92回日本超音波医学会学術集会, 東京, 2019年5月24日.
17. Yukino M, Nagatomo Y, Goda A, Sujino Y, Mizuno A, Kohno T, Shiraishi Y, Kohsaka S, Yoshikawa T: Use of non-invasive positive pressure ventilation is associated with worse short-term outcome after discharge for elderly patients with acute decompensated heart failure. *Heart Failure, Greece, May 25-28, 2019.*
18. 田島幸佳, 金剛寺謙, 新名良広, 三浦陽平, 福士圭, 若林典弘, 山崎博之, 重田洋平, 小山幸平, 副島京子: 冠動脈肺動脈瘻に対してコイル塞栓術を施行した1例. 第50回 多摩地区虚血性心疾患研究会, 東京, 2019年5月25日.
19. 三輪陽介: 持続性心房細動に対する治療と被ばく軽減についての当院での取り組み. Webセミナー 私の心房細動カテーテルアブレーション, 東京, 2019年5月27日.
20. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 栃木県北不整脈セミナー ~第5回栃木県北不整脈研究会~, 那須塩原, 2019年5月28日.
21. 小山幸平: さらなる脂質低下療法に必要性. アステ

- ラス・アムジェン・バイオフーマ社内講演会，東京，2019年5月29日。
22. 河野隆志：移植不適応の重症心不全患者さんにどう向き合うか？. 第2回 Heart disease Management Forum, 東京, 2019年5月30日.
  23. 副島京子：器質的心疾患にともなう心室頻拍のアプローチ. HEAT –Heart Electrophysiological Academy in Tokai, 名古屋, 2019年5月31日.
  24. 河野隆志：第4回循環呼吸SAS研究会，循環器疾患患者における睡眠の質の検証；精神障害との関連も踏まえて. 東京, 2019年6月1日.
  25. 伊波巧：当院におけるCTEPH治療戦略. 九州大学BPA work shop, 福岡, 2019年6月3日.
  26. 佐藤徹：慢性血栓塞栓性肺高血圧症. 肺動脈カテーテル治療研究会, 千葉, 2019年6月4日.
  27. 伊波巧：CTEPH急性増悪にBPAを施行した一症例. 肺動脈カテーテル治療研究会, 千葉, 2019年6月4日.
  28. 副島京子：不整脈治療の進歩. 富山 Network Meeting, 富山, 2019年6月5日.
  29. 三輪陽介：高齢社会における心房細動と心不全. 第8回井の頭ファーマ会, 東京, 2019年6月6日.
  30. 副島京子：リードレスペースメーカの現状と今後の展望. 第40回日本循環制御医学会総会・学術集会 in 軽井沢, 軽井沢, 2019年6月7-8日.
  31. 佐藤徹：肺動脈性肺高血圧症 最新の話題 今後の肺高血圧症診断・治療 特に運動負荷時の肺循環動態を使って. 第40回日本循環制御医学会総会・学術集会 in 軽井沢, 軽井沢, 2019年6月7-8日.
  32. 河野隆志：循環器医による糖尿病トータルマネジメント・内服徹底・睡眠管理・メンタルヘルスの観点より. 第114回日本循環器学会中国四国合同地方会, 高松, 2019年6月8日.
  33. 副島京子：上室性不整脈. 第42回白河循環器病勉強会, 白河, 2019年6月12日.
  34. Soejima K: Ablation for Ischemic VT. KHRS 2019, South Korea, June 21st–22nd, 2019.
  35. 齋藤哲也, 林田健太郎, 長谷啓, 吉島信宏, 鶴田ひかる, 板橋裕史, 河野隆志, 高橋辰郎, 山崎真敬, 伊藤努, 志水秀行, 福田恵一：デバイス通過困難例に対してスネアテクニックを用いたTAV IN SAVの一例. 第40回日本循環制御医学会総会・学術総会, 軽井沢, 2019年6月7日.
  36. 河野隆志：循環器医による糖尿病トータルマネジメント. 第114回日本循環器学会 中国四国合同地方会, 高松, 2019年6月8日.
  37. 南島俊徳：当院における心不全診療について-トルバプタンの使用について-. 17th global vascular intervention conference in west Tokyo, 立川, 2019年6月13日.
  38. 伊波巧：当院におけるVTE・CTEPH治療の実際. 第4回相模原循環器エキスパートの会, 相模原, 2019年6月19日.
  39. 守山英則, 村田光繁, 川上崇史, 片岡雅晴, 出貴裕, 木村舞, 遠藤仁, 河野隆志, 板橋裕史, 福田恵一：3D speckle tracking法で右室局所壁運動異常の変遷を捉えた一例. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 2019年6月21-22日.
  40. 伊波巧, 片岡雅晴, 伊藤準之助, 重田洋平, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 副島京子, 佐藤徹：CTEDに対するBPAの適応と効果. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 2019年6月21-22日.
  41. 伊藤準之助, 伊波巧, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 副島京子, 佐藤徹：初期併用療法が著効した一側性孤立性肺動脈欠損症の一例. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 2019年6月21-22日.
  42. 伊藤準之助, 伊波巧, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 副島京子, 佐藤徹：新規薬剤による初期併用療法の短期的な血行動態への効果. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 2019年6月21-22日.
  43. 竹内かおり：低酸素血症を伴う肺高血圧症に対する血管拡張薬の効果. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 2019年6月21-22日.
  44. 重田洋平, 伊波巧, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 副島京子, 佐藤徹：重症CTEPHに対する薬物治療と経皮的肺動脈形成術の効果. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 2019年6月21-22日.
  45. 飛田和基, 合田あゆみ, 西田悠一郎, 坂本勇人, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 佐藤徹, 岡島康友：肺高血圧症患者のQOLの特徴および下肢筋力, 運動耐量との関連. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 2019年6月21-22日.
  46. 坂田好美：高齢化社会に置ける心疾患. 第16回杏林大学医学部同窓会女子部会総会講演会, 東京, 2019年6月22日.
  47. 佐藤徹：心臓病の身体所見. Minato Clinical Forum in Summer, 東京, 2019年6月25日.
  48. 副島京子：循環器専門医の立場から ～心房細動を治療しよう～. 第6回日本心血管脳卒中学会学術集会, 東京, 2019年6月28-29日.
  49. 副島京子：不整脈治療の進歩. 抗凝固療法フォーラム, 甲府, 2019年7月3日.
  50. 伊波巧：PH最新状況と当院での治療戦略に関して. Osaka City PH Conference, 大阪, 2019年7月3日.
  51. 副島京子：不整脈治療の進歩. よりよいアプローチ周術期における抗凝固療法. Meet the Expert in Nagoya, 名古屋, 2019年7月5日.
  52. 坂田好美：注意すべき左室肥大. 三鷹医師会循環器研究会, 東京, 2019年7月9日.
  53. 副島京子：不整脈治療の進歩. Meet the Expert ～心房細動治療 Up to Date～, 札幌, 2019年7月10日.
  54. 河野隆志：病棟における心不全緩和ケア -患者視点の共有から始める. グローバルヘルス緩和ケア研究会, 東京, 2019年7月11日.
  55. Kongoji K: Crosser 活用術. Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2019, 東京, 2018年7月11日 - 13日.
  56. Kongoji K: EVT course, CLI Global Session, 傷を治すためのEVTとは. Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2019, 東京, 2019年7月11日 - 13日.
  57. Koyama K: OCT Guided Daily PCI O-C-T is easy as 1-2-3. Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2019, Tokyo, July 11th, 2019.
  58. Koyama K: Industrial Symposia 1 Beyond Research, and into Daily Practice OCT in the Real World. Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2019, Tokyo, July 11th, 2019.
  59. 副島京子：不整脈治療の進歩・心房細動. 不整脈診療アップデート, 川越, 2019年7月12日.
  60. 増田桃子, 飛田和基, 合田あゆみ, 岡島康友：急性冠症候群後の当院外来心臓リハビリテーション, 実施

- 例における継続群と非継続群の背景についての検討. 第25回心臓リハビリテーション学会, 大阪, 2019年7月13 - 14日.
61. 坂本勇斗, 飛田和基, 合田あゆみ, 岡島康友: 心不全患者の拡張障害が運動耐容能や労作時の息切れに及ぼす影響の後方視研究. 第25回心臓リハビリテーション学会, 大阪, 2019年7月13 - 14日.
  62. 飛田和基, 木村雅彦, 合田あゆみ, 佐藤徹, 岡島康友: 肺高血圧症患者における運動時肺動脈圧上昇と下肢筋力との関連. 第25回心臓リハビリテーション学会, 大阪, 2019年7月13 - 14日.
  63. 小山幸平: OCT guided PCI. OCT ワークショップ in 横浜市民病院, 横浜, 2019年7月17日.
  64. 佐藤徹: Follow-up時リスク評価と追加併用療法. 1st PAH Frontier Summit, 東京, 2019年7月20日.
  65. 副島京子: History, Scientific Contribution and Future Perspective of APHRS and the Expected Role of JHRS. カテーテルアブレーションと抗凝固療法. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019年7月24 - 27日.
  66. Miwa Y, Ueda U, Mouri T, Katsume Y, Tashiro M, Momose Y, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I, Maeda A, Hagiwara Y, Sato T, Soejima K: A Box Isolation with Left Atrial Posterior Center Line for Persistent Atrial Fibrillation in the Era of Contact Force Guided Ablation. 66th Japanese Heart Rhythm Society Scientific Session 2019, Yokohama, July 26th, 2019.
  67. Hosida K, Miwa Y, Mohri T, Katsume Y, Momose Y, Tashiro M, Nonoguchi N, Togashi I, Maeda A, Hagiwara Y, Ueda A, Sato T, Soejima K: Comparison of Cryoballoon Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation with and without 3D-Electroanatomical Mapping System: Efficacy and Economical Impact. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019年7月24 - 27日.
  68. Nagaoka M, Mohri T, Kastume Y, Momose Y, Nonoguchi N, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Ueda A, Sato T, Soejima K: Assessing Symptoms before and after Catheter Ablation (CA) in Patients with Atrial Fibrillation (AF). 66th Japanese Heart Rhythm Society Scientific Session 2019, Yokohama, July 26th, 2019.
  69. 副島京子: 心房細動アブレーションの方向性. 2019年度ホットバルーン研究会, 横浜, 2019年7月26日.
  70. 河野隆志: 低心機能に合併する僧帽弁逆流, 予後を見据えた薬物治療. 東京臨床心不全カンファレンス, 東京, 2019年7月27日.
  71. 伊波巧: PAH治療におけるInitial Combination Therapy. アデムパスPHフォーラムWeb, 東京, 2019年7月27日.
  72. 副島京子: 不整脈治療の進歩. Medical Collaboration Conference, 福岡, 2019年7月29日.
  73. 副島京子: 不整脈治療の進歩. AF Ablation Expert Meeting, 京都, 2019年8月2日.
  74. 小山幸平: NIRS-IVUS (Near InfraRed Spectroscopy-IVUS) 近赤外線分光法血管内超音波. NBA summit, 東京, 2019年8月29日.
  75. 副島京子: VT Ablationについて. 第10回新日本ハートリズムカンファレンス, 東京, 2019年8月31日.
  76. Takeuchi K, Inami T, Kikuchi H, Goda A, Soejima K, Satoh T: Efficacy of pulmonary hypertension-targeted drugs for severe chronic thromboembolic pulmonary hypertension. ESC Congress 2019, France, August 31st - September 4th, 2019.
  77. Shinada K, Kohno T, Fukuda K, Higashitani M, Kawamatsu N, Kitai T, Shibata T, Takei M, Nochioka K, Nakazawa G, Shiomi H, Miyashita M, Mizuno A: Prevalence and determinants of complicated grief in bereaved caregivers of patients admitted for cardiovascular diseases. European Society of Cardiology Congress, France, August 31st - September 4th, 2019.
  78. Kitakata H, Kohno T, Kohsaka S, Fujisawa D, Nakano N, Shiraishi Y, Katsumata Y, Yuasa S, Fukuda K: Prognostic communication with hospitalized heart failure patients; the patients' perspective. European Society of Cardiology Congress, France, August 31st - September 4th, 2019.
  79. Takeuchi S, Yoshino H, Yamaguchi Y, Soejima K: The characteristics of type A acute aortic dissection in patients with out-of-hospital cardiopulmonary arrest analyzed by computed tomography. ESC Congress 2019, France, August 31st - September 4th, 2019.
  80. Takeuchi K: Efficacy of Pulmonary Hypertension-targeted Drugs for Sever Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. ESC Congress 2019, France, 2019.9.3.
  81. 河野隆志, 佐藤徹, 合田あゆみ, 副島京子, 関野実枝子, 長谷川浩, 佐藤徹: 高齢者心疾患の問題点 当科における過去10年間の入院動向からの検討. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13 - 15日.
  82. 満田寛子, 坂田好美, 井坂葵, 福嶋真由美, 伊藤準之助, 南島俊徳, 松下健一, 合田あゆみ, 佐藤徹, 副島京子: エルゴメーター負荷心エコーと心肺運動負荷試験の指標による心不全患者の心機能障害および予後評価についての検討. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13日.
  83. 竹内真介, 吉野秀朗: 院外心肺停止患者の急性期単純CTからStanford A型急性大動脈解離を診断し得た3例. 名古屋, 第67回日本心臓病学会学術集会, 2019年9月13 - 15日.
  84. 竹内真介, 吉野秀朗: 白血病治療中に弓部小嚢状大動脈瘤から急性偽腔開存A型大動脈解離を発症した1例. 名古屋, 第67回日本心臓病学会学術集会, 2019年9月13 - 15日.
  85. 福嶋真由美, 坂田好美, 満田寛子, 井坂葵, 伊藤準之助, 南島俊徳, 松下健一, 佐藤徹, 副島京子: 3次元心エコーを用いた心房細動症例の左房および右房機能障害の評価. 第67回心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13 - 15日.
  86. 菊池華子, 竹内かおり, 伊波巧, 合田あゆみ, 副島京子, 佐藤徹: 肺高血圧症の最新治療IPAHはどこまで肺動脈圧が下がれば安心か 運動負荷試験による検討, 薬物療法および活動量制限の効果. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13 - 15日.
  87. 副島京子: 心室頻拍の治療の進歩. 第11回東北臨床不整脈研究会, 山形, 2019年9月14日.
  88. 長友祐司, 小川翔, 合田あゆみ, 筋野容守, 水野篤, 白石泰之, 河野隆志, 香坂俊, 吉川勉: HFpEFの疾患プロセスにおける左室リモデリングとは. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月14日.
  89. 河野隆志: 心不全における陽圧呼吸療法の治療ゴール. 帝人在宅医療 スポンサーディベニングセミナー,

- 名古屋, 2019年9月14日.
90. 中野直美, 河野隆志, 白石泰之: 心不全外来における看護師の役割. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月14日.
  91. Kohno T: Acute Heart Failure - Contemporary Prevention and Management. ACC Asia Conference 2019, 名古屋, 2019年9月15日.
  92. 小沼健人, 川上俊一郎, 小山幸平, 新名良広, 三浦陽平, 若林典弘, 福士圭, 田島幸佳, 山崎博之, 金剛寺謙, 副島京子: 解析ビギナーの冠動脈病変計測における高解像度血管内超音波の有効性の検討. 第28回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT 2019学術集会, 名古屋, 2019年9月19日.
  93. Yamazaki H, Miura Y, Niina Y, Miura Y, Wakabayashi N, Fukushi K, Tashima Y, Shigeta Y, Higuchi S, Koyama K, Kongoji K, Soejima K: Examination of withdrawal rates and one-month survival rates of VA-ECMO in our hospital. The 28th Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics (CVIT2019), Nagoya, September 19 - 21, 2019.
  94. Fukushi K, Kongoji K, Miura Y, Tashima Y, Wakabayashi N, Yamazaki H, Shigeta Y, Koyama K, Soejima K: Multiple coronary-to-pulmonary artery fistulae treated using transcatheter coil occlusion: a case report. CVIT2019, 名古屋, 2019年9月19 - 21日.
  95. 副島京子: 不整脈治療の進歩. Meet the Expert, 大阪, 2019年9月20日.
  96. 伊波巧: Medical and Catheter-based Therapies for CTEPH. CVIT 2019, 名古屋, 2019年9月20日.
  97. 伊波巧: 当院のPAHに対する初期併用療法の実際. 日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越地方会, 新潟, 2019年9月21日.
  98. 三輪陽介: 多摩Cryoセミナー, 東京, 2019年9月27日.
  99. 副島京子: 心室頻拍アブレーション. 次世代不整脈エキスパート講座 in 和歌山, 和歌山, 2019年9月28日.
  100. 山崎雄友, 白石泰之, 香坂俊, 河野隆志, 福田恵一: 心不全患者に対するトルバプタン外来継続投与の臨床実態. 第253回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年9月28日.
  101. 大岡令奈, 新美望, 井合渉, 白石泰之, 勝俣良紀, 片岡雅晴, 湯浅慎介, 河野隆志, 板橋裕史, 福田恵一: Osler-Weber-Rendu病を背景に重症肺高血圧症を呈した一例 (慶應義塾大学病院). 253回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年9月28日.
  102. 竜崎俊亘, 勝俣良紀, 後藤信一, 石泰之, 河野隆志, 湯浅慎介, 福田恵一: 共通のTNNT2遺伝子のミスセンス変異を認めたが, 臨床経過が異なる心筋症の2例. 第253回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年9月28日.
  103. 中田千穂, 重田洋平, 渡邊貴之, 若林典弘, 南島俊徳, 小山幸平, 金剛寺謙, 佐藤徹, 副島京子, 下山田博明, 菅間博: 冠動脈炎による血栓性多枝病変心筋梗塞の若年女性剖検例. 第253回日本循環器病学会関東地方会, 東京, 2019年9月28日.
  104. 河野隆志: 患者視点から考える心不全チーム医療 - アドバンス・ケア・プランニングの実践を踏まえて. 心不全学術講演会, 三鷹, 2019年10月1日.
  105. 伊波巧: PH 最新状況と当院での治療戦略に関して. 山梨肺高血圧症を考える会2019, 甲府, 2019年10月2日.
  106. 中野直美, 釜戸由紀, 林田健太郎, 河野隆志: 大動脈弁狭窄症患者の視点; TAVIに何を期待するか Perspective of Patients Treated with Transaortic Valvular Implantation. 第23回日本心不全学会学術集会, 広島, 2019年10月4日.
  107. 杉浦康平, 河野隆志, 白石泰之, 勝俣良紀, 湯浅慎介, 福田恵一: 循環器疾患合併症例において夜間間欠性低酸素はB型脳性利尿ペプチドの上昇に関連する Nocturnal Intermittent Hypoxia was Independently Associated with Elevated B-Type Natriuretic Peptide Levels in Patients with Cardiovascular Disease. 第23回日本心不全学会学術集会, 広島, 2019年10月4日.
  108. Soejima K: Ablation of Papillary Muscle Ventricular Arrhythmias. Epicardium VT ablation in non-ischemic Cardiomyopathy. 7th TAM DUC SCIENTIFIC DAYS FOR CARDIOVASCULAR DISEASE (TSC 2019), VIETNAM, October 5th - 6th, 2019.
  109. 坂田好美: 高齢化社会において注意する心疾患. 第20回杏林大学医学部同窓会全国支部長代議員懇話会学術講演会, 東京, 2019年10月6日.
  110. 河野隆志: 心筋梗塞後心不全予防にむけた薬物治療. 第23回日本心不全学会学術集会, 広島, 2019年10月6日.
  111. 副島京子: デジタル医療の最前線. 第21回城南 Bench to Bedside(JBB) カンファレンス, 東京, 2019年10月9日.
  112. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 多摩地区 Meet the Expert, 立川, 2019年10月11日.
  113. 合田あゆみ, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 副島京子, 佐藤徹: 強皮症患者における運動負荷誘発性左室拡張障害に関する検討. 第23回心不全学会学術集会, 広島, 2019年10月12 - 14日.
  114. 伊藤準之助, 合田あゆみ, 副島京子: 当院における末期心不全患者に対する緩和ケアチームの現状. 第23回心不全学会学術集会, 広島, 2019年10月12 - 14日.
  115. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 第81回可茂循環器セミナー, 岐阜, 2019年10月17日.
  116. Inami T: Regional BPA Experiences from Japan. International BPA registry investigator meeting, United Kingdom, 8 - 19th October 2019.
  117. 副島京子: 脈を測って健康管理 元気なシニアライフを過ごすためにできること. 第21回泊江市医師会市民講座, 泊江, 2019年10月19日.
  118. Koyama K: OCT/IVUS Educational Program. Train Medical Trainers (TMT) of PCI Institute 2019 winter program. Tokyo, December 19th, 2019.
  119. Inami T: The Journey of PTPA Development in Japan. Spyglass show of PTPA at China medical university hospital, Taiwan, 23rd October, 2019.
  120. 小山幸平: ACS脂質管理フローとPCSK9阻害薬の使用経験. TAMA CV conference, 東京, 2019年10月23日.
  121. Soejima K: VT ablation. APHRS 2019アジア太平洋不整脈学会, Thailand, October 24th - 27th, 2019.
  122. Miwa Y: Decreased Volume of Left Atrium after Pulmonary Veins and Left Atrial Posterior Wall Isolation in Patients with Persistent Atrial Fibrillation). The 12th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session, Thailand, October 26, 2019.

123. 佐藤徹: 多摩地区における杏林大学の肺高血圧診療. 千葉肺高血圧症講演会, 千葉, 2019年11月1日.
124. 河野隆志: 心不全ガイドライン推奨薬物治療を再考する - 慢性期治療の立場から. 急性期から終末期までの心不全治療, 立川, 2019年11月6日.
125. 小山幸平: 二次予防の立場からみた脂質管理. Lipid Management Seminar Tokyo, 東京, 2019年11月6日.
126. 副島京子: 非虚血性心疾患アブレーション: コツとエンドポイントの判定. Use of functional substrate mapping for ventricular ablation. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2019, 金沢, 2019年11月7-9日.
127. 佐藤徹: 膠原病に伴う肺高血圧症の話と静脈血栓症の治療関連でリクシアナの話題. Total Care Conference~炎症・免疫と血栓症を考える, 東京, 2019年11月14日.
128. 副島京子: 不整脈治療の進歩. Meet the Expert SETOUCHI×SANIN, 岡山, 2019年11月15日.
129. Kitakata H, Kohno T, Kohsaka S, Fujisawa D, Shiraishi Y, Katsumata Y, Yuasa S, Fukuda K: Preferences and Attitudes Toward Advance Care Planning and End-of-life Care of Patients Hospitalized for Heart Failure. The 92nd annual session meeting of American Heart Association, USA, Nov. 16 - 18, 2019.
130. Sugiura K, Kohno T, Hayashida K, Saito T, Hase H, Yoshijima N, Tsuruta H, Fujisawa D, Itabashi Y, Kohsaka S, Fukuda K: Subjective Preferences and Goal Among the Patients Treated With Transaortic Valvular Replacement. The 92nd annual session meeting of American Heart Association, USA, Nov. 16-18, 2019.
131. Shinada K, Kohno T, Fukuda K, Higashitani M, Kawamatsu N, Kitai T, Shibata T, Takei M, Nochioka K, Nakazawa G, Shiomi H, Miyashita M, Mizuno A: Caregivers Experience With Difficult Decision Making in End-of-life Care of Patients Admitted for Cardiovascular Diseases. The 92nd annual session meeting of American Heart Association, USA, Nov. 16 - 18, 2019.
132. 副島京子: 不整脈治療について(薬物治療を中心に). 杏林近隣地区 薬・薬連携勉強会, 三鷹, 2019年11月20日.
133. 三輪陽介: 持続性心房細動に対する取り組み. 循環器医療連携カンファレンス, 東京, 2019年11月21日.
134. 三輪陽介: AF症例における透視削減の工夫と実際. Abotto Education Network Webinar, 東京, 2019年11月23日.
135. 河野隆志: 高齢心不全患者の治療最適化を目指して-心不全レジストリ・抗凝固薬に関する最近の知見も踏まえて. WEBカンファレンス, 東京, 2019年11月26日.
136. 副島京子: 心房細動治療のupdate. 旭川心電図・不整脈勉強会, 旭川, 2019年11月27日.
137. 伊波巧: CTEPH治療の現状-カテーテル治療の進歩とその効果-. 第3回旭川肺高血圧症医療連携カンファレンス, 旭川, 2019年11月28日.
138. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 第47回仙台臨床心臓電気生理研究会, 仙台, 2019年11月29日.
139. 副島京子: 糖尿病内科医に知ってもらいたい心房細動治療. Cardio Diabetes Meeting, 三鷹, 2019年12月3日.
140. Mitsuda H, Sakata K, Isaka A, Ito J, Furuya M, Minamishima T, Matsushita K, Soejima K: Outcome Prediction by Exercise Stress Echocardiography and Cardiopulmonary Exercise Testing Assessment in Patients with Heart Failure. EuroEcho 2019, Austria, December 5, 2019.
141. 佐藤徹: 肺高血圧症専門家の軌跡. 第56回KICS(関連病院循環器研究会), 東京, 2019年12月7日.
142. 渡邊貴之, 田島幸佳, 永松佑基, 新名良広, 三浦陽平, 福士圭, 若林典弘, 山崎博之, 小山幸平, 合田あゆみ, 金剛寺謙, 河野隆志, 坂田好美, 佐藤徹, 副島京子: 運動誘発性心筋虚血を有する冠動脈肺動脈瘻に対してコイル塞栓術が奏功した1例. 第254回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年12月7日.
143. Sakata K, Mitsuda H, Ito J, Isaka A, Furuya M, Minamishima T, Matsushita K, Soejima K: Prevalence and prognostic significance of pulmonary artery aneurysms in patients with pulmonary artery hypertension. EuroEcho 2019, Austria, December 7, 2019.
144. 井守洋一, 吉川勉, 村上力, 磯貝俊明, 山口徹雄, 前川裕一郎, 坂田好美, 望月宏樹, 荒尾憲司郎, 長尾建, 山本剛, 高山守正(東京都CCUネットワーク学術委員会): たこつぼ症候群の誘因ストレスが予後に与える影響. 第38回東京CCU研究会, 2019年12月8日.
145. 望月宏樹, 吉川勉, 前川裕一郎, 上田哲郎, 坂田好美, 山口徹雄, 磯貝俊明, 井守洋一, 荒尾憲司郎, 寺岡邦彦, 木村晃久, 村上力, 長尾建, 山本剛, 高山守正(東京都CCUネットワーク): たこつぼ症候群患者におけるDダイマー値と院内死亡率に関する検討. 第38回東京CCU研究会, 2019年12月8日.
146. 木村晃久, 吉川勉, 磯貝俊明, 田中博之, 上田哲郎, 山口徹雄, 井守洋一, 前川裕一郎, 坂田好美, 村上力, 望月宏樹, 荒尾憲司郎, 長尾建, 山本剛, 高山守正(東京都CCUネットワーク学術委員会): たこつぼ症候群患者において入院時体温が院内転帰に与える影響. 東京都CCUネットワークレジストリ研究. 第38回東京CCU研究会, 2019年12月8日.
147. 金剛寺謙: 循環器Webセミナー, 経カテーテル大動脈弁挿入術. 東京, 2019年12月12日.
148. 金剛寺謙: 経カテーテル大動脈弁挿入術. 多摩三科懇話会, 東京, 2019年12月12日.
149. 永松佑基, 南島俊徳, 長岡山佳, 重田洋平, 松下紀子, 金剛寺謙, 松下健一, 坂田好美, 佐藤徹, 副島京子: nivolumabによる薬剤性心筋炎の1症例. 第656回内科学会関東地方会, 東京, 2019年12月14日.
150. 河野隆志: 心不全治療における緩和ケア. 日本循環器看護学会教育セミナー(中級編)心不全患者の緩和ケア, 東京, 2019年12月15日.
151. 河野隆志: 心不全治療における緩和ケア -循環器内科医の視点-. 日本循環器看護学会教育セミナー(中級編)心不全患者の緩和ケア, 東京, 2019年12月15日.
152. 河野隆志: 第6回 循環器治療 Up to Date 心不全治療の真の最適化を考える -心房細動の最近の話題も踏まえて-. 三鷹, 2019年12月18日.
153. 金剛寺謙: 循環器治療 Up to Date. 三鷹医師会, 三鷹, 2019年12月18日.
154. 佐藤徹: 膠原病性肺高血圧症の診療および急性肺塞栓症の診療. Total Care Conference~炎症・免疫と血栓症を考える~, 東京, 2019年12月19日.
155. 副島京子: Entrainment-その重要性. Meet the Expert, 松本, 2019年12月21日.



156. 百瀬裕一, 富樫郁子, 佐藤俊明, 上田明子, 三輪陽介, 星田京子, 野々口紀子, 田代身佳, 勝目有美, 毛利崇人, 前田明子, 副島京子: VFに対するSICD植込み後に心停止, 房室ブロックを呈したためリードスペースメーカー植込みを行った冠攣縮性狭心症の1例. 第32回心臓性急死研究会, 東京, 2019年12月21日.
157. 河野隆志: 高齢心不全患者のより良い治療を目指して. 《循環器領域》Takeda Expert Web Seminar, 東京, 2020年1月17日.
158. 副島京子: 心室ATP. 心房心室ATPを再考する会, 名古屋, 2020年1月24日.
159. 佐藤徹: 肺高血圧症の最近の知見. 埼玉心臓集談会, 東京, 2020年1月24日.
160. 副島京子: 心房細動治療のupdate. AF Expert Meeting in Shiga, 大津, 2020年1月25日.
161. 伊波巧: 循環器内科から診るPH~最新状況から当院の治療戦略に関して~. PH Master Program in 西北, 東京, 2020年2月1日.
162. 佐藤徹: 肺高血圧症の診療および急性肺塞栓症の診療. 三鷹市医師会循環器研究会, 東京, 2020年2月4日.
163. 副島京子: 心臓構造からみたリードスペースメーカー治療の問題点. 第12回植込みデバイス関連冬季大会, 名古屋, 2020年2月6-8日.
164. 河野隆志: “今こそ知って欲しい”心不全診療”-心房細動の最近の話題も踏まえて-. Risk Management Seminar, 立川, 2020年2月6日.
165. 河野隆志: 心不全チーム医療 -心不全進展ステージ別に再考する-. 心不全WEBセミナー, 東京, 2020年2月13日.
166. 小山幸平: 家族性高コレステロール血症を伴う急性冠症候群患者に対する治療戦略 (NIRS-IVUSによる検討も含めて). Collaboration Conference, 東京, 2020年2月19日.
167. 伊波巧: 当院の肺動脈性肺高血圧症の治療戦略. 肺高血圧症Webセミナー in Tokyo, 東京, 2020年2月21日.
168. 長江篤季, 永松佑基, 伊藤準之助, 福士圭, 重田洋平, 南島俊徳, 合田あゆみ, 金剛寺謙, 河野隆志, 坂田好美, 佐藤徹, 副島京子, 小田未来, 磯村杏耶, 藤原正親, 柴原純二: 診断に難渋したが経静脈的カテーテル生検により診断に至った右房原発心臓血管肉腫の一例. 第255回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2020年2月22日.
169. 増田萌, 永松佑基, 伊藤準之助, 福士圭, 重田洋平, 南島俊徳, 合田あゆみ, 金剛寺謙, 河野隆志, 坂田好美, 佐藤徹, 副島京子, 小田未来, 磯村杏耶, 藤原正親, 柴原純二: 経静脈的カテーテル生検により診断に至った右房原発心臓血管肉腫の一例. 第255回日本循環器病学会関東地方会, 東京, 2020年2月22日.
170. Imaeda S, Shiraishi Y, Niimi N, Goda A, Kohno T, Nagatomo Y, Nishihata Y, Saji M, Kohsaka S, Yoshikawa T: Use of short- versus long-acting diuretics and its association with long-term outcomes after discharge in patients hospitalized for acute heart failure. American Congress of Cardiology 2020, USA, Mar.20 - 22, 2020.
2. Kimura K<sup>1</sup>, Kimura T<sup>2</sup>, Ishihara M<sup>3</sup>, Nakagawa Y<sup>4</sup>, Nakao K<sup>5</sup>, Miyauchi K<sup>6</sup>, Sakamoto T<sup>5</sup>, Tsujita K<sup>7</sup>, Hagiwara N<sup>8</sup>, Miyazaki S<sup>9</sup>, Ako J<sup>10</sup>, Arai H<sup>11</sup>, Ishii H<sup>12</sup>, Origuchi H<sup>13</sup>, Shimizu W<sup>14</sup>, Takemura H<sup>15</sup>, Tahara Y<sup>16</sup>, Morino Y<sup>17</sup>, Iino K<sup>15</sup>, Itoh T<sup>17</sup>, Iwanaga Y<sup>9</sup>, Uchida K<sup>1</sup>, Endo H<sup>18</sup>, Kongoji K, Sakamoto K<sup>7</sup>, Shiomi H<sup>19</sup>, Shimohama T<sup>10</sup>, Suzuki A<sup>8</sup>, Takahashi J<sup>20</sup>, Takeuchi I<sup>1</sup>, Tanaka A<sup>21</sup>, Tamura T<sup>22</sup>, Nakashima T<sup>16</sup>, Noguchi T<sup>16</sup>, Fukamachi D<sup>23</sup>, Mizuno T<sup>24</sup>, Yamaguchi J<sup>8</sup>, Yodogawa K<sup>14</sup>, Kosuge M<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>25</sup>, Yoshino H, Yasuda S<sup>16</sup>, Shimokawa H<sup>26</sup>, Hirayama A<sup>27</sup>, Akasaka T<sup>28</sup>, Haze K<sup>29</sup>, Ogawa H<sup>30</sup>, Tsutsui H<sup>31</sup>, Yamazaki T<sup>32</sup>(<sup>1</sup>Yokohama City University Medical Center, <sup>2</sup>Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>3</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>4</sup>Shiga University of Medical Science, <sup>5</sup>Saiseikai Kumamoto Hospital, <sup>6</sup>Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center, <sup>7</sup>Kumamoto University Graduate School of Medical Science, <sup>8</sup>Tokyo Women's Medical University, <sup>9</sup>Kindai University Faculty of Medicine, <sup>10</sup>Kitasato University School of Medicine, <sup>11</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>12</sup>Nagoya University Graduate School of Medicine, <sup>13</sup>Japan Community Health Care Organization Kyushu Hospital, <sup>14</sup>Nippon Medical School, <sup>15</sup>Kanazawa University, <sup>16</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>17</sup>Iwate Medical University, <sup>18</sup>Juntendo University Hospital, <sup>19</sup>Kyoto University Hospital, <sup>20</sup>Tohoku University Hospital, <sup>21</sup>Nagoya University Hospital, <sup>22</sup>Tenri Hospital, <sup>23</sup>Nihon University Itabashi Hospital, <sup>24</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>25</sup>Keio University School of Medicine, <sup>26</sup>Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>27</sup>Nihon University School of Medicine, <sup>28</sup>Wakayama Medical University, <sup>29</sup>Kashiwara Municipal Hospital, <sup>30</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>31</sup>Kyushu University Graduate School of Medical Science, <sup>32</sup>International University of Health and Welfare) Japanese Circulation Society Joint Working Group: JCS 2018 Guideline on Diagnosis and Treatment of Acute Coronary Syndrome. *Circ J.* 25;83(5):1085-1196, 2019.
3. Akita K<sup>1</sup>, Kohno T, Kohsaka S<sup>2</sup>, Shiraishi Y<sup>2</sup>, agatomo Y<sup>3</sup>, Goda A, Mizuno A<sup>4</sup>, Sujino Y<sup>5</sup>, Fukuda K<sup>2</sup>, Yoshikawa T<sup>6</sup> (<sup>1</sup>Hamamatsu University School of Medicine, <sup>2</sup>Keio University School of Medicine, <sup>3</sup>National Defense Medical College, <sup>4</sup>St. Lukes International Hospital, <sup>5</sup>Saitama Medical University International Medical Center, <sup>6</sup>Sakakibara Heart Institute); West Tokyo Heart Failure Registry Investigators: Prognostic Impact of Previous Hospitalization in Acute Heart Failure Patients. *Circ J.* 24;83(6):1261-1268, 2019. doi: 10.1253/circj.
4. Komuro J, Nagatomo Y, Mahara K, Isobe M, Goda A, Sujino Y, Mizuno A, Shiraishi Y, Kohno T, Kohsaka S, Yoshikawa T, West Tokyo Heart Failure (WET-HF) Registry Investigators: Clinical Scenario Classification for Characterization and Outcome Prediction of Acute Decompensated

## 論 文

(英文)

1. Moriyama H<sup>1</sup>, Murata M<sup>1</sup>, Kataoka M<sup>1</sup>, Kawakami T<sup>1</sup>, Endo J<sup>1</sup>, Kohno T, Itabashi Y<sup>1</sup>, Seo Y<sup>2</sup>, Iwao Y<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Keio University School of Medicine,

- Heart Failure Under Contemporary Phenotyping. *Circ Rep.* 2019. [Epub ahead of print]
5. Takei M<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>1</sup>, Goda A, Nagatomo Y<sup>2</sup>, Mizuno A<sup>3</sup>, Suzino Y<sup>4</sup>, Kohno T, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>5</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>National Defense Medical College, <sup>3</sup>St. Luke's International Hospital, <sup>4</sup>Saitama Medical University, <sup>5</sup>Sakakibara Heart Institute): Heart Failure With Midrange Ejection Fraction in Patients Admitted for Acute Decompensation: A Report from the Japanese Multicenter Registry. *J Card Fail* 25(8):666-673, 2019.
  6. Sato T<sup>1</sup>, Soejima K, Maeda A, Mohri T, Tashiro M, Momose Y, Komeda M, Nonoguchi N, Hoshida K, Miwa Y, Ueda A<sup>1</sup>, Togashi I (<sup>1</sup>Division of Advanced Arrhythmia Management (T.S.,A.U.), the Second Department of Internal Medicine) : Deep Negative Deflection in Unipolar His-Bundle Electrogram as a Predictor of Excellent His-Bundle Pacing Threshold Postimplant. *Circ Arrhythm Electrophysiol*, 12(6):e007415, 2019. doi:10.1161/CIRCEP.119.007415.
  7. Mano Y<sup>1</sup>, Kohno T, Hayashida K<sup>2</sup>, Fukuoka R<sup>2</sup>, Yanagisawa R<sup>2</sup>, Tanaka M<sup>2</sup>, Yashima F<sup>2</sup>, Tsuruta H<sup>2</sup>, Itabashi Y<sup>2</sup>, Murata M<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Ichikawa General Hospital, <sup>2</sup>Keio University School of Medicine) : Prevalence, Clinical Profile, and In-hospital Outcomes of Sleep-Disordered Breathing in Patients Undergoing Transcatheter Aortic Valve Implantation in Japan. *Circ Rep.* 201.[Epub ahead of print]
  8. Miwa Y, Ueda A<sup>1</sup>, Komeda M, Takeuchi S, Nagaoka M, Momose Y, Nonoguchi N, Hoshida K, Enomoto M, Togashi I, Maeda A<sup>2</sup>, Hagiwara Y<sup>3</sup>, Sato T, Soejima K (<sup>1</sup>Cardiac Morphology Unit, Department of Paediatrics, Royal Brompton Hospital, <sup>2</sup>Division of Advanced Arrhythmia Management, Department of Cardiology, Kyorin University Hospital, <sup>3</sup>Division of Engineering, Kyorin University Hospital): Reducing radiation exposure during atrial fibrillation ablation using lectures to promote awareness. *Open Heart* 6(1):e000982, 2019.doi:10.1136/openhrt-2018-000982.
  9. Yamashita S<sup>1</sup>, Takigawa M<sup>2</sup>, Denis A<sup>2</sup>, Derval N<sup>2</sup>, Sakamoto Y<sup>3</sup>, Masuda M<sup>4</sup>, Nakamura K<sup>5</sup>, Miwa Y, Tokutake K<sup>1</sup>, Yokoyama K<sup>1</sup>, Tokuda M<sup>1</sup>, Matsuo S<sup>1</sup>, Naito S<sup>5</sup>, Soejima K, Yoshimura M<sup>1</sup>, Haïssaguerre M<sup>2</sup>, Jaïs P<sup>2</sup>, Yamane T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The Jikei University School of Medicine, <sup>2</sup>Université de Bordeaux, <sup>3</sup>Toyohashi Heart Center, <sup>4</sup>Kansai Rosai Hospital Cardiovascular Center, <sup>5</sup>Gunma Prefectural Cardiovascular Center) : Pulmonary vein-gap re-entrant atrial tachycardia following atrial fibrillation ablation: an electrophysiological insight with high-resolution mapping. *Europace* 21(7):1039-1047, 2019. doi:10.1093/europace/euz034.
  10. Matsushita K, Minamishima T, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Prognostic factors for one-year mortality in patients with acute heart failure with and without chronic kidney disease: differential impact of beta-blocker and diuretic treatments. *Hypertens Res* 42(7):1011-1018, 2019. DOI:10.1038/s41440-018-0204-4.
  11. Kohno T, Fukuoka R<sup>1</sup>, Kawakami T<sup>1</sup>, Kataoka M<sup>1</sup>, Kimura M<sup>1</sup>, Sano M<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine) : Balloon Pulmonary Angioplasty Attenuates Sleep Apnea in Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. *Heart Lung* 48(4):321-324, 2019.
  12. Shoji S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>1</sup>, Sawano M<sup>1</sup>, Katsumata Y<sup>1</sup>, Yuasa S<sup>1</sup>, Kohno T, Fukuda K<sup>1</sup>, Spertus JA<sup>1, 2</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Saint Luke's Mid America Heart Institute) : Discrepancy between patient-reported quality of life and the prognostic assessment of Japanese patients hospitalized with acute heart failure. *Heart Vessels* 34(9):1464-1470, 2019.
  13. El-Chami MF<sup>1</sup>, Soejima K, Piccini JP<sup>2</sup>, Reynolds D<sup>3</sup>, Ritter P<sup>4</sup>, Okabe T<sup>5</sup>, Friedman PA<sup>6</sup>, Cha YM<sup>6</sup>, Stromberg K<sup>7</sup>, Holbrook R<sup>7</sup>, Fagan DH<sup>7</sup>, Roberts PR<sup>8</sup> (<sup>1</sup>Emory University, <sup>2</sup>Duke University Medical Center and Duke Clinical Research Institute, <sup>3</sup>University of Oklahoma Health Sciences Center, OU Medical Center, <sup>4</sup>CHU/Université de Bordeaux, Pessac, <sup>5</sup>The Ohio State University Wexner Medical Center, <sup>6</sup>Mayo Clinic, <sup>7</sup>Medtronic, plc, <sup>8</sup>University Hospital Southampton, NHS Foundation Trust) : Incidence and outcomes of systemic infections in patients with leadless pacemakers: Data from the Micra IDE study. *Pacing Clin Electrophysiol* 42(8):1105-1110, 2019. doi:10.1111/pace.13752.
  14. Kataoka M<sup>1</sup>, Inami T, Kawakami T<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Satoh T (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine) : Balloon Pulmonary Angioplasty (Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty) for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. A Japanese Perspective. *JACC: Cardiovasc Interv* 12(14):1382-1388, 2019.
  15. Inami T, Kataoka M, Kikuchi H, Goda A, Satoh T : Balloon pulmonary angioplasty for symptomatic chronic thromboembolic disease without pulmonary hypertension at rest. *Int J Cardiol* 289:116-118, 2019.
  16. Takei M<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>1</sup>, Goda A, Nagatomo Y<sup>2</sup>, Mizuno A<sup>3</sup>, Suzino Y<sup>4</sup>, Kohno T, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>5</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>National Defense Medical College, <sup>3</sup>St. Luke's International Hospital, <sup>4</sup>Saitama Medical University, International Medical Center, <sup>5</sup>Sakakibara Heart Institute) : Heart Failure With Midrange Ejection Fraction in Patients Admitted for Acute Decompensation: A Report From the Japanese Multicenter Registry.*J Card Fail* 25(8):666-673, 2019. doi:10.1016/j.cardfail.2019.05.010.
  17. Koyama K, Mintz GS<sup>1</sup>, Redfors B<sup>2</sup>, Serruys PW<sup>3</sup>, Bruyne BD<sup>4</sup>, Stone GW<sup>5</sup>, Maehara A<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Columbia University Medical Center, <sup>2</sup>Cardiovascular Research Foundation, <sup>3</sup>Imperial College, <sup>4</sup>Cardiovascular Center Aalst, <sup>5</sup>Columbia University Medical Center/NewYork-Presbyterian Hospital) : Impact of the Extent of Circumferential Plaque on Nonculprit Lesion-Related Events. A PROSPECT Substudy. *JACC Cardiovascular Imaging* Volume 12, Issue 9, 2019.
  18. Terasaki F<sup>1</sup>, Azuma A<sup>2</sup>, Anzai T<sup>3</sup>, Ishizaka N<sup>1</sup>, Ishida Y<sup>4</sup> Isobe M<sup>5</sup>, Inomata T<sup>6</sup>, Ishibashi-Ueda H<sup>7</sup>,

- Eishi Y<sup>8</sup>, Kitakaze M<sup>9</sup>, Kusano K<sup>3</sup>, Sakata Y<sup>10</sup>, Shijubo N<sup>11</sup>, Tsuchida A<sup>12</sup>, Tsutsui H<sup>12</sup>, Nakajima T<sup>13</sup>, Nakatani S<sup>14</sup>, Horii T<sup>14</sup>, Yazaki Y<sup>16</sup>, Yamaguchi E<sup>17</sup>, Yamaguchi T<sup>18</sup>, Ide T<sup>19</sup>, Okamura H<sup>3</sup>, Kato Y<sup>20</sup>, Goya M<sup>21</sup>, Sakakibara M<sup>22</sup>, Soejima K, Nagai T<sup>3</sup>, Nakamura H<sup>23</sup>, Noda T<sup>3</sup>, Hasegawa T<sup>3</sup>, Morita H<sup>24</sup>, Ohe T<sup>25</sup>, Kihara Y<sup>1</sup>, Saito Y<sup>26</sup>, Sugiyama Y<sup>27</sup>, Morimoto S<sup>20</sup>, Yamashina A<sup>28</sup>  
 ( <sup>1</sup>Osaka Medical College, <sup>2</sup>Nippon Medical School, <sup>3</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>4</sup>Kaizuka City Hospital, <sup>5</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>6</sup>Kitasato University Kitasato Institute Hospital, <sup>7</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>8</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>9</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>10</sup>Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>11</sup>JR Sapporo Hospital, <sup>12</sup>Kyushu University Graduate School of Medical Sciences, <sup>13</sup>Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, <sup>14</sup>Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>15</sup>Kagawa University School of Medicine, <sup>16</sup>Saku Central Hospital, <sup>17</sup>Aichi Medical University School of Medicine, <sup>18</sup>Shinjuku Kaijou Building Clinic, <sup>19</sup>Kyushu University, <sup>20</sup>Fujita Health University, <sup>21</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>22</sup>Hokkaido University Graduate School of Medicine, <sup>23</sup>Hiroshima-Nishi Medical Center, <sup>24</sup>Sakakibara Heart Institute of Okayama, <sup>25</sup>Hiroshima University, <sup>26</sup>Nara Medical University, <sup>27</sup>Jichi Medical University, <sup>28</sup>Tokyo Medical University) : Japanese Circulation Society Joint Working Group. JCS 2016 Guideline on Diagnosis and Treatment of Cardiac Sarcoidosis-Digest Version. *Circ J* 83(11):2329-2388, 2019. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0508.
19. Matsushita K, Harada K<sup>1</sup>, Miyazaki T<sup>1</sup>, Miyamoto T<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Iida K<sup>1</sup>, Yamamoto Y<sup>1</sup>, Nagatomo Y<sup>1</sup>, Yoshino H, Yamamoto T<sup>1</sup>, Nagao K<sup>1</sup>, Takayama M<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Tokyo CCU Network Scientific Committee): Younger- vs Older-Old Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. *J Am Geriatr Soc.* 67(10): 2123-2128, 2019. DOI: 10.1111/jgs.160.
20. Okumura Y<sup>1</sup>, Nagashima K<sup>1</sup>, Arai M<sup>1</sup>, Watanabe R<sup>1</sup>, Yokoyama K<sup>2</sup>, Matsumoto N<sup>2</sup>, Otsuka T<sup>3</sup>, Suzuki S<sup>3</sup>, Hirata A<sup>4</sup>, Murakami M<sup>5</sup>, Takami M<sup>6</sup>, Kimura M<sup>7</sup>, Fukaya H<sup>8</sup>, Nakahara S<sup>9</sup>, Kato T<sup>10</sup>, Shimizu W<sup>11</sup>, Iwasaki YK<sup>11</sup>, Hayashi H<sup>11</sup>, Harada T<sup>12</sup>, Nakajima I<sup>12</sup>, Okumura K<sup>13</sup>, Koyama J<sup>13</sup>, Tokuda M<sup>14</sup>, Yamane T<sup>14</sup>, Momiyama Y<sup>15</sup>, Tanimoto K<sup>15</sup>, Soejima K, Nonoguchi N, Ejima K<sup>16</sup>, Hagiwara N<sup>16</sup>, Harada M<sup>17</sup>, Sonoda K<sup>18</sup>, Inoue M<sup>19</sup>, Kumagai K<sup>20</sup>, Hayashi H<sup>21</sup>, Satomi K<sup>22</sup>, Yazaki Y<sup>22</sup>, Watari Y<sup>23</sup>  
 ( <sup>1</sup>Nihon University Itabashi Hospital, <sup>2</sup>Nihon University Hospital, <sup>3</sup>The Cardiovascular Institute, <sup>4</sup>Osaka Police Hospital, <sup>5</sup>Shonan-Kamakura General Hospital, <sup>6</sup>Saiseikai Nakatsu Hospital, <sup>7</sup>Hirosaki University School of Medicine, <sup>8</sup>Kitasato University Hospital, <sup>9</sup>Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, <sup>10</sup>Kanazawa University Hospital, <sup>11</sup>Nippon Medical Hospital, <sup>12</sup>St. Marianna University School of Medicine Hospital, <sup>13</sup>Saiseikai Kumamoto Hospital, <sup>14</sup>Tokyo Jikei University School of Medicine Hospital, <sup>15</sup>National Hospital Organization Tokyo Medical Center, <sup>16</sup>Tokyo Women's Medical University Hospital, <sup>17</sup>Fujita University Health Hospital, <sup>18</sup>Tokyo Rinkai Hospital, <sup>19</sup>Ishikawa Prefectural Central, <sup>20</sup>Gunma Cardiovascular Center, <sup>21</sup>Jntendo University, <sup>22</sup>Tokyo Medical University Hospital, <sup>23</sup>Teikyo University) : Current Status and Clinical Outcomes of Oral Anticoagulant Discontinuation : AF Ablation Frontier Registry. Current Status and Clinical Outcomes of Oral Anticoagulant Discontinuation After Ablation for Atrial Fibrillation in Japan- Findings From the AF Frontier Ablation Registry. *Circ J* 83(12):2418-2427, 2019. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0602.
21. Piccini JP<sup>1</sup>, Stromberg K<sup>2</sup>, Jackson KP<sup>1</sup>, Kowal RC<sup>2</sup>, Duray GZ<sup>3</sup>, El-Chami MF<sup>4</sup>, Crossley GH<sup>5</sup>, Hummel JD<sup>6</sup>, Narasimhan C<sup>7</sup>, Omar R<sup>8</sup>, Ritter P<sup>9</sup>, Roberts PR<sup>10</sup>, Soejima K, Reynolds D<sup>11</sup>, Zhang S<sup>12</sup>, Steinwender C<sup>13, 14</sup>, Chinitz L<sup>15</sup> ( <sup>1</sup>Duke University Medical Center, <sup>2</sup>Medtronic plc, Mounds View, <sup>3</sup>Clinical Medical Centre, <sup>4</sup>Emory University Hospital, <sup>5</sup>Vanderbilt University Medical Center, <sup>6</sup>Ohio State University, <sup>7</sup>CARE Hospitals and CARE Foundation, <sup>8</sup>Electrophysiology and Pacing Unit, National Heart Institute, <sup>9</sup>Hôpital Cardiologique du Haut-Lévêque, Université Bordeaux, <sup>10</sup>University Hospital Southampton, <sup>11</sup>University of Oklahoma Health Sciences Center<sup>12</sup>Fuwai Hospita, <sup>13</sup>Kepler University Hospital, <sup>14</sup>Paracelsus Medical University, <sup>15</sup>New York University) : Micra Transcatheter Pacing Study Group. Patient selection, pacing indications, and subsequent outcomes with de novo leadless single-chamber VVI pacing . *Europace*, 21(11):1686-1693, 2019 . doi: 10.1093/europace/euz230.
22. Moriyama H<sup>1</sup>, Kohno T, Kohsaka S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>1</sup>, Fukuoka R<sup>1</sup>, Nagatomo Y<sup>2</sup>, Goda A, Mizuno A<sup>3</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Sakakibara Heart Institute, <sup>3</sup>St. Lukes International Hospital) ; West Tokyo Heart Failure Registry Investigators : Length of hospital stay and its impact on subsequent early readmission in patients with acute heart failure: a report from the WET-HF Registry. *Heart Vessels* 34(11):1777-1788, 2019. doi: 10.1007/s00380-019-01432-y.
23. Goda A, Takeuchi K, Kikuchi H, Finger M, Inami T, Sakata K, Soejima K, Satoh T : Etiology of Exercise-Induced Pulmonary Hypertension Can Be Differentiated by Echocardiography - Insight From Patients With Chronic Pulmonary Thromboembolism With Normal Resting Hemodynamics by Balloon Pulmonary Angioplasty. *Circ J* 83(12):2527-2536, 2019. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0489.
24. Miura Y, Higuchi S<sup>1</sup>, Matsushita K, Kariyasu T<sup>2</sup>, Machida H<sup>2</sup>, Yokoyama K<sup>2</sup>, Soejima K, Satoh T ( <sup>1</sup>Department of Emergency and General Medicine, <sup>2</sup>Department of Radiology) : Clinical impact of visceral-to-subcutaneous fat ratio in patients with acute aortic dissection. *PLoS One* 14(12), 2019. doi:10.1371/journal.pone.0226642.
25. Sujino Y<sup>1</sup>, Nakano S<sup>1</sup>, Tanno J<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>2</sup>, Goda A, Mizuno A<sup>3</sup> Nagatomo Y<sup>4</sup>, Kohno T, Muramatsu T<sup>1</sup>, Nishimura S<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>2</sup>, Yoshikawa T<sup>5</sup> ( <sup>1</sup>Saitama Medical University, <sup>2</sup>Keio University School of Medicine, <sup>3</sup>St. Luke's International Hospital, <sup>4</sup>National Defense Medical College, <sup>5</sup>Sakakibara Heart Institute) ; West Tokyo Heart

- Failure Registry Investigators: Clinical implications of the blood urea nitrogen/creatinine ratio in heart failure and their association with haemoconcentration. *ESC Heart Fail* (6):1274-1282, 2019.
26. Takeuchi S, Yamaguchi Y<sup>1</sup>, Yoshino H (1Department of Trauma and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine): Non-contrast Computed Tomography of Type A Acute Aortic Dissection in Patients with Out-of-Hospital Cardiopulmonary Arrest: A Case Series, *Eur Heart J Case Rep* 3(4): 1-5, 2019. DOI: 10.1093/ehjcr/ytz218.
27. Cronin EM<sup>1</sup>, Bogun FM<sup>2</sup>, Maury P<sup>3</sup>, Peichl P<sup>4</sup>, Chen M<sup>5</sup>, Namboodiri N<sup>6</sup>, Aguinaga L<sup>7</sup>, Leite LR<sup>8</sup>, Al-Khatib SM<sup>9</sup>, Anter E<sup>10</sup>, Berruezo A<sup>11</sup>, Callans DJ<sup>12</sup>, Chung MK<sup>13</sup>, Cuculich P<sup>14</sup>, d'Avila A<sup>15</sup>, Deal BJ<sup>16</sup>, Bella PD<sup>17</sup>, Deneke T<sup>18</sup>, Dickfeld TM<sup>19</sup>, Hadid C<sup>20</sup>, Haqqani HM<sup>21</sup>, Kay GN<sup>22</sup>, Latchamsetty R<sup>2</sup>, Marchlinski F<sup>12</sup>, Miller JM<sup>23</sup>, Nogami A<sup>24</sup>, Patel AR<sup>25</sup>, Pathak RK<sup>26</sup>, Saenz Morales LC<sup>27</sup>, Santangeli P<sup>12</sup>, Sapp JL Jr<sup>28</sup>, Sarkozy A<sup>29</sup>, Soejima K, Stevenson WG<sup>30</sup>, Tedrow UB<sup>31</sup>, Tzou WS<sup>32</sup>, Varma N<sup>13</sup>, Zeppenfeld K<sup>33</sup> (1Hartford Hospital, 2University of Michigan Ann Arbor, 3University Hospital, 4Institute for Clinical and Experimental Medicine, 5Jiangsu Province Hospital The First Affiliated Hospital of Nanjing Medical University, 6Sree Chitra Institute for Medical Sciences and Technology, 7Centro Privado de Cardiología, 8Instituto Brasília de Arritmia, 9Duke University Medical Center, 10Beth Israel Deaconess Medical Center, 11Heart Institute Teknon Medical Center, 12University of Pennsylvania, 13Cleveland Clinic, 14Washington University School of Medicine, 15Hospital Cardiologico SOS Cardio, 16Northwestern University Feinberg School of Medicine, 17Ospedale San Raffaele, 18Herz- und Gefäß-Klinik Bad Neustadt Germany, 19University of Maryland, 20Hospital General de Agudos Cosme Argerich, 21University of Queensland The Prince Charles Hospital, 22University of Alabama, 23Krannert Institute of Cardiology Indiana University School of Medicine, 24University of Tsukuba Ibaraki, 25University of California San Francisco Benioff Children's Hospital, 26Canberra Hospital Australian National University, 27Cardiac Institute CardioInfantil Foundation, 28Queen Elizabeth II Health Sciences Centre, 29University Hospital Antwerp University of Antwerp, 30Vanderbilt University Heart and Vascular Center, 31Brigham and Women's Hospital, 32University of Colorado, 33Leiden University Medical Center): 2019 HRS/EHRA/APHS/LAHS expert consensus statement on catheter ablation of ventricular arrhythmias. *J Interv Card Electrophysiol* 2020. doi: 10.1007/s10840-019-00664-2. *J Interv Card Electrophysiol* 2020. doi: 10.1007/s10840-019-00663-3. [Epub ahead of print] *Europace* 22(3):450-495, 2020. doi: 10.1093/europace/euz332. *J Arrhythm* 36(1):1-58, 2020. doi: 10.1002/joa3.2264. eCollection 2020.
28. Kinoshita T<sup>1</sup>, Hashimoto K<sup>2</sup>, Yoshioka K<sup>3</sup>, Miwa Y, Yodogawa K<sup>4</sup>, Watanabe E<sup>5</sup>, Nakamura K<sup>6</sup>, Nakagawa M<sup>7</sup>, Nakamura K<sup>8</sup>, Watanabe T<sup>9</sup>, Yusu S<sup>10</sup>, Tachibana M<sup>11</sup>, Nakahara S<sup>12</sup>, Mizumaki K<sup>13</sup>, Ikeda T<sup>1</sup> (1Toho University, 2National Defense Medical College, 3Tokai University, 4Nippon Medical School, 5Fujita Health University, 6Gunma Cardiovascular Center, 7Oita University, 8Shin-Yamanote Hospital, 9Yamagata University, 10Inagi Municipal Hospital, 11Okayama University, 12Dokkyo Medical University, 13University of Toyama): Risk stratification for cardiac mortality using electrocardiographic markers based on 24-hour Holter recordings: the JANIES-SHD study. *J Cardiol* 75(2):155-163, 2020. doi: 10.1016/j.jjcc.2019.07.012.
29. Chen M<sup>1</sup>, Wu S<sup>2</sup>, Yao Y<sup>3</sup>, Jiang J<sup>4</sup>, Jiang C<sup>5</sup>, Xue Y<sup>2</sup>, Zhan X<sup>2</sup>, Hu H<sup>4</sup>, Fu F<sup>5</sup>, Gu K<sup>1</sup>, Liu H<sup>1</sup>, Ding L<sup>3</sup>, Jiang R<sup>5</sup>, Chung F<sup>6</sup>, Lin YJ<sup>6</sup>, Hori Y<sup>7</sup>, Komatsu Y<sup>8</sup> Ueda A, Soejima K, Kim YH<sup>9</sup>, Nogami A<sup>8</sup>, Nakahara S<sup>7</sup>, Chen SA<sup>6</sup>, Tung R<sup>10</sup> (1Jiangsu Province Hospital, 2Guangdong General Hospital, 3Fuwai Cardiovascular Hospital, 4West China Hospital, 5Sir Run Run Shaw Hospital, 6Taipei Veterans General Hospital, 7Saitama Medical Center, 8University of Tsukuba, 9Korea University Anam Hospital, 10The University of Chicago Medicine): Pan-Asia United States PrEvention of Sudden Cardiac Death Catheter Ablation Trial (PAUSE-SCD): Rationale and study design. *J Interv Card Electrophysiol*. 57:271-278, 2020.
30. Matsushita K, Harada K<sup>1</sup>, Miyazaki T<sup>1</sup>, Miyamoto T<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Iida K<sup>1</sup>, Yamamoto Y<sup>1</sup>, Nagatomo Y<sup>1</sup>, Yoshino H, Yamamoto T<sup>1</sup>, Nagao K<sup>1</sup>, Takayama M<sup>1</sup> (1Tokyo CCU Network Scientific Committee): Reply to: Heart Failure With Preserved Ejection Fraction in Older Adults. *J Am Geriatr Soc*. 68(3):665-666, 2020. DOI: 10.1111/jgs.16301.
31. Mizuno A<sup>1</sup>, Miyashita M<sup>2</sup>, Kohno T, Tokuda Y<sup>3</sup>, Fujimoto S<sup>4</sup>, Nakamura M<sup>5</sup>, Takayama M<sup>6</sup>, Niwa K<sup>7</sup>, Fukuda T<sup>7</sup>, Ishimatsu S<sup>1</sup>, Kinoshita S<sup>1</sup>, Oishi S<sup>8</sup>, Mochizuki H<sup>7</sup>, Utsunomiya A<sup>8</sup>, Takada Y<sup>9</sup>, Ochiai R<sup>10</sup>, Mochizuki T<sup>11</sup>, Nagao K<sup>12</sup>, Yoshida S<sup>13</sup>, Hayashi A<sup>1</sup>, Sekine R<sup>14</sup>, Anzai T<sup>15</sup>: (1St. Luke's International Hospital, 2Juntendo University Graduate School of Medicine, 3Muribushi Project for Teaching Hospitals, 4Kyoto University, 5Toho University Ohashi Medical Center, 6Sakakibara Heart Institute, 7Kanagawa University of Human Service, 8Himeji Cardiovascular Center, 9National Cerebral and Cardiovascular Center, 10Yokohama City University, 11Cancer Institute, 12Nihon University Hospital, 13Graduate School of Education, Tohoku University, 14Kameda Medical Center, 15Hokkaido University Graduate School of Medicine): Quality indicators of palliative care for acute cardiovascular diseases. *J Cardiol*. 2020. [Epub ahead of print]
- (和文)
1. 佐藤徹: 【血栓塞栓症の防止対策・抗凝固療法の最近の動向】急性肺塞栓症の病態. *カレントセラピー* 37: 234-238, 2019.
2. 佐藤徹: 【肺高血圧症-診断・治療の最新動向-】肺高血圧症の治療 特発性肺動脈性肺高血圧症に対する combination therapy. *日本臨床* 77-7: 1122-1126, 2019.
3. 佐藤徹: 【肺高血圧症 ガイドラインとニース会議提言を紐解く】肺高血圧症の定義の変更, 病態, 診断を

紐解く 肺高血圧症の診断アルゴリズム. 呼吸器ジャーナル67-4, 579-583, 2019.

- 佐藤徹: 肺高血圧症の診断 第6回肺高血圧症ワールドシンポジウム - 併用療法以外の話題 -. State of the Art, Pulmonary Hypertension Update 11-5: 32-38, 2019.
- 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症 最新の話 今後の肺高血圧症診断・治療 右心カテ留置下運動負荷を使って. 循環制御40-3: 170-173, 2019.
- 坂田好美: 【心エコーの最近の話題】肺高血圧症診療における心エコーの有用性(解説/特集). 医学のあゆみ 269巻2号: 140-147, 2019.
- 坂田好美: 【心臓イメージング2019】新しい3次元スベックルトラッキング心エコー法を用いた心機能評価(解説/特集). 映像情報Medical 51巻3号: 25-30, 2019.
- 坂田好美: 【必須心エコー】-体表からせまる全身エコーのアプローチ法- 代表的な心疾患. 診断と治療 vol.108巻増刊号: 111-127, 2019.
- 坂田好美: 【別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ No.8循環器症候群(第3版) - その他の循環器疾患を含めて - 】肺動脈瘤. 日本臨床社: 208-214, 2019.
- 磯貝俊明<sup>1</sup>, 吉川勉, 木村晃久, 上田哲郎, 山口徹雄, 井守洋一, 前川裕一郎, 坂田好美, 村上力, 寺岡邦彦, 望月宏樹, 荒尾憲司郎, 長尾建, 山本剛, 高山守正 (1 東京都立多摩総合医療センター) 東京都CCUネットワーク学術委員会: 入院時の総コレステロール値はたこつば症候群患者の院内予後を予測する-東京都CCUネットワークレジストリ研究. ICUとCCU (0389-1194)43巻別冊: S102-S107, 2019.
- 飛田和基, 藤田博暁, 合田あゆみ, 佐藤徹, 岡島康友: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者における運動時低酸素血症を予測する指標の検討. 心臓リハビリテーション学会雑誌 25巻1号: p103-107, 2019.

## 著書

- 佐藤徹: 静脈圧, 循環血液量, 循環時間. 容積脈波, サーマグラフィ. 内科学書Vol.3 改訂第8版, 南学正臣, 福田恵一, 深川雅史編集, 東京, 中山書店, 2019. p70-71.
- 佐藤徹: 肺高血圧患者に対する運動療法の位置づけ. コラム7 QOL改善に向けて, 高血圧症診療ハンドブック. 波多野将編集. 東京, 中外医学社, 2020. p153-160.
- 服部修, 河野隆志 (分担執筆): 心内膜疾患 心内膜心筋線維症. 日本臨床 (0047-1852) 別冊 循環器症候群I. 東京, 日本臨床社, 2019. p496-500.
- 田山聡子, 河野隆志 (分担執筆): 緩和ケアのケーススタディ 代理意思決定者の妥当性に関するジレンマ. Modern Physician (0912-7963) 39巻11号. 猪又孝元編集. 東京, 新興医学出版社, 2019. p1052-1055.
- 新美望, 河野隆志 (分担執筆): シチュエーションにより緩和ケアに違いがありますか? 病棟における循環器緩和ケアの実際 まずは話し合うことから. Modern Physician (0912-7963) 39巻11号. 猪又孝元編集. 東京, 新興医学出版社, 2019. p1000-1002.
- 河野隆志 (分担執筆): 進展ステージ別に理解する心不全看護. 眞茅みゆき編集. 東京, 医学書院, 2020.
- 河野隆志 (分担執筆): 心不全療養指導士 認定試験ガイドブック. 4. 心臓の基礎疾患の特徴, 5. 心不全の身体所見. 日本循環器学会編集. 東京, 南江堂, 2020.

## その他

- 副島京子: 高齢者の「心房細動」, 北國新聞夕刊, 2019年4月11日.
- 金剛寺謙: 横浜ライブデモンストレーション研究会. コメンテーター, 2019年4月19日.
- 副島京子: 心室性不整脈へのカテーテルアブレーションの現状と展望. ドクターサロン vol.63, 2019年5月.
- 勝目有美, 上田明子, 副島京子: カテーテル治療における放射線被ばくについて. 循環器内科 vol.85/No.5, 2019年5月28日.
- 副島京子: 「治せない不整脈をなくしたい」心室頻拍のアブレーション治療で患者を救う. DOCTOR'S MAGAZINE, 2019年6月.
- 副島京子: 不整脈(心房細動). 名医のいる専門外来 2019-2020, 2019年6月10日.
- 副島京子: 動悸, 息切れ・・・心房細動の疑いがあるかも?. NHKテキスト きょうの健康, 2019年6月.
- 副島京子: リードレスペースメーカの将来. 不整脈の考えかた, 治しかた. 清水昭彦編集, 中外医学社発行, 2019年8月1日.
- 副島京子: リードレスペースメーカの展望. 循環器疾患の最新医療. (株) 寺田国際事務所/先端医療技術研究所, 2019年9月28日.
- 副島京子: いざという時に頼りになる脳・心臓・がんの名医329人. 最新治療データで探す名医のいる病院 2020. 医療新聞社, 2019年10月10日.
- 金剛寺謙: TOKYO LIVE 2019/第55回日本心血管インターベンション治療学会. 関東甲信越地方会 コメンテーター, 2019年10月11日.
- 金剛寺謙: 鎌倉ライブ2019. コメンテーター, 2019年12月14日.

## 不整脈先進治療学研究講座

### 講演

- 富樫郁子: S-ICDで悩んだ症例. The Real World ~ ICD・CRT-Dの現状~, 東京, 2019年4月5日.
- Sato T, Soejima K, Kase Maeda A, Mohri T, Nagaoka M, Momose Y, Nonoguchi N, Hoshida K, Miwa Y, Ueda A, Togashi I: Electrophysiological Properties Of His-bundle Pacing From The Right Ventricular Side Of The Atrioventricular Septum. Heart Rhythm Society Scientific Conference, USA, May 8th-11th, 2019.
- 富樫郁子: 不整脈~デバイス治療を中心に. バイエル薬品勉強会, 東京, 2019年6月12日.
- Sato T: Experience Sharing. Symposium in HK, China, July 6th, 2019.
- Sato T: Long Term Efficacy and Safety in His-bundle Pacing: Characteristics of His-bundle electrogram at implant related to pacing threshold after implant. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019年7月26-28日.
- Ueda A, Soejima K, Nakahara S, Fukuda R, Fukamizu S, Kawamura I, Miwa Y, Mohri T, Katsume Y, Momose Y, Tashiro M, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I, Sato T, Maeda A, Hagiwara Y: Conduction Slowing during Stable Rhythm Identifies the Unidirectional Block Area of Reentrant Ventricular Tachycardia. 第66回日本不整脈心電学会学術集会, 横浜, 2019年7月24-27日.

7. 上田明子: 心房細動アブレーション周術期抗凝固療法. 関西Meet the expert, 大阪, 2019年8月17日.
8. Ueda A, Soejima K, Nakahara S, Fukuda R, Fukamizu S, Kawamura I, Miwa Y, Mohri T, Katsume Y, Momose Y, Tashiro M, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I, Sato T, Maeda A, Hagiwara Y: Location of the Multiple exit sites in the Substrate: Critical Portion of the Reentrant Circuit of Ventricular Tachycardia. 第66回日本不整脈心電学会学術集会, 横浜, 2019年7月24-27日.
9. 佐藤俊明: 新たな恒久ペーシング法: リードレスペーシングとヒス束ペーシング, 生理的ペーシング (physiological pacing): 歴史・適応・展望. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13-15日.
10. 佐藤俊明: リードレスペースメーカーの功罪. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13-15日.
11. Sato T: The His-Purkinje Conduction System Pacing(2): Does Deep Negative Deflection of His-bundle Electrogram Suggest the Lower Capture Threshold Postimplant in all Conduction System Diseases. 30th Great Wall International Congress of Cardiology (GW-ICC), China, October 10th-13th, 2019.
12. Ueda A: Approach to Polymorphic VT in Structurally Normal Heart. APHRS annual meeting, Thailand, October 24th-27th, 2019.
13. 富樫郁子: : Micraの現状~合併症を中心に. リードレスペースメーカー, 東京, 2019年12月4日.
14. 上田明子: 心室頻拍基質マッピングにおける最近の話題. Expertから学びAblationを考える会, 東京, 2019年12月5日.
15. 上田明子: Case presentation; VT associated with structural heart disease. FUJI symposium, 東京, 2019年12月8日.
16. 上田明子: 心房細動治療の最近の知見 アブレーションと抗凝固療法. 循環器Webセミナー, 三鷹, 2019年12月12日.

## 論文

1. Sato T, Soejima K, Maeda A, Mohri T, Tashiro M, Momose Y, Komeda M, Nonoguchi N, Hoshida K, Miwa Y, Ueda A, Togashi I: Deep Negative Deflection in Unipolar His-Bundle Electrogram as a Predictor of Excellent His-Bundle Pacing Threshold Postimplant. *Circ Arrhythm Electrophysiol.* 12(6): e007415, 2019.
2. Chen M<sup>1</sup>, Wu S<sup>2</sup>, Yao Y<sup>3</sup>, Jiang J<sup>4</sup>, Jiang C<sup>5</sup>, Xue Y<sup>2</sup>, Zhan X<sup>2</sup>, Hu H<sup>4</sup>, Fu F<sup>5</sup>, Gu K<sup>1</sup>, Liu H<sup>1</sup>, Ding L<sup>3</sup>, Jiang R<sup>5</sup>, Chung F<sup>6</sup>, Lin YJ<sup>6</sup>, Hori Y<sup>7</sup>, Komatsu Y<sup>8</sup>, Ueda A, Soejima K, Kim YH<sup>9</sup>, Nogami A<sup>8</sup>, Nakahara S<sup>7</sup>, Chen SA<sup>6</sup>, Tung R<sup>10</sup> (<sup>1</sup>Jiangsu Province Hospital, <sup>2</sup>Guangdong General Hospital, <sup>3</sup>Fuwai Cardiovascular Hospital, <sup>4</sup>West China Hospital, <sup>5</sup>Sir Run Run Shaw Hospital, <sup>6</sup>Taipei Veterans General Hospital, <sup>7</sup>Saitama Medical Center, <sup>8</sup>University of Tsukuba, <sup>9</sup>Korea University Anam Hospital, <sup>10</sup>The University of Chicago Medicine) : Pan-Asia United States PrEvention of Sudden Cardiac Death Catheter Ablation Trial (PAUSE-SCD): Rationale and study design. *J Interv Card Electrophysiol.* 57:271-278, 2020.
3. Ueda A, Soejima K<sup>1</sup>, Nakahara S<sup>2</sup>, Fukuda R<sup>2</sup>, Fukamizu S<sup>3</sup>, Kawamura I<sup>3</sup>, Miwa Y<sup>1</sup>, Mohri T<sup>2</sup>,

Katsume Y<sup>2</sup>, Momose Y<sup>2</sup>, Tashiro M<sup>2</sup>, Nonoguchi N<sup>2</sup>, Hoshida K<sup>2</sup>, Togashi I<sup>1</sup>, Sato T, Maeda A<sup>1</sup>, Hagiwara Y<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Department of Cardiovascular Medicine, <sup>2</sup>Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, <sup>3</sup>Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital, <sup>4</sup>Division of Engineering): Conduction Slowing Area during Sinus Rhythm Harbors Ventricular Tachycardia Isthmus. *J Cardiovasc Electrophysiol.* 31:440-449, 2020. doi: 10.1111/jce.14339.

## その他

1. 佐藤俊明: 2019年度杏林大学医学部研究奨励賞受賞, 「徐脈性不整脈に対するヒス束ペーシングの電気的指標に関する検討」.

## 血液内科学教室

### 講演

1. 高山信之: 骨髄異形成症候群の診断と治療. *Hematologic Forum in TAMA*, 立川, 2019年5月29日.
2. 高山信之: 慢性骨髄性白血病の診断と治療. 検査技師の為のCML Web講座, 三鷹, 2019年7月19日.
3. 吉森恵未, 小林誠, 佐藤範英, 桑原彩子, 関雅史, 百瀬恵美, 高山信之: マントル細胞リンパ腫の中樞神経再発に対しイブルチニブが著効した1例. 第11回日本血液学会関東甲信越地方会, 日光, 2019年7月27日.
4. 高山信之: 再生不良性貧血の診断と治療. 第33回多摩血液疾患連絡会, 府中, 2019年9月19日.
5. Seki M, Satoh N, Kuwabara A, Kobayashi M, Yoshimori E, Ohmori Y, Kamma H, Takayama N: EBV-positive DLBCL developed in a patient with AITL 10 years after initial presentation. 第81回日本血液学会学術集会, 東京, 2019年10月11日.
6. Takayama N, Kobayashi M, Kuwabara A, Seki M, Yoshimori E, Momose E, Satoh N: Engraftment after cord blood transplantation in our institute: Toward overcoming graft failure. 第81回日本血液学会学術集会, 東京, 2019年10月13日.
7. Kobayashi M, Yoshimori E, Satoh N, Seki M, Kuwabara A, Ohmori Y, Chiba T, Shibahara J, Takayama N: Post-transplant lymphoproliferative disorders developed as multiple intestinal perforations. 第81回日本血液学会学術集会, 東京, 2019年10月13日.
8. 関雅史, 高山信之: 臍帯血移植後に肺真菌症を発症した1例. *Hematology and Infectious Disease Seminar*, 国分寺, 2019年11月15日.
9. 高山信之, 小林誠, 吉森恵未, 桑原彩子, 関雅史, 百瀬恵美, 佐藤範英: 前処置Flu/Bu/Melおよびタクロリムス単独のGVHD予防による臍帯血移植の成績. 第42回日本造血細胞移植学会総会, 東京, 2020年3月6日.

## 消化器内科学教室

### 講演

#### 国際学会・シンポジウム発表

1. Sujino T, Kiyohara H, Teratani T, Miyamoto K, Arai M, Nomura E, Harada Y, Aoki R, Koda Y, Mikami Y, Mizuno S, Naganuma M, Hisamatsu T, Kanai T: TLR7 agonist induced dermatitis exacerbated colitis via altering host immune cells and gut microbiota. *Digestive Disease Week 2019, USA*, May 19-21, 2019.

2. Morikubo H, Ozaki R, Okabayashi S, Kiyohara H, Matsubayashi M, Sagami S, Nakano M, Ikezaki O, Hisamatsu T, Hibi T, Kobayashi T: Does switching between 5-aminosalicylates affect thiopurine metabolism and clinical outcomes in patient with ulcerative colitis?. Digestive Disease Week 2019, USA, May 19-21, 2019.
3. Van Assche GA, Targan SR, Baker T, O'Brien CD, Zhang H, Johanns J, Szapary P, Marano CW, Leong RW, Rowbotham D, Hisamatsu T, Danes S, Sands BE, Peyrin-Biroulet L: Sustained remission in patients with moderate to severe ulcerative colitis: results from the phase 3 UNIFI maintenance study. Digestive Disease Week 2019, USA, May 19-21, 2019.
4. Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata M, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group: Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2). Digestive Disease Week 2019, USA, May 19-21, 2019.
5. Adedokun OJ, Xu Z, Marano CW, O'Brien CD, Szapary P, Zhang H, Johanns J, Leong RW, Hisamatsu T, Van Assche GA, Danes S, Abreu MT, Sands BE, Sandborn WJ: Pharmacokinetics and exposure-response relationship of intravenously administered ustekinumab during induction treatment with ulcerative colitis: Results from the UNIFI induction study. Digestive Disease Week 2019, USA, May 19-21, 2019.
6. Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien CD, Zhang H, Johanns J, Peyrin-Biroulet L, Van Assche GA, Danes S, Targan SR, Abreu MT, Hisamatsu T, Szapary P, Marano CW: Efficacy and safety of ustekinumab as maintenance therapy in ulcerative colitis: Week 44 results from UNIFI. Digestive Disease Week 2019, USA, May 19-21, 2019.
7. Matsuura M, Yamamoto S, Honzawa Y, Yamada S, Okabe M, Kitamoto H, Seno H: Long-term efficacy of combined therapies with corticosteroids and thiopurines (accelerated step-care) for induction and remission in biologic-naïve Crohn's disease patients. The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Taiwan, June 15-16, 2019.
8. Sakuraba A, Hisamatsu T, Nemoto N, Ozaki R, Sato T, Okunaga S, Kikuchi O, Minowa S, Ikezaki O, Miura M, Saito D, Hayashida H, Mori H, Yoneyama M, Ohnishi H: The ability to differentiate mucosal healing using fecal biomarkers is affected by the extension of inflammation in ulcerative colitis. The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Taiwan, Jun 15-16, 2019.
9. Hisamatsu T: What Clinician Should Know about the Animal Model Results?. The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Taiwan, Jun 15-16, 2019.
10. Hisamatsu T: From Asia to Worldwide - Education for IBD. The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Taiwan, Jun 15-16, 2019.
11. Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata M, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group: Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2). Falk Symposium 215, Russia, Jul 5-6, 2019.
12. Miyoshi J: Minimizing generational drift and cage effects in murine microbiome studies. Midwest Digestive Disease Research Core Center Alliance Conference 2019, USA, Sep 26-27, 2019.
13. Watanabe S, Toki M, Kambayashi K, Kitada S, Nosaka T, Goto T, Yoshida T, Ota H, Ochiai K, Gondo K, Kurata I, Hasue T, Nakamura K, Yamaguchi Y, Mori H, Hisamatsu T: Usefulness of histological diagnosis by ProCore 20G needle for pancreatic solid tumor. 27th United European Gastroenterology Week, Spain, Oct 19-23, 2019.
14. Adedokun OJ, Xu Z, Marano C, O'Brien C, Szapary P, Zhang H, Johanns J, Leong R, Hisamatsu T, van Assche G, Danese S, Abreu MT, Sands BE, Sandborn WJ: Pharmacokinetics and exposure-response relationships of ustekinumab in patients with ulcerative colitis: results from the UNIFI induction and maintenance studies. UEGW 2019, Spain, Oct 19-23, 2019.
15. Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien CD, Hongyan Zhang H, Johanns J, Zhou Y, Tikhonov I, Peyrin-Biroulet L, van Assche G, Danese S, Targan S, Abreu MT, Hisamatsu T, Scherl E, Leong RW, Rowbotham DS, Arasaradnam RP, Marano C: Efficacy and safety of ustekinumab for ulcerative colitis through 2 years: UNIFI long-term extension. UEGW 2019, Spain, Oct 19-23, 2019.
16. Adedokun OJ, Xu Z, Marano C, O'Brien C, Szapary P, Zhang H, Johanns J, Leong R, Hisamatsu T, van Assche G, Danese S, Abreu MT, Sands BE, Sandborn WJ: Pharmacokinetics and exposure-response relationships of ustekinumab in patients with ulcerative colitis: results from the UNIFI induction and maintenance Studies. ACG 2019, USA, Oct 25-30, 2019.
17. Hawkins M, Miyoshi S, Fei N, Miyoshi J, Chang EB, Charlton MR, Leone V: Diet-induced gut microbiota are a prerequisite for nonalcoholic fatty liver disease (NAFLD) in a murine model. AASLD The Liver Meeting® 2019, U S A, Nov 8-12, 2019.
18. Kobayashi T, Motoya S, Nakamura S, Yamamoto T, Nagahori M, Tanaka S, Hisamatsu T, Hirai F, Nakase H, Watanabe K, Matsumoto T, Tanaka M, Abe T, Suzuki Y, Watanabe M, and Hibi T, on behalf of HAYABUSA Study Group: The first prospective, multicentre, randomised controlled trial on discontinuation of infliximab in ulcerative colitis: endoscopic normalisation does not guarantee successful discontinuation. 15th Congress of ECCO, Austria, Feb 13-15, 2020.
19. Miyoshi J, Saito D, Nakamura M, Miura M, Mitsui

- T, Kudo T, Murakami S, Matsuura M, Hisamatsu T: The impact of elemental diet on the human gut microbial structure and intestinal metabolites. 15th Congress of ECCO, Austria, Feb 13-15, 2020.
20. Umeno J, Fuyuno Y, Torisu T, Hirano A, Esaki M, Yanai S, Ohmiya N, Hisamatsu T, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hirai F, Hisabe T, Matsui T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T; CEAS study group: A nationwide survey of chronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene in Japan. 15th Congress of ECCO, Austria, Feb 13-15, 2020.
21. Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien CD, Zhang H, Johanns J, Zhou Y, Peyrin-Biroulet L, Scherl E, Leong RW, Rowbotham DS, Arasaradnam RP, Hisamatsu T, Abreu MT, Danese S, Marano C: Efficacy of Ustekinumab for Ulcerative Colitis in Biologic Naïve, Biologic Non-failure, and Biologic Failure Populations Through 2 Years: UNIFI Long-term Extension. 15th Congress of ECCO, Austria, Feb 13-15, 2020.
22. Sands BE, Abreu MT, Leong RW, Marano C, O'Brien CD, Zhang H, Zhou Y, Johanns J, Rowbotham D, Hisamatsu T, Arasaradnam RP, Ellen Scherl E, Danese D, Peyrin-Biroulet L: Efficacy and safety of long-term treatment with ustekinumab in moderate-severe ulcerative colitis patients with delayed response to ustekinumab induction: Results from the UNIFI 2-year long-term extension. 15th Congress of ECCO, Austria, Feb 13-15, 2020.
- 国内学会発表, 厚生労働省班会議等発表**
1. 川本翔, 太田博崇, 北田修一, 渡邊俊介, 土岐真朗, 下山田博明, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 久松理一: 巨大な臍貯留嚢胞を形成した肺扁平上皮癌臍転移の1例. 第116回日本内科学会総会, 名古屋, 2019年4月26-28日.
2. 森秀明: 超音波検査士におけるQuality Assurance. 超音波検査士に望むー超音波検査の今後の展望ー. 第44回日本超音波検査学会学術集会, 横浜, 2019年4月27-29日.
3. 久松理一: IBDにおける便バイオマーカーの展望と課題. 第105回日本消化器病学会総会, 金沢, 2019年5月9-11日.
4. 久松理一, 鈴木康夫, 栗本沙理奈, 日比紀文: クローン病を対象としたアダリムマブ長期使用での安全性と有効性の検討: 特定使用成績調査 (DEEP survey). 第105回日本消化器病学会総会, 金沢, 2019年5月9-11日.
5. 根本展希, 櫻庭彰人, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 久松理一: 病変範囲を考慮した潰瘍性大腸炎における便中バイオマーカーの特性についての検討. 第105回日本消化器病学会総会, 金沢, 2019年5月9-11日.
6. Hisamatsu T, Sands BE, Marano C: Efficacy and Safety of Ustekinumab as Maintenance Therapy in Ulcerative Colitis: Week 44 Results from UNIFI. 第105回日本消化器病学会総会, 金沢, 2019年5月9-11日.
7. 森秀明: 超音波医学に対する取り組みー日本超音波医学会における委員会活動と執筆活動. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24-26日.
8. 森秀明: 臍疾患に対する造影超音波検査の有用性と今後の展開ー総括発言. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24-26日.
9. 森秀明: 超音波検査士に望むー超音波検査士の今後の展望. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24-26日.
10. 森秀明: 超音波指導検査士試験の変革と超音波指導検査士に望むこと. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24-26日.
11. 森秀明: 消化器疾患におけるドプラ検査の有用性ー総論. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24-26日.
12. 森秀明: 認定超音波検査士取得のための報告書等作成時のポイントと注意点ー総括発言. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24-26日.
13. 川村直弘, 石本麻衣, 關里和, 小樽二世, 松本茂藤子, 佐藤悦久, 西川かおり, 岸野智則, 久松理一, 森秀明: Shear Wave ElastographyとFibroscan®による肝線維化ならびに脂肪化の評価. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24-26日.
14. 楠原光謹, 大野亜希子, 加藤敦士, 宮本尚彦, 八谷隆仁, 新井健介, 神保陽子, 森秀明, 久松理一: 集学的方法でも予防困難で拡張時にバルーン破裂を来した広範囲なESD後狭窄. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年5月31日-6月2日.
15. 権藤興一, 土岐真朗, 神林孔明, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 落合一成, 太田博崇, 渡邊俊介, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: 悪性遠位胆道狭窄に対するcoveredおよびuncovered self-expandable metallic stentによる治療成績. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年5月31日-6月2日.
16. 大野亜希子, 徳永健吾, 久松理一: 胃炎の京都分類における胃癌リスクスコアの有用性ー除菌後胃においても有用かー. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年5月31日-6月2日.
17. 土岐真朗: ERCPにおけるSYNAPSE VINCENTを用いた胆道3Dナビゲーションの有用性. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年5月31日-6月2日.
18. 阿部展次, 橋本佳一, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 森俊幸, 大野亜希子, 大園研: 十二指腸SM癌に対する新たなオプション? 十二指腸上皮性腫瘍(腺腫、M癌、SM癌)に対する治療の現状と問題点ーCold polypectomy、EMR、ESD、外科手術当の適応、治療成績、問題点などー先行内視鏡的切除と臍頭十二指腸温存腹腔鏡下リンパ節郭清術の併用. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年5月31日-6月2日.
19. 渡邊俊介, 土岐真朗, 落合一成, 権藤興一, 久松理一: 胆管inside stent抜去困難3症例の経験を踏まえた抜去方法の検討. 第108回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2019年6月8-9日.
20. 渡邊俊介, 土岐真朗, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 長濱清隆, 山口康晴, 高橋信一, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 臍腫瘍性病変に対するProCore20G針による組織診断能の検討. 第50回日本臍臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
21. 小暮正晴, 鈴木裕, 松本亮太, 倉井大輔, 廣川達也, 大窪泰弘, 柴原純二, 落合一成, 渡邊俊介, 土岐真朗, 阪本良弘: 臍体部Solid pseudopapillary neoplasmとの鑑別を要した結核性リンパ節炎の一例. 第50回日本臍臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
22. 土岐真朗, 仲田大輔, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 岡野尚弘, 松本亮太, 小暮正晴, 立石秀勝,



- 鈴木裕, 柴原純二, 阪本良弘, 古瀬純司, 久松理一: 膵癌早期診断における糖鎖修飾リボヌクレアーゼ1(RNase1)とCA19-9の有用性の検討. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
23. 森秀明: 膵疾患に対する造影超音波検査の有用性と今後の展開-総括発言. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
  24. 鍛冶諒介, 尾崎良, 齋藤大祐, 和田晴香, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: プロトンポンプ阻害剤投与中止と抗菌薬投与により改善が得られた蛋白漏出性胃腸症を来した小腸炎の1例. 第355回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年7月13日.
  25. 船越早織, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 服部健人, 新井孝明, 紅谷鮎美, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 鶴見賢直, 森俊幸, 正木忠彦, 阪本良弘, 阿部展次, 柴原純二, 久松理一, 須並英二: 肛門外脱出をきたした大腸脂肪腫による腸重積を待機的に治療しえた一例. 第355回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年7月13日.
  26. 久松理一, 三浦みき, 清水泰岳, 新井勝大, 清水俊明, 岩間 達, 仲瀬裕志: 本邦の炎症性腸疾患患者におけるEBウイルス感染状況に関する多施設共同研究. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  27. 冬野雄太, 平野敦士, 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 角田洋一, 仲瀬裕志, 久松理一, 櫻庭裕丈, 国崎玲子, 平井郁仁, 松本主之: 腸管パーチェット病および単純性潰瘍におけるGenome Wide Association Study (GWAS). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  28. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとこ, 福島若葉, 梁井俊一, 林田真理, 稲場勇平, 藤谷幹治, 櫻庭裕丈, 角田洋一, 勝野達郎, 大森鉄平, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 深田憲将, 岡崎和一, 細見周平, 湯川知洋, 鎌田紀子, 山上博一, 宮崎孝子, 樋田信幸, 中村志郎, 松浦稔, 平田敬, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信治, 渡辺知佳子, 穂刈量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 辻川知之, 山下真幸, 長沼誠, 櫻井俊之, 猿田雅之, 田中浩紀, 本谷聡, 邊見慎一郎, 宮川一平, 田中良哉, 日暮琢磨, 中島淳, 桐野洋平, 水木信久, 鈴木康夫, 上野文昭, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験Castle Study: 国内多施設共同試験. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  29. 細江直樹, 緒方晴彦, 長沼誠, 金井隆典, 久松理一, 大宮直木, 安川重義, 平井郁仁, 田邊寛, 岩下明德, 平野敦士, 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 松本主之: Chronic enteropathy associated with SLC2A1 gene (CEAS)の胃粘膜病変の内視鏡像と病理学的な特徴の解明. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  30. 久松理一, 井上詠, 渡辺憲治, 谷田諭史, 国崎玲子, 小林清典, 長堀正和, 新井勝大, 内野基, 小金井一隆, 小林拓, 岳野光洋, 上野文昭, 松本主之, 鈴木康夫: 腸管型パーチェット診療ガイドライン作成プロジェクト (鈴木班・水木班合同プロジェクト). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  31. 仲瀬裕志, 飯田智也, 平山大輔, 風間文恵, 横山佳浩, 櫻井晃弘, 久松理一, 松本主之, 江崎幹宏, 国崎玲子, 本澤有介, 大宮美香, 荒木寛司, 渡辺憲治, 田中浩紀, 小林拓, 日比紀文, 上野進展, 大井秀久, 細見周平, 新井勝大, 安藤朗, 石川大, 白木学, 松田耕一郎, 横山純二, 後藤田卓志, 武田輝, 大宮直木, 穂刈量太, 荒木俊光, 鈴木康夫: 家族性地中海熱遺伝子関連腸炎の診断法確立・機序解明. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  32. 畑啓介, 石原聡一郎, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: クロウン病再手術率の時代的変遷. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  33. 小林拓, 久松理一, 松本主之, 本谷聡, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 平井郁仁, 田中正則, 渡辺守, 日比紀文: インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究 (HAYABUSA) ~ 結果報告 ~. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  34. 畑啓介, 石原聡一郎, 味岡洋一, 安藤朗, 池内浩基, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 杉田昭, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 福島浩平, 二見喜太郎, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 鎌田紀子, 光山慶一, 花井洋行, 国崎玲子, 山本修司, 坂田資尚, 樋田信幸, 渡辺憲治, 田中信治, 竹内義明, 小形典之, 盛一健太郎, 石黒陽, 村上和成, 小林清典, 石橋英樹, 山川良一, 小山文一, 本谷 聡, 岩男泰, 上野文昭, 吉田篤史, 原田直彦, 小野川靖二, 平井郁仁, 佐々木優, 横山正, 松田圭二, 相場恒男, 村村一仁, 篠崎大, 日比紀文, 渡辺守, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立-Target vs Random 生検のランダム化比較試験のフォローアップスタディ. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  35. 久松理一, 平井郁仁, 小金井一隆, 新井勝大, 長沼誠, 松浦稔, 虻川大樹, 松岡克善, 猿田雅之, 畑啓介, 加藤真吾, 加藤順, 仲瀬裕志, 中村志郎, 鈴木康夫: 治療の標準化を目指した潰瘍性大腸炎治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  36. 久松理一, 猿田雅之, 長堀正和, 池内浩基, 鈴木康夫: IBDの病診連携を構築するプロジェクト. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
  37. 小金井一隆, 内野基, 杉田昭, 二見喜太郎, 根津理一郎, 藤井久男, 舟山裕士, 池内浩基, 福島浩平, 木村英明, 畑啓介, 篠崎大, 荒木俊光, 水島恒和, 小山文

- 一, 板橋道朗, 亀山仁史, 久松理一: 本邦における腸管ペーチェット病(含む, 単純性潰瘍)に対する外科治療の現況調査. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
38. 岡崎和一, 福井寿朗, 深田憲将, 大宮美香, 濱田円, 吉岡和彦, 仲瀬裕志, 妹尾浩, 松浦稔, 中村志郎, 渡辺憲治, 池内浩基, 金井隆典, 緒方晴彦, 久松理一, 平井郁仁, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎(UC), クロウン病(CD), 分類不能のIBD( IBD unclassified, IBDU), Indeterminate colitis(IC)における診断変遷症例の検討. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
39. 梅野淳嗣, 冬野雄太, 鳥巢剛弘, 江崎幹宏, 梁井俊一, 大宮直木, 久松理一, 渡辺憲治, 細江直樹, 緒方晴彦, 平井郁仁, 久部高司, 松井敏幸, 八尾恒良, 松本主之, CEAS study group: 非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候について. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
40. 江崎幹宏, 松本主之, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 平野敦士, 冬野雄太, 平井郁仁, 二見喜太郎, 中村志郎, 池内浩基, 渡辺憲治, 大宮直木, 中村正直, 内藤裕二, 仲瀬裕志, 松浦稔, 藤谷幹浩, 角田洋一, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 金城徹, 金城福則, 芦塚伸也, 山本章二郎, 竹島史直, 光山慶一, 猿田雅之, 石川大, 澁谷智義, 桜庭裕丈, 小山文一, 久松理一, 細江直樹, 緒方晴彦, 長沼誠, 金井隆典, 小林拓, 日比紀文, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 松岡克善, 鈴木康夫: クロウン病術後再発に関するカプセル内視鏡評価の意義—前向きコホート研究—. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
41. 猿田雅之, 櫻井俊之, 安藤朗, 飯島英樹, 上野伸展, 江崎幹宏, 遠藤克哉, 大宮直木, 大森鉄平, 岡志郎, 緒方晴彦, 細江直樹, 柿本一城, 樋口和秀, 金井隆典, 加藤真吾, 北村和哉, 小林拓, 杉本健, 櫻庭裕丈, 志賀永嗣, 竹島史直, 竹田津英稔, 田中信治, 田中浩紀, 本谷聡, 鳥巢剛弘, 内藤裕二, 中川倫夫, 中島淳, 仲瀬裕志, 長堀正和, 中村志郎, 渡辺憲治, 中村正直, 花井洋行, 久松理一, 平井郁仁, 平岡佐規子, 福田勝之, 藤井久男, 藤谷幹浩, 古田隆久, 前本憲男, 松井敏幸, 山本修司, 松岡克善, 松本主之, 三井啓吾, 山下真幸, 山本博徳, 横山薫, 吉田篤史: クロウン病におけるカプセル内視鏡検査の有用性・安全性に関する多施設共同前向き研究 SPREAD-J study. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
42. 畑啓介, 石原聡一郎, 味岡洋一, 安藤朗, 池内浩基, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 杉田昭, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 福島浩平, 二見喜太郎, 穂川量太, 松岡克善, 松本主之, 日比紀文, 渡辺守, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立—Target vs Random生検のランダム化比較試験のフォローアップスタディー—. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成31年度第1回総会, 東京, 2019年7月25-26日.
43. 久松理一: 潰瘍性大腸炎のモニタリングとバイオマーカー. 第56回日本消化器免疫学会総会, 京都, 2019年8月1-2日.
44. 齋藤大祐, 日比則孝, 尾崎良, 菊地翁輝, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 仲瀬裕志, 久松理一: コルヒチンが有効なMEFV遺伝子関連腸炎がIBDUに紛れている. 第56回日本消化器免疫学会総会, 京都, 2019年8月1-2日.
45. 日比則孝, 小林拓, 森久保拓, 清原裕貴, 松林真央, 佐上晋太郎, 中野雅, 久松理一, 日比紀文: Drug-tolerant assayによる抗インフリキシマブ抗体測定の有効性. 第56回日本消化器免疫学会総会, 京都, 2019年8月1-2日.
46. 三好潤, Leone V, 三好佐和子, Lee S, Murat EA, 久松理一, Chang E: 周産期母体への抗生剤曝露により子に生じる腸管dysbiosis, 免疫発達異常, 炎症性腸疾患リスクの上昇. 第56回日本消化器免疫学会総会, 京都, 2019年8月1-2日.
47. 山田聡, 山本修司, 本澤有介, 北本博規, 岡部誠, 松浦稔, 妹尾浩: MEFV遺伝子のSNPがクローン病臨床経過に及ぼす影響についての検討. 第56回日本消化器免疫学会総会, 京都, 2019年8月1-2日.
48. 我妻康平, 飯田智哉, 南尚希, 松浦稔, 平山大輔, 川上賢太郎, 野島正寛, 池内浩基, 廣田誠一, 白川龍太郎, 堀内久徳, 仲瀬裕志: 低分子量GTPタンパク質Ralとインフラマソームとの関連から見た炎症性大腸癌発癌機序の解明. 第56回日本消化器免疫学会総会, 京都, 2019年8月1-2日.
49. 徳永創太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 尾崎良, 菊地翁輝, 箕輪慎太郎, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: 高齢発症潰瘍性大腸炎患者の転帰に関する予後予測因子の解析. 第22回日本高齢消化器病学会総会, 神戸, 2019年8月2-3日.
50. 川本翔, 野坂岳志, 神林孔明, 北田修一, 八谷隆仁, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 権藤興一, 落合一成, 渡邊俊介, 土岐真朗, 立石秀勝, 森秀明, 久松理一: 胆嚢動脈瘤の胆嚢内穿破に対し緊急動脈塞栓術(TAE)で止血し救命し得た1例. 第356回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年9月21日.
51. 大森春佑, 川口翔平, 鈴木裕, 深沢知将, 磯部聡史, 中村康弘, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 須並英二, 森俊幸, 阿部展次, 磯谷一暢, 柴原純二, 後藤知之, 渡邊俊介, 土岐真朗, 久松理一, 阪本良弘: 長期観察の先天性胆道拡張症に発生した胆管狭窄に前癌病変が確認された1切除例. 第356回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年9月21日.
52. 権藤興一, 渡邊俊介, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 落合一成, 太田博崇, 土岐真朗, 森秀明, 久松理一: PTGBD Rendezvous法で内視鏡的経乳頭の胆嚢ステントインゲ(EGBS)を施行し外瘻チューブを抜きし得た胆石性胆嚢炎の3例. 第55回日本胆道学会総会, 名古屋, 2019年10月3-4日.
53. 久松理一: 炎症性腸疾患に対する分子標的治療の進歩. 第37回日本ヒト細胞学会学術集会, 三鷹, 2019年10月19日.
54. 齋藤大祐, 松浦稔, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 仲瀬裕志, 久松理一: MEFV遺伝子解析を実施したIBD unclassifiedの検討. 第37回日本大腸検査学会総会, 東京, 2019年11月1-2日.
55. 久松理一: 難治性小腸疾患の診断と治療. 第57回日本小腸学会, 大阪, 2019年11月9日.
56. 齋藤大祐, 松浦稔, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎,

- 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 仲瀬裕志, 久松理一: 当院におけるMEFV遺伝子関連腸炎の臨床的特徴に関する検討. 第57回日本小腸学会学術集会, 大阪, 2019年11月9日.
57. 林田真理, 三好潤, 和田晴香, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 松浦稔, 久松理一: ベーチェット病の小腸病変に対するカプセル内視鏡検査と便中カルプロテクチン測定の有用性. 第57回日本小腸学会学術集会, 大阪, 2019年11月9日.
58. 権藤興一, 土岐真朗, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 落合一成, 太田博崇, 渡邊俊介, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: 当院における遠位悪性胆道狭窄に対するself-expandable metallic stent (SEMS)留置後の偶発症の検討. JDDW 2019, 神戸, 2019年11月21-24日.
59. 神保陽子, 大野亜希子, 新井健介, 楠原光謹, 宮本尚彦, 八谷隆仁, 羽田裕, 加藤敦士, 土岐真朗, 久松理一: 生検組織診断分類Group2症例におけるNBI併用拡大観察の有用性. JDDW 2019, 神戸, 2019年11月21-24日.
60. 徳永創太郎, 齋藤大祐, 久松理一: 高齢発症潰瘍性大腸炎患者の転帰に関する予後因子の検討. JDDW 2019, 神戸, 2019年11月21-24日.
61. 齋藤大祐, 三浦みき, 久松理一: 潰瘍性大腸炎における5-ASA不耐症例に対する5-ASAローテーションの有効性の検討. JDDW 2019, 神戸, 2019年11月21-24日.
62. 菊地翁輝, 三浦みき, 齋藤大祐, 尾崎良, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: 当院における炎症性腸疾患合併妊娠に関する検討. JDDW 2019, 神戸, 2019年11月21-24日.
63. 日比則孝, 小林拓, 森久保拓, 清原裕貴, 松林真央, 佐上晋太郎, 中野雅, 久松理一, 日比紀文: Drug-tolerant assayによる抗インフリキシマブ抗体測定の有用性. JDDW 2019, 神戸, 2019年11月21-24日.
64. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の国内外の診療ガイドライン. JDDW 2019, 神戸, 2019年11月21-24日.
65. 久松理一, 青山伸郎, Wei SC, Xie W, 佐藤真弘, 浅部伸一, Zhou W, 谷田諭志: 中等症~重症の活動性潰瘍性大腸炎アジア人患者でのウパダシチニブの有効性・安全性: 第2b相導入療法試験. 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 福岡, 2019年11月29日.
66. 三好潤, 齋藤大祐, 三浦みき, 三井達也, 村上慎之介, 工藤徹, 久松理一: 成分経腸栄養剤の摂取による腸内細菌の変化-健常人におけるパイロット検討. 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 福岡, 2019年11月29日.
67. 徳永創太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 尾崎良, 菊地翁輝, 箕輪慎太郎, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: 高齢発症潰瘍性大腸炎患者の予後予測因子に関する検討. 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 福岡, 2019年11月29日.
68. 齋藤大祐, 松浦稔, 和田晴香, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 久松理一: 潰瘍性大腸炎に対するVedolizumabによる寛解導入療法の治療効果予測に関する検討. 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 福岡, 2019年11月29日.
69. 久松理一: CDに対するUstekinumabのエビデンスと今後の課題. 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 福岡, 2019年11月29日.
70. 高橋正輝, 清水孝夫, 川村直弘, 關里和, 森秀明, 藤原正規, 柴原純二, 久松理一: 若年発症の急性発症型自己免疫性肝炎の一例. 第357回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年12月7日.
71. 松浦稔: 炎症性腸疾患 診断と治療のupdate 基本からリスク管理まで. 第37回日本消化器内視鏡学会近畿セミナー, 大阪, 2019年12月8日.
72. 八谷隆仁, 加藤敦士, 宮本尚彦, 羽田裕, 楠原光謹, 神保陽子, 大野亜希子, 久松理一, 長濱清隆, 柴原純二: ESDで一括切除し得た亜全周性巨大直腸腫瘍症例における術後狭窄. 第109回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2019年12月14-15日.
73. 箕輪慎太郎, 齋藤大祐, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: 消化管内視鏡ならびに小腸造影所見に基づく診療はクローン病患者の予後改善に貢献するか?. 第109回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2019年12月14-15日.
74. 久松理一: 炎症性腸疾患に対する分子標的治療の進歩. 第47回日本潰瘍学会, 小田原, 2020年1月16-17日.
75. 齋藤大祐, 松浦稔, 和田晴香, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 久松理一: 潰瘍性大腸炎に対するVedolizumabによる寛解導入療法の治療効果予測に関する検討. 第47回日本潰瘍学会, 小田原, 2020年1月16-17日.
76. 徳永健吾, 大崎敬子, 林原絵美子, 松井英則, 大野亜希子, 三好佐和子, 井田陽介, 岡本晋, 久松理一, 中村正彦: 特発性消化性潰瘍の成因検討-Helicobacter suis感染の関連を含めて-. 第47回日本潰瘍学会, 小田原, 2020年1月16-17日.
77. 冬野雄太, 平野敦士, 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 角田洋一, 仲瀬裕志, 久松理一, 櫻庭裕次, 平井郁仁, 松本主之: 腸管ベーチェット病および単純性潰瘍におけるGenome Wide Association Study (GWAS). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
78. 岡崎和一, 福井寿朗, 深田憲将, 大宮美香, 吉岡和彦, 押谷伸英, 佐々木誠人, 飯塚政弘, 上野伸展, 余田篤, 平田一郎, 清水誠治, 平岡佐規子, 北村和哉, 中野雅, 江崎幹宏, 久松理一, 長沼誠, 朝倉均, 飯田智哉, 仲瀬裕志, 本谷聡, 熊谷秀規, 砂田圭二郎, 清水俊明, 福田勝之, 鈴木英雄, 長堀正和, 吉村直樹, 鈴木康夫, 渡辺修, 谷田諭志, 小山文一, 亀山仁史, 花井洋行, 辻川知之, 池内浩基, 上野義隆, 田中信治, 平井郁仁, 二見喜太郎, 穂苅量太, 藤井久男, 北野厚生: UC、CD、IBDU、ICにおける診断変遷症例の検討. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
79. 江崎幹宏, 松本主之, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 平野敦士, 冬野雄太, 平井郁仁, 二見喜太郎, 中村志郎, 池内浩基, 渡辺憲治, 大宮直木, 中村正直, 内藤裕二, 仲瀬裕志, 松浦稔, 藤谷幹浩, 角田洋一, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 金城徹, 金城福則, 芦塚伸也, 山本章二郎, 竹島史直, 光山慶一, 猿田雅之, 石川大, 澁谷智義, 櫻庭裕次, 小山文一, 久松理一, 細江直樹, 緒方晴彦, 長沼誠, 小井隆典, 小林拓, 日比紀文, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 松岡克善, 鈴木康夫: クローン病術後再発に関するカプセル内視鏡評価の意義-前向きコホート研究-. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.

80. 畑啓介, 石原聡一郎, 味岡洋一, 安藤朗, 池内浩基, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 杉田昭, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 福島浩平, 二見喜太郎, 穂苺量太, 松岡克善, 松本主之, 鎌田紀子, 光山慶一, 花井洋行, 国崎玲子, 山本修司, 坂田資尚, 樋田信幸, 渡辺憲治, 田中信治, 竹内義明, 小形典之, 盛一健太郎, 石黒陽, 村上和成, 小林清典, 石橋英樹, 山川良一, 小山文一, 本谷聡, 岩男泰, 上野文昭, 吉田篤史, 原田直彦, 小野川靖二, 平井郁仁, 佐々木優, 横山正, 松田圭二, 相場恒男, 杉村一仁, 篠崎大, 日比紀文, 渡辺守, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立-Target vs Random 生検のランダム化比較試験のフォローアップスタディ. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
81. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さところ, 福島若葉, 梁井俊一, 林田真理, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 角田洋一, 勝野達郎, 大森鉄平, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 深田憲将, 岡崎和一, 細見周平, 湯川知洋, 鎌田紀子, 山上博一, 宮孝孝子, 樋田信幸, 中村志郎, 松浦稔, 平田敬, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信治, 渡辺知佳子, 穂苺量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 辻川知之, 山下真幸, 長沼誠, 櫻井俊之, 猿田雅之, 田中浩紀, 本谷聡, 邊見慎一郎, 宮川一平, 田中良哉, 日暮琢磨, 中島淳, 桐野洋平, 水木信久, 鈴木康夫, 上野文昭, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験Castle Study: 国内多施設共同試験. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
82. 久松理一, 井上詠, 渡辺憲治, 谷田諭史, 国崎玲子, 小林清典, 長堀正和, 新井勝大, 内野基, 小金井一隆, 小林拓, 岳野光洋, 上野文昭, 松本主之, 鈴木康夫: 腸管型ベーチェット診療ガイドライン作成プロジェクト(鈴木班・水木班合同プロジェクト). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
83. 梅野淳嗣, 冬野雄太, 鳥巢剛弘, 江崎幹宏, 梁井俊一, 大宮直木, 久松理一, 渡辺憲治, 細江直樹, 緒方晴彦, 平井郁仁, 久部高司, 松井敏幸, 八尾恒良, 松本主之, CEAS study group: 非特異性多発性小腸潰瘍症(CEAS)の病変部位と臨床・遺伝学的要因の関連. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
84. 仲瀬裕志, 飯田智也, 平山大輔, 風間友江, 横山佳浩, 櫻井晃弘, 久松理一, 松本主之, 江崎幹宏, 国崎玲子, 本澤有介, 大宮美香, 荒木寛司, 渡辺憲治, 田中浩紀, 小林拓, 日比紀文, 上野進展, 大井秀久, 細見周平, 新井勝広, 安藤朗, 石川大, 白木学, 松田耕一郎, 横山純二, 後藤田卓志, 武田輝, 大宮直木, 穂苺量太, 荒木俊光, 鈴木康夫: 家族性地中海熱関連腸炎の診断法確立・機序解明. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
85. 畑啓介, 石原聡一郎, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂苺量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: クロウン病再手術率の時代的変遷. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
86. 久松理一, 三浦みき, 清水泰岳, 新井勝大, 清水俊明, 岩間達, 仲瀬裕志: 本邦の炎症性腸疾患患者におけるEBウイルス感染状況に関する多施設共同研究(中間報告). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
87. 藤谷幹浩, 安藤勝祥, 稲場勇平, 野村好紀, 上野伸展, 盛一健太郎, 前本篤男, 蘆田知史, 高後裕, 仲瀬裕志, 山田聡, 田中一之, 櫻井俊之, 猿田雅之, 八月朔日秀明, 穂苺量太, 岡昌平, 平岡佐規子, 加賀谷尚史, 田中敏宏, 福井寿朗, 鳥巢剛弘, 齋藤大祐, 久松理一, 長堀正和, 加藤真吾, 志賀永嗣, 角田洋一, 渡辺憲治, 中村志郎, 池内浩基, 林亮平, 田中信治, 虻川大樹, 佐々木誠人, 飯塚政弘, 飯島英樹, 水島恒和, 小林清典, 小林拓, 内山和彦, 長沼誠, 金井隆典, 江崎幹宏, 飯田智哉, 田中浩紀, 馬場重樹, 安藤朗, 清水俊明, 福田勝之, 鈴木英雄, 大北喜基: 炎症性腸疾患における血栓症発症の予防・治療に関する研究. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
88. 猿田雅之, 櫻井俊之, 安藤朗, 飯島英樹, 上野伸展, 江崎幹宏, 遠藤克哉, 大宮直木, 大森鉄平, 岡志郎, 緒方晴彦, 細江直樹, 柿本一城, 樋口和秀, 金井隆典, 加藤真吾, 北村和哉, 小林拓, 杉本健, 櫻庭裕丈, 志賀永嗣, 竹島史直, 竹田津英稔, 田中信治, 田中浩紀, 本谷聡, 鳥巢剛弘, 内藤裕二, 中川倫夫, 中島淳, 仲瀬裕志, 長堀正和, 中村志郎, 渡辺憲治, 中村正直, 花井洋行, 久松理一, 平井郁仁, 平岡佐規子, 福田勝之, 藤井久男, 藤谷幹浩, 古田隆久, 前本憲男, 松井敏幸, 山本修司, 松岡克善, 松本主之, 三井啓吾, 山下真幸, 山本博徳, 横山薫, 吉田英史: クロウン病におけるカプセル内視鏡検査の有用性・安全性に関する多施設共同前向き研究 SPREAD-J study. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
89. 久松理一, 平井郁仁, 小金井一隆, 新井勝大, 虻川大樹, 小林拓, 長沼誠, 松浦稔, 松岡克善, 猿田雅之, 畑啓介, 加藤真吾, 加藤順, 藤谷幹浩, 仲瀬裕志, 中村志郎, 鈴木康夫: 腸管外合併症治療指針の作成. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
90. 久松理一, 平井郁仁, 小金井一隆, 新井勝大, 虻川大樹, 小林拓, 長沼誠, 松浦稔, 松岡克善, 猿田雅之, 畑啓介, 加藤真吾, 加藤順, 仲瀬裕志, 中村志郎, 鈴木康夫: 治療の標準化を目指した潰瘍性大腸炎治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回総会, 東京, 2020年1月23-24日.
91. 鈴木絹世, 塚田芳枝, 川村直弘: 肝性脳症を伴う慢性肝疾患患者に対する栄養指導の現状. 第23回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2020年1月26日.
92. 久松理一: 腸管ベーチェット病の診断と治療. 第16回日本消化管学会, 姫路, 2020年2月7-8日.
93. 三好潤, 齋藤大祐, 三浦みき, 三井達也, 村上慎之介, 藤徹, 久松理一: 成分栄養剤の摂取による腸内細菌叢の変化-健康人における非炎症下での腸管

microbiomeおよび代謝物の検討. 第16回日本消化管学会, 姫路, 2020年2月7-8日.

94. 林田真理, 三好潤, 和田晴香, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 桜庭彰人, 松浦稔, 久松理一: ベーチェット病患者における小腸用カプセル内視鏡を用いた小腸病変の検討. 第13回日本カプセル内視鏡学会, 姫路, 2020年2月9日.
95. 加藤敦士, 八谷隆仁, 宮本尚彦, 羽田裕, 楠原光謹, 権藤興一, 神保陽子, 大野亜希子, 土岐真朗, 柴原純二, 千葉知宏, 久松理一: 閉塞性黄疸の原因として胆道系悪性腫瘍による狭窄と鑑別に難渋し急速な転機を辿った進行大腸癌腹膜播種の一例. 第359回日本消化病学会関東支部例会, 東京, 2020年2月22日.
96. Seki S, Tanaka G, Hisamatsu T, Sakurai H: Functional analysis of mutant SLC2A1 transporter responsible for human intractable small intestinal ulcer. 第93回日本薬理学会年会, 紙上開催, 2020年3月16-18日.

#### 研究会等発表

1. 森秀明: 腹部エコーマスター講座 (STEP1: ビギナー向けセミナー). アスリードセミナー, 東京, 2019年4月14日.
2. 久松理一: エンタイビオによる潰瘍性大腸炎治療への期待. 潰瘍性大腸炎の新しい治療戦略, 相模原, 2019年4月17日.
3. 久松理一: 免疫調節薬の休薬について - DIAMOND2 スタディより. 第7回AIM meeting, 東京, 2019年4月20日.
4. 久松理一: IL-12/23 blockはなぜクローン病に有効なのか? そのメカニズムと実臨床での可能性. Crohn's Disease Web Seminar, web, 2019年5月15日.
5. 大野亜希子: ピロリ菌除菌後の胃癌の特徴と注意点. 東村山医師会学術講演会, 東村山, 2019年5月23日.
6. 大野亜希子: 対策型検診における胃内視鏡検査のポイント. 三鷹市医師会消化器研究会, 三鷹, 2019年5月24日.
7. 川村直弘, 關里和, 西川かおり, 鈴木裕, 正木忠彦, 下山博明, 船田さやか, 柴原純二, 久松理一, 森秀明: 腸閉塞を契機に診断に至った腹腔内巨大腫瘍の1例. 第129回腹部エコー研究会, 東京, 2019年5月25日.
8. 土岐真朗: ERCPにおける患者に優しい胆道ドレナージを目指して - ED-580TとVINCENTのコラボレーション -. 第3回東京内視鏡セミナー, 東京, 2019年6月12日.
9. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療における抗TNF $\alpha$ 製剤治療を整理する. 抗TNF $\alpha$ 製剤の最適治療を考える, 東京, 2019年6月19日.
10. 久松理一: 難治性IBD治療における内科的治療戦略 - アザチオプリンを安全に正しく使うには -. アスペンジャパンWebセミナー, web, 2019年6月20日.
11. 大野亜希子: ピロリ菌除菌後の胃癌の特徴と注意点. 西東京 GI forum, 西東京, 2019年6月21日.
12. 久松理一: 潰瘍性大腸炎診療 - 便中カルプロテクチン測定の見解と課題 -. アルフレッサプレスセミナー, 東京, 2019年6月26日.
13. 久松理一: IBD診療の基礎知識とピットフォール. Digestive Disease Conference, 三鷹, 2019年7月10日.
14. 松浦稔: IBDにおける寛解維持療法を考える - 接着因子阻害剤への期待 -. Digestive Disease Conference, 三鷹, 2019年7月10日.
15. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療に対する分子標的治療薬の up to date. 北陸消化管フォーラム, 金沢, 2019年7月11日.
16. 久松理一: 第一部: 腸管ベーチェット病の病態と治療, 第二部: クローン病におけるステラール治療について. 信州難治消化管フォーラム, 松本, 2019年7月19日.
17. 森秀明: これからの超音波技師に求められる事 (腹部領域). GE cSound Seminar多摩, 立川, 2019年7月21日.
18. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療における抗TNF $\alpha$ 製剤治療を総括する. Expert Seminar on IBD, 京都, 2019年7月22日.
19. 川村直弘: 肝性脳症に対するリファキシミンの使用経験. あすか製薬研修会, 東京, 2019年7月26日.
20. 松浦稔: 炎症性腸疾患「症例から学ぶ腸の炎症性疾患 Session 2」症例提示②. 第19回臨床消化器病研究会, 東京, 2019年7月27日.
21. 久松理一: エンタイビオによる潰瘍性大腸炎治療への期待. IBD Roundtable Meeting in Tokyo, 東京, 2019年7月30日.
22. 久松理一: エンタイビオへの期待 - クローン病の国内治療指針について. Entybio National Symposium in Tokyo, 東京, 2019年8月3日.
23. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の基本治療と医療連携における課題. 第35回札幌IBDミニカンファレンス, 札幌, 2019年8月9日.
24. 松浦稔: IBD診療におけるチオプリン製剤. 田辺三菱製薬社内研修会, 武蔵野, 2019年8月21日.
25. 久松理一: IBDにおける医療連携の課題. 第10回 上本町IBDミーティング, 大阪, 2019年8月30日.
26. 久松理一: クローン病に対するウステキヌマブのクリニカルエッセンスを考える. Crohn's Disease Global Session, 東京, 2019年9月3日.
27. 久松理一: 接着分子を標的とした炎症性腸疾患治療薬 - ベドリズマブの安全性・有効性について. 消化器疾患を考える, 立川, 2019年9月4日.
28. 久松理一: IBDセンター設立について. 北多摩IBD医療連携セミナー, 立川, 2019年9月5日.
29. 齋藤大祐: 杏林大学におけるIBD医療連携の現状と課題. 北多摩IBD医療連携セミナー, 立川, 2019年9月5日.
30. 松浦稔: エキスパートからのヒント - 診断と治療を極める② - 潰瘍性大腸炎の治療. IBD LeAP 2019, 東京, 2019年9月7日.
31. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の基本治療と医療連携における課題. 山梨IBD地域医療連携講演会, 甲府, 2019年9月12日.
32. 森秀明: アドバンスドエコーセミナー「腹部エコーマスター講座」. アスリードセミナー, 東京, 2019年9月15日.
33. 久松理一: 生物学的製剤の免疫原性とAzathioprine治療の up to date. Golimumab UC 2周年記念講演会, 札幌, 2019年9月21日.
34. 土岐真朗: ERCP関連手技と3D imagingのコラボレーション - 手技成功率向上と被曝量低減を目指して -. 第71回消化器画像診断研究会, 和歌山, 2019年9月21日.
35. 久松理一: IBD時代におけるチオプリン製剤のポジショニング. IBD Clinical Seminar, 広島, 2019年

- 9月26日.
36. 松浦稔: UCの難治化におけるCMV感染の意義. 第5回西東京下部消化管カンファレンス. 三鷹, 2019年9月27日.
  37. 久松理一: 接着分子を標的とした炎症性腸疾患治療薬ベドリズマブの安全性・有効性について. Entyvio Symposium in Saitama, さいたま, 2019年10月3日.
  38. 松浦稔: IBD治療におけるチオプリン製剤の役割. IBD Clinical Conference vol.9, 東京, 2019年10月4日.
  39. 久松理一: 腸管型ベーチェット病 最近の話題. 第33回福島県炎症性腸疾患研究会, 郡山, 2019年10月5日.
  40. 大野亜希子: ESDで一括切除し得た亜全周性巨大直腸腫瘍症例における術後狭窄. 多摩大腸疾患懇話会, 府中, 2019年10月5日.
  41. 川村直弘: 慢性肝不全の病態. 大日本住友製薬社内研修会, 東京, 2019年10月11日.
  42. 大野亜希子: ピロリ菌除菌後胃癌の発症リスクとは?. 武蔵野消化器・肝疾患医療連携懇談会, 武蔵野, 2019年10月29日.
  43. 久松理一: ウステキヌマブ 治験成績とリアルワールドデータ. STELARA® CD Clinical Seminar ~Real-World Experience with UST at IBD Centers~, 東京, 2019年10月9日.
  44. 松浦稔: IBD診療における地域医療連携の必要性. 北多摩IBD医療連携講演会, 三鷹, 2019年10月26日.
  45. 川村直弘: 静脈栄養について. NST専門療法士臨床実地修練研修会, 三鷹, 2019年10月29日.
  46. 久松理一: 接着分子を標的とした炎症性腸疾患治療薬ベドリズマブの安全性・有効性について. 第20回愛媛GIフォーラム, 松山, 2019年10月30日.
  47. 松浦稔: 5-ASA製剤の特性からみた適応症例を考える. IBD講演会, 東京, 2019年10月31日.
  48. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療のトピックス ~T2Tの重要性~. 炎症性腸疾患学術講演会, 水戸, 2019年11月1日.
  49. 大野亜希子: 上部消化管出血の緊急内視鏡のコツとpitfall. JETS, 東京, 2019年11月2日.
  50. 久松理一: クロウン病に対するusutekinumab ~機序から臨床成績まで~. Usutekinumab Conference, 東京, 2019年11月6日.
  51. 松浦稔: Treat to Targetの概念を踏まえたUstekinumabのpositioningとは. Ustekinumab Conference, 東京, 2019年11月6日.
  52. 久松理一: クロウン病に対するusutekinumab ~機序から臨床成績まで~. CD Web Seminar Meet The Expert Usutekinumab Conference, web, 2019年11月11日.
  53. 久松理一: クロウン病に対するusutekinumab ~機序から臨床成績まで~. CD Web Seminar Meet The Expert Usutekinumab Conference, web, 2019年11月15日.
  54. 森秀明: 消化管の超音波診断-総論. アッヴィ合同会社主催腸管エコー研修会, 東京, 2019年11月16日.
  55. 久松理一: IBDと脊椎関節炎. 自己免疫疾患を考える会 in 川越, 川越, 2019年11月26日.
  56. 大野亜希子: 超高齢化社会日本の消化管障害の現状と課題. Next TV symposium, 三鷹, 2019年11月26日.
  57. 川村直弘: 肝硬変に合併する腹水—序から診断—. 第2回 多職種で考える肝臓治療の会, 東京, 2019年12月7日.
  58. 松浦稔: IBD診療におけるステロイド. ゼリア新薬工業社内勉強会, 東京, 2019年12月11日.
  59. 森秀明: USスクリーニングの重要所見『肝びまん性病変』. 超音波スクリーニング研修講演会2019五反田, 東京, 2019年12月14日.
  60. 松浦稔: 潰瘍性大腸炎に合併するサイトメガロウイルス感染. 武田薬品工業社内勉強会, 東京, 2019年12月19日.
  61. 久松理一: ウステキヌマブ 治験成績とリアルワールドデータ. Crohn's Disease Web Seminar, web, 2020年1月8日.
  62. 土岐真朗: 診断に苦慮した腓腫瘍の1例(症例提示). 第5回Dr.TEKSの胆膵疾患を極める会, 東京, 2020年1月18日.
  63. 森秀明: 知っておきたい腹部領域の超音波診断 Bモードから造影超音波検査まで. 水戸腹部超音波診断研究会学術講演会, 水戸, 2020年1月24日.
  64. 久松理一: 潰瘍性大腸炎患者に対するアンメット・メディカルニーズとウステキヌマブの治験データから見えるIBD領域における医療の発展の必要性について. Guselkumab UC Investigators meeting, 東京, 2020年1月25日.
  65. 久松理一: 炎症性腸疾患の診断と治療. 帝京大学病診連携の会, 東京, 2020年1月21日.
  66. 齋藤大祐: 新薬登場により治療選択肢が増えた便秘診療の現状. 便秘を考える会, 三鷹, 2020年1月29日.
  67. 久松理一: 接着分子を標的とした炎症性腸疾患治療Vedolizumabの安全性・有効性について. エンタイビオ発売1周年記念講演会 in 信州, 松本, 2020年1月31日.
  68. 久松理一: 腸管型ベーチェット病の話題 ~ベーチェット病診療ガイドライン2020から~. オテズラ錠承認記念講演会, 東京, 2020年2月1日.
  69. 三好潤: 腸内微生物叢からアプローチする炎症性腸疾患Bed to Bench & Bench to Bed. JIMRO社内講演, 東京, 2020年2月4日.
  70. 松浦稔: IBD治療におけるチオプリン製剤の役割 —より良い寛解維持を目指して—. IBD連携Meeting, 大阪, 2020年2月13日.
  71. 久松理一: 炎症性腸疾患のマネージメント ~T2Tストラテジーとは~. 第11回東都腸疾患フォーラム, 東京, 2020年2月20日.
- 公開講座等**
1. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の治療Up to Date. 日野市医師会学術講演会, 日野, 2019年5月7日.
  2. 森秀明: 指導検査士認定試験のための講習会-総論. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月25日.
  3. 久松理一: 炎症性腸疾患の基礎と最新治療. 病態栄養講習会, 東京, 2019年6月7日.
  4. 久松理一: IBDマネージメントの肝 ~Treat to Targetとは?~. 千葉IBD講演会, 千葉, 2019年6月29日.
  5. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の診断と治療. 社会保険指導者講習会, 東京, 2019年10月3日.
- 論文**
- 英文原著 (original article, review)
1. Matsuno Y<sup>1</sup>, Umeno J<sup>1</sup>, Esaki M<sup>2</sup>, Hirakawa Y<sup>1</sup>, Fuyuno Y<sup>1</sup>, Okamoto Y<sup>1</sup>, Hirano A<sup>1</sup>, Yasukawa S<sup>3</sup>, Hirai F<sup>3</sup>, Matsui T<sup>3</sup>, Hosomi S<sup>4</sup>, Watanabe K<sup>5</sup>,

- Hosoe N<sup>6</sup>, Ogata H<sup>6</sup>, Hisamatsu T, Yanai S<sup>7</sup>, Kochi S<sup>8</sup>, Kurahara K<sup>8</sup>, Yao T<sup>9</sup>, Torisu T<sup>1</sup>, Kitazono T<sup>1</sup>, Matsumoto T<sup>7</sup> (<sup>1</sup>Kyushu University, <sup>2</sup>Saga University Hospital, <sup>3</sup>Fukuoka University Chikushi Hospital, <sup>4</sup>Osaka City University, <sup>5</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>6</sup>Keio University, <sup>7</sup>Iwate Medical University, <sup>8</sup>Matsuyama Red Cross Hospital, <sup>9</sup>Sada Hospital): Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations. *World J Gastroenterol.* 25(14):1753-1763, 2019.
2. Toki M, Yamaguchi Y, Goto T, Yoshida T, Ota H, Ochiai K, Gondo K, Watanabe S, Kurata I, Hisamatsu T: Pharmacokinetic-pharmacodynamic comparison of ceftriaxone regimens in acute cholangitis. *J Infect Chemother.* 25(10):780-785, 2019.
  3. Ohno A, Kato A, Kusuhara M, Miyamoto N, Arai K, Tsuji Y<sup>1</sup>, Hisamatsu T (<sup>1</sup>University of Tokyo): New colorectal endoscopic submucosal dissection technique using a single tunnel: the "gateway" method. *Endoscopy.* 51(12): E356-E357, 2019.
  4. Ooi CJ<sup>1</sup>, Hilmi I<sup>1</sup>, Banerjee R<sup>2</sup>, Chuah SW<sup>3</sup>, Ng SC<sup>4</sup>, Wei SC<sup>5</sup>, Makharia GK<sup>6</sup>, Pisespongsa P<sup>7</sup>, Chen MH<sup>8</sup>, Ran ZH<sup>9</sup>, Ye BD<sup>10</sup>, Park DI<sup>11</sup>, Ling KL<sup>12</sup>, Ong D<sup>13</sup>, Ahuja V<sup>5</sup>, Goh KL<sup>14</sup>, Sollano J<sup>15</sup>, Lim WC<sup>16</sup>, Leung WK<sup>17</sup>, Ali RAR<sup>18</sup>, Wu DC<sup>19</sup>, Ong E<sup>15</sup>, Mustaffa N<sup>20</sup>, Limsrivilai J<sup>21</sup>, Hisamatsu T, Yang SK<sup>10</sup>, Ouyang Q<sup>22</sup>, Geary R<sup>23</sup>, De Silva JH<sup>24</sup>, Rerknimitr R<sup>25</sup>, Simadibrata M<sup>26</sup>, Abdullah M<sup>27</sup>, Leong RW<sup>28</sup>; Asia Pacific Association of Gastroenterology (APAGE) Working group on Inflammatory Bowel Disease and Asian Organization for Crohn's and Colitis<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Singapore General Hospital, <sup>2</sup>Asian Institute of Gastroenterology, <sup>3</sup>Gleneagles Medical Centre, <sup>4</sup>The Chinese University of Hong Kong, <sup>5</sup>National Taiwan University Hospital, Taipei, <sup>6</sup>All India Institute of Medical Sciences, <sup>7</sup>Bumrungrad International University, <sup>8</sup>Sun Yat-sen University, <sup>9</sup>Shanghai Jiao Tong University, <sup>10</sup>University of Ulsan, <sup>11</sup>Sungkyunkwan University, <sup>12</sup>Duke-NUS Medical School, <sup>13</sup>National University Hospital of Singapore, <sup>14</sup>University of Malaya, <sup>15</sup>University of Santo Tomas, <sup>16</sup>Tan Tock Seng Hospital, <sup>17</sup>University of Hong Kong, <sup>18</sup>The National University of Malaysia, <sup>19</sup>Kaohsiung Medical University, <sup>20</sup>Sains University, <sup>21</sup>Mahidol University, <sup>22</sup>Sichuan University, <sup>23</sup>University of Otago, <sup>24</sup>University of Kelaniya, <sup>25</sup>Chulalongkorn University, <sup>26</sup>University of Indonesia, <sup>27</sup>Cipto Mangunkusumo National Hospital, <sup>28</sup>Concord Hospital): Best practices on immunomodulators and biological agents for ulcerative colitis and Crohn's disease in Asia. *Intest Res.* 17(3):285-310, 2019.
  5. Ooi CJ<sup>1</sup>, Hilmi I<sup>1</sup>, Banerjee R<sup>2</sup>, Chuah SW<sup>3</sup>, Ng SC<sup>4</sup>, Wei SC<sup>5</sup>, Makharia GK<sup>6</sup>, Pisespongsa P<sup>7</sup>, Chen MH<sup>8</sup>, Ran ZH<sup>9</sup>, Ye BD<sup>10</sup>, Park DI<sup>11</sup>, Ling KL<sup>12</sup>, Ong D<sup>13</sup>, Ahuja V<sup>5</sup>, Goh KL<sup>14</sup>, Sollano J<sup>15</sup>, Lim WC<sup>16</sup>, Leung WK<sup>17</sup>, Ali RAR<sup>18</sup>, Wu DC<sup>19</sup>, Ong E<sup>15</sup>, Mustaffa N<sup>20</sup>, Limsrivilai J<sup>21</sup>, Hisamatsu T, Yang SK<sup>10</sup>, Ouyang Q<sup>22</sup>, Geary R<sup>23</sup>, De Silva JH<sup>24</sup>, Rerknimitr R<sup>25</sup>, Simadibrata M<sup>26</sup>, Abdullah M<sup>27</sup>, Leong RW<sup>28</sup>; Asia Pacific Association of Gastroenterology (APAGE) Working group on Inflammatory Bowel Disease and Asian Organization for Crohn's and Colitis (<sup>1</sup>Singapore General Hospital, <sup>2</sup>Asian Institute of Gastroenterology, <sup>3</sup>Gleneagles Medical Centre, <sup>4</sup>The Chinese University of Hong Kong, <sup>5</sup>National Taiwan University Hospital, Taipei, <sup>6</sup>All India Institute of Medical Sciences, <sup>7</sup>Bumrungrad International University, <sup>8</sup>Sun Yat-sen University, <sup>9</sup>Shanghai Jiao Tong University, <sup>10</sup>University of Ulsan, <sup>11</sup>Sungkyunkwan University, <sup>12</sup>Duke-NUS Medical School, <sup>13</sup>National University Hospital of Singapore, <sup>14</sup>University of Malaya, <sup>15</sup>University of Santo Tomas, <sup>16</sup>Tan Tock Seng Hospital, <sup>17</sup>University of Hong Kong, <sup>18</sup>The National University of Malaysia, <sup>19</sup>Kaohsiung Medical University, <sup>20</sup>Sains University, <sup>21</sup>Mahidol University, <sup>22</sup>Sichuan University, <sup>23</sup>University of Otago, <sup>24</sup>University of Kelaniya, <sup>25</sup>Chulalongkorn University, <sup>26</sup>University of Indonesia, <sup>27</sup>Cipto Mangunkusumo National Hospital, <sup>28</sup>Concord Hospital): Best practices on immunomodulators and biologic agents for ulcerative colitis and Crohn's disease in Asia. *Intest Res.* 17(3):285-310, 2019.
  6. Schreiner P<sup>1</sup>, Neurath MF<sup>2</sup>, Ng SC<sup>3</sup>, El-Omar EM<sup>4</sup>, Sharara AI<sup>5</sup>, Kobayashi T<sup>6</sup>, Hisamatsu T, Hibi T<sup>6</sup>, Rogler G<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University Hospital Zurich, <sup>2</sup>Universitätsklinikum Erlangen-Nürnberg, <sup>3</sup>The Chinese University of Hong Kong, <sup>4</sup>University of New South Wales, <sup>5</sup>American University of Beirut, <sup>6</sup>Kitasato University Kitasato Institute Hospital): Mechanism-based treatment strategies for IBD: cytokines, cell Adhesion molecules, JAK inhibitors, gut flora, and more. *Inflamm Intest Dis.* 4(3):79-96, 2019.
  7. Oguri N, Sakuraba A, Morikubo H, Kikuchi O, Sato T, Tokunaga S, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Saito D, Hayashida M, Mori H, Osaki T<sup>1</sup>, Kamiya S<sup>1</sup>, Senoh M<sup>2</sup>, Kato H<sup>2</sup>, Hisamatsu T (<sup>1</sup>Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>National Institute of Infectious Diseases): Community-acquired fulminant colitis caused by binary toxin-producing *Clostridium difficile* in Japan. *Clin J Gastroenterol.* 12(4):325-329, 2019.
  8. Wagatsuma K<sup>1</sup>, Yamada S<sup>2</sup>, Ao M<sup>3</sup>, Matsuura M, Tsuji H<sup>4</sup>, Iida T<sup>1</sup>, Miyamoto K<sup>5</sup>, Oka K<sup>5</sup>, Takahashi M<sup>5</sup>, Tanaka K<sup>6</sup>, Nakase H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Sapporo Medical University, <sup>2</sup>Kyoto University, <sup>3</sup>Kyoto Women's University, <sup>4</sup>Kobe Women's University, <sup>5</sup>Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., <sup>6</sup>Kobe Gakuin University): Diversity of gut microbiota affecting serum level of undercarboxylated osteocalcin in patients with Crohn's Disease. *Nutrients.* 11(7):1541, 2019.
  9. Yamazaki H<sup>1</sup>, So R<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>2</sup>, Kobayashi T<sup>3</sup>, Shinzaki S<sup>4</sup>, Matsuura M, Okabayashi S<sup>3</sup>, Kataoka Y<sup>5</sup>, Tsujimoto Y<sup>1</sup>, Furukawa TA<sup>1</sup>, Watanabe N<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kyoto University, <sup>2</sup>Toho University Sakura Medical Center, <sup>3</sup>Kitasato University Kitasato Institute Hospital, <sup>4</sup>Osaka University, <sup>5</sup>Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center): Certolizumab pegol for induction of remission in Crohn's disease. *Cochrane Database Syst Rev.* 8:CD012893, 2019.
  10. Saito D, Hibi N, Ozaki R, Kikuchi O, Sato T,

- Tokunaga S, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Miyoshi J, Matsuura M, Nakase H<sup>1</sup>, Hisamatsu T (Sapporo Medical University): MEJV gene-related enterocolitis account for some cases diagnosed as inflammatory bowel disease unclassified. *Digestion*. 2019. doi: 10.1159/000502640. [Epub ahead of print]
11. Yamazaki H<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>2</sup>, Fernandez J<sup>3</sup>, Hibi T<sup>4</sup>, Watanabe M<sup>5</sup>, Hisamatsu T, Fukuhara S<sup>1</sup> (Kyoto University, Toho University Sakura Medical Center, Takeda Pharmaceutical Company Limited, Kitasato University Kitasato Institute Hospital, Tokyo Medical and Dental University): Ulcerative colitis outcomes research in Japan: protocol for an observational prospective cohort study of YOURS (YOU and Ulcerative colitis: Registry and Social network). *BMJ Open*. 9(9): e030134, 2019.
  12. Hisamatsu T, Matsumoto T<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>2</sup>, Nakase H<sup>3</sup>, Motoya S<sup>4</sup>, Yoshimura N<sup>5</sup>, Ishida T<sup>6</sup>, Kato S<sup>7</sup>, Nakagawa T<sup>8</sup>, Esaki M<sup>9</sup>, Nagahori M<sup>10</sup>, Matsui T<sup>11</sup>, Naito Y<sup>12</sup>, Kanai T<sup>13</sup>, Suzuki Y<sup>14</sup>, Nojima M<sup>15</sup>, Watanabe M<sup>10</sup>, Hibi T<sup>16</sup>; DIAMOND study group (Iwate Medical University, Hyogo College of Medicine, Sapporo Medical University, Sapporo Kosei General Hospital, Tokyo Yamate Medical Center, Ishida Clinic of IBD and Gastroenterology, Saitama Medical University, Chiba University, Kyushu University, Tokyo Medical and Dental University, Fukuoka University Chikushi Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine, Keio University, Toho University Sakura Medical Center, University of Tokyo, Kitasato University Kitasato Institute Hospital): Concerns and side effects of azathioprine during adalimumab induction and maintenance therapy for Japanese patients with Crohn's disease: a subanalysis of a prospective randomised clinical trial (DIAMOND study). *J Crohns Colitis*. 13(9):1097-1104, 2019.
  13. Sands BE<sup>1</sup>, Sandborn WJ<sup>2</sup>, Panaccione R<sup>3</sup>, O'Brien CD<sup>4</sup>, Zhang H<sup>4</sup>, Johans J<sup>4</sup>, Adedokun OJ<sup>4</sup>, Li K<sup>4</sup>, Peyrin-Biroulet L<sup>5</sup>, Van Assche G<sup>6</sup>, Danese S<sup>7</sup>, Targan S<sup>8</sup>, Abreu MT<sup>9</sup>, Hisamatsu T, Szapary P<sup>4</sup>, Marano C<sup>4</sup>; UNIFI Study Group (Icahn School of Medicine at Mount Sinai, University of California, San Diego, University of Calgary, Janssen Research and Development, Université de Lorraine, University of Leuven, Humanitas Research Hospital and Humanitas University, Cedars-Sinai Medical Center, University of Miami): Ustekinumab as induction and maintenance therapy for ulcerative colitis. *N Engl J Med*. 381(13):1201-1214, 2019.
  14. Suzuki Y<sup>1</sup>, Watanabe M<sup>2</sup>, Matsui T<sup>3</sup>, Motoya S<sup>4</sup>, Hisamatsu T, Yuasa H<sup>5</sup>, Tabira J<sup>5</sup>, Isogawa N<sup>5</sup>, Tsuchiwata S<sup>5</sup>, Arai S<sup>5</sup>, Hibi T<sup>6</sup> (Toho University Sakura Medical Center, Tokyo Medical and Dental University, Fukuoka University Chikushi Hospital, Sapporo Kosei Hospital, Pfizer Japan Inc., Kitasato University, Kitasato Institute Hospital): Tofacitinib as induction and maintenance therapy in Japanese patients with active ulcerative colitis. *Inflamm Intest Dis*. 4(4):131-143, 2019.
  15. Motoya S<sup>1</sup>, Tanaka H<sup>1</sup>, Shibuya T<sup>2</sup>, Osada T<sup>3</sup>, Yamamoto T<sup>4</sup>, Hongo H<sup>5</sup>, Mizuno C<sup>6</sup>, Saito D, Aoyama N<sup>7</sup>, Kobayashi T<sup>8</sup>, Ito H<sup>9</sup>, Tanida S<sup>10</sup>, Nojima M<sup>11</sup>, Kokuma S<sup>12</sup>, Hosoi E<sup>12</sup> (Sapporo Kosei General Hospital, Juntendo University, Juntendo University Urayasu Hospital, Yokkaichi Hazu Medical Center, Fujita Gastroenterological Hospital, Saiseikai Suita Hospital, Aoyama Medical Clinic, Hakodate Goryoukaku Hospital, Kinshukai Infusion Clinic, Nagoya City University, The University of Tokyo, JIMRO Co., Ltd): Safety and effectiveness of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with inflammatory bowel disease in special situations: a multicentre cohort study. *BMC Gastroenterol*. 19(1):196, 2019.
  16. Shigefuku R<sup>1</sup>, Iwasa M<sup>1</sup>, Katayama K<sup>2</sup>, Eguchi A<sup>1</sup>, Kawaguchi T<sup>3</sup>, Shiraishi K<sup>4</sup>, Ito T<sup>5</sup>, Suzuki K<sup>6</sup>, Koreeda C<sup>7</sup>, Ohtake T<sup>8</sup>, Tokumoto Y<sup>9</sup>, Endo R<sup>10</sup>, Kawamura N, Shiraki M<sup>11</sup>, Habu D<sup>12</sup>, Sakai H<sup>13</sup>, Kato A<sup>14</sup>, Nishiguchi S<sup>15</sup>, Moriwaki H<sup>11</sup>, Suzuki K<sup>16</sup>, Takei Y<sup>1</sup> (Mie University, Osaka International Cancer Institute, Kurume University, Tokai University, JCHO Osaka Hospital, Shuuwa General Hospital, Kansai Medical University, International University of Health and Welfare Hospital, Ehime University, Iwate Medical University, Gifu University, Osaka City University, NHO Beppu Medical Center, Morioka Municipal Hospital, Hyogo College of Medicine, Morioka University): Hypozincemia is associated with human hepatocarcinogenesis in hepatitis C virus - related liver cirrhosis. *Hepatol Res*. 49(10):1127-1135, 2019.
  17. Akiyama S<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>1, 2, 3</sup>, Fukuda K<sup>2</sup>, Hamada S<sup>2</sup>, Shimizu M<sup>2</sup>, Nanki K<sup>2</sup>, Mizuno S<sup>2</sup>, Kiyohara H<sup>2</sup>, Arai M<sup>2</sup>, Sugimoto S<sup>2</sup>, Iwao Y<sup>2</sup>, Ogata H<sup>2</sup>, Hisamatsu T, Naganuma M<sup>2</sup>, Motobayashi M<sup>1</sup>, Suzuki K<sup>1</sup>, Takenaka K<sup>1</sup>, Fujii T<sup>1</sup>, Saito E<sup>1</sup>, Nagahori M<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>1</sup>, Mochizuki M<sup>2</sup>, Watanabe M<sup>1</sup>, Hashiguchi M<sup>2</sup>, Kanai T<sup>2</sup> (Tokyo Medical and Dental University, Keio University, Toho University Sakura Medical Center): Long-term effect of NUDT15 R139C on hematologic indices in inflammatory bowel disease patients treated with thiopurine. *J Gastroenterol Hepatol*. 34(10):1751-1757, 2019.
  18. Hisamatsu T, Kato S<sup>1</sup>, Kunisaki R<sup>2</sup>, Matsuura M<sup>3</sup>, Nagahori M<sup>4</sup>, Motoya S<sup>5</sup>, Esaki M<sup>6</sup>, Fukata N<sup>7</sup>, Inoue S<sup>8</sup>, Sugaya T<sup>9</sup>, Sakuraba H<sup>10</sup>, Hirai F<sup>11</sup>, Watanabe K<sup>12,13</sup>, Kanai T<sup>14</sup>, Naganuma M<sup>14</sup>, Nakase H<sup>15</sup>, Suzuki Y<sup>16</sup>, Watanabe M<sup>4</sup>, Hibi T<sup>17</sup>, Nojima M<sup>18</sup>, Matsumoto T<sup>19</sup>; DIAMOND2 Study Group (Saitama Medical University, Yokohama City University Medical Center, Kyoto University, Tokyo Medical and Dental University, Sapporo Kosei General Hospital, Kyushu University, Kansai Medical University, Kobe City Medical Center General Hospital, Japan Red Cross Ashikaga Hospital, Hirosaki University, Fukuoka University Chikushi Hospital, Osaka City General Hospital, Hyogo College of Medicine, Keio University, Sapporo Medical University, Toho University Sakura Medical Center, Kitasato University Kitasato Institute Hospital, University of Tokyo, Iwate Medical University): Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab



- maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2). *J Gastroenterol.* 54(10):860-870, 2019.
19. Adedokun OJ<sup>1</sup>, Xu Z<sup>1</sup>, Marano C<sup>1</sup>, O'Brien C<sup>1</sup>, Szapary P<sup>1</sup>, Zhang H<sup>1</sup>, Johanns J<sup>1</sup>, Leong RW<sup>2</sup>, Hisamatsu T, van Assche G<sup>3</sup>, Danese S<sup>4</sup>, Abreu MT<sup>5</sup>, Sands BE<sup>6</sup>, Sandborn WJ<sup>7</sup> (<sup>1</sup>Janssen Research & Development, LLC, <sup>2</sup>Concord and Macquarie University Hospitals, <sup>3</sup>University of Leuven, <sup>4</sup>Humanitas Research Hospital, <sup>5</sup>University of Miami, <sup>6</sup>Icahn School of Medicine at Mount Sinai, <sup>7</sup>University of California San Diego): Ustekinumab pharmacokinetics and exposure response in a phase 3 randomized trial of patients with ulcerative colitis: ustekinumab PK and exposure-response in UC. *Clin Gastroenterol Hepatol.* 2019. doi: 10.1016/j.cgh.2019.11.059. [Epub ahead of print]
  20. Iida T<sup>1</sup>, Hida T<sup>1</sup>, Matsuura M, Uhara H<sup>1</sup>, Nakase H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Sapporo Medical University): Current clinical issue of skin lesions in patients with inflammatory bowel disease. *Clin J Gastroenterol.* 12(6):501-510, 2019.
  21. Honzawa Y<sup>1</sup>, Matsuura M, Higuchi H<sup>1</sup>, Sakurai T<sup>1</sup>, Seno H<sup>1</sup>, Nakase H<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Kyoto University, <sup>2</sup>Sapporo Medical Center): A novel endoscopic imaging system for quantitative evaluation of colonic mucosal inflammation in patients with quiescent ulcerative colitis. *Endosc Int Open.* 8(1): E41-E49, 2020.
  22. Kakiuchi N<sup>1</sup>, Yoshida K<sup>1</sup>, Uchino M<sup>2</sup>, Kihara T<sup>2</sup>, Akaki K<sup>1</sup>, Inoue Y<sup>1</sup>, Kawada K<sup>1</sup>, Nagayama S<sup>3</sup>, Yokoyama A<sup>1</sup>, Yamamoto S<sup>1</sup>, Matsuura M, Horimatsu T<sup>1</sup>, Hirano T<sup>1</sup>, Goto N<sup>1</sup>, Takeuchi Y<sup>1</sup>, Ochi Y<sup>1</sup>, Shiozawa Y<sup>1</sup>, Kogure Y<sup>1, 4</sup>, Watatani Y<sup>1</sup>, Fujii Y<sup>1</sup>, Kim SK<sup>1</sup>, Kon A<sup>1</sup>, Kataoka K<sup>1, 4</sup>, Yoshizato T<sup>1</sup>, Nakagawa MM<sup>1</sup>, Yoda A<sup>1</sup>, Nanya Y<sup>1</sup>, Makishima H<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>5</sup>, Chiba K<sup>5</sup>, Tanaka H<sup>5</sup>, Sanada M<sup>6</sup>, Sugihara E<sup>7</sup>, Sato TA<sup>7</sup>, Maruyama T<sup>8</sup>, Miyoshi H<sup>1</sup>, Taketo MM<sup>1</sup>, Oishi J<sup>9</sup>, Inagaki R<sup>1, 9</sup>, Ueda Y<sup>9</sup>, Okamoto S<sup>1</sup>, Okajima H<sup>1, 10</sup>, Sakai Y<sup>1</sup>, Sakurai T<sup>1</sup>, Haga H<sup>1</sup>, Hirota S<sup>2</sup>, Ikeuchi H<sup>2</sup>, Nakase H<sup>2, 11</sup>, Marusawa H<sup>1</sup>, Chiba T<sup>1, 12</sup>, Takeuchi O<sup>1</sup>, Miyano S<sup>5</sup>, Seno H<sup>1</sup>, Ogawa S<sup>1, 13</sup> (<sup>1</sup>Kyoto University, <sup>2</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>3</sup>Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>4</sup>National Cancer Centre Research Institute, <sup>5</sup>The University of Tokyo, <sup>6</sup>National Hospital Organization Nagoya Medical Center, <sup>7</sup>University of Tsukuba, <sup>8</sup>Akita University, <sup>9</sup>Sumitomo Dainippon Pharma, <sup>10</sup>Kanazawa Medical University, <sup>11</sup>Sapporo Medical University School of Medicine, <sup>12</sup>Kansai Electric Power Hospital, <sup>13</sup>Karolinska Institute): Frequent mutations that converge on the NFKBIZ pathway in ulcerative colitis. *Nature.* 577(7789):260-265, 2020.
  23. Iida T<sup>1</sup>, Hirayama D<sup>1</sup>, Minami N<sup>2</sup>, Matsuura M, Wagatsuma K<sup>1</sup>, Kawakami K<sup>1</sup>, Nagaishi K<sup>1</sup>, Nojima M<sup>3</sup>, Ikeuchi H<sup>4</sup>, Hirota S<sup>4</sup>, Shirakawa R<sup>5</sup>, Horiuchi H<sup>5</sup>, Nakase H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Sapporo Medical University, <sup>2</sup>Kyoto University, <sup>3</sup>The University of Tokyo, <sup>4</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>5</sup>Tohoku University): Down-regulation of RalGTPase-activating protein promotes colitis-associated cancer via NLRP3 inflammasome activation. *Cell Mol Gastroenterol Hepatol.* 9(2):277-293, 2020.
  24. Hayashida M, Miyoshi J, Mitsui T, Miura M, Saito D, Sakuraba A, Kawashima S<sup>1</sup>, Ikegaya N<sup>1</sup>, Fukuoka K<sup>1</sup>, Karube M<sup>1</sup>, Komagata Y<sup>1</sup>, Kaname S<sup>1</sup>, Okada AA<sup>2</sup>, Fujimori S<sup>3</sup>, Matsuura M, Hisamatsu T (<sup>1</sup>Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Ophthalmology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Nippon Medical School): Elevated fecal calprotectin and lactoferrin are associated with small intestinal lesions in patients with Behçet disease. *J Gastroenterol Hepatol.* 2020. doi: 10.1111/jgh.14995. [Epub ahead of print]
  25. Kakuta Y<sup>1</sup>, Izumiyama Y<sup>1</sup>, Okamoto D<sup>1</sup>, Nakano T<sup>1</sup>, Ichikawa R<sup>1</sup>, Naito T<sup>1</sup>, Moroi R<sup>1</sup>, Kuroha M<sup>1</sup>, Kanazawa Y<sup>1</sup>, Kimura T<sup>1</sup>, Shiga H<sup>1</sup>, Kudo H<sup>1</sup>, Minegishi N<sup>1</sup>, Kawai Y<sup>2</sup>, Tokunaga K<sup>2</sup>, Nagasaki M<sup>3</sup>, Kinouchi Y<sup>1</sup>, Suzuki Y<sup>4</sup>, Masamune A<sup>1</sup>; MENDEL study group (<sup>1</sup>Tohoku University, <sup>2</sup>National Center for Global Health and Medicine, <sup>3</sup>Kyoto University, <sup>4</sup>Toho University Sakura Medical Center): High-resolution melt analysis enables simple genotyping of complicated polymorphisms of codon 18 rendering the NUDT15 diplotype. *J Gastroenterol.* 55(1):67-77, 2020.
  26. Matsuoka K<sup>1, 2</sup>, Hamada S<sup>1</sup>, Shimizu M<sup>3</sup>, Nanki K<sup>1</sup>, Mizuno S<sup>1</sup>, Kiyohara H<sup>1</sup>, Arai M<sup>1</sup>, Sugimoto S<sup>1</sup>, Iwao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Nagauma M<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup>, Mochizuki M<sup>1</sup>, Hashiguchi M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Toho University Sakura Medical Center, <sup>3</sup>Aomori University): Factors contributing to the systemic clearance of infliximab with long-term administration in Japanese patients with Crohn's disease: Analysis using population pharmacokinetics. *Int J Clin Pharmacol Ther.* 58(2):89-102, 2020.
  27. Naganuma M<sup>1</sup>, Sugimoto S<sup>1</sup>, Fukuda T<sup>1</sup>, Mitsuyama K<sup>2</sup>, Kobayashi T<sup>3</sup>, Yoshimura N<sup>4</sup>, Ohi H<sup>5</sup>, Tanaka S<sup>6</sup>, Andoh A<sup>7</sup>, Ohmiya N<sup>8</sup>, Saigusa K<sup>9</sup>, Yamamoto T<sup>10</sup>, Morohoshi Y<sup>11</sup>, Ichikawa H<sup>12</sup>, Matsuoka K<sup>13</sup>, Hisamatsu T, Watanabe K<sup>14</sup>, Mizuno S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Suzuki Y<sup>13</sup>, Kanai T<sup>1</sup>; INDIGO Study Group (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Kurume University, <sup>3</sup>Kitasato University Kitasato Institute Hospital, <sup>4</sup>Tokyo Yamate Medical Center, <sup>5</sup>Imamura Hospital, <sup>6</sup>Hiroshima University Hospital, <sup>7</sup>Shiga University of Medical Science, <sup>8</sup>Fujita Health University School of Medicine, <sup>9</sup>Tokyo Saiseikai Central Hospital, <sup>10</sup>Yokkaichi Hazu Medical Center, <sup>11</sup>Yokohama Municipal Citizen's Hospital, <sup>12</sup>Tokai University Hachioji Hospital, <sup>13</sup>Toho University Sakura Medical Center, <sup>14</sup>Hyogo College of Medicine): Indigo naturalis is effective even in treatment-refractory patients with ulcerative colitis: a post hoc analysis from the INDIGO study. *J Gastroenterol.* 55(2):169-180, 2020.
  28. Kobayashi T<sup>1</sup>, Udagawa E<sup>2</sup>, Uda A<sup>2</sup>, Hibi T<sup>1</sup>, Hisamatsu T (<sup>1</sup>Kitasato University Kitasato Institute Hospital, <sup>2</sup>Takeda Pharmaceutical Company Limited): Impact of immunomodulator use on treatment persistence in patients with ulcerative colitis: a claims database analysis. *J Gastroenterol Hepatol.* 35(2):225-232, 2020.
  29. Basson AR<sup>1, 2</sup>, LaSalla A<sup>1</sup>, Lam G<sup>1</sup>, Kulpins D<sup>1</sup>,

Moen EL<sup>3</sup>, Sundrud MS<sup>4</sup>, Miyoshi J, Ilic S<sup>5</sup>, Theriault BR<sup>6</sup>, Cominelli F<sup>1,2,7</sup>, Rodriguez-Palacios A<sup>1, 2, 7</sup> (1Case Western Reserve University, 2University Hospitals Cleveland Medical Center, 3The Dartmouth Institute for Health Policy and Clinical Practice, 4The Scripps Research Institute, 5The Ohio State University, 6University of Chicago, 7Silvio O'Conte Cleveland Digestive Diseases Research Core Center): Artificial microbiome heterogeneity spurs six practical action themes and examples to increase study power-driven reproducibility. *Sci Rep.* 10(1):5039, 2020.

## 邦文原著 (学会誌等)

1. 渡邊俊介, 土岐真朗, 神林孔明, 北田修一, 野坂岳志, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 山口康晴, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: 胆管inside stentの抜去に難渋した2例の検討. *Progress of Digestive Endoscopy* 95(1):22-25, 2019.
2. 落合一成, 土岐真朗, 両角克朗, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 権藤興一, 渡邊俊介, 倉田勇, 山口康晴, 森秀明, 久松理一: 急性閉塞性胆管炎の原因がアミオダロンと考えられた1例. *胆道* 33(2):250-254, 2019.

## 邦文総説 (学会誌等)

1. 久松理一: 炎症性腸疾患 - 診断と治療の最前線 -. *日本消化器内視鏡学会雑誌* 61(8):1523-1537, 2019.
2. 大野亜希子, 加藤敦士, 宮本尚彦, 八谷隆仁, 羽田裕, 楠原光謹, 神保陽子, 久松理一: 大腸広範囲ESDにおけるコツ. *日本消化器内視鏡学会雑誌* 61(11):2498-2509, 2019.
3. 辻秀美, 幣憲一郎, 青未空, 桑原晶子, 長嶋一昭, 山田聡, 松浦稔, 仲瀬裕志, 田中清, 稲垣暢也: 新規治療薬時代におけるクローン病患者のビタミンK栄養状態. *日本病態栄養学会誌* 22(4): 253-257, 2019.
4. 松浦稔, 久松理一: 抗TNF- $\alpha$ 抗体製剤との併用における免疫調節薬の意義と問題点. *日本消化器病学会雑誌* 117(3): 214-223, 2020.

## 邦文商業誌

1. 久松理一 (エディトリアル): 腸内細菌が関与する諸疾患 - 腸内細菌が全身を制御する? -. *Current Therapy* 37(4), 2019.
2. 三好潤: Dysbiosis. *Current Therapy* 37(4):90, 2019.
3. 土岐真朗, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 中村健二, 山口康晴, 久松理一: Laser-cut Type Covered Stent. *胆と膵* 40(10):859-864, 2019.
4. 松浦稔: サイトメガロウイルス腸炎. *Intestine* 23(6): 505-511, 2019.
5. 松浦稔: IBDに合併する皮膚病変. *IBD Research* 13 3: 131-137, 2019.
6. 松浦稔, 妹尾浩: 急性増悪の要因と対処. *診断と治療* 107 7: 831-836, 2019.
7. 松浦稔, 本澤有介, 山本修司, 妹尾浩: サイトメガロウイルス感染症: 最近の知見. *Intestine* 23 2: 167-173, 2019.
8. 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 権藤興一, 渡邊俊介, 土岐真朗, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次: 術後胆汁瘻・膵瘻に対する経乳頭の内視鏡治療. *消化器内視鏡* 31(9):1374-1378, 2019.
9. 三浦みき, 久松理一: Crohn病・腸型Behçet病: 小腸病変を中心に. *診断と治療* 108(1):87-94, 2020.
10. 土岐真朗, 権藤興一, 渡邊俊介, 立石秀勝, 鈴木裕, 阿部展次, 久松理一: EST-出血・穿孔しても慌てな

い. *消化器内視鏡* 32 (3):328-333, 2020.

## 著書

1. 森秀明 (分担執筆): 第II章消化器領域A肝臓, レジデント・臨床検査技師のためのはじめての超音波検査 第2版. 森秀明, 平井都始子編集. 東京, 文光堂, 2019. p.54-79.
2. 久松理一 (分担執筆): 第V章第10節JAK阻害剤トファシチニブ. *臨牀消化器内科* Vol.34 No.7. 鈴木康夫監修. 臨牀消化器内科編集委員会編集. 東京, 日本メデイカルセンター, 2019. p. 151-155.
3. 松浦稔, 本澤有介, 山本修司, 妹尾浩 (分担執筆): 第V章第17節サイトメガロウイルス (CMV) 腸炎. *臨牀消化器内科* Vol.34 No.7. 鈴木康夫監修. 臨牀消化器内科編集委員会編集. 東京, 日本メデイカルセンター, 2019. p. 888-893.
4. 大野亜希子, 楠原光謹, 久松理一 (分担執筆): 第I章胃第4節炎症性・非腫瘍性 Double pylorus. 別冊日本臨床 消化管症候群I. 東京, 日本臨床社, 2019. p. 96-99.
5. 土岐真朗, 仲村明恒, 阿部展次, 大倉康男, 久松理一 (分担執筆): 第I章胃第5節腫瘍性疾患 胃顆粒細胞腫. 別冊日本臨床 消化管症候群I. 東京, 日本臨床社, 2019. p. 335-338.
6. 土岐真朗 (分担執筆): 第23章内視鏡治療II (EST). *消化器内視鏡技師試験問題解説V*. 日本消化器内視鏡学会・消化器内視鏡技師制度審議会・消化器内視鏡技師試験委員会編集. 東京, 医学図書出版株式会社, 2019. p. 191-196.
7. 土岐真朗 (分担執筆): 高齢者胆石症診療ガイドライン (日本高齢消化器病学会誌Supplement「ガイドライン」). 東京, 日本高齢消化器病学会, 2019. p.43-60.
8. 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 権藤興一, 渡邊俊介, 土岐真朗, 森俊幸, 阿部展次, 阪本良弘 (分担執筆): 第II章第7節胆膵ステント留置 肝胆膵術後合併症に対するドレナージ法. *臨牀消化器内科* Vol.34 No.10. 臨牀消化器内科編集委員会編集. 東京, 日本メデイカルセンター, 2019. p. 1277-1284.
9. 松浦稔 (分担執筆): UCの治療 07-Q125. UCに対する抗TNF- $\alpha$ 療法はインフリキシマブかアダリムマブのどちらから始めるべきか?. *消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編*. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 132.
10. 松浦稔 (分担執筆): UCの治療 11-Q129. 抗TNF- $\alpha$ 抗体療法中のUCでは5-ASA製剤の中止は可能か?. *消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編*. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 136.
11. 松浦稔 (分担執筆): UCの治療 15-Q133. トファシチニブはUC患者のQOLを改善させるか?. *消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編*. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 140.
12. 松浦稔 (分担執筆): UCの治療 17-Q135. IBD患者に対するベドリズマブ治療において血中トラフ値を測定する臨床的意義は?. *消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編*. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 142.
13. 松浦稔 (分担執筆): UCの治療 18-Q136. ベドリズ

マブで治療したUCにおける臨床的及び内視鏡的な治療効果を反映するバイオマーカーは？. 消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 143.

14. 松浦稔(分担執筆): UCの治療 30-Q148. CMV感染を合併したUC患者では腸管組織のCMVウイルス量で予後を予測できるか?. 消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 155.
15. 三好潤(分担執筆): 経過・予後01-Q179. CDにおけるLémannスコアとは?. 消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 188.
16. 三好潤(分担執筆): 経過・予後01-Q180. UC成人発症例はどのような経過をたどるのか?. 消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 189.
17. 三好潤(分担執筆): 経過・予後01-Q181. 原発性硬化性胆管炎を合併するUCの経過は非合併例と異なるか?. 消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 190.
18. 三好潤(分担執筆): 経過・予後01-Q182. 直腸炎型潰瘍性大腸炎で病変部進展を注意すべき症例とは?. 消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 191.
19. 三好潤(分担執筆): 経過・予後01-Q183. UCの疫学, 臨床像はどのように変遷してきたか?. 消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 192.
20. 三好潤(分担執筆): 経過・予後01-Q184. アジア・太平洋地域のIBD臨床像とは?. 消化器医のための重要論文240篇 炎症性腸疾患編. 松本主之編集主幹・光山慶一, 角田洋一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 飯島英樹, 久松理一, 畑啓介編集. 東京, CBR, 2019. p. 193.
21. 久松理一(分担執筆): ベーチェット病診療ガイドライン2020. 日本ベーチェット学会監修. 厚生労働省科学研究費難治性疾患政策研究事業ベーチェット病に関する調査研究班・難治性炎症性腸管障害調査研究班編集. 東京, 診断と治療社, 2020.
22. 久松理一(分担執筆): 第IV章消化管疾患第10節 潰瘍性大腸炎. 日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2020-2021. 門脇孝, 小室一成, 宮地良樹監修. 東京, メディカルレビュー社, 2020.

## 報告書

1. 久松理一, 井上詠, 長堀正和: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)令和元年度 分担研究報告書 腸管ベーチェット病診療ガイドライン作成.
2. 久松理一: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 分担研究報告書(令和元年度)腸管型ベーチェット診療ガイドライン作成プロジェクト.

3. 久松理一: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 分担研究報告書(令和元年度)本邦の炎症性腸疾患患者におけるEBウイルス感染状況に関する多施設共同研究.
4. 久松理一: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 分担研究報告書(令和元年度)治療指針・ガイドラインの改訂, 治療の標準化を目指した潰瘍性大腸炎治療指針の改訂.
5. 久松理一: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 分担研究報告書(令和元年度)IBDの病診連携を構築するプロジェクト.
6. 新関寛徳, 吉田和恵, 野村尚志, 久松理一: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)特発性後天性全身性無汗症の横断的発症因子, 治療法, 予後の追跡研究 分担研究報告書(令和元年度)非特異性多発性小腸潰瘍症患者における肥厚性皮膚骨膜炎の発生状況アンケート調査.
7. 久松理一: AMED免疫アレルギー疾患実用化研究事業 家族性地中海熱関連腸炎の診断法確立と病態解明を目指す研究 分担研究報告書(令和元年度).

## その他

### 学会主催

1. 森秀明: 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24-26日.

### 受賞

1. 三好潤: 第56回日本消化器免疫学会総会・学術奨励賞.
2. 齋藤大祐: 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会・優秀ポスター賞.
3. 三好潤: 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会・優秀ポスター賞.

## 糖尿病・内分泌・代謝内科学教室

### 講演

1. 近藤琢磨: 糖尿病治療の実践 —治療効果を高めるための工夫—. 地域の糖尿病を考える会 in 小平, 小平, 2019年4月4日.
2. 近藤琢磨: 基礎から学ぶ、妊娠時の糖代謝異常③. 第3回薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会, 国分寺, 2019年4月10日.
3. 近藤琢磨: 1型糖尿病治療におけるSGLT2阻害薬のポジショニング. 1型糖尿病治療を考える会, 武蔵野, 2019年4月12日.
4. 鶴久大介, 炭谷由計, 嶋崎枝里, 津村哲郎, 七条裕孝, 澤井梓, 石本麻衣, 近藤健, 田中利明, 近藤琢磨, 石田均: 当院での原発性アルドステロン症の病型診断における尿中アルドステロン値および迅速ACTH負荷試験の有用性についての検討. 第92回日本内分泌学会学術総会, 仙台, 2019年5月9-11日.
5. 梶尾裕, 中條大輔, 安田和基, 霜田雅之, 春日雅人, 今川彰久, 池上博司, 大澤春彦, 阿比留教生, 島田朗, 長澤幹, 及川洋一, 安田尚史, 栗田卓也, 川崎英二, 高橋和真, 小林哲郎, 花房俊昭, 岩橋博見, 香月健志, 福井智康, 滝澤壯一: 日本人1型糖尿病の包括的データベースの構築と臨床研究への展開(TIDE-J)(第7報). 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23-25日.
6. 川崎英二, 及川洋一, 福井智康, 今川彰久, 中條大輔,

- 梶尾裕, 阿比留教生, 粟田卓也, 池上博司, 内潟安子, 大澤春彦, 川畑由美子, 小澤純二, 島田朗, 高橋和真, 田中昌一郎, 永淵正法, 三浦順之助, 安田和基, 安田尚史, 花房俊昭, 小林哲郎: GAD抗体測定結果乖離と親和性日本人1型糖尿病の成因、診断、病態、治療に関する調査研究委員会中間報告一. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
7. 宇田川陽秀, 舟橋伸昭, 南茂隆生, 平本正樹, 西村渉, 関洋介, 笠間和典, 安田和基: 内臓脂肪組織の酸化ストレス防御機構に対する転写因子Gata5の機能解析. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  8. 舟橋伸昭, 宇田川陽秀, 南茂隆生, 安田和基: ヒトNASH肝で高発現するAKR1B15の発現は転写因子NRF2によって正に制御される. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  9. 南茂隆生, 宇田川陽秀, 舟橋伸昭, 川口美穂, 上番増喬, 平本正樹, 西村渉, 安田和基: 自然発症糖尿病モデルマウスにおいて環境因子が膵島エビゲノムに及ぼす影響の網羅的解析. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  10. 櫻井勉, 天川淑宏, 植木彬夫, 近藤琢磨, 森貴幸, 吉田敦行, 東郷清児, 五十里一秋, 豊島麻美, 菅原加奈美, 西村一弘, 中野瞳, 小林庸子, 細江学, 宮川高一, 菅野一男, 貴田岡正史: 糖尿病をもつ人が在宅(地域)で健やかに暮らすためのマニュアル作り~臨床検査技師・理学療法士編~. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  11. 西村一弘, 植木彬夫, 近藤琢磨, 吉田敦行, 東郷清児, 豊島麻美, 中野ひとみ, 五十里一秋, 小林庸子, 櫻井勉, 菅原加奈美, 細江学, 天川淑宏, 貴田岡正史, 菅野一男, 宮川高一: 糖尿病をもつ人が在宅(地域)で健やかに暮らすためのマニュアル作り~介護支援専門員・訪問介護員・管理栄養士~. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  12. 森貴幸, 植木彬夫, 近藤琢磨, 小林庸子, 栗栖啓充, 細江学, 中野ひとみ, 櫻井勉, 天川淑宏, 菅原加奈美, 豊島麻美, 西村一弘, 五十里一秋, 東郷清児, 吉田敦行, 宮川高一, 菅野一男, 貴田岡正史: 糖尿病をもつ人が在宅(地域)で健やかに暮らすためのマニュアル作り~歯科医師・歯科衛生士・薬剤師編~. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  13. 豊島麻美, 菅原加奈美, 吉田敦行, 近藤琢磨, 東郷清児, 五十里一秋, 森貴幸, 小林庸子, 西村一弘, 中野ひとみ, 天川淑宏, 櫻井勉, 細江学, 菅野一男, 宮川高一, 貴田岡正史, 植木彬夫: 糖尿病をもつ人が在宅(地域)で健やかに暮らすためのマニュアル作り~外来・病棟・訪問看護師編~. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  14. 吉田敦行, 近藤琢磨, 東郷清児, 森貴幸, 豊島麻美, 西村一弘, 中野瞳, 五十里一秋, 小林庸子, 櫻井勉, 菅原加奈美, 細江学, 天川淑宏, 菅野一男, 宮川高一, 貴田岡正史, 植木彬夫: 糖尿病をもつ人が在宅(地域)で健やかに暮らすためのマニュアル作り~医師編~. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  15. 朝倉俊成, 貴田岡正史, 近藤琢磨, 稲垣美智子: 糖尿病治療用注射製剤使用時における「空打ち」の目的・意義に関する情報提供への取り組み. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  16. 児玉優太, 炭谷由計, 田中耕史, 廣瀬道宣, 飛田和基, 石飛実紀, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病症例の至適運動強度としての乳酸閾値と二重積屈曲点法の妥当性について. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  17. 近藤琢磨: 妊娠糖尿病から女性の健やかな一生を考えるCDEJ療養指導セミナー/交流集会(CDEJ). 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  18. 鈴木絹世, 近藤琢磨, 大庭みずき, 吉田美佳子, 塚田美裕, 下田ゆかり, 今野里美, 小林庸子, 浅野紀子, 鈴木光一, 児玉優太, 塚田芳枝, 石田均: 当院で初めて実施した糖尿病予防フェスタの概要とアンケート調査結果~食事療法関係を中心に~. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  19. 小林庸子, 近藤琢磨, 鈴木絹世, 下田ゆかり, 今野里美, 鈴木光一, 児玉優太, 石田均: 糖尿病予防フェスタを開催することの意義に関する検討. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23 - 25日.
  20. 近藤琢磨: 1型糖尿病の予後と今後の対策について. 1型糖尿病治療について考える会, 三鷹, 2019年5月28日.
  21. Murashima T, Kondo T, Kondo K, Morita N, Kitahara A, Sumitani Y, Takahashi K, Tanaka T, Hosaka T, Ishida H: Effects of Glucocorticoid on Gene Expression and Secretion of Insulin in Pancreatic  $\beta$  Cells. American Diabetes Association 79th scientific sessions, USA, June 7-11, 2019.
  22. 安田和基: 糖尿病の遺伝的背景はどこまでわかったか. 第4回Hot Topics Seminar in武蔵野, 三鷹, 2019年6月19日.
  23. 近藤琢磨:  $\beta$ 細胞からみた糖代謝異常とその治療戦略. 21th Gakugei Round Table Meeting, 東京, 2019年6月21日.
  24. 安田和基: 糖尿病とゲノム~今知っておくべきことと、これからの期待~. 糖尿病維新塾-糖尿病治療の“未来”を考える一, 三鷹, 2019年6月27日.
  25. 近藤琢磨: 糖尿病診療における連携の意義. 糖尿病維新塾-糖尿病治療の“未来”を考える一, 武蔵野, 2019年6月27日.
  26. 近藤琢磨: 糖尿病治療におけるSGLT2阻害薬の再評価. 第5回北多摩糖尿病カンファレンス, 立川, 2019年7月10日.
  27. 安田和基: 糖尿病の診断・治療における他の内科領域との新たな関わり~最新の動向から. 三鷹市医師会糖尿病・内分泌・代謝研究会, 三鷹, 2019年7月12日.
  28. 安田和基: 肥満治療・糖尿病から見た肝臓~最近の話題から~. 肝疾患・糖尿病治療セミナー, 三鷹, 2019年7月16日.
  29. 安田和基: 予想通りに行かない糖尿病の面白さ!ようこそ!. 糖尿病カンファレンス2019, 東京, 2019年7月18日.
  30. 近藤琢磨: 高齢者糖尿病におけるSMBGの重要性とその実際. 第4回西東京臨床検査研修会, 東京, 2019年7月28日.
  31. 安田和基: 糖尿病・代謝疾患のトピックスから~新たな診断・治療法を求めるphysician scientistとして~. 協和キリン社内研修会, 東京, 2019年8月23日.
  32. 安田和基: 糖尿病・代謝疾患のトピックスから~「精密医療」と新たな診断・治療へ向けて~. MSD勉強会, 武蔵野, 2019年8月30日.
  33. 近藤琢磨: 妊娠・周術期症例からみたCSII/SAP療法の有用性について. 第2回 Diabetes Hybrid Seminar, 東京, 2019年9月5日.

34. 安田和基：内科から見た肥満・糖尿病外科治療：期待と課題。南区医師会・内科合同学術講演会，福岡，2019年9月11日。
35. 安田和基：糖尿病専門医が見る脂質異常症の展望。興和勉強会，東京，2019年9月18日。
36. 石本麻衣，炭谷由計，勝又明彦，津村哲郎，澤井梓，佐々木有紀，田中利明，近藤琢磨，廣川達也，三ツ間智也，中里陽子，平野浩一，菅間博，安田和基：薬物療法にもかかわらず、急速な甲状腺腫の増大による気道狭窄のため外科的治療を要したバセドウ病の1例。第62回日本甲状腺学会学術集会，前橋，2019年10月10 - 12日。
37. 安田和基：内科から見た糖尿病外科治療の効果と実際。高度肥満症外科的治療セミナー，東京，2019年10月3日。
38. 近藤琢磨：糖尿病治療の実践 —効果的な方法を考える—。Diabetes Forefront IT Seminar (web講演)，2019年10月15日。
39. 近藤琢磨：妊娠時の糖代謝異常とその対策。第24回糖尿病療養担当者のためのセミナー，国分寺，2019年10月20日。
40. 安田和基：糖尿病・代謝疾患のトピックスから～「精密医療」と新たな診断・治療へ向けて～。Diabetes Precision Medicine Seminar，三鷹，2019年10月30日。
41. 石本麻衣：2型糖尿病合併NAFLDに対して、SGLT2阻害薬投与による肝線維化ならびに脂肪化に及ぼす効果の検討。第11回糖尿病Physical Act研究会，東京，2019年10月30日。
42. 宇田川陽秀，舟橋伸昭，南茂隆生，平本正樹，西村渉，植木浩二郎，安田和基：GATA5はグルタチオン-S-トランスフェラーゼの発現を増強させ内臓脂肪の酸化ストレスを調節する。第40回日本肥満学会，東京，2019年11月2 - 3日。
43. 橘恵，今川彰久，池上博司，川畑由美子，阿比留教生，粟田卓也，三浦順之助，及川洋一，島田朗，大澤春彦，梶尾裕，川崎英二，小澤純二，高橋和真，中條大輔，福井智康，安田和基，安田尚史，花房俊昭，小林哲郎：抗PD-1抗体薬投与後に発症する1型糖尿病(第2報)。第19回日本先進糖尿病治療研究会・第17回1型糖尿病研究会，東京，2019年11月2 - 3日。
44. 安田和基：糖尿病の体質って、どこまでわかったんだろう。第55回糖尿病週間講演会，東京，2019年11月9日。
45. 安田和基：糖尿病・内分泌・代謝内科：大学病院としての取り組み。杏林大学第4回医療連携フォーラム，三鷹，2019年11月14日。
46. 近藤琢磨： $\beta$ 細胞でおこっていることを実臨床でどのように活かすか？。一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワーク 第66回例会，三鷹，2019年11月16日。
47. 鳥矢沙規子，勝又明彦，近藤琢磨，安田和基：総重量9,700gの巨大褐色細胞腫の1例。第48回杏林医学会総会，三鷹，2019年11月16日。
48. 勝又明彦，石本麻衣，津村哲郎，鮫島美央，田口慧，福原浩，下山田博明，長浜清隆，菅間博，足立淳一郎，炭谷由計，田中利明，近藤琢磨，安田和基：当院で経験した巨大褐色細胞腫の2例。第29回臨床内分泌代謝Update，高知，2019年11月29 - 30日。
49. 樂得隆之，近藤琢磨，山崎宰，野中麻衣，勝又明彦，津村哲郎，七条裕孝，石本麻衣，仁科善雄，多武保光広，桶川隆嗣，福原浩，炭谷由計，田中利明，安田和基：突然の腹痛で発症し動脈塞栓術を要した傍神経節腫の1例。第29回臨床内分泌代謝Update，高知，2019年11月29 - 30日。
50. 安田和基：循環器内科医に知ってもらいたい、糖尿病薬処方の流れ。Diabetes Cardiology Meeting，三鷹，2019年12月3日。
51. Arata N, Kawasaki M, Waguri M, Iimura Y, Sugiyama T, Yasuhi I, Sone H, Kikuchi T, Takimoto H, Yasuda K, Ogawa Y, Hiramatsu Y: Intensive non-pharmacological intervention for preventing type 2 diabetes in pregnant women with gestational diabetes. The IDF (International Diabetes Federation) Congress 2019, Korea, Dec 2-6, 2019.
52. 近藤琢磨：糖尿病治療の実践 —効果的な方法を考える—。DiaMond Seminar in Sapporo，札幌，2019年12月4日。
53. 安田和基：糖尿病の遺伝子：精密医療へ向けた期待。多摩糖尿病治療研究，東京，2019年12月5日。
54. 安田和基：肥満症患者のオミックス解析の展望と期待。岩手肥満症・糖尿病ウインターセミナー，盛岡，2019年12月20日。
55. 勝又明彦，近藤琢磨，恩田智子，野中麻衣，樂得隆之，七条裕孝，石本麻衣，炭谷由計，田中利明，安田和基：飲酒とSGLT2阻害薬でDKAが重症化した1型糖尿病の1例。第57回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，横浜，2020年1月21日。
56. 北原敦子，高橋和人，村嶋利隆，近藤健，石飛実，保坂利男，近藤琢磨，石田均，安田和基：膵 $\beta$ 細胞におけるハ<sup>+</sup>ルミチン酸誘導性炎症反応へのアスタキサンチンの効果とオートファジー —機構の関与。第23回日本病態栄養学会年次学術集会，京都，2020年1月24 - 26日。
57. 近藤琢磨：肝疾患を意識した2型糖尿病治療の実践。肝疾患と糖尿病を考える会 in 北多摩北部，東村山，2020年1月28日。
58. 安田和基：よくわかる、糖尿病のはなし。令和元年度羽村市健康スポーツフォーラム，羽村，2020年1月30日。
59. 南茂隆生，舟橋伸昭，宇田川陽秀，植木浩二郎，安田和基：自然発症糖尿病モデルマウスにおいて環境因子が肝臓エピゲノム・遺伝子発現に及ぼす影響の網羅的検討。第34回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会，高崎，2020年1月31日 - 2月1日。
60. 宇田川陽秀，舟橋伸昭，南茂隆生，平本正樹，西村渉，植木浩二郎，安田和基：Gata5はグルタチオン-S-トランスフェラーゼの発現を増強させ内臓脂肪の酸化ストレスを調節する。第34回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会，高崎，2020年1月31日 - 2月1日。
61. 田中利明，板垣英二，石本麻衣，近藤健，炭谷由計，高橋和人，近藤琢磨，安田和基：低リン血症から診断し、腫瘍切除後に再発と両側肺転移を来し治療に難渋した腫瘍性骨軟化症の1例。第51回臨床体液研究会，東京，2020年2月1日。
62. 安田和基：糖尿病診療における最近のトピックス：変わるものと、変わらないもの。糖尿病セミナー in 鹿行，神栖，2020年2月6日。
63. 近藤琢磨：CSII/SAP療法の基礎から応用まで。CSII/SAPキャラバン ペーシック，東京，2020年2月8日。
64. 近藤琢磨：糖尿病治療の現状と課題。Diabetes Laboratory Meeting，金沢，2020年2月13日。
65. 安田和基：肥満糖尿病治療の最近の話題～外科治療への期待と課題。Diabetes Researcher's Forum，旭川，2020年2月14日。

66. 安田和基: 糖尿病の病態を追い求めてきて. 第7回北多摩糖尿病懇話会, 三鷹, 2020年2月18日.
67. 近藤琢磨: 糖尿病治療update. 北多摩北部 糖尿病チーム医療を考える会, 小平, 2020年2月18日.

## 論文

1. Udagawa H<sup>1</sup>, Hiramoto M<sup>2</sup>, Kawaguchi M<sup>1</sup>, Uebanso T<sup>3</sup>, Ohara-Imaizumi M<sup>4</sup>, Nammo T<sup>1</sup>, Nishimura W<sup>5,6</sup>, Yasuda K (1National Center for Global Health and Medicine, 2Tokyo Medical University, 3Tokushima University Graduate School, 4Department of Cellular Biochemistry, 5International University of Health and Welfare School of Medicine, 6Jichi Medical University): Characterization of the taste-related G-protein,  $\alpha$ -gustducin, in pancreatic  $\beta$ -cells. *J Diabetes Investig*, 2020. published online.
2. Nakamura T<sup>1</sup>, Tsujimoto T<sup>1</sup>, Yasuda K, Chujo D<sup>1,3</sup>, Ohsugi M<sup>1,4</sup>, Tanabe A<sup>1</sup>, Ueki K<sup>1,2</sup>, Kajio H<sup>1</sup> (1Center Hospital, 2National Center for Global Health and Medicine, 3Toyama University Hospital, 4Diabetes and Metabolism Information Center): Poorly controlled type 2 diabetes with no progression of diabetes-related complications and low levels of advanced glycated products: A Case report. *Medicine* 98(30): e16573, 2019. doi:10.1097/MD.00000000000016573.
3. Yabe SG<sup>1</sup>, Nishida J<sup>1</sup>, Fukuda S<sup>1</sup>, Takeda F<sup>1</sup>, Nasiro K<sup>1</sup>, Yasuda K, Iwasaki N<sup>2</sup>, Okochi H<sup>1</sup> (1National Center for Global Health and Medicine, 2Tokyo Women's Medical University): Expression of mutant mRNA and protein in pancreatic cells derived from MODY3-iPS cells. *PLoS One* 14(5): e0217110, 2019.
4. Oikawa Y<sup>1,2</sup>, Kondo T, Shimada A<sup>2</sup>, Seino Y<sup>1,3</sup>, Kitaoka M<sup>1,4</sup> (1Japan Association for Diabetes Education and Care, 2Saitama Medical University, 3Kansai Electric Power Hospital and Kansai Electric Power Medical Research Institute, 4IMS Miyoshi General Hospital): Actual condition survey regarding mismatch of measurements between radioimmunoassay and enzyme-linked immunosorbent assay tests for anti-glutamic acid decarboxylase antibody in real-world clinical practice. *J Diabetes Investig* 10: 685-689, 2019.
5. Morita N<sup>1</sup>, Hosaka T<sup>2</sup>, Yamazaki Y<sup>3</sup>, Takahashi K, Sasano H<sup>3</sup>, Ishida H<sup>4</sup> (1AstraZeneca K.K., 2The University of Shizuoka, 3Tohoku University Graduate School of Medicine, 4Nagahama City Hospital): Abnormal glucose tolerance in a patient with pheochromocytoma and ACTH-independent subclinical Cushing's syndrome involving the same adrenal gland. *J Int Med Res* 47(7): 3360-3370, 2019.
6. 安田和基: グルコキナーゼ遺伝子異常による糖尿病特集『糖尿病の遺伝素因—単一遺伝子異常による糖尿病—』. *糖尿病* 62巻8号: 454-456, 2019.
7. 朝倉俊成<sup>1</sup>, 近藤琢磨, 稲垣美智子<sup>2</sup>, 貴田岡正史<sup>3</sup> (1新潟薬科大学, 2金沢大学, 3イムス三芳総合病院): インスリン製剤の自己注射用注入器使用時における「空打ち」の目的と意義. *くすりと糖尿病* 8巻: 112-120, 2019.
8. 近藤琢磨: 周術期の注射薬の使い方. *診断と治療* 107巻: 281-285, 2019.
9. 近藤琢磨: 糖尿病治療薬により生じた低血糖. *内科*

123巻: 987-988, 2019.

10. 勝又明彦, 近藤琢磨, 石本麻衣, 恩田智子, 山崎幸, 樂得隆之, 鶴久大介, 永瀬惟, 炭谷由計, 田中利明, 石田均: インスリン分泌障害が出現しDKAと鑑別が困難であったAKAの一例. *日本内分泌学会雑誌* 95巻Suppl. Update: 108-111, 2019.
11. 近藤琢磨: 【医薬品副作用学(第3版)上-薬剤の安全使用アップデート-】薬効群別副作用 糖尿病治療薬 血糖非依存性インスリン分泌促進薬(SU薬、速効型インスリン分泌促進薬). *日本臨床* 77巻増刊3 医薬品副作用学(上): 165-168, 2019.
12. 竹脇史絵, 炭谷由計, 金城真実<sup>1</sup>, 安田和基 (1杏林大・医・泌尿器科): 【糖尿病自律神経障害】糖尿病における下部尿路機能障害. *内分泌・糖尿病・代謝内科* 49(4): 287-291, 2019.
13. 安田和基: 2型糖尿病への経口GLP-1受容体作動薬の上乗せ効果は、DPP-4阻害薬より大きい. *MMJ* Vol.15 No.6: 185, 2019.
14. 川崎麻紀<sup>1</sup>, 荒田尚子<sup>1</sup>, 和栗雅子<sup>2</sup>, 飯村祐子<sup>1</sup>, 山本周美<sup>3</sup>, 川寄有紀<sup>4</sup>, 牧尉太<sup>5</sup>, 玉田祥子<sup>5</sup>, 青山友子<sup>6</sup>, 田中茂穂<sup>6</sup>, 秦健一郎<sup>1</sup>, 宮越敬<sup>7</sup>, 橋本貢士<sup>8</sup>, 杉山隆<sup>9</sup>, 安日一郎<sup>10</sup>, 曾根博仁<sup>11</sup>, 菊池透<sup>12</sup>, 瀧本秀美<sup>6</sup>, 安田和基, 小川佳宏<sup>13</sup>, 大田えりか<sup>14</sup>, 井上永介<sup>15</sup>, 平松祐司<sup>16</sup> (1国立成育医療研究センター, 2大阪母子医療センター, 3武庫川女子大学, 4関西医科大学, 5岡山大学, 6医薬基盤・健康・栄養研究所, 7慶應義塾大学, 8独協医科大学埼玉医療センター, 9愛媛大学, 10長崎医療センター, 11新潟大学, 12埼玉医科大学, 13九州大学, 14聖路加国際大学, 15聖マリアンナ医科大学, 16岡山市立総合医療センター): GDMのフォローアップ 2型糖尿病発症予防のための妊娠糖尿病妊婦への非薬物的強化介入の試み. *糖尿病と妊娠* 19(2): S-35-S-38, 2019.

## その他

1. 安田和基: ベーリンガープラス リアルストーリーコンテンツ インタビュー, 東京, 2019年10月9日.

## 腫瘍内科学教室

## 講演

1. 長島文夫: 高齢者前立腺癌治療 監視療法からCRPCまで 高齢者における癌治療について 本邦における老年腫瘍学. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月18日.
2. Furuse J: Up-To-Date systemic treatments for hepatocellular carcinoma. 8th International Forum of the Japanese Society of Gastroenterology. 第105回日本消化器病学会総会, 金沢, 2019年5月9日.
3. 岡野尚弘, 松木亮太, 土岐真朗, 立石秀勝, 渡邊俊介, 鈴木裕, 柴原純二, 阪本良弘, 杉山政則, 古瀬純司: Borderline resectable膵癌に対する術前治療としてのゲムシタピン+ナブパクリタキセル療法の実験的試験. 第105回日本消化器病学会総会, 金沢, 2019年5月10日.
4. 古瀬純司: 最新の膵癌治療の動向—薬物療法の進歩. 第22回湖南・東近江消化器カンファレンス, 近江八幡, 2019年5月16日.
5. 古瀬純司: MSI-High膵癌・胆道癌における新たな治療戦略—免疫チェックポイント阻害剤登場. *Oncology* インターネット講演会, 東京, 2019年5月23日.
6. Nara S, Shimada K, Uesaka K, Konish M, Ohtsuka M, Hirono S, Unno M, Yanagimoto H, Nomura T, Sata N, Wada H, Hatano E, Sakamoto H, Ohta T,

- Fujino Y, Morinaga S, Tahara M, Ambo Y, Ohta K, Fujii T, Shirakawa H, Nagano H, Miyamoto A, Takeda K, Sugimachi K, Furuse J: The assessment of preoperative diagnostic accuracy of multidetector-row computed tomography (MDCT) for resectable biliary tract cancer- multi-institutional validity study in Japan. Digestive Disease Week 2019, USA, May 18th-21st, 2019.
7. Shibasaki-Hirano H, Usukura C, Katsumata S, Hirahara Y, Hirano R, Yokokawa A, Maesono T, Kawai K, Nishioka M, Kobayashi T, Okano N, Nagashima F, Furuse J: Simultaneous measurement of regorafenib and its metabolites in human plasma using HPLC and pharmacokinetics in Japanese patients. 日本TDM学会学術集会, 東京, 2019年5月25-26日.
  8. Kudo M, Motomura K, Wada Y, Inaba Y, Sakamoto Y, Kurosaki M, Umeyama Y, Kamei Y, Yoshimitsu J, Fujii Y, Aizawa M, Robbins PB, Furuse J: First-line avelumab + axitinib in patients with advanced hepatocellular carcinoma: results from a phase 1b trial (VEGF Liver 100). ASCO2019, USA, June 3rd, 2019.
  9. 古瀬純司: 肝細胞癌に対する薬物療法: 最近の話題と今後の展望. 第31回日本肝胆膵外科学会学術集会, 高松, 2019年6月14日.
  10. Furuse J, Kawakami H, Mizukami T, Ozaka M, Okano N, Ueno M, Hijioka S, Ueno T, Naito Y, Nakajima TE: International clinical practice guidelines for metastatic liver tumors: Interim report. The 31st Meeting of Japan Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 高松, 2019年6月14日.
  11. 長島文夫: 高齢者がん診療の考え方 高齢者機能評価と意思決定支援を含めて. 第1回地域がん医療連携研修会, 横浜, 2019年6月25日.
  12. 池田公史, 工藤正俊, 奥坂拓志, 本村健太, 大野泉, 森本学, 瀬尾智, 和田幸之, 佐藤新平, 山下竜也, 古川正幸, 新楨剛, 灘野成人, 大川和良, 藤井博文, 工藤敏啓, 古瀬純司, 高井弘基, 本間剛介, 吉川麗月, Andrew X. Zhu: ソラフェニブ後のAFP高値進行肝細胞癌に対するラムシルマブ: 2つの国際共同無作為化第3相試験の併合解析における日本人患者の有効性と安全性. 第20回日本肝がん分子標的治療研究会, 長崎, 2019年6月29日.
  13. 古瀬純司, 泉並木, 工藤正俊, 本村健太, 藪下和久, 稲葉吉隆, 片村嘉男, 近藤泰輝: 切除不能な肝細胞癌患者に対するレンバチニブ投与の多施設観察研究-中間報告-. 第20回日本肝がん分子標的治療研究会, 長崎, 2019年6月29日.
  14. 古瀬純司: バイオマーカー. (特別発言) 第55回日本肝癌研究会, 東京, 2019年7月5日.
  15. 古瀬純司: 膵癌の薬物療法-これまでとこれから. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
  16. 古瀬純司, 福富晃, 水野伸匡, 尾阪将人, 井岡達也, 奥坂拓志: 切除不能膵癌に対する化学療法. 膵癌診療ガイドライン2019. 膵癌診療の進歩値明日への提言. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
  17. 庄司広和, 工藤千恵, 高石官均, 高橋直樹, 傳田忠道, 川上武志, 山口研成, 古瀬純司, 森脇俊和, 高野利美, 澤田亮一, 宮本敬大, 今関洋, 青木一教, 室圭, 朴成和: 標準治療に不応不耐進行胃癌患者に対するNivolumab療法のBiomarker研究. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019年7月18日.
  18. 津村英隆, 森実千種, 野村尚吾, 高橋秀明, 岡野尚弘, 水野伸匡, 佐竹悠良, 辻国広, 塩路和彦, 浅木彰則, 安居幸一郎, 宮川浩之, 石黒敦, 小倉孝, 上野誠, 飛松和俊, 寺島健志, 池田公史, 奥坂拓志, 古瀬純司: Phase II trial of GEMOX for the advanced pancreatic cancer with family/personal history of HBOC related cancer. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019年7月19日.
  19. Morizane C, Ikeda M, Ueno M, Kobayashi S, Ohno I, Kondo S, Okano N, Kimura K, Asada S, Namba Y, Okusaka T, Furuse J: Open-label, phase I study of nivolumab or nivolumab/cisplatin/gemcitabine in patients with unresectable/recurrent biliary tract cancer. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019年7月19日.
  20. Ikeda M, Okuyama H, Okusaka T, Furuse J, Furukawa M, Ohkawa S, Hosokawa A, Kojima Y, Hara H, Murohisa G, Shioji K, Asagi A, Mizuno N, Kojima M, Yamanaka T: Everolimus for advanced pancreatic neuroendocrine carcinoma refractory or intolerant to platinum-based chemotherapy. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019年7月19日.
  21. 岡野尚弘: 好中球減少に対するマネジメント. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019年7月19日.
  22. 古瀬純司, 丸山大, 木村綾, 中村健一, 福田治彦: JCOGにおける患者参画の取り組みと展望. 臨床試験への患者参画. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019年7月20日.
  23. 古瀬純司: 肝細胞癌の治療戦略-薬物療法の動向と今後の展望. 第2回Digestive Expert Forum in Osaka, 大阪, 2019年7月26日.
  24. 長島文夫: 高齢者のがん診療の考え方. 第28回多摩骨軟部腫瘍研究会, 三鷹, 2019年8月24日.
  25. Furuse J: Molecular targeted therapy for advanced HCC: review of the clinical trials results. Molecular Targeted Therapy: Regional Difference of Treatment Strategy for Intermediate/Advanced stage HCC Patients in a Era of Multi-Targeted Agents Era. The 10th Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Meeting. 札幌, 2019年8月31日.
  26. 古瀬純司: 肝細胞癌の薬物療法-1次治療から2次治療へのエビデンス. NEXT Web conference, 東京, 2019年9月4日.
  27. 古瀬純司: 肝細胞癌の治療戦略-薬物療法の動向と今後の展望. 第15回広島肝胆膵研究会, 広島, 2019年9月6日.
  28. 佐々木エリ, 前野聡子, 河合桐男, 小林敬明, 岡野尚弘, 北村浩, 古瀬純司, 長島文夫: がん従事者に対するロボット介護機器のアンケート調査. 第4回日本がんサポーターケア学会学術集会, 青森, 2019年9月6-7日.
  29. 前野聡子, 佐々木エリ, 河合桐男, 小林敬明, 岡野尚弘, 北村浩, 古瀬純司, 長島文夫: 高齢がん患者における脆弱性の評価と介入を行った症例~各種ガイドラインの活用. 第4回日本がんサポーターケア学会学術集会, 青森, 2019年9月6-7日.
  30. 佐々木哲哉, 前野聡子, 佐々木エリ, 長島文夫: 殺細胞性抗癌薬の添付文書に掲載される依存症治療薬との薬物間相互作用の評価. 第4回日本がんサポーターケア学会学術集会, 青森, 2019年9月6-7日.
  31. 古瀬純司: 膵癌化学療法の進歩と期待. 第164回福岡膵懇話会学術講演会, 福岡, 2019年9月11日.
  32. 長島文夫: 高齢者のがん薬物治療の考え方. 東京都病

- 院薬剤師会臨床薬学研究会, 八王子, 2019年9月19日.
33. 古瀬純司: 膵がん薬物療法の進歩ーがんゲノム医療でどう変わる?. 第71回日本消化器画像診断研究会, 和歌山, 2019年9月21日.
  34. Okano N, Ueno M, Morizane C, Yamanaka T, Ojima H, Ozaka M, Sasaki M, Takahara N, Kobayashi S, Morimoto M, Hosoi H, Nakai Y, Ikeda M, Maeno S, Nagashima F, Okusaka T, Furuse J: Multicenter phase II trial of axitinib monotherapy for advanced biliary tract cancer refractory to gemcitabine-based chemotherapy. ESMO2019, Spain, September 27th-October 1st, 2019.
  35. Hashimoto Y, Hijioka S, Hirooka Y, Ohno E, Ioka T, Kobayashi S, Okusaka T, Maruki Y, Yashika J, Ashida R, Furuse J, Ikeda M, Kasuya H, Tanaka M, Ueno M: Results from phase I study of the oncolytic viral immunotherapy agent Canerpaturev (C-REV) in combination with gemcitabine plus nab-paclitaxel as first-line treatment of unresectable pancreatic cancer. ESMO2019, Spain, September 27th-October 1st, 2019.
  36. Hijioka S, Ueno M, Ioka T, Hirooka Y, Ohno E, Ozaka M, Okusaka T, Maruki Y, Kobayashi S, Ashida R, Yashika J, Furuse J, Ikeda M, Kasuya H, Tanaka M, Hashimoto Y: Phase I study of the oncolytic viral immunotherapy agent Canerpaturev (C-REV) with S-1 in patients with stage IV pancreatic cancer. ESMO2019, Spain, September 27th-October 1st, 2019.
  37. Okamoto W, Nakamura Y, Shiozawa M, Komatsu Y, Denda T, Hara H, Kagawa Y, Narita Y, Kawakami H, Esaki T, Nishina T, Izawa N, Ando K, Moriwaki T, Kato T, Nagashima F, Satoh T, Nomura S, Yoshino T, Akagi K: Microsatellite Instability Status in Metastatic Colorectal Cancer and Effect of Immune Checkpoint Inhibitors on Survival in MSI-High Metastatic Colorectal Cancer. ESMO 2019, Spain, September 27th-October 1st, 2019.
  38. Kawamoto Y, Nakamura Y, Ikeda M, Bando H, Esaki T, Ueno M, Nishino T, Kagawa Y, Oki E, Denta T, Mizukami T, Takahashi N, Okano N, Miki I, Sakamoto Y, M.Lefterova, J.Odegaard, Taniguchi H, Morizane C, Yoshino T: Biological difference of tumor mutational burden(TMB)and microsatellite instability(MSI)status in patients with somatic vs. germline BRCA1/2-mutated advanced gastrointestinal(GI)cancers using cell-free DNA(cfDNA)sequencing analysis in the GOZILA study. ESMO 2019, Spain, September 27th-October 1st, 2019.
  39. 古瀬純司, 奥坂拓志, 小西大, 山崎秀哉: 胆道癌診療ガイドライン改訂のポイント: 胆道癌に対する化学療法・放射線療法. 第55回日本胆道学会学術集会, 名古屋, 2019年10月3-4日.
  40. 長島文夫: 高齢者のがん医療の考え方. Nagasaki Hematology Seminar, 長崎, 2019年10月4日.
  41. 長島文夫: 高齢者のがん診療の考え方: 第4回多摩エリアの化学療法を考える会. 調布, 2019年10月11日.
  42. Nakajima TE, Mizukami T, Takeda H, Kawakami H, Okano N, Ueno M, Hijioka S, Ozaka M, Ueno T, Naito Y, Furuse J: Chemotherapy. International clinical practice guidelines for metastatic liver tumors. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月24日.
  43. 長島文夫, 岡野尚弘, 河合桐男, 前園知宏, 西岡真理子, 杉浦ちとせ, 小林敬明, 水谷友紀, 古瀬純司: 高齢者に対するがん治療の適応と限界: 日本における老年腫瘍学の現状. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月24日.
  44. 中島貴子, 水上拓郎, 武田弘幸, 川上尚人, 岡野尚弘, 上野誠, 脇岡範, 尾坂将人, 上野貴之, 内藤陽一, 古瀬純司: 転移性肝腫瘍国際診療ガイドライン中間報告. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月24日.
  45. 古瀬純司: がん腫別に考える体重減少とその要因: 膵癌. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月25日.
  46. 西岡真理子, 古瀬純司: 当院のゲムシタピン不応膵癌に対するゲムシタピン+ナブパクリタキセル併用療法の治療成績. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月25日.
  47. Furuse J, Okano N, Ueno M, Kawai M, Yamanaka T, Yamaue H: Conversion Surgery for unresectable Pancreatic Cancer. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月26日.
  48. 河合桐男, 古瀬純司: 50%以上の肝占拠病変もしくは門脈本幹浸潤Vp4の肝細胞癌にレンパチニを使用した3例. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月26日.
  49. 前園知宏, 古瀬純司: 切除可能膵癌への術後補助療法S-1後に再発した切除不能膵癌へのFOLFIRINOX療法の検討. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月26日.
  50. 長島文夫: 高齢者がん診療の考え方ー国内外のガイドラインを参考にー. 第15回GI-Net Club学術講演会, 大阪, 2019年10月26日.
  51. 長島文夫: 高齢者のがん薬物療法の考え方ー国内外のガイドラインを参考にー. 第4回栃木県がん領域薬剤師フォーラム, 宇都宮, 2019年10月28日.
  52. 長島文夫: 高齢者のがん治療. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2019年11月2日.
  53. Hiraoka Y, Nakamura Y, Kawamoto Y, Ikeda M, Bando H, Esaki T, Ueno M, Nishina T, Kagawa Y, Oki E, Denda T, Migita O, Takahashi N, Okano N, Ogata Y, Lefterova M, Odegaard J, Taniguchi H, Morizane C, Yoshino T, Kuwata T: Purative Germline BRCA1/2 Mutations in Patients(pts)with Advanced Gastrointestinal(GI)Cancers Using Circulating Cell-Free Tumor DNA(cfDNA) Analysis in the GOZILA study. NSGC38th Annual Conference, USA, November 5th-8th, 2019.
  54. Maesono T, Nishioka M, Sugiura C, Kawai K, Okano N, Kobayashi T, Mizutani T, Nagashima F, Shibahara J, Sakamoto Y, Furuse J: A Case of Unresectable Pancreatic Cancer with BRCA1 Gene Mutation Effectively Worked by modified FOLFIRINOX after Gemcitabine plus nab-Paclitaxel Refractory. APA-JPS joint meeting in 2019, USA, November 7th, 2019.
  55. Matsuoka A, Tsubata Y, Mizutani T, Takahashi M, Shimodaira H, Hamamoto Y, Nagashima F, Ando Y: Development and Distribution of the Japanese Edition of SIOG Educational Materials, 19th Conference of the international Society of Geriatric Oncology, Switzerland, November 14th-



- 16th, 2019.
56. 黒澤貴志, 岡野尚弘, 松木亮太, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 鈴木裕, 長島文夫, 柴原純二, 阪本良弘, 古瀬純司: 切除不能膵癌に対するconversion surgery後の再発と治療選択について. JDDW2019, 第61回日本消化器病学会大会, 神戸, 2019年11月21日.
  57. 古瀬純司: 肝細胞がんにおける薬物療法—最近の動向. JDDW2019, 第23回日本肝臓学会大会, 神戸, 2019年11月22日.
  58. 岡野尚弘: 胆膵癌化学療法最新の知見. 第27回日本消化器関連学会週間, 神戸, 2019年11月23日.
  59. 古瀬純司: がんゲノム医療の現状と動向—今何ができるか. 多摩エリア大腸がんセミナー, 立川, 2019年11月28日.
  60. 坂田好美, 古瀬純司: VTE Expert meeting in MITAKA, 三鷹, 2019年11月29日.
  61. Ioka T, Nakamori S, Sugimori K, Kanai M, Ikeda M, Ozaka M, Furukawa M, Okusaka T, Kawabe K, Furuse J, Komatsu Y, Ishii H, Sato A, Shimizu S, Chugh P, Rui Tang R, Seraj J, Ueno M: Liposomal irinotecan (nal-IRI) plus 5-fluorouracil/levoleucovorin (5 FU/LV) vs 5-FU/LV in Japanese patients (pts) with gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer (mPAC). ESMO-Asia 2019, Singapore, November 22nd-24th, 2019.
  62. 古瀬純司: 膵・胆道癌 薬物療法の最近の動向とJCOG肝胆膵グループの取り組み. 第7回関西肝胆道オンコロジーグループ学術集会, 山口, 2019年12月21日.
  63. 古瀬純司: 膵がん治療の最前線—がんゲノム医療は膵がん治療を変える. パンキャンジャパン膵臓がん勉強会クリスマス・スペシャル, 東京, 2019年12月22日.
  64. 古瀬純司, 吉岡祐亮: ゲノム医療の時代におけるリキッドバイオプシーの役割. 第4回リキッドバイオプシー研究会, 東京, 2020年1月17-18日.
  65. Nakamura Y, Taniguchi H, Bando H, Kato K, Esaki T, Komatsu Y, Takahashi N, Ueno M, Kagawa Y, Nishina T, Kato T, Yamamoto Y, Furuse J, Denda T, Kawakami H, Oki E, Sunakawa Y, Satoh T, Yoshino T, Ohtsu A: Utility of Circulating Tumor DNA (ctDNA) versus Tumor Tissue Clinical Sequencing for Enrolling Patients with Advanced Gastrointestinal (GI) Cancer to Matched Clinical Trials: SCRUM-Japan GI-SCREEN and GOZILA Combined Analysis. 2020 Gastrointestinal cancers symposium, USA, January 23rd-25th, 2020.
  66. Morizane C, Ueno M, Ioka T, Tajika M, Ikeda M, Yamaguchi K, Hara H, Yabusaki H, Miyamoto A, Iwasa S, Muto M, Takashima T, Minashi K, Komatsu Y, Nishina T, Nakajima TE, Sahara T, Funasaka S, Yashiro M, Furuse J: Expansion part of phase 1 study of E7090 in patients with cholangiocarcinoma harboring FGFR2 gene fusion and with gastric cancer harboring FGFR2 gene amplification or FGFR2 protein high expression. 2020 Gastrointestinal cancers symposium, USA, January 23rd-25th, 2020.
  67. Yoshida Y, Fukutomi A, Ueno M, Mori K, Watanabe K, Ohba A, Kobayashi S, Furuta M, Tsujimoto A, Osaka M, Okano N, Yane K, Umemoto K, Kawamoto Y, Terashima T, Tsumura H, Doi K, Shioji K, Asagi A, Furuse J: Efficacy of chemotherapy for patients with unresectable or recurrent pancreatic adenosquamous carcinoma: a multicenter retrospective analysis. 2020 Gastrointestinal cancers symposium, USA, January 23rd-25th, 2020.
  68. Todaka A, Nara S, Motoi F, Morinaga S, Hama N, Higuchi R, Konishi M, Shirakawa H, Tsumura H, Okuyama H, Matsui H, Shioji K, Sugimachi K, Asagi A, Mizuno N, Fukutomi A, Furuse J: Multicenter retrospective observational study of pancreatic cancer with positive peritoneal lavage cytology intended for surgical resection. 2020 Gastrointestinal cancers symposium, USA, January 23rd-25th, 2020.
  69. Bekaii-Saab TS, Valle JW, Van Cutsem E, Rimassa L, Furuse J, Ioka T, Melisi D, Macarulla T, Bridgewater JA, Wasan HS, Borad MJ, Lihou CF, Zhen H, Luis Féliz L, Asatiani E, Jiang P, Vogel A: FIGHT-302: Phase 3 Study of First-line Pemigatinib Versus Gemcitabine Plus Cisplatin for Cholangiocarcinoma With FGFR2 Fusions or Rearrangements. 2020 Gastrointestinal cancers symposium, USA, January 23rd-25th, 2020.
  70. Borad MJ, Bridgewater JA, Morizane C, Shroff RT, Oh DY, Moehler M, Furuse J, Benhadji KA, He Y, Valle JW: An open-label, randomized phase 3 study of futibatinib (TAS-120) versus gemcitabine-cisplatin chemotherapy as first-line treatment for patients with advanced cholangiocarcinoma harboring fibroblast growth factor receptor 2 gene rearrangements (FOENIX-CCA3). 2020 Gastrointestinal cancers symposium, January 23rd-25th, 2020.
  71. 古瀬純司: 膵がん薬物療法の進歩—がんゲノム医療でどう変わる?. T-CORE college 2020, 仙台, 2020年2月8日.
  72. Furuse J: Patient and Public Involvement, PPI. JCOG-EORTC symposium, Tokyo, February 15th, 2020.
  73. 長島文夫: 高齢がん患者の治療選択について考える. 第34回日本がん看護学会学術集会, 東京, 2020年2月22日.
- 論文**
- 欧文
1. Kudo M<sup>1</sup>, Ueshima K<sup>1</sup>, Ikeda M<sup>2</sup>, Torimura T<sup>3</sup>, Tanabe N<sup>4</sup>, Aikata H<sup>5</sup>, Izumi N<sup>6</sup>, Yamasaki T<sup>7</sup>, Nojiri S<sup>8</sup>, Hino K<sup>9</sup>, Tsumura H<sup>10</sup>, Kuzuya T<sup>11</sup>, Isoda N<sup>12</sup>, Yasui K<sup>13</sup>, Aino H<sup>14</sup>, Ido A<sup>15</sup>, Kawabe N<sup>16</sup>, Nakao K<sup>17</sup>, Wada Y<sup>18</sup>, Yokosuka O<sup>19</sup>, Yoshimura K<sup>20</sup>, Okusaka T<sup>21</sup>, Furuse J, Kokudo N<sup>22</sup>, Okita K<sup>23</sup>, Johnson PJ<sup>24</sup>, Arai Y<sup>21</sup>(<sup>1</sup>Kindai University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>3</sup>Kurume University School of Medicine, <sup>4</sup>National Hospital Organisation Sendai Medical Center, <sup>5</sup>Hiroshima University, <sup>6</sup>Musashino Red Cross Hospital, <sup>7</sup>Yamaguchi University Graduate School of Medicine, <sup>8</sup>Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, <sup>9</sup>Kawasaki Medical School, <sup>10</sup>Hyogo Cancer Center, <sup>11</sup>Nagoya University Graduate School of Medicine, <sup>12</sup>Jichi Medical University, <sup>13</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>14</sup>Social Insurance Tagawa Hospital, <sup>15</sup>Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, <sup>16</sup>Fujita Health University School of Medicine, <sup>17</sup>Nagasaki

- University Graduate School of Biomedical Sciences, <sup>18</sup>National Hospital Organization Kyushu Medical Center, <sup>19</sup>Chiba University, <sup>20</sup>Hiroshima University, <sup>21</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>22</sup>National Center for Global Health and Medicine, <sup>23</sup>Shunan Memorial Hospital, <sup>24</sup>University of Liverpool, TACTICS study group): Randomised, multicentre prospective trial of transarterial chemoembolisation (TACE) plus sorafenib as compared with TACE alone in patients with hepatocellular carcinoma: TACTICS trial. *Gut* 2019. DOI: 10.1136/gutjnl-2019-318934. [Epub ahead of print]
2. Koyama T<sup>1</sup>, Shimizu T<sup>1</sup>, Iwasa S<sup>1</sup>, Fujiwara Y<sup>1</sup>, Kondo S<sup>1</sup>, Kitano S<sup>1</sup>, Yonemori K<sup>1</sup>, Shimomura A<sup>1</sup>, Iizumi S<sup>1</sup>, Sasaki T<sup>2</sup>, Furuse J, Yamamoto N<sup>1</sup>(<sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>Eisai): First-in-human phase I study of E7090, a novel selective FGFR inhibitor, in patients with advanced solid tumors. *Cancer Sci* 111(2): 571-579, 2019.
  3. Ueno M<sup>1</sup>, Morizane C<sup>2</sup>, Ikeda M<sup>3</sup>, Okusaka T<sup>2</sup>, Ishii H<sup>4</sup>, Furuse J (<sup>1</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>4</sup>Chiba Cancer Center): A review of changes to and clinical implications of the eighth TNM classification of hepatobiliary and pancreatic cancers. *Jpn J Clin Oncol* 249(12): 1073-1082, 2019.
  4. Morizane C<sup>1</sup>, Okusaka T<sup>1</sup>, Mizusawa J<sup>1</sup>, Katayama H<sup>2</sup>, Ueno M<sup>3</sup>, Ikeda M<sup>4</sup>, Ozaka M<sup>5</sup>, Okano N, Sugimori K<sup>6</sup>, Fukutomi A<sup>7</sup>, Hara H<sup>8</sup>, Mizuno N<sup>9</sup>, Yanagimoto H<sup>10</sup>, Wada K<sup>11</sup>, Tobimatsu K<sup>12</sup>, Yane K<sup>13</sup>, Nakamori S<sup>14</sup>, Yamaguchi H<sup>15</sup>, Asagi A<sup>16</sup>, Yukisawa S<sup>17</sup>, Kojima Y<sup>18</sup>, Kawabe K<sup>19</sup>, Kawamoto Y<sup>20</sup>, Sugimoto R<sup>21</sup>, Iwai T<sup>22</sup>, Nakamura K<sup>23</sup>, Miyakawa H<sup>24</sup>, Yamashita T<sup>25</sup>, Hosokawa A<sup>26</sup>, Ioka T<sup>27</sup>, Kato N<sup>28</sup>, Shioji K<sup>29</sup>, Shimizu K<sup>30</sup>, Nakagohri T<sup>31</sup>, Kamata K<sup>32</sup>, Ishii H<sup>23</sup>, Furuse J (<sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>4</sup>Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>5</sup>Yokohama City University Medical Center, <sup>6</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>7</sup>Saitama Cancer Center, <sup>8</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>9</sup>Kansai Medical University Hospital, <sup>10</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>11</sup>Department of Internal Medicine Kobe University Graduate School of Medicine, <sup>12</sup>Teine Keijinkai Hospital, <sup>13</sup>National Hospital Organization Osaka National Hospital, <sup>14</sup>Jichi Medical University, <sup>15</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>16</sup>Tochigi Cancer Center, <sup>17</sup>National Center for Global Health and Medicine, <sup>18</sup>Kyushu University, <sup>19</sup>Hokkaido University Hospital, <sup>20</sup>National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, <sup>21</sup>Kitasato University Hospital, <sup>22</sup>Chiba Cancer Center, <sup>23</sup>Sapporo Kousei General Hospital, <sup>24</sup>Kanazawa University, <sup>25</sup>University of Toyama, <sup>26</sup>Osaka International Cancer Institute, <sup>27</sup>Chiba University, <sup>28</sup>Niigata Cancer Center Hospital, <sup>29</sup>Tokyo Women's Medical University, <sup>30</sup>Tokai University School of Medicine, <sup>31</sup>Tokai University School of Medicine, <sup>32</sup>Kindai University Faculty of Medicine) : Combination gemcitabine plus S-1 versus gemcitabine plus cisplatin for advanced/recurrent biliary tract cancer: The FUGA-BT (JCOG1113) Randomized Phase III Clinical Trial. *Ann Oncol* 30(12):1950-1958, 2019.
  5. Hamauchi S<sup>1</sup>, Furuse J, Takano T<sup>2</sup>, Munemoto Y<sup>3</sup>, Furuya K<sup>4</sup>, Baba H<sup>5</sup>, Takeuchi M<sup>6</sup>, Choda Y<sup>7</sup>, Higashiguchi T<sup>8</sup>, Naito T<sup>9</sup>, Muro K<sup>10</sup>, Takayama K<sup>11</sup>, Oyama S<sup>12</sup>, Takiguchi T<sup>12</sup>, Komura N<sup>12</sup>, Tamura K<sup>13</sup>(<sup>1</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>2</sup>Toranomon Hospital, <sup>3</sup>Fukui-ken Saiseikai Hospital, <sup>4</sup>Hokkaido Hospital, <sup>5</sup>Kumamoto University, <sup>6</sup>Nagaoka Red Cross Hospital, <sup>7</sup>Hiroshima Citizens Hospital, <sup>8</sup>Fujita Health University School of Medicine, <sup>9</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>10</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>11</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>12</sup>Ono Pharmaceutical Company, <sup>13</sup>Fukuoka University) : A multicenter, open-label, single-arm study of anamorelin (ONO-7643) in advanced gastrointestinal cancer patients with cancer cachexia. *Cancer* 125(23):4294-4302, 2019.
  6. Furuse J: Paradigm shifting of systemic chemotherapy for unresectable pancreatic cancer in Japan. *J Clin Med* 8(8): 1170, 2019.
  7. Hamaguchi T<sup>1</sup>, Denda T<sup>2</sup>, Kudo T<sup>3</sup>, Sugimoto N<sup>4</sup>, Ura T<sup>5</sup>, Yamazaki K<sup>6</sup>, Fujii H<sup>7</sup>, Kajiwarra T<sup>8</sup>, Nakajima TE<sup>9</sup>, Takahashi S<sup>10</sup>, Otsu S<sup>11</sup>, Komatsu Y<sup>12</sup>, Nagashima F, Moriwaki T<sup>13</sup>, Esaki T<sup>14</sup>, Sato T<sup>15</sup>, Itabashi M<sup>16</sup>, Oki E<sup>17</sup>, Sasaki T<sup>18</sup>, Chiron M<sup>19</sup>, Yoshino T<sup>20</sup> (<sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>Chiba Cancer Center, <sup>3</sup>Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>4</sup>Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease, <sup>5</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>6</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>7</sup>Jichi Medical University Hospital, <sup>8</sup>Shikoku Cancer Center, <sup>9</sup>St. Marianna University School of Medicine Hospital, <sup>10</sup>Tohoku University Hospital, <sup>11</sup>Oita University Hospital, <sup>12</sup>Hokkaido University Hospital, <sup>13</sup>University of Tsukuba Hospital, <sup>14</sup>National Kyushu Cancer Center, <sup>15</sup>Kitasato University East Hospital, <sup>16</sup>Tokyo Women's Medical University Hospital, <sup>17</sup>Kyushu University Hospital, <sup>18</sup>Sanofi K. K, <sup>19</sup>Sanofi, <sup>20</sup>National Cancer Center Hospital East): Exploration of potential prognostic biomarkers in aflibercept plus FOLFIRI in Japanese patients with metastatic colorectal cancer. *Cancer Sci* 110(11): 3565-3572, 2019.
  8. Ueno M<sup>1</sup>, Nagashima F, Ueno H<sup>2</sup>, Ikeda M<sup>3</sup>, Ohkawa S<sup>1</sup>, Mizuno N<sup>4</sup>, Ioka T<sup>5</sup>, Omuro Y<sup>6</sup>, Nakajima TE<sup>7</sup>, Furuse J (<sup>1</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>4</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>5</sup>Osaka International Cancer Institute, <sup>6</sup>Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, <sup>7</sup>St. Marianna University School of Medicine Hospital) : Phase I/II study: experience with the late onset of acute pancreatitis after the start of chemotherapy with gemcitabine plus nab-paclitaxel for metastatic pancreatic cancer. *Intern Med* 58(20): 2957-2962, 2019.
  9. Kudo M<sup>1</sup>, Ikeda M<sup>2</sup>, Ueshima K<sup>1</sup>, Sakamoto M<sup>3</sup>, Shiina S<sup>4</sup>, Tateishi R<sup>2</sup>, Hasegawa K<sup>5</sup>, Furuse J, Miyayama S<sup>6</sup>, Murakami T<sup>7</sup>, Yamashita T<sup>8</sup>, Kokudo N<sup>9</sup>(<sup>1</sup>Kindai University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>3</sup>Keio University School of Medicine, <sup>4</sup>Juntendo

- University, <sup>5</sup>University of Tokyo, <sup>6</sup>Fukuiken Saiseikai Hospital, <sup>7</sup>Kobe University Graduate School of Medicine, <sup>8</sup>Kanazawa University, <sup>9</sup>National Center for Global Health and Medicine): Response evaluation criteria in cancer of the liver version 5 (RECICL 2019 revised version). *Hepatol Res* 49(9): 981-989, 2019.
10. Ueno M<sup>1</sup>, Ikeda M<sup>2</sup>, Morizane C<sup>3</sup>, Kobayashi S<sup>1</sup>, Ohno I<sup>2</sup>, Kondo S<sup>3</sup>, Okano N, Kimura K<sup>4</sup>, Asada S<sup>4</sup>, Namba Y<sup>4</sup>, Okusaka T<sup>3</sup>, Furuse J (<sup>1</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup>Ono Pharmaceutical Co, Ltd): Nivolumab alone or in combination with cisplatin plus gemcitabine in Japanese patients with unresectable or recurrent biliary tract cancer: a non-randomised, multicentre, open-label, phase 1 study. *Lancet Gastroenterol Hepatol* :4(8):611-621, 2019.
  11. Hidaka H<sup>1</sup>, Izumi N<sup>2</sup>, Aramaki T<sup>3</sup>, Ikeda M<sup>4</sup>, Inaba Y<sup>5</sup>, Imanaka K<sup>6</sup>, Okusaka T<sup>7</sup>, Kanazawa S<sup>8</sup>, Kaneko S<sup>9</sup>, Kora S<sup>10</sup>, Saito H<sup>11</sup>, Furuse J, Matsui O<sup>12</sup>, Yamashita T<sup>9</sup>, Yokosuka O<sup>13</sup>, Morita S<sup>14</sup>, Arioka H<sup>15</sup>, Kudo M<sup>16</sup>, Arai Y<sup>7</sup>(<sup>1</sup>Kitasato University School of Medicine, <sup>2</sup>Musashino Red Cross Hospital, <sup>3</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>4</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>5</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>6</sup>Osaka International Cancer Institute, <sup>7</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>8</sup>Okayama University Medical School, <sup>9</sup>Kanazawa University Hospital, <sup>10</sup>Fukuoka University, <sup>11</sup>Asahikawa Kosei General Hospital, <sup>12</sup>Kanazawa University Graduate School of Medical Science, <sup>13</sup>Chiba University, <sup>14</sup> Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>15</sup>Yokohama Rosai Hospital, <sup>16</sup>Kindai University Faculty of Medicine): Subgroup analysis of efficacy and safety of orantinib in combination with TACE in Japanese HCC patients in a randomized phase III trial (ORIENTAL). *Med Oncol* 36(6): 52, 2019.
  12. Yamamoto N<sup>1</sup>, Ryoo BY<sup>2</sup>, Keam B<sup>3</sup>, Kudo M<sup>4</sup>, Lin CC<sup>5</sup>, Kunieda F<sup>6</sup>, Ball HA<sup>6</sup>, Moran D<sup>6</sup>, Komatsu K<sup>7</sup>, Takeda K<sup>6</sup>, Fukuda M<sup>7</sup>, Furuse J, Morita S<sup>8</sup>, Doi T<sup>9</sup>(<sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>University of Ulsan, <sup>3</sup>Seoul National University Hospital, <sup>4</sup>Kindai University, <sup>5</sup> National Taiwan University Hospital, <sup>6</sup>Astellas Pharma Global Development, Inc, <sup>7</sup>Astellas Pharma, <sup>8</sup>Kyoto University, <sup>9</sup>National Cancer Center Hospital East): A phase 1 study of oral ASP5878, a selective small-molecule inhibitor of fibroblast growth factor receptors 1-4, as a single dose and multiple doses in patients with solid malignancies. *Invest New Drugs*, 2019. DOI: 10.1007/s10637-019-00780-w. [Epub ahead of print]
  13. Kaibori M<sup>1</sup>, Yoshii K<sup>2</sup>, Yokota I<sup>3</sup>, Hasegawa K<sup>3</sup>, Nagashima F, Kubo S<sup>4</sup>, Kon M<sup>5</sup>, Izumi N<sup>6</sup>, Kadoya M<sup>7</sup>, Kudo M<sup>8</sup>, Kumada T<sup>9</sup>, Sakamoto M<sup>10</sup>, Nakashima O<sup>11</sup>, Matsuyama Y<sup>12</sup>, Takayama T<sup>13</sup>, Kokudo N<sup>14</sup>(<sup>1</sup>Kansai Medical University, <sup>2</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>3</sup>The University of Tokyo, <sup>4</sup>Osaka City University Graduate School of Medicine, <sup>5</sup>Musashino Red Cross Hospital, <sup>6</sup>Shinshu University School of Medicine, <sup>7</sup>Kinki University School of Medicine, <sup>8</sup>Ogaki Municipal Hospital, <sup>9</sup>Keio University School of Medicine, <sup>10</sup>Kurume University Hospital, <sup>11</sup>School of Public Health University of Tokyo, <sup>12</sup> Nihon University School of Medicine, <sup>13</sup>National Center for Global Health and Medicine, Liver Cancer Study Group of Japan): Impact of Advanced Age on Survival in Patients Undergoing Resection of Hepatocellular Carcinoma: Report of a Japanese Nationwide Survey. *Ann Surg* 269(4): 692-699, 2019.
  14. Mizutani T<sup>1</sup>, Nakamura K<sup>1</sup>, Fukuda H<sup>1</sup>, Ogawa A<sup>2</sup>, Hamaguchi T<sup>3</sup>, Nagashima F (<sup>1</sup> National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>3</sup>Saitama Medical University International Medical Center, Geriatric Study Committee/Japan Clinical Oncology Group) Geriatric Research Policy: Japan Clinical Oncology Group (JCOG) policy. *Japanese Journal of Clinical Oncology* 49(10):901-910, 2019.
  15. Okusaka T<sup>1</sup>, Nakamura M<sup>2</sup>, Yoshida M<sup>3</sup>, Kitano M<sup>4</sup>, Uesaka K<sup>5</sup>, Ito Y<sup>6</sup>, Furuse J, Hanada K<sup>7</sup>, Okazaki K<sup>8</sup> (<sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>Kyushu University, <sup>3</sup>International University of Health and Welfare, <sup>4</sup>Wakayama Medical University, <sup>5</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>6</sup>Showa University School of Medicine, <sup>7</sup>JA Onomichi General Hospital, <sup>8</sup>Kansai Medical University) Committee for Revision of Clinical Guidelines for Pancreatic Cancer of the Japan Pancreas Society: Clinical Practice Guidelines for Pancreatic Cancer 2019 From the Japan Pancreas Society: A Synopsis. *Pancreas* 49(3):326-335, 2020.
  16. Kudo M<sup>1</sup>, Okusaka T<sup>2</sup>, Motomura K<sup>3</sup>, Ohno I<sup>4</sup>, Morimoto M<sup>5</sup>, Seo S<sup>6</sup>, Wada Y<sup>7</sup>, Sato S<sup>8</sup>, Yamashita T<sup>9</sup>, Furukawa M<sup>10</sup>, Aramaki T<sup>11</sup>, Nadano S<sup>12</sup>, Ohkawa K<sup>13</sup>, Fujii H<sup>14</sup>, Kudo T<sup>15</sup>, Furuse J, Takai H<sup>16</sup>, Homma G<sup>16</sup>, Yoshikawa R<sup>16</sup>, Zhu AX<sup>17</sup>(<sup>1</sup>Kindai University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>3</sup>Aso Iizuka Hospital, <sup>4</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>5</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>6</sup>Kyoto University, <sup>7</sup>National Hospital Organization Kyushu Medical Center, <sup>8</sup>Kyoundo Hospital, Sasaki Institute, <sup>9</sup>Kanazawa University, <sup>10</sup>National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, <sup>11</sup>Shizuoka Cancer Center Hospital, <sup>12</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>13</sup>Osaka International Cancer Institute, <sup>14</sup>Jichi Medical University, <sup>15</sup>Osaka University, <sup>16</sup>Eli Lilly Japan K.K, <sup>17</sup>Massachusetts General Hospital Cancer Center): Ramucirumab after prior sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma and elevated alpha-fetoprotein: Japanese subgroup analysis of the REACH-2 trial. *J Gastroenterol* 2020. DOI:10.1007/s00535-020-01668-w. [Epub ahead of print]
  17. Okuyama H<sup>1,2</sup>, Ikeda M<sup>2</sup>, Okusaka T<sup>3</sup>, Furukawa M<sup>4</sup>, Ohkawa S<sup>5</sup>, Hosokawa A<sup>6</sup>, Kojima Y<sup>7</sup>, Hara H<sup>8</sup>, Murohisa G<sup>9</sup>, Shioji K<sup>10</sup>, Asagi A<sup>11</sup>, Mizuno N<sup>12</sup>, Kojima M<sup>13</sup>, Yamanaka T<sup>14</sup>, Furuse J (<sup>1</sup>Kagawa University, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup>National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, <sup>5</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>6</sup>Faculty of Medicine University of Toyama, <sup>7</sup>National Center for Global Health and Medicine, <sup>8</sup>Saitama Cancer Center, <sup>9</sup>Seirei Hamamatsu General Hospital, <sup>10</sup>Niigata Cancer Center Hospital, <sup>11</sup>National Hospital

- Organization Shikoku Cancer Center, <sup>12</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>13</sup>National Cancer Center, <sup>14</sup>Yokohama City University Graduate School of Medicine): A phase II trial of everolimus in patients with advanced pancreatic neuroendocrine carcinoma refractory or intolerant to platinum-containing chemotherapy (NECTOR trial). *Neuroendocrinology* 2020. DOI: 10.1159/000505550. [Epub ahead of print]
18. Naito Y<sup>1</sup>, Mishima S<sup>1</sup>, Akagi K<sup>2</sup>, Igarashi A<sup>3</sup>, Ikeda M<sup>1</sup>, Okano S<sup>1</sup>, Kato S<sup>4</sup>, Takano T<sup>5</sup>, Tsuchihara K<sup>1</sup>, Terashima K<sup>6</sup>, Nishihara H<sup>7</sup>, Nishiyama H<sup>8</sup>, Hiyama E<sup>9</sup>, Hirasawa A<sup>10</sup>, Hosoi H<sup>11</sup>, Maeda O<sup>12</sup>, Yatabe Y<sup>13</sup>, Okamoto W<sup>9</sup>, Ono S<sup>14</sup>, Kajiyama H<sup>12</sup>, Nagashima F, Hatanaka Y<sup>15</sup>, Miyachi M<sup>11</sup>, Kodera Y<sup>12</sup>, Yoshino T<sup>1</sup>, Taniguchi H<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>2</sup>Saitama Cancer Center, <sup>3</sup>Yokohama City University School of Medicine, <sup>4</sup>Juntendo University, <sup>5</sup>Tohoku University, <sup>6</sup>National Center for Child Health and Development, <sup>7</sup>Keio University, <sup>8</sup>Tsukuba University, <sup>9</sup>Hiroshima University Hospital, <sup>10</sup>Okayama University, <sup>11</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>12</sup>Nagoya University Hospital, <sup>13</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>14</sup>Jichi Medical University, <sup>15</sup>Hokkaido University Hospital ) : Japan society of clinical oncology/Japanese society of medical oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of tropomyosin receptor kinase inhibitors in adult and pediatric patients with neurotrophic receptor tyrosine kinase fusion-positive advanced solid tumors, cooperated by the Japanese society of pediatric hematology/oncology. *Int J Clin Oncol* 25(3):403-417, 2020.
  19. Okusaka T<sup>1</sup>, Nakamura M<sup>2</sup>, Yoshida M<sup>3</sup>, Kitano M<sup>4</sup>, Uesaka K<sup>5</sup>, Ito Y<sup>6</sup>, Furuse J, Hanada K<sup>7</sup>, Okazaki K<sup>8</sup>(<sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>Kyushu University, <sup>3</sup>International University of Health and Welfare, <sup>4</sup>Wakayama Medical University, <sup>5</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>6</sup>Showa University School of Medicine, <sup>7</sup>JA Onomichi General Hospital, <sup>8</sup>Kansai Medical University, Committee for Revision of Clinical Guidelines for Pancreatic Cancer of the Japan Pancreas Society): Clinical Practice Guidelines for Pancreatic Cancer 2019 From the Japan Pancreas Society: A Synopsis. *Pancreas* 49(3): 326-335, 2020.
  20. Kitamura H, Nagashima F, Andou M<sup>1</sup>, Furuse J ( <sup>1</sup>Nagoya University): Feasibility of Continuous Geriatric Assessments as a Prognostic Indicator in Elderly People with Gastrointestinal Cancer. *Intern Med* 59(1): 15-22, 2020.
  21. Okano N, Naruge D, Kawai K, Kobayashi T, Nagashima F, Endou H<sup>1</sup>, Furuse J ( <sup>1</sup>J-Pharma Co): First-in-human phase I study of JPH203, an L-type amino acid transporter 1 inhibitor, in patients with advanced solid tumors. *Invest New Drugs*. 2020. DOI: 10.1007/s10637-020-00924-3. [Epub ahead of print]
  22. Kitamura H, Nagashima F, Andou M<sup>1</sup>, Furuse J ( <sup>1</sup>Nagoya University): Feasibility of Continuous Geriatric Assessments as a Prognostic Indicator in Elderly People with Gastrointestinal Cancer. *Intern Med* 59(1): 15-22, 2020.
- 和文**
1. 古瀬純司: ラムシルマブとほかの二次治療薬との使い分け. 特集/進化する肝細胞癌の薬物療法—2019 Update (Part 1). *肝胆膵* 79(2): 344-349, 2019.
  2. 古瀬純司, 上野誠<sup>1</sup>, 石井浩<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>神奈川県立がんセンター・消化器内科, <sup>2</sup>千葉県がんセンター・治験臨床研究センター ): がん治療における患者参画. 医師の立場からの期待. *癌と化学療法* 46(8): 1230-1234, 2019.
  3. 岡野尚弘, 古瀬純司: アテゾリズマブ + ベバシズマブ併用Phase Ib試験のUpdated data. 特集/進化する肝細胞癌の薬物療法—2019 Update (Part 2). *肝胆膵* 79(3): 587-591, 2019.
  4. 古瀬純司: レンバチニブ+ ペムプロリズマブ併用療法の第I b相試験-Updated data. 特集/進化する肝細胞癌の薬物療法—2019 Update (Part 2). *肝胆膵* 79(2): 597-600, 2019.
  5. 古瀬純司: 胆道癌・膵癌に対する免疫療法の現状と展望. *消化器・肝臓内科* 6(3): 218-223, 2019.
  6. 古瀬純司: 第55回米国臨床腫瘍学会(ASCO2019) meeting report. *The Liver Cancer Journal* 11(2): 55-58, 2019.
  7. 古瀬純司: 術前治療としての化学療法の動向. *胆と膵* 40(11): 957-961, 2019.
  8. 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: 消化器癌のゲノム医療. *杏林医学会誌* 50(4): 191-197, 2019.
- 著書**
1. 古瀬純司(分担執筆): 膵癌. 膵腫瘍と嚢胞性膵疾患. 消化管・腹膜疾患 肝・胆道・膵疾患. 内科学書改訂第9版. 南学正臣総編集. 東京, 中山書店, 2019. p.475-479.
  2. 古瀬純司, 岡野尚弘(分担執筆): 胆道癌に対するアキシチニブ単独療法の治療開発(B44). 先進医療 NAVIGATOR. がん先進医療の最前線. 先進医療フォーラム編集. 東京, 日本医学出版, 2019. p.60-64.
  3. 長島文夫(ガイドライン作成統括委員会副委員長): 高齢者のがん薬物療法ガイドライン. 日本臨床腫瘍学会/日本癌治療学会編. 東京, 南江堂, 2019.
  4. 長島文夫(評価委員): 成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン第2版. 日本癌治療学会/日本臨床腫瘍学会編. 東京, 金原出版, 2019.
  5. 岡野尚弘(分担執筆): XELOX(CapeOX)療法. 消化器ナーシング. 東京, メディカ出版, 2019. p. 35-37.
  6. 岡野尚弘(分担執筆): アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用phase Ib試験のupdated data. *肝胆膵*. 東京, アークメディア, 2019. p.587-591.
  7. 岡野尚弘(分担執筆): GEM+CDDP(GC). 消化器がん化学療法副作用マネジメントプロのコツ改訂第2版. 東京, メジカルビュー社, 2019. p.168-171.
  8. 岡野尚弘(分担執筆): GEM+S-1(GS). 消化器がん化学療法副作用マネジメントプロのコツ改訂第2版. 東京, メジカルビュー社, 2019. p.172-175.
  9. 岡野尚弘(分担執筆): 胆道癌におけるFGFR遺伝子異常とFGFR阻害薬の開発. 胆と膵. 東京, 医学図書出版, 2019. p.1347-1350.
  10. 岡野尚弘(分担執筆): 肝・胆・膵がんにおけるMSI検査の位置づけ. *腫瘍内科*. 東京, 化学評論社, 2019. p.219-224.
- 報告書**
1. 長島文夫: 高齢がん患者に対する簡便で効果的な診

療プログラムの開発。厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)2019年度 分担研究報告書。

2. 長島文夫：高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究。厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)2019年度 分担研究報告書。

## その他

### 【座長・司会・主催】

1. 古瀬純司(座長)：外来化学療法カンファレンス。武蔵野，2019年4月5日。
2. 窪田敬一，古瀬純司(司会)：Borderline resectable 膵がんに対する治療戦略。金沢，第105回日本消化器病学会総会，金沢，2019年5月10日。
3. 古瀬純司，廣岡芳樹(座長)：膵疾患に対する造影超音波検査の有用性と今後の展開。Ultrasonic Week 2019。日本超音波医学会第92回学術集会，東京，2019年5月24日。
4. 古瀬純司(司会)：ランチョンセミナー。第108回日本消化器内視鏡学会関東支部例会，東京，2019年6月8日。
5. 古瀬純司(座長)：Gastric Cancer I-O Seminar in Tama. Lecture。立川，2019年6月24日。
6. 古瀬純司(座長)：GEP-NET Web Seminar。東京，2019年6月26日。
7. 古瀬純司(座長)：Colorectal Cancer Conference。立川，2019年6月27日。
8. 古瀬純司，永井英成(司会)：レンパチニブによる新たな肝細胞癌治療ストラテジー。第20回日本肝がん分子標的治療研究会，長崎，2019年6月29日。
9. 古瀬純司(司会)：ランチョンセミナー13。第55回日本肝癌研究会，東京，2019年7月5日。
10. 古瀬純司(司会)：特別講演1。第50回日本膵臓学会大会，東京，2019年7月12-13日。
11. 高折恭一，古瀬純司(司会)：PanCan Award。第50回日本膵臓学会大会，東京，2019年7月12-13日。
12. Furuse J(司会)：Guidelines for pancreatic cancer, Japan vs. USA. Luncheon Seminar。第50回日本膵臓学会大会，東京，2019年7月12-13日。
13. 岡崎和一，古瀬純司(司会)：日本膵臓学会-昨日から明日へ。第50回日本膵臓学会大会，東京，2019年7月12-13日。
14. 古瀬純司(司会)：英語発表上達のコツ。第50回日本膵臓学会大会，東京，2019年7月12-13日。
15. 長島文夫(司会)：膵癌に対する内視鏡治療～疼痛・症状緩和を目指して～。第50回日本膵臓学会大会，東京，2019年7月12-13日。
16. Furuse J, Ueno M(司会)：New evidence of chemotherapy in biliary tract and pancreatic cancers and introduction them to the practice。第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019年7月19日。
17. 古瀬純司(司会)：メディカルセミナー28。第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019年7月19日。
18. Cheng AL, Furuse J(座長)：Sponsored Symposium 2. The role of Systemic Therapy for uHCC. The 10th Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Meeting, 札幌，2019年8月31日。
19. 古瀬純司(主催)：第50回日本膵臓学会大会 市民公開講座。東京，2019年8月4日。
20. 古瀬純司(Opening remarks)：がん包括マネジメントセミナー。三鷹，2019年9月18日。

21. 古瀬純司(司会)：膵癌診療ガイドライン改訂後のこれからの治療戦略。高齢者膵癌に対する治療戦略を考える。第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，2019年10月24日。
22. 山本雅一，吉田雅博，古瀬純司(司会)：転移性肝癌国際診療ガイドライン公聴会。第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，2019年10月24日。
23. 矢永勝彦，古瀬純司：臓器別シンポジウム15. Borderline Resectable膵癌に対する治療戦略。第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，2019年10月25日。
24. 古瀬純司(司会)：血管新生阻害薬，東京，2019年10月31日。
25. Furuse J, Brand R(座長)：Mini Symposium IV. Genomics of exocrine pancreatic disorders. APA-JPS joint meeting in 2019, USA, November 7th-9th, 2019。
26. Qin S, Furuse J, Paark JO: Hepatobiliary-Pancreatic Cancer Session. 7th Federation of Asian Clinical Oncology (FACO) Academic Conference, China, December 6th, 2019。
27. 古瀬純司(司会)：10周年特別企画2。第21回日本肝がん分子標的治療研究会，東京，2020年1月11日。
28. 古瀬純司，吉岡祐亮(司会)：ゲノム医療の時代におけるリキッドバイオプシーの役割。第4回リキッドバイオプシー研究会。東京，2020年1月17-18日。
29. 古瀬純司(司会)：Patient and Public Involvement, PPI. JCOG-EORTC symposium。東京，2020年2月15日。
30. 古瀬純司(座長)：がん疼痛セミナー，がん疼痛治療の最前線。三鷹，2019年2月28日。

### 【新聞掲載】

31. 長島文夫：「質問なるほどリ、乳がんになる高齢者って多いの？」にて解説，毎日新聞，2019年8月31日。
32. 長島文夫：「医療の意思決定、高齢者のがん・後編」にて解説，読売新聞，2019年11月25日。
33. 長島文夫：「がん5年生存率時期・年代別公表」にて解説，朝日新聞，2019年12月14日。

## 高齢医学教室

### 講演

1. 神崎恒一：フレイルとロコモティブシンドロームー疾患概念と対策ー。第30回日本医学会総会2019中部，名古屋，2019年4月27-29日。
2. 川原敬祐，唐帆健浩，林良幸，海老原孝枝，齋藤康一郎：嚥下性肺炎の高齢者における嚥下機能の特徴。第120回日本耳鼻咽喉科学会総会 学術講演会，大阪，2019年5月8-11日。
3. 神崎恒一：認知症のことを知ろう。杏林大学公開講演会，三鷹，2019年5月25日。
4. 海老原孝枝：早期AD治療の重症性ー摂食嚥下障害の観点も踏まえて。ヤンセン認知症WEBセミナー，2019年6月24日。
5. 神崎恒一：老年医学が主導する予防と共生をテーマとした認知症研究の全国展開。第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019年6月6-8日。
6. 宮本孝英，海老原孝枝，長田正史，輪千督高，高附里江，船曳茜，井上慎一郎，神崎恒一：医療ケア関連肺炎発症高齢者における30日および90日の死亡予測因子の検討。第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019年6月6-8日。
7. 海老原孝枝，山田如子，小柴ひとみ，福室自子，木村

- 友美, 小林義雄, 神崎恒一: 部位別インピーダンス測定法を用いた、高齢者体組成と認知機能の経時的変化の連関. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019年6月6-8日.
8. 永井久美子, 小柴ひとみ, 神崎恒一: 地域在住高齢者における活力度の実態調査およびフレイルとの関連. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019年6月6-8日.
  9. 輪千安希子, 輪千督高, 永井久美子, 海老原孝枝, 神崎恒一: もの忘れ外来患者における脳血流SPECT結果と認知機能との関連. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019年6月6-8日.
  10. 岡崎達馬, 海老原孝枝, 永井久美子, 庄司真美, 小松理世, 二瓶真由美, 八重柏政宏, 出江紳一: 誤嚥性肺炎発症へのサルコペニアの関与. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019年6月6-8日.
  11. 大荷満生: 「介護」のある暮らしを考える. 獨協大学市民公開講座, 埼玉, 2019年6月7日.
  12. 神崎恒一: 認知症とは? どういう病気か. いきいき支援クラブ認知症講座, 八王子, 2019年6月11日.
  13. 神崎恒一: 元気に長生きー認知症や血管の老化を防ぐためにー. 第23回淑徳大学社会福祉研究所企画講演会, 千葉, 2019年7月7日.
  14. Hattori Y, Kojima T, Mizokami F, Kozaki K, Toba K, Akishita M: Polypharmacy in Patients with Dementia: How Involvement of Geriatricians Gives an Impact on Clinical Settings. Alzheimer's Association International Conference 2019, USA, July 14th-18th, 2019.
  15. 神崎恒一: 高齢者のポリファーマシー. 日本医師会生涯教育講座, 岡山, 2019年7月20日.
  16. 海老原孝枝: 認知症と誤嚥性肺炎・摂食嚥下障害. 東北大学メジャーセミナー, 仙台, 2019年7月21日.
  17. 大荷満生: 高トリグリセライド血症の病態と最新治療ー選択的PPARαアゴニストへの期待ー. 昭島市医師会 北多摩医師会講演会, 昭島, 2019年7月30日.
  18. 永井久美子, 輪千安希子, 小柴ひとみ, 神崎恒一: もの忘れ外来初診患者における好中球/リンパ球比の意義・脳小血管病および認知機能との関連. 第10回日本脳血管・認知症学会総会, 東京, 2019年8月5日.
  19. 伊藤瑛佑, 高附里江, 長田正史, 井上慎一郎, 海老原孝枝, 神崎恒一: 敗血症性ショック改善後に脾破裂から出血性ショックに至ったが、保存的加療のみで改善した真性多血症治療中の高齢女性の1例. 第70回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年8月31日.
  20. 神崎恒一: 元気に長生き〜フレイルと認知症の予防のために〜. 第36回健康のつどい講演会, 彦根, 2019年9月7日.
  21. 神崎恒一: 元気に長生きー血管を若く保つためにー. 実践体育学体操三井島システム記念講演会, 東京, 2019年9月12日.
  22. Karaho T, Kawahara K, Hayashi Y, Nakajima J, Ebihara T, Saito K: The characteristics of swallowing function in the elderly with aspiration pneumonia. European Society For Swallowing Disorders, Austria Sep 19th-21th, 2019.
  23. Ebihara T, Nagai K, Kozaki K: Relationship between body composition and cognition in geriatric people-A cross-sectional and longitudinal cohort study-. 15th International Congress of the EUGMS, POLAND, Sep 25th-27th, 2019.
  24. 神崎恒一: 健康長寿を目指す老年医学ー日本老年医学会の役割ー. 第30回日本老年医学会東北地方会, 山形, 2019年10月5日.
  25. 神崎恒一: 認知症の包括的診療. 第9回日本認知症予防学会学術集会, 名古屋, 2019年10月18-20日.
  26. 神崎恒一: 認知症を合併した患者への対応. Expert Meeting in Tokyo, 東京, 2019年11月2日.
  27. 神崎恒一, 海老原孝枝, 宮本孝英, 永井久美子, 小柴ひとみ: 認知症と身体的フレイル. 第38回日本認知症学会学術集会, 東京, 2019年11月7-9日.
  28. 海老原孝枝: 認知症高齢者の誤嚥性肺炎・嚥下障害・低栄養について. 第38回日本認知症学会学術集会, 東京, 2019年11月7-9日.
  29. 福室自子, 海老原孝枝, 山田如子, 小柴ひとみ, 木村友美, 永井久美子, 小林義雄, 神崎恒一: 部位別インピーダンス測定法を用いた、高齢者体組成と認知機能の縦断的变化の連関. 第38回日本認知症学会学術集会, 東京, 2019年11月7-9日.
  30. 神崎恒一: 認知症診療と医療介護の連携について. 第76回全国老人福祉大会, 水戸, 2019年11月20-21日.
  31. 神崎恒一: 地域共生社会を支えるトータルケアの実践ーケアと地域をつなぐー. 第76回全国老人福祉大会, 水戸, 2019年11月20-21日.
  32. 大荷満生: 高齢者のフィジカルアセスメントと高齢者に多くみられる疾患のケア. 公益社団法人東京都看護協会, 東京, 2020年1月14日.
  33. 神崎恒一: 認知症とフレイルー骨折予防のためにー. 第4回東京都臨床整形外科医会統合研修会, 東京, 2020年2月1日.
  34. 大荷満生: 医療安全に関する最近の話題-画像診断報告書の見落としへの対応ー. 第17回医療安全講演会三鷹医師会, 三鷹, 2020年2月7日.
  35. 神崎恒一: もの忘れ対策. 第1回フレイルに立ち向かう会, 三島, 2020年2月9日.
  36. 海老原孝枝: 知っておきたい嚥下の知識最前線. 第19回日本医薬品添加物セミナー, 2020年3月6日. (WEB開催)
  37. 赤沼幸史, 長田正史, 船曳茜, 宇宿永史郎, 井上慎一郎, 海老原孝枝, 神崎恒一: 3回目の肺血栓塞栓症を契機に原発性抗リン脂質抗体症候群と診断された高齢男性の一例. 第71回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2020年3月7日. (誌上開催)
  38. Okazaki T, Miyatake M, Suzukamo Y, Izumi S, Kozaki K, Ebihara T: Sarcopenia of respiratory muscles and malnutrition induce onset and recurrence of pneumonia in aged people. International Conference on Frailty and Sarcopenia Research, France, March 11th-13th, 2020.
- 平成30年度追加分
1. 十文字菜穂, 小林庸子, 海老原孝枝, 神崎恒一, 篠原高雄: 高齢者の多剤併用問題・薬剤総合評価調整加算について. 第8回杏林メディカルフォーラム, 三鷹, 2019年3月9日.

## 論文

1. 神崎恒一: 認知的フレイルへのアプローチを標準化する. 臨床栄養 134(5): 583-589, 2019.
2. Miyamoto T, Ebihara T, Kozaki K: The association between eating difficulties and biliary sludge in the gallbladder in older adults with advanced dementia, at end of life. PLOS ONE 14: e0219538, 2019. DOI : https :

//doi.org/10.1371/journal.pone.0219538

3. 神崎恒一：サルコペニアの診断：現時点でどの診断基準を用いるべきか EWGOP2基準. 日本サルコペニア・フレイル学会誌 3(1)：21-26, 2019.
4. 神崎恒一：コグニティブ・フレイルとは. Nutrition Care 12(8)：68-71, 2019.
5. 神崎恒一：認知機能障害とサルコペニア. 医学のあゆみ 271(3)：253-257, 2019.
6. 神崎恒一：フレイルの定義・診断. 日本医師会雑誌 148(8)：1471-1473, 2019.
7. 神崎恒一：一次性、二次性サルコペニアの原因. Geriatric Medicine 157(11)：1067-1072, 2019.
8. 神崎恒一：東京都における認知衣装疾患医療センターの活動と課題 北多摩南部の活動－多彩な専門性と協調性－. 老年精神医学雑誌 30(12)：1315-1325, 2019.
9. Ebihara T, Peijung Gui<sup>1,2</sup>, Ooyama C<sup>1</sup>, Kozaki K, Ebihara S<sup>1,3</sup>(<sup>1</sup>Tohoku University Graduate School of Medicine,<sup>2</sup> Beijing Friendship Hospital, Capital Medical University,<sup>3</sup>Toho University Graduate School of Medicine)：Cough reflex sensitivity and urge-to-cough deterioration in dementia with Lewy bodies. European Respiratory Journal Open Research 6 (00108-2019) 1 -10. DOI：https://openres.ersjournals.com/content/6/1/00108-2019.short
10. 海老原孝枝, 海老原覚：高齢者誤嚥性肺炎・摂食障害に対する科学的看護介護アプローチ. Medical Science Digest 45(13).784-787, 2019.
11. 神崎恒一：実学としての老年医学. 老年内科 1(1)：82-84, 2020.
12. 海老原孝枝：嚥下障害におけるポリファーマシー対策. 老年内科1(2)：173-182, 2020.
13. 神崎恒一：元気に長生き－認知症や血管の老化を防ぐために－. 淑徳大学社会福祉研究所総合福祉研究 24：1-10, 2020.
14. Kojima T<sup>1</sup>, Matsui T<sup>2</sup>, Suzuki Y<sup>3</sup>, Takeya Y<sup>4</sup>, Tomita N<sup>5</sup>, Kozaki K, Kuzuya M<sup>6</sup>, Rakugi H<sup>4</sup>, Arai H<sup>5</sup> and Akishita M<sup>1</sup>(<sup>1</sup> University of Tokyo, <sup>2</sup> Oouchi Hospital, <sup>3</sup>Nagoya University, <sup>4</sup>Osaka University, <sup>5</sup> Tohoku University, <sup>6</sup>Nagoya University)：Risk factors for adverse drug reactions in older inpatients of geriatric wards at admission：Multicenter study. Geriatr Gerontol Int 20(2)：144-149, 2020 Feb. DOI：10.1111/ggi.13844.
15. Arai H<sup>1</sup>, Kozaki K, Kuzuya M<sup>2</sup>, Matsui Y<sup>1</sup>, Satake S<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Nationa Center for Geriatrics and Gerontology, <sup>2</sup>Nagoya University)：Chapter 2 Frailty concepts. Geriatr Gerontol Int 20(S1)：14-19, 2020 Feb. DOI：10.1111/ggi.13831.
16. Sugimoto K<sup>1</sup>, Rakugi H<sup>1</sup>, Kojima T<sup>2</sup>, Ishii S<sup>2</sup>, Akishita M<sup>2</sup>, Tamura Y<sup>3</sup>, Araki A<sup>3</sup>, Kozaki K, Senda K<sup>4</sup>, Fukuoka H<sup>5</sup>, Satake S<sup>5</sup>, Arai H<sup>5</sup> (<sup>1</sup>Osaka University,<sup>2</sup> The University of Tokyo Hospital,<sup>3</sup> Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>4</sup>National Center for Geriatrics and Gerontology,<sup>5</sup> Kyoto Prefectural University)：Chapter 4 Frailty and specific diseases. Geriatr Gerontol Int 20(S1)：25-37, 2020 Feb. DOI：10.1111/ggi.13833
17. 神崎恒一：認知症診療におけるフレイルの意義. 診断と治療 108(3)：379-383. 2020.
18. Okazaki T, Ebihara S, Mori T, Izumi S, Ebihara T：Association between sarcopenia and pneumonia in

older people. Geriatr Gerontol Int 20(1)：7-13, 2020 Jan. DOI：10.1111/ggi.13839.

19. 海老原孝枝：高齢者の食事と栄養，口腔ケア，食事，摂食・嚥下5. 高齢者の接触・嚥下障害とその対策. 長寿科学研究業績集 97-108, 2020.

## 著書

1. 大荷満生(分担執筆)：解剖生理学病理学. 運動器系、生殖器系、感染症. 一般社団法人全国栄養士養成施設協会・公益財団法人日本栄養士会監修. 第1版, 東京, 第一出版, 2019.
2. 神崎恒一(分担執筆)：第4章認知症になっても安心して暮らせるまちづくり. 人生100年時代の地域ケアシステム. 監修 清成忠男 編集代表 市川一宏. 東京, 三鷹ネットワーク大学推進機構, 2019. 74-84.
3. 海老原孝枝：改訂版健康長寿診療ハンドブック. 嚥下機能障害の評価と対策. 日本老年医学会編. 東京, メジカルビュー社, 2019. 56-62.
4. 神崎恒一(分担執筆)：One Point Advice 1認知的フレイルとは. サルコペニア・フレイル指導士テキスト. 日本サルコペニア・フレイル学会 編. 東京, 新興医学出版社, 2020. 120-122.
5. 海老原孝枝：フレイル対策シリーズ各論偏③ 呼吸器系と健康長寿・フレイル対策PART3 各疾患に対する治療とフレイル. 誤嚥性肺炎の治療とフレイル. 東京, 先端科学社, 2020. 56-61.

## 報告書

1. 神崎恒一：認知症の人やその家族の視点を重視した認知症高齢者にやさしい薬物療法のための研究. 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)2019年度 分担研究報告書.
2. 神崎恒一：適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費(認知症研究開発事業)2019年度 成果報告書.
3. 神崎恒一：認知症と脳血管障害の発症を予測し脳小血管病を反映しうる新規バイオマーカーのエビデンス確立. 長寿医療研究開発費2019年度 分担研究報告書.
4. 神崎恒一：高齢者の認知機能低下に配慮した至適血圧域の解明：老年期にある健常者と軽度認知機能低下患者を対象とした、認知機能保持ないしその改善を最終目的とした適切な血圧管理法に関する研究. 長寿医療研究開発費2019年度 分担研究報告書.
5. 神崎恒一：高齢者における聴覚障害と総合機能・認知機能の包括的評価：難聴補正による認知症予防を目指した研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費(認知症研究開発事業)2019年度 成果報告書.
6. 海老原孝枝：高齢者肺炎における、DPP-IV阻害剤の pros and cons. 科学研究費補助金(基盤研究(C))2019年度 実績報告書.
7. 海老原孝枝：高齢者の誤嚥性肺炎の予防・早期発見のための研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費(長寿研究開発事業)2019年度 成果報告書.
8. 海老原孝枝：誤嚥性肺炎早期発見のための包括的評価と層別予防ケア戦略の確立日本医療研究開発機構委託研究開発費(長寿研究開発事業)2019年度成果ホームページ. https://aspiration-pneumonia.com/

## その他

1. 神崎恒一：医学講座「認知症の予防・診断・治療」, ラジオ日経, 2019年4月30日.

## 精神神経科学教室

## 講演

1. 渡邊衡一郎：双極性障害－疾患と治療 update－. 慶應義塾大学薬学部生涯学習公開講座, 東京, 2019年6月2日.
2. 今村弥生：漫画の精神医学. 獨協医科大学精神神経医学講座 第12回Psychiatry Club講演会, 下都賀, 2019年6月10日.
3. 坪井貴嗣, 丸木拓, 前田優那, 田中彰人, 稗貫理恵, 渡邊果林, 渡邊衡一郎：杏林大学病院医学部精神神経科学教室の紹介. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月20 - 22日.
4. 渡邊衡一郎, 坪井貴嗣, 菊池健, 半田貴士, 菊本弘次, 岩下覚, 堤祐一郎, 持田政彦, 角田健一, 室愛子：杏林大学病院精神科専門医研修プログラムの紹介（連携施設を中心に）. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月20 - 22日.
5. 坪井貴嗣：双極性障害の非寛解と関連する因子について見出したMUSUBI 1次調査および1.5次調査からの知見. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月20 - 22日.
6. 高江洲義和：ベンゾジアゼピン受容体作動薬の減量・中止に心理社会療法は有用か？. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月20 - 22日.
7. 高江洲義和：SDMの現状の課題と今後の普及に向けての展望. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月20 - 22日.
8. 早坂友成, 長島泉, 高江洲義和, 坪井貴嗣, 片桐建志, 野崎和博, 今村弥生, 松本由美, 栗原真理子, 大江悠樹, 二田未来, 渡邊衡一郎：難治性うつ状態とパーソナリティ障害を併存する患者の行動特徴. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月20日.
9. 神田優太, 高江洲義和, 坪井貴嗣, 野崎和博, 今村弥生, 中島亨, 渡邊衡一郎：治療抵抗症うつ病患者における終夜睡眠ポリグラフ検査所見と臨床指標及び向精神薬との関連. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月20日.
10. 飯田仁志, 伊賀淳一, 越智紳一郎, 安田由華, 山本智也, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, 川崎弘詔：精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究（EGUIDE プロジェクト）参加施設の評価. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月21日.
11. 青木裕見, 坪井貴嗣, 高江洲義和, 古野毅彦, 萱間真美, 中山和弘, 渡邊衡一郎：大人の ADHD の当事者と医療者が一緒に活用できる治療選択の手引き Decision Aid の開発－SDM 促進にむけて. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月21日.
12. 渡邊衡一郎：精神科領域における Shared Decision Making (SDM) の実現可能性. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月21日.
13. 古郡規雄, 吉村玲児, 加藤正樹, 中川敦夫, 菊地俊暁, 坪井貴嗣, 足立直人, 窪田幸久, 阿瀬川孝治, 上田均, 枝川浩二, 勝元榮一, 後藤英一郎, 本郷誠司, 渡邊衡一郎：情動安定剤と抗精神病薬および抗うつ薬の組み合わせから見た各薬物の特徴. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月21日.
14. 足立直人, 上田均, 本郷誠司, 阿瀬川孝治, 三木和平, 窪田幸久, 勝元榮一, 渡辺洋一郎, 枝川浩二, 後藤英一郎, 古郡規雄, 菊地俊暁, 中川敦夫, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎, 加藤正樹, 吉村玲児：MUSUBI 研究 1.5次調査（2017）の概要. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月21日.
15. 阿瀬川孝治, 足立直人, 上田均, 本郷誠司, 三木和平, 窪田幸久, 勝元榮一, 渡辺洋一郎, 枝川浩二, 後藤英一郎, 古郡規雄, 菊地俊暁, 中川敦夫, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎, 加藤正樹, 吉村玲児：わが国における大規模処方調査“MUSUBI-J”から分かる双極性障害治療のあるべき姿精神科診療所における双極性障害治療の実際と MUSUBI に期待すること. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月21日.
16. 渡邊衡一郎：わが国の治療ガイドラインにおける諸問題と対策. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月22日.
17. 坪井貴嗣：双極性障害の非寛解と関連する因子について見出したMUSUBI 1次調査および 1.5 次調査からの知見. 日本精神神経科診療所協会 2019年度定時総会・第25回(通算46回)学術研究会, さいたま, 2019年6月22 - 23日.
18. 高江洲義和：非24時間睡眠覚醒リズム障害と気分障害の併存例に対する低用量アリピプラゾール療法. 日本睡眠学会第44回定期学術集会, 名古屋, 2019年6月27 - 28日.
19. 高江洲義和：不眠症診療における Shared Decision Making の実践. 日本睡眠学会第44回定期学術集会, 名古屋, 2019年6月27 - 28日.
20. 高江洲義和：双極性障害の発症・再発と睡眠との関わり. 日本睡眠学会第44回定期学術集会, 名古屋, 2019年6月27 - 28日.
21. 高江洲義和：ベンゾジアゼピン系薬剤の光と影. 日本睡眠学会第44回定期学術集会, 名古屋, 2019年6月27 - 28日.
22. 坪井貴嗣：女性心身医療において漢方治療をいかに用いるか. 第48回日本女性心身医学会学術集会, 東京, 2019年6月29 - 30日.
23. 高江洲義和：不眠症治療の現状と今後の展望～診療報酬改定を踏まえた治療戦略～. 第48回日本女性心身医学会学術集会, 東京, 2019年6月29 - 30日.
24. 菅さくら, 木崎英介, 西園マーハ文, 渡邊衡一郎：母親との治療分離が症状の改善につながった摂食障害の一例. 第48回日本女性心身医学会学術集会, 東京, 2019年6月30日.
25. 長島泉, 高江洲義和, 菅さくら, 渡邊衡一郎：難治性うつ状態に併発するパーソナリティ障害と作業遂行特徴における性差の検討. 第48回日本女性心身医学会学術集会, 東京, 2019年6月30日.
26. 渡邊衡一郎：抗うつ薬でよくなる女性「うつ」にどう取り組むか. 第48回日本女性心身医学会学術集会, 東京, 2019年6月30日.
27. 坪井貴嗣, 五十嵐俊, 渡邊衡一郎：双極性障害患者におけるベンゾジアゼピン受容体作動薬が多剤化する因子についての解析. 第16回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019年7月5日.
28. 山田恒, 本山美久仁, 椎野智子, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, 松永寿人：うつ病に対する治療ガイドライン教育プロジェクト（EGUIDEプロジェクト）の効果－ガイドラインに基づく治療行動達成度からの考察－. 第16回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019年7月5日.
29. 渡邊衡一郎：日本うつ病学会大うつ病ガイドライン新しい活動の紹介. 第16回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019年7月5日.
30. 渡邊衡一郎：抗うつ薬の臨床試験における諸問題. 第16回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019年7月6日.



31. 坪井貴嗣：当事者・家族の参加を含めたうつ病治療ガイドラインの今後の方向性について．第16回日本うつ病学会総会，徳島，2019年7月5 - 6日．
32. 坪井貴嗣：うつ病治療ガイドライン 軽症うつ病．第16回日本うつ病学会総会EGUIDEプロジェクトうつ病治療ガイドライン講習会，徳島，2019年7月7日．
33. 渡邊衡一郎：眼科医に知っていただきたい向精神薬の副作用のチェックポイント、そしてその対策．第13回心療眼科研究会，東京，2019年7月13日．
34. 今村弥生：精神療法へのいざない．プライマリケア連合学会認定薬剤師研修会，東京，2019年7月14日．
35. 高江洲義和：不眠症治療の現状と今後の展望～診療報酬改定を踏まえた治療戦略～．第22回日本薬物脳波学会，東京，2019年7月19 - 20日．
36. 坪井貴嗣：多職種で行う退院後を見据えた薬物療法とは．第22回有床総合病院精神科フォーラム，東京，2019年7月27日．
37. 平子雪乃，八反丸善康，浜口孝幸，大江悠樹，高岸百合子，佐々木洋平，堀越勝：身体科外来における認知行動療法の実施形態に関する検討～マニュアル・ベストとフォーミュラ・ベストの比較から～．第19回日本認知療法・認知行動療法学会，東京，2019年8月30日 - 9月1日．
38. 佐々木洋平，大江悠樹，石井裕乃，堀越勝：慢性痛に対する短時間認知行動療法の試み：自閉症スペクトラム障害と注意欠陥障害を併存する持続性身体表現性疼痛性障害の1例．第19回日本認知療法・認知行動療法学会，東京，2019年8月30日 - 9月1日．
39. 長井麻希江，大江悠樹，堀越勝，中村主計，喜多義邦：不眠を対象とした看護師による短時間認知行動療法の評価：パイロットスタディ．第19回日本認知療法・認知行動療法学会，東京，2019年8月30日 - 9月1日．
40. 渡邊衡一郎：Shared Decision Making (SDM)：これまでとこれから．精神科臨床薬学研究会関東ブロック講演会，東京，2019年9月1日．
41. Tsuboi T, Igarashi S, Asai H, Kubota K, Azekawa T, Adachi N, Ueda H, Edagawa K, Katsumoto E, Goto E, Hongo S, Kato M, Furukori N, Yoshimura R, Nakagawa A, Kikuchi T, Watanabe K: Factors related to non-remission in outpatients with bipolar disorder: The multicenter treatment survey on bipolar disorder in Japan (MUSUBI). 32nd European College of Neuropsychopharmacology Congress, Denmark, September 7th-10th, 2019.
42. Kanda Y, Takaesu Y, Kobayashi M, Komada Y, Watanabe K, Inoue Y: Validation of the Japanese version of the biological rhythms interview of assessment in neuropsychiatry-self report for delayed sleep-wake phase disorder. 15th World Sleep 2019 congress. Canada September 20 - 25, 2019.
43. Shimura A, Takaesu Y, Ito J, Katayose K, Nieda K, Kawashima K, Hashimoto M, Kunoki K, Toumei K, Inoue T: A randomized controlled trial: Tailored sleep hygiene intervention reduced high school students' sleep disturbance, absenteeism, presenteeism, and dropout. 15th World Sleep 2019 congress. Canada September 20 - 25 2019.
44. Takaesu Y, Utsumi T, Okajima I, Shimura A, Kotorii N, Kuriyama K, Yamashita H, Suzuki M, Watanabe N, Mishima K: Psychosocial intervention for discontinuing benzodiazepine hypnotics in patients with chronic insomnia: a systematic review and meta-analysis. 15th World Sleep 2019 congress. Canada September 20 - 25 2019.
45. 渡邊衡一郎：精神科臨床における Shared Decision Making (SDM)の実現可能性．公益社団法人日本精神科病院協会学術教育研修会薬剤師部門，さいたま，2019年9月28日．
46. 細越寛樹，福森崇貴，岩佐和典，大江悠樹，高岸百合子，平子雪乃：慢性疼痛CBTワークショップ．名古屋，2019年9月28日．
47. Nozaki K, Takaesu Y, Imamura Y, Katagiri T, Kanda Y, Tsuboi T, Watanabe K: Factors associated with the severity of treatment refractory depression. 2019 CINP international meeting. Greece, October 3rd - 5th 2019.
48. Takaesu Y, Utsumi T, Okajima I, Shimura A, Kotorii N, Kuriyama K, Yamashita H, Suzuki M, Watanabe N, Mishima K: Psychosocial intervention for discontinuing Benzodiazepine hypnotics in patients with chronic insomnia: A systematic review and meta-analysis. 2019 CINP international meeting. Greece, October 3rd - 5th 2019.
49. 坪井貴嗣：気分障害のガイドラインは実臨床に有用なのか？－双極性障害を中心に－．大阪精神神経科診療所協会秋期学術研究会，大阪，2019年10月5日．
50. 坪井貴嗣，波多野正和，永井努，佐々木剛，小田陽彦，江角悟，山田浩樹，角谷寛，橋本保彦，富田哲：統合失調症薬物治療ガイドラインの改訂を目指して抗精神病薬の副作用に関する章の方向性．第29回日本臨床精神神経薬理学会・第49回日本神経精神薬理学会同時開催，福岡，2019年10月11日．
51. 坪井貴嗣：あらためて遅発性ジスキネジアの診断と治療を考える．第29回日本臨床精神神経薬理学会・第49回日本神経精神薬理学会同時開催，福岡，2019年10月11日．
52. 浅井宏，坪井貴嗣，澤田法英，菊地俊暁，渡邊衡一郎：うつ病治療において何が患者満足度に関連する因子なのか？大規模インターネット調査の再解析．第29回日本臨床精神神経薬理学会，福岡，2019年10月11日．
53. 中川敦夫，菊地俊暁，古郡規雄，吉村玲児，加藤正樹，坪井貴嗣，近野祐介，菅原典夫，足立直人，窪田幸久，阿瀬川孝治，上田均，枝川浩二，勝元榮一，後藤英一郎，本郷誠司，渡邊衡一郎：双極性障害外来患者における自殺性 (suicidality) に関するリスク因子．第29回日本臨床精神神経薬理学会，福岡，2019年10月11日．
54. 近野祐介，藤野善久，吉村玲児，中川敦夫，菊地俊暁，古郡規雄，加藤正樹，坪井貴嗣，菅原典夫，足立直人，窪田幸久，阿瀬川孝治，上田均，枝川浩二，勝元榮一，後藤英一郎，本郷誠司，渡邊衡一郎：双極性障害外来治療患者の就労状況について－MUSUBI-J研究より－．第29回日本臨床精神神経薬理学会，福岡，2019年10月11日．
55. 徳満敬大，古郡規雄，吉村玲児，加藤正樹，中川敦夫，菊地俊暁，坪井貴嗣，足立直人，窪田幸久，阿瀬川孝治，上田均，枝川浩二，勝元榮一，後藤英一郎，本郷誠司，渡邊衡一郎：双極性障害患者の外来処方薬と患者プロフィール．第29回日本臨床精神神経薬理学会，福岡，2019年10月11日．
56. 古郡規雄，坪井貴嗣，足立直人，窪田幸久，上田均，枝川浩二，勝元榮一，阿瀬川孝治，後藤英一郎，本郷誠司，三木和平，加藤正樹，吉村玲児，菊地俊暁，中

- 川敦夫, 渡邊衡一郎: 双極性障害治療における情動安定剤に併用される抗精神病薬と抗うつ薬の特性について—MUSUBIプロジェクトより—. 第29回日本臨床精神神経薬理学会, 福岡, 2019年10月11日.
57. 長谷川尚美, 宇野洋太, 安田由華, 山本智也, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太: 統合失調症におけるクロザピン治療と抗精神病薬単剤治療の関連—EGUIDEプロジェクトの処方調査の結果から—. 第49回日本神経精神薬理学会, 福岡, 2019年10月12日.
58. 山田恒, 本山美久仁, 椎野智子, 長谷川尚美, 宇野洋太, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太, 松永寿人: 統合失調症に対する治療ガイドライン教育プロジェクト(EGUIDEプロジェクト)の効果: 報告1—過去2年の受講者のガイドラインに基づく治療行動実践度の変化からの考察—. 第49回日本神経精神薬理学会, 福岡, 2019年10月13日.
59. 本山美久仁, 山田恒, 椎野智子, 長谷川尚美, 宇野洋太, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, 松永寿人: 統合失調症に対する治療ガイドライン教育プロジェクト(EGUIDEプロジェクト)の効果: 報告2—過去2年の参加施設のガイドラインに基づく治療行動実践度の変化からの考察—. 第49回日本神経精神薬理学会, 福岡, 2019年10月13日.
60. 渡邊衡一郎: 発展的精神科医療を目指したσ1受容体アンタゴニストNE-100の開発戦略. 第49回日本神経精神薬理学会, 福岡, 2019年10月13日.
61. 坪井貴嗣: 抗不安薬の適切な使い方—ガイドラインとベンゾジアゼピンを中心に—. 2019年度松沢病院精神薬理学入門講座, 東京, 2019年10月21日.
62. 諏訪太郎, 嶽北佳輝, 青木宣篤, 栗本直樹, 田村越紘, 坪井貴嗣, 安田和幸, 川島啓嗣: ECTの症例グループディスカッションと右片側刺激ハンズオンセミナー. 第32回日本総合病院精神医学会総会, 岡山, 2019年11月5-6日.
63. 高江洲義和: 認知症予防の観点からの不眠症治療. 第38回日本認知症学会学術集会, 東京, 2019年11月7-9日.
64. 堀越勝, 大江悠樹, 佐々木洋平, 高岸百合子, 平子雪乃: 疼痛の認知行動療法研修. 国立精神・神経医療研究センターの認知行動療法センター主催研修, 小平, 2019年11月9日.
65. 伊藤雅哉, 大江悠樹, 山口慶子, 宮前光宏: 認知行動療法における症状評価研修, 国立精神・神経医療研究センターの認知行動療法センター主催研修, 小平, 2019年11月15日.
66. 堀越勝, 大江悠樹, 佐々木洋平, 菊池志乃, 伊藤有里: 過敏性腸症候群に対する認知行動療法研修. 国立精神・神経医療研究センターの認知行動療法センター主催研修, 小平, 2019年11月30日.
67. 高江洲義和: 睡眠薬適正使用ガイドラインの観点から考える不眠症治療. 第40回日本臨床薬理学会学術総会, 東京, 2019年12月4-6日.
68. 藤田晴康, 今村弥生: 働く場での健康対策 SSTを活用. SST普及協会第24回群馬大会, 前橋, 2019年12月6日.
69. 大江悠樹: 慢性疼痛患者とのコミュニケーションを考える. 厚生労働省令和元年度慢性疼痛診療体制構築モデル事業慢性疼痛診療研修会, 仙台, 2020年1月5日.
70. 今村弥生: 基本に立ち返る臨床精神医学. 川崎市障害者更生相談所研修会, 川崎, 2020年1月14日.
71. 渡邊衡一郎: 「うつ病・治療のあり方」～SDM(シェアードディジションメイキング)を中心に～. 静岡市かかりつけ医心の健康対応力向上研修会, 静岡, 2020年1月18日.
72. 渡邊衡一郎: 向精神病薬をどう読み解くか. 星薬科大学認定薬剤師研修会, 東京, 2020年1月26日.

## 論文

1. Takaesu Y, Watanabe K, Numata S<sup>1</sup>, Iwata M<sup>2</sup>, Kudo N<sup>3</sup>, Oishi S<sup>4</sup>, Takizawa T<sup>5</sup>, Nemoto K<sup>5</sup>, Yasuda Y<sup>3,6</sup>, Tagata H<sup>7</sup>, Tsuboi T, Tsujino N<sup>8</sup>, Hashimoto N<sup>9</sup>, Matsui Y<sup>3,10</sup>, Hori H<sup>11</sup>, Yamamori H<sup>3,12</sup>, Sugiyama N<sup>13,14</sup>, Suwa T<sup>15</sup>, Kishimoto T<sup>16</sup>, Hishimoto A<sup>17</sup>, Usami M<sup>18</sup>, Furihata R<sup>19</sup>, Iwamoto K<sup>20</sup>, Fujishiro H<sup>20,21</sup>, Nakamura T<sup>14</sup>, Mizuno K<sup>22</sup>, Inagaki T<sup>23,24</sup>, Katsumoto E<sup>25</sup>, Tomita H<sup>26</sup>, Ohi K<sup>27</sup>, Muraoka H<sup>28</sup>, Atake K<sup>11</sup>, Iida H<sup>29</sup>, Nagasawa T<sup>27</sup>, Fujita J<sup>30</sup>, Yamamura S<sup>31</sup>, Onitsuka T<sup>32</sup>, Murata A<sup>33</sup>, Takayanagi Y<sup>34</sup>, Noda H<sup>35</sup>, Matsumura Y<sup>36</sup>, Takezawa K<sup>37</sup>, Iga J<sup>38</sup>, Ichihashi K<sup>39</sup>, Ogasawara K<sup>20,40</sup>, Yamada H,<sup>3,41</sup> Inada K<sup>28</sup>, Hashimoto R<sup>3,42</sup>(<sup>1</sup>Tokushima University, <sup>2</sup>Tottori University, <sup>3</sup>National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>4</sup>Kitasato University, <sup>5</sup>University of Tsukuba, <sup>6</sup>Medical Corporation Foster, <sup>7</sup>Toho University, <sup>8</sup>Saiseikai Yokohamashi Tobu Hospital, <sup>9</sup>Hokkaido University, <sup>10</sup>Jindai Hospital, Aichi, <sup>11</sup>Occupational and Environmental Health, <sup>12</sup>Community Health Care Organization Osaka Hospital, <sup>13</sup>Shinshu University School, <sup>14</sup>Shinshu University, <sup>15</sup>Kyoto University, <sup>16</sup>Keio University, <sup>17</sup>Kobe University, <sup>18</sup>Kohnodai Hospital, <sup>19</sup>Nihon University, <sup>20</sup>Nagoya University, <sup>21</sup>Kawasaki Memorial Hospital, <sup>22</sup>Wakakusa Hospital, <sup>23</sup>Biwako Hospital, <sup>24</sup>Shiga University, <sup>25</sup>Katsumoto Mental Clinic, <sup>26</sup>Tohoku University, <sup>27</sup>Kanazawa Medical University, <sup>28</sup>Tokyo Women's Medical University, <sup>29</sup>Fukuoka University, <sup>30</sup>Yokohama City University Hospital, <sup>31</sup>Suzuka Kosei Hospital, <sup>32</sup>Kyushu University, <sup>33</sup>Kyowa Hospital, <sup>34</sup>University of Toyama, <sup>35</sup>Yamanashi Prefectural Kita Hospital, <sup>36</sup>University of Fukui, <sup>37</sup>Medical Corporation Matsuzaki Hospital, <sup>38</sup>Ehime University, <sup>39</sup>University of Tokyo Hospital, <sup>40</sup>Nagoya University Hospital, Aichi, <sup>41</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>42</sup>Osaka University): Improvement of psychiatrists' clinical knowledge of the treatment guidelines for 1 schizophrenia and major depressive disorders using the "Effectiveness of Guidelines 2 for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project: a 3 nationwide dissemination, education and evaluation study. *Psychiatry Clin Neurosci* 73(10): 642 - 648, 2019.
2. Sumiyoshi T<sup>1</sup>, Watanabe K, Noto S<sup>2</sup>, Sakamoto S<sup>3</sup>, Moriguchi Y<sup>4</sup>, Tan KHX<sup>5</sup>, Hammer-Helmichh L<sup>6</sup>, Fernandez J<sup>3</sup> (<sup>1</sup>National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>2</sup>Niigata University of Health and Welfare, <sup>3</sup>Takeda Pharmaceutical Company Ltd, <sup>4</sup>Lundbeck Japan KK, <sup>5</sup>Lundbeck Singapore Pte Ltd, <sup>6</sup>H. Lundbeck A/S): Relationship of cognitive impairment with depressive symptoms and psychosocial function in patients with major depressive disorder: cross sectional analysis of baseline data from PERFORM-J. *J Affect Disord* 258: 172 - 178, 2019. 11. DOI: 10.1016/j.jad.2019.07.064
3. Aoki Y<sup>1</sup>, Takaesu Y, Inoue M<sup>2</sup>, Furuno T<sup>3</sup>, Kobayashi Y<sup>4</sup>, Chiba H<sup>5</sup>, Kakita Y<sup>6</sup>, Hori M<sup>2</sup>,

- Tachimori H<sup>7</sup>, Watanabe K (1St Luke's International University, 2Waseda University 3Tokyo Medical Centre, 4The Dai-ichi Life Insurance Company Ltd, 5Jiundo Hospital, 6Henmi Hospital, 7National Institute of Mental Health): Seven-day shared decision making for outpatients with first episode of mood disorders among university students: A randomized controlled trial. *Psychiatry Res* 281: 112531, 2019. DOI: 10.1016/j.psychres.2019.112531.
4. 渡邊衡一郎: 薬物療法の視点から—薬物療法を通して何が出来るか. *精神医学* 61(4): 365 - 373, 2019.
  5. 渡邊衡一郎: 総合病院において抗うつ薬を使う際の注意点. *総合病院精神医学* 31(4): 395 - 403, 2019.
  6. 大江悠樹, 岡田昌也<sup>1</sup>, 青鹿由紀<sup>1</sup>, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎(1杏林大・看護部): 多職種で行う心理教育—双極性障害に対する心理教育(解説). *日本社会精神医学会雑誌* 28(4): 412 - 416, 2019.
  7. 松本泰幸, 坪井貴嗣: 向精神薬の注意すべき副作用抗精神病薬. *薬事* 61: 957 - 964, 2019.
  8. 坪井貴嗣: 気分障害 うつ病(軽症). *精神科* 35: 84 - 88, 2019.
  9. 五十嵐俊, 坪井貴嗣: 過量服薬を繰り返す当事者における薬物療法の立ち位置. *臨床精神薬理* 22: 693 - 702, 2019.
  10. 高江洲義和: 不眠症治療の適正化を考える(特集 睡眠障害治療の最前線). *医学と薬学* 76: 1697 - 1703, 2019.
  11. Takaesu Y, Utsumi T<sup>1</sup>, Okajima I<sup>2</sup>, Shimura A<sup>3</sup>, Kotorii N<sup>4</sup>, Kuriyama K<sup>5</sup>, Yamashita H<sup>6</sup>, Suzuki M<sup>7</sup>, Watanabe N<sup>8</sup>, Mishima K<sup>9,10,11</sup> (1Jikei University, 2Tokyo Kasei University, 3Tokyo Medical University, 4Kurume University, 5National Center of Neurology and Psychiatry, 6Hiroshima University, 7Nihon University, 8Kyoto University, 9Akita University, 10National Center of Neurology and Psychiatry, 11University of Tsukuba): Psychosocial intervention for discontinuing benzodiazepine hypnotics in patients with chronic insomnia: A systematic review and meta-analysis. *Sleep medicine reviews* 48: 101214, 2019.
  12. 石井美穂, 高江洲義和, 岡島義和(1東京家政大): 不眠のための認知行動療法: プライマリ・ケア医にもできる認知行動療法(特集 新時代不眠症治療宣言!)—(非薬物療法). *治療* 101: 1085 - 1089, 2019.
  13. 高江洲義和: 睡眠薬(特集 薬剤の使い分けをどうするか?). *精神科* 35: 268 - 273, 2019.
  14. 神田優太, 高江洲義和: 不眠における睡眠薬の2剤併用療法(特集 ささまざまな疾患における薬物療法の立ち位置). *臨床精神薬理* 22: 719 - 725, 2019.
  15. 小谷万葉, 高江洲義和: ベンゾジアゼピン系抗不安薬の奇異反応: 高齢者のせん妄, 認知症のリスクも含めて(特集 気づきにくい向精神薬の副作用). *精神科治療学* 34: 549 - 552, 2019.
  16. 高江洲義和: 気分障害における睡眠—覚醒リズム障害(特集 精神疾患と睡眠—覚醒リズム). *精神科* 34: 8 - 12, 2019.
  17. Hosogoshi H<sup>1,2</sup>, Iwasa K<sup>3</sup>, Fukumori T<sup>4</sup>, Takagishi Y<sup>2,5</sup>, Takebayashi Y<sup>2,6</sup>, Adachi T<sup>7</sup>, Oe Y, Tairako Y<sup>2,8</sup>, Takao Y<sup>9</sup>, Nishie H<sup>10</sup>, Kanie A<sup>2</sup>, Kitahara M<sup>11</sup>, Enomoto K<sup>12</sup>, Ishii H<sup>13</sup>, Shinmei I<sup>14,15</sup>, Horikoshi M<sup>2</sup>, Shibata M<sup>16</sup> (1Kansai University, 2National Center of Neurology and Psychiatry, 3Shujitsu University, 4Tokushima University, 5Surugadai University, 6Fukushima Medical University, 7Shiga University of Medical Science Hospital, 8Meiji Gakuin University, 9Hyogo College of Medicine, 10Kawasaki Medical School, 11Yokohama City University Medical Center, 12Osaka University, 13Japan Women's University, 14National Center of Neurology and Psychiatry, 15TCBT Counseling Office, 16Naragakuen University): Pilot study of a basic individualized cognitive behavioral therapy program for chronic pain in Japan. *Biopsychosoc Med* 14(6), 2020. DOI: 10.1186/s13030-020-00176-w.
  18. Kikuchi S<sup>1</sup>, Oe Y, Sasaki Y<sup>2</sup>, Ishii H<sup>2</sup>, Ito Y<sup>3</sup>, Horikoshi M<sup>2</sup>, Sozu T<sup>4</sup>, Seno H<sup>1</sup>, Furukawa TA<sup>1</sup> (1Kyoto University Graduate School of Medicine, 2National Center of Neurology and Psychiatry, 3Tokyo University, 4Kyoto University Hospital): Group cognitive behavioural therapy (CBT) versus treatment as usual (TAU) in the treatment of irritable bowel syndrome (IBS): a study protocol for a randomized controlled trial. *BMC Gastroenterol* 20(29), 2020. DOI: 10.1186/s12876-020-1157-z.
  19. 大江悠樹, 栗原真理子: 難治性うつと神経発達症の関連について考える—自閉スペクトラム症, 注意欠如・多動症に焦点を当てて. *医学のあゆみ* 272: 409 - 414, 2020.
  20. Takeshima M<sup>1</sup>, Utsumi T<sup>2</sup>, Aoki Y<sup>3</sup>, Wang Z<sup>4</sup>, Suzuki M<sup>5</sup>, Okajima I<sup>6</sup>, Watanabe N<sup>7</sup>, Watanabe K, Takaesu Y (1Akita University, 2Jikei University, 3St Luke's International University, 4Renaissance School of Medicine at Stony Brook University, 5Nihon University, 6Tokyo Kasei University, 7Kyoto University): Efficacy and safety of bright light therapy for manic and depressive symptoms in patients with bipolar disorder: A systematic review and meta-analysis. *Psychiatry Clin Neurosci* 74(4): 247 - 256, 2020. DOI: 10.1111/pcn.12976. [Epub ahead of print]
  21. Sakurai H<sup>1,2</sup>, Uchida H<sup>2</sup>, Kato M<sup>3</sup>, Suzuki T<sup>4</sup>, Baba H<sup>5</sup>, Watanabe K, Inada K<sup>6</sup>, Kikuchi T<sup>2</sup>, Katsuki A<sup>7</sup>, Kishida I<sup>8,9</sup>, Kikuchi Y<sup>10</sup>, Yasui-Furukori N<sup>11</sup> (1Massachusetts General Hospital, 2Keio University, 3Kansai Medical University, 4University of Yamanashi, 5Juntendo University, 6Tokyo Women's Medical University 7University of Occupational and Environmental Health 8Fujisawa Hospital 9Yokohama City University 10Akita University 11Dokkyo Medical University): Pharmacological Management of Depression: Japanese Expert Consensus. *J Affective Disorders* 266: 626 - 632, 2020. DOI: 10.1016/j.jad.2020.01.149. [Epub ahead of print]
  22. Tsuboi T, Suzuki T<sup>1</sup>, Azekawa T<sup>2</sup>, Adachi N<sup>2</sup>, Ueda H<sup>2</sup>, Edagawa K<sup>2</sup>, Katsumoto E<sup>2</sup>, Kubota Y<sup>2</sup>, Goto E<sup>2</sup>, Hongo S<sup>2</sup>, Watanabe Y<sup>2</sup>, Kato M<sup>3</sup>, Yasui-Furukori N<sup>4</sup>, Yoshimura R<sup>5</sup>, Nakagawa A<sup>6</sup>, Kikuchi T<sup>6</sup>, Watanabe K (1The Japanese Society of Clinical Neuropsychopharmacology, 2The Japanese Association of Neuro-Psychiatric Clinics, 3Kansai Medical University, 4Dokkyo Medical University, 5University of Occupational and Environmental Health, 6Keio University): Factors associated with non-remission in bipolar disorder: The multicenter treatment survey for bipolar disorder in

- psychiatric outpatient clinics (MUSUBI). Neuropsychiatr Dis Treat 2020(16): 881 - 890, 2020. DOI: 10.2147/NDT.S246136
23. 渡邊 衡一郎: 統合失調症治療において新たな剤形である貼付剤が加わることの意義. 臨床精神薬理 23(3): 275 - 281, 2020.
  24. 坪井 貴嗣: 治療効果の検討 難治性うつ病に対する漢方薬の可能性. 医学のあゆみ 272: 490 - 494, 2020.
  25. 浅井 宏友, 坪井 貴嗣: よく使う日常治療薬の正しい使い方 うつ病治療における抗うつ薬の使い方. レジデントノート 21: 2873 - 2877, 2020.
  26. 坪井 貴嗣: 漢方薬をいかにスマートに処方するか. 臨床精神薬理 23: 189 - 196, 2020.
  27. 高江洲 義和: 睡眠障害の影響を考慮したアプローチ (特集 気分障害UP DATE—難治性うつ病に対しあきらめず取り組む—). 医学のあゆみ 272: 429 - 432, 2020.
  28. 高江洲 義和: 不眠症における Shared Decision Making(SDM)の実践. クリニシアン 678: 19 - 25, 2020.

## 著書

1. 渡邊 衡一郎: 【精神科診療マニュアル】気分障害 薬物療法(解説/特集). 精神科 35(1). 「精神科」編集委員会編集. 東京, 科学評論社, 2019. p.114 - 119.
2. 渡邊 衡一郎(分担執筆): 抗精神病薬 抗うつ薬 その他. 今日の治療薬2020解説と便覧. 浦部 晶夫, 島田 和幸, 川合 眞一編集. 東京, 南江堂, 2020. p.843 - 884.
3. 渡邊 衡一郎(分担執筆): 抗不安薬 睡眠薬. 今日の治療薬2020解説と便覧. 浦部 晶夫, 島田 和幸, 川合 眞一編集. 東京, 南江堂, 2020. p.885 - 904.
4. 坪井 貴嗣(分担執筆): 看護師・看護学生のためのなぜ? どうして? 2020 - 2021 ⑨精神看護学/在宅看護論. 医療情報科学研究所編. 東京, メディックメディア, 2019.
5. 坪井 貴嗣(分担執筆): I. 禁煙の医学 2. 能動喫煙による疾患 N. 認知症・精神疾患. 禁煙学 (第4版). 日本禁煙学会編. 東京, 南山堂, 2019.
6. 坪井 貴嗣(分担執筆): U. 精神科. クエスチョン・バンク 医師国家試験問題解説2021. vol.5. 東京, メディックメディア, 2020.
7. 志村 哲祥, 高江洲 義和(分担執筆): 発達障害と睡眠. 子どもの睡眠ガイドブック—眠りの発達と睡眠障害の理解—. 駒田 陽子, 井上 雄一編集. 東京, 朝倉書店, 2019. p.129 - 137.
8. 片桐 建志(分担執筆): 難治性うつ病に対する対人関係療法の付加の効果. 医学のあゆみ 272巻5号. 渡邊 衡一郎編集. 東京, 医歯薬出版, 2020. p.467 - 471.

## その他

1. 渡邊 衡一郎: あさいち「あなたの【うつ】、本当に【うつ病】ですか?」NHK総合テレビ, 2019年5月8日.
2. 第48回日本女性心身医学会学術集会主催, 三鷹, 2019年6月29 - 30日.
3. 高江洲 義和: 1話 毎日の睡眠に必要な時間はどのくらい?—当事者・家族に役立つ睡眠の話—. 月刊みんなねっと10月号, p.28 - 29, 2020.
4. 高江洲 義和: 2話 快眠のための生活習慣—当事者・家族に役立つ睡眠の話—. 月刊みんなねっと11月号, p.28 - 29, 2020.
5. 高江洲 義和: 3話 上手な昼寝習慣—当事者・家族に役立つ睡眠の話—. 月刊みんなねっと12月号, p.30 -

31, 2020.

6. 高江洲 義和: 4話 夜型体質と若年者の不眠—当事者・家族に役立つ睡眠の話—. 月刊みんなねっと1月号, p.28 - 29, 2020.
7. 高江洲 義和: 5話 高齢者でみられる生理的な不眠—当事者・家族に役立つ睡眠の話—. 月刊みんなねっと2月号, p.28 - 29, 2020.
8. 高江洲 義和: 6話 睡眠薬を飲んだほうがいいのでしょうか?—当事者・家族に役立つ睡眠の話—. 月刊みんなねっと3月号, p.28 - 29, 2020.
9. 高江洲 義和: 7話 睡眠薬の使い分け—ベンゾジアゼピン受容体作動薬——当事者・家族に役立つ睡眠の話—. 月刊みんなねっと4月号, p.30 - 31, 2020.
10. 高江洲 義和: 8話 睡眠薬の使い分け—新規睡眠薬——当事者・家族に役立つ睡眠の話—. 月刊みんなねっと5月号, p.28 - 29, 2020.

## 小児科学教室

## 講演

1. Tanaka E, Hada I, Yan K: RNA expressions of Crumbs2(CRB2) and actin-related molecules are altered accordant with the status of nephrotic syndrome. The 17th China-Japan-Korea Pediatric Nephrology Seminar 2019, China, April 13th, 2019.
2. 大久保 結子, 那須 ゆかり, 細井 健一郎, 楊國昌: 高K血症が遷延したCornelia de Lange症候群の1例. 第122回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019年4月19日.
3. 呉 亜沙美, 瀧浦 俊彦, 川原 亜友美, 福原 大介, 保崎 明, 吉野 浩, 楊國昌: 複視を契機に発覚したミノサイクリンによる頭蓋内圧亢進症の1例. 第122回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019年4月19日.
4. 渡邊 雅慧, 大城 紗彩, 大熊 こずえ, 山本 明日香, 宮田 世羽, 保崎 明, 楊國昌: I型薬物アレルギーの再評価の重要性: グリシン脳症の1例. 第122回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019年4月19日.
5. 生田 真麻, 高橋 昌兵, 三浦 舞子, 山本 明日香, 保崎 明, 楊國昌: ロタウイルス胃腸炎を契機に好酸球性胃腸炎と診断された1例. 第122回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019年4月21日.
6. 宮田 世羽: 小児痙縮・ジストニア診療ガイドライン策定委員会主催セミナー—ジストニアの診断に応じた治療選択—. 第61回日本小児神経学会学術集会, 名古屋, 2019年5月31日.
7. 大熊 こずえ, 宮田 世羽, 金沢 真希子, 中川 美和, 楊國昌: 非ケトーシス型高グリシン血症にみられた急性増悪. 第61回日本小児神経学会学術集会, 名古屋, 2019年6月1日.
8. 天木 祥子, 安藤 理恵, 宮澤 永尚, 吉野 浩, 楊國昌: 腎不全で発症し、治療中に真菌性肝脾腫瘍を合併した成熟B細胞性(パーキット型)白血病の1例. 第125回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2019年6月14日.
9. 濱野 翔, 西間 大祐, 松崎 寛司, 佐竹 真緒, 工藤 恭子, 柳田 憲一, 手塚 純一郎: マクログールアレルギーによりアナフィラキシーを繰り返した3歳男児例. 第68回日本アレルギー学会, 東京, 2019年6月14日.
10. 白倉 健世, 千葉 直子, 渡沙 季, 森山 遥, 坂本 大典, 山崎 聡子, 細井 健一郎, 吉野 浩, 楊國昌, 大西 宏明: 好酸球の鑑別に注意を要した一過性骨髄異常増殖症(TAM)の1症例. 第20回日本検査血液学会, 奈良, 2019年7月6日.
11. 山崎 聡子, 千葉 直子, 大塚 弘毅, 岸野 智則, 吉野 浩,

- 楊國昌, 大森嘉彦, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 骨髄転移を認めた小児横紋筋肉腫の1例. 第20回日本検査血液学会, 奈良, 2019年7月7日.
12. 渡邊雅慧, 阿部真麻, 大熊こずえ, 鴫田雅俊, 宮田世羽, 本田聖子, 楊國昌: 良性特発性新生児けいれんの経過中に生じたミダゾラムによる脳幹解放現象. 日本小児科学会京都地方会, 東京, 2019年7月13日.
  13. 小澤悠里, 細井健一郎, 楊國昌, Ades A, Nishisaki A: NICUでの挿管における前投薬の影響についての検討. 第55回日本周産期・新生児医学会, 松本, 2019年7月14日.
  14. 鴫田雅俊, 那須ゆかり, 麓聖子, 細井健一郎, 楠田聡, 楊國昌: NAVA管理下の覚醒時Ediの上昇が診断の発端になった気管・気管支軟化症の超低出生体重児例. 第55回日本周産期・新生児医学会, 松本, 2019年7月14日.
  15. 宮園直人, 宮川智晴, 日高典子, 由留部圭伍, 濱野翔, 西間大祐, 松崎寛司, 手塚純一郎: 小児におけるB2刺激薬吸入量統一の有効性と安全性に関する前方視的観察研究. 第36回日本小児臨床アレルギー学会, 和歌山, 2019年7月28日.
  16. 伴尚子, 小柳美里, 下村瑞代, 濱野翔, 西間大祐, 松崎寛司, 手塚純一郎: アナフィラキシー症例から考える食物経口負荷試験後の栄養指導の注意点. 第36回日本小児臨床アレルギー学会, 和歌山, 2019年7月28日.
  17. 三井清誉, 山形菜々恵, 那須ゆかり, 細井健一郎: 先天性喉頭横隔膜症の一例. 第124回多摩新生児懇話会, 武蔵野, 2019年9月17日.
  18. 瀧浦俊彦, 橋本悟, 大久保結子, 福原大介, 楊國昌: 血清ALP 300IU/L未満を呈した小児における臨床的背景の検討. 第53回小児内分泌学会学術集会, 京都, 2019年9月26日.
  19. 楊國昌: 創薬研究に有用な生理的基盤に基づいたマウスネフローゼモデル. 第21回京阪神Nephrology Conference, 京都, 2019年10月11日.
  20. Nunokawa S, Tanaka E, Ono S, Hada I, Tada N, Kiuchi Z, Nakajima K, Shimizu A, Yan K: A case of chronic tubulointerstitial nephritis associated with acute kidney injury. 18th congress of International Pediatric Nephrology Association, Italy, October 20th, 2019.
  21. Watanabe M, Hada I, Ooshiro S, Mikami N, Tanaka E, Tanaka S, Tashiro K, Yan K: A 4-year-old girl of alkaptonuria identified by low creatinuria. 18th congress of the international pediatric nephrology association, Italy, October 20th, 2019.
  22. 妻木裕太郎, 柳下康博, 木村俊彦, 安藤理恵, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌: 呼吸器感染時の胸部X線写真で発見された遅発性横隔膜ヘルニアの一例. 第126回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2019年10月25日.
  23. 川口明日香: 口腔アレルギー症候群の基礎知識. 第44回南多摩小児臨床研究会, 多摩, 2019年11月1日.
  24. 小池卓也, 小澤悠里, 鴫田雅俊, 細井健一郎: 感染性心内膜炎に対して疣贅除去術を行ったダウン症候群の一例. 第125回多摩新生児懇話会, 武蔵野, 2019年11月12日.
  25. 宮澤永尚, 吉野浩, 安藤理恵, 大熊こずえ, 保科弘明, 大西宏明, 楊國昌: 一過性骨髄異常増殖症と消化管ミルクアレルギーを合併した21トリソミーの新生児例. 第61回日本小児血液・がん学会, 広島, 2019年11月15日.
  26. 安藤理恵, 大隅朋生, 加藤元博, 塩田曜子, 清谷知賀子, 寺島慶太, 松本公一, 富澤大輔: 感染合併症により治療を完遂できなかったt(8;21)陽性急性骨髄性白血病の2症例. 第61回小児血液がん学会学術集会, 広島, 2019年11月16日.
  27. 吳亜沙美, 瀧浦俊彦, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌: 長期間の偏食歴と、急激な運動量の増加により発症した脚気心の一例. 第48回杏林医学会, 三鷹, 2019年11月16日.
  28. 柳下康博, 橋本悟, 安藤理恵, 楊國昌: 便秘を主訴に乳児期に診断されたクラリーノ症候群の1例, 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
  29. 木村俊彦, 鴫田雅俊, 小澤悠里, 本田聖子, 細井健一郎, 野村優子, 楠田聡, 楊國昌: Axenfeld-Reiger症候群の合併が疑われたGlass症候群の一例. 第64回日本新生児成育医学会, 鹿児島, 2019年11月28日.
  30. 細井健一郎: 新生児と、小児と、気になる感染症の話題. 第317回長野県周産期カンファレンス 第28回長野県小児疾患研究会, 安曇野, 2019年12月4日.
  31. 宮田世羽: 発達障害の病態・診断と治療について～薬物治療を中心に～. 東京都病院薬剤師会 臨床薬学研究会, 立川, 2020年2月6日.
  32. 牧野篤司, 田島巖, 北村勝誠, 高里良宏, 松井照明, 松浦至郎, 伊藤浩明, 山田千佳子, 和泉秀彦, 近藤康人: 大豆アレルギー児に対する調整粉末大豆乳(ボンラクトi)のアレルゲン性および経口免疫療法の検討. 食物アレルギー研究会, 横浜, 2020年2月9日.
  33. 安藤理恵: 眼球突出で発症した眼窩腫瘍の3例. 北多摩南部小児がん症例検討会・講演会, 三鷹, 2020年2月13日.
- 平成30年度追加分**
1. 楊國昌: 新規ステロイド感受性遺伝子とCrumbs からみた特発性ネフローゼの病態. 東北小児腎臓病研究会, 盛岡, 2019年3月9日.
- 地域の講演会・一般向け公開講座**
1. 川口明日香: 学童保育におけるアレルギー対応. 新座, 2019年4月22日.
  2. 川口明日香: 学童保育におけるアレルギー対応. ふじみ野, 2019年7月1日.
  3. 宮田世羽: 医療的ケアによるインシデント・アクシデントについて. 東京都立府中けやきの森学園医療的ケア職員研修会, 府中, 2019年7月31日.
  4. 川口明日香: 学童保育におけるアレルギー対応. 嵐山, 2019年10月7日.
  5. 田中絵里子: 小児科疾患～小児特有の疾患・診療～～成人との違い～. マニュアル生命保険会社講演会, 東京, 2019年11月14日.
  6. 瀧浦俊彦: 1型糖尿病 子供が集団で過ごすために知って欲しいこと. 杉並区今川保育園, 2019年11月18日.
- 論文**
1. Espiritu EB<sup>1</sup>, Jiang H<sup>1</sup>, Moreau-Marquis S<sup>2</sup>, Sullivan M<sup>3</sup>, Yan K, Beer Stolz D<sup>3</sup>, Sampson MG<sup>4</sup>, Hukriede NA<sup>1</sup>, Swiatecka-Urban A<sup>1</sup>(<sup>1</sup>University of Pittsburgh School of Medicine, <sup>2</sup>Geisel School of Medicine, <sup>3</sup>UPMC Children's Hospital of Pittsburgh, University of Pittsburgh School of Medicine, <sup>4</sup>University of Michigan Medical School): The human nephrin Y<sup>1139</sup>RSL motif is essential for podocyte foot process organization and slit diaphragm

- formation during glomerular development. *J Biol Chem* 294: 10773-10788, 2019. doi: 10.1074/jbc.119.012345
2. Akimoto Y<sup>1</sup>, Yan K, Miura Y<sup>2</sup>, Tsumoto H<sup>2</sup>, Toda T<sup>2</sup>, Fukutomi T<sup>3</sup>, Sugahara D<sup>1</sup>, Kudo A<sup>1</sup>, Arai T<sup>4</sup>, Chiba Y<sup>5</sup>, Kaname S<sup>6</sup>, Hart GW<sup>7</sup>, Endo T<sup>2</sup>, Kawakami H<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3</sup>Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, <sup>5</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>6</sup>Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, <sup>7</sup>Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, <sup>8</sup>University of Georgia): O-GlcNAcylation and Phosphorylation of  $\beta$ -Actin Serine199 in Diabetic Nephropathy. *Am J Physiol Renal Physiol* 317(5), 2019. doi: 10.1152/ajprenal.00566
  3. 金森透<sup>1</sup>, 田中絵里子, 岡本圭祐<sup>1</sup>, 多田憲正<sup>1</sup> (日本小児腎臓病学会男女共同参画委員会): 機能的片腎症と膀胱尿管逆流を背景に続発性偽性低アルドステロン症を繰り返した一例. *日本小児体液研究会誌* 11巻: 19-23, 2019.
  4. 張田豊<sup>1</sup>, 田中絵里子, 大森多恵<sup>1</sup>, 浅野貴子<sup>1</sup>, 松村千恵子<sup>1</sup>, 久野正貴<sup>1</sup>, 秋岡祐子<sup>1</sup> (東京医科歯科大学): 日本小児腎臓病学会の男女共同参画の課題と今後の取り組み. *日本小児科学会雑誌* 123巻6号: 1048-1054, 2019.
  5. Hasegawa S<sup>1</sup>, Kumada S<sup>2</sup>, Tanuma N<sup>3</sup>, Tsuji-Hosokawa A<sup>1</sup>, Kashimada A<sup>1</sup>, Mizuno T<sup>1</sup>, Moriyama K<sup>1</sup>, Sugawara Y<sup>4</sup>, Shirai I<sup>2</sup>, Miyata Y, et al (<sup>1</sup>Tokyo Medical and Dental University (TMDU), <sup>2</sup>Tokyo Metropolitan Neurological Hospital, <sup>3</sup>Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, <sup>4</sup>Tokyo Medical and Dental University (TMDU); Soka Municipal Hospital): Long-Term Evaluation of Low-Dose Betamethasone for Ataxia Telangiectasia. *Pediatr Neurol* 100:60-66, 2019.
  6. Takata A<sup>1</sup>, Nakashima M<sup>1,2</sup>, Saito H<sup>1,2</sup>, Mizuguchi T<sup>1</sup>, Mitsuhashi S<sup>1</sup>, Takahashi Y<sup>3</sup>, Okamoto N<sup>4</sup>, Osaka H<sup>5</sup>, Nakamura K<sup>6</sup>, Tohyama J<sup>7</sup>, Haginoya K<sup>8</sup>, Takeshita S<sup>9</sup>, Kuki I<sup>10</sup>, Okanishi T<sup>11</sup>, Goto T<sup>12</sup>, Sasaki M<sup>13</sup>, Sakai Y<sup>14</sup>, Miyake N<sup>1</sup>, Miyatake S<sup>1</sup>, Tsuchida N<sup>1</sup>, Iwama K<sup>1</sup>, Minase G<sup>1</sup>, Sekiguchi F<sup>1</sup>, Fujita A<sup>1</sup>, Imagawa E<sup>1</sup>, Koshimizu E<sup>1</sup>, Uchiyama Y<sup>1</sup>, Hamanaka K<sup>1</sup>, Ohba C<sup>1</sup>, Itai T<sup>1</sup>, Aoi H<sup>1</sup>, Saida K<sup>1</sup>, Sakaguchi T<sup>1</sup>, Den K<sup>1</sup>, Takahashi R<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>3</sup>, Yamaguchi T<sup>3</sup>, Tsukamoto K<sup>3</sup>, Yoshitomi S<sup>3</sup>, Oboshi T<sup>3</sup>, Imai K<sup>3</sup>, Kimizu T<sup>4</sup>, Kobayashi Y<sup>7</sup>, Kubota M<sup>15</sup>, Kashii H<sup>15</sup>, Baba S<sup>11</sup>, Iai M<sup>12</sup>, Kira R<sup>16</sup>, Hara M<sup>17</sup>, Ohta M<sup>18</sup>, Miyata Y, et al (<sup>1</sup>Yokohama City University Graduate School of Medicine, <sup>2</sup>Hamamatsu University School of Medicine, <sup>3</sup>National Epilepsy Center, NHO Shizuoka Institute of Epilepsy and Neurological Disorders, <sup>4</sup>Osaka Women's and Children's Hospital, <sup>5</sup>Jichi Medical University, <sup>6</sup>Yamagata University Faculty of Medicine, <sup>7</sup>NHO Nishinigata Chuo Hospital, <sup>8</sup>Miyagi Children's Hospital, <sup>9</sup>Yokohama City University Medical Center, <sup>10</sup>Osaka City General Hospital, <sup>11</sup>Seirei Hamamatsu General Hospital, <sup>12</sup>Kanagawa Children's Medical Center, <sup>13</sup>National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>14</sup>Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, <sup>15</sup>National Center for Child Health and Development, <sup>16</sup>Fukuoka Children's Hospital, <sup>17</sup>Kurume University School of Medicine, <sup>18</sup>Aiseikai Memorial Ibaraki Welfare Medical Center): Comprehensive analysis of coding variants highlights genetic complexity in developmental and epileptic encephalopathy. *Nat Commun* 10(1):2506, 2019. doi: 10.1038/s41467-019-10482-9
  7. 川口明日香, 山形奈々恵, 神尾朋洋, 朽名悟, 吉野浩, 楊國昌: IgA血管炎に合併したワクチン株水痘の一例. *日本小児臨床薬理学会雑誌* 31: 46-49, 2019.
  8. Takahashi S<sup>1,2</sup>, Ozawa Y, Nagasawa J<sup>1</sup>, Ito Y<sup>1</sup>, Ouchi G<sup>2</sup>, Kabbur P<sup>3,4</sup>, Moritoki Y<sup>2,5</sup>, Berg BW<sup>2</sup>(<sup>1</sup>National Center for Child Health and Development, <sup>2</sup>John A. Burns School of Medicine, University of Hawaii, <sup>3</sup>Kapiolani Medical Center for Women and Children, <sup>4</sup>Medical Center of Arlington, Sheridan Healthcare Services, <sup>5</sup>Akita University Hospital): Umbilical catheterization training: Tissue hybrid versus synthetic trainer. *Pediatr Int* 61(7):664-671, 2019. doi: 10.1111/ped.13904
  9. Ozawa Y, Ades A<sup>1</sup>, Foglia EE<sup>1</sup>, DeMeo S<sup>2</sup>, Barry J<sup>3</sup>, Sawyer T<sup>4</sup>, Singh N<sup>5</sup>, Glass K<sup>6</sup>, Jung P<sup>7</sup>, Quek BH<sup>8</sup>, Johnston L<sup>9</sup>, Kim J<sup>10</sup>, Napolitano N<sup>1</sup>, Shults J<sup>11</sup>, Nadkarni VM<sup>1</sup>, Nishisaki A<sup>1</sup>(<sup>1</sup>The Children's Hospital of Philadelphia, <sup>2</sup>WakeMed, Health and Hospital, <sup>3</sup>University of Colorado School of Medicine and Children's Hospital Colorado, <sup>4</sup>University of Washington School of Medicine and Seattle Children's Hospital, <sup>5</sup>Dartmouth Hitchcock Medical Center, <sup>6</sup>Penn State Health Children's Hospital/Penn State College of Medicine, <sup>7</sup>University Hospital Schleswing-Holstein, <sup>8</sup>KK Women's and Children's Hospital, <sup>9</sup>Yale University School of Medicine, <sup>10</sup>University of California San Diego, <sup>11</sup>University of Pennsylvania Perelman School of Medicine): Premedication with neuromuscular blockade and sedation during neonatal intubation is associated with fewer adverse events. *National Emergency Airway Registry for Neonates (NEAR4NEOS) Investigators, J Perinatol* 39(6):848-856, 2019. doi: 10.1038/s41372-019-0367-0.
  10. Hamano S, Nishima D<sup>1</sup>, Satake M<sup>1</sup>, Kudo K<sup>1</sup>, Yanagita K<sup>1</sup>, Tezuka J<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Fukuoka Children's Hospital): Recurrent Immediate Type Hypersensitivity Reaction Induced by Macrogol in a 3-Year-Old Boy. *J Invest Allergol Clin Immunol* 30:72-73, 2020.
  11. 長堀由香里, 宮田世羽, 木内善太郎, 楊國昌: 突発性発疹を契機に発症した paroxysmal tonic upgaze of childhood の一例. *小児科診療* 83巻4号 543-546, 2020.
  12. 阿部真麻, 高橋昌兵, 三浦舞子, 川口明日香, 保崎明, 楊國昌: 遷延する消化器症状から診断に至った好酸球性胃腸炎の1例. *小児科臨床* vol.73 No.4: 417-421, 2020.
  13. Miyata Y, et al: An atypical case of KMT2B-related dystonia manifesting asterixis and effect of deep brain stimulation of the globus pallidus. *Neurol Clin Neurosci* vol.8(1): 36-38, 2020. doi:org/10.1111/ncn3.12334
  14. Honda T<sup>1,2</sup>, Mitoma H<sup>3</sup>, Yoshida H<sup>4</sup>, Bando K<sup>2</sup>, Terashi H<sup>5</sup>, Taguchi T<sup>5</sup>, Miyata Y, et al (<sup>1</sup>Tokyo

Metropolitan Institute of Medical Science,  
<sup>2</sup>Integrative Brain Imaging Center (IBIC),  
National Center of Neurology and Psychiatry,  
<sup>3</sup>Tokyo Medical University, <sup>4</sup>Tokyo University of  
Agriculture and Technology, <sup>5</sup>Tokyo Medical  
University): Assessment and Rating of Motor  
Cerebellar Ataxias With the Kinect v2 Depth  
Sensor: Extending Our Appraisal. *Front Neurol*,  
2020. doi: 10.3389/fneur.2020.00179 [eCollection]

## 著書

1. 細井健一郎, 楠田聡: 低出生体重児. 産科婦人科疾患最新の治療2019-2021. 吉川史隆・平松祐司・大須賀穰. 東京, 南江堂, 2019. p.146-148.
2. 田中絵里子: 病態と疾患 代謝救急・電解質異常 高ナトリウム血症、低ナトリウム血症 SIADHを含めて. 小児内科51巻増刊号 小児の救急・搬送医療. 『小児内科』『小児外科』編集委員会共編. 東京, 東京医学社, 2019. p.600-603.
3. 濱野翔, 西間大祐, 手塚純一郎: オマリズマブ、メボリズマブに挑戦するには?. 小児科診療. 永田智. 東京, 診断と治療社, 2019. p.607-612.
4. 楊國昌: 小児の尿路感染症. 第8版今日の治療指針. 2020. p.1853-1854.

## その他

1. 楊國昌: 第125回多摩小児科臨床懇話会主催, 三鷹, 2019年6月14日.
2. 楊國昌: 第126回多摩小児科臨床懇話会主催, 三鷹, 2019年10月25日.

## 消化器・一般外科学教室

## 講演

1. 阿部展次: 胃・十二指腸—縮小手術の最前線・胃癌術後療法も含めて—. 第5回南多摩消化器がんフォーラム, 東京, 2019年2月16日.
2. 橋本佳和, 阿部展次, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸: A new option for intracorporeal circular-stapled esophagojejunostomy: Use of a per-oral endoscope. 第91回日本胃癌学会総会, 沼津, 2019年2月28日.
3. 大木亜津子, 竹内弘久, 鶴見賢直, 橋本佳和, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: The eCura system is useful for deciding whether additional surgery should be performed after non-curative ESD in elderly patients. 第91回日本胃癌学会総会, 沼津, 2019年2月28日.
4. 竹内弘久, 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 森俊幸: 幽門側胃切除症例に対するNo.1, No.4sbリンパ節転移の検討. 第91回日本胃癌学会総会, 沼津, 2019年3月1日.
5. Kishiki T, Kristine Kuchta, Michael Chen, John Linn, JoAnn Carbray, Ray Joehl, Michael B. Ujiki, Stephen Haggerty: A Valid Tool For Training and Assessment in Laparoscopic Appendectomy. the 35th The congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (PPSA-JC) USA, February 28th, 2019.
6. Koba T, Kishiki T, Tsurumi M, Iioka A, Akiya M, Takagi T, Suzuki Y, Sunami E, Sakamoto Y, Masaki T, Mori T, Abe N: Peristomal necrotizing fasciitis following ileostomy formation in a patient with ulcerative colitis: a case report. The 35th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association, USA, February 28th-March 2nd, 2019.
7. Takeuchi T, Abe N, Tsurumi M, Hashimoto Y, Ohki A, Nagao G, Sakamoto Y, Masaki T, Mori T: Examination of No. 1/No. 4sb lymph node metastasis in distal gastrectomy for gastric cancer. The 35th PPSA, USA, March 2nd, 2019.
8. Abe N: Minimally invasive surgery for gastric submucosal tumor (special lecture). The 35th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, March 2nd, 2019.
9. Kutsuna T, Kishiki T, Kojima K, Aso N, Beniya A, Hashimoto Y, Suzuki Y, Masaki T, Mori T, Sakamoto Y, Sunami E, Abe N: A case of rectal GIST treated by transvaginal rectal resection. The 35th PPSA USA, March 2nd, 2019.
10. 正木忠彦: 大腸癌浸潤先進部からみえるもの-個別化医療をめざして-. 第206回弘前消化器病研究会, 弘前, 2019年3月5日.
11. 阿部展次: 十二指腸腫瘍、内視鏡的切除か手術か? ~腹腔鏡下縮小手術を中心に~. 第15回長野県内視鏡治療研究会, 長野, 2019年3月9日.
12. 阿部展次: Beyond the ESD—胃・十二指腸腫瘍に対する低侵襲治療の試み—. がん医療の集い, 大分, 2019年3月29日.
13. Nakazato T, Su B, Novak S, Deal S, Kuchta K, Ujiki M: Improving attainment of the critical view of safety during laparoscopic cholecystectomy. SAGES annual meeting, USA, April 3-6, 2019.
14. 井手麻友美, 須並英二, 小嶋幸一郎, 飯岡愛子, 吉敷智和, 橋本佳和, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次: 保存的に治癒し得た成人特発性腸重積の一例. 日本消化器病学会関東支部第354回例会, 東京, 2019年4月13日.
15. 井手麻友美, 須並英二, 小嶋幸一郎, 飯岡愛子, 吉敷智和, 橋本佳和, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次: 保存的に治癒し得た成人特発性腸重積の1例. 第354回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年4月13日.
16. 井手麻友美, 須並英二, 小嶋幸一郎, 飯岡愛子, 吉敷智和, 橋本佳和, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次: 保存的に治癒し得た成人特発性腸重積の1例. 日本消化器病学会関東支部第354回例会, 東京, 2019年4月13日.
17. 天野隆皓, 和田亜美, 加藤岳晴, 松浦翔, 赤井隆司, 豊島明, 須並英二: 当院における大腸癌に対する骨盤内臓全摘術の検討. 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月18日.
18. 豊島明, 赤井隆司, 天野隆皓, 橋本拓哉, 高本健史, 須並英二: 左右を加味し長期生存例からみた転移再発大腸癌に対する抗EGFR抗体薬の効果的使用RAS野生型. 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月18日.
19. 高山祐一, 須並英二, 土屋誉, 佐藤道夫, 中村将人, 平林直樹, 杉山克郎, 植竹宏之, 森田智視, 杉原健一: Stage IIIb大腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/leucovorin療法とTS-1/oxaliplatin(SOX)療法のランダム化比較第III相試験 ACTS-CC02試験. 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月18日.
20. 石原聡一郎, 川合一茂, 松阪諭, 須並英二, 江本成伸, 室野浩司, 日吉雅也, 金子学, 佐々木和人, 秀野康隆, 西川武司, 田中敏明, 畑啓介, 野澤宏彰: 下部直腸癌に対する術前治療 Irrinotecanまたは

- oxaliplatinを用いた直腸癌に対する術前化学放射線療法に関する第I/II相研究(PhaseI/II studies of preoperative chemoradiotherapy for rectal cancer using irrinotecan or oxaliplatin). 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月18日.
21. 竹内弘久, 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸: 成人女性鼠径管内嚢胞性腫瘍病変に対する検討. 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月18日.
  22. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 紅谷鮎美, 阪本良弘, 森俊幸, 山内慎一, 杉原健一, 阿部展次: 大腸癌プレシジョン・メディシン導入の出発点として、左右結腸癌のStage別臨床病理学的相違の検討. 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月20日.
  23. 正木忠彦: 当院における炎症性腸疾患外科治療の現状と課題. 第23回IBDを学ぶ会, 久留米, 2019年4月26日.
  24. 木庭露葉, 下里あゆ子, 織畑光一, 山澤邦宏, 水地大輔, 鈴木丈夫, 田尻亮輔, 岸田由起子, 奥田純一: 慢性骨髄単球性白血病に伴う巨大脾腫に対し腹腔鏡補助下脾臓摘出術を施行した一例. 第594回通信医学集談会, 東京, 2019年5月16日.
  25. 阪本良弘, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 長谷川潔, 國土典宏: Partial TIPE ALPPS. 第73回手術手技研究会, 東京, 2019年5月25日.
  26. 大木亜津子, 橋本佳和, 竹内弘久, 長尾玄, 阿部展次: 抗血栓内服症例に対し6病日に施行した2nd look 内視鏡の臨床的意義. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年6月1日.
  27. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子: 胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的全層切除術の手技と治療成績. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年6月1日.
  28. 竹内弘久, 阿部展次, 森俊幸, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子: 胃癌Roux-en-Y再建後の再建腸管悪性狭窄に対する内視鏡的ステント留置術に対する検討. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年6月2日.
  29. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子: 胃粘膜腫瘍に対する筋層以深内視鏡的切除の治療成績. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年6月2日.
  30. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 森俊幸, 大野亜希子, 大圃研: 十二指腸SM癌に対する新たなオプション?—先行内視鏡的切除と臍頭十二指腸腹腔鏡下リンパ節郭清術の併用. 第3回十二指腸腫瘍の診断および低侵襲治療に関する研究会, 東京, 2019年6月2日.
  31. 下山勇人, 長尾玄, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 胃食道逆流症に対する腹腔鏡下Nissen手術(Reduced port surgery)の有用性. 第73回日本食道学会学術集会, 福岡, 2019年6月5日.
  32. 竹内弘久, 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 下山田博明, 柴原純二, 森俊幸: 内視鏡的粘膜下層剥離術を施行した食道神経内分泌細胞癌の1例. 第73回日本食道学会学術集会, 福岡, 2019年6月7日.
  33. 下山勇人, 長尾玄, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 森俊幸, 正木忠彦, 阿部展次: 胃食道逆流症に対する腹腔鏡下Nissen手術(Reduced port surgery)の有用性. 第73回日本食道学会, 福岡, 2019年6月7日.
  34. 川口翔平, 竹内弘久, 井手麻友美, 本多五奉, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 食道癌術後挙上胃管の捻転狭窄に対するトラブルシューティング 一時的SEMS留置が奏功した1例. 第108回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2019年6月8日.
  35. Ide M, Suzuki Y, Kawaguchi S, Honda K, Matsuki R, Kogure M, Masaki T, Mori T, Abe N, Sakamoto Y: Thoraco-Phreno-abdominal approach for resection of a recurrent hepatocellular carcinoma in s7of the liver. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 高松, 2019年6月13-15日.
  36. Sugiyama M, Suzuki Y: Development of rational and simple procedures for training young HPB surgeons. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 高松, 2019年6月13日.
  37. Suzuki Y, Kogure M, Matsuki R, Nakazato T, Masaki T, Mori T, Abe N, Sakamoto Y: A potential utility of a new scoring formula for prediction of malignant intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 高松, 2019年6月13日.
  38. Matsuki R, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Safety of 'No drain' policy in combination with bile leakage test after hepatectomy. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 高松, 2019年6月13日.
  39. Ide M, Suzuki Y, Kawaguchi S, Honda K, Matsuki R, Kogure M, Masaki T, Mori T, Abe N, Sakamoto Y: Thraco-phreno-abdominal approach for resection of a recurrent hepatocellular carcinoma in S7 of the liver. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 高松, 2019年6月13日.
  40. Kogure M, Matsuki R, Nakazato T, Suzuki Y, Abe N, Sakamoto Y. Management of lately detected pancreatic pseudocyst after distal pancreatectomy. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 高松, 2019年6月13日.
  41. 阿部展次: 胃・十二指腸腫瘍に対する最新の低侵襲治療. 三鷹市医師会外科医会学術講演会, 東京, 2019年6月21日.
  42. 小暮正晴, 松木亮太, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 長濱清隆, 柴原純二, 阪本良弘: 完全自然壊死を来した肝尾状葉の肝細胞癌の1例. 第55回日本肝癌研究会, 東京, 2019年7月4日.
  43. 川口翔平, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 3度の開腹歴と脾腫大のある S7再発肝細胞癌に対する左半臥位での斜切開開胸開腹アプローチの有用性について. 第55回日本肝癌研究会, 東京, 2019年7月4-5日.
  44. 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 切除不能大腸癌両葉多発肝転移に対する化学療法後のPartial TIPE ALPPS. 第55回日本肝癌研究会, 東京, 2019年7月4-5日.
  45. 阪本良弘: 睪がん胆道がんと闘う. 第17回日本消化器外科学会大会 市民公開講座「がんから身を守るために」. 三鷹, 2019年7月6日.
  46. 須並英二: 増えている大腸がんについて知っておきたいこと. 第17回日本消化器外科学会大会, 三鷹, 2019年7月6日.
  47. 鈴木裕, 立石秀勝, 松木良太, 小暮正晴, 中里徹矢, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次, 阪本良弘: MCN疑い病変の取扱い-経過観察可能な病変はあるか? 造影CTと造影MRI、腹部拡散強調画像併用によるMCN診断の有用性. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12日.



48. 土岐真朗, 仲田大輔, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 岡野尚弘, 渡邊俊介, 松木亮太, 小暮正晴, 立石秀勝, 鈴木裕, 柴原純二, 阪本良弘, 古瀬純司, 久松理一: 膵癌早期診断における糖鎖修飾リボヌクレアーゼ1 (RNase1) とCA19-9の有用性の検討. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12日.
49. 黒澤貴志, 岡野尚弘, 松木亮太, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 鈴木裕, 長島文夫, 古瀬純司: 切除不能膵癌に対するconversion surgeryの覚悟での現況と課題. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12日.
50. 辻喜久, 池浦司, 糸井隆夫, 岩崎栄典, 岸和田昌之, 北村勝哉, 阪上順一, 白井邦博, 鈴木裕, 竹中完, 廣田衛久, 正宗淳, 真弓俊彦, 堀部昌靖, 能登原憲司, 入江 裕之, 蒲田敏文, 竹山宜典: (膵炎研究調査-急性膵炎調査研究分科会報告) 急性膵炎局所合併症の定義の再検討. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12日.
51. 廣田衛久, 竹山宜典, 池浦司, 糸井隆夫, 伊藤鉄英, 岩崎栄典, 堀部昌靖, 岸和田昌之, 北村勝哉, 阪上順一, 白井邦博, 鈴木裕, 竹中完, 辻喜久, 正宗淳, 真弓俊彦: (膵炎研究調査-急性膵炎調査研究分科会報告) 重症度判定基準の改定中間報告. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12日.
52. 鈴木裕, 立石秀勝, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次, 阪本良弘: 造影CTと造影MRI、腹部拡散強調画像併用によるMCN診断の有用性. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12日.
53. 小暮正晴, 鈴木裕, 松木亮太, 倉井大輔, 廣川達也, 大窪泰弘, 柴原純二, 落合一成, 渡邊俊介, 土岐真朗, 阪本良弘: 膵体部Solid pseudopapillary neoplasmとの鑑別を要した結核性リンパ節炎の一例. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月13日.
54. 横山政明, 小島洋平, 近藤恵里, 山口高史, 柳田修, 二階堂孝, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阿部展次, 阪本良弘, 柴原純二, 古瀬純司: 切除不能・異時性膵癌に対し集学的治療が奏功した長期生存例. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月13日.
55. 船越早織, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 服部健人, 新井孝明, 紅谷鮎美, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 鶴見賢直, 森俊幸, 正木忠彦, 阪本良弘, 阿部展次, 柴原純二, 久松理一, 須並英二: 肛門外脱出をきたした大腸脂肪腫による腸重積を待機的に治療しえた一例. 第355回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年7月13日.
56. 吉敷智和, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 近藤晴彦, 須並英二: 院内全体での手術室安全管理への取り組み-FUSEプログラムを中心に-. 日本外科教育研究会, 札幌, 2019年7月13-14日.
57. Kishiki T, Abe N, Tadahiko M, Mori T, Sakamoto Y, Sunami E: Initiatives for operating room safety management -Focusing on the FUSE program-. 第74回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019年7月17日.
58. 豊島明, 赤井隆司, 天野隆皓, 須並英二: ISR施行直腸GIST7例の治療経験(イマニチブ術前療法後の3例を含む). 第81回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019年7月17日.
59. 天野隆皓, 田中遥, 佐藤健吾, 赤井隆司, 豊島明, 須並英二, 佐々木慎: 大腸癌骨転移に対するCyberknifeを併用した集学的治療の検討. 第81回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019年7月17日.
60. 竹内弘久, 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸: 胃癌悪性輸入脚閉塞症に対する内視鏡的消化管ステント留置術. 第74回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019年7月19日.
61. 飯岡愛子, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 若松喬, 麻生喜祥, 正木忠彦, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 妊娠中に発症した急性虫垂炎症例. 第60回消化器外科学会, 東京, 2019年7月17-19日.
62. 鈴木裕, 大木亜津子, 橋本佳和, 竹内弘久, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次: 女性外科医活躍のための支援と工夫-杏林大学消化器・一般外科の場合-. 第74回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019年7月19日.
63. 吉敷智和, 近藤良弘, 田中良太, 鈴木裕, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 院内全体での手術室安全管理への取り組み-FUSEプログラムを中心に-. 第74回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019年7月19日.
64. 正木忠彦: 進行下部直腸癌の外科治療-術中照射の有用性の検証. 第4回大分大腸肛門病懇話会, 大分, 2019年7月27日.
65. 正木忠彦: 進行下部直腸癌の外科治療-術中照射ならびに術後補助化学療法の有効性の検証. Colorectal Cancer Forum in Fukui, 福井, 2019年8月9日.
66. 正木忠彦: 大腸癌浸潤先進部からみえるもの-基礎と臨床応用-. Nagasaki Medical Seminar, 長崎, 2019年8月23日.
67. 吉敷智和: 電気手術機器の理論と基礎. 第16回腹腔鏡下手術の理論と基礎, 東京, 2019年9月7日.
68. 木庭露葉, 織畑光一, 寺下勇祐, 長谷川智彦, 下里あゆ子, 山澤邦宏, 村田祐二郎, 奥田純一: 腹腔内破裂した未分化肉腫に対し集学的治療が奏功した一例. 第35回飯田橋フォーラム, 東京, 2019年9月12日.
69. 小嶋幸一郎: 大腸がんを知ろう!. 消化器系ストーマのオストメイト講習会, 東京, 2019年9月15日.
70. 大森春佑, 川口翔平, 鈴木裕, 深沢智将, 磯部聡史, 後藤知之, 中村康弘, 渡邊俊介, 磯谷一暢, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 土岐真朗, 柴原純二, 久松理一, 須並英二, 森俊幸, 阿部展次, 阪本良弘: 長期観察中の先天性胆道拡張症に発生した胆管狭窄に前癌病変が確認された1切除. 第356回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年9月21日.
71. 大森春佑, 川口翔平, 鈴木裕, 深沢智将, 磯部聡史, 後藤知之, 中村康弘, 渡邊俊介, 磯谷一暢, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 土岐真朗, 柴原純二, 久松理一, 須並英二, 森俊幸, 阿部展次, 阪本良弘: 長期観察中の先天性胆道拡張症に発生した胆管狭窄に前癌病変が確認された1切除例. 日本消化器病学会関東支部第355回例会, 東京, 2019年9月21日.
72. 船越早織, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 服部健人, 新井孝明, 紅谷鮎美, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 鶴見賢直, 森俊幸, 正木忠彦, 阪本良弘, 阿部展次, 柴原純二, 久松理一, 須並英二: 肛門外脱出をきたした大腸脂肪腫による腸重積を待機的に治療しえた一例. 日本消化器病学会 関東支部第351回例会, 東京, 2019年9月22日.
73. Yoshino T, Yamanaka T, Shiozawa M, Manaka D, Kotaka M, Gamoh M, Shiomi A, Makiyama A, Munemoto Y, Rikiyama T, Fukunaga M, Ueki T, Shitara K, Shinkai H, Tanida N, Yamazaki K, Sunami E, Ohtsu A, Maehara Y: ACHIEVE-2 Trial: A Randomized Phase III Trial Investigating Duration of Adjuvant Oxaliplatin-Based Therapy

- (3 vs 6 months) for Patients with High-Risk Stage II Colon Cancer. ESMO Congress 2019, Spain, 2019.9.27.
74. 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 渡邊俊介, 土岐真朗, 船田さやか, 久松理一, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次, 柴原純二, 阪本良弘: 重複胆管に発生したIPNBの一切除例. 第55回日本胆道学会学術集会, 名古屋, 2019年10月3日.
  75. 鈴木裕, 森俊幸, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 阿部展次, 露口利夫, 田妻進, 滝川一, 阪本良弘: 最新の全国調査からみた肝内結石症診療の現状. 第55回日本胆道学会学術集会, 名古屋, 2019年10月4日.
  76. 巾匡洋, 小嶋幸一郎, 下山勇人, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 若松喬, 吉敷智和, 橋本佳和, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 穿孔性S状結腸憩室炎術後離解創に対しV.A.C. ULTAを使用し治癒し得た1例. 第32回多摩大腸疾患懇話会, 立川, 2019年10月5日.
  77. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 紅谷鮎美, 本多五奉, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 正木忠彦, 須並英二: 超高齢者(80才以上)の大腸癌手術の短期予後についての検討. 第74回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2019年10月11日.
  78. 豊島明, 赤井隆司, 天野隆皓, 須並英二, 遠藤健, 佐々木慎: 術前放射線化学療法を加味した下部進行直腸癌に対するISRの適応. 第74回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2019年10月11日.
  79. 下山勇人, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 森俊幸, 正木忠彦, 阿部展次: 十二指腸非膨大部表在性上皮性腫瘍に対する腹腔鏡補助下経十二指腸切除術の予備的結果. 第57回日本癌治療学会, 福岡, 2019年10月24-26日.
  80. Sakamoto Y: Surgical strategy for perihilar cancer including Parital TIPE ALPPS. Chinise Surgical Week (CSW) 2019, Chine, Oct 19th, 2019.
  81. Masaki T, Kishiki T, Kojima K, Asou N, Beniya A, Matsuoka H, Tonari A, Takayama M, Abe N, Sunami E: Intraoperative Radiotherapy for advanced lower rectal cancer - Final results of a randomized controlled trial -. 57th Annual Meeting of JSCO, Fukuoka, October 24, 2019.
  82. 大木亜津子, 橋本佳和, 鶴見賢直, 長尾玄, 竹内弘久, 阿部展次: 高齢者ESD非治癒切除症例に対する追加手術適応の決定にeCura systemは有用である. 第57回癌治療学会総会, 福岡, 2019年10月24日.
  83. 竹内弘久, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 胃癌Roux-en-Y再建後の悪性輸入脚閉塞症に対する内視鏡的消化管ステント留置術. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月25日.
  84. 阿部展次: 胃・十二指腸腫瘍に対する新しい低侵襲治療の試み. 第123回日本消化器内視鏡学会四国支部例会, 高知, 2019年11月2日.
  85. 須並英二: 大腸癌治療における血栓塞栓症. Oncocardiology Joint Seminar, 東京, 2019年11月6日.
  86. Sakamoto Y, Matsuki R, Kogure M, Nakazato T, Suzuki Y, Mori T, Hasegawa K: HPD for biliary cancer using Partial TIPE ALPPS. The 3rd Tianjin International Summit on Standard Treatment of Hepatobiliary Cancer & The 5th Digestion/Endoscopy/Liver Disease Summit, China, Nov 9th, 2019.
  87. 篠原正樹, 天野隆皓, 森谷宜皓, 赤井隆司, 豊島明, 須並英二, 佐々木慎: 5回の腫瘍減量術を経て長期生存を得ている卵巣粘液性嚢胞腺癌の1例. 第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019年11月14日.
  88. 後藤充希, 松木亮太, 本多五奉, 服部健人, 新井孝明, 若松喬, 小暮正晴, 鈴木裕, 藤原正親, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次, 柴原純二, 阪本良弘: 後腹膜原発のSolitary Fibrous Tumorの1切除例. 第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019年11月14日.
  89. 船越早織, 小暮正晴, 中里徹矢, 松木亮太, 鈴木裕, 正木忠彦, 須並英二, 阿部展次, 森俊幸, 阪本良弘: 低悪性度腫瘍に対する腹腔鏡下膀胱尾部切除術の短期成績の検討. 第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019年11月14日.
  90. 深沢智将, 松木亮太, 磯部聡史, 川口翔平, 中村康弘, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 岡野尚弘, 古瀬純司, 阪本良弘, 長濱清隆, 柴原純二: 臍頭部癌術後6ヶ月で認めた5個の肝転移再発に対して化学療法施行後35ヶ月目にAdjuvant hepatectomyを施行してR0を得た一例. 第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019年11月14日.
  91. 下山勇人, 杉山政則, 鈴木裕, 橋本佳和, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 森俊幸, 正木忠彦, 阿部展次: 腹部手術後咳嗽痛を軽減させる両側側腹部圧迫法の有効性の検討. 第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019年11月14-16日.
  92. 小暮正晴, 松木亮太, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 杉山政則, 阪本良弘: 幽門輪温存臍頭十二指腸切除術における右胃動脈血流の影響の検討. 第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019年11月15日.
  93. 下山勇人, 杉山政則, 鈴木裕, 橋本佳和, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 森俊幸, 正木忠彦, 阿部展次: 両側側腹部圧迫法による腹部手術後咳嗽時の創痛軽減の有効性について. 第27回日本消化器関連学会週間, 神戸, 2019年11月21-24日.
  94. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 紅谷鮎美, 本多五奉, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 山内慎一, 杉原健一, 正木忠彦, 須並英二: 高齢者stage3大腸癌の特徴と治療(郭清)のあり方. 第17回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2019年11月21-23日.
  95. 川口翔平, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 深沢智将, 井手麻友美, 本多五奉, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 三井達也, 齋藤大祐, 下山田博明, 阪本良弘, 森俊幸, 阿部展次, 柴原純二, 久松理一, 須並英二, 正木忠彦: 小腸動静脈奇形に対して腹腔鏡補助下小腸部分切除を施行した1例. 第17回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2019年11月21-23日.
  96. 麻生喜祥, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 飯岡愛子, 若松喬, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二, 正木忠彦: 大腸癌手術症例における血清抗p53抗体測定の有効性の検討. JDDW2019, 神戸, 2019年11月21-24日.
  97. 長尾玄, 下山勇人, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 森俊幸, 須並英二, 阪本良弘, 正木忠彦, 阿部展次: 大動脈人工血管置換術後の縦隔食道瘻の検討. 第17回日本消化器外科学会大会(JDDW 2019), 神戸, 2019年11月21-23日.
  98. Nakazato T, Mori T, Hashimoto Y, Matsuki R, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Laparoscopic surgery certification system promotes operative safety of the surgical residents. ELSA annual meeting, Thailand, November 21-23, 2019.
  99. 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 全国調査42年間の解析からみた肝内結石症診療の変遷と現状. 第17回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2019年11月21日.

100. 黒澤貴志, 岡野尚弘, 松木亮太, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 鈴木裕, 長島文夫, 柴原純二, 阪本良弘, 古瀬純司: 切除不能膵癌に対する conversion surgery 後の再発と治療選択について. 第61回日本消化器病学会大会, 神戸, 2019年11月21日.
101. 下山勇人, 杉山政則, 鈴木裕, 橋本佳和, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 森俊幸, 正木忠彦, 阿部展次: 両側側腹部圧迫法による腹部手術後咳嗽時の疼痛軽減の有効性について. 第17回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2019年11月22日.
102. 木庭露葉, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 堀川弘史, 藤原正親, 森俊幸, 須並英二, 正木忠彦, 阪本良弘, 柴原純二, 阿部展次: 早期胃癌術後4年で孤立性脳転移を来した一例. 第17回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2019年11月22日.
103. 竹内弘久, 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 千葉知宏, 下山田博明, 菅間博, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 成人女性鼠径管内嚢胞性腫瘤病変に対する治療戦略. JDDW2019, 神戸, 2019年11月22日.
104. 竹内弘久, 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸: 筋層由来胃GISTに対する内視鏡的全層切除術の治療成績. 第13回先進内視鏡治療研究会(J-CASE), 神戸, 2019年11月23日.
105. 橋本佳和, 森俊幸, 飯岡愛子, 鶴見賢直, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 阿部展次: 初期研修医の内視鏡外科手術教育—実技試験におけるタスク分析. 第17回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2019年11月23日.
106. 正木忠彦: 大腸肛門病と私—40年を振り返って Coloproctology and Me—Looking back on 40 years. 第17回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2019年11月23日.
107. 阿部展次: 胃粘膜下腫瘍の切除戦略—内視鏡的切除の展望は?—. Next TV Symposium, 東京, 2019年11月26日.
108. 船越早織, 小暮正晴, 中里徹矢, 松木亮太, 鈴木裕, 正木忠彦, 須並英二, 阿部展次, 森俊幸, 阪本良弘: 低悪性度膵体尾部腫瘍に対する腹腔鏡下・開腹膵体尾部切除術の検討. 第11回膵臓内視鏡外科研究会, 横浜, 2019年12月4日.
109. 木庭露葉, 山澤邦宏, 村田祐二郎, 奥田純一: 慢性骨髄単球性白血病に伴う巨大脾腫に対し腹腔鏡補助下脾臓摘出術を施行した一例. 第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019年12月5-7日.
110. 野澤隆志, 高木泰介, 森俊幸, 阿部展次, 原章仁, 鹿野良幸, 影山英治, 村野祐司, 千葉敏雄: 輝度測定による内視鏡手術用ディスプレイモニターの現状調査. 第32回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019年12月5-7日.
111. 高木泰介, 森俊幸, 阿部展次, 野澤隆志, 千葉敏雄: 鏡視下手術用ディスプレイの性能評価と経年劣化、今後の課題. 第32回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019年12月5-7日.
112. 青木久恵, 森俊幸, 山下紘正, 谷岡健吉, 千葉敏雄: 8Kカメラを用いた内視鏡システムが実用化されるまで 機器開発から臨床導入まで医療者の視点から. 第32回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019年12月5-7日.
113. 森俊幸, 小嶋一幸, 黒柳洋弥, 三澤健之, 山口茂樹, 日本内視鏡外科学会技術認定制度委員会: 日本内視鏡外科学会技術認定制度の歩みとこれから. 第32回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019年12月5-7日.
114. 竹内弘久, 浮山越史, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 若年成人鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア閉鎖術の検討. 第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019年12月6日.
115. 佐々木海人, 竹内弘久, 下山勇人, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二, 須田一晴, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 肺癌胃転移の1例.

## 論文

- 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 竹内弘久: 胃癌に対する腹腔鏡下手術の現状と展望. 消化器内科34:1369-1376, 2019.
- 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸: 表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍に対する縮小手術の可能性. 消化器内視鏡31:1095-1099, 2019.
- Kishiki T<sup>1</sup>, Su B<sup>1</sup>, Johnson B<sup>1</sup>, Lapin B<sup>1</sup>, Kuchta K<sup>1</sup>, Sherman L<sup>1</sup>, Carbray J<sup>1</sup>, Ujiki MB<sup>1</sup>. (<sup>1</sup>Department of Surgery, Section of Minimally Invasive Surgery, NorthShore University HealthSystem) Simulation training results in improvement of the management of operating room fires-A single-blinded randomized controlled trial. Am J Surg. 218(2): 237-242, 2019.
- Sunami E, Kusumoto T, Ota M, Sakamoto Y, Yoshida K, Tomita N, Maeda A, Teshima J, Okabe M, Tanaka C, Yamauchi J, Itabashi M, Kotake K, Takahashi K, Baba H, Boku N, Aiba K, Ishiguro M, Morita S, Takenaka N, Okude R, Sugihara K: S-1 and Oxaliplatin Versus Tegafur-uracil and Leucovorin as Postoperative Adjuvant Chemotherapy in Patients With High-risk Stage III Colon Cancer (ACTS-CC 02): A Randomized, Open-label, Multicenter, Phase III Superiority Trial. Clin Colorectal Cancer.19(1):22-31.e6, 2020. doi: 10.1016/j.clcc.2019.10.002. [Epub ahead of print]
- Nagase M, Kimoto Y, Sunami E, Matsumura G: A new human cadaver model for laparoscopic training using N-vinyl-2-pyrrolidone: a feasibility study. Anat Sci Int. 95(1):156-164,2020. doi: 10.1007/s12565-019-00494-2. 【Epub ahead of print】
- Kondo K, Matsusaka S, Ishihara S, Horie H, Uehara K, Oguchi M, Murafushi K, Ueno M, Mizunuma N, Shimbo T, Kato D, Okuda J, Hashiguchi Y, Nakazawa M, Sunami E, Kawai K, Yamashita H, Okada T, Ishikawa Y, Fujii M, Nakajima T: Long-term results of a multicenter phase II study of preoperative chemoradiotherapy with S-1 plus oxaliplatin for locally advanced rectal cancer (JACCRO CC-04: SHOGUN Trial). Radiother Oncol. 134:199-203, 2019. doi: 10.1016/j.radonc.2019.02.006. [Epub ahead of print]
- 正木忠彦, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 紅谷鮎美, 須並英二: 消化器外科手術アトラス 進行下部直腸癌に対する側方リンパ節郭清(図説). 消化器外科 42(10), 1389-1396, 2019.
- 竹内弘久, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 【術後内視鏡診療のすべて】Roux-en-Y再建後の悪性輸入脚閉塞

- 症に対する内視鏡的ステント治療. 消化器内視鏡 (0915-3217)31巻9号 Page1355-1361, 2019.
9. 竹内弘久, 下山勇人, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 【消化器ステント留置】消化管ステント留置 輸入脚閉塞症に対する内視鏡的ステント留置術. 臨床消化器内科 (0911-601X)34巻10号 Page1211-1220, 2019.
  10. 竹内弘久, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 【消化器ステント留置のすべて】輸入脚閉塞症に対するステント留置. 消化器内視鏡 (0915-3217)31巻5号 Page764-769, 2019.
  11. 正木忠彦, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 須並英二: 【消化管術後合併症-発症要因と対応】術後慢性偽性腸閉塞症の発症要因, 予防対策と対応. 外科 (0016-593X)81巻7号 Page731-736, 2019.
  12. 正木忠彦, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 紅谷鮎美, 麻生喜祥, 須並英二, 阿部展次: 【NCDをどう活用するか】大腸外科におけるNCDデータの有効活用. 外科 (0016-593X)81巻4号 Page334-338, 2019.
  13. 鈴木裕, 森俊幸, 松木亮太, 小暮正晴, 須並英二, 正木忠彦, 阿部展次, 阪本良弘: 【胆石症治療の現状】総胆管結石、肝内結石症の外科治療. 日本医事新報 (0385-9215)4946号 Page38-42, 2019.
  14. Nishizawa Y<sup>1</sup>, Akagi T<sup>2</sup>, Inomata M<sup>2</sup>, Katayama H<sup>3</sup>, Mizusawa J<sup>4</sup>, Yamamoto S<sup>5</sup>, Ito M<sup>6</sup>, Masaki T, Watanabe M<sup>7</sup>, Shimada Y<sup>8</sup>, Kitano S<sup>2</sup> (1Saitama Cancer Center, 2Oita University, 3JCOG Operations Office National Cancer Center Hospital, 4JCOG Data Center National Cancer Center Hospital, 5Department of Surgery Hiratsuka City Hospital, 6National Cancer Center Hospital East, 7Kitasato University, 8Kochi Health Sciences Center): Risk factors for early postoperative complications after D3 dissection for stage II or III colon cancer: Supplementary analysis of a multicenter randomized controlled trial in Japan (JCOG0404). *Ann Gastroenterol Surg.* 3(3):310-317, 2019.
  15. Kishiki T, Kuchta K<sup>1</sup>, Matsuoka H, Kojima K, Asou N, Beniya A, Yamauchi S<sup>2</sup>, Sugihara K<sup>2</sup>, Masaki T (1NorthShore University HealthSystem, 2Tokyo Medical and Dental University): The impact of tumor location on the biological and oncological differences of colon cancer: Multi-institutional propensity score-matched study. *Am J Surg.* 217(1):46-52, 2019.
  16. Hasegawa H<sup>1</sup>, Takahashi A<sup>2</sup>, Kakeji Y<sup>1</sup>, Ueno H<sup>1</sup>, Eguchi S<sup>1</sup>, Endo I<sup>1</sup>, Sasaki A<sup>1</sup>, Takiguchi S<sup>1</sup>, Takeuchi H<sup>1</sup>, Hashimoto M<sup>1</sup>, Horiguchi A<sup>1</sup>, Masaki T, Marubashi S<sup>1</sup>, Yoshida K<sup>1</sup>, Konno H<sup>1</sup>, Gotoh M<sup>1</sup>, Miyata H<sup>2, 3</sup>, Seto Y<sup>1</sup> (1The Japanese Society of Gastroenterological Surgery, 2Keio University, 3The University of Tokyo): Surgical outcomes of gastroenterological surgery in Japan: Report of the National Clinical Database 2011-2017. *Ann Gastroenterol Surg.* 3(4):426-450, 2019.
  17. 大木亜津子, 鶴見賢直, 橋本佳和, 長尾玄, 竹内弘久, 阿部展次: 特集 腹膜炎・腹水に対する診療の進歩, 2. 感染性腹膜炎・腹水の治療 (5) 内視鏡診療に伴う腹膜炎. *臨床消化器内科* 34 (8) :993-1001, 2019.
  18. 麻生喜祥, 森俊幸, 小暮正晴, 横山政明, 阪本良弘, 阿部展次: 腹腔鏡手術を行った破裂肝嚢胞の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 80 : 2257-2263, 2019.
  19. 森俊幸, 山川達郎, 木村泰三, 小西文雄, 万代恭嗣: 日本内視鏡外科学会技術認定の制度のコンセプト. *臨床外科* 74 (5): 534-539, 2019.
  20. 森俊幸, 山川達郎, 木村泰三, 小西文雄, 万代恭嗣: 通基準の項目とコンセプト. *臨床外科* 74 (5): 540-546, 2019.
  21. 森俊幸, 橋下佳和, 阪本良弘, 阿部展次, 徳村弘実: 胆道 審査員からのアドバイス. *臨床外科* 74(5): 582-589, 2019.
  22. 森俊幸, 松木亮太, 中里徹矢, 鈴木裕, 阪本良弘: 【内視鏡外科手術における思わぬ合併症と対応法】腹腔鏡下胆摘における胆道損傷への対応. *外科* 81 (13): 1343-1348, 2019.
  23. 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 森俊幸, 阿部展次, 阪本良弘: 【誌上ディベート 肝胆膵外科における controversial surgery】門脈に近接した剥離可能な膵頭部癌に対する門脈合併切除 行わないの立場から. *手術* 73 (3): 338-342, 2019.
  24. 鈴木裕, 森俊幸, 松木亮太, 小暮正晴, 正木忠彦, 阿部展次, 阪本良弘: 【温故知新-胆石の成因別/病態別治療法を考える】病態別に見た肝内結石症の治療法. *胆と膵* 40 (3): 249-252, 2019.
  25. 鈴木裕, 森俊幸, 石井俊, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 須並英二, 正木忠彦, 阪本良弘: 【結石除去を極める】胆石 胆石に対する外科的治療. *消化器内視鏡* 31 (11): 1684-1690, 2019.
  26. 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 権藤興一, 渡邊俊介, 土岐真朗, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次: 【術後内視鏡診療のすべて】術後合併症、異時性多発病変、続発病変に対する内視鏡治療 術後胆汁瘻・膵瘻に対する経乳頭の内視鏡治療. *消化器内視鏡* 31 (9): 1374-1378, 2019.
  27. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸: 【術後内視鏡診療のすべて】図で理解する消化器手術後の再建法. *消化器内視鏡* 31 (9): 1270-1280, 2019.
  28. 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 権藤興一, 渡邊俊介, 土岐真朗, 森俊幸, 阿部展次, 阪本良弘: 【消化器ステント留置】胆膵ステント留置 肝胆膵術後合併症に対するドレナージ法. *臨床消化器内科* 34 (10): 1277-1284, 2019.
  29. Nakazato T, Callahan Z<sup>1</sup>, Kuchta K<sup>1</sup>, Linn J<sup>1</sup>, Joehl R<sup>1</sup>, Ujiki M<sup>1</sup> (1NorthShore University HealthSystem): A 1-day simulation-based boot camp for incoming general surgery residents improves confidence and technical skills. *Surgery* 166:572-579, 2019. DOI: 10.1016/j.surg.2019.05.051.
  30. Nakazato T, Su B<sup>1,2</sup>, Novak S<sup>1</sup>, Deal S<sup>3</sup>, Kuchta K<sup>1</sup>, Ujiki M<sup>1,2</sup> (1NorthShore University HealthSystem, 2University of Chicago, 3Virginia Mason Medical Center): Improving attainment of the critical view of safety during laparoscopic cholecystectomy.

Surgical Endoscopy 2019. DOI: 10.1007/s00464-019-07178-y. [Epub ahead of print]

31. 中里徹矢, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 【慢性膵炎診療up to date】慢性膵炎に対する外科治療. 消化器・肝臓内科 6 (6): 519-525, 2019.
32. 小暮正晴, 松木亮太, 鈴木裕, 阪本良弘: 【肝門部領域胆管癌: 残された問題をどう解決すべきか?】肝門部領域胆管癌にALPPSは適応可能か?. 胆と膵 40 (5): 395-398, 2019.
33. 小暮正晴, 松木亮太, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 【すぐに使える周術期管理マニュアル】術式別の術前・術中・術後管理 大量肝切除・二期的肝切除. 臨床外科 74(11): 158-162, 2019.
34. 鈴木裕, 森俊幸, 阿部展次, 阪本良弘: 【肝胆膵外科手術におけるトラブルシューティング】膵臓 膵切除術における重複膵管の再建法. 手術 73 (7): 1075-1080, 2019.
35. 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 【消化器疾患に対する機能温存・再建手術】肝胆膵領域 機能温存の観点からみた門脈塞栓術とpartial TIPE ALPPS. 外科 81 (5): 545-549, 2019.
36. 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 阪本良弘: 肝胆膵外科における低侵襲手術と臓器温存手術 大腸癌肝転移に対するparenchymal-sparing hepatectomy(PSH). 手術 74(1): 19-23, 2019.
37. 松木亮太, 阪本良弘: 【先輩ナースの熱血塾!+αでグッと伝わる!消化器病棟の患者説明】(2章) 外科的治療の患者説明 肝臓切除術. 消化器ナーシング 24(8): 724-728, 2019.
38. 金翔哲, 鈴木裕, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 正木忠彦, 阿部展次, 森俊幸, 柴原純二, 杉山政則: 術前診断しえた十二指腸乳頭部癌肉腫の1例. 日本消化器外科学会雑誌 52 (8): 432-440, 2019.
39. 杉山政則, 鈴木裕, 阿部展次: 【膵全摘を考える】膵全摘 幽門輪温存術式. 胆と膵 40 (1): 47-50, 2019.
40. 青木久恵, 森俊幸, 日向信之: 【ここまで見える! 泌尿器科における可視化の進歩】機器の発達 8K超高精細画像の医療応用 泌尿器科手術における医療用画像の進歩. 臨床泌尿器科 73 (9): 594-598, 2019.
41. Tanaka M, Yamauchi N, Ushiku T, Shibahara J, Hayashi A, Misumi K, Yasunaga Y, Morikawa T, Kokudo T, Arita J, Sakamoto Y, Hasegawa K, Fukuyama M: Tumor budding in intrahepatic cholangiocarcinoma. A predictor of postsurgery outcomes. Am J Surg Pathol 43 (9):1180-90, 2019.
42. Ito K, Matuura K, Mihara Y, Sakamoto Y, Hasegawa K, Kokudo N, Shimizu T: Delivery of pancreatic digestive enzymes into the gastrointestinal tract by pancreatic exocrine tissue transplant. Sci Rep 9 (1):5922, 2019.
43. Shirata C, Kokudo T, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Sakamoto Y, Kokudo N, Hasegawa K: Albumin-indocyanine green evaluation (ALICE) grade combined with portal hypertension to predict post-hepatectomy liver failure. Hepatol res 49 (8) :942-49, 2019.
44. Ito D, Arita J, Yamamoto M, Akamatsu N, Kaneko J, Ijichi M, Kubota N, Sakamoto Y, Kokudo N, Hasegawa K: Effect of home enteral nutrition after pancreaticoduodenectomy. Nutrition 60: 206-11.
45. Sawai Y, Kokudo T, Sakamoto Y, Takao H, Kazami Y, Nishioka Y, Akamatsu N, Arita J, Kaneko J, Hasegawa K: Stent placement for benign portal

vein stenosis following pancreaticoduodenectomy in a hybrid operating room. Biosci Trends 12 (6) :641-4, 2019.

46. Tanaka M, Shibahara J, Ishikawa S, Ushiku T, Morikawa T, Shinozaki-Ushiku A, Hayashi A, Misumi K, Tanaka K, Katoh H, Sakuma K, Kokudo T, Inagaki Y, Arita J, Sakamoto Y, Hasegawa K, Fukuyama M: EV1 expression is associated with aggressive behavior in intrahepatic cholangiocarcinoma. Virchow Arch 474 (1):39-46, 2019.
47. Ogiso S, Okuno M, Shindoh J, Sakamoto Y, Mizuno T, Araki K, Goumard C, Nomi T, Ishii T, Uemoto S, Chun YS, Tzeng CD, Lee JE, Vauthey JN, Conrad C: Conceptual framework of middle hepatic vein anatomy as a roadmap for safe right hepatectomy. HPB(Oxford) 21 (1): 43-50, 2019.

## 著書

1. 鈴木裕, 杉山政則: 膵疾患 嚢胞性膵腫瘍. 内科学書改訂第9版 南学正臣 総編集, 東京, 中山書店, 2019. P. 481-485.
2. 吉敷智和 (分担執筆), 森俊幸: 消化器外科手術 手術の基礎知識. イラストと動画で学ぶ手術の基本(ビジュアルサージカル). 上西紀夫, 正木忠彦, 山本雅一, 遠藤格 編集. 東京, 秀潤社, 2019. P.98-103.

## その他

1. 森俊幸: 高齢者も知っておきたい 胆石が見つかったら. きょうの健康 2019年2月号: 102-105, 2019.
2. 森俊幸, 山川達郎, 木村泰三, 小西文雄, 万代恭嗣: 日本内視鏡外科学会技術認定制度15年史. 日本内視鏡外科学会ニュースレター 31, 2019.
3. 正木忠彦 (巻頭言): 【内科医に求められる他科の知識・専門家が伝えるDo/Don't】(第1章)外科 C.消化器外科 消化器外科領域 この5年の進歩(解説/特集). 内科 124(3), 1745, 2019.
4. 竹内弘久(座長): 第17回日本ヘルニア学会学術集会ポスター演題 嵌頓ヘルニア2, 四日市, 2019年5月24日.
5. Abe N: Progress in full-thickness excision surgery in the gastrointestinal tract (ワークショップ). 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019年6月1日.
6. 竹内弘久(座長): 第72回日本消化器内視鏡学会総会口演27, 東京, 2019年6月1日.
7. 阿部展次 (討論者): シンポジウム2討論者, 8th Reduced Port Surgery Forum 2019 in Tokyo, 東京, 2019年8月2日.
8. 阿部展次: 胃癌—手術・治療. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月26日.
9. 阿部展次: 腹腔鏡下胃切除術—郭清と再建のコツ・ピットフォール・トラブルシューティング(サテライトシンポジウム). JDDW 2019 KOBE, 神戸, 2019年11月22日.
10. 橋本佳和 (座長): 胃7 (デジタルポスターセッション19 (消化器外科学会)). 第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW2019), 神戸, 2019年11月22日.
11. 竹内弘久 (座長): JDDW2019 第17回日本消化器外科学会大会 一般演題 ヘルニア, 神戸, 2019年11月22日.
12. 阿部展次: 内視鏡診断・治療の先進技術 (一般演題). 第13回先進内視鏡治療研究会, 神戸, 2019年11月23日.

## 平成30年度追加分

1. 鈴木裕, 阪本良弘, 杉山政則: 日本臨床外科学会ホームページ. 一般のみなさま 肺癌とは? <http://www.ringe.jp/civic/suigan/suigan.html> 2019年3月22日.

## 呼吸器・甲状腺外科学教室

## 講演

## 国際学会

1. Tanaka R, Sakamoto N, Suzuki H, Tachibana K, Otsuka K, Kishimoto K, Fujiwara M, Kamma H, Shibahara J, Kondo H: Genotyping and Subtyping based on LBC for Lung Adenocarcinoma. ECC2019, Sweden, June 16th, 2019.
2. Tanaka R: Stage I (Resectable) NSCLC: Surgery. WCLC 2019 (IASLC), Spain, September 9th, 2019.
3. Arai N, Tachibana K, Miura J, Shibuya Y, Mitsuma T, Yoshida T, Nakazato Y, Suda K, Nagashima Y, Tanaka R, Miya T, Hirano K, Kondo H: Application of ICG for general thoracic surgery. The 10th Biennial Conference of Asian Thoracic Surgery Club, Chiba, September 27th-29th, 2019.
4. Miya T: Serum Iron Increased by Cancer Chemotherapy Associated with the Adverse Effects of Chemotherapy. International Congress of Cancer & Clinical Oncology 2019. Singapore, December 5th-7th, 2019.
5. Tanaka R: Role of the Cytopathologist in EBUS; The Interventional (Cytology) Pathologist. USCAP2020 (109th Annual Meeting), USA, March 1st, 2020.

## 国内学会

1. 橋啓盛: 呼吸器外科領域におけるロボット手術. 第175回城西胸部画像研究会, 武蔵野, 2019年4月16日.
2. 遠藤俊輔, 池田徳彦, 近藤丘, 中島淳, 近藤晴彦, 嶋田義久, 佐藤雅美, 豊岡伸一, 岡田克典, 佐藤幸夫, 吉野一郎, 岡田守人, 奥村明之進, 千田雅之, 福地絵里子, 宮田裕章: National Clinical Database 高齢者肺癌の治療 肺癌手術を検討している高齢患者に対処するための術後リスクの見積もりの利用(Use of estimates of postoperative risk to manage elderly patients considering lung cancer surgery). 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月18-20日.
3. 近藤晴彦: 呼吸器外科における周術期管理と術後合併症への対策 術後合併症減少をめざした肺癌手術の周術期管理. 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月18-20日.
4. 岡部直太, 藤原正親, 千葉知宏, 近藤晴彦, 菅間博: 胸腺上皮性腫瘍におけるStat3活性化の検討. 第108回日本病理学会総会, 東京, 2019年5月11日.
5. 遠藤俊輔, 中島淳, 近藤晴彦, 嶋田善久, 佐藤雅美, 豊岡伸一, 岡田克典, 佐藤幸夫, 吉野一郎: NCD委員会報告 NCD呼吸器外科専門領域の現況. 第36回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 大阪, 2019年5月16-17日.
6. 橋啓盛, 三浦隼, 渋谷幸見, 新井信晃, 須田一晴, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦: 呼吸器外科ロボット支援手術におけるアシストポートの工夫. 第36回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 大阪, 2019年5月16-17日.
7. 須田一晴, 三浦隼, 渋谷幸見, 新井信晃, 橋啓盛, 長

島鎮, 田中良太, 武井秀史, 古屋敷剛, 近藤晴彦: 気管腺様嚢胞癌に対して完全鏡視下気管環状切除術施行した1例. 第36回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 大阪, 2019年5月16-17日.

8. 長島鎮, 高橋俊博, 三浦隼, 渋谷幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 吉田勤, 須田一晴, 中里陽子, 橋啓盛, 田中良太, 宮敏路, 武井秀史, 平野浩一, 近藤晴彦: 術後デブリーフィングの導入と医療安全の評価. 第36回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 大阪, 2019年5月16-17日.
9. 古屋敷剛, 平田佳史, 近藤晴彦: 術中手胸腔鏡に気管損傷を認め同側開胸で対処した一例. 第36回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 大阪, 2019年5月16-17日.
10. 三浦隼, 橋啓盛, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 吉田勤, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦: 肋骨骨折に伴う横隔膜損傷により遅発性血胸を来した1例. 第36回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 大阪, 2019年5月16-17日.
11. 佐藤寿彦, 伊達洋至, 岡田守人, 鈴木健司, 近藤晴彦, 吉野一郎, 中島淳, 奥村明之進, 光富徹哉, 関根郁夫, 杉野圭, 岸一馬, 本間栄: 日本呼吸器外科学会 REVEAL-IPワーキンググループ学術委員会報告: 間質性肺炎合併肺癌患者の術後急性増悪に関する前向き研究(REVEAL-IP)進捗状況の報告. 第36回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 大阪, 2019年5月16-17日.
12. 橋啓盛, 須田一晴, 田中良太, 近藤晴彦: 当院におけるロボット支援手術の現状. DaVinci Round-table discussion, 東京, 2019年5月23日.
13. 吉田勤, 荒井他嘉司, 白石裕治, 渥実潤, 東郷威男, 中川隆行, 下田清美, 平松美也子: 結核に対する外科治療. 第94回日本結核病学会総会, 大分, 2019年6月7-8日.
14. 戸瀬颯斗, 橋啓盛, 三浦隼, 須田一晴, 田中良太, 近藤晴彦: 左葉間リンパ節の部位に発生した肺内神経鞘腫の1例. 第180回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年6月8日.
15. 渋谷幸見, 橋啓盛, 高橋俊博, 三浦隼, 三ツ間智也, 新井信晃, 須田一晴, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 武井秀史, 近藤晴彦: 悪性腫瘍による気道狭窄に対する気管・気管支ステント挿入例の検討. 第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2019年7月4-5日.
16. 新井信晃, 須田一晴, 高橋俊博, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 中里陽子, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 武井秀史, 平野浩一, 近藤晴彦: 術後早期の気管支鏡検索によって気管支断端瘻を回避できた1例. 第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2019年7月4-5日.
17. 橋啓盛, 須田一晴, 田中良太, 近藤晴彦: 呼吸器外科ロボット支援手術導入後の現状. 第8回多摩呼吸器外科医会, 立川, 2019年7月20日.
18. 田中良太: 肺がんの臨床における細胞診断の役割と展望(呼吸器). 第77回細胞検査士教育セミナー, 横浜, 2019年8月24日.
19. 中里陽子, 平野浩一, 三ツ間智也, 廣川達也, 大森嘉彦, 千葉知宏, 藤原正親, 菅間博: Well differentiated carcinoma, NOSの組織像を示した縦隔内甲状腺腫の一例. 第23回日本臨床内分泌病理学会・学術総会, 三鷹, 2019年10月4-5日.
20. 新井信晃, 平野浩一, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 吉田勤, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦, 武井秀史, 藤原正親, 菅間

- 博, 柴原純二, 中島昌典, 内堀歩, 千葉厚郎: 症状の改善と長期予後が得られた傍腫瘍性神経症候群を伴う小細胞肺癌の1例. 第23回日本臨床内分泌病理学会・学術総会, 三鷹, 2019年10月4-5日.
21. 三ツ間智也, 中里陽子, 田中利明, 菅間博, 平野浩一: 急性化膿性甲状腺炎を契機に発見された右下咽頭梨陥凹瘻の1例. 第52回日本内分泌外科学会学術大会, 東京, 2019年10月17-18日.
  22. 伊藤未奈, 須田一晴, 渋谷幸見, 近藤晴彦: 流入動脈瘤に対してコイル塞栓術後, 胸腔鏡下右下葉切除術を施行した肺分画症の1例. 第181回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年11月9日.
  23. 須田一晴, 三浦隼, 渋谷幸見, 新井信晃, 吉田勤, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 古屋敷剛, 近藤晴彦: Impact on the respiratory function of thoracotomy and cVATS approach to pneumonectomy. 第72回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019年10月30日-11月2日.
  24. 三浦隼, 橘啓盛, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 吉田勤, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦: 肺悪性腫瘍手術に対する同軸ドレーン (Coaxial Drain) 12例の使用経験. 第72回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019年10月30日-11月2日.
  25. 三浦隼, 橘啓盛, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 吉田勤, 中里陽子, 長島鎮, 須田一晴, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦: 呼吸器外科手術におけるCoaxial Drain 16例の使用経験. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
  26. 須田一晴: ~肺がんを知ろう~肺がんに対する外科治療 (低侵襲手術への挑戦). 杏林医学会市民公開講座, 三鷹, 2019年11月17日.
  27. 田中良太, 坂本憲彦, 吉田勤, 橘啓盛, 大塚弘毅, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 「肺癌細胞診の可能性-鑑別と限界-」LBCの鑑別と限界. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16日.
  28. 田中良太, 坂本憲彦, 吉田勤, 橘啓盛, 大塚弘毅, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 「呼吸器 (ヨーロッパ細胞学会の内容から)」肺腺癌における液状化細胞診 (LBC) を用いた遺伝子および形態学的診断. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月17日.
  29. 近藤晴彦, 永安武, 遠藤俊輔, 大出泰久, 塩野知志, 竹之山光広, 中島淳, 中田昌男, 中原理恵, 菱田智之, 牧佑歩, 森毅, 渡辺俊一, 井上匡美, 宮脇美千代, 岡田克典: 委員会報告 (手術記載検討委員会). 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月6-8日.
  30. 須田一晴, 三浦隼, 渋谷幸見, 新井信晃, 吉田勤, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 古屋敷剛, 近藤晴彦: 局所進行肺癌に対する胸腔鏡アプローチを併用した拡大手術. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月6-8日.
  31. 渋谷幸見, 須田一晴, 三浦隼, 三ツ間智也, 新井信晃, 橘啓盛, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 藤原正親, 菅間博, 武井秀史, 近藤晴彦: 外腸骨リンパ節転移を伴うIV期肺癌に対して手術を含めた集学的治療により長期無再発生存を得ている1例. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月6-8日.
  32. 新井信晃, 宮敏路, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 吉田勤, 中里陽子, 須田一晴, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 近藤晴彦: Pembrolizumabによる多様な免疫関連有害事象(irAE)が認められた肺癌の1例. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月6-8日.
  33. 橘啓盛, 須田一晴, 田中良太, 近藤晴彦: 肺がんに対する低侵襲手術 (完全胸腔鏡手術とロボット手術). 第19回世田谷区医師会医学会, 東京, 2019年12月7日.
  34. 黒澤多英子, 橘啓盛, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 吉田勤, 中里陽子, 須田一晴, 田中良太, 近藤晴彦: ECMO下に気管支ステントを挿入し救命し得た食道癌気管支浸潤の1例. 第855回外科集談会, 東京, 2019年12月21日.
  35. 橘啓盛, 須田一晴, 田中良太, 近藤晴彦: 肺がんに対する低侵襲手術 (完全胸腔鏡手術とロボット手術). 三鷹市医師会読影会, 三鷹, 2020年1月15日.
  36. 渋谷幸見, 須田一晴, 三浦隼, 三ツ間智也, 吉田勤, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦: 高齢者術後合併症に対して低侵襲手術により早期回復し得た1例. 第29回日本呼吸器外科医会冬季学術集会, 長野, 2020年1月24-25日.
  37. 木内健士朗, 須田一晴, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 吉田勤, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 二宮直紀, 福原浩, 藤原正親, 近藤晴彦: 多発肺転移から診断に至った腎血管筋脂肪腫の1例. 第856回外科集談会, 東京, 2020年3月28日.

## 論文

1. Miura H<sup>1</sup>, Goto S<sup>2</sup>, Miura J, Tachibana K, Tanaka R, Kondo H (<sup>1</sup>Department of Thoracic Surgery, <sup>2</sup>Department of Respiriology, Akiru Municipal Medical Center): An enlarged azygos vein traversing an azygos lobe reveals a connection between the inferior vena cava and azygos vein. *Respirol Case Rep.* vol.8(1), 2019. doi: 10.1002/rcr2.506.
2. Higuchi S<sup>1</sup>, Kabeya Y<sup>2,3</sup>, Matsushita K<sup>1</sup>, Arai N, Tachibana K, Tanaka R, Kawachi R<sup>4</sup>, Takei H, Suzuki Y<sup>5</sup>, Kogure M<sup>5</sup>, Imanishi Y<sup>6</sup>, Moriyama K<sup>7</sup>, Yorozu T<sup>7</sup>, Saito K<sup>8</sup>, Abe N<sup>5</sup>, Sugiyama M<sup>5</sup>, Kondo H, Yoshino H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Division of General Internal Medicine, Department of Internal Medicine, Tokai University, <sup>3</sup>Department of Home Care Medicine, Saiyu Clinic, <sup>4</sup>Department of General Thoracic Surgery, Nihon University School of Medicine, <sup>5</sup>Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, <sup>6</sup>Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, <sup>7</sup>Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>8</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine): Incidence and complications of perioperative atrial fibrillation after non-cardiac surgery for malignancy. *PLoS One*. 14 (5): e0216239, 2019. doi: 10.1371/journal.pone.0216239.
3. Endo S<sup>1,2</sup>, Ikeda N<sup>3,4</sup>, Kondo T<sup>3,5</sup>, Nakajima J<sup>3,6</sup>, Kondo H<sup>3</sup>, Shimada Y<sup>3,4</sup>, Sato M<sup>3,7</sup>, Toyooka S<sup>3,8</sup>, Okada Y<sup>3,9</sup>, Sato Y<sup>3,10</sup>, Yoshino I<sup>3,11</sup>, Okada M<sup>3,12</sup>, Okumura M<sup>3,13</sup>, Chida M<sup>3,14</sup>, Fukuchi E<sup>15</sup>, Miyata H<sup>15</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Chest Surgery, <sup>2</sup>Department of Thoracic Surgery, Jichi Medical University, <sup>3</sup>Japanese Association for Chest Surgery, <sup>4</sup>Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University Hospital, <sup>5</sup>Department of Thoracic Surgery, Tohoku Medical and Pharmaceutical University Hospital, <sup>6</sup>Department of Thoracic Surgery, University of Tokyo Graduate School of Medicine, <sup>7</sup> Department of General

Thoracic Surgery, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, <sup>8</sup>Department of Thoracic Surgery, Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University, <sup>9</sup>Department of Thoracic Surgery, Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University, <sup>10</sup>Faculty of Medicine, Department of Thoracic Surgery, University of Tsukuba, <sup>11</sup>Department of General Thoracic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>12</sup>Department of Surgical Oncology, Hiroshima University, <sup>13</sup>Department of General Thoracic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>14</sup>Department of General Thoracic Surgery, Dokkyo Medical University, <sup>15</sup>Department of Healthcare Quality Assessment, Graduate School of Medicine, University of Tokyo) : Correction to: Risk assessments for broncho-pleural fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 67 (10) : 904-906, 2019. doi: 10.1007/s11748-019-01194-4.

4. Higuchi S<sup>1,2</sup>, Kabeya Y<sup>3</sup>, Matsushita K<sup>1</sup>, Arai N, Tachibana K, Tanaka R, Kawachi R<sup>4</sup>, Takei H<sup>5</sup>, Suzuki Y<sup>6</sup>, Kogure M<sup>6</sup>, Imanishi Y<sup>7</sup>, Moriyama K<sup>8</sup>, Sugiyama M<sup>6</sup>, Yorozu T<sup>8</sup>, Saito K<sup>9</sup>, Abe N<sup>6</sup>, Kondo H, Yoshino H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Emergency and General Medicine, <sup>3</sup>Division of General Internal Medicine, Department of Internal Medicine, Tokai University; Department of Home Care Medicine, Sowa Hospital, <sup>4</sup>Department of General Thoracic Surgery, Nihon University School of Medicine, <sup>5</sup>Division of Chest Surgery, Showa University School of Medicine, <sup>6</sup>Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, <sup>7</sup>Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery, Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, <sup>8</sup>Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>9</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine) : Perioperative Atrial Fibrillation in Noncardiac Surgeries for Malignancies and One-Year Recurrence. *Can J Cardiol* 35 (11) : 1449-1456, 2019. doi: 10.1016/j.cjca.2019.07.008.
5. Arai N, Kawachi R<sup>1</sup>, Nakazato Y, Tachibana K, Nagashima Y, Tanaka R, Okamoto K<sup>2</sup>, Kondo H (<sup>1</sup>Department of Respiratory Surgery, Nihon University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Cardiovascular Surgery, Akashi Medical Center) : A rare post lobectomy complication of right to left shunt via foramen ovale. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 2019. DOI : 10.1007/s11748-019-01238-9.
6. 遠藤俊輔<sup>1</sup>, 池田徳彦<sup>2</sup>, 近藤丘<sup>3</sup>, 中島淳<sup>4</sup>, 近藤晴彦, 嶋田善久<sup>2</sup>, 佐藤雅美<sup>5</sup>, 豊岡伸一<sup>6</sup>, 岡田克典<sup>7</sup>, 佐藤幸夫<sup>8</sup>, 吉野一郎<sup>9</sup>, 岡田守人<sup>10</sup>, 奥村明之進<sup>11</sup>, 千田雅之<sup>12</sup>, 日本呼吸器外科学会NCD委員会 (1自治医科大, 2東京医大, 3東北医科薬科大, 4東京大, 5鹿児島大, 6岡山大, 7東北大, 8筑波大, 9千葉大, 10広島大, 11大阪大, 12独協大) : 特集【NCDをどう活用するか】呼吸器外科におけるNCDデータの有効活用, *臨床外科* 81(4) : 325-328, 2019.
7. Ogura W<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Fujiwara M<sup>3</sup>, Tanaka R, Sekiguchi K<sup>1</sup>, Ohnishi H<sup>2</sup>, Watanabe T<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>Department of Clinical Laboratory, <sup>2</sup>Department of Laboratory Medicine, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Use of a plasma test for verifying epidermal growth factor receptor gene (EGFR) mutations in fluid samples from non-small cell lung cancer patients. *Respiratory Medicine Case Reports* 29, 2020. DOI : org/10.1016/j.rmcr.2020.101007.

8. Tanaka R, Ohtsuka K<sup>1</sup>, Ogura W<sup>1</sup>, Arai N, Yoshida T, Nakazato Y, Tachibana K, Takata S<sup>2</sup>, Fujiwara M<sup>3</sup>, Kamma H<sup>3</sup>, Shibahara J<sup>3</sup>, Kondo H (<sup>1</sup>Department of Clinical Laboratory, <sup>2</sup>Department of Respiratory Medicine, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Subtyping and EGFR mutation testing from blocks of cytological materials, based on liquid-based cytology for lung cancer at bronchoscopic examinations. *Diagn Cytopathol*. 2020. doi: 10.1002/dc.24397. [Epub ahead of print]

#### 著書

1. 吉田勤 (分担執筆) : II各論, 2下部気道, 2) 感染症, (1) 細菌 [抗酸菌 (結核, NTM), 放線菌]. 非悪性呼吸器細胞診アトラス 肺癌との鑑別に悩んだときに. 佐藤之俊, 塩澤哲編集. 東京, 南江堂, 2020. p91-93.
2. 吉田勤 (分担執筆) : II各論, 2下部気道, 2) 感染症, (2) 真菌, i) アスペルギルス. 非悪性呼吸器細胞診アトラス 肺癌との鑑別に悩んだときに. 佐藤之俊, 塩澤哲編集. 東京, 南江堂, 2020. p94-96.
3. 吉田勤 (分担執筆) : II各論, 2下部気道, 2) 感染症, (3) ウイルス, i) サイトメガロウイルス. 非悪性呼吸器細胞診アトラス 肺癌との鑑別に悩んだときに. 佐藤之俊, 塩澤哲編集. 東京, 南江堂, 2020. p107-109.
4. 吉田勤 (分担執筆) : II各論, 2下部気道, 2) 感染症, (4) マイコプラズマ. 非悪性呼吸器細胞診アトラス 肺癌との鑑別に悩んだときに. 佐藤之俊, 塩澤哲編集. 東京, 南江堂, 2020. p113-114.
5. 吉田勤 (分担執筆) : II各論, 5その他, 1) 喀痰細胞診における偶発発見症例. 非悪性呼吸器細胞診アトラス 肺癌との鑑別に悩んだときに. 佐藤之俊, 塩澤哲編集. 東京, 南江堂, 2020. p196-198.

#### その他

1. 平野浩一 : 第23回日本臨床内分泌病理学会・学術総会主催 (副会長), 三鷹, 2019年10月4-5日.

#### 乳腺外科学教室

#### 講演

1. 麻賀創太, 石坂欣大, 宮本快介, 伊坂泰嗣, 井本滋 : 蛍光・色素併用によるセンチネルリンパ節生検の有効性. 第119回日本外科学会定期学術総会, 大阪, 2019年4月18-20日.
2. 井本滋, 麻賀創太, 伊坂泰嗣, 菅浩隆, 白石知大 : 術前薬物療法後の乳癌患者の外科治療. 第119回日本外科学会定期学術総会, 大阪, 2019年4月19日.
3. 井本滋 : 乳癌診療の最新情報. 第115回慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー, 東京, 2019年6月29日.
4. 麻賀創太, 石坂欣大, 宮本快介, 伊坂泰嗣, 井本滋 : 乳房部分切除における非浸潤癌断端陽性は局所再発をもたらすか. 第27回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2019年7月11-13日.



- 井本滋：希少転移乳癌の局所及び全身療法に関する国際共同後向きコホート研究「OLIGO-BC1」。第27回日本乳癌学会学術総会，東京，2019年7月13日。
- Imoto S: Innovational Breast Surgical Procedure Course. BSI course. World Congress of Surgery 2019, Poland, August 11, 2019.
- 井本滋，高野利実，金子景香，新井正美：症例を通して学ぶサポーティブケア「乳がん」。第4回日本がんサポーティブケア学会学術集会，青森，2019年9月6日。
- 麻賀創太：乳がんの最新治療—手術とお薬について—。杉並区医師会主催 区民向け講演会，東京，2019年9月28日。
- Imoto S, Futamura M, Toi M, Fujiwara Y, Ueno T, Im Y-H, Im S-A, Ahn SW, Lee JE, Park YH, Wang K, Kitagawa Y, Nishiyama M: Progress report on OLIGO-BC1. Presented at FACO/JSCO joint symposium. Fukuoka, October 26, 2019.
- 井本滋：早期乳癌に対するラジオ波焼灼治療：乳癌低侵襲治療研究会の挑戦。日本放射線腫瘍学会第32回学術大会，名古屋，2019年11月22日。

## 論文

- 麻賀創太：特集「癌治療とゲノム医療」Part1 乳がんのゲノム医療。杏林医学会雑誌 50(4)：179-185, 2019.
- 牧内泰文，白石知大，菅浩隆，伊坂泰嗣，井本滋，多久嶋亮彦：ティッシュ・エクスパンダーを用いた乳房一次再建術後に乳糜漏を生じた2例。Oncoplastic Breast Surg 4(3):70-73, 2019.
- 井本滋：乳癌低侵襲治療研究会：ラジオ波焼灼治療への挑戦。乳癌の臨床 34(1):15-21, 2019.
- 井本滋：Editorial「新専門医制度の迷走を憂う」。日外会誌 120(5):491, 2019.
- 井本滋：「第20回臨床腫瘍夏期セミナー」乳癌サブタイプと分子標的治療。癌の臨床 65(1):47-50, 2019.
- Kubo M<sup>1</sup>, Kawai M<sup>2</sup>, Kumamaru H<sup>3</sup>, Miyata H<sup>3</sup>, Tamura K<sup>4</sup>, Yoshida M<sup>4</sup>, Ogo E<sup>5</sup>, Nagahashi M<sup>6</sup>, Asaga S, Kojima Y<sup>7</sup>, Kadoya T<sup>8</sup>, Aogi K<sup>9</sup>, Niikura N<sup>10</sup>, Miyashita M<sup>11</sup>, Iijima K<sup>12</sup>, Hayashi N<sup>13</sup>, Yamamoto Y<sup>14</sup>, Imoto S, Jinno H<sup>15</sup> ( <sup>1</sup>Kyushu University, <sup>2</sup>Miyagi Cancer Center Hospital, <sup>3</sup>University of Tokyo, <sup>4</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>5</sup>Kurume University School of Medicine, <sup>6</sup>Niigata University Graduate School of Medical, <sup>7</sup>St. Marianna University School of Medicine, <sup>8</sup>Hiroshima University, <sup>9</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>10</sup>Tokai University School of Medicine, <sup>11</sup>Tohoku University School of Medicine, <sup>12</sup>Juntendo University, <sup>13</sup>St. Luke's International Hospital, <sup>14</sup>Kumamoto University, <sup>15</sup>Teikyo University School of Medicine) : A population-based recurrence risk management study of patients with pT1 node-negative HER2+ breast cancer: a National Clinical Database study. Breast Cancer Res Treat 178(3):647-656, 2019. DOI: 10.1007/s10549-019-05413-7.
- Hironaka-Mitsubishi A<sup>1,2,3</sup>, Tsuda H<sup>4</sup>, Yoshida M<sup>1</sup>, Shimizu C<sup>1,5</sup>, Asaga S<sup>1</sup>, Hojo T<sup>1,6</sup>, Tamura K<sup>1</sup>, Kinoshita T<sup>1</sup>, Ushijima T<sup>2,3</sup>, Hiraoka N<sup>1</sup>, Fujiwara Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Research Institute, <sup>3</sup>Juntendo Graduate School of Medicine, <sup>4</sup>National Defense Medical College, <sup>5</sup>National Center for Global

Health and Medicine, <sup>6</sup>National Cancer Center Hospital East) : Invasive breast cancers in adolescent and young adult women show more aggressive immunohistochemical and clinical features than those in women aged 40-44 years. Breast Cancer 26(3):386-396, 2019. DOI: 10.1007/s12282-018-00937-0

- Matsumoto K<sup>1</sup>, Takahashi M<sup>2</sup>, Sato K<sup>3</sup>, Osaki A<sup>4</sup>, Takano T<sup>5</sup>, Naito Y<sup>6</sup>, Matsuura K<sup>7</sup>, Aogi K<sup>8</sup>, Fujiwara K<sup>9</sup>, Tamura K<sup>10</sup>, Baba M<sup>11</sup>, Tokunaga S<sup>12</sup>, Hirano G<sup>13</sup>, Imoto S, Miyazaki C<sup>14</sup>, Yanagihara K<sup>15</sup>, Imamura CK<sup>16</sup>, Chiba Y<sup>9</sup>, Saeki T<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>Hyogo Cancer Center, <sup>2</sup>NHO Hokkaido Cancer Center, <sup>3</sup>Tokyo-West Tokushukai Hospital, <sup>4</sup>Saitama Medical University, <sup>5</sup>Toranomon Hospital, <sup>6</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>7</sup>Hiroshima Prefectural Hospital, <sup>8</sup>Shikoku Cancer Center, <sup>9</sup>Kindai University Hospital, <sup>10</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>11</sup>Hokkaido University, <sup>12</sup>Osaka City General Hospital, <sup>13</sup>Kyushu Hospital, <sup>14</sup>Jichi Medical University, <sup>15</sup>Kansai Electric Power Hospital, <sup>16</sup>Advanced Cancer Translational Research Institute, Showa University) : A double-blind, randomized, multicenter phase 3 study of palonosetron vs granisetron combined with dexamethasone and fosaprepitant to prevent chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with breast cancer receiving anthracycline and cyclophosphamide. Cancer Med, 2020. doi: 10.1002/cam4.2979. [Epub ahead of print]

## 小児外科学教室

### 講演

- 渡邊佳子，浮山越史，宮弘子：当科で経験した特発性胃破裂の4例。第56回日本小児外科学会学術集会，久留米，2019年5月24日。
- 渡邊佳子，浮山越史：新生児期に喘鳴を認めた舌根部嚢胞の3例。第55回日本周産期・新生児医学会総会，松本，2019年7月14日。
- 渡邊佳子，浮山越史，阿部陽友：ショックで発症した小児外科疾患の3例。第35回日本小児外科学会秋季シンポジウム，大阪，2019年10月19日。
- 阿部陽友，浮山越史，渡邊佳子：低体重を呈していた1歳で発見された横隔膜ヘルニアの1例。第54回日本小児外科学会関東甲信越地方会，大宮，2019年10月25日。
- 渡邊佳子，浮山越史，阿部陽友：多職種合同による小児気道カンファレンスの取り組み。第30回日本小児外科QOL研究会，伊勢，2019年11月9日。
- 渡邊佳子，浮山越史：内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の手技で摘出した食道粘膜した異物の1例。第81回日本臨床外科学会総会，高知，2019年11月15日。

### 論文

- 浮山越史：小児の診療手技 III救急 消化管異物の除去。小児科診療 82 Suppl : 106-109, 2019.
- 渡邊佳子：小児の診療手技 V穿刺 腹腔穿刺。小児科診療 82 Suppl : 195-197, 2019.
- 浮山越史，渡邊佳子，阿部陽友：特集 そこが知りたいシリーズ：手術で必要な局所解剖(頭頸部・胸部編) 気管切開。小児外科：769-771, 2019.
- Watanabe Y, Ukiyama E, Abe N<sup>1</sup>, Takeuchi H<sup>1</sup>, Ohki A<sup>1</sup> (Department of Surgery, Kyorin

University Faculty of Medicine): Extraction of buried and covered foreign body in esophagus using endoscopic submucosal dissection devices. *Pediatrics International*, 62(3): 401-402, 2020.

## 著書

1. 浮山越史(分担執筆):嘔吐が頻回にある. どうする? 小児のマイナートラブル ハンドブック. 市川光太郎編集. 東京, 中外医学社, 2019. p.77-79.
2. 浮山越史(分担執筆):腹部に腫瘤がある. どうする? 小児のマイナートラブル ハンドブック. 東京, 中外医学社, 2019. p.83-84.
3. 浮山越史(分担執筆):脱腸のようだ. どうする? 小児のマイナートラブル ハンドブック. 市川光太郎編集. 東京, 中外医学社, 2019. p.85-86.
4. 浮山越史(分担執筆):包皮が腫れて痛がっている. どうする? 小児のマイナートラブル ハンドブック. 市川光太郎編集. 東京, 中外医学社, 2019. p.117-118.
5. 浮山越史(分担執筆):陰囊の左右の大きさが違う. どうする? 小児のマイナートラブル ハンドブック. 市川光太郎編集. 東京, 中外医学社, 2019. p.126.
6. 浮山越史(分担執筆):おなかをぶつけた. どうする? 小児のマイナートラブル ハンドブック. 市川光太郎編集. 東京, 中外医学社, 2019. p.176-177.
7. 浮山越史(分担執筆):コインを飲み込んだ. どうする? 小児のマイナートラブル ハンドブック. 市川光太郎編集. 東京, 中外医学社, 2019. p.202-203.
8. 浮山越史(分担執筆):おしりの少し上の尾骨部正中にへこみがある. どうする? 小児のマイナートラブル ハンドブック. 市川光太郎編集. 東京, 中外医学社, 2019. p.316-317.
9. 浮山越史(分担執筆):でべそが大きくなっている. どうする? 小児のマイナートラブル ハンドブック. 市川光太郎編集. 東京, 中外医学社, 2019. p.318-319.
10. 浮山越史(分担執筆):7章消化器疾患 腸重積症. 小児コモン60疾患実践的ガイドライン活用術. 伊藤秀一編集. 東京, 中山書店, 2019. p.129-132.
11. 浮山越史(分担執筆):II疾患編 臍ヘルニア(乳児). 今日の診断指針8版. 永井良三総編集. 東京, 医学書院, 2020. p.1960-1962.
5. 坂本学映, 守永広征, 持田勇希, 宮国泰彦, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕:高度救命救急センターの3 ER 及びICUにおける非血管系IVRの現状. 第48回日本IVR学会総会, 福岡, 2019年5月30日-6月1日.
6. 青木俊輔, 五十嵐昂, 北沢隼, 宮国泰彦, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕:Bystander CPRがもたらす救命効果に関する検討. 第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 和歌山, 2019年5月30日-6月1日.
7. 北沢隼, 青木俊輔, 五十嵐昂, 宮国泰彦, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕:三次救急搬送され医師判断により中等症となった症例の検討. 第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 和歌山, 2019年5月30日-6月1日.
8. 山田賢治, 宮国基行, 堀渕志穂里, 長谷川浩, 松田剛明, 石原哲, 山本保博, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕:実習前後に実施したアンケート調査結果からの考察. 第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 和歌山, 2019年5月30日-6月1日.
9. 稲田成作, 大畑徹也, 濱田尚一郎, 道廣岳, 加藤聡一郎, 市村正一, 山口芳裕:不安定型骨盤輪骨折にL5横突起骨折を合併した患者の臨床的特徴. 第45回日本骨折治療学会, 福岡, 2019年6月28-29日.
10. 濱田尚一郎, 稲田成作, 大畑徹也, 加藤聡一郎, 市村正一, 山口芳裕:仙骨骨折(H-shaped fracture)に対しM shaped pelvic plate と spinal instrumentationを併用し内固定した2例. 第45回日本骨折治療学会, 福岡, 2019年6月28-29日.
11. 大畑徹也, 濱田尚一郎, 稲田成作, 小谷明弘, 山口芳裕, 市村正一:電車外傷の特徴と治療成績. 第45回日本骨折治療学会, 福岡, 2019年6月28-29日.
12. 樽井武彦, 功刀主税, 落合剛二, 荻野聡之, 持田勇希, 大田原正幸, 守永広征, 宮国泰彦, 海田賢彦, 山口芳裕:定量的評価法を用いた集中治療後症候群(PICS)発症予防に向けた取り組み. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
13. 大田原正幸, Irimia Daniel, Yu Yong-Ming, 井上孝隆, 加藤聡一郎, 宮国泰彦, 庄司高裕, 海田賢彦, 樽井武彦, 松田剛明, 山口芳裕:ラット熱傷敗血症モデルを用いた自発的好中球遊走能解析による敗血症診断ツール開発について. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
14. 海田賢彦, 山口芳裕:熱傷治療と再生医療～自家培養表皮から幹細胞治療へ～. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
15. 刑部洸, 坂本学映, 持田勇希, 守永広征, 宮国泰彦, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕:重症出血に対する経カテーテル動脈塞栓術(TAE)における塞栓物質の検討. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
16. 堀野雅祥, 坂本学映, 持田勇希, 守永広征, 宮国泰彦, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕:三次救急搬送患者における外傷と内因性疾患に対する“蘇生的”経カテーテル動脈塞栓術(TAE)の時間的要素の検討. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
17. 持田勇希, 落合剛二, 宮国泰彦, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕:「働き方改革」による救急医療の崩壊. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
18. 小嶋智志, 持田勇希, 鈴木準, 宮国泰彦, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕:単純縫合閉鎖にて救命に至った外傷性十二指腸破裂の1例. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.

## その他

1. 渡邊佳子:第13回西東京市女性医師の会(講演)知ってスッキリこどもの便秘.

## 救急医学教室

## 講演

1. 樽井武彦, 落合剛二, 持田勇希, 大田原正幸, 宮国泰彦, 山口芳裕:救命救急センターにおける外科系救急医の果たす役割とその変遷. 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月18-20日.
2. 宮国泰彦, 樽井武彦, 落合剛二, 持田勇希, 大田原正幸, 山口芳裕:三次救急搬送された上部消化管出血症例に対する三次選定の是非と治療成績. 第119回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019年4月18-20日.
3. 海田賢彦, 樽井武彦, 鈴木準, 吉川慧, 山口芳裕:重症熱傷患者のカンジダ血症診断における血清β-D-グルカンの臨床的意義. 第45回日本熱傷学会総会・学術集会, 北九州, 2019年5月23-24日.
4. 鈴木準, 海田賢彦, 吉川慧, 樽井武彦, 山口芳裕:火災現場における心肺停止症例の検討. 第45回日本熱傷学会総会・学術集会, 北九州, 2019年5月23-24日.

19. 中島幹男, 麻生将太郎, 大邊寛幸, 後藤英昭, 山口芳裕: 急性一酸化炭素中毒に合併した心筋傷害に経皮的冠動脈形成術が必要となる頻度: DPC データベース研究. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
20. 中島幹男, 後藤英昭, 山口芳裕: サブスペシャリティーとしての公衆衛生大学院/臨床疫学. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
21. 森村尚登, 横田裕行, 大友康裕, 坂本哲也, 猪口正孝, 山口芳裕, 新井悟, 問田千晶, 大田祥子, 服部潤, 高橋耕平: 2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける救急医療需給均衡度に応じた体制の構築. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
22. 横田裕行, 坂本哲也, 山口芳裕, 大友康裕, 森村尚登, 猪口正孝, 新井悟: 東京都における東京オリパラ2020における救急医療体制構築について. 第47回日本救急医学会総会学術集会, 東京, 2019年10月1-3日.
23. 荻野聡之, 樽井武彦, 宮国泰彦, 坪井貴嗣, 海田賢彦, 渡邊衡一郎, 山口芳裕: 救命救急センターにおける精神疾患に関連した身体合併症の現状と課題. 第32回日本総合病院精神医学会総会, 倉敷, 2019年11月15-16日.
24. 根田知明, 落合剛二, 荻野聡之, 宮国泰彦, 海田賢彦, 山口芳裕: 経鼻経管ドレナージチューブ (ENBD) 留置が奏功した胆汁漏を併発した外傷性肝損傷の一例. 第70回日本救急医学会関東地方会学術集会, 前橋, 2020年1月18日.
25. 馬場幸樹, 切刀主税, 樽井武彦, 山口芳裕: 救急活動において重症熱中症を疑うも消化管穿孔と診断された1例. 第57回救急隊員学術研究会, 前橋, 2020年1月18日.
26. 山口芳裕: 「多数傷病者発生事象における対応」～多数傷病者発生時の活動を考察する～. 第28回全国救急隊員シンポジウム, 仙台, 2020年1月30-31日.
27. Otawara M, Mehdi J, Yong-M Y, Yamaguchi Y, Daniel I: Neutrophil Extracellular Traps Induce Secondary Wound Necrosis. The 49th Critical Care Congress, USA, February 16th-19th, 2020.
28. 大田原正幸, 持田勇希, 荻野聡之, 海田賢彦, 山口芳裕: ResolvinD2とDNaseは好中球細胞外トラップ (NETs) に関連した熱傷創の拡大を抑制する. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2020年3月6-8日. (Web開催)
29. 加藤聡一郎, 落合剛二, 持田勇希, 海田賢彦, 山口芳裕: 災害時の重症者病床確保で東京都に求められる地域連携の分析. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2020年3月6-8日. (Web開催)
30. 吉川慧, 海田賢彦, 大津晃康, 鈴木準, 樽井武彦, 山口芳裕: 重症熱傷患者の敗血症診断におけるプロカルシトニンの有用性について. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2020年3月6-8日. (Web開催)
31. 宮国泰彦, 中島幹男, 松居宏樹, 康永秀生, 山口芳裕: 出血性ショックを伴う下部消化管出血における大腸内視鏡と血管造影の効果比較. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2020年3月6-8日. (Web開催)
32. 中島幹男, 麻生将太郎, 大邊 寛幸, 松居宏樹, 山口芳裕, 康永秀生: 日本における院外心停止に対する体外循環を用いた蘇生 (ECPR) の現状. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2020年3月6-8日. (Web開催)

## 論 文

1. Kushimoto S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Hifumi T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada T<sup>1</sup>, Tarui T, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi S<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Study Group) : Impact of Body Temperature Abnormalities on the Implementation of Sepsis Bundles and Outcomes in Patients With Severe Sepsis : A Retrospective Sub-Analysis of the Focused Outcome Research on Emergency Care for Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma Study. Crit Care Med 47 (5) : 691-699, 2019.
2. Abe T<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Sugiyama T<sup>1</sup>, Deshpande GA<sup>1</sup>, Uchida M<sup>1</sup>, Nagata I<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Hifumi T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Tarui T, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi S<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Study Group) : Variations in infection sites and mortality rates among patients in intensive care units with severe sepsis and septic shock in Japan. J Intensive Care 7 : 28, 2019.
3. 吉川慧, 海田賢彦, 森田邦彦<sup>1</sup>, 山口芳裕 (<sup>1</sup>同志社女子大学) : C.tropicalisによるカテーテル関連血流感染に対して抗真菌薬の変更が著効した85%熱傷の1例. 熱傷 45 (2) : 15-18, 2019.
4. Kato S, Yamamoto A<sup>1</sup>, Kawachi I<sup>2</sup>, Sakamoto T, Kunugi C, Tarui T, Yamaguchi Y (<sup>1</sup>Oita Prefectural Hospital, <sup>2</sup>Harvard T.H. Chan School of Public Health) : Pretraining and Precredentialing Staff for Disaster: A Lesson Learned From the Experience of the 2016 Kumamoto Earthquakes. Disaster Med Public Health Prep (2):292-294, 2019. [Epub ahead of print]
5. Gando S<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Tarui T, Hifumi T<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi S<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Study Group) : Role of disseminated intravascular coagulation in severe sepsis. Thromb Res 178: 182-188, 2019.
6. 田中宏明<sup>1,2</sup>, 西圭史<sup>3</sup>, 大野尚仁<sup>2</sup>, 山口芳裕, 篠原高雄<sup>1</sup> (<sup>1</sup>杏林大学医学部附属病院・薬剤部, <sup>2</sup>東京薬科大・薬・免疫学教室, <sup>3</sup>杏林大学医学部附属病院・感

- 染対策室):救命救急センター常駐薬剤師によるフェニトイン処方支援の効果. 日臨救急医学誌 22 (4) : 559-566, 2019.
7. 加藤聡一郎, 山口芳裕:米国健康危機管理の変化から我が国に期す改革を考える. 保健医療科 68 (3) : 240-249, 2019.
  8. Matsumura Y<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Tarui T, Hifumi T<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Study Group) : Nighttime and non-business days are not associated with increased risk of in-hospital mortality in patients with severe sepsis in intensive care units in Japan: The JAAM FORECAST study. J Crit Care 52 : 97-102, 2019.
  9. Mochida Y, Morinaga H, Shimizu Y, Sakamoto T, Miyakuni Y, Kaita Y, Tarui T, Yamaguchi Y : Critical Malperfusion Caused by Central Aortic Repair for Acute Aortic Dissection: A Case Report. Ann Vasc Dis 12 (3) : 404-407, 2019.
  10. 濱田尚一郎, 海田賢彦, 田中佑也, 吉川慧, 樽井武彦, 山口芳裕: 肘関節に異所性骨化症を併発した広範囲熱傷の1例. 熱傷 45 (3) : 137-142, 2019.
  11. Matsubara T<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Tarui T, Hagiwara A<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma) : Significance of plasma fibrinogen level and antithrombin activity in sepsis: A multicenter cohort study using a cubic spline model. Thromb Res 181 : 17-23, 2019.
  12. Fujishima S<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Tarui T, Nakada TA<sup>1</sup>, Hifumi T<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma) : Trends in sepsis care in Japan: comparison of two sepsis cohort studies conducted by the Japanese Association for Acute Medicine. Acute Med Surg 6 (4) : 425-427, 2019.
  13. Nakajima M<sup>1,2</sup>, Aso S<sup>2</sup>, Matsui H<sup>2</sup>, Kaszynski RH<sup>1</sup>, Fushimi K<sup>3</sup>, Yamaguchi Y, Yasunaga H<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Emergency and Critical Care Center, Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital, <sup>2</sup>Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, The University of Tokyo, <sup>3</sup>Tokyo Medical and Dental University Graduate School of Medicine) : Prevalence of myocardial injury requiring percutaneous coronary intervention after acute carbon monoxide poisoning. Eur J Emerg Med, 2019. DOI : 10.1097/MEJ.0000000000000645. [Epub ahead of print]
  14. Yamakawa K<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kabata D<sup>1</sup>, Shintani A<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Tarui T, Hifumi T<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis Trauma (FORECAST) Study Group) : Identifying Sepsis Populations Benefitting from Anticoagulant Therapy: A Prospective Cohort Study Incorporating a Restricted Cubic Spline Regression Model. Thromb Haemost 119 (11) : 1740-1751, 2019.
  15. Abe T<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Tokuda Y<sup>1</sup>, Phillips GS<sup>1</sup>, Rhodes A<sup>1</sup>, Sugiyama T<sup>1</sup>, Komori A<sup>1</sup>, Iriyama H<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Naito T<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Tarui T, Hifumi T<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis Trauma (FORECAST) Study Group) : Implementation of earlier antibiotic administration in patients with severe sepsis and septic shock in Japan: a descriptive analysis of a prospective observational study. Crit Care 23 (1) : 360, 2019.
  16. Nakajima M<sup>1,2</sup>, Kojiro M<sup>2</sup>, Aso S<sup>2</sup>, Matsui H<sup>2</sup>, Fushimi K<sup>3</sup>, Kaita Y, Goto H<sup>1</sup>, Yamaguchi Y, Yasunaga H<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Emergency and Critical Care Center, Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital, <sup>2</sup>Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, The University of Tokyo, <sup>3</sup>The University of Tokyo) : Effect of high-dose vitamin C therapy on severe burn patients: a nationwide cohort study. Crit Care 23 (1) : 407-414, 2019.
  17. Takeuchi S<sup>1</sup>, Yamaguchi Y, Yoshino H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Division of Cardiology, Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine) : Non-contrast computed tomography of type A acute aortic dissection in patients with out-of-hospital cardiopulmonary arrest: a case series. Eur Heart J Case Rep 3 (4) : 1-5, 2019.
  18. Umemura Y<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Tarui T, Hifumi T<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome,

- Sepsis Trauma (FORECAST) Study Group) : Prognostic Accuracy of Quick SOFA is different according to the severity of illness in infectious patients. *J Infect Chemothe* 25 (12) : 943-949, 2019.
19. Yagihashi G, Tarui T, Miyagi H<sup>1</sup>, Ohnishi H<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Yamaguchi Y ( <sup>1</sup>Department of Laboratory Medicine Kyorin University School of Medicine) : Diagnostic accuracy for drug detection using liquid chromatography/mass spectroscopy in overdose patients. *Acute Med Surg*, 2020. DOI : 10.1002/ams2.487.
  20. Iriyama H<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Naito T<sup>1</sup>, Komori A<sup>1</sup>, Hifumi T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Tarui T, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis Trauma (FORECAST) Study Group) : Risk modifiers of acute respiratory distress syndrome in patients with non-pulmonary sepsis: a retrospective analysis of the FORECAST study . *J Intensive Care* , 2020 . DOI : 10.1186/s40560-020-0426-9.
  21. Komori A<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Naito T<sup>1</sup>, Hifumi T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Tarui T, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis Trauma (FORECAST) Study Group) : Characteristics and outcomes of bacteremia among ICU-admitted patients with severe sepsis. *Sci Rep*, 2020. DOI : 10.1038/s41598-020-59830-6.
  22. Kaita Y, Tarui T, Tanaka Y, Suzuki J, Yoshikawa K, Yamaguchi Y: Reevaluation for prognostic value of prognostic burn index in severe burn patients. *Acute Med Surg* 7 (1) : 499-503, 2020.
  23. Miykuni Y, Nakajima M<sup>1</sup>, Kaszynski RH<sup>1</sup>, Tarui T, Goto H<sup>1</sup>, Yamaguchi Y ( <sup>1</sup>Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital) : A Case Involving Massive Insulin Overdose: Direct and Indirect Conditions Requiring Extended Management of Serum Potassium . *Am J Case Rep* , 2020 . DOI : 10.12659/AJCR.920078.
  24. Kushimoto S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Hifumi T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Tarui T, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis Trauma (FORECAST) Study Group ) : Impact of blood glucose abnormalities on outcomes and disease severity in patients with severe sepsis: An analysis from a multicenter, prospective survey of severe sepsis. *PLoS One* , 2020 . DOI : 10.1371/journal.pone.0229919.
  25. Abe T<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Sugiyama T<sup>1</sup>, Iwagami M<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Iriyama H<sup>1</sup>, Komori A<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Tarui T, Hifumi T<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis Trauma (FORECAST) Study Group) : History of diabetes may delay antibiotic administration in patients with severe sepsis presenting to emergency departments. *Medicine ( Baltimore )* , 2020 . DOI : 10.1097/MD.00000000000019446.
  26. Nakata H<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Kabata D<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup>, Shintani A<sup>1</sup>, Shiraishi A<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada TA<sup>1</sup>, Tarui T, Hifumi T<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraishi SI<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Study Group) : Identifying Septic Shock Populations Benefitting from Polymyxin B Hemoperfusion: A Prospective Cohort Study Incorporating a Restricted Cubic Spline Regression Model. *Shock*, 2020. DOI : 10.1097/SHK.0000000000001533.
  27. 山田賢治<sup>1</sup>, 宮方基行<sup>1</sup>, 堀瀧志穂里<sup>1</sup>, 長谷川浩, 松田剛明, 石原哲<sup>2</sup>, 山本保博<sup>2</sup>, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕 ( <sup>1</sup>杏林大・保・救急救命学科, <sup>2</sup>東京曳舟病院) : 救急救命士養成校学生における病院実習のリアリティー. *杏林大学研究報告* 37 : 125-135, 2020.
- 著 書**
1. 山口芳裕 (編集代表) : 大規模イベント医療・救護ガイドブック. 日本医師会, 東京都医師会監修. 東京, へるす出版, 2019.
  2. 堀瀧志穂里, 山口芳裕 (分担執筆) : 福島第一原発事故における消防初動と, 帯同医師の役割. *救急医学* 5月臨時増刊号. 東京, へるす出版, 2019. 681-686.
  3. 五十嵐昂, 山口芳裕 (分担執筆) : 熱中症～救急科専門医の視点より～. *全身性疾患と腎update*. 東京, 東京医学社, 2019. 494-497.
  4. 落合剛二, 山口芳裕 (分担執筆) : マスギャザリングと医療リスク. *救急医学* 11月号. 東京, へるす出版, 2019. 1691-1696.
  5. 海田賢彦, 山口芳裕 (分担執筆) : IV外傷・熱傷の診断・治療44. 熱傷患者の管理指針. *救急・集中治療最新ガイドライン2020・21*. 岡本和文編著. 東京, 総合医学社, 2020. 153-154.

## その他

1. 山口芳裕：京都アニメ爆発火災におけるCO中毒について（解説）. TBS「ビビット」, 2019年7月22日.
2. 山口芳裕：東京大学教授等と放射線被ばく者の救急対応に取り組んだ姿が紹介, NHK BSプレミアム「アナザーストーリーズ：東海村臨界事故 終わらない闘い」, 2019年12月3日.
3. 山口芳裕：やけどの正しい処置について（解説）. 日本経済新聞「日経プラス1 カラダづくり」, 2020年2月18日.
4. 山口芳裕：感染症緊急事態における船舶利用の課題について（講演）. 日本外国特派員協会会見, 2020年3月24日.

## 脳神経外科学教室

## 講演

1. 齊藤邦昭, 小林啓一, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄：膠芽腫摘出術の基本手技、考え方. 第39回日本脳神経外科コンgres総会, 横浜, 2019年5月16日.
2. 塩川芳昭：急性期脳卒中診療の現状と今後. 第52回奈良外科学会学術大会, 奈良, 2019年5月25日.
3. 齊藤邦昭, 飯島昌平, 小林啓一, 千葉知宏, 五明美穂, 塩川芳昭, 柴原純二, 永根基雄：若年成人の後頭蓋窩悪性腫瘍の1例. 第31回多摩脳腫瘍研究会, 三鷹, 2019年5月25日.
4. Narita Y, Muragaki Y, Maruyama T, Kagawa N, Asai K, Kuroda J, Kurozumi K, Nagane M, Matsuda M, Ueki K, Christopher Joseph Ocampo, Matsumoto I, Odagawa R, Nishimura Y, Mishima K: Phase 1/2 study of deparatuzumab mafodotin (ABT-414) monotherapy or combination with temozolomide in Japanese patients with/without EGFR-amplified recurrent glioblastoma. 2019 ASCO Annual Meeting. USA. 2019. 6. 2.
5. 塩川芳昭：対策基本法成立とこれからの脳卒中診療. 第13回富士・玄海Stroke Conference, 福岡, 2019年6月7日.
6. 島田大輔：脳腫瘍に併発するてんかん治療の実際. てんかんWebセミナーin多摩, 多摩, 2019年6月13日.
7. 塩川芳昭：脳卒中から入った脳神経外科医のこだわり. 日本医科大学脳神経外科合同カンファレンス1000回記念会, 東京, 2019年7月2日.
8. 丸山啓介, 吉田裕毅, 島田大輔, 野口明男, 塩川芳昭：鞍結節部髄膜腫の開頭下摘出における内視鏡支援の有用性. 第31回日本頭蓋底外科学会, 神戸, 2019年7月12日.
9. 齊藤邦昭, 清水早紀, 小林啓一, 佐々木重嘉, 山岸夢希, 島田大輔, 塩川芳昭, 永根基雄：グリオーマおよびグリオーマ幹細胞におけるIGFBP2メチル化解析. 第20回日本分子脳神経外科学会, 東京, 2019年8月9日.
10. 小林啓一：悪性脳腫瘍とてんかん～がん拠点病院と地域医療の連携の現状と展望. てんかんTVセミナー, 三鷹, 2019年9月11日.
11. 齊藤邦昭, 小林啓一, 島田大輔, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄：グリオーマ摘出術における穿通枝温存の工夫. 第24回脳腫瘍の外科学会, 静岡, 2019年9月14日.
12. 齊藤邦昭：脳腫瘍後のてんかんマネジメント. Epilepsy Meeting, 多摩, 2019年9月19日.
13. 小林啓一, 齊藤邦昭, 島田大輔, 松本淑恵, 清水早紀, 飯島昌平, 野口明男, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄：悪性脳腫瘍に対するアミノレブリン酸塩酸塩内用薬による術中蛍光診断（PDD）の後方視的解析. 第15回日本脳神経外科光線力学学会, 東京, 2019年9月20日.
14. 小林啓一：脳腫瘍を学ぶ：その症状、脳腫瘍ではありませんか？～脳腫瘍の症状、診断から治療まで～. 第37回日本脳腫瘍学会学術集市民公開講座, 水戸, 2019年9月21日.
15. Nagane M: Standard of care and novel therapeutic insights for primary central nervous system lymphoma. The 16th Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology, Taiwan, 2019. 9. 28.
16. 齊藤邦昭：脳血管疾患に対する超高精細CT. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月9日.
17. 吉田裕毅, 丸山啓介, 野口明男, 長瀬美樹, 塩川芳昭：脳神経外科における手術手技向上を目的としたcadaver baseの解剖セミナーの有効性. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月9日.
18. 太田貴裕, 重田恵吾, 松丸祐司, 塩川芳昭, 平野照之：血栓回収療法の治療件数の増加に伴う血管内治療医の効率的な配置・当番制導入に関する検討—TREATデータベースから—. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月11日.
19. 塩川芳昭：保険診療と外科系学会のありかた. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月10日.
20. 天野達雄, 山道惇, 齋藤幹人, 城野喬史, 丸岡響, 中西郁, 山下ひとみ, 松本淑恵, 笹森寛生, 堀川弘吏, 野口明男, 平野照之, 塩川芳昭：脳神経外科医と脳卒中内科医の力をひとつに～血管内治療医が疲弊しないシステム構築のために～. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月10日.
21. 野口明男, 丸山啓介, 吉田裕毅, 塩川芳昭, 長瀬美樹：屍体標本脳における固定法の新しい試み. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月10日.
22. 小林啓一, 齊藤邦昭, 島田大輔, 松本淑恵, 清水早紀, 飯島昌平, 野口明男, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄：悪性脳腫瘍に対するアミノレブリン酸塩酸塩内用薬による術中蛍光診断の後方視的解析. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月10日.
23. 島田大輔, 小林啓一, 齊藤邦昭, 松本淑恵, 飯島昌平, 永根基雄, 塩川芳昭：交流電場腫瘍治療システム（TTField）の治療経験と臨床現場への適用方法. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月10日.
24. 末松慎也, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭：30歳以下くも膜下出血患者の中長期フォローアップの実際. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月10日.
25. 連乃駿, 黒木愛, 嘉田晃子, 小野塚大介, 萩原明人, 西村邦宏, 西村中, 有村公一, 宮地茂, 塩川芳昭, 小笠原邦昭, 富永悌二, 飯原弘二, CTGS研究：急性期脳卒中医療の質の評価についてClose The Gap-Stroke (CTGS) J-ASPECT study. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月11日.
26. 古野肇, 井川房夫, 松田真伍, 日高敏和, 吉山道貫, 奥真一朗, 小林尚平, 塩川芳昭, 栗栖薫, 玉谷青史, 別役徹生：睡眠時無呼吸症候群における脳白質変化と危険因子. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月11日.
27. 永根基雄, 齊藤邦昭, 小林啓一, 清水早紀, 島田大輔, 松本淑恵, 佐々木重嘉, 久米賢, 飯島昌平, 山岸夢希, 塩川芳昭：膠芽腫に対するコンパニオン診断法とし

- てのMGMT遺伝子メチル化の解析法最適化における課題. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月11日.
28. 立石健祐, 佐々木重嘉, 河津正人, 三宅勇平, 中村大志, 吉井幸恵, 松下裕子, 山中正二, 山本哲哉, 脇本浩明, 永根基雄, 市村幸一: ヒト由来中枢神経原発悪性リンパ腫細胞株を用いた腫瘍発生・進展機構の解明、治療標的探求のためのトランスレーショナル研究. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月11日.
  29. 高橋雅道, 川嶋聡, 大竹洋平, 米盛勲, 里見奈都子, 西川亮, 永根基雄, 丸山隆志, 武笠晃丈, 荒川芳輝, 田中将太, 市村幸一, 中村健一, 成田善孝: 膠芽腫に対するエリブリンの前臨床試験から多施設医師主導治療への導出. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月11日.
  30. 丸山啓介, 吉田裕毅, 島田大輔, 野口明男, 塩川芳昭: 鞍結節部髄膜腫の開頭下摘出における内視鏡支援の有用性. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月11日.
  31. 齊藤邦昭, 小林啓一, 清水早紀, 野崎江里子, 佐々木重嘉, 山岸夢希, 島田大輔, 飯島昌平, 塩川芳昭, 永根基雄: がん遺伝子パネルにより同定した膠芽腫の hypermutator phenotype. 第78回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019年10月11日.
  32. 島田大輔: 新規抗てんかん薬ってどう使う?. 第1回北多摩地区脳神経外科若手会, 多摩, 2019年10月25日.
  33. 齊藤邦昭, 清水早紀, 小林啓一, 島田大輔, 佐々木重嘉, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: Extent of resection threshold for glioma surgery on the basis of molecular status. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月26日.
  34. 丸山啓介, 吉田裕毅, 島田大輔, 野口明男, 塩川芳昭: 鞍結節部髄膜腫の開頭下摘出における内視鏡支援の有用性. 第26回日本神経内視鏡学会, 横浜, 2019年11月7日.
  35. 島田大輔, 飯島昌平, 丸山啓介, 塩川芳昭: 頭痛で発症したLOVAの2例. 第47回日本頭痛学会, 東京, 2019年11月15日.
  36. Nagane M, Saito K, Kobayashi K, Shimizu S, Sasaki N, Yamagishi Y, Shiokawa Y: Challenges in optimization of MGMT promoter methylation assays for development of companion diagnosis in glioblastoma. 24th Annual Meeting of the Society for Neuro-Oncology, USA, 2019. 11. 22.
  37. Saito K, Shimizu S, Nozaki E, Kobayashi K, Sasaki N, Yamagishi Y, Shiokawa Y, Nagane M: Different types of hypermutator phenotype of glioblastoma according to mutation patterns of mismatch repair genes. 24th Annual meeting and education day, USA, 2019.11.23.
  38. 齊藤邦昭, 小林啓一, 島田大輔, 飯島昌平, 塩川芳昭, 永根基雄: 視床~視床後方の神経膠腫に対する手術戦略. 第37回日本脳腫瘍学会学術集会, 石川, 2019年12月1日.
  39. 齊藤邦昭, 小林啓一, 飯島昌平, 松本淑恵, 島田大輔, 塩川芳昭, 永根基雄: 超高精細CTを用いた脳腫瘍手術支援. 第37回日本脳腫瘍学会学術集会, 石川, 2019年12月2日.
  40. 齊藤邦昭, 小林啓一, 飯島昌平, 松本淑恵, 島田大輔, 塩川芳昭, 永根基雄: CUSA Clarityを用いたグリオーマ軟膜下摘出術. 第37回日本脳腫瘍学会学術集会, 石川, 2019年12月2日.
  41. 小林啓一, 齊藤邦昭, 島田大輔, 松本淑恵, 清水早紀, 飯島昌平, 野口明男, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄: 悪性脳腫瘍に対するアミノレブリン酸塩酸塩内用薬による術中蛍光診断の後方視的解析. 第37回日本脳腫瘍学会, 石川, 2019年12月1日.
  42. 島田大輔, 小林啓一, 齊藤邦昭, 松本淑恵, 飯島昌平, 永根基雄, 塩川芳昭: 交流電場腫瘍治療システム (TTF) の治療経験と臨床現場への適用方法. 第37回日本脳腫瘍学会, 石川, 2019年12月1日.
  43. 島田大輔: 悪性脳腫瘍周術期のD-dimer と静脈血栓症の検討. 第37回日本脳腫瘍学会, 石川, 2019年12月1日.
  44. 塩川芳昭: 脳神経外科と保険診療. 一般社団法人日本脳神経外科学会メディアフォーラム, 東京, 2019年12月4日.
  45. Nagane M, Narita Y, Mishima K, Terui Y, Arakawa Y, Yonezawa H, Asai K, Fukuhara N, Sugiyama K, Shinjima N, Kitagawa J, Aoi A, Nishikawa R: Phase 1/2 study of tirabrutinib (ONO/GS-4059), a next-generation Bruton's Tyrosine Kinase (BTK) inhibitor, monotherapy in patients with relapsed/refractory primary central nervous system lymphoma (PCNSL). Annual Meeting of American Society of Hematology, USA, 2019. 12. 7.
  46. 塩川芳昭: 「脳血管障害から入った脳神経外科手術修練」をMVDに活かす-抗凝固療法への配慮-. 第22回日本脳神経減圧術学会, 静岡, 2020年1月9日.
  47. 齊藤邦昭, 小林啓一, 飯島昌平, 松本淑恵, 島田大輔, 高橋沙奈江, 小柳正道, 五明美穂, 塩川芳昭, 永根基雄: 超高精細CTによる血管描出と3次元融合画像を用いた脳腫瘍手術. 第43回日本CI学会学術集会, 岡山, 2020年1月24日.
- ## 論文
1. 塩川芳昭: 脳卒中急性期診療. 脳血管病の過去・現在・未来. 分子脳血管病vol.18 No.1, 2019.
  2. Tokunaga K, Koga M, Itabashi R, Yamagami H, Todo K, Yoshimura S, Kimura K, Sato S, Terasaki T, Inoue M, Shiokawa Y, Takagi M, Kamiyama K, Tanaka K, Takizawa S, Shiozawa M, Okuda S, Okada Y, Kameda T, Nagakane Y, Hasegawa Y, Shibuya S, Ito Y, Matsuoka H, Takamatsu K, Nishiyama K, Kario K, Yagita Y, Fujita K, Ando D, Kumamoto M, Arihiro S, Toyoda K, SAMURAI Study Investigators: Prior Anticoagulation and Short- or Long-Term Clinical Outcomes in Ischemic Stroke or Transient Ischemic Attack Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation. J Am Heart Assoc 8(3): e010593, 2019. doi: 10.1161/JAHA.118.010593.
  3. Kaneko J, Ota T, Tagamia T, Unemoto K, Shigeta K, Amano T, Ueda M, Matsumaru Y, Shiokawa Y, Hirano T, behalf of the TREAT Study Group: Endovascular treatment of acute basilar artery occlusion: Tama-REgistry of Acute Thrombectomy (TREAT) study. Journal of the Neurological Sciences 401: 29-33, 2019.
  4. Nishimura A, Nishimura K, Onozuka D, Matsuo R, Kada A, Kamitani S, Higashi T, Ogasawara K, Shimodozono M, Harada M, Hashimoto Y, Hirano T, Hoshino H, Itabashi R, Itoh Y, Iwama T, Kohriyama T, Matsumaru Y, Osato T, Sasaki M, Shiokawa Y, Shimizu H, Takekawa H, Nishi T, Uno M, Yagita Y, Ido K, Kurogi A, Kurogi R, Arimura K, Ren N, Hagihara A, Takizawa S, Arai H,

- Kitazono T, Miyamoto S, Minematsu K, Iihara K : Development of Quality Indicators of Stroke Centers and Feasibility of Their Measurement Using a Nationwide Insurance Claims Database in Japan - J-ASPECT Study -. *Circulation Journal* 83: 2292 -2302, 2019. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0089
5. Yokoi H, Kodama S, Maruyama K, Fujiwara M, Shiokawa Y, Saito K : Endoscopic endonasal resection via a transsphenoidal and transpterygoid approach for sphenoid ridge meningioma extending into the sphenoid sinus: A case report and literature review. *International Journal of Surgery Case Reports* 60 :115-119, 2019.
  6. Nomura M, Saito K, Aihara K, Nagae G, Yamamoto S, Tatsuno K, Ueda H, Fukuda S, Umeda T, Tanaka S, Takayanagi S, Otani R, Nejo T, Hana T, Takahashi S, Kitagawa Y, Omata M, Higuchi F, Nakamura T, Muragaki Y, Narita Y, Nagane M, Nishikawa R, Ueki K, Saito N, Aburatani H, Mukasa A: DNA demethylation is associated with malignant progression of lower-grade gliomas. *Scientific Reports* 9: 1903-1914, 2019. doi: 10.1038/s41598-019-38510-0
  7. Nejo T, Matsushita H, Karasaki T, Nomura M, Saito K, Tanaka S, Takayanagi S, Hana T, Takahashi S, Kitagawa Y, Koike T, Kobayashi Y, Nagae G, Yamamoto S, Ueda H, Tatsuno K, Narita Y, Nagane M, Ueki K, Nishikawa R, Aburatani H, Mukasa A, Saito N, and Kakimi K: Reduced neoantigen expression revealed by longitudinal multiomics as a possible immune evasion mechanism in glioma. *Cancer Immunol Res*(7):1148-1161, 2019. doi: 10.1158/2326-6066.CIR-18-0599.
  8. Takami H, Fukuoka K, Fukushima S, Nakamura T, Mukasa A, Saito N, Yanagisawa T, Nakamura H, Sugiyama K, Kanamori M, Tominaga T, Maehara T, Nakada M, Kanemura Y, Asai A, Takeshima H, Hirose Y, Iuchi T, Nagane M, Yoshimoto K, Matsumura A, Kurozumi K, Nakase H, Sakai K, Tokuyama T, Shibui S, Nakazato Y, Narita Y, Nishikawa R, Matsutani M, Ichimura K: Integrated Clinical, Histopathological, and Molecular Data Analysis of 190 Central Nervous System Germ Cell Tumors from the iGCT Consortium. *Neuro-Oncol* 21(12): 1565-1577, 2019. doi: 10.1093/neuonc/noz139
  9. Shishido-Hara Y, Yazawa T, Kojima K, Ishii J, Kobayashi K, Lee JH, Chiba T, Sumiishi A, Tsuchiya K, Uchihara T, Shiokawa Y, Takayama N, Nagane M, Kamma H: Detection of t(14:18)(q32;q21) for IgH/BCL2 in CNS tumor-like lesions with chronic perivascular inflammation. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*, vol.10(4): 244-258, 2019.
  10. Guerreiro Stucklin AS, Ryall S, Fukuoka K, Zapotocky M, Lassaletta A, Li C, Bridge T, Kim B, Arnoldo A, Kowalski P, Zhong Y, Johnson M, Li C, Ramani A, Siddaway R, Dr. Nobre LF, de Antonellis P, Dunham C, Cheng S, Boue D, Finlay J, Coven S, De Prada I, Perez-Somarriba M, Faria C, Grotzer M, Rushing E, Sumerauer D, Zamecnik J, Krskova L, Ariza MG, Cruz O, La Madrid AM, Solano P, Terashima K, Nakano Y, Ichimura K, Nagane M, Sakamoto H, Gil-da-Costa M, Silva R, Johnston D, Michaud J, Wilson B, van Landeghem F, Oviedo A, McNeely D, Crooks B, Fried I, Zhukova N, Hansford J, Nageswararao A, Garzia L, Shago M, Brudno M, Irwin M, Bartels U, Ramaswamy V, Bouffet E, Taylor M, Tabori U, Hawkins C: Alterations in ALK/ROS1/NTRK/MET drive a group of infantile hemispheric gliomas. *Nature Comm* 10(1) :4343, 2019. doi: 10.1038/s41467-019-12187-5
  11. 永根基雄 : 悪性脳腫瘍の診断と治療 (Diagnosis and treatment for malignant brain tumors) . *Jpn J Rehabil Med* (リハ医学) 56 (8) :602-608, 2019.
  12. 永根基雄 : Neuro-Oncology最新のトピックス : 初発退形成性星細胞腫に対するCATNON試験結果 - ASCO 2019より . IMEウェブサイト『Neurodiem』日本語版, In-Depth Science (IDS) article published online on Nov 27, 2019. <https://www.neurodiem.jp/news/neuro-oncology-catnon-asco-2019-XCO5WmT3na5EbSwnmyG1h>
  13. Yokoi H, Kodama S, Maruyama K, Fujiwara M, Shiokawa Y, Saito K: Endoscopic endonasal resection via a transsphenoidal and transpterygoid approach for sphenoid ridge meningioma extending into the sphenoid sinus: a case report and literature review. *Int J Surg Case Rep* 60: 115-119, 2019.
  14. Ikeda T, Maruyama K, Ito N, Utagawa A, Shimada A, Shiokawa Y, Kurita H: Higher serum pentosidine, an advanced glycation end product, in branch atheromatous disease among small vessels occlusion. *J Neurosurg Sci* 63: 388-393, 2019.
  15. Maruyama K, Yokoi H, Nagase M, Yoshida H, Noguchi A, Matsumura G, Saito K, Shiokawa Y: Usefulness of N-vinyl-2-pyrrolidone embalming for endoscopic transnasal skull base approach in cadaver dissection. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 59: 379-383, 2019.
  16. Nejo T, Matsushita H, Karasaki T, Nomura M, Saito K, Tanaka S, Takayanagi S, Hana T, Takahashi S, Kitagawa Y, Koike T, Kobayashi Y, Nagae G, Yamamoto S, Ueda H, Tatsuno K, Narita Y, Nagane M, Ueki K, Nishikawa R, Aburatani H, Mukasa A, Saito N, Kakimi K: Reduced neoantigen expression revealed by longitudinal multiomics as a possible immune evasion mechanism in glioma. *Cancer Immunol Res* (7): 1148-1161, 2019.
  17. Saito K: Surgical Anatomy and Operative Technique for Insular Glioma. *No Shinkei Geka* 47(4): 405-418, 2019.
  18. Nomura M, Saito K, Aihara K, Nagae G, Yamamoto S, Tatsuno K, Ueda H, Fukuda S, Umeda T, Tanaka S, Takayanagi S, Otani R, Nejo T, Hana T, Takahashi S, Kitagawa Y, Omata M, Higuchi F, Nakamura T, Muragaki Y, Narita Y, Nagane M, Nishikawa R, Ueki K, Saito N, Aburatani H, Mukasa A: DNA demethylation is associated with malignant progression of lower-grade gliomas. *Sci Rep* 9(1): 1903, 2019.
  19. 上月直樹, 中島昌典, 内堀歩, 島田大輔, 柴原純二, 千葉厚郎 : 再発性脳梗塞とびまん性くも膜肥厚を呈した抗リン脂質抗体症候群の1例 . *臨床神経* 59: 662-665, 2019.
  20. 小野秀明, 井上智弘, 小原健太, 三谷伴弘, 末松慎也, 新谷祐貴, 谷島健夫, 田村晃, 齋藤勇 : 血管吻合・パ



イパス術を安全確実に行うための工夫. 脳卒中の外科47: 1-5, 2019.

## 著書

1. 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原聡, 塩川芳昭(編集): Annual Review神経2019. 中外医学社, 東京, 2019.
2. 塩川芳昭: 脳卒中(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血、もやもや病.) Year note TOPICS2019-2020 内科・外科疾患9th edition研修医・非専門医でも知っておくべき近年と今後の主な動向: J1-7, メディックメディア, 東京, 2019.
3. 内山真一郎, 阿部康二, 北山一夫, 松本昌康, 塩川芳昭, 鈴木倫保: 座談会 脳血管領域の進展を繙く. 分子脳血管病vol.18 no.1, 先端医学社, 東京, 2019.
4. 内山真一郎, 阿部康二, 北山一夫, 松本昌康, 塩川芳昭, 鈴木倫保: 編集アドバイザー. 脳血管病vol.1 no.1, 先端医学社, 東京, 2019.
5. 塩川芳昭: 脳梗塞・TIA委員. 脳卒中治療ガイドライン2015〔追補2019対応〕. 株式会社協和企画, 東京, 2019. p.132-135.
6. 永根基雄: ニムスチン. カルムスチン. テモゾロミド. プロカルバジン. In プロフェッショナルがんナーシング2019別冊. これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬. 古瀬純司(編), 大阪, メディカ出版, 2019. p.178-187.
7. 永根基雄: 中枢神経系のリンパ腫. 悪性リンパ腫治療マニュアル 改訂第5版. 東京, 南江堂, 2019.
8. 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫. 脳腫瘍診療ガイドライン 改訂第2版(2019年版). 日本脳腫瘍学会(編). 東京, 金原出版, 2019. p.107-155.

## その他

1. 塩川芳昭: 第12回 脳梗塞慢性期の外科治療9月30日放送, 第15回 脳出血(3) 脳出血の外科治療10月21日放送. 杏林シンポジア, ラジオNIKKEI第一放送(短波放送), 東京, 2019.
2. 塩川芳昭: コラム 追悼 堤一生先生を偲んで. 脳神経外科速報vol.29, No.11: 1186-1189, 2019.

## 心臓血管外科学教室

### 口 演

1. 市川洋平, 細井温, 古暮洗太, 池添亨, 布川雅雄, 窪田博, 渋谷慎太郎: 上腸間膜動脈から分岐する脾動脈に生じた脾動脈瘤の2治療例と過去42例の検討. 第47回日本血管外科学会学術総会, 名古屋, 2019年5月22日.
2. 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 峯岸祥人, 船田敏子, 窪田博: 術前中枢神経障害を合併したA型急性大動脈解離の手術成績の検討. 第47回日本血管外科学会学術総会, 名古屋, 2019年5月24日.
3. 船田敏子, 遠藤英仁, 稲葉雄亮, 土屋博司, 峯岸祥人, 窪田博: 広範囲弓部大動脈瘤に対しstaged hybrid TEVARによる2期的手術を施行した2症例. 第47回日本血管外科学会学術総会, 名古屋, 2019年5月24日.
4. 船田敏子, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 峯岸祥人, 窪田博: 弁輪部膿瘍を伴うMRSA大動脈弁位感染性心内膜炎の1例. 第180回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年6月8日.
5. 細井温: The Chronic Venous Insufficiency Questionnaire (CIVIQ) の日本語版の紹介. 日本静脈学会国際委員会, 第39回日本静脈学会総会, 名古屋, 2019年7月4日.

6. 笹嶋寛史: 膵癌術後に発症した門脈内血栓症に対して経回結腸静脈的に血栓除去を施行した一例. 第39回日本静脈学会総会, 名古屋, 2019年7月4日.
7. 藤巻圭介, 布川雅雄, 細井温, 市川洋平, 笹嶋寛史, 窪田博: Hartman術後の腸骨動脈瘤に対し人工肛門血行の評価により安全にEVARを施行した症例. 第27回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 埼玉, 2019年9月28日.
8. 細井温, 布川雅雄, 市川洋平, 笹嶋寛史, 藤巻圭介, 窪田博: 深部静脈血栓症に対する抗凝固療法による血栓退縮効果に関する比較検討—静脈血栓後症候群の発症予防の観点から—. 第60回日本脈管学会総会, 東京, 2019年10月10日.
9. 遠藤英仁, 石井光, 峯岸祥人, 土屋博司, 船田敏子, 窪田博: 弓部置換術後人工血管感染症例におけるOpen stent graftの摘除方法. 第72回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019年10月31日.
10. 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 峯岸祥人, 船田敏子, 窪田博: 広範囲の感染性心内膜炎に対する赤外線焼灼治療の検討. 第72回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019年10月31日.
11. 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 峯岸祥人, 船田敏子, 窪田博, 長沼政亮, 齋木佳克, 于凱鴻, 清水一夫, 太田信, 中島章夫: 赤外線焼灼による新しい概念に基づく外科治療の医療機器開発. 第72回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019年10月31日.
12. 窪田博: 2019 JPN Biosurgery Voice of Customer企画. ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社製品(止血剤)に関する臨床上的アドバイス・インプットの提供. 京都, 2019年11月1日.
13. 笹嶋寛史, 藤巻圭介, 市川洋平, 細井温, 布川雅雄, 窪田博, 原田裕久, 藤村直樹: 膵癌術後に発症した門脈内血栓症に対して経回結腸静脈的に血栓除去を施行した一例. 第48回杏林医学学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
14. 遠藤英仁, 峯岸祥人, 土屋博司, 窪田博: 治療に難渋したA型大動脈解離術後の人工血管感染を伴う縦隔炎の症例. 第17回多摩心臓外科学会, 東京, 2020年2月15日.
15. 土屋博司, 遠藤英仁, 峯岸祥人, 船田敏子, 窪田博: 赤外線焼灼による広範囲の感染性心内膜炎に対する凝固治療の一例. 第182回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2020年3月7日.

## 論文

1. Minegishi S, Kinoshita O, Hoshino Y, Komae H, Kimura M, Shimada S, Yamauchi H, Nawata K, Ono M: Long-term support by left ventricular assist device for arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy. Artificial Organs.43: 909-912, 2019.
2. Kubota H, Endo H, Ishii H, Minegishi S, Tsuchiya H, Takahashi Y, Funata S, Inaba Y: An infrared coagulator to assist surgical treatment of infective endocarditis. The Journal of Thoracic Disease11(10): 4364-4370, 2019. doi: 10.21037/jtd.2019.09.82.
3. Haga M, Hosoi Y, Funata S, Nishino Y, Ikezoe T, Nunokawa M, Kubota H: Anticoagulation Reduces the Risk of Thrombus Recurrence and is Associated with Resolution in Isolated Calf Deep Vein Thrombosis. European journal of vascular and endovascular surgery 58, 6, Supple 1: e109-e110, 2019.

4. Kubota H, Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Inaba Y, Terakawa K, Takahashi Y, Noma M, Takemoto K, Tani ai S, Sakata K, Soejima K, Shimoyamada H, Kamma H, Kawakami H, Kaneko Y, Hirono S, Izumi D, Ozaki K, Minamino T, Yoshino H, Sudo K: Adult ALCAPA: from histological picture to clinical features. J Cardiothorac Surg 15(14), 2020.
5. Inaba Y, Endo H, Kubota H: Arterial-bronchial fistula from ruptured immunoglobulin G4-related subclavian artery aneurysm. Journal of Vascular Disease, Cases and Innovative techniques 6: 84-88, 2020.

#### 著書

1. 稲葉雄亮, 窪田博: IABP 挿入法. 胸部外科 Vol.72 No.10. 東京, 南江堂, 2019.
2. 峯岸祥人: 胸部外科レジデントマニュアル. 小野稔, 中島淳 (監修). 東京, 医学書院, 2019.
3. 窪田博: 編集後記. 心臓 SHINZO 第51巻 第7号 2019.
4. Kubota H, Ohura N, Recent clinical techniques, results, and research in wounds: Vascular surgery, Neurosurgery, Lower extremity ulcers, Antimicrobials, Wound assessment, Care, Measurement and Repair. Part 1, Chapter III: Deep sternal wound infection after cardiac surgery. Edited by M. Shiffman. Springer, 2019.
5. Kubota H: Encyclopedia of Stroke (9 volumes-Vol. 5), Nova Medicine and Health, New developments of medical research, Special Topics, Medicine and Health. Chapter 47. Cardiac Swinging Calcified Amorphous Tumors (SCAT) and Stroke in End-Stage Renal Failure. Edited by SM Townsend and JM Horst. Nova publishing, 2020.
6. 細井温 (分担執筆): 静脈性疾患 循環器疾患 病態・治療論 [3] 看護学テキスト NiCE. 八尾厚史, 落合亮太編. 東京, 南江堂, 2019. p.269-278.
7. 細井温 (分担執筆): 表在静脈血栓性静脈炎 末梢動脈・静脈疾患 循環器症候群 (第3版). 小室編. 東京, 日本臨床社, 2019. p.523-526.
8. 細井温 (分担執筆): 触診・打診・聴診 診断法 新臨床静脈学. 日本静脈学会編. 東京, メジカルレビュー社, 2019. p.44-47.

#### その他

1. 布川雅雄 (座長): 教育講演1 血管炎の診断と治療. 第47回日本血管外科学会学術総会, 名古屋, 2019年5月22日.
2. 細井温 (座長): ポスター55 破裂性腹部大動脈瘤1. 第47回日本血管外科学会学術総会, 名古屋, 2019年5月23日.
3. 布川雅雄 (座長): 要望演題13 バスキュラーアクセス2. 第39回日本静脈学会総会, 名古屋, 2019年7月4日.
4. 細井温 (座長): 要望演題12 バスキュラーアクセス1. 第39回日本静脈学会総会, 名古屋, 2019年7月4日.
5. Ishii H (Chair): Session2 Oral. 29th Annual Congress of the Association of the Thoracic and Cardiovascular Surgeons, Taipei, 2019.11.1.
6. Ishii H (Chair): Session 30 Aorta Surgery 1. 29th Annual Congress of the Association of the Thoracic and Cardiovascular Surgeons, Taipei, 2019.11.2.
7. 窪田博: Swinging CAT (Calcified Amorphous Tumor). 心臓 SHINZO 第51巻 第12号, 巻頭言

Open HEART. 2019.

8. 窪田博: 【特許取得】第6667180号. 赤外線変性装置. 認定日: 2020年2月27日.

#### 受賞報告

1. 心臓血管外科: 三鷹救急業務功労者受賞. 2019年6月25日.
2. 笹嶋寛史: 一般口演優秀賞 膝癌術後に発症した門脈内血栓症に対して経回結腸静脈的に血栓除去を施行した一例. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
3. 遠藤英仁: 多摩心臓外科学会奨励賞, 東京, 2020年2月.

#### 整形外科学教室

#### 講演

##### A. 講演

1. 市村正一: What teriparatide plays a role for surgeons in osteoporotic fracture? . Fix & Treat Symposium, Taiwan, April 12, 2019.
2. 市村正一: The clinical use of teriparatide in patients with osteoporotic spine fractures. Lecture in 2019 Spring Congress of Taiwan Orthopedic Association-Lunch Symposium, Taiwan, April 13, 2019.
3. 市村正一: 椎体骨折に対する治療戦略-薬物療法から手術療法まで-. 昭島医師会学術講演会, 昭島, 2019年4月24日.
4. 森井健司: 骨腫瘍の診断と治療. 第92回日本整形外科学会学術総会・第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍特別研修会, 横浜, 2019年5月9-12日.
5. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法におけるテリパラチドの位置づけ. FORTEO National Web Conference, 2019年5月17日.
6. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法におけるロモソズマブへの期待. KYO学術講演会, 甲府, 2019年5月30日.
7. 市村正一: 骨粗鬆症診療における医療安全. 運動器疾患/骨・関節フォーラム米子会場, 米子, 2019年6月8日.
8. 細金直文: 高齢者の腰痛, 坐骨神経痛, 腰曲がり. 杏林大学公開講座, 三鷹, 2019年6月22日.
9. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法におけるロモソズマブへの期待. Shiga Osteoporosis Conference, 大津, 2019年6月29日.
10. 森井健司: 悪性骨腫瘍手術における感染対策-第2回国際コンセンサスの成果と課題-. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
11. 森井健司: 骨軟部腫瘍診療における感染対策. 第309回ICD講習会・第42回日本骨関節感染症学会, 横浜, 2019年7月19-20日.
12. 細金直文: 腰椎変性疾患の治療 薬物治療から手術療法まで. KYO会, 甲府, 2019年7月25日.
13. 市村正一: 骨粗鬆症診療におけるup to date~医療安全の観点から~. 第120回山口県臨床整形外科医会教育研修会, 山口, 2019年7月27日.
14. Hosogane N: Determining the appropriate alignment of spino-pelvic and global parameters for individual patients - Focused on the ethnic difference -. Sagittal Balance Seminar. Tokyo, August 17th-18th, 2019.

15. 細金直文：整形外科領域における神経障害性疼痛 脊椎変性疾患。第一三共株式会社社内講習会，東京，2019年8月21日。
  16. 市村正一：骨粗鬆症診療におけるテリパラチドの最適な活用法。東毛地区テリパラチドスキルアップセミナー，館林，2019年8月29日。
  17. 市村正一：骨粗鬆症治療における新規骨形成促進薬の役割。横須賀市整形外科医会，横須賀，2019年9月6日。
  18. 市村正一：ロコモティブシンドローム（ロコモ）予防講座。令和元年度東老連健康教室事業，東京，2019年9月17日。
  19. 市村正一：令和元年度第2回ロコモ予防チャレンジ！講座。令和元年度三鷹市老連・社協健康教室事業，三鷹，2019年9月28日。
  20. 市村正一：骨粗鬆症診療におけるテリパラチドの最適な活用法。Bone Seminar in Oita，大分，2019年10月3日。
  21. 細金直文：成人脊柱変形の診断と治療。第27回鶴舞脊椎脊髄カンファレンス，名古屋，2019年10月3日。
  22. Hosogane N, Nojiri K, Imabayashi H, Kono H, Takahashi M, Sano H, Hasegawa M, Ichimura S: Vertebral replacement with minimally invasive lateral approach for osteoporotic vertebral fracture. 1st SOLAS Asia Pacific & Japan Combined Meeting, Tokyo, October 5th, 2019.
  23. 市村正一：知っておきたい高齢者の運動器疾患。三鷹市老人会，三鷹，2019年10月23日。
  24. Hosogane N, Yagi M, Kono H, Fujita N, Ichimura S, Nakamura M, Matsumoto M, Watanabe K: Surgical result of adult spinal deformity patients treated with lateral interbody fusion combined with posterior fusion. Comparison with conventional method. 2019 Sino-Japan Summit on Minimal Invasive Spinal Stabilization, China, October 25th-26th, 2019.
  25. 細金直文：骨粗鬆症椎体骨折に対する治療戦略-神経障害を伴うOVFから脊柱変形まで-。第53回日本側弯症学会，高崎，2019年11月8-9日。
  26. 市村正一：骨粗鬆症薬物療法の最前線。第5回千葉骨粗鬆症研究会，千葉，2019年11月28日。
  27. 市村正一：骨粗鬆症における新規骨形成促進薬の期待。第17回骨粗鬆症フォーラム，福井，2019年12月5日。
  28. Hosogane N: Surgical correction of adult spinal deformity with osteotomies. SRS Current Concept Course Lunchtime Workshop. Tokyo, December 14th, 2019.
  29. 市村正一：骨粗鬆症性椎体骨折診療マニュアル作成の取り組み。骨粗鬆症性椎体骨折を考える会，盛岡，2020年1月18日。
  30. Hosogane N: Rod Fracture after Adult Spinal Deformity Surgery. 12th Annual Meeting of the Korean Spinal Deformity Society, Korea, January 18th, 2020.
  31. Hosogane N: ADL impairment after adult spinal deformity surgery. 12th Annual Meeting of the Korean Spinal Deformity Society, Korea, January 18th, 2020.
  32. 市村正一：骨粗鬆症診療におけるテリパラチドの位置づけ。FORTEO National Web Conference，東京，2020年1月29日。
  33. 細金直文：腰椎変性疾患の治療。塩野義製薬株式会社社内研修会，東京，2020年2月5日。
  34. 市村正一：脆弱性骨折予防における骨粗鬆症薬物治療。骨粗鬆症治療を考える会 in Shizuoka，静岡，2020年2月13日。
- B. 国際学会
1. Nagoshi N, Kono H, Tsuji O, Aoyama R, Fujiyoshi K, Shiono Y, Ishikawa M, Daimon K, Hosogane N, Watanabe K, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K, Yamane J: Impact of tobacco smoking on outcomes after posterior decompression surgery in patients with cervical spondylotic myelopathy. Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Paediatric Orthopaedic Society, Korea, April 4th-6th, 2019.
  2. Nagoshi N, Kono H, Tsuji O, Aoyama R, Fujiyoshi K, Shiono Y, Ishikawa M, Daimon K, Hosogane N, Watanabe K, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K, Yamane J: Impact of tobacco smoking on outcomes after posterior decompression surgery in patients with cervical spondylotic myelopathy. Global Spine Congress, Canada, May 15th-18th, 2019.
  3. Hosogane N, Kono H, Yagi M, Fujita N, Sano H, Takahashi M, Hasegawa M, Ichimura S, Nakamura M, Matsumoto M, Watanabe K: Impact of correction surgery on activities of daily living related to Oriental life-style in adult spinal deformity patients. Survey with original ADL questionnaire. The International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS), Kyoto, June 3rd-7th, 2019.
  4. Takeuchi T, Satomi K, Yamagish K, Hosogane N, Ichimura S: Results of a novel percutaneous pedicle screw insertion technique for patients with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis -double endplates penetrating screw (DEPS) technique -. The International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS), Kyoto, June 3rd-7th, 2019.
  5. Hosogane N, Yagi M, Kono H, Fujita N, Ichimura S, Nakamura M, Matsumoto M, Watanabe K: Surgical result of adult spinal deformity patients treated with lateral interbody fusion combined with posterior fusion. Comparison with propensity-score matched patients treated with posterior-only approach. The 26th International Meeting on Advanced Spine Techniques (IMAST), Netherlands, July 17th -20th, 2019.
  6. Yagi M, Ames C, Hosogane N, Smith J, Shaffrey C, Schwab F, Lafage V, Matsumoto M, Bess S, Watanabe K, International Spine Study Group: Lower Satisfaction after Adult Spinal Deformity Surgery in Japan Compared with the US Despite Similar SRS22 Pain and Function Scores: A Propensity Score Matched Analysis. 54th Scoliosis Research Society (SRS), Canada, September 18th-21st, 2019.
  7. Yagi M, Michikawa T, Hosogane N, Fujita N, Okada E, Suzuki S, Tsuji O, Nagoshi N, Asazuma T, Nakamura M, Matsumoto M, Watanabe K: Surgical Risk Stratification Based on Preoperative Risk Factors in Adult Spinal Deformity. 54th Scoliosis Research Society (SRS), Canada, September 18th-21st, 2019.
  8. Yagi M, Michikawa T, Hosogane N, Fujita N, Suzuki S, Okada E, Tsuji O, Nagoshi N, Asazuma

T, Kaneko S, Nakamura M, Matsumoto M, Watanabe K: The 5-item Modified Frailty Index is Predictive of Severe Adverse Event in Patients Undergoing Surgery for Adult Spinal Deformity. 54th Scoliosis Research Society (SRS), Canada, September 18th-21st, 2019.

#### C. 国内学会

- 八木満, 細金直文, 道川武紘, 藤田順之, 岡田英次朗, 鈴木悟士, 名越慈人, 辻収彦, 金子慎二郎, 谷戸祥之, 朝妻孝仁, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太: 成人脊柱変形手術における神経学的合併症のリスク因子, 臨床成績に与える影響と推移. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 細金直文, 八木満, 河野仁, Ames C, Lafage V, 藤田順之, 高橋雅人, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 市村正一, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太: 3 column osteotomyを施行した日米成人脊柱変形の比較. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 細金直文, 八木満, 河野仁, 藤田順之, 今林英明, 高橋雅人, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 千葉一裕, 市村正一, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太: 成人脊柱変形における術後SRS-22の臨床的有意な最小変化量 (MCID) 達成に関与する因子の検討. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川雅一, 佐藤俊輔, 細金直文, 市村正一: 頸椎症性筋萎縮症(CSA)の術中脊髄モニタリングによる麻痺回復予測. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 小西一斉, 佐野秀仁, 細金直文, 長谷川雅一, 高橋雅人, 大畑徹也, 稲田成作, 佐藤俊輔, 諸井威彦, 市村正一: 当院における中下位頸椎脱臼骨折手術例の検討. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 八木満, 細金直文, 藤田順之, 岡田英次朗, 鈴木悟士, 辻収彦, 名越慈人, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太: 成人脊柱変形に対する矯正固定術の術後合併症は予測可能か?. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 佐野秀仁, 長谷川雅一, 佐藤俊輔, 高橋雅人, 細金直文, 市村正一: 下肢痛を伴う骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPの治療成績. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 竹内拓海, 里見和彦, 山岸賢一郎, 市村正一: びまん性特発性骨増殖症を伴う骨粗鬆症性椎体骨折などに対する新しい経皮的椎弓根スクリュー刺入法-DEPS法-と短期成績. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 船尾陽生, 山根淳一, 磯貝宜広, 石原慎一, 辻収彦, 岡田英次朗, 藤田順之, 八木満, 渡辺航太, 細金直文, 二宮研, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢, 名越慈人: 頸椎後縦靭帯骨化症に対する後方除圧術のASA-PS分類による治療成績比較. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 諸井威彦, 佐野秀仁, 細金直文, 入江駿, 小西一斉, 五十嵐一峰, 大木紫, 市村正一: タブレットPCを用いた新たな上肢巧緻機能評価法の開発(第一報)健常者間の左右差の評価. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019年4月18-20日.
- 森井健司, 田島崇, 宇高徹, 市村正一: 軟部肉腫診療における標準治療完遂を指標とした高齢者の定義付け. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 森井健司, 市村正一: 悪性骨腫瘍手術における感染対策-第2回国際コンセンサスの成果と課題-. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- Morii T, Tajima T, Udaka T, Ichiura S: Comorbidities in cases with soft tissue sarcoma - impact on the completion of standard therapy and oncological outcome-. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 森井健司, 浅野尚文, 中山ロバート, 菊田一貴, 須佐美知郎, 渡部逸央, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿, 森岡秀夫, 市村正一: 骨巨細胞腫の手術関連合併症の解析. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 佐々木茂, 坂倉健吾: 鏡視下腱板修復術後再断裂なしへ-当院のARCR治療成績とfibrin clots併用上方関節包再建術の経験-. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 岡部直太, 柴原純二, 市村正一: 骨・軟部腫瘍初期診療における可溶性IL-2レセプター値の臨床的意義. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 小西一斉, 佐野秀仁, 細金直文, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐藤俊輔, 諸井威彦, 市村正一: 当院における脊髄腫瘍手術例の検討. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 大野公宏, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 大柁英昭, 佐藤俊輔, 細金直文, 市村正一: 末梢神経損傷後幼若ラットにおける皮質脊髄路経路変更の可能性-電気生理学的検討. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 大伴直央, 黄郁代, 武田和樹, 小倉洋二, 高橋洋平, 南昌平, 宇野耕吉, 川上紀明, 伊東学, 米澤郁穂, 渡辺慶, 海渡貴司, 柳田晴久, 種市洋, 播谷勝三, 谷口優樹, 重松英樹, 飯田尚裕, 出村論, 菅原亮, 藤田順之, 八木満, 岡田英次朗, 細金直文, 河野克己, 千葉一裕, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤努, 鈴木哲平, 西田康太郎, 角谷賢一朗, 辻太一, 須藤英毅, 岩田玲, 佐藤達哉, 稲見聡, 寺尾知可史, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太, 池川志郎: 運動器疾患ゲノム研究の未来-思春期特発性側彎症の遺伝子研究. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川雅一, 佐藤俊輔, 太田道紀, 細金直文, 市村正一: 頸椎症性筋萎縮症(CSA)の術中脊髄モニタリングによる麻痺回復予測. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 細金直文, 八木満, 河野仁, 今林英明, 千葉一裕, 長谷川雅一, 高橋雅人, 市村正一, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太: 成人脊柱変形における術後ODIの臨床的有意な最小変化量(MCID)達成に関与する因子の検討. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 八木満, 道川武紘, 細金直文, 藤田順之, 岡田英次朗, 鈴木悟士, 辻収彦, 名越慈人, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太: フレイル(虚弱)の治療状態は成人脊柱変形術後合併症の発生に影響を及ぼさない. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 高橋雅人, 細金直文, 佐藤俊輔, 諸井威彦, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一: 頸椎症性筋萎縮症における頸椎アライメントによる予後因子. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
- 坂倉健吾, 佐々木茂, 佐藤行紀, 鈴木啓司, 小谷明弘, 富田哲也, 山崎隆治, 菅本一臣, 市村正一: PS mobile

- 人工関節の生体内動態と設置位置の関連. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
25. 竹内拓海, 里見和彦, 山岸賢一郎, 市村正一: びまん性特発性骨増殖症を伴う椎体骨折に対する新しい経皮的椎弓根スクリュー刺入法とその短期成績 Double endplates penetrating screw (DEPS) 法. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
  26. 八木満, 細金直文, 藤田順之, 岡田英次朗, 鈴木悟士, 辻収彦, 名越慈人, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太: 成人脊柱変形に対する矯正固定術の術後合併症は予測可能か. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月9-12日.
  27. 佐藤行紀, 小谷明弘, 片山和洋, 坂倉健吾, 佐々木茂, 鈴木啓司, 市村正一: 壮年期の半月板単損傷についての検討. 第11回JOSKAS, 札幌, 2019年6月13-15日.
  28. 片山和洋, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 小谷明弘, 市村正一: Open wedge 高位脛骨骨切り術後の外側ヒンジ部の骨癒合遷延の検討. 第11回JOSKAS, 札幌, 2019年6月13-15日.
  29. 諸井威彦, 高橋雅人, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 川野洋介, 佐藤俊輔, 細金直文, 市村正一: 腰椎椎間板囊腫の検討. 第41回多摩脊椎・脊髄カンファレンス, 立川, 2019年6月27日.
  30. 大畑徹也, 濱田尚一郎, 稲田成作, 加藤聡一郎, 小谷明弘, 山口芳裕, 市村正一: 電車外傷の特徴と治療成績. 第45回日本骨折治療学会, 福岡, 2019年6月28-29日.
  31. 稲田成作, 大畑徹也, 濱田尚一郎, 道廣岳, 加藤聡一郎, 市村正一, 山口芳裕: 不安定型骨盤輪骨折にL5横突起骨折を合併した患者の臨床的特徴. 第45回日本骨折治療学会, 福岡, 2019年6月28-29日.
  32. 西野雅人, 稲田成作, 道廣岳, 大畑徹也, 丸野秀人, 市村正一: 低身長症に対するホルモン療法中に両側同時脛骨粗面裂離骨折を生じた1例. 第45回日本骨折治療学会, 福岡, 2019年6月28-29日.
  33. 浅野尚文, 菊田一貴, 保坂聖一, 須佐美知郎, 竹内克仁, 渡部逸央, 西本和正, 堀内圭輔, 森井健司, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿, 森岡秀夫, 中村雅也, 松本守雄, 中山ロバート: 骨巨細胞腫治療における denosumab の意義 当院および関連施設での治療経験. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  34. 笠原知樹, 浅野尚文, 齊藤誠人, 中川瑠美, 弘實透, 菊田一貴, 渡部逸央, 森井健司, 森岡秀夫, 中村雅也, 松本守雄, 中山ロバート: 手関節に発生した骨巨細胞腫の治療成績. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  35. 森井健司, 浅野尚文, 中山ロバート, 菊田一貴, 須佐美知郎, 渡部逸央, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿, 森岡秀夫, 市村正一: 骨巨細胞腫手術の手術部位感染の実態調査. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  36. 弘實透, 齊藤誠人, 中川瑠美, 浅野尚文, 菊田一貴, 須佐美知郎, 堀内圭輔, 渡部逸央, 穴澤卯圭, 森井健司, 中村雅也, 松本守雄, 中山ロバート: 軟骨芽細胞腫 18 例の治療成績. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  37. 宇高徹, 田島崇, 森井健司, 市村正一: 当院における単発性骨囊腫の治療成績. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  38. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 岡部直太, 柴原純二, 市村正一: 進行悪性軟部腫瘍に対する化学療法の治療成績. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  39. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 岡部直太, 柴原純二, 市村正一: 骨内発生 extrasketal myxoid chondrosarcoma の1例. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  40. 森井健司, 田島崇, 宇高徹, 坂元敦子, 市村正一: 緩和医療介入のためのスクリーニングシステムを用いた肉腫患者の治療開始時意識調査. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  41. 森井健司, 市村正一: 悪性骨腫瘍のSSI対策-予防と治療-. 第42回日本骨関節感染症学会, 横浜, 2019年7月19-20日.
  42. 渡邊隼人, 五十嵐一峰, 森脇孝博, 市村正一: 術前CRP高値を示した高齢者大腿骨近位部骨折手術例の短期術後経過. 第42回日本骨・関節感染症学会, 横浜, 2019年7月19-20日.
  43. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 岡部直太, 柴原純二, 市村正一: 右橈骨遠位端骨腫瘍. 第27回多摩骨軟部腫瘍研究会, 三鷹, 2019年8月24日.
  44. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐藤俊輔, 諸井威彦, 川野洋介, 細金直文, 市村正一: 早期BKP介入によるAVF発生予防と後彎予防. 第68回東日本整形災害外科学会, 東京, 2019年9月5-6日.
  45. 片山和洋, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 小谷明弘, 森井健司, 市村正一: Open wedge HTO と hybrid closed wedge HTO 術後の下肢長変化量の検討. 第68回東日本整形災害外科学会, 東京, 2019年9月5-6日.
  46. 諸井威彦, 高橋雅人, 佐野秀仁, 川野洋介, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 細金直文, 市村正一: 腰椎椎間板囊腫5例の検討. 第68回東日本整形災害外科学会, 東京, 2019年9月5-6日.
  47. 安部一平, 家田良樹, 黒崎祥一, 市村正一: 人工膝関節置換術後に同側の踵骨脆弱性骨折が発生した1例. 第68回東日本整形災害外科学会, 東京, 2019年9月5-6日.
  48. 新井謙太郎, 田島崇, 宇高徹, 森井健司, 市村正一: 軟部転移を生じた前立腺癌の1例. 第68回東日本整形災害外科学会, 東京, 2019年9月5-6日.
  49. 道廣岳, 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 市村正一: 大腿骨近位部骨折の生命予後に関する検討. 第68回東日本整形災害外科学会, 東京, 2019年9月5-6日.
  50. 河野仁, 片岡嗣和, 渡邊泰伸, 中道清広, 橘安津子, 尾崎正大, 竹内拓海, 細金直文: PLIFにおける短いケージ使用による前弯獲得. 第26回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (JPSTSS), 大阪, 2019年9月6-7日.
  51. 細金直文, 八木満, 河野仁, 藤田順之, 今林英明, 高橋雅人, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 千葉一裕, 中村雅也, 松本守雄, 市村正一, 渡邊航太: 成人脊柱変形における術後成績不良例の検討-SRS-22の臨床的有意な最小変化量(MCID)を用いた検討-. 第27回日本腰痛学会, 神戸, 2019年9月13-14日.
  52. 丸野秀人, 長谷川雅一, 長谷川淳: 仙骨疲労骨折の2例. 第27回日本腰痛学会, 神戸, 2019年9月13-14日.
  53. 諸井威彦, 高橋雅人, 佐野秀仁, 川野洋介, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 細金直文, 市村正一: 腰椎椎間板囊腫5例の検討. 第27回日本腰痛学会, 神戸, 2019年9月13-14日.
  54. 小西一斉, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐藤俊輔, 諸井威彦, 細金直文, 市村正一: 観血的治療を施

- 行した化膿性椎間板炎の予後不良因子の検討. 第27回日本腰痛学会, 神戸, 2019年9月13-14日.
55. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 細金直文, 市村正一: びまん性特発性骨増殖症(DISH)を伴う脊椎椎体骨折に対するDouble endplates penetrating screw (DEPS)法の短期成績. 第27回日本腰痛学会, 神戸, 2019年9月13-14日.
  56. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐藤俊輔, 諸井威彦, 川野洋介, 細金直文, 市村正一: Balloon Kyphoplastyの至適介入時期・早期介入によるAVF発生と後弯予防. 第27回日本腰痛学会, 神戸, 2019年9月13-14日.
  57. 諸井威彦, 細金直文, 佐野秀仁, 川野洋介, 佐藤俊輔, 高橋雅人, 長谷川雅一, 市村正一: 慢性腰痛症に対するDuloxetineの効果, 術後遺残疼痛に対する有効性の検討. 第27回日本腰痛学会, 神戸, 2019年9月13-14日.
  58. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 細金直文, 市村正一: びまん性特発性骨増殖症(DISH)を合併した脊椎疾患に対してのDEPS法の有用性の問題点. 第13回関東MIS研究会, 東京, 2019年9月28日.
  59. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折の予後不良因子と椎体形成術の適応. 第21回日本骨粗鬆症学会/第37回日本骨代謝学会, 神戸, 2019年10月11-13日.
  60. 稲永紗季, 長谷川雅一, 市村正一: 高齢者に対するロコモーショントレーニング運動介入の効果. 第21回日本骨粗鬆症学会, 神戸, 2019年10月11-13日.
  61. 大伴直央, 黄郁代, 武田和樹, 小倉洋二, 高橋洋平, 南昌平, 宇野耕吉, 川上紀明, 伊東学, 米澤郁穂, 渡辺慶, 海渡貴司, 柳田晴久, 種市洋, 播谷勝三, 谷口優樹, 重松英樹, 飯田尚裕, 出村論, 菅原亮, 藤田順之, 八木満, 岡田英次郎, 細金直文, 河野克己, 千葉一裕, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤努, 鈴木哲平, 西田康太郎, 角谷賢一朗, 辻太一, 須藤英毅, 岩田玲, 佐藤達哉, 稲見聡, 寺尾知可史, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太, 池川志郎: 思春期特発性側弯症の遺伝子研究. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 横浜, 2019年10月17-18日.
  62. 佐藤俊輔, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 大柰英昭, 長谷川雅一, 市村正一: 転移性頸椎腫瘍モデルの作製と頸髄麻痺の検証 行動学的評価と3DμX線による腫瘍進展様式. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 横浜, 2019年10月17-18日.
  63. 大野公宏, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 大柰英昭, 佐藤俊輔, 細金直文, 市村正一: 末梢神経損傷後幼若ラットにおける皮質脊髄路経路変更の可能性-電気生理学的検討-. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会, 横浜, 2019年10月17-18日.
  64. 坂倉健吾, 佐々木茂, 市村正一: Dual row法とDAFF法による腱板修復術の比較 再断裂形態に着目して. 第46回日本肩関節外科学会, 長野, 2019年10月25-26日.
  65. 安部一平, 井上功三朗, 小寺正純, 市村正一: 原発性腺機能低下症が原因で発症した遅発性大腿骨頭すべり症の1例. 第46回日本股関節学会, 宮崎, 2019年10月25-26日.
  66. 小西一斉, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 細金直文, 市村正一: 当院における中下位頸椎脱臼骨折の治療経験. 第54回日本脊髄障害医学会, 秋田, 2019年10月31日-11月1日.
  67. 八木満, 細金直文, 藤田順之, 岡田英次郎, 鈴木悟士, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太: 成人脊柱変形術後インプラント関連合併症の発生予測. 第53回日本側弯症学会学術集会, 高崎, 2019年11月8-9日.
  68. 細金直文, 八木満, 河野仁, クリストファーエイム, バージニラファージ, 藤田順之, 高橋雅人, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 市村正一, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太: 3 column osteotomy を施行した日米成人脊柱変形の比較. 第53回日本側弯症学会学術集会, 高崎, 2019年11月8-9日.
  69. 大伴直央, 武田和樹, 小倉洋二, 高橋洋平, 南昌平, 宇野耕吉, 川上紀明, 伊藤学, 佐藤達哉, 海渡貴司, 柳田晴久, 種市洋, 播谷勝三, 谷口優樹, 重松英樹, 飯田尚裕, 出村論, 菅原亮, 藤田順之, 八木満, 岡田英次郎, 細金直文, 河野克己, 千葉一裕, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤努, 鈴木哲平, 西田康太郎, 角谷賢一朗, 辻太一, 須藤英毅, 岩田玲, 稲見聡, 寺尾知可史, 中村雅也, 松本守雄, 池川志郎, 渡邊航太: 遺伝子情報をを用いた思春期特発性側弯症の発症予測モデル. 第53回日本側弯症学会学術集会, 高崎, 2019年11月8-9日.
  70. 大伴直央, 武田和樹, 小倉洋二, 高橋洋平, 南昌平, 宇野耕吉, 川上紀明, 伊藤学, 米澤郁穂, 渡邊慶, 海渡貴司, 柳田晴久, 種市洋, 播谷勝三, 谷口優樹, 重松英樹, 飯田尚裕, 出村論, 菅原亮, 藤田順之, 八木満, 岡田英次郎, 細金直文, 河野克己, 千葉一裕, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤努, 鈴木哲平, 西田康太郎, 角谷賢一朗, 辻太一, 須藤英毅, 岩田玲, 佐藤達哉, 稲見聡, 寺尾知可史, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太, 池川志郎: 思春期特発性側弯症の拡大ゲノムワイド関連解析. 第53回日本側弯症学会学術集会, 高崎, 2019年11月8-9日.
  71. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 細金直文, 市村正一: びまん性特発性骨増殖症を合併した脊椎疾患に対してのDouble endplates penetrating screw (DEPS)法の有用性. 第25回日本最小侵襲整形外科学会, 東京, 2019年11月9日.
  72. Hirozane T, Asano N, Kikuta K, Susa M, Watanabe I, Morii T, Nakamura M, Matsumoto M, Nakayama R: Clinical features of Chondroblastoma: A Review of 19 cases. 2019 CTOS(Connective Tissue Oncology Society) Annual Meeting, Tokyo, November 13th-16th, 2019.
  73. Morii T: Comorbidities in Cases with Soft Tissue Sarcoma-Impact on the Completion of Standard Therapy and Oncological Outcome. 2019 CTOS(Connective Tissue Oncology Society) Annual Meeting, Tokyo, November 13th-16th, 2019.
  74. 河野仁, 片岡嗣和, 渡邊泰伸, 中道清広, 橋安津子, 尾崎正大, 竹内拓海, 細金直文: PLIFにおける短いケージ使用による前弯獲得. 第28回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, つくば, 2019年11月15-16日.
  75. 高橋雅人, 長谷川淳, 里見和彦, 竹内拓海, 大柰英昭, 辻将明, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 細金直文, 市村正一: 頸椎後縦靱帯骨化症における術中電気生理学的高位診断. 第49回日本臨床神経生理学会, 福島, 2019年11月28-30日.
  76. 高橋雅人, 梅田達也, 伊佐かおる, 伊佐正: 生理学者からみた錐体路電位とは-発達初期脳損傷後の錐体路大規模再組織化の電気生理学的検証-. 第49回日本臨床神経生理学会, 福島, 2019年11月28-30日.
  77. 長谷川淳, 細金直文, 木下欣明, 川野洋介, 辻将明, 大柰英昭, 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 市村正一: BKP術後に頭尾側の隣接椎体骨折を生じ再手術に難渋した1例. 第21回圧迫性脊髄症研究会, 東京, 2020年1月18日.

78. 高橋雅人, 吉田剛, 安藤宗治, 山本直也, 川端茂徳, 山田圭, 今釜史郎, 寒竹司, 藤原靖, 和田簡一郎, 田所伸朗, 小林和克, 船場真裕, 谷口慎一郎, 岩崎博, 重松英樹, 安田明正, 谷俊一, 松山幸弘: 日本脊椎脊髄病学会モニタリングWGが策定した術中脊髄モニタリングアラームポイントの基準妥当性. 第41回脊髄機能診断研究会, 東京, 2020年2月1日.
79. 諸井威彦, 佐野秀仁, 細金直文, 小西一斉, 五十嵐一峰, 大木紫, 市村正一: タブレットPCを用いた新たな上肢巧緻機能評価法の開発(第二報)-健常者と頸髄症患者の評価-. 第41回脊髄機能診断研究会, 東京, 2020年2月1日.
80. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 細金直文, 市村正一: びまん性特発性骨増殖症(DISH)を合併した脊椎疾患に対してのDEPS法の有用性の問題点. 第10回日本最小侵襲脊椎治療学会, 神戸, 2020年2月14-16日.
81. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 市村正一: エリブリン投与で長期にADL維持可能であった粘液線維肉腫の1例. 第3回日本サルコーマ治療研究会, 大阪, 2020年2月21日.
82. 弘實透, 笠原知樹, 中川瑠美, 浅野尚文, 菊田一貴, 須佐美知郎, 堀内圭輔, 渡部逸央, 穴澤卯圭, 森井健司, 中村雅也, 松本守雄, 中山ロバート: 軟骨芽細胞腫26例の治療成績. 第3回日本サルコーマ治療研究会, 大阪, 2020年2月21日.
83. 森井健司, 中山ロバート, 穴澤卯圭, 宇高徹, 王谷英達, 河本旭哉, 小林寛, 鬼頭宗久, 永野昭仁, 末原義之, 佐々恵太, 上田孝文: 四肢脱分化脂肪肉腫MR像における脱分化部面積の臨床的意義-骨軟部肉腫治療研究会(JMOG)多施設共同研究-. 第3回日本サルコーマ治療研究会, 大阪, 2020年2月21日.
84. 高柳正俊, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 片山和洋, 市村正一: 軟骨無形成症に対し人工膝関節置換術を施行した1例. 第50回日本人人工関節学会, 福岡, 2020年2月21-22日.
85. 安部一平, 家田良樹, 黒崎祥一, 市村正一: 人工膝関節置換術後に同側の踵骨脆弱性骨折が発生した1例. 第50回日本人人工関節学会, 福岡, 2020年2月21-22日.
86. 篠広知, 川野洋介, 佐野秀仁, 辻将明, 大柘英昭, 高橋雅人, 長谷川雅一, 細金直文, 市村正一: 後弯変形を伴った脊髄ヘルニアの手術症例. 第696回関東整形災害外科学会月例会, 東京, 2020年2月22日.
87. 陣内快史, 道廣岳, 稲田成作, 市村正一: 尺側手根中手関節脱臼骨折にコンパートメント症候群を合併した1例. 第696回関東整形災害外科学会月例会, 東京, 2020年2月22日.
88. 藤井亜美, 星亨, 田島崇, 宇高徹, 森井健司, 市村正一, 青柳貴之: 下腿慢性骨髄炎の臨床像を呈した類上皮肉腫の1例. 第696回関東整形災害外科学会月例会, 東京, 2020年2月22日.
- T<sup>18</sup>, Oshima M<sup>19</sup>, Uei H<sup>19</sup>, Aoki Y<sup>20</sup>, Takahata M<sup>21</sup>, Iwata A<sup>21</sup>, Seki S<sup>22</sup>, Murakami H<sup>23</sup>, Yoshioka K<sup>23</sup>, Endo H<sup>24</sup>, Hongo M<sup>25</sup>, Nakanishi K<sup>26</sup>, Abe T<sup>27</sup>, Tsukanishi T<sup>27</sup>, Ishii K<sup>12</sup> (1Keio University School of Medicine, 2International University of Health and Welfare, 3Niigata University, 4Osaka University Graduate School of Medicine, 5Osaka City University, 6Tokyo Medical University, 7Nagasaki University, 8Chiba University, 9Tokyo Medical and Dental University, 10Kitasato University, 11Nagoya University, 12Tokai University, 13Kochi University, 14Jichi Medical University, 15Osaka Medical College, 16Kyushu University, 17Shinshu University, 18Kobe University, 19Nihon University Itabashi Hospital, 20Eastern Chiba Medical Center, 21Hokkaido University, 22University of Toyama, 23Kanazawa University, 24Iwate Medical University, 25Akita University, 26Hiroshima University, 27University of Tsukuba): Surgical Treatment of Osteoporotic Vertebral Fracture with Neurological Deficit-A Nationwide Multicenter Study in Japan. *Spine Surg Relat Res.* 3(4): 361-367, 2019.
2. Shimamori N<sup>1</sup>, Kishino T<sup>1,2,3</sup>, Morii T, Okabe N<sup>4</sup>, Motohashi M<sup>1</sup>, Matsushima S<sup>2</sup>, Yamasaki S<sup>1,2</sup>, Ohtsuka K<sup>1,2</sup>, Shibahara J<sup>4</sup>, Ichimura S, Ohnishi H<sup>1,2</sup>, Watanabe T<sup>1,2</sup> (1Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital, 2Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 3Department of Clinical Engineering, Kyorin University Faculty of Health Sciences, 4Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ): Sonographic Appearances of Liposarcoma: Correlations with Pathologic Subtypes. *Ultrasound Med Biol* 45(9): 2568-2574, 2019. doi: 10.1016/j.ultrasmedbio.2019.05.020.
3. Sakai Y<sup>1</sup>, Kaito T<sup>1</sup>, Takenaka S<sup>1</sup>, Yamashita T<sup>2</sup>, Makino T<sup>1</sup>, Hosogane N, Nojiri K<sup>3</sup>, Suzuki S<sup>4</sup>, Okada E<sup>4</sup>, Watanabe K<sup>4</sup>, Funao H<sup>5</sup>, Isogai N<sup>5</sup>, Ueda S<sup>6</sup>, Hikata T<sup>7</sup>, Shiono Y<sup>8</sup>, Watanabe K<sup>9</sup>, Katsumi K<sup>9</sup>, Fujiwara H<sup>10</sup>, Nagamoto Y<sup>11</sup>, Terai H<sup>12</sup>, Tamai K<sup>12</sup>, Matsuoka Y<sup>13</sup>, Suzuki H<sup>13</sup>, Nishimura H<sup>13</sup>, Tagami A<sup>14</sup>, Yamada S<sup>14</sup>, Adachi S<sup>14</sup>, Ohtori S<sup>15</sup>, Orita S<sup>15</sup>, Furuya T<sup>15</sup>, Yoshii T<sup>16</sup>, Ushio S<sup>16</sup>, Inoue G<sup>17</sup>, Miyagi M<sup>17</sup>, Saito W<sup>17</sup>, Imagama S<sup>18</sup>, Ando K<sup>18</sup>, Sakai D<sup>19</sup>, Nukaga T<sup>19</sup>, Kiyasu K<sup>20</sup>, Kimura A<sup>21</sup>, Inoue H<sup>21</sup>, Nakano A<sup>22</sup>, Harimaya K<sup>23</sup>, Doi T<sup>23</sup>, Kawaguchi K<sup>24</sup>, Yokoyama N<sup>24</sup>, Oishi H<sup>24</sup>, Ikegami S<sup>25</sup>, Futatsugi T<sup>25</sup>, Shimizu M<sup>26</sup>, Kakutani K<sup>27</sup>, Yurube T<sup>27</sup>, Oshima M<sup>28</sup>, Uei H<sup>28</sup>, Aoki Y<sup>29</sup>, Takahata M<sup>30</sup>, Iwata A<sup>30</sup>, Seki S<sup>31</sup>, Murakami H<sup>32</sup>, Yoshioka K<sup>33</sup>, Endo H<sup>34</sup>, Hongo M<sup>35</sup>, Nakanishi K<sup>36</sup>, Abe T<sup>37</sup>, Tsukanishi T<sup>38</sup>, Ishii K<sup>5</sup> (1Osaka University Graduate School of Medicine, 2National Hospital Organization Osaka National Hospital, 3Isehara Kyodo Hospital, 4Keio University School of Medicine, 5International University of Health and Welfare, 6Kawasaki Municipal Hospital, 7Kitasato Institute Hospital, 8Saiseikai Central Hospital, 9Niigata University Medical and Dental General Hospital, 10National Hospital Organization Osaka Minami Medical Center, 11Osaka Rosai Hospital, 12Osaka City University Graduate School of Medicine, 13Tokyo Medical University, 14Nagasaki University Hospital, 15Chiba University, 16Tokyo Medical and Dental

## 論文

### A. 英語原著論文

1. Hosogane N, Nojiri K<sup>1</sup>, Suzuki S<sup>1</sup>, Funao H<sup>1,2</sup>, Okada E<sup>1</sup>, Isogai N<sup>1,2</sup>, Ueda S<sup>1</sup>, Hikata T<sup>1</sup>, Shiono Y<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>3</sup>, Kaito T<sup>4</sup>, Yamashita T<sup>4</sup>, Fujiwara H<sup>4</sup>, Nagamoto Y<sup>4</sup>, Terai H<sup>5</sup>, Tamai K<sup>5</sup>, Matsuoka Y<sup>6</sup>, Suzuki H<sup>6</sup>, Nishimura H<sup>6</sup>, Tagami A<sup>7</sup>, Yamada S<sup>7</sup>, Adachi S<sup>7</sup>, Ohtori S<sup>8</sup>, Orita S<sup>8</sup>, Furuya T<sup>8</sup>, Yoshii T<sup>9</sup>, Ushio S<sup>9</sup>, Inoue G<sup>10</sup>, Miyagi M<sup>10</sup>, Saito W<sup>10</sup>, Imagama S<sup>11</sup>, Ando K<sup>11</sup>, Sakai D<sup>12</sup>, Nukaga T<sup>12</sup>, Kiyasu K<sup>13</sup>, Kimura A<sup>14</sup>, Inoue H<sup>14</sup>, Nakano A<sup>15</sup>, Harimaya K<sup>16</sup>, Kawaguchi K<sup>16</sup>, Yokoyama N<sup>16</sup>, Oishi H<sup>16</sup>, Doi T<sup>16</sup>, Ikegami S<sup>17</sup>, Shimizu M<sup>17</sup>, Futatsugi T<sup>17</sup>, Kakutani K<sup>18</sup>, Yurube

- University, <sup>17</sup>Kitasato University, <sup>18</sup>Nagoya University Graduate School of Medicine, <sup>19</sup>Tokai University School of Medicine, <sup>20</sup>Kochi Medical School, Kochi University, <sup>21</sup>Jichi Medical University, <sup>22</sup>Osaka Medical College, <sup>23</sup>Kyushu University Beppu Hospital, <sup>24</sup>Kyushu University, <sup>25</sup>Shinshu University, <sup>26</sup>Matsumoto City Hospital, <sup>27</sup>Kobe University Graduate School of Medicine, <sup>28</sup>Nihon University School of Medicine, <sup>29</sup>Eastern Chiba Medical Center, <sup>30</sup>Hokkaido University Graduate School of Medicine, <sup>31</sup>University of Toyama, <sup>32</sup>Kanazawa University, <sup>33</sup>National Hospital Organization Kanazawa Medical Center, <sup>34</sup>Iwate Medical University, <sup>35</sup>Akita University, <sup>36</sup>Hiroshima University, <sup>37</sup>University of Tsukuba, <sup>38</sup>Chiba Cancer Center): Complications after spinal fixation surgery for osteoporotic vertebral collapse with neurological deficits: Japan Association of Spine Surgeons with ambition multicenter study. *J Orthop Sci.* 24(6): 985-990, 2019.
4. Watanabe K<sup>1</sup>, Katsumi K<sup>2</sup>, Ohashi M<sup>2</sup>, Shibuya Y<sup>2</sup>, Hirano T<sup>2</sup>, Endo N<sup>2</sup>, Kaito T<sup>3</sup>, Yamashita T<sup>3</sup>, Fujiwara H<sup>3</sup>, Nagamoto Y<sup>3</sup>, Matsuoka Y<sup>4</sup>, Suzuki H<sup>4</sup>, Nishimura H<sup>4</sup>, Terai H<sup>5</sup>, Tamai K<sup>5</sup>, Tagami A<sup>6</sup>, Yamada S<sup>6</sup>, Adachi S<sup>6</sup>, Yoshii T<sup>7</sup>, Ushio S<sup>7</sup>, Harimaya K<sup>8</sup>, Kawaguchi K<sup>8</sup>, Yokoyama N<sup>8</sup>, Oishi H<sup>8</sup>, Doi T<sup>8</sup>, Kimura A<sup>9</sup>, Inoue H<sup>9</sup>, Inoue G<sup>10</sup>, Miyagi M<sup>10</sup>, Saito W<sup>10</sup>, Nakano A<sup>11</sup>, Sakai D<sup>12</sup>, Nukaga T<sup>12</sup>, Ikegami S<sup>13</sup>, Shimizu M<sup>13</sup>, Futatsugi T<sup>13</sup>, Ohtori S<sup>14</sup>, Furuya T<sup>14</sup>, Orita S<sup>14</sup>, Imagama S<sup>15</sup>, Ando K<sup>15</sup>, Kobayashi K<sup>15</sup>, Kiyasu K<sup>16</sup>, Murakami H<sup>17</sup>, Yoshioka K<sup>17</sup>, Seki S<sup>18</sup>, Hongo M<sup>19</sup>, Kakutani K<sup>20</sup>, Yurube T<sup>20</sup>, Aoki Y<sup>21</sup>, Oshima M<sup>22</sup>, Takahata M<sup>23</sup>, Iwata A<sup>23</sup>, Endo H<sup>24</sup>, Abe T<sup>25</sup>, Tsukanishi T<sup>25</sup>, Nakanishi K<sup>26</sup>, Watanabe K<sup>27</sup>, Hikata T<sup>27</sup>, Suzuki S<sup>27</sup>, Isogai N<sup>27,28</sup>, Okada E<sup>27</sup>, Funao H<sup>27</sup>, Ueda S<sup>27</sup>, Shiono Y<sup>27</sup>, Nojiri K<sup>27</sup>, Hosogane N<sup>29,27</sup>, Ishii K<sup>27,28</sup> (<sup>1</sup>Niigata University Medical and Dental General Hospital, <sup>2</sup>Niigata University Medical and Dental General Hospital, <sup>3</sup>Osaka University, <sup>4</sup>Tokyo Medical University, <sup>5</sup>Osaka City University, <sup>6</sup>Nagasaki University, <sup>7</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>8</sup>Kyushu University, <sup>9</sup>Jichi Medical University, <sup>10</sup>Kitasato University, <sup>11</sup>Osaka Medical College, <sup>12</sup>Tokai University, <sup>13</sup>Shinshu University, <sup>14</sup>Chiba University, <sup>15</sup>Nagoya University, <sup>16</sup>Kochi University, <sup>17</sup>Kanazawa University, <sup>18</sup>University of Toyama, <sup>19</sup>Akita University, <sup>20</sup>Kobe University, <sup>21</sup>Eastern Chiba Medical Center, <sup>22</sup>Nihon University Itabashi Hospital, <sup>23</sup>Hokkaido University, <sup>24</sup>Iwate Medical University, <sup>25</sup>University of Tsukuba, <sup>26</sup>Hiroshima University, <sup>27</sup>Keio University School of Medicine, <sup>28</sup>International University of Health and Welfare School of Medicine, <sup>29</sup>National Defense Medical College) : Surgical outcomes of spinal fusion for osteoporotic vertebral fracture in the thoracolumbar spine: Comprehensive evaluations of 5 typical surgical fusion techniques. *J Orthop Sci.* 24(6): 1020-1026, 2019.
  5. Murata K<sup>1</sup>, Matsuoka Y<sup>1</sup>, Nishimura H<sup>1</sup>, Endo K<sup>1</sup>, Suzuki H<sup>1</sup>, Takamatsu T<sup>1</sup>, Sawaji Y<sup>1</sup>, Aihara T<sup>1</sup>, Kusakabe T<sup>1</sup>, Maekawa A<sup>1</sup>, Yamamoto K<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>2</sup>, Kaito T<sup>3</sup>, Terai H<sup>4</sup>, Tamai K<sup>5</sup>, Tagami A<sup>5</sup>, Yoshii T<sup>6</sup>, Harimaya K<sup>7</sup>, Kawaguchi K<sup>7</sup>, Kimura A<sup>8</sup>, Inoue G<sup>9</sup>, Nakano A<sup>10</sup>, Sakai D<sup>11</sup>, Hiyama A<sup>11</sup>, Ikegami S<sup>12</sup>, Ohtori S<sup>13</sup>, Furuya T<sup>13</sup>, Orita S<sup>13</sup>, Imagama S<sup>14</sup>, Kobayashi K<sup>14</sup>, Kiyasu K<sup>15</sup>, Murakami H<sup>16</sup>, Yoshioka K<sup>16</sup>, Seki S<sup>17</sup>, Hongo M<sup>18</sup>, Kakutani K<sup>19</sup>, Yurube T<sup>19</sup>, Aoki Y<sup>20</sup>, Uei H<sup>21</sup>, Ajiro Y<sup>21</sup>, Takahata M<sup>22</sup>, Endo H<sup>23</sup>, Abe T<sup>24</sup>, Nakanishi K<sup>25</sup>, Watanabe K<sup>26</sup>, Okada E<sup>26</sup>, Hosogane N, Funao H<sup>27</sup>, Isogai N<sup>27</sup>, Ishii K<sup>27</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Medical University, <sup>2</sup>Niigata University, <sup>3</sup>Osaka University, <sup>4</sup>Osaka City University, <sup>5</sup>Nagasaki University, <sup>6</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>7</sup>Kyushu University, <sup>8</sup>Jichi Medical University, <sup>9</sup>Kitasato University, <sup>10</sup>Osaka Medical College, <sup>11</sup>Tokai University, <sup>12</sup>Shinshu University, <sup>13</sup>Chiba University, <sup>14</sup>Nagoya University, <sup>15</sup>Kochi University, <sup>16</sup>Kanazawa University, <sup>17</sup>University of Toyama, <sup>18</sup>Akita University, <sup>19</sup>Kobe University, <sup>20</sup>Eastern Chiba Medical Center, <sup>21</sup>Nihon University, <sup>22</sup>Nihon Chiba Medical Center, <sup>23</sup>Nihon University, <sup>24</sup>Iwate Medical University, <sup>25</sup>Hokkaido University, <sup>26</sup>Iwate Medical University, <sup>27</sup>University of Tsukuba, <sup>28</sup>Hiroshima University, <sup>29</sup>Keio University, <sup>30</sup>International University of Health and Welfare): The factors related to the poor ADL in the patients with osteoporotic vertebral fracture after instrumentation surgery. *Eur Spine J.* 2019. doi:10.1007/s00586-019-06092-0. [Epub ahead of print]
  6. Takeda K<sup>1,2,3</sup>, Kou I<sup>3</sup>, Hosogane N<sup>2,4</sup>, Otomo N<sup>1,2</sup>, Yagi M<sup>1,2</sup>, Kaneko S<sup>2,5</sup>, Kono H<sup>2,6</sup>, Ishikawa M<sup>2,7</sup>, Takahashi Y<sup>2,8</sup>, Ikegami T<sup>2,9</sup>, Nojiri K<sup>2,10</sup>, Okada E<sup>2,11</sup>, Funao H<sup>2,12</sup>, Okuyama K<sup>2,13</sup>, Tsuji T<sup>2,14</sup>, Fujita N<sup>1,2</sup>, Nagoshi N<sup>1,2</sup>, Tsuji O<sup>1,2</sup>, Ogura Y<sup>1,2</sup>, Ishii K<sup>1,2,15</sup>, Nakamura M<sup>1,2</sup>, Matsumoto M<sup>1,2</sup>, Ikegawa S<sup>3</sup>, Watanabe K<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Keio Spine Research Group, <sup>3</sup>RIKEN, <sup>4</sup>National Defense Medical College, <sup>5</sup>National Hospital Organization Murayama Medical Center, <sup>6</sup>Medical Corporation Keiyukai Keiyu Orthopaedic Hospital, <sup>7</sup>International University of Health and Welfare, <sup>8</sup>Japanese Red Cross Shizuoka Hospital, <sup>9</sup>Fussa Hospital, <sup>10</sup>Isehara Kyodo Hospital, <sup>11</sup>Saiseikai Central Hospital, <sup>12</sup>Kawasaki Municipal Hospital, <sup>13</sup>Sizuoka City Shimizu Hospital, <sup>14</sup>Fujita Health University Hospital, <sup>15</sup>International University of Health and Welfare): Association of Susceptibility Genes for Adolescent Idiopathic Scoliosis and Intervertebral Disc Degeneration with Adult Spinal Deformity. *Spine (Phila Pa 1976)* 44(23): 1623-1629, 2019.
  7. Yagi M<sup>1,2,3</sup>, Michikawa T<sup>4</sup>, Hosogane N<sup>3</sup>, Fujita N<sup>1,3</sup>, Okada E<sup>1,3</sup>, Suzuki S<sup>1,3</sup>, Tsuji O<sup>1,3</sup>, Nagoshi N<sup>1,3</sup>, Asazuma T<sup>2</sup>, Tsuji T<sup>3,5</sup>, Nakamura M<sup>1,3</sup>, Matsumoto M<sup>1,3</sup>, Watanabe K<sup>1,3</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>National Hospital Organization Murayama Medical Center, <sup>3</sup>Keio Spine Research Group, <sup>4</sup>Toho University, <sup>5</sup>Fujita Health University): Risk, Recovery, and Clinical Impact of Neurological Complications in Adult Spinal Deformity Surgery. *Spine (Phila Pa 1976)* 44(19): 1364-1370, 2019.
  8. Yagi M<sup>1,2,3</sup>, Michikawa T<sup>4</sup>, Hosogane N<sup>3</sup>, Fujita N<sup>1,3</sup>, Okada E<sup>1,3</sup>, Suzuki S<sup>1,3</sup>, Tsuji O<sup>1,3</sup>, Nagoshi N<sup>1,3</sup>, Asazuma T<sup>2</sup>, Tsuji T<sup>3,5</sup>, Nakamura M<sup>1,3</sup>, Matsumoto M<sup>1,3</sup>, Watanabe K<sup>1,3</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>National Hospital Organization Murayama Medical Center, <sup>3</sup>Keio Spine Research Group, <sup>4</sup>Toho University, <sup>5</sup>Fujita Health University): The 5-Item Modified Frailty



Index Is Predictive of Severe Adverse Events in Patients Undergoing Surgery for Adult Spinal Deformity. *Spine (Phila Pa 1976)* 44(18): E1083-E1091, 2019.

9. Yagi M<sup>1,2,3</sup>, Hosogane N<sup>3</sup>, Fujita N<sup>1,3</sup>, Okada E<sup>1,3</sup>, Suzuki S<sup>1,3</sup>, Tsuji O<sup>1,3</sup>, Nagoshi N<sup>1,3</sup>, Asazuma T<sup>2</sup>, Tsuji T<sup>3,4</sup>, Nakamura M<sup>1,3</sup>, Matsumoto M<sup>1,3</sup>, Watanabe K<sup>1,3</sup> (1Keio University School of Medicine, 2National Hospital Organization Murayama Medical Center, 3Keio Spine Research Group, 4Fujita Health University): Surgical risk stratification based on preoperative risk factors in adult spinal deformity. *Spine J.* 19(5): 816-826, 2019.
10. Yagi M<sup>1,2,3</sup>, Michikawa T<sup>4</sup>, Hosogane N<sup>3</sup>, Fujita N<sup>1,3</sup>, Okada E<sup>1,3</sup>, Suzuki S<sup>1,3</sup>, Tsuji O<sup>1,3</sup>, Nagoshi N<sup>1,3</sup>, Asazuma T<sup>2</sup>, Tsuji T<sup>3,5</sup>, Nakamura M<sup>1,3</sup>, Matsumoto M<sup>1,3</sup>, Watanabe K<sup>1,3</sup> (1Keio University School of Medicine, 2National Hospital Organization Murayama Medical Center, 3Keio Spine Research Group, 4Toho University, 5Fujita Health University): Treatment for Frailty Does Not Improve Complication Rates in Corrective Surgery for Adult Spinal Deformity. *Spine (Phila Pa 1976)* 44(10): 723-731, 2019.
11. Kou I<sup>1</sup>, Otomo N<sup>1,2</sup>, Takeda K<sup>1,2</sup>, Momozawa Y<sup>1</sup>, Lu HF<sup>1,3</sup>, Kubo M<sup>1</sup>, Kamatani Y<sup>1,6</sup>, Ogura Y<sup>2</sup>, Takahashi Y<sup>2</sup>, Nakajima M<sup>1</sup>, Minami S<sup>5</sup>, Uno K<sup>6</sup>, Kawakami N<sup>7</sup>, Ito M<sup>8</sup>, Yonezawa I<sup>9</sup>, Watanabe K<sup>10</sup>, Kaito T<sup>11</sup>, Yanagida H<sup>12</sup>, Taneichi H<sup>13</sup>, Harimaya K<sup>14</sup>, Taniguchi Y<sup>15</sup>, Shigematsu H<sup>16</sup>, Iida T<sup>17</sup>, Demura S<sup>18</sup>, Sugawara R<sup>19</sup>, Fujita N<sup>2</sup>, Yagi M<sup>2</sup>, Okada E<sup>2,20</sup>, Hosogane N<sup>2,21</sup>, Kono K<sup>2,22</sup>, Nakamura M<sup>2</sup>, Chiba K<sup>2,21</sup>, Kotani T<sup>5</sup>, Sakuma T<sup>5</sup>, Akazawa T<sup>5</sup>, Suzuki T<sup>6</sup>, Nishida K<sup>23</sup>, Kakutani K<sup>23</sup>, Tsuji T<sup>7</sup>, Sudo H<sup>24</sup>, Iwata A<sup>25</sup>, Sato T<sup>9</sup>, Inami S<sup>13</sup>, Matsumoto M<sup>2</sup>, Terao C<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>26</sup>, Ikegawa S<sup>1</sup> (1RIKEN, 2Keio University School of Medicine, 3Taipei Medical University, 4Kyoto University Graduate School of Medicine, 5Seirei Sakura Citizen Hospital, 6Kobe Medical Center, 7Meijo Hospital, 8Hokkaido Medical Center, 9Juntendo University School of Medicine, 10Niigata University Medical and Dental General Hospital, 11Osaka University Graduate School of Medicine, 12Fukuoka Children's Hospital, 13Dokkyo Medical University School of Medicine, 14Kyushu University Beppu Hospital, 15The University of Tokyo, 16Nara Medical University, 17Dokkyo Medical University Koshigaya Hospital, 18Kanazawa University Hospital, 19Jichi Medical University, 20Saiseikai Central Hospital, 21National Defense Medical College, 22Eiju General Hospital, 23Kobe University Graduate School of Medicine, 24Hokkaido University Graduate School of Medicine, 25Hokkaido University, 26Keio University School of Medicine): Genome-wide association study identifies 14 previously unreported susceptibility loci for adolescent idiopathic scoliosis in Japanese. *Nat Commun* 10(1): 3685, 2019.
12. Yoshida G<sup>1</sup>, Imagama S<sup>2</sup>, Kawabata S<sup>3</sup>, Yamada K<sup>4</sup>, Kanchiku T<sup>5</sup>, Fujiwara Y<sup>6</sup>, Tadokoro N<sup>7</sup>, Takahashi M, Wada K<sup>8</sup>, Yamamoto N<sup>9</sup>, Ushirozako H<sup>1</sup>, Kobayashi K<sup>1</sup>, Yasuda A<sup>10</sup>, Ando M<sup>11</sup>, Tani T<sup>12</sup>, Matsuyama Y<sup>1</sup> (1Hamamatsu University School of Medicine, 2Nagoya University, 3Tokyo Medical and Dental University, 4Kurume University, 5Yamaguchi University, 6Asa Citizens Hospital, 7Kochi University, 8Hirosaki University, 9Tokyo Women's Medical University, 10Murayama Medical Center, 11Kansai Medical University Medical Center, 12Kubokawa Hospital): Adverse Events Related to Transcranial Electric Stimulation for Motor-evoked Potential Monitoring in High-risk Spinal Surgery. *Spine* 44(20): 1435-1440, 2019. doi: 10.1097/BRS.0000000000003115.
13. Ohne H, Takahashi M, Satomi K, Hasegawa A, Takeuchi T, Sato S, Ichimura S: Mechanism of forelimb motor function restoration in rats with cervical spinal cord hemisection -neuroanatomical validation-. *IBRO Rep* 7: 10-25, 2019. doi: 10.1016/j.ibror.2019.05.002. eCollection 2019.
14. Tajima T<sup>1</sup>, Kito F<sup>2</sup>, Yoshida A<sup>3</sup>, Kawai A<sup>4</sup>, Kondo T<sup>1,2</sup> (1Division of Rare Cancer Research, National Cancer Center Research Institute, 2Department of Innovative Seeds Evaluation, National Cancer Center Research Institute, 3Pathology and Clinical Laboratory Division, National Cancer Center Hospital, 4Division of Musculoskeletal Oncology, National Cancer Center Hospital) : Calreticulin as A Novel Potential Metastasis-Associated Protein in Myxoid Liposarcoma, as Revealed by Two-Dimensional Difference Gel Electrophoresis. *Proteomes* 7(2): 13, 2019.
15. Yoshida G<sup>1</sup>, Ando M<sup>2</sup>, Imagama S<sup>3</sup>, Kawabata S<sup>4</sup>, Yamada K<sup>5</sup>, Kanchiku T<sup>6</sup>, Fujiwara Y<sup>7</sup>, Tadokoro N<sup>8</sup>, Takahashi M, Wada K<sup>9</sup>, Yamamoto N<sup>10</sup>, Kobayashi S<sup>1</sup>, Ushirozako H<sup>1</sup>, Kobayashi K<sup>3</sup>, Yasuda A<sup>11</sup>, Tani T<sup>12</sup>, Matsuyama Y (1Hamamatsu University School of Medicine, 2Wakayama Rosai Hospital, 3Nagoya University, 4Tokyo Medical and Dental University, 5Kurume University, 6Yamaguchi University, 7Asa Citizens Hospital, 8Kochi University, 9Hirosaki University, 10Tokyo Women's Medical University, 11Murayama Medical Center, 12Kubokawa Hospital): Alert Timing and Corresponding Intervention with Intraoperative Spinal Cord Monitoring for High-Risk Spinal Surgery. *Spine* 44(8): E470-E479, 2019. doi: 10.1097/BRS.0000000000002900.
16. Ogura Y<sup>1</sup>, Okada E<sup>1</sup>, Fujii T<sup>1</sup>, Yagi M<sup>1</sup>, Fujita N<sup>1</sup>, Suzuki S<sup>1</sup>, Hosogane N, Kitagawa T<sup>1</sup>, Tsuji O<sup>1</sup>, Nagoshi N<sup>1</sup>, Nakamura M<sup>1</sup>, Matsumoto M<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>1</sup> (1Keio University School of Medicine): Midterm surgical outcomes of a short fusion strategy for adolescent idiopathic scoliosis with Lenke 5C curve. *Spine J.* 20(3): 361-368, 2020.
17. Yagi M<sup>1,2</sup>, Ames CP<sup>3</sup>, Hosogane N, Smith JS<sup>4</sup>, Shaffrey CI<sup>5</sup>, Schwab F<sup>6</sup>, Lafage V<sup>6</sup>, Bess S<sup>7</sup>, Matsumoto M<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>1</sup>, International Spine Study Group (ISSG) (1Keio University School of Medicine, 2National Hospital Organization Murayama Medical Center, 3University of California San Francisco, 4University of Virginia Medical Center, 5Duke University, 6Hospital for Special Surgery, 7Denver International Spine Center): Lower Satisfaction after Adult Spinal Deformity Surgery in Japan than in the US Despite Similar SRS22 Pain and Function Scores: A Propensity-Score Matched Analysis. *Spine (Phila Pa 1976)*. 2020. doi:

10.1097/BRS.0000000000003483.

18. Fujii T<sup>1,2</sup>, Daimon K<sup>1,2</sup>, Fujita N<sup>1,2</sup>, Yagi M<sup>1,2</sup>, Michikawa T<sup>3</sup>, Hosogane N<sup>2</sup>, Nagoshi N<sup>1,2</sup>, Tsuji O<sup>1,2</sup>, Kaneko S<sup>2,4</sup>, Tsuji T<sup>2,5</sup>, Nakamura M<sup>1,2</sup>, Matsumoto M<sup>1,2</sup>, Watanabe K<sup>1,2</sup> (1Keio University School of Medicine, 2Keio Spine Research Group (KSRG), 3National Institute for Environmental Studies, 4National Hospital Organization, 5Fujita Health University): Risk Factors for Postoperative Distal Adding-on in Lenke Type 1B and 1C and its Influence on Residual Lumbar Curve. *J Pediatr Orthop*. 40(2): e77-e83, 2020.
19. Tajima Y, Takahashi M, Kawai T<sup>1</sup>, Higashi M<sup>1</sup>, Sano H, Ichimura S, Kobayashi H<sup>1</sup> (1Koyama Memorial Hospital): Metastatic intradural extramedullary spinal cord tumor from ovarian cancer: A case report with a literature review. *J Spinal Cord Med* 23:1-4, 2020. doi: 10.1080/10790268.2020.1739380.

#### B. 日本語論文

- 佐野秀仁, 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐藤俊輔, 小西一斉, 細金直文: 中下位腰椎の骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPの治療成績. *J Spine Res* 10(6): 987-991, 2019.
- 片山和洋, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 小谷明弘, 市村正一: Open wedge 高位脛骨骨切り術後の外側ヒンジ部の骨癒合遷延の検討. *JOSKAS* 45: 150-151, 2019.
- 田島祐基, 田島崇, 青柳貴之, 吉山晶, 森井健司, 市村正一: 舟状骨骨内ガングリオンの一例. *関東整災外会誌* 50: 170-173, 2019.
- 大畑徹也, 濱田尚一郎, 稲田成作, 加藤聡一郎, 小谷明弘, 山口芳裕, 市村正一: 電車外傷の特徴と治療成績. *骨折* 42(1): 244-246, 2020.
- 西野雅人, 稲田成作, 道廣岳, 大畑徹也, 丸野秀人, 市村正一: 低身長症に対するホルモン療法中に両側同時脛骨粗面裂離骨折を生じた1例. *骨折* 42(2): 589-593, 2020.
- 西野雅人, 吉山晶, 青柳貴之, 森井健司, 市村正一: 肩甲部に発生した, 疼痛のない巨大glomus腫瘍の1例. *関東整災外会誌* 51(1): 23-27, 2020.
- 阿部幹, 星亨, 工藤文孝, 中川誉之, 大柁英昭, 青柳貴之: 大腿骨転子下骨折術後に手術部位感染との鑑別が困難であった転移性骨腫瘍の1例. *東日整災外科学会誌* 32(1): 83-87, 2020.

#### C. 総説

- 細金直文: 【姿勢異常と疼痛】成人脊柱変形・人種・民族間の疼痛の相違. *関節外科* 38(12): 1255-1259, 2019.
- 竹内拓海, 細金直文, 山岸賢一郎, 市村正一: イラストレイテッド・サージェリー 手術編 DISHを合併した脊椎疾患に対する新しいPPS刺入法 Double endplates penetrating screw(DEPS)法. *脊椎脊髄ジャーナル* 32(10): 889-895, 2019.
- 森井健司: 悪性骨腫瘍領域の感染予防・治療. 特集 国際コンセンサスから見た整形外科感染対策における最新知見. *整・災外* 63: 303-307, 2020.
- 森井健司, 市村正一: J-DOSの現状と展望. *Bone Joint Nerve* 10(1): 103-106, 2020.
- 細金直文: 脊椎由来の痛み・しびれの診かた. 臀部・下肢の痛み・しびれの診かた. *Orthopaedics* 33(3): 35-42, 2020.

- 細金直文: 脊椎椎体骨折 前後合併手術による矯正固定術の固定範囲 手術とピットフォール. *整外Surg Tech* 10(2): 195-200, 2020.

#### 著書

- 森井健司(監訳): 整形外科感染対策における国際コンセンサス 人工関節周囲感染を含む筋骨格系感染全般. 田中康仁, 宗本充編集. 奈良県立医科大学, 2019.

#### その他

- 市村正一: 第27回日本腰痛学会主催 2019年9月12-14日.
- 稲永紗季, 長谷川雅一, 市村正一: 人生100年時代の地域ケアシステム. 三鷹ネットワーク大学推進機構, 東京, ぶんしん出版, 2019. P171-174.

#### 皮膚科学教室

#### 講演

- 大山庄: 円形脱毛症治療の考え方. 第35回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 松山, 2019年4月20日.
- Ohyama M: Skin diseases involving the scalp and associated hair loss. World Congress of Hair Research 2019, Spain, Apr 25th, 2019.
- Fukuyama M, Kinoshita-Ise M, Sato Y, Ohyama M: Elucidation of demographic, clinical, and trichoscopic features facilitating the early diagnosis of self-healing acute diffuse and total alopecia. World Congress of Hair Research 2019, Spain, Apr 26th, 2019.
- Kashiwagi S, Tsunai Y, Yoshino M, Kuwahara A, Satou Y, Ishii T, Ohyama M, Honma Y: L-(+)-tartaric acid supports human hair follicle cell growth factor production and proliferation in vitro. World Congress of Hair Research 2019, Spain, Apr 26th, 2019.
- Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Ohyama M: Enhanced recovery of PD-1 expression on the cell surface of PD-1 negative T cells in nivolumab treated advanced melanoma patients. The 77th annual meeting of the Society for Investigative Dermatology, USA, May 9th, 2019.
- 青木幸司, 佐藤洋平, 下田由莉江, 大山庄: 眼瞼に生じたeccrine hidrocystomaの1例. 日本皮膚科学会第844回東京地方会, 東京, 2019年5月18日.
- 佐藤さゆり, 宮川秀美, 早川順, 下山田博明, 柴原純二, 大山庄: 環指爪郭部に生じた結節性筋膜炎の1例. 日本皮膚科学会第844回東京地方会, 東京, 2019年5月18日.
- 佐藤洋平, 福山雅大, 下田由莉江, 大山庄: 悪性黒色腫の精査を契機に診断し得た重複癌の2例. 第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 神戸, 2019年5月25日.
- Ohyama M: Revisiting the pathophysiology of hair loss disorders for better management - a physician-scientist's approach. 15th Annual Meeting of the Korean Hair Research Society, Korea, May 26th, 2019.
- 大山庄: 幹細胞・前駆細胞を用いたヒト毛包再生戦略. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6日.
- 水川良子, 塩原哲夫: 薬剤性過敏症候群の最適治療に有用な重症度・合併症予測スコア(DDSスコア). 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6-9日.

12. 重原庸哉, 吉池沙保里, 加藤雪彦, 竹内孝夫, 高森幹雄, 本田奈々瀬, 杉井章二, 水川良子, 大山学, 加藤峰幸: メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の経過中に皮膚結核を発症した1例. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6日.
13. 小林英資, 下田由莉江, 大山学, 水川良子: 軟部組織感染症の治療経過中に生じる中毒疹についての検討. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6日.
14. 佐藤洋平, 福山雅大, 下田由莉江, 大山学: ADL低下の回避のための人工真皮を利用した高齢者皮膚悪性腫瘍治療の工夫. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6-9日.
15. 齋藤真衣, 倉田麻衣子, 宮川秀美, 山崎好美, 佐藤洋平, 大山学: 後天性反応性穿孔性膠原線維症を合併した水疱性類天疱瘡の1例. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6-9日.
16. 福山雅大, 水川良子, 飯島孝四郎, 近藤靖児, 大山学: シクロスポリン長期内服患者に生じた軟性線維腫様外観を呈したBowen病の1例. 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019年6月6-9日.
17. 波田野冨佳, 福山雅大, 大山学: Oversized black dots: トリコチロマニアの診断に有用なトリコスコーピー所見. 第46回皮膚かたち研究学会学術大会, 大阪, 2019年6月21日.
18. 宮川秀美: Recurrent cutaneous eosinophilic vasculitisを疑った2例. 多摩皮膚科専門医会6月例会, 武蔵野, 2019年6月22日.
19. 水川良子: アトピー性皮膚炎とデュピクセントー発汗異常を含めて治療例からー. 調布皮膚科勉強会, 東京, 2019年6月25日.
20. 大山学: 脱毛症治療の考え方. 第38回多摩地区皮膚科医の集い, 立川, 2019年7月6日.
21. 大山学: 脱毛症の仕組みと治療の考え方, NPO法人円形脱毛症の患者会 第52回東京セミナー, 東京, 2019年7月7日.
22. 下田由莉江, 福井香苗, 山崎好美, 大山学: 粘膜類天疱瘡の経過中に落葉状天疱瘡を発症した1例. 第885回日本皮膚科学会合同臨床地方会, 東京, 2019年7月20日.
23. 水川良子, 下田由莉江: デュピルマブ投与により基礎発汗の改善をみたアトピー性皮膚炎. 第6回汗と皮膚疾患の研究会, 東京, 2019年8月17日.
24. 大山学: 脱毛症の病態から考える再生医療の適応と課題. ロート製薬ロートリサーチビレッジセミナー, 奈良, 2019年8月30日.
25. 倉田麻衣子, 小林英資, 水川良子, 大山学: アプレミラストが爪病変に奏効した関節症性乾癬の1例. 第34回日本乾癬学会学術大会, 京都, 2019年8月31日.
26. 宮川秀美, 福山雅大, 齋藤真衣, 倉井大輔, 大山学: 巨大尖圭コンジローマに赤痢アメーバによる皮膚潰瘍を合併した1例. 第71回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 高知, 2019年9月7日.
27. Shimoda Y, Yamazaki Y, Kimishima M, Ohyama M: Digital histological image analysis underpins the role of immune privilege collapse in the sweat glands in the etiopathogenesis of syringotropic autoimmune diseases. 49th Annual ESDR Meeting, France, 18-21th Sep, 2019.
28. 水川良子: 重症薬疹を中心とした薬疹の診断と治療ー抗ヒスタミン薬からステロイドまでー. Dermatology Update 2019, 東京, 2019年9月24日.
29. 倉田麻衣子: 杏林大学皮膚科の専門外来について. 第20回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 2019年9月28日.
30. 木下美咲: 毛髪疾患に対するこれからの非侵襲的画像診断方法について. 第20回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 2019年9月28日.
31. 水川良子: アトピー性皮膚炎ーデュピクセント使用経験をふまえてー. 第20回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 2019年9月28日.
32. 波田野冨佳, 福山雅大, 大山学: 抗TIF-1γ抗体陽性皮膚筋炎における脱毛に関する考察. 第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 金沢, 2019年10月6日.
33. 宜野座淳善, 宮川秀美, 佐藤洋平, 萬昂士, 下山田博明, 大山学: 後頭部に生じた皮膚粘液癌の1例. 第886回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年10月19日.
34. 根本千絢, 木下美咲, 福山雅大, 大山学: Central centrifugal cicatricial alopecia (CCCA)と診断した黒人女性の1例. 第886回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年10月19日.
35. 佐藤洋平: 杏林大学皮膚科腫瘍外来より: BRAF阻害薬の使用経験. 多摩皮膚科専門医会10月例会, 武蔵野, 2019年10月26日.
36. Shimoda Y, Yamazaki Y, Kimishima M, Ohyama M: Digital-immunohistologic dissection of immune privilege collapse in syringotropic autoimmune diseases: an implication for the pathogenesis. The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Aomori, Nov 11th 2019.
37. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Ohyama M: Restoration of cell surface PD-1 expression in intracellular PD-1 positive T cell subset in nivolumab-treated advanced melanoma patients. The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Aomori, Nov 11th 2019.
38. Fukuyama M, Tsukashima A, Kimishima M, Yamazaki Y, Ohyama M: Attempts to regenerate human hair follicle structure in vitro by three-dimensionally assembling tissue- and iPS cell-derived cell composites. The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Aomori, Nov 11th 2019.
39. 大山学: 病態に基づく脱毛症の治療理論. 第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2019年11月16日.
40. 水川良子, 塩原哲夫: 重症薬疹up-to-date. 重症薬疹の治療ーPSL投与の適応を考えるー. 第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2019年11月17日.
41. 青木孝司, 福山雅大, 佐藤洋平, 下田由莉江, 大山学: 劇症型G群溶連菌により軟部組織炎が多発した1例. 第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2019年11月17日.
42. 水川良子: DiHSにおけるCMV再活性化を予測するバイオマーカーの検討. 日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業 免疫アレルギー疾患実用化研究事業 2019年度班会議 薬疹研究会, 新潟, 2019年 11月22日.
43. 大山学: 女性型脱毛症の病態update. 第24回日本臨床毛髪学会学術集会, 大阪, 2019年11月24日.
44. 齋藤真衣, 下田由莉江, 嵩幸恵, 佐藤洋平, 川原敬祐, 齋藤康一郎, 大山学, 水川良子: 薬剤性過敏症症候群

- の経過中に喉頭浮腫を生じた1例. 第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜, 2019年11月30日.
45. 水川良子: 薬剤性過敏症候群—診断と治療—. 第4回重症薬疹診療拠点病院認定に係る講習会, 横浜, 2019年12月1日.
  46. 池田信昭, 山口由衣, 浅田秀夫, 末木博彦, 大山学, 井川健, 相原道子: 免疫チェックポイント阻害薬による皮膚障害の実態調査及び重症化因子の解析. 第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜, 2019年12月2日.
  47. 鳥越美月, 成田陽子, 大山学: 月経周期に伴って出血を繰り返した毛細血管奇形の1例. 第887回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年12月14日.
  48. 早川怜那, 下田由莉江, 井田陽子, 下山田博明, 福田知雄, 大山学: 性器ヘルペス様外観を呈した Exophiala dermatitissによる黒色真菌症の1例. 第887回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年12月14日.
  49. 水川良子: 薬疹. 杏林大学公開講演, 三鷹, 2020年1月11日.
  50. 伊藤有亜, 倉田麻衣子, 小林英資, 下田由莉江, 佐藤洋平, 大山学, 水川良子: 重症度スコアから保存的治療を選択したカルバマゼピンによる薬剤性過敏症候群の1例. 第888回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2020年1月18日.
  51. 根本千紘, 福山雅大, 大山学: 女兒に生じた硬化性萎縮性苔癬の1例. 第888回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2020年1月18日.
  52. 水川良子: 重症薬疹を中心とした薬疹の診断と治療. 第14回多摩東地区スキンケアセミナー, 東京, 2020年1月25日.
  53. 大山学: 脱毛症治療の考え方—新知見もふまえて—. 第43回江東区医師会皮膚科医会学術講演会, 東京, 2020年1月29日.
  54. 水川良子: DiHS—皮膚科専門医として知っておくべきポイント—. 2019年皮膚科 新レジデントセミナー⑨ ~薬疹の巻~, 東京, 2020年2月5日.
  55. 小林英資, 下田由莉江, 佐藤洋平, 早川順, 廣瀬美希, 大山学: 初診時に落葉状天疱瘡を考えた治療抵抗性尋常性天疱瘡の1例. 第899回東京地方会, 東京, 2020年2月15日.
  56. 波田野冨佳, 木下美咲, 大山学: 関節リウマチ治療中に生じたinterstitial granulomatous dermatitisの1例. 第899回東京地方会, 東京, 2020年2月15日.
- ### 論文
1. Shiohara T, Mizukawa Y: Drug-induced hypersensitivity syndrome (DiHS)/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS): An update in 2019. *Allergol Int* 68(3): 301-308, 2019.
  2. 伊藤有亜, 下田由莉江, 早川順, 下山田博明<sup>1</sup>, 柴原純二<sup>1</sup>, 大山学 (1杏林大・医・病理学): 再発乳癌と鑑別を要した顆粒細胞腫の1例. *臨皮* 73(4): 319-323, 2019.
  3. 飯島孝四郎, 佐藤洋平, 大山学: 多発性結節を呈した皮膚腺病. *臨皮* 73(4): 349-353, 2019.
  4. 宮川秀美, 早川順, 大荷満生<sup>1</sup>, 大山学 (1杏林大・医・高齢医学): 運動と食事療法により改善した発疹性黄色腫. *皮膚診療* 41(4): 345-348, 2019.
  5. Hama N<sup>1</sup>, Nishimura K<sup>2</sup>, Hasegawa A<sup>1</sup>, Yuki A<sup>1</sup>, Kume H<sup>3</sup>, Adachi J<sup>3</sup>, Kinoshita M<sup>4</sup>, Ogawa Y<sup>4</sup>, Nakajima S<sup>5</sup>, Nomura T<sup>5</sup>, Watanabe H<sup>6</sup>, Mizukawa Y, Tomonaga T<sup>3</sup>, Shimizu H<sup>2</sup>, Abe R<sup>1</sup> (1Niigata University, 2Hokkaido University, 3Laboratory of Proteomics for Drug Discovery, Center for Drug Design Research, National Institute of Biomedical Innovation, Health and Nutrition, 4Yamanashi University, 5Kyoto University, 6Showa University): Galectin-7 as a potential biomarker of Stevens-Johnson syndrome/toxic epidermal necrolysis: identification by targeted proteomics using causative drug-exposed peripheral blood cells. *J Allergy Clin Immunol Pract* 7(8): 2894-2897, 2019.
  6. 水川良子: 内科医が知っておくべき皮膚疾患 そう痒を伴うことが多い皮膚疾患を中心に セミナー&治療 内科医が知っておくべき皮膚疾患診療のポイント 薬疹 薬疹の臨床的特徴と鑑別診断. *Med Pract* 36(5): 767-772, 2019.
  7. Fukuyama M, Ohyama M: Use of trichoscopy for the diagnosis of alopecia areata coexisting with primary scarring alopecia in a female hair loss patient. *J Dermatol* 46(5): 418-421, 2019.
  8. Shimoda-Komatsu Y, Fukuyama M, Ohyama M: An elderly case of intractable psoriasis vulgaris coexisting with bullous pemphigoid and multiple comorbidities successfully treated with IL-17 blockade. *J Cutan Immunol Allerg* 2(3): 82-83, 2019.
  9. 佐藤洋平, 水川良子, 堀江千穂, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: 人工透析患者に生じた多発性固定薬疹の1例. *臨皮* 73(7): 480-484, 2019.
  10. 福井香苗, 下田由莉江, 木下美咲, 山崎好美, 下山田博明<sup>1</sup>, 渡辺格<sup>2</sup>, 山田昌和<sup>3</sup>, 石井文人<sup>4</sup>, 橋本隆<sup>5</sup>, 大山学 (1杏林大・医・病理学, 2杏林大・医・耳鼻科学, 3杏林大・医・眼科学, 4久留米大, 5大阪市立大学): 結節性痒疹様皮膚疹を伴った粘膜類天疱瘡の1例. *臨皮* 73(8): 603-608, 2019.
  11. Kinoshita-Ise M, Martinez-Cabrales SA<sup>1,2,3</sup>, Alhusayen R<sup>1,2</sup> (1Sunnybrook Health Sciences Center, Toronto, Canada, 2University of Toronto, 3University of Nuevo Leon): Chronological association between alopecia areata and autoimmune thyroid diseases: A systematic review and meta-analysis. *J Dermatol* 46(8): 702-709, 2019.
  12. 嵩幸恵, 水川良子, 下田由莉江, 高山信之<sup>1</sup>, 大山学 (1杏林大・医・血液内科学): Blue toe症候群類似の足趾潰瘍を呈した本態性血小板血症の1例. *臨皮* (10): 808-812, 2019.
  13. 大山学: 膠原病(リウマチ性疾患)の頭皮病変と脱毛臨床力をアップするリウマチ性疾患と皮膚疾患. *Mod Physician* 39(10): 956-959, 2019.
  14. 大山学: 円形脱毛症治療の考え方—毛周期の変調からみた病態と治療理論—. *日本臨床皮膚科医会雑誌* 36(4): 505-512, 2019.
  15. 福山雅大, 大山学: 毛髪医療Up to date 男性型脱毛症 病態. *美容皮医Beauty* 2(10): 24-32, 2019.
  16. 水川良子, 倉田麻衣子: 写真で学ぶアレルギー これがDiHSを疑う初期臨床症状だ!. *皮アレルギーフロンテ* 17(2): 134, 2019.
  17. Onishi S<sup>1</sup>, Baba Y<sup>1</sup>, Yokoi F<sup>1</sup>, Ide K<sup>1</sup>, Ohyama M, Nishifuji K<sup>1</sup> (1Tokyo University): Progenitor cells expressing nestin, a neural crest stem cell marker, differentiate into outer root sheath keratinocytes. *Vet Dermatol* 30(5): 365-e107, 2019.

18. 水川良子, 塩原哲夫: 薬剤性過敏症症候群 – 臨床から診断, 治療, 非HIV感染者の免疫再構築症候群の概念をふまえて-. 日化療会誌 67(6):620-627, 2019.
19. 宮川秀美, 福山雅大, 早川順, 石田正, 大山学: 角化性紅斑と疣状結節を呈する扁平苔癬の経過中に生じたlichen planus pemphigoidesの1例. 臨皮 73(12): 957-963, 2019.
20. 齋藤真衣, 福山雅大, 大山学: ヒドロキシクロロキンが症状緩和に有効であった癬痕性脱毛を伴う慢性皮膚エリテマトーデスの2例. 臨皮 73(12): 973-977, 2019.
21. 青木孝司, 福山雅大, 水川良子, 林田真理<sup>1</sup>, 久松理一<sup>1</sup>, 大山学 (1杏林大・医・消化器内科学): 再検で判明した第XIII因子低下を補正し紫斑の改善をみた治療抵抗性IgA血管炎の1例. 臨皮 73(13): 1042-1046, 2019.
22. McGrath JA<sup>1</sup>, Ohyama M, Simpson MA<sup>1</sup> (1King's College London): PADI3, hair disorders and genomic investigation. Br J Dermatol 181(6): 1115-1116, 2019.
23. Ohyama M: Does skewing of cytokine production link alopecia areata and depression?. Br J Dermatol 182(1): 15-16, 2020.
24. Hashizume H<sup>1</sup>, Abe R<sup>2</sup>, Azukizawa H<sup>3</sup>, Fujiyama T<sup>4</sup>, Hama N<sup>2</sup>, Mizukawa Y, Morita E<sup>5</sup>, Nakagawa Y<sup>6</sup>, Nakajima S<sup>7</sup>, Niihara H<sup>5</sup>, Teraki Y<sup>8</sup>, Tohyama M<sup>9</sup>, Watanabe H<sup>10</sup>, Tokura Y<sup>4</sup>, Drug Allergy Database Committee in Japanese Cutaneous Immunology and Allergy Association (1Wata City Hospital, 2Niigata University, 3Nara Medical University, 4Hamamatsu University, 5Shimane University, 6Osaka University, 7Kyoto University, 8Saimata Medical Center, 9Shikoku Cancer Center, 10Showa University): Confusion in determination of two types of cutaneous adverse reactions to drugs, maculopapular eruption and erythema multiforme, among the experts: A proposal of standardized terminology. J Dermatol 47(2): 169-173, 2020.
25. 大山学: 日常診療でよくみる皮膚疾患の診断と治療. レジデント 13 (2): 67-72, 2020.
26. 福山雅大, 木下美咲, 大山学: 毛の異常 特集 皮膚から疾患を考える. 内科 125 (3): 435-441, 2020.
27. 加藤峰幸, 水川良子: 日常診療に活かせるアレルギーの知識. 耳鼻咽喉科医が知っておきたいアレルギー疾患 薬物アレルギー. JOHNS 36(3): 313-316, 2020.
28. 水川良子: 薬剤師のための特別講義! 専門医が教える薬疹, 薬剤性皮膚障害 固定薬疹. 調剤と情報 26(4): 84-87, 2020.

## 著書

1. 大山学: 白髪と薄毛のナゾ～毛髪の変化. ここが大事! 高齢者皮膚診療のコツとピットフォール. 戸倉新樹, 秋山真志編. 東京, 南江堂, 2019. p. 21-23.
2. 大山学: 脱毛症治療、毛髪再生医療の最前線編 第5章: 脱毛症の病態から考える毛包再生医療の適応と課題. 毛髪科学の新展開. 岩淵徳郎編. 東京, シーエムシー出版, 2019. p. 80-93.
3. 水川良子: 固定薬疹の発症機序 – resident memory T細胞を含めて-. 新しい薬疹. 戸倉新樹編. 東京, 文光堂, 2019. p. 170-174.
4. 大山学: 脱毛症: 特に円形脱毛症. 今日の治療方針 2020年度版. 総編集: 福井次矢, 高木誠, 小室一成. 東京, 医学書院, 2020. p. 1323-1324.
5. 大山学: 皮膚付属器. 標準皮膚科学 第11版. 岩月啓

氏監修. 東京, 医学書院, 2020. p. 19-28.

## 形成外科学教室

### 講演

1. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化予防 フットケアの基礎知識. 第3回島田・志太・榛原フットケア足を学ぶ会, 静岡, 2019年4月5日.
2. 大浦紀彦: 静脈性潰瘍・褥瘡の治療戦略. 第4回岡村病院創傷セミナー2019, 高知, 2019年4月17日.
3. 大浦紀彦: 創傷治療のための血行再建とは?. 第7回千葉EVT研究会2019, 千葉, 2019年4月20日.
4. Ohura N: Update of Surgical Treatment & Topical Wound Management for Diabetic Foot in Japan. The European Conference on Controversies in Diabetic Foot Management, Austria, May 3, 2019.
5. 大浦紀彦, 三野稜太, 匂坂正信, 寺部雄太, 大越拓実, 内山敦史, 木下幹雄, 多久嶋亮彦: AI (artificial intelligence) は形成外科に何をもたらすか. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月15日.
6. 大浦紀彦: 第3のNPWT. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月15日.
7. 菅浩隆, 白石知大, 多久嶋亮彦: 乳房再建後の胸部癬痕評価と関連因子の解析. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月15日.
8. 白石知大: 乳房再建video session これから乳房再建を学ぶ若者へー極めよBasic Masterへの道ー人工物再建. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月15日.
9. 中山大輔, 尾崎峰, 藤木政英ほか: 側頭部陥凹に対する肋軟骨移植術と頭蓋骨骨膜弁を併用した再建術. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月16日.
10. 多久嶋亮彦: 日本形成外科学会関連誌の英文誌化への道. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月17日.
11. 屋宜佑利香, 尾崎峰, 藤木政英ほか: 血管奇形の新しい疾患概念であるFAVA (Fibro-adipose Vascular Anomaly) と考えらえた4症例についての検討. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月17日.
12. 岩科裕己, 尾崎峰, 藤木政英ほか: LICを伴う静脈奇形患者に対する術前低分子ヘパリン投与の有用性についての検討. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月17日.
13. 牧内泰文, 尾崎峰, 藤木政英ほか: 血管奇形に伴う凝固異常症と深部静脈血栓症の血液検査上の相違点に関する検討. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月17日.
14. 奈良誠之, 尾崎峰, 藤木政英ほか: 血管腫摘出術における保険診療点数について. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月17日.
15. 大浦紀彦, 匂坂正信, 寺部雄太, 内山敦史, 大越拓実, 三野稜太, 飯坂真司, 多久嶋亮彦: 曇り込みニューラルネットワークによる創傷の組織学的診断の可能性. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月15-17日.
16. 岩科裕己, 尾崎峰, 藤木政英, 多久嶋亮彦: LICを伴う静脈奇形患者に対する術前低分子ヘパリン投与の有用性についての検討. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019年5月15-17日.

17. 木村武一郎, 成田圭吾, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 二重神経支配型遊離筋肉移植による笑いの再建後の脳活動部位の検討. 第62回日本形成外科学会総会・学術総会, 札幌, 2019年5月15-17日.
18. 大浦紀彦, 中山大輔, 匂坂正信, 海田賢彦, 森重侑樹, 寺部雄太, 木下幹雄, 山口芳裕, 多久嶋亮彦: 熱傷面積と再建材料から考える頸部熱傷後癱痕拘縮10例の検討. 第45回日本熱傷学会総会・学術集会, 小倉, 2019年5月24日.
19. 大浦紀彦: Skin tears の臨床評価と治療. 第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 奈良, 2019年5月26日.
20. Takushima A: Selection of the motor source nerve for treatment of recent and established facial paralysis. 第42回日本顔面神経学会, 大阪, 2019年5月30日.
21. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 先天性顔面神経麻痺に対する形成手術~いつ何をするか. 第42回日本顔面神経学会, 大阪, 2019年5月30-31日.
22. 木村武一郎, 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 二重神経支配型遊離筋肉移植による笑いの再建後の脳活動部位の検討. 第42回日本顔面神経学会, 大阪, 2019年5月30-31日.
23. 尾崎峰, 岩科裕己, 藤木政英己ほか: 血管奇形病変に対する切除術. 第16回日本血腫・血管奇形IVR研究会, 博多, 2019年5月31日.
24. 森重侑樹, 大浦紀彦: 地域を一体として捉えた他職種連携診療科相互補充の必要性を考える. ADATARA live Demonstration, 福島, 2019年6月6日.
25. Ohura N: Clinical experiences of OASIS, Histological evaluation of split thickness donor site wounds treated with small intestine submucosa (SIS). Oral EWMA2019, Sweden, Jun.4, 2019.
26. Ohura N: Basic Concepts of Intraoperative Acquired Pressure Injury Prevention Measures for the Park Bench Position and Relton-Hall Frame Prone Position in the Operating Room. Oral EWMA2019, Sweden, Jun 4, 2019.
27. 大浦紀彦: CLTIの重症化予防 歩き続けるための重症化予防. 第6回北見フットケアセミナー, 北見, 2019年6月11日.
28. Kita Y, Fukunaga Y, Miyamoto S, Takushima A: Anatomical study of the superficial inferior epigastric artery flap using computed tomographic angiography. 10th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery, Italy, June 12th-15th, 2019.
29. Kimura T, Narita K, Takushima A: Brain activity after double-innervated facial reanimation: exploration with functional MRI. 10th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery, Italy, June 12th -15th, 2019.
30. 大浦紀彦: CLTIの治療戦略. 17th Global Vascular Intervention Conference In West Tokyo, 立川, 2019年6月13日.
31. 森重侑樹, 大浦紀彦: 血行再建が困難な重症下肢虚血に対しDistal venous arterializationを施行した2例. 第11回日本下肢救済・足病学会学術集会, 神戸, 2019年6月28日.
32. 森重侑樹, 大浦紀彦: 血行再建が困難な重症下肢虚血に対し、Distal venous arterializationを施行した2例. 第11回日本創傷外科学会総会・学術集会, 長崎, 2019年7月4日.
33. 大浦紀彦: Negative Pressure Wound Therapy System by using VERAFLOR CLEANSE CHOICE. VAC Summit2019, 東京, 2019年7月8日.
34. 尾崎峰, 岩科裕己, 藤木政英ほか: 難治性血管奇形病変に対する切除術. 第16回日本血管腫血管奇形学会・学術集会, 三重, 2019年7月12日.
35. 岩科裕己: 動静脈奇形の外科治療. 第11回血管腫・血管奇形講習会, 三重, 2019年7月12日.
36. 岩科裕己, 尾崎峰, 大島直也, 多久嶋亮彦: Localized intravascular coagulopathyを伴うblue rubber bleb nevus 症候群の喉頭静脈奇形の治療経験. 第16回血管腫血管奇形学会・学術集会, 三重, 2019年7月12-13日.
37. 赤木健一郎, 尾崎峰, 大島直也ほか: 四肢以外の部位に発生したFAVAと考えられた2症例の検討. 第16回日本血管腫血管奇形学会・学術集会, 三重, 2019年7月13日.
38. 大島直也, 尾崎峰, 岩科裕己ほか: 硬化療法後に生じたヘモグロビン尿症に対するハプトグロビン投与量の検討. 第16回日本血管腫血管奇形学会・学術集会, 三重, 2019年7月13日.
39. 雪野彩乃, 尾崎峰, 岩科裕己ほか: 下顎骨内動静脈奇形の治療経験. 第16回日本血管腫血管奇形学会・学術集会, 三重, 2019年7月13日.
40. 大浦紀彦: 心臓血管外科関連創傷に対する形成外科的アプローチ CLTIの治療. 第1回地域連携/末梢動脈疾患治療講演会, 大阪, 2019年7月18日.
41. 大浦紀彦: 医師の立場から見た特定行為研修終了看護師の活動. 第21回医療マネジメント学会, 名古屋, 2019年7月19日.
42. 大浦紀彦: 軟部組織外傷に対する形成外科的処置. 第8回日本アスレティックトレーニング学会学術大会, 東京, 2019年7月20日.
43. 尾崎峰: 中顔面骨折の診断と治療. 第51回日本口腔外科学会教育研修会, 大阪, 2019年7月14日.
44. 森重侑樹: 当科での下肢救済治療. 第6回Centers of Excellence, 東京, 2019年7月23日.
45. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化を予防するフットケア. 第5回看護に役立つ糖尿病フットケアセミナーIN多摩, 三鷹, 2019年8月3日.
46. 大浦紀彦: 下肢救済のためのPatient Centered Care 新しいチーム医療. 第22回鹿児島実フットケア研究会, 鹿児島, 2019年8月8日.
47. 大浦紀彦, 田中マキ子: 手術室褥瘡の危険因子とその対策. 第21回日本褥瘡学会・学術集会, 京都, 2019年8月23日.
48. 大浦紀彦, 森重侑樹, 中山大輔, 牧内泰文, 竹江雄貴, 木下幹雄, 寺部雄太, 多久嶋亮彦: 踵の褥瘡治療 周術期管理と術後合併症対策. 第21回日本褥瘡学会・学術集会, 京都, 2019年8月23日.
49. 多久嶋亮彦: 陳旧性顔面神経麻痺に対する神経・血管柄付き遊離筋肉移植術. 第30回日本末梢神経学会学術集会, 金沢, 2019年8月23日.
50. 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也: 体幹・四肢における血管奇形病変の診断と治療. 第28回多摩軟部腫瘍研究会, 三鷹, 2019年8月24日.
51. Yoshimura M, Ohura N, Okoshi T, Uchiyama A, Mitsuno R, Morishige Y, Takushima A: An Analysis of Property Risk Factors of Intraoperatively Acquired Pressure Injury in the Park-bench position by Propensity Score and

- Machine Learning. EPUAP 2019, France, Sep 1, 2019.
52. Ohura N, Yoshimura M, Gefen A, Santamaria N: Basic concepts of Intraoperative Acquired Pressure Injury prevention measures for Park-position and Relton-Hall frame prone position in the operating room. EPUAP 2019, France, Sep 1, 2019.
  53. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変に対する形成外科的治療～虚血痛に対する薬物治療～. 第20回「足」を知る会, 府中, 2019年9月3日.
  54. 大浦紀彦: 最新の褥瘡予防と治療 床ずれ: 褥瘡を在宅で作らないために. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2019年9月28日.
  55. 森重侑樹: 治療抵抗性な膠原病を有するCLI患者の1例. Centers of Excellence, 毛呂山, 2019年10月7日.
  56. 白石知大: BIA-ALCL緊急セッションBIA-ALCL緊急調査結果とBIA-ALCLを疑う症例がでたとき. 第7回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会, さいたま, 2019年10月10日.
  57. 菅浩隆, 白石知大, 多久嶋亮彦: プレストインプラント関連未分化大細胞型リンパ腫との鑑別を要した遅発性インプラント感染の1例. 第7回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会, さいたま, 2019年10月11日.
  58. 中山大輔, 白石知大, 芝崎由佳, 辻直子, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: 乳房再建患者の満足度について(乳がん再発患者、再建を中断せざるを得なかった患者のアンケートから). 第7回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会, さいたま, 2019年10月11日.
  59. 大浦紀彦: NPWT i-dの効果的な使用法. 徳島大学形成外科アドバンスドセミナー, 徳島, 2019年10月18日.
  60. 森重侑樹, 大浦紀彦: Mortality and ambulatory rate of CLI patients after major amputation. World Conference on Advanced Treatments & Technologies in Wound Care, Germany, 2019年10月22-27日.
  61. Ohura N, Yoshimura M, Morishige Y, Terabe Y, Takushima A: Basic Concepts of Intraoperative Acquired Pressure Injury Prevention Measures in the Operating Room. World Conference on Advanced Treatments & Technologies in Wound Care, Germany, Oct. 25, 2019.
  62. 多久嶋亮彦: 新鮮・陳旧性顔面神経麻痺の再建における動力源神経の選択. 第37回日本頭蓋顔面外科学会・学術集会, 東京, 2019年10月31日.
  63. 牧内泰文, 尾崎峰, 岩科裕己ほか: Micocystic型リンパ管奇形に伴う顎骨過形成に対する骨切り術の検討. 第37回日本頭蓋顔面外科学会・学術集会, 東京, 2019年11月1日.
  64. 森重侑樹, 大浦紀彦: 重症下肢虚血に対する下肢大切断術の検討. 第8回千葉EVT研究会, 千葉, 2019年11月2日.
  65. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化を予防するフットケア-免荷を考えよう. 第2回フットケアを学ぶ会, 厚木, 2019年11月9日.
  66. 大浦紀彦: CLTIの治療-Distal Venous Arterialization-. 第1回日本フットケア足病医学会関西地方会, 神戸, 2019年11月9日.
  67. 北幸紘, 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 3D ビデオ技術搭載の手術用顕微鏡システムの使用経験. 第46回日本マイクロサージャリー学会・学術集会, 東京, 2019年11月28-29日.
  68. 前川二郎, 秋田新介, 成島三長, 矢吹雄一郎, 成田圭吾, 清家志円, 関征央, 佐久間恒, 宮永亨: リンパ浮腫(ガイドラインシンポジウム). 第28回日本形成外科学会基礎・学術集会, 仙台, 2019年11月14-15日.
  69. 菅浩隆, 森重侑樹, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦: フローサイトメトリーを用いた肉芽組織内の免疫系細胞の解析. 第28回日本形成外科学会基礎学術集会, 仙台, 2019年11月15日.
  70. 菅浩隆, 森重侑樹, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦: フローサイトメトリーを用いた肉芽組織内の免疫系細胞の解析. 第28回日本形成外科学会基礎学術集会, 仙台, 2019年11月15日.
  71. 森重侑樹: 創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法. 第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術集会, 東京, 2019年11月16日.
  72. 大浦紀彦: 地域医療連携の中でのCLTIの重症化予防. 埼玉医科大学総合医療センター フットケア研修会, 川越, 2019年11月13日.
  73. 大浦紀彦: 「糖尿病性足病変の重症化を予防するフットケア」-免荷を考えよう-. 第5回西埼玉糖尿病フットケアセミナー, 川越, 2019年11月20日.
  74. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 不可逆性の顔面神経麻痺に対する新たな再建: 咬筋神経移行術と一期的遊離広背筋移植術の併用. 第46回日本マイクロサージャリー学会・学術集会, 東京, 2019年11月28-29日.
  75. 菅浩隆: 創傷治癒過程におけるマクロファージの役割. 第49回日本創傷治癒学会, さいたま, 2019年12月11日.
  76. 大浦紀彦: 糖尿病足病変の病態生理、治療糖尿病性足病変の重症化予防. 2020 糖尿病 重症化予防「フットケア」研修プログラム, 東京, 2020年1月22日.
  77. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化予防. 糖尿病性腎症フォーラム2020, 千葉, 2020年2月4日.
  78. 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也ほか: 眼瞼・眼窩部静脈奇形の治療. 第31回日本眼瞼義眼床手術学会学術集会, 西宮, 2020年2月22日.
- ## 論 文
1. 多久嶋亮彦, 成田圭吾: 陳旧性顔面神経麻痺に対する神経・血管柄付き遊離筋肉移植術. 末梢神経30(2): 169-171, 2019.
  2. 多久嶋亮彦, 成田圭吾: 新鮮・陳旧性顔面神経麻痺再建における移植床神経の選択. Facial Nerve Research 39: 1-2, 2019.
  3. 松永洋明, 大浦紀彦, 匂坂正信, 寺部雄太, 中山大輔, 小倉ふみ子, 森重侑樹, 多久嶋亮彦: 周期的自動洗浄液注入機能付きNPWTの有用性. 日本形成外科学会誌 39 (4): 143-150, 2019.
  4. 森重侑樹, 大浦紀彦, 中山大輔, 井原玲, 匂坂正信, 景山大輔, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: アキレス腱の露出・離断を伴う重症下肢虚血性潰瘍に対して遊離広背筋皮弁による再建を行った2例. 形成外科62 (5): 547-556, 2019.
  5. 大浦紀彦, 森重侑樹, 中山大輔, 牧内泰文, 竹江雄貴, 木下幹雄, 多久嶋亮彦: 壊疽 糖尿病性足病変の診断と治療(解説). 糖尿病合併症33 (2): 181-184, 2019.
  6. 大浦紀彦, 森重侑樹, 中山大輔, 日下邊直樹, 小倉ふみ子, 赤木健一郎, 木下幹雄, 多久嶋亮彦: 陰圧閉鎖療法による治療とケアの基本. 陰圧閉鎖療法の歴史・位置づけ・将来展望(解説/特集). WOC Nursing 7(9): 5-10, 2019.

7. 大浦紀彦, 木下幹雄, 森重侑樹: 効果的な連携で患者の足を守る!地域で取り組むフットケア。(Part 2)地域・多職種連携で取り組むフットケアの実際 足の創傷治療の在宅と病院の連携(解説/特集). 看護技術, 65(9): 959-963, 2019.
8. 吉村美音<sup>1</sup>, 大浦紀彦(<sup>1</sup>東京医科大学病院): シェアします!わたしのプロマネ★実践レポート ドレッシングを上手に活用しよう!こうしてます 周術期の褥瘡予防と対策(解説). オペナーシング 34(8): 815-818, 2019.
9. 大浦紀彦, 吉村美音<sup>1</sup>, 森重侑樹, 庭山由香, 帯刀朋代<sup>1</sup>, 田中マキ子<sup>2</sup>(<sup>1</sup>東京医科大学病院, <sup>2</sup>山口県立大学病院): 知らなきゃソン!?オペナースの耳に入りたい 最新OPE TOPICS 最新の手術室褥瘡対策. 総論, オペナーシング 34(6): 615-619, 2019.
10. 吉村美音<sup>1</sup>, 大浦紀彦, 森重侑樹, 庭山由香, 田中マキ子<sup>2</sup>(<sup>1</sup>東京医科大学病院, <sup>2</sup>山口県立大学病院): 知らなきゃソン!?オペナースの耳に入りたい 最新OPE TOPICS 最新の手術室褥瘡対策. 各論, オペナーシング 34(7): 734-741, 2019.
11. Fujiwara T<sup>1</sup>, Dohi T<sup>1</sup>, Maan ZN<sup>1</sup>, Rustad KC<sup>1</sup>, Kwon SH<sup>1</sup>, Padmanabhan J<sup>1</sup>, Whittam AJ<sup>1</sup>, Suga H, Duscher D<sup>1</sup>, Rodrigues M<sup>1</sup>, Gurtner GC<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Stanford University): Age-associated intracellular superoxide dismutase deficiency potentiates dermal fibroblast dysfunction during wound healing. *Exp Dermatol* 28: 485-492, 2019.
12. Sato D, Suga H, Ozaki M, Narita K, Shiraiishi T, Harii K, Takushima A: Patient satisfaction after levator aponeurosis surgery for the treatment of involutional blepharoptosis. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 72: 848-862, 2019.
13. 尾崎峰: 形成外科の治療指針update2019. 皮膚・軟部組織疾患 血管腫・血管奇形 リンパ管奇形. 形成外科 62: S84, 2019.
14. 尾崎峰: 形成外科におけるエコー活用術. 血管腫・血管奇形の治療におけるエコー活用術. *PEPARS* 154: 33-42, 2019.
15. 海野早織, 尾崎峰, 藤木政英ほか: 子宮腔部静脈奇形の2例. 形成外科 62: 1437-1444, 2019.
16. 高梨遼, 尾崎峰, 藤木政英ほか: 顔面骨変形を伴った側頭部発生のglial heterotopiaの1例. 形成外科 62: 1452-1459, 2019.
17. Wong M, Ozaki M, Kurita M, et al: Soft Tissue Reconstruction and Facial Reanimation With Bilateral Latissimus Dorsi Flaps After Extensive Resection of Head and Neck Arteriovenous Malformation: A Case Report. *Ann Plast Surg* 83: 73-77, 2019.
18. Kurachi A, Ozaki M, Ihara A, et al: Eyelid Thread-lifting Treatment for Periocular Infantile Hemangioma in an Extremely Premature Low-birth-weight Infant. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 7: e2373, 2019.
19. 菅浩隆: 形成外科における基礎研究. 形成外科 62: 1142-1143, 2019.
20. 牧内泰文, 白石知大, 菅浩隆, 伊坂泰嗣<sup>1</sup>, 井本滋<sup>1</sup>, 多久嶋亮彦(<sup>1</sup>杏林大・医・乳腺外科): ティッシュ・エキスパンダーを用いた乳房一次再建術後に乳糜漏を生じた2例. *Oncoplastic Breast Surgery* 4: 70-73, 2019.
21. 久場良吾, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: 顔面挫創症例の包括的検討と治療における注意点: 1年間737例の検討から. *日形会誌* 39: 552-555, 2019.
22. 菅浩隆, 白石知大, 多久嶋亮彦: インプラントと脂肪注入を併用した乳房再建: 併用例と非併用例の比較. *日形会誌* 39: 545-551, 2019.
23. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 形成外科の治療指針update 2019. 頭頸部疾患 顔面神経麻痺. 形成外科 62増刊: S101, 2019.
24. Narita K, Fukuoka H<sup>1</sup>, Sekiyama T<sup>2</sup>, Suga H, Harii K(<sup>1</sup>Cherry-Blossom Plastic and Regenerative Surgery, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital): Sequential scalp assessment in hair regeneration therapy using adipose-derived stem cell-conditioned medium. *Dermatol Surg*, 2019. DOI: 10.1097/DSS.0000000000002128. [Epub ahead of print]
25. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 先天性顔面神経麻痺に対する形成手術~いつ何をするか?. *Facial Nerv Res* 39: 28-31, 2019.
26. Fujiki M, Ozaki M, Kurachi I, Iwashina Y, Takushima A: Risk factor for Macroscopic Haemoglobinuria after sclerotherapy using ethanolamine oleate for venous malformations. *Eur J Vasc Endovasc Surg*. 58(1): 105-111, 2019.
27. Ohura N, Mitsuno R<sup>1</sup>, Sakisaka M, Terabe Y, Morishige Y, Uchiyama A<sup>1</sup>, Okoshi T<sup>1</sup>, Iizaka S, Takushima A(<sup>1</sup>株式会社キスモ, <sup>2</sup>淑徳大学). Convolutional neural networks for wound detection: the role of artificial intelligence in wound care. *J Wound Care*, 28: 13-24, 2019.
28. Gefen A<sup>1</sup>, Alves P<sup>2</sup>, Ciprandi G<sup>3</sup>, Coyer F<sup>4</sup>, Milne C<sup>5</sup>, Ousey K<sup>6</sup>, Ohura N, Waters N<sup>7</sup>, Worsley P<sup>8</sup>, Black J<sup>9</sup>, Barakat-Johnson M<sup>10</sup>, Beeckman D<sup>11</sup>, Fletcher J<sup>12</sup>, Kirkland-Kyhn H<sup>13</sup>, Lahmann NA<sup>14</sup>, Moore Z<sup>15</sup>, Payan<sup>16</sup> Y, Schluer AB<sup>17</sup>(<sup>1</sup>Tel Aviv University, <sup>2</sup>Universidade Católica Portuguesa, <sup>3</sup>Bambino Gesù' Children's Hospital, <sup>4</sup>Royal Brisbane and Women's Hospital, <sup>5</sup>Bristol Hospital, <sup>6</sup>Huddersfield University, <sup>7</sup>thompson Rivers University, <sup>8</sup>University of Southampton, <sup>9</sup>University of Nebraska Medical Center, <sup>10</sup>University of Sydney, <sup>11</sup>Ghent University, <sup>12</sup>Independent Nurse Consultant, <sup>13</sup>University of California Davis Medical Center, <sup>14</sup>Charité University Berlin, <sup>15</sup>Skin Wounds and Trauma Research Centre, <sup>16</sup>University Grenoble Alps, <sup>17</sup>University Children's Hospital Zurich): An international consensus on device-related pressure ulcers: SECURE prevention. *Br J Nurs*. 29(5): S36-S38, 2020.
29. Yoshimura M<sup>1</sup>, Ohura N, Santamaria N<sup>2</sup>, Watanabe Y<sup>3</sup>, Akizuki T<sup>3</sup>, Gefen A<sup>4</sup>(<sup>1</sup>Tokyo Medical University Hospital, <sup>2</sup>University of Melbourne, <sup>3</sup>Tokyo Metropolitan Police Hospital, <sup>4</sup>Tel Aviv University): High body mass index is a strong predictor of intraoperative acquired pressure injury in spinal surgery patients when prophylactic film dressings are applied: A retrospective analysis prior to the BOSS Trial. *Int Wound J* (3): 660-669 2020. doi: 10.1111/iwj.13287.
30. Kim PJ<sup>1</sup>, Attinger CE<sup>2</sup>, Constantine T<sup>3</sup>, Crist BD<sup>4</sup>, Faust E<sup>5</sup>, Hirche CR<sup>6</sup>, Lavery LA<sup>1</sup>, Messina VJ<sup>7</sup>, Ohura N, Punch LJ<sup>8</sup>, Wirth GA<sup>7</sup>, Younis I<sup>9</sup>, Téot L<sup>10</sup>(<sup>1</sup>University of Texas Southwestern Medical Center, <sup>2</sup>MedStar Georgetown University Hospital, <sup>3</sup>Toronto Cosmetic Surgery Institute, <sup>4</sup>University



of Missouri Health Care, <sup>5</sup>Wound, Ostomy, Continence Specialist, Tower Health System, West Reading, <sup>6</sup>Universität Heidelberg, <sup>7</sup>MemorialCare Long Beach Medical Center, <sup>8</sup>Washington University, <sup>9</sup>Royal Free Hospital University College Hospital, <sup>10</sup>Montpellier University Hospital) : Negative pressure wound therapy with instillation: International consensus guidelines update. *Int Wound J.* 17(1): 174-186, 2020.

31. Gefen A<sup>1</sup>, Alves P<sup>2</sup>, Ciprandi G<sup>3</sup>, Coyer F<sup>4</sup>, Milne CT<sup>5</sup>, Ousey K<sup>6</sup>, Ohura N, Waters N<sup>7</sup>, Worsley P<sup>8</sup> ( <sup>1</sup>Tel Aviv University, <sup>2</sup>Institute of Health Sciences, Center for Interdisciplinary Research in Health, <sup>3</sup>Bambino Gesù Children's Hospital, <sup>4</sup>Royal Brisbane and Women's Hospital, <sup>5</sup>Bristol Hospital Wound and Hyperbaric Medicine, <sup>6</sup>Queensland University, <sup>7</sup>Thompson Rivers University, <sup>8</sup>University of Southampton) : Device-related pressure ulcers: SECURE prevention. *J Wound Care.* (29) : S1-S52, 2020.
32. Mimura H<sup>1</sup>, Akita S<sup>2</sup>, Fujino A<sup>3</sup>, Jinnin M<sup>4</sup>, Ozaki M, et al: ( <sup>1</sup>St. Marianna University School of Medicine, <sup>2</sup>Fukuoka University School of Medicine, <sup>3</sup>National Center for Child Health and Development, <sup>4</sup>Wakayama Medical University) : Japanese Clinical Practice Guidelines for Vascular Anomalies 2017. *Pediatr Int* 62: 257-304, 2020.
33. 日下直樹, 成田圭吾, 清家志円<sup>1</sup>, 白石知大, 多久嶋亮彦 ( <sup>1</sup>大阪大) : Schwannomatosisの2例. *日形会誌* 40: 126-135, 2020.
34. Iwashina Y, Ozaki M, Wong M, Ihara A, Fujiki M, Takushima A, Harii K: Sclerotherapy for Venous Malformations of the Pharynx or the Tongue Base Without Tracheostomy: Treatment Protocol With Intubation and Outcomes. *J Craniofac Surg.* 2020. doi: 10.1097/SCS.0000000000006230

#### その他

##### 学会主催

1. 大浦紀彦 : CLI血行再建後の総管理. 杏林大学COE, 東京, 2019年7月23日.
2. 大浦紀彦 : Act Against Amputation 産学協議会, 東京, 2019年8月2日.
3. 大浦紀彦 : L-swann meeting 杏林, 三鷹, 2019年8月10日.
4. 大浦紀彦 : 第1回SPARKS (SCS研究会). 東京, 2019年9月28日.
5. 大浦紀彦 : 東京CLIの会, 東京, 2020年1月16日.

##### 受賞 Awards

1. Ohura N: EPUAP2019 Best Poster Presentation. Basic concepts of intraoperative acquired pressure injury prevention measures for the park bench position and Relton-Hall frame prone position in the operating room, Japan.

#### 泌尿器科学教室

##### 講演

1. 田口慧, 福原浩, 竹島雄太, 角谷成紀, 内藤晶裕, 久米春喜, 稲生靖, 藤堂具紀: 緩徐増殖性腫瘍に対するプロモータ制御型がん治療用ヘルペスウイルスの活用～後腹膜脂肪肉腫での検討. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月18日.
2. 桶川隆嗣, 松本龍貴, 鮫島未央, 大村章太, 二宮直紀,

田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩 : 転移性去勢抵抗性前立腺癌のPrecision Oncologyへの可能性. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月18日.

3. 桶川隆嗣, 松本龍貴, 鮫島未央, 大村章太, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩 : 精巣腫瘍の化学療法後残存腫瘍に対する腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月18日.
4. 山口剛, 東原英二, 重森香織, 多武保光宏, 宮崎功, 桶川隆嗣, 横山健一, 要伸也, 福原浩 : 多発性囊胞腎患者における血漿浸透圧, 24時間尿浸透圧とHt-TKV, eGFRとの関連. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月18日.
5. 多武保光宏, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 桶川隆嗣, 福原浩 : 20mm以上の上部尿管結石の臨床的検討. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月19日.
6. 大村章太, 田口慧, 宮川昌悟, 松本龍貴, 鮫島未央, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 福原浩 : 上部尿路上皮癌におけるアルブミン/グロブリン比 (AGR) の意義. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月19日.
7. 田口慧 : 膀胱癌に対するリンパ節郭清の意義: 総論. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月20日.
8. 桶川隆嗣, 松本龍貴, 鮫島未央, 大村章太, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩 : 化学療法未治療の転移性去勢抵抗性前立腺癌に対するアピラテロン・エンザルタミドの逐次治療の比較. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月20日.
9. 金城真実, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩 : 女性骨盤底専門外来受診患者における実態調査～困窮度と希望治療の実態～. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月20日.
10. 多武保光宏 : 中高年の排尿トラブルを解消します 男性下部尿路症状の原因と治療. 第6回杏林医学会市民フォーラム, 三鷹, 2019年5月18日.
11. 金城真実 : 中高年の排尿トラブルを解消します 女性の排尿トラブルの原因と治療. 第6回杏林医学会市民フォーラム, 三鷹, 2019年5月18日.
12. 山口剛 : 当院におけるニボルマブの使用経験. 腎細胞癌I-O combination therapy 承認記念講演, 立川, 2019年5月24日.
13. 福原浩 : 前立腺癌 ホルモン療法と手術そしてウィルス療法. OCUU泌尿器疾患研究会, 大阪, 2019年6月1日.
14. 桶川隆嗣, 松本龍貴, 鮫島未央, 大村章太, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩 : 80歳以上高齢者の去勢抵抗性前立腺癌に対するアピラテロン, エンザルタミドの使用経験. 第32回日本老年泌尿器科学会, 旭川, 2019年6月14日.
15. 金城真実, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩 : 女性骨盤底専門外来受診患者における受診契機の実態調査. 第32回日本老年泌尿器科学会, 旭川, 2019年6月14日.
16. 福原浩 : 前立腺癌～ホルモン療法と手術, そしてウィルス療法. 第86回福島泌尿器科研究会, 郡山, 2019年6月22日.

17. 富田良啓, 山口剛, 紀伊寿彦, 松本龍貴, 鮫島未央, 二宮直紀, 中村雄, 田口慧, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩, 東原英二, 柴原純二: 腎癌術後多発性肺転移に対するニボルマブ投与によって心筋炎を発症した1例. 第630回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2019年6月22日.
18. 金城真実: 女性骨盤底外来における医療連携の現状. 第8回女性骨盤底勉強会, 立川, 2019年6月28日.
19. 大村章太: 腎盂尿管癌におけるアルブミン/グロブリン比 (AGR) の意義. 第26回 Young urologists Conference(YUC), 東京, 2019年7月5日.
20. 田口慧: 膀胱癌のリンパ節転移と遠隔転移をどう治療すべきか. 第114回Tokyo Expert Urology Seminar (TEUS), 東京, 2019年7月12日.
21. 金城真実, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 中部尿道スリング術の精神症状への効果. 第21回日本女性骨盤底医学会, 名古屋, 2019年7月20日.
22. Taguchi S, Fukuhara H, Takeshima Y, Kakutani S, Naito A, Kume H, Todo T: Enhanced antitumor efficacy of midkine promoter-regulated oncolytic HSV-1 in slow-growing human liposarcoma. 第25回細胞遺伝子治療学会学術集会, 東京, 2019年7月20日.
23. 中村雄: PSA高値の患者さん, 紹介したいけど, どうすればよいですか?. 第17回多摩前立腺がん医療連携研究会, 武蔵野, 2019年7月24日.
24. 福原浩: 前立腺がん ホルモン療法と手術そしてウイルス療法. 鳥取CRPCフォーラム, 米子, 2019年8月2日.
25. 金城真実: 女性における過活動膀胱治療戦略. ベオバ錠Web講演会, 2019年8月29日.
26. 大村章太: 当院における嵌頓結石に対するTULの治療成績. 日本尿路結石症学会第29回学術集会, 金沢, 2019年8月31日.
27. Kinjo M, Taguchi S, Nakamura Y, Yamaguchi T, Tambo M, Okegawa T, Fukuhara H: EFFECTS OF MID-URETHRAL SLING SURGERY ON DEPRESSIVE SYMPTOMS IN PATIENTS WITH FEMALE STRESS URINARY INCONTINENCE. the 49th ICS Annual Meeting, Sweden, Sep 3rd, 2019.
28. 山口剛, 加藤裕二, 藤田喜一郎, 桶川隆嗣, 福原浩: 日帰りTUEB施行での治療効果, 完全性の検討. 第26回日本排尿機能学会, 東京, 2019年9月12日.
29. 山口剛, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院での HOLEP の治療効果の検討. 第26回日本排尿機能学会, 東京, 2019年9月12日.
30. 金城真実, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 野田治久, 桶川隆嗣, 福原浩: 東京多摩地区における健診受診者の下部尿路症状と受診状況の実態調査~男女の違い~. 第26回日本排尿機能学会, 東京, 2019年9月14日.
31. 金城真実, 福原浩: 手術予定の骨盤臓器脱患者における性機能の意識調査. 日本性機能学会第30回学術総会, 徳島, 2019年9月22日.
32. 福原浩: Oncolytic virus therapy in Patients with Castration-Resistant Prostate Cancer. ARO協議会第7回学術集会 第5回台湾-日本ARO workshop, 仙台, 2019年9月26日.
33. 山口剛, 桶川隆嗣, 福原浩: Liquid biopsyの現状と将来展望 CTC研究の現状と課題. 第78回日本癌学会学術総会, 京都, 2019年9月28日.
34. 山口剛, 富田良啓, 紀伊寿彦, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 中村雄, 田口慧, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 腹腔鏡下腎部分切除術とロボット支援下腎部分切除術の CKD ステージ進展リスクの比較検討. 第84回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2019年10月4日.
35. 中村雄, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 舛田一樹, 田口慧, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 前立腺容積 120ml 以上の前立腺肥大症に対する HoLEP の手術成績. 第84回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2019年10月4日.
36. 桶川隆嗣, 富田良啓, 紀伊寿彦, 松本龍貴, 二宮直紀, 鮫島未央, 大村章太, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩: 腎癌の代謝パターンと遺伝子変異. 第84回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2019年10月5日.
37. 二宮直紀, 富田良啓, 紀伊寿彦, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院における進行性尿路上皮癌に対する pembrolizumab の初期使用経験. 第84回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2019年10月5日.
38. 大村章太, 紀伊寿彦, 富田良啓, 松本龍貴, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 上部尿路上皮癌におけるアルブミン/グロブリン比 (AGR) の意義. 第84回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2019年10月5日.
39. 金城真実, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 手術希望骨盤臓器脱患者における性機能の意識調査. 第39回日本性科学会, 鹿児島, 2019年10月6日.
40. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌の薬物治療. バイエル薬品株式会社社内研修, 東京, 2019年10月10日.
41. 田口慧, 上村夕香理, 藤村哲也, 森川鉄平, 内藤晶裕, 川合剛人, 鈴木基文, 久米春喜, 福原浩: 各 Gleason パターンの個別リスク定量化の試み~前立腺全摘後の定量化予後モデルの作成. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月25日.
42. 桶川隆嗣, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩: 去勢抵抗性前立腺癌治療における循環腫瘍細胞クラスターの有用性. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019年10月25日.
43. 田口慧: 限局性前立腺癌に対して手術と放射線どちらが良いのか?~先端モダリティ同士の包括比較. 日本泌尿器腫瘍学会第5回学術集会, 福岡, 2019年10月26日.
44. 桶川隆嗣: 前立腺がん治療の最前線~あきらめないがん治療・再発についてもお話しします~前立腺がん市民公開講座~あなたの治療, それで満足していますか?~. 小金井, 2019年11月2日.
45. 福原浩: 前立腺癌に対するウイルス療法. 2019中日先進医療と新薬研究サミット及び成果実業化大会, 中国, 2019年11月10日.
46. 福原浩: 前立腺がん ホルモン療法と手術そしてウイルス療法. CRPC化学療法講演会, 宇都宮, 2019年11月14日.
47. 桶川隆嗣: 多様化する前立腺癌治療戦略. 長野泌尿器科講演会, 長野, 2019年11月15日.
48. 多武保光宏, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 桶川隆嗣, 福原浩: 結石治療を三方よしとするために PNL. 第33回日本泌尿器内視鏡学会総会, 京都, 2019年11月22日.
49. 桶川隆嗣, 紀伊寿彦, 富田良啓, 松本龍貴, 大村章太,

- 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩: ロボット支援前立腺全摘術における尿禁制獲得の検討. 第33回日本泌尿器内視鏡学会総会, 京都, 2019年11月22日.
50. 桶川隆嗣, 紀伊寿彦, 富田良啓, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩: ロボット支援膀胱全摘術と腹腔鏡下膀胱全摘術の比較検討. 第33回日本泌尿器内視鏡学会総会, 京都, 2019年11月22日.
  51. 桶川隆嗣, 紀伊寿彦, 富田良啓, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩: 精巣腫瘍に対する腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術の検討. 第33回日本泌尿器内視鏡学会総会, 京都, 2019年11月22日.
  52. 桶川隆嗣: 転移性前立腺癌の薬物療法. ヤンセンファーマ株式会社社内研修, 東京, 2019年11月30日.
  53. 田口慧: 私の研究遍歴と海外遊学経験. 大阪市大 泌尿器 Laboratory Conference2019, 大阪, 2019年12月3日.
  54. 金城真実: 難治性過活動膀胱の課題と治療戦略. Botox Kick-off Meeting, 東京, 2019年12月10日.
  55. 富田良啓, 紀伊寿彦, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩, 東原英二, 柴原純二: 後腹膜Castleman's diseaseの1例. 第631回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2019年12月12日.
  56. 福原浩: 前立腺癌 手術とホルモン療法そしてウイルス療法. 第270回泌尿器科マンスリーミーティング, 京都, 2019年12月14日.
  57. 桶川隆嗣: 前立腺癌におけるCTC診断システムと次世代システムの展望. 第4回Liquid Biopsy研究会, 東京, 2020年1月18日.
  58. 福原浩: 前立腺癌 ホルモン療法と手術そしてウイルス療法. 第51回福井泌尿器科フォーラム, 福井, 2020年1月23日.
  59. 福原浩: BPHに対するタダラフィルの有効性及び前立腺癌に対するホルモン療法と手術そしてウイルス療法. 第15回JUICE, 東京, 2020年1月24日.
  60. 金城真実: 当院における医療連携に関して. 府中排尿障害セミナー, 府中, 2020年1月29日.
  61. 桶川隆嗣: 多様化する前立腺癌治療戦略〜リキッドバイオプシーからのアプローチ〜. m3web (アステラス製薬株式会社), web, 2020年1月30日.
  62. 福原浩: 前立腺癌に対するウイルス療法. 扶桑薬品工業株式会社社内勉強会, 立川, 2020年2月6日.
  63. 金城真実: 知って予防! 改善! 女性の排尿トラブル. 大沢健康講座, 三鷹, 2020年2月15日.
  64. 金城真実: 女性における過活動膀胱の治療戦略. 第50回東京泌尿器科医会, 東京, 2020年2月15日.
  65. 桶川隆嗣: 転移性腎癌における最適治療を考える. 小野薬品工業株式会社社内研修, 東京, 2020年2月20日.
  66. 福原浩: 泌尿器科がんにおける, 手術からゲノム医療まで. 岩手泌尿器科懇話会, 盛岡, 2020年2月21日.
  67. 山口剛: 当院におけるゾーフイゴ (Ra223) の使用経験. ゾーフイゴハイブリッドWEB講演会, 東京, 2020年2月27日.
- 論 文**
1. Taguchi S, Shiraishi K<sup>1</sup>, Fujimura T<sup>2</sup>, Naito A<sup>3</sup>, Kawai T<sup>3</sup>, Nakagawa K<sup>4</sup>, Abe O<sup>4</sup>, Kume H<sup>3</sup>, Fukuhara H ( <sup>1</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>2</sup>Jichi Medical University, <sup>3</sup>The University of Tokyo, <sup>4</sup>The University of Tokyo Hospital) : Robot-assisted radical prostatectomy versus volumetric modulated arc therapy : Comparison of front-line therapies for localized prostate cancer. *Radiother Oncol* 140 : 62-67, 2019. DOI : 10.1016/j.radonc.2019.05.015
  2. Taguchi S, Nakagawa T<sup>1</sup>, Fukuhara H ( <sup>1</sup>Teikyo University School of Medicine) : Re: Jürgen E. Gschwend, Matthias M. Heck, Jan Lehmann, et al. Extended Versus limited Lymph Node Dissection in Bladder Cancer Patients Undergoing Radical Cystectomy : Survival Results from a Prospective, Randomized Trial. *Eur Urol* 76(2) : e35-e36, 2019. DOI : 10.1016/j.eururo.2019.04.031
  3. Watanabe S<sup>1,2</sup>, Hayashi K<sup>3</sup>, Toh K<sup>3</sup>, Kim HJ<sup>1</sup>, Liu X<sup>3</sup>, Chaya H<sup>1</sup>, Fukushima S<sup>3</sup>, Katsushima K<sup>4</sup>, Kondo Y<sup>4</sup>, Uchida S<sup>1</sup>, Ogura S<sup>1,3</sup>, Nomoto T<sup>5</sup>, Takemoto H<sup>5</sup>, Cabral H<sup>1</sup>, Kinoh H<sup>3</sup>, Tanaka HY<sup>6</sup>, Kano MR<sup>6,7</sup>, Matsumoto Y<sup>1</sup>, Fukuhara H, Uchida S<sup>2</sup>, Nangaku M<sup>1</sup>, Osada K<sup>1</sup>, Nishiyama N<sup>5</sup>, Miyata K<sup>1</sup>, Kataoka K<sup>1,3</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>3</sup>Kawasaki Institute of Industrial Promotion, <sup>4</sup>Nagoya University Graduate School of Medicine, <sup>5</sup>Tokyo Institute of Technology, <sup>6</sup>Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry, and Pharmaceutical Sciences, <sup>7</sup>Okayama University Graduate School of Interdisciplinary Science and Engineering in Health Systems) : In vivo rendezvous of small nucleic acid drugs with charge-matched block cationomers to target cancers. *Nat Commun* 10(1) : 1894, 2019. DOI : 10.1038/s41467-019-09856-w
  4. Fujimura T<sup>1</sup>, Igawa Y<sup>2</sup>, Aizawa N<sup>2</sup>, Niimi A<sup>2</sup>, Yamada Y<sup>2</sup>, Sugihara T<sup>1</sup>, Kamei J<sup>1</sup>, Sato Y<sup>2</sup>, Matsunaga A<sup>2</sup>, Yoshida M<sup>2</sup>, Shinoda Y<sup>2</sup>, Fukuhara H, Nakagawa T<sup>3</sup>, Homma Y<sup>4</sup>, Kume H<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>Jichi Medical University, <sup>2</sup>The University of Tokyo, <sup>3</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>4</sup>President Japanese Red Cross Medical Center) : Longitudinal change of comprehensive lower urinary tract symptoms and various types of urinary incontinence during robot-assisted radical prostatectomy. *Neurourology and Urodyn* 38(4): 1067-1075, 2019. DOI : 10.1002/nau.23952
  5. Akiyama Y<sup>1</sup>, Maeda D<sup>2</sup>, Katoh H<sup>3</sup>, Morikawa T<sup>4</sup>, Niimi A<sup>5</sup>, Nomiyama A<sup>1</sup>, Sato Y<sup>1</sup>, Kawai T<sup>1</sup>, Goto A<sup>6</sup>, Fujimura T<sup>7</sup>, Fukuhara H, Nakagawa T<sup>8</sup>, Igawa Y<sup>1</sup>, Ishikawa S<sup>3</sup>, Fukayama M<sup>1</sup>, Kume H<sup>1</sup>, Homma Y<sup>9</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Osaka University, <sup>3</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>4</sup>NTT Medical Center Tokyo, <sup>5</sup>National Center for Global Health and Medicine, <sup>6</sup>Akita University, <sup>7</sup>Jichi Medical University, <sup>8</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>9</sup>Japanese Red Cross Medical Center) : Molecular Taxonomy of Interstitial Cystitis/Bladder Pain Syndrome Based on Whole Transcriptome Profiling by Next-Generation RNA Sequencing of Bladder Mucosal Biopsies. *J Urol* 202(2) : 290-300, 2019. DOI : 10.1097/JU.0000000000000234
  6. Buti S<sup>1</sup>, Karakiewicz PI<sup>2</sup>, Bersanelli M<sup>1,3</sup>, Capitanio U<sup>4</sup>, Tian Z<sup>2</sup>, Cortellini A<sup>5</sup>, Taguchi S, Briganti A<sup>4</sup>, Montorsi F<sup>4</sup>, Leonardi F<sup>1</sup>, Bandini M<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>University Hospital of Parma, <sup>2</sup>Centre de recherche du Centre Hospitalier de l'Université de

- Montréal, <sup>3</sup> University of Parma, <sup>4</sup>Vita-Salute San Raffaele University, <sup>5</sup>University of L'Aquila) : Validation of the GRade, Age, Nodes and Tumor (GRANT) score within the Surveillance Epidemiology and End Results (SEER) database : A new tool to predict survival in surgically treated renal cell carcinoma patients. *Sci Rep* 9(1) : 13218, 2019. DOI : 10.1038/s41598-019-49250-6
7. Nakato R<sup>1,2</sup>, Wada Y<sup>1,2</sup>, Nakaki R<sup>1</sup>, Nagae G<sup>1,2</sup>, Katou Y<sup>1</sup>, Tsutsumi S<sup>1</sup>, Nakajima N<sup>1</sup>, Fukuhara H<sup>1</sup>, Iguchi A<sup>3</sup>, Kohro T<sup>4</sup>, Kanki Y<sup>1,2</sup>, Saito Y<sup>2,5</sup>, Kobayashi M<sup>1</sup>, Izumi-Taguchi A<sup>1</sup>, Osato N<sup>1,2</sup>, Tatsuno K<sup>1</sup>, Kamio A<sup>1</sup>, Hayashi-Takanaka Y<sup>2,6</sup>, Wada H<sup>1,7</sup>, Ohta S<sup>7</sup>, Aikawa M<sup>8</sup>, Nakajima H<sup>3</sup>, Nakamura M<sup>1</sup>, McGee RC<sup>9</sup>, Heppner KW<sup>9</sup>, Kawakatsu T<sup>10</sup>, Genno M<sup>10</sup>, Yanase H<sup>10</sup>, Kume H<sup>1</sup>, Senbonmatsu T<sup>3</sup>, Homma Y<sup>1</sup>, Nishimura S<sup>3</sup>, Mitsuyama T<sup>2,5</sup>, Aburatani H<sup>1,2</sup>, Kimura H<sup>1,2,6</sup>, Shirahige K<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>AMED, <sup>3</sup>Saitama Medical University International Medical Center, <sup>4</sup>Jichi Medical University School of Medicine, <sup>5</sup>National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), <sup>6</sup>Tokyo Institute of Technology, <sup>7</sup>Ohta Memorial Hospital, <sup>8</sup>Harvard Medical School, <sup>9</sup>Lifeline Cell Technology, <sup>10</sup>Kurabo Industries Ltd.) : Comprehensive epigenome characterization reveals diverse transcriptional regulation across human vascular endothelial cells. *Epigenetics Chromatin* 12(1) : 77, 2019. DOI : 10.1186/s13072-019-0319-0
  8. Samejima M, Taguchi S, Miyagawa S, Matsumoto R, Omura S, Ninomiya N, Nakamura Y, Yamaguchi T, Kinjo M, Tambo M, Okegawa T, Koba T<sup>1</sup>, Matsuki R<sup>1</sup>, Jimbo I<sup>2</sup>, Motoyasu A<sup>2</sup>, Tsumura T<sup>3</sup>, Shimoyamada H<sup>4</sup>, Shibahara J<sup>4</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Fukuhara H (<sup>1</sup>Department of Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>Department of Anesthesiology, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>3</sup>Third Department of Internal Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>4</sup>Department of Pathology, Kyorin University Faculty of Medicine) : Acute hypotension induced by suction of cystic fluid containing extremely high concentrations of catecholamines during resection of giant pheochromocytoma. *IJU Case Rep* 2 : 218-220, 2019.
  9. Taguchi S, Fukuhara H, Todo T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo) : Oncolytic virus therapy in Japan: progress in clinical trials and future perspectives. *Jpn J Clin Oncol* 49(3) : 201-209, 2019. DOI : 10.1093/jcco/hyy170
  10. 福原浩, 桶川隆嗣 : 達人に学ぶロボット手術. ロボット支援下腎部分切除. *泌外* 32(4) : 343-349, 2019.
  11. 桶川隆嗣 : 前立腺癌の診断-最近の進歩-. CTCの検出とモニタリング. *Prostate J* 6(1) : 51-57, 2019.
  12. 東原英二<sup>1</sup>, 多武保光宏, 山口剛, 田口慧, 福原浩 (<sup>1</sup>杏林大・医・遺伝性腎疾患研究講座) : 腎泌尿器の遺伝性疾患・難病医療. 日本発の難病(常染色体優性多発性嚢胞腎)治療薬の開発. *腎臓内科・泌尿器科* 9(5) : 448-456, 2019.
  13. 金城真実, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩, 嘉村康邦<sup>1</sup> (<sup>1</sup>四谷メディカルキューブ) : 女性腹圧性尿失禁患者における中部尿道スリング術による性機能の評価. *日性機能会誌* 34(1) : 9-15, 2019.
  14. 金城真実, 福原浩 : 過活動膀胱に注目!. 過活動膀胱の総論 疫学. *Pharm Med* 37(6) : 15-20, 2019.
  15. 金城真実 : Pros and Cons 2「過活動膀胱治療:抗コリン薬 vs B3作動薬」. OABの薬物治療、B3作動薬の位置づけ. *日排尿機能会誌* 29(2) : 390-395, 2019.
  16. 桶川隆嗣, 福原浩 : ロボット手術は汎用技術となるか?. ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術の有用性 腹腔鏡下前立腺全摘術・開腹前立腺全摘術との比較. *杏林医会誌* 50(2) : 77-83, 2019.
  17. 福原浩, 桶川隆嗣 : ロボット手術は汎用技術となるか?. 泌尿器科の現況と将来展望. *杏林医会誌* 50(2) : 65-69, 2019.
  18. 角谷成紀<sup>1</sup>, 福原浩 (<sup>1</sup>三井記念病院) : がん治療用ウイルスを用いたウイルス療法. *腫瘍内科* 24(1) : 81-86, 2019.
  19. 桶川隆嗣 : ここまで見える! 泌尿器科における可視化の進歩. 細胞の可視化 CTCの可視化と遺伝子検査. *臨泌* 73(9) : 650-655, 2019.
  20. 金城真実 : 女性泌尿器科疾患の治療とケア 骨盤臓器脱&尿失禁. (第2章)診断と治療 性機能障害. *Uro-Lo別冊* : 99-106, 2019.
  21. 多武保光宏, 福原浩 : 困難な腎結石を克服する～PCNL? fTUL? Combined?～. 困難な腎結石をPNLで克服する. *Jpn J Endourol* 32(2) : 172-177, 2019.
  22. 大浦紀彦<sup>1</sup>, 桶川隆嗣 (<sup>1</sup>杏林大・医・形成外科学) : 末梢動脈疾患(PAD)・胸骨骨髄炎・褥瘡(Part2). 難治性創傷の現状と展望. *杏林医会誌* 50(3) : 137-142, 2019.
  23. 竹脇史絵<sup>1</sup>, 炭谷由計<sup>1</sup>, 金城真実, 安田和基<sup>1</sup> (<sup>1</sup>杏林大・医・糖尿病・内分泌・代謝内科) : 糖尿病自律神経障害. 糖尿病における下部尿路機能障害. *内分泌糖尿代謝内科* 49(4) : 287-291, 2019.
  24. 田口慧, 中川徹<sup>1</sup>, 福原浩 (<sup>1</sup>帝京大) : 尿路上皮癌におけるサルコペニアの意義. *日老泌会誌* 32(2) : 22-30, 2019.
  25. 田口慧, 福原浩 : 限局性前立腺癌に対する手術と外照射放射線療法の比較. *臨泌* 73(12) : 869-877, 2019.
  26. 多武保光宏 : 中高年の排尿トラブルを解消する 男性下部尿路症状の原因と治療. *杏林医会誌* 50(4) : 203-206, 2019.
  27. 金城真実 : 中高年の排尿トラブルを解消する 女性の排尿トラブルの原因とその対策. *杏林医会誌* 50(4) : 207-210, 2019.
  28. 田口慧, 中川徹<sup>1</sup>, 久米春喜<sup>2</sup>, 福原浩 (<sup>1</sup>帝京大, <sup>2</sup>東京大) : 泌尿器科癌のリンパ節郭清:最新エビデンスとエキスパートの実践. 膀胱癌に対するリンパ節郭清のエビデンス 現在の至適郭清範囲とは?. *泌外* 33(1) : 27-32, 2019.
  29. Tambo M, Taguchi S, Nakamura Y, Okegawa T, Fukuhara H : Presepsin and procalcitonin as predictors of sepsis based on the new Sepsis-3 definition in obstructive acute pyelonephritis. *BMC Urol* 20(1) : 23, 2020. DOI : 10.1186/s12894-020-00596-4
  30. Masuda K<sup>1</sup>, Aizawa N<sup>1,2</sup>, Watanabe D<sup>1</sup>, Okegawa T, Kume H<sup>1</sup>, Igawa Y<sup>1,3</sup>, Fukuhara H (<sup>1</sup>The University of Tokyo Graduate School of Medicine, <sup>2</sup>Dokkyo Medical University School of Medicine, <sup>3</sup>Nagano Prefectural Shinshu Medical Center) : Pathophysiological changes of the lower urinary tract behind voiding dysfunction in streptozotocin-

induced long-term diabetic rats. *Sci Rep* 10(1) : 4182, 2020. DOI : 10.1038/s41598-020-61106-y

31. Okegawa T, Omura S, Samejima M, Ninomiya N, Taguchi S, Nakamura Y, Yamaguchi T, Tambo M, Fukuhara H : Laparoscopic radical prostatectomy versus robot-assisted radical prostatectomy : comparison of oncological outcomes at a single center. *Prostate Int* 8(1) : 16-21, 2020. DOI : 10.1016/j.prn.2019.09.004
32. Kakutani S<sup>1,2</sup>, Asamoto M<sup>3</sup>, Araki F<sup>1</sup>, Chen YN<sup>1</sup>, Shinokawa M<sup>3</sup>, Okagami Y<sup>3</sup>, Ohata T<sup>3</sup>, Taguchi S, Yamada Y<sup>1</sup>, Takeshima Y<sup>1</sup>, Kume H<sup>1</sup>, Yamada Y<sup>3</sup>, Aihara M<sup>1</sup>, Ito N<sup>3</sup>, Fukuhara H ( <sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Mitsui Memorial Hospital, <sup>3</sup>The University of Tokyo Hospital ) : Prospective evaluation of visual function in patients with ocular diseases after robot-assisted laparoscopic prostatectomy. *Int J Urol* 27(4) : 307-312, 2020. DOI : 10.1111/iju.14183
33. Yoshida A<sup>1</sup>, Arai Y<sup>2</sup>, Hama N<sup>2</sup>, Chikuta H<sup>2</sup>, Bando Y<sup>3</sup>, Nakano S<sup>4</sup>, Kobayashi E<sup>1</sup>, Shibahara J<sup>5</sup>, Fukuhara H, Komiyama M<sup>1</sup>, Watanabe SI<sup>1</sup>, Tamura K<sup>1</sup>, Kawai A<sup>1</sup>, Shibata T<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Research Institute, <sup>3</sup>Tokushima University Hospital, <sup>4</sup>Tokushima University Graduate School of Biomedical Sciences, <sup>5</sup>Department of Pathology, Kyorin University Faculty of Medicine ) : Expanding the clinicopathologic and molecular spectrum of BCOR-associated sarcomas in adults. *Histopathology* 76(4) : 509-520, 2020. DOI : 10.1111/his.14023
34. Shimizu T<sup>1</sup>, Yamaguchi K<sup>1</sup>, Yamamoto M<sup>1</sup>, Kurioka R<sup>1</sup>, Kino Y<sup>1</sup>, Matsunaga W<sup>2</sup>, Nakao S<sup>3</sup>, Fukuhara H, Tanaka A<sup>1</sup>, Gotoh A<sup>2</sup>, Mabuchi M<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Hyogo University of Health Sciences, <sup>2</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>3</sup>RIKEN Cluster for Pioneering Research ) : Identification of HUHS190, a human naftopidil metabolite, as a novel anti-bladder cancer drug. *Bioorg Med Chem Lett* 30(1) : 126744, 2020. DOI : 10.1016/j.bmcl.2019.126744
35. Taguchi S, Nakagawa T<sup>1</sup>, Fukuhara H ( <sup>1</sup>Teikyo University School of Medicine ) : Inconsistencies in currently used definitions of sarcopenia in oncology. *Ann Oncol* 31(2) : 318-319, 2020. DOI : 10.1016/j.annonc.2019.10.020

## 著書

1. 福原浩 (分担執筆) : 19.泌尿器科疾患 導尿法, 膀胱穿刺法, 膀胱瘻造設術. 今日の治療指針2020年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2020. p.1191.
2. 福原浩 (分担執筆) : 19.泌尿器科疾患 導尿法, 膀胱穿刺法, 膀胱瘻造設術. 今日の治療指針2020年版 (ポケット判). 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2020. p.1191.
3. 桶川隆嗣 (分担執筆) : 19.泌尿器科疾患 尿道腫瘍 (尿道カルンクルを含む). 今日の治療指針2020年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2020. p.1232.
4. 桶川隆嗣 (分担執筆) : 19.泌尿器科疾患 尿道腫瘍 (尿道カルンクルを含む). 今日の治療指針2020年版 (ポケット判). 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2020. p.1232.
5. 桶川隆嗣 (分担執筆) : 嚢胞性腎疾患. 今日の診断指

針 第8版. 永井良蔵総編集. 東京, 医学書院, 2020. p.1720-1722.

## その他

1. 田口慧 : 緩徐増殖性腫瘍に対するプロモータ制御型がん治療用ヘルペスウイルスの活用—後腹膜脂肪肉腫での検討. 第107回日本泌尿器科学会総会, 総会賞, 2019年4月18日.
2. 金城真実 : 女性腹圧性尿失禁患者における中部尿道スリング術による性機能の評価. 第13回日本性機能学会学会賞, 学会賞, 2019年9月22日.
3. 桶川隆嗣 : 去勢抵抗性前立腺癌治療における循環腫瘍細胞クラスターの有用性. 第57回日本癌治療学会学術集会, 優秀演題賞, 2019年10月25日.
4. 福原浩 : 健康コラム 前立腺がん 検診は必要?それとも不要?. 広報みたか(No.1663 p.6), 2020年3月15日.

## 遺伝性腎疾患研究講座

### 講演

1. 大村章太, 田口慧, 宮川昌悟, 松本龍貴, 鮫島未央, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 福原浩 : 上部尿路上皮癌におけるアルブミン/グロブリン比(AGR)の意義. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月18-21日.
2. 山口剛, 東原英二, 重森香織, 多武保光宏, 宮崎功, 桶川隆嗣, 横山健一, 要伸也, 福原浩 : 多発性嚢胞腎患者における血漿浸透圧、24時間尿浸透圧とHt-TKV、eGFRとの関連. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019年4月18-21日.
3. 東原英二, 堀江重郎, 福原浩, 武藤智, Lee Jennifer : 多発性嚢胞腎における腎容積増大速度の新しい指標 : TEMPO3:4 Clinical Trial. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
4. 熊本海生航, 釘田雅則, 吉村文, 藤本清秀, 千原良友, 小島直人, 東原英二, 長尾静子, 石橋道男 : NG2活性化による腎髄質ペリサイト機能温存とラットPCK多発性嚢胞腎モデルにみられる糸球体病変の軽減. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
5. 富田良啓, 紀伊寿彦, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 東原英二, 桶川隆嗣, 柴原純二, 福原浩 : 後腹膜発生Castleman's diseaseの1例. 第631回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2019年12月12日.

### 論文

1. 東原英二, 多武保光宏<sup>1</sup>, 山口剛<sup>1</sup>, 田口慧<sup>1</sup>, 福原浩<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・医・泌尿器科) : 日本発の難病 (常染色体優性多発性嚢胞腎) 治療薬の開発. *腎臓内科・泌尿器科* 9 : 448-456, 2019.
2. 富田良啓<sup>1</sup>, 山口剛<sup>1</sup>, 紀伊寿彦<sup>1</sup>, 松本龍貴<sup>1</sup>, 鮫島未央<sup>1</sup>, 二宮直紀<sup>1</sup>, 中村雄<sup>1</sup>, 田口慧<sup>1</sup>, 金城真実<sup>1</sup>, 多武保光宏<sup>1</sup>, 東原英二, 桶川隆嗣<sup>1</sup>, 柴原純二<sup>2</sup>, 福原浩<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・医・泌尿器科, <sup>2</sup>杏林大・医・病理学) : 腎癌術後多発性肺転移に対するニボルマブ投与によって心筋炎を発症した1例. *泌尿器外科* 33 : 201, 2020.
3. Gonda K<sup>1,2</sup>, Akama T<sup>1</sup>, Nakamura T<sup>3</sup>, Hashimoto E<sup>3</sup>, Kyoya N<sup>3</sup>, Rokkaku Y<sup>3</sup>, Maejima Y<sup>1</sup>, Horita S<sup>1</sup>, Tachibana K<sup>1</sup>, Abe N<sup>1</sup>, Ohtake T<sup>1</sup>, Shimomura K<sup>1</sup>, Kono K<sup>1</sup>, Saji S<sup>1</sup>, Takenoshita S<sup>4</sup>, Higashihara E ( <sup>1</sup>Fukushima Medical University, <sup>2</sup>Daido Obesity and Metabolism Research Centre, <sup>3</sup>Japan Community Healthcare Organization Nihonmatsu

Hospital, <sup>4</sup>President of Fukushima Medical University) : Cluster of differentiation 8 and programmed cell death ligand 1 expression in triple-negative breast cancer combined with autosomal dominant polycystic kidney disease and tuberous sclerosis complex: A case report. *J Med Case Rep* 13(1):381, 2019. DOI: 10.1186/s13256-019-2274-6.

## 眼科学教室

## 講演

1. 北善幸: 新しい緑内障手術—MIGSについて—。緑内障治療のアップデート/MIGSセミナー, 立川, 2019年4月4日。
2. Inoue M : Clinical characteristics of epiretinal proliferation associated with macular hole. The International Meeting of the Egyptian Vitreoretinal Society 2019, Egypt, April 10th-12th, 2019.
3. Inoue M : Intraoperative OCT combined with heads-up surgery for macular disease . The International Meeting of the Egyptian Vitreoretinal Society 2019, Egypt, April 10th-12th, 2019.
4. Inoue M : Subretinal injection of t-PA under air for submacular hemorrhage. The International Meeting of the Egyptian Vitreoretinal Society 2019, Egypt, April 10th-12th, 2019.
5. Inoue M : Needle drainage of choroidal fluid in PVR. The International Meeting of the Egyptian Vitreoretinal Society 2019, Egypt, April 10th-12th, 2019.
6. Inoue M : Sub-silicon proliferation in anterior PVR. The International Meeting of the Egyptian Vitreoretinal Society 2019, Egypt, April 10th-12th, 2019.
7. 井上真 : 眼底疾患—見逃さないためのポイント—。眼疾患の危険水域—紹介のタイミングを逃さないために—第76回生涯教育講座, 名古屋, 2019年4月14日。
8. 井上真 : AutoNoMe Users' meeting. 東京, 2019年4月17日。
9. 重安千花, 柳沼重晴, 阿久根陽子, 久須見有美, 山田昌和 : 正常者とドライアイ患者の涙液分析。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18日。
10. 山田昌和 : 公的な成人眼科検診。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月19日。
11. 山田昌和 : 角結膜診療プロの視点: 症例から学ぶ。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月19日。
12. 北善幸 : 進化するMIGSと360度隅角カラー撮影装置活用の重要性。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月19日。
13. 熊谷真里子, 中山真紀子, 江本宣暢, 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ : 網膜色素線条の脈絡膜新生血管に対する治療成績。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
14. Yamamoto A, Ohji M, Takahashi K, Kobayashi M, Terano Y, Okada AA on behalf of the ALTAIR investigators : Intravitreal aflibercept treat-and-extend dosing for wAMD: ALTAIR 96-week results. 第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
15. 長堀克哉, Nina Aicher, 井上真, 石田友香, 加藤悠, 伊東祐二, 厚東隆志, 平形明人 : 前眼部OCTアンギオグラフィを用いた内眼部手術前後における眼表面血管密度。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
16. 佐野公彦, 平形明人, 石田友香, 加藤悠, 伊東祐二, 廣田和成, 厚東隆志, 北善幸, 井上真 : 乳頭ピット黄斑症における硝子体手術後の復位に影響する因子。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
17. 石田友香, 井上真, 加藤悠, 佐野公彦, 伊東祐二, 厚東隆志, 廣田和成, 北善幸, 平形明人 : IOL強膜内固定術の適応疾患、背景因子、合併症についての検討。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
18. 安藤良将, 慶野博, 井上真, 高橋洋如, 佐野公彦, 厚東隆志, 廣田和成, 佐藤智人, 竹内大, 平形明人 : 強度近視眼と日強度近視眼における黄斑円孔の硝子体中microRNAの検討。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
19. 加藤悠, 井上真, 平形明人 : Quantification of the images obtained with Optos® 200Tx and Optos® California. 第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
20. 新井千賀子, 山崎菜都子, 玉田俊介, 尾形真樹, 北善幸, 厚東隆志, 小田浩一, 井上真, 岡田アナベルあやめ, 平形明人 : 杏林アイセンターロービジョンケアの実態—上位4疾患の分析。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
21. 井上真 : 硝子体手術、各々の原点。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
22. 井上真 : デジタル支援の眼科手術。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
23. 慶野博 : 眼所見から考える眼炎症・眼感染症疾患, 内因性眼炎症疾患の眼所見。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月18 - 21日。
24. 山田昌和 : ドライアイの自覚症状を科学する, Patient Reported Outcomeの観点から。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月20日。
25. 山田昌和 : Contact Lens Discomfortとドライアイ。第123回日本眼科学会総会, 東京, 2019年4月21日。
26. 平形明人 : 緑内障眼に合併する網膜分離様所見と治療。第12回筑後眼科教育セミナー, 久留米, 2019年4月26日。
27. Keino H, Nakayama M, Watanabe T, Ando Y, Koto T, Hirota K, Inoue M, Okada AA : Decreased optic nerve head blood flow in acute retinal necrosis. ARVO, Canada, April 28-May 2, 2019.
28. Inoue M, Aicher N, Bissen-Miyajima H, Hirakata A : Quality of image of grating target placed in model eye and observed through extended depth of focus intraocular lenses. ARVO, Canada, April 28-May 2, 2019.
29. 井上真 : Needle drainage of choroidal fluid in PVR, そして大きな過ち。第24回信濃町網膜研究会, 東京, 2019年5月10日。
30. 厚東隆志 : 消えたLHEP。第24回信濃町網膜研究会, 東京, 2019年5月10日。
31. 山田昌和 : ちょっと気になる角結膜疾患。第7回ORCA, 名古屋, 2019年5月12日。
32. Gabrielle PH, Crezot-Garcher C, Lowenstein A, Jousen A, Korobelnik JF, Okada AA : Management of subfoveal hemorrhage in AMD. Le 125e Congres

- International de la Societe Francaise d'Ophthalmologie, France, May 11-14, 2019.
33. 山田昌和:マイボーム腺機能不全とドライアイ. 第13回箱根ドライアイクラブ, 小田原, 2019年5月24日.
  34. 井上真: Epiretinal proliferation associated with Macular Hole. Is It Peeled or Trimmed? .Osaka Retina Meeting 2019, 大阪, 2019年5月25日.
  35. 井上真: NGENUITY® DATAFUSION™ + 27G HYPERVIT™. 大学病院での活用法. Vitエリアセミナー東京2019, 東京, 2019年5月19日.
  36. 山田昌和: ガイドラインを活かしたドライアイ診療. 大塚e講演会, 東京, 2019年6月5日.
  37. 厚東隆志: 網膜剥離に対するprimary vitrectomyの考え方. 第13回眼科疾患研究会, 東京, 2019年6月11日.
  38. 北善幸: 最新の緑内障治療. 興和株式会社社内勉強会, 武蔵野, 2019年6月13日.
  39. 井上真: 3D Heads-up surgery. 第18回硝子体手術ビデオセミナー, 東京, 2019年6月22日.
  40. 矢田長洋, 満川忠宏, 鈴木由美, 富田茜, 浜由起子, 山田昌和: 術後外斜視に移行した内斜視症例の検討. 第75回日本弱視斜視学会, 浜松, 2019年6月14日.
  41. 井上真: Digital assisted vitrectomy そしてbeyond. 札幌眼科カンファレンス2019, 札幌, 2019年6月15日.
  42. 厚東隆志: 近視性牽引黄斑症のサージカルマネージメント. 千葉県脈絡膜疾患シンポジウム2019, 千葉, 2019年6月22日.
  43. Okada AA: WHO recommended treatment for extrapulmonary tuberculosis. The 6th International Workshop on Ocular Tuberculosis, Global Ocular Inflammation Workshops 2019, Sapporo, June 28, 2019.
  44. Abe S, Nakamura T, Oiwake T, Okada AA, Hayashi A: Paradoxical worsening in a case of tuberculous choroiditis. Global Ocular Inflammation Workshops 2019, Sapporo, June 28-30, 2019.
  45. Ando Y, Keino H, Kudo A, Hirakata A, Okada AA, Umezawa K: Anti-inflammatory effects of DHMEQ on ARPE-19 cells. Global Ocular Inflammation Workshops 2019, Sapporo, June 28-30, 2019.
  46. 厚東隆志: 実臨床におけるRVO治療 抗VEGF治療の使い方. 第67回日本臨床視覚電気生理学学会, 東京, 2019年6月28日.
  47. 久保さえ子, 重安千花, 久須見有美, 藤井かんな, 山田昌和: 顔面神経麻痺に併発したAlterinaria属による感染性角膜潰瘍の1例. 第56回日本眼感染症学会, 京都, 2019年7月5日.
  48. 久須見有美, 重安千花, 藤井かんな, 山田昌和: 真菌性角膜炎治療中に抗真菌薬点眼の石灰様沈着を来した1例. 第56回日本眼感染症学会, 京都, 2019年7月5日.
  49. 山田昌和: Contact Lens Discomfortとドライアイ. 第62回日本コンタクトレンズ学会総会, 京都, 2019年7月6日.
  50. Inoue M: Macular dehiscence- associated with epiretinal proliferation in macular hole and microstructural recovery after vitrectomy. The 6th Annual Meeting of Asia-Pacific Ocular Imaging Society Kwan Retinal Imaging Symposium, Korea, July5-6, 2019.
  51. 長堀克哉, 中山真紀子, 慶野博, 安藤良将, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 当院における眼サルコイドーシス60例の臨床経過の検討. 第53回日本眼炎症学会, 京都, 2019年7月5 - 6日.
  52. 山田昌和: 涙液油層のあたらしい展開. 第8回日本涙道・涙液学会総会, 京都, 2019年7月7日.
  53. 山田昌和: ちょっと気になる前眼部疾患. 江戸川区眼科医会夏季学術講演会, 東京, 2019年7月10日.
  54. 井上真: 硝子体注射後眼内炎の傾向と対策. Kanagawa Retina Forum 2019, 横浜, 2019年7月12日.
  55. 山田昌和: ドライアイ診療アップデート. 第8回関西西角膜セミナー, 大阪, 2019年7月13日.
  56. Inoue M, Hirakata A: Flow dynamics of 10K beveled-tip and 7.5K flat-tip vitreous cutters. ASRS Annual meeting 2019, USA, July 27-30, 2019.
  57. Inoue M: Intraoperative OCT to detect IOL tilt during intrascleral fixation. ASRS Annual meeting 2019, USA, July 27-30, 2019.
  58. 北善幸: 油断大敵、緑内障! . 府中市医師会講演会, 府中, 2019年7月31日.
  59. 井上真: ~糖尿病網膜症・黄斑浮腫の治療を考える~ PDRへのベベルドカッターを使用した小切開硝子体手術. 京滋黄斑クラブ, 大津, 2019年8月3日.
  60. 岡田アナベルあやめ, 長堀克哉, 中山真紀子, 慶野博, 安藤良将, 渡辺交世: IWOS Revised Criteria (2019)にて診断された眼サルコイドーシス症例の黄斑合併症. Japan Macula Club, 蒲郡, 2019年8月24 - 25日.
  61. 平形明人: 緑内障眼に合併する網膜分離様所見と治療. 第69回愛媛県眼科フォーラム, 松山, 2019年8月25日.
  62. 井上真: 白内障手術併用における低侵襲手術「網膜硝子体手術における白内障手術併用低侵襲手術」. 第100回岡山大学眼科研究会, 岡山, 2019年8月31日.
  63. 北善幸: 落屑緑内障の外科的治療. 多摩地区緑内障勉強会AYR 2019, 立川, 2019年8月31日.
  64. 山田昌和: コンタクトレンズとオキュラーサーフェス. 第65回埼玉県眼科集談会, さいたま, 2019年9月1日.
  65. 厚東隆志: 糖尿病網膜症とロービジョンケア. 第2回北多摩北部糖尿病眼科連携セミナー, 東京, 2019年9月3日.
  66. Ohji M, Takahashi K, Okada AA, Kobayashi M, Matsuda Y, Terano Y: Intravitreal aflibercept treat-and-extend dosing for wet age-related macular degeneration: week 16 fluid status and 96-week results from the ALTAIR study. 19th European Society of Retina Specialists Annual Congress. France, Sept 5-8, 2019.
  67. 齊藤恒浩, 北善幸, 村井顕子, 江本宜暢, 角田和繁, 平形明人: 網膜電位計RETevalを用いて測定した photopic negative responseによる緑内障病期診断. 第30回日本緑内障学会, 熊本, 2019年9月6 - 8日.
  68. 百田陽介, 北善幸, 齊藤恒浩, 江本宜暢, 角田和繁, 平形明人: RETevalを用いて測定した photopic negative responseに及ぼす眼軸長の影響. 第30回日本緑内障学会, 熊本, 2019年9月6 - 8日.
  69. 北善幸: イメージング研究の未来、360度隅角カラー撮影と前眼部OCTによる隅角観察. 第30回日本緑内障学会, 熊本, 2019年9月8日.
  70. Kusumi Y, Suzuki Y, Mitsukawa T, Shigeyasu C, Matsuki N, Yamada M: Changes of crystalline lens during accommodation evaluated by anterior segment optical coherence tomography. 37th

- congress of the ESCRS, France, September 14th-18th, 2019.
71. Yamada M, Kawashima M, Hiratsuka Y, Nakano T, Tamura H, Ono K, Murakami A, Tsubota K: Assessment of physical inactivity and locomotor dysfunction in adults with visual impairment. 37th congress of the ESCRS, France, September 14th-18th, 2019.
  72. Suzuki Y, Mitsukawa T, Momota S, Suzuki Y, Hama A, Tomita M, Yamada M: Characteristics of ocular biometric components in children with refractive errors. 37th congress of the ESCRS, France, September 14th-18th, 2019.
  73. 北善幸: 再確認! 緑内障診断と治療のコツ. 国分寺市眼科勉強会, 国分寺, 2019年9月18日.
  74. 慶野博: 症例報告. 第40回ぶどう膜炎カンファレンス, 東京, 2019年9月20日.
  75. 平形明人: History of AVS course. 第26回硝子体手術講習会, 東京, 2019年9月21 - 22日.
  76. 平形明人: Case presentation and reply for questions from audience. 第26回硝子体手術講習会, 東京, 2019年9月21 - 22日.
  77. 山田昌和: コンタクトレンズ, 合併症や問題点のトピックス. 令和元年東京都コンタクトレンズ管理者講習会, 東京, 2019年9月21日.
  78. 井上真: Fluidics of the Beveled cutter, How it works. The 26th Advanced Vitreous Surgery Course in Tokyo 2019, 東京, 2019年9月21 - 22日.
  79. 井上真: Inverted prepapillary membrane for optic pit. Retinaws. The 26th Advanced Vitreous Surgery Course in Tokyo 2019, 東京, 2019年9月21 - 22日.
  80. 井上真: Large macular hole. Retinaws. The 26th Advanced Vitreous Surgery Course in Tokyo 2019, 東京, 2019年9月21 - 22日.
  81. 井上真: Optic capture after intrascleral fixation of IOL. The 26th Advanced Vitreous Surgery Course in Tokyo 2019, 東京, 2019年9月21 - 22日.
  82. 井上真: Intraocular foreign body. The 26th Advanced Vitreous Surgery Course in Tokyo 2019, 東京, 2019年9月21 - 22日.
  83. 井上真: Subretinal green spots. The 26th Advanced Vitreous Surgery Course in Tokyo 2019, 東京, 2019年9月21 - 22日.
  84. Koto T, Inoue M: "Unimanual" technique for sever PDR using 27G beveled cutter. The 26th Advanced Vitreous Surgery Course, 東京, 2019年9月22日.
  85. 山田昌和: ちょっと気になる前眼部疾患. 練馬区眼科医会学術講演会, 東京, 2019年9月26日.
  86. Treder M, Okada AA, Lowenstein A, Jousen A, Korobelnik JF, Eter N: Management of subfoveal hemorrhage. Congress of the German Ophthalmological Society, Germany, September 26-29, 2019.
  87. Ziegler A, Pauleikhoff D, Korobelnik JF, Merani R, Darbar A, Lanzetta P, Okada AA, Hunyor AP: Topical antibiotics and intravitreal injections. Congress of the German Ophthalmological Society, Germany, September 26-29, 2019.
  88. 井上真: 我々は糖尿病合併症の制圧に近づけたか? 手術治療の進歩と限界. 第25回日本糖尿病眼学会総会, 大阪, 2019年9月27 - 28日.
  89. 井上真, 佐野公彦, 厚東隆志, 平形明人: 増殖糖尿病網膜症における27ゲージベベルドカッターの有用性. 第25回日本糖尿病眼学会総会, 大阪, 2019年9月27 - 28日.
  90. 山田昌和: コンタクトレンズとオキュラーサーフェス. 第19回東北屈折矯正研究会, 八戸, 2019年9月29日.
  91. Inoue M: Vitreoretinal Surgery in Eyes Implanted with Premium IOLs. CHANKO NABE - Anything Goes 32nd APACRS 2019, Kyoto, October 4th-6th, 2019.
  92. 北善幸: 最新の眼科検査で何がかわるか? 隅角撮影装置. 第55回日本眼科学会総会, 金沢, 2019年10月6日.
  93. Hirakata A: What you need to know about pathologic myopia. American Academy of Ophthalmology 2019, USA, October 12th-15th, 2019.
  94. Meyer CH, Rodrigues EB, Haritoglou C, Ryan EH, Inoue M, Maia M, Hillenkamp J, Alezzandrini A, Szurmann P, Lytvynchuk L, Zas M, Wachtlin J, Mennel S, Pringlinger S, Gotzaridis S, Rezende F, Ruban A, Andrade G, Maier M, Sohn EH, Wolf A, Koss M: Subretinal fluid to close refractory full thickness macula holes: a global perspective. AAO, USA, October 12th-15th, 2019.
  95. 山田昌和: 角結膜疾患の薬物療法: 薬剤の選択と使い方. 第62回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹, 2019年10月19日.
  96. 山田昌和, 平塚義宗, 高野繁, 川崎良, 田村寛, 北善幸, 渡邊友之, 中野匡, 横山徹爾: 詳細な眼科検査による本邦成人の眼疾患調査. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24日.
  97. 平塚義宗, 川崎良, 小野浩一, 山田昌和, 山下英俊: 眼科医のための臨床疫学研究デザイン塾3 介入研究. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24日.
  98. 秋山陽一, 松本真弥, 重安千花, 久須見有美, 山田昌和: 光干渉断層血管撮影による結膜充血の定量的評価. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24日.
  99. 内田翔子, 重安千花, 久須見有美, 藤井かんな, 山田昌和: 角膜潰瘍穿孔例に対する生体接着剤シアノアクリレートの有効性. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24日.
  100. 渡辺仁, 島崎潤, 横井則彦, 山田昌和: ドライアイスペシャリストの老舗こだわり講R~ドライアイ診療ガイドライン解説~. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月25日.
  101. 厚東隆志: 3D head-up手術と顕微鏡下手術における術中頭位移動と瞬目回数の比較. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月25日.
  102. 厚東隆志: 術中光干渉断層計Rescanによる術中診断. 第73回日本臨床眼科学会総会, 東京, 2019年10月25日.
  103. 富田茜, 鈴木由美, 関口愛, 満川忠宏, 浜由起子, 山田昌和: 純調節性内斜視における立体視の検討. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月26日.
  104. 久須見有美, 重安千花, 藤井かんな, 山田昌和: 前眼部光干渉断層血管撮影を用いた翼状片術後の結膜血管密度変化の評価. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月26日.
  105. 渡邊友之, 平塚義宗, 高野繁, 川崎良, 田村寛, 北善幸, 中野匡, 山田昌和: OCTを付加した眼科検診にお



- ける緑内障精度評価. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月27日.
106. 中山真紀子, 慶野博, 渡辺交世, 林勇海, 岡田アナベルあやめ: 原田病および交感性眼炎に対するアダリムマブ導入例の検討. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24 - 27日.
  107. 丸子一朗, 小笠原雅, 山本亜希子, 板垣可奈子, 長谷川泰司, 荒川久弥, 中山真紀子, 古泉英貴, 岡田アナベルあやめ, 石龍鉄樹, 飯田知弘: 滲出型AMDに対するアフリベルセプト1か月毎Treat and Extend法の2年成績. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24 - 27日.
  108. 新井千賀子, 山崎菜都子, 玉田俊介, 尾形真樹, 厚東隆志, 小田浩一, 井上真, 平形明人: 網膜色素変性患者の読書成績とQuality of life. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24 - 27日.
  109. 福本隆基, 石田友香, 井上真, 平形明人: フランジ法眼内レンズ強膜内固定術での術中OCTによる眼内レンズ傾斜の術中観察. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24 - 27日.
  110. 井上真, 平形明人: 10Kベベルドカッターと7.5Kフラットチップカッターの流体動態. 第58回日本網膜硝子体学会, 長崎, 2019年10月24 - 27日.
  111. 加藤悠, 平形明人, 北善幸, 井上真: 硝子体術後ガス置換眼におけるCorneal hysteresis. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24 - 27日.
  112. 厚東隆志, 井出武, 上間裕二, 伊東裕二, 加藤悠, 井上真, 平形明人: 3D head-up手術と顕微鏡下手術における術中頭位移動と瞬目回数の比較. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24 - 27日.
  113. 黄俐穎, 伊東裕二, 井上真, 平形明人: 光干渉断層計による特発性黄斑前膜のステージ分類とその有用性について. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24 - 27日.
  114. 佐藤尚人, 向後二郎, 米田一仁, 大澤俊介, 平形明人: 硝子体手術クエスチョンバンク 剥離編. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019年10月24 - 27日.
  115. 井上真: 網膜硝子体手術のunmet-needsへの挑戦「術中OCT所見と術後視機能回復との関連」. 第74回日本臨床眼科学会, 東京, 2019年10月24 - 27日.
  116. 井上真: 徹底討論! 最新の糖尿病黄斑浮腫診療2019「網膜光凝固や白内障術前の予防的薬物療法—ほぼ不要」. 第74回日本臨床眼科学会, 東京, 2019年10月24 - 27日.
  117. 井上真: 眼科手術顕微鏡 アナログからデジタルへARTEVO800 from ZEISS 臨床におけるARTEVO800の実力. 第74回日本臨床眼科学会, 東京, 2019年10月24 - 27日.
  118. 井上真: Clinical experience of posterior segment surgeries with ATREVO800. ARTEVO800新製品発表会, 東京, 2019年10月24日.
  119. Hirakata A: The management of myopic traction maculopathy. The 122nd Annual Meeting of the Korean Ophthalmological Society, Korea, November 1st, 2019.
  120. Keino H: Treatment strategy for refractory uveoretinitis associated with Behcet's disease in Japan. The 122th Annual Meeting of the Korean Ophthalmological Society, Korea, November 1st-3rd, 2019.
  121. 平形明人: 慶大眼科と硝子体手術、そこから学んだこと. 慶應義塾大学医学部眼科学教室創設100年記念講演会, 東京, 2019年11月2日.
  122. Inoue M: Digital-assisted Vitrectomy. The Annual Meeting of Macular Society of Cross-Straits Medicine Exchange Association. The PCV Summit 2019, China, November 2nd-3rd, 2019.
  123. 平形明人: 網膜分離を合併する網膜剥離の対応. 第40回産業医科大学眼科研究会, 北九州, 2019年11月9日.
  124. 岡田アナベルあやめ: AMD治療の光と影, 第1回ラベッシュの会, 東京, 2019年11月9日.
  125. 鈴木由美: 屈折異常に関連する斜視. 第21回西東京眼科フォーラム, 東京, 2019年11月13日.
  126. 石田友香: グローバル時代の網膜硝子体手術. 第21回西東京眼科フォーラム, 東京, 2019年11月13日.
  127. Keino K: Management of Uveitis Complications, Preoperative Approach to the Uveitic Cataract. International Ocular Inflammation Society (IOIS) 2019 Congress, Taiwan, November 13th-16th, 2019.
  128. Keino H, Nakayama M, Watanabe T, Ando Y, Hayashi I, Fukuoka K, Komagata Y, Okada AA: Long term efficacy of infliximab in refractory uveoretinitis associated with Behcet's disease. 15th International Ocular Inflammation Society Congress, Taiwan, November 13th-16th, 2019.
  129. Nakayama M, Abe S, Hayashi I, Keino H, Watanabe T, Ando Y, Okada AA: Evaluation of the use of adalimumab in the treatment of VKH disease and sympathetic ophthalmia. 15th International Ocular Inflammation Society Congress, Taiwan, November 13th-16th, 2019.
  130. Ando Y, Keino H, Nakayama M, Watanabe T, Hirakata A, Okada AA: A case of HLA-B27 positive acute anterior uveitis with periodontitis. 15th International Ocular Inflammation Society Congress, Taiwan, November 13th-16th, 2019.
  131. Okada AA: Patterns of Scleritis in Japan. 15th International Ocular Inflammation Society Congress, Taiwan, November 14th, 2019.
  132. Okada AA: OCT imaging of the retina and choroid in uveitis and related diseases. 15th International Ocular Inflammation Society Congress, Taiwan, November 14th, 2019.
  133. 平形明人: 緑内障眼に合併する網膜剥離の病態と鑑別. 第13回京都大学臨床眼科討論, 東京, 2019年11月15日.
  134. 平形明人: 黄斑分離症の鑑別と対応. 第29回東京黄斑疾患研究会, 東京, 2019年11月16日.
  135. 山本雅, 石田友香, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人: 近視性牽引黄斑症におけるFovea-spring ILM peelingの有用性についての検討. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
  136. 山田昌和: コンタクトレンズとオキュラーサーフェス. 第91回新潟臨床眼科研究会, 新潟, 2019年11月17日.
  137. 厚東隆志: 眼科手術のartとscience ~手術教育と手術理念~. 麻布高校教養総合リレー講座「現代医療について考える」, 東京, 2019年11月18日.
  138. 平形明人: 乳頭ピット黄斑症候群と類縁疾患. 第7回Otemachi Ophthalmic Seminar, 東京, 2019年11月21日.
  139. 北善幸: 再確認! 緑内障診断と治療のコツ. 参天製薬社内研修会, 立川, 2019年11月21日.
  140. Ishida A, Ito Y, Hirakata A: Fibro-vascular

- Proliferative Retinopathy Associated with Morning Glory Disc Anomaly. APVRS congress, China, November 22, 2019.
141. Inoue M : Impact of Intraoperative OCT for Macular Diseases. APVRS 2019 Congress, China, November 23rd - 24th, 2019.
142. 山田昌和 : 全身薬による眼障害アップデート. 武蔵野市医師会学術講演会, 武蔵野, 2019年11月27日.
143. 厚東隆志 : 実臨床におけるRVO治療抗VEGF薬治療の使い方. Novartis Pharma Web Symposium, 東京, 2019年11月28日.
144. 玉田俊介, 新井千賀子, 山崎菜都子, 尾形真樹, 厚東隆志, 小田浩一, 井上真, 岡田アナベルあやめ, 平形明人 : 網膜色素編成の読書成績とQuality of Life. 第60回視能矯正学会, 福岡, 2019年11月30日-12月1日.
145. Inoue M: Digital-assisted vitrectomy to improve surgical efficacy and safety. The 4<sup>th</sup> Japan-Taiwan vitreoretinal Joint Meeting, Nagasaki, December 17, 2019.
146. 井上真, 平形明人 : 硝子体カッターの流体動態. 第58回日本網膜硝子体学会総会, 長崎, 2019年12月6-8日.
147. 山本雅, 石田友香, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人 : 近視性牽引黄斑症におけるFSIPの有用性についての検討. 第58回日本網膜硝子体学会総会, 長崎, 2019年12月6-8日.
148. 福本隆基, 石田友香, 井上真, 若林美宏, 平形明人 : 朝顔症候群に線維血管増殖による滲出性牽引性網膜剥離を合併した1例. 第58回日本網膜硝子体学会総会, 長崎, 2019年12月6-8日.
149. 小笠原雅, 丸子一朗, 山本亜希子, 板垣可奈子, 長谷川泰司, 荒川久弥, 中山真紀子, 古泉英貴, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘, 石龍鉄樹 : 滲出型加齢黄斑変性治療に対する4週毎treat and extend法の2年予後予測因子. 第58回日本網膜硝子体学会総会, 長崎, 2019年12月6-8日.
150. 厚東隆志 : 快適な硝子体手術のための眼内レンズ選択. 興和創薬社内講演会, 東京, 2019年12月19日.
151. 井上真 : デジタル支援硝子体手術. 福島眼科集談会, 福島, 2020年1月16日.
152. 平形明人 : 黄斑分離を合併する網膜剥離の対応. WOSの会, 東京, 2020年1月17日.
153. 岡田アナベルあやめ : 眼科における治療薬の新しい時代 : 生物学製剤や他の新薬. 第33回やまぐち眼科フォーラム, 山口, 2020年1月18日.
154. 井上真 : ケースプレゼンテーション. MIOSの会, 東京, 2020年1月25日.
155. 北善幸 : おさえておこう! 緑内障治療のコツ. グラナテックwebカンファレンス, 調布, 2020年1月27日.
156. 岡田アナベルあやめ : AMD治療の光と影. 練馬区ミニ後援会, 東京, 2020年1月30日.
157. 井上真 : 術中トラブルへの対処と硝子体内注射後眼内炎. 眼科コールドケース2020, 京都, 2020年1月30日.
158. 井上真 : 医原性眼球破裂の1例. 眼科コールドケース2020, 京都, 2020年1月30日.
159. 井上真 : 3Dビジュアルシステム - デジタルカラーのインパクト. 硝子体手術フォーラム2020, 留寿都, 2020年2月7-8日.
160. Okada AA(Invited Special Lecture) : Imaging in uveitis. 4<sup>th</sup> Jakarta Eye Center International Meeting, Indonesia, February 7, 2020.
161. Okada AA (Educational Lecture) : Differential diagnosis of non-infectious uveitis. 4<sup>th</sup> Jakarta Eye Center International Meeting, Indonesia, February 7, 2020.
162. 井上真 : 乳頭ピット黄斑症候群への術中OCT併用硝子体手術. 硝子体手術フォーラム2020, 留寿都, 2020年2月7-8日.
163. 山田昌和 : 眼感染症最近の話題 AMR対策を中心に. 調布市眼科医会学術講演会, 調布, 2020年2月13日.
164. 厚東隆志 : 強度近視に学ぶ硝子体手術のエッセンス. Infinite Power Up Seminar, 札幌, 2020年2月15日.
165. 山田昌和 : 眼不快感の鑑別診断と治療. ドライアイ研究会主催講習会2020, 東京, 2020年2月16日.

## 論文

- Accorinti M, Okada AA, Smith JR, Gilardi M: Epidemiology of macular edema in uveitis. *Ocul Immunol Inflamm* 27:169-180, 2019.
- Ohno T<sup>1</sup>, Meguro A<sup>1</sup>, Takeuchi M<sup>1</sup>, Yamane T<sup>1</sup>, Teshigawara T<sup>1,2,3</sup>, Kitaichi N<sup>4,5</sup>, Horie Y<sup>4</sup>, Namba K<sup>5</sup>, Ohno S<sup>5</sup>, Nakao K<sup>6</sup>, Sakamoto T<sup>6</sup>, Sakai T<sup>7</sup>, Nakano T<sup>7</sup>, Keino H, Okada AA, Takeda A<sup>8</sup>, Fukuhara T<sup>8</sup>, Mashimo H<sup>9</sup>, Ohguro N<sup>9</sup>, Oono S<sup>10</sup>, Enaida H<sup>10</sup>, Okinami S<sup>11</sup>, Mizuki N<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Yokohama City University, <sup>2</sup>Yokosuka Chuoh Eye Clinic, <sup>3</sup>Tsurumi Chuoh Eye Clinic, <sup>4</sup>Health Sciences University of Hokkaido, <sup>5</sup>Hokkaido University, <sup>6</sup>Kagoshima University, <sup>7</sup>Jikei University, <sup>8</sup>Kyushu University, <sup>9</sup>Japan Community Health Care Organization Osaka Hospital, <sup>10</sup>Saga University, <sup>11</sup>Kurashiki Central Hospital) : Association study of ARMC9 gene variants with Vogt-Koyanagai-Harada disease in Japanese patients. *Ocul Immunol Inflamm* 27:699-705, 2019.
- Hori J<sup>1</sup>, Yamaguchi T<sup>2</sup>, Keino H, Hamrah P<sup>3</sup>, Maruyama K<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Nippon Medical School, <sup>2</sup>Tokyo Dental College Ichikawa General Hospital, <sup>3</sup>Tufts University, <sup>4</sup>Osaka University) : Immune privilege in corneal transplantation. *Prog Retin Eye Res* 72:100758. doi: 10.1016/j.preteyeres.2019.04.002.
- Ishida T, Watanabe T<sup>1</sup>, Yokoi T<sup>1</sup>, Shinohara K<sup>1</sup>, Ohno-Matsui K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Medical and Dental University): Possible connection of short posterior ciliary arteries to choroidal neovascularisations in eyes with pathologic myopia. *Br J Ophthalmol* 103(4):457-462, 2019. doi: 10.1136/bjophthalmol-2018-312015.
- Kato Y, Inoue M, Hirakata A: Quantitative comparisons of ultra-widefield images of model eye obtained with Optos® 200Tx and Optos® California. *BMC Ophthalmol* 19:115, 2019.
- Watanabe T, Kigasawa K, Ando Y, Keino H, Miyazaki T, Hirakata A: Tumefactive multiple sclerosis presenting simultaneously with visual loss associated with unilateral optic neuritis and homonymous quadrantanopia associated with a tumefactive demyelinating lesion in the temporal lobe. *Neuro-Ophthalmol Jpn* 36: 243-250, 2019.
- Itoh Y, Inoue M, Kato Y, Koto T, Hirakata A: Alterations of foveal architecture during vitrectomy for myopic retinoschisis identified by intraoperative optical coherence tomography. *Ophthalmologica* 242: 87-97, 2019.

8. Yamada K, Kaneko H, Tsunekawa T, Shimizu H, Suzumura A, Namba R, Takeuchi J, Kataoka K, Takayama K, Inoue M, Ito Y, Terasaki H: Silicone oil-associated retinal light exposure under a surgical microscope. *Acta Ophthalmol* 97(5): e742-e746, 2019.
9. Loewenstein A<sup>1</sup>, Korobelnik JF<sup>2</sup>, Okada AA ( <sup>1</sup>Tel Aviv University, <sup>2</sup>University of Bordeaux ) : A patient with type 1 diabetes, visual acuity loss, and retinal thickening. *JAMA Ophthalmology* 137(9):1078-1079, 2019.
10. Mochizuki M, Smith JR, Takase H, Kaburaki T, Acharya NR, Rao NA, International Workshop on Ocular Sarcoidosis Study Group (including Okada AA): Revised criteria of international workshop on ocular sarcoidosis (IWOS) for the diagnosis of ocular sarcoidosis. *Br J Ophthalmol* 103: 1418-1422, 2019.
11. Shimura M, Kitano S, Muramatsu D, Fukushima H, Takamura Y, Matsumoto M, Kokado M, Kogo J, Sasaki M, Morizane Y, Kotake O, Koto T, Sonoda S, Hirano T, Ishikawa H, Mitamura Y, Okamoto F, Kinoshita T, Kimura K, Sugimoto M, Yamashiro K, Suzuki Y, Hikichi T, Washio N, Sato T, Ohkoshi K, Tsujinaka H, Kusuhara S, Kondo M, Takagi H, Murata T, Sakamoto T, Japan Clinical Retina Study (J-CREST) group: Real-world management of treatment-naïve diabetic macular oedema in Japan: two-year visual outcomes with and without anti-VEGF therapy in the STREAT-DME study. *Br J Ophthalmol* 2019. doi:10.1136/bjophthalmol-2019-315199.
12. Inoue M, Itoh Y, Koto T, Kurimori HY, Hiraoka A: Intraoperative OCT findings may predict postoperative visual outcome in eyes with idiopathic macular hole. *Ophthalmol Retina* 3(11): 962-970, 2019.
13. Tanaka M<sup>1,2</sup>, Kamoi K<sup>1</sup>, Nagaoka N<sup>1</sup>, Ishida T, Karube H<sup>1</sup>, Takase H<sup>1</sup>, Ohno-Matsui K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>2</sup>Musashino Red Cross Hospital ): Bilateral diffuse retinal pigment epithelium proliferation induced by choroidal inflammation: A case report. *Medicine (Baltimore)* 98(47): e18152, 2019.
14. Agrawal R, Agarwal A, Jabs DA, Kee A, Testi I, Mahajan S, McCluskey PJ, Gupta A, Palestine A, Denniston A, Banker A, Invernizzi A, Fonollosa A, Sharma A, Kumar A, Curi A, Okada A, Schlaen A, Heiligenhaus A, Kumar A Gurbaxani A, Bodaghi B, Shah BI, Lowder C, Tappeiner C, Muccioli C, Vasconcelos-Santos DV, Goldstein D, Behra D, Das D, Makhoul D, Baglivo E, Denisova E, Miserocchi E, Carreno E, Asyari F, Pichi F, Sen HN, Uy H, Nascimento H, Tugal-Tutkun I, Arevalo JF, Davis J, Thorne J, Yamamoto JH, Smith J, Garweg JG, Biswas J, Babu K, Aggarwal K, Cimino L, Kuffova L, Agarwal M, Zierhut M, Agarwal M, De Smet M, Tognon MS, Errera MH, Munk M, Westcott M, Soheilian M, Accorinti M, Khairallah M, Nguyen M Kon OM, Mahendradas P, Amer R, Lee R, Nora RLD, Chhabra R, Belfor R, Mehta S, Shoughy S, Luthra S, Mohamed SO, Chee SP, Basu S, Teoh S, Ganesh S, Barisani-Asenbauer T, Guex-Crosier Y, Ozyazgan Y, Akova Y, Habet-Wilner Z, Kempen J, Nguyen QD, Pavesio C, Gupta V for the Collaborative Ocular Tuberculosis Study (COTS) Group: Standardization of nomenclature for ocular tuberculosis – results of Collaborative Ocular Tuberculosis Study (COTS) workshop. *Ocul Immunol Inflamm*, 2019. [Epub ahead of print]
15. Wong DT, Lambrou GN, Loewenstein A, Pearce I, Okada AA, Vision Academy Steering Committee: Suspending treatment of neovascular age-related macular degeneration in cases of futility. *Retina*, 2019. [Epub ahead of print]
16. Sakamoto T<sup>1</sup>, Kawano S<sup>1</sup>, Kawasaki R<sup>2</sup>, Hirakata A, Yamashita H<sup>3</sup>, Yamamoto S<sup>4</sup>, Ishibashi T<sup>5</sup>, and members of the J-RD Registry group ( <sup>1</sup>Kagoshima Univ, <sup>2</sup>Osaka Univ, <sup>3</sup>Yamagata Univ, <sup>4</sup>Chiba Univ, <sup>5</sup>Kyusyu Univ ): Japan Retinal Detachment Registry Report I: preoperative findings in eyes with primary retinal detachment. *Jpn J Ophthalmol* 64: 1-12, 2020.
17. Agrawal R, Testi I, Mahajan S, Yuen YS, Agarwal A, Kon OM, Barisani-Asenbauer T, Kempen JH, Gupta A, Jabs DA, Smith JR, Nguyen QD, Pavesio C, Gupta V; Collaborative Ocular Tuberculosis Study Consensus Group (including Okada AA): Collaborative Ocular Tuberculosis Study consensus guidelines on the management of tubercular uveitis – Report 1. *Ophthalmology*, 2020. [Epub ahead of print]
18. Hayashida M<sup>1</sup>, Miyoshi J<sup>1</sup>, Mitsui T<sup>1</sup>, Miura M<sup>1</sup>, Saito D<sup>1</sup>, Sakuraba A<sup>1</sup>, Kawashima S<sup>2</sup>, Ikegaya N<sup>2</sup>, Fukuoka K<sup>2</sup>, Karube M<sup>2</sup>, Komagata Y<sup>2</sup>, Kaname S<sup>2</sup>, Okada AA, Matsuura M<sup>1</sup>, Fujimori S<sup>3</sup>, Hisamatsu T<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Nippon Medical School, Graduate School of Medicine ) : Elevated fecal calprotectin and lactoferrin are associated with small intestinal lesions in patients with Behcet disease. *J Gastroenterol and Hepatol*, 2020. [Epub ahead of print]
19. Takahashi H<sup>1</sup>, Inoue M, Itoh Y, Koto T, Hirota K, Kita Y, Hiraoka A ( <sup>1</sup>Tokyo Medical and Dental University, Graduate School of Medical and Dental Sciences ): Macular dehiscence-associated epiretinal proliferation in eyes with full-thickness macular hole. *Retina* 40: 273-281, 2020.
20. Tsubota K, Yokoi N, Watanabe H, Dogru M, Kojima T, Yamada M, Kinoshita S, Kim HM, Tchah HW, Hyon JY, Yoon KC, Seo KY, Sun X, Chen W, Liang L, Li M, Tong L, Hu FR, Puangsrucharern V, Lim-Bon-Siong R, Yong TK, Liu Z, Shimazaki J; Members of The Asia Dry Eye Society: A New Perspective on Dry Eye Classification: Proposal by the Asia Dry Eye Society. *Eye Contact Lens suppl* 1: S2-S13. 2020. doi: 10.1097/ICL.0000000000000643.
21. Ando Y, Keino H, Nakayama M, Watanabe T, Okada AA : Clinical Features, Treatment, and Visual Outcomes of Japanese Patients with Posterior Scleritis. *Ocul Immunol Inflamm* 28(2): 209-216, 2020. doi: 10.1080/09273948.2019.1574838.
22. Ando Y, Keino H, Kudo A<sup>1</sup>, Hiraoka A, Okada AA, Umezawa K<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Aichi Medical University ) : Anti-Inflammatory Effect of Dehydroxymethylepoxyquinomicin, a Nuclear

- factor- $\kappa$ B Inhibitor, on Endotoxin-Induced Uveitis in Rats In vivo and In vitro. *Ocul Immunol Inflamm* 28(2): 240-248, 2020. doi: 10.1080/09273948.2019.1568502.
23. Aicher NT<sup>1</sup>, Nagahori K, Inoue M, Itoh Y, Hirakata A (<sup>1</sup>Paracelsus Med Univ): Vascular density of anterior segment of eye determined by optical coherence tomography angiography and slit-lamp photography. *Ophthalmic Res.* 2020. [Epub ahead of print]
  24. Ohji M, Takahashi K, Okada AA, Kobayashi M, Matsuda Y, Terano Y for the ALTAIR Investigators: Efficacy and safety of intravitreal aflibercept treat-and-extend regimens in exudative age-related macular degeneration: 52- and 96-week findings from ALTAIR. *Adv Ther* 37: 1173-1187, 2020.
  25. Lanzetta P, Sarao V, Scanlon PH, Barratt J, Porta M, Bandello F, Loewenstein A; Vision Academy, Eldem B, Hunyor A, Joussen A, Koh A, Korobelnik JF, Kanzetta P, Loewenstein A, Lovestam-Adrian M, Navarro R, Okada AA, Pearce I, Rodriguez FJ, Staurenghi G, Wolf S, Wong DT: Fundamental principles of an effective diabetic retinopathy screening program. *Acta Diabetol*, 2020. [Epub ahead of print]
  26. Maruko I, Ogasawara M, Yamamoto A, Itagaki K, Hasegawa T, Arakawa H, Nakayama M, Koizumi H, Okada AA, Sekiryu T, Iida T: Two-year outcome of treat-and-extend regimen with intravitreal aflibercept for exudative age-related macular degeneration: prospective clinical trial. *Ophthalmology Retina*, 2020. [Epub ahead of print]
  27. Shimura M, Kitano S, Muramatsu D, Fukushima H, Takamura Y, Matsumoto M, Kokado M, Kogo J, Sasaki M, Morizane Y, Utsumi T, Koto T, Sonoda S, Hirano T, Ishikawa H, Mitamura Y, Okamoto F, Kinoshita T, Kimura K, Sugimoto M, Yamashiro K, Suzuki Y, Hikichi T, Washio N, Sato T, Ohkoshi K, Tsujinaka H, Kusahara S, Kondo M, Takagi H, Murata T, Sakamoto T; Japan Clinical Retina Study (J-CREST) group: Real-world management of treatment-naïve diabetic macular oedema: 2-year visual outcome focusing on the starting year of intervention from STREAT-DMO study. *Br J Ophthalmol*, 2020. [Epub ahead of print]
  28. Cao K<sup>1</sup>, Ishida T, Fang Y<sup>1</sup>, Shinohara K<sup>1</sup>, Li X<sup>1</sup>, Nagaoka N<sup>1</sup>, Ohno-Matsui K<sup>1</sup>, Yoshida T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Medical and Dental University): Protection of the Retinal Ganglion Cells: Protection of the Retinal Ganglion Cells: Intravitreal Injection of Resveratrol in Mouse Model of Ocular Hypertension. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 61(3):13, 2020. doi: 10.1167/iovs.61.3.13.
  29. 佐渡一成, 澤田瑞穂, 宮沢栞奈, 大滝由香, 佐渡真樹, 佐藤美佳, 伊藤桂子, 佐藤裕子, 平塚義宗, 山田昌和: 眼科検診において判定可能な眼科データが得られる割合についての検討. *臨眼* 73: 315-320, 2019.
  30. 井上真: 中途失明の可能性のある疾患とその検査/治療. 9.眼外傷 強膜裂孔の診断と治療について教えてください. また, どの程度の外傷で硝子体手術を行うべきかについて教えてください. *あたらしい眼科* 36: 274-277, 2019.
  31. 加藤悠, 厚東隆志: 【眼科領域の最先端・近未来可視化手術】3Dデジタル映像システムを用いた Heads-up Surgery. *あたらしい眼科* 36: 3, 343-349, 2019.
  32. 満川忠広, 鈴木由美, 吉川泉, 富田茜, 浜由起子, 富田香, 山田昌和: 奇異性斜頸を呈した masked bilateral superior oblique palsy の 1 例. *眼科* 61: 427-433, 2019.
  33. 山本雅, 重安千花, 久須見有美, 藤井かんな, 千葉知宏, 長濱清隆, 菅間博, 山田昌和: ハードコンタクトレンズ装用者における Scedosporium 属による感染性角膜炎の 1 例. *あたらしい眼科* 36: 389-393, 2019.
  34. 重安千花, 中島貴友, 慶野博, 池田佳介, 山根みお, 堀江大介, 朝戸裕, 山田昌和: ハンセン病における眼後遺症と視機能障害の現状. *日眼会誌* 123: 51-57, 2019.
  35. 渡辺交世, 慶野博, 中山京子, 瀧和歌子, 岡田アナベルあやめ: 糖尿病前部ぶどう膜炎患者の臨床像. *日眼会誌* 123: 616, 2019.
  36. 慶野博: ぶどう膜炎の治療アップデート. 免疫抑制薬を用いたぶどう膜炎の治療戦略. *眼科グラフィック* 8: 577-584, 2019.
  37. 日本眼炎症学会ぶどう膜炎診療ガイドライン作成委員会 (大野重昭, 岡田アナベルあやめ, 後藤浩, 南場研一, 北市伸義): ぶどう膜炎診療ガイドライン. *日眼会誌* 123: 635-696, 2019.
  38. 福井香苗, 下田由莉江, 木下美咲, 山崎好美, 下山田博明, 渡辺格, 山田昌和, 石井文人, 橋本隆, 大山学: 結節性痒疹様皮疹を伴った粘膜炎天疱瘡の 1 例. *臨床皮膚科* 73: 603-608, 2019.
  39. 井上真: 特集「術中OCT」術中OCTを用いた網膜硝子体手術. *IOL&RS* 33(4): 598-602, 2019
  40. 井上真: 特集 高齢者と眼疾患「糖尿病網膜症」. *Pharma Media* 37(12): 33-37, 2019.
  41. 安藤良将, 重安千花, 吉池信哉<sup>1</sup>, 千葉知宏<sup>1</sup>, 柴原純二<sup>1</sup>, 山田昌和 (<sup>1</sup>杏林大・医・病理学): 病理組織学的検査で Cogan's microcystic epithelial dystrophy と診断した 1 例. *眼科* 61: 961-966, 2019.
  42. 中村友子, 慶野博: 2019臨床眼科増刊号. メディカル眼科治療アップデート. I薬物療法の基本と留意点. 眼疾患における抗癌剤, 免疫抑制療法の実践と留意点. *臨床眼科* 73: 25-30, 2019.
  43. 慶野博: 眼炎症外来の事件簿. 両眼の硝子体混濁に対する硝子体手術後に網膜下浸潤病巣を生じた症例. *臨床眼科* 73: 558-561, 2019.
  44. 慶野博: 眼炎症外来の事件簿. 急速に進行した片眼性の多巣性脈絡膜炎. *臨床眼科* 73: 1252-1255, 2019.
  45. 慶野博: 眼炎症外来の事件簿. 耳介の腫脹を伴った強膜ぶどう膜炎の 1 例. *臨床眼科* 73: 1446-1450, 2019.
  46. 慶野博: 眼科と薬剤, 第 1 部 最近の眼科薬物治療. IV ぶどう膜炎 3 感染性ぶどう膜炎(梅毒, 結核, トキソプラズマ). *眼科* 61: 1094-1100, 2019.
  47. 石田友香, 相馬亮子, 高瀬博: 【眼腫瘍における最新画像診断活用アトラス】後眼部非色素性網膜病変網膜硝子体リンパ腫, 網膜血管増殖性腫瘍, 網膜星状膠細胞過誤腫 (図説/特集). *あたらしい眼科* 37: 23-32, 2020.
  48. 林勇海, 慶野博: 加齢と眼疾患-健康長寿を目指して- 癌関連網膜症の診断と治療. *CURRENT THERAPY カレントセラピー* 38: 64-69, 2020.
  49. 平形明人, 山田昌和, 川崎良: 高齢化社会における眼科医療の役割. *Current Therapy* 38: 184-191, 2020.
  50. 大家義則, 川崎論, 西田希, 木下茂, 外園千恵, 大橋

裕一, 白石敦, 坪田一男, 榛重人, 村上晶, 島崎潤, 宮田和典, 前田直之, 山田昌和, 山上聡, 臼井智彦, 西田幸二: 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業希少難治性角膜疾患の疫学調査研究班, 角膜難病の標準的診断法および治療法の確立を目指した調査研究班. 無虹彩症の診断基準および重症度分類. 日眼会誌 124:83-88, 2020.

51. 重安千花, 山田昌和, 大家義則, 川崎諭, 東範行, 仁科幸子, 木下茂, 外園千恵, 大橋裕一, 白石敦, 坪田一男, 榛重人, 村上晶, 島崎潤, 宮田和典, 前田直之, 山上聡, 臼井智彦, 西田幸二: 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業希少難治性角膜疾患の疫学調査研究班, 角膜難病の標準的診断法および治療法の確立を目指した調査研究班. 前眼部形成異常の診断基準および重症度分類. 日眼会誌 124:89-95, 2020.
52. 井上真: 特集 画像が開く新しい眼科手術「デジタル支援硝子体手術」. 臨床眼科74(1):35-40, 2020.
53. 井上真: 特集 デジタル化が進む眼科手術3. 「OCTの手術への応用」. 眼科62(1):21-27, 2020.
54. 厚東隆志: 機器・薬剤紹介 NGENUITY version 1.3 Data Fusion Source. 眼科 62: 151-156, 2020.

## 著書

1. 慶野博, 岡田アナベルあやめ: ぶどう膜炎. In: [My Treatment, 2<sup>nd</sup> Edition]. Saruta T, Kitamura S (eds.), Tokyo, Nihon Iji Shinhosha, 2019.
2. 慶野博(分担執筆): 非感染性ぶどう膜炎. ナースのための眼科ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, Medical view社, 2019. p196-197.
3. 慶野博(分担執筆): 感染性ぶどう膜炎. ナースのための眼科ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, Medical view社, 2019. p198-199.
4. Inoue M, Itoh Y: Myopic Degeneration and Myopic Foveoschisis. The Retina illustrated (e-Book). Justis P. Ehlersed. Thieme, 2019. p125-129.
5. 井上真(分担執筆): 眼底出血. 今日の治療指針2019. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編集. 東京, 医学書院, 2019. p1520-1521.
6. 井上真: 各論1. 網膜12) 網膜剥離 (3) 増殖硝子体網膜症 (PVR). 後眼部アトラス. 大鹿哲郎監修, 近藤峰生, 辻川明孝編集. 東京, 総合医学社, 2019. P236-237.
7. 井上真: 第1章 私の手術哲学. 実況! 硝子体手術 Tips165. 米田一仁, 大澤俊介編集. 大阪, メディカ出版, 2019. P10-11.
8. 井上真: 第2章 硝子体手術のセッティング. 実況! 硝子体手術Tips165. 米田一仁, 大澤俊介編集. 大阪, 2019. メディカ出版, P36-38.
9. 井上真: 第3章黄斑上膜手術Tips. 実況! 硝子体手術 Tips165. 米田一仁, 大澤俊介編集. 大阪, メディカ出版, 2019. P88-91.
10. 厚東隆志: 裂孔原性網膜剥離 ①網膜裂孔, 後眼部アトラス. 大鹿哲郎監修, 近藤峰生, 辻川明孝編集. 東京, 総合医学社, 2019. P.228-229.
11. 厚東隆志: 裂孔原性網膜剥離 ②網膜円孔, 後眼部アトラス. 大鹿哲郎監修, 近藤峰生, 辻川明孝編集. 東京, 総合医学社, 2019. P.230-231.
12. 厚東隆志: 裂孔原性網膜剥離 ③毛様体裂孔, 後眼部アトラス. 大鹿哲郎監修, 近藤峰生, 辻川明孝編集. 東京, 総合医学社, 2019. P.232.
13. 北善幸: 緑内障. 眼科スゴ技OCT・OCTA. 小椋祐一, 瓶井資弘監修. 東京, メディカ出版, 2019. P.24-29.
14. 鈴木由美(分担執筆): こどもの屈折異常. ナースのための眼科 ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, メジカルビュー社, 2019. p226-228.
15. 鈴木由美(分担執筆): 心因性視力障害. ナースのための眼科 ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, メジカルビュー社, 2019. p229-230.
16. 鈴木由美(分担執筆): 非屈折性調節性内斜視. 外眼部アトラス. 野田実香, 渡辺彰英, 大鹿哲郎監修, 東京, 総合医学社, 2019. p314-315.
17. 石田友香(分担執筆): 眼の病気の代表的な治療法(レーザー). ナースのための眼科 ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, メジカルビュー社, 2019. p26-27.
18. 石田友香(分担執筆): 眼の病気の代表的な治療法(手術). ナースのための眼科 ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, メジカルビュー社, 2019. p.28-29.
19. 石田友香(分担執筆): 黄斑疾患(加齢黄斑変性以外). ナースのための眼科 ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, メジカルビュー社, 2019. p208-209.
20. 中山真紀子(分担執筆): 硝子体内注射と光線力学療法(PDT). 加齢黄斑変性とその類似疾患. ナースのための眼科 ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, メジカルビュー社, 2019.
21. 安藤良将, 厚東隆志(分担執筆): 代表的な眼の病気(5)網膜疾患. ナースのための眼科ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, Medical view社, 2019. P21-22.
22. 安藤良将(分担執筆): 超音波検査. ナースのための眼科ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, Medical view社, 2019. P77-78.
23. 安藤良将, 厚東隆志(分担執筆): 網膜循環障害. ナースのための眼科ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, Medical view社, 2019. P202-203.
24. 安藤良将, 厚東隆志(分担執筆): 糖尿病網膜症. ナースのための眼科ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦監修. 東京, Medical view社, 2019. P204-205.
25. 加藤悠(分担執筆): III看護に役立つ眼の病気の知識網膜, ぶどう膜 飛蚊症. ナースのための眼科ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2019. P200-201.
26. 加藤悠(分担執筆): III看護に役立つ眼の病気の知識網膜, ぶどう膜 未熟児網膜症. ナースのための眼科ベーシックポイント. 大橋裕一, 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2019. P220-221.
27. 平形明人(分担執筆): 加齢と眼疾患 -健康長寿を目指して-. カレントセラピー Vol.38 No.2, 東京, ライフメディコム, 2020. P7.
28. 平形明人(編集): カレントセラピー Vol.38 No.2, ライフメディコム, 東京, 2020.
29. 慶野博, 岡田アナベルあやめ: ガイドラインの用語とぶどう膜炎所見の定量. in [Uveitis Update - new clinical guidelines] Medical Viewpoint No. 41. Ohno S (ed.). Kowa Co., Ltd. Tokyo, 2020.
30. 山田昌和, 白石敦(編集): ナースのための眼科ベー

- シックポイント. 東京, メジカルビュー社, 2020.
31. 山田昌和: 結膜手術. 眼科学 第3版. 大鹿哲郎, 園田康平, 近藤峰生, 稲谷大編. 東京, 文光堂, 2020. P.1219-1226.
  32. 山田昌和: 基本手術手技. 眼科学 第3版. 大鹿哲郎, 園田康平, 近藤峰生, 稲谷大編. 東京, 文光堂, 2020. P.1204-1209.
  33. 北善幸: 代表的な眼の病気(4) 緑内障. ナースのための眼科ベーシックポイント. 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2020.
  34. 北善幸: 代表的な眼の病気(7) 眼科救急疾患、これは急ぐ. ナースのための眼科ベーシックポイント. 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2020.
  35. 北善幸: OCT、OCTアンギオグラフィ(OCTA). ナースのための眼科ベーシックポイント. 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2020.
  36. 松木奈央子(分担執筆): 代表的な眼の病気(3) 白内障. ナースのための眼科ベーシックポイント. 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2020. P.18.
  37. 松木奈央子(分担執筆): 眼内レンズ度数決定の検査(含トリーク). ナースのための眼科ベーシックポイント. 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2020. P.62-63.
  38. 久須見有美(分担執筆): 代表的な眼の病気(1) 眼瞼、結膜. ナースのための眼科ベーシックポイント. 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2020. P.16.
  39. 久須見有美(分担執筆): 代表的な眼の病気(2) 角膜. ナースのための眼科ベーシックポイント. 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2020. P.17.
  40. 久須見有美(分担執筆): 角膜検査. ナースのための眼科ベーシックポイント. 山田昌和, 白石敦編集. 東京, メジカルビュー社, 2020. P.54-55.

#### 報告書

1. 山田昌和(分担研究者): 平成30年度厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業), 希少難治性角膜疾患の疫学調査報告書, 2019年5月.
2. 山田昌和(研究代表者): 平成30年度厚生労働省科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業), 成人眼科検診の有用性, 実施可能性に関する研究報告書, 2019年5月.

#### その他

1. 平形明人: バトンをつなぐ. 銀海 vol.250, p3, 千寿製薬, 東京, 2020.
2. 岡田アナベルあやめ: (インタビュー) 時事メディカル(オンライン)「両目が見えにくくなる原田病: 早期の治療が重要」2019年5月2日. <https://medical.jiji.com/topics/1126>.
3. 山田昌和: ドライアイ点眼薬効かず. 読売新聞 2019年4月12日.
4. 山田昌和: 40歳を過ぎたら眼科検査. 朝日新聞 2019年10月12日.
5. 山田昌和: 目の検診を受けましょう. 健保だより 211:14-15, 2020.
6. 慶野博: 超広角走査レーザー検眼鏡 Optos® Californiaの魅力!. ランチョンセミナー, 2019年4月18日.
7. 慶野博: 見逃せない! 緊急対応を要する疾患. ぶどう膜炎の緊急疾患. 日本眼科医会第77回生涯教育講座, 東京, 2019年7月13日, 名古屋, 2019年7月20日, 福

岡, 2019年8月31日.

8. 岡田アナベルあやめ: 巻頭言(第52回日本眼炎症学会の報告) 日本眼炎症学会誌. 21:I, 2019.
9. 井上真: 巻頭言 近視治療の問題点. 日眼会誌 123(9):915-918, 2019.
10. 平形明人(分担執筆): 評議員指名講演「生体イメージングと眼病理」巻頭言. 日眼会誌 123: 199-201, 2019.

#### 耳鼻咽喉科学教室

#### 講演

1. 坂本龍太郎, 宮本真, 渡邊格, 橋本麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 治療に難渋している声門上狭窄の1症例. 第40回東日本音声外科研究会, 東京, 2019年4月13日.
2. 齋藤康一郎: 杏林大学病院における音声外来での検査と治療—花粉症シーズンの対応を含めて—. 第158回御茶ノ水耳鼻咽喉・頭頸科治療研究会, 東京, 2019年4月18日.
3. 横井秀格: アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎の最新の話・治療法～非専門医が日常診療において留意すること～. 武蔵野市薬剤師会勉強会, 武蔵野, 2019年4月18日.
4. 唐帆健浩: 嚥下機能評価法 Update. 第23回福岡摂食嚥下カンファレンス, 福岡, 2019年4月20日.
5. 横井秀格: アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎の最新の話・治療法～非専門医が日常診療において留意すること～. 府中市医師会学術講演会, 府中, 2019年4月26日.
6. 池田哲也: 全ての全身麻酔症例の口腔評価を行うことで判明した事象～口腔ケアを希望されない方の中にこそ, 介入が必要な口腔内が埋もれている～. 第16回日本口腔ケア学会, 名古屋, 2019年4月27日.
7. 宮本真, 渡邊格, 橋本麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 当科における小児気道外来・音声外来を受診した患児の臨床検討. 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会及び学術講演会, 大阪, 2019年5月8-11日.
8. 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 松田昌之, 木村泰彰, 齋藤康一郎: 内視鏡下経鼻アプローチトレーニングにおけるNVP固定cadaverの有用性. 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会及び学術講演会, 大阪, 2019年5月8-11日.
9. 川原敬祐, 唐帆健浩, 林良幸, 海老原孝枝, 齋藤康一郎: 嚥下性肺炎の高齢者における嚥下機能の特徴. 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会及び学術講演会, 大阪, 2019年5月8-11日.
10. 増田正次, 松田雄大, 中村健大, 松本丈武, 佐藤佑樹, 尾川昌孝, 濱之上泰裕, 茂木翼, 齋藤康一郎: 高齢者における耳科手術成功率. 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会及び学術講演会, 大阪, 2019年5月8-11日.
11. 唐帆健浩: 嚥下障害の診断と治療. 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会及び学術講演会, 大阪, 2019年5月8-11日.
12. 宮本真, 齋藤康一郎: Cold instrumentを用いた声門上形成術. 第14回日本小児耳鼻咽喉科学会総会及び学術講演会, 福岡, 2019年5月23-24日.
13. Miyamoto M, Nagase M, Watanabe I, Nakagawa N, Matsumura G, Saito K: Vocal Potential in NVP-Embalmed Cadaveric Human Larynx. 48th Annual Symposium Voice foundation, USA, May 29-June 2nd 2019.
14. Mato S, Miyamoto M, Watanabe I, Hayashi Y,

- Ishii T, Nakagawa N, Saito K : The Optimal Duration and Long-Term Impact of Voice Therapy on Vocal Fold Atrophy in Elderly. 48th Annual Symposium Voice foundation, USA, May 29-June 2nd 2019.
15. Yokoi H, Kawada M, Matsumoto Y, Saito K : Involvement of Galanin and Galanin Receptor 2 in a mouse model of allergic rhinitis. European Academic of Allergy and Clinical Immunology (EAACI) Congress 2019, Portugal, June 1-5, 2019.
  16. 池田哲也 : 骨粗鬆症治療中の患者への歯科側の取るべき対応. 第3回地域連携で骨折を減らすフォーラム, 武蔵野, 2019年6月11日.
  17. 齋藤康一郎 : 音声障害の正確な病態把握と低侵襲な治療 -杏林大学音声専門外来での試み-. 北多摩耳鼻咽喉科医会 学術講演会, 東京, 2019年6月26日.
  18. 松田昌之, 齋藤康一郎, 田山二朗 : 両側声門下開大術によって気管孔閉鎖が可能となった喉頭狭窄例. 第81回耳鼻咽喉科臨床学会総会及び学術講演会, 名古屋, 2019年6月27-28日.
  19. 池田哲也, 森山久美, 萬知子, 加賀あかり, 齋藤英昭, 松田剛明, 大久保正彦, 齋藤康一郎 : 周術期管理センターにおいて全ての全身麻酔症例の口腔評価を行うことで得られた事象～第二報～. 日本外科代謝栄養学会第56回学術集会, 神戸, 2019年7月4-6日.
  20. 唐帆健浩 : 嚥下障害の治療. 日本歯科医師会主催嚥下機能評価講習会, 東京, 2019年7月21日.
  21. 池田哲也 : 全ての全身麻酔症例の口腔評価を行うことで判明した事象 ～口腔ケアを希望されない方の中にこそ、介入が必要な口腔内が埋もれている～. 埼玉医科大学病院歯科口腔外科 地域医療連携会, 入間, 2019年7月25日.
  22. Saito K : “Technology Symposium” Ergonomic Advantage of Newly-Developed Pistol Grip Rhino-Laryngo Videoscope. 18th ASEAN ORL-HNS Congress, Singapore, August 23rd-25, 2019.
  23. Saito K : “Office Surgery” Office-based green laser surgery for laryngeal papillomatosis. World Phonosurgery Congress 2019, Argentina, September 5-6, 2019.
  24. Saito K : “Diagnostic Methods” 3D visualization of vocalizing larynx using Ultra High-Resolution Computed Tomography. World Phonosurgery Congress 2019, Argentina, September 5-6, 2019.
  25. 唐帆健浩 : 摂食嚥下機能に関するスクリーニングテスト. 第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟, 2019年9月6-7日.
  26. 唐帆健浩 : 保存的治療の選択と効果. 第32回日本口腔・咽頭科学会総会学術講演会, 大分, 2019年9月12-13日.
  27. 松本祐磨, 横井秀格, 池田哲也, 齋藤康一郎 : 当院における顔面用瘻孔を生じた歯性感染症例の検討. 第32回日本口腔・咽頭科学会総会学術講演会, 大分, 2019年9月12-13日.
  28. 佐藤大, 齋藤康一郎 : 唾液腺腫瘍手術後の口蓋欠損に対して口蓋粘骨膜弁にて再建を行った3症例. 第32回日本口腔・咽頭科学会総会学術講演会, 大分, 2019年9月12-13日.
  29. 池田哲也, 横井秀格, 松本祐磨, 佐藤大, 齋藤康一郎 : 頭頸部放射線治療法や化学療法による口腔粘膜炎に対して、エビシルの使用経験. 第32回日本口腔・咽頭科学会総会学術講演会, 大分, 2019年9月12-13日.
  30. Watanabe I, Miyamoto M, Nakagawa H, Saito K : Laryngopharyngeal Edema after Simultaneous Arytenoid Adduction and Thyroplasty. AAO-HNSF, USA, September 15-18, 2019.
  31. Miyamoto M, Ohara A, Watanabe I, Nakagawa H, Yokoyama K, Arai T, Koyanagi M, Saito K : Clinical Assessment of Cuffed Endotracheal Tube by Ultra High-Resolution Computed Tomography. AAO-HNSF, USA, September 15-18, 2019.
  32. Karaho T, Kawahara K, Hayashi Y, Nakajima J, Ebihara T, Saito K : The Characteristics of Swallowing Function in The Elderly with Aspiration Pneumonia. ESSD 2018, Austria, September 19-21, 2019.
  33. 横井秀格 : 鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する治療薬の製品戦略の精査. サノフィ(株) A advisory Board Meeting, 東京, 2019年9月24日.
  34. 齋藤康一郎 : 音声障害の診断と治療 -抗アレルギー薬の適切な使用を含めて-. 調布市耳鼻咽喉科医会学術講演会, 東京, 2019年10月1日.
  35. 内藤翔司, 横井秀格, 川田往嗣, 松本祐磨, 猪股浩平, 齋藤康一郎 : 頭蓋底骨の広範な菲薄下を認め、外転神経麻痺を生じた原発性蝶形骨洞嚢胞の一例. 第58回日本鼻科学会総会・学術講演会, 東京, 2019年10月3-5日.
  36. 猪股浩平, 横井秀格, 木村泰彰, 松本祐磨, 川田往嗣, 内藤翔司, 齋藤康一郎 : 蝶形骨洞原発の神経内分泌癌の一例. 第58回日本鼻科学会総会・学術講演会, 東京, 2019年10月3-5日.
  37. 横井秀格, 尾崎峰, 松本祐磨, 川田往嗣, 猪股浩平, 内藤翔司, 齋藤康一郎 : 内視鏡下鼻内手術による眼窩狭窄病態症例. 第58回日本鼻科学会総会・学術講演会, 東京, 2019年10月3-5日.
  38. 増田正次 : 耳管治療新時代における耳管機能検査の New Standard. 第29回日本耳科学会学術講演会, 山形, 2019年10月10-12日.
  39. 渡邊格, 宮本真, 茂木麻未, 間藤翔悟, 中川秀樹, 齋藤康一郎 : 当院における両側声帯麻痺症例の臨床的検討. 第64回音声言語医学会総会・学術講演会, 浦和, 2019年10月17-18日.
  40. 茂木麻未, 宮本真, 渡邊格, 間藤翔悟, 中川秀樹, 齋藤康一郎 : 当科外来における過去6年間の片側声帯麻痺症例の検討. 第64回音声言語医学会総会・学術講演会, 浦和, 2019年10月17-18日.
  41. 宮本真, 渡邊格, 茂木麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎 : 甲狀腺裂筋麻痺患者におけるハイスピードカメラ所見についての検討. 第64回音声言語医学会総会・学術講演会, 浦和, 2019年10月17-18日.
  42. 間藤翔悟, 宮本真, 渡邊格, 橋本麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎 : 周術期の声の衛生指導に関する臨床的検討. 第64回音声言語医学会総会・学術講演会, 浦和, 2019年10月17-18日.
  43. 池田哲也, 里見貴史, 湯本愛実, 大久保正彦, 佐藤毅, 齋藤康一郎 : ビスフォスフォネート関連顎骨壊死とデノスマブ関連顎骨壊死では初期臨床所見が異なる. 第64回日本口腔外科学会総会・学術大会, 札幌, 2019年10月25-27日.
  44. 湯本愛実, 池田哲也, 大久保正彦, 里見貴史, 佐藤毅, 齋藤康一郎 : 周術期管理センターにおいて、全ての全身麻酔症例の口腔評価を行うことで得られた事象. 第64回日本口腔外科学会総会・学術大会, 札幌, 2019年10月25-27日.
  45. 齋藤康一郎 : 咽喉頭異常感の複雑な病態と胃食道逆流症. 武田薬品工業(株)講演会, 武蔵野, 2019年10月

- 30日.
46. 佐藤大, 野村研一郎, 齋藤康一郎: 当科にて施行した内視鏡下甲状腺手術(VANS法)9症例の検討. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会例会, 第225回学術講演会, 東京, 2019年11月2日.
  47. 渡邊格, 宮本真, 茂木麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 片側声帯麻痺の治療選択. 第31回杏林大耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2019年11月2日.
  48. 増田正次, 守田雅弘, 松田雄大, 中村健大, 尾川昌孝, 濱之上泰裕, 小野修平, 茂木翼, 坂本龍太郎, 深山善子, 齋藤康一郎: 耳管機能検査結果判定の難しさと総合的診断の重要性. 第64回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 大阪, 2019年11月6-8日.
  49. 池田哲也, 浮山越史, 渡邊佳子, 大久保正彦, 湯本愛実, 福本春菜, 秋葉真由, 伊藤七海, 佐藤瞳, 齋藤康一郎: 全ての全身麻酔症例の口腔内を評価することで判明した事象～口腔内は生活背景を映す鏡である～. 第30回日本小児外科QOL研究会, 伊勢, 2019年11月9日.
  50. 横井秀格: ～喘息中心の生活からの解放を目指して～. 重症喘息セミナー, 武蔵野, 2019年11月21日.
  51. 齋藤康一郎: いま求められる気管切開チューブの特性. 第71回気管食道科学会総会及び学術講演会, 宇都宮, 2019年11月28-29日.
  52. 唐帆健浩, 川原敬祐, 海老原孝枝, 齋藤康一郎: 後期高齢者の嚥下機能の特徴と嚥下性肺炎発症リスクに関する研究. 第71回気管食道科学会総会及び学術講演会, 宇都宮, 2019年11月28-29日.
  53. 渡邊格, 宮本真, 茂木麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 表面筋電図を用いた新型耳鼻咽喉ビデオスコープの人間工学的検討. 第71回気管食道科学会総会及び学術講演会, 宇都宮, 2019年11月28-29日.
  54. 宮本真, 長瀬美樹, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: NVP固定Cadaverから摘出した喉頭における音声機能について. 第71回気管食道科学会総会及び学術講演会, 宇都宮, 2019年11月28-29日.
  55. 茂木麻未, 宮本真, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: Blom気管切開チューブを用いて発声可能となった多系統萎縮症の1例. 第71回気管食道科学会総会及び学術講演会, 宇都宮, 2019年11月28-29日.
  56. 齋藤真衣, 下田由莉江, 崇幸恵, 佐藤洋平, 川原敬祐, 齋藤康一郎, 大山学, 水川良子: 薬剤性過敏症症候群の経過中に喉頭浮腫を生じた1例. 第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会及び学術講演会, 横浜, 2019年11月29日-12月1日.
  57. 横井秀格: アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎の最新の話題・治療法. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 2019年12月3日.
  58. Masuda M, Morita M, Matsuda T, Nakamura T, Ogawa M, Hamanoue Y, Ono S, a Mogi T, Sakamoto R, Miyama Y, Saito K: The difficulty of determining Eustachian tube function using Eustachian tube function tests alone. 15th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery 2019, Fukuoka, December 6-7, 2019.
  59. 横井秀格: 東京2020年花粉症対策～アレルギー性鼻炎治療の未来?～. 第9回ルパフィン花粉症Webセミナー, 東京, 2019年12月12日.
  60. 池田哲也: 歯科スタッフがいなくても大丈夫! 明日から役立つ, かんたん口腔ケア～きれいにすることだけじゃない～. コヴィディエンセミナー, 東京, 2019年12月14日.
  61. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と治療-主な抗ヒスタミン剤の特徴と販売戦略-. 久光製薬(株)医療情報担当者勉強会, 東京, 2020年1月7日.
  62. 齋藤康一郎: 音声喉頭疾患の保存的治療ーアレルギー関連症状への対策を含めてー. 南西TaMa耳鼻咽喉科研究会, 八王子, 2020年1月11日.
  63. 横井秀格: アレルギー疾患に関する薬物治療等. アレルギー疾患についてのアドバイザリー会議, 東京, 2020年1月14日.
  64. 齋藤康一郎: 音声障害の低侵襲治療. 足立区耳鼻咽喉科医会学術講演会, 東京, 2020年1月25日.
  65. 横井秀格: アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎の最新の話題・治療法. 昭島市医師会学術講演会, 昭島, 2020年1月29日.
  66. 齋藤康一郎: 咽喉頭異常感の複雑な病態と胃食道逆流症. タケキャブ web 2020 winter, 武蔵野, 2020年1月29日.
  67. 佐藤大, 茂呂順久, 加藤泰奈, 齋藤康一郎: 第3肋間型大胸筋皮弁を用いて腫瘍摘出後の再建を行った6症例の検討. 第30回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 宜野湾, 2020年1月30-31日.
  68. 雪野広樹, 唐帆健浩, 川原敬祐, 濱之上泰裕, 茂呂順久, 佐藤大, 齋藤康一郎: 頭頸部癌術後の嚥下障害に対する治療戦略. 第30回頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 宜野湾, 2020年1月30-31日.
  69. 加藤泰奈, 茂呂順久, 佐藤大, 田山二郎, 齋藤康一郎: 広頸筋皮弁による再建を行った頬粘膜癌の1例. 第30回頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 宜野湾, 2020年1月30-31日.
  70. 茂呂順久, 佐藤大, 齋藤康一郎: 当科で経験した頭頸部壊死性筋膜炎の臨床的検討. 第30回頭頸部外科学会総会及び学術講演会, 宜野湾, 2020年1月30-31日.
  71. 佐藤大: 自施設におけるニボルマブの治療成績. Head & Neck Immuno-Oncology Seminar, 立川, 2020年2月6日.
  72. 甲能直幸: 臨床医学の進歩 この50年で何がか変わったのか?. 第30回日本気管食道科学会認定 気管食道科専門医大会, 横浜, 2020年2月15-16日.

## 論文

1. Matsumoto Y, Yokoi H, Kawada M, Fujiwara M<sup>1</sup>, Saito K ( <sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University Faculty of Medicine ): Two Cases of Allergic Fungal Sinusitis with Differing Postoperative Course. Case Rep Otolaryngol 2019. DOI: 10.1155/2019/9598283
2. Yokoi H, Kodama S, Maruyama K<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>2</sup>, Shiokawa Y<sup>3</sup>, Saito K ( <sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>Department of Pathology, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>3</sup>Department of Neurosurgery Kyorin University Faculty of Medicine ): Endoscopic endonasal resection via a transsphenoidal and transpterygoid approach for sphenoid ridge meningioma extending into the sphenoid sinus: A case report and literature review. Int J Surg Case Rep 60: 115-119, 2019.
3. Yokoi H, Yamanaka H, Matsumoto Y, Kawada M, Fujiwara M, Ohara A<sup>1</sup>, Saito K ( <sup>1</sup> Department of Radiology, Kyorin University Faculty of Medicine ): Modified Lothrop (Draf III) procedure for the treatment of a recurrent orbitofrontal cholesterol granuloma: A case report. SAGE Open Med Case Rep 8: 2020. DOI: 10.1177/2050313X20907809



4. Maruyama K<sup>1</sup>, Yokoi H, Nagase M<sup>2</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Noguchi A<sup>1</sup>, Matsumura G<sup>2</sup>, Saito K, Shiokawa Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurosurge, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>2</sup> Department of Anatomy, Kyorin University Faculty of Medicine) : Usefulness of N-vinyl-2-pyrrolidone Embalming for Endoscopic Transnasal Skull Base Approach in Cadaver Dissection. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 59 (10):379-383, 2019.
5. Yokoi H : Diagnosis and treatment of allergic rhinitis: latest scientific findings focusing on cross-reactive carbohydrate determinants and neuropeptides. *Review. Juntendo Medical Journal* 65 (1): 2-11, 2019.
6. Higuchi S<sup>1</sup>, Kabeya Y<sup>2</sup>, Matsushita K<sup>3</sup>, Arai N<sup>4</sup>, Tachibana K<sup>4</sup>, Tanaka R<sup>4</sup>, Kawachi R<sup>5</sup>, Takei H<sup>6</sup>, Suzuki Y<sup>7</sup>, Kogure M<sup>7</sup>, Imanishi Y<sup>8</sup>, Moriyama K<sup>9</sup>, Sugiyama M<sup>7</sup>, Yorozu T<sup>9</sup>, Saito K, Abe N<sup>7</sup>, Kondo H<sup>4</sup>, Yoshino H<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Department of Cardiology, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>Division of General Internal Medicine, Department of Internal Medicine, Tokai University, <sup>3</sup>Department of Cardiology, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>4</sup>Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>5</sup>Department of General Thoracic Surgery, Nihon University School of Medicine, <sup>6</sup> Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>7</sup>Department of Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>8</sup>Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery, Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, <sup>9</sup>Department of Anesthesiology, Kyorin University Faculty of Medicine) : Perioperative Atrial Fibrillation in Noncardiac Surgeries for Malignancies and One-Year Recurrence. *Can J Cardiol* 35: 1449-1456, 2019.
7. Umeno H<sup>1</sup>, Hyodo M<sup>2</sup>, Haji T<sup>3</sup>, Hara H<sup>4</sup>, Imaizumi M<sup>5</sup>, Ishige M<sup>6</sup>, Kumada M<sup>7</sup>, Makiyama K<sup>8</sup>, Nishizawa N<sup>9</sup>, Saito K, Shiromoto O<sup>10</sup>, Suehiro A<sup>11</sup>, Takahashi G<sup>12</sup>, Tateya I<sup>11</sup>, Tsunoda K<sup>13</sup>, Shiotani A<sup>14</sup>, Omori K<sup>11</sup> (<sup>1</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kurume University School of Medicine, <sup>2</sup>Department Otolaryngology, Kochi University School of Medicine, <sup>3</sup>Kurashiki Central Hospital, <sup>4</sup>Department of Otolaryngology, Kawasaki Medical School, <sup>5</sup>Department of Otolaryngology, School of Medicine, Fukushima Medical University, <sup>6</sup>Department of Rehabilitation, Faculty of Medical Science and Welfare, Tohoku Bunka Gakuen University, <sup>7</sup>Kumada Clinic, <sup>8</sup>Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Nihon University School of Medicine, <sup>9</sup>School of Rehabilitation Sciences, Health Sciences University of Hokkaido, <sup>10</sup>Department of Communication Sciences and Disorders, Faculty of Health and Welfare, Prefectural University of Hiroshima, <sup>11</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University, <sup>12</sup>Yamahoshi Ear, Nose, and Throat Clinic, <sup>13,14</sup>Department of Artificial Organs and Medical Creation, National Institute of Sensory Organs, National Hospital Organization Tokyo Medical Center, <sup>14</sup>Department of Otolaryngology - Head and Neck Surgery, National Defense Medical College) : A summary of the Clinical Practice Guideline for the Diagnosis and Management of Voice Disorders, 2018 in Japan. *Auris Nasus Larynx* 47(1): 7-17, 2020. DOI: 10.1016/j.anl.2019.09.004
8. Miyamoto M, Ohara A<sup>1</sup>, Arai T<sup>1</sup>, Koyanagi M<sup>1</sup>, Watanabe I, Nakagawa H, Yokoyama K<sup>1</sup>, Saito K (<sup>1</sup>Department of Radiology, Kyorin University Faculty of Medicine) : Three-dimensional imaging of vocalizing larynx by ultra-high-resolution computed tomography. *Eur Arch Otorhinolaryngol* 276: 3159-3164, 2019.
9. Maruyama K<sup>1</sup>, Yokoi H, Nagase M<sup>2</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Noguchi A<sup>1</sup>, Matsumura G<sup>2</sup>, Saito K, Shiokawa Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Kyorin University Faculty of Medicine <sup>2</sup>Department of Anatomy, Kyorin University Faculty of Medicine) : Usefulness of N-vinyl-2-pyrrolidone Embalming for Endoscopic Transnasal Skull Base Approach in Cadaver Dissection. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 59: 379-383, 2019.
10. Higuchi S<sup>1</sup>, Kabeya Y<sup>2,3</sup>, Matsushita K<sup>1</sup>, Arai N<sup>4</sup>, Tachibana K<sup>4</sup>, Tanaka R<sup>4</sup>, Kawachi R<sup>5</sup>, Takei H<sup>4</sup>, Suzuki Y<sup>6</sup>, Kogure M<sup>6</sup>, Imanishi Y<sup>7</sup>, Moriyama K<sup>8</sup>, Yorozu T<sup>8</sup>, Saito K, Abe N<sup>6</sup>, Sugiyama M<sup>6</sup>, Kondo H<sup>4</sup>, Yoshino H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Division of Cardiology, Department of Internal Medicine II, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>Division of General Internal Medicine, Department of Internal Medicine, Tokai University, <sup>3</sup>Department of Home Care Medicine, Saiyu Clinic, <sup>4</sup>Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>5</sup>Department of General Thoracic Surgery, Nihon University School of Medicine, <sup>6</sup>Department of Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>7</sup>Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery, Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, <sup>8</sup>Department of Anesthesiology, Kyorin University Faculty of Medicine) : Incidence and complications of perioperative atrial fibrillation after non-cardiac surgery for malignancy. *PLoS One* 14: 2019. DOI: 10.1371/journal.pone.0216239
11. Moro Y, Kogashiwa Y<sup>1</sup>, Sakurai H<sup>2</sup>, Takahashi R<sup>3</sup>, Kimura T<sup>2</sup>, Hirasaki M<sup>1</sup>, Matsumoto Y, Sugawara M<sup>1</sup>, Kohno N (<sup>1</sup>Saitama Medical University, <sup>2</sup>Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>3</sup>Department of Flow Cytometry core facility, Kyorin University Faculty of Medicine) : In Vitro Study of the Anti-cancer Effect of Alternate-day 5-Fluorouracil in Head and Neck Cancer Cells. *Anticancer Res.* 39(11): 6041-6047. 2019. DOI: 10.21873/anticancerres.13810
12. 横井秀格 : 臨床ノート 鼻副鼻腔サルコイドーシス. 耳鼻免疫アレルギー (JJIAO) 37 (4) : 245-252, 2019.
13. 間藤翔悟, 宮本真, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎 : 加齢性音声障害に対するvocal function exerciseの治療効果と患者背景の検討. 言語聴覚研 16: 87-94, 2019.
14. 松塚崇<sup>1</sup>, 鈴木賢二<sup>2</sup>, 宮本直哉<sup>3</sup>, 杉山庸一郎<sup>4</sup>, 齋藤康一郎, 室野重之<sup>1</sup>, 大森孝一<sup>5</sup> (<sup>1</sup>福島県立医科大, <sup>2</sup>ヨナハ総合病院, <sup>3</sup>宮本ファミリー耳鼻科, <sup>4</sup>京都府立医科大, <sup>5</sup>京都大学) : 「耳鼻咽喉科内視鏡の感染制御に関する手引き」に沿った耳鼻咽喉科観察内視鏡の洗浄・消毒効果. 耳鼻感染症エアロゾル会誌 7 :

83-87, 2019.

15. 齋藤康一郎:耳鼻咽喉科学 外科的気道確保の現在. 医のあゆみ 270 : 1150-1151, 2019.
16. 齋藤康一郎:【早わかり!耳鼻咽喉科診断ガイドライン、手引き・マニュアル-私の活用法-】耳鼻咽喉科内視鏡の感染制御に関する手引き2016 私の活用法. ENTONI 236 : 156-160, 2019.
17. 齋藤康一郎:【私はこうしている-口腔咽喉頭頸部手術編】喉頭・気管手術 喉頭微細手術 喉頭乳頭腫. JOHNS 35 : 1155-1159, 2019.
18. 齋藤康一郎:【救急・当直マニュアル-いざというときの対応法-】救急外来・当直での基本手技 緊急気道確保. 耳喉頭頸 91 : 16-20, 2019.
19. 増田正次:【救急・当直マニュアル -いざというときの対応法-】救急外来・当直での処置と治療【感染症・炎症・浮腫】 急性中耳炎. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 91 : 183-188, 2019.
20. 唐帆健浩:嚥下性肺炎へのそれぞれの対応. 嚥下指導と嚥下訓練 日本気管食道科学会誌 70 : 121-123, 2019.
21. 横井秀格:第23回専門医に聞きたいちょっと気になる症状 鼻汁・鼻づまり. 料理と栄養 : 93-97, 2019.
22. 横井秀格:副鼻腔嚢胞の手術 -嚢胞へのアプローチ, 閉鎖しないためのコツ. 耳喉頭頸 : 766-772, 2019.
23. 横井秀格:救急・当直マニュアル-いざというときの対応法- 症状からみた鑑別診断Ⅲ 頭痛/顔面痛 耳喉頭頸81-86, 2019.
24. 横井秀格:特集:「鼻閉にまつわる問題とその解決策」テーマ:【鼻閉の原因と治療1-鼻腔】3. 副鼻腔炎 JOHNS : 1577-1580, 2019.
25. 池田哲也:診断力てすと 耳下部の誇張と排膿. デンタルダイヤモンド : 19-20, 2019.
26. 宮本真:小児気道の解剖、生理機能の特徴と手術疾患について. 第30回日本気管食道科学会認定専門医大会テキスト : 42-45, 2020.
27. 宮本真:嚥下手術 私の術式 小児の誤嚥防止術. 嚥下医学第9巻1号 : 60-62, 2020.
28. 橋本麻未, 宮本真, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎:気管挿管後に生じた甲状披裂筋麻痺4症例の検討. 日気食会報 71 : 21-26, 2020.
29. 宮本真, 齋藤康一郎:喉頭軟弱症に対する剪刀を用いた声門上形成術. 小児耳 41 : 75-79, 2020.
30. 加藤奏奈, 茂呂順久, 宮本真, 齋藤康一郎:下顎周囲炎から側頭部膿瘍を形成した1症例. 口咽科 33 : 39-43, 2020.
31. 齋藤康一郎:【気管切開術マニュアル】気管切開術の術式. JOHNS 36 : 153-156, 2020.
32. 甲能直幸:思い出の手術 思い出の手術 センチネルリンパ節(SLN)ナビゲーション手術. 日本気管食道科学会会報70巻2号 : 68-72, 2019.

## 著書

1. 齋藤康一郎:耳鼻咽喉・頭頸部手術アトラス[下巻]第2版. 咽喉頭 17 喉頭乳頭腫. 森山寛監修. 東京, 医学書院, 2020. p.77-81.
2. 齋藤康一郎:今日の治療指針 私はこう治療している. 耳鼻咽喉科疾患 音声障害. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2020. p.1623-1624.
3. 増田正次:乳突非開型手術. 日本耳科学会会員専用webページ 側頭骨手術手技修練法 モデル開閉ビデオ ライブラリー <https://www.otology.gr.jp/member/videoLib/index.php>. 2019.

php. 2019.

## その他

1. 甲能直幸: Hospital File(Web) 校正病院紹介「病院超メッセージ」. 2019年4月1日. <https://hospitalsfile.doctorsfile.jp/h/1027635/cm>
2. 甲能直幸:ドクターズファイル(Web)インタビュー「地域のニーズに応えながら全人的医療を提供」. 2019年4月1日. <https://doctorsfile.jp/h/27635/df/1/>
3. 齋藤康一郎:第40回東日本音声外科研究会主催, 東京, 2019年4月13日.
4. 甲能直幸: Medical Note (Web) インタビュー 「地域の方から信頼される病院を目指し、真摯に医療に取り組む校正病院」. 2019年7月. <https://medicalnote.jp/contents/190913-004-QY>
5. 増田正次:高齢者の難聴. テレビ朝日 ワイド!スクランブル, 2019年10月8日.
6. 齋藤康一郎:第30回日本気管食道科学会認定気管食道科学会専門医大会主催, 横浜, 2020年2月15-16日.
7. 甲能直幸:新型コロナウイルス感染症発生時の対応について. NHKおはよう日本, 2020年3月3日.
8. 甲能直幸:医療維新(Web)「【東京】地域の特徴を踏まえ一般病床50床を地域包括ケア病棟に変更 -甲能直幸 佼成病院長に聞くVol.1」. 2020年3月13日. <https://www.m3.com/open/iryoiShin/article/728108/>
9. 甲能直幸:医療維新(Web)「【東京】特徴ある医師が各診療科に1人以上いるのが理想-甲能直幸 佼成病院院長に聞くVol.2」. 2020年3月20日.

## 産婦人科学教室

### 講演

1. Tazo Y, Adachi K, Horie K, Yokota H, Ikeda M, Mikami M, Enomoto T, Kobayashi Y, Nagase S, Yokoyama M, Katabuchi H: Risk factors for recurrence of cervical lesions after conization in cases from the nation-wide registry of The Japan Society of Obstetrics and Gynecology. 71th Annual Meeting of JSOG, Nagoya, April 11-14, 2019.
2. Tanaka K, Tanigaki S, Hata K, Iwashita M, Kobayashi Y: Integration of transcriptome and DNA methylome analysis of BeWo cells stimulated by tumor necrosis factor-alpha and insulin-like growth factor-1: Implications for pathophysiology of pregnancy in polycystic ovary syndrome. 71th Annual Meeting of JSOG, Nagoya, April 11-14, 2019.
3. 百村麻衣, 小林陽一:子宮頸癌の新しいFIGO stagingと予後へのインパクト. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
4. 西ヶ谷順子:災害前に整えておくべきこと. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
5. 北村亜也, 田中啓, 中山真恵, 富岡紀子, 松澤由記子, 谷垣伸治, 岩下光利, 小林陽一:産科出血に対する子宮動脈塞栓術後の生殖機能に関する追跡調査. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
6. 渡邊百恵, 田中啓, 谷垣伸治, 岩下光利, 小林陽一: Azurocidin卵巣内膜症性嚢胞の薬剤抵抗性に冠する新規ピオマーカとなりうる. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月

- 11-14日.
7. 三沢昭彦, 小林陽一: スマートフォンを用いた双方向型医学教育の導入の試み～より良い産婦人科臨床実習を志向して～. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  8. 富岡紀子, 田中啓, 中山真恵, 北村亜也, 松澤由記子, 谷垣伸治, 岩下光利, 小林陽一: 腔内羊水グルコース濃度を用いた絨毛膜羊膜炎モニタリングの試み. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  9. 松本浩範, 渋谷英里子, 渡邊百恵, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 小林陽一: typeII子宮体癌においてサルコペニアは予後不良因子である. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  10. 植山清香, 松島実穂, 陣内実果, 佐藤泰紀, 片山沙弥, 鳥海玲奈, 谷垣伸治, 岩下光利, 小林陽一: 産科セミナーオープンシステムの有用性と当院における課題. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  11. 澁谷裕美, 村岡由真, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 岩下光利, 小林陽一: 腹腔鏡下子宮体癌手術の術前検査にPET/CT検査を追加する意義についての後方視的検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  12. 安部美由紀, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 谷垣伸治, 小林陽一: 婦人科悪性腫瘍術後患者において脂質代謝異常の継続的なフォローは重要である. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  13. Murakami I, Katabuchi H, Ohno A, Ikeda M, Yamashita H, Mikami M, Kobayashi Y, Nagase S, Yokoyama M, Enomoto T: Analysis of pathological and clinical characteristics of cervical conization focusing on age in Japan: Subcommittee for Investigation of Cervical Conization within the Gynecologic Oncology Committee in the Japan Society of Obstetrics and Gynecology. 71th Annual Meeting of JSOG, Nagoya, April 11-14, 2019.
  14. 中嶋理恵, 片瀨秀隆, 池田仁恵, 三上幹男, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊: 本邦における子宮頸部円錐切除術14,832例の検討—円切後合併症を中心に—, 「子宮頸部円錐切除術の実態調査」に関する小委員会. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  15. 林信孝, 上松和彦, 青木卓哉, 池田仁恵, 三上幹男, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 片瀨秀隆: 本邦における子宮頸部円錐切除術14,832例の検討—手術手技に関しての検討—, 「子宮頸部円錐切除術の実態調査」に関する小委員会. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  16. 荒瀬透, 片瀨秀隆, 持丸佳之, 池田仁恵, 三上幹男, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊: 本邦における子宮頸部円錐切除術14,832例の検討—施設属性を中心に—, 「子宮頸部円錐切除術の実態調査」に関する小委員会. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  17. 戸澤晃子, 三上幹男, 津田千春, 大原樹, 鈴木直, 池田仁恵, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 榎本隆之, 片瀨秀隆: 子宮頸部円錐切除症例の挙児希望症例に関する後方視的検討, 「子宮頸部円錐切除術の実態調査」に関する小委員会. 公益社団法人日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  18. 牧野真太郎, 谷垣伸治: 子宮破裂全国調査報告書. 日本産科婦人科学会第71回学術講演会, 名古屋, 2019年4月11-14日.
  19. 酒井美佳, 北村亜也, 田中啓, 松澤由記子, 谷垣伸治, 小林陽一: 癒着胎盤を生じた子宮筋腫核出術後妊娠の帝王切開術. 第390回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2019年5月18日.
  20. 松島実穂, 谷垣伸治, 片山沙弥, 佐藤泰紀, 植山清香, 鳥海玲奈, 小林陽一, 須藤恵美: 超音波検査で診断された上腸間膜動脈血栓症合併妊娠の1例. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24日.
  21. 柳下玲子, 谷垣伸治, 清水佳恵, 山田研二, 田島泰弘, 小林陽一: 妊娠初期にcystic hygromaがみられ, 妊娠中期よりFallot四徴症と診断しえた1例. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月25日.
  22. 西ヶ谷順子, 澁谷英里子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 田邊一成, 坂本憲彦, 大森嘉彦, 下山田博明, 柴原純二, 鈴木淳: 術前診断に苦慮した結節型外陰悪性黒色腫の1例. 第60回日本臨床細胞学会春期大会, 東京, 2019年6月8日.
  23. 岡愛子, 鈴木淳, 金田由香子, 斉藤由里香, 村田英一郎, 當眞嗣睦, 百村麻衣, 木村英三, 二階堂孝, 小林陽一: 新規子宮頸部細胞採取器具の有用性—スミアルーブと従来法を比べて—. 第60回日本臨床細胞学会春期大会, 東京, 2019年6月9日.
  24. 田邊一成, 岸本浩次, 坂本憲彦, 市川美雄, 鈴木瞳, 野口由香, 川上真理子, 西ヶ谷順子, 小林陽一, 長濱清隆, 柴原純二: 子宮体部脱分化癌(Dedifferentiated carcinoma)の1例. 第60回日本臨床細胞学会春期大会, 東京, 2019年6月9日.
  25. 浅野史男, 松島実穂, 片山沙弥, 佐藤泰紀, 植山清香, 鳥海玲奈, 田中啓, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠28週に子宮破裂を発症した多発子宮筋腫合併妊娠の1例. 第137回関東連合産科婦人科学会, 東京, 2019年6月15日.
  26. 片山沙弥, 西ヶ谷順子, 富岡紀子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一: 腺癌を原発とする転移性卵巣腫瘍の3例. 第137回関東連合産科婦人科学会, 東京, 2019年6月15日.
  27. 尾坂真, 百村麻衣, 中山真恵, 三沢昭彦, 松本浩範, 下山田博明, 長濱清隆, 柴原純二, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊孕性温存術後に挙児を得た両側卵巣境界悪性腫瘍の1例. 第381回四水会, 東京, 2019年6月26日.
  28. 西尾南紗, 谷垣伸治, 高江洲義和, 野崎和博, 中山真恵, 富岡紀子, 松澤由記子, 渡邊衡一郎, 小林陽一: 向精神薬中止後に妊娠した2例. 第48回日本女性心身医学会学術集会, 東京, 2019年6月28日.
  29. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 大森嘉彦, 長濱清隆, 下山田博明, 柴原純二, 小林陽一: 臍腫瘍を契機に発見された子宮体癌の1例. 第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 新潟, 2019年7月4-6日.
  30. 長嶋武雄, 寺内文敏, 佐川泰一, 西洋孝, 池田仁恵, 三上幹男, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 片瀨秀隆: 子宮頸部円錐切除術後の追加治療例に関する検討(JSOG婦人科腫瘍委員会). 第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 新潟, 2019年7月4-6日.
  31. 百村麻衣, 渡邊百恵, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一: 当院におけるオラパリブの使用経験. 第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 新潟, 2019年7月4-6日.
  32. 菊池朗, 高橋宏太郎, 吉田邦彦, 横尾朋和, 池田仁恵,

- 三上幹男, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 片瀧秀隆: 術前HPV診断と子宮頸部円錐切除術後診断, 予後に関する検討—JSOG腫瘍委員会報告—. 第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 新潟, 2019年7月4-6日.
33. 池田仁恵, 三上幹男, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 片瀧秀隆: わが国における子宮頸部円錐切除術の実態, 日本産科婦人科学会腫瘍委員会「子宮頸部円錐切除術の実態調査に関する小委員会」. 第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 新潟, 2019年7月4-6日.
  34. 澁谷裕美: LACC試験の対照例の検討. 第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 新潟, 2019年7月4-6日.
  35. 田中啓, 村岡由真, 本田理貢, 井澤朋子, 細井健一郎, 谷垣伸治, 小林陽一: Mirror症候群を合併した抗Jra抗体による血液型不適合妊娠. 第55回日本周産期・新生児医学会総会, 松本, 2019年7月13-15日.
  36. 高屋敷瑞穂, 谷垣伸治, 松島美穂, 松澤由記子, 北村亜也, 植山清香, 鳥海玲奈, 田中啓, 岩下光利, 小林陽一: 胎児発育不全の発症時期の違いによる臨床背景や転帰の差異. 第55回日本周産期・新生児医学会総会, 松本, 2019年7月13-15日.
  37. 松澤由記子, 谷垣伸治, 北村亜也, 植山清香, 鳥海玲奈, 田中啓, 松島美穂, 小林陽一: 当院における妊産婦のCT断層法検査についての検討. 第55回日本周産期・新生児医学会総会, 松本, 2019年7月13-15日.
  38. 尾坂真, 谷垣伸治, 松島美穂, 松澤由記子, 田中啓, 岩下光利, 小林陽一: 当院の超緊急帝王切開における意思伝達の課題. 第55回日本周産期・新生児医学会総会, 松本, 2019年7月13-15日.
  39. 谷垣伸治: 広がる経膈超音波の臨床応用. 札幌市産婦人科医会学術講演会, 札幌, 2019年7月20日.
  40. 谷垣伸治: 内科医が知っておきたい産科. 第4回内科プロバイダーコースbasic, 東京, 2019年7月27日.
  41. 横川直人, 島田浩太, 永井佳樹, 本田泉, 大野明子, 山本直樹, 三浦大, 長峰宏樹, 森川和彦, 金子徹治, 堀米仁志, 前野泰樹, 渋谷和彦, 谷垣伸治, 後藤美賀子, 村島温子: ヒドロキシクロロキンによる抗SS-A抗体合併妊娠での先天性房室ブロックの再発抑制(J-PATCH). 第4回日本母性内科学会総会・学術集会, 東京, 2019年7月28日.
  42. 藤麻摩理子, 谷垣伸治, 要伸也, 松澤由記子, 竹森聖, 松島美穂, 小林陽一: プレコンセプションカウンセリングによりシェーグレン症候群を診断した1例. 第4回日本母性内科学会, 東京, 2019年7月28日.
  43. 飯田理央子, 澁谷裕美, 藤麻摩理子, 村岡由真, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 長濱清隆, 下山田博明, 菅間博, 柴原純二, 山下詠子, 小林陽一: 術前診断が困難であった卵巣悪性プレナー腫瘍の2例. 20th JSAWI, 淡路, 2019年9月7日.
  44. 片山紗弥, 西ヶ谷順子, 富岡紀子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 山下詠子, 小林陽一: 膵臓を原発とする転移性卵巣腫瘍の3例. 20th JSAWI, 淡路, 2019年9月7日.
  45. 安部美由紀, 谷垣伸治, 山下詠子, 富岡紀子, 北村亜也, 田中啓, 山田研二, 松島美穂, 松澤由記子, 小林陽一, 横山健一: 先天性気管閉鎖症の1例. 20th JSAWI, 淡路, 2019年9月6-7日.
  46. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一: 術前組織診断施行困難であった子宮体癌に対して腹腔鏡下手術を施行した1例. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会, 京都, 2019年9月12日.
  47. 岡愛子, 三沢昭彦, 長内喜代乃, 宮崎典子, 井上慶子, 木村英三, 小林陽一, 鈴木淳: Xゲートフリーを用いた良性卵巣腫瘍に対する単孔式腹腔鏡下手術の実際. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会, 京都, 2019年9月12日.
  48. 岡愛子, 三沢昭彦, 長内喜代乃, 宮崎典子, 井上慶子, 木村英三, 小林陽一, 鈴木淳: 単孔式腹腔鏡手術を目指したreduced port surgeryの検討. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会, 京都, 2019年9月12日.
  49. 三沢昭彦, 岡愛子, 長内喜代乃, 宮崎典子, 井上慶子, 木村英三, 小林陽一, 鈴木淳: 進行卵巣癌に対し単孔式審査腹腔鏡手術を行った3例. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会, 京都, 2019年9月12日.
  50. Tanigaki S: Risk management of perinatal care in Japan. Modern Hospital Management Innovation & Development Summit, China, September 20, 2019.
  51. 小林陽一: 子宮体癌患者における脂質異常症の検討. 第2回日本腫瘍循環器学会, 旭川, 2019年9月21日.
  52. 谷垣伸治: 助産師の行う超音波検査. 東京母性衛生学会 チーム医療推進助産師研修, 東京, 2019年9月23日.
  53. 高屋敷瑞穂, 百村麻衣, 尾坂真, 中野紗弓, 中山真恵, 三沢昭彦, 小林陽一: 転移性脳腫瘍による頭痛から発見された子宮体癌の1例. 第391回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2019年9月28日.
  54. 鈴木珠美子, 竹森聖, 谷垣伸治, 北村亜也, 田中啓, 松島美穂, 松澤由記子, 小林陽一: 子宮動脈塞栓術後妊娠の子宮病理学的所見について. 第138回関東連合産科婦人科学会, 前橋, 2019年10月19日.
  55. 藤麻摩理子, 渡邊百恵, 飯田理央子, 村岡由真, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 吉池信哉, 長濱清隆, 柴原純二, 小林陽一: 子宮肉腫との鑑別を要した肺小細胞癌子宮転移の1例. 第138回関東連合産科婦人科学会, 前橋, 2019年10月19日.
  56. 渡邊百恵, 石田愛美, 田中啓, 小林陽一: 卵巣内膜症性嚢胞の薬剤耐性にかかわるバイオマーカーの検討. 第37回日本ヒト細胞学会, 東京, 2019年10月19日.
  57. 田中啓, 渡邊百恵, 松澤由記子, 小林陽一: Low-grade inflammationは絨毛細胞の増殖・血管新生を促進する. 第37回日本ヒト細胞学会, 東京, 2019年10月19日.
  58. 松澤由記子, 酒井啓治, 谷垣伸治, 小林陽一: 切断プロラクチンにおける絨毛栄養膜細胞の増殖能や遊走能の抑制に関する研究. 第37回日本ヒト細胞学会, 東京, 2019年10月19日.
  59. 谷垣伸治: 「必ずわかる! できる! 助産師が知っておきたい超音波検査」. 助産師が知っておきたい超音波セミナー (MCメディカ出版), 東京, 2019年11月2日.
  60. 村岡由真, 松澤由記子, 西ヶ谷順子, 小林陽一: 卵巣腫瘍の年齢別の組織型の検討. 第34回日本女性医学学会学術集会, 福岡, 2019年11月2日.
  61. 松澤由記子, 西ヶ谷順子, 安部美由紀, 松島美穂, 三沢昭彦, 谷垣伸治, 小林陽一: 造脛術後に生殖補助医療により妊娠・分娩に至った1例. 第34回日本女性医学学会学術集会, 福岡, 2019年11月2日.
  62. 片山紗弥, 松澤由記子, 谷垣伸治, 鳥海玲奈, 池田沙耶佳, 小林陽一: 生殖医療とプレコンセプションケアとの関わり. 第64回日本生殖医学学会学術集会, 神戸, 2019年11月7日.
  63. 竹森聖, 谷垣伸治, 富岡紀子, 北村亜也, 田中啓, 松島美穂, 松澤由記子, 小林陽一: NIPTの結果待機中に項部浮腫が判明した1例. 日本人類遺伝学会第64回

大会, 長崎, 2019年11月8日.

64. 中山真恵, 百村麻衣, 渋谷英里子, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 坂本憲彦, 岸本浩次, 大森嘉彦, 長濱清隆, 柴原純二, 小林陽一: 子宮内膜細胞診にて診断されたびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の1例. 第58回日本臨床細胞学会秋季大会, 岡山, 2019年11月16日.
65. 岡愛子, 鈴木淳, 齋藤由里香, 村田英一郎, 當眞嗣睦, 井上慶子, 百村麻衣, 木村英三, 二階堂孝, 小林陽一: 新規子宮頸部細胞採取器具のスミアループ・スモールタイプの妊婦への有用性の検討. 第58回日本臨床細胞学会秋季大会, 岡山, 2019年11月16日.
66. 土屋あい, 麻賀創太, 石坂欣大, 伊坂泰嗣, 井本滋, 吉池信哉, 千葉知宏, 菅間博, 松本浩範, 小林陽一: センチネルリンパ節生検で診断された子宮体癌腋窩下転移の症例. 第16回日本乳癌学会関東地方会, 大宮, 2019年11月16日.
67. 藤麻真理子, 谷垣伸治, 要伸也, 松澤由記子, 竹森聖, 田中啓, 松島実穂, 小林陽一: プレコンセプションカウンセリングにより抗SS-A抗体, 抗SS-B抗体陽性が判明した1例. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
68. 佐藤泰紀, 澁谷裕美, 西尾南紗, 渋谷英里子, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 谷垣伸治, 小林陽一: 広汎子宮全摘術後に開創器が原因と考えられる大腿神経麻痺を発症した1例. 第382回四水会, 東京, 2019年11月20日.
69. 谷垣伸治: 今こそ切迫早産. 第6回さいたま市立病院周産期連絡会, さいたま, 2019年11月21日.
70. Tanigaki S (International Interactive Session): US & GDM screening. The 32nd Annual Meeting of the Korean Society of Perinatology, Korea, November 23, 2019.
71. Osawa K, Tanigaki S, Takemori S, Kitamura A, Matsuzawa Y, Kobayashi Y: Treatments of retained placenta-case series. 9th Taiwan-Japan-Korea symposium in Maternal-Fetal Medicine, Taiwan, December 1, 2019.
72. 西尾南紗, 田中啓, 飯田理央子, 鈴木珠美子, 安部美由紀, 松島実穂, 松澤由記子, 谷垣伸治, 小林陽一: 子宮動脈塞栓術後に子宮壊死をきたした1例. 第392回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2019年12月7日.
73. 谷垣伸治: 「必ずわかる! できる! 助産師が知っておきたい超音波検査」. 助産師が知っておきたい超音波セミナー (MCメディア出版), 大阪, 2020年1月12日.
74. 渡邊百恵, 田中啓, 谷垣伸治, 小林陽一: 卵巣内膜症性嚢胞の薬剤抵抗性にかかわるバイオマーカーの検討. 第41回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会, 下関, 2020年1月19日.
75. 谷垣伸治, 佐藤泰紀: ハンズオン「だからわかる! できる! 助産師が知っておきたい超音波検査」. 助産師が知っておきたい超音波セミナー (MCメディア出版), 東京, 2020年2月8日.
76. 竹森聖, 渡邊百恵, 田中啓, 小林陽一: 子宮内膜症関連卵巣がんにおける新規バイオマーカーの検索. 第8回婦人科バイオマーカー研究会, 横浜, 2020年2月8日.
77. 尾坂真, 西ヶ谷順子, 飯田理央子, 片山紗弥, 富岡紀子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 谷垣伸治, 小林陽一: CA19-9異常高値を認めた良性卵巣Brenner腫瘍の1例. 第393回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2020年2月15日.

## 論文

1. Machida H<sup>1</sup>, Matsuo K<sup>2</sup>, Yamagami W<sup>3</sup>, Ebina Y<sup>4</sup>, Kobayashi Y, Tabata T<sup>5</sup>, Kanauchi M<sup>6</sup>, Nagase S<sup>7</sup>, Enomoto T<sup>8</sup>, Mikami M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokai University, <sup>2</sup>University of Southern California, <sup>3</sup>Keio University, <sup>4</sup>Kobe University, <sup>5</sup>Tokyo Women's Medical University, <sup>6</sup>Otaru General Hospital, <sup>7</sup>Yamagata University, <sup>8</sup>Niigata University School of Medicine): Trends and characteristics of epithelial ovarian cancer in Japan between 2002-2015: A JSGO-JSOG joint study. *Gynecol Oncol* vol.153(3):589-596, 2019.
2. 谷垣伸治, 田中啓, 松島実穂, 松澤由記子: 胎児肺成熟. 産と婦 86 (増刊号):279-284, 2019.
3. 小林陽一: 新時代のホルモン療法マニュアル子宮内膜間質肉腫. 産と婦 86 (増刊号):327-330, 2019.
4. 野口健朗, 澁谷裕美, 村岡由真, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 岩下光利, 小林陽一: 有茎性漿膜下筋腫の表在血管の破綻により腹腔内大量出血をきたした1例. 東京産婦会誌 68:222-225, 2019.
5. 谷垣伸治, 野口健朗, 對馬可菜, 松島実穂, 松澤由記子: 救急外来からのコールに慌てずに対応するコツ. 臨産婦 73 (増刊号):6-11, 2019.
6. Furukawa S, Kobayashi Y: Leaner women with impaired insulin secretion accounts for about 40% of gestational diabetes mellitus in Japan. *J Pregnancy* 7578403, 2019. doi:10.1155/2019/7578403.
7. 岡愛子, 田中啓, 松島実穂, 谷垣伸治, 古川誠志, 岩下光利, 小林陽一: 妊娠初期の妊娠糖尿病スクリーニング基準に関する検討. 日本周産期・新生児学会雑誌 55:62-67, 2019.
8. 中山真恵, 松澤由記子, 富岡紀子, 北村亜也, 田中啓, 百村麻衣, 谷垣伸治, 岩下光利, 小林陽一: 生殖補助医療後に卵巣妊娠に至った1例. 東京産婦会誌 68:486-490, 2019.
9. 谷垣伸治, 鈴木珠美子, 大沢草宣, 安部美由紀, 竹森聖, 北村亜也, 松澤由記子, 小林陽一: 慢性早剥羊水過少症候群. 周産期医 49:980-982, 2019.
10. 谷垣伸治, 北村亜也, 植山清香, 松島実穂: 妊娠中期の簡易スクリーニング. 産と婦 86:1065-1070, 2019.
11. 酒井美佳, 北村亜也, 田中啓, 松澤由記子, 谷垣伸治, 小林陽一: 癒着胎盤を生じた子宮筋腫核出術後妊娠の1例. 東京産婦会誌 68:665-668, 2019.
12. 谷垣伸治, 竹森聖, 北村亜也, 田中啓, 松島実穂, 小林陽一: 子癇予防. 周産期医学 49:1395-1398, 2019.
13. Matsuo K<sup>1</sup>, Machida H<sup>2</sup>, Yamagami W<sup>3</sup>, Ebina Y<sup>4</sup>, Kobayashi Y, Tabata T<sup>5</sup>, Kanauchi M<sup>6</sup>, Nagase S<sup>7</sup>, Enomoto T<sup>8</sup>, Mikami M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Southern California, <sup>2</sup>Tokai University, <sup>3</sup>Keio University, <sup>4</sup>Kobe University, <sup>5</sup>Tokyo Women's Medical University, <sup>6</sup>Otaru General Hospital, <sup>7</sup>Yamagata University School of Medicine, <sup>8</sup>Niigata University School of Medicine): Intraoperative capsle rupture, postoperative chemotherapy, and survival of women with stage I epithelial ovarian cancer: A JSOG-JSGO joint study. *Obstet Gynecol* 134:1017-1026, 2019.
14. Yamamoto R<sup>1</sup>, Sekiyama K<sup>1</sup>, Higuchi T<sup>1</sup>, Ikeda M<sup>2</sup>, Mikami M<sup>2</sup>, Kobayashi Y, Nagase S<sup>3</sup>, Yokoyama M<sup>4</sup>, Enomoto T<sup>5</sup>, Katabuchi H<sup>6</sup> (<sup>1</sup>Kitano Hospital, <sup>2</sup>Tokai University School of Medicine, <sup>3</sup>Yamagata University, <sup>4</sup>Saga University, <sup>5</sup>Niigata University,

6Kumamoto University): Value and limitation of conization as a diagnostic procedure for cervical neoplasm. *J Obstet Gynaecol Res* 45: 2419-2424, 2019.

15. Tanaka K, Hosoi K, Yoshiike S, Nagahama K, Tanigaki S, Shibahara J, Ohnishi H, Kobayashi Y: Mirror syndrome due to anri-Jra alloimmunization. *Taiwanese J Obstet Gynecol* vol.59(3): 456-459, 2020.
16. 中山真恵, 百村麻衣, 岡愛子, 渋谷英里子, 松本浩範, 岩下光利, 小林陽一: Nuck管水腫は高率に子宮内膜炎を合併する. *関東連産婦会誌* 56: 567-572, 2019.
17. Okabe N<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>1</sup>, Mochizuki K<sup>2</sup>, Otsuka Y<sup>3</sup>, Nishigaya Y, Kobayashi Y, Kamma H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Teikyo University, <sup>3</sup>Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): CD34-positive uterine lipoleiomyoma in a postmenopausal woman with chronic glomerulonephritis. *Eur J Gynecol Oncol*, 2019, in press.
18. 小林陽一: 婦人科癌のゲノム医療. *杏林医会誌* 50: 199-202, 2019.
19. Tanaka K, Nakabayashi K<sup>1</sup>, Kawai T<sup>1</sup>, Tanigaki S, Matsumoto K<sup>1</sup>, Hata K<sup>1</sup>, Kobayashi Y (<sup>1</sup>National Research Institute for Child Health and Development): Gene expression and DNA methylation changes in BeWo cells dependent on tumor necrosis factor- $\alpha$  and insulin-like growth factor. *Hum Cell* 33: 37-46, 2020.
20. 百村麻衣, 小林陽一: 一から学びなおす, 婦人科がん化学療法有害事象の管理, 9.末梢神経障害. *産と婦* 87: 165-170, 2020.
21. Tanigaki S: Specialist pride. *J Med Ultrason* (2001) 47: 1. <https://doi.org/10.1007/s10396-019-00994-8>.
22. 谷垣伸治, 中野紗弓, 高屋敷瑞穂, 尾坂真, 竹森聖, 北村亜也, 松島実穂, 松澤由記子, 西ヶ谷順子, 小林陽一: 前置胎盤・常位胎盤早期剥離, チーム医療における助産師の役割. *ペリネイタルケア* 39: 50-56, 2020.

## 著書

1. Kobayashi Y: 4. Conization, Surgery for Gynecologic Surgery. *Comprehensive Gynecology and Obstetrics*. Springer Nature Singapore Pte Ltd, 2019.
2. 谷垣伸治, 尾坂真, 高屋敷瑞穂, 竹森聖, 松澤由記子: 胎状奇胎. 私の治療 [2019-20年度版]. 猿田亨男, 北村惣一郎監修, 東京, 日本医事新報社, 2019.
3. 小林陽一, 菊安俊哉: 初回診断と治療後フォローアップ〜子宮頸癌(腺癌). 一冊でわかる婦人科腫瘍の画像診断. 片瀨秀隆, 榊靖編. 東京, 文光堂, 2019. p.70-72.
4. 小林陽一: 8. 良性卵巣腫瘍, CQ34更年期における良性卵巣腫瘍はどのように管理するか?, 女性医学ガイドブック, 更年期医療編2019年度版. 日本女性医学学会編. 東京, 金原出版, 2019. p.215-217.
5. 谷垣伸治: 超音波診断. 新版 助産師業務要覧 第3版 II 実践編 2020年版. 福井トシ子編. 東京, 日本看護出版協会, 2020. p.296-306.
6. 谷垣伸治: シミュレーション. 研修ノート103 産科異常出血への対応. 東京, 日本産婦人科医会, 2020. p.93-95.

## その他

1. 谷垣伸治: これからの皆さんに贈るチーム作りのヒント(チームSTEPPS). 2019年度採用臨床研修医オリエンテーション(日本医科大学付属病院), 東京, 2019年4月5日.
2. 小林陽一: 女性のがんと遺伝. 杏林大学「がんと共にすこやかに生きる」講演会, 三鷹, 2019年6月15日.
3. 谷垣伸治: 岩倉市立岩倉北小学校第5, 6学年「いのちの時間講演会」. 岩倉, 2020年1月10日.
4. 谷垣伸治: NCPR Aコースインストラクター, 杏林大学, 三鷹, 2020年1月18日.
5. 谷垣伸治: 「風しんの日」, 風しん対策啓発イベント. 東京, 2020年2月4日.
6. 谷垣伸治: さいたま市立高砂小学校第5学年「人の誕生」. さいたま, 2020年2月5日.
7. 小林陽一: 婦人科腫瘍におけるCardio-oncologyの重要性. 第21回北陸GOG open clinical conference, 金沢, 2020年2月8日.

## 放射線医学教室

### 講演

1. 横山健一: 心臓領域での画像診断, おさえておくべきポイント: MRIによる非虚血性心筋症診断のポイント. 第78回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2019年4月11-14日.
2. 片瀬七朗, 林真弘, 奥田俊, 渡邊正中, 沈金花, 町田治彦, 横山健一: 深層学習を用いた胸部CTの肺結節検出支援システム(CADe)の開発と検出能の評価. 第78回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2019年4月11-14日.
3. 片瀬七朗: AI技術を用いた画像診断支援-実用化に向けた臨床応用と評価-, Deep Learning技術を用いた肺結節CADeの有用性評価. 第78回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2019年4月11-14日.
4. Nishikawa M, Machida H, Sano K, Kariyasu T, Katase S, Tateishi H, Yokoyama K: Ultra-high-resolution CT with model-based iterative reconstruction improves delineation of the hepatic arteries, pancreaticoduodenal arcade, and biliary and pancreatic ducts. The 78th Annual Meeting of the Japan Radiological Society 2019, Tokyo, April 11th-14th, 2019.
5. 五明美穂: 2種類のUltra-short TE-ASL MRA法(UTE-4D MRAとmUTE ASTAR)の描出能と有用性-自作流体ファントムを用いた検証と術後脳動脈瘤症例での比較検討-. 第8回循環器撮影研究会, 横浜, 2019年4月12日.
6. 大原有紗, 土屋一洋: 脊髄サルコイドーシス. 第39回神経放射線ワークショップ, 名護, 2019年4月25-27日.
7. 五明美穂: 超高精細CTの特性を活かした中枢神経領域での当院での取り組み〜臨床応用を中心に〜. 第39回神経放射線ワークショップ, 名護, 2019年4月26日.
8. Fukushima K, Sano K, Machida H, Kariyasu T, Miyazaki I, Yoshioka T, Takahashi S, Yuda S, Shimizu Y, Yonaha T, Nakanishi A, Kusahara H, Matsuoka Y, Kitamura M, Yamamoto T, Yokoyama K: Impacts of different b and TE values on quality of 3T diffusion-weighted imaging of the liver using a high gradient magnetic field: feasibility of ultrahigh b value of 3000. International Society

- for Magnetic Resonance in Medicine (ISMRM) 2019, Canada, May 10th-16th, 2019.
9. Takahashi S, Haruhiko M, Kariyasu T, Niitsu R, Miyazaki I, Yoshioka T, Fukushima K, Shimizu Y, Nakanishi A, Matsuoka Y, Kitamura M, Yamamoto T, Yokoyama K: Improved vessel delineation in whole-heart coronary MRA with sub-millimeter isotropic resolution using deep learning reconstruction compared with routine whole-heart coronary MRA. International Society for Magnetic Resonance in Medicine (ISMRM) 2019, Canada, May 10th-16th, 2019.
  10. Gomyo M, Tsuchiya K, Yoshioka T, Takahashi S, Katase S, Ohara A, Miyazaki I, Yokoyama K: Usefulness for high resolution 3D-TOF MRA and deep learning reconstruction using 3T MRI scanner with high gradient magnetic field: Study of the depiction of brain perforating arteries. The 27th International Society for Magnetic Resonance in Medicine (ISMRM), Canada, May 11th-16th, 2019.
  11. 横山健一: 明日からの診療に役立つ心臓MRIの基礎知識. 第39回つくば放友会 特別講演, つくば, 2019年5月29日.
  12. 立石秀勝: AZUR症例検討会. IVR学会, 福岡, 2019年5月30日-6月1日.
  13. 高久啓志, 岩本敏彦, 伊藤美幸, 武内啓誌, 首藤淳, 中西章仁, 黒木一典, 荏安俊哉, 立石秀勝, 横山健一: 体幹部領域における3次元位置情報電磁ナビゲーションシステムの臨床使用に向けた基礎的検討. IVR学会, 福岡, 2019年5月30日-6月1日.
  14. 高久啓志, 岩本敏彦, 荏安俊哉, 立石秀勝, 町田治彦, 黒木一典, 横山健一: 電磁ナビゲーションシステムにおけるVisualized Catheter Tipの追従性と位置精度の検討. The 48th Annual Meeting of the Japanese Society of International Radiology (JSIR 2019), Fukuoka Japan, May 30th-June 1st.
  15. 岩本敏彦, 高久啓志, 荏安俊哉, 立石秀勝, 町田治彦, 黒木一典, 横山健一: 電磁ナビゲーションシステムにおける体幹部領域使用に向けた可視化カテーテル先端位置の精度評価. The 48th Annual Meeting of the Japanese Society of International Radiology (JSIR 2019), Fukuoka Japan, May 30th-June 1st.
  16. 横山健一: 高精細MRI. 第38回東京MRI研究会, 東京, 2019年7月13日.
  17. 横山健一: 肺高血圧症のCT診断. 第5回呼吸機能イメージング研究会サマーセミナー, 那覇, 2019年7月26-27日.
  18. 横山健一: 心臓腫瘍2. SCMR Japan WG Seminar 2019, 東京, 2019年8月3日.
  19. Gomyo M, Tsuchiya K, Hosoi S, Tahara T, Tajima T, Oya S, Shojima M, Matui T, Yokoyama K: Usefulness of vessel wall MR imaging for assessment of stent-assisted treatment of intracranial arterial diseases. 第47回日本磁気共鳴医学会大会, 熊本, 2019年9月20-22日.
  20. Shinsuke H, Ono T, Tahara T, Gomyo M, Shojima M, Tsuchiya K: Basic assessment of the value of the T1-VISTA sequence for luminal evaluation after intracranial stent placement. 第47回日本磁気共鳴医学会大会, 熊本, 2019年9月20-22日.
  21. Yoshioka T, Takahashi S, Fukushima K, Gomyo M, Machida H, Kusahara H, Kunimitsu K, Yokoyama K: Phantom experiments to investigate appropriate scan parameters for delineating the lenticulostriate arteries in high-resolution 3D TOF MRA. 第47回日本磁気共鳴医学会大会, 熊本, 2019年9月20-22日.
  22. Takahashi S, Yoshioka T, Fukushima K, Nakanishi A, Gomyo M, Machida H, Kunimistu K, Kusahara H, Yokoyama K: Volunteer studies to compare image quality and delineation of the lenticulostriate arteries in high-resolution 3D TOF MRA with various scan parameters. 第47回日本磁気共鳴医学会大会, 熊本, 2019年9月20-22日.
  23. Fukushima K, Sano K, Machida H, Kariyasu T, Takahashi S, Yoshioka T, Nakanishi A, Kunimitsu K, Kusahara H, Yokoyama K: Usefulness of an ultrahigh b value and the minimal TE to improve differentiation between benign and malignant hepatic tumors on 3T DWI. The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Magnetic Resonance in Medicine (JSMRM2019), Kumamoto, Japan, September 20th- 22nd, 2019.
  24. Gomyo M: Delineation of critical fine branches by high-resolution brain 3D-TOF MRA using deep learning reconstruction. Advanced Imaging Multimodality Seminars (AIMS) Neuro Imaging 2019, 東京, 2019年9月28-29日.
  25. 横山健一: これだけは押さえておきたい心臓MRIの必須知識. 鹿島心臓画像学術講演会, 神栖, 2019年10月4日.
  26. 五明美穂: 超高精細CTの有用性. 第31回つきじ放射線研究会, 東京, 2019年11月9日.
  27. 五明美穂: AIがもたらすインパクト~ Deep Learningで変わる? 神経放射線の未来~. 静岡-Neuroimaging Conference~S-NIC~, 静岡, 2019年11月14日.
  28. Shimizu Y, Machida H, Gomyo M, Kariyasu T, Adachi T, Arai T, Yamamura W, Koyanagi M, Nakanishi A, Yokoyama K: Improved Delineation of Brain Perforating Arteries in Brain CTA by Ultra High-Resolution CT: What the Radiologist and Radiology Technologist Need to Know. Radiology Society of North America (RSNA) 2019, USA, December 1st-6th, 2019.
  29. Shimizu Y, Machida H, Nishikawa M, Morisaka H, Adachi T, Kariyasu T, Sano K, Saito S, Nakai T, Sakaguchi K, Matsumoto S, Koyanagi M, Nakanishi A, Yokoyama K: Comparison of Image Quality and Subjective Acceptance in Abdominal CT By Ultrahigh-resolution CT at Different Radiation Doses Between Model-based Iterative and Deep Learning Reconstructions: Phantom and Clinical Pilot Studies. Radiology Society of North America (RSNA) 2019, USA, December 1st-6th, 2019.
  30. Watanabe M, Machida H, Fukushima K, Kariyasu T, Nishikawa M, Yoshioka T, Shimizu Y, Takahashi S, Tateishi H, Taguchi S, Tanbo M, Fukuhara H, Yokoyama K: Clinical usefulness of thin-slice T2-weighted imaging using a 3T MR scanner with deep learning reconstruction for VI-RADS evaluation of bladder cancer. Radiological Society of North America 2019 (RSNA 2019), America, December 1st-6th, 2019.
  31. Watanabe M, Machida H, Fukushima K, Kariyasu T, Nishikawa M, Yoshioka T, Shimizu Y, Takahashi

S, Tateishi H, Taguchi S, Tanbo M, Fukuhara H, Yokoyama K: Be Familiar with VI-RADS A Pictorial Review Regarding Multiparametric MRI for Bladder: What the Radiologist and Radiological Technologist Need to Know. Radiological Society of North America 2019 (RSNA 2019), America, December 1st-6th, 2019.

32. 大原有紗: 菌性感染による頭蓋底骨髄炎、硬膜炎、咀嚼筋間隙膿瘍. Skull base osteomyelitis, pachymeningitis, masticator space abscess spreading from infections of the mandibular teeth. 第397回東京レントゲンカンファレンス, 東京, 2020年1月23日.
33. 横山健一: MRIによる循環器疾患への新たなアプローチ. 第30回日本心血管画像動態学会, 仙台, 2020年1月24-25日.
34. 須山淳平: これだけは押さえておきたいSPECTの最近の話題. 第36回多摩画像カンファレンス, 三鷹, 2020年2月1日.
35. 須山淳平: 当院におけるVSBONE - BSIの使用経験例. 第28回西東京核医学研究会, 立川, 2020年2月15日.

## 論文

1. 町田治彦, 西川真木子, 志賀久恵, 菊安俊哉, 横山健一, 清水裕太, 安達卓哉, 松島紗織, 小柳正道, 中西章仁: 杏林大学医学部付属病院におけるSpectral CT臨床活用の実例. インナービジョン 35(3): 22-26, 2020.
2. 町田治彦, 西川真木子, 横山健一: 収縮性心膜炎. ここから始める循環器疾患のCT・MRI: 74-75, 2020.
3. Morisaka H<sup>1</sup>, Shimizu Y, Adachi T, Fukushima K, Arai T, Yamamura W, Koyanagi M, Kariyasu T, Machida H, Sano K<sup>1</sup>, Yokoyama K, Ichikawa T<sup>1</sup> (Saitama Medical University International Medical Center: Effect of Ultra High-Resolution Computed Tomography and Model-Based Iterative Reconstruction on Detectability of Simulated Submillimeter Artery. J Comput Assist Tomogr 44(1):32-36, 2020.
4. 五明美穂, 土屋一洋<sup>1</sup> (1埼玉医科大学総合医療センター・放射線科): 【血管壁を意識した脳血管障害の画像診断】脳血管壁イメージング法. 画像診断39: 1123-1132, 2019.
5. 五明美穂, 土屋一洋<sup>1</sup> (1埼玉医科大学総合医療センター・放射線科): 【拡散強調像:最近の技術動向と臨床展開】拡散強調像による脳虚血の診断. 臨床画像 35: 1021-1030, 2019.
6. 土岐真朗<sup>1</sup>, 古瀬純司<sup>2</sup>, 神林孔明<sup>1</sup>, 野坂岳志<sup>1</sup>, 北田修一<sup>1</sup>, 後藤知之<sup>1</sup>, 吉田翼<sup>1</sup>, 落合一成<sup>1</sup>, 権藤興一<sup>1</sup>, 渡邊俊介<sup>1</sup>, 岡野尚弘<sup>2</sup>, 立石秀勝, 鈴木裕<sup>3</sup>, 柴原純二<sup>4</sup>, 阪本良弘<sup>3</sup>, 杉本昌弘<sup>5,6</sup>, 砂村真琴<sup>7</sup>, 久松理一<sup>1</sup> (1杏林大・医・消化器内科学, 2杏林大・医・腫瘍内科学, 3杏林大・医・消化器・一般外科, 4杏林大・医・病理学教室, 5東京医科大学低侵襲医療開発総合センター, 6慶應義塾大学先端生命科学研究所, 7東京医科大学八王子医療センター): 内視鏡を用いずに採取された検体(血清, 唾液, 尿等)による膵癌のバイオマーカー: 現状と今後の展望. 胆と膵 Vol.41(3):325-328, 2020.
7. 土岐真朗<sup>1</sup>, 権藤興一<sup>1</sup>, 渡邊俊介<sup>1</sup>, 立石秀勝, 鈴木裕<sup>2</sup>, 阿部展次<sup>2</sup>, 久松理一<sup>1</sup> (1杏林大・医・消化器内科学, 2杏林大・医・消化器・一般外科): EST-出血・穿孔しても慌てない. 消化器内視鏡 Vol32(3): 328-333, 2020.

8. 西川真木子, 町田治彦, 渡邊正中, 立石秀勝, 菊安俊哉, 横山健一, 辺泰樹: CT・MRI時代の単純X線写真: いつ撮る? どう読む? 心大血管病変. 臨床画像 35(1): 50-64, 2019.
9. 西川真木子, 町田治彦, 横山健一: 先天性心膜欠損. ここから始める循環器疾患のCT・MRI: 76-77, 2020.
10. 奥田俊, 町田治彦, 西川真木子, 菊安俊哉, 横山健一: 特集 かすかな所見からひも解く胸部画像診断心大血管病変: 辺縁に注目する. 臨床画像 35(12): 1420-1431, 2019.
11. Miura Y<sup>1</sup>, Higuchi S<sup>1,2</sup>, Matsushita K<sup>1</sup>, Kariyasu T, Machida H, Yokoyama K, Soejima K<sup>1</sup>, Satoh T<sup>1</sup> (Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup> Department of Emergency and General Medicine, Kyorin University School of Medicine): Clinical impact of visceral-to-subcutaneous fat ratio in patients with acute aortic dissection. PLoS One. 2019 Dec 23;14(12)

## 著書

1. 菊安俊哉 (分担執筆): 一冊でわかる婦人科腫瘍の画像診断. 子宮頸癌(腺癌). 片淵秀隆, 楫靖編集. 東京, 文光堂, 2019. p.70-71.
2. 志賀久恵, 町田治彦, 辺泰樹, 横山健一: MRI心疾患の包括的評価. 胸部外科72. 東京, 南江堂, 2019. p.946-953.

## その他

1. 須山淳平, 福島賢慈, 橋本順, 内山眞幸, 伊藤公輝: 症例クイズ: 出題編 (第916回 放射線診療研究会 報告). 臨床核医学52 (6): 82 - 85, 2019.
2. 須山淳平, 福島賢慈, 橋本順, 内山眞幸, 伊藤公輝: 症例クイズ: 解答編 (第916回 放射線診療研究会 報告). 臨床核医学53 (1): 2 - 4, 2019.
3. 須山淳平: 第38回日本核医学会分科会呼吸器核医学研究会主催, 松山, 2019年11月3日.
4. 片瀬七朗: AI技術を用いた画像診断支援 -実用化に向けた臨床応用と評価-, Deep Learning技術を用いた肺結節CADE の有用性評価. インナービジョン 第34巻7号, 2019. (商業雑誌取材)
5. 高久啓志, 立石秀勝: Aquilion ONE (心血管) 部門【優秀賞】. 乳児大動脈奇形, 画論27th The Best Image, 東京, 2019年12月15日.

## 放射線腫瘍学教室

## 講演

1. 小林敬明, 戸成綾子, 河合桐男, 前園知宏, 黒澤貴志, 岡野尚弘, 長島文夫, 江原威, 古瀬純司: 進行胃がんに対する化学療法中に胃がん出血に対して緩和照射を施行した6例. 第24回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2019年6月21 - 22日.
2. 安藤謙, 永島潤, 東杏莉, 木暮圭子, 山下宗一, 中村和人, 鹿沼達哉, 江原威: 子宮頸癌に対する画像誘導小線源治療の導入による治療成績への影響. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 京都, 2019年7月4 - 6日.
3. 宮坂勇平, 吉本由哉, 村田和俊, 野田真永, 安藤謙, 江原威, 小此木範之, 神沼拓也, 山田勢至, 伊古田勇人, 横尾英明, 大野達也, 中野隆史: 子宮頸部腺癌に対する放射線治療後の予後規定因子の探索; 多施設共同後向き観察研究. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 京都, 2019年7月4 - 6日.
4. Kubota H, Nakamura N, Shikama S, Tonari A, Wada H, Harasa H, Nagakura H, Heianna J,



Nozaki M, Tago M, Fushiki M, Uchida N, Araki N, Sekii S, Kosugi T, Takahashi T, Kawamoto T, Saito T, Yamada K: Assessment of National Patterns of Practice for Postoperative Radiation Therapy in Patients with Long Bore Metastases. ASTRO's 61th, USA, September 15th-18th, 2019.

5. 江原威：対症療法に放射線治療の活用を！＝骨転移だけじゃない対症的放射線治療＝. 第39回群馬緩和医療研究会, 前橋, 2019年10月5日.
6. 宮坂勇平, 吉本由哉, 村田和俊, 野田真永, 安藤謙, 江原威, 小此木範之, 神沼拓也, 山田勢至, 伊古田勇人, 横尾英明, 大野達也, 中野隆史: 子宮頸部腺癌に対する放射線治療後の予後規定因子の探索. 日本放射線腫瘍学会第32回学術大会, 名古屋, 2019年11月21 - 23日.
7. 安藤謙, 永島潤, 小林大二郎, 江原威: 子宮頸癌における治療室内CTを用いた画像誘導小線源治療の有用性. 日本放射線腫瘍学会第32回学術大会, 名古屋, 2019年11月21 - 23日.
8. 水野将人, 村上晋也, 高木正人, 榎本裕美, 丸山靖, 池田郁夫, 戸成綾子, 江原威: AIを組み込んだディープラーニング技術を用いたCT画像による放射線治療計画の試み. 日本放射線腫瘍学会第32回学術大会, 名古屋, 2019年11月21 - 23日.
9. 永島潤, 安藤謙, 小林大二郎, 堀越浩幸, 清水信明, 江原威: 去勢抵抗性前立腺癌骨転移に対する塩化ラジウム (Ra-223) 治療の臨床経験. 日本放射線腫瘍学会第32回学術大会, 名古屋, 2019年11月21 - 23日.

## 論文

1. Ebara T, Ando K<sup>1</sup>, Eishima J<sup>1</sup>, Suzuki M<sup>1</sup>, Kawakami T<sup>1</sup>, Horikoshi H<sup>1</sup>, Tamaki Y<sup>2</sup> (1Gunma Prefectural Cancer Center, 2Tsukuba University Hospital): Radiation with concomitant superselective intra-arterial cisplatin infusion for maxillary sinus squamous cell carcinoma. *Jpn J Radiol* 37(6):494-499, 2019. doi: 10.1007/s11604-019-00827-1
2. Miyasaka Y<sup>1</sup>, Yoshimoto Y<sup>2</sup>, Murata K<sup>1</sup>, Noda SE<sup>3</sup>, Ando K<sup>4</sup>, Ebara T, Okonogi N<sup>5</sup>, Kaminuma T<sup>1</sup>, Yamada S<sup>6</sup>, Ikota H<sup>1</sup>, Yokoo H<sup>1</sup>, Ohno T<sup>1</sup>, Nakano T<sup>5</sup> (1Gunma University Graduate School of Medicine, 2Fukushima Medical University, 3Saitama Medical University International Medical Center, 4Gunma Prefectural Cancer Center, 5National Institute of Radiological Sciences, National Institutes for Quantum and Radiological Science and Technology, 6Fujita Health University): Treatment outcomes of patients with adenocarcinoma of the uterine cervix after definitive radiotherapy and the prognostic impact of tumor-infiltrating CD8+ lymphocytes in pre-treatment biopsy specimens: a multi-institutional retrospective study. *J Radiat Res* 23;61(2):275-284, 2020. doi: 10.1093/jrr/rrz106
3. Saitoh JI<sup>1</sup>, Shirai K<sup>1</sup>, Mizukami T<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Ebara T, Ohno T<sup>1</sup>, Minato K<sup>2</sup>, Saito R<sup>3</sup>, Yamada M<sup>1</sup>, Nakano T<sup>1</sup> (1Gunma University Graduate School of Medicine, 2Gunma Prefectural Cancer Center, 3National Hospital Organization Shibukawa Medical Center): Hypofractionated carbon-ion radiotherapy for stage I peripheral nonsmall cell lung cancer (GUNMA0701): Prospective phase II study. *Cancer Med* 8(15):6644-6650, 2019. doi: 10.1002/cam4.2561

4. Akamatsu H<sup>1</sup>, Nakamura K<sup>2</sup>, Ebara T, Inaba K<sup>3</sup>, Itasaka S<sup>4</sup>, Jingu K<sup>5</sup>, Kosaka Y<sup>6</sup>, Murai T<sup>7</sup>, Nagata K<sup>8</sup>, Soejima T<sup>9</sup>, Takahashi S<sup>10</sup>, Toyoda T<sup>11</sup>, Toyoshima S<sup>12</sup>, Nemoto K<sup>1</sup>, Akimoto T<sup>13</sup> (1Yamagata University School of Medicine, 2Hamamatsu University School of Medicine, 3National Cancer Center Hospital, 4Kurashiki Central Hospital, 5Tohoku University Graduate School of Medicine, 6Kobe City Medical Center General Hospital, 7Nagoya City University, 8Ishikiriseiki Hospital, 9Hyogo Cancer Center, 10Kagawa University Hospital, 11NTT Medical Center Tokyo, 12Toyama Prefectural Central Hospital, 13National Cancer Research Hospital East): Organ-preserving approach via radiotherapy for small cell carcinoma of the bladder: an analysis based on the Japanese Radiation Oncology Study Group (JROSG) survey. *J Radiat Res* 60(4):509-516, 2019. doi: 10.1093/jrr/rrz018
5. Sawaki M<sup>1</sup>, Miyamoto T<sup>2</sup>, Fujisawa T<sup>2</sup>, Itoh Y<sup>3</sup>, Ebara T, Tachibana H<sup>1</sup>, Kodaira T<sup>1</sup>, Kikumori T<sup>3</sup>, Yanagita Y<sup>2</sup>, Iwata H<sup>1</sup> (1Aichi Cancer Center Hospital, 2Gunma Prefectural Cancer Center, 3Nagoya University Graduate School of Medicine): Multicenter Phase II Study of Intraoperative Radiotherapy of Early Breast Cancer: Ipsilateral Tumor Recurrence. *Ann Surg Oncol* 26(8):2428-2434, 2019. doi: 10.1245/s10434-019-07350-7
6. 高橋亮介<sup>1</sup>, 鈴木政美<sup>1</sup>, 江原威 (1群馬県立がんセンター): 当科における顎下腺癌の眼球転移に関する検討. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 91(12):1065-1070, 2019.

## 著書

1. 戸成綾子: 女性放射線科医のリアルライフ<アラフィフからの提言>. *Rad Fan.* vol.17, No.8 p24-25. 2019.

## その他

1. 戸成綾子: 2019年度がん看護研修会公開講演会. がん患者の相談者になる＝放射線治療編＝. 杏林大学病院, 2019年10月12日.

## 麻酔科学教室

### 講演

1. 渡辺邦太郎, 徳嶺譲芳, 森山久美, 澤田龍治, 満田真吾, 萬知子: 大伏在静脈ストリッピング術後に生じた伏在神経障害に対し超音波ガイド下液性剥離が有効であった一症例. 日本区域麻酔学会第6回学術集会, 高知, 2019年4月18 - 20日.
2. 渡辺邦太郎: ハンズオンワークショップ肩関節ブロック肩甲上神経ブロックインストラクター. 日本区域麻酔学会第6回学術集会, 高知, 2019年4月18 - 20日.
3. Yorozu T, Moriyama K, Tokumine J, Motoyasu A: PREDICTIVE FACTORS OF CATHETER RELATED BLOODSTREAM INFECTION: AN ANALYSIS OF CASE RECORDS OVER FIVE YEARS IN THE INTENSIVE CARE UNIT OF A UNIVERSITY HOSPITAL. 93rdInternational Anesthesia Research Society, Canada, 19 May 2019.
4. 腰原未沙, 久場亜理沙, 本保晃, 山科元範, 森山久美, 萬知子: 気腹手術の二酸化炭素の手術室内漏出状況の調査. 第66回日本麻酔科学会学術集会, 神戸, 2019年5月30日.

5. 鶴澤康二: 大胆予測: 2020年、気道管理はこう変わる! 新しい? 気道画像診断に向けて- 気道管理に気道超音波は本当に有益か?- 第66回日本麻酔科学会学術集会, 神戸, 2019年5月30日.
6. 中澤春政: 備えあれば憂いなし 輪状甲状間膜穿刺・切開. 第66回日本麻酔科学会学術集会, 神戸, 2019年5月31日.
7. 徳嶺譲芳: 安全な中心静脈穿刺のために何が必要か?. 第66回日本麻酔科学会学術集会, 神戸, 2019年6月1日.
8. 鶴澤康二: 重症肺高血圧患者の麻酔管理-肺高血圧症患者の重症度とは? -明日から役に立つ重症肺高血圧症患者の麻酔管理-. 第66回日本麻酔科学会学術集会, 神戸, 2019年6月1日.
9. 徳嶺譲芳: PICCハンズオン・セミナー. 板橋中央総合病院, 東京, 2019年6月4日.
10. 徳嶺譲芳: CVCハンズオン・セミナー. 諏訪赤十字病院, 諏訪, 2019年6月8日.
11. 徳嶺譲芳: 第135回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会, 鳥取, 2019年6月22日.
12. 徳嶺譲芳: 第201回CVC実践セミナー. 鳥取県立中央病院, 鳥取, 2019年6月22日.
13. 鶴澤康二, 牛山明: HESはALBの代替療法になるのか?-重症病態下HES製剤投与による末梢循環環境動物実験からの考察. 日本外科代謝栄養学会56回学術集会 体液代謝管理研究会・日本輸血細胞治療学会, 神戸, 2019年7月4日.
14. 渡辺邦太郎, 岡田智香子, 森山久美, 徳嶺譲芳, 萬知子: プレガバリンの薬剤性めまいと半夏白朮天麻湯: 神経障害性疼痛モデルラットを用いた動物行動学的検証. 第32回日本疼痛漢方研究会学術集会, 東京, 2019年7月6日.
15. 萬知子, 徳嶺譲芳: 中心静脈カテーテル抜去の管理. 日本看護協会看護研修学校, 清瀬, 2019年7月17日.
16. 中澤春政: 始めよう! 術後疼痛管理チーム. 福岡大学疼痛管理セミナー, 福岡, 2019年7月20日.
17. 萬知子, 徳嶺譲芳: 中心静脈カテーテル抜去の管理. 日本看護協会看護研修学校, 清瀬, 2019年7月24日.
18. 徳嶺譲芳: 医療安全雄ためのPOCUS~超音波ガイド下血管確保と教育体制の構築~. 東京, 2019年7月27日.
19. 横田泰佑, 高橋ひとみ, 森山潔, 安藤直朗, 神山智幾, 鶴澤康二, 中澤春政, 小谷真理子, 萬知子: 呼吸サポートチームによる呼吸回数的重要性に関する啓発活動とその測定調査結果. 日本集中治療医学会第3回関東甲信越支部学術集会, 甲府, 2019年7月28日.
20. 渡辺邦太郎, 森山久美, 澤田龍治, 徳嶺譲芳, 鎮西美栄子: 大腿肉腫切除術後に、ドレーンによる大腿神経障害を生じた一症例. 日本ペインクリニック学会第53回大会, 熊本, 2019年7月18 - 20日.
21. 萬知子: 手術室環境-温度と二酸化炭素. 術中体温管理研究会, 東京, 2019年8月1日.
22. 徳嶺譲芳: CVCハンズオン・セミナー. 豊見城中央病院, 豊見城, 2019年8月3日.
23. 徳嶺譲芳: CVCハンズオン・セミナー. 熊本大学, 熊本, 2019年8月10日.
24. 徳嶺譲芳: L1 エコーガイド下血管確保. 日本循環器学会第14回PCSAセミナー, 東京, 2019年8月18日.
25. 徳嶺譲芳: CVCハンズオン・セミナー. 東京医科歯科大学, 東京, 2019年8月24日.
26. 中澤春政: 麻酔科医が知っておきたい経胸壁心エコー. ハンズオン・セミナー ベーシックコース, 東京, 2019年8月28日.
27. 鶴澤康二: 重症病態下におけるHES製剤の役割-マウス末梢循環観察(内皮細胞機能障害モデル)からの考察. 第16回埼玉医大臨床麻酔ネットワーク, 川越, 2019年8月31日.
28. 徳嶺譲芳: 第139回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会, 奥州, 2019年9月1日.
29. 徳嶺譲芳: 第206回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会, 奥州, 2019年9月1日.
30. 萬知子, 徳嶺譲芳: 2019年度第1回CVC講習会. 日本医療機能評価機構, 東京, 2019年9月6日.
31. 三橋千尋, 横田泰佑, 近藤一哉, 田淵沙織, 竹内徳子, 徳嶺譲芳: フルストマックに対して胃管を挿入したが麻酔導入直前の胃エコーでフルストマックの持続が判明した一症例. 関東甲信越・東京支部第59回合同学術集会, 東京, 2019年9月7日.
32. 濱崎えり, 腰原未沙, 島津恵介, 本保晃, 田口敦子, 萬知子: ロボット手術は、環境基準を超える二酸化炭素にばく露する危険がある. 関東甲信越・東京支部第59回合同学術集会, 東京, 2019年9月7日.
33. 萬知子: 女性だからこそ活躍できる. 関東甲信越・東京支部第59回合同学術集会, 東京, 2019年9月7日.
34. 中澤春政: 2019年度最重要文献レビュー1. 日本心臓血管麻酔学会第24回学術大会, 京都, 2019年9月22日.
35. 辻大介: 脱血用カニューレの抜去により上大静脈症候群を発症した一例. 日本心臓血管麻酔学会第24回学術大会, 京都, 2019年9月22日.
36. 中澤春政: 麻酔科医が知っておきたい経胸壁心エコー. ハンズオン・セミナー ベーシックコース. 東京, 2019年9月24日.
37. 徳嶺譲芳: PICCハンズオン・セミナー (NTT東日本関東病院). 東京, 2019年10月4日.
38. 中澤春政: 麻酔科医が知っておきたい経胸壁心エコー. ハンズオン・セミナー アドバンスコース, 東京, 2019年10月30日.
39. Yorozu T, Katayama A, Watanabe K, Nakazawa H, Lefor AK, Tokumine J: Cricothyroidotomy needle length is related to posterior tracheal wall injury: A simulation study. Netherlands, World Airway Management Meeting 2019, 14 Nov 2019.
40. 徳嶺譲芳: CVCハンズオン・セミナー. 大森赤十字病院, 東京, 2019年11月2日.
41. 渡辺邦太郎, 森山久美, 徳嶺譲芳, 萬知子: 安全な中心静脈穿刺のための新しいニードルガイドの開発: シミュレーション研究. 軽井沢, 日本臨床麻酔学会第39回大会, 2019年11月7 - 9日.
42. 渡辺邦太郎: 超音波ガイド神経ブロックハンズオンワークショップ(初級向け)講師・インストラクター. 軽井沢, 日本臨床麻酔学会第39回大会, 2019年11月7 - 9日.
43. 徳嶺譲芳: 新規医療プログラム: 手技習得のためのシミュレータ製作. 軽井沢, 日本臨床麻酔学会第39回大会, 2019年11月8日.
44. 鶴澤康二: 周術期輸液管理update 周術期の循環・輸液管理を学ぶ. 教育講演, 名古屋 2019年11月30日.
45. 徳嶺譲芳: 第137回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会, 秋田, 2019年11月30日.
46. 徳嶺譲芳: 第204回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会, 秋田, 2019年11月30日.

47. 渡辺英伸, 田淵沙織, 本保晃, 萬知子: 調節呼吸下麻酔中に交換したカートリッジタイプ二酸化炭素吸着装置のリークに長時間気付かず用手換気で換気困難に陥った症例. 第23回日本医療ガス学会学術大会・総会, 東京, 2019年10月26日.
48. 萬知子, 徳嶺讓芳: 2019年度第2回CVC講習会. 日本医療機能評価機構, 東京, 2019年11月15日.
49. 近藤一哉, 横田泰佑, 森山潔, 安藤直朗, 神山智幾, 鶴澤康二, 中澤春政, 小谷真理子, 萬知子: 呼吸サポートチームによる呼吸回数的重要性に関する啓発活動とその測定調査結果. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
50. 鎮西美栄子, 田島紳介, 野口恭子, 伊藤祐子, 正保智恵美, 森山久美, 渡辺邦太郎, 澤田龍治, 吉川貴紘: 約10年間にわたるオキシドロン増量後、鎮痛補助薬調整やヒドロモルフォンへの変更により相対的なオピオイド減量と疼痛改善が得られた多発性骨髄腫の一例. 日本緩和医療学会第2回関東・甲信越支部学術集会, 東京, 2019年11月24日.
51. 森山潔: 麻酔科医のための産科麻酔専門資格について考える. 第123回日本産科麻酔学会, 東京, 2019年11月24日.
52. 徳嶺讓芳: 第138回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会, 前橋, 2019年12月7日.
53. 徳嶺讓芳: 第203回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会, 前橋, 2019年12月7日.
54. 中澤春政: 麻酔科医が知っておきたい経胸壁心エコー. ハンズオン・セミナー ベーシックコース, 東京, 2019年12月18日.
55. 徳嶺讓芳: 安全な中心静脈カテーテル留置のための基礎知識. ハートライフ病院講演, 中成, 2019年12月27日.
56. 徳嶺讓芳: CVCハンズオン・セミナー. ハートライフ病院, 中成, 2019年12月28日.
57. 渡辺邦太郎, 岡野弘: Ambu Academy for Ambu Scope Broncho インストラクター. 第3回気道管理学会学術集会, 三鷹, 2020年1月18日.
58. 本保晃, 徳嶺讓芳, 神山智幾: DAMシミュレーショントレーニングセミナー インストラクター. 第3回気道管理学会学術集会, 三鷹, 2020年1月18日.
59. 森山潔: 呼吸数測定の重要性和CO2センサーの可能性. 第3回気道管理学会学術集会, 東京, 2020年1月18日.
60. 中澤春政: 麻酔科医が知っておきたい経胸壁心エコー. ハンズオン・セミナー ベーシックコース, 東京, 2020年1月22日.
61. 萬知子: 中心静脈カテーテル挿入中の管理—誰も教えてくれないピットフォール. バイタルサインセミナー, 京都, 2020年1月25日.
62. 徳嶺讓芳: 指導者向けCVCセミナー. 福岡大学, 福岡, 2020年1月25日.
63. 萬知子, 徳嶺讓芳: 2019年度第3回CVC講習会. 日本医療機能評価機構, 東京, 2020年1月31日.
64. 徳嶺讓芳: 第208回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会, 伊豆の国, 2020年2月8日.
65. 岡野弘: 第208回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会, 伊豆の国, 2020年2月8日.
66. 徳嶺讓芳: PICCハンズオン・セミナー. 藤田医科大学, 豊明, 2020年2月14日.
67. 中澤春政: Pros cons 高度腎機能低下患者(透析患者)の周術期輸液に何をを用いるか? Kフリー (Normal Saline) vs. Kあり (Balanced Solution). 第35回体液代謝研究会, 東京, 2020年2月22日.
68. 中澤春政, 神山智幾, 小谷真理子, 森山潔, 萬知子: 当院ICUにおける中心静脈カテーテル関連血流感染 (CLABSI) 発生率の推移. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2020年3月6日.
69. 中澤春政: 敗血症に伴う骨格筋ミトコンドリア機能障害に対するファルネシル化変換酵素阻害薬の効果とメカニズムの解明. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2020年3月7日.
70. 神山智幾, 森山潔, 岡野弘, 横田泰祐, 神保一平, 萬知子: 腹腔鏡下副腎生検術後に副腎クリーゼを発症した1例. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2020年3月8日.
71. 神山智幾, 森山潔, 中澤春政, 小谷真理子, 萬知子: 当院ICUでのVAP対策への取り組み. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2020年3月8日.

## 論文

- Higuchi S<sup>1</sup>, Kabeya Y<sup>2,3</sup>, Matsushita K<sup>1</sup>, Arai N, Tachibana K<sup>4</sup>, Tanaka R<sup>4</sup>, Kawachi R<sup>5</sup>, Takei H<sup>4</sup>, Suzuki Y<sup>6</sup>, Kogure M<sup>6</sup>, Imanishi Y<sup>7</sup>, Moriyama K, Yorozu T, Saito K<sup>8</sup>, Abe N<sup>6</sup>, Sugiyama M<sup>6</sup>, Kondo H<sup>4</sup>, Yoshino H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Division of Cardiology, Kyorin University, <sup>2</sup>Tokai University, <sup>3</sup>Saiyu Clinic, <sup>4</sup>Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University, <sup>5</sup>Nihon University, <sup>6</sup>Department of Surgery, Kyorin University, <sup>7</sup>Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, <sup>8</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University): Incidence and complications of perioperative atrial fibrillation after non-cardiac surgery for malignancy. PLoS One 14: e0216239. 2019.
- Watanabe K, Moriyama K, Tokumine J, Yorozu T: Effect of hangebyakujutsutemmato on pregabalin-induced dizziness in a rat model of neuropathic pain. Traditional & Kampo Medicine, 2019. <https://doi.org/10.1002/tkm2.1218>
- 萬知子: 麻酔科における女性医師の力—女性麻酔科医は患者のアトカムに貢献できるか. 麻酔68(6): 632-636, 2019.
- 徳嶺讓芳, 安藤秀明<sup>1</sup>, 浅尾高行<sup>2</sup> (<sup>1</sup>秋田大学, <sup>2</sup>群馬大学): 本邦における安全な血管確保とチーム医療の確立に向けて. 医療の質・安全学会誌 14(2):197-201, 2019.
- Asao T<sup>1</sup>, Kikuchi M<sup>1</sup>, Tokumine J, Matsushima H<sup>2</sup>, Andoh H<sup>3</sup>, Tanaka K<sup>1</sup>, Kanamoto M, Ideno Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Gunma University, <sup>2</sup>Dokkyo University, <sup>3</sup>Akita University): Optical skill-assist device for ultrasound-guided vascular access: A preliminary simulation study. Medicine (Baltimore) 98(26): e16126, 2019.
- Jimbo I, Uzawa K, Tokumine J, Mitsuda S, Watanabe K, Yorozu T: Ultrasonographic identification of the cricothyroid membrane in a patient with a difficult airway as a result of cervical hematoma caused by hemophilia: a case report. BMC Anesthesiol 19(1):124, 2019.
- Saijo F<sup>1</sup>, Mutoh M<sup>1</sup>, Tokumine J, Yoshinobu O<sup>2</sup>, Hama H<sup>1</sup>, Namima T<sup>1</sup>, Shibahara M<sup>1</sup>, Tokumura H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tohoku Rosai Hospital, <sup>2</sup>Cincinnati Children's Hospital Medical Center): Late fracture of Groshong ports: A report of the three cases. J Vasc Access 20(5): 563-566, 2019.

8. 中澤春政: 症例カンファレンス: 抗血小板療法中透析機患者のY-graft置換術. *LiSA* 26(9): 844-47, 2019.
9. 中澤春政, 萬知子: 病態から見る血圧: 大動脈炎症候群, 高安動脈炎. *Lisa別冊* 19 (秋) 145-50, 2019.
10. 岡野弘, 大和田玄<sup>1</sup>, 木村康宏<sup>1</sup>, 吉田輔<sup>1</sup>, 七尾大観<sup>1</sup>, 藤本潤一<sup>1</sup>, 西澤英雄<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>横浜労災病院 ): *Corynebacterium striatum*による敗血症をきたした2例. *日本集中治療学会雑誌* 26(5): 401-404, 2019.
11. Motoyasu A, Moriyama K, Okano H, Yorozu T: High-flow nasal cannula therapy reduced the respiratory rate and respiratory distress in a standard model simulator and in patients with hypoxemic respiratory failure. *Chronic Respiratory Disease*, 2019.  
doi:10.1177/11479973119880892
12. Uzawa K, Ushiyama A<sup>1</sup>, Mitsuda S, Ando T, Sawa M<sup>2</sup>, Miyao H<sup>3</sup>, Yorozu T ( <sup>1</sup>National Institute of Public Health, <sup>2</sup>Meiji Pharmaceutical Univ, <sup>3</sup>Saitama Medical University Saitama Medical Center): The protective effect of hydroxyethyl starch solution on the glycocalyx layer in an acute hemorrhage mouse model. *J Anesth.* 34(1): 34-46, 2019. doi: 10.1007/s00540-019-02692-8
13. 中澤春政, 萬知子: 治す11 周術期循環器管理 術前合同カンファレンスのすゝめ. *Heart View* 23(10): 64-70, 2019.
14. 萬知子: 周術期管理チームで取り組む frailty 調査. *Geriatric Neurosurgery* 31 : 49-52, 2019.
15. Nishiwaki K, Kawamoto M, Shibata Y, Takeuchi M, Tanaka K, Tokumine J, (Working Group for Safe Central Venous Catheterization and Management): Safety Committee of Japanese Society of Anesthesiologists. Practical guide for safe central venous catheterization and management 2017. *J Anesth.*34(373):1-20, 2019. doi: 10.1007/s00540-019-02702-9.
16. Watanabe K, Tokumine J, Lefor AK<sup>1</sup>, Moriyama K, Yorozu T ( <sup>1</sup>Jichi Medical University): Ultrasound-Guided Hydrodissection of an Entrapped Saphenous Nerve After Lower Extremity Varicose Vein Stripping: A Case Report. *A A Pract.*14(1): 28-30 2019. doi: 10.1213/XAA.0000000000001143.
17. Higuchi S<sup>1</sup>, Kabeya Y<sup>2,3</sup>, Matsushita K<sup>1</sup>, Arai N<sup>4</sup>, Tachibana K<sup>4</sup>, Tanaka R<sup>5</sup>, Kawachi R<sup>4</sup>, Takei H<sup>5</sup>, Suzuki Y<sup>6</sup>, Kogure M<sup>6</sup>, Imanishi Y<sup>7</sup>, Moriyama K, Sugiyama M<sup>6</sup>, Yorozu T, Saito K<sup>8</sup>, Abe N<sup>6</sup>, Kondo H<sup>4</sup>, Yoshino H<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Division of Cardiology, Kyorin University, <sup>2</sup>Tokai University, <sup>3</sup>Saiyu Clinic, <sup>4</sup>Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University, <sup>5</sup>Nihon University, <sup>6</sup>Department of Surgery, Kyorin University, <sup>7</sup>Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, <sup>8</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University ): Perioperative Atrial Fibrillation in Noncardiac Surgeries for Malignancies and One-Year Recurrence. *Can J Cardiol.* 35(11): 1449-1456, 2019.
18. Sawa T<sup>1</sup>, Momiyama K<sup>2</sup>, Mihara T<sup>1</sup>, Kainuma A<sup>1</sup>, Kinoshita M<sup>1</sup>, Moriyama K ( <sup>1</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>2</sup>Kyoto Pharmaceutical University): Molecular epidemiology of clinically high-risk *Pseudomonas aeruginosa* strains: Practical overview. *Microbiol Immunol*, 2020. doi: 10.1111/1348-0421.12776.
19. Katayama A, Watanabe K, Tokumine J, Lefor AK<sup>1</sup>, Nakazawa H, Jimbo I, Yorozu T ( <sup>1</sup>Jichi Medical University): Cricothyroidotomy needle length is associated with posterior tracheal wall injury: A randomized crossover simulation study (CONSORT). *Medicine (Baltimore)* 99(9): e19331, 2020.
20. Mihara T<sup>1</sup>, Kimura T<sup>1</sup>, Momiyama K<sup>2</sup>, Kainuma A<sup>1</sup>, Akiyama K<sup>1</sup>, Ohara J<sup>1</sup>, Inoue K<sup>1</sup>, Kinoshita M<sup>1</sup>, Shimizu M<sup>1</sup>, Moriyama K, Fujita N<sup>1</sup>, Sawa T<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>2</sup>Kyoto Pharmaceutical University): Secondary in-hospital epidemiological investigation after an outbreak of *Pseudomonas aeruginosa* ST357. *J Infect Chemother* vol.26(3)257-265, 2020.
21. Kinoshita M<sup>1</sup>, Shimizu M<sup>1</sup>, Akiyama K<sup>1</sup>, Kato H<sup>1</sup>, Moriyama K, Sawa T<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine): Epidemiological survey of serum titers from adults against various Gram-negative bacterial V-antigens. *PLoS One* 15(3): e0220924, 2020.
22. 小田未来<sup>1</sup>, 皿谷健<sup>1</sup>, 野田晃成<sup>1</sup>, 三倉直<sup>1</sup>, 佐久間翔<sup>1</sup>, 白井達也<sup>1</sup>, 中島裕美<sup>1</sup>, 嶋崎鉄兵<sup>2</sup>, 倉井大輔<sup>2</sup>, 神山智幾, 小谷真理子, 森山潔, 土屋博司<sup>3</sup>, 遠藤英仁<sup>3</sup>, 窪田博<sup>3</sup>, 南島俊徳<sup>4</sup>, 副島京子<sup>4</sup>, 石井晴之<sup>1</sup>, 滝沢始<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>杏林大・医・呼吸器内科, <sup>2</sup>杏林大・医・総合医療学, <sup>3</sup>杏林大・医・心臓血管外科, <sup>4</sup>杏林大・医・循環器内科 ): COVID-19肺炎の2症例:クルーズ船内感染例および市中感染例. *日本感染症学会 新型コロナウイルス感染症 症例報*, 2020.

## 著書

1. 萬知子: ベンゾジアゼピンのルーチン投与〜良い点ばかりだと思っていました〜, 亜酸化窒素は常に悪か?〜見直されている報告も多いのですね〜. In 一歩進んだ麻酔管理〜常識は常に真実か?〜第1版. 国沢卓の編集. 東京, 克誠堂出版株式会社, 2019. P60-63, P117-120.
2. 徳嶺讓芳, 安藤直朗: 中心静脈穿刺の致命的合併症を防ぐ新たな仕組み (5)「カテーテル関連血流感染(続き)」。医療安全レポート. 東京, 一般社団法人 医療安全全国共同行動, 2019. No.28 P5-7.
3. 本保晃, 徳嶺讓芳: シミュレータを活用した医療安全教育医学のあゆみ. 白石泰夫編集. 東京, 医歯薬出版株式会社, 2019. P197-202.
4. 武田純三(監修), 萬知子(編集), 中澤春政(編集): TEEの過去・現在・未来. 東京, 真興交易(株) 医書出版部, 2019.
5. 徳嶺讓芳: 中心静脈穿刺の致命的合併症を防ぐ新たな仕組み (6)「空気塞栓(前半)」。医療安全レポート. 東京, 一般社団法人 医療安全全国共同行動, 2019. No.28 P5-7.
6. 徳嶺讓芳, 萬知子: 中心静脈穿刺の致命的合併症を防ぐ新たな仕組み (6)「空気塞栓(後半)」。医療安全レポート. 東京, 一般社団法人 医療安全全国共同行動, 2019. No.31 P5-13.
7. 岡野弘, 中澤春政: 水中毒. ICU治療指針Ⅲ. 岡元和文(監修). 東京, 総合医学社, 2020.
8. 岡野弘, 中澤春政: 浸透圧性脱髄症候群/橋中心髓鞘崩壊症 (CPM). ICU治療指針Ⅲ. 岡元和文(監修). 東京, 総合医学社, 2020.
9. 岡野弘, 中澤春政: 代謝性アシドーシス. ICU治療指針Ⅲ. 岡元和文(監修). 東京, 総合医学社, 2020.
10. 中澤春政: ICU成人患者の輸液計画. ICU治療指針Ⅲ.

岡元和文(監修). 東京, 総合医学社, 2020.

- 岡野弘, 足立智, 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺「術」. (必修エコー 体表から“せまる”全身エコーのアプローチ法) 診断と治療 2020年増刊号. 森秀明(監), 東京, 診断と治療社, 2020. vol.108/Suppl p299-306.

#### その他

- 渡辺邦太郎, 岡田智香子, 森山久美, 徳嶺讓芳, 萬知子: 第32回日本疼痛漢方研究会学術集会 優秀賞, 2019年7月6日.
- 横田泰佑, 高橋ひとみ, 森山潔, 安藤直朗, 神山智幾, 鶴澤康二, 中澤春政, 小谷真理子, 萬知子: 日本集中治療医学会第3回関東甲信越支部学術集会 最優秀演題賞, 2019年7月28日.
- 濱崎えり, 腰原末沙, 島津恵介, 本保晃, 田口敦子, 萬知子: 関東甲信越・東京支部第59回合同学術集会 最優秀演題賞, 2019年9月7日.
- 近藤一哉, 横田泰佑, 森山潔, 安藤直朗, 神山智幾, 鶴澤康二, 中澤春政, 小谷真理子, 萬知子: 第48回杏林医学会総会 D-9準優秀賞, 2019年11月16日.

#### 臨床検査医学教室

#### 講演

- 井田陽子, 米谷正太, 平尾千尋, 本間慎太郎, 荒木光二, 関口久美子, 大西宏明: Desulfovibrio属菌による菌血症6症例の検討. 第68回日本医学検査学会, 下関, 2019年5月18-19日.
- 木崎直人, 吉沢美枝, 加藤里絵, 佐藤英樹, 宮城博幸, 関口久美子, 大西宏明: 顔面神経直接刺激による持続モニタリングが有用だった神経鞘腫の1例. 第68回日本医学検査学会, 下関, 2019年5月18-19日.
- 高橋桂子, 関口久美子, 小島直美, 牧野博, 岡崎ゆり子, 石井隆宏, 沼野井恵, 山本美里, 石関彩乃, 渡邊卓, 大西宏明, 山崎聡子: 当院における超緊急帝王切開術時の輸血製剤準備について. 第67回日本輸血細胞治療学会, 熊本, 2019年5月23-25日.
- 玉井佳子, 大戸齊, 北澤淳一, 大西宏明, 他: 未成年者(1~19歳)の赤血球同種抗体に関する多施設共同研究. 第67回日本輸血・細胞治療学会総会, 熊本, 2019年5月23-25日.
- 田中宏明, 柳井千穂, 石橋健一, 大西宏明, 大野尚仁: Candida属臨床分離株の熱水抽出物作成と致死活性及び血管炎惹起能の検討. 第40回関東医真菌懇話会, 東京, 2019年6月1日.
- 山崎聡子, 千葉直子, 大塚弘毅, 岸野智則, 吉野浩, 楊國昌, 大森嘉彦, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 骨髄転移を認めた小児横紋筋肉腫の1例. 第20回日本検査血液学会学術集会, 天理, 2019年7月6-7日.
- 白倉健世, 千葉直子, 渡沙希, 森山遥, 坂本大典, 山崎聡子, 細井健一郎, 吉野浩, 楊國昌, 大西宏明: 好酸球の鑑別に注意を要した一過性骨髄異常増殖症(TAM)の一症例. 第20回日本検査血液学会学術集会, 天理, 2019年7月6-7日.
- 大西宏明: 採血時のトラブル事例と対応. 日本臨床検査自動化学会第51回大会, 横浜, 2019年10月3-5日.
- 大西宏明: 標準採血ガイドライン(GP4-A3)改訂のポイント. 日本臨床検査自動化学会第51回大会, 横浜, 2019年10月3-5日.
- 本間慎太郎, 米谷正太, 井田陽子, 荒木光二, 西圭史, 島崎鉄平, 佐野彰彦, 倉井大輔, 大西宏明, 渡邊卓: Cutibacterium (Propionibacterium) acnesによる開頭術後の硬膜外膿瘍の2症例. 第68回日本感染症学会

東日本地方会学術集会, 仙台, 2019年10月16-18日.

- 田中良太, 坂本憲彦, 吉田勤, 橋啓盛, 大塚弘毅, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 肺癌細胞診の可能性-鑑別と限界- LBCの鑑別と限界. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16-17日.
- 田中良太, 坂本憲彦, 吉田勤, 橋啓盛, 大塚弘毅, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 呼吸器(ヨーロッパ細胞学会の内容から) 肺腺癌における液状化細胞診(LBC)を用いた遺伝子および形態学的診断. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16-17日.
- 大塚弘毅, 大西宏明, 森井健司, 藤原正親, 小倉航, 松島早月, 山崎聡子, 岸野智則, 渡邊卓: 野生型マウスにおける自然発生がんの検討. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月21-24日.
- 小倉航, 大塚弘毅, 山崎聡子, 藤原正親, 田中良太, 関口久美子, 大西宏明, 渡邊卓: コンパニオン診断薬を用いたROSI融合遺伝子検査の性能に対するRNA濃度の影響. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月21-24日.
- 平尾千尋, 荒木光二, 小倉航, 井田陽子, 米谷正太, 関口久美子, 大塚弘毅, 大西宏明, 渡邊卓: 全ゲノム増幅により疣腫から起炎菌が同定できたStreptococcus mutansによる感染性心内膜炎の1例. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月22-24日.
- 山崎聡子, 佐藤英樹, 佐藤徹, 大塚弘毅, 岸野智則, 大西宏明, 渡邊卓: コンパニオン診断薬を用いたROSI融合遺伝子検査の性能に対するRNA濃度の影響. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月21-24日.
- 嶋森直子, 岸野智則, 森井健司, 岡部直太, 山崎聡子, 大塚弘毅, 大西宏明, 関口久美子, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 脂超音波検査による高分化脂肪肉腫と脂肪腫の鑑別について. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月22-24日.
- 米谷正太, 平尾千尋, 井田陽子, 奥山貴洋, 本間慎太郎, 荒木光二, 大西宏明: 血液培養よりAerococcus属菌が検出された症例の後方視的解析と薬剤感受性の検討. 第31回日本臨床微生物学会学術集会, 金沢, 2020年1月31日-2月2日.

#### 論文

- Tanaka H<sup>1,2</sup>, Yanai C<sup>1</sup>, Ishibashi K<sup>1</sup>, Yamanaka D<sup>1</sup>, Adachi Y<sup>1</sup>, Araki K<sup>3</sup>, Yonetani S<sup>3</sup>, Ohnishi H, Shinohara T<sup>2</sup>, Ohno N<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Tokyo Univ Pharm and Life Sci, <sup>2</sup>Dept Pharm, Kyorin Univ Hosp, <sup>3</sup>Dept Lab Med, Kyorin Univ Hosp): Immunochemical similarities in polysaccharide components of the royal sun culinary-medicinal mushroom, *Agaricus brasiliensis*(*Agaricomycetes*), and clinically isolated *Candida* spp. *Int J Med Mushrooms* 21(5):413-428, 2019.
- Chanthol Peng<sup>1,2</sup>, Hanawa T<sup>3</sup>, Aa Hearuman Azam<sup>1</sup>, Cierra LeBlanc<sup>4</sup>, Porsy Ung<sup>2</sup>, Matsuda T<sup>5</sup>, Onishi H, Miyanaga K<sup>1</sup>, Tanji Y<sup>6</sup>(<sup>1</sup>Sch Life Sci and Technol, Tokyo Inst Technol, <sup>2</sup>Fac Chem and Food Eng, Inst Technol Cambodia, <sup>3</sup>Dept Infect Dis, Kyorin Univ Sch, <sup>4</sup>Dept Microbiol, Univ Wash, <sup>5</sup>Dept Traumatol and Crit Care Med, Kyorin Univ Sch, <sup>6</sup>Sch Life Sci and Technol, Tokyo Inst Technol): Siveavirus phage φMR003 displays a broad host range against methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* of human origin. *App*

- Microbiol Biotechnol 103(18): 7751-7765, 2019. doi: 10.1007/s00253-019-10039-2.
- Ohtsuka K, Ohnishi H, Fujiwara M<sup>1</sup>, Morii T<sup>2</sup>, Matsushima S, Ogura W<sup>3</sup>, Yamasaki S, Kishino T<sup>4</sup>, Tanaka R<sup>5</sup>, MD, Watanabe T (1Dept Pathol, Kyorin Univ Sch, 2Dept Orthop Surg, Kyorin Univ Sch, 3Dept Clin Lab, Kyorin Univ Hosp, 4Dept Clin Eng, Fac Health Sci, Kyorin Univ Sch, 5Dept Gen Thorac Surg Kyorin Univ Sch): Predisposition to lung adenocarcinoma in a family harboring the germline EGFR V843I mutation. JCO Precis Oncol vol.3, 2019. doi: org/10.1200/PO.19.00104
  - Nozaki E, Kobayashi T<sup>1</sup>, Ohnishi H, Ohtsuka K, Masaki T<sup>2</sup>, Watanabe T, Sugiyama M<sup>2</sup> (1Dept Med Oncol, Kyorin Univ Sch, 2Dept Surg Kyorin Univ Sch): C-X-C motif receptor 3A enhances proliferation and invasiveness of colorectal cancer cells, and is mediated by C-X-C motif ligand 10. Oncol Lett 19:2495-2501, 2020. doi: 10.3892/ol.2020.11326
  - Yamanaka D<sup>1, 2</sup>, Takatsu K<sup>1</sup>, Kimura M<sup>3,4</sup>, Swamydas M<sup>2</sup>, Hiroaki Ohnishi H, Umeyama T<sup>5</sup>, Oyama F<sup>3</sup>, Lionakis MS<sup>2</sup>, Ohno N<sup>1</sup> (1Lab Immunopharmacol Microb Prod, Sch Pharm, Tokyo Univ Pharm and Life Sci, 2Fungal Pathog Sect, Lab Clin Immunol & Microbiol (LCIM), Natl Inst Allergy and Infect Dis (NIAID), Natl Inst Health (NIH), 3Dept Chem and Life Sci, Kogakuin Univ, 4Res Fellow Jan Soc the Promot of Sci (DC2), 5Dept Chemother and Mycoses, Natl Inst Infect Dis) : Development of a novel  $\beta$ -1,6-glucan-specific detection system using functionally modified recombinant endo- $\beta$ -1,6-glucanase. Journal of Biological Chemistry: 2020. doi:10.1074/jbc.RA119.011851
  - Ogura W<sup>1</sup>, Ohtsuka K, Fujiwara M<sup>2</sup>, Tanaka R<sup>3</sup>, Sekiguchi K<sup>1</sup>, Ohnishi H, Watanabe T (1Dept Clin Lab, Kyorin Univ Hosp, 2Dept Pathol, Kyorin Univ Sch, 3Dept Gen Thorac Surg, Kyorin Univ Sch): Use of a plasma test for verifying epidermal growth factor receptor gene (EGFR) mutations in fluid samples from non-small cell lung cancer patients. Respir Med Case Rep, 2020. DOI: 10.1016/j.rmcr.2020.101007. eCollection 2020.
  - 大西宏明: 標準採血法ガイドライン (GP4-A3) 改訂のポイント. 医学のあゆみ 270(12): 1153-1154, 2019.
  - 大西宏明: ①『標準採血法ガイドライン』の改訂のポイントを教えてください. Medical Technology 48(1): 8-10, 2020.
  - 大西宏明: 採血の歴史と標準採血法ガイドライン. 検査と技術 48(3): 184-191, 2020.
  - 大西宏明: 採血器具の選択—ホルダー、注射器、翼状針など. 検査と技術 48(3): 222-226, 2020.
  - 大塚弘毅: がん遺伝子パネル検査とがんゲノム医療. 杏林医学会雑誌 50(4): 171-178, 2019.
  - 千葉直子<sup>1</sup>, 坂本大典<sup>1</sup>, 藤原正規<sup>2</sup>, 高山信之<sup>3</sup>, 山崎聡子, 大西宏明 (1杏林大学医学部付属病院・臨床検査部, 2杏林大・医・病理学, 3杏林大・医・血液内科学): 血液形態診断のためのケースカンファレンス 関節リウマチの経過観察中に貧血、血小板減少、白血球増加を認めた症例. 日本検査血液学会誌 2: 283-291, 2019.
  - 柳井千穂<sup>1</sup>, 田中宏明<sup>1,2</sup>, 石橋健一<sup>1</sup>, 安達禎之<sup>1</sup>, 山中大輔<sup>1</sup>, 大西宏明, 三浦典子<sup>3</sup>, 大野尚仁<sup>1</sup>(1東葉大・薬・免疫学, 2杏林大学医学部付属病院・薬剤部, 3東葉大・薬・薬学教育推進センター): 酵母細胞壁多糖の熱分解法による調製と機能性の検討. 応用薬理 96(5/6): 85-92, 2019.
  - 渡沙季<sup>1</sup>, 千葉直子<sup>1</sup>, 白倉健世<sup>1</sup>, 森山遥<sup>1</sup>, 岡田涼子<sup>1</sup>, 坂本大典<sup>1</sup>, 石川真美<sup>1</sup>, 櫻井美智恵<sup>1</sup>, 杉浦満喜<sup>1</sup>, 関口久美子<sup>1</sup>, 山崎聡子, 大西宏明 (1杏林大学医学部付属病院・臨床検査部): DxH 900の基礎的検討. 医学と薬学 77(2): 299-310, 2020.
  - 古田耕<sup>1</sup>, 大西宏明, 東條尚子<sup>2</sup>, 菱沼昭<sup>3</sup>, 吉田博<sup>4</sup> (1日本生物資源産業利用協議会, 2三楽病院・臨床検査科, 3獨協医科大学・感染症制御・臨床検査医学, 4東京慈恵医科大学附属柏病院・中央検査部): ICD-11の和訳における日本臨床検査医学会の貢献について. 臨床病理 68(1): 1-7, 2020.

## 総合医療学教室

## 講演

- 倉井大輔, 佐野彰彦, 嶋崎鉄兵, 西圭史, 本間慎太郎, 吉田博昭: 感染性心内膜炎症 antimicrobial stewardship teamの実態調査: 大学病院での単施設の後ろ向き観察研究. 第93回日本感染症学会学術講演会, 名古屋, 2019年4月4-6日.
- 吉田博昭, 西圭史, 佐野彰彦, 倉井大輔, 本間慎太郎, 嶋崎鉄兵: 特殊集団(後期高齢者)におけるテイコプラニン負荷投与の検討. 第67回日本化学療法学会総会, 東京, 2019年5月9-11日.
- 西圭史, 吉田博昭, 佐野彰彦, 倉井大輔, 本間慎太郎, 嶋崎鉄兵: ポリコナゾール使用症例の検討. 第67回日本化学療法学会総会, 東京, 2019年5月9-11日.
- Hata N, Hirabuki K, Suda T, Sano Y, Fukuie M, Uechi T, Hirasawa A, Matsuda T, Sibata S: Evaluations of nonstationary and stationary autonomic nervous function using heart rate variability for syncope patients with non-cardiogenic causes. American College of Sports Medicine's 66th Annual Meeting, USA, May 28th -June 1st, 2019.
- 大野亜希子, 徳永健吾, 久松理一: 胃炎の京都分類における胃癌リスクスコアの有用性 除菌後胃においても有用か. 第97回日本消化器内視鏡学会, 東京, 2019年5月31日.
- 長谷川浩: 高齢者の薬物療法. 第61回日本老年医学学会学術集会, 仙台, 2019年6月6-8日.
- 長谷川浩: 地域包括ケアとフレイル・認知症. 第32回日本泌尿器科学会学術集会, 旭川, 2019年6月14-15日.
- 徳永健吾, 大崎敬子, 井田陽介, 北条史, 米澤英雄, 長濱清隆, 田中昭文, 久松理一, 高橋信一, 岡本晋, 中村正彦: Helicobacter heilmannii like organism(HHLO)感染症の検討. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21日.
- 徳永健吾, 永原章仁, 森英毅, 栗原直人, 鈴木雅之, 伊藤慎芳, 川上浩平, 浅岡大介, 嶋田裕慈, 田中昭文, 鈴木秀和, 大草敏史, 榊信廣, 河合隆, 高橋信一: Helicobacter pylori二次除菌不成功例における再判定診断の重要性. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21日.
- 徳永健吾, 大崎敬子, 井田陽介, 北条史, 米澤英雄, 長濱清隆, 高橋信一, 久松理一, 神谷茂, 岡本晋: ウレアーゼ産生菌を証明しえた尿素呼吸試験偽陽性 Helicobacter pylori除菌後自己免疫性胃炎の2例. 第

25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月22日.

11. 徳永健吾, 後藤励, 鈴木千尋, 長谷川みゆき, 藤森郁男: 大規模レセプトデータベースに基づいたH. pylori 除菌治療費の検討. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月22日.
12. 森英毅, 鈴木秀和, 佐々木仁, 嶋田裕慈, 小俣富美雄, 正岡建洋, 浅岡大介, 川上浩平, 水野滋章, 西澤俊宏, 永原章仁, 榊信廣, 河合隆, 徳永健吾, 高橋信一: 東京地区におけるHelicobacter pylori 一次・二次除菌診療 高齢者における除菌評価は尿素呼吸試験が適当か. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月22日.
13. 中村昌太郎, 加藤元嗣, 岡田裕之, 伊藤公訓, 江崎幹宏, 小野尚子, 天貝賢二, 小林広幸, 徳永健吾, 松本主之: H. pylori陰性/除菌抵抗性MALTリンパ腫に対する高用量クラリスロマイシン単剤療法 本邦多施設共同試験. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月22日.
14. 嶋崎鉄兵: 抗菌薬の適正使用について. 厚生連高岡病院卒後臨床研修(初期研修), 高岡, 2019年7月5日.
15. 水谷友紀: 高齢者のがん治療. 第4回日本癌サポートイブケア学会学術集会, 青森, 2019年9月6-7日.
16. 河野隆志, 佐藤徹, 合田あゆみ, 副島京子, 関野美枝子, 長谷川浩: 高齢者心疾患の問題点 当科における過去10年間の入院動向からの検討. 第63回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13-15日.
17. 樋口聡, 仁科善雄, 三浦佑介, 吉野秀朗: 慢性腎臓病を伴う冠動脈疾患患者に対する治療戦略. 第28回日本心血管インターベンション治療学会, 名古屋, 2019年9月19-21日.
18. 長谷川浩, 松田剛明, 畑典孝, 須田智也, 平吹一訓, 本多五奉, 樋口聡, 柴田茂貴: 当院1、2次救急外来の動向についての検討. 第47回日本救急医学会学術集会, 東京, 2019年10月2-4日.
19. 畑典孝, 樋口聡, 平吹一訓, 須田智也, 本多五奉, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: 貧血を伴う急性心不全における濃厚赤血球輸血の臨床的意義. 第47回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2019年10月2-4日.
20. 佐野彰彦, 西圭史, 吉田博昭, 米谷正太, 牧野博, 荒木光二, 井田陽子, 倉井大輔: C. parapsilosis 血症の予後に関する臨床的背景についての検討. 第68回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第66回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 仙台, 2019年10月16-18日.
21. 倉井大輔: 抗菌剤の適正使用に関して. 第31回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス・講習会, 三鷹, 2019年11月2日.
22. Hawkins M, Miyoshi S, Fei N, Miyoshi J, Chang EB, Charlton MR, Leone V: Diet - Induced Gut Microbiota are a Prerequisite for Nonalcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD) in a Murine Model. AASLD The Liver Meeting® 2019, USA, November 8th-12th, 2019.
23. 嶋崎鉄兵: メロペネム使用中の肝移植患者に生じたグラム陰性桿菌菌血症. 第12回東京難治性感染症研究会, 東京, 2019年11月9日.
24. Mizutani T: Asian perspective. the JCOG initiative, 19th Conference of the International Society of Geriatric Oncology, Switzerland, November 14th-16th, 2019.
25. 佐野彰彦: 当院における7年間のカンジダ血症サーベイランス. 関東深在性真菌症研究会, 東京, 2019年

11月16日.

26. 倉井大輔: インフルエンザ診療に関する最新の話. 第28回西多摩呼吸器懇話会, 青梅, 2019年11月20日.
27. 徳永健吾: データベース研究の最前線~H. pylori 除菌治療の最前線~. 第61回日本消化器病学会大会, 神戸, 2019年11月23日.
28. 徳永健吾: H. pylori 診療におけるピットフォール~H. pylori 非関連胃炎との鑑別を含めて~. 第19回新都心内視鏡病態機能研究会, 東京, 2019年11月27日.
29. 伊藤宏之, 鈴木健司, 水谷友紀, 青景圭樹, 佐治久, 津谷康大, 青木正, 岡見次郎, 中川加寿夫, 高持一矢, 中山治彦, 塩野知志, 吉岡弘鎮, 岡田守人, 福田治彦, 渡辺俊一: 小型肺がんに対する局所治療戦略と長期予後. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月8日.
30. 服部有俊, 鈴木健司, 高持一矢, 若林将史, 青景圭樹, 佐治久, 津谷康大, 伊藤宏之, 青木正, 中川加寿夫, 岡見次郎, 岡田守人, 水谷友紀, 渡辺俊一: 第8版Stage分類の妥当性と問題点. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月8日.
31. 嶋崎鉄兵: 腸内細菌と薬剤耐性. 第33回沖縄県感染管理研究会, 浦添, 2019年12月14日.
32. 徳永健吾, 大崎敬子, 林原絵美子, 松井英則, 大野亜希子, 三好佐和子, 井田陽介, 岡本晋, 久松理一, 中村正彦: 特発性消化性潰瘍の成因検討—Helicobacter suis感染の関連を含めて. 第47回日本潰瘍学会, 小田原, 2020年1月16日.

## 論文

1. 長谷川浩: 超高齢社会における地域包括ケアと排泄ケアへの取り組み 地域包括ケアとフレイル・認知症. 日本老年泌尿器科学会誌 32巻1号: 41, 2019.
2. 徳永健吾: 繰り返す上腹部痛患者の胃潰瘍性病変. 内科123, 553-554, 2019.
3. 徳永健吾, 加藤はる, 大崎敬子: 高齢者でのHelicobacter pylori除菌治療の適応と問題点. 日本ヘリコバクター学会誌 21: 21-29, 2019.
4. Mori H<sup>1</sup>, Suzuki H<sup>2</sup>, Omata F<sup>3</sup>, Masaoka T<sup>4</sup>, Asaoka D<sup>5</sup>, Kawakami K<sup>6</sup>, Mizuno S<sup>7</sup>, Kurihara N<sup>8</sup>, Nagahara A<sup>9</sup>, Sakaki N<sup>10</sup>, Ito M<sup>11</sup>, Kawamura Y<sup>12</sup>, Suzuki M<sup>13</sup>, Shimada Y<sup>14</sup>, Sasaki H<sup>5</sup>, Matsuhisa T<sup>15</sup>, Torii A<sup>16</sup>, Nishizawa T<sup>17</sup>, Mine T<sup>2</sup>, Ohkusa T<sup>18</sup>, Kawai T<sup>19</sup>, Tokunaga K, Takahashi S<sup>20</sup> (<sup>1</sup>National Hospital Organization Tokyo Medical Center, <sup>2</sup>Tokai University, <sup>3</sup>St. Luke's University, <sup>4</sup>Keio University, <sup>5</sup>Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center, <sup>6</sup>Tokyo Medical University Hospital, <sup>7</sup>Mizuho Icho Clinic, <sup>8</sup>Nerima General Hospital, <sup>9</sup>Juntendo University, <sup>10</sup>Foundation for detection of Early Gastric Carcinoma, <sup>11</sup>Yotsuya Medical Cube, <sup>12</sup>Tokyo Daiya Clinic, <sup>13</sup>National Hospital Organization Tokyo Medical Center, <sup>14</sup>Juntendo Shizuoka Hospital, <sup>15</sup>Tama-Nagayama University Hospital, <sup>16</sup>Torii Medical Clinic, <sup>17</sup>International University of Health and Welfare, <sup>18</sup>The Jikei University School of Medicine Kashiwa Hospital, <sup>19</sup>Tokyo Medical University Hospital, <sup>20</sup>Kosei Hospital) Current status of first- and second-line *Helicobacter pylori* eradication therapy in the metropolitan area: a multicenter study with a large number of patients. Ther Adv Gastroenterol 12 : 1-12 , 2019 . doi : 10.1177/1756284819858511.
5. 徳永健吾, 古田隆久: 高齢者でのHelicobacter pylori 除菌治療の適応と問題点. 日本ヘリコバクター学会

- 誌 21: 102-103, 2019.
6. 徳永健吾 : Seroprevalence of *Helicobacter pylori* in Korea: A multicenter, nationwide study conducted in 2015 and 2016. *Helicobacter*(日本語抄訳版) 18 : 25-28, 2019.
  7. Onda T<sup>1</sup>, Satoh T<sup>2</sup>, Ogawa G<sup>3</sup>, Saito T<sup>4</sup>, Kasamatsu T<sup>5</sup>, Nakanishi T<sup>6</sup>, Mizutani T, Takehara K<sup>7</sup>, Okamoto A<sup>8</sup>, Ushijima K<sup>9</sup>, Kobayashi H<sup>10</sup>, Kawana K<sup>11</sup>, Yokota H<sup>12</sup>, Takano M<sup>13</sup>, Kanao H<sup>14</sup>, Watanabe Y<sup>15</sup>, Yamamoto K<sup>16</sup>, Yaegashi N<sup>17</sup>, Kamura T<sup>18</sup>, Yoshikawa H<sup>19</sup> ( <sup>1</sup>Kitasato University School of Medicine, <sup>2</sup>University of Tsukuba <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup> National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, <sup>5</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>6</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>7</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>8</sup>The Jikei University School of Medicine, <sup>9</sup>Kurume University School of Medicine, <sup>10</sup>Kyushu University, <sup>11</sup>The University of Tokyo <sup>12</sup>Saitama Cancer Center, <sup>13</sup>National Defense Medical College Hospital, <sup>14</sup>Cancer Institute Hospital, <sup>15</sup>Kindai University Faculty of Medicine, <sup>16</sup>Kindai University, Sakai Hospital, <sup>17</sup>Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>18</sup>Yanagawa Hospital <sup>19</sup>Ibaraki Prefectural Central Hospital) : Comparison of survival between primary debulking surgery and neoadjuvant chemotherapy for stage III/IV ovarian, tubal and peritoneal cancers in phase III randomised trial. *Eur J Cancer* 130: 114-125, 2020.
  8. Nishizawa T<sup>1,2,3</sup>, Niikura Y<sup>2</sup>, Akasaka K<sup>1</sup>, Watanabe M<sup>3</sup>, Kurai D, Amano M<sup>1</sup>, Ishii H<sup>3</sup>, Matsushima H<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>2</sup>, Takizawa H<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>Japanese Red Cross Society Saitama Hospital, <sup>2</sup>Musashino University, <sup>3</sup>Department of Respiratory, Kyorin University School of Medicine): Pilot study for risk assessment of aspiration pneumonia based on oral bacteria levels and serum biomarkers. *BMC Infect Dis* 19(1): 761, 2019. DOI: 10.1186/s12879-019-4327-2
  9. Aso J<sup>1</sup>, Kimura H<sup>2,3</sup>, Ishii H<sup>1</sup>, Saraya T<sup>1</sup>, Kurai D, Nagasawa K<sup>4</sup>, Matsushima Y<sup>5</sup>, Ryo A<sup>3</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Department of Respiratory, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Gunma Paz University, <sup>3</sup>Yokohama City University, <sup>4</sup>Chiba University, <sup>5</sup>Kawasaki City Institute for Public Health): Molecular evolution of the hemagglutinin-neuraminidase(HN)gene in human respirovirus 3. *Virus Res* 277: 197824, 2020. DOI:10.1016/j.virusres.2019.197824
  10. Aso J<sup>1</sup>, Kimura H<sup>2,3</sup>, Ishii H<sup>1</sup>, Saraya T<sup>1</sup>, Kurai D, Matsushima Y<sup>4</sup>, Nagasawa K<sup>5</sup>, Ryo A<sup>3</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Department of Respiratory, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Gunma Paz University, <sup>3</sup>Yokohama City University, <sup>4</sup>Kawasaki City Institute for Public Health, <sup>5</sup> Chiba University): Molecular Evolution of the Fusion Protein(F) Gene in Human Respirovirus 3. *Front Microbiol* 10:3054, 2020. DOI:10.3389/fmicb.2019.03054.
  11. 小田未来<sup>1</sup>, 皿谷健<sup>1</sup>, 野田晃成<sup>1</sup>, 三倉直<sup>1</sup>, 佐久間翔<sup>1</sup>, 白井達也<sup>1</sup>, 中島裕美<sup>1</sup>, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔, 神山智幾<sup>2</sup>, 小谷真理子<sup>2</sup>, 森山潔<sup>2</sup>, 土屋博司<sup>3</sup>, 遠藤英仁<sup>3</sup>, 窪田博<sup>3</sup>, 南島俊徳<sup>4</sup>, 副島京子<sup>4</sup>, 石井晴之<sup>1</sup>, 滝澤始<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>杏林大・医・呼吸器内科, <sup>2</sup>杏林大・医・麻酔科, <sup>3</sup>杏林大・医・心臓血管外科, <sup>4</sup>杏林大・医・循環器内科) : COVID-19 肺炎の 2 症例 : クルーズ船内感染例および市中感染例. 日本感染症学会, 2020.
  12. 野田晃成<sup>1</sup>, 白井達也<sup>1</sup>, 中島裕美<sup>1</sup>, 小田未来<sup>1</sup>, 皿谷健<sup>1</sup>, 石井晴之<sup>1</sup>, 滝澤始<sup>1</sup>, 嶋崎鉄兵, 佐野彰彦, 倉井大輔, 伊藤瑛佑<sup>2</sup>, 田島幸佳<sup>3</sup>, 羽田裕<sup>4</sup>, 後藤知之<sup>4</sup>, 増古紳太郎<sup>5</sup>, 勝又明彦<sup>6</sup>, 中島昌典<sup>7</sup>, 市村正一<sup>8</sup> ( <sup>1</sup>杏林大・医・呼吸器内科, <sup>2</sup>杏林大・医・高齢診療科, <sup>3</sup>杏林大・医・循環器内科, <sup>4</sup>杏林大・医・消化器内科, <sup>5</sup>杏林大・医・腎臓・リウマチ膠原病内科, <sup>6</sup>杏林大・医・糖尿病・内分泌・代謝内科, <sup>7</sup>杏林大・医・脳神経内科, <sup>8</sup>杏林大・医・整形外科) : フェビピラビル使用例を含む COVID-19 肺炎の 2 症例. 日本感染症学会, 2020. [http://www.kansensho.or.jp/uploads/files/topics/2019ncov/covid19\\_casereport\\_200331\\_6.pdf](http://www.kansensho.or.jp/uploads/files/topics/2019ncov/covid19_casereport_200331_6.pdf)
  13. Ito H<sup>1</sup>, Suzuki K<sup>2</sup>, Mizutani T, Aokage K<sup>4</sup>, Wakabayashi M<sup>3</sup>, Fukuda H<sup>3</sup>, Watanabe S<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>2</sup>Juntendo University, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup> National Cancer Center Hospital East) : Long-term survival outcome after lobectomy in patients with clinical T1N0 lung cancer. *J Thorac Cardiovasc Surg.* pii: S0022-5223(20)30054-4, 2020.
  14. Kamimura M<sup>1</sup>, Mouri A<sup>1</sup>, Takayama K<sup>1</sup>, Mizutani T, Hamamoto Y<sup>1</sup>, Iikura M<sup>1</sup>, Furihata K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>National Hospital Organization Disaster Medical Center) : Cough related to swallowing in asthma patients. *Asia Pac Allergy* 9(4) : 2019.
  15. Tanaka K<sup>1</sup>, Nakamura Y<sup>2</sup>, Mizutani T, Shibata T<sup>1</sup>, Tsutsumida A<sup>1,3</sup>, Fukuda H<sup>1</sup>, Matsushita S<sup>4</sup>, Aoki M<sup>4</sup>, Namikawa K<sup>1</sup>, Ohe S<sup>5</sup>, Fukushima S<sup>6</sup>, Yamazaki N<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>Saitama Medical University International Medical Center, <sup>3</sup>Cancer Institute Hospital, <sup>4</sup>Kagoshima Medical Center, <sup>5</sup>Osaka International Cancer Institute, <sup>6</sup>Kumamoto University) : Confirmatory trial of non-amputative digit preservation surgery for subungual melanoma: Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1602, J-NAIL study protocol). *BMC Cancer*: 19(1):1002, 2019.
  16. Mizutani T, Nakamura K<sup>1</sup>, Fukuda H<sup>1</sup>, Ogawa A<sup>2</sup>, Hamaguchi T<sup>3</sup>, Nagashima F<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>3</sup>Saitama Medical University International Medical Center, <sup>4</sup>Department of Medhical oncology, Kyorin University) : Geriatric Research Policy: Japan Clinical Oncology Group (JCOG) policy. *Jpn J Clin Oncol* 1:49(10): 901-910, 2019.
  17. Tsutani Y<sup>1</sup>, Suzuki K<sup>2</sup>, Koike T<sup>3</sup>, Wakabayashi M<sup>4</sup>, Mizutani T, Aokage K<sup>5</sup>, Saji H<sup>6</sup>, Nakagawa K<sup>7</sup>, Zenke Y<sup>5</sup>, Takamochi K<sup>2</sup>, Ito H<sup>8</sup>, Aoki T<sup>9</sup>, Okami J<sup>10</sup>, Yoshioka H<sup>11</sup>, Okada M<sup>12</sup>, Watanabe S<sup>7</sup> ( <sup>1</sup>Hiroshima University, <sup>2</sup>Juntendo University School of Medicine, <sup>3</sup>Niigataseirou Hospital, <sup>4</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>5</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>6</sup>St. Marianna University School of Medicine, <sup>7</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>8</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>9</sup>Niigata Cancer Center Hospital, <sup>10</sup>Osaka International Cancer Institute, <sup>11</sup>Kansai Medical University Hospital, <sup>12</sup>Hiroshima University) : High-Risk Factors for Recurrence of Stage I Lung Adenocarcinoma . Follow-up Data From JCOG0201. *Ann Thorac Surg* 108(5): 1484-1490, 2019.



18. Shimasaki T, Seekatz A<sup>1</sup>, Bassis C<sup>1</sup>, Rhee Y<sup>2</sup>, Yelin RD<sup>2</sup>, Fogg L<sup>3</sup>, Dangana T<sup>2</sup>, Cisneros EC<sup>2,4</sup>, Weinstein RA<sup>2</sup>, Okamoto K<sup>2,5</sup>, Lolans K<sup>2</sup>, Schoeny M<sup>3</sup>, Lin MY<sup>2</sup>, Moore NM<sup>2</sup>, Young VB<sup>1</sup>, Hayden MK<sup>2</sup> (1University of Michigan Medical School, 2Rush University Medical Center, 3Department of Nursing Rush University Medical Center, 4Hospital Nacional Cayetano Heredia, 5University of Tokyo Hospital): Increased Relative Abundance of *Klebsiella pneumoniae* Carbapenemase-producing *Klebsiella pneumoniae* Within the Gut Microbiota Is Associated With Risk of Bloodstream Infection in Long-term Acute Care Hospital Patients. *Clin Infect Dis* 68(12):2053-2059, 2019.
19. Higuchi S, Kabeya Y<sup>1</sup>, Matsushita K<sup>2</sup>, Arai N<sup>3</sup>, Tachibana K<sup>3</sup>, Tanaka R<sup>3</sup>, Kawachi R<sup>4</sup>, Takei H<sup>3</sup>, Suzuki Y<sup>5</sup>, Kogure M<sup>5</sup>, Imanishi Y<sup>6</sup>, Moriyama K<sup>7</sup>, Yorozu T<sup>7</sup>, Saito K<sup>8</sup>, Abe N<sup>5</sup>, Sugiyama M<sup>5</sup>, Kondo H<sup>3</sup>, Yoshino H<sup>2</sup> (1Sowa Hospital, 2Department of Cardiology, Kyorin University, 3Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University, 4Nihon University, 5Department of Surgery, Kyorin University, 6Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, 7Department of Anesthesiology, Kyorin University, 8Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University): Perioperative Atrial Fibrillation in Noncardiac Surgeries for Malignancies and One-Year Recurrence. *Canadian Journal of Cardiology* 35(11):1449-1456, 2019.
20. Miura Y<sup>1</sup>, Higuchi S, Matsushita K<sup>1</sup>, Kariyasu T<sup>2</sup>, Machida H<sup>2</sup>, Yokoyama K<sup>2</sup>, Soejima K<sup>1</sup>, Satoh T<sup>1</sup> (1Department of Cardiology, Kyorin University, 2Department of Radiology, Kyorin University): Clinical impact of visceral-to-subcutaneous fat ratio in patients with acute aortic dissection. *PLOS ONE* 14(12):e0226642, 2019. DOI: 10.1371/journal.pone.0226642.
21. Higuchi S, Kabeya Y<sup>1</sup>, Matsushita K<sup>2</sup>, Arai N<sup>3</sup>, Tachibana K<sup>3</sup>, Tanaka R<sup>3</sup>, Kawachi R<sup>4</sup>, Takei H<sup>3</sup>, Suzuki Y<sup>5</sup>, Kogure M<sup>5</sup>, Imanishi Y<sup>6</sup>, Moriyama K<sup>7</sup>, Yorozu T<sup>7</sup>, Saito K<sup>8</sup>, Abe N<sup>5</sup>, Sugiyama M<sup>5</sup>, Kondo H<sup>3</sup>, Yoshino H<sup>2</sup> (1Sowa Hospital, 2Department of Cardiology, Kyorin University, 3Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University, 4Nihon University, 5Department of Surgery, Kyorin University, 6Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, 7Department of Anesthesiology, Kyorin University, 8Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University): Incidence and complications of perioperative atrial fibrillation after non-cardiac surgery for malignancy. *PLOS ONE* 14(5):e0216239, 2019. DOI: 10.1371/journal.pone.0216239.
4. 倉井大輔 (分担執筆) : 第5章 ANDSパールズ : 初級編 (Basic). 呼吸器診療ANDS BOOK. 滝澤始監修. 東京, 中外医学社, 2019. p.203-204.
5. 倉井大輔 (分担執筆) : 第7章 ANDSパールズ : 上級編 (Advanced). 呼吸器診療ANDS BOOK. 滝澤始監修. 東京, 中外医学社, 2019. p.429, p.434.
6. 水谷友紀 : 外科治療における高齢者と若年者の違い. 臨床雑誌外科 (0016-593X)82巻3号. 佐野武. 東京, 南江堂, 2020. p.202-207.
7. 岡野尚弘, 水谷友紀, 西岡真理子, 杉浦ちとせ, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司 : 胆道癌におけるFGFR遺伝子異常とFGFR阻害薬の開発. 胆と膵 (0388-9408)40巻12号. 田中雅夫. 東京, 医学図書出版, 2019. p.1347-1350.
8. 水谷友紀 (分担執筆) : 臨床試験の倫理. がん診療スタンダードマニュアル-がん薬物療法からサポーターケアまで. 勝俣範之他. 東京, 有限会社シーニュ, 2019. p.70-74.
9. 嶋崎鉄兵 (分担執筆) : 日常臨床におけるインフルエンザの診療および感染対策. 臨床雑誌内科 125巻1号. 東京, 南江堂, 2020. p.131-138.
10. 三好佐和子, 徳永健吾 (分担抄訳) : *Helicobacter* 日本語抄訳版 Vol. 19 No. 2, April 2020. 浅香正博監修. 東京, Wiley, 2020. p.31-35.
11. 山田敦子, 倉井大輔 (分担執筆) : 主要疾患の鑑別と治療 感染後咳嗽と百日咳(解説/特集). 呼吸器内科 36巻4号 特集 咳と痰を診る. 東京, 科学評論社, 2019. p.348-353.

#### 報告書

1. 長谷川浩 : 動的・静的脳画像、心拍変動を用いた新たな軽度認知機能低下高齢者の安全運転支援開発. 2019年度 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究代表者実施状況報告書.
2. 長谷川浩 : 大脳白質病変と体組成、自律神経機能の関連の重要性. 2019年度 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
3. 倉井大輔 : 成人RSV感染症の重症化と血漿中LL-37の関連性について. 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2019年度研究成果報告書.

#### リハビリテーション医学教室

#### 講演

1. 山田深 : 宇宙飛行士帰還後のリハビリテーションの実際. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019年5月11日.
2. 山田深 : ロケットはどうやって飛ぶの?. 東京私立中学合同説明会コズミックカレッジ, 東京, 2019年5月19日.
3. 児玉優太, 炭谷由計, 田中耕史, 廣瀬道宣, 飛田和基, 石飛実紀, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均 : 2型糖尿病症例の至適運動強度としての乳酸閾値と二重積屈曲点法の妥当性について. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23-25日.
4. Abe Y, Yamada S, Masuda A, Hirano T, Shiokawa Y, Okajima Y : Changes of ICF score in patients with cerebral subcortical hemorrhage. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine world congress, Kobe, June9th-13th, 2019.
5. 藤井浩優, 山田深, 岡島康友 : 急性期リハビリテーションを実施した慢性硬膜下血腫患者の入退院時ADL

#### 著書

1. 長谷川浩 (分担執筆) : 第16章第7節 身体抑制・薬物による鎮静. 健康長寿ハンドブック第2版. 日本老年医学会. 東京, メジカルビュー社, 2019. p.145-147.
2. 長谷川浩 (分担執筆) : 第19章第5節 高齢者虐待への対応. 健康長寿ハンドブック第2版. 日本老年医学会. 東京, メジカルビュー社, 2019. p.167-170.
3. 長谷川浩 : II章 治療8 高齢者に対する不眠治療のコツ. 循環器の高齢者診療術. 荒井秀典, 大村寛敏. 東京, 南江堂, 2019. p.89-96.

- の比較. 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会, 神戸, 2019年6月14日.
6. 増田暁史, 山田深, 松本愛結, 藤井浩優, 仁科彩子, 岡島康友, 平野照之, 塩川芳昭: 大脳皮質下出血における出血部位や出血量とADLの関連性. 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会, 神戸, 2019年6月15日.
  7. 藤澤祐基, 岡島康友, 中野尚子: 正準判別分析とランダムフォレスト法を用いた健常者、片麻痺手、小脳性運動失調症者の利き手書字の特徴抽出. 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会, 神戸, 2019年6月15日.
  8. 飛田和基, 合田あゆみ, 西田悠一郎, 坂本勇斗, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 佐藤徹, 岡島康友: 肺高血圧症患者のQOLの特徴および下肢筋力, 運動耐容能との関連. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 2019年6月21-22日.
  9. 山田深: 宇宙飛行士の健康と生活. 小学生のための楽しい科学教室, 東京, 2019年6月23日.
  10. 岡島康友: 教育研修講演-脳血管障害リハビリテーション. 第7回医師のための総合リハビリテーション講座, 東京, 2019年7月7日.
  11. 飛田和基, 木村雅彦, 合田あゆみ, 佐藤徹, 岡島康友: 肺高血圧症患者における運動時肺動脈圧上昇と下肢筋力との関連. 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 大阪, 2019年7月13-14日.
  12. 増田桃子, 飛田和基, 合田あゆみ, 岡島康友: 急性冠症候群後の当院外来心臓リハビリテーション実施例における継続群と非継続群の背景. 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 大阪, 2019年7月13-14日.
  13. 坂本勇斗, 飛田和基, 合田あゆみ, 岡島康友: 心不全患者の拡張障害が運動耐容能や労作時の息切れに及ぼす影響. 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 大阪, 2019年7月13-14日.
  14. 山田深: FIM総論. 第29回看護師・コメディカルのためのFIM講習会[基礎編], 三鷹, 2019年7月14日.
  15. 山田深: FIM総論. 第14回看護師・コメディカルのためのFIM講習会[応用編], 三鷹, 2019年7月14日.
  16. 山田深: 宇宙飛行士の健康管理～宇宙で元気で過ごすために～. YACつくばスペースキャンプ, つくば, 2019年8月21日.
  17. 若林俊夫, 山田深, 佐久間大輝, 團裕菜: 投球時上腕骨骨折を起こした2症例～復帰に難渋した2症例の後方視的検討～. 第45回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会, 大阪, 2019年8月30-31日.
  18. 村田裕康, 大畑徹也, 平さより, 児玉優太, 岡島康友: 高エネルギー外傷患者のリハビリテーション帰結～転帰先に影響する因子の検討(第2報). 第68回東日本整形災害外科学会学術集会, 東京, 2019年9月5-6日.
  19. 石田幸平, 森光代, 岡島康友: 手指の重症熱傷例の作業療法: 拘縮・変形を見据えたスプリンティング介入. 第53回日本作業療法学会, 福岡, 2019年9月6-8日.
  20. 佐久間大輝, 石田幸平, 森光代, 松下泰輔, 岡島康友: 投球障害者の作業療法経験から得た肩機能改善への介入方法の検討. 第53回日本作業療法学会, 福岡, 2019年9月6-8日.
  21. 山田深: 日常生活への復帰 脳腫瘍とリハビリテーション. 第37回日本脳腫瘍学会学術集市民公開講座, 水戸, 2019年9月21日.
  22. 野邊浩一郎, 山田深, 仁科彩子, 藤井浩優, 安部佑, 岡島康友: 初発膠芽腫患者に対する術後早期リハビリテーション. 第3回日本リハビリテーション医学会秋季集会, 静岡, 2019年11月16日.
  23. 松本愛結, 岡島康友, 今福圭子, 川上純範: 大腿骨頭・白蓋全摘出後の歩行再建の1経験. 第3回日本リハビリテーション医学会秋季集会, 静岡, 2019年11月16日.
  24. 池田光代, 山田深, 岡島康友, 齊藤邦昭, 小林啓一, 塩川芳昭, 永根基雄: 初発神経膠腫患者に対する術後早期リハビリテーション医療. 第37回日本脳腫瘍学会学術集会, 七尾, 2019年12月1-3日.
  25. 石田幸平, 池田光代, 山田深, 岡島康友, 齊藤邦昭, 小林啓一, 塩川芳昭, 永根基雄: 脳腫瘍患者へのWHODAS導入の試み. 第37回日本脳腫瘍学会学術集会, 七尾, 2019年12月1-3日.
  26. 宅美貴子, 小林啓一, 山岸夢希, 齊藤邦昭, 島田大輔, 松本淑恵, 山田深, 塩川芳昭, 永根基雄, 岡島康友: 中枢神経系悪性リンパ腫における初期治療の効果-日常生活動作と認知機能から-. 第37回日本脳腫瘍学会学術集会, 七尾, 2019年12月1-3日.
  27. 山田深: FIM総論. 第15回看護師・コメディカルのためのFIM講習会[応用編], 三鷹, 2019年12月8日.
  28. 山田深: 有人宇宙開発最前線. コズミックカレッジ北杜, 北杜, 2019年12月15日.
  29. 山田深: 脳卒中急性期のリハビリテーション. 第29回山梨脳卒中研究会, 甲府, 2019年12月18日.
  30. 山田深: ICFアップデートと今後の展望. 第8回厚生労働省ICFシンポジウム, 東京, 2020年1月18日.
  31. 山田深, 石田幸平, 池田光代: 脳腫瘍患者の生活機能に対するWHODAS2.0を用いた評価. 第8回厚生労働省ICFシンポジウム, 東京, 2020年1月18日.
  32. 山田深: 宇宙医学とリハビリテーション. 第20回京都市立病院協会リハビリテーション部会講演会, 京都, 2020年2月1日.
  33. 山田深: リハビリテーション専門医からみた脳神経外科救急. 第25回日本脳神経外科救急学会, 川越, 2020年2月8日.
  34. 岡島康友: 脳卒中の臨床-基礎とリハビリテーション. 第22回東京都臨床技師会 都民公開講座, 東京, 2020年2月8日.
  35. 野邊浩一郎, 山田深, 安部佑, 藤井浩優, 岡島康友, 平野照之: 失語に皮質盲を合併し, 動作の定着に難渋した脳卒中の1例. 第73回日本リハビリテーション医学会関東地方会学術集会, さいたま, 2020年2月9日.
  36. 村田裕康, 谷合誠一, 長谷川浩, 櫻井俊光, 佐藤敦子, 飛田和基, 坂本勇斗, 扇山美徳, 小嶋幸一郎, 吉田勤, 森山久美, 阿部展次, 近藤晴彦, 岡島康友, 萬知子: 高齢周術期患者における入院時栄養状態とフレイルの関係性. 第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020年2月27-28日.
- ### 論文
1. 山田深: 脳腫瘍周術期の管理. *Jpn J Rehabil Med* 56: 609-612, 2019.
  2. 山田深: 【脳卒中リハビリテーション医療update】脳卒中急性期リハビリテーションの現状と課題. *MEDICAL REHABILITATION* 236: 17-21, 2019.
  3. 山田深: ICF活用の実際と展望(第1回) WHOの動向. 総合リハ47: 493-495, 2019.
  4. 山田深: 宇宙飛行士の地球帰還後リハビリテーションの実際. 整・災外 62: 705-712, 2019.

## 著 書

1. 山田深(分担執筆)：ICFの理解．公認心理士カリキュラム準拠 人体構造と機能及び疾病．武田，岩田，小林編．東京，医歯薬出版，2019．p.192-202.
2. 山田深(分担執筆)：早期離床の判断と注意点．脳卒中基礎知識から最新リハビリテーションまで．正門，高木編集．東京，医歯薬出版，2019．p.312-316.
3. 山田深(監修)：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント．東京，メディックメディア，2019．p.226-231，p.238-353.

## その他

1. 山田深：「大西・金井宇宙飛行士が教える宇宙のリアル！～君たちは宇宙でどう生きるか～」宇宙飛行士のリハビリについて解説，筑波宇宙センター特別公開，つくば，2019年10月5日．
2. 山田深：「金のベンリ堂」浮力が身体に及ぼす影響について解説，NHK総合，2019年10月16日．
3. 山田深：「無重力 細る骨 筋肉」宇宙飛行士のリハビリについて解説，読売新聞，2019年11月20日．
4. 岡島康友：書評・精神疾患が合併していても身体リハビリテーションはできる．月刊メディカル・リハビリテーション241(10)：28，2019.

## 脳卒中医学教室

## 講 演

### [国際学会]

1. Abe Y, Yamada S, Masuda A, Hirano T, Shiokawa Y, Okajima Y: Changes of ICF score in patients with cerebral subcortical hemorrhage. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine world congress, Kobe, June 9th-13th, 2019.
2. Unno Y, Iwashita T: What makes a difference between with and without ischemia of cerebral arterial dissection. 19th Congress of the International Headache Society, Ireland, September 5th-8th, 2019.
3. Hirano T: Current management of hyperacute stroke in Japan. 2019 Seoul National University Hospital (SNUH) International Stroke Symposium (SISS), South Korea, September 7th, 2019.
4. Kawano H, Johno T, Torii M, Kamiyama H, Amano T, Honda Y, Okano H, Unno Y, Yamada S, Okajima Y, Shiokawa Y, Hirano T: Predictive value of Functional Independence Measure for favorable outcome is higher in posterior circulation strokes than anterior circulation strokes. Stroke Society of Australasia 2019, Australia, September 10th, 2019.
5. Kawano T: Adoption of perfusion imaging. The 9th Japan Korea Joint Stroke Conference, Korea, November 15th, 2019.
6. Kawano H: Stroke Prevention, PFO. 2020 PCR Tokyo Valves, Tokyo, February 14th, 2020.
7. Kawano H, Ebisawa S, Ayano M, Nakanishi K, Yamashita H, Honda Y, Amano T, Unno Y, Komatsu Y, Ogawa Y, Shiokawa Y, Hirano T: Saving time for initial management of stroke by reorganization of in-hospital stroke code protocol. International Stroke Conference 2020, USA, February 19th, 2020.

### [国内学会]

1. 天野達雄：血管内治療の効果が無い患者の次の一手は？．第60回日本神経学会学術大会，大阪，2019年5月23日．
2. 海野佳子：薬剤の使用過多による頭痛(薬物乱用頭痛，MOH)の対応法．教育コース「頭痛診療で頭を痛めないためのお作法」第60回日本神経学会学術大会，大阪，2019年5月24日．
3. 河野浩之：脳梗塞最新の抗凝固療法．教育コース「脳卒中最新の現場」．第60回日本神経学会学術大会，大阪，2019年5月25日．
4. 増田暁史，山田深，川本愛結，藤井浩優，仁科彩子，岡島康友，平野照之，塩川芳昭：大脳皮質下出血における出血部位や出血量とADLの関連性．第56回日本リハビリテーション医学会学術集会，神戸，2019年6月15日．
5. 河野浩之，本田有子，天野達雄，鳥居正剛，岡野晴子，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：悪性腫瘍関連脳梗塞患者におけるD-dimerと生命予後．第41回日本血栓止血学会学術集会，津，2019年6月21日．
6. 本田有子，河野浩之，野口明男，丸山啓介，斉藤勇，田村晃，櫻井孝，平野照之，塩川芳昭：脳ドック受診者における脳体積率とスタチン内服の関係．第28回日本脳ドック学会総会，松江，2019年6月21日．
7. 天野達雄：Stent Retrieverとの併用におけるPenumbra systemの役割～迅速な1passTICI3を得るために～．第6回日本心臓血管脳卒中学会学術集会，東京，2019年6月28日．
8. 海野佳子：片頭痛の鑑別診断 薬剤の使用過多による頭痛．Headache Master School Japan 2019 (HMSJ2019) in Sendai. 仙台，2019年7月14日．
9. 天野達雄：Vitreaを使うと世界が変わる・・・早くなるんです！！．第5回軽井沢脳血管内治療セミナー，軽井沢，2019年7月20日．
10. 平野照之：頭蓋内動脈狭窄症に対する脂質代謝コントロールの最前線．第38回The Mt. Fuji Workshop on CVD，横浜，2019年8月31日．
11. 平野照之：脳卒中急性期の診察・画像・一般検査．第2回日本神経学会特別教育研修会 脳卒中コース，大阪，2019年9月15日．
12. 平野照之：内科医からみた動脈血栓塞栓症リスクマネジメント．第25回日本糖尿病眼学会総会，大阪，2019年9月27日．
13. 天野達雄，山道惇，齋藤幹人，城野喬史，丸岡響，中西郁，山下ひとみ，平野照之，松本淑恵，笹森寛生，堀川弘史，野口明男，塩川芳昭：脳神経外科医と脳卒中内科医の力を1つに～血管内治療医が疲弊しないシステム構築のために～．日本脳神経外科学会第78回学術総会，大阪，2019年10月10日．
14. 平野照之：K on K：即効性と持続性．日本脳神経外科学会第78回学術総会，大阪，2019年10月11日．
15. 太田貴裕，重田恵吾，松丸祐司，塩川芳昭，平野照之：血栓回収療法の治療件数の増加に伴う血管内治療医の効率的な配置・当番導入に関する検討—TREATデータベースから—．日本脳神経外科学会第78回学術総会，大阪，2019年10月11日．
16. 藤田祐次郎，安達卓哉，河野浩之，壺井美香，町田治彦，中西章仁，横山健一：CT Perfusionを用いた急性期脳梗塞診断におけるペイズ推定法による虚血コア体積計測精度の初期検討．第47回日本放射線技術学会秋期学術大会，大阪，2019年10月17日．

17. 平野照之：抗凝固療法中の脳卒中～次の一手はあるか～. 第22回日本栓子検出と治療学会, 盛岡, 2019年10月19日.
  18. 天野達雄, 齋藤幹人, 本田有子, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之, 岩本敏彦: Cone-beam CTとMRIのfusion画像が脳梗塞病型診断に有用だった1例. 第22回日本栓子検出と治療学会, 盛岡, 2019年10月19日.
  19. 中西郁, 河野浩之, 山岸夢希, 笹森寛生, 菅間博, 塩川芳昭, 平野照之: 回収した血栓内に腫瘍細胞を認めた急性期脳梗塞の1例. 第22回日本栓子検出と治療学会, 盛岡, 2019年10月19日.
  20. 山道惇, 河野浩之, 天野達雄, 海野佳子, 平野照之: 骨盤骨折の周術期にヘパリン起因性血小板減少症による脳出血を伴う脳静脈血栓症を呈した1例. 第37回日本神経治療学会, 横浜, 2019年11月5日.
  21. 天野達雄, 松本淑恵, 笹森寛生, 堀川弘史, 塩川芳昭, 平野照之: lpassTICI3を得るためには Stent retrieverとAspiration deviceの併用手技が有効. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 福岡, 2019年11月21日.
  22. 天野達雄: 血栓回収療法の効果を最大限に引き出すためには?～脳保護療法を中心とした文献レビュー～. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 福岡, 2019年11月21日.
  23. 本田有子, 野口明夫, 丸山啓介, 田村晃, 齋藤勇, 櫻井孝, 塩川芳昭, 平野照之: 脳ドック受診者における脳体積率とスタチン内服の関係. 第62回日本脳循環代謝学会学術集会, 仙台, 2019年11月29日.
- [講演会・研究会]
1. 平野照之: Tissue-based strategy: 治療方法論の転換. 第38回京都神経フォーラム, 京都, 2019年4月5日.
  2. 天野達雄, 堀川弘史, 笹森寛生: 通らないIPSはない!? . Dural Shunt and Anatomy TAMA Conference, 東京, 2019年4月12日.
  3. 平野照之: ATISへの包括的アプローチ～DAPT, PCSK9, そしてESUS～. 第12回さいたまアテローム血栓症研究会, 大宮, 2019年4月16日.
  4. 平野照之: がんと脳卒中: 超高齢社会で遭遇する課題. 川口市医師会学術講演会, 川口, 2019年4月18日.
  5. 平野照之: ONとOFF: ワルファリンとケイセントラ. 多摩地区抗凝固療法カンファレンス, 武蔵野, 2019年4月19日.
  6. 平野照之: 抗凝固療法を行う意義. MASTERCLASS Premium summit, 東京, 2019年4月21日.
  7. 河野浩之: カテーテル時代の卵円孔開存の診断. 経頭蓋超音波ドブラ法によるスクリーニング. 第30回日本心エコー図学術集会, 松本, 2019年5月11日.
  8. 平野照之: Tissue-based strategy: 脳梗塞治療方法論の転換. 第36回山口県高血圧と脈管研究会, 宇部, 2019年5月31日.
  9. 平野照之: 脳卒中: 対策基本法のABC. AICHI STROKE conference, 名古屋, 2019年6月14日.
  10. 海野佳子: 頭痛の薬物療法. 神経疾患に親しみ強くなる会 第13回教育セミナー, 東京, 2019年6月15日.
  11. 平野照之: Stroke Neurologyの勧め～WHAT'S ON 2019. 2019年度脳神経内科サマーキャンプ沖縄, 那覇, 2019年6月23日.
  12. 平野照之: Stroke Neurology最前線: Unity in Diversity. 第3回長崎脳神経内科脳卒中カンファレンス, 長崎, 2019年7月19日.
  13. 平野照之: ストレスなく急性期にNOACを始めるために. Masters Summit on Stroke, 東京, 2019年7月21日.
  14. 平野照之: Tissue-based strategy: 将来への希望と不安. 第34回広島脳卒中フォーラム, 広島, 2019年7月27日.
  15. 平野照之: 脳梗塞の血栓回収療法と抗凝固療法. 西東京市循環器医学会学術講演会, 西東京, 2019年7月29日.
  16. 平野照之: T-REXで繋がる脳卒中連携医療. 福岡脳卒中医療連携カンファレンス, 福岡, 2019年7月31日.
  17. 平野照之: Cancer Associated Stroke. 大阪大学脳神経内科セミナー, 大阪, 2019年8月6日.
  18. 平野照之: 抗凝固療法中の脳卒中～次の一手はあるか～. 日本ペーリンガーインゲルハイムWeb講演会, 東京, 2019年8月7日.
  19. 平野照之: Tissue-based strategy. 筑後脳血管内治療セミナー, 久留米, 2019年8月24日.
  20. 天野達雄: 灌流画像を導入して変わりました. Chikugo Neuro Intervention Seminar, 久留米, 2019年8月24日.
  21. 平野照之: 超高齢社会ニッポンの脳卒中・てんかん対策. 脳卒中てんかん医療連携セミナー, 東京, 2019年9月5日.
  22. 河野浩之: 脳卒中二次予防を目指した血圧管理. Next Generation Forum, 宇都宮, 2019年9月6日.
  23. 河野浩之: 脳梗塞最新のトピックス. 第7回NPO法人多摩脳神経外科セミナー, 三鷹, 2019年9月7日.
  24. 天野達雄: Vitreaを使用したlate phase患者への血栓回収の診断と症例. 第13回東京脳卒中の血管内治療セミナー, 東京, 2019年9月7日.
  25. 天野達雄: 文献レビュー 頸動脈/頭蓋内狭窄. 第13回東京脳卒中の血管内治療セミナー, 東京, 2019年9月7日.
  26. 河野浩之: 脳梗塞最新のトピックス. 第7回NPO法人多摩脳神経外科セミナー, 三鷹, 2019年9月7日.
  27. 平野照之: 脳卒中: 対策基本法のABC. We can treat stroke～倉敷地区で, 基本法成立を考える～, 倉敷, 2019年9月10日.
  28. 平野照之: 超高齢社会ニッポンの抗凝固療法. Stroke Care Conference in 岐阜, 岐阜, 2019年9月17日.
  29. 河野浩之: 止血・出血・血栓の病態, 脳梗塞, 静脈血栓塞栓症. 令和元年医療実務研究会, 和光, 2019年9月19日.
  30. 平野照之: ONとOFF: ワルファリンとケイセントラ. ケイセントラ2周年記念シンポジウム in 名古屋, 名古屋, 2019年9月20日.
  31. 平野照之: T-REXで繋がる脳卒中連携医療. 第8回SMART研究会, 立川, 2019年9月27日.
  32. 平野照之: 超高齢社会ニッポンの脳卒中・てんかん対策. 第3回脳卒中とてんかん学術講演会, 君津, 2019年9月30日.
  33. 平野照之: ATISへの包括的アプローチ～薬物療法の進歩とESUS～. 第3回仙台アテローム血栓症フォーラム, 仙台, 2019年10月2日.
  34. 中西郁, 河野浩之, 山岸夢希, 笹森寛生, 菅間博, 塩川芳昭, 平野照之: 回収した血栓内に腫瘍細胞を認めた急性期脳梗塞の1例. 第40回多摩地区脳卒中研究会, 東京, 2019年10月25日.
  35. 平野照之: 脳梗塞の治療: 最新のトピックス. 脳卒中二次予防 Update 2019, 旭川, 2019年10月29日.

36. 平野照之：超高齢社会ニッポンの抗凝固療法．第5回城東ニューロカンファレンス，東京，2019年10月30日．
37. 平野照之：RE-脳卒中・対策基本法～脳卒中・循環器病対策基本法施行後の医療環境の変化と今後の脳卒中急性期治療．日本ペーリンガーインゲルハイム社内講演会，東京，2019年10月31日．
38. 天野達雄：杏林大学での血栓回収療法．Solitaire De Night in Tokyo，東京，2019年11月1日．
39. 平野照之：Time Every Brain．Takeda Web Conference，横浜，2019年11月7日．
40. 平野照之：Time Every Brain：虚血コアサイズによる最適化．第8回武蔵野脳卒中外科カンファレンス，大宮，2019年11月16日．
41. 平野照之：様変わりした脳梗塞治療：血行再建と抗凝固療法．佐渡医師会学術講演会，佐渡，2019年11月19日．
42. 河野浩之：PFO閉鎖術 診断と適応．第3回経皮的卵円孔開存閉鎖術研修プログラム，東京，2019年11月24日．
43. 平野照之：脳梗塞の治療 2019 update．静岡STROKEエキスパートミーティング，静岡，2019年11月27日．
44. 平野照之：超高齢社会ニッポンの抗凝固療法．高齢者トータルケアを考える，会津若松，2019年12月2日．
45. 平野照之：超高齢社会ニッポンの脳卒中・てんかん対策．脳卒中とてんかんを考える，東京，2019年12月6日．
46. 海野佳子：脳卒中再発予防について．脳卒中セミナー，新潟，2019年12月11日．
47. 平野照之：脳梗塞急性期の地域連携：血管内治療と薬物療法の将来展望．能登脳卒中地域連携協議会総会，能登，2019年12月14日．
48. 平野照之：超高齢社会ニッポンの脳卒中・てんかん対策．Stroke and Epilepsy Seminar in Izumo，出雲，2020年1月10日．
49. 天野達雄：血管内治療に効果がない患者の次の一手は？．鹿児島脳血管内科の会2020，鹿児島，2020年1月11日．
50. 平野照之：超脳卒中・循環器病対策基本法の展望と最新の脳卒中治療．武田薬品工業社員対象勉強会，武蔵野，2020年1月14日．
51. 河野浩之：脳卒中診療の最新のトピックス．初期対応から再発予防まで．京都救急外傷SCUセミナー，京都，2020年1月17日．
52. 平野照之：超高齢社会ニッポンの脳卒中・てんかん対策．Stroke and Epilepsy Forum in Kanagawa，横浜，2020年1月22日．
53. 平野照之：tPA for Stroke．Brain & Heart Top Conference，大阪，2020年1月25日．
54. 平野照之：脳循法施行で，できること・やるべきこと．Meet the Expert in Tokyo，東京，2020年1月27日．
55. 河野浩之，平野照之：杏林大学脳卒中センターにおける卵円孔開存の関与があり得る潜因性脳梗塞の診断と治療．第23回Tokyo Stroke Intervention Seminar，東京，2020年2月1日．
56. 平野照之：脳梗塞の血栓回収療法と抗凝固療法．Stroke Seminar in 勝浦，勝浦，2020年2月4日．
57. 平野照之：Imaging-based treatment strategy血栓回収療法と抗凝固療法．地域連携Stroke Meeting，郡山，2020年2月5日．
58. 平野照之：脳循法の施行とこれからの脳卒中对策．脳

を考える会～令和からはじめる脳疾患のトータルケア～，大分，2020年2月7日．

59. 野邊浩一郎，山田深，安部佑，藤井浩優，岡島康友，平野照之：失語に皮質盲を合併し，動作の定着に難渋した脳卒中の1例．第73回日本リハビリテーション医学会関東地方会学術集会，さいたま，2020年2月9日．
60. 河野浩之：卵円孔開存の関与があり得る潜因性脳梗塞の診断と治療．PFO閉鎖と血栓症を考える会，東京，2020年2月12日．
61. 平野照之：抗凝固療法中の脳卒中～次の一手はあるか～．北大阪健康医療都市（健都）と脳卒中制圧を考える会，大阪，2020年2月13日．
62. 平野照之：超高齢社会ニッポンの脳卒中・てんかん対策．認知症・脳卒中診療の最前線，熊本，2020年2月14日．

## 論 文

### [海外雑誌論文]

1. Kaneko J<sup>1</sup>, Ota T<sup>2</sup>, Tagami T<sup>1,3</sup>, Umemoto K<sup>1</sup>, Shigeta K<sup>1</sup>, Amano T, Ueda M<sup>2</sup>, Matsumaru Y<sup>5</sup>, Shiokawa Y<sup>6</sup>, Hirano T, on behalf of the TREAT Study Group (1Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, 2Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, 3Tokyo University, 4NHO Disaster Medical Center, 5Tsukuba University, 6Department of Neurosurgery, Kyorin University School of Medicine): Endovascular treatment of acute basilar artery occlusion: Tama-Registry of Acute Thrombectomy (TREAT) study. J Neurol Sci. 401: 29-33, 2019. DOI: 10.1016/j.jns.2019.04.010.
2. Nishimura A<sup>1</sup>, Nishimura K<sup>2</sup>, Onozuka D<sup>1</sup>, Matsuo R<sup>1</sup>, Kada A<sup>3</sup>, Kamitani S<sup>4</sup>, Higashi T<sup>4</sup>, Ogasawara K<sup>5</sup>, Shimodozono M<sup>6</sup>, Harada M<sup>7</sup>, Hashimoto Y<sup>8</sup>, Hirano T, Hoshino H<sup>9</sup>, Itabashi R<sup>10</sup>, Itoh Y<sup>11</sup>, Iwama T<sup>12</sup>, Kohriyama T<sup>13</sup>, Matsumaru Y<sup>14</sup>, Osato T<sup>15</sup>, Sasaki M<sup>5</sup>, Shiokawa Y<sup>16</sup>, Shimizu H<sup>17</sup>, Takekawa H<sup>18</sup>, Nishi T<sup>19</sup>, Uno M<sup>20</sup>, Yagita Y<sup>20</sup>, Ido K<sup>1</sup>, Kurogi A<sup>1</sup>, Kurogi R<sup>1</sup>, Arimura K<sup>1</sup>, Ren N<sup>1</sup>, Hagihara A<sup>1</sup>, Takizawa S<sup>21</sup>, Arai H<sup>22</sup>, Kitazono T<sup>1</sup>, Miyamoto S<sup>23</sup>, Minematsu K<sup>2</sup>, Iihara K<sup>1</sup> (1Kyushu University, 2National Cerebral and Cardiovascular Center, 3NHO Nagoya Medical Center, 4National Cancer Center, 5Iwate Medical University, 6Kagoshima University, 7Tokushima University, 8Kumamoto City Hospital, 9Tokyo Saiseikai Central Hospital, 10Konan Hospital, 11Osaka City University, 12Gifu University, 13Ota Memorial Hospital, 14Tsukuba University, 15Nakamura Memorial Hospital, 16Department of Neurosurgery, Kyorin University School of Medicine, 17Akita University, 18Dokkyo Medical University, 19Saiseikai Kumamoto Hospital, 20Kawasaki Medical School, 21Tokai University, 22Juntendo University, 23Kyoto University): Development of quality indicators of stroke centers and feasibility of their measurement using a nationwide insurance claims database in Japan – J-ASPECT Study –. Circ J 83(11): 2292-2302, 2019. DOI: 10.1253/circj.CJ-19-0089.

### [国内雑誌論文]

1. 中島昌典<sup>1</sup>，平野照之，塩川芳昭<sup>2</sup>，栗田瑛里子<sup>1</sup>，岡野晴子<sup>3</sup>，千葉厚郎<sup>3</sup>（1杏林大学付属病院神経内科，2杏林大・医・脳神経外科学，3杏林大・医・神経内科学）：Cerebral amyloid angiopathy(CAA)に関連したCortical superficial siderosis(cSS)/convexity

subarachnoid hemorrhage(cSAH)による Transient focal neurological episodes (TFNE) を認めた83歳女性例. *Progress in computed imaging (CI研究)* vol.40 No.3・4: 141-146, 2019.

- 平野照之: 学会印象記 WSC 2018. *BRAIN and NERVE* 71(4): 431-433, 2019.
- 平野照之: 高齢脳卒中患者の特徴. *MB Medical Rehabilitation* 236: 7-11, 2019.
- 井口保之<sup>1</sup>, 岩間亨<sup>2</sup>, 大木宏一<sup>3</sup>, 片岡大治<sup>4</sup>, 河野浩之, 山上宏<sup>5</sup>, 河村朗夫<sup>6</sup>, 福井重文<sup>5</sup>, 赤木禎治<sup>7</sup>, 金澤英明<sup>8</sup>, 原英彦<sup>9</sup>, 日本脳卒中学会, 日本循環器学会, 日本心血管インターベンション治療学会, 三学会合同手引き作成委員会 (1東京慈恵会医科大, 2岐阜大, 3東京都済生会中央病院, 4京都大, 5国立循環器病研究センター, 6国際医療福祉大, 7岡山大, 8慶應義塾大, 9東邦大学医療センター大橋病院): 潜因性脳梗塞に対する経皮的卵円孔開存閉鎖術の手引き. *脳卒中* 41: 417-441, 2019.
- 井口保之<sup>1</sup>, 岩間亨<sup>2</sup>, 大木宏一<sup>3</sup>, 片岡大治<sup>4</sup>, 河野浩之, 山上宏<sup>5</sup>, 河村朗夫<sup>6</sup>, 福井重文<sup>5</sup>, 赤木禎治<sup>7</sup>, 金澤英明<sup>8</sup>, 原英彦<sup>9</sup>, 日本脳卒中学会, 日本循環器学会, 日本心血管インターベンション治療学会, 三学会合同手引き作成委員会 (1東京慈恵会医科大, 2岐阜大, 3東京都済生会中央病院, 4京都大, 5国立循環器病研究センター, 6国際医療福祉大, 7岡山大, 8慶應義塾大, 9東邦大学医療センター大橋病院): 潜因性脳梗塞に対する経皮的卵円孔開存閉鎖術の手引き. *心臓* 51: 976-994, 2019.
- 海野佳子: パーンアウト(燃え尽き症候群)に対する個人のできる対策. *医学のあゆみ* 269(3): 244-245, 2019.
- 平野照之: 一過性脳虚血発作(TIA). *日本医事新報* 4962: 42, 2019.
- 平野照之: アルテプラゼ静注療法の現状と課題. *日本臨牀* 77(6): 987-992, 2019.
- 平野照之: ESUSの治療トレンド. *神経治療学会ニュースレター* 2019年2号.
- 齋藤幹人<sup>1</sup>, 河野浩之, 天野達雄, 岩本敏彦<sup>2</sup>, 平野照之 (1杏林大医学部付属病院脳卒中科, 2杏林大・医・放射線医学): 3T MRIと脳血管造影検査のfusion画像による分枝粥腫病の確診例. *臨床神経* 59(8): 525-529, 2019. DOI: 10.5692/clinicalneurol.cn-001297.
- 平野照之: 機械的血栓回収療法と血栓溶解療法の治療時間枠はどこまで拡大するのか?. *脳血管病Trend Review* 1(1): 12-16, 2019.
- 河野浩之: 忘れられないあの一例 著明な血圧低下を繰り返した橋延髄移行部梗塞の一例. *脳血管病Trend Review* 1: 41-44, 2019.
- 城野喬史<sup>1</sup>, 河野浩之, 平野照之 (1杏林大医学部付属病院脳卒中科): 目で見える神経超音波診断 calcified amorphous tumorを塞栓源とした多発脳梗塞の1例. *Neurosonology* 32巻2号: 43-45, 2019.
- 平野照之: TIAの定義が新しくなりました. *ブレインナーシング* 36: 118-119, 2020.
- 平野照之: 研究促進の展望について. *JSA News* 60: 10-11, 2020.
- 河野浩之: 院内発症急性期脳卒中を知ろう. 早期発見が大切な理由. *糖尿病ケア* 17: 195, 2020.
- 河野浩之, 橋本洋一郎<sup>1</sup>, 井口保之<sup>2</sup>, 河野浩之, 赤木禎治<sup>3</sup> (1熊本市民病院, 2慈恵医大, 3岡山大): 奇異性脳塞栓症と深部静脈血栓症. *Cardio-Coagulation* 7: 6-13, 2020.

## 著書

- 平野照之(分担執筆): ワルファリンかDOACか? むかしの頭で診ていませんか? 神経診療をスッキリまとめました. 宮島裕明編. 東京, 南江堂, 2019. p.171-178.
- 平野照之(分担執筆): SPECT. 脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで. 正門由久, 高木誠編著. 東京, 医歯薬出版株式会社, 2019. p.89-92.
- 平野照之(分担執筆): 内頸動脈狭窄症の治療(内科治療). *新NS NOWシリーズ No.19 Neurosurgical Controversies*. 黒田敏, 森田明夫, 伊達勲, 菊田健一郎編. 東京, メジカルビュー, 2019. p.98-107.
- 平野照之(監修): 脳卒中の再発を防ぐ本. 東京, 講談社, 2019.

## その他

- 平野照之: 「ゲンキの時間」脳卒中の症状や予防について解説. TBSテレビ, 2019年7月28日.

## 医学教育学教室

### 講演

- 赤木美智男, 高野貴子, 高木晴良, 萩原教文, 犬塚亮, 金子正英, 小野博, 野木森宣嗣: Down症候群に合併する先天性心疾患の性差(第3報). 第122回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019年4月19日.
- 関口進一郎: 医療者教育の基本. 日本小児科学会主催第25回小児科医のための臨床研修指導医講習会, 大阪, 2019年7月5日.
- 関口進一郎: 小児科専門医試験出願指導のポイント. 日本小児科学会主催第25回小児科医のための臨床研修指導医講習会, 大阪, 2019年7月5日.
- 富田泰彦: 薬剤選択. 認知症治療を考える会in北多摩, 清瀬, 2019年7月23日.
- 矢島知治: 人を育むということについて考える. 飯田市立病院教育講演会, 飯田, 2019年7月26日.
- 富田泰彦: 座学とシミュレーショントレーニングを併用したアナフィラキシーショックに関する研修. 第51回日本医学教育学会総会, 京都, 2019年7月30日.
- 関口進一郎: 2020年度の新専門医試験と研修修了判定. 日本小児科学会2019年度第2回プログラム責任者会議, 京都, 2019年9月7日.
- 大西卓磨, 浅田礼光, 寺田朱織, 瀧澤昌平, 三島芳紀, 秋山奈緒, 漢那由紀子, 朝戸信家, 富田瑞枝, 池宮城雅子, 真路展彰, 仲澤麻紀, 栗原伸芳, 古市宗弘, 関口進一郎, 堀尚明, 栗津緑, 佐藤吉壮, 上牧勇: 尿路感染症における紙おむつを用いた尿中白血球検査の診断的有用性の検討. 第177回日本小児科学会埼玉地方会学術集会, 川越, 2019年9月15日.
- 富田泰彦: 座学とシミュレーショントレーニングを併用したアナフィラキシーショックに関する研修. 第7回日本シミュレーション医療教育学会, 東京, 2019年9月28日.
- 富田泰彦: 座学とシミュレーショントレーニングを併用したアナフィラキシーショックに関する研修. 第47回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2019年10月2日.
- 新庄正宜, 菅谷憲夫, 吉田菜穂子, 古市宗弘, 前田直則, 関口進一郎, 山口禎夫, 大西卓磨, 倉持由, 檜林敦, 三田村敬子, 慶應小児インフルエンザ研究グループ: 小児インフルエンザワクチンの効果 2018-2019年シーズン. 第68回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 仙台, 2019年10月18日.

12. 江頭説子：大気汚染公害患者運動と労働運動の諸相．第17回環境・労働問題研究会，東京，2019年10月26日．
13. 新庄正宜，菅谷憲夫，古市宗弘，吉田菜穂子，前田直則，関口進一郎，山口禎夫，大西卓磨，倉持由，檜林敦，三田村敬子，慶應小児インフルエンザ研究グループ：迅速診断を用いた小児インフルエンザワクチンの効果－test-negative case control study－ 2018-2019年シーズン．第51回日本小児感染症学会総会・学術集会，旭川，2019年10月26日．
14. 関口進一郎：小児科専門医試験出願指導のポイント．日本小児科学会主催第26回小児科医のための臨床研修指導医講習会，船橋，2020年1月10日．
15. 矢島知治：学外臨床実習について．日本大学医学部関連病院長会議，東京，2020年1月11日．
16. 矢島知治：医学部が学生に行うべき教育について．福島県立医大令和元年度 第21回 教育研修ワークショップ，福島，2020年1月27日．
5. Nishiya K<sup>1,2</sup>, Sekiguchi S, Yoshimura H<sup>3</sup>, Takamura A<sup>4</sup>, Wada H<sup>5</sup>, Konishi E<sup>6</sup>, Saiki T<sup>1</sup>, Tsunekawa K<sup>1</sup>, Fujisaki K<sup>1</sup>, Suzuki Y<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Gifu University Graduate School of Medicine,<sup>2</sup>Kansai Medical University,<sup>3</sup>Shinkawasaki Futaba Clinic,<sup>4</sup>Kanazawa Medical University,<sup>5</sup>Kenwakai Hospital,<sup>6</sup>Hirakata General Hospital for Developmental Disorders): Good Clinical Teachers in Pediatrics: The Perspective of pediatricians in Japan. *Pediatr Int* 2019. doi: 10.1111/ped.14125. (Epub ahead of print)
6. 関口進一郎：思春期の診療で気をつけたいこと．小児科診療 82(12)：1647-51, 2019.
7. Tomita Y, Yajima T, Akagi M, Kinoshita M: The Current States and issue of Clinical Attending physician leadership training workshop at Kyorin University affiliated Hospital. *Medical Education (Japan)* 50(3): 237-243, 2019.
8. 江頭説子，加藤雅江<sup>1</sup>(杏林大学医学部付属病院患者支援センター)：子育て支援における「子育て」ケア視定の必要性に関する試論－居場所づくりプロジェクト だんだん・ばあの事例から－．杏林大学研究報告 第37巻：1-11, 2020.

## 論文

1. 赤木美智男：【クリニックで診る心疾患】動悸を主訴に来院した場合．小児科 60(4)：335-341, 2019.
2. Takano T<sup>1</sup>, Akagi M, Takaki H<sup>2</sup>, Inuzuka R<sup>3</sup>, Nogimori Y<sup>4</sup>, Ono H<sup>5</sup>, Kaneko M<sup>6</sup>, and Hagiwara N<sup>7</sup>(<sup>1</sup>Tokyo Kasei University, <sup>2</sup>Tokyo Healthcare University, <sup>3</sup>University of Tokyo, <sup>4</sup>Kanagawa Childrens Medical Center, <sup>5</sup>National Center for Child Health and Development, <sup>6</sup>Kanto Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers, <sup>7</sup>Teikyo University): Sex differences in congenital heart disease in Down syndrome: study data from medical records and questionnaires in a region of Japan. *BMJ Paediatr Open* 3(1), 2019.
3. 赤木美智男：小児科臨床教育の実際(第8回) 小児科専門研修における指導医の役割と実際．小児科 60(9), 2019.
4. Shinjoh M<sup>1</sup>, Sugaya N<sup>2</sup>, Furuichi M<sup>1</sup>, Araki E<sup>3</sup>, Maeda N<sup>4</sup>, Isshiki K<sup>5</sup>, Ohnishi T<sup>6</sup>, Nakamura S<sup>7</sup>, Yamada G<sup>8</sup>, Narabayashi A<sup>9</sup>, Nishida M<sup>10</sup>, Taguchi N<sup>2</sup>, Nakata Y<sup>11</sup>, Yoshida M<sup>12</sup>, Tsunematsu K<sup>13</sup>, Shibata M<sup>14</sup>, Munenaga T<sup>15</sup>, Hirano Y<sup>16</sup>, Ookawara I<sup>17</sup>, Sekiguchi S<sup>1</sup>, Kobayashi Y<sup>18</sup>, Yamaguchi Y<sup>19</sup>, Yoshida N<sup>1</sup>, Mitamura K<sup>20</sup>, Takahashi T<sup>1</sup>, on behalf of the Keio Pediatric Influenza Research Group( <sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Keiyu Hospital,<sup>3</sup>Yokohama City Municipal Hospital, <sup>4</sup>National Hospital Organization Tokyo Medical Center, <sup>5</sup>Saitama City Hospital, <sup>6</sup>National Hospital Organization Saitama National Hospital, <sup>7</sup>Tokyo Metropolitan Ohtsuka Hospital, <sup>8</sup>Saiseikai Utsunomiya Hospital, <sup>9</sup>Kawasaki Municipal Hospital, <sup>10</sup>Shizuoka City Shimizu Hospital, <sup>11</sup>Nippon Koukan Hospital, <sup>12</sup>Sano Kousei General Hospital, <sup>13</sup>Hino Municipal Hospital, <sup>14</sup>Yokohama Rosai Hospital, <sup>15</sup>Ota Memorial Hospital, <sup>16</sup>Hiratsuka City Hospital, <sup>17</sup>Japanese Red Cross Shizuoka Hospital, <sup>18</sup>Japanese Red Cross Ashikaga Hospital, <sup>19</sup>National Hospital Organization Tochigi Medical Center, <sup>20</sup>Eiju General Hospital) : Effectiveness of inactivated influenza vaccine in children by vaccine dose, 2013-18. *Vaccine* 37(30)：4047-54, 2019.

## 著書

1. 関口進一郎(分担執筆)：子どもの自殺を防ぐためにできること．産婦人科医，小児科医，精神科医，心療内科医のための親子の心の診療マップ．久留米，学校法人久留米大学，2020．p.68.
2. 矢島知治：消化器医にちょっと役立つ豆知識．消化器外来で役立つ問診のコツ：消化器クリニカルアップデート 1 (1). 2019. p.126-128.
3. 矢島知治(分担執筆)：第113回医師国家試験問題解説．東京，メディックメディア，2019.

## 報告書

1. 関口進一郎：思春期医療を担う人材育成のための教育プログラム開発に関する研究．厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成総合研究事業(健やか次世代育成総合研究事業))親子の心の診療を実施するための人材育成方法と診療ガイドライン・保健指導プログラムの作成に関する研究．2019年度総括・分担研究報告書．
2. 関口進一郎：思春期医療を担う人材育成のための教育プログラム開発に関する研究．厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成総合研究事業(健やか次世代育成総合研究事業))親子の心の診療を実施するための人材育成方法と診療ガイドライン・保健指導プログラムの作成に関する研究．2017～2019年度総合研究報告書．

## その他

1. 赤木美智男：杏林大学医学部付属病院第29回指導医養成ワークショップ，ディレクター，府中，2019年5月24-25日．
2. 富田泰彦：杏林大学医学部付属病院第29回指導医養成ワークショップ．チーフタスクフォース，府中，2019年5月24-25日．
3. 矢島知治：杏林大学医学部付属病院第29回指導医養成ワークショップ．チーフタスクフォース，府中，2019年5月24-25日．
4. 江頭説子：杏林大学医学部付属病院第29回指導医養成ワークショップ．タスクフォース，府中，2019年5月24-25日．

5. 関口進一郎: 公益社団法人日本小児科学会主催「第25回小児科医のための臨床研修指導医講習会」. 世話人, 大阪, 2019年7月5-7日.
6. 富田泰彦: 第152回全国自治体病院協議会指導医養成講習会. チーフタスクフォース神戸, 2019年8月31日-9月1日.
7. 江頭説子: 国際ジェンダー学会主催「国際ジェンダー学会2019大会」. 大会実行委員, 東京, 2019年8月31日-9月1日.
8. 矢島知治: 第356回日本消化器病学会関東支部例会: 第17回専門医セミナー「ドクターガストロ～臨床推論からの消化器病学～」. 主催, 東京, 2019年9月21日.
9. 矢島知治: 第8回Academy of Crohn's & colitis Young Experts. (ACE) 企画および司会, 東京, 2019年10月5日.
10. 赤木美智男: 杏林大学医学部附属病院第30回指導医養成ワークショップ. ディレクター, 府中, 2019年10月18-19日.
11. 富田泰彦: 杏林大学医学部附属病院第30回指導医養成ワークショップ. チーフタスクフォース, 府中, 2019年10月18-19日.
12. 矢島知治: 杏林大学医学部附属病院第30回指導医養成ワークショップ. タスクフォース, 府中, 2019年10月18-19日.
13. 江頭説子: 杏林大学医学部附属病院第30回指導医養成ワークショップ. タスクフォース, 府中, 2019年10月18-19日.
14. 関口進一郎: 杏林大学医学部附属病院第30回指導医養成ワークショップ. タスクフォース, 府中, 2019年10月18-19日.
15. 江頭説子: 公害資料館ネットワーク主催「第7回公害資料館連携フォーラムin倉敷」. 実行委員, 倉敷, 2019年12月13-15日.
16. 関口進一郎: 公益社団法人日本小児科学会主催「第25回小児科医のための臨床研修指導医講習会」. 世話人, 船橋, 2020年1月10-12日.
17. 赤木美智男: 第43回日本病院会臨床研修指導医講習会. タスクフォース, 東京, 2020年2月1-2日.
18. 矢島知治: 第358回日本消化器病学会関東支部例会: 第18回専門医セミナー「ドクターガストロ～臨床推論からの消化器病学～」主催, 東京, 2020年2月22日.
19. 赤木美智男: 第2回公認心理師国家試験 試験委員長.
20. 富田泰彦: 第114回医師国家試験 試験委員.

### 肉眼解剖学教室

#### 講演

1. 長瀬美樹: メカノセンサー分子Piezo1, Piezo2の腎臓における発現解析と、圧負荷による影響. 第62回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2019年6月22日.
2. 長瀬美樹: 腎臓病とメカノバイオロジー. 日本メカノバイオロジー研究会, 直島, 2019年9月3-4日.
3. 長瀬美樹: 高血圧性臓器障害のメカノバイオロジー腎臓のメカノバイオロジー. 第42回日本高血圧学会総会, 東京, 2019年10月25-27日.
4. 五十嵐昂, 長瀬美樹: リポポリサッカライド (LPS) 誘発性急性腎障害モデルにおけるTRPV2の役割. 第42回日本高血圧学会総会, 東京, 2019年10月25-27日.
5. 山田賢治, 宮方基行, 松村譲児, 長瀬美樹: 上肢末梢血管の周囲に分布する末梢神経 ～Sihler染色による解剖体の検討. 第48回杏林医学会総会・事務総会,

三鷹, 2019年11月16日.

6. Nagase M: Elucidation of mechanobiology of renal glomerular podocytes and development of innovative evaluation method of intraglomerular pressure. AMED mechanobiology conference PRIME, 名古屋, 2020年2月6日.
7. 長瀬美樹: 専門医共通講習 医療倫理 解剖学研究における倫理. 第30回日本気管食道科学会認定気管食道科専門医大会, 横浜, 2020年2月15-16日.
8. 伊藤夏美, 白鳥太朗, 松田小太郎, 横山楓, 鈴木菜穂, 灰塚嘉典, 上野仁之, 松村譲児, 長瀬美樹: 回腸の腸間膜側に認められたメッケル憩室破格例. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会, 宇部, 2020年3月25-27日. (誌上開催)
9. 澤田月杜, 灰塚嘉典, 上野仁之, 松村譲児, 長瀬美樹: ヒメダカにおける透明標本の作製と骨格染色の試み. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会, 宇部, 2020年3月25-27日. (誌上開催)
10. 灰塚嘉典, 松村譲児, 長瀬美樹: ピロリドンをを用いた脳および内臓固定. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会, 宇部, 2020年3月25-27日. (誌上開催)
11. 上野仁之, 村上徹, 栗田さち子, 松村譲児, 岩崎広英, 対馬義人, 長瀬美樹: モバイル端末で利用可能な医用画像の自己学習用動画コンテンツ. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会, 宇部, 2020年3月25-27日. (誌上開催)
12. 長瀬美樹, 鈴木菜穂, 上野仁之, 灰塚嘉典, 松村譲児: マウス・ラット腎臓の透明化と糸球体病変の三次元解析. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会, 宇部, 2020年3月25-27日. (誌上開催)
13. 灰塚嘉典: 卒後初期臨床研修必修化とその前後における医療界の情勢. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会, 宇部, 2020年3月25-27日. (誌上開催)

#### 論文

1. Maruyama K<sup>1</sup>, Yokoi H<sup>2</sup>, Nagase M, Yoshida H<sup>1</sup>, Noguchi A<sup>1</sup>, Matsumura G, Saito K<sup>2</sup>, Shiokawa Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine): Usefulness of N-vinyl-2-pyrrolidone Embalming for Endoscopic Transnasal Skull Base Approach in Cadaver Dissection. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 59:379-383, 2019. DOI: 10.2176/nmc.0a.2019-0069
2. Nagase M, Kimoto Y, Sunami E<sup>1</sup>, Matsumura G (<sup>1</sup>Department of Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine): A new human cadaver model for laparoscopic training using N-vinyl-2-pyrrolidone: a feasibility study. *Anat Sci Int* 95:156-164, 2020. DOI: 10.1007/s12565-019-00494-2

#### 著書

1. 松村譲児 (監訳): 知っておきたい! 人体のしくみ 第1版. 東京, 東京書籍, 2019.
2. 松村譲児: 病気がみえるVol.3. 糖尿病・代謝・内分泌 第5版. 医療情報科学研究所編集. 東京, メディックメディア, 2019.
3. 松村譲児: 病気がみえる Vol.8. 腎・泌尿器 第3版. 医療情報科学研究所編集. 東京, メディックメディア, 2019.
4. 松村譲児: 病気とくすり2020 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 解剖と生理/A末梢系疾患 p.2-12, B中枢系疾患 p.19-29./A免疫・炎症・アレ



ルギー疾患 p.202-211, B骨・関節・カルシウム代謝疾患 p.286-293. / A循環器系疾患 p.352-365, B血液・造血器系疾患 p.474-485, C泌尿器系・生殖器系疾患 p.544-558. / A呼吸器系疾患 p.650-657, B消化器系疾患, p.712-720. / A代謝系疾患 p.876-884, B内分泌系疾患 p.952-964. / A眼疾患 p.1036-1041, B耳鼻咽喉疾患 p.1073-1081, C皮膚疾患 p.1124-1130, 東京, 南山堂, 2020.

5. 長瀬美樹: 専門医共通講習 医療倫理「解剖学研究における倫理」. 第30回日本気管食道科学会認定気管食道科専門医大会テキスト. 日本気管食道科学会, 2020.

#### 報告書

1. 長瀬美樹: 腎糸球体ポドサイトのメカノバイオロジーの解明と糸球体内圧評価法の開発. 革新的先端研究開発支援事業 (AMED)メカノバイオロジー機構の解明による革新的医療機器及び医療技術の創出ソロタイプ (PRIME) 2019年度 研究報告書.
2. 松村譲児, 高篠智: 研究代表者 佐藤喜宣: エンバッキングにおける遺体の防腐処置に関する研究-遺体処置の基準, とくに血管の選択について-. エンバッキングのプロトコル策定等研究. 平成30年度 総括・分担研究報告書. p.43-46, 厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業, 2019年3月.
3. 松村譲児, 高篠智: 研究代表者 佐藤喜宣: エンバッキング処置時の感染症および化学物質曝露の対策に関する研究. エンバッキングのプロトコル策定等研究. 平成30年度 総括・分担研究報告書. p.47-51, 厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業, 2019年3月.

#### その他

1. 松村譲児: 運動器を知ろうシリーズ②体の成長や脳の発達につながる“骨の成長”. 小学保健ニュース No.1204付録 2019年7月8日, 東京, 少年写真新聞社, 2019.
2. 松村譲児: 運動器を知ろうシリーズ③全身にある筋肉の働き. 小学保健ニュース No.1208付録 2019年9月8日, 東京, 少年写真新聞社, 2019.
3. 長瀬美樹: 特集「人生と腎臓」序論. 雑誌「腎臓」vol.42, 2020年3月発行.
4. 長瀬美樹: 令和元年度白菊会連合会総会主催, 東京, 2019年12月1日.

#### 研究指導・受賞報告

1. 澤田月杜, 灰塚嘉典, 上野仁之, 松村譲児, 長瀬美樹: 総指伸筋における破格例の報告と支配神経の解析. 第9回杏林医学会学生リサーチ賞受賞, 2020年2月18日.
2. 木本裕介, 松村譲児, 長瀬美樹: ピロリド固定解剖体における腹腔鏡下内視鏡観察-腹腔鏡手術手技修練への応用にむけて. 第9回杏林医学会学生リサーチ賞受賞, 2020年2月18日.

#### 顕微解剖学教室

#### 講演

1. Ogawa Y, Ikemoto M, Akimoto Y, Kawakami H, Yanoshita R: Stability of human salivary extracellular vesicles under gastrointestinal tract conditions. The International Society for Extracellular Vesicles (ISEV2019) Annual Meeting, Kyoto, April 24th-28th, 2019.
2. 津元裕樹, 梅澤啓太郎, 千葉優子, 新井富生, 秋元義弘, 三浦ゆり, 遠藤玉夫: 糖尿病性腎症患者剖検例のホルマリン固定パラフィン包埋切片を用いたプロテオーム解析. 第42回日本基礎老化学会大会, 仙台, 2019年6月6-8日.
3. Miyata H, Okawa S, Ichikawa D, Fukaya H, Kawakami H, Nakamichi K, Sageshima M: Neuropathologic findings in an autopsy case of rhombencephalic-form progressive multifocal leukoencephalopathy with an extremely low copy number of pathogenic JCV DNA in cerebrospinal fluid. 95th Annual Meeting of American Association of Neuropathologists, USA, June 6th-9th, 2019.
4. 秋元義弘: 標的物質の局在を免疫電顕で見る: 基礎と応用. 第44回組織細胞化学講習会, 東京, 2019年8月1-3日.
5. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人: 大腸上皮再生過程におけるフコシル化糖鎖の発現変化. 第38回日本糖質学会年会, 名古屋, 2019年8月19-21日.
6. 小川裕子, 堤周平, 本車田悠希, 陰山采夏, 桑田奈宝子, 池本守, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来細胞外小胞の分画遠心法による性状解析. 第92回日本生化学会大会, 横浜, 2019年9月18-20日.
7. Ikehara S, Akimoto Y, Yamaguchi T, Sakakita H, Hori M, Ikehara Y: Modulation of dispersion stability for serum albumin by through the plasma treatment. 第29回日本MRS年次大会, 横浜, 2019年11月27-29日.
8. Ogawa Y, Ikemoto M, Akimoto Y, Kawakami H, Yanoshita R: Ultrastructural and chemical stability of human salivary extracellular vesicles under gastrointestinal tract conditions. 日本顕微鏡学会第62回シンポジウム, 浦和, 2019年11月29-30日.
9. Akimoto Y: Histochemical analysis of galactose-binding lectin galectin: galectin expression in healing wounded skin treated with low-temperature plasma. China-Japan High-end Forum on Medical and Health Cooperation, China, December 20th-24th, 2019.
10. 秋元義弘, 楊國昌, 三浦ゆり, 津元裕樹, 戸田年総, 福富俊之, 菅原大介, 宮東昭彦, 新井富生, 千葉優子, 要伸也, Hart GW, 遠藤玉夫, 川上速人: 糖尿病性腎症における糖修飾アクチンの免疫組織化学的解析. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会, 宇部, 2020年3月25-27日. (誌上開催)
11. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人: 大腸上皮修復に伴うフコシル化糖鎖の発現変化と幹細胞制御への関与. 日本薬学会第140年会, 京都, 2020年3月25-28日. (web公開・誌上開催)
12. 小川裕子, 太田櫻, 池本守, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来細胞外小胞の腸内条件における安定性. 日本薬学会第140年会, 京都, 2020年3月25-28日. (web公開・誌上開催)
13. 三浦ゆり, 早川敦子, 津元裕樹, 梅澤啓太郎, 川上恭司郎, 福井浩二, 秋元義弘, 遠藤玉夫: 糖尿病モデル Goto-Kakizakiラットにおける腎組織線維化のメカニズム. 日本薬学会第140年会, 京都, 2020年3月25-28日. (web公開・誌上開催)

## 論文

1. Akimoto Y, Yan K<sup>1</sup>, Miura Y<sup>2</sup>, Tsumoto H<sup>2</sup>, Toda T<sup>2</sup>, Fukutomi T<sup>3</sup>, Sugahara D, Kudo A, Arai T<sup>4</sup>, Chiba Y<sup>4</sup>, Kaname S<sup>5</sup>, Hart GW<sup>6</sup>, Endo T<sup>2</sup>, Kawakami H (1Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 2Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, 4Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, 5Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, 6University of Georgia): *O*-GlcNAcylation and phosphorylation of  $\beta$ -actin Ser<sup>199</sup> in diabetic nephropathy. *Am J Physiol Renal Physiol* 317: F1359-F1374, 2019.
2. Miura Y<sup>1</sup>, Hayakawa A<sup>1, 2</sup>, Kikuchi S<sup>1, 3</sup>, Tsumoto H<sup>1</sup>, Umezawa K<sup>1</sup>, Chiba Y<sup>4</sup>, Soejima Y<sup>3</sup>, Sawabe M<sup>3</sup>, Fukui K<sup>2</sup>, Akimoto Y, Endo T<sup>1</sup> (1Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2Shibaura Institute of Technology, 3Tokyo Medical and Dental University, 4Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital): Fumarate accumulation involved in renal diabetic fibrosis in Goto-Kakizaki rats. *Arch Biochem Biophys* 678: 108167, 2019.
3. Yamaguchi T<sup>1, 2</sup>, Ikehara S<sup>1, 2</sup>, Akimoto Y, Nakanishi H<sup>3</sup>, Kume M<sup>4</sup>, Yamamoto K<sup>4</sup>, Ohara O<sup>5</sup>, Ikehara Y<sup>1, 2</sup> (1Chiba University, 2National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, 3Aichi Cancer Center Aichi Hospital, 4The University of Tokyo, 5Kazusa DNA Research Institute): TGF- $\beta$  signaling promotes tube-structure-forming growth in pancreatic duct adenocarcinoma. *Sci Rep* 9: 11247, 2019.
4. Sakamoto K<sup>1</sup>, Furuichi Y<sup>2</sup>, Yamamoto M<sup>1</sup>, Takahashi M<sup>2</sup>, Akimoto Y, Ishikawa T<sup>1, 3</sup>, Shimizu T<sup>1, 4</sup>, Fujimoto M<sup>1</sup>, Takada-Watanabe A<sup>1</sup>, Hayashi A<sup>1</sup>, Mita Y<sup>2</sup>, Manabe Y<sup>2</sup>, Fujii NL<sup>2</sup>, Ishibashi R<sup>1</sup>, Maezawa Y<sup>1, 3</sup>, Betsholtz C<sup>5, 6</sup>, Yokote K<sup>1, 3</sup>, Takemoto M<sup>1, 7</sup> (1Chiba University, 2Tokyo Metropolitan University, 3Chiba University Hospital, 4National Center for Geriatrics and Gerontology, 5Uppsala Universitet, 6Karolinska Institutet, 7International University of Health and Welfare): R3hdml regulates satellite cell proliferation and differentiation. *EMBO Rep* 20: e47957, 2019.
5. Takeda K<sup>1</sup>, Yamada H<sup>3,4</sup>, Ishikawa K<sup>2</sup>, Sakakita H<sup>4</sup>, Kim J<sup>4</sup>, Ueda M<sup>5</sup>, Ikeda J<sup>6</sup>, Akimoto Y, Kataoka Y<sup>7</sup>, Yokoyama N<sup>8</sup>, Ikehara Y<sup>4, 9</sup>, Hori M<sup>2</sup> (1Meijo University, 2Nagoya University, 3The University of Tsukuba, 4National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, 5Okayama University, 6Osaka University, 7RIKEN Center for Biosystems Dynamics Research, 8Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, 9Chiba University): Systematic diagnostics of the electrical, optical, and physicochemical characteristics of low-temperature atmospheric-pressure helium plasma sources. *J Phys D: Appl Phys* 52: 165202, 2019.
6. Kiuchi Z<sup>\*1</sup>, Nishibori Y<sup>\*1</sup>, Kutsuna S<sup>1</sup>, Kotani M<sup>1</sup>, Hada I<sup>1</sup>, Kimura T<sup>2</sup>, Fukutomi T<sup>2</sup>, Fukuhara D<sup>1</sup>, Ito-Nitta N<sup>1</sup>, Kudo A, Takata T<sup>3</sup>, Ishigaki Y<sup>3</sup>, Tomosugi N<sup>3</sup>, Tanaka H<sup>4</sup>, Matsushima S<sup>5</sup>, Ogasawara S<sup>6</sup>, Hirayama Y<sup>6</sup>, Takematsu H<sup>7, 8</sup>, Yan K<sup>1</sup> (\*equal contribution) (1Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Toxicology and Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, 3Kanazawa Medical University, 4University of Tokyo, 5Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 6Denka Seiken Company, Limited, 7Kyoto University, 8Fujita Health University): GLCCI1 is a novel protector against glucocorticoid-induced apoptosis in T-cell. *FASEB J* 33: 7387-7402, 2019.
7. Shiojiri N<sup>1</sup>, Tanaka S<sup>2</sup>, Kawakami H (1Shizuoka University, 2Tokai University): The Hepatic architecture of the coelacanth differs from that of the lungfish in portal triad formation. *Okajimas Folia Anat Jpn* 96: 1-11, 2019.
8. Isoda K<sup>1</sup>, Kobayashi N<sup>1</sup>, Taira Y<sup>1</sup>, Taira I<sup>1</sup>, Shimizu Y<sup>1</sup>, Akimoto Y, Kawakami H, Ishida I<sup>1</sup> (1Teikyo Heisei University): Acute hepatotoxicity and drug/chemical interaction toxicity of 10-nm silver nanoparticles in mice. *Fundam Toxicol Sci* 6: 37-44, 2019.
9. Fujihira H<sup>1,2</sup>, Masahara-Negishi Y<sup>1</sup>, Akimoto Y, Hirayama H<sup>1,3</sup>, Lee H-C<sup>2</sup>, Story BA<sup>4</sup>, Mueller WF<sup>4</sup>, Jakob P<sup>4</sup>, Clauder-Münster S<sup>4</sup>, Steinmetz LM<sup>4,5</sup>, Radhakrishnan SK<sup>6</sup>, Kawakami H, Kamada Y<sup>7</sup>, Miyoshi E<sup>7</sup>, Yokomizo T<sup>2</sup>, Suzuki T<sup>1,3</sup> (1RIKEN, 2Juntendo University, 3Suzuki Project, T-CiRA Joint Program, 4European Molecular Biology Laboratory, 5Stanford University, 6Virginia Commonwealth University, 7Osaka University): Liver-specific deletion of *Ngly1* causes abnormal nuclear morphology and lipid metabolism under food stress. *Biochim Biophys Acta - Mol Basis Dis* 1866: 165588, 2020.
10. Ando Y<sup>1</sup>, Keino H<sup>1</sup>, Kudo A, Hirakata A<sup>1</sup>, Okada AA<sup>1</sup>, Umezawa K<sup>2</sup> (1Department of Ophthalmology, Kyorin University School of Medicine, 2Aichi Medical University): Anti-inflammatory effect of dehydroxymethylepoxyquinomicin, a nuclear factor- $\kappa$ B inhibitor, on endotoxin-induced uveitis in rats in vivo and in vitro. *Ocul Immunol Inflamm* 28: 240-248, 2020.
11. Hayakawa R<sup>1,3</sup>, Komoike K<sup>1</sup>, Kawakami H, Morishima M<sup>1</sup>, Shimizu K<sup>2</sup>, Kitahara S<sup>1</sup>, Fujieda H<sup>1</sup>, Ezaki T<sup>1</sup> (1Tokyo Woman's Medical University, 2Toho University, 3Department of Ophthalmology, Kyorin University School of Medicine): Ultrastructural changes in the choriocapillaris of *N*-methyl-*N*-nitrosourea-induced retinal degeneration in C57BL/6 mice. *Med Mol Morphol* 53: 198-209, 2020, Jan 30 (Published online). DOI: 10.1007/s00795-020-00246-6

## 著書

1. Ohtsubo K, Kizuka Y, Taniguchi N, Takahashi M, Yanagisawa K, Kitazume S, Furukawa K, Ohmi Y, Furukawa K, Akimoto Y: Chapter 16 Life-style related disease and aging. In: *Glycoscience: Basic Science to Applications: Insights from the Japan Consortium for Glycobiology and Glycotechnology (JCGG) 1st ed.* Taniguchi N, Endo T, Hirabayashi J, Nishihara S, Kadomatsu K, Akiyoshi K, Aoki-Kinoshita K, eds. Singapore, Springer, 2019. p.269-288.
2. 秋元義弘: 標的物質の局在を免疫電顕で見る: 基礎と応用. *組織細胞化学* 2019. 日本組織細胞化学会編, 学際企画, 東京, 2019. p.163-175.

- 川上速人(翻訳): 消化器系 I : 口腔とその関連構造. Ross組織学(原書第7版). 内山安男, 相磯貞和監訳, 南江堂, 東京, 2019.

#### その他

- 秋元義弘:(コラボたまごセミナー)電子顕微鏡で組織・細胞を読み解く. 杏林大学三鷹キャンパス, 2019年5月30日.
- 秋元義弘: 日本顕微鏡学会第62回シンポジウム(合同開催 第44回関東支部講演会)主催, 浦和, 2019年11月29-30日.
- 医学部顕微解剖学教室, 共同研究施設 電子顕微鏡部門: 日本顕微鏡学会第62回シンポジウム(実行委員長 秋元義弘医学部教授)開催報告. 杏林大学ホームページ, 2019年12月7日掲載. URL <https://www.kyorin-u.ac.jp/cn/html/kyorin/00003/201912071/>
- 医学部顕微解剖学教室, 共同研究施設 電子顕微鏡部門: 秋元教授実行委員長に. 日本顕微鏡学会第62回シンポジウムを開催. 学園会報あんず 1月号No. 445: p.14-15, 2020.

#### 統合生理学教室

#### 講演

- 大木紫, 中島剛, 渋谷賢: 脊髄可塑性の誘導と臨床への応用. 第60回日本神経学会学術大会シンポジウム「神経疾患に対する非侵襲脳刺激療法の最先端」, 大阪, 2019年5月22日.
- Nakajima T, Ohtsuka H, Irie S, Ariyasu R, Komiyama T, Ohki Y: Visual stimulation-induced facilitation of indirect cortico-motoneuronal excitation in human. 第42回日本神経科学学会, 新潟, 2019年7月25-28日.
- Irie S, Nakajima T, Suzuki S, Ariyasu R, Komiyama T, Ohki Y: Imagination of movement enhances the indirect cortico-motoneuronal excitation mediated via cervical interneurons in human. 第42回日本神経科学学会, 新潟, 2019年7月25-28日.
- 渋谷賢, 畝中智志, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 大木紫: 身体化した偽の手の運動観察に伴う脳活動の変化: 遅延視覚フィードバックの影響. 日本認知科学学会第36回大会, 浜松, 2019年9月5-7日.
- 渋谷寛美, 江藤千里, 鈴木真由美, 山下明美, 横田素美, 渋谷賢: 看護技術の修得を促進するバーチャル・リアリティ教材の開発. 第7回日本シミュレーション医療教育学会学術大会, 東京, 2019年9月21日.
- Irie S, Nakajima T, Suzuki S, Ariyasu R, Komiyama T, Ohki Y: Motor imagery increments the cortico-motoneuronal excitation mediated via presumed cervical interneurons in humans. Neuroscience 2019, USA, 2019年10月19-23日.
- 渋谷賢: ラバーハンド錯覚が身体的注意に及ぼす影響—触覚時間順序判断による検討—. 日本スポーツ心理学会第46回大会, つくば, 2019年11月15-17日.
- 八木淳一: 電気生理学から読み解く「痛みと鎮痛」. 第220回バイオを論じる会, 所沢, 2020年1月30日.
- Suzuki S, Nakajima T, Irie S, Ariyasu R, Ohtsuka H, Komiyama T, Ohki Y: Modulation of indirect corticospinal excitation prior to visually-guided online adjustment of target reaching movement. 第97回日本生理学会大会, 別府, 2020年3月17-19日. (紙上開催)

#### 論文

- Qi W<sup>1</sup>, Nakajima T, Sakamoto M<sup>2</sup>, Kato K<sup>1</sup>, Kawakami Y<sup>1</sup>, Kanosue K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Waseda University, <sup>2</sup>Kumamoto University): Walking and finger tapping can be done with independent rhythms. Sci Rep. 209(1): 7620, 2019.
- Shibuya S, Unenaka S<sup>1</sup>, Zama T<sup>2</sup>, Shimada S<sup>2</sup>, Ohki Y (<sup>1</sup>Dept Sports Edu, Sch Lifelong Sport, Hokusho Univ, <sup>2</sup>Dept Elect Bioinf, Sch Sci and Tech, Meiji Univ): Sensorimotor and posterior brain activations during the observation of illusory embodied fake hand movement. Front Hum Neurosci 13:367, 2019. DOI: 10.3389/fnhum.2019.00367

#### 著書

- 八木淳一: 脊髄後根神経節ニューロンの種類と機能. Clinical Neuroscience「脊柱と脊髄」. 青木滋編. 東京, 中外医薬社, 2019. p.646-649.
- 大木紫(分担執筆): 6章 社会脳から見た自己と身体意識—新学術領域研究「身体性システム」の成果から. 学術会議叢書26「社会脳から心を探る 自己と他者をつなぐ社会適応の脳内メカニズム」. 東京, 公益財団法人日本学術協力財団, 2020. p.147-166.

#### 病態生理学教室

#### 講演

- 渥美剛史: 敏感な感覚にも心地よい環境って? 動物から学ぶ多様な感覚—違いを創る住環境とミクロの世界. 発達障害シンポジウム2019, 所沢, 2019年4月20日.
- Atsumi T, Umesawa Y, Chakrabarty M, Fukatsu R, Ide M: An Association between Sensory Responsiveness and Cortical GABA Concentration in Autism-Spectrum Disorder. International Society for Autism Research (INSAR) 2019 Annual Meeting, Canada, May 1-4, 2019.
- Umesawa Y, Matsushima K, Atsumi T, Kato T, Fukatsu R, Wada M, Ide M: Abnormal GABA Concentration in Brain Motor Areas Are Related with Gross Motor Impairments in Individuals with Autism Spectrum Disorder. International Society for Autism Research (INSAR) 2019 Annual Meeting, Canada, May 1-4, 2019.
- Inomata-Terada S, Tokushige S, Matsuda S, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Terao Y: Eye-hand coordination in visually and memory guided reaching tasks in hereditary spinocerebellar degeneration. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22-25日.
- Tokushige S, Matsuda S, Inomata-Terada S, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Terao Y: Premature saccades of normal subjects and patients with neurological diseases. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22-25日.
- Terao Y, Tokushige S-I, Inomata-Terada S, Miyazaki T, Ichikawa Y, Chiba C, Sakurai Y, Suzuki M, Tsuji S, Ugawa Y: Eye-voice coordination in neurological patients presenting with reading difficulty. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019年5月22-25日.
- 寺尾安生: 眼球運動からParkinson病を眼の動きからみる. 米子PDカンファレンス, 米子, 2019年6月1日.

8. 寺尾安生: 皮質下性ミオクローヌス 最近の話題. 第13回運動障害疾患病態研究会 スポンサーードセミナー, 東京, 2019年7月25日.
9. 寺尾安生, 徳重真一, 寺田さとみ, 弓削田晃弘, 宇川義一: 衝動性眼球運動を用いた神経変性疾患における大脳基底核、小脳の機能異常の検出. NEURO 2019, 新潟, 2019年7月25-28日.
10. 寺田(猪俣)さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: 脊髄小脳変性症における眼と手の協同運動・眼球位置の正確性との関連 Eye-Hand coordination in hereditary spinocerebellar degeneration-correlation with accuracy of eye position. NEURO 2019, 新潟, 2019年7月25-28日.
11. 渥美剛史, Chakrabarty Mrinmoy, 宮地重弘, 寺尾安生, 井出正和: マウスの時間順序判断における GABA-A受容体拮抗薬の効果. NEURO 2019, 新潟, 2019年7月25-28日.
12. 三嶋竜弥, 小藤剛史, 齋藤綾子, 寺尾安生, 赤川公朗: シンタキシン1Bの熱性けいれんへの関与: シンタキシン1B遺伝子欠損マウスの神経機能解析. NEURO 2019, 新潟, 2019年7月25-28日.
13. 須賀圭, 山本幸子, 寺尾安生, 赤川公朗, 丑丸真: ゴルジストレスは神経細胞においてBAPPプロセッシングに影響しCasepase3依存性アポトーシスを誘導する. NEURO 2019, 新潟, 2019年7月25-28日.
14. 梅沢侑実, 松島佳苗, 渥美剛史, ムリンモイ・チャクラパティ, 深津玲子, 井手正和: 自閉スペクトラム症者の到達運動における外部物体中心座標利用の低下. NEURO 2019, 新潟, 2019年7月25-28日.
15. 井手正和, 渥美剛史, 深津玲子, ムリンモイ・チャクラパティ: 情動的手がかりが自閉スペクトラム症者の視覚時間分解能に与える効果. NEURO 2019, 新潟, 2019年7月25-28日.
16. 梅沢侑実, 松島佳苗, 渥美剛史, 深津玲子, 井手正和: 自閉スペクトラム症者にみられる四肢分離動作の困難の基盤となる補足運動野のGABA濃度低下. 第13回Motor Control研究会, 東京, 2019年8月23-24日.
17. 寺尾安生: 衝動性眼球運動における基底核と小脳の役割の違い. 第34回日本大脳基底核研究会, 米子, 2019年8月24-25日.
18. 沼田純希, 寺尾安生, 尾張望美, 柿崎千穂, 菅原憲一, 宇川義一, 古林俊晃: 両側下肢の運動の違いに着目した同期Tapping課題の検討. 第34回日本大脳基底核研究会, 米子, 2019年8月24-25日.
19. 徳重真一, 松田俊一, 大山彦光, 下泰司, 梅村淳, 佐々木拓也, 寺田さとみ, 弓削田晃弘, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 服部信孝, 寺尾安生: 脳深部刺激療法が眼球運動に及ぼす影響. 第34回日本大脳基底核研究会, 米子, 2019年8月24-25日.
20. 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 弓削田晃弘, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: パーキンソン病における眼球運動の二次元的解析. 第34回日本大脳基底核研究会, 米子, 2019年8月24-25日.
21. 代田悠一郎, 大南伸也, 堤涼介, 寺尾安生, 宇川義一, 辻省次, 花島律子: パーキンソン病の一次運動野における興奮性上昇: 経頭蓋磁気刺激による検討. 第34回日本大脳基底核研究会, 米子, 2019年8月24-25日.
22. Yugeta A, Terao Y, Ugawa Y: Effects of levodopa on prosaccade performance and visual target eccentricity. International Congress of Parkinson's disease and movement disorders, France, September 22-26, 2019.
23. Sugiyama Y, Fukuda H, Terao Y, Tokushige S, Hoshino K, Hamada H, Ugawa Y, Toda T: Saccade profiles in Tourette syndrome. International Congress of Parkinson's disease and movement disorders, France, September 22-26, 2019.
24. 梅沢侑実, 松島佳苗, 渥美剛史, 加藤寿宏, 井手正和: 自閉スペクトラム症者の補足運動野のGABA濃度低下が四肢の協調運動に及ぼす影響. 第37回日本感覚統合学会研究大会, 姫路, 2019年10月26-27日.
25. 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: 遺伝性脊髄小脳変性症でのリーチング課題施行時の眼と指の運動協調. 第49回臨床神経生理学会学術大会学術大会, 福島, 2019年11月28-30日.
26. 沼田純希, 寺尾安生, 尾張望美, 柿崎千穂, 菅原憲一, 宇川義一, 古林俊晃: 下肢の同期タッピング課題における運動位相の違いが提示音消失後のリズム保持能力に与える影響. 第49回臨床神経生理学会学術大会学術大会, 福島, 2019年11月28-30日.
27. 徳重真一, 松田俊一, 他田正義, 矢部一郎, 武田篤, 田中洋康, 島中めぐみ, 榎本博之, 小林俊輔, 清水和敬, 清水崇宏, 花島律子, 辻省次, 宇川義一, 寺尾安生: 脊髄小脳変性症の病型ごとの時間的統合の限界. 第49回臨床神経生理学会学術大会学術大会, 福島, 2019年11月28-30日.
28. 徳重真一, 松田俊一, 寺田さとみ, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: 健常者および神経疾患の患者におけるpremature saccade. 第49回臨床神経生理学会学術大会学術大会, 福島, 2019年11月28-30日.
29. 沼田純希, 寺尾安生, 尾張望美, 柿崎千穂, 菅原憲一, 宇川義一, 古林俊晃: 下肢の同期タッピング課題における運動位相と感覚フィードバックの違いがリズム制御へ与える影響. 第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 新潟, 2019年11月30日-12月1日.
30. 寺田さとみ, 宇川義一, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 寺尾安生: 脊髄小脳変性症など神経変性疾患での眼と手の協調関係. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業 運動失調症の医療基盤に関する調査研究班 班会議, 東京, 2020年1月10日.
31. 寺尾安生: 神経疾患における時間情報処理の異常、磁気刺激・深部電極治療が時間情報処理に及ぼす影響の検討. 新学術領域「時間生成学 -時を生み出すところの仕組み」第2回領域会議, 大阪, 2020年2月1日.
32. 梅沢侑実, 松島佳苗, 渥美剛史, 加藤寿宏, 深津玲子, 和田真, 井手正和: 自閉スペクトラム症者にみられる運動のぎこちなさと皮質内抑制機能の変化. 第31回東北神経心理懇話会, 仙台, 2020年2月8日.

## 論文

1. Terao Y, Tokushige S<sup>1</sup>, Inomata-Terada S, Fukuda H<sup>2</sup>, Yugeta A<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>3</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Neurological Clinic for Children, <sup>3</sup>Fukushima Medical University): Differentiating early Parkinson's disease and multiple system atrophy with parkinsonism by saccade velocity profiles. Clin Neurophysiol 130(12): 2203-2215, 2019. DOI: 10.1016/j.clinph.2019.09.004
2. Shimizu T<sup>1,2</sup>, Hanajima R<sup>1,2</sup>, Shirota Y<sup>2</sup>, Tsutsumi R<sup>2</sup>, Tanaka N<sup>2</sup>, Terao Y, Hamada M<sup>2</sup>, Ugawa Y<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Tottori University, <sup>2</sup>The University of Tokyo, <sup>3</sup>Fukushima Medical University): Plasticity induction in the pre-supplementary motor area (pre-SMA) and SMA-proper differentially affects visuomotor sequence learning. Brain Stimul 13(1): 229-238, 2019. DOI: 10.1016/j.brs.2019.08.001

3. Tanaka N<sup>1</sup>, Tsutsumi R<sup>1</sup>, Shiota Y<sup>1</sup>, Shimizu T<sup>1</sup>, Ohminami S<sup>1</sup>, Terao Y, Ugawa Y<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1</sup>, Hanajima R<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo Hospital): Effects of L-DOPA on quadripuse magnetic stimulation-induced long-term potentiation in older adults. *Neurobiol Aging* 84: 217-224, 2019. DOI: 10.1016/j.neurobiolaging.2019.08.005.
4. Hikosaka O<sup>1</sup>, Yasuda M<sup>2</sup>, Nakamura K<sup>2</sup>, Isoda M<sup>3</sup>, Kim HF<sup>4</sup>, Terao Y, Amita H<sup>1</sup>, Maeda K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Eye Institute, <sup>2</sup>Kansai Medical University, <sup>3</sup>National Institutes of Natural Science, <sup>4</sup>Seoul National University): Multiple neuronal circuits for variable object-action choices based on short- and long-term memories. *PNAS* 116(52): 26313-26320, 2019. DOI: 10.1073/pnas.1902283116.
5. Shiota Y<sup>1</sup>, Ohminami S<sup>1</sup>, Tsutsumi R<sup>1</sup>, Terao Y, Ugawa Y<sup>2</sup>, Tsuji S<sup>1,3</sup>, Hanajima R<sup>1,4</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Fukushima Medical University, <sup>3</sup>International University of Health and Welfare, <sup>4</sup>Tottori University): Increased facilitation of the primary motor cortex in de novo Parkinson's disease. *Parkinsonism Relat Disord* 66: 125-129, 2019. DOI: 10.1016/j.parkreldis.2019.07.022.
6. Ishiura H<sup>1</sup>, Shibata S<sup>1</sup>, Yoshimura J<sup>2</sup>, Suzuki Y<sup>2</sup>, Qu W<sup>2</sup>, Doi K<sup>2,3</sup>, Almansour MA<sup>1</sup>, Kikuchi JK<sup>1</sup>, Taira M<sup>1,4</sup>, Mitsui J<sup>1,2</sup>, Takahashi Y<sup>1,5</sup>, Ichikawa Y<sup>1,6</sup>, Mano T<sup>1</sup>, Iwata A<sup>1</sup>, Harigaya Y<sup>7</sup>, Matsukawa MK<sup>1</sup>, Matsukawa T<sup>1,2</sup>, Tanaka M<sup>1,8</sup>, Shiota Y<sup>1</sup>, Ohtomo R<sup>1</sup>, Kowa H<sup>1,9</sup>, Date H<sup>1,5</sup>, Mitsue A<sup>1</sup>, Hatsuta H<sup>10,11</sup>, Morimoto S<sup>10</sup>, Murayama S<sup>10</sup>, Shiho Y<sup>12</sup>, Saito Y<sup>5</sup>, Mitsutake A<sup>1</sup>, Kawai M<sup>1</sup>, Sasaki T<sup>1</sup>, Sugiyama Y<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Ohtomo G<sup>1</sup>, Terao Y, Nakazato Y<sup>13</sup>, Takeda A<sup>11</sup>, Sakiyama Y<sup>14</sup>, Umeda-Kameyama Y<sup>2</sup>, Shinmi J<sup>1</sup>, Ogata K<sup>15</sup>, Kohno Y<sup>16</sup>, Lim SY<sup>17</sup>, Tan AH<sup>17</sup>, Shimizu J<sup>1</sup>, Goto J<sup>1,18</sup>, Nishino I<sup>5</sup>, Toda T<sup>1</sup>, Morishita S<sup>2</sup>, Tsuji S<sup>1,2,8</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo Hospital, <sup>2</sup>The University of Tokyo, <sup>3</sup>Tokyo University of Technology, <sup>4</sup>Tohoku University, <sup>5</sup>National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>6</sup>Department of Neurology, Kyorin University, <sup>7</sup>Maebashi Red Cross Hospital, <sup>8</sup>International University of Health and Welfare, <sup>9</sup>Kobe University Graduate School of Health Sciences, <sup>10</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology, <sup>11</sup>Osaka City University Graduate School of Medicine, <sup>12</sup>Tokyo Teishin Hospital, <sup>13</sup>Saitama Medical University, <sup>14</sup>Jichi Medical University, <sup>15</sup>National Hospital Organization Higashisaitama Hospital, <sup>16</sup>Ibaraki Prefectural University of Health Sciences, <sup>17</sup>University of Malaya, <sup>18</sup>International University of Health and Welfare Mita Hospital) : Noncoding CGG repeat expansions in neuronal intranuclear inclusion disease, oculopharyngodistal myopathy and an overlapping disease. *Nat Genet* 51(8): 1222-1232, 2019. DOI: 10.1038/s41588-019-0458-z.
7. Wada M<sup>1,2</sup>, Ide M<sup>1</sup>, Atsumi T, Sano Y<sup>3</sup>, Shinoda Y<sup>3,4</sup>, Furuichi T<sup>3</sup>, Kansaku K<sup>1,5,6</sup> (<sup>1</sup>Research Institute of National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities, <sup>2</sup>Shizuoka University, <sup>3</sup>Tokyo University of Science, <sup>4</sup>Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences <sup>5</sup>Dokkyo Medical University School of Medicine, <sup>6</sup>University of Electro-Communications): Rubber tail illusion is weakened in Ca<sup>2+</sup>-dependent activator protein for secretion 2 (*Caps2*)-knockout mice. *Sci Rep* 9(1): 7552, 2019. DOI: 10.1038/s41598-019-43996-9
8. Honma M, Itoi C<sup>1</sup>, Midorikawa A<sup>1</sup>, Terao Y, Masaoka Y<sup>2</sup>, Kuroda T<sup>2</sup>, Futamura A<sup>2</sup>, Shiromaru A<sup>2</sup>, Ohta H<sup>3</sup>, Kato N<sup>3</sup>, Kawamura M<sup>2</sup>, Ono K<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Chuo University, <sup>2</sup>Showa University School of Medicine, <sup>3</sup>Showa University): Contraction of distance and duration production in autism spectrum disorder. *Sci Rep* 9(1): 8806, 2019. DOI: 10.1038/s41598-019-45250-8.
9. Matsukawa T<sup>1</sup>, Yamamoto T<sup>1</sup>, Honda A<sup>1</sup>, Toya T<sup>1</sup>, Ishiura H<sup>1</sup>, Mitsui J<sup>1</sup>, Tanaka M<sup>1</sup>, Hao A<sup>1</sup>, Shinohara A<sup>1</sup>, Ogura M<sup>1</sup>, Kataoka K<sup>1</sup>, Seo S<sup>1</sup>, Kumano K<sup>1</sup>, Hosoi M<sup>1</sup>, Narukawa K<sup>1</sup>, Yasunaga M<sup>1</sup>, Maki H<sup>1</sup>, Ichikawa M<sup>1</sup>, Nannya Y<sup>1</sup>, Imai Y<sup>1</sup>, Takahashi T<sup>1</sup>, Takahashi Y<sup>1</sup>, Nagasako Y<sup>1</sup>, Yasaka K<sup>1</sup>, Koshi Mano K<sup>1</sup>, Kawabe Matsukawa M<sup>1</sup>, Miyagawa T<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Sakuishi K<sup>1</sup>, Hayashi T<sup>1</sup>, Iwata A<sup>1</sup>, Terao Y, Shimizu J<sup>1</sup>, Goto J<sup>1,2</sup>, Mori H<sup>1</sup>, Kunimatsu A<sup>1</sup>, Aoki S<sup>1</sup>, Hayashi S<sup>3</sup>, Nakamura F<sup>1</sup>, Arai S<sup>1</sup>, Momma K<sup>4</sup>, Ogata K<sup>4</sup>, Yoshida T<sup>5</sup>, Abe O<sup>1</sup>, Inazawa J<sup>3</sup>, Toda T<sup>1</sup>, Kurokawa M<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1,6</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>International University of Health and Welfare Mita Hospital, <sup>3</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>4</sup>National Hospital Organization Higashisaitama National Hospital, <sup>5</sup>Fujimi Kogen Hospital, <sup>6</sup>International University of Health and Welfare) : Clinical efficacy of haematopoietic stem cell transplantation for adult adrenoleukodystrophy. *Brain Communications* 2(1): fcz048, 2020. DOI: 10.1093/braincomms/fcz048
10. Kodama S<sup>1</sup>, Tokushige SI<sup>1,2</sup>, Sugiyama Y<sup>1</sup>, Sato K<sup>1</sup>, Otsuka J<sup>1</sup>, Shiota Y<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Iwata A<sup>1</sup>, Toda T<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1</sup>, Terao Y (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Department of Neurology, Kyorin University School of Medicine): Rituximab improves not only back stiffness but also "stiff eyes" in stiff person syndrome: Implications for immune-mediated treatment. *J Neurol Sci* 408: 116506, 2020. DOI: 10.1016/j.jns.2019.116506.
11. Kurihara M<sup>1</sup>, Sasaki T<sup>1</sup>, Sakuishi K<sup>1</sup>, Terao Y, Murakawa T<sup>1</sup>, Shinozaki-Ushiku A<sup>1</sup>, Okada S<sup>2</sup>, Toda T<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Tokyo Dental College Ichikawa General Hospital): Isolated seizure as initial presentation of GABAA receptor antibody-associated encephalitis. *J Neurol Sci* 410: 116666, 2020. DOI: 10.1016/j.jns.2020.116666.
12. Yaguchi A<sup>1</sup>, Atsumi T, Ide M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Research Institute of National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities): Tactile Temporal Resolution. *Encyclopedia of Autism Spectrum Disorders* Springer, 2020. DOI: 10.1007/978-1-4614-6435-8
13. Umesawa Y<sup>1</sup>, Matsushima K<sup>2,3</sup>, Atsumi T, Kato T<sup>2</sup>, Fukatsu R<sup>1</sup>, Wada M<sup>1</sup>, Ide M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Research Institute of National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities, <sup>2</sup>Kyoto University, <sup>3</sup>Kansai Medical University): Altered GABA concentration in brain motor area is associated with the severity of motor disabilities in individuals with autism spectrum disorder. *J Autism Dev Disord*, 2020. DOI: 10.1007/s10803-020-04382-x

## 著書

1. 寺尾安生: tFUS (Trascranial focused ultrasound stimulation). *Clinical Neuroscience* 38巻1号. 東京, 中外医学社, 2020. pp39-41.
2. 寺尾安生 (翻訳): 第8章消化器系の生理. コスタンゾ明解生理学. 林俊宏, 高橋倫子監訳. エルゼビアジャパン. 2019.
3. 寺尾安生: バイオマーカーとしての視線解析法. *神経内科* 92巻2号. 東京, 科学評論社, 2020. pp188-197.
4. 寺尾安生 (電子メディア): 生理的振戦. 「今日の疾患辞典」. 東京, プレシジョン社, 2020.
5. 寺尾安生 (電子メディア): 外傷後振戦. 「今日の疾患辞典」. 東京, プレシジョン社, 2020.
6. 寺尾安生 (電子メディア): 声帯振戦. 「今日の疾患辞典」. 東京, プレシジョン社, 2020.
7. 寺尾安生 (電子メディア): 中脳振戦. 「今日の疾患辞典」. 東京, プレシジョン社, 2020.
8. 寺尾安生 (電子メディア): 本態性振戦. 「今日の疾患辞典」. 東京, プレシジョン社, 2020.
9. 寺尾安生 (電子メディア): 外傷後振戦. 「今日の疾患辞典」. 東京, プレシジョン社, 2020.
10. 寺尾安生 (電子メディア): 手のふるえ. 「今日の疾患辞典」. 東京, プレシジョン社, 2020.
11. 寺尾安生: 本態性振戦. 「今日の患者説明資料」. 東京, プレシジョン社, 2020.

## 報告書

1. 梅沢侑実, 松島佳苗, 渥美剛史, 和田真, 井手正和: 自閉スペクトラム症者にみる運動のぎこちなさとその基盤となる皮質内抑制機能の低下. 第34回若手研究者のための健康科学研究助成成果報告書, 明治安田康生事業団, pp8-15, 2019.

## 代謝生化学教室

## 講演

1. Yamamoto T, Gotoda T: Genetic intervention in kynurenine pathway alters glucose metabolism in mice. The 79th Scientific Sessions, American Diabetes Association (ADA), USA, June 7th-11th, 2019.
2. 後藤田貴也: 栄養・代謝とエイジング. 第14回日本アンチエイジング歯科学会学術大会, 札幌, 2019年7月13-14日.

## 論文

1. 後藤田貴也: 栄養・代謝とエイジング. *Aging Science* 12:56-59, 2019.

## 細胞性化学教室

## 講演

## 招請講演

1. 今泉美佳: アクティブゾーンタンパク質のインスリン極性分泌における役割. 第23回臨床内分泌病理学会, 東京, 2019年10月4-5日.

## 国内会議

1. 青柳共太, 板倉誠, 西脇知世乃, 中道洋子, 牧山智彦, 今泉美佳: VAMP7 regulates autophagosome formation by supporting Atg9a functions in pancreatic beta-cells. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019年5月23-25日.

2. 牧山智彦, 青柳共太, 中道洋子, 西脇知世乃, 小泉修一, 今泉美佳: 妊娠期膵β細胞でのP2X7受容体によるインスリン分泌亢進機構. Role of the P2X7 receptor in glucose-stimulated insulin secretion from pancreatic β cells during pregnancy. 第92回日本生化学会大会, 横浜, 2019年9月18-20日.
3. 宇田川陽秀, 舟橋伸昭, 南茂隆生, 平本正樹, 西村渉, 植木浩二郎, 安田和基: Gata5はグルタチオン-S-トランスフェラーゼの発現を増強させ内臓脂肪の酸化ストレスを調節する. 第34回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会, 高崎, 2020年1月31日-2月1日.

## 論文

1. Ohara-Imaizumi M, Aoyagi K, Ohtsuka T<sup>1</sup> (1Graduate School of Medicine, University of Yamanashi): Role of the active zone protein, ELKS, in insulin secretion from pancreatic β-cells. *Molecular Metabolism* 27: S81-S91, 2019. DOI: 10.1016/j.molmet.2019.06.017
2. 今泉美佳: 膵β細胞のアクティブゾーンタンパク質ELKSが血管方向へのインスリン極性分泌をコントロールする. *Diabetes Journal* 47:168-170,2019.
3. 今泉美佳: アクティブゾーンタンパク質ELKSによるインスリン極性分泌調節機構. *Diabetes Strategy* 9:156-157,2019.
4. Araki K<sup>1</sup>, Araki A<sup>1</sup>, Honda D<sup>1</sup>, Izumoto T<sup>1</sup>, Hashizume A<sup>1</sup>, Hijikata Y<sup>1</sup>, Yamada S<sup>1</sup>, Iguchi Y<sup>1</sup>, Hara A<sup>1</sup>, Ikumi K<sup>1</sup>, Kawai K<sup>1</sup>, Ishigaki S<sup>1</sup>, Nakamichi Y, Tsunekawa S<sup>1</sup>, Seino Y<sup>2</sup>, Yamamoto A<sup>1</sup>, Takayama Y<sup>3</sup>, Hidaka S<sup>2</sup>, Tominaga M<sup>3</sup>, Ohara-Imaizumi M, Suzuki A<sup>2</sup>, Ishiguro H<sup>1</sup>, Enomoto A<sup>1</sup>, Yoshida M<sup>4</sup>, Arima H<sup>1</sup>, Muramatsu S<sup>5,6</sup>, Sobue G<sup>1</sup>, Katsuno M<sup>1</sup> (1Nagoya University Graduate School of Medicine, 2Fujita Health University, 3National Institute for Physiological Sciences, 4Aichi Medical University, 5 Jichi Medical University, 6The University of Tokyo): TDP-43 regulates early-phase insulin secretion via CaV1.2-mediated exocytosis in islets. *J Clin Invest*. 136:1371-1317, 2019. DOI: 10.1172/JCI124481
5. Udagawa H, Hiramoto M<sup>2</sup>, Kawaguchi M<sup>1</sup>, Uebanso T<sup>3</sup>, Ohara-Imaizumi M, Nammo T<sup>1</sup>, Nishimura W<sup>4,5</sup>, and Yasuda K<sup>1,6</sup> (1National Center for Global Health and Medicine, 2Tokyo Medical University, 3Tokushima University Graduate School, 4International University of Health and Welfare School of Medicine, 5Jichi Medical University, 6Department of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Kyorin University School of Medicine): Characterization of the taste receptor-related G-protein α-gustducin in pancreatic β-cells. *J Diabetes Investig* 2020. doi: 10.1111/jdi.13214 (Epub ahead of print)

## 薬理学教室

## 口演

1. 山賀貴, 末弘淳一, 櫻井裕之: LAT1阻害薬JPH203への抵抗性はGCN2-ATF4経路が関与する. 第141回日本薬理学会関東部会, 東京, 2019年10月12日.
2. Yamaga T, Suehiro J, Sakurai H: Inhibition of LAT1 activates GCN2-ATF4 survival pathway in Breast cancer cells. 第93回日本薬理学会年会, 横浜, 2020年3月16-18日. (誌上開催)

## 論文

1. Akimoto Y<sup>1</sup>, Yan K<sup>2</sup>, Miura Y<sup>3</sup>, Tsumoto H<sup>3</sup>, Toda T<sup>3</sup>, Fukutomi T, Sugahara D<sup>1</sup>, Kudo A<sup>1</sup>, Arai T<sup>4</sup>, Chiba Y<sup>4</sup>, Kaname S<sup>5</sup>, Hart GW<sup>6</sup>, Endo T<sup>3</sup>, Kawakami H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>4</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>5</sup>Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, <sup>6</sup>University of Georgia): O-GlcNAcylation and phosphorylation of  $\beta$ -actin Ser<sup>199</sup> in diabetic nephropathy. *Am J Physiol Renal Physiol* 317: F1359-F1374, 2019.
2. Kiuchi Z<sup>1</sup>, Nishibori Y<sup>1</sup>, Kutsuna S<sup>1</sup>, Kotani M<sup>1</sup>, Hada I<sup>1</sup>, Kimura T, Fukutomi T, Fukuhara D<sup>1</sup>, Ito-Nitta N<sup>1</sup>, Kudo A<sup>2</sup>, Takata T<sup>3</sup>, Ishigaki Y<sup>3</sup>, Tomosugi N<sup>3</sup>, Tanaka H<sup>4</sup>, Matsushima S<sup>5</sup>, Ogasawara S<sup>6</sup>, Hirayama Y<sup>6</sup>, Takematsu H<sup>7</sup>, Yan K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Kanazawa Medical University, <sup>4</sup>University of Tokyo, <sup>5</sup>Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>6</sup>Denka Seiken Company, <sup>7</sup>Kyoto University): GLCCI1 is a novel protector against glucocorticoid-induced apoptosis in T cells. *FASEB J.* 33:7387-7402, 2019.
3. Marunaka K<sup>1</sup>, Fujii N<sup>1</sup>, Kimura T, Furuta T<sup>2</sup>, Hasegawa H<sup>3</sup>, Matsunaga T<sup>1</sup>, Endo S<sup>1</sup>, Ikari A<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Gifu Pharmaceutical University, <sup>2</sup>Kyoto Pharmaceutical University, <sup>3</sup>Saitama Medical University) Rescue of tight junctional localization of a claudin-16 mutant D97S by antimalarial medicine primaquine in Madin-Darby canine kidney cells. *Sci Rep.* 9:9647, 2019.
4. Niikura M<sup>1</sup>, Fukutomi T, Fukui K<sup>1</sup>, Inoue SI<sup>2</sup>, Asahi H<sup>1</sup>, Kobayashi F<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Nagasaki University, <sup>3</sup>Azabu University): G-strand binding protein 2 is involved in asexual and sexual development of *Plasmodium berghei*. *Parasitol Int* 76:102059, 2020. (Epub ahead of print)
5. 大森嘉彦, 下山田博明, 高山信之, 望月眞: 未分化胚細胞腫様の形態を示した形質芽球性リンパ腫の一例. 第108回日本病理学会総会, 東京, 2019年5月9-11日.
6. 吉池信哉, 菅間博, 井本滋: トリプルネガティブ乳癌における、AC10の核内局在と細胞増殖についての検討. 第108回日本病理学会総会, 東京, 2019年5月9-11日.
7. 山岸夢希, 齊藤邦昭, 堀川弘史, 小林啓一, 千葉知宏, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄: 心臓粘液腫摘出8年後に脳梗塞で発症した多発脳動脈瘤の一例. 第37回日本脳腫瘍病理学会, 名古屋, 2019年5月31日-6月1日.
8. 内山拓, 永山理恵, 柴原純二, 福敬宜, 松原大祐, 川合謙介, 五味玲: DNTの病理学的特徴を持つ、播種した側頭葉腫瘍の1例. 第37回日本脳腫瘍病理学会, 名古屋, 2019年5月31日-6月1日.
9. 竹内弘久, 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 下山田博明, 柴原純二, 森俊幸: 内視鏡的粘膜下層剥離術を施行した食道神経内分泌細胞癌の1例. 第73回日本食道学会学術集会, 福岡, 2019年6月6-7日.
10. 西ヶ谷順子, 澁谷英里子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 田邊一成, 坂本憲彦, 大森嘉彦, 下山田博明, 柴原純二, 鈴木淳: 術前診断に苦慮した結節型外陰悪性黒色腫の一例. 第60回日本臨床細胞学会総会春季大会, 東京, 2019年6月7-9日.
11. 川上真理子, 岸本浩次, 坂本憲彦, 市川美雄, 田邊一成, 鈴木瞳, 野口由香, 住石歩, 大森嘉彦, 藤原正親, 柴原純二: 硝子体内容液穿刺吸引細胞診で診断しえた眼内悪性リンパ腫の2例. 第60回日本臨床細胞学会総会春季大会, 東京, 2019年6月7-9日.
12. 田邊一成, 岸本浩次, 坂本憲彦, 市川美雄, 鈴木瞳, 野口由香, 川上真理子, 西ヶ谷順子, 小林陽一, 長濱清隆, 柴原純二: 子宮体部脱分化癌(Dedifferentiated carcinoma)の1例. 第60回日本臨床細胞学会総会春季大会, 東京, 2019年6月7-9日.
13. 徳永健吾, 大崎敬子, 井田陽介, 北条史, 米澤英雄, 長濱清隆, 高橋信一, 久松理一, 神谷茂, 岡本晋: ウレアーゼ産生菌を証明しえた尿素呼吸試験偽陽性 *Helicobacter pylori* 除菌後自己免疫性胃炎の2例. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
14. 佐々木海人, 竹内弘久, 下山勇人, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二, 須田一晴, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 肺癌胃転移の1例. 第853回外科集談会, 東京, 2019年6月22日.
15. 鮫島未央, 宮川昌悟, 大村章太, 田口慧, 多武保光宏, 福原ひろし, 佐世光, 李恵怜, 川嶋聡子, 要伸也, 船田敏子, 布川雅雄, 吉池信哉, 柴原純二: 両側腎癌、透析導入の1例. 第64回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019年6月28-30日.
16. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 大森嘉彦, 長濱清隆, 下山田博明, 柴原純二, 小林陽一: 臍腫瘍を契機に診断された子宮体癌の1例. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 新潟, 2019年7月4-6日.
17. 山崎聡子, 千葉直子, 大塚弘毅, 岸野智則, 吉野浩, 楊國昌, 大森嘉彦, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 骨髄転移を認めた小児横紋筋肉腫の1例. 第20回日本検査血液学会学術集会, 天理, 2019年7月6-7日.
18. 秋澤孝虎, 麻生かおり, 井上真奈美, 高倉裕樹, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始, 藤原正親, 菅間博: 肺腺

## 病理学教室

## 講演

1. 片岡功, 長濱清隆, 千葉知宏, 船田さやか, 竹内弘久, 阿部展次, 柴原純二: SALL4陽性胃癌の遺伝子発現の特徴. 第108回日本病理学会総会, 東京, 2019年5月9-11日.
2. 長濱清隆, 千葉知宏, 大窪泰弘, 下山田博明, 菅間博, 柴原純二: 唾液腺原発乳癌相似分泌癌におけるPan-Trk蛋白の免疫組織化学的検討. 第108回日本病理学会総会, 東京, 2019年5月9-11日.
3. 岡部直太, 藤原正親, 千葉知宏, 近藤晴彦, 菅間博: 胸腺上皮性腫瘍におけるStat3活性化の検討. 第108回日本病理学会総会, 東京, 2019年5月9-11日.
4. 萬昂士, 佐藤峻, 鷹橋浩幸: 尿路癌病理の最前線. 第108回日本病理学会総会, 東京, 2019年5月9-11日.
5. 萬昂士, 佐藤峻, 池上雅博, 鷹橋浩幸: 上部尿路上皮癌におけるPAX8発現と免疫組織化学的亜型分類についての臨床病理学的検討. 第108回日本病理学会総会, 東京, 2019年5月9-11日.

- 癌に対するニボルマブ投与後に潰瘍性病変を伴った十二指腸炎を発症した1例. 第185回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2019年7月6日.
20. 菅間博: 特別講演「甲状腺病理・細胞診断のアップデートー甲状腺腫瘍の集団検診と最新の分類の話題を含めてー」. 第72回群馬臨床細胞学会学術総会, 前橋, 2019年7月6日.
  21. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 岡部直太, 柴原純二, 市村正一: 骨内発生 extraskeletal myxoid chondrosarcomaの1例. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  22. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 岡部直太, 柴原純二, 市村正一: 進行悪性軟部腫瘍に対する化学療法の治療成績. 第52回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11-12日.
  23. 土岐真朗, 仲田大輔, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 岡野尚弘, 渡邊俊介, 松木亮太, 小暮正晴, 立石秀勝, 鈴木裕, 柴原純二, 阪本良弘, 古瀬純司, 久松理一: 膵癌早期診断の最前線 膵癌早期診断における糖鎖修飾リボヌクレアーゼ1(RNase1)とCA19-9の有用性の検討. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
  24. 渡邊俊介, 土岐真朗, 神林孔明, 野坂岳志, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 落合一成, 太田博崇, 権藤興一, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 長濱清隆, 山口康晴, 高橋信一, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 膵腫瘍性病変に対するProCore 20G針による組織診断能の検討. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
  25. 横山政明, 小島洋平, 近藤恵里, 山口高史, 柳田修, 二階堂孝, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阿部展次, 阪本良弘, 柴原純二, 古瀬純司: 切除不能・異時性膵癌に対し集学的治療が奏功した長期生存例. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
  26. 小暮正晴, 鈴木裕, 松木亮太, 倉井大輔, 廣川達也, 大窪泰弘, 柴原純二, 落合一成, 渡邊俊介, 土岐真朗, 阪本良弘: 膵体部Solid pseudopapillary neoplasmとの鑑別を要した結核性リンパ節炎の一例. 第50回日本膵臓学会大会, 東京, 2019年7月12-13日.
  27. 佐藤さゆり, 宮川秀美, 早川順, 大山大山, 下山田博明, 柴原純二: 環指爪郭に生じた結節性筋膜炎の1例. 日本皮膚科学会東京地方会第884回, 東京, 2019年8月20日.
  28. 新井謙太郎, 田島崇, 宇高徹, 岡部直太, 柴原純二, 森井健司, 市村正一: 軟部転移を生じた前立腺癌の1例. 第68回東日本整形災害外科学会, 東京, 2019年9月5-6日.
  29. 萬昂士, 大森嘉彦, 高山信之, 柴原純二: 比較的緩徐な経過を辿った血球貪食像を伴う脾臓組織球系腫瘍の一例. 第84回日本病理学会関東支部学術集会, 三鷹, 2019年9月14日.
  30. 小林啓一, 齊藤邦昭, 島田大輔, 松本淑恵, 清水早紀, 飯島昌平, 野口明男, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄: 膵脳腫瘍のPDD・これまでとこれから・悪性脳腫瘍に対するアミノレブリン酸塩酸塩内用薬による術中蛍光診断の後方視的解析. 2019年日本光線力学学会・日本脳神経線力学学会 合同学術講演会, 東京, 2019年9月19-20日.
  31. 野田翔平, 萬田木香, 大石真理子, 平井俊, 西田秀範, 藤井徹郎, 長濱清隆: 薬剤性急性間質性腎炎とTINU症候群の鑑別に難渋した2例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  32. 西山早乃, 大谷恵, 小出高彰, 柳智貴, 金久恵理子, 安藝昇太, 青柳誠, 長濱清隆, 田中啓之: 短期間に自然寛解と再発を繰り返した微小変化型ネフローゼ症候群の一例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  33. 山本陣, 増古紳太郎, 軽部美穂, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也: 巨細胞性動脈炎治療中に不明熱と腎腫大を来し, 腎生検にてEBV-LPD合併AINと診断された一例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  34. 國沢恭平, 兵動智夏, 久木元光, 軽部美穂, 下山田博明, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也: 骨髄腫腎と半月体形成性糸球体腎炎が混在した腎限局型ANCA関連血管炎の一例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  35. 内田裕子, 軽部美穂, 佐世光, 李恵怜, 下山田博明, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也: 腎癌再発の経過中に膜性病変を伴うANCA関連腎炎を呈した1例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  36. 李恵怜, 内田裕子, 正路久美, 川上貴久, 駒形嘉紀, 要伸也, 下山田博明, 長濱清隆: 腎生検でFSGS tip variantの診断に至った急性発症のネフローゼ症候群の二例. 第49回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2019年10月4-5日.
  37. 新井信晃, 平野浩一, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 吉田勤, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦, 武井秀史, 藤原正親, 菅間博, 柴原純二, 中島昌典, 内堀歩, 千葉厚郎: 症状の改善と長期予後が得られた傍腫瘍性神経症候群を伴う小細胞肺癌の1例. 第23回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 三鷹, 2019年10月4-5日.
  38. 廣川達也, 有益優, 千葉知宏, 藤原正親, 菅間博: 甲状腺濾胞性腫瘍におけるTERTプロモーター領域の点突然変異とrSNPの検討. 第23回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 三鷹, 2019年10月4-5日.
  39. 中里陽子, 平野浩一, 三ツ間智也, 廣川達也, 大森嘉彦, 千葉知宏, 藤原正親, 菅間博: Well differentiated carcinoma, NOSの組織像を示した縦隔内甲状腺腫の一例. 第23回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 三鷹, 2019年10月4-5日.
  40. 藤麻真理子, 渡邊百恵, 飯田理央子, 村岡由真, 渋谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 吉池信哉, 長濱清隆, 柴原純二, 小林陽一: 子宮肉腫との鑑別を要した肺小細胞癌子宮転移の1例. 第138回関東連合産科婦人科学会総会, 前橋, 2019年10月19-20日.
  41. 深沢智將, 松木亮太, 磯部聡史, 川口翔平, 中村康弘, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 岡野尚弘, 古瀬純司, 阪本良弘, 長濱清隆, 柴原純二: 膵頭部癌術後6ヵ月で認めた5個の肝転移再発に対して化学療法施行後術後35ヵ月目にAdjuvant hepatectomyを施行してR0を得た一例. 第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019年11月14-16日.
  42. 秋澤孝虎, 麻生かおり, 井上真奈美, 高倉裕樹, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 藤原正親, 皿谷健, 石井晴之, 菅間博, 滝澤始: 肺腺癌に対するニボルマブ投与後に潰瘍性病変を伴った十二指腸炎を発症した1例. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
  43. 阿部太郎, 本多紘二郎, 吉田悠貴, 福田のぞみ, 佐久間翔, 三倉直, 大熊康介, 小田未来, 高倉裕樹, 中本啓太郎, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 藤原正親, 滝澤始: 多発性単神経炎の鑑別診断に苦慮した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
  44. 宮岡智花, 本多紘二郎, 麻生かおり, 吉田悠貴, 佐久間翔, 大熊康介, 高倉裕樹, 中本啓太郎, 田村仁樹,



- 高田佐織, 渡辺雅人, 皿谷健, 藤原正親, 柴原純二, 石井晴之, 滝澤始: 両肺にびまん性に多彩な陰影を呈し, 気管支内視鏡検査でT細胞リンパ芽球性白血病/リンパ腫の肺浸潤と組織学的に診断した一例. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
45. 中島裕美, 小田未来, 齋藤正興, 野田晃成, 佐久間翔, 中本啓太郎, 本多紘二郎, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始, 藤原正親: アテゾリズマブ投与後に喉頭浮腫と血球貪食症候群を来した肺腺癌の1例. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
46. 佐々木海人, 竹内弘久, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二, 須田一晴, 阪本良弘, 須並英二, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 十二指腸潰瘍による胃切除後の検診で発見し得た肺癌胃転移の1切除例. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
47. 吉池信哉, 藤原正親, 井本滋, 菅間博: 乳癌における可溶性アデニル酸シクラーゼの発現パターン. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
48. 岸本浩次, 坂本憲彦, 市川美雄, 鈴木瞳, 田邊一成, 野口由香, 川上真理子, 坂口碧, 大森嘉彦, 藤原正親, 柴原純二: 血管免疫芽球性T細胞リンパ腫の細胞学的検討. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16-17日.
49. 田中良太, 坂本憲彦, 吉田勤, 橋啓盛, 大塚弘毅, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 呼吸器(ヨーロッパ細胞学会の内容から)肺腺癌における液状化細胞診(LBC)を用いた遺伝子および形態学的診断. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16-17日.
50. 田中良太, 坂本憲彦, 吉田勤, 橋啓盛, 大塚弘毅, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 肺癌細胞診の可能性-鑑別と限界-LBCの鑑別と限界. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16-17日.
51. 中山真恵, 百村麻衣, 渋谷英里子, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 坂本憲彦, 岸本浩次, 大森嘉彦, 長濱清隆, 柴原純二, 小林陽一: 子宮内膜細胞診にて診断されたびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の1例. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16-17日.
52. 黒澤貴志, 岡野尚弘, 松木亮太, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 鈴木裕, 長島文夫, 柴原純二, 阪本良弘, 古瀬純司: 切除不能腺癌に対するconversion surgery後の再発と治療選択について. 第61回日本消化器病学会大会, 神戸, 2019年11月21-24日.
53. 大塚弘毅, 大西宏明, 森井健司, 藤原正親, 小倉航, 松島早月, 山崎聡子, 岸野智則, 渡邊卓: 野生型マウスにおける自然発生がんの検討. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月21-24日.
54. 眞森直子, 岸野智則, 森井健司, 岡部直太, 山崎聡子, 大塚弘毅, 関口久美子, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 超音波検査による高分化脂肪肉腫と脂肪腫の鑑別について. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月21-24日.
55. 小倉航, 大塚弘毅, 山崎聡子, 藤原正親, 田中良太, 関口久美子, 大西宏明, 渡邊卓: コンパニオン診断薬を用いたROS1融合遺伝子検査の性能に対するRNA濃度の影響. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月21-24日.
56. 勝又明彦, 石本麻衣, 津村哲郎, 鮫島美央, 田口慧, 福原浩, 下山田博明, 長濱清隆, 菅間博, 足立淳一郎, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 石田均, 安田和基: 当院で経験した巨大褐色細胞腫の2例. 日本内分泌学会第29回臨床内分泌代謝Update, 高知, 2019年11月29-30日.
57. 渋谷幸見, 須田一晴, 三浦隼, 三ツ間智也, 新井信晃, 橋啓盛, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 藤原正親, 菅間博, 武井秀史, 近藤晴彦: 外腸骨リンパ節転移を伴うIV期肺癌に対して手術を含めた集学的治療により長期無再発生存を得ている1例. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019年12月6-8日.
58. 八谷隆仁, 加藤敦士, 宮本尚彦, 羽田裕, 楠原光謹, 神保陽子, 大野亜希子, 久松理一, 長濱清隆, 柴原純二: ESDで一括切除し得た亜全周性巨大直腸腫瘍症例における術後狭窄. 第109回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2019年12月14-15日.
59. 早川怜那, 下田由莉江, 大山路, 井田陽子, 下山田博明, 福田知雄: 性器ヘルペス様外観を呈したExophiala dermatitidisによる黒色真菌症の1例. 日本皮膚科学会東京地方会第887回例会, 東京, 2019年12月15日.

## 論文

- Shishido Y<sup>1</sup>, Yazawa T, Chiba T, Kojima K, Ishii J, Kobayashi K<sup>2</sup>, Lee J-H<sup>2</sup>, Sumiishi A, Tsuchiya K<sup>3</sup>, Uchihara T<sup>4</sup>, Shiokawa Y<sup>2</sup>, Takayama N<sup>5</sup>, Nagane M<sup>2</sup>, Kamma H (1Kyoto Prefectural University of Medicine, 2Department of Neurosurgery, Kyorin University School of Medicine 3Department of Radiology, Kyorin University school of Medicine, 4Nitobe Memorial Nakano General Hospital, 5Department of Hematology, Kyorin University School of Medicine): Detection of t(14;18)(q32;q21) for IgH/BCL2 in central nervous system tumor-like lesions with chronic perivascular inflammation. Clin Exp Neuroimmunol. 10: 244-258, 2019. DOI: 10.1111/cen3.12541
- Hirokawa T, Arimasu Y, Nakazato Y<sup>1</sup>, Chiba T, Fujiwara M, Kamma H (1Department of Respiratory and Thyroid Surgery, Kyorin University School of Medicine): Effect of single-nucleotide polymorphism in TERT promoter on follicular thyroid tumor development. Pathology Int. 70(4):210-216, 2020. DOI:10.1111/pin.12893
- Fukue R<sup>1</sup>, Takeno M<sup>1</sup>, Miyamoto D<sup>1</sup>, Shirai Y<sup>1</sup>, Nagahama K, Shimizu A<sup>1</sup>, Kuwana M<sup>1</sup> (1Nippon Medical School Graduate School of Medicine): Rapid progression to end-stage renal disease in a young female with mixed immunopathological features of lupus and ANCA-associated vasculitis. Int J Rheum Dis. 22(5):956-958, 2019. DOI: 10.1111/1756-185X.13573
- Tanaka K<sup>1</sup>, Hosoi K<sup>2</sup>, Yoshiike S, Nagahama K, Tanigaki S<sup>1</sup>, Shibahara J, Ohnishi H<sup>3</sup>, Kobayashi Y<sup>1</sup> (1Department of Obstetrics and Gynecology, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine 3Department of Laboratory Medicine of Kyorin University School of Medicine): Mirror Syndrome Due to anti-Jra Alloimmunization. Taiwan J Obstet Gynecol. 59(3):456-459, 2020. DOI: 10.1016/j.tjog.2020.03.023
- Saraya T<sup>1</sup>, Fujiwara M, Morita K<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Ogawa Y<sup>1</sup>, Takizawa H<sup>1</sup>, Light RW<sup>2</sup> (1Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 2Division of Allergy, Pulmonary, and Critical Care Medicine, Vanderbilt University

- Medical Center): Amelanotic Malignant Melanoma with Dense Pleural Thickening Mimicking Malignant Mesothelioma. *Intern Med.* 58(7):969-972, doi: 10.2169/internalmedicine.0867-18.
6. Okabe N, Fujiwara M, Mochizuki M<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Nishigaya Y<sup>3</sup>, Kobayashi Y<sup>3</sup>, Kamma H (1Teikyo University Faculty of Medical Technology, 2Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 3Department of Gynecology, Kyorin University School of Medicine): CD34-positive uterine lipoleiomyoma in a postmenopausal woman with chronic glomerulonephritis. *Eur J Gynaecol Oncol* 40(6): 1060-1063, 2019. DOI: 10.12892/ejgo4661.2019.
  7. Ohashi A<sup>1</sup>, Kumagai J<sup>1</sup>, Nagahama K, Fujisawa H<sup>1</sup> (1Minato Red Cross Hospital): Case of immunotactoid glomerulopathy showing high responsiveness to steroids therapy despite severe pathological features. *BMJ Case Rep.* 26:12(7) e229751, 2019. DOI: 10.1136/bcr-2019-229751
  8. Shimamori N<sup>1</sup>, Kishino T<sup>1</sup>, Morii T<sup>2</sup>, Okabe N, Motohashi M<sup>1</sup>, Matsushima S<sup>1</sup>, Yamasaki S<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>1</sup>, Shibahara J, Ichimura S<sup>2</sup>, Ohnishi H<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>(1Department of Clinical Laboratory, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Orthopaedic Surgery, Kyorin University School of Medicine): Sonographic appearances of liposarcoma: correlations with pathologic subtypes. *Ultrasound Med Biol.* 45(9):2568-2574, 2019. doi: 10.1016/j.ultrasmedbio.2019.05.020.
  9. Yokoi H<sup>1</sup>, Kodama S<sup>1</sup>, Maruyama K<sup>2</sup>, Fujiwara M, Shiokawa Y<sup>2</sup>, Saito K<sup>1</sup> (1Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Neurosurgery, Kyorin University School of Medicine): Endoscopic endonasal resection via a transsphenoidal and transpterygoid approach for sphenoid ridge meningioma extending into the sphenoid sinus: A case report and literature review. *Int J Surg Case Rep.* 60:115-119, 2019. doi: 10.1016/j.ijscr.2019.06.003.
  10. Ishii J<sup>1</sup>, Suzuki A<sup>2</sup>, Kimura T<sup>3</sup>, Tateyama M<sup>4</sup>, Tanaka T<sup>2</sup>, Yazawa T<sup>1</sup>, Arimasu Y, Chen IS<sup>4</sup>, Aoyama K<sup>2</sup>, Kubo Y<sup>4</sup>, Saitoh S<sup>2</sup>, Mizuno H<sup>2,5</sup>, Kamma H (1Dokkyo Medical University, 2Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, 3Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, 4National Institute for Physiological Sciences, 5International University of Health and Welfare): Congenital goitrous hypothyroidism is caused by dysfunction of the iodide transporter SLC26A7. *Commun Biol.* 24(2):270, 2019. doi: 10.1038/s42003-019-0503-6.
  11. Tanaka M<sup>1</sup>, Yamauchi N<sup>1</sup>, Ushiku T<sup>1</sup>, Shibahara J, Hayashi A<sup>1</sup>, Misumi K<sup>1</sup>, Yasunaga Y<sup>1</sup>, Morikawa T<sup>2</sup>, Kokudo T<sup>1</sup>, Arita J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>3</sup>, Hasegawa K<sup>1</sup>, Fukayama M<sup>1</sup>(1The University of Tokyo, 2NTT Medical Center, 3Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine): Tumor budding in intrahepatic cholangiocarcinoma: A predictor of postsurgery outcomes. *Am J Surg Pathol.* 43(9):1180-1190, 2019. doi: 10.1097/PAS.0000000000001332.
  12. Enooku K<sup>1</sup>, Nakagawa H<sup>1</sup>, Fujiwara N<sup>1</sup>, Kondo M<sup>1</sup>, Minami T<sup>1</sup>, Hoshida Y<sup>2</sup>, Shibahara J, Tateishi R<sup>1</sup>, Koike K<sup>1</sup>(1The University of Tokyo, 2University of Texas Southwestern Medical Center): Altered serum acylcarnitine profile is associated with the status of nonalcoholic fatty liver disease (NAFLD) and NAFLD-related hepatocellular carcinoma. *Sci Rep.* 9(1):10663, 2019. doi:10.1038/s41598-019-47216-2.
  13. Matsumoto Y<sup>1</sup>, Yokoi H<sup>1</sup>, Kawada M<sup>1</sup>, Fujiwara M, Saito K<sup>1</sup> (1Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine): Two Cases of Allergic Fungal Sinusitis with Differing Postoperative Course. *Case Rep Otolaryngol*, 2019. doi: 10.1155/2019/9598283. eCollection.
  14. Yorozu T, Sato S<sup>1</sup>, Kimura T<sup>1</sup>, Iwatani K<sup>1</sup>, Onuma H<sup>1</sup>, Yanagisawa T<sup>1</sup>, Miki J<sup>1</sup>, Egawa S<sup>1</sup>, Ikegami M<sup>1</sup>, Takahashi H<sup>1</sup> (1Jikei University School of Medicine) : HER2 Status in Molecular Subtypes of Urothelial Carcinoma of the Renal Pelvis and Ureter. *Clin Genitourin Cancer*, 2019. DOI: 10.1016/j.clgc.2019.12.003.
  15. Ogura W<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Fujiwara M, Tanaka R<sup>3</sup>, Sekiguchi K<sup>1</sup>, Ohnishi H<sup>2</sup>, Watanabe T<sup>2</sup> (1Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital, 2Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 3Department of Thoracic Surgery, Kyorin University School of Medicine): Use of a plasma test for verifying epidermal growth factor receptor gene (EGFR) mutations in fluid samples from non-small cell lung cancer patients. *Respir Med Case Rep* 29:101007, 2020. doi: 10.1016/j.rmcr.2020.101007. eCollection.
  16. Kubota H<sup>1</sup>, Endo H<sup>1</sup>, Ishii H<sup>1</sup>, Tsuchiya H<sup>1</sup>, Inaba Y<sup>1</sup>, Terakawa K<sup>2</sup>, Takahashi Y<sup>3</sup>, Noma M<sup>4</sup>, Takemoto K<sup>5</sup>, Taniai S<sup>6</sup>, Sakata K<sup>6</sup>, Soejima K<sup>6</sup>, Shimoyamada H, Kamma H, Kawakami H<sup>7</sup>, Kaneko Y<sup>8</sup>, Hirano S<sup>9</sup>, Izumi D<sup>9</sup>, Ozaki K<sup>9</sup>, Minamino T<sup>9</sup>, Yoshino H<sup>10</sup>, Sudo K<sup>10</sup> (1Department of Cardiovascular Surgery, Kyorin University School of Medicine, 2University of Tokyo, 3National Disaster Medical Center, 4Tokyo Metropolitan Children's Medical Center, 5Jyukoukai Hospital, 6Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine, 7Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, 8National Center for Child Health and Development, 9Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, 10Jiseikai Nomura Hospital): Adult ALCAPA: from histological picture to clinical features. *J Cardiothorac Surg.* 15(1):14, 2020. doi: 10.1186/s13019-020-1048-y.
  17. Nakaguro M<sup>1</sup>, Urano M<sup>2</sup>, Ogawa I<sup>3</sup>, Hirai H<sup>4</sup>, Yamamoto Y<sup>4</sup>, Yamaguchi H<sup>4</sup>, Tanigawa M<sup>4</sup>, Matsubayashi J<sup>4</sup>, Hirano H<sup>4</sup>, Shibahara J, Tada Y<sup>5</sup>, Tsuzuki T<sup>6</sup>, Okada Y<sup>7</sup>, Sato Y<sup>8</sup>, Ikeda K<sup>9</sup>, Sukeda A<sup>4</sup>, Honda Y<sup>10</sup>, Mikami Y<sup>10</sup>, Nagao T<sup>4</sup>(1Nagoya University Hospital, 2Fujita Health University, 3Hiroshima University Hospital, 4Tokyo Medical University, 5International University of Health and Welfare Mita Hospital, 6Aichi Medical University, 7Nippon Dental University, 8Niigata Cancer Center Hospital, 9Showa University, 10Kumamoto University Hospital):

- Histopathological evaluation of minor salivary gland papillary-cystic tumours: focus on genetic alterations in sialadenoma papilliferum and intraductal papillary mucinous neoplasm. *Histopathology*. 76(3):411-422, 2020. doi: 10.1111/his.13990.
18. Enooku K<sup>1</sup>, Tsutsumi T<sup>1</sup>, Kondo M<sup>1</sup>, Fujiwara N<sup>1</sup>, Sasako T<sup>1</sup>, Shibahara J, Kado A<sup>1</sup>, Okushin K<sup>1</sup>, Fujinaga H<sup>1</sup>, Nakagomi R<sup>1</sup>, Minami T<sup>1</sup>, Sato M<sup>1</sup>, Uchino K<sup>1</sup>, Nakagawa H<sup>1</sup>, Kondo Y<sup>1</sup>, Asaoka Y<sup>1</sup>, Tateishi R<sup>1</sup>, Ueki K<sup>2</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>3</sup>, Moriya K<sup>1</sup>, Yotsuyanagi H<sup>1</sup>, Kadowaki T<sup>1</sup>, Koike K<sup>1</sup>(<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>National Center for Global Health and Medicine, <sup>3</sup>Kawakita General Hospital): Hepatic FATP5 expression is associated with histological progression and loss of hepatic fat in NAFLD patients. *J Gastroenterol*. 55(2):227-243, 2020. doi: 10.1007/s00535-019-01633-2.
  19. Saraya T<sup>1</sup>, Fujiwara M, Yokoyama T<sup>1</sup>, Takata S<sup>1</sup>, Oka T<sup>2</sup>, Ishii H<sup>1</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Pathology, Kanto Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers): Pathological and Radiological Correlation in Prolonged Myeloperoxidase Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibody-related Diffuse Alveolar Hemosiderosis. *Intern Med*. 59(3):415-419, 2020. doi: 10.2169/internalmedicine.3107-19.
  20. Saito T<sup>1</sup>, Matsunaga A<sup>2</sup>, Fukunaga M<sup>3</sup>, Nagahama K, Hara S<sup>4</sup>, Muso E<sup>5</sup> (<sup>1</sup>Sanko Clinic, <sup>2</sup>Fukuoka University, <sup>3</sup>Toyonaka Keijinkai Clinic, <sup>4</sup>Kobe City Medical Center General Hospital, <sup>5</sup>Kitano Hospital): Apolipoprotein E-related glomerular disorders. *Kidney Int* 97(2):279-288, 2020. DOI: 10.1016/j.kint.2019.10.031
  21. Yokoi H<sup>1</sup>, Yamanaka H<sup>1</sup>, Matsumoto Y<sup>1</sup>, Kawada M<sup>1</sup>, Fujiwara M, Ohara A<sup>2</sup>, Saito K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine): Modified Lothrop (Draf III) procedure for the treatment of a recurrent orbitofrontal cholesterol granuloma: A case report. *SAGE Open Med Case Rep* 8, 2020. doi: 10.1177/2050313X20907809.eCollection.
  22. Tanaka R<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Ogura W<sup>2</sup>, Arai N<sup>1</sup>, Yoshida T<sup>1</sup>, Nakazato Y<sup>1</sup>, Tachibana K<sup>1</sup>, Takata S<sup>3</sup>, Fujiwara M, Kamma H, Shibahara J, Kondo H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Clinical Laboratory, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Respiratory Medicine Kyorin University School of Medicine): Subtyping and EGFR mutation testing from blocks of cytological materials, based on liquid-based cytology for lung cancer at bronchoscopic examinations. *Diagn Cytopathol*. 2020. doi: 10.1002/dc.24397. (Epub ahead of print)
  23. Yoshida A<sup>1</sup>, Arai Y<sup>2</sup>, Hama N<sup>2</sup>, Chikuta H<sup>2</sup>, Bando Y<sup>3</sup>, Nakano S<sup>3</sup>, Kobayashi E<sup>1</sup>, Shibahara J, Fukuhara H<sup>4</sup>, Komiyama M<sup>1</sup>, Watanabe SI<sup>1</sup>, Tamura K<sup>1</sup>, Kawai A<sup>1</sup>, Shibata T<sup>2</sup>(<sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Research Institute, <sup>3</sup>Tokushima University, <sup>4</sup>Department of Urology, Kyorin University School of Medicine): Expanding the clinicopathologic and molecular spectrum of BCOR-associated sarcomas in adults. *Histopathology*. 76(4):509-520, 2020. doi: 10.1111/his.14023.
  24. Asaoka Y<sup>1</sup>, Tateishi R<sup>1</sup>, Hayashi A<sup>1</sup>, Ushiku T<sup>1</sup>, Shibahara J, Kinoshita J<sup>2</sup>, Ouchi Y<sup>2</sup>, Koike M<sup>2</sup>, Fukayama M<sup>1</sup>, Shiina S<sup>3</sup>, Koike K<sup>1</sup>(<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Kyowa Kirin Co., Ltd, <sup>3</sup>Juntendo University): Expression of c-Met in primary and recurrent hepatocellular carcinoma. *Oncology*. 98(3):186-194, 2020. doi: 10.1159/000504806.
  25. Kataoka I<sup>1</sup>, Funata S, Nagahama K, Isogaya K, Takeuchi H<sup>1</sup>, Abe N<sup>1</sup>, Shibahara J (<sup>1</sup>Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine): DNMT3A overexpression is associated with aggressive behavior and enteroblastic differentiation of gastric adenocarcinoma. *Ann Diagn Pathol* 44:151456, 2020. doi: 10.1016/j.anndiagpath.2019.151456.
  26. 伊藤有亜<sup>1</sup>, 下田由莉江<sup>1</sup>, 早川順<sup>1</sup>, 下山田博明, 柴原純二, 大山路<sup>1</sup> (杏林大・医・皮膚科学) : 再発乳癌と鑑別を要した顆粒細胞腫の1例. *臨床皮膚科* 73(4):319-323, 2019.
  27. 福井香苗<sup>1</sup>, 下田由莉江<sup>1</sup>, 木下美咲<sup>1</sup>, 山崎好美<sup>1</sup>, 下山田博明, 渡辺格<sup>2</sup>, 山田昌和<sup>3</sup>, 石井文人<sup>4</sup>, 橋本隆<sup>5</sup>, 大山路<sup>1</sup> (杏林大・医・皮膚科学, <sup>2</sup>杏林大・医・耳鼻咽喉科学, <sup>3</sup>杏林大・医・眼科学, <sup>4</sup>久留米大学医学部, <sup>5</sup>大阪市立大学) : 結節性痒疹様皮疹を伴った粘膜類天疱瘡の1例. *臨床皮膚科* 73(8) : 603-608, 2019.
  28. 金翔哲<sup>1</sup>, 鈴木裕<sup>1</sup>, 百瀬博一<sup>1</sup>, 松木亮太<sup>1</sup>, 小暮正晴<sup>1</sup>, 横山政明<sup>1</sup>, 正木忠彦<sup>1</sup>, 阿部展次<sup>1</sup>, 森俊幸<sup>1</sup>, 柴原純二, 杉山政則<sup>1</sup> (杏林大・医・外科学) : 術前診断しえた十二指腸乳頭部癌肉腫の1例. *日本消化器外科学会雑誌* 52(8) : 432-440, 2019.
  29. 安藤良将<sup>1</sup>, 重安千花<sup>1</sup>, 吉池信哉, 千葉知宏, 柴原純二, 山田昌和<sup>1</sup> (杏林大・医・眼科学) : 病理組織学的検査でCogan's microcystic epithelial dystrophyと診断した1例. *眼科* 61(9) : 961-666, 2019.
  30. 上月直樹<sup>1</sup>, 中島昌典<sup>1</sup>, 内堀歩<sup>1</sup>, 島田大輔<sup>2</sup>, 柴原純二, 千葉厚郎<sup>1</sup> (杏林大・医・脳神経内科学, <sup>2</sup>杏林大・医・脳神経外科学) : 再発性脳梗塞とびまん性くも膜肥厚を呈した抗リン脂質抗体症候群の1例. *臨床神経学* 59(10) : 662-665, 2019.
  31. 渋谷幸見<sup>1</sup>, 橘啓盛<sup>1</sup>, 三ツ間智也<sup>1</sup>, 清水麗子<sup>1</sup>, 田中良太<sup>1</sup>, 長島鎮<sup>1</sup>, 宮敏路<sup>1</sup>, 武井秀史<sup>1</sup>, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 石川雄一<sup>2</sup>, 近藤晴彦<sup>1</sup> (杏林大・医・呼吸器・甲状腺外科学, <sup>2</sup>がん研究会がん研究所病理部) : 胸腺原発mucinous adenocarcinomaの1例. *肺癌* 59 : 173-174, 2019.
  32. 千葉知宏, 住石歩, 菅間博 : 甲状腺腫瘍WHO分類の背景にある病理診断の特異性と遺伝子変異. *日本内分泌外科学会雑誌* 36(3) : 146-150, 2019.
  33. 柴原純二 : 肉眼病理－症例から探る鑑別のヒントー Budd-Chiari症候群. *病理と臨床* 37臨増 : 194-196, 2019.
  34. 柴原純二 : 肉眼病理－症例から探る鑑別のヒントー 結節性再生性過形成. *病理と臨床* 37臨増 : 197-199, 2019.
  35. 柴原純二 : 肉眼病理－症例から探る鑑別のヒントー 肝アミロイドーシス. *病理と臨床* 37臨増 : 200-202, 2019.
  36. 柴原純二 : 肉眼病理－症例から探る鑑別のヒントー 硬化型血管腫. *病理と臨床* 37臨増 : 212-214, 2019.

37. 柴原純二：肉眼病理一症例から探る鑑別のヒントー結腸癌肝転移、化学療法関連薬剤性肝障害。病理と臨床 37臨増：224-226, 2019.
38. 柴原純二：肉眼病理一症例から探る鑑別のヒントー Sclerosing angiomatoid nodular transformation (SANT)。病理と臨床 37臨増：230-233, 2019.
39. 柴原純二：脳腫瘍の病理診断の問題点。病理と臨床 38(1)：46-52, 2020.
40. 菅間博：甲状腺癌取扱い規約改訂を見据えた甲状腺腫瘍診断の課題 甲状腺腫瘍の特異性と病理組織分類。病理と臨床 38(2)：115-118, 2020.

## 著書

1. 菅間博 (分担執筆)：甲状腺癌取扱い規約 第8版 日本内分泌外科学会・日本甲状腺病理学会編。東京, 金原出版, 2019.

## その他

1. 柴原純二：第84回日本病理学会関東支部学術集会主催, 三鷹, 2019年9月14日.

## 感染症学教室

## 講演

1. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 田口晴彦, 神谷茂：マウスを用いた *Mycoplasma pneumoniae* 菌体抗原感染モデルにおける IL-21 の役割。第93回日本感染症学会総会, 名古屋, 2019年4月4-6日.
2. 大崎敬子, 北条史, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂：胆道癌患者における腸肝 *Helicobacter* 属感染。第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
3. 花輪智子, 蒲地一成, 米澤英雄, 蔵田訓, 大崎敬子, 北条史, 神谷茂：百日咳菌の外膜ベシクルに含まれる病原因子の解析。第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
4. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂：Role of IL-21 in *Mycoplasma pneumoniae* antigen sensitization mouse model. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
5. Yonezawa H, Motegi M, Osaki T, Hojo F, Kuroki Y, Oka K, Kurata S, Hanawa T, Takahashi M, Kamiya S: Effect of lantibiotics bacteriocin produced by oral bacteria on intestinal microbiota. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
6. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂：採取した環境土壌における *Helicobacter pylori* の生存性について。第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
7. 新倉保：寄生虫感染症の臨床ならびにその検査法。日本臨床検査医学会・日本臨床検査同学院共同主催 第14回寄生虫検査技術講習会, 東京, 2019年6月9日.
8. Hanawa T, Miyanaga K, Hojo F, Ohura N, Ohnishi H, Kamiya S, Tanji Y, Matsuda T: Efficacy of novel MRSA phage treatment in murine wound infection model. ASM Microbe 2019, USA, June 20th-24th, 2019.
9. 大崎敬子, 林櫻松, 米澤英雄, 北条史, 奥田真珠美, 神谷茂, 菊地正悟：胆道癌および膵臓がん患者における腸肝系 *Helicobacter* 属細菌の感染状況について。第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
10. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 神谷茂：環境土壌および滅菌土壌内における *Helicobacter pylori* の生存性について。第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
11. 徳永健吾, 中村正彦, 大崎敬子, 長瀬清隆, 北条史, 米澤英雄, 井田陽介, 田中昭文, 久松理一, 高橋信一, 岡本晋：*Helicobacter heilmanni* like organism (HHLO) 感染症の検討。第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
12. 沖本忠義, 青山伸郎, 安藤真志, 池澤和人, 大崎敬子, 小林寅吉, 佐々木誠人, 清水俊明, 下山克, 田邊裕貴, 中島滋美, 古田隆久, 村上和成：我が国における薬剤耐性 *Helicobacter pylori* の現状-2015~2016年度耐性菌サーベイランスの集計報告-。第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
13. 徳永健吾, 大崎敬子, 井田陽介, 北条史, 米澤英雄, 長瀬清隆, 久松理一, 神谷茂, 岡本晋：ウレアーゼ産生菌を証明しえた尿素呼吸試験偽陽性 *Helicobacter pylori* 除菌後自己免疫性胃炎の2例。第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月22日.
14. 宮岡千尋, 花輪智子, 北条史, 河野洋平, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 川上速人, 青山隆夫, 神谷茂：(p)ppGpp欠損変異による *Helicobacter pylori* の性状の変化。第33回日本バイオフィルム学会学術集会, 久留米, 2019年7月5-6日.
15. Inoue SI, Ganchimega B, Jiun-Yua J, Sukhbaatar O, Mbayaa N, Sanjaadorja T, Kimura K, Niikura M, Kobayashi F, Yui K:  $\gamma\delta$  T cells play a crucial role for protective immunity to *Plasmodium* infection. ID-RiPS, 長崎, 2019年7月17日.
16. 伊従光洋, 小川良平, 新倉保, Emran TB, 丹保秀太, 井上信一, 小林富美恵, 吉田栄人：パキキュロウイルス筋肉内接種による肝臓期マラリア原虫の殺傷と遺伝子発現解析。第75回日本寄生虫学会西日本支部大会, 金沢, 2019年9月21-22日.
17. 米澤英雄, 茂木瑞穂, 北条史, 黒木靖敏, 岡健太郎, 高橋志達, 大崎敬子, 神谷茂：*Streptococcus mutans* が産生する *lantibiotics bacteriocin* が及ぼす腸内細菌叢への影響の解明。第102回日本細菌学会関東支部総会, 松本, 2019年10月3-4日.
18. 新倉保, 小林富美恵：マラリア原虫感染赤血球の乳腺組織への蓄積。第79回日本寄生虫学会東日本支部大会, 東京, 2019年10月14日.
19. 花輪智子, 大西宏明, 神谷茂, 松田剛明：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対する phiMR003 ファージの効果-マウス創傷感染モデルを用いた検討。第68回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 仙台, 2019年10月16-18日.
20. 新倉保：これだけは知っておきたい！寄生虫検査の基礎。公益社団法人東京都臨床検査技師会 2019年度第7回微生物検査研究班研修会, 東京, 2019年11月15日.
21. 井上信一, Ganchimega B, Jiun-Yua J, Sukhbaatar O, Mbayaa N, Sanjaadorja T, 木村一美, 新倉保, 小林富美恵, 由井克之：マラリアによる  $\gamma\delta$  T 細胞疲弊の誘導。第72回日本寄生虫学会南日本支部大会・第69回日本衛生動物学会南日本支部大会, 熊本, 2019年10月26-27日.
22. 須田智也, 花輪智子, 大浦紀彦, 大西宏明, 松田剛明：杏林大学付属病院で分離された MRSA 株に対する黄色ブドウ球菌ファージ(phiMR003)による治療可能性の検討。第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
23. Inoue SI, Niikura M, Kobayashi F, Yui K:  $\gamma\delta$  T cells modulate humoral immunity against *Plasmodium berghei* infection. 第48回日本免疫学

会学術集会, 浜松, 2019年12月11-13日.

24. 徳永健吾, 大崎敬子, 林原絵美子, 松井英則, 大野亜希子, 三好佐和子, 井田陽介, 岡本晋, 久松理一, 中村正彦: 特発性消化性潰瘍の成因検討—*Helicobacter suis*感染の関連を含めて. 第47回日本潰瘍学会, 小田原, 2020年1月16日.
25. 新倉保: マラリア原虫の寄生生物学. 理研セミナー, 和光, 2020年1月21日.
26. 三島由裕子, 大崎敬子, 神谷茂, 石井さなえ: 慢性鼻腔炎症マウスにおける腸内細菌叢の変動. 第53回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 東京, 2020年1月25日.
27. 大崎敬子, 米澤英雄, 北条史, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 胆道系癌患者における腸管系 *Helicobacter* 属細菌特異的抗原の決定. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.
28. 花輪智子, 松田剛明: フェージ療法の実現に向けた治療効果の基礎的検討—ヒト臨床試験の検証から—. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.
29. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: Effects of *Mycoplasma pneumoniae* infection on Th2 immune response. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.
30. 米澤英雄, 茂木瑞穂, 北条史, 黒木靖敏, 岡健太郎, 高橋志達, 大崎敬子, 神谷茂: 口腔内産生lantibiotics bacteriocinが及ぼす腸内細菌叢への影響. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.
31. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: 環境土壌中におけるヘリコバクターピロリと病原細菌の生存性について. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.

## 論文

1. Zaman C, Osaki T, Furuta Y<sup>1</sup>, Hojo F<sup>2</sup>, Yonezawa H, Konno M<sup>3</sup>, Kurata S, Hanawa T, Kamiya S (1Hokkaido University, 2Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University, 3Sapporo Kosei General Hospital): Enhanced infectivity of strains of *Helicobacter pylori* isolates from children compared with parental strains. *J Med Microbiol* 68(4):633-641, 2019. DOI: 10.1099/jmm.0.000918.
2. Hanawa T, Shimoda-Komatsu Y<sup>1</sup>, Araki K<sup>2</sup>, Ohyama M<sup>1</sup>, Ohnishi H<sup>3</sup>, Kamiya S<sup>4</sup>, Matsuda T<sup>5</sup> (1Department of Dermatology, 2Department of Clinical Laboratory, 3Department of Laboratory Medicine, 4Faculty of Health Sciences, and 5Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine): Skin and soft tissue infections caused by different genotypes of PVL-positive community-acquired methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* strains. *Jpn J Infect Dis* 73(1):72-75, 2019.
3. Peng C<sup>1,2</sup>, Hanawa T, Azam AH<sup>1</sup>, LeBlanc C<sup>3</sup>, Ung P<sup>2</sup>, Matsuda T<sup>4</sup>, Onishi H<sup>5</sup>, Miyana K<sup>1</sup>, Tanji Y<sup>1</sup> (1Tokyo Institute of Technology, 2Institute of Technology of Cambodia, 3University of Washington, 4Department of Traumatology and Critical Care Medicine, 5Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Silviavirus phage φMR003 displays a broad host range against methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* of human origin. *Appl Microbiol Biotechnol* 103(18):7751-7765, 2019.
4. Yonezawa H, Osaki T, Hojo F<sup>1</sup>, Kamiya S (1Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University): Effect of *Helicobacter pylori* biofilm formation on susceptibility to Amoxicillin, Metronidazole and Clarithromycin. *Microbial Pathogenesis* 26:132:100-108, 2019. DOI: 10.1016/j.micpath.2019.04.030.
5. Matsumoto H<sup>1</sup>, Kuroki Y<sup>2</sup>, Higashi S<sup>2</sup>, Goda K<sup>1</sup>, Fukushima S<sup>1</sup>, Katsumoto R<sup>1</sup>, Oosawa M<sup>1</sup>, Murao T<sup>1</sup>, Ishii M<sup>1</sup>, Oka K<sup>2</sup>, Takahashi M<sup>2</sup>, Osaki T, Kamiya S, Shiotani A<sup>1</sup> (1Kawasaki Medical School, 2Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd.): Analysis of the colonic mucosa associated microbiota (MAM) using brushing samples during colonic endoscopic procedures. *J Clin Biochem Nutr* 65(2):132-137, 2019. DOI: 10.3164/jcbs.19-3.
6. Oguri N<sup>1</sup>, Sakuraba A<sup>1</sup>, Morikubo H<sup>1</sup>, Kikuchi O<sup>1</sup>, Sato T<sup>1</sup>, Tokunaga S<sup>1</sup>, Minowa S<sup>1</sup>, Ikezaki O<sup>1</sup>, Mitsui T<sup>1</sup>, Miura M<sup>1</sup>, Saito D<sup>1</sup>, Hayashida M, Mori H<sup>1</sup>, Osaki T, Kamiya S, Senoh M<sup>2</sup>, Kato H<sup>2</sup>, Hisamatsu T<sup>1</sup> (1Third Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, 2National Institute of Infectious Diseases): Community-acquired fulminant colitis caused by binary toxin-producing *Clostridium difficile* in Japan. *Clin J Gastroenterol* 12(4):325-329, 2019. DOI: 10.1007/s12328-019-00949-z.
7. Okuda M<sup>1,2</sup>, Lin Y<sup>1</sup>, Mabe K<sup>3</sup>, Kato M<sup>3</sup>, Osaki T, Miyamoto R<sup>1</sup>, Okumura A<sup>1</sup>, Kamiya S, Kikuchi S<sup>1</sup> (1Aichi Medical University School of Medicine, 2Hyogo College of Medicine, 3Hokkaido University): Serum pepsinogen values in Japanese junior high school students and *Helicobacter pylori* infection. *J Epidemiol* 30(1): 30-36, 2019. DOI: 10.2188/jea.JE20180119.
8. 徳永健吾<sup>1</sup>, 加藤はる<sup>2</sup>, 大崎敬子 (1杏林大学医学部総合医療学, 2国立感染症研究所): 高齢者での *Helicobacter pylori*除菌治療の適応と問題点. *日本ヘリコバクター学会誌* 21:21-29, 2019.
9. 大崎敬子, 北条史<sup>1</sup>, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂<sup>2</sup> (1杏林大学医学部共同研究部門実験動物施設, 2杏林大学保健学部): *Helicobacter pylori*感染鉄欠乏性貧血モデル動物の作出. *無菌生物* 49(2):70-71, 2019.
10. Kamiya S, Yonezawa H, Osaki T: Role of probiotics in eradication therapy for *Helicobacter pylori* infection. *Adv Exp Med Biol* 1149:243-255, 2019. DOI: 10.1007/5584\_2019\_369.
11. Niikura M, Fukutomi T<sup>1</sup>, Fukui K, Inoue SI<sup>2</sup>, Asahi H, Kobayashi F<sup>3</sup> (1Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, 2Nagasaki University, 3Azabu University): G-strand binding protein 2 is involved in asexual and sexual development of *Plasmodium berghei*. *Parasitol Int* 76:102059, 2020. DOI: 10.1016/j.parint.2020.102059.

## 報告書

1. 新倉保: 公益財団法人大山健康財団 第44回学術研究助成金 成果報告「脂肪組織が関わる新たな妊娠マラリア病態発症機構の解明と診断技術の開発」. 公益財団法人大山健康財団2019年度版年報 No.44, 42-45, 2019.

## 衛生学公衆衛生学教室

## 講演

1. Yoshida M, Mizuki N, Takeuchi M, Yamane T, Okada E: A large-scale, epidemiologic study of the influence of ultraviolet exposure on myopia progression. -A 5-year follow-up study approximately 57,000 Japanese patients'eyes-. ARVO 2019, USA, Apr 28th-May 2nd, 2019.
2. 菅田慎一: 過食によって生じる糖尿病メダカの眼病変と腎病変. 第73回日本栄養食糧学会大会, 静岡, 2019年5月17-19日.
3. 菅田慎一: メダカに見える加齢変化. 京都大学理学研究科生物科学専攻生物物理学系主催セミナー, 京都, 2019年6月19日.
4. Shirato K, Koda T, Takanari J, Ogasawara J, Sakurai T, Ohno H, Kizaki T: ETAS®50 attenuates UV-B irradiation-induced IL-6 expression by suppressing Akt phosphorylation in normal human dermal fibroblasts. The 27th Annual Meeting of International Congress on Nutrition and Integrative Medicine (ICNIM 2019), Sapporo, July 27th-28th, 2019.
5. Alimu A, Shirato K, Ogasawara J: Oligonol® attenuates pesticide-induced ROS production in 3T3-L1 adipocytes. The 27th Annual Meeting of International Congress on Nutrition and Integrative Medicine (ICNIM 2019), Sapporo, July 27th-28th, 2019.
6. 菅田慎一, 吉田正雄, 石川守, 荻田香苗: メダカができる地域のワンヘルスアプローチの模索. 第29回九州農村医学会, 熊本, 2019年8月3日.
7. 櫻井拓也, 白土健, 加藤久詞, 石橋義永, 井澤鉄也, 大石修司, 芳賀脩光, 大野秀樹, 木崎節子: ページュ脂肪細胞の分化に伴う遺伝子発現変化の網羅的解析. 第74回日本体力医学会大会, つくば, 2019年9月19-21日.
8. 関根逸人, 渡辺歩, 渡邊雅巳, 高橋恭子, 山田義憲, 岳真一郎, 吉田正雄: 在宅高齢者における1年後の歩行状態の予測因子~デイケア利用者の6分間歩行距離の追跡調査から~. 第61回全日本病院学会in 愛知, 名古屋, 2019年9月28-29日.
9. 吉田正雄, 岳真一郎, 菅田慎一, 原田まつ子, 荻田香苗: 屈折度数の変動に関する大規模疫学調査 -日本人約29万眼を対象にした5年間の追跡研究-. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23-25日.
10. 白土健, 木崎節子: マクロファージにおけるO-結合型N-アセチルグルコサミン修飾と炎症性応答のクロストークの解析. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
11. 荻田香苗, 吉田正雄, 菅田慎一, 原田まつ子: 大気中粒子状物質レベルと循環機能障害との関係-文献レビューとモニタリングツールの検討-. 第84回日本健康学会, 長崎, 2019年11月1-2日.
12. 荻田香苗: 就労女性をめぐる現状とジェンダーギャップ解消への道のり. 日本産業衛生学会 関東地方会第287回例会, 東京, 2019年11月30日.
13. 菅田慎一: マイクロプラスチック摂取が糖尿病モデル水棲生物の合併症と生殖機能に及ぼす影響. 北里大学医学部衛生学/公衆衛生学TM (Technical Meeting) セミナー, 相模原, 2020年2月14日.
14. 阿部麻友子, 渡邊舞子, 山崎絵里, 大嶋翔, 高橋恭子, 岳真一郎, 吉田正雄: 慢性期患者の経口摂取を予測する因子の検討 -3ヶ月間の嚥下機能およびADL評価

の結果から-. 第7回慢性期リハビリテーション学会, 岡山, 2020年2月27-28日. (誌上発表)

15. 塚本美佳子, 金野友菜, 我妻徹, 岸上直樹, 岳真一郎, 吉田正雄: 全盲の通所リハビリテーション利用者が生活意欲向上を得るまで -6ヶ月間の機能訓練を経て-. 第7回慢性期リハビリテーション学会, 岡山, 2020年2月27-28日. (誌上発表)
16. 櫻井拓也, 白土健, 加藤久詞, 石橋義, 井澤鉄也, 芳賀脩光, 大野秀樹, 木崎節子: 脂肪細胞のページュ化に伴う遺伝子発現変化の包括的解析. 第90回日本衛生学会学術総会, 盛岡, 2020年3月26-28日. (誌上発表)
17. 白土健, 木崎節子: マクロファージの炎症性応答におけるヘキソサミン経路の役割. 第90回日本衛生学会学術総会, 盛岡, 2020年3月26-28日. (誌上発表)
18. 小笠原準悦, アリムアミラ, 白土健, 吉田貴彦: 鉛摂取が引き起こすラット後腹壁白色脂肪組織の変化. 第90回日本衛生学会学術総会, 盛岡, 2020年3月26-28日. (誌上発表)
19. 菅田慎一, 吉田正雄, 荻田香苗: マイクロプラスチック摂取が糖尿病合併症モデル水棲生物に及ぼす影響. 第90回日本衛生学会学術総会, 盛岡, 2020年3月26-28日. (誌上発表)

## 論文

1. Chisada S, Yoshida M, Karita K: Ingestion of polyethylene microbeads affects the growth and reproduction of medaka, *Oryzias latipes*. *Environmental Pollution* 254 (Part B):113094, 2019. DOI: 10.1016/j.envpol.2019.113094
2. Chisada S, Sugiyama A<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Okayama University of Science): Renal lesions in leptin receptor-deficient medaka (*Oryzias latipes*). *Journal of Toxicologic Pathology*, 32(4):297-303, 2019. DOI:10.1293/tox.2019-0021
3. Ohtsu I<sup>1</sup>, Ishikawa M<sup>2</sup>, Matsunaga N, Karita K, Yoshida M, Ochiai H<sup>1</sup>, Shirasawa T<sup>1</sup>, Yoshimoto T<sup>1</sup>, Minoura A<sup>1</sup>, Sai S<sup>1</sup>, Kokaze A<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Showa University School of Medicine, <sup>2</sup>Mito Red Cross Hospital): Longevity-associated mitochondrial DNA 5178 C/A polymorphism modifies effect of aging on renal function in male Japanese health checkup examinees: an exploratory cross-sectional study. *Journal of Physiological Anthropology* 38(1):12, 2019. DOI: 10.1186/s40101-019-0204-3
4. The Committee for Recommendation of Occupational Exposure Limits, Japan Society for Occupational Health : Araki A<sup>1</sup>, Azuma K<sup>2</sup>, Endo G<sup>3</sup>, Endo Y<sup>所属記載なし</sup>, Fukushima T<sup>4</sup>, Hara K<sup>5</sup>, Harada K<sup>6</sup>, Hori H<sup>5</sup>, Horie S<sup>5</sup>, Ichiba M<sup>7</sup>, Ichihara G<sup>8</sup>, Ikeda M<sup>6</sup>, Ito A<sup>5</sup>, Ito Y<sup>9</sup>, Iwasawa S<sup>10</sup>, Kakumu T<sup>4</sup>, Kamijima M<sup>9</sup>, Karita K, Katoh T<sup>11</sup>, Kawai T<sup>所属記載なし</sup>, Kawamoto T<sup>5</sup>, Kumagai S<sup>所属記載なし</sup>, Kusaka Y<sup>12</sup>, Matsumoto A<sup>7</sup>, Miyagawa M<sup>13</sup>, Miyauchi H<sup>5</sup>, Morimoto Y<sup>5</sup>, Nagano K<sup>所属記載なし</sup>, Naito H<sup>14</sup>, Nakajima T<sup>15</sup>, Nakano M<sup>16</sup>, Nomiyama T<sup>17</sup>, Okuda H<sup>18</sup>, Okuda M<sup>19</sup>, Omae K<sup>16</sup>, Sakurai H<sup>16</sup>, Sato K<sup>12</sup>, Sobue T<sup>20</sup>, Suwazono Y<sup>21</sup>, Takebayashi T<sup>16</sup>, Takeshita T<sup>22</sup>, Takeuchi A<sup>3</sup>, Takeuchi A<sup>16</sup>, Tanaka M<sup>4</sup>, Tanaka S<sup>23</sup>, Tsukahara T<sup>17</sup>, Tsunoda M<sup>10</sup>, Ueno S<sup>5</sup>, Ueyama J<sup>24</sup>, Umeda Y<sup>18</sup>, Yamamoto K<sup>25</sup>, Yamano Y<sup>26</sup>, Yamauchi T<sup>26</sup>, Yano E<sup>13</sup> (<sup>1</sup>Hokkaido University, <sup>2</sup>Kindai University, <sup>3</sup>Japan Industrial Safety and Health Association, <sup>4</sup>Fukushima Medical University, <sup>5</sup>University of Occupational

and Environmental Health, Japan, <sup>6</sup>Kyoto University, <sup>7</sup>Saga University, <sup>8</sup>Tokyo University of Science, <sup>9</sup>Nagoya City University, <sup>10</sup>National Defense Medical College, <sup>11</sup>Kumamoto University, <sup>12</sup>University of Fukui, <sup>13</sup>Teikyo University, <sup>14</sup>Fujita Health University, <sup>15</sup>Chubu University, <sup>16</sup>Keio University, <sup>17</sup>Shinshu University, <sup>18</sup>Japan Bioassay Research Center, <sup>19</sup>Yamaguchi university, <sup>20</sup>Osaka University, <sup>21</sup>Chiba University, <sup>22</sup>Wakayama Medical University, <sup>23</sup>Jumonji University, <sup>24</sup>Nagoya University, <sup>25</sup>The University of Tokyo, <sup>26</sup>Showa University) : Occupational exposure limits for cumene, 2,4 - dichlorophenoxy acetic acid, silicon carbide whisker, benzyl alcohol, and methylamine, and carcinogenicity, occupational sensitizer, and reproductive toxicant classifications. Journal of Occupational Health 61(4):328-330, 2019. DOI: 10.1002/1348-9585.12073

5. Koda T<sup>1</sup>, Shirato K, Takanari J<sup>2</sup>, Imai H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Healthcare University, <sup>2</sup>Amino Up Co. Ltd.): Effects of a Standardized Extract of Asparagus officinalis Stem on Photoaging in the Epidermal Layer of the Skin Using Cultured Keratinocytes. Natural Product Communications 14(6):1-6, 2019. DOI: 10.1177/1934578X19857345
6. 白土健, 木崎節子: マクロファージのインスリン受容体の生理・病理的役割: 習慣的運動の効果. 別冊 BIO Clinica 慢性炎症と疾患 8(1):105-109, 2019.
7. 白土健, 木崎節子: 2型糖尿病におけるマクロファージインスリン受容体の役割: 運動とのクロストーク (転載掲載). BIO Clinica 34(11):1140-1144, 2019.
8. 白土健, 木崎節子: マクロファージインスリンシグナルを介した全身性慢性炎症と運動効果の解析 (転載掲載). 別冊 BIO Clinica 慢性炎症と疾患 8(2):86-90, 2019.
9. 山崎絵里<sup>1</sup>, 高橋恭子<sup>1</sup>, 阿部麻友子<sup>1</sup>, 渡邊舞子<sup>1</sup>, 岳真一郎<sup>1</sup>, 吉田正雄 (1埼玉回生病院): 慢性期患者の経口摂取を予測する因子の検討 - 嚥下機能評価を3ヶ月間追跡した結果から - . 全日本病院協会雑誌 29(1):100-103, 2019.

## 著書

1. 荻田香苗 (監修・分担): 配慮が必要な労働者に対する職場の支援-妊娠・出産・育児に関する健康管理. 職場の健康がみえる. 医療情報科学研究所編. 東京, メディックメディア, 2019. p.246-259.
2. 荻田香苗 (分担): 保健編6章-健康と環境. 中学校保健体育. 文部科学省検定保体702. 東京, 大日本図書, 2020. p.150-166.
3. 吉田正雄 (分担): 食習慣. エッセンシャル 社会・環境と健康第2版第11刷. 高島豊, 櫻井裕編. 東京, 医歯薬出版, 2020. p.111-114.
4. 吉田正雄 (分担): 学校保健対策. エッセンシャル 社会・環境と健康第2版第11刷. 高島豊, 櫻井裕編. 東京, 医歯薬出版, 2020. p.237-242.
5. Chisada S, Kamei Y: Chapter1 [Medaka Management]. Medaka: Biology, Management, and Experimental Protocols Volume 2. Wiley-Blackwell, USA, 2019.

## 報告書

1. 荻田香苗, 菅田慎一 (分担): メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー; 「水俣病に関する総合的研究 (重金属等による健康影響に関する総合的研究)」。平成31年度環境省委託業務報告書, 2020年

3月.

## その他

1. 吉田正雄: 第78回日本公衆衛生学会総会 優秀ポスター賞, 屈折度数の変動に関する大規模疫学調査 - 日本人約29万眼を対象にした5年間の追跡研究 - . 2019年10月25日.
2. 吉田正雄: わたしの書棚から特別篇「読書の秋を楽しもう」. 杏林大学新聞 第22号 p.6-7, 2019年10月10日.
3. 白土健: 第48回杏林医学会総会 準優秀賞, マクロファージにおけるO-結合型N-アセチルグルコサミン修飾と炎症性応答のクロストークの解析. 2019年11月16日.

## 法医学教室

## 講演

1. 池松夏紀, 桐生京佳, Brian Waters, 原健二, 高山みお, 松末綾, 柏木正之, 北村修, 久保真一: 透析中に発症した小脳出血の1剖検例. 第103次日本法医学会学術全国集会, 仙台, 2019年6月12-14日.
2. 奈良明奈, 山田千歩, 児玉孝憲, 吉田昌記, 岩原香織, 高木徹也: 入手経路不明のFentanyl貼付剤の使用により死亡した1剖検例. 第103次日本法医学会学術全国集会, 仙台, 2019年6月12-14日.
3. 高木徹也, 山田千歩, 奈良明奈, 児玉孝憲, 吉田昌記, 岩原香織: 前立腺肥大症が原因となった突然死の1剖検例. 第103次日本法医学会学術全国集会, 仙台, 2019年6月12-14日.
4. 高篠智, 氣賀澤秀明, 武市敏明, 吉田昌記, 桐生京佳, 北村修: 法医解剖中に認められた両側性過長茎状突起の1例. 第103次日本法医学会学術全国集会, 仙台, 2019年6月12-14日.
5. 濱野正嘉, 五十嵐義幸, 美邊暁, 青山崇, 舟山一寿, 武市敏明, 高塚尚和, 塚正彦: 石川県と新潟県における溺死体の傾向及び珪藻プランクトン検査結果の比較. 第103次日本法医学会学術全国集会, 仙台, 2019年6月12-14日.
6. 塚正彦, 武市敏明, 北廣雅絵: 未破裂脳動脈瘤における法医試料を用いたプロテアーゼ活性評価の試み. 第103次日本法医学会学術全国集会, 仙台, 2019年6月12-14日.
7. 山田真嗣, 桐生京佳, 高篠智, 吉田昌記, 武市敏明, 北村修: アムロジピンが中毒域で検出された柑橘類による食物誤嚥の1剖検例. 第2回法医病理学会学術全国集会, 鹿児島, 2019年9月6-7日.
8. 山田真嗣, 桐生京佳, 高篠智, 吉田昌記, 武市敏明, 高橋かすみ, 北村修: Boerhaave症候群: アルコール多飲者における食道破裂ならびに致死的膿胸を認めた1例. 第88回日本法医学会学術関東地方集会, 東京, 2019年10月12日. (誌上開催)
9. 高篠智, 山田真嗣, 武市敏明, 吉田昌記, 高橋かすみ, 桐生京佳, 北村修: 法医解剖で経験した性転換手術の1例. 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会, 宇部, 2020年3月25-27日. (誌上開催)

## 論文

1. Takeichi T, Hori O<sup>1</sup>, Hattori T<sup>1</sup>, Kiryu K, Zuka M<sup>1</sup>, Kitamura O (<sup>1</sup>Kanazawa University) : Pre-administration of low-dose methamphetamine enhances movement and neural activity after high-dose methamphetamine administration in the striatum. Neurosci Lett 15; 703: 119-124, 2019.
2. 濱野正嘉<sup>1,3</sup>, 五十嵐義幸<sup>1,3</sup>, 七條美里<sup>1,3</sup>, 永江圭吾

1,3, 濱隆昭<sup>1,3</sup>, 松見泰輝<sup>1,3</sup>, 清水功<sup>1,3</sup>, 美邊暁<sup>1</sup>, 青山崇<sup>2</sup>, 舟山一寿<sup>2</sup>, 武市敏明, 高塚尚和<sup>2</sup>, 塚正彦<sup>1</sup> (1金沢大学, <sup>2</sup>新潟大学, <sup>3</sup>第9管区海上保安庁): 石川県と新潟県における溺死体の傾向及び珪藻プランクトン検査結果の比較. 法医学の実際と研究 62: 129-137, 2019.

#### その他

1. 北村修: 令和元年度第3回検案業務サポート研修会主催, 三鷹, 2020年1月16日.

#### 共同研究施設

##### RI部門

#### 講演

##### 学会発表

1. Kofuji T, Mishima T, Fujiwara T, Saito A, Terao Y and Akagawa K: Seizure phenotype in syntaxin1B gene knockout mice was caused by impaired GABAergic system. 第42回日本神経科学学会大会, 新潟, 2019年7月25-28日.
2. Mishima T, Fujiwara T, Kofuji T, Saito A, Terao Y and Akagawa K: Role of syntaxin 1B in GABA-mediated regulation of network activities: Behavioral and neuronal analysis of fever-associated epilepsy syndromes in syntaxin 1B gene-ablated mice. 第42回日本神経科学学会大会, 新潟, 2019年7月25-28日.

##### フローサイトメトリー部門

#### 講演

1. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, and M Ohyama: Enhanced recovery of PD-1 expression the cell surface of PD-1 negative T cells in nivolumab-treated advanced melanoma patients. Society for Investigative Dermatology 2019, USA, May 8th-11th, 2019.
2. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Ohyama M: Restoration of cell surface PD-1 expression in intracellular PD-1 positive T cell subset in nivolumab-treated advanced melanoma patients. The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Aomori, Nov 8th 2019.

#### 報告書

1. 高橋良: ステロイドパルス療法における自然免疫細胞を介した即効性炎症反応抑制機序の解明. 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)科学研究費助成事業 研究成果 報告書.

#### 実験動物施設部門

#### 講演

1. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: 採取した環境土壌における *Helicobacter pylori* の生存性について. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
2. Yonezawa H, Motegi M, Osaki T, Hojo F, Kuroki Y, Oka K, Kurata S, Hanawa T, Takahashi M, Kamiya S: Effect of lantibiotics bacteriocin produced by oral bacteria on intestinal microbiota. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
3. 花輪智子, 蒲地一成, 米澤英雄, 蔵田訓, 大崎敬子, 北条史, 神谷茂: 百日咳菌の外膜ベシクルに含まれる

病原因子の解析. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.

4. 大崎敬子, 北条史, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 胆道癌患者における腸肝 *Helicobacter* 属感染. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23日-25日.
5. Hanawa T, Miyanaga K, Hojo F, Ohura N, Ohnishi H, Kamiya S, Tanji Y, Matsuda T: Efficacy of novel MRSA phage treatment in murine wound infection model. ASM Microbe 2019, USA, June 20th-24th, 2019.
6. 徳永健吾, 中村正彦, 大崎敬子, 長瀬清隆, 北条史, 米澤英雄, 井田陽介, 田中昭文, 久松理一, 高橋信一, 岡本晋: *Helicobacter heilmanni* like organism (HHLO) 感染症の検討. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
7. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 神谷茂: 環境土壌および滅菌土壌内における *Helicobacter pylori* の生存性について. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
8. 大崎敬子, 林櫻松, 米澤英雄, 北条史, 奥田真珠美, 神谷茂, 菊地正悟: 胆道癌および膵臓がん患者における腸肝系 *Helicobacter* 属細菌の感染状況について. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
9. 徳永健吾, 大崎敬子, 井田陽介, 北条史, 米澤英雄, 長瀬清隆, 久松理一, 神谷茂, 岡本晋: ウレアーゼ産生菌を証明しえた尿素呼吸試験偽陽性 *Helicobacter pylori* 除菌後自己免疫性胃炎の2例. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月22日.
10. 宮岡千尋, 花輪智子, 北条史, 河野洋平, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 川上速人, 青山隆夫, 神谷茂: (p)ppGpp欠損変異による *Helicobacter pylori* の性状の変化. 第33回日本バイオフィルム学会学術集会, 久留米, 2019年7月5-6日.
11. 米澤英雄, 茂木瑞穂, 北条史, 黒木靖敏, 岡健太郎, 高橋志達, 大崎敬子, 神谷茂: *Streptococcus mutans* が産生する lantibiotics bacteriocin が及ぼす腸内細菌叢への影響の解明. 第102回日本細菌学会関東支部総会, 松本, 2019年10月3-4日.
12. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: 環境土壌中におけるヘリコバクターピロリと病原細菌の生存性について. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.
13. 米澤英雄, 茂木瑞穂, 北条史, 黒木靖敏, 岡健太郎, 高橋志達, 大崎敬子, 神谷茂: 口腔内産生 lantibiotics bacteriocin が及ぼす腸内細菌叢への影響. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.
14. 大崎敬子, 米澤英雄, 北条史, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 胆道系癌患者における腸管系 *Helicobacter* 属細菌特異的抗原の決定. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.

#### 論文

1. Zaman C, Osaki T, Furuta Y, Hojo F, Yonezawa H, Konno M, Kurata S, Hanawa T, Kamiya S: Enhanced infectivity of strains of *Helicobacter pylori* isolated from children compared with parental strains. J Med Microbiol 68(4): 633-641, 2019.
2. Yonezawa H, Osaki T, Hojo F, Kamiya S: Effect of *Helicobacter pylori* biofilm formation on susceptibility to amoxicillin, metronidazole and clarithromycin. Microb Pathog 132: 100-108, 2019.



## 生物学教室

### 講演

1. Tanaka T, Higuchi T, Kohatsu S, Sato K, Awasaki T, Yamamoto D: The neural basis underlying species-specific courtship behavior in *Drosophila subobscura*. Neuro 2019, 新潟, 2019年7月25 - 28日.
2. Awasaki T: Remodeling of Glial organization during *Drosophila* metamorphosis. Memorial Conference of Dr. Goro Eguchi in Kumamoto, 熊本, 2019年11月28日.
3. Ohashi T, Ishikawa Y, Awasaki T, Kamikouchi A: Search for auditory neurons that shape song selectivity in two *Drosophila* species. 日本比較生理生化学会第41回大会, 東京, 2019年11月30日 - 12月1日.
4. Ito F, Awasaki T: Molecular Basis for Diversity of Temperature Preference in *Drosophila* Species. 第42回日本分子生物学会年会, 福岡, 2019年12月4日.
5. 田中良弥, 樋口智大, 古波津創, 栗崎健, 山元大輔: ショウジョウバエの性決定遺伝子から迫る配偶行動の種特異性を生み出す神経機構. 日本生態学会第67回大会, 名古屋, 2020年3月7日.

### 論文

1. 栗崎健: ショウジョウバエ脳におけるグリア組織の再編成. 実験医学 37: 2834-2841, 2019.
2. Kato K, Orihara-Ono M, Awasaki T: Multiple Lineages Enable Robust Development of the Neuropil-Glia Architecture in Adult *Drosophila*. Development 147: dev184085, 2020. doi: 10.1242/dev.184085

## 物理学教室

### 講演

1. Tohyama M: Applications of time-dependent density-matrix approach. APCTP Focus Program in Nuclear Physics: Nuclear Many-Body Theories. Korea, July 8, 2019.
2. 遠山満: 密度行列方程式の連結チェーンの切断法III. 日本物理学会2019年秋季大会, 山形, 2019年9月18日.
3. 大谷宗久: 非一様カイラル凝縮相における軸性カレント. 日本物理学会第75回年次大会, 名古屋, 2020年3月17日. (web開催)

### 論文

1. Tohyama M, Schuck P<sup>1</sup> (<sup>1</sup>IPN Orsay): Truncation scheme of time-dependent density-matrix approach III. Eur Phys J A 55: 74-1-11, 2019.
2. Tohyama M: Applications of time-dependent density-matrix approach. Front Phys 8: 67, 2020. DOI: 10.3389/fphy.2020.00067

## 化学教室

### 講演

1. Suga K, Yamamoto S, Nishino M, Terao Y, Akagawa K, Ushimaru M: Golgi stress affects betaAPP processing and induces caspase3-dependent apoptosis in neuronal cells. 第62回日本神経化学会大会, 新潟, 2019年7月27日.
2. 山本幸子, 須賀圭, 誉田晴夫, 丑丸真: 分泌経路型  $Ca^{2+}/Mn^{2+}$ -ATPaseの特異的阻害剤の探索. 第92回日本生化学会大会, 横浜, 2019年9月19日.

## 英語教室

### 講演

1. Kuroda K, Yokono H, Abe K, Tsuchiya T, Asao Y, Kobayashi Y, Kanamaru T, Tagawa T: Rudimentary modeling of acceptability judgement from a large scale, unbiased data. The 41st Annual Meeting for Cognitive Science Society, Canada, 2019.
2. 黒田航, 阿部慶賀, 横野光, 土屋智行, 小林雄一郎, 金丸敏幸, 浅尾仁彦, 田川拓海: 容認度評定に影響する要因の定量的評価: 日本語容認度評定データ (ARDJ) から得られた知見. 日本認知科学会第36回大会, 浜松, 2019年9月5-7日.
3. 黒田航: 表現が(“文法的”かどうかより)“通用する”かどうかをまじめに考えると言語学はどうなるか?. 文法の動的体系性を探る(1), 東京, 2020年1月11日.
4. 黒田航: 大規模調査からわかった刺激(文)の類型と反応(者)の類型. 言語情報国際ワークショップ, 静岡, 2020年2月12日.
5. Kuroda K: Reassessing PCA of Acceptability Rating Data for Japanese ARDJ using kernel MVA. 言語処理学会第26回年次大会, Online Conference via Zoom, 2020年3月16-19日.

### 論文

1. Khan FA: Exercise Medicine: Athletic Performance in the Heat and Humidity during Summer Olympic Games. Bulletin of Policy and Management, Shobi University 35:75-78, 2020.
2. Khan FA: Sports Injuries: Diagnosis of External Impingement of the Shoulder in Rugby Players. Journal of Policy Studies, Shobi University 29:61-64, 2020.

## 保 健 学 部

臨床検査技術学科	149
健康福祉学科	157
救急救命学科	159
看護学科・看護学専攻	
基礎・在宅看護学研究室	159
成人看護学研究室	160
高齢者看護学研究室	160
母子看護学研究室	161
助産学研究室	161
小児看護学教室	161
地域看護学研究室	161
精神看護学教室	163
医療科学 I 教室	163
看護学科・看護養護教育学専攻	163
臨床工学科	165
理学療法学科	168
作業療法学科	173
診療放射線技術学科	177
臨床心理学科	180



## ● 臨床検査技術学科 ●

## 相磯 聡子

## 講演

1. 相磯聡子, 上田真樹子: 簡便なmicroRNA 5'-isoform解析法. 第42回日本分子生物学会会, 福岡, 2019年12月6日.

## 大迫 俊二

## 講演

1. 瀧上周, 大木翔太, 堀口幸太郎, 長谷川瑠美, 大迫俊二: ラット嗅球における拘束ストレスの影響. 第162回日本獣医学学会学術集会, つくば, 2019年5月10-12日.
2. 堀口幸太郎, 吉田彩舟, 中倉敬, 藤原研, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: ラット下垂体中葉Marginal Cell Layerに存在するSOX2陽性細胞の単離と分化誘導. 第92回日本内分泌学会学術総会, 仙台, 2019年5月9-11日.
3. 堀口幸太郎, 吉田彩舟, 中倉敬, 藤原研, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: マウス下垂体前葉におけるCD9/CD81陽性細胞の観察. 第34回日本下垂体研究会学術集会, 松江, 2019年8月7-9日.
4. 堀口幸太郎, 藤原研, 吉田彩舟, 中倉敬, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: ラット下垂体中葉側Marginal Cell Layer細胞の解析. 第45回神経内分泌学会, 東京, 2019年10月25-26日.
5. 堀口幸太郎, 藤原研, 吉田彩舟, 中倉敬, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: ラット下垂体中葉側Marginal Cell Layerの観察. 第125回日本解剖学会, 2019年3月25-27日. (誌上開催: 抄録集p.148)

## 論文

1. Horiguchi K, Yoshida S, Hasegawa R, Takigami S, Ohsako S, Yashiro T, Kato T, Kato Y: Isolation and characterization of cluster of differentiation 9-positive ependymal cells as potential adult neural stem/progenitor cells in the third ventricle of adult rats. *Cell Tissue Res.* 379:497-509, 2020. DOI: 10.1007/s00441-019-03132-5

## 岡田 洋二

## 論文

1. 関健介<sup>1</sup>, 森数美<sup>2</sup>, 岡田洋二 (<sup>1</sup>杏林大・保・診療放射線技術学科, <sup>2</sup>杏林大・保・救急救命学科): 羅漢果水抽出物の抗酸化活性に関する速度論的研究. *杏林医会誌*50: 117-123, 2019.

## 神谷 茂

## 講演

1. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 田口晴彦, 神谷茂: マウスを用いた*Mycoplasma pneumoniae*菌体抗原感作モデルにおけるIL-21の役割. 第93回日本感染症学会総会, 名古屋, 2019年4月4-6日.
2. 大崎敬子, 北条史, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 胆道癌患者における腸肝*Helicobacter*属感染. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
3. 花輪智子, 蒲地一成, 米澤英雄, 蔵田訓, 大崎敬子, 北条史, 神谷茂: 百日咳菌の外膜ベシクルに含まれる病原因子の解析. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
4. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: Role of IL-21 in *Mycoplasma pneumoniae* antigen sensitization mouse model. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
5. Yonezawa H, Motegi M, Osaki T, Hojo F, Kuroki Y, Oka K,

Kurata S, Hanawa T, Takahashi M, Kamiya S: Effect of lantibiotics bacteriocin produced by oral bacteria on intestinal microbiota. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.

6. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: 採取した環境土壌における*Helicobacter pylori*の生存性について. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
7. Hanawa T, Miyanaga K, Hojo F, Ohura N, Ohnishi H, Kamiya S, Tanji Y, Matsuda T: Efficacy of novel MRSA phage treatment in murine wound infection model. *ASM Microbe* 2019, San Francisco, June 20th-24th, 2019.
8. 大崎敬子, 林櫻松, 米澤英雄, 北条史, 奥田真珠美, 神谷茂, 菊地正悟: 胆道癌および膵臓がん患者における腸肝系*Helicobacter*属細菌の感染状況について. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
9. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 神谷茂: 環境土壌および滅菌土壌内における*Helicobacter pylori*の生存性について. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月21-23日.
10. 徳永健吾, 大崎敬子, 井田陽介, 北条史, 米澤英雄, 長濱清隆, 久松理一, 神谷茂, 岡本晋: ウレアーゼ産生菌を証明しえた尿素呼吸試験偽陽性*Helicobacter pylori*除菌後自己免疫性胃炎の2例. 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会, 名古屋, 2019年6月22日.
11. 宮岡千尋, 花輪智子, 北条史, 河野洋平, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 川上速人, 青山隆夫, 神谷茂: (p)ppGpp欠損変異による*Helicobacter pylori*の性状の変化. 第33回日本バイオフィーム学会学術集会, 久留米, 2019年7月5-6日.
12. 神谷茂: 腸内細菌叢(マイクロビオータ)と健康・疾病. 宮前区医師会・宮前区薬剤師会学術研修会, 川崎, 2019年7月25日.
13. 米澤英雄, 茂木瑞穂, 北条史, 黒木靖敏, 岡健太郎, 高橋志達, 大崎敬子, 神谷茂: *Streptococcus mutans*が産生するlantibiotics bacteriocinが及ぼす腸内細菌叢への影響の解明. 第102回日本細菌学会関東支部総会, 松本, 2019年10月3-4日.
14. 花輪智子, 大西宏明, 神谷茂, 松田剛明: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対するphiMR003ファージの効果—マウス創傷感染モデルを用いた検討. 第68回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 仙台, 2019年10月16-18日.
15. 神谷茂: 腸内フローラと健康. 杏林大学井の頭図書館ミニレクチャー, 三鷹, 2020年1月16日.
16. 神谷茂: 腸内細菌叢と健康・疾病. 第53回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 東京, 2020年1月25-26日.
17. 三島由裕子, 大崎敬子, 神谷茂, 石井さなえ: 慢性鼻腔炎症マウスにおける腸内細菌叢の変動. 第53回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 東京, 2020年1月25-26日.
18. 大崎敬子, 米澤英雄, 北条史, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 胆道系癌患者における腸管系*Helicobacter*属細菌特異的抗原の決定. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.
19. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: Effects of *Mycoplasma pneumoniae* infection on Th2 immune response. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.
20. 米澤英雄, 茂木瑞穂, 北条史, 黒木靖敏, 岡健太郎, 高橋志達, 大崎敬子, 神谷茂: 口腔内産生lantibiotics bacteriocinが及ぼす腸内細菌叢への影響. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.
21. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: 環境土壌中におけるヘリコバクターピロリと病原細菌の生存性について. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.

## 論文

1. Zaman C<sup>1</sup>, Osaki T<sup>2</sup>, Furuta Y<sup>2</sup>, Hojo F<sup>3</sup>, Yonezawa H<sup>1</sup>,

- Konno M<sup>4</sup>, Kurata S<sup>1</sup>, Hanawa T<sup>1</sup>, Kamiya S (1Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, 2Hokkaido University Research Center for Zoonosis Control, 3Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University, 4Sapporo Kosei General Hospital): Enhanced infectivity of strains of *Helicobacter pylori* isolates from children compared with parental strains. *J Med Microbiol* 68(4):633-641, 2019. DOI: 10.1099/jmm.0.000918.
- Hanawa T<sup>1</sup>, Shimoda-Komatsu Y<sup>2</sup>, Araki K<sup>3</sup>, Ohyama M<sup>2</sup>, Ohnishi H<sup>4</sup>, Kamiya S, Matsuda T<sup>5</sup> (1Department of Infectious Diseases, 2Department of Dermatology, 3Department of Clinical Laboratory, 4Department of Laboratory Medicine, 5Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine): Skin and soft tissue infections caused by different genotypes of PVL-positive community-acquired methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* strains. *Jpn J Infect Dis* 73(1):72-75, 2019.
  - Yonezawa H<sup>1</sup>, Osaki T<sup>1</sup>, Hojo F<sup>2</sup>, Kamiya S (1Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, 2Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University): Effect of *Helicobacter pylori* biofilm formation on susceptibility to Amoxicillin, Metronidazole and Clarithromycin. *Microbial Pathogenesis* 26:132:100-108, 2019. DOI: 10.1016/j.micpath., 2019.
  - Matsumoto H<sup>1</sup>, Kuroki Y<sup>2</sup>, Higashi S<sup>2</sup>, Goda K<sup>1</sup>, Fukushima S<sup>1</sup>, Katsumoto R<sup>1</sup>, Oosawa M<sup>1</sup>, Murao T<sup>1</sup>, Ishii M<sup>1</sup>, Oka K<sup>2</sup>, Takahashi M<sup>2</sup>, Osaki T<sup>3</sup>, Kamiya S, Shiotani A<sup>1</sup> (1Kawasaki Medical School, 2Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd. 3Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine): Analysis of the colonic mucosa associated microbiota (MAM) using brushing samples during colonic endoscopic procedures. *J Clin Biochem Nutr* 65(2):132-137, 2019. DOI: 10.3164/jcbn.19-3.
  - Oguri N<sup>1</sup>, Sakuraba A<sup>1</sup>, Morikubo H<sup>1</sup>, Kikuchi O<sup>1</sup>, Sato T<sup>1</sup>, Tokunaga S<sup>1</sup>, Minowa S<sup>1</sup>, Ikezaki O<sup>1</sup>, Mitsui T<sup>1</sup>, Miura M<sup>1</sup>, Saito D<sup>1</sup>, Hayashida M, 1 Mori H<sup>1</sup>, Osaki T<sup>2</sup>, Kamiya S, Senoh M<sup>3</sup>, Kato H<sup>3</sup>, Hisamatsu T<sup>1</sup> (1Third Department of Internal Medicine, 2Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, 3National Institute of Infectious Diseases): Community-acquired fulminant colitis caused by binary toxin-producing *Clostridium difficile* in Japan. *Clin J Gastroenterol*.12 (4) 325-329, 2019. DOI: 10.1007/s12328-019-00949-z.
  - Kamiya S, Yonezawa H<sup>1</sup>, Osaki T<sup>1</sup>(1Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine): Role of probiotics in eradication therapy for *Helicobacter pylori* infection. *Adv Exp Med Biol* 369, 243-255, 2019. DOI: 10.1007/5584\_2019\_369.
  - 大崎敬子, 北条史<sup>1</sup>, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂 (1 杏林大学医学部共同研究部門実験動物施設) : *Helicobacter pylori* 感染鉄欠乏性貧血モデル動物の作出. *無菌生物* 49(2):70-71, 2019.
  - Okuda M<sup>1,2</sup>, Lin Y<sup>3</sup>, Mabe K<sup>4</sup>, Kato M<sup>4</sup>, Osaki T<sup>5</sup>, Miyamoto R<sup>1</sup>, Okumura A<sup>1</sup>, Kamiya S, Kikuchi S<sup>3</sup> (1Department of Pediatrics, Aichi Medical University School of Medicine, 2Department of General Medicine and Community Health Science, Hyogo College of Medicine, 3Department of Public Health, Aichi Medical University School of Medicine, 4Department of Gastroenterology, National Hospital Organization Hakodate Hospital, 5Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine): Serum pepsinogen values in Japanese junior high school students and *Helicobacter pylori* infection. *J Epidemiol* 30(1):30-36, 2020 doi:10.2188/jea.JE20180119
  - Pepoyan AZ<sup>1</sup>, Tsaturyan VV<sup>2</sup>, Badalyan M<sup>3</sup>, Weeks R<sup>4</sup>, Kamiya S, Chikindas ML<sup>4</sup>(1Food Safety and Biotechnology, Armenian National Agrarian University, 2Yerevan State Medical University, 3International Association for Human and Animals Health Improvement, 4Rutgers University, The State University of New Jersey): Blood protein polymorphisms and the gut bacteria: impact of probiotic *Lactobacillus acidophilus* Narine on *Salmonella* carriage in sheep. *Benef Microbes*, 11(2):183-189, 2020. doi: 10.3920/BM2019.0138.
- ### 著書
- Kamiya S, Backert S (Editors): *Helicobacter pylori* in Human Diseases. *Advances in Microbiology, Infectious Diseases and Public Health*. Volume 11, Switzerland, Springer Nature, 2019.
- ### 報告書
- 神谷茂: ヘリコバクター・ピロリの緊縮応答の生残、定着および病原性発現における役割の解析. 科学研究費基盤研究(C)(平成28年度~30年度) 実績報告書. 2019年5月.
- ### その他
- 神谷茂 (コメント): 免疫活性化作用に注目集まる乳酸菌~感染症への予防効果をどうみるか?. *日本医事新報* No.4967 p.8-11, 2019.
  - 神谷茂: 抗菌薬と腸内細菌叢. *食品免疫事典*2019.
  - 神谷茂: オーバービュー. *Point of Care Testing (POCT)*, セフィーロ No.29, p.1-8, 2019.
  - 神谷茂: 欧州科学財団 (ESF) 国際評価委員としてのFWOポスドク研究プロジェクトの評価. 2020年2月.
  - 神谷茂: 小児感染症Update. はじめに *臨床と微生物*. 47(1) p.1, 2020.
  - 神谷茂: 小児感染症Update. 編集後記 *臨床と微生物*. 47(1) p.90, 2020.
- ### 小林 治
- ### 講演
- 小林治: インフルエンザ迅速検査の方向性. 第67回日本化学療法学会総会, 東京, 2019年5月10日.
  - 小林治: 医療の何がお金になるのか. 杏林大学医学部同窓会東京第一支部講演会, 東京, 2019年6月8日.
  - 小林治: ベンジジアゼピン受容体作動薬の長期投与の算定について. 杏林大学医学部付属病院保険診療適正化講習会, 東京, 2019年9月26日.
  - 小林治: 研究倫理規程・細則の改定点. 杏林大学保健学部研究倫理講習会, 東京, 2019年10月4日.
  - 小林治: 発熱患者の外来診療. 杏林大学医学部同窓会秋田支部講演会, 秋田, 2019年10月26日.
  - 小林治: ウイルス感染症の最新情報. 東京都耳鼻科医会学術講演会・講習会 専門医共通講習, 東京, 2019年11月30日.
  - 小林治: COVID-19パンデミックで確認しておきたい事. 西多摩医師会緊急講演会, 東京, 2020年3月5日.
  - 小林治: COVID-19をどう制御するか. 杏林大学医学部同窓会群馬県支部講演会, 2020年3月19日.
  - 小林治: COVID-19をどう制御するか. 市原鶴岡病院緊急講演会, 2020年3月30日.
  - 小林治: COVID-19をどう制御するか. 大多喜病院緊急講演会, 千葉, 2020年3月30日.

## 論文

1. 小林治: ウイルス感染症の最新情報; 2020オリンピック・パラリンピック東京大会を前に臨床医が知っておくべき事. 都耳鼻会報 161, p.22-24, 2020.

## 著書

1. 小林治: 迅速検査のピットホール. Medical Practice vol. 36 臨時増刊号21-6. 東京, 株式会社文光堂, 2019.
2. 小林治: AIDS. 改訂第9版内科学書. 東京, 中山書店, 2019. p.146-152.
3. 小林治: ヒトパピローマウイルス感染症. 改訂第9版内科学書. 東京, 中山書店, 2019. p.152.
4. 小林治: ウエストナイル熱. 改訂第9版内科学書. 東京, 中山書店, 2019. p.152.
5. 小林治: ヘンドラウイルス感染症 ニパウイルス感染症. 改訂第9版内科学書. 東京, 中山書店, 2019. p.152.

島田 厚良

## 講演

1. Shimada A, Miura A, Hasegawa-Ishii S: Acute responses of intracranial macrophages to LPS-induced systemic inflammation in newborn mice. PsychoNeuroImmunology Research Society's 26th Annual Scientific Meeting, Germany, 2019.6.6.
2. Hasegawa-Ishii S, Imamura F, Shimada A: Differential effects of nasal inflammation and odor deprivation on layer-specific degeneration of the olfactory bulb in mice. PsychoNeuroImmunology Research Society's 26th Annual Scientific Meeting, Germany, 2019.6.8.
3. Hasegawa-Ishii S, Imamura F, Shimada A: Differential effects of nasal inflammation and odor deprivation on layer-specific degeneration of the olfactory bulb in mice. (慢性鼻腔炎症と嗅覚遮断が嗅球の層特異的変性に及ぼす影響). 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019.7.26.
4. Shimada A: Histological Architecture Underlying Brain-Immune Cell-Cell Interactions. In: The 42nd Annual Meeting of the JNS Symposium 3S02a "Neuroinflammation and the Blood Brain Interface: New findings in brain pathology" Niigata, Japan, 2019.7.27.
5. Shimada A: Histological Architecture Underlying Brain-Immune Cell-Cell Interactions. In: The 37th International Conference of Australasian Winter Conference on Brain Research 15. Symposia: Psychoneuroimmunology across the lifespan. New Zealand, 2019.9.3.

## 論文

1. Hasegawa-Ishii S, Inaba M<sup>1</sup>, Shimada A (<sup>1</sup>Kansai Medical University): Widespread time-dependent changes in tissue cytokine concentrations in brain regions during the acute phase of endotoxemia in mice. Neurotoxicology 76:67-74, 2020. DOI: 10.1016/j.neuro.2019.10.006
2. Unno K<sup>1</sup>, Sumiyoshi A<sup>2</sup>, Konishi T<sup>3</sup>, Hayashi M<sup>1</sup>, Taguchi K<sup>1</sup>, Muguruma Y<sup>4</sup>, Inoue K<sup>4</sup>, Iguchi K<sup>1</sup>, Nonaka H<sup>2</sup>, Kawashima R<sup>2</sup>, Hasegawa-Ishii S, Shimada A, Nakamura Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Shizuoka, <sup>2</sup>Tohoku University, <sup>3</sup>Akita Prefectural University, <sup>4</sup>Ritsumeikan University): Theanine, the main amino acid in tea, prevents stress-induced brain atrophy by modifying early stress responses. Nutrients 12:174, 2020. DOI: 10.3390/nu12010174
3. Shimada A: Principles of neuroanatomical architecture supporting brain-immune cell-cell interactions. Clinical and Experimental Neuroimmunology 11: 5-15, 2020. DOI: 10.1111/cen3.12559
4. Kelley KW<sup>1</sup> and Shimada A (<sup>1</sup>University of Illinois):

Neuroinflammation and the blood-brain-interface: new findings in brain pathology. Clinical and Experimental Neuroimmunology 11: 16-20, 2020. DOI: 10.1111/cen3.12558

5. Shimada A and Yokota T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Medical and Dental University): Editorial: Physiological and pathological brain-immune system interactions. Clinical and Experimental Neuroimmunology 11: 3-4, 2020. DOI: 10.1111/cen3.12561
6. Hasegawa-Ishii S, Imamura F<sup>1</sup>, Nagayama S<sup>2</sup>, Murata M, and Shimada A (<sup>1</sup>Pennsylvania State University, <sup>2</sup>University of Texas): Differential Effects of Nasal Inflammation and Odor Deprivation on Layer-Specific Degeneration of the Mouse Olfactory Bulb. eNeuro 7: 0403-0419, 2020. DOI: 10.1523/ENEURO.0403-19.2020

滝 智彦

## 講演

1. Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Shiraishi Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Matsuo H, Shimada A, Taki T, Kiyokawa N, Tomizawa D, Horibe K, Miyano S, Adachi S, Taga T, Ogawa S, Hayashi Y: Recurrent gene mutations in pediatric AML by targeted sequencing using a 343-gene custom panel. 第81回日本血液学会学術集会, 東京, 2019年10月11-13日.
2. Hara Y, Taki T, Yamato G, Yoshida K, Shiba N, Kaburagi T, Shiraishi Y, Ohki K, Kawamura M, Sotomatsu M, Arakawa H, Matsuo H, Shimada A, Toki T, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Ito E, Horibe K, Miyano S, Ogawa S, Adachi S, Hayashi Y: Clinical and molecular characterization of pediatric acute myeloid leukemia with TP53 alterations. 第61回日本小児血液・がん学会学術集会, 広島, 2019年11月14-16日.
3. Tomizawa D, Miyamura T, Imamura T, Watanabe T, Saito A, Ogawa A, Takahashi Y, Hirayama M, Arakawa Y, Taki T, Deguchi T, Hori T, Omori S, Haba M, Iguchi A, Koga Y, Manabe A, Horibe K, Ishii E, Koh K: Risk stratification for infants with acute lymphoblastic leukemia: a report from the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group MLL-10 trial. 第61回日本小児血液・がん学会学術集会, 広島, 2019年11月14-16日.
4. Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Shiraishi Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Matsuo H, Shimada A, Taki T, Kiyokawa N, Tomizawa D, Horibe K, Miyano S, Adachi S, Taga T, Ogawa S, Hayashi Y: Clinical significances of patients with KMT2C and PHF6 mutations in pediatric acute myeloid leukemia. 第61回日本小児血液・がん学会学術集会, 広島, 2019年11月14-16日.
5. 滝智彦: 血液腫瘍専門医が必要とする染色体情報とは. 第179回染色体研究会, 東京, 2019年12月7日.

## 論文

1. Shiba N<sup>1,2,3</sup>, Yoshida K<sup>4</sup>, Hara Y<sup>2,3,5</sup>, Yamato G<sup>2,3,5</sup>, Shiraishi Y<sup>6</sup>, Matsuo H<sup>4</sup>, Okuno Y<sup>7</sup>, Chiba K<sup>6</sup>, Tanaka H<sup>8</sup>, Kaburagi T<sup>2,5</sup>, Takeuchi M<sup>1</sup>, Ohki K<sup>9</sup>, Sanada M<sup>3</sup>, Okubo J<sup>2,10</sup>, Tomizawa D<sup>9</sup>, Taki T, Shimada A<sup>11</sup>, Sotomatsu M<sup>2</sup>, Horibe K<sup>3</sup>, Taga T<sup>12</sup>, Adachi S<sup>4</sup>, Tawa A<sup>13</sup>, Miyano S<sup>8</sup>, Ogawa S<sup>4,14</sup>, Hayashi Y<sup>2,15</sup> (<sup>1</sup>Yokohama City University, <sup>2</sup>Gunma Children's Medical Center, <sup>3</sup>National Hospital Organization Nagoya Medical Center, <sup>4</sup>Kyoto University, <sup>5</sup>Gunma University, <sup>6</sup>National Cancer Center, <sup>7</sup>Nagoya University, <sup>8</sup>University of Tokyo, <sup>9</sup>National Center for Child Health and Development, <sup>10</sup>Hokkaido University, <sup>11</sup>Okayama University, <sup>12</sup>Shiga University of Medical Science, <sup>13</sup>National Hospital Organization Osaka National Hospital, <sup>14</sup>Karolinska Institute, <sup>15</sup>Jobu University): Transcriptome

analysis offers a comprehensive illustration of the genetic background of pediatric acute myeloid leukemia. *Blood Adv.* 3(20): 3157-3169, 2019. DOI: 10.1182/bloodadvances.2019000404.

- Ishimaru S<sup>1,2</sup>, Okamoto Y<sup>3</sup>, Imai C<sup>4</sup>, Sakaguchi H<sup>5</sup>, Taki T, Hasegawa D<sup>6</sup>, Cho Y<sup>7</sup>, Kakuda H<sup>8</sup>, Sano H<sup>9</sup>, Manabe A<sup>6</sup>, Imamura T<sup>10</sup>, Kato M<sup>11</sup>, Arakawa Y<sup>12</sup>, Shimonodan H<sup>13</sup>, Sato A<sup>14</sup>, Suenobu S<sup>15</sup>, Inukai T<sup>16</sup>, Watanabe A<sup>17</sup>, Kawano Y<sup>3</sup>, Kikuta A<sup>9</sup>, Horibe K<sup>18</sup>, Ohara A<sup>19</sup>, Koh K<sup>12</sup> (1)National Cancer Center, (2)Tokyo Metropolitan Children's Medical Center, (3)Kagoshima University, (4)Niigata University, (5)Japanese Red Cross, Nagoya First Hospital, (6)St Luke's International Hospital, (7)Hokkaido University, (8)Chiba Children's Hospital, (9)Fukushima Medical University, (10)Kyoto Prefectural University of Medicine, (11)National Center for Child Health and Development, (12)Saitama Children's Medical Center, (13)Miyazaki Prefectural Miyazaki Hospital, (14)Miyagi Children's Hospital, (15)Oita University, (16)University of Yamanashi, (17)Nakadori General Hospital, (18)National Hospital Organization Nagoya Medical Center, (19)Toho University) : Nationwide survey of pediatric hypodiploid acute lymphoblastic leukemia in Japan. *Pediatr Int.* 61(11): 1103-1108, 2019. DOI: 10.1111/ped.14006.
- Hara Y<sup>1,2,3</sup>, Shiba N<sup>2,3,4</sup>, Yamato G<sup>1,2,3</sup>, Ohki K<sup>2,5</sup>, Tabuchi K<sup>6</sup>, Sotomatsu M<sup>2</sup>, Tomizawa D<sup>5</sup>, Kinoshita A<sup>7</sup>, Arakawa H<sup>1</sup>, Saito AM<sup>3</sup>, Kiyokawa N<sup>5</sup>, Tawa A<sup>8</sup>, Horibe K<sup>3</sup>, Taga T<sup>9</sup>, Adachi S<sup>10</sup>, Taki T, Hayashi Y<sup>11</sup> (1)Gunma University, (2)Gunma Children's Medical Center, (3)National Hospital Organization Nagoya Medical Center, (4)Yokohama City University, (5)National Center for Child Health and Development, (6)Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, (7)St Marianna University School of Medicine, (8)National Hospital Organization Osaka National Hospital, (9)Shiga University of Medical Science, (10)Kyoto University, (11)Jobu University) : Patients aged less than 3 years with acute myeloid leukemia characterize a molecularly and clinically distinct subgroup. *Br J Haematol* 188(4): 528-539, 2019. DOI: 10.1111/bjh.16203.
- Takahashi Y<sup>1,2</sup>, Terui K<sup>1</sup>, Chinen Y<sup>3</sup>, Tandai S<sup>1,4</sup>, Kudo K<sup>1</sup>, Sasaki S<sup>1</sup>, Tono C<sup>1,5</sup>, Taki T, Ito E<sup>1</sup> (1)Hirosaki University, (2)Aomori Prefectural Central Hospital, (3)Kyoto Prefectural University of Medicine, (4)Odate Municipal General Hospital, (5)Iwate Prefectural Chubu Hospital) : A pediatric case of secondary T-cell acute lymphoblastic leukemia with KMT2A-MAML2 developing after hepatoblastoma treatment. *Pediatr Blood Cancer* 67(1): e28033, 2019. DOI: 10.1002/pbc.28033.
- Matsumoto Y<sup>1</sup>, Chinen Y<sup>2,3</sup>, Shimura Y<sup>3</sup>, Nagoshi H<sup>4</sup>, Sasaki N<sup>5</sup>, Muramatsu A<sup>1</sup>, Kuriyama K<sup>1</sup>, Ohshiro M<sup>1</sup>, Hirakawa Y<sup>1</sup>, Iwai T<sup>1</sup>, Uchiyama H<sup>1</sup>, Taki T, Horiike S<sup>3</sup>, Kuroda J<sup>3</sup>, Taniwaki M<sup>3</sup> (1)Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital, (2)Fukuchiyama City Hospital, (3)Kyoto Prefectural University of Medicine, (4)Hiroshima University, (5)Japanese Red Cross Kyoto Daini Hospital) : Recurrent intragenic exon rearrangements of SOBP and AUTS2 in non-Hodgkin B-cell lymphoma. *Int J Hematol.* 111(1):75-83, 2020. DOI: 10.1007/s12185-019-02766-z.

#### 田口 晴彦

#### 講演

- 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 田口晴彦, 神谷茂 : マウスを用いた *Mycoplasma pneumoniae* 菌体抗原感作モデルにおける IL-21 の役割. 第93回日本感染症学会総会・学術講演会, 名古屋, 2019年4月4-6日.

- Kurata S, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Taguchi H, and Kamiya S: Role of IL-21 in *Mycoplasma pneumoniae* antigen sensitization mouse model. 第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月23-25日.
- 田口晴彦 : 腸内細菌叢、プロバイオティクスの生体防御機構への係り. 東京湾岸消化器懇話会2019, 東京, 2019年11月12日.
- Kurata S, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Taguchi H, and Kamiya S: Effects of *Mycoplasma pneumoniae* infection on Th2 immune response. 第93回日本細菌学会総会, 名古屋, 2020年2月19-21日.

#### 平成31年度追加分

#### その他

- 田口晴彦 : 巻頭言. 杏林医会誌, 50巻1号, 2019年.

#### 田中 浩輔

#### 講演

- 伊藤慎, 田中浩輔 : Distribution of 5-HT1like receptor in *Marsupenaeus japonicus*. 第41回日本比較生理生化学会大会, 東京, 2019年11月30日-12月1日.

#### 中島 哲

#### 講演

- 青柳幸恵, 鈴木息吹, 高橋美彩, 斎藤奨大, 芝崎翔平, 原島敬一郎, 岸野智則, 中島哲 : 若年成人女性を対象とした冷水負荷試験による冷え症の検討. 第44回日本超音波検査学会学術集会, 横浜, 2019年4月27-29日.
- 芝崎翔平, 鈴木佑香, 藤原弓香子, 原島敬一郎, 中島哲, 岸野智則 : 腎血流超音波検査における検査前安静について. 第44回日本超音波検査学会学術集会, 横浜, 2019年4月27-29日.
- 相川律, 原島敬一郎, 芝崎翔平, 中島哲, 岸野智則 : 肩こりを筋硬度および超音波計測値で科学する. 第19回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2019年11月3日.
- 田中彩乃, 原島敬一郎, 大場千紘, 真柄綾乃, 芝崎翔平, 中島哲, 岸野智則 : 超高感度スマート圧電振動センサーの動脈硬化検査法としての可能性. 第19回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2019年11月3日.
- 中島哲 : 虚血性心疾患 -エコー像の推測と検査の組み立て- シーズン2. 東京, 2019年5月20日.
- 中島哲 : 虚血性心疾患 -レポートとレビューのテクニック- シーズン2. 東京, 2019年7月9日.

#### 著書

- 中島哲 : 維持・継続を見据えたISO15189取得サポートブック. ISO15189認定取得の意義. 臨床検査10月増刊号, 東京, 医学書院, 2019. p 1089-1091.

#### 渡部 和彦

#### 講演

- 新井田 (川口) 素子, 渡部和彦, 山本智子, 加藤陽一郎, 柴田亮行 : 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) におけるアストロサイト増殖性の検討. 第108回日本病理学会総会, 東京, 2019年5月10日.
- 渡部和彦, 加藤陽一郎, 佐久間美帆, 村田麻喜子, 新井田 (川口) 素子, 柿田明美, 柴田亮行 : 培養ニューロン細胞質TDP-43凝集体形成を抑制する分子の探索. 第60回日本神経病理学会総会学術研究会, 名古屋, 2019年7月15日.
- 渡部和彦, 加藤陽一郎, 佐久間美帆, 村田麻喜子, 新井田 (川口) 素子, 柿田明美, 柴田亮行 : 培養ニューロン細胞質TDP-43凝集体形成を抑制する分子の解析. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月26日.
- 渡部和彦, 加藤陽一郎, 佐久間美帆, 村田麻喜子, 新井田 (川

口) 素子, 竹村太郎, 花方信孝, 柿田明美, 柴田亮行: 培養ニューロン細胞質TDP-43凝集体形成を抑制する分子の解析. 第14回日本臨床ストレス応答学会大会, 大阪, 2019年11月2日.

5. 新井田素子, 渡部和彦, 山本智子, 柴田亮行: Characterization of astrocytes associated with amyotrophic lateral sclerosis (ALS). 第41回神経組織培養研究会, 東京, 2019年11月16日.
6. 村田麻喜子, 石井さなえ, 渡部和彦, 島田厚良: 全身炎症に対する脳内応答におけるアストロサイト主導によるミクログリア活性化. 第42回日本分子生物学会年会, 福岡, 2019年12月5日.

## 論文

1. 渡部和彦: 組換えウイルスを用いた筋萎縮性側索硬化症病変の発症進展機序の解明. *Medical Science Digest* 45(4):73-76, 2019.
2. Niida-Kawaguchi M, Kakita A, Noguchi N, Kazama M, Masui K, Kato Y, Yamamoto T, Sawada T, Kitagawa K, Watabe K, Shibata N: Soluble iron accumulation induces microglial glutamate release in the spinal cord of sporadic amyotrophic lateral sclerosis. *Neuropathology* 40(2):152-166, 2020. doi: 10.1111/neup.12632

## 報告書

1. 渡部和彦, 柿田明美: 熱ショック応答による筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 細胞質凝集体の形成抑制. 平成31年度新潟大学脳研究所「脳神経病理標本資源活用の先端的共同研究拠点」共同利用・共同研究報告書. 2020年3月.

## その他

1. 渡部和彦: 研究会代表世話人兼事務局長: 第41回神経組織培養研究会, 東京 (東京大学薬学系総合研究棟講堂), 2019年11月16日.
2. 渡部和彦: 優秀口演賞受賞, 第60回日本神経病理学会総会学術研究会, 名古屋, 2019年7月15日.

## 石井 さなえ

## 講演

1. Hasegawa-Ishii S, Imamura F, and Shimada A: The differential effects of nasal inflammation and odor deprivation on the layer-specific degeneration of the olfactory bulb in mice. 26th Annual Scientific Meeting of PsychoNeuroImmunology, Germany, June 6-9, 2019.
2. Shimada A, Miura A and Hasegawa-Ishii S: Acute responses of intracranial macrophages to LPS-induced systemic inflammation in newborn mice. 26th Annual Scientific Meeting of PsychoNeuroImmunology, Germany, June 6-9, 2019.
3. Hasegawa-Ishii S, Imamura F, Shimada A: Differential effects of nasal inflammation and odor deprivation on layer-specific degeneration of the olfactory bulb. 42nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. Niigata, Japan. July 25-28, 2019.
4. 石井さなえ, 島田厚良: 慢性鼻腔炎症に誘導される脳組織の可塑的变化. 第48回杏林医学会総会, November, 18, 2019.
5. Murata M, Hasegawa-Ishi S, Watabe K and Shimada A: Transcriptional Analysis of Astrocyte-driven Microglia Activation in the Inflammatory Response. Fukuoka, Japan., December 3-6, 2019.
6. 三島由祐子, 大崎敬子, 神谷茂, 石井さなえ: 慢性鼻腔炎症マウスにおける腸内細菌叢の変動. 第53回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, January 25-26, 2020.

## 論文

1. Unno K<sup>1</sup>, Sumiyoshi A<sup>2</sup>, Konishi T<sup>3</sup>, Hayashi M<sup>1</sup>, Taguchi K<sup>1</sup>, Muguruma Y<sup>4</sup>, Inoue K<sup>4</sup>, Iguchi K<sup>1</sup>, Nonaka H<sup>2</sup>, Kawashima R<sup>2</sup>, Hasegawa-Ishii S, Shimada A, Nakamura

Y<sup>1</sup>(<sup>1</sup>University of Sizuoka, <sup>2</sup>Tohoku University, <sup>3</sup>Akita Prefectural University, <sup>4</sup>Ritsumeikan University): (2020) Theanine, the main amino acid in tea, prevents stress-induced brain atrophy through modifying early stress responses. *Nutrients*;12(1):174. doi: 10.3390/nu12010174.

2. Hasegawa-Ishii S, Inaba M<sup>1</sup> and Shimada A(<sup>1</sup>Kansai Medical University): Widespread time-dependent changes in tissue cytokine concentrations in brain regions during the acute phase of endotoxemia in mice. *NeuroToxicology* 76:67-74, 2020. doi: 10.1016/j.neuro.2019.10.006
3. Hasegawa-Ishii S, Imamura F<sup>1</sup>, Nagayama S<sup>2</sup>, Murata M, Shimada A (<sup>1</sup>Penn State University, <sup>2</sup>Texas University): (2020) Differential effects of nasal inflammation and odor deprivation on layer-specific degeneration of the mouse olfactory bulb. *eNeuro* 7:0403-0419, 2020. doi:10.1523/ENEURO.0403-19.2020.

## 大河戸 光章

## 講演

1. 野地夏美, 岡山香里, 小田瑞恵, 大河戸光章: Single cell microdissection法による1標的細胞のDNA解析. 第37回日本ヒト細胞学会学術集会, 東京, 2019年10月19日.
2. 大河戸光章, 岡山香里, 栗原達哲, 石井保吉, 小田瑞恵, 笹川寿之: HPVジェノタイプの網羅的解析から見えてきたHPV型と子宮頸部病変との関係. 第60回日本臨床細胞学会春期大会, 東京, 2019年6月8日.
3. 岡山香里, 大河戸光章, 栗原達哲, 石井保吉, 小田瑞恵, 笹川寿之: LSILとHSILにおけるHPV感染細胞の多様性に関する研究. 第60回日本臨床細胞学会春期大会, 東京, 2019年6月8日.
4. 簀ひろみ, 岡山香里, 飯島淳子, 栗原達哲, 石井保吉, 小田瑞恵, 大河戸光章: 子宮頸部擦過細胞診直後の組織生検結果に基づいたASC-H判定細胞の形態学的特徴. 第60回日本臨床細胞学会春期大会, 東京, 2019年6月8日.
5. 飯島淳子, 岡山香里, 簀ひろみ, 福井正, 藪崎宏美, 椎名奈津子, 尾野緑, 藤井雅彦, 大河戸光章: 子宮頸部細胞診における核縁肥厚を伴う核肥大細胞へのp16INK4a免疫染色の検討. 第60回日本臨床細胞学会春期大会, 東京, 2019年6月8日.
6. 大河戸光章, 岡山香里, 野地夏美, 小田瑞恵: Single cell microdissection法によるKoilocyteのHuman papillomavirus genotype解析. 第37回日本ヒト細胞学会学術集会, 東京, 2019年10月19日.
7. 大河戸光章, 岡山香里, 野地夏美, 簀ひろみ, 飯島淳子, 栗原達哲, 石井保吉, 藤井雅彦, 小田瑞恵, 笹川寿之: HPV型に依存した細胞変性効果に関する新発見 -16型感染によるKoilocyte形成を否定-. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16日.
8. 野地夏美, 岡山香里, 栗原達哲, 石井保吉, 小田瑞恵, 笹川寿之, 大河戸光章: Single-cell microdissection法による1標的細胞のHPV型別判定. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16日.
9. 細谷渚, 石井保吉, 栗原達哲, 岡俊郎, 稲垣真智子, 窪田真弓, 伊藤詠美子, 伊藤千恵子, 小野寛文, 宮里樹, 大河戸光章, 小田瑞恵, 大村峯夫, 藤井雅彦: CIN2 から5年後にAdenosquamous carcinoma in situの診断がついた一例. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16日.

## 論文

1. Iijima J, Okayama K<sup>1</sup>, Teruya K, Hata H, Shiina N<sup>2</sup>, Yabusaki H<sup>2</sup>, Okodo M (<sup>1</sup>Gumma Paz University, <sup>2</sup>ILABO Cyto STD Laboratory): A study of the relationship between nuclear contour thickening, nuclear enlargement and



human papillomavirus infection in squamous cells. *Cytopathology*. 30: 644-649, 2019.

- Hata H, Okayama K<sup>1</sup>, Iijima J, Teruya K, Shiina N<sup>2</sup>, Caniz T<sup>2</sup>, Okodo M (1Gumma Paz University, 2ILABO Cyto STD Laboratory): A Comparison of Cytomorphological Features of ASC-H Cells Based on Histopathological Results Obtained from a Colposcopic Target Biopsy Immediately after Pap smear Sampling. *Asian Pac J Cancer Prev*. 20: 2139-2143, 2019.
- Okodo M, Okayama K<sup>1</sup>, Teruya K, Kimura H<sup>1</sup>, Noji N, Ishii Y<sup>2</sup>, Fujii M, Oda M<sup>2</sup>, Sasagawa T<sup>3</sup> (1Gumma Paz University, 2Genki Plaza Medical Center for Health Care, 3Kanazawa Medical University): Koilocytic changes are not elicited by human papillomavirus genotypes with higher oncogenic potential. *J Med Virol*. 2020. DOI: 10.1002/jmv.25775 [Epub ahead of print]

## 著書

- 大河戸光章 (分担) : ポケットマスター臨床検査知識の整理. 病理学/病理組織細胞学. 東京, 医歯薬出版, 2020. p.170-281.
- 大河戸光章 (分担) : スタンダード細胞診テキスト. 第4版. 東京, 医歯薬出版, 2019.

## 角田 ますみ

## 講演

### 学会発表

- SUMITA M : Development of Ethics Training Program for Care Workers Using Strength Finder®. 20th Nursing Ethics Conference and 5rd International Ethics in Care Conference, UK, July24- 25th, 2019.
- 角田ますみ : ストレングスファインダーを用いた介護倫理研修プログラムの開発と評価. 第31回日本生命倫理学会年次大会, 仙台, 2019年12月7-8日.

## 講演

- 角田ますみ : 高齢者がその人らしく生きるためのアドバンス・ケア・プランニングより良い意思決定支援とは. 伊豆市在宅医療連携多職種研修会, 静岡, 2019年5月24日.
- 角田ますみ : 高齢者ケアのあり方. 全国老人保健施設協会基礎研修会, 東京, 2019年8月5日.
- 角田ますみ : 高齢者ケアのあり方-介護倫理を考える. 全国老人保健施設協会中堅者研修会, 東京, 2019年8月5日.
- 角田ますみ : 高齢者ケアのあり方. 全国老人保健施設協会基礎研修会, 大阪, 2019年9月3日.
- 角田ますみ : 高齢者ケアのあり方-介護倫理を考える. 全国老人保健施設協会中堅者研修会, 大阪, 2019年9月3日.
- 角田ますみ : 患者・家族に寄り添うアドバンス・ケア・プランニング. 武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会, 東京, 2019年9月25日.
- 角田ますみ : 患者・家族に寄り添うアドバンス・ケア・プランニング-医療・介護・福祉で支える意思決定のために. 東京都看護管理者連絡会研修会, 東京, 2019年11月16日.
- 角田ますみ : 患者・家族に寄り添うアドバンス・ケア・プランニング-急性期治療におけるACP. 日本集中治療医学会倫理委員会, 東京, 2019年11月18日.
- 角田ますみ : 医療者が知っておくべきアドバンス・ケア・プランニングについて. 社会医療法人財団慈泉会研修会, 長野, 2019年11月29日.
- 角田ますみ : 手術医療における倫理. 東京女子医科大学認定看護師教育センター研修, 東京, 2019年12月2日.
- 角田ますみ : 手術を受ける患者の権利を擁護する看護師の役割と責任. 東京女子医科大学認定看護師教育センター研修, 東京, 2019年12月16日.

- 角田ますみ : その人らしさを看守るためのアドバンス・ケア・プランニング-人生の最期をどう生きるか・支えるか. 看看連携を基盤とした地域包括ケア推進モデル事業講演, 静岡, 2019年12月21日.
- 角田ますみ : 私の人生予定表-ゴールの仕方は自分で決めよう Part2. 社会福祉法人東京弘済園・三鷹市東部地域包括支援センター地域向けセミナー, 三鷹, 2020年1月29日.
- 角田ますみ : 看護師に求められる倫理的視点Ⅰ. 東邦大学医療センター大橋病院教育研修, 東京, 2020年2月12日.
- 角田ますみ : ポジティブな人生のエンディングプランを考える. 羽村市ゆとろぎアクティブシニア講座, 羽村, 2020年2月22日.
- 角田ますみ : 看護師に求められる倫理的視点Ⅱ. 東邦大学医療センター大橋病院教育研修, 東京, 2020年2月26日.

## 論文

- 角田ますみ : 介護現場で生じやすい倫理的問題と介護倫理. *介護人財*16(3): P5-8, 2019.
- 角田ますみ : 介護現場の倫理教育に求められる内容と効果を高めるポイント. *介護人財*16(3): P9-17, 2019.

## 著書

- 角田ますみ : 患者・家族に寄り添うアドバンスケアプランニング-医療・介護・福祉・地域みんなで支える意思決定のための実践ガイド. 東京, メヂカルフレンド社, 2019.
- 金沢善智, 角田ますみ (監修) : クエスチョンバンク・ケアマネ試験問題解説2020. 東京, メディックメディア, 2019.
- 金沢善智, 角田ますみ (監修) : クエスチョンバンク・介護福祉士試験問題解説2020. 東京, メディックメディア, 2019.

## その他

- 角田ますみ : 三鷹市西部地域包括支援センターエンディングノート「きらり人生ノート」監修, 2019年10月13日発行.
- 角田ますみ : アドバンス・ケア・プランニングについて解説. 日本テレビ スッキリ!, 2019年11月28日放送.

## 瀧上 周

## 講演

- 瀧上周, 大木翔太, 堀口幸太郎, 長谷川瑠美, 大迫俊二 : ラット嗅球における拘束ストレスの影響. 第162回日本獣医学会学術集会, つくば, 2019年5月10 - 12日.
- 堀口幸太郎, 吉田彩舟, 中倉 敬, 藤原研, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄 : ラット下垂体中葉Marginal Cell Layerに存在するSOX2陽性細胞の単離と分化誘導. 第92回日本内分泌学会学術総会, 仙台, 2019年5月9 - 11日.
- 堀口幸太郎, 吉田彩舟, 中倉敬, 藤原研, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄 : マウス下垂体前葉におけるCD9/CD81陽性細胞の観察. 第34回日本下垂体研究会学術集会, 松江, 2019年8月7 - 9日.
- 堀口幸太郎, 藤原研, 吉田彩舟, 中倉敬, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄 : ラット下垂体中葉側Marginal Cell Layer細胞の解析. 第45回神経内分泌学会, 東京, 2019年10月25 - 26日.
- 堀口幸太郎, 藤原研, 吉田彩舟, 中倉敬, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄 : ラット下垂体中葉側Marginal Cell Layerの観察. 第125回日本解剖学会, 2019年3月25 - 27日. (誌上開催 : 抄録集p.148)

## 論文

- Horiguchi K, Yoshida S, Hasegawa R, Takigami S, Ohsako S, Yashiro T, Kato T, Kato Y: Isolation and characterization of cluster of differentiation 9-positive ependymal cells as potential adult neural stem/progenitor cells in the third ventricle of adult rats. *Cell Tissue Res*. 379:497-509, 2020.

DOI: 10.1007/s00441-019-03132-5

水谷 奈津子

講演

1. 水谷奈津子, 武内詩織, 波多野良, 伊藤匠, 梶野一徳, 松岡周二: Establishment of new mAbs for Malignant Mesothelioma, and expression analysis of the corresponding antigens. 第78回日本癌学会学術集会, 京都, 2019年9月26-28日.
2. 武内詩織, 松岡周二, 水谷奈津子, 石井保之: Anapocosis-inducing mAbs may be the promising therapeutic device for hematological cancer. 第78回日本癌学会学術集会, 京都, 2019年9月26-28日.
3. 水谷奈津子, 梶野一徳, 武内詩織, 大沼八千代, 矢部マツ子, 坂井育代, 寺尾暁子, 堤裕子, 飯村美香, 山里勝信, 森佳奈子, 占部悦子, 脇屋緑, 八尾隆史, 樋野興夫: 悪性中皮腫に対する新規抗体作製一腔液中の出現細胞の鑑別および抗原同定を中心. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019年11月16-17日.

論文

1. Mizutani N, Mochizuki M<sup>2</sup>, Toki M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Gastroenterology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Teikyo University): Assessment of preoperative pancreatic biopsy, cytological/histological review of cell-block-specimens obtained by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration: Laboratory-based study. Diagnostic Cytopathology 1-6, 2019. DOI: 10.1002/dc.24358

新江 賢

論文

1. Morita H<sup>1</sup>, Kubo T<sup>1</sup>, Rückert B<sup>1</sup>, Ravindran A<sup>2</sup>, Soyka MB<sup>3</sup>, Rinaldi AO<sup>1</sup>, Sugita K<sup>1</sup>, Wawrzyniak M<sup>1</sup>, Wawrzyniak P<sup>1</sup>, Motomura K<sup>4</sup>, Tamari M<sup>4</sup>, Orimo K<sup>4</sup>, Okada N<sup>4</sup>, Arae K, Saito K<sup>4</sup>, Altunbulakli C<sup>1</sup>, Castro-Giner F<sup>1</sup>, Tan G<sup>1</sup>, Neumann A<sup>1</sup>, Sudo K<sup>5</sup>, O'Mahony L<sup>1</sup>, Honda K<sup>6</sup>, Nakae S<sup>7</sup>, Saito H<sup>4</sup>, Mjösberg J<sup>8</sup>, Nilsson G<sup>2</sup>, Matsumoto K<sup>4</sup>, Akdis M<sup>1</sup>, Akdis CA<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Swiss Institute of Allergy and Asthma Research (SIAF), <sup>2</sup>Karolinska Institutet and Karolinska University Hospital, <sup>3</sup>University Hospital Zurich and University of Zurich, <sup>4</sup>National Research Institute for Child Health and Development, <sup>5</sup>Animal Research Center, Tokyo Medical University, <sup>6</sup>Keio University School of Medicine, <sup>7</sup>Institute of Medical Science, University of Tokyo, <sup>8</sup>Karolinska University Hospital Huddinge): Induction of human regulatory innate lymphoid cells from group 2 innate lymphoid cells by retinoic acid. J Allergy Clin Immunol. 143(6):2190-2201, 2019. doi: 10.1016/j.jaci.2018.12.1018.

伊藤 慎

講演

1. 伊藤慎, 田中浩輔: Distribution of 5-HT1 like receptor in *Marsupenaeus japonicus*. 第41回日本比較生理生化学会学術集会, 東京, 2019年11月30日-12月1日.

村田 麻喜子

講演

1. 渡部和彦, 加藤陽一郎, 佐久間美帆, 村田麻喜子, 新井田 (川口) 素子, 柿田明美, 柴田亮行: 培養ニューロン細胞質TDP-43凝集体形成を抑制する分子の探索. 第60回日本神経病理学会, 名古屋, 2019年7月14-16日.
2. 渡部和彦, 加藤陽一郎, 佐久間美帆, 村田麻喜子, 新井田 (川

口) 素子, 柿田明美, 柴田亮行: DNA microarray analysis of suppressing effect of HSF1 on adenovirus-induced neuronal TDP-43 aggregate formation. 第42回日本神経科学大会・第62回日本神経化学会大会, 新潟, 2019年7月25-28日.

3. 渡部和彦, 加藤陽一郎, 佐久間美帆, 村田麻喜子, 新井田 (川口) 素子, 竹村太郎, 花方信孝, 柿田明美, 柴田亮行: 培養ニューロン細胞質TDP-43凝集体形成を抑制する分子の解析. 第14回日本臨床ストレス応答学会大会, 大阪, 2019年11月2-3日.
4. 村田麻喜子, 石井さなえ, 渡部和彦, 島田厚良: 全身炎症に対する脳内応答におけるアストロサイト主導によるミクログリア活性化. 第42回日本分子生物学会年会, 福岡, 2019年12月3-6日.

論文

1. Hasegawa-Ishii S, Imamura F<sup>1</sup>, Nagayama S<sup>2</sup>, Murata M, and Shimada A (<sup>1</sup>Pennsylvania State University, <sup>2</sup>University of Texas): Differential Effects of Nasal Inflammation and Odor Deprivation on Layer-Specific Degeneration of the Mouse Olfactory Bulb. eNeuro 7: 0403-0419, 2020. DOI: 10.1523/ENEURO.0403-19.2020

郡 秀一

講演

1. 郡秀一: 細胞検査士養成課程の試験における採点作業時間削減の工夫. 第14回日本臨床検査学教育学会学術大会, 熊本, 2019年8月21-23日.

西村 伸大

その他

1. 西村伸大: アロマセラピーって何だろう? -アロマグッズを作ってみよう-. アロマを用いた地域交流. コンソーシアム八王子 こどもいちよう塾, 2019年7月20-21日.
2. 西村伸大: 第26回日本未病システム学会学術総会 評議委員会, 2019年10月27日.

原島 敬一郎

講演

1. 青柳幸恵, 鈴木息吹, 高橋美彩, 斎藤奨大, 芝崎翔平, 原島敬一郎, 岸野智則, 中島哲: 若年成人女性を対象とした冷水負荷試験による冷え症の検討. 第44回日本超音波検査学会学術集会, 横浜, 2019年4月27-29日.
2. 芝崎翔平, 鈴木佑香, 藤原弓香子, 原島敬一郎, 中島哲, 岸野智則: 腎血流超音波検査における検査前安静について. 第44回日本超音波検査学会学術集会, 横浜, 2019年4月27-29日.
3. 相川律, 原島敬一郎, 芝崎翔平, 中島哲, 岸野智則: 肩こりを筋硬度および超音波計測値で科学する. 第19回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2019年11月3日.
4. 田中彩乃, 原島敬一郎, 大場千紘, 真柄綾乃, 芝崎翔平, 中島哲, 岸野智則: 超高感度スマート圧電振動センサーの動脈硬化検査法としての可能性. 第19回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2019年11月3日.

その他

1. 原島敬一郎: 第19回日本血管血流学会学術集会 主催, 東京, 2019年11月3日.

堀口 幸太郎

講演

1. 堀口幸太郎, 吉田彩舟, 中倉敬, 藤原研, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: ラット下垂体中葉Marginal Cell Layerに存在するSOX2陽性細胞の単離と分化誘導. 第92回日本内分泌学会学術総会, 仙台,

2019年5月9 - 11日.

- 堀口幸太郎, 吉田彩舟, 中倉敬, 藤原研, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: マウス下垂体前葉におけるCD9/CD81陽性細胞の観察. 第34回日本下垂体研究会学術集会, 松江, 2019年8月7 - 9日.
- 藤原研, 塚田岳大, 堀口幸太郎, 大野伸彦: ラット下垂体前葉におけるナトリウム利尿ペプチドファミリー分子の発現解析. 第34回日本下垂体研究会学術集会, 松江, 2019年8月7 - 9日.
- 小島遼太郎, 堀口幸太郎, 持丸雄太, 戸村秀明: アシドーシスと下垂体におけるLH分泌の関連性. 第34回日本下垂体研究会学術集会, 松江, 2019年8月7 - 9日.
- 瀧上周, 大木翔太, 長谷川瑠美, 堀口幸太郎, 大迫俊二: ラット嗅球における拘束ストレスの影響. 第162回日本獣医学学会学術集会, つくば, 2019年9月10 - 12日.
- 堀口幸太郎: 下垂体前葉におけるS100β陽性細胞の多様性. 「川上正澄賞受賞講演」, 第46回日本神経内分泌学会学術集会, 東京, 2019年10月25 - 26日.
- 堀口幸太郎, 藤原研, 吉田彩舟, 中倉敬, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: ラット下垂体中葉側Marginal Cell Layer細胞の解析. 第45回神経内分泌学会, 東京, 2019年10月25 - 26日.
- 堀口幸太郎, 藤原研, 吉田彩舟, 中倉敬, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: ラット下垂体中葉側Marginal Cell Layerの観察. 第125回日本解剖学会, 2019年3月25 - 27日. (誌上開催: 抄録集p.148)

## 論文

- Tsukada T<sup>1</sup>, Isowa Y<sup>2</sup>, Kito K<sup>2</sup>, Yoshida S<sup>2</sup>, Toneri S<sup>2</sup>, Horiguchi K, Fujiwara K<sup>3</sup>, Yashiro T<sup>3</sup>, Kato T<sup>2</sup>, Kato Y<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>Toho University, <sup>2</sup>Meiji University, <sup>3</sup>Jichi Medical University) : Identification of TGFβ-induced proteins in non-endocrine mouse pituitary cell line TtT/GF by SILAC-assisted quantitative mass spectrometry. *Cell Tissue Res.* 376 (2): 281-293. 2019. DOI: 10.1007/s00441-018-02989-2
- Kojima R<sup>1</sup>, Horiguchi K, Mochimaru Y<sup>1</sup>, Musha S<sup>1</sup>, Murakami S<sup>1</sup>, Deai M<sup>1</sup>, Mogi C<sup>1</sup>, Sato K<sup>1</sup>, Okajima F<sup>1</sup>, Tomura H<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Meiji University ) : Characterization of molecular mechanisms of extracellularacidification-induced intracellular Ca<sup>2+</sup> increase in LbetaT2 cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 517(4): 636-641, 2019. DOI: 10.1016/j.bbrc.2019.07.083
- Horiguchi K, Yoshida S<sup>1</sup>, Hasegawa R, Takigami S, Ohsako S, Yashiro T<sup>2</sup>, Kato T<sup>3</sup>, Kato Y<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>Jikei Medical University, <sup>2</sup>Jichi Medical University, <sup>3</sup>Meiji University ) : Isolation and characterization of cluster of differentiation 9-positive ependymal cells as potential adult neural stem/progenitor cells in the third ventricle of adult rats. *Cell Tissue Res.* 379:497-509, 2020. DOI: 10.1007/s00441-019-03132-5

## 報告書

- 堀口幸太郎: 細胞表面抗原を利用した下垂体前葉組織幹細胞の同定と単離, その分化誘導の探索. 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C) 2018年度 実績報告書.
- 堀口幸太郎: 細胞表面抗原を利用した下垂体前葉組織幹細胞の同定と単離, その分化誘導の探索. 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C) 2016-2018年度 研究成果報告書.
- 堀口幸太郎: 下垂体前葉におけるS100β陽性細胞の多様性, 日本神経内分泌学会 Newsletter, December 2019 No.26, p. 11, 第34回川上賞受賞報告.

## その他

- 堀口幸太郎: 日本神経内分泌学会 第34回川上正澄賞受賞. 2019年10月25日.

## 渡辺 登

### 論文

- Watanabe N, Morita K: Diversity in gene arrangement in a DNA region lacking *aerA* in clinical and environmental *Aeromonas hydrophila* isolates. *Antonie Van Leeuwenhoek* 113(1):71-81, 2020.

## 長谷川 瑠美

### 講演

- 堀口幸太郎, 吉田彩舟, 中倉敬, 藤原研, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: ラット下垂体中葉Marginal Cell Layerに存在するSOX2陽性細胞の単離と分化誘導. 第92回日本内分泌学会学術総会, 仙台, 2019年5月9 - 11日.
- 瀧上周, 大木翔太, 堀口幸太郎, 長谷川瑠美, 大迫俊二: ラット嗅球における拘束ストレスの影響. 第162回日本獣医学学会学術集会, つくば, 2019年5月10 - 12日.
- 堀口幸太郎, 吉田彩舟, 中倉敬, 藤原研, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: マウス下垂体前葉におけるCD9/CD81陽性細胞の観察. 第34回日本下垂体研究会学術集会, 松江, 2019年8月7 - 9日.
- 堀口幸太郎, 藤原研, 吉田彩舟, 中倉敬, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: ラット下垂体中葉側Marginal Cell Layer細胞の解析. 第45回神経内分泌学会, 東京, 2019年10月25 - 26日.
- 堀口幸太郎, 藤原研, 吉田彩舟, 中倉敬, 塚田岳大, 長谷川瑠美, 瀧上周, 大迫俊二, 屋代隆, 加藤たか子, 加藤幸雄: ラット下垂体中葉側Marginal Cell Layerの観察. 第125回日本解剖学会, 2019年3月25 - 27日. (誌上開催: 抄録集p.148)

### 論文

- Horiguchi K, Yoshida S<sup>1</sup>, Hasegawa R, Takigami S, Ohsako S, Yashiro T<sup>2</sup>, Kato T<sup>3</sup>, Kato Y<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>Jikei Medical University, <sup>2</sup>Jichi Medical University, <sup>3</sup>Meiji University ) : Isolation and characterization of cluster of differentiation 9-positive ependymal cells as potential adult neural stem/progenitor cells in the third ventricle of adult rats. *Cell Tissue Res.* 379:497-509, 2020. DOI: 10.1007/s00441-019-03132-5

## 三島 由祐子

### 講演

- 三島由祐子, 大崎敬子, 神谷茂, 石井さなえ: 慢性鼻腔炎症マウスにおける腸内細菌叢の変動. 第53回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 東京, 2020年1月25 - 26日.

## 上田 真樹子

### 講演

- 相磯聡子, 上田真樹子: 簡便なmicroRNA 5'-isoform解析法. 第42回日本分子生物学会年会, 福岡, 2019年12月6日.

## 小原 映

### 講演

- 小原映: 抱合代謝物を含む equol の体内動態の解明. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.
- 小原映, 木下瑞貴, 細田香織, 石井和夫: きな粉摂取後の, ヒト血中及び尿中におけるEquol抱合代謝物の経時的変化. 日本薬学会第140年会, 京都, 2020年3月25 - 28日. (誌上開催)

### 論文

- Obara A, Kinoshita M, Hosoda K, Yokokawa A<sup>1</sup>, Shibasaki H<sup>1</sup>, Ishii K ( <sup>1</sup>Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences) : Identification of equol-7-glucuronide-4'-sulfate,

monoglucuronides and monosulfates in human plasma of two equol producers after administration of kinako by LC-ESI-MS. *Pharmacol Res Perspect* 7(3), 2019. DOI: 10.1002/prp2.478.

- 小原映, 石井和夫: エストロゲン様作用を有するイソフラボン抱合代謝物が月経周期に及ぼす影響について. *杏林医学会雑誌* 50(3) 125-130, 2019.

芝崎 翔平

講演

- 青柳幸恵, 鈴木息吹, 高橋美彩, 斎藤奨大, 芝崎翔平, 原島敬一郎, 岸野智則, 中島哲: 若年成人女性を対象とした冷水負荷試験による冷え症の検討. 第44回日本超音波検査学会学術集会, 横浜, 2019年4月27-29日.
- 芝崎翔平, 鈴木佑香, 藤原弓香子, 原島敬一郎, 中島哲, 岸野智則: 腎血流超音波検査における検査前安静について. 第44回日本超音波検査学会学術集会, 横浜, 2019年4月27-29日.
- 相川律, 原島敬一郎, 芝崎翔平, 中島哲, 岸野智則: 肩こりを筋硬度および超音波計測値で科学する. 第19回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2019年11月3日.
- 田中彩乃, 原島敬一郎, 大場千紘, 真柄綾乃, 芝崎翔平, 中島哲, 岸野智則: 超高感度スマート圧電振動センサーの動脈硬化検査法としての可能性. 第19回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2019年11月3日.

● 健康福祉学科 ●

出嶋 靖志

著書

- 出嶋靖志: ダブルベースHIYAMAノート～シマンドル習得のために～18刷. 檜山ノート出版委員会編. 東京, ドレミ出版, 2019.
- 出嶋靖志: 第4章環境と健康. *衛生学・公衆衛生学*第2版第16刷. 鈴木庄亮, 高坂宏一, 出嶋靖志, 笹澤吉明共著. 東洋療法学校協会編. 東京, 医歯薬出版, 2020. p.75-133.
- 出嶋靖志: 第10章消毒法. *衛生学・公衆衛生学*第2版第16刷. 鈴木庄亮, 高坂宏一, 出嶋靖志, 笹澤吉明共著. 東洋療法学校協会編. 東京, 医歯薬出版, 2020. p.209-224.

照屋 浩司

口演

- 岡本博照, 楠田美奈, 戸井田千鶴, 岩見文博, 照屋浩司: 運動相談事業に参加した中高年者の尿中8-OHdGと生活習慣との関係. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23日.
- 照屋浩司, 楠田美奈, 岡本博照, 戸井田千鶴, 太田ひろみ: 児童の超音波骨評価値におよぼす生活習慣の影響. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月25日.

論文

- Suzuki Y, Teruya K, Mochizuki H, Nagasawa A, Kondo T & Shimoda N: Evaluation of Activities of Daily Living/Instrumental Activities of Daily Living to Accurately Determine Severity of Moderate and Severe Alzheimer's Disease: Comparison of Assessments by Receiver Operating Characteristic Curve and Discriminant Analyses. *Dementia and geriatric cognitive disorders extra* 9(2): 227-235, 2019.
- Kojimahara N, Muto G, Teruya K, Nogawa K & Doki S: Return-to-work in Japanese Occupational Health Settings: A Systematic Review and Recommendations. *Tokyo Women's Medical University Journal*, 2020.
- Okodo M, Okayama K, Teruya K, Kimura H, Noji N, Ishii Y, Fujii M, Oda M & Sasagawa T: Koilocytic changes are not

elicited by human papillomavirus genotypes with higher oncogenic potential. *Journal of Medical Virology*, 2020.

- Okodo M, Okayama K, Teruya K, Kimura H, Noji N, Ishii Y, Fujii M, Oda M & Sasagawa T: Koilocytic changes are not elicited by human papillomavirus genotypes with higher oncogenic potential. *Journal of Medical Virology*, 2020.
- Iijima J, Okayama K, Teruya K, Hata H, Shiina N, Yabusaki H & Okodo M: A study of the relationship between nuclear contour thickening, nuclear enlargement and human papillomavirus infection in squamous cells. *Cytopathology*, 30(6), 644-649, 2019.
- Hata H, Okayama K, Iijima J, Teruya K, Shiina N, Caniz T, Ishii Y, Fujii M, Oda M & Okodo M: A Comparison of Cytomorphological Features of ASC-H Cells Based on Histopathological Results Obtained from a Colposcopic Target Biopsy Immediately after Pap smear Sampling. *Asian Pacific journal of cancer prevention: APJCP*, 20(7): 2139, 2019.
- 神山麻由子, 岡本博照, 和田貴子, 照屋浩司: 都市部男性消防職員のバーンアウト(燃えつき)に影響を及ぼす仕事ストレスナーについて. *杏林医学会雑誌* 50(4): 145-155, 2019.

著書

- 照屋浩司(編著): 最新臨床検査学講座 公衆衛生学. 第1版第6刷. 東京, 医歯薬出版, 2020.

報告書

- 杏林大学保健学部 健康スポーツ医学研究班(照屋浩司, 岡本博照, 大嶺智子, 大久朋子, 楠田美奈, 戸井田千鶴): 令和1年度運動相談事業に関する報告書. 三鷹市医師会/三鷹市.

張替 克美

論文

- 渡辺恵, 朝野聡, 張替克美: 「総合的な学習の時間」の学習効果を考える - 「総合的な学習の時間」の実施状況と大学生の評価に関する調査-第2報-. *杏林大学教職課程年報* 第7号: 5-17, 2020.
- 関澤浩一, 渡辺恵, 張替克美, 亀崎路子(杏林大・保・看護学科看護養護教育学専攻): 三鷹市・武蔵野市・羽村市の小中学校におけるインターンシップ実践報告(2018年度)～養護教諭を目指す杏林大学保健学部のインターンシップ実施学生を対象とした質問紙調査から～. *杏林大学教職課程年報* 第7号: 19-32, 2020.

池田 一磨

講演

- 池田一磨: On  $\Pi_{n+1}$ -conservativity for  $\Pi_{n+2}$ -theories. 研究集会: モデル理論夏の学校2019, 山中湖村, 2019年9月2-4日.

大久 朋子

講演

- 石井博之, 大久朋子, 太田ひろみ, 朝野聡, 楠田美奈, 相原圭太: アトレヴィ三鷹での栄養・運動・健康相談プログラム. CCRCフォーラム, 東京, 2020年2月29日. (誌上開催)

報告書

- 杏林大学保健学部 健康スポーツ医学研究班(照屋浩司, 岡本博照, 大嶺智子, 大久朋子, 楠田美奈, 戸井田千鶴): 令和1年度運動相談事業に関する報告書. 三鷹市医師会/三鷹市.

その他

- 大久朋子: 【杏林大学とのコラボ企画】タイプ別によるおすすめ商品で、正月の不摂生による健康不安を解消. *みたから*, 2020年1月.

## 岡本 博照

### 口 演

1. Okamoto H, Kusuda M, Toida C, Iwami F, Teruya K : 運動相談事業に参加した中高年者の尿中8-OHdGと生活習慣との関係. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23日.
2. 照屋浩司, 楠田美奈, 岡本博照, 戸井田千鶴, 太田ひろみ : 児童の超音波骨評価値におよぼす生活習慣の影響. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月25日.

### 論 文

1. 神山麻由子<sup>1</sup>, 岡本博照, 和田貴子<sup>2</sup>, 照屋浩司 (1杏林大・保・救急救命学科, 2杏林大・保・名誉教授) : 都市部男性消防職員のバーンアウト(燃えつき)に影響を及ぼす仕事ストレスナーについて. 杏林医学雑誌 50(4) : 145-155, 2019.

### 著 書

1. 岡本博照 (分担執筆) : エビデンスに基づく保健対策. エッセンシャル 社会・環境と健康 第2版第11刷. 高島豊, 櫻井裕 (編集). 東京, 医歯薬出版, 2020. p92-96.
2. 岡本博照 (分担執筆) : 飲酒行動. エッセンシャル 社会・環境と健康 第2版第11刷. 高島豊, 櫻井裕 (編集). 東京, 医歯薬出版, 2020. p125-129.

### 報告書

1. 杏林大学保健学部 健康スポーツ医学研究班 (照屋浩司, 岡本博照, 大嶺智子, 大久朋子, 楠田美奈, 戸井田千鶴) : 令和1年度運動相談事業に関する報告書. 三鷹市医師会/三鷹市.

## 荻津 真理子

### 講 演

1. 荻津真理子 : 養護教諭の行う健康相談. 青梅市中学校教育研究会学校保健部研修会, 青梅, 2020年2月14日.

### その他

1. 荻津真理子 : 日本学校救急看護学会. 第14回学術集会主催, 三鷹, 2019年11月16-17日.

## 関澤 浩一

### 講 演

1. 関澤浩一, 加藤誠久, 田辺秀之 : 21トリソミー細胞における21番染色体テリトリーの核内空間配置の個人差の検討. 第70回染色体学会年会, 神戸, 2019年9月22 - 24日.
2. 平岡厚, 福土恵一, 関澤浩一, 松川岳久, 篠原厚子, 横山和仁, 近藤浩文 : C-F結合を持つ有機化合物を添加した培地で培養された癌細胞と正常細胞のフッ素含量のキャピラリー電気泳動による定量 - 癌細胞に特有な酵素系の反応促進剤の影響の検討. 第39回キャピラリー電気泳動シンポジウム, さいたま 2019年11月7 - 8日.
3. 田辺秀之, 関澤浩一, 川谷圭司, 北島康司 : 21、18、13トリソミー細胞における3本の染色体テリトリーの核内空間配置. 日本人類遺伝学会第64回大会, 長崎, 2019年11月7 - 9日.
4. 関澤浩一, 加藤誠久, 田辺秀之 : 21番染色体テリトリーの三次元核内配置に関する考察 - 21トリソミー細胞の3D-FISH解析とPCシミュレーションによる比較. 第2回ダウン症期会議, 東京, 2019年11月16 - 17日.

### 論 文

1. 関澤浩一, 渡辺恵, 張替克美, 亀崎路子<sup>1</sup> (1杏林大・保・看護学科看護養護教育学専攻) : 三鷹市・武蔵野市・羽村市の小中学校におけるインターンシップ実践報告 (2018年度) ~養護教諭を目指す杏林大学保健学部のインターンシップ実施学生を対象とした質問紙調査から~. 杏林大学教職課程年報 7 : 19 - 32, 2020.
2. Sekizawa K, Kato T<sup>1</sup>, Tanabe H<sup>2</sup> (1Faculty of Health Sciences, Kyorin University, 2Department of Evolutionary

Studies of Biosystems, School of Advanced Studies, SOKENDAI (The Graduate University for Advanced Studies): Spatial positioning of chromosome 21 territories in trisomy 21 cells shows individual differences. Chromosome Science 22 (1-4): 40, 2019. DOI: 10.11352/scr.22.23

## 渡辺 恵

### 論 文

1. 渡辺恵, 朝野聡, 張替克美 : 「総合的な学習の時間」の学習効果を考える - 「総合的な学習の時間」の実施状況と大学生の評価に関する調査 - 第2報 - . 杏林大学教職課程年報 第7号 : 5-17, 2020.
2. 渡辺恵 : 地域子育て支援における課題を考える - ひとり親家族に関する最近の研究を手がかりに - . 杏林大学研究報告 第37巻 : 35-45, 2020.

## 津田 美智子

### 講 演

1. 津田美智子, 門間貴史, 小澤咲子, 染谷典子, 土田ももこ, 武田文 : 企業従業員における特定保健指導レベルと生活習慣リスクの関係. 第92回日本産業衛生学会学術集会, 名古屋, 2019年5月22-25日.
2. 土田ももこ, 門間貴史, 小澤咲子, 菊地亜矢子, 津田美智子, 染谷典子, 武田文 : 職域の若年男性におけるメタボリックシンドロームのリスク要因. 第78回日本公衆衛生学会学術集会, 高知, 2019年10月23-25日.
3. 染谷典子, 門間貴史, 土田ももこ, 小澤咲子, 津田美智子, 菊地亜矢子, 武田文 : 女性企業従業員におけるストレスチェック結果に関する年齢階層別検討. 第78回日本公衆衛生学会学術集会, 高知, 2019年10月23-25日.

### 著 書

1. 津田美智子 (分担執筆) : 第109回看護師国家試験対策Pre Test 109-2nd. 株式会社TECOM, 東京, TECOM, 2019. p.286, 293, 450.
2. 津田美智子 (分担執筆) : 第109回看護師国家試験対策Pre Test 109-3rd. 株式会社TECOM, 東京, TECOM, 2019. p.639, 644, 705, 740, 758, 763.
3. 津田美智子 (分担執筆) : 第109回看護師国家試験対策必修スピードテスト. 株式会社TECOM, 東京, TECOM, 2019. p.43, 45, 51, 93, 94, 105, 152.

## 平澤 愛

### 講 演

#### 国際学会

1. Hirasawa A, Suda T, Hirabuki K, Hata N, Sano Y, Uechi T, Matsuda T, Shibata S: The relationship between left ventricular systolic function and cerebral blood flow. 66th American College of Sport Medicine Annual Meeting, USA, May 28th- Jun 1st, 2019.
2. Hirabuki K, Suda T, Hata N, Sano Y, Fukuie M, Uechi T, Hirasawa A, Matsuda T, Shibata S: Left Ventricular morphology and function of Recurrent Syncope Patients. 66th American College of Sport Medicine Annual Meeting, USA, May 28th- Jun 1st, 2019.
3. Hata N, Hirabuki K, Suda T, Sano Y, Fukuie M, Uechi T, Hirasawa A, Matsuda T, Shibata S: Evaluations of nonstationary and stationary autonomic nervous function using heart rate variability for syncope patients with non-cardiogenic causes. 66th American College of Sport Medicine Annual Meeting, USA, May 28th- Jun 1st, 2019.

- Uechi T, Shibata S, Suda T, Hata N, Hirabuki K, Tsukada T, Hirasawa A, Matsuda T: Non-business hours and cold exposure independently worsen neurological outcome after out-of-hospital cardiac arrest. ESC Congress 2019 together with World Congress of Cardiology, France, August 31st-September 4th, 2019.

国内学会

- 渡邊裕宣, 鷺尾拓郎, 平澤愛, 柴田茂貴, 小河繁彦: 経頭蓋超音波ドップラ法による脳自己調節機能同定のための基礎研究. 第61回日本体力医学会学術集会, つくば, 2019年9月19 - 21日.
- 田島勇希, 込山真由, 三村尚也, 山本麻衣花, 福家真理那, 鈴木里奈, 平澤愛, 柴田茂貴: 運動後起立性低血圧に対する冷水摂取の効果. 第61回日本体力医学会学術集会, つくば, 2019年9月19 - 21日.
- 平澤愛, 鷺尾拓郎, 平吹一訓, 須田智也, 福家麻里奈, 齋藤祥太郎, 田宮一樹, 鈴木一也, 畑典孝, 佐野勇貴, 松田剛明, 菅原順, 小河繁彦, 柴田茂貴: 心拍出量の低下が前方および後方脳循環応答に及ぼす影響. 第68回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13-15日.
- 平吹一訓, 平澤愛, 須田智也, 畑典孝, 佐野勇貴, 福家真理那, 鷺尾拓郎, 齋藤祥太郎, 田宮一樹, 鈴木一也, 松田剛明, 菅原順, 小河繁彦, 柴田茂貴: 三次元超音波検査による前負荷減少時の心機能指標についての検討. 第68回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13-15日.

論文

- Shibasaki M<sup>1</sup>, Sato K<sup>2</sup>, Hirasawa A, Sadamoto T<sup>3</sup>, Crandall CG<sup>4,5</sup>, Ogo S<sup>6</sup>: (<sup>1</sup>Nara Women's University, <sup>2</sup>Tokyo Gakugei University, <sup>3</sup>Japan Women's College of Physical Education, <sup>4</sup>Texas Health Presbyterian Hospital, <sup>5</sup>University of Texas, <sup>6</sup>Toyo University): An Assessment of Hypercapnia-Induced Elevations in Regional Cerebral Perfusion During Combined Orthostatic and Heat Stresses. J Physiol Sci 70(1):25, 2020. doi: 10.1186/s12576-020-00751-4

東宮 繁人

講演

- 東宮繁人, 田村優樹, 鴻崎香里奈, 小谷鷹哉, 若林幸郁, 野田雅文, 中里浩一: マウスの下肢ギプス固定は骨格筋のサルコリン発現量および全身の熱産生を増加させる. 第74回日本体力医学会大会, つくば, 2019年9月19 - 21日.

論文

- Tomiya S, Tamura Y, Kouzaki K, Kotani T, Wakabayashi Y, Noda M, Nakazato K: Cast Immobilization of Hindlimb Upregulates Sarcoplipin Expression in Atrophied Skeletal Muscles and Increases Thermogenesis in C57BL/6J Mice. Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol 317(5), 2019.

● 救急救命学科 ●

山田 賢治

講演

- 吉澤貴弘, 関谷繁樹, 山田賢治, 山本邦彦, 高見澤由紀, 武井良太: 小指屈筋腱鞘に沿って広範囲連続性に発生したガングリオンの1例. 第65回埼玉手外科研究会, さいたま, 2019年3月9日.
- 山田賢治, 宮方基行, 堀瀨志穂里, 長谷川浩, 松田剛明, 石原哲, 山本保博, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕: 救急救命士養成校学生における病院実習のリアリティー - 実習前後に実施したアンケート調査からの考察. 第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 和歌山, 2019年5月31日.
- 吉澤貴弘, 関谷繁樹, 山田賢治, 山本邦彦, 野村英介: 橈骨遠

位端骨折に対するステラDプレートの術後CTによる設置位置評価. 第62回日本手外科学会, 札幌, 2019年4月18日.

- 吉澤貴弘, 関谷繁樹, 山田賢治, 山本邦彦, 高見澤由紀, 武井良太: 小指屈筋腱鞘に沿って広範囲連続性に発生したガングリオンの1例. 第52回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 川越, 2019年7月11日.
- 山田賢治: 最新の脳卒中診療について. 杏林救命士会 第7回卒後研修会, 三鷹, 2019年8月8日.
- 山田賢治, 宮方基行, 松村譲児, 長瀬美樹: 上肢末梢血管の周囲に分布する末梢神経~Sihler染色による解剖体の検討. 第48回杏林医学会総会, 三鷹, 2019年11月16日.

論文

- 吉澤貴弘<sup>1</sup>, 関谷繁樹<sup>1</sup>, 山田賢治, 野村英介<sup>1</sup>, 林進<sup>1</sup> (赤心堂病院整形外科): 橈骨遠位端骨折に対するステラDプレート固定の術後CTによる設置位置評価. 日本手外科学会雑誌 36: 910-914, 2020.
- 山田賢治, 宮方基行, 堀瀨志穂里, 長谷川浩, 松田剛明, 石原哲<sup>1</sup>, 山本保博<sup>1</sup>, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕 (東京曳舟病院 救急・総合診療科): 救急救命士養成校学生における病院実習のリアリティー - 実習前後に実施したアンケート調査からの考察. 杏林大学研究報告37: 125-135, 2020.

堀瀨 志穂里

著書

- 堀瀨志穂里, 山口芳裕 (分担執筆): 第1章 福島第一原発事故における消防初動と、帯同医師の役割. 救急医学 5月臨時増刊号. 東京, へるす出版, 2019. p.681-686.

布田 和恵

講演

- 布田和恵: 介護過程、記録方法 (サービス実施記録) について. 特定非営利活動法人 中国帰国者総合互助ネットワーク, 所沢, 2019年10月26日.

著書

- 布田和恵 (分担執筆): こころとからだのしくみ. 2019年度介護福祉士全国統一模擬試験 (第1回・第2回). 介護福祉士国家試験対策研究会編. 東京, 中央法規オンラインショップe-books, 2019.

神山 麻由子

論文

- 神山麻由子, 岡本博照<sup>1</sup>, 和田貴子<sup>2</sup>, 照屋浩司<sup>1</sup> (杏林大・保・健康福祉学科, <sup>2</sup>杏林大・保・名誉教授): 都市部男性消防職員のバーンアウト (燃えつき) に影響を及ぼす仕事ストレスについて. 杏林医学会誌50 (4): 145-155, 2019.

● 看護学科・看護学専攻 ●

基礎・在宅看護学研究室

講演

- 金子多喜子, 大井千鶴: ジェネラルコースレベルV「看護研究」研修. 東京, 2019年4月22日 - 2020年3月13日 (計9回).
- 金子多喜子: ジェネラルコースレベルIV「看護研究: スキル獲得コース」研修. 東京, 2019年5月23日 - 12月20日 (計5回).
- 斉藤茂子, 栗原良子, 金子多喜子: 茨城県看護協会 令和元年度新人看護職員研修ガイドラインに基づく研修「教育担当者研修」. 水戸, 2019年5月27日, 6月3 - 4日.
- 斉藤茂子, 栗原良子, 金子多喜子: 社会福祉法人恩賜財団済生会主催「令和元年度新人看護職員教育担当者研修」. 東京, 2019

年10月10 - 11日.

5. 柴崎美紀:在宅看護の役割と高齢者の食支援における課題. 第7回日本老年歯科医学会主催高齢者医療臨床研修会, 東京, 2019年12月15日.
6. 金子多喜子:みつげよう!!身近にある研究テーマ. 東京都看護協会 看護研究ミニ講座, 東京, 2020年1月15日.

## 論文

1. 金子多喜子, 森田展彰<sup>1</sup>, 伊藤まゆみ<sup>2</sup>, 関谷大輝<sup>3</sup> (筑波大学, <sup>2</sup>目白大学, <sup>3</sup>東京成徳大学):感情労働に伴う感情対処育成のためのWeb版教育プログラムの検討. 日本看護科学学会誌 39: 45 - 53, 2019. DOI: 10.5630/jans.39.45
2. 柴崎美紀:地域一体型NSTにおいて看護師が歯科衛生士に期待すること. 老年歯科医学34 (1): 70-74, 2019. DOI: <https://doi.org/10.11259/jsg.34.70>
3. 柴崎美紀, 美ノ谷新子<sup>1</sup>, 須田知宏<sup>2</sup>, 森安東光<sup>2</sup> (1東邦大, <sup>2</sup>武蔵野市役所):都市部に在住する高齢者の『強み』の実態—男女差と世帯構造類型からの検討—. 杏林医学会誌 51 (1): 11 - 24, 2020. DOI: <https://doi.org/10.11434/kyorinmed.51.11>

## 著書

1. 森田展彰, 金子多喜子 (分担執筆):第3章第13節 支援者の二次性トラウマ、燃え尽きの予防。「助けて」が言えない SOSをだせない人に支援者は何が出来るか. 松本俊彦編集. 東京, 日本評論社, 2019. 145 - 158.
2. 松崎紗織, 奥裕美 (分担執筆):看護師のように考える コンセプトにもとづく事例集・7 体温調節・炎症. 看護教育60号7巻. 東京, 医学書院, 2019. 586 - 592.

## 成人看護学研究室

### 講演

1. Kataoka H, Ando Y, Sakai Y, Tsuchida T, Matsubara Y, Mitomi Y, Watanabe M: A questionnaire survey on difficulties experienced in daily life by ostomates in Japan. The 11th Congress of the Asian Society of Stoma Rehabilitation, Japan, February 23rd, 2019.
2. 松原康美, 土田敏恵, 安藤嘉子, 酒井透江, 片岡ひとみ, 渡邊光子, 三富陽子, 藤井誠:消化管ストーマ保有者がににおいてガスで困った経験とその特徴～ストーマ保有者の実態調査より. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 奈良, 2019年5月25-26日.
3. 土田敏恵, 酒井透江, 松原康美, 安藤嘉子, 片岡ひとみ, 渡邊光子, 三富陽子, 藤井誠:ストーマケアに必要な自己負担額の関連要因の分析～ストーマ保有者の実態調査より. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 奈良, 2019年5月25-26日.
4. 太田淳子, 馬場理恵, 中島恵美子:高齢者における熱中症と口腔機能との関連性についての後方視的研究. 第24回日本老年看護学会学術集会, 仙台, 2019年6月6-8日.
5. 森下純子, 井上智子, 中島恵美子, 新田理恵, 荒川祐貴:根治的治療の適応外となった進行性肝胆膵がん患者の治療・療養過程の体験. 第24回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2019年6月20-21日.
6. 中島恵美子:「科研費獲得に向けた申請書類の作成について」. 清泉女学院大学FD講演会, 長野, 2019年7月29日.
7. Hakari T: Support for cancer survivors by nurses. National Cancer Center of Mongolia, Mongolia, August 12th, 2019.
8. 浅場香, 中島恵美子:プログラムデザイン—学び合い育ちあう場をデザインする— (基礎編). 日本がん看護学会特別関心活動グループがん看護専門看護師, 三鷹, 2019年8月17日.
9. 森下純子, 中島恵美子, 荒川祐貴:化学療法継続中の進行性肝胆膵がん患者のコーピング態度及び健康関連QOLの推移. 第45回日本看護研究学会学術大会, 大阪, 2019年8月20-21日.

10. 角田知穂, 園山真由美, 南川雅子, 寺田由紀子, 古屋洋子, 三木祐子, 量倫子, 岩田洋子, 中島恵美子, 遠藤太:親のがんを知らされた子どもの支援プログラムの意義—小学生の子どもをもつがん当事者の立場から—. 日本家族看護学会第26回学術集会, 京都, 2019年9月14-15日.
11. 伊藤有美:教育方法のポイント「教案作成方法」. 京都大学大学院 ELNEC - JCC開発研究会主催 ELNEC - J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム, 三鷹, 2019年9月14-15日.
12. 太田淳子, 中島恵美子:高齢者における熱中症と口腔機能との関連性についての後方視的研究 (中間報告第2報). 第14回日本応用老年学会大会, 京都, 2019年10月19-20日.
13. 伊藤有美:Module 8 臨死期のケア. 日本集中治療医学会主催 ELNEC - J クリティカルケアカリキュラム看護師教育プログラム, 大阪, 2019年11月9-10日.
14. 中島恵美子:「これならできる臨地実習指導者」. 杏林大学医学部付属病院看護部臨地実習指導者研修会, 三鷹, 2019年11月14日.
15. 浅場香, 中島恵美子:プログラムデザイン—学び合い育ちあう場をデザインする— (実践編). 日本がん看護学会特別関心活動グループがん看護専門看護師, 三鷹, 2020年1月11日.
16. 伊藤有美:Module 2 痛みのマネジメント, 教育方法のポイント「モジュール教案の作成方法」. 京都大学大学院ELNEC - JCC開発研究会 主催 ELNEC - J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム, 京都, 2020年2月8-9日.

## 論文

1. 須釜淳子<sup>1</sup>, 真田弘美<sup>2</sup>, 溝上祐子<sup>3</sup>, 貝谷敏子<sup>4</sup>, 高橋麻由美<sup>5</sup>, 間宮直子<sup>6</sup>, 内藤亜由美<sup>7</sup>, 酒井透江 (1金沢大学, <sup>2</sup>東京大学, <sup>3</sup>日本看護協会, <sup>4</sup>札幌市立大学, <sup>5</sup>赤羽病院, <sup>6</sup>大阪府済生会吹田病院, <sup>7</sup>藤沢市民病院):皮膚・排泄ケア認定看護師の組織横断的活動の成果に関する調査 (第2報) 創傷のアウトカムに関する前向き調査. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会22 (4): 366-379, 2019.
2. 須釜淳子<sup>1</sup>, 真田弘美<sup>2</sup>, 溝上祐子<sup>3</sup>, 貝谷敏子<sup>4</sup>, 高橋麻由美<sup>5</sup>, 間宮直子<sup>6</sup>, 内藤亜由美<sup>7</sup>, 酒井透江 (1金沢大学, <sup>2</sup>東京大学, <sup>3</sup>日本看護協会, <sup>4</sup>札幌市立大学, <sup>5</sup>赤羽病院, <sup>6</sup>大阪府済生会吹田病院, <sup>7</sup>藤沢市民病院):皮膚・排泄ケア認定看護師の組織横断的活動の成果に関する調査(第3報) 皮膚・排泄ケア認定看護師の構造・プロセス分析. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 23(3):330-343, 2019.
3. 安藤嘉子<sup>1</sup>, 土田敏恵<sup>2</sup>, 片岡ひとみ<sup>3</sup>, 酒井透江, 松原康美<sup>4</sup>, 渡邊光子<sup>5</sup>, 三富陽子<sup>6</sup>, 藤井誠<sup>7</sup>, 木戸倫子<sup>7</sup>, 大野ゆう子<sup>7</sup> (1大阪赤十字病院, <sup>2</sup>兵庫医療大学, <sup>3</sup>山形大学, <sup>4</sup>北里大学, <sup>5</sup>関西労災病院, <sup>6</sup>京都大学付属病院, <sup>7</sup>大阪大学):日本における年齢群別ストーマ管理の自立の違いに関する横断的研究(A cross-sectional study on the differences among age groups in independence for stoma management in Japan). 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 23(3): 305-317, 2019.

## 高齢者看護学研究室

### 講演

1. Harasawa N, Nagae H, Sakai S, Watanabe K, Moriya H, Ikeda M: Perception and Support for Advance Care Planning Among Healthcare Professionals. 16th World Congress of the European Association for Palliative Care, Germany, May 23rd-25th, 2019.
2. Nagae H, Takahashi Z, Sakai S, Harasawa N, Kawahara M, Iwasaki T, Ikeda M, Tanigaki S, Katayama Y, Watanabe K, Takenouchi S: Development of Educational Program for Mixed Groups of Citizens and Healthcare Providers to Facilitate Readiness Toward Advance Care Planning: Pilot Study. 16th World Congress of the European Association for Palliative Care, Germany, May 23rd-25th, 2019.

- 坂井志麻：地域包括ケアシステムにおいて高齢者の暮らしを支える入退院支援．日本老年看護学会第24回学術集会，仙台，2019年6月8日．
- 太田淳子，馬場理恵，中島恵美子：高齢者における熱中症と口腔機能との関連性についての後方視的研究（第1報）．日本老年看護学会第24回学術集会，仙台，2019年6月6-8日．
- 山本君子，平川美和子，清水典子，佐藤智子，佐藤ユキ子，太田淳子：家族の介護負担感と精神的回復力との関連－認知症高齢者の介護を想定した場合－．日本ケアマネジメント学会第18回研究大会，仙台，2016年6月6-8日．
- 平川美和子，山本君子，佐藤智子，清水典子，佐藤ユキ子，太田淳子：家族の介護負担感と生活環境との関連－認知症高齢者の介護を想定した場合－．日本ケアマネジメント学会 第18回研究大会，仙台，2016年6月6-8日．
- 坂井志麻，池田真理，近藤芳子，杉本文美子，藤井淳子：入退院支援システム導入による患者満足度評価．第24回日本在宅ケア学会学術集会，仙台，2019年7月27-28日．
- 池田真理，白石和子，近藤芳子，坂井志麻，杉本文美子，藤井淳子：入退院支援センターを主軸とした地域包括ケアにおける大学病院の役割．第23回日本看護管理学会学術集会，新潟，2019年8月23-24日．
- 坂井志麻：入退院支援の流れ・連携・協働について．東京都入退院時連携強化研修，東京，2019年9月13日，11月12日，2020年1月10日，2月7日．
- 坂井志麻，長江弘子，原沢のぞみ，岩崎孝子，川原美紀，他：一般市民におけるAdvance Care Planningに対する認識の実態調査．日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会，名古屋，2019年9月14-15日．
- 原沢のぞみ，長江弘子，岩崎孝子，高橋在也，坂井志麻，他：市民と専門職で協働する日本型対話促進ACP介入モデルプログラム～リフレクションによる効果の検討～．日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会，名古屋，2019年9月14-15日．
- 坂井志麻：退院支援マニュアル．東京都退院支援人材育成研修，東京，2019年10月3日，11月1日．
- 太田淳子，中島恵美子：高齢者における熱中症と口腔機能との関連性についての後方視的研究（第2報）．第14回日本応用老年学会大会，京都，2019年10月19-20日．
- 坂井志麻：病院地域の関係性構築に向けた教育研修の取り組み．地域連携・退院支援研究会，東京，2019年10月28日．
- 坂井志麻：入退院支援プロセスにおける病院と地域支援者との連携について．地域連携・退院支援研究会，東京，2019年10月28日．
- 坂井志麻，池田真理，藤井淳子：入退院支援センターにおけるPatient Flow Managementシステム導入による予定手術実施と在院日数への影響．第39回日本看護科学学会学術集会，金沢，2019年11月30日-12月1日．
- 坂井志麻：病棟看護師が実践する退院支援プロセスと多職種連携．浅間南麓ころも医療センター，長野，2020年2月17日．

## 論文

- 坂井志麻：地域包括ケアにおける入退院支援．老年看護学 24(2)：3-4, 2020.

## 著書

- 坂井志麻（分担執筆）：認知症の人や家族の合意を得て退院支援計画を立案しよう．認知症Plus退院支援一般病棟ナースのためのQ&A．深堀浩樹，酒井郁子，戸村ひかり，山川みやえ編集．東京，日本看護協会出版会，2019．p64-75.
- 坂井志麻（分担執筆）：退院支援教育の実践例．よくわかる退院支援．戸村ひかり編著．東京，学研メディカル秀潤社，2019．p159-162.
- 坂井志麻（分担執筆）：リハビリテーションにおける看護、在宅療養に向けた退院支援．最新老年看護学第3版2019年版．水谷信子監修．東京，日本看護協会出版会，2019．p227-236.

- 坂井志麻：地域へとつながる看看連携の実際～看護小規模多機能型居宅介護事業所、訪問看護ステーションなど～．東京，学研ナースサポート（講義型e-ラーニングコンテンツ），学研メディカルサポート，2019.
- 坂井志麻：臨床アドバンスコース；退院支援 生活ケア上の課題・脳血管障害でADLが低下した患者への退院支援．CandY Link キャンディリンク（e-ラーニングコンテンツ）．大阪，メディカ出版，2019.
- 熊野奈津美：14章感覚器に障害のある人の手術 1節白内障．ナーシンググラフィカ，成人看護学④周術期看護．中島恵美子編集．大阪，メディカ出版，2019．p.222-223.
- 太田淳子：日常生活の自立に対する援助／日常生活における援助技術 D排泄～F衣生活．看護学入門11巻 老年看護．小池妙子編集．東京，メヂカルフレンド社，2019．p.76-92／p.114-151.

## 報告書

- 坂井志麻：退院支援における評価指標に関する研究．2019年度厚生労働科学研究費補助金，研究代表者 川越雅弘：在宅医療の提供体制の評価指標の開発のための研究．2019年度研究分担者報告書．
- 坂井志麻：外来看護における在宅療養移行支援プログラムの開発．科学研究費補助金（若手研究B），2019年度研究成果報告書．
- 太田淳子：高齢者の熱中症予防対策としての口腔トレーニングプログラムの構築．科学研究費補助金（基盤研究C），2019年度研究成果報告書．

## その他

- 坂井志麻：「入退院支援に関するロールプレイング動画」作成取材．エーザイ株式会社，2019年8月7日．

## 母子看護学研究室

### 論文

- 絹川朋美，柗淵恵美子<sup>1</sup>（駒沢女子大）：経産婦における妊娠中の身体活動とマイナートラブルおよび精神症状との関連．母性衛生 60（2）：386-394，2019.

## 助産学研究室

### 講演

- 加藤千晶，江田直美，早田紗彩：死産を経験した母親に必要なグリーフケアの検討．第19回日本母子看護学会学術集会，東京，2019年6月30日．

## 小児看護学研究室

### 講演

- 角田知穂，園山真由美，南川雅子，寺田由紀子，古屋洋子，三木祐子，量倫子，岩田洋子，中島恵美子，遠藤太：親のがんを知らされた子どもの支援プログラムの意義－小学生の子どもをもつがん当事者の立場から－．日本家族看護学会第26回学術集会，京都，2019年9月14-15日．

## 地域看護学研究室

### 講演

#### 学会・研究会，ポスターセッション

- 大木幸子，藤井広美，加藤昌代，小松実弥，片岡幸子，相方淑恵，河西あかね，高城智圭，櫻井尚子，平野かよ子，松本加代子，新井麻友子，増山由起：保健師の専門技術獲得のためのケースメソッド学習プログラムの施行（第1報）．第60回日本社会医学会総会，東京，2019年8月6-7日．
- 大木幸子，藤井広美，加藤昌代，小松実弥，片岡幸子，相方淑恵，河西あかね，高城智圭，櫻井尚子，平野かよ子，松本加代



子, 新井麻友子, 増山由起: 保健師の専門技術獲得のためのケースメソッド学習プログラムの参加者における評価 (第2報). 第60回日本社会医学学会総会, 東京, 2019年8月6-7日.

3. 高城智圭, 大木幸子, 藤井広美, 加藤昌代, 小松実弥, 片岡幸子, 相方淑恵, 河西あかね, 櫻井尚子, 平野かよ子, 松本加代子, 新井麻友子, 増山由起: 保健師の専門技術獲得のためのケースメソッド学習プログラムの人材育成担当者による評価 (第3報). 第60回日本社会医学学会総会, 東京, 2019年8月6-7日.
4. 戸ヶ里泰典, 井上洋士, 高久陽介, 阿部桜子, 塩野徳史, 細川陸也, 米倉佑貴, 若林チヒロ, 大木幸子: 国内HIV陽性者女性の心理社会的状況と健康状態の実態 HIV陽性者男性との比較より. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23-25日.
5. 阿部桜子, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 細川陸也, 米倉佑貴, 大木幸子, 塩野徳史: 認知的HIVスティグマ尺度開発の試み. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23-25日.
6. 戸ヶ里泰典, 井上洋士, 高久陽介, 大島岳, 阿部桜子, 細川陸也, 塩野徳史, 米倉佑貴, 片倉直子, 山内麻江, 河合薫, 若林チヒロ, 大木幸子: 日本人HIV陽性者におけるストレス関連成長の実態とその特徴. 第33回日本エイズ学会, 熊本, 2019年11月27-29日.
7. 土屋菜歩, 佐野貴子, 近藤真規子, カエベタ亜矢, 関なおみ, 城所敏英, 根岸潤, 堅多敦子, 川畑拓也, 貞升健志, 須藤弘二, 加藤真吾, 大木幸子, 生島嗣, 今井光信, 今村顕史: 保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査. 第33回日本エイズ学会, 熊本, 2019年11月27-29日.
8. 土屋菜歩, 佐野貴子, 近藤真規子, カエベタ亜矢, 関なおみ, 城所敏英, 根岸潤, 堅多敦子, 川畑拓也, 貞升健志, 須藤弘二, 加藤真吾, 大木幸子, 生島嗣, 今井光信, 今村顕史: 保健所・検査所におけるHIV検査・相談体制と実施状況および課題に関するアンケート調査. 第33回日本エイズ学会, 熊本, 2019年11月27-29日.
9. 大木幸子, 藤井広美, 加藤昌代, 小松実弥, 河西あかね, 高城智圭, 櫻井尚子, 平野かよ子, 片岡幸子, 松本加代子, 新井麻友子, 増山由起: 保健師の実践技術獲得のためのケースメソッド研修プログラムの効果評価 プログラム前後の技術項目の獲得に関する自己評価から. 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会, 松山, 2019年1月11-12日.

#### 地域の講演会, 研修会

1. 大木幸子: 個別援助の基本と家族援助論について. 横浜市看護職1年目研修 (第1回), 横浜, 2019年8月9日.
2. 大木幸子: 保健師に求められる能力、視点、姿勢～個別・家族支援から学ぶこと、気づくこと～. 令和元年度レベルI保健師研修第1回, 青森, 2019年8月23日.
3. 大木幸子: 公衆衛生看護管理を学生にどう教授していくか. 全国保健師教育機関協議会中国・四国ブロック研究会, 岡山, 2019年9月28日.
4. 大木幸子: 新任保健師と育ちあうために～保健師として期待される専門技術を獲得していくためにできること～. 南多摩保健医療圏地域保健・医療・福祉推進研修, 東京都南多摩保健所, 2019年10月11日.
5. 大木幸子: こんにちは赤ちゃん訪問でのケース対応について事例を通して考える. 東京都武蔵野市事例検討会, 武蔵野, 2019年10月15日.
6. 大木幸子: 災害時における保健師活動～発災初期における災害対応～. 災害対応における研修会, 所沢, 2019年10月28日.
7. 大木幸子: 自分のキャリアを開発する～経験学習サイクルから考える. 中堅期・管理期保健師研修会, 庄内, 2019年10月29日.
8. 大木幸子: 事例検討を通して. 乳幼児虐待予防スーパーバイ

ズ研修, 川崎, 2019年11月1日.

9. 大木幸子: 保健事業から心理士に期待すること. 東京公認心理師協会子育て支援委員会企画研修会, 東京, 2019年11月24日.
10. 大木幸子: 母子保健活動における保健師の役割～死亡事例から私たちが学べること～. 第8回母子保健研修, 東京, 2019年12月16日.
11. 大木幸子: 個別援助と集団支援、および地域における集団支援の必要性について. 横浜市看護職1年目研修 (第2回), 横浜, 2019年12月20日.
12. 大木幸子: 後輩保健師へのエール! 「行政における保健師活動の目的と実践において大切なこと」. 北多摩西部保健医療圏市町村支援研修 (新任保健師研修), 東京, 2019年12月24日.
13. 大木幸子: 支援を拒否するケースの初めの一歩～扉を開く～. 東京都アウトリーチ支援事業研修, 東京, 2020年1月7日.
14. 大木幸子: 個から集団、地域の支援に目を向ける～地域に根ざした保健師活動の実践に向けて～. 令和元年度レベルI保健師研修第2回, 青森, 2020年1月17日.
15. 大木幸子: 「きらりいのじん☆学習会」～いつまでもこのまちで暮らしていくために～. 三鷹市西部地域包括支援センター, 三鷹, 2020年2月1日.
16. 大木幸子: 地区保健活動の報告と評価. 所沢市地区保健活動に関する研修会, 所沢, 2020年2月14日.
17. 大木幸子: 母子保健事業及び要支援課程への支援. 要支援家庭の早期発見・支援事業, 八丈町, 2020年2月25日.

#### 論文

1. 大木幸子, 桑原ゆみ<sup>1</sup>, 下山田鮎美<sup>2</sup>, 鈴木美和<sup>3</sup>, 滝澤寛子<sup>4</sup>, 平野美千代<sup>5</sup>, 岩本里織<sup>6</sup>, 佐伯和子<sup>7</sup>, 荒木田美香子<sup>8</sup>, 教育課程委員会<sup>1</sup>(札幌医科大学保健医療学部看護学科, <sup>2</sup>東北福祉大学健康科学部保健看護学科, <sup>3</sup>淑徳大学看護栄養学部看護学科, <sup>4</sup>京都学園大学健康医療学部看護学科, <sup>5</sup>北海道大学大学院保健科学研究院, <sup>6</sup>徳島大学大学院医歯薬学研究部, <sup>7</sup>前北海道大学院保健科学研究院, <sup>8</sup>国際医療福祉大学小田原保健医療学部): 親子保健活動における公衆衛生看護技術の体系化(第2報), 保健師教育, 3(1):21-34, 2019.

#### 著書

1. 大木幸子: 第2章 公衆衛生看護の活動の場 1行政. 新版保健師業務要覧第3版2019年版. 井伊久美子・荒木田美香子・松本珠実・堀井とよみ・村嶋幸代・平野かよ子 編集. 東京, 日本看護協会出版会, 2019. p52-60.
2. 大木幸子: 第3章 地方自治と地域保健行政. 新版保健師業務要覧第4版 2020年版. 井伊久美子・勝又浜子・森永裕美子・荒木田美香子・坂本真理子・村嶋幸代 編集. 東京, 日本看護協会出版会, 2019. p128-132.

#### 報告書

1. 大木幸子, 藤井広美, 加藤昌代, 小松実弥, 河西あかね, 高城智圭, 櫻井尚子, 平野かよ子, 片岡幸子, 松本加代子, 新井麻友子, 増山由起: 「行政における保健師の実践能力育成のためのケースメソッドプログラムの開発と検証」報告書. 科学研究費助成事業令和元年度 「行政における保健師の実践能力育成のためのケースメソッドプログラムの開発と検証」研究班報告書.
2. 大木幸子: 精神保健福祉センターにおけるMSMおよびHIV陽性者への相談対応の現状と課題に関する調査. 厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業) 令和元年度 地域においてMSMのHIV感染・薬物使用を予防する研究 総括・分担研究報告書総合報告書.
3. 土屋菜歩, 佐野貴子, 近藤真規子, 今井光信, 須藤弘二, 加藤真吾, 大木幸子, 川畑拓也, 生島嗣, 堅多敦子, 根岸潤, 城所敏英, カエベタ亜矢, 関なおみ, 今村顕史: 保健所におけるHIV検査・相談の現状評価と課題解決に向けての研究. 厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業) 令和元年度 HIV 検査受検勧奨に関する研究 総括・分担研究報告書.

精神看護学研究室

講演

1. 森真喜子, 安保寛明, 江波戸和子, 佐藤美保: 精神障害当事者の「病いの語り」を促進する看護援助に関する研究. 日本精神保健看護学会第29回学術集会, 名古屋, 2019年6月2-3日.
2. 江波戸和子, 佐藤美保: 「アウトリーチの理念と訪問支援の進め方」—介入時のアセスメントの必要性—. アウトリーチ支援研修(多摩地域対象)多摩, 2019年6月19日.
3. 岡京子, 佐藤美保, 江波戸和子, 浅沼奈美: 精神看護学演習におけるロールプレイの意義. 第45回精神科看護学術集会東京支部, 東京, 2019年11月16日.
4. 浅沼奈美(講師): 措置入院者退院支援体制構築のためのわが街の課題。「東京都における措置入院者退院後支援ガイドライン」運用に伴う研修, 東京, 2020年2月20日.

論文

1. 佐藤美保, 佐藤留美<sup>1</sup>, 高館京宏<sup>1</sup>, 浅沼奈美<sup>1</sup>(東京都町田市): ひきこもりからの回復プロセス—当事者へのインタビュー調査より—. 杏林大学研究報告37:13-26, 2020.

医療科学 I 研究室

その他

1. 岩橋桜子: バレーボール第20回ジュニア女子世界選手権大会(U-20)引率スタッフ帯同ドクター, 派遣, メキシコ, 2019年7月12 - 21日.

● 看護学科・看護養護教育学 ●

荒添 美紀

論文

1. Arazoe M: The Characteristics of Communication in Interprofessional Collaboration in Multidisciplinary Team. Asian Journal of Human Services Vol.16: 29-44, 2019. DOI: 10.14391/ajhs.16.29
2. Arazoe M: Communication Gaps in Interprofessional Collaboration between medical and welfare professionals. Total Rehabilitation Research Vol.7: 1-21, 2019. DOI: 10.20744/trr.6.0\_1
3. Arazoe M, Amano M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kyorin University): Perception of dementia by different professionals when discharging patients. Asian Journal of Human Services Vol.17: 43-60, 2019. DOI: 10.14391/ajhs.17.43

著書

1. 荒添美紀(分担執筆): 1コミュニケーションの場での“想定外”, 6活動・休息援助の場での”想定外“, ”清潔援助の場での”想定外“. 実習の“想定外”を乗り切る なるほど看護技術. 齊藤茂子編者. 東京, メディカルフレンド社, 2019. p.10-17, 98-101, 114-117.

亀崎 路子

講演

1. 亀崎路子: 専門性をいかした保健指導の進め方～新採用養護教諭および中堅養護教諭として～. 平成31年度神奈川県新採用および中堅養護教諭研修講座【専門力向上③】, 藤沢市, 2019年8月23日.
2. 亀崎路子: 健康相談. 令和元年度茨城県中堅養護教諭〔前期〕資質向上研修講座, 笠間, 2019年9月19日.
3. 亀崎路子: 児童生徒の心身の健康問題に対応するための取り組み—フィジカルアセスメントについて. 三鷹市立小・中学校教育研究会, 三鷹, 2019年10月9日.

4. 亀崎路子: 基調報告 学校健康相談におけるチーム支援—養護教諭の「見立て」から考える—. 日本学校健康相談学会第16回学術集会, 名古屋, 2020年3月7 - 8日.
5. 上原美子, 佐藤玲子, 亀崎路子, 石塚里沙: 養護教諭の養成期における健康相談の到達度—養護教諭の育成指標から—. 日本学校健康相談学会第16回学術集会, 名古屋, 2020年3月7 - 8日.

論文

1. 亀崎路子, 河野千枝<sup>1</sup>, 古谷明子<sup>1</sup>, 山中寿江<sup>2</sup>, 上原美子<sup>3</sup>, 中川裕子<sup>4</sup>, 大谷尚子<sup>4</sup> (<sup>1</sup>茨城県公立中学校, <sup>2</sup>聖徳大学短期大学部, <sup>3</sup>埼玉県立大学, <sup>4</sup>養護実践研究センター): 養護学の構築に向けての基礎的研究—養護教諭のライフを通じた「養護」の探求—. 学校健康相談研究 16: 59-72, 2019.
2. 関澤浩一<sup>1</sup>, 渡辺恵<sup>1</sup>, 張替克美<sup>1</sup>, 亀崎路子 (<sup>1</sup>杏林大・保・健康福祉): 三鷹市・武蔵野市・羽村市の小中学校におけるインターンシップ実践報告(2018年度)～養護教諭を目指す杏林大学保健学部のインターンシップ実施学生を対象とした質問紙調査から～. 杏林大学教職課程年報 7: 19-32, 2019.

著書

1. 亀崎路子(分担執筆): 第2章2節 学校保健経営, 学校保健の組織活動. 新版学校保健—チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション. 徳山美智子, 竹鼻ゆかり, 三村由香里, 上村弘子編著. 京都, 東山書房, 2019. p.89-101.

報告書

1. 亀崎路子: 中高生と大学生の高大連携ボランティア活動. 日英中トライリンガル育成のための高大接続事業報告書2018(平成30年度) p.53-54, 杏林大学高大接続推進室, 東京, 2019年7月.

その他

1. 亀崎路子: 会長挨拶 生きている実感. 日本学校健康相談学会機関紙HUTAN42: 1, 2019年6月17日発行.
2. 日本養護教諭養成大学協議会 教職課程(カリキュラム)・養成制度(法制度)検討委員会(一部分担執筆): 委員会等の報告. 日本養護教諭養成大学協議会事業活動報告書(2018年度). p.54-68, 2019年9月10日.
3. 亀崎路子: 基調報告 学校健康相談におけるチーム支援—養護教諭の「見立て」から考える—. 日本学校健康相談学会第16回学術集会抄録集, p.12-15, 2020.
4. 亀崎路子: 教員採用試験参考書シリーズ養護教諭参考書2021年度版(18自治体を担当). 協同教育研究会編. 協同出版, 東京.
5. 亀崎路子: 教員採用試験過去問シリーズ養護教諭過去問解説2021年度版(3自治体を担当), 協同教育研究会編. 協同出版, 東京.

田中 美千子

講演

1. 安藤智子, 金井聖子, 田崎さより, 田中美千子, 中尾達馬, 村上達也: 子どもと教師の関係性について考える—幼稚園・学校における子どものアタッチメント欲求と探索行動—. 第31回日本発達心理学会大会, 大阪, 2020年3月2 - 4日. (誌上開催)

論文

1. 田中美千子, 武田明恵<sup>1</sup>, 本田由美<sup>1</sup> (<sup>1</sup>杏林大・保4年生): ひきこもりの子どもをもつ親への支援について—支援者へのインタビューを通じた検討—. 杏林大学教職課程年報 第7号: 33-42, 2019.

佐々木 裕子

講演

1. 佐々木裕子, 高橋真理, 大田康江: 産後うつへの予防にむけた心理教育的育児介入プログラムWWW日本版の紹介と実演.

第21回日本母性看護学会学術集会, 広島, 2019年6月14 - 15日.

- 鈴木朋子, 太田ひろみ, 佐々木裕子, 場家美沙紀, 山内亮子, 大野あずさ, 佐藤有紗: 初めてふたごを育てる父親が捉えた育児の現実とジレンマ. 日本双生児研究学会第34回学術講演会, 金沢, 2020年1月11日.

#### 報告書

- 場家美沙紀, 太田ひろみ, 佐々木裕子, 鈴木朋子, 山内亮子: 多胎育児支援活動「ツインズマーケットの開催」. 文部科学省(地(知)の拠点事業) 2019年度 地域交流活動報告書.
- 佐々木裕子, 鈴木朋子: 性の多様性を取り入れた「いのちのおはなし会」実践の試み. 文部科学省(地(知)の拠点事業) 2019年度 地域交流活動報告書.

#### 佐藤 ユキ子

#### 講演

- 平川美和子, 山本君子, 佐藤智子, 清水典子, 佐藤ユキ子, 太田淳子: 家族の介護負担感と生活環境との関連 —認知症高齢者の介護を想定した場合—. 第18回日本ケアマネジメント学会研究大会, 仙台, 2019年6月6 - 9日.
- 山本君子, 平川美和子, 清水典子, 佐藤智子, 佐藤ユキ子, 太田淳子: 家族の介護負担感と精神的回復力との関連 —認知症高齢者の介護を想定した場合—. 第18回日本ケアマネジメント学会研究大会, 仙台, 2019年6月6 - 9日.

#### 論文

- Yamamoto K<sup>1</sup>, Hirakawa M<sup>2</sup>, Amano M<sup>1</sup>, Omori C, Sato Y, Sato T, Ota J, Matsuzaki S, Inoue Y<sup>3</sup>, Takeuchi T<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Junshin University, <sup>2</sup>Hirosaki University Health and Welfare, <sup>3</sup>Japanese Red Cross Junior College of Akita, <sup>4</sup>International University of Health and Welfare Graduate School): Construct of “Individuality” Perceived by Nursing Care Workers: A Qualitative Interview Study. Asian Journal of HUMAN SERVICES, VOL.16,58-67,2019. DOI:10.14391/ajhs.16.58

#### 戸塚 恵子

#### 講演

- 戸塚恵子: 保育園で求められる地域支援 茅ヶ崎市の子育て支援を考える～. 茅ヶ崎市保育研修, 茅ヶ崎, 2019年7月5日.
- 戸塚恵子: 介護支援専門員が訪問看護ステーションを選択するアセスメント要因に関する研究. 第32回日本看護福祉学会学術集会, 福岡, 2019年7月19 - 20日.
- 戸塚恵子: ～新任期保健師・学生指導について考える～. 世田谷区保健師人材育成指導担当者研修, 東京, 2019年8月15日.
- 戸塚恵子: “こころ”と“からだ”の健康学 今日から楽しく認知症予防. まちだ市民大学HATS, 町田, 2019年9月5日.

#### 論文

- 戸塚恵子: 療養者・家族のニーズに応えるために介護支援専門員が訪問看護ステーション選択時に重視している要因に関する研究. 日本看護福祉学会誌 25 - 2, 241 - 254, 2020.

#### その他

#### 社会における主な活動

- 戸塚恵子: 日本在宅ケア学会研究助成. 訪問看護ステーションを長期にわたり安定・維持・向上に導いた所長の経営管理活動プロセスに関する研究. 2019年4月1日 - 2020年3月31日.
- 戸塚恵子: 世田谷区障害認定審査会委員, 東京, 2019年4月1日 - 2020年3月31日.
- 戸塚恵子: 世田谷区医師会立看護高等専修学校講師『保健医療福祉のしくみ』, 東京, 2019年6月1日 - 7月13日.
- 戸塚恵子: まちだ市民大学HATSプログラム委員, 町田, 2015

年1月～.

#### 佐野 恵美香

#### 講演

- Tamamoto K, Ueki J, Sano E, Nomura N, Ikeda M, Hino K, Sano Y, Nagashima O, Suzuki Y, Sasaki S: Developing A Novel Application Software for iPad that Interactively Carries Out Personalized Self-Management Education to COPD Patients Receiving Long-Term Oxygen Therapy: A Pilot Study. American Thoracic Society 2019 International Conference, USA, 20 May, 2019.
- 玉本和紀, 植木純, 佐野恵美香, 池田恵, 樋野恵子, 佐野裕子, 和田裕雄: A new-generation application software for iPad enabling personalized self-management education interactively to severe COPD patients receiving home oxygen therapy (HOT). 順天堂大学創立180周年記念 日中看護国際シンポジウム, 東京, 2019年6月22日.
- 野村菜摘, 植木純, 佐野恵美香, 池田恵, 樋野恵子, 玉本和紀, 佐野裕子, 和田裕雄: 気管支喘息患者を個別的にセルフケア支援する双方向性モバイルアプリケーションの開発とmHealthの現況. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会, 東京, 2019年7月6日.
- Sano E, Ueki J, Yonezawa M, Gyobu H, Hino K, Ikeda M, Sano Y, Wada H: Developing a novel mobile wearable tool of measuring real-time respiratory pattern and thoracic motion non-invasively. 24th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Vietnam, 15 November, 2019.
- Nomura N, Ueki J, Sano E, Ikeda M, Hino K, Sano Y, Tamamoto K, Wada H: Assessing strategies and contents of mobile apps for asthma self-management in 2019. 24th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Vietnam, 16 November, 2019.

#### 柴田 滋子

#### 講演

- 柴田滋子, 小川純子: 看護大学新入生の自己学習能力の特徴-入学時と7ヶ月後の比較から-. 第13回看護教育研究学会学術集会, 東京, 2019年10月26日.
- 柴田滋子, 鈴木英子, 小檜山敦子, 木内千晶, 松尾まき, 高山裕子: 訪問看護師の困難感尺度の作成. 第39回日本看護科学学会学術集会, 金沢, 2019年11月30日.
- 柴田滋子: 訪問看護師の困難感と職務満足感との関連. 第9回日本在宅看護学会学術集会, 東京, 2019年12月8日.

#### 寺島 涼子

#### 講演

- 宿利真由美, 荒添美紀, 寺島涼子, 糸賀大地: 看護研究講義. 東邦大学医療センター大橋病院, 東京, 2019年6月14日.
- 寺島涼子: 糖尿病患者の生活の質を考えたケア～糖尿病患者の口腔内環境と加齢に伴う変化～. 2019年度西東京糖尿病療養指導プログラム 第16回西東京教育看護研修会, 東京, 2019年7月28日.
- 寺島涼子: 摂食嚥下機能と口腔ケア. 高齢社会における地域活性化コーディネータ養成プログラム特別講座, 三鷹, 2019年12月5日.
- 寺島涼子: からだを支える「口腔ケア」. 杏林大学公開講演会, 八王子, 2020年1月18日.
- 宿利真由美, 荒添美紀, 寺島涼子, 糸賀大地: 看護研究講義. 東邦大学医療センター大橋病院, 東京, 2020年3月11日.

鈴木 朋子

講演

1. 鈴木朋子, 佐々木裕子, 太田ひろみ, 場家美沙紀, 山内亮子, 大野あずさ, 佐藤有紗: 「初めてふたごを育てる父親が捉えた育児の現実とジレンマ」. 日本双生児研究学会第34回学術講演会, 金沢, 2020年1月11日.

場家 美沙紀

講演

1. 太田ひろみ, 場家美沙紀, 石野晶子, 鈴木朋子, 山内亮子: 乳幼児の母親のソーシャル・キャピタルと育児不安の関連. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23 - 25日.
2. 場家美沙紀, 太田ひろみ, 石野晶子, 鈴木朋子, 山内亮子: 乳幼児の母親の育児不安と地域の人々の育児支援行動との関連. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23 - 25日.
3. 鈴木朋子, 佐々木裕子, 太田ひろみ, 場家美沙紀, 山内亮子, 大野あずさ, 佐藤有紗: 初めてふたごを育てる父親が捉えた育児の現実とジレンマ. 日本双生児研究学会第34回学術講演会, 金沢, 2020年1月11日.

糸賀 大地

講演

1. 宿利真由美, 荒添美紀, 寺島涼子, 糸賀大地: 看護研究講義. 東邦大学医療センター大橋病院, 東京, 2019年6月14日.
2. 宿利真由美, 荒添美紀, 寺島涼子, 糸賀大地: 看護研究講義. 東邦大学医療センター大橋病院, 東京, 2020年3月11日.

楠田 美奈

口演

1. 岡本博照, 楠田美奈, 戸井田千鶴, 岩見文博, 照屋浩司: 運動相談事業に参加した中高年者の尿中8-OHdGと生活習慣との関係. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23日.
2. 照屋浩司, 楠田美奈, 岡本博照, 戸井田千鶴, 太田ひろみ: 児童の超音波骨評価値におよぼす生活習慣の影響. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月25日.

著書

1. 楠田美奈 (分担執筆): 第1章 脈拍の把握と看護. 第4章 体温の把握と看護. 病態を見抜き、看護に生かす バイタルサイン. 上谷いつ子編集. 東京, 中央法規出版, 2019.

報告書

1. 杏林大学保健学部 健康スポーツ医学研究班 (照屋浩司, 岡本博照, 大嶺智子, 大久朋子, 楠田美奈, 戸井田千鶴): 令和1年度運動相談事業に関する報告書. 三鷹市医師会/三鷹市.
2. 太田ひろみ, 楠田美奈, 場家美沙紀, 戸井田千鶴, 東宮繁人, 江頭説子: 第8回杏林CCRCフォーラム 抄録集【地域における社会貢献】活動報告 発達障がい児の余暇活動支援「きらめきハッピーキャンプ」.
3. 相原圭太, 石井博之, 楠田美奈: 第8回杏林CCRCフォーラム 抄録集【地域における社会貢献】活動報告「生涯スポーツの機会提供」プログラム.
4. 石井博之, 相原圭太, 大久朋子, 朝野聡, 太田ひろみ, 楠田美奈: 第8回杏林CCRCフォーラム 抄録集【地域における社会貢献】活動報告 アトレヴィ三鷹での栄養・運動・健康相談プログラム.
5. 楠田美奈, 木村尚未: 第8回杏林CCRCフォーラム 抄録集【地域における社会貢献】活動報告 花でとりもつ地域の『輪(和)』.

戸井田 千鶴

口演

1. Okamoto H, Kusuda M, Toida C, Iwami F, Teruya K: 運動相談事業に参加した中高年者の尿中8-OHdGと生活習慣との関係. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23日.
2. 照屋浩司, 楠田美奈, 岡本博照, 戸井田千鶴, 太田ひろみ: 児童の超音波骨評価値におよぼす生活習慣の影響. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月25日.

報告書

1. 杏林大学保健学部 健康スポーツ医学研究班 (照屋浩司, 岡本博照, 大嶺智子, 大久朋子, 楠田美奈, 戸井田千鶴): 令和1年度運動相談事業に関する報告書. 三鷹市医師会/三鷹市.

● 臨床工学科 ●

岸野 智則

講演

1. 青柳幸恵, 鈴木息吹, 高橋美彩, 斎藤奨大, 芝崎翔平, 原島敬一郎, 岸野智則, 中島哲: 若年成人女性を対象とした冷水負荷試験による冷え症の検討. 第44回日本超音波検査学会学術集会, 横浜, 2019年4月27-29日.
2. 芝崎翔平, 鈴木佑香, 藤原弓香子, 原島敬一郎, 中島哲, 岸野智則: 腎血流超音波検査における検査前安静について. 第44回日本超音波検査学会学術集会, 横浜, 2019年4月27-29日.
3. 川村直弘, 石本麻衣, 關里和, 小樽二世, 松本茂藤子, 佐藤悦久, 西川かおり, 岸野智則, 久松理一, 森秀明: Shear Wave ElastographyとFibro Scan®による肝線維化ならびに脂肪化の評価. JSUM 2019 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019年5月24-26日.
4. 山崎聡子, 千葉直子, 大塚弘毅, 岸野智則, 吉野浩, 楊國昌, 大森嘉彦, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 骨髄転移を認めた小児横紋筋肉腫の1例. 第20回日本検査血液学会学術集会, 奈良, 2019年7月6-7日.
5. 相川律, 原島敬一郎, 芝崎翔平, 中島哲, 岸野智則: 肩こりを筋硬度および超音波計測値で科学する. 第19回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2019年11月3日.
6. 田中彩乃, 原島敬一郎, 大場千紘, 真柄綾乃, 芝崎翔平, 中島哲, 岸野智則: 超高感度スマート圧電振動センサーの動脈硬化検査法としての可能性. 第19回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2019年11月3日.
7. 武村真衣, 菊田雅宏, 中村淳史, 須田健二, 岸野智則, 副島昭典: 透析用血液回路の微小気泡捕捉能に関する研究. 三多摩腎疾患治療医会第78回研究会, 三鷹, 2019年11月17日.
8. 大塚弘毅, 大西宏明, 森井健司, 藤原正親, 小倉航, 松島早月, 山崎聡子, 岸野智則, 渡邊卓: 野生型マウスにおける自然発生がんの検討. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月21-24日.
9. 山崎聡子, 佐藤英樹, 佐藤徹, 大塚弘毅, 岸野智則, 大西宏明, 渡邊卓: 肺高血圧症診断における心音図を用いたII音計測の有用性. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月21-24日.
10. 嵩森直子, 岸野智則, 森井健司, 岡部直太, 山崎聡子, 大塚弘毅, 関口久美子, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 超音波検査による高分化脂肪肉腫と脂肪腫の鑑別について. 第66回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019年11月21-24日.

論文

1. Shimamori N<sup>1</sup>, Kishino T, Morii T<sup>2</sup>, Okabe N<sup>3</sup>, Motohashi M<sup>1</sup>, Matsushima S<sup>4</sup>, Yamasaki S<sup>1,4</sup>, Ohtsuka K<sup>1,4</sup>, Shibahara J<sup>3</sup>, Ichimura S<sup>2</sup>, Ohnishi H<sup>1,4</sup>, Watanabe T<sup>1,4</sup> (1)Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital, (2)Department of Orthopaedic surgery, Kyorin University

School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, <sup>4</sup>Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Sonographic appearances of liposarcoma: correlations with pathologic subtypes. *Ultrasound Med Biol* 45(9): 2568-2574, 2019. DOI: 10.1016/j.ultrasmedbio.2019.05.020

- Ohtsuka K<sup>1</sup>, Ohnishi H<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>1</sup>, Morii T<sup>1</sup>, Matsushima S<sup>1</sup>, Ogura W<sup>1</sup>, Yamasaki S<sup>1</sup>, Kishino T, Tanaka R<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kyorin University School of Medicine): Predisposition to lung adenocarcinoma in a family harboring the germline EGFR V843I mutation. *JCO Precis Oncol* 3: PO.19.00104, 2019. DOI: 10.1200/PO.19.00104

## 報告書

- 岸野智則: 【基盤研究 (C) (一般)】脂肪の超音波検査で生活習慣病の病勢を計る (2017年度~2019年度). 日本学術振興会科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金), 実施状況報告書 (2019年度).

## 福長 一義

## 論文

- Sawa Y<sup>1</sup>, Matsumiya G<sup>2</sup>, Miyagawa S<sup>1</sup>, Tatsumi E<sup>3</sup>, Abe T<sup>4</sup>, Fukunaga K, Ichiba S<sup>5</sup>, Taguchi T<sup>6</sup>, Kokubo K<sup>7</sup>, Masuzawa T<sup>8</sup>, Myoui A<sup>9</sup>, Nishimura M<sup>10</sup>, Nishimura T<sup>11</sup>, Nishinaka T<sup>12</sup>, Okamoto E<sup>13</sup>, Tokunaga S<sup>14</sup>, Tomo T<sup>15</sup>, Tsukiya T<sup>3</sup>, Yagi Y<sup>16</sup>, Yamaoka T<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>2</sup>Chiba University Graduate School of Medicine, <sup>3</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, <sup>4</sup>Iwate Medical University School of Medicine, <sup>5</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>6</sup>National Institute of Material Science, <sup>7</sup>Kitasato University School of Allied Health Science, <sup>8</sup>Ibaraki University, <sup>9</sup>Osaka University Hospital, <sup>10</sup>Tottori University, <sup>11</sup>The University of Tokyo, <sup>12</sup>Tokyo Women's Medical University, <sup>13</sup>Tokai University, <sup>14</sup>JCHO Kyushu Hospital, <sup>15</sup>Oita University, <sup>16</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine): Journal of Artificial Organs 2019: the year in review: Journal of Artificial Organ Editorial Committee. *J Artif Organs* 23(1): 1-5, 2020.

## 四倉 正之

## 口演

- 四倉正之: 健診心電図の見方. 杏林大学医学部同窓会総会学術講演会, 東京, 2019年4月20日.
- 四倉正之: 心電図の読み方. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 2019年11月22日.

## 小林 博子

## 講演

- 瀬野晋一郎, 渡辺篤志, 木暮英輝, 小林博子, 嶋津秀昭: 疼痛感覚の質的要素に対する具現化を目的とした複合電気刺激システムの開発. 第58回日本生体医工学会大会, 宜野湾, 2019年6月6-8日.
- 佐藤公哉, 渡辺篤志, 木暮英輝, 瀬野晋一郎, 小林博子, 嶋津秀昭: 人工心臓を用いた教育用循環シミュレータの開発. 生体医工学シンポジウム2019, 徳島, 2019年9月6-7日.

## 中島 章夫

## 口演

- 中島章夫: 第25回第1種ME技術実力検定試験講習会新試験制度説明. 東京, 2019年4月14日.
- 中島章夫: 第25回第1種ME技術実力検定試験講習会新試験制度説明. 札幌, 2019年4月20日.

- 中島章夫, 余川絢音, 鈴木哲治, 齋藤人志: 医用テレメータ使用環境下における院内電磁波環境の評価方法の検討. 第58回日本生体医工学会大会, 宜野湾, 2019年6月7日.
- 中島章夫: ME技術教育委員会企画 (第25回第1種ME技術実力検定試験講習会新試験制度). 第58回日本生体医工学会大会, 宜野湾, 2019年6月8日.
- 中島章夫: 医療機器保守管理の持続可能性. 第94回日本医療機器学会大会マネジメントセミナー, 大阪, 2019年6月13日.
- 中島章夫: 医用電気機器の安全基準・病院電気設備の安全基準改訂の概要. 第94回日本医療機器学会大会, 大阪, 2019年6月14日.
- 鈴木哲治, 中島章夫: NPPV におけるマスク相着圧とリーク量に関する基礎検討. 第94回日本医療機器学会大会, 大阪, 2019年6月14日.
- 余川絢音, 中島章夫, 鈴木哲治, 齋藤人志: ME機器使用環境下における院内電磁波環境評価. 第94回日本医療機器学会大会, 大阪, 2019年6月14日.
- 中島章夫, 内藤那哉, 澤田祐紀, 窪田博: KIRCの基礎的研究~ダブルシミュレーション解析を用いた性能評価. 第94回日本医療機器学会大会, 大阪, 2019年6月15日.
- 中島章夫: 臨床工学技士養成施設における教育カリキュラムの見直しと今後の課題. 第28回日本臨床工学会, 盛岡, 2019年6月18日.
- 中島章夫: 安全の基礎とトラブル事例~医療機器を安全に扱うための電気の基礎知識~. 第41回ME技術講習会, 那覇, 2019年7月20日.
- 中島章夫: 電気メスの基礎と原理. 第59回手術用メス安全セミナー, 宇都宮, 2019年9月7日.
- 中島章夫: 安全の基礎とトラブル事例~医療機器を安全に扱うための電気の基礎知識~. 第41回ME技術講習会, 東京, 2019年9月7日.
- 中島章夫: 第1種ME技術実力検定試験~新試験制度改定について~第5回臨床工学技士養成教員学術研究会, 東京, 2019年9月21日.
- 中島章夫: 臨床工学技士養成施設における\カリキュラム改訂経緯と新カリキュラム見直しの骨子について. 第18回日本臨床工学技士教育研究会, 東京, 2019年11月9日.
- 中島章夫: 医療機器保守管理の持続可能性. 2019年度MDIC更新ポイント取得セミナー, 仙台, 2019年11月10日.
- 中島章夫: 医用レーザー機器の安全. 第34回レーザー安全スクールS3, 東京, 2019年11月13日.
- 中島章夫: 医療機器保守管理の持続可能性. 2019年度MDIC更新ポイント取得セミナー, 名古屋, 2020年2月9日.
- 中島章夫: 医療機器保守管理の持続可能性. 2019年度MDIC更新ポイント取得セミナー, 東京, 2020年2月21日.

## 著書

- 中島章夫 (共著): 医療機器を安全に扱うための電気の基礎知識とトラブル事例と対策. 医療機器安全基礎講習会 (ME技術講習会) 共通テキスト. 東京, 公益財団法人医療機器センター, 2019. P17-42.
- 中島章夫 (編著): 第II章1医療機器の保守点検概要/3点検用機器/4電気的安全測定法/第III章1循環関連3: 血流計・心拍出量計/3その他1: 内視鏡装置/第IV章4手術関連. 医療機器安全実践必須ガイド臨床工学編第3版. 一般社団法人日本医療機器学会監修, 東京, 日本エムイー振興協会, 2019. P47-56/P58-70/P83-86/P95-98/P133-144.
- 中島章夫, 出淵靖志 (共著): 第10章 医療機器に関する関係法規. 臨床工学講座 医用機器安全管理学 第2版第4刷. 東京, 医歯薬出版, 2020.P189-206.
- 中島章夫, 氏平政伸 (共著): 第1章 生体物性序論. 臨床工学講座 生体物性・医用材料工学 第1版第10刷. 東京, 医歯薬出版, 2020. P1-5.

5. 中島章夫, 篠原一彦 (共著) : 第3章 光治療器/第6章-1冷凍手術器/第7章1次席砕石装置. 臨床工学講座 医用治療機器学第2版第2刷. 東京, 医歯薬出版, 2020. P89-126, /P157-163 /P173-187.
6. 中島章夫 (編著) : 第1章 電気とは/第2章 電流と電圧の関係/第3章 直流回路. 臨床工学講座 医用電気工学1第2版第6刷. 東京, 医歯薬出版, 2020. P1-62.
7. 中島章夫 (編著) : 第3章 医療法/第7章 医療関連判例/臨床工学講座 関係法規 第1版第7刷. 東京, 医歯薬出版, 2020. P19-30/P87-97.
8. 中島章夫 (編著) : 第6章 キャパシタ/付録3 コンデンサの種類と構造/臨床工学講座 医用電気工学2 第2版第6刷. 東京, 医歯薬出版, 2020. P71-96/P191-195.
9. 中島章夫 (編著) : 第1章 半導体とは/第8章 オペアンプ/第9章 電子回路部品/半導体センサ/第15章通信. 臨床工学講座 医用電子工学 第2版第6刷. 東京, 医歯薬出版, 2020. P1-12/P93-126/P127-136/P201-234.
10. 中島章夫 (編著) : 第3章 電気/電子工学の基礎/第4章 医用電子回路/第6章 IV病院電気設備の安全基準/第7章 実習1・4・6・7・9. 最新臨床検査学講座 医用工学概論 第1版第4刷. 東京, 医歯薬出版, 2020. P31-94/P154-162/P165-167 /P173-174/P177-181/P184-186.

**その他**

**受賞報告**

1. 中島章夫 : 2018年度著述賞 : 最新臨床検査学講座 医用工学概論 (医歯薬出版) . 第94回日本医療機器学会大会, 大阪, 2019年6月14日.

**問題解説**

1. 中島章夫 : 第41回第2種ME技術実力検定試験全問解説. Clinical Engineering : 東京, (株)学研メディカル秀潤社, 2020, Vol.31(No.3), P294-316 (うち6問) .
2. 中島章夫 : 第41回第2種ME技術実力検定試験全問解説. Clinical Engineering : 東京, (株)学研メディカル秀潤社, 2020, Vol.31(No.4), P370-390 (うち3問) .

**学会等活動**

1. 中島章夫 : 一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会 副代表理事.
2. 中島章夫 : 一般社団法人日本医療福祉設備協会 理事.
3. 中島章夫 : 一般社団法人日本医療機器学会 理事.
4. 中島章夫 : 一般社団法人日本生体医工学学会 理事, ME技術教育委員会講習会委員長.
5. 中島章夫 : 公益財団法人医療機器センター 臨床工学技士試験委員 (幹事) .
6. 中島章夫 : 公益社団法人日本臨床工学技士会 教育研究会実行委員会委員.
7. 中島章夫 : 日本レーザ医学会 評議員, 安全教育委員会委員.
8. 中島章夫 : 一般社団法人日本コンピュータ外科学会 評議員.

**須田 健二**

**講演**

1. 武村真衣, 菊田雅宏, 中村淳史, 須田健二, 岸野智則, 副島昭典 : 透析用血液回路の微小気泡補足能に関する研究. 第78回三多摩腎疾患治療医会, 三鷹, 2019年11月17日.

**論文**

1. 須田健二, 柏木ともか, 菊田雅宏, 副島昭典 (杏林大学大学院保健学研究科) : 電氣的インピーダンス値を利用した抜針検知と内シャント血流量計測システムの開発~実用化に向けた実験的検討~. 杏林医学会雑誌 50 (4) : 157-167, 2019.

**瀬野 晋一郎**

**講演**

1. 瀬野晋一郎, 渡辺篤志, 木暮英輝, 小林博子, 嶋津秀昭 : 疼痛感覚の質的要素に対する具現化を目的とした複合電気刺激巢システムの開発. 第58回日本生体医工学学会大会, 宜野湾, 2019年6月6 - 8日.
2. 佐藤公哉, 渡辺篤志, 木暮英輝, 瀬野晋一郎, 小林博子, 嶋津秀昭 : 人工心臓を用いた教育循環シミュレータの開発. 生体医工学シンポジウム2019, 徳島, 2019年9月6 - 7日.

**中村 淳史**

**講演**

1. 武村真衣, 菊田雅宏, 中村淳史, 須田健二, 岸野智則, 副島昭典 : 透析用血液回路の微小気泡補足能に関する研究. 第78回三多摩腎疾患治療医会, 三鷹, 2019年11月17日.

**論文**

1. Nakamura A, Kikuta M: Effects of bubble size differences on the bubble-trapping performance of arterial line filters. J Extra-Corporeal Technology Vol.46(2): 119-124, 2019.
2. 中村淳史, 菊田雅宏 : 気泡サイズの違いによる動脈フィルタの気泡捕捉能への影響. 体外循環技術 46 (2) : 125-130, 2019.

**渡辺 篤志**

**講演**

1. 瀬野晋一郎, 渡辺篤志, 木暮英輝, 小林博子, 嶋津秀昭 : 疼痛感覚の質的要素に対する具現化を目的とした複合電気刺激巢システムの開発. 第58回日本生体医工学学会大会, 宜野湾, 2019年6月6 - 8日.
2. 佐藤公哉, 渡辺篤志, 木暮英輝, 瀬野晋一郎, 小林博子, 嶋津秀昭 : 人工心臓を用いた教育用循環シミュレータの開発. 生体医工学シンポジウム2019, 徳島, 2019年9月6 - 7日.

**鈴木 哲治**

**口演**

1. 中島章夫, 余川絢音, 鈴木哲治, 齋藤人志 : 医用テレメータ使用環境下における院内電磁波環境の評価方法の検討. 第58回日本生体医工学学会大会, 宜野湾, 2019年6月7日.
2. 鈴木哲治, 中島章夫 : NPPV におけるマスク相着圧とリーク量に関する基礎検討. 第94回日本医療機器学会大会, 大阪, 2019年6月14日.
3. 余川絢音, 中島章夫, 鈴木哲治, 齋藤人志 : ME機器使用環境下における院内電磁波環境評価. 第94回日本医療機器学会大会, 大阪, 2019年6月14日.

**著書**

1. 鈴木哲治 : 第IV章2節: 循環関連 3: 体外循環 (人工心肺装置), 4: 補助循環装置 (IABP・PCPS) 医療スタッフ. 製造業者等のための医療機器安全実践必携ガイド臨床工学編 第3版. 一般社団法人 日本医療機器学会監修. 東京, 株式会社エム・イー振興協会, 2019. P119-127.

**菊田 雅宏**

**講演**

1. 菊田雅宏, 武村真衣, 中村淳史, 須田健二, 岸野智則, 副島昭典 : 透析用血液回路の微小気泡補足能に関する研究. 第78回三多摩腎疾患治療医会, 三鷹, 2019年11月17日.

**論文**

1. Nakamura A, Kikuta M: Effects of bubble size differences on the bubble-trapping performance of arterial line filters. Jan J Extra-Corporeal Technology Vol.46(2): 119-124, 2019.

2. 中村淳史, 菊田雅宏: 気泡サイズの違いによる動脈フィルタの気泡補足能への影響. 日本体外循環技術 46 (2) : 125-130, 2019.
3. 須田健二, 柏木ともか<sup>1</sup>, 菊田雅宏, 副島昭典 (1 杏林大学大学院保健学研究科): 電気的インピーダンス値を利用した抜針検知と内シャント血流量計測システムの開発～実用化に向けた実験的検討～. 杏林医学会雑誌 50 (4) : 157-167, 2019.

### 木暮 英輝

#### 講演

1. 瀬野晋一郎, 渡辺篤志, 木暮英輝, 小林博子, 嶋津秀昭: 疼痛感覚の質的要素に対する具現化を目的とした複合電気刺激システムの開発. 第58回日本生体医工学学会大会, 宜野湾, 2019年6月6-8日.
2. 佐藤公哉, 渡辺篤志, 木暮英輝, 瀬野晋一郎, 小林博子, 嶋津秀昭: 人工心臓を用いた教育用循環シミュレータの開発. 生体医工学シンポジウム2019, 徳島, 2019年9月6-7日.

## ● 理学療法学科 ●

### 跡見 友章

#### 講演

1. 田中和哉, 跡見友章, 高野渉, 藤木聡一郎, 長谷川克也, 清水美穂, 跡見順子: 環境との相互関係の変化に対する身体の方節的応答. 第33回人工知能学会全国大会, 新潟, 2019年6月4-7日.
2. 跡見順子, 清水美穂, 藤田恵理, 跡見綾, 東芳一, 跡見友章: 身心、文理、理と実践を融合する生命体育原理基盤の体育トレーニングプログラム: 身心一体科学の理論と実践. 日本体育学会第70回大会, 東京, 2019年9月10-12日.
3. 東芳一, 清水美穂, 藤田恵理, 跡見綾, 跡見友章, 跡見順子: 運動を通して身体に気づく: 幅広い年代の大学生に向けて行った身心一体科学教育の評価. 日本体育学会第70回大会, 東京, 2019年9月10-12日.
4. 跡見順子, 清水美穂, 藤田恵理, 跡見綾, 東芳一, 跡見友章: 触覚を用いた臥位体幹・脚・足神経筋活性化エクササイズによる身体の意識化、姿勢・動作の生活化. 日本体育学会第70回大会, 東京, 2019年9月10-12日.
5. 跡見綾, 藤田恵理, 跡見友章, 清水美穂, 跡見順子: 荷重メカニカルストレス応答分子シャペロンからみた短時間着地の筋萎縮軽減効果. 日本体育学会第70回大会, 東京, 2019年9月10-12日.
6. 竹中朝貴, 船津矩平, 早川里奈, 高井南海, 齋藤昭彦, 跡見友章: 方形回内筋の筋厚と握力との関係 —超音波画像診断装置を用いて—. 第38回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 前橋, 2019年10月26-27日.
7. 跡見友章, 田中和哉, 畠山望, 藤木聡一郎, 高野渉, 清水美穂, 跡見順子: 姿勢保持および日常的動作の安定性に関わる頭部および体幹部評価法の構築. 第26回日本末病システム学会学術総会, 名古屋, 2019年11月16-17日.
8. 高田勇, 八木崇行, 富田昌夫, 尾関保則, 跡見順子, 清水美穂, 跡見友章: によって変化する歩行時の頭頸部と体幹の立ち直り及びシーケンス-身体動揺の時間遅れによる検討. 名古屋, 第26回日本末病システム学会学術総会, 2019年11月16-17日.
9. Atomi Y, Shimizu M, Makino K, Atomi A, Hayasaki S, Fujita E, Atomi T, Tanaka K: Adaptive microtubule dynamics regulated by  $\alpha$ B-crystallin / HSPB5 supports "Cells-Body Dual Dynamics based Health Strategy" realized with anti-gravitational slow muscle activity, ワークショップ「細胞内シグナル伝達のメディエーターとしての”細胞骨格分子”を知る」. 第42回日本分子生物学会年会, 福岡, 2019年12月5日.

#### 論文

1. Iizuka T, Hirano K, Atomi T, Shimizu M, Atomi Y: Changes in Duration and Intensity of the World's Top-Level Badminton Matches: A Consideration of the Increased Acute Injuries among Elite Women's Singles Players. Sports (Basel)8(2):19, 2020. DOI: 10.3390/sports8020019.

### 石井 博之

#### 講演

1. 石井博之, 相原圭太, 大原真一郎: 東日本大震災による避難者に対する運動実施状況調査. 第8回杏林CCRCフォーラム, 三鷹, 2020年2月29日. (誌上開催)
2. 石井博之, 相原圭太, 大久朋子, 朝野聡, 太田ひろみ, 楠田美奈: アトレヴィ三鷹での栄養・運動・健康相談プログラム. 第8回杏林CCRCフォーラム, 三鷹, 2020年2月29日. (誌上開催)
3. 相原圭太, 石井博之, 楠田美奈: 「生涯スポーツの機会提供」プログラム. 第8回杏林CCRCフォーラム, 三鷹, 2020年2月29日. (誌上開催)

### 柴田 茂貴

#### 講演

1. Hata N, Hirabuki K, Suda T, Sano Y, Fukuie M, Uechi T, Hirasawa A, Matsuda T, Shibata S: Evaluations of Nonstationary and Stationary Autonomic Nervous Function Using Heart Rate Variability for Syncope Patients with Non-cardiogenic Causes. ACSM's 66th Annual Meeting, USA, May 28th-June 1st, 2019.
2. Hirasawa A, Suda T, Hirabuki K, Hata N, Sano Y, Fukuie M, Uechi T, Matsuda T, Shibata S: The Relationship Between Left Ventricular Systolic Function and Cerebral Blood Flow. ACSM's 66th Annual Meeting, USA, May 28th-June 1st, 2019.
3. Hirabuki K, Suda T, Hata N, Sano Y, Fukuie M, Uechi T, Hirasawa A, Matsuda T, Shibata S: Left Ventricular morphology and function of Recurrent Syncope Patients. ACSM's 66th Annual Meeting, USA, May 28th-June 1st, 2019.
4. 平吹一訓, 平澤愛, 須田智也, 畑典孝, 佐野勇貴, 福家真理那, 鷺尾拓郎, 齋藤祥太郎, 田宮一樹, 鈴木一也, 松田剛明, 菅原順, 小河繁彦, 柴田茂貴: 三次元超音波検査による前負荷減少時の心機能指標についての検討. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13-15日.
5. 平澤愛, 鷺尾拓郎, 平吹一訓, 須田智也, 福家真理那, 齋藤祥太郎, 田宮一樹, 鈴木一也, 畑典孝, 佐野勇貴, 松田剛明, 菅原順, 小河繁彦, 柴田茂貴: 高強度の下肢陰圧負荷による前方および後方脳循環応答. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019年9月13-15日.
6. 田島勇希, 込山真由, 三村尚也, 山本麻衣花, 福家真理那, 鈴木里奈, 平澤愛, 柴田茂貴: 運動後起立性低血圧に対する冷水摂取の効果. 第74回日本体力医学会大会, つくば, 2019年9月19-21日.
7. 小河繁彦, 鈴木一也, 鷺尾拓郎, 田宮一樹, 齋藤祥太郎, Tom G. Bailey, 柴田茂貴, 伊藤剛, 宮本忠吉: 呼吸様式の違いが血中二酸化炭素分圧変化に対する脳血管反応を変化させるか?. 第74回日本体力医学会大会, つくば, 2019年9月19-21日.
8. 渡邊裕宣, 鷺尾拓郎, 平澤愛, 柴田茂貴, 小河繁彦: 脳自己調節機能同定のための基礎研究. 第74回日本体力医学会大会, つくば, 2019年9月19-21日.
9. 長谷川浩, 松田剛明, 畑典孝, 須田智也, 平吹一訓, 本多五奉, 樋口聡, 柴田茂貴: 当院1、2次救急外来の動向についての検討.

第47回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2019年10月2 - 4日.

10. 畑典孝, 樋口聡, 平吹一訓, 須田智也, 本多五奉, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: 貧血を伴う急性心不全における濃厚赤血球輸血の臨床的意義. 第47回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2019年10月2 - 4日.
11. 浅井和貴, 須田智也, 平吹一訓, 畑典孝, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: 転倒時の杖による腹部鈍的外傷により尿管損傷をきたした1例. 第47回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2019年10月2 - 4日.
12. 柴田茂貴: 体循環及び脳循環調節について-加齢に伴う動脈ステイフネスの進行に対する持久性運動の効果. 第97回日本生理学会大会, 別府, 2020年3月17 - 19日. (誌上開催)

## 論文

1. Fu Q<sup>1</sup>, Shibata S, Hastings JL<sup>1</sup>, Platts SH<sup>2</sup>, Hamilton DM<sup>2</sup>, Bungo MW<sup>3</sup>, Stenger MB<sup>2</sup>, Ribeiro C<sup>2</sup>, Adams-Huet B<sup>1</sup>, Levine BD<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Texas Southwestern Medical Center, <sup>2</sup>NASA Johnson Space Center, <sup>3</sup>The University of Texas McGovern Medical School): Impact of Prolonged Spaceflight on Orthostatic Tolerance During Ambulation and Blood Pressure Profiles in Astronauts. *Circulation* 140(9):729-738, 2019. DOI: 10.1161/CIRCULATIONAHA.119.041050
2. Ogoh S<sup>1</sup>, Suzuki K<sup>1</sup>, Washio T<sup>1</sup>, Tamiya K<sup>1</sup>, Saito S<sup>1</sup>, Bailey TG<sup>2</sup>, Shibata S, Ito G<sup>3</sup>, Miyamoto T<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Toyo University, <sup>2</sup>The University of Queensland, <sup>3</sup>Morinomiya University of Medical Sciences): Does respiratory drive modify the cerebral vascular response to changes in end-tidal carbon dioxide?. *Exp Physiol* 104(9):1363-1370, 2019. DOI: 10.1113/EP087744
3. Carrick-Ranson G<sup>1</sup>, Spinale FG<sup>2</sup>, Bhella PS<sup>1</sup>, Sarma S<sup>1</sup>, Shibata S, Fujimoto N<sup>1</sup>, Hastings JL<sup>1</sup>, Levine BD<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Texas Southwestern Medical Center, <sup>2</sup>University of South Carolina): Plasma matrix metalloproteinases (MMPs) and tissue inhibitors of MMPs and aging and lifelong exercise adaptations in ventricular and arterial stiffness. *Exp Gerontol* 123:36-44, 2019. DOI: 10.1016/j.exger.2019.05.004

## 中野 尚子

## 口 演

1. 藤澤祐基, 岡島康友, 中野尚子: 正準判別分析とランダムフォレスト法を用いた健康者, 片麻痺手, 小脳性運動失調症者の利き手書字の特徴抽出. 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会, 神戸, 2019年6月12 - 16日.
2. 中野尚子, 藤澤祐基, 渡辺はま, 多賀巖太郎: 乳児における臥位から座位への起き上がり動作分析 (第2報). 日本赤ちゃん学会第19回学術集会, 東京, 2019年7月6 - 7日.
3. 藤澤祐基, 中野尚子: 起き上がり動作の時系列的発達変化-骨格検出システムを用いて 第2報-. 第6回日本小児理学療法学会学術大会, 福岡, 2019年11月16 - 17日.

## その他

1. 中野尚子: 日本赤ちゃん学会分科会 行動発達研究会 第14回研修会主催, 東京, 2019年12月7日.

## 八並 光信

## 論文

1. Ota T<sup>1</sup>, Hashidate H, Shimizu N<sup>1</sup>, Yatsunami M (<sup>1</sup>Graduate School of Kyorin University) : Early effects of a knee-ankle-foot orthosis on static standing balance in people with subacute stroke. *J Phys Ther Sci.* 31(2): 127-131, 2019. DOI: 10.1589/jpts.31.127.

2. Shimizu N<sup>1</sup>, Hashidate H, Ota T<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>2</sup>, Yatsunami M (<sup>1</sup>Graduate School of Kyorin University, <sup>2</sup>Tokyo Tenshi Hospital) : Characteristics of intensity-based physical activity according to gait ability in people hospitalized with subacute stroke: a cross-sectional study. *Phys Ther Res.* 22(1): 17-25, 2019. DOI: 10.1298/ptr.E9971.
3. 村松憲, 生友聖子<sup>1</sup>, 玉木徹<sup>1</sup>, 志茂聡<sup>1</sup>, 八並光信, 丹羽正利(<sup>1</sup>健康科学大学) : 糖尿病性錐体路障害は軸索の退縮によって生じる. 理学療法学Supplement 46(1), A-115\_1, 2019. DOI: 10.14900/cjpt.46S1.A-115\_1
4. Shimizu N<sup>1</sup>, Hashidate H, Ota T<sup>1</sup>, Yatsunami M (Graduate School of Kyorin University) : Daytime physical activity at admission is associated with improvement of gait independence 1 month later in people with subacute stroke: a longitudinal study. *Top Stroke Rehabil.* 27(1): 25-32, 2020. DOI: 10.1080/10749357.
5. Uchida K<sup>1</sup>, Hashidate H, Sugawara K<sup>2</sup>, Nakata T, Kurosawa C<sup>2</sup>, Minamimura Y<sup>3</sup>, Matsuo Y<sup>2</sup>, Yatsunami M (Graduate School of Kyorin University, <sup>2</sup>Kanagawa University of Human Services, <sup>3</sup>Turugamine Hospital): Unsupervised low-intensity home exercises as an effective intervention for improving physical activity and physical capacity in the community-dwelling elderly. *J Phys Ther Sci.* 32(3): 215-222, 2020. DOI: 10.1589/jpts.32.215.

## 一場 友実

## 講演

1. 一場友実: COPDの呼吸困難と呼吸筋トレーニング、ボッチャ選手の呼吸筋力強化. 北九州呼吸リハビリテーション研修会, 福岡, 2019年4月20日.
2. 一場友実: ボッチャ体験会. ウェリスオリーブ鎌倉岩瀬, 鎌倉, 2019年5月11日.
3. 一場友実: ボッチャ体験会. ウェリスオリーブ津田沼, 津田沼, 2019年5月18日.
4. 一場友実, 片岡正教: ボッチャ クラス分け講習会. 千葉, 2019年5月19日.
5. 一場友実: 高齢者も楽しめるボッチャを体験してみよう!! -パラリンピック公式競技-. 杏林大学公開講座, 三鷹, 2019年6月8日.
6. Ichiba T, Okuda K, Miyagawa T : Effect of inspiratory muscle training and psychological competitive ability diagnostic test of boccia reinforced designated athlete. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Kobe, Jun. 9-13, 2019.
7. Okuda K, Ichiba T, Kataoka M : Proposal and trial of a new training for boccia athletes with severe cerebral palsy. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Kobe, Jun. 9-13, 2019.
8. Kataoka M, Okuda K, Ichiba T : Spatial cognitive ability of boccia players with severe disability. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Kobe, Jun. 9-13, 2019.
9. Imura S, Okuda K, Ichiba T : Evaluation of autonomic nervous system in boccia athletes with cerebral palsy. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Kobe, Jun. 9-13, 2019.
10. 一場友実: ボッチャ体験会. ウェリスオリーブ東村山, 東村山, 2019年6月22日.
11. 一場友実: 2020東京パラリンピック競技ボッチャによる介護予防・認知症予防の取り組み. 第38回東京都理学療法学術大会, 東京, 2019年6月23日.
12. 一場友実: ボッチャがシニア世代の身体面・心理・認知機能面へ与える影響. 住まい×介護×医療展, 東京, 2019年7月23 - 24



日。

13. 一場友実：ボッチャ サポーター養成講習会。東京都介護付きホーム連絡会，東京，2019年8月9日。
14. 一場友実：ボッチャ体験会。ボッチャの輪作ろう会，三鷹，2019年8月23日。
15. 一場友実：重度障がい者のスポーツ実習。平成31年度 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会，東京，2019年8月28 - 30日。
16. 一場友実：2020 東京パラリンピックを応援しよう！。1年前イベントin羽村，羽村，2019年9月7日。
17. 一場友実：ボッチャ体験会。ウエリスオリーブ鶴沼，藤沢，2019年9月28日。
18. 一場友実：「ボッチャ」の魅力。豊島学園高校，昭和鉄道高校，東京，2019年10月9日。
19. 一場友実：ボッチャ体験会。ボッチャの輪作ろう会，三鷹，2019年10月25日。
20. 一場友実：ボッチャとは。八幡平市役所，八幡平，2019年10月31日。
21. Ichiba T, Miyagawa T : EFFECTS AND ITS FACTORS ON EXERCISE CAPACITY OF OXYGEN CONSERVING DEVICES IN COPD PATIENTS. AARC 65th International Respiratory convention & exhibition, USA, Nov. 9-12, 2019.
22. Miyagawa T, Ichiba T : EVALUATION OF THE COUGH ASSIST FUNCTION IN VOCSN® ON THE DIFFERENCES OF RHEOLOGICAL PROPERTY AND LUNG MECHANICS. AARC 65th International Respiratory convention & exhibition, USA, Nov. 9-12, 2019.
23. 一場友実：ボッチャとは。障がい者週間 ふれあいイベント，小金井，2019年12月7日。
24. 一場友実：理学療法とは。山梨県立日川高校，山梨，2019年12月10日。
25. 一場友実：ボッチャ体験会。ボッチャの輪作ろう会，三鷹，2019年12月13日。
26. 一場友実：ボッチャを楽しもう。市民が作る自主講座，小金井，2019年12月20日。
27. 一場友実：ボッチャ クラス分けについて。全国障がい者スポーツ大会競技規則研修会，東京，2020年1月19日。
28. 一場友実：ボッチャを楽しもう。市民が作る自主講座，小金井，2020年1月24日。
29. 一場友実：ボッチャ体験会。府中住吉小学校，府中，2020年1月29日。
30. 一場友実：ボッチャ体験会。井の頭コミュニティセンター，三鷹，2020年1月31日。
31. 一場友実：ボッチャ体験会。Care tex2020，東京，2020年2月12 - 14日。

## 論文

1. Ichiba T, Okuda K<sup>1</sup>, Miyagawa T<sup>2</sup>, et al (<sup>1</sup>Osaka Prefecture University, <sup>2</sup>Showa University) : Relationship between pulmonary function, throw distance, and psychological competitive ability of elite highly trained Japanese boccia players via correlation analysis. Heliyon 6 (3): e03581, 2020.
2. 宮川哲夫，一場友実：神経難病を在宅でどうみるか 在宅神経難病患者の呼吸ケアとリハビリテーション治療 Medical Rehabilitation 24(3): p49-758. 2019.
3. 宮川哲夫，一場友実：呼吸管理 - 上級編 - 腹臥位療法. Clinical Engineering 30 (8): p757-765. 2019.

## その他

1. 一場友実：マツケンアスレチカとボッチャ体験。指導，東京，2019年4月26日。
2. 一場友実：第20回日本ボッチャ選手権大会東日本ブロック予選。公認クラス分け委員，千葉，2019年6月1 - 2日。

3. 一場友実：東京都障がい者スポーツ大会。審判，東京，2019年7月13日。
4. 一場友実：第4回ボッチャ選抜甲子園。運営，東京，2019年8月13日。
5. 一場友実：日刊スポーツ新聞「ボッチャ5つの利点」。2019年8月20日。
6. 一場友実：千葉ボッチャ選手権大会。審判，千葉，2019年9月21 - 22日。
7. 一場友実：マツケンアスレチカとボッチャ体験。指導，東京，2019年10月23日。
8. 一場友実：ボッチャ大学選手権東日本大会。監督，東京，2019年11月23日。
9. 一場友実：第2回シニアボッチャ大会。審判長，東京，2019年11月29日。
10. 一場友実：ボッチャみたかカップ。運営，東京，2019年12月7日。
11. 一場友実：ボッチャ羽村大会。運営，東京，2019年12月8日。
12. 一場友実：日刊スポーツ新聞「ボッチャ大会」。2019年12月14日。
13. 一場友実：第21回日本ボッチャ選手権大会本大会。公認クラス分け委員，豊田，2019年12月20 - 22日。
14. 一場友実：読売新聞「医療ルネサンス ボッチャ」。2020年1月30日。
15. 一場友実：日刊スポーツ新聞「ボッチャ大会」。2020年2月5日，12日，14日，19日。
16. 一場友実：日刊スポーツ新聞「東京ケアウィーク ボッチャ」。2020年3月3日。

## 榎本 雪絵

### 講演

#### 学会発表

1. 榎本雪絵：自主運営化した健康教室の5年の実施状況と参加者状況。第24回日本在宅ケア学会学術集会，仙台，2019年7月27 - 28日。
2. Enomoto Y : The effect of exercise intervention in community-dwelling older adults :A pilot study. 2019 Asian Society of Human Service Congress in JEJU, Korea, August 30th-31th, 2019.
3. 今給黎直明，榎本雪絵，押山麻奈，甲斐隼人，岡庭萌：骨粗鬆症患者における栄養評価の検討。CONUT値と関連因子の調査を試みて。第21回骨粗鬆症学会，神戸，2019年10月11 - 12日。

#### 講演・一般向け公開講座

1. 榎本雪絵：高齢者のためのストレッチの効果と注意点。三鷹，2019年7月6日。
2. 榎本雪絵：高齢者のためのストレッチの注意点～猫背の改善のために。三鷹，2019年10月26日。
3. 榎本雪絵：高齢者のための運動のポイントとストレッチの実践。地域ケアネットワーク新川・中原，三鷹，2019年10月29日。
4. 榎本雪絵：高齢者のためのストレッチの注意点～立位姿勢の改善のために。三鷹，2019年12月14日。
5. 榎本雪絵：高齢者のための運動のポイントとストレッチの実践。地域ケアネットワーク井の頭，三鷹，2019年12月21日。
6. 榎本雪絵：高齢者のためのストレッチの効果と注意点。三鷹，2020年2月15日。

### その他

#### 受賞

1. Enomoto Y : EXCELLENCE AWARD, 2019 Asian Society of Human Service Congress in JEJU, Korea, August 30th-31th,

2019.

学会・研修会の開催

1. 榎本雪絵: 東京都理学療法協学会大会企画・運営 (実行委員長). 2019年6月23日.
2. 榎本雪絵: FIM講習会の開催. 杏林大学医学部他共催, 三鷹, 2019年7月14日.
3. 榎本雪絵: FIM講習会の開催. 杏林大学医学部他共催, 三鷹, 2019年12月8日.
4. 榎本雪絵: 医療と介護と地域をつなぐ会フォーラム企画・運営, 東京, 2020年2月9日.

木村 雅彦

講演

講演

1. 木村雅彦: COPD(慢性閉塞性肺疾患)体操. 杉並区健康講座 COPD教室, 東京, 2019年5月15日.
2. 木村雅彦: 心臓リハビリテーション患者の再入院を抑制するために理学療法士として貢献できることは?. 第4回日本心管理理学療法学会・第6回日本糖尿病理学療法学会合同学会 産学連携セミナー, 宜野湾, 2019年9月14日.
3. 木村雅彦: 内部障害の理学療法の考え方. 公益社団法人神奈川県理学療法士会令和元年度理学療法士講習会基本編 症例を通じて学ぶ内部障害の理学療法. 小田原, 2019年9月21日.
4. 木村雅彦: 全身管理の基礎知識. 公益社団法人神奈川県理学療法士会令和元年度理学療法士講習会基本編 症例を通じて学ぶ内部障害の理学療法. 小田原, 2019年9月21日.
5. 木村雅彦, 佐藤英介, 只野喜一, 小林治, 須田健二, 皿谷健, 三倉直, 山本智朗, 柴田茂貴: 呼吸理学療法における呼吸筋活動の評価指標に関する研究. 杏林医学会共同研究奨励賞報告, 三鷹, 2019年11月16日.

学会発表

1. 宮原拓哉, 田中秀輝, 阿部義史, 廣瀬徹, 木村雅彦, 秋保光利, 矢作和之: 重症肺炎および敗血症性心筋症に対してECMO管理を要した症例に対する理学療法経験. 第6回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会, 東京, 2019年7月6日.
2. 飛田和基, 木村雅彦, 合田あゆみ, 佐藤徹, 岡島康友: 肺高血圧症患者における運動時肺動脈圧上昇と下肢筋力との関連. 第25回日本心臓リハビリテーション学会, 大阪, 2019年7月14日.
3. 阿部義史, 秋保光利, 木村雅彦, 大野貴之: 心臓外科術後患者の術後腎機能低下と退院時身体的フレイルが心不全再入院に及ぼす影響. 第4回日本心管理理学療法学会・第6回日本糖尿病理学療法学会 合同学術大会, 宜野湾, 2019年9月14日.
4. 秋保光利, 高橋佑太, 木村雅彦, 宮原拓哉, 田中秀輝, 次富亮輔, 今井亮介, 青野ひろみ, 藤原豊: 間質性肺疾患増悪患者における急性期呼吸リハビリテーションの安全性. 第29回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 名古屋, 2019年11月11日.

論文

1. 田中秀輝<sup>1)</sup>, 木村雅彦, 秋保光利<sup>1)</sup>, 阿部義史<sup>1)</sup>, 福田幸人<sup>1)</sup>(三井記念病院): 緊急手術後に心大血管術後リハビリテーションを安全に進行し得たマルファン症候群の一例. 心臓リハビリテーション 25(3-4): 325-329, 2019.
2. 木村雅彦 (総説): 呼吸理学療法. 呼吸管理2020-21-ガイドライン, スタンダード, 論点そして私見. 救急・集中治療32(1) 314-320, 2020.

著書

1. 木村雅彦 (分担執筆): 代謝 (1) 栄養管理と血糖コントロール. 15レクチャーシリーズ作業療法テキスト 呼吸・循環・代謝. 野田和恵 (責任編集). 東京, 中山書店, 2019. p127-140.

2. 井澤和夫, 木村雅彦 (分担執筆): 循環 (2) 病態・心電図. 15レクチャーシリーズ作業療法テキスト 呼吸・循環・代謝. 野田和恵 (責任編集). 東京, 中山書店, 2019. p93-104.
3. 木村雅彦 (分担執筆): 呼吸障害に対する運動療法. Crosslink理学療法学テキスト運動療法学. 対馬栄輝 (編集). 東京, メジカルビュー, 2020. p132-150.
4. 木村雅彦 (分担執筆): 症例集呼吸障害に対する運動療法. Crosslink理学療法学テキスト運動療法学. 対馬栄輝 (編集). 東京, メジカルビュー, 2020. p450-453.
5. 忽那俊樹・木村雅彦 (分担執筆): 運動中の生体反応のモニタリング. 循環器リハビリテーションの理論と技術 改訂第2版. 増田卓, 松永篤彦 (編集). 東京, メジカルビュー, 2020. p267-273.
6. 木村雅彦・齊藤正和 (分担執筆): 心臓弁膜症. 循環器リハビリテーションの理論と技術 改訂第2版. 増田卓, 松永篤彦 (編集). 東京, メジカルビュー, 2020. p.383-394.

その他

1. 松永篤彦・木村雅彦: 日本理学療法士協会職能に資するエビデンス研究 回復期以降における心管理リハビリテーションの実態.

橋立 博幸

口演

学会発表

1. 橋立博幸, 清水夏生, 太田智裕, 野口隆太郎: 回復期脳卒中者における入院直後の施設内生活空間での身体活動が入院後1か月の歩行自立度の改善に及ぼす影響. 第17回日本神経理学療法学会学術大会, 横浜, 2019年9月28 - 29日.
2. 太田智裕, 橋立博幸, 清水夏生, 鈴木堯之, 八並光信: 回復期脳卒中者の立位リーチ動作に及ぼす長下肢装具の装着効果. 第17回日本神経理学療法学会学術大会, 横浜, 2019年9月28-29日.
3. 清水夏生, 橋立博幸, 太田智裕, 鈴木堯之, 野口隆太郎, 山中誠一郎, 八並光信: 回復期脳卒中者における入院直後の身体活動量が1か月後の歩行自立度の改善に及ぼす影響. 第17回日本神経理学療法学会学術大会, 横浜, 2019年9月28 - 29日.
4. 太田智裕, 橋立博幸, 清水夏生, 鈴木堯之, 八並光信: 長下肢装具を装着することで即時的に静的立位保持が可能となる回復期脳卒中者の身体機能の特性. 第8回日本支援工理学療法学会学術大会, 静岡, 2019年9月7日.
5. 橋立博幸: 認知症高齢者に対する運動の効果. 第9回日本認知症予防学会学術集会, 名古屋, 2019年10月18 - 20日.
6. 橋立博幸, 澤田圭祐, 菊池雅樹, 鈴木友紀, 深澤雄希, 笹本憲男: 慢性期脳卒中者における手すりをを用いた上肢支持の有無が起立・着座動作パフォーマンスに及ぼす影響. 第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 新潟, 2019年11月30日 - 12月1日.
7. 太田智裕, 橋立博幸, 清水夏生, 鈴木堯之: 脳卒中者への長下肢装具および短下肢装具の選定において理学療法士が重要とする評価. 第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 新潟, 2019年11月30日 - 12月1日.
8. 清水夏生, 橋立博幸, 太田智裕, 八並光信, 野口隆太郎, 山中誠一郎: 回復期脳卒中者における入院直後の身体活動量と入院1か月後の日常生活活動自立度の改善量との関連. 第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 新潟, 2019年11月30日 - 12月1日.
9. 鈴木堯之, 橋立博幸, 八並光信, 太田智裕, 清水夏生, 佐々木良, 二瓶篤史, 別役徹生: 健康な若年成人男性におけるinternal focus of attentionに基づく言語教示が最大歩行速度に及ぼす即時的影響. 第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 新潟, 2019年11月30日 - 12月1日.
10. 河合結実, 橋立博幸, 中村雅貴, 岡田拓也, 小泉淳広, 橋爪寧子, 八並光信: 理学療法士養成校に在籍する大学生における3

軸加速度計付き活動量計を用いた身体活動量の測定と活動実態. 第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 新潟, 2019年11月30日 - 12月1日.

11. 橋立博幸, 澤田圭祐, 鈴木友紀, 笹本憲男: 慢性期脳卒中者における視覚的手がかりを用いた歩行練習が及ぼす短期的効果—無作為化比較対照試験—. 第6回日本地域理学療法学会学術大会, 京都, 2019年12月14 - 15日.
12. 澤田圭祐, 橋立博幸, 菊池雅樹, 鈴木友紀, 笹本憲男: 要支援・要介護高齢者における上肢支持を用いない起立・着座動作の可否と上肢支持を用いた起立・着座テストの関連. 第6回日本地域理学療法学会学術大会, 京都, 2019年12月14 - 15日.

## 論文

1. Shimizu N<sup>1</sup>, Hashidate H, Ota T<sup>1</sup>, Yatsunami M<sup>1</sup>(<sup>1</sup>初台リハビリテーション病院): Characteristics of intensity-based physical activity according to gait ability in people hospitalized with subacute stroke: a cross-sectional study. *Phys Ther Res* 22: 17-25, 2019.
2. Shimizu N<sup>1</sup>, Hashidate H, Ota T<sup>1</sup>, Yatsunami M<sup>1</sup>(<sup>1</sup>初台リハビリテーション病院): Daytime physical activity at admission is associated with improvement of gait independence 1 month later in people with subacute stroke: a longitudinal study. *Top Stroke Rehabil* 12: 1-8, 2019.
3. Uchida K<sup>1</sup>, Hashidate H, Sugawara K<sup>1</sup>, Nakata T<sup>1</sup>, Kurosawa C<sup>1</sup>, Minamimura Y<sup>2</sup>, Matsuo Y<sup>1</sup>, Yatsunami M<sup>1</sup>(<sup>1</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2</sup>横浜鶴ヶ峰病院): Unsupervised low-intensity home exercise as an effective intervention for physical activity and physical capacity in the community-dwelling elderly. *J Phys Ther Sci* 32: 215-222, 2020.

## 著書

1. 橋立博幸 (分担執筆): 地域理学療法の実践3. 高齢者 1. 訪問. *Crosslink理学療法学テキスト地域理学療法学*. 浅川康吉編. 東京, メジカルビュー社, 2019. p137-145.
2. 橋立博幸 (分担執筆): 地域理学療法の実践3. 高齢者 2. 通所. *Crosslink理学療法学テキスト地域理学療法学*. 浅川康吉編. 東京, メジカルビュー社, 2019. p146-155.
3. 橋立博幸 (分担執筆): 事例集 片麻痺2. *Crosslink理学療法学テキスト地域理学療法学*. 浅川康吉編, 東京, メジカルビュー社, 2019. p288-291.
4. 橋立博幸 (分担執筆): パフォーマンステスト. *標準理学療法学専門分野理学療法評価学第3版*. 内山靖, 岩井信彦編. 東京, 医学書院, 2019. p199-216.

## その他

### 研究指導・受賞報告

1. 太田智裕, 橋立博幸, 清水夏生, 鈴木堯之, 八並光信 (優秀賞): 長下肢装具を装着することで即時的に静的立位保持が可能となる回復期脳卒中者の身体機能の特性. 第8回日本支援工理学療法学会学術大会, 静岡, 2019年9月7日.

## 村松 憲

## 講演

1. Muramatsu K, Ikutomo M, Tamaki T, Shimo S, Niwa M: Motor skills training improves motor cortex dysfunction in experimental diabetic rats. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月26 - 28日.
2. Tamaki T, Muramatsu K, Ikutomo M, Niwa M: Difference in severity of motor neuron loss between the fast- and slow-twitch muscles in diabetic rats. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月26 - 28日.
3. Ikutomo M, Tamaki T, Shimo S, Ooshiro N, Niwa M, Fukuda M, Muramatsu K: Axonal degeneration of the phrenic nerve in diabetic rats. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月26 - 28日.

4. Ohshiro N, Muramatsu K, Fukuda M, Niwa M: Effect of streptozotocin-induced diabetes on the external anal sphincter motoneurons and muscles of rats. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月26 - 28日.
5. 村松憲: 1型糖尿病ラットの萎縮した大脳皮質運動野はスキルトレーニングによって拡大する. 令和元年度 糖尿病性神経障害を考える会, 東京, 2019年8月31日.
6. 村松憲, 玉木徹, 生友聖子, 志茂聡, 丹羽正利: 糖尿病によって萎縮した大脳皮質運動野はスキルトレーニングによって回復する. 第6回日本糖尿病理学療法学会, 宜野湾, 2019年9月14日.
7. 玉木徹, 村松憲, 生友聖子: 糖尿病は運動療法による末梢神経再生促進作用を阻害する. 第6回日本糖尿病理学療法学会, 宜野湾, 2019年9月14日.
8. 生友聖子, 玉木徹, 志茂聡, 丹羽正利, 大城直美, 福田実乃里, 村松憲: 糖尿病は運動療法による末梢神経再生促進作用を阻害する. 第6回日本糖尿病理学療法学会, 宜野湾, 2019年9月14日.
9. 村松憲: 糖尿病によって生じる随意運動を制御する神経機構の障害とその運動療法. 第38回日本臨床運動療法学会学術集会, 新潟, 2019年9月6日.
10. 村松憲: 糖尿病によって生じる随意運動を制御するシステムの障害とそのリハビリテーション. 第8回国際生活習慣病フォーラム, 東京, 2019年10月6日.
11. Fukuda M, Ikutomo M, Muramatsu K, Oshiro N, Niwa M: Morphological study of motor neurons innervating the lumbar trunk muscles in rats. 第97回日本生理学会大会, 別府, 2020年3月17 - 19日. (誌上開催)

## 論文

1. Sekiguchi Y<sup>1</sup>, Muramatsu K, Tamaki T<sup>1</sup>, Ikutomo M<sup>2</sup>, Kurosawa K<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Health Science University, <sup>2</sup>University of Tokyo Health Science, <sup>3</sup>International University of Health and Welfare): Neck and trunk representations in the primary motor cortex in rats. *J Phys Ther Sci*. 31: 608-611, 2019. DOI: 10.1589/jpts.31.608
2. Sekiguchi Y<sup>1</sup>, Muramatsu K, Tamaki T<sup>1</sup>, Ikutomo M<sup>2</sup>, Kurosawa K<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Health Science University, <sup>2</sup>University of Tokyo Health Science, <sup>3</sup>International University of Health and Welfare): Motor cortex somatotopic presentation after restriction of neck movement in rats. *J Phys Ther Sci*. 31: 785-789, 2019. DOI: 10.1589/jpts.31.785
3. Sasaki SI<sup>1,2</sup>, Muramatsu K, Niwa M<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Ibaraki Prefectural University of Health Sciences, <sup>2</sup>Toyo Public Health College, <sup>3</sup>Department of Occupational Therapy, Kyorin University): Firing properties of medullary expiratory neurons during fictive straining in cats. *J Physiol Sci*. 69(6): 961-968, 2019. DOI: 10.1007/s12576-019-00715-3.
4. Suzuki Y<sup>1,2</sup>, Muramatsu K, Maruo K<sup>3</sup>, Kato H<sup>1</sup>, Tanabe Y<sup>2</sup>, Tubaki T<sup>1,2</sup>, Hada Y<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>University of Tsukuba Hospital, <sup>2</sup>Tsukuba Therapist Society for Diabetes Mellitus Prevention, <sup>3</sup>University of Tsukuba): Pain thresholds are unaffected by age in a Japanese population. *Muscle Nerve*. 61(5): 653-656, 2020. DOI: 10.1002/mus.26834.

## その他

1. 村松憲: 優秀演題賞. 令和元年度 糖尿病性神経障害を考える会, 東京, 2019年8月31日.
2. 村松憲: 学術集会長賞. 第6回日本糖尿病理学療法学会学術大会, 宜野湾, 2019年9月14日.

## 倉林 準

## 論文

1. 高橋芳弘<sup>1</sup>, 植草昌彦<sup>1</sup>, 倉林準, 藤原正之<sup>2</sup>, 井上美幸<sup>2</sup> (<sup>1</sup>千葉

工業大学, 千葉医療福祉専門学校) : 座位において歩行能力を改善する機器の提案. 日本福祉工学会誌 21(2) : 87-93, 2019.

その他

- 倉林準 : キャンパス紹介 杏林大学保健学部. 日本福祉工学会誌 21(2): 6-7, 2019.

藤澤 祐基

講演

- 藤澤祐基, 岡島康友, 中野尚子 : 正準判別分析とランダムフォレスト法を用いた健常者、片麻痺手、小脳性運動失調症者の利き手書字の特徴抽出. 第56回日本リハビリテーション医学術学会, 神戸, 2019年6月12 - 16日.
- 中野尚子, 藤澤祐基, 渡辺はま, 多賀徹太郎 : 乳児における臥位から座位への起き上がり動作分析 第2報 - 複数観察者によるテキストマイニング-. 日本赤ちゃん学会第19回学術集会, 東京, 2019年7月6 - 7日.
- 藤澤祐基, 中野尚子 : 起き上がり動作の時系列的発達変化 - 骨格検出システムを用いて 第2報-. 第6回日本小児理学療法学術大会, 福岡, 2019年11月16 - 17日.

松村 将司

講演

学会

- Matsumura M, Sakata H: Factors Influencing Improvements in Symptoms of Dizziness/Balance Disorders. 46th Congress of the International Neurootological & Equilibrimetric Society, Tokyo, May 30th-31th, 2019.

講演

- 松村将司 : めまい・バランス障害に対する理学療法. 第475回鳥取県東部医師会臨床懇話会, 鳥取, 2019年7月31日.
- 松村将司 : 非特異性腰痛に対する治療戦略. 第7回日本運動器理学療法学会学術集会, 岡山, 2019年10月4 - 6日.
- 松村将司, 大石敦史 : 神経モビライゼーション 下肢編. 日本理学療法士学会 徒手理学療法部門主催研修会, 東京, 2020年1月26日.

論文

- 栗原靖<sup>1</sup>, 田上未来<sup>1</sup>, 松田雅弘<sup>1</sup>, 大杉紘徳<sup>1</sup>, 河辺信秀<sup>1</sup>, 桑江豊<sup>1</sup>, 松村将司, 藤川提基<sup>2</sup> (1城西国際大学, 2京成小岩訪問診療所) : ランニング動作の足部の運動特性とランニング障害発症因子の関連性 足関節背屈制限、扁平足形状、下肢力学因子に着目して. 日本臨床スポーツ医学会誌27(1) : 53-60, 2019.
- Matsumura M, Usa H<sup>1</sup>, Ogawa D<sup>2</sup>, Ichikawa K<sup>3</sup>, Hata M<sup>4</sup>, Takei H<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan University, <sup>2</sup>Mejiro University, <sup>3</sup>Visiting-Nursing Station Kitazawa, <sup>4</sup>Kouseiren Takaoka Hospital): Pelvis/lower extremity alignment and range of motion in knee osteoarthritis: A case-control study in elderly Japanese women. J Back Musculoskelet Rehabil. 33(3): 515-521, 2019. DOI: 10.3233/BMR-171038.

相原 圭太

講演

- 相原圭太 : 歩き方教室-基礎編-. 羽村市教育委員会主催, 羽村, 2019年8月31日.
- 相原圭太 : 歩き方教室-実技編-. 羽村市教育委員会主催, 羽村, 2019年9月23日.

報告書

- 相原圭太, 石井博之, 楠田美奈 : 「生涯スポーツの機会提供プログラム」の成果報告. 杏林大学地域交流活動報告書, 2019.

● 作業療法学科 ●

近藤 知子

講演

- 近藤知子 : 作業科学研究のための基礎知識-作業科学文献の読み方. 第7回作業科学にまつわる研究法研修会, 東京, 2019年5月25日.
- 近藤知子 : WFOT世界プロジェクト : 世界ナラティブデータベース. 作業科学基礎講座in Summer 2019, 東京, 2019年6月29日.
- 阿部有純, 大杉真結子, 加藤愛香, 永石優子, 近藤知子 : 作業療法の知名度および認知度の国際比較 -日本と欧米のアンケート調査から-. 第16回東京都作業療法士学会, 東京, 2019年7月7日.
- 近藤知子, 硯川潤, 門馬博, 澤田有希, 竹嶋理恵 : 高齢者におけるシニアカー利活用の可能性 : 走行体験後のインタビュー調査から. 第16回東京都作業療法士学会, 東京, 2019年7月7日.
- Takeshima R, Kondo T, Sawada Y, Momma Hi, Suzurikawa J: Test course trial of a mobility scooter equipped with an add-on monitoring system. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Kobe, Sep.13th, 2019.
- 近藤知子 : 日々の生活作業と健康 : 作業科学の視点. 生活哲学学会, 東京, 2019年8月24日.

論文

- Suzuki Y, Teruya K<sup>1</sup>, Mochizuki H, Nagasawa A<sup>2</sup>, Kondo T, Shimoda N<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Department of Public Health, Faculty of Health Sciences, Kyorin University, <sup>2</sup>Juntendo Tokyo Koto Geriatric Center Ceiling, <sup>3</sup>Tokyo Kasei University): Evaluation of activities of daily living/instrumental activities of daily living to accurately determine severity of moderate and severe alzheimer's disease: Comparison of assessments by receiver operating characteristic curve and discriminant analyses. Dementia and Geriatric Cognitive Disorder Extra 9: 227-235, 2019. DOI: 10.1159/00050001
- 硯川潤<sup>1</sup>, 近藤知子 (<sup>1</sup>国立障害者リハビリテーションセンター研究所) : 車椅子処方における思考過程～模擬判定調査が示す診立ての構造～. Monthly Book Medical Rehabilitation. 245: 1-7, 2020.
- 門馬博, 竹嶋理恵<sup>1</sup>, 澤田有希<sup>1</sup>, 原田祐輔<sup>2</sup>, 硯川潤<sup>3</sup>, 近藤知子 (<sup>1</sup>帝京科学大学, <sup>2</sup>杏林大学作業療法学科, <sup>3</sup>国立障害者リハビリテーションセンター研究所) : 超高齢社会における移動手段としてのハンドル型電動車いすの可能性. 杏林大学紀要37, 27-33, 2020.

報告書

- 近藤知子 : 多職種連携とクライアント参加を促進する福祉用具選択支援ツールの開発. 科研費助成事業. 2018年度 成果報告書.
- 近藤知子, 岩崎也生子 : 家・家事・生活 : 家で行う家事作業の実態調査. 株式会社ミサワホーム総合研究所 委託研究. 2018年度 研究活動成果報告書.

その他

- 近藤知子 : 関東作業研究会 作業科学基礎講座in Summer 2019主催. 三鷹, 2019年6月29日.

丹羽 正利

講演

- Muramatsu K, Ikutomo M, Tamaki T, Shimo S, Niwa M: Motor skills training improves motor cortex dysfunction in

experimental diabetic rats. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月26-28日.

2. Tamaki T, Muramatsu K, Ikutomo M, Niwa M: Difference in severity of motor neuron loss between the fast- and slow-twitch muscles in diabetic rats. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月26-28日.
3. Ikutomo M, Tamaki T, Shimo S, Ooshiro N, Niwa M, Fukuda M, Muramatsu K: Axonal degeneration of the phrenic nerve in diabetic rats. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月26-28日.
4. Ohshiro N, Muramatsu K, Fukuda M, Niwa M: Effect of streptozotocin-induced diabetes on the external anal sphincter motoneurons and muscles of rats. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月26-28日.
5. 村松憲, 玉木徹, 生友聖子, 志茂聡, 丹羽正利: 糖尿病によって萎縮した大脳皮質運動野はスキルトレーニングによって回復する. 第6回日本糖尿病理学療法学会, 宜野湾, 2019年9月14日.
6. 生友聖子, 玉木徹, 志茂聡, 丹羽正利, 大城直美, 福田美乃里, 村松憲: 糖尿病は運動療法による末梢神経再生促進作用を阻害する. 第6回日本糖尿病理学療法学会, 宜野湾, 2019年9月14日.
7. Fukuda M, Ikutomo M, Muramatsu K, Oshiro N, Niwa M: Morphological study of motor neurons innervating the lumbar trunk muscles in rats. 第97回日本生理学会大会, 別府, 2020年3月17 - 19日. (誌上開催)

## 論文

1. Sasaki SI<sup>1,2</sup>, Muramatsu K<sup>3</sup>, Niwa M (Ibaraki Prefectural University of Health Sciences, <sup>2</sup>Toyo Public Health College, <sup>3</sup>Department of Physical Therapy, Kyorin University): Firing properties of medullary expiratory neurons during fictive straining in cats. *J Physiol Sci.* 69(6): 961-968, 2019. DOI: 10.1007/s12576-019-00715-3.

## 望月 秀樹

## 講演

1. 望月秀樹: パワーリハビリテーション疾患別運営方法. パワーリハビリテーション指導員研修会, 東京, 2019年4月20 - 21日.
2. 長島泉, 望月秀樹, 武田湖太郎, 原田祐輔, 下田信明: 高齢者における手の心的回転課題遂行能力差による課題遂行方略の違い. 第10回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2019年4月29日.
3. Suzuki Y, Oki M, Matsumoto M, Fukushima M, Yoshikawa Y, Nagasawa A, Takakura T, Mochizuki H, Shimoda N: Difference in the appearance frequency of qualitative error types in the clock-drawing test between fall patients and non-fall patients among patients with Alzheimer's disease. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Kobe, 2019.6.9-13.
4. Matsumoto M, Mochizuki H, Oki M, Fukushima M, Yoshikawa Y, Nagasawa A, Takakura T, Suzuki Y: Risk factors of falls in patients with Alzheimer's disease: Comparisons between cognitive function, balance ability, and visuospatial ability. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Kobe, 2019.6.9-13.
5. 望月秀樹: パワーリハビリテーション概論・各論. パワーリハビリテーション実務者研修会, 仙台, 2019年6月16日.
6. 鈴木優喜子, 原田祐輔, 下田信明, 望月秀樹: 視空間認知障害に対する介入方法とその効果—国内文献データベースに基づく文献レビュー—. 第24回日本在宅ケア学会学術集会, 仙台, 2019年7月27 - 28日.
7. 原田祐輔, 鈴木優喜子, 下田信明, 望月秀樹: 筋萎縮性側索硬

化症患者のレスパイト入院に関する研究動向—国内文献データベースに基づく文献レビュー—. 第24回日本在宅ケア学会学術集会, 仙台, 2019年7月27 - 28日.

8. 鈴木優喜子, 長澤明, 望月秀樹, 下田信明: 主介護者が最小限の介護にとどめようと意識して関与することがアルツハイマー病患者のADL・IADL自立度に及ぼす影響. 第53回日本作業療法学会学術集会, 福岡, 2019年9月6 - 8日.
9. 望月秀樹: パワーリハビリテーション概論・各論・評価学. パワーリハビリテーション実務者研修会, 山形, 2019年12月1日.

## 論文

1. Nagashima I, Takeda K<sup>1</sup>, Shimoda N<sup>2</sup>, Harada Y, Mochizuki H (Fujita Health University, <sup>2</sup>Tokyo Kasei University): Variation in Performance Strategies of a Hand Mental Rotation Task on Elderly. *Front Hum Neurosci* 13: 252, 2019. doi: 10.3389/fnhum.2019.00252. eCollection 2019.
2. Mochizuki H, Takeda K<sup>1</sup>, Sato Y<sup>3</sup>, Nagashima I, Harada Y, Shimoda N<sup>2</sup> (Fujita Health University, <sup>2</sup>Tokyo Kasei University, <sup>3</sup>Tokushima University): Response time differences between men and women during hand mental rotation. *PLoS One*, 2019. doi: 10.1371/journal.pone.0220414. eCollection 2019.
3. Suzuki Y, Teruya K<sup>1</sup>, Mochizuki H, Nagasawa A<sup>2</sup>, Kondo T, Shimoda N<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Department of Public Health, Faculty of Health Sciences, Kyorin University, <sup>2</sup>Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center, <sup>3</sup>Tokyo Kasei University): Evaluation of activities of daily living/instrumental activities of daily living to accurately determine severity of moderate and severe Alzheimer's disease: Comparison of assessments by receiver operating characteristic curve and discriminant analyses. *Dement Geriatr Cogn Disord Extra.* 9: 227-235, 2019.
4. Suzuki Y, Mochizuki H, Oki M<sup>1</sup>, Matsumoto M<sup>2</sup>, Fukushima M<sup>2</sup>, Yoshikawa Y<sup>2</sup>, Nagasawa A<sup>2</sup>, Takakura T<sup>2</sup>, Shimoda N<sup>3</sup> (Juntendo University Hospital, <sup>2</sup>Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center, <sup>3</sup>Tokyo Kasei University): Quantitative and qualitative analyses of the clock drawing test in fall and non-fall patients with Alzheimer's disease. *Dement Geriatr Cogn Disord Extra.* 9: 381-388, 2019.

## その他

1. 望月秀樹: 第18回日本自立支援介護・パワーリハ学術大会 企画・開催. 東京, 2019年7月6 - 7日.

## 岩崎 也生子

## 講演

1. 岩崎也生子: 子どもの高次脳機能障害. 第16回東京都作業療法学会, 三鷹, 2019年7月7日.
2. Iwasaki Y, Goryo K: A study of the factor structure in stroke patients with cognitive dysfunction. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019年7月25 - 28日.
3. 岩崎也生子, 西方浩一: 小児期の高次脳機能障害患者の評価指標の検討. 第53回日本作業療法学会, 福岡, 2019年9月6 - 8日.

## 論文

1. Iwasaki Y: Five Factor Behavioral Assessment List for Stroke. *EC Neurology*: 359-367, 2019.
2. Iwasaki Y: Behavioral Assessment List for Children with Acquired Brain Injury with Cognitive Dysfunction. *EC Neurology*: 921-933, 2019.

## 鈴木 健太郎

## 講演

1. 鈴木健太郎, 北越大輔, 山下晃弘, 山田慧, 鈴木雅人: スマー

トスピーカとセンサを用いた知的対話システムの開発. 第16回東京都作業療法士学会, 三鷹, 2019年7月7日.

- 鈴木健太郎, 北越大輔, 山下晃弘, 山田慧, 鈴木雅人: スマートデバイスを用いた知的対話システムの開発. 第29回日本保健科学学会, 東京, 2019年10月5日.
- 坂本紫音, 北越大輔, 鈴木健太郎, 鈴木雅人: タブレット端末を用いた認知訓練システムに関する研究. 電子情報通信学会福祉情報工学研究会WIT, 霧島, 2019年10月26日.
- Kitakoshi D, Hirose S, Yamashita A, Suzuki K, Suzuki M: Development of an Intelligent Dialogue Agent for Older Adults Evaluation of Functions to Control Spontaneous Talk and Coordinate Speech Content. TAAI 2019, Taiwan, November 21, 2019.
- 鈴木健太郎: 脳の機能と体の動き. ファミリーサポーター向け研修会, 東京, 2020年2月8日.
- 廣瀬翔, 北越大輔, 鈴木健太郎, 山下晃弘, 鈴木雅人: 包括的介護予防システムの基本的特性評価に関する研究. 第47回認知システムシンポジウム, 名古屋, 2020年3月2-3日. (誌上開催)
- 坂本紫音, 北越大輔, 鈴木健太郎, 鈴木雅人: ソフトウェアエージェントとのゲームにもとづく認知訓練システムにおける難易度調整機構の改良. 第47回認知システムシンポジウム, 名古屋, 2020年3月2-3日. (誌上開催)
- 北越大輔, 坂本紫音, 鈴木健太郎, 鈴木雅人: 認知訓練システムの難易度調整に関する検討. 情報処理学会第82回全国大会, 野々, 2020年3月6日. (Zoom開催)
- 鈴木健太郎, 廣瀬翔, 坂本紫音, 北越大輔, 山下晃弘, 鈴木雅人: 知的対話エージェントと認知訓練システムによる包括的な高齢者支援情報環境の構築へ向けて. 2020年電子情報通信学会総合大会, 東広島, 2020年3月17日. (誌上開催)
- 廣瀬翔, 北越大輔, 鈴木健太郎, 山下晃弘, 鈴木雅人: 知的対話エージェントにおける発話内容調整機構の特性評価. 2020年電子情報通信学会総合大会, 東広島, 2020年3月17日. (誌上開催)

#### その他

- 鈴木健太郎: NPHC研究会企画・開催. 東京, 2019年5月11日.

#### 早坂 友成

#### 講演

- 早坂友成: 生涯教育研修会現職者選択研修—精神障害領域の作業療法. 東京都作業療法士会, 東京, 2019年5月19日.
- 早坂友成, 長島泉, 坪井貴嗣, 松本由美, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態とパーソナリティ障害を併存する患者の行動特徴. 第115回日本精神神経学会, 新潟, 2019年6月20日.
- 早坂友成: 精神科作業療法の治療構造. 東京YMCA医療福祉専門学校・ホームカミングデイ, 東京, 2019年6月29日.
- 早坂友成 (学会長講演): 再開と作業療法・Re・スタートに秘める想い. 第16回東京都作業療法学会・東京都作業療法士会, 三鷹, 2019年7月7日.
- 二田未来, 長島泉, 菅さくら, 早坂友成, 渡邊衡一郎: 就労移行支援につながった自閉症スペクトラム障害傾向のある患者・外来精神科作業療法での支援. 第16回東京都作業療法学会・東京都作業療法士会, 三鷹, 2019年7月7日.
- 阿部彩花, 河村美咲, 三谷実来, 由井博美, 早坂友成: 曖昧な文章が作業遂行に与える影響と性格特性の関係. 第16回東京都作業療法学会・東京都作業療法士会, 三鷹, 2019年7月7日.
- 早坂友成: 新しい多職種協働を目指して, うつ病治療における作業療法士の役割. 日本総合病院精神医学会・有床フォーラム, 東京, 2019年7月27日.
- 早坂友成: うつ病患者に対する作業療法の現状と課題-作業療法士版うつ病治療ガイドラインの作成. B. うつ病の回復過程

と精神科作業療法の役割. 第53日本作業療法学会, 福岡, 2019年9月7日.

- 早坂友成: 重点課題研修会—うつに対する作業療法. 北海道作業療法士会, 札幌, 2019年10月12日.
- 早坂友成: 生涯教育研修会・認定作業療法士共通研修会-管理運営. 日本作業療法士協会, 東京, 2019年10月26 - 27日.
- 早坂友成: 広くて深い“うつ”の理解とリハビリテーション—“うつ”を持つかたの生活を見据えた支援とアプローチの考え方. 株式会社gene, 名古屋, 2019年11月24日.

#### 論文

- 早坂友成, 江頭文夫, 長野敏宏: 老年期 (高齢者) と精神疾患. 作業療法ジャーナル54(4), 2020.
- 早坂友成, 内田直樹, 木村尚美, 前田隆光, 平尾渉, 内野俊郎: 集団療法からみた外来治療の多様性. 外来精神医療20(1): 29-32, 2020.

#### 著書

- 早坂友成 (著): 精神障害領域: うつ病・双極性障害. OT臨地実習ルートマップ. 菊池恵美子, 齋藤佑樹 (編). 東京, メジカルビュー社, 2019. pp202-208.
- 早坂友成 (著): 気分 (感情) 障害. 標準作業療法学「精神機能作業療法学」新宮尚人 (編). 東京, 医学書院, 2020. pp115-130.
- 早坂友成 (著): 復職支援における作業療法. 標準作業療法学「精神機能作業療法学」. 新宮尚人 (編). 東京, 医学書院, 2020. pp249-264.
- 早坂友成 (著): 難治性うつ病に対する作業療法アプローチ. 医学のあゆみ「気分障害UPDATE-難治性うつ病に対しあきらめず取り組む」. 渡邊衡一郎 (編). 東京, 医歯薬出版, 2020. pp446-451.

#### その他

- 早坂友成: 第115回日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞受賞. 第115回日本精神神経学会, 新潟.
- 早坂友成: それ, 本当に「うつ病」ですか?. NHKあさイチ特集. 2019年5月8日.

#### 大城 直美

#### 講演

- Oshiro N, Muramatsu K, Fukuda M, Niwa M: Effect of streptozotocin-induced diabetes on the external anal sphincter motoneurons and muscles of rats. NEURO 2019, 新潟, 2019年7月25-28日.
- Ikutomo M, Tamaki T, Shimo S, Oshiro N, Niwa M, Fukuda M, Muramatsu K: Axonal degeneration of the phrenic nerve in diabetic rats. NEURO 2019, 新潟, 2019年7月25-28日.
- Fukuda M, Ikutomo M, Muramatsu K, Oshiro N, Niwa M: Morphological study of motor neurons innervating the lumbar trunk muscles in rats. 第97回日本生理学会大会, 別府, 2020年3月17-19日. (誌上開催)

#### 齋藤 利恵

#### 講演

- 齋藤利恵, 宮田沙弥, 三宅沙依, 八並光信: アクティブイイトイ (KAPLA) を用いたリハビリテーションが身体機能にもたらす影響について. 第53回日本作業療法学会, 福岡, 2019年9月6日.

#### 原田 祐輔

#### 講演

- 長島泉, 望月秀樹, 武田湖太郎, 原田祐輔, 下田信明: 高齢者

における手の心的回転課題遂行能力差による課題遂行方略の違い. 第10回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2019年4月29日.

2. 和田瀬永, 矢島史菜, 山川奈実, 鈴木晶子, 原田祐輔: 時間的制約が数独パズル(ナンバープレイス)の結果に与える影響. 第16回東京都作業療法学会, 三鷹, 2019年7月7日.
3. 原田祐輔, 鈴木優喜子, 下田信明, 望月秀樹: 筋萎縮性側索硬化症患者のレスパイト入院に関する研究動向—国内文献データベースに基づく文献レビュー—. 第24回日本在宅ケア学会学術集会, 仙台, 2019年7月27-28日.
4. 鈴木優喜子, 原田祐輔, 下田信明, 望月秀樹: 視空間認知障害に対する介入方法とその効果—国内文献データベースに基づく文献レビュー—. 第24回日本在宅ケア学会学術集会, 仙台, 2019年7月27-28日.
5. 黒川喬介, 早坂友成, 原田祐輔, 照井林陽: 認知症の家族が希望する生活機能回復訓練の実践. 第53回日本作業療法学会, 福岡, 2019年9月6-8日.
6. 原田祐輔: 認定作業療法士取得研修(選択研修); 身体障害の作業療法⑤. 日本作業療法士協会, 東京, 2019年10月26-27日.
7. 原田祐輔, 紅林佑介: プロセスレコードの有用性の認識を高める要因の探索. リハビリテーション・ケア合同研究大会, 金沢, 2019年11月21-22日.

## 論文

1. Nagashima I, Takeda K<sup>1</sup>, Shimoda N<sup>2</sup>, Harada Y, Mochizuki H (<sup>1</sup>Fujita Health University, <sup>2</sup>Tokyo Kasei University): Variation in performance strategies of a hand mental rotation task on elderly. *Front Hum Neurosci*, 13: 252, 2019.
2. Mochizuki H, Takeda K<sup>1</sup>, Sato Y<sup>2</sup>, Nagashima I, Harada Y, Shimoda N<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Fujita Health University, <sup>2</sup>Tokushima University, <sup>3</sup>Tokyo Kasei University): Response time differences between men and women during hand mental rotation. *PLoS One*, e0220414, 2019.
3. 鈴木優喜子, 原田祐輔, 下田信明<sup>1</sup>, 望月秀樹(<sup>1</sup>東京家政大学): 視空間認知障害に対する介入方法とその効果: 国内文献データベースに基づく文献レビュー. *理学療法科学* 35(2): 251-255, 2020.
4. Kurebayashi Y<sup>1</sup>, Harada Y (<sup>1</sup>Niigata University): Effect of process recording and self-compassion on self-focus: A pre-post interventional pilot study. *International Journal of Human Sciences*, 17: 131-141, 2020.
5. 門馬博<sup>1</sup>, 竹嶋理恵<sup>2</sup>, 澤田有希<sup>3</sup>, 原田祐輔, 硯川潤<sup>3</sup>, 近藤知子(<sup>1</sup>杏林大・保・理学療法学科, <sup>2</sup>帝京科学大学, <sup>3</sup>国立障害者リハビリテーションセンター研究所): 超高齢社会における移動手段としてのハンドル型電動車いすの可能性. *杏林大学研究報告* 37: 27-33, 2020.

## 著書

1. 原田祐輔(分担執筆): 神経難病—パーキンソン病の高齢男性に対する作業療事例. 標準作業療法学 専門分野 作業療法臨床実習とケーススタディ. 濱口豊太編. 東京, 医学書院, 2020. p72-78.

## 鈴木 優喜子

## 講演

1. Suzuki Y, Oki M, Matsumoto M, Fukushima M, Yoshikawa Y, Nagasawa A, Takakura T, Mochizuki H, Shimoda N: Difference in the appearance frequency of qualitative error types in the clock-drawing test between fall patients and non-fall patients among patients with Alzheimer's disease. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Kobe, 2019.6.9-13.
2. Matsumoto M, Mochizuki H, Oki M, Fukushima M, Yoshikawa Y, Nagasawa A, Takakura T, Suzuki Y: Risk

factors of falls in patients with Alzheimer's disease: Comparisons between cognitive function, balance ability, and visuospatial ability. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Kobe, 2019.6.9-13.

3. 林田理紗子, 御母衣香里, 五十嵐萌, 湯澤早織, 鈴木優喜子: 認知症罹患に対する不安: 三世代間(若年, 中年, 高齢)の比較. 第16回東京都作業療法学会, 三鷹, 2019年7月7日.
4. 鈴木優喜子, 原田祐輔, 下田信明, 望月秀樹: 視空間認知障害に対する介入方法とその効果—国内文献データベースに基づく文献レビュー—. 第24回日本在宅ケア学会学術集会, 仙台, 2019年7月27-28日.
5. 原田祐輔, 鈴木優喜子, 下田信明, 望月秀樹: 筋萎縮性側索硬化症患者のレスパイト入院に関する研究動向—国内文献データベースに基づく文献レビュー—. 第24回日本在宅ケア学会学術集会, 仙台, 2019年7月27-28日.
6. 鈴木優喜子, 長澤明, 望月秀樹, 下田信明: 主介護者が最小限の介護にとどめよう意識して関わるのがアルツハイマー病患者のADL・IADL自立度に及ぼす影響. 第53回日本作業療法学会学術集会, 福岡, 2019年9月6-8日.

## 論文

1. Suzuki Y, Teruya K<sup>1</sup>, Mochizuki H, Nagasawa A<sup>2</sup>, Kondo T, Shimoda N<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Department of Public Health, Faculty of Health Sciences, Kyorin University, <sup>2</sup>Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center, <sup>3</sup>Tokyo Kasei University): Evaluation of activities of daily living/instrumental activities of daily living to accurately determine severity of moderate and severe Alzheimer's disease: Comparison of assessments by receiver operating characteristic curve and discriminant analyses. *Dement Geriatr Cogn Disord Extra*. 9: 227-235, 2019.
2. Suzuki Y, Mochizuki H, Oki M<sup>1</sup>, Matsumoto M<sup>2</sup>, Fukushima M<sup>2</sup>, Yoshikawa Y<sup>2</sup>, Nagasawa A<sup>2</sup>, Takakura T<sup>2</sup>, Shimoda N<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Juntendo University Hospital, <sup>2</sup>Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center, <sup>3</sup>Tokyo Kasei University): Quantitative and qualitative analyses of the clock drawing test in fall and non-fall patients with Alzheimer's disease. *Dement Geriatr Cogn Disord Extra*. 9: 381-388, 2019.
3. 林田理紗子<sup>1</sup>, 御母衣香里<sup>2</sup>, 五十嵐萌<sup>3</sup>, 湯澤早織<sup>4</sup>, 鈴木優喜子(<sup>1</sup>順天堂大学医学部附属順天堂医院, <sup>2</sup>柳原リハビリテーション病院, <sup>3</sup>小金井リハビリテーション病院, <sup>4</sup>JCHO東京新宿メディカルセンター): 認知症罹患に対する不安の世代間比較および性差. *日本作業療法研究学会雑誌*, 22(1):23-29, 2019.

## 長島 泉

## 講演

1. 長島泉, 今村弥生, 早坂友成, 千野貴子, 坪井貴嗣, 二田未来, 片桐建志, 野崎和博, 高江洲義和, 渡邊衡一郎: 外来精神科作業療法への参加により社会機能が改善した治療抵抗性統合失調症患者. 第14回統合失調症学会, 札幌, 2019年4月19-20日.
2. 長島泉, 望月秀樹, 武田湖太郎, 原田祐輔, 下田信明: 高齢者における手の心的回転課題遂行能力差による課題遂行方略の違い. 第10回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2019年4月29日.
3. 長島泉, 早坂友成, 高江洲義和, 坪井貴嗣, 片桐建志, 野崎和博, 今村弥生, 松本由美, 栗原真理子, 大江悠樹, 二田未来, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態患者に併存するパーソナリティ障害と作業遂行特徴出現場面との関連. 第115回日本精神神経学会, 新潟, 2019年6月20-22日.
4. 早坂友成, 長島泉, 高江洲義和, 坪井貴嗣, 片桐建志, 野崎和博, 今村弥生, 松本由美, 栗原真理子, 大江悠樹, 二田未来, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態とパーソナリティ障害を併存する患者の行動特徴. 第115回日本精神神経学会, 新潟, 2019年6月20-22日.

5. 長島泉, 高江洲義和, 菅さくら, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態に併存するパーソナリティ障害と作業遂行特徴における性差の検討. 第48回日本女性心身医学会学術集会, 東京, 2019年6月29-30日.
6. 二田未来, 長島泉, 菅さくら, 早坂友成, 渡邊衡一郎: 就労移行支援につながった自閉症スペクトラム障害 (ASD) 傾向のある患者—外来精神科作業療法での支援. 第16回東京都作業療法学会, 三鷹, 2019年7月7日.
7. 二田未来, 長島泉, 神田優太, 早坂友成, 渡邊衡一郎: 外来精神科作業療法への参加により作業所への通所が可能となった強迫的心性を持つ双極性障害II型患者. 第53回日本作業療法学会, 福岡, 2019年9月6-8日.

## 論文

1. Nagashima I, Takeda K<sup>1</sup>, Shimoda N<sup>2</sup>, Harada Y, Mochizuki H (<sup>1</sup>Fujita Health University, <sup>2</sup>Tokyo Kasei University): Variation in Performance Strategies of a Hand Mental Rotation Task on Elderly. *Front Hum Neurosci*, 13: 252, 2019. doi: 10.3389/fnhum.2019.00252. eCollection 2019.
2. Mochizuki H, Takeda K<sup>1</sup>, Sato Y<sup>3</sup>, Nagashima I, Harada Y, Shimoda N<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Fujita Health University, <sup>2</sup>Tokyo Kasei University, <sup>3</sup>Tokushima University): Response time differences between men and women during hand mental rotation. *PLoS One*, 2019. doi: 10.1371/journal.pone.0220414. eCollection 2019.
3. 長島泉: 老年期(高齢者)と身体症状症—老年期の身体症状と作業療法, 老年期(高齢者)と精神疾患. *作療ジャーナル*, 54(4): 332-338, 2020.

前田 直

## 講演

1. 横山恵子, 蔭山正子, 前田直: 当事者の子育てを支えるための家族丸ごと支援. *リカバリー全国フォーラム2019*, 東京, 2019年9月22日.
2. 谷口恵子, 前田直, 横山恵子, 蔭山正子, 酒井佳永: “忘れられた介護者” から見た精神障がいと子ども虐待~家族の思いに寄り添った支援の在り方を考える~. *日本子ども虐待防止学会25回ひょうご大会*, 神戸, 2019年12月21日.
3. 前田直, 横山恵子: 家族まるごと支援と家族のリカバリー in 沖縄. *リカバリーフォーラム地方版分科会*, 那覇, 2020年2月15日.

## ● 診療放射線技術学科 ●

久原 重英

## 講演

1. Ikegawa R, Ichikawa A, Oomi N, Kobayashi K, Mori M, Kuhara S: Correction of the effects of heart rate changes on MOLLI. *The International Society for Magnetic Resonance in Medicine (ISMRM) 27th Annual Meeting & Exhibition*, Canada, May 11th-16th, 2019.
2. Mori M, Kuhara S, Kobayashi K, Fukushima K, Yoshioka T, Machida H, Yokoyama K: Feasibility Study of Visualizing Tree-Rings of Waterlogged Wood by Deep-Learning Reconstruction. *The European Society for Magnetic Resonance in Medicine and Biology (ESMRMB) 2019, 36th Annual Scientific Meeting*, Netherlands, October 3rd-5th, 2019.
3. Kitazaki S, Kawakita M, Jitsumatsu Y, Kuhara S, Hiwatashi A, Takeuchi J: Magnetic resonance angiography image restoration by super resolution based on deep learning. *The European Society for Magnetic Resonance in Medicine and Biology (ESMRMB) 2019, 36th Annual*

Scientific Meeting, Netherlands, October 3rd-5th, 2019.

4. Hori K, Hashimoto T, Kuhara S: Basic study of random sampling for compressed sensing using MRI simulator. *Hellenic Society of Nuclear Medicine (HSNM), the 5th International Medical Olympiad*, Greece, October 3rd-6th, 2019.
5. Endo Y, Takazawa M, Amanuma M, Kobayashi K, Kuhara S: Simulation study on the accuracy of T1 measurements with modified look-locker inversion recovery (MOLLI) using the BlochSolver: the effect of heart rate variation. *The Society for Cardiovascular Magnetic Resonance (SCMR) 23th Annual Scientific Sessions*, USA, February 12th-15th, 2020.

## 論文

1. Mori M<sup>1</sup>, Kuhara S, Kobayashi K, Suzuki S<sup>2</sup>, Yamada M<sup>1</sup>, Senoo A<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan University, <sup>2</sup>Tokyo Metropolitan Archaeological Center): Non-destructive tree-ring measurements using a clinical 3T-MRI for archaeology. *Dendrochronologia* 57, 2019. DOI:10.1016/j.dendro.2019.125630

## その他

1. 久原重英: 【特許出願】磁気共鳴イメージング装置、画像処理装置及び画像処理方法. (特願2019-079766) 出願日: 2019年4月19日.

黒木 一典

## 講演

1. 黒木一典: “君もレントゲン博士だ”. *神奈川県立がんセンター IVRセミナー*, 横浜, 2019年7月28日.

橋本 雄幸

## 講演

1. Mano K, Hashimoto T: Image quality improvement of cone beam CT image reconstruction during treatment. 第117回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2019年4月11-14日.
2. Shinohara H, Hashimoto T: An error evaluation of iterative image reconstruction method using chi-square ( $\chi^2$ ) statistic minimization for Poisson-distributed projection data. 第117回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2019年4月11-14日.
3. Shinohara H, Hashimoto T: Incident photon number and reconstructed linear attenuation coefficients in iterative CT image reconstruction. 第117回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2019年4月11-14日.
4. Hirano T, Hashimoto T, Shinohara H: Construction of Numerical Simulation Environment for CT Noise Characteristics. 第117回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2019年4月11-14日.
5. Kojima S, Shinohara H, Hashimoto T, Hirata M, Tanigaki K, Suzuki S: Image Quality Assessment for MRI with Deep Learning: A Phantom Study. 第75回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2019年4月11-14日.
6. 橋本雄幸: 情報科学. 2019年医学物理士ミニマム講習会 (物理工学系), 2019年6月2日.
7. 堀拳輔, 橋本雄幸, 齊藤典生, 王波: 少数方向トモシンセシスにおける正則化項を用いた画像再構成. 第38回日本医用画像工学会大会, 奈良, 2019年7月24-26日.
8. Tadano K, Tajima Y, Sato E, Hashimoto T: Development of flexible diffusion tensor phantom. 第118回日本医学物理学会学術大会, 福井, 2019年9月12-15日.
9. Oketa R, Tadano K, Hashimoto T: Model-based scatter correction method based on Monte Carlo simulation. 第118



回日本医学物理学会学術大会, 福井, 2019年9月12-15日.

10. Mano K, Hashimoto T, Imae T, Hori K: Image quality improvement of cone beam CT during treatment using iterative reconstruction. 第118回日本医学物理学会学術大会, 福井, 2019年9月12-15日.
11. Kojima K, Shinohara H, Hashimoto T, Hirata M, Tanigaki K, Suzuki S: Noise2Noise法を用いたノイズ除去効果の検討. 第47回日本磁気共鳴医学会大会, 熊本, 2019年9月20-22日.
12. Hori K, Hashimoto T, Kuhara S: Basic study of random sampling for compressed sensing using MRI simulator. 18th International Medical Olympiad, Greece, October 3rd -6th, 2019.
13. 堀拳輔, 橋本雄幸, 菱川瑞穂, 松友紀和: 深層学習を用いたプラナー像のノイズ除去処理. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
14. 橋本雄幸: 画像再構成の復習. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
15. 橋本雄幸: 統計ソフトウェアを使おう. 筑波大学 放射線災害専門スタッフ養成プログラムの実習, つくば, 2019年12月15日.
16. Hashimoto T: Image Reconstruction of X-ray CT and Tomosynthesis. International Conference on Intelligent Control, Measurement and Signal processing 2019, China, December 28th, 2019.

#### 著書

1. 橋本雄幸, 福士政広: 実践! 医用画像情報学 基礎から実験・演習まで. 東京, メジカルビュー社, 2020.

#### 山本 智朗

#### 講演

1. Motegi K, Matsutomo N, Yamamoto T, Miyaji N, Umeda T, Koizumi M: Evaluation of Imaging Biomarker Accuracy Using Accumulated Volume in Quantitative Bone SPECT/CT. The 75th Annual Meeting of the JSRT, Yokohama, April, 11th-14th, 2019.
2. Hishikawa M, Matsutomo N, Yamamoto T: Impact of reconstruction parameters on quantitative bone SPECT imaging: A novel thoracic spine phantom study. Proceedings of the 5th International Medical Olympiad, Greece, October 3rd-6th, 2019.
3. 関美海, 松友紀和, 山本智朗: 心筋SPECTファントムに応用可能な虚血評価用インサートの開発. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
4. 山内梨子, 松友紀和, 山本智朗: 挙上困難な症例に対してどのようにポジショニングすべきか?—心臓ファントムを用いた検討—. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
5. 渡邊真衣, 松友紀和, 山本智朗:  $^{131}\text{I}$  SPECTイメージングにおける定量精度と画質からみた散乱線補正係数の最適化. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
6. 青山恵, 松友紀和, 山本智朗: 水晶体の被曝低減を目的とした頭部SPECT/CT用防護シートの開発. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
7. 矢島若奈, 松友紀和, 山本智朗: 空間分解能の違いがCIScore算出精度に与える影響. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
8. 菱川瑞穂, 松友紀和, 山本智朗:  $^{111}\text{In}$  SPECTにおける散乱線推定ウィンドウが画質と定量性に与える影響. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.

#### 論文

1. 三井弘樹, 松友紀和, 山本智朗, 佐藤英介: 複数エネルギーピークを持つ放射性核種を用いたSPECTの定量精度に関する検討. 核医学技術 39(2): 155-161, 2019.
2. Matsutomo N, Takano E, Yamamoto T, Sato E.: Continuous Repetitive Data Acquisition with  $^{123}\text{I}$ -FP-CIT SPECT: Effects of Rotation Speed and Rotation Time. J Nucl Med Technol 47(4): 319-325, 2019.

#### 著書

1. 津田啓介, 鹿野直人, 清水秀雄, 小山和也, 山本智朗 (分担執筆): 4章 臨床核医学検査. 改訂第2版診療放射線技師スリム・ベーシック核医学. 福士政広編集. 東京, メジカルビュー社, 2019, p.165-295.

#### 小池 貴久

#### 講演

1. Komiya K, Takeuchi Y, Uno S, Koike T: Two-dimensional imaging technique based on LTCC-GEM with cold and thermal neutron beam. 2019 IEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference (NSS/MIC 2019), United Kingdom, October 26th-November 2nd, 2019.

#### 論文

1. Endo Y, Koike T: Simulation study of acute subarachnoid hemorrhage using water density images of dual energy CT. 2018 IEEE NSS/MIC Conference Proceedings: DOI: 10.1109/NSSMIC.2018.8824586

#### 著書

1. 小池貴久 (分担執筆): 第9章 放射線物理学. 2020年版診療放射線技師国家試験 合格! Myテキスト. 東京, オーム社, 2019.

#### 田中 薫

#### 講演

1. 田中薫: 水溶媒下におけるノニバミドの安定構造の検討. 日本薬学会第140年会, 京都, 2020年3月25-28日. (Web開催)

#### 報告書

1. 田中薫:  $\pi$ 電子系化合物の立体配座および分子内相互作用におけるエネルギーの解析. 分子科学研究所 岡崎共通研究施設 計算科学研究センター 2018年度 施設利用報告書.

#### 関 健介

#### 講演

1. 関健介, 後藤恭一, 金子哲也: ギムカを利用した人工放射性核種の土壌汚染評価方法の有用性に関する研究. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019年10月23-25日.

#### 論文

1. 関健介, 森数美<sup>1</sup>, 岡田洋二<sup>2</sup> (<sup>1</sup>杏林大・保・救急救命, <sup>2</sup>杏林大・保・臨床検査): 妊娠期からのペアレントリングプログラム「赤ちゃんの寝かしつけ準備講座」Web教材の開発. 杏林医学会誌 50(3): 117-123, 2019.

#### 松友 紀和

#### 講演

1. 松友紀和: 研究の始め方と進め方. 第243回東京支部フォーラム, 東京, 2019年7月5日.
2. 松友紀和: 骨SPECT撮像の標準化に向けて. 第27回信州核医学研究会, 松本, 2019年7月20日.
3. 松友紀和: PETをするなら知っておきたい放射線の基礎. PETサマーセミナー2019 in 福島, 福島, 2019年8月23-25日.

4. 松友紀和: 基礎からわかるコリメータ. 第6回SPECT Imaging Forum, 東京, 2019年10月5日.
5. 松友紀和: 心臓核医学における収集処理技術のポイント. 第23回山梨RI技術勉強会, 甲府, 2019年10月28日.
6. Motegi K, Matsutomo N, Yamamoto T, Miyaji N, Umeda T, Koizumi M: Evaluation of Imaging Biomarker Accuracy Using Accumulated Volume in Quantitative Bone SPECT/CT. The 75th Annual Meeting of the JSRT, Yokohama, April, 11-14th, 2019.
7. Hishikawa M, Matsutomo N, Yamamoto T: Impact of reconstruction parameters on quantitative bone SPECT imaging: A novel thoracic spine phantom study. Proceedings of the 5th International Medical Olympiad, Greece, October 3-6th, 2019.
8. 関美海, 松友紀和, 山本智朗: 心筋SPECTファントムに応用可能な虚血評価用インサートの開発. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
9. 山内梨子, 松友紀和, 山本智朗: 挙上困難な症例に対してどのようにポジショニングすべきか?—心臓ファントムを用いた検討—. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
10. 渡邊真衣, 松友紀和, 山本智朗: <sup>131</sup>I SPECTイメージングにおける定量精度と画質からみた散乱線補正係数の最適化. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
11. 青山恵, 松友紀和, 山本智朗: 水晶体の被曝低減を目的とした頭部SPECT/CT用防護シートの開発. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
12. 矢島若奈, 松友紀和, 山本智朗: 空間分解能の違いがCIScore算出精度に与える影響. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
13. 菱川瑞穂, 松友紀和, 山本智朗: <sup>111</sup>In SPECTにおける散乱線推定ウィンドウが画質と定量性に与える影響. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.
14. 堀拳輔, 橋本雄幸, 菱川瑞穂, 松友紀和: 深層学習を用いたブラナー像のノイズ除去処理. 第39回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019年11月1-3日.

#### 論文

1. 三井弘樹, 松友紀和, 山本智朗, 佐藤英介: 複数エネルギーピークを持つ放射性核種を用いたSPECTの定量精度に関する検討. 核医学技術 39(2): 155-161, 2019.
2. Matsutomo N, Takano E, Yamamoto T, Sato E: Continuous Repetitive Data Acquisition with <sup>123</sup>I-FP-CIT SPECT: Effects of Rotation Speed and Rotation Time. J Nucl Med Technol 47(4): 319-325, 2019.

#### 著書

1. 松友紀和 (分担執筆): II部2章2節. 新核医学技術総論. 日本核医学技術学会出版委員会 (編集). 京都, 山代印刷, 2020.

#### その他

1. 松友紀和: 病気の発見から治療まで〜核医学の世界〜, 2019 夢ナビライブ, 2019.
2. 松友紀和: 滝内賞受賞者が語る放射線技術学研究, 日本放射線技術学会 76(1): 1-15, 2020.

石川 純也

#### 講演

1. 石川純也, 山口平, 佐藤嘉晃, 西田晃規, 門前暁, 中井雄治, 柏倉幾郎: ヒトCD34<sup>+</sup>造血幹/前駆細胞における放射線応答遺伝子の機能的特徴. 日本放射線腫瘍学会, 第57回生物部会学術大会, 弘前, 2019年6月7日.
2. Ishikawa J, Masaru Y, Yoshiaki S, Nishida T, Monzen S,

Nakai Y, Kashiwakura I: The functional characteristics of radiation response genes in human CD34<sup>+</sup> hematopoietic stem/progenitor cells. The International Congress of the Radiation Research 2019, UK, August 25th -29th, 2019.

3. 石川純也: 患者さんのギモンにこたえるために. 独立行政法人労働者健康安全機構 診療放射線技師研修, 川崎, 2019年9月27日.
4. 石川純也, 梅木美和, 菅原かや, 三浦千尋: X線照射したヒト正常細胞株における抗炎症性化合物の作用に関する基礎的検討. 日本放射線影響学会第62回大会, 京都, 2019年11月14-16日.
5. 石川純也: 被ばく医療における造血再構成の標的因子を再考する. 第17回先端原子力研究所コロキウム, 東京, 2019年12月17日.

#### 論文

1. Ishikawa J, Morisaki T<sup>1</sup> (Oita University): Characterization of the long-term interaction between intracellular reactive oxygen species and oxidative DNA damage in murine Lin<sup>-</sup>/Sca-1<sup>+</sup> cells exposed to ionizing radiation. Int J Med Phys Clin Engineer Radiat Oncol 8:95-105, 2019.

#### その他

1. 片岡憲昭, 中島純也, 三輪一爾, 廣田誠子, 坪田陽一, 山田椋平, 藤通有希, 石川純也, 砂押正章: 放射線防護と放射線生物のお見合い-若手研同士の合同勉強会-. 保健物理 54: 140-145, 2019.

只野 喜一

#### 講演

1. Tadano K, Tajima Y, Sato E, Hashimoto T: Development of flexible diffusion tensor phantom. 第118回日本医学物理学学会学術大会, 福井, 2019年9月12-15日.
2. Oketa R, Hashimoto T, Tadano K: Model-based scatter correction method based on Monte Carlo simulation. 第118回日本医学物理学学会学術大会, 福井, 2019年9月12-15日.

#### 論文

1. 磯辺智範<sup>1</sup>, 只野喜一, 高倉有<sup>2</sup>, 佐藤英介<sup>3</sup> (筑波大, <sup>2</sup>取手北相馬保健医療センター, <sup>3</sup>順天堂大): 基礎講座 - 定量とその不確かさ- 5. MRSによる代謝物定量への道のり. 日本放射線技術学会雑誌 75(8): 832-838, 2019.
2. 磯辺智範<sup>1</sup>, 高倉有<sup>2</sup>, 佐藤英介<sup>3</sup>, 只野喜一 (筑波大, <sup>2</sup>取手北相馬保健医療センター, <sup>3</sup>順天堂大): MR spectroscopyで脳内代謝物を測る!. ラドファン 17(10): 44-48, 2019.

#### 著書

1. 磯辺智範, 只野喜一 (分担執筆): 第10章 その他 02 MRS. 若葉マークの画像解剖学 改訂第3版. 磯辺智範 編. 東京, メジカルビュー社, 2019. p.659-664.
2. 佐藤英介, 只野喜一 (分担執筆): 第10章 その他 03 DTI. 若葉マークの画像解剖学 改訂第3版. 磯辺智範 編. 東京, メジカルビュー社, 2019. p.665-669.

遠藤 祐太

#### 講演

1. Endo Y, Takazawa M, Amanuma M, Kobayashi K, Kuhara S: Simulation study on the accuracy of T1 measurements with modified look locker inversion recovery (MOLL) using the BlochSolver: the effect of heart rate variation. Society for Cardiovascular Magnetic Resonance (SCMR) 23rd Annual Scientific Sessions, USA, February 12-15, 2020.

## 論文

1. Endo Y, Koike T: Simulation study of acute subarachnoid hemorrhage using water density images of dual energy CT. 2018 IEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference Proceedings, 2019. DOI: 10.1109/NSSMIC.2018.8824586

## ● 臨床心理学科 ●

下島 裕美

## 講演

1. 山本晃輔, 楨洋一, 瀧川真也, 石井僚, 下島裕美, 増本康平, 金城光, 上原泉, 清水寛之: シンポジウム「思い出」を科学するー自伝的記憶研究の現在と未来3ー. 日本心理学会第83回大会, 大阪, 2019年9月11日.

## 論文

1. 下島裕美: 患者全体像把握の熟達化. 理学療法ジャーナル 53(5): 441-447, 2019.

竹田 里江

## 講演

1. 宮嶋涼, 平野憲子, 横山和樹, 森元隆文, 竹田里江, 池田望: 若年性認知症者と家族介護者の関係性に関する質的研究 ～発症・症状の変化に着目して～. 第20回日本認知症ケア学会大会, 京都, 2019年5月25-26日.
2. 澤田いづみ, 中村充雄, 青木信裕, 後藤葉子, 首藤英里香, 竹田里江, 大日向輝美: 医科系大学におけるIPE評価のための多職種連携能力自己評価尺度の開発. 第51回日本医学教育学会大会, 京都, 2019年7月26-27日.
3. 青木信裕, 中村充雄, 澤田いづみ, 後藤葉子, 首藤英里香, 竹田里江, 大日向輝美: 医科系大学学生の卒前教育における多職種連携実践科目の積み上げ効果の検討. 第32回全国リハビリテーション学校協会教員研修大会, 春日井, 2019年8月29-30日.
4. 中村充雄, 青木信裕, 澤田いづみ, 後藤葉子, 首藤英里香, 竹田里江, 大日向輝美: 医科系大学学生の卒前教育における他職種連携実践科目の学習目標と到達度の検討. 第32回全国リハビリテーション学校協会教員研修大会, 春日井, 2019年8月29-30日.

## 論文

1. Yokoyama K<sup>1</sup>, Morimoto T<sup>1</sup>, Ichihara-Takeda S, Yoshino J<sup>2</sup>, Matsuyama K<sup>1</sup>, Ikeda N<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Sapporo Medical University, <sup>2</sup>Japan Health Care College): Relationship between self-disclosure to first acquaintances and subjective well-being in people with schizophrenia spectrum disorders living in the community. PLOS ONE 14 (10): e0223819, 2019. Doi: 10.1371/journal.pone.0223819.
2. 三和成美<sup>1</sup>, 竹田里江 (<sup>1</sup>札幌西円山病院): 認知課題の遂行が情動の安定化に及ぼす影響と性格特性との関連ーNIRSによる検討ー. 作業療法の実践と科学1 (4): 74-82, 2019.
3. 澤田いづみ<sup>1</sup>, 首藤英里香<sup>1</sup>, 中村充雄<sup>1</sup>, 青木信裕<sup>1</sup>, 後藤葉子<sup>1</sup>, 竹田里江, 大日向輝美<sup>1</sup> (札幌医科大学): 医療系学士課程における段階的IPE評価のための多職種連携能力自己評価尺度(ICASU)の信頼性と妥当性の検討. 医学教育 51 (1): 1-13, 2020.

## 著書

1. 竹田里江 (分担執筆): ケーススタディ IV精神障害: 統合失調症回復期. 標準作業療法学 (専門分野) 作業療法臨床実習とケーススタディ (第3版). 濱口豊太編集, 鈴木誠編集協力. 東京, 医学書院, 2020. p111-116.

村部 妙美

## 講演

1. 村部妙美: 過食症における心理検査の特徴と治療との関係について. 第23回日本ロールシャッフ学会, 京都, 2019年9月22-23日.

## 論文

1. 村部妙美: 教育分野における連携・協働と個人面接との関係を「見える化」する継時的エコマップの提唱. 杏林医会誌 51巻1号: 39-44, 2020.

脇谷 順子

## 講演

### 研修会等講師

1. 脇谷順子: 京都精神分析・臨床セミナー. 認定NPO法人子どもの心理療法支援会主催, 京都, 2019年7月21日.
2. 脇谷順子: 乳幼児観察セミナー. 小寺記念精神分析研究財団主催, 東京, 2019年9月22日.
3. 脇谷順子: 子どもの精神分析的な心理療法ー乳幼児観察とその臨床的応用. 日本精神分析学会大会, 札幌, 2019年10月18日.
4. 脇谷順子: 児童思春期心理療法セミナー. 関西心理センター主催, 大阪, 2019年11月4日.
5. 脇谷順子: 京都精神分析・臨床セミナー. 認定NPO法人子どもの心理療法支援会主催, 京都, 2020年2月2日.

## 論文

1. 脇谷順子: 内野利一著「流されてきた感情を受け止める器として機能すること」: 研修症例コメント. 精神分析研究63(3): 137-139, 2019.
2. 脇谷順子: 自閉スペクトラム症と子どもの精神分析的な心理療法 序論. 精神分析研究63(4): 3-9, 2019.
3. 脇谷順子: 多職種専門家チームにおける子どもと家族の心理療法ー英国のシステムと訓練の紹介ー. 杏林医会誌51(1): 54-54, 2020.

## 著書

1. 津田真知子, 脇谷順子 (共監訳): 子どもと青年の心理療法における親とのワーク. Working with Parents, John Tsiantis et al. (eds.) 東京, 金剛出版, 2019.
2. 木部則雄, 鈴木龍, 脇谷順子 (共監訳): 乳幼児観察入門. Closely Observed Infants, Lisa Miller et al. (eds.) 東京, 誠信書房, 2019.

## その他

1. 脇谷順子: 乳幼児観察セミナー事例検討会 (事例検討会講師). 認定NPO法人子どもの心理療法支援会主催, 京都, 2019年11月23日.

伊藤 淳子

## 講演

### 講演

1. 伊藤淳子: 蕎麦と日本人のこころ. ユング心理学会第8回大会, 京都, 2019年6月2日.
2. 伊藤淳子: 心の病気や悩みを抱えた方からの相談に寄り添うために. 羽村市公開講座, 羽村, 2019年11月29日.

## 検討会

1. 伊藤淳子: 事例提供: 発達障害疑いの男性との面接過程. 鈴木龍先生主催金曜症例検討会, 東京, 2019年4月26日.
2. 伊藤淳子: 高澤氏事例発表に対する指定討論者として. 鈴木龍先生主催金曜症例検討会, 東京, 2019年6月28日.
3. 伊藤淳子: 事例提供: 解離性健忘の女性との面接過程. 鈴木龍先生主催金曜症例検討会, 東京, 2019年9月27日.

4. 伊藤淳子: 清水氏事例発表に対する指定討論者として. 鈴木龍先生主催金曜症例検討会, 東京, 2020年1月24日.
5. 伊藤淳子: 事例提供: 外出できない女性との面接過程. 鈴木龍先生主催金曜症例検討会, 東京, 2020年2月28日.

**その他**

1. 伊藤淳子: 研究報告: 蕎麦の持つ対称性について. 2019年度第一回「神経・箱庭研究会」, 大津, 2019年5月18日.

**中村 美奈子**

**講演**

1. 中村美奈子: 復職支援で心理的課題を扱うこと—依存症にまるわるうつ病で休職した事例から—. 日本心理臨床学会第38回大会, 横浜, 2019年6月6-9日.

**論文**

1. 中村美奈子: 復職支援で心理的課題を扱うこと—依存症にまるわるうつ病で休職した事例から—. 日本心理臨床学会第38回大会発表論文集: 119, 2019.
2. 中村美奈子: 産業・組織領域から—産業心理臨床の現状と発展への期待—. 杏林医学会誌 51(1): 45-49, 2020.

**著書**

1. 中村美奈子 (分担執筆): 第10章復職支援—働くための能力の回復を目指す職業人への全人的支援. 産業・組織心理学. 新田泰生編. 東京, 遠見書房, 2019. p.147-158.

**櫻井 未央**

**講演**

1. 櫻井未央: 子どものアンガーマネジメント—気になる子どもへの対応について. 羽村市子ども家庭部児童青少年課 (杏林大学連携事業) 研修会, 羽村, 2019年9月26日.
2. 櫻井未央: 「障害受容」を再考する文献的検討—主要論文の引用にみる障害受容の語られ方から. 第31回発達心理学会, 大阪, 2020年3月3日.

**島田 正亮**

**論文**

1. 島田正亮: 特集「公認心理師」Part1 福祉分野から—児童虐待の現状と公認心理師の役割—. 杏林医学会誌 50 (1) : 35-38, 2020.

**三浦 大志**

**講演**

1. 三浦大志: リベレーション効果は何度も誰にでも生起するのか. 日本認知心理学会第17回大会, 京都, 2019年5月25-26日.
2. Itoh Y, Shimane D, Miura H: Misidentification of a person as a familiar person: Is a testimony that an eyewitness saw a familiar person reliable?. The Society for Applied Research in Memory and Cognition, Thirteenth Biennial Conference, USA, June 6th-9th, 2019.
3. Matsuo K, Miura H: Effects of writing in the Self-Administered Interview on recalling and retaining eyewitness memories. Annual Conference of the European Association of Psychology and Law 2019, Spain, July 17th-20th, 2019.
4. Miura H, Shimane D, Itoh Y: Person misidentification is associated with cognitive failures and expectations. Annual Conference of the European Association of Psychology and Law 2019, Spain, July 17th-20th, 2019.
5. 三浦大志: 個人のメタ認知能力とリベレーション効果の関連. 日本心理学会第83回大会, 茨木, 2019年9月11-13日.

6. 斎藤聖子, 三浦大志: 決められないと不幸になる?(2). 日本心理学会第83回大会, 茨木, 2019年9月11-13日.
7. 島根大輔, 三浦大志, 伊東裕司: 目撃した未知顔への親近感の高さと人違いの生起確率の関係. 日本心理学会第83回大会, 茨木, 2019年9月11-13日.

**論文**

1. 三浦大志, 伊東裕司<sup>1</sup>(慶應義塾大学): ラインナップ手続きにおいて比較判断の後に絶対判断を行うことの効果. 哲学 144: 143-157, 2020.

**著書**

1. 三浦大志 (分担翻訳): 第8章 正確性の向上を目指して. その証言、本当ですか?: 刑事司法手続きの心理学. 福島由衣, 荒川歩 (監訳). 東京, 勁草書房, 2019. p.215-230. (Simon D: In doubt: The psychology of the criminal justice process. Cambridge, MA, Harvard University Press, 2012.)



総 合 政 策 学 部



大川 昌利

講演

1. 大川昌利: キャッシュレス社会入門. 羽村市生涯学習センターゆとろぎ, 羽村, 2019年12月22日.

その他(学会等および社会における主な活動)

1. (書評) 幻想の経済成長. 時事通信社より地方紙配信, 2019年4月.
2. (書評) マネーの魔術史. 時事通信社より地方紙配信, 2019年6月.
3. (書評) 経済学はどのように世界を歪めたのか. 時事通信社より地方紙配信, 2019年10月.

その他(団体役員)

1. (幹事) 日本金融学会中央銀行部会
2. (委員) 全国銀行協会金融経済教育活動懇談会

小田 信之

その他(学会等および社会における主な活動)

1. (コメンテーター) Summer Workshop on Economic Theory (SWET2019) (マクロ金融), 札幌, 2019年8月3日.

小野田 欣也

論文

1. 小野田欣也: 世界貿易体制の幻影. 世界経済評論インパクト(インターネットネット評論誌): No. 1423, 2019年7月22日.

川村 真理

著書

1. 川村真理: 難民問題と国際法制度の動態. 東京. 信山社, 2019年.

北島 勉

講演

1. Kitajima T. et al: Patient's perspective of satisfaction when antiretroviral therapy was task-shifted in northern Thailand. 51st APACPH Conference, Thailand, 21-22nd November 2019.
2. Kitajima T. et al: Sexual behaviors and associated factors among international students at Japanese language schools in Japan. 51st APACPH conference, Thailand, 21-22nd November 2019.
3. 北島勉ほか: 日本語学校留学生の HIV 検査に関する知識と利用その関連要因に関する研究. 第34回日本国際保健医療学会学術集会, 三重, 2019年12月7-8日.
4. 北島勉ほか: 北タイの保健センターにおける HIV 感染者ケアの強化事業(草の根支援型). JICA 草の根技術協力事業事業完了報告会, 東京, 2020年1月16日.

論文

1. Kajimoto Y & Kitajima T: Clinical Management of Patients with Dengue Infection in Japan: Results from National Database of Health Insurance Claims. American Journal of Tropical Medicine and Hygiene 102 (1): 191-194, 2020年1月.
2. 北島勉: 若者の HIV 検査受検の促進と阻害要因に関する文献研究. 杏林社会科学研究 35 (4): 31-44, 2020年3月.

著書

1. 北島勉: 医療保険の意義. わかる公衆衛生学 たのしい公衆衛生学. 丸井英二(編). 東京. 弘文堂, 2020年. 128-138.

特許等知的財産関係、報告書等

1. 北島勉, 宮首弘子ほか: 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策事業「HIV 検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究」令和元年度

総括・研究報告書, 2020年3月.

2. 北島勉: JICA 草の根技術協力(支援型)「北タイの保健センターにおける HIV 感染者ケアの強化事業」事業評価報告書, 2019年10月.

斉藤 崇

講演

1. Takashi Saito: An Economic Analysis on the Collection of Wood and Biomass Energy Use. The 8th Congress of East Asian Association of Environmental and Resource Economics, China, 4th August 2019.

論文

1. 佐藤一光・斉藤崇ほか: <木質バイオマス経済>の総合的分析. アルテス リベラレス 105: 83-101, 2019年12月.

著書

1. 斉藤崇: 廃棄物の適正処理とリサイクルのための回収システム. 環境経済学の政策デザイン. 細田衛士・大沼あゆみ(編著). 東京. 慶應義塾大学出版会, 2019年. 53-74.

田中 信弘

著書

1. 田中信弘ほか: CSR 経営要論(改訂版). 東京. 創成社, 2019年.

知原 信良

講演

1. 知原信良: これからの税制—消費税と法人税の話題を中心に—. フォーラム'80, 東京, 2019年4月25日.
2. 知原信良: これからの税制—消費税と法人税の話題を中心に—. フォーラム'80, 東京, 2019年10月1日.

内藤 高雄

講演

1. 内藤高雄: いま、フランス会計を研究する意義—国内外での協調性と国内での秩序性との均衡—. 国際会計研究学会第36回研究大会, 東京, 2019年8月31日.
2. 内藤高雄: 日本におけるブラン・コンタブル研究の系譜と I F R S 導入に対するフランス的対応. 特定非営利活動法人包括球学術集会 10 月定例研究会, 東京, 2019年10月18日.

その他(団体役員)

1. (評議員) 日本会計研究学会
2. (理事) 包括球学術集会

西 孝

論文

1. 西孝: 「国の借金」というレトリック. 世界経済評論インパクト(インターネットネット評論誌): No. 1439, 2019年8月.
2. 西孝: J・S・ミルの憂鬱. 世界経済評論インパクト(インターネットネット評論誌): No. 1578, 2019年12月.
3. 西孝: マクロ経済学の空白期間. 世界経済評論インパクト(インターネットネット評論誌): No. 1668, 2020年3月.

著書

1. 西孝: 国際政策協調再考. 揺らぐ世界経済秩序と日本. 馬田啓一・浦田秀次郎・木村福成・渡邊頼純(編著). 東京. 文眞堂, 2019年. 57-68.

Field M.H.

講演

1. Field M.H., Kitajima T., Chulikhit Y., et al: How do CLIL Course Gains Compare to Content Gains in Regular L1 Courses? Twenty-sixth International



Conference on Learning: Learning to Make a Social Difference, UK, 24-26 July 2019.

2. Bagenda D., Field M.H., Okazaki W. : Impact of Community-pioneered Interventions to Improve Learning in Rural Primary Schools [in Bukadea, Uganda]. Twenty-sixth International Conference on Learning: Learning to Make a Social Difference, UK, 24-26 July 2019.

#### 松田 和晃

#### 講演

1. 松田和晃：龍馬の夢を挫いた男～勝海舟に届いた手紙。杏林大学公開講演会，羽村，2019年8月31日。
2. 松田和晃ほか：黎明期日墺関係の周辺－西園寺公望と室孝次郎。杏林大学公開講演会，三鷹，2019年10月26日。

#### 論文

1. 松田和晃：西園寺公望筆室孝次郎宛書簡について。杏林社会科学 35 (2) : 21-32, 2019年10月。
2. 松田和晃：大村益次郎筆 会計局判事宛書簡。杏林社会科学 35 (3) : 60-66, 2020年2月。

#### その他(団体役員)

1. (委員) 東京都羽村市図書館協議会

#### 劉 迪

#### 講演

1. 日中関係について。西北大学講演会，中国，2019年5月30日。
2. 日中関係について。陝西師範大学講演会，中国，2019年5月31日。
3. 日本地方制度。日中科技文化交流センター講演会，東京，2019年7月15日。
4. 日本の大学院制度。広東科技学院講演会，中国，2019年9月9日。

#### その他(学会等および社会における主な活動)

1. (記事) 世界大變局與日本の歴史機會。日経中文網，2019年4月4日。
2. (記事) 当日本外交遇到亞洲崛起。新民週刊，2019年4月17日。
3. (記事) 日本多言語政策能行得通嗎？。新民週刊，2019年5月22日。
4. (記事) 安倍対美『溫馨外交』以及 G20 的考驗。日経中文網，2019年5月24日。
5. (記事) 平成時代 | 並不激動的三十年。澎湃網・澎湃研究所，2019年6月11日。
6. (記事) 平成時代 | 從折尾到東京、我又想搞學問了。澎湃網・澎湃研究所，2019年6月18日。
7. (記事) 日本如何破解醫療費增加難題。新民週刊，2019年6月19日。
8. (記事) 平成時代 | 怎樣打贏一場中產階級保衛戰？。澎湃網・澎湃研究所，2019年6月26日。
9. (記事) G20 大阪峰會的任務與使命。日経中文網，2019年6月27日。
10. (記事) 為什麼說日本有「韌實力」。新民週刊，2019年7月17日。
11. (記事) 平成時代 | 日本報紙還能活多久？。澎湃網・澎湃研究所，2019年7月24日。
12. (記事) 日本如何構築下一個社會？。新民週刊，2019年9月11日。
13. (記事) 六本木の秋夜漫步與隨想。日経中文網，2019年10月9日。
14. (記事) 『即位外交』下的中日新時代。新民週刊，2019年10月23日。
15. (記事) 平成時代 | 沒有理想的人不傷心。澎湃網・澎湃研究所，2019年10月23日。
16. (記事) 危險的『中美爭霸』認知框架。新民週刊，2019

年11月27日。

17. (記事) 赴日読研蔚然成風。新民週刊，2019年12月25日。
18. (コメンテーター) 日中韓首脳会談。新華社，2019年12月25日。
19. (記事) 面對疫情，日本社會何以有如此定力？。新民週刊，2020年2月19日。
20. (コメンテーター) 中國新型冠狀病毒的對策。新華社，2020年3月22日。
21. (記事) 庚子年春の斷想。日経中文網，2020年2月25日。
22. (記事) 東京防疫觀察。新民週刊，2020年3月25日。
23. (記事) 新冠病毒，全球政治應該對表。日経中文網，2020年3月27日。

#### 渡辺 剛

#### 講演

1. 渡辺剛：中国統一戦線工作と台湾世論動向—シャープパワーと台湾意識—。JERTO アジア経済研究所「中国をめぐる国際関係—習近平政権の対外政策」研究会，東京，2019年7月8日。
2. 渡辺剛：朝鮮半島および兩岸情勢と日中両国の対応。日本国際フォーラム・グローバルフォーラム・上海国際問題研究所共催シンポジウム「日中対話-新段階の日中関係の構築に向けて」，東京，2019年7月27日。
3. 渡辺剛：2020年台湾総統・立法院選挙。(財)世界政経調査会・国際情勢研究所中国研究会，東京，2020年1月31日。

#### 論文

1. 渡辺剛：総統選を控えた台湾ナショナリズムの世論動向。東亜 627 : 30-39, 2019年9月。
2. 渡辺剛：2020年台湾総統選挙における蔡英文再選の要因—台湾ナショナリズム，習近平，アメリカ—。防衛学研究(日本防衛学会) 62 : 77-97, 2020年3月。

#### その他(メディア出演)

1. (解説) 2020年台湾総統選挙・立法院選挙及び今後の台湾情勢について。荻上チキ・Session-22 (TBS ラジオ)，2020年1月13日。

#### 糟谷 崇

#### 講演

1. 糟谷崇：AI 社会におけるイノベーションとその課題。日本経営学会第93回大会，大阪，2019年9月5日。

#### 論文

1. 糟谷崇：AI(Artificial Intelligence)と経営—AIは経営者の代わりとなるか。経営哲学 16 (2) : 78-88, 2019年10月。

#### 北田 真理

#### 論文

1. 北田真理：ハーグ子奪取条約 13 条の制限的解釈の再考—英国における「重大な危険」「子の拒絶」の解釈の変遷を題材に。家庭の法と裁 20 : 17-24, 2019年6月。

#### 島村 直幸

#### 講演

1. 島村直幸：米中貿易戦争と日本の政策対応。武蔵野市市民館，武蔵野，2019年9月11日。
2. 島村直幸：米中貿易戦争から「新しい冷戦」へ？。杏林大学公開講演会，三鷹，2019年9月21日。
3. 島村直幸：トランプ政権の政策と日本の政策対応。杏林大学公開講演会，八王子，2020年1月25日。

#### 論文

1. 島村直幸：トランプ政権下での対中政策の転換と日本の政策対応(上)。杏林社会科学 35 (1) : 37-68, 2019

年9月。

2. 島村直幸：トランプ政権下での対中政策の転換と日本の政策対応（下）。杏林社会科学研究 35（2）：33-64, 2019年10月。
3. 島村直幸：脱植民地化と冷戦（上）。杏林社会科学研究 35（3）：68-102, 2020年2月。
4. 島村直幸：脱植民地化と冷戦（下）。杏林社会科学研究 35（4）：45-74, 2020年3月。

#### 著書

1. 島村直幸：国際政治の〈変化〉を見る眼—理論・歴史・現状。京都。晃洋書房, 2019年。

#### 長谷部 弘道

#### 論文

1. 長谷部弘道：イノベーションプロセスにおける当事者の行為主体性—複数のソニー・ウォークマンの開発ストーリーから—。杏林社会科学研究 35（1）：13-36, 2019年9月。
2. 長谷部弘道：戦後電機企業における「企業コミュニティ」と福利厚生—工場新聞『日立笠戸』を手掛かりに—。社会志林 66（4）：75-95, 2020年3月。

#### 著書

1. 長谷部弘道：ワークライフバランスをたもつためには？。新版・ストーリーで学ぶマネジメント—組織・社会編—。田中信弘・木村有里（編）。東京。文眞堂, 2019年3月。90-99。

#### 半田 英俊

#### 講演

1. 松田和晃・半田英俊ほか：黎明期 日墾関係の周辺—西園寺公望と室孝次郎。杏林大学公開講演会, 三鷹, 2019年10月26日。

#### 論文

1. 半田英俊：西園寺公望とオーストリア特命全権公使。杏林社会科学研究 35：11-20, 2019年10月。

#### 著書

1. 半田英俊：ラインとスタッフ。政治学小辞典。堀江湛・加藤秀治郎（編）。東京。一藝社, 2019年。241-243。
2. 半田英俊：予算と予算編成。政治学小辞典。堀江湛・加藤秀治郎（編）。東京。一藝社, 2019年。259-260。

#### 藤原 究

#### 論文

1. 藤原究：宗教法人の管理運営とそれを取り巻く法的問題。宗教法制研究 60：69-95, 2020年1月。

#### 三浦 秀之

#### 講演

1. 三浦秀之：日米欧による投資をめぐる多国間規範形成。第4回投資研究会, 京都, 2019年7月30日。
2. 三浦秀之：途上国から先進国に向かう投資をめぐる新たな課題と多国間規律形成。2019年度日本政治学会研究大会, 武蔵野, 2019年10月6日。
3. 三浦秀之：TPP 参加をめぐる各国の動機と政策意思決定過程。日本国際政治学会2019年度研究大会, 新潟, 2019年10月19日。
4. 三浦秀之：米国における米中経済戦争背景と今後の行方。ACRC国際シンポジウム, 大阪, 2019年11月24日。
5. Miura Hideyuki : Japanese Trade and Investment Policies amid the US-China Trade Friction. 9th Japan-Australian Dialogue, Australia, 29 November 2019.

#### 論文

1. 三浦秀之：トランプ政権における対中通商政策の決定過程。アジア太平洋討究 38：56-68, 2020年1月。

2. 三浦秀之：途上国から先進国に向かう投資をめぐる新たな課題と多国間規律形成。杏林社会科学研究 35（3）：1-22, 2020年2月。

#### 著書

1. 三浦秀之：トランプ政権における対中通商政策の決定過程 対中協調派と対中強硬派の相克「関与」か「牽制」か、揺らぐ世界経済秩序と日本。馬田啓一・浦田秀次郎・木村福成・渡邊頼純（編著）。東京。文眞堂, 2019年。
2. 三浦秀之：新しい冷戦？米国の対中経済政策「関与」から「牽制」へ。世界経済評論インパクト（インターネットネット評論誌）：No. 1479, 2019年9月9日。
3. 三浦秀之：G20 議長国としての日本。世界経済評論インパクト（インターネットネット評論誌）：No. 1583, 2019年12月23日。

#### 大西 健司

#### 論文

1. 大西健司：成長発達権の公共性と推知報道規制—アイデンティティへの権利による推知報道規制の正当化の一試論。杏林社会科学研究 35（3）：23-57, 2020年2月。

#### 尾崎 愛美

#### 講演

1. 尾崎愛美：犯罪捜査を目的とした顔認証技術の利用をめぐる法政策の現状と課題—米国の事例を中心に—。情報ネットワーク法学会第18回研究大会, 大阪, 2019年11月3日。
2. 前田春香・尾崎愛美・小久保智淳：IEEE Ethically Aligned Design version2 の概要。2019年度 NEC-AI と法研究会, 東京, 2019年9月16日。

#### その他（団体役員）

1. (委員) 情報ネットワーク法学会第19回研究大会実行委員
2. (メンバー) 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート「ヒューマンライツ・バイ・デザイン」の社会実装に関するチェックポイントリストの検討—法学的、技術的観点から—プロジェクト

#### 松井 孝太

#### 講演

1. 松井孝太：2020年大統領選挙に向けたトランプ政権評価と民主党の動向。東京財団政策研究所フォーラム, 東京, 2019年10月24日。

#### 論文

1. 松井孝太：州の被用者を組織する労働組合に対して、非組合員からのエージェンシー・フィー徴収を認めるイリノイ州法は、非組合員の言論の自由を侵害するとされた事例。アメリカ法 2019-1：85-90, 2019年11月。

#### 著書

1. 松井孝太・原田啓一郎：高齢者の住まい。高齢者法：長寿社会の法の基礎。樋口範雄・関ふ佐子（編）。東京。東京大学出版会, 2019年。75-98。

#### 報告書（官公庁、公的機関、産学連携等）

1. 松井孝太：継続的ケア付き高齢者住まいモデルの可能性と課題。21世紀政策研究所研究プロジェクト「高齢者の自立と日本経済」報告書, 2020年3月。113-127。

#### その他（学会等および社会における主な活動）

1. (Web 公開) 松井孝太：トランプ政権と連邦政府職員の政治活動。東京財団政策研究所論考, 2019年5月23日。
2. (Web 公開) 松井孝太：公的年金財政への懸念の高まりとサンダース改革案。東京財団政策研究所論考, 2019年7月11日。
3. (Web 公開) 松井孝太：党派的選挙区割り（ゲリマンダリング）をめぐる最高裁判所の新判決。東京財団政策研究所論考, 2019年8月9日。

4. (Web 公開) 松井孝太：民主党候補者指名争いと「メディアケア・フォー・オール」に対する労働組合の期待と懸念. 東京財団政策研究所論考, 2019年10月9日.
5. (Web 公開) 松井孝太：民主党大統領候補者の労働法改革公約と「労働権法」をめぐる状況. 東京財団政策研究所論考, 2020年2月19日.

外 国 語 学 部



## 宇佐美 貴浩

## その他(学会等および社会における主な活動)

1. (企画・運営) 写真供養感謝祭. 神奈川県鎌倉市浄智寺. 2019年11月9日.

## 齋藤 智志

## 講演

1. 齋藤智志:〈超越論的観念論から経験的実在論への移行〉問題に定位した、『意志と表象としての世界』正編「第一部」諸版の比較検討. 日本ショーペンハウアー協会・第32回全国大会, 京都, 2019年12月7日.
2. 齋藤智志: “Schopenhauer’s ‘Kritische Historik’”. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金(基盤研究(B))「ショーペンハウアー研究の新世紀へ——主著刊行200周年を機縁とした国際共同研究」第4回国際会議, 東京, 2020年2月24日.

## その他(団体役員)

1. (理事・協会誌編集委員) 日本ショーペンハウアー協会
2. (理事・協会誌編集委員) 日本デルタイ協会
3. (理事・協会誌編集委員) 実存思想協会
4. (委員) 三鷹市生涯学習審議会
5. (委員) 三鷹市社会教育委員

## 坂本 ロビン

## 講演

1. 坂本ロビン: グローバルに活躍することの素晴らしさ. 順天中高飛鳥会 PTA 講演会, 東京, 2019年5月25日.
2. 坂本ロビン: コミュニケーション能力の高め方. 東部住民協議会「東部学苑」講演, 三鷹, 2019年7月1日.
3. Robin Sakamoto: The Role of the Interculturalist as a Valued Resource Prior to Extensive Governmental Initiatives. SIETAR USA National Conference, USA, 2019年11月1日.
4. Robin Sakamoto: A Japanese Research Agenda for Adapting to Changes in Internationalizing Higher Education. NDSU International Communication and Community Development Conference, Okayama, 2019年11月16日.

## その他(団体役員)

1. (委員) 東京外国語大学経営協議会/学長選考会議
2. (理事) 三鷹国際交流協会
3. (委員) みたか国際化円卓会議
4. (委員) 三鷹市スポーツ推進課・東京2020三鷹地域連携会議委員

## 詹 満江

## 論文

1. 詹満江: 薛濤と菖蒲の花. 杏林大学外国語学部紀要 32: 1-11. 2020年3月.

## 著書

1. 詹満江: 大沼枕山『歴代詠史百律』の研究. 紫陽会編著(代表: 詹満江). 東京. 汲古書院, 2020年2月.

## 張 弘(宮首 弘子)

## 講演

1. 張弘(宮首弘子): 外国語習得における通訳養成メソッドの活用. 第7回中日翻訳実践シンポジウム, 中国, 2019年4月13日.
2. 張弘(宮首弘子): 日本医療口译の現状と启示—以北島研究班为例—(日本における医療通訳の現状と示唆—北島研究班の活動を例に—). 伝統文化の海外発信に関するシンポジウム, 中国, 2019年7月14日.
3. 張弘(宮首弘子): 外国語習得における通訳メソッドの活用. 中国四川大学外国語学部特別公開講座, 中国, 2019年7月8日.
4. 張弘(宮首弘子): 医療通訳の基礎トレーニングとロールプレイ演習. 医療通訳士資格更新のための講座, 東京, 2019年12月7日.
5. 張弘(宮首弘子): 日本における医療通訳養成の現状およ

び医療通訳基礎トレーニング. 中国広東外語外貿大学 MTI コース医療通訳特別公開講座, 中国, 2020年1月5日.

6. 張弘(宮首弘子): 医療通訳ロールプレイ演習. 中国広東外語外貿大学 MTI コース医療通訳特別公開講座, 中国, 2020年1月6日.
7. 張弘(宮首弘子): おもてなし中国語講座レッスン 1-9. JR 東京西駅ビル開発株式会社社内研修講座, 東京, 2019年5月22日, 6月12日, 7月24日, 8月28日, 9月25日, 10月23日, 11月27日, 12月11日, 2020年1月22日.

## 論文

1. 張弘(宮首弘子): 医療通訳研修におけるロールプレイの定量的評価の試みⅢ. 杏林大学外国語学部紀要 32: 111-130, 2020年3月.

## 著書

1. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?⑬. まいにち中国語 2019年4月号: 102-104, 東京, NHK 出版, 2019年3月.
2. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?⑭. まいにち中国語 2019年5月号: 102-104, 東京, NHK 出版, 2019年4月.
3. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?⑮. まいにち中国語 2019年6月号: 104-106, 東京, NHK 出版, 2019年5月.
4. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?⑯. まいにち中国語 2019年7月号: 102-104, 東京, NHK 出版, 2019年6月.
5. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?⑰. まいにち中国語 2019年8月号: 102-104, 東京, NHK 出版, 2019年7月.
6. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?⑱. まいにち中国語 2019年9月号: 102-104, 東京, NHK 出版, 2019年8月.
7. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?⑲. まいにち中国語 2019年10月号: 102-104, 東京, NHK 出版, 2019年9月.
8. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?⑳. まいにち中国語 2019年11月号: 104-106, 東京, NHK 出版, 2019年10月.
9. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?㉑. まいにち中国語 2019年12月号: 104-106, 東京, NHK 出版, 2019年11月.
10. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?㉒. まいにち中国語 2020年1月号: 104-106, 東京, NHK 出版, 2019年12月.
11. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?㉓. まいにち中国語 2020年2月号: 104-106, 東京, NHK 出版, 2020年1月.
12. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?㉔. まいにち中国語 2020年3月号: 108-110, 東京, NHK 出版, 2020年2月.
13. 張弘: 10の扉 中国語で何と言う?㉕. まいにち中国語 2020年4月号: 103-106, 東京, NHK 出版, 2020年3月.

## その他(学会等および社会における主な活動)

1. (講師) 通訳基礎トレーニング法. 感染症医療通訳基礎講座Ⅰ, 東京, 2019年11月23日.
2. (講師) 感染症医療通訳ロールプレイに関する指導. 感染症医療通訳基礎講座Ⅱ, 東京, 2019年11月24日.
3. (講師) 感染症医療通訳ロールプレイに関する指導. 感染症医療通訳基礎講座Ⅱ, 大阪, 2020年2月8日・9日.

## 特許等知的財産関係、報告書等

1. 北島勉, 宮首弘子ほか: 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策事業「HIV 検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究」令和元年度総括・研究報告書, 2020年3月.

## その他(教育内容・方法の工夫)

1. (研究分担者) 厚生労働省エイズ対策政策研究事業「HIV 検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデル

の構築に関する研究」(研究代表者:北島勉)

#### その他(団体役員)

1. (理事) 日中翻訳文化教育協会

#### その他(教育活動上特記すべき事項)

1. (他大学出講) 武蔵野大学非常勤講師.
2. (他大学出講) 中国西安交通大学大学院 MTI コース客員教授.

#### 長谷川 弘子

#### 論文

1. 長谷川弘子: ハンブルク版全集におけるゲーテ『箴言と省察』の編集について—テーマ別に並べ替えられた箴言のグループ「アフォリズム-友人と敵に留意してほしいこと」. 杏林大学外国語学部紀要 32: 1-23, 2020年3月.

#### 真野 靖久

#### 講演

1. 真野靖久: キャリアは思考と姿勢でつくられる. 立命館大学衣笠学生オフィス, 京都, 2019年8月3日.
2. 真野靖久: ONE for ALL, ALL for ONE チーム力増強セミナー〜信頼関係をさらに深め, 一体感のあるチームになるうへ. 立命館大学 BKC 学生オフィス, 草津(滋賀), 2019年12月20日.

#### 板垣 友子

#### 著書

1. (翻訳) 板垣友子・福山しずか: 世界は中国が必要 中国は習近平が必要. 潘慶林著. 東京. 日本東方出版社, 2020年5月.

#### 嵐 洋子

#### 講演

1. 嵐洋子ほか: 地域語によるコミュニケーションを支援する聞き取り学習システムの開発. 日本語教育学会春季大会, つくば, 2019年5月26日.

#### その他(学会等および社会における主な活動)

1. みんなの音声プロジェクト(日本語音声教育・音声学の普及, 情報共有を目的としたプロジェクト)

#### その他(教育内容・方法の工夫)

1. (研究分担者) 科学研究補助金(基盤研究(C))「看護・介護現場の接触場面における方言使用実態の調査と方言学習用アプリ教材の開発」(研究代表者: 和田礼子)

#### その他(団体役員)

1. (審査・運営協力員) 日本語教育学会

#### 井手 拓郎

#### 講演

1. 井手拓郎: 観光旅行体験の評価. 神田外語学院観光心理学特別講義, 千葉, 2019年7月17日.
2. 井手拓郎: 地域を元気にする観光まちづくり. 神奈川県立弥栄高等学校向け特別講義, 三鷹, 2019年11月13日.
3. 井手拓郎: フォロワーから見たまちづくりにおけるリーダーシップの探索的検討. 第34回日本観光研究学会全国大会, 愛知, 2019年12月15日.

#### その他(教育活動上特記すべき事項)

1. スポーツスタディ(ネイチャーキャンプ). 立教大学全学共通カリキュラムセンター.
2. (他大学出講) ウエルネス福祉演習. 立教大学コミュニティ福祉学部.
3. (他大学出講) 演習(2年)A, 演習(2年)B. 立教大学観光学部.

#### 千野 万里子

#### 論文

1. 千野万里子: 叶聖陶の言語について(3)—書き換え作業と普通話, 禁止・制止を表す語を中心に—. 杏林大学外国語学部紀要 32: 93-109, 2020年3月.

#### 鄭 英淑

#### 論文

1. 鄭英淑: キリスト教擁護「教会」の成立. 杏林大学外国語学部紀要 32: 79-92, 2020年3月.

#### 西山 桂子

#### 講演

1. 西山桂子: 人と人をつなぐ宿泊産業と地域活性化. 高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム, 三鷹, 2019年5月29日.
2. 西山桂子: グローバルオペレーターが変えるホテル経営. 京都大学経営管理大学院, 京都, 2019年10月24日.
3. 西山桂子: 2020年オリンピック前後のホテル産業. 三鷹ネットワーク大学公開講座, 三鷹, 2019年12月21日.

#### 著書

1. 西山桂子: 観光産業におけるアセットマネジメント. 観光の事典. 白坂蕃・稲垣勉・小沢健市・古賀学・山下晋司(編). 東京. 朝倉書店, 2019年4月15日. 201-202.

#### 古本 泰之

#### 講演

1. 古本泰之・井上晶子: 震災復興過程における観光まちづくりの取り組みへの地域特性の影響. 日本観光研究学会第34回全国大会, 沖縄, 2019年12月15日.

#### 論文

1. 古本泰之・安島博幸: リゾート・観光地における芸術家の長期滞在と観光的魅力的創造—類型化を通じた研究課題の整理—. 長期滞在型・ロングステイ観光学会論集 4: 58-61, 2020年2月.
2. 古本泰之・井上晶子: 被災地の観光まちづくりにおける「地域の文脈」の影響—岩手県釜石市と福島県相馬市における活動主体の比較を通じて—. 杏林大学研究報告 37: 75-96, 2020年3月.
3. 古本泰之: 日本における「観光施設」としての美術館の分布と展示内容の傾向—旅行ガイドブック掲載施設を事例とした試論—. 杏林大学外国語学部紀要 32: 121-132, 2020年3月.

#### 著書

1. 古本泰之: 博物館・美術館. 観光の事典. 白坂蕃・稲垣勉・小沢健市・古賀学・山下晋司(編). 東京. 朝倉書店, 2019年. 194-195.

#### 特許等知的財産関係、報告書等

1. 古本泰之・井上晶子: 活動報告【杏林 CCRC 指定研究】東日本大震災被災地域での復興期活動における内部人材・外部人材との連携ネットワーク構築プロセスに関する比較研究. 第8回杏林 CCRC フォーラム地域交流活動抄録集: 5-6, 2020年3月.

#### その他(学会等および社会における主な活動)

1. 古本泰之: 東京都八王子市での MICE 誘致における「観光要素」の寄与可能性—ゼミナールでの教育活動を通じて—. 観光 Re: デザイン [https://kankou-redesign.jp/pov/8275/]

#### その他(団体役員)

1. (理事・総務委員長) 日本観光ホスピタリティ教育学会.
2. (選考副委員長) 三鷹市町会等地域自治組織活性化事業選考委員会.
3. (委員) 道の駅八王子滝山運営委員会.
4. (部会長) 大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会.
5. (会長) 八王子市伝統文化ふれあい事業実行委員会.
6. (委員長) 調布市ふれあいの家候補者選定審査委員会.

#### 八木橋 宏勇

#### 講演

1. 八木橋宏勇: 令和早々・春の陣 本格派のための BNC コーパス入門—辞書執筆者がそっと教える英語学習虎の巻—. 杏林大学井の頭図書館ミニレクチャー, 三鷹, 2019年5月8日.
2. 八木橋宏勇: 採択される科研費計画調書. 外国語学部『アカデミア』, 三鷹, 2019年6月19日.

- 八木橋宏勇: 英語教育中核教員養成講座 (Basic). 東京都教職員研修センター小学校外国語大学連携. 東京, 2019年8月19-20日.
- 八木橋宏勇: ジブリ映画字幕翻訳から学ぶ異文化間コミュニケーション. 日々輝学園高等学校校宇都宮キャンパス. 栃木, 2019年9月13日.
- 八木橋宏勇: 計画調書を仕上げる日本語表現最終チェックポイント. 令和2年度科研費公募説明会・セミナー. 三鷹, 2019年9月18日.
- 八木橋宏勇: メディアとことわざ. ことわざフォーラム2019. 京都, 2019年10月26日.
- 八木橋宏勇: 杏林大学保健学部一般入試対策講座 (英語). 三鷹, 2019年11月17日.
- 八木橋宏勇: 聖書の対照研究 (ワークショップ「社会言語科学における対照研究の可能性」). 社会言語学会第44回研究大会, 京都, 2020年3月5日. (誌上開催) (質疑応答のweb開催)

## 論文

- 八木橋宏勇・宮崎太樹: 公立中学校におけるオーラルアプローチを用いた4技能を育成する英語授業. 杏林大学教職課程年報 7: 43-52, 2000年3月.

## 著書

- 八木橋宏勇: 定型連鎖・メンタル・コーパス・サピア=ウォーフの仮説. 認知言語学大事典. 辻幸夫 (編集主幹), 楠見孝・菅井三実・野村益寛・堀江薫・吉村公宏 (編). 東京. 朝倉書店, 2019年. 145・630・691.
- 八木橋宏勇: 母語話者の内省とコーパスデータで乖離する容認度判断—the reason...is because...パターンが妥当と判断されるとき—. 認知言語学を紡ぐ (成蹊大学アジア太平洋研究センター叢書). 森雄一・西村義樹・長谷川明香 (編). 東京. くろしお出版, 2019年. 71-89.
- 八木橋宏勇: 試合中に戦術を決める選手間コミュニケーションの対照研究. ことばから心へ—認知の深淵—. 米倉よう子・山本修・浅井良策 (編). 東京. 開拓社, 2020年. 53-63.

## その他 (メディア出演)

- (監修・解説) 「夫婦の会話を科学する～不満解消の秘訣は!?～」. NHK『クローズアップ現代+』. 2019年6月25日放送分.

## その他 (学会等および社会における主な活動)

- (企画・運営) 「商標言語学」—商標の類似性判断における音韻論及び認知言語学的アプローチ—. 「言語と人間」研究会 2019年度第1回例会, 東京, 2019年5月19日.
- (企画・運営・司会) メディアと言語学習—『おもてなし』時代の英語学習を例として. NPO法人地球ことば村—世界言語博物館主催・慶應言語教育研究フォーラム共催, 東京, 2019年6月15日.
- (企画・運営) 前置詞の習得段階における発話の単位—前置詞句単独発話の産出について—. 「言語と人間」研究会 2019年度第2回例会, 三鷹, 2019年7月21日.
- (監修) 「英和辞書とコーパス」. 杏林大学の頭図書館展示, 三鷹, 2019年7月26日-8月31日.
- (企画・運営・司会) ある外交官 OB のつぶやき①—アニメズムからパチカンまで. NPO法人地球ことば村—世界言語博物館主催・慶應言語教育研究フォーラム共催, 東京, 2019年7月27日.
- (運営) 日本認知言語学会第20回全国大会. 兵庫, 2019年8月5-6日.
- (science committee [査読委員会]) 国際認知言語学会第15回大会. 兵庫, 2019年8月6-11日.
- (企画・運営) コンストラクションセマシオロジーの構築に向けて—日本語の複合語を例に—. 「言語と人間」研究会 2019年度第3回例会, 東京, 2019年10月6日.
- (企画・運営) 高齢者にできることを捉え直す: 職員と利用者のインタラクション分析. 「言語と人間」研究会 2019年度第4回例会, 東京, 2019年11月3日.
- (企画・運営) 日本語用論学会第22回大会. 京都, 2019年11月23-24日.
- (企画・運営) 対話としてのライフストーリー. 「言語と人間」研究会 2019年度特別講演会, 東京, 2019年12

月15日.

- (企画・運営・司会) ある外交官 OB のつぶやき②—アニメズムからパチカンまで. NPO法人地球ことば村—世界言語博物館主催・慶應言語教育研究フォーラム共催, 東京, 2019年12月21日.
- (企画・運営) 海を越えて日本語の中で生きる人たち. NPO法人地球ことば村—世界言語博物館主催・慶應言語教育研究フォーラム共催, 東京, 2020年2月22日.

## 特許等知的財産関係、報告書等

- (報告) 選手間コミュニケーションの対照研究—試合中の戦術決定はいかになされているか— (社会言語学会第43回研究大会シンポジウム「東京オリンピック・パラリンピックと社会言語科学」). 社会言語科学 22(1): 281-282, 2019年9月.

## その他 (教育内容・方法の工夫)

- (研究代表者) 科学研究補助金 (基盤研究 (C)) 「用法基盤モデルに基づく英語ライティング用教材『テンプレート』の開発」
- (研究分担者) 科学研究補助金 (基盤研究 (C)) 「言語獲得理論に基づく小学校英語教育の高度化学習プログラムの開発」 (研究代表者: 菅井三実)
- (研究分担者) 科学研究補助金 (基盤研究 (C)) 「伝統的心性の自覚から異文化コーディネーターとしての成長を促す英語教育法研究」 (研究代表者: 遠山菊夫)

## その他 (団体役員)

- (理事・事務局代表) 日本認知言語学会
- (理事・総務/学会誌編集) 日本文体論学会
- (理事・事務局) ことわざ学会
- (大会運営委員) 日本語用論学会
- (事務局長) 「言語と人間」研究会
- (理事・企画検討委員会委員長・電子出版部編集長) NPO法人地球ことば村世界言語博物館
- (外部委員) 独立行政法人国際観光振興機構 (日本政府観光局)

## その他 (教育活動上特記すべき事項)

- (他大学出講) 英語学Ⅲ・Ⅳ (認知言語学). 慶應義塾大学文学部.
- (他大学出講) 英語第Ⅰ. 慶應義塾大学法学部.
- (他大学出講) プレゼンテーションイングリッシュ・観光英語. 日本女子大学.
- (他大学出講) 英語学概論. 信州大学人文学部. (夏期・冬期集中)

## 安江 枝里子

## 論文

- 安江枝里子: 訪日外国人観光客のまなごしを意識した温泉旅館のテーマ化. 杏林大学外国語学部紀要 32: 51-64, 2020年3月.

## 小林 輝美

## 講演

- 小林輝美: 自己の映像を利用した英語プレゼンテーション改善に関する研究—撮影者の有無, 自己評価と他者評価の比較—. AI時代の教育学会全国実践研究発表会, 東京, 2019年7月30日.
- 小林輝美: 自己の映像を利用した英語プレゼンテーション改善—ビデオ撮影の有無, および撮影者の反応の有無の比較—. 日本教育工学会第35回全国大会, 愛知, 2019年9月7日.

## 論文

- 小林輝美: 自己の映像を利用した英語プレゼンテーション改善に関する研究—ビデオ撮影の有無, および撮影者の反応の有無の比較—. 教育テスト研究センター年報 4: 65-67, 2019年7月.

## 藤田 由香利

## その他 (学会等および社会における主な活動)

- (講義) 中国語講座「学漢語吧」. 神保町ブックハウスカフェ, 東京, 2019年8月7-9日.
- (研修) 第10回東日本漢語教師研修. 東京, 2019年8月



24 日.

C C R C 研 究 所



杏林CCRC研究所

論文

1. 長島文夫: がん患者と地域社会のための加齢等に関する研究. 第8回杏林CCRCフォーラム地域交流活動抄録集 p4, 2020.

著書

1. 長島文夫: 第8回杏林CCRCフォーラム地域交流活動抄録集, 三鷹, 杏林大学, 2020.



# 共同研究



目 次

① 医学部

1. 統合失調症患者の syntaxin1A、1B 遺伝子解析と臨床症状との関連性の検討.....	207
2. ヒト iPS 細胞を用いた皮膚付属器再生.....	209
3. 真皮毛根鞘細胞の機能評価法の開発に関する研究.....	210
4. ヒト iPS 細胞を用いた真皮毛根鞘細胞への分化誘導の試み.....	211
5. ヒト汗腺オルガノイドの開発に関する研究.....	212
6. 胆管プラスチックステントのドレナージ効率の検証と新形状の模索.....	213
7. 膵臓癌検出における糖鎖修飾リボヌクレアーゼ 1 の有用性の検討.....	214
8. しびれ感覚を引き起こす感覚神経興奮メカニズム.....	215
9. 妊娠糖尿病のインスリン分泌亢進不全における 2 型糖尿病感受性遺伝子 CDKAL1 の役割.....	216
10. 入射角可変式全反射蛍光 (V-TIRF) 顕微鏡による 2 相性インスリン分泌のイメージング解析.....	217
11. 発汗機能からみる炎症性皮膚疾患の外用療法の検討.....	219
12. 心臓手術用低侵襲凝固治療装置に関する評価手法に関する研究.....	220
13. 近赤外光を用いたアブレーション装置の研究.....	221
14. 糖尿病合併症新規マーカーの探索.....	222
15. ヒト唾液由来エキソソームの機能解析に関する研究.....	223
16. トランスポーター遺伝子変異と尿酸代謝異常.....	224
17. 多発性嚢胞腎に対する抗アミノ酸トランスポーター療法の検討.....	225
18. 尿路悪性腫瘍に対するアミノ酸トランスポーター阻害療法の基礎的検討.....	226
19. 包括的腸管細菌叢解析に基づく 5-アミノサリチル酸の抗炎症作用機序の解明.....	227
20. ディフィシル菌腸炎における糞便移植療法に変わる創薬への試み.....	229
21. 大脳皮質視覚野に可塑性を促す新しい視覚機能回復法.....	230
22. ヒト脊髄内の代替神経システムを強化する新しい運動機能回復戦略.....	232
23. 熱傷創に対する脂肪由来幹細胞 (ADRC) の有効性及び安全性の検討.....	234
24. 熱傷創のデジタル写真画像を用いた面積及び深達度評価手法の検討・検証と 診療支援ツールの開発研究.....	235
25. ラット/カイク) -ハイブリッド Na <sup>+</sup> /K <sup>+</sup> -ATPase の K <sup>+</sup> 親和性.....	236
26. Na <sup>+</sup> /K <sup>+</sup> -ATPase ・四量体分子への強心ステロイド (ウアバイン) の結合.....	237
27. 依存症治療における天然化合物の効果に関する研究.....	239
28. 創薬のための統合オミックス解析による難治性ネフローゼの病因・病態探索.....	240
29. 百日咳菌 BipA のバイオフィルム形成における機能の解析.....	242
30. 網膜細動脈瘤破裂に伴う網膜下出血の臨床共同研究.....	243



31. Heads up 手術での HDR のタイミングの人工知能による検討 .....	244
32. 非小細胞肺癌から小細胞肺癌への形質転換現象と リプログラミング現象との関連性の検討.....	245
33. Helicobacter pylori 感染に関する基礎的研究 .....	246
34. 新規プロバイオティクス候補細菌の培養法の検討.....	247
35. 薬剤耐性菌感染症に対するファージ療法の確立に向けた基礎的研究.....	248
36. 妊娠糖尿病における腸内細菌叢の変化.....	250
37. 遺伝子増幅法による呼吸器病原体の遺伝子同定試薬の臨床研究.....	251
38. 抗マラリア活性化合物の評価研究.....	252
39. 抗マラリア活性化合物の in vivo 評価.....	253
40. 脂肪組織を基軸とした新たな妊娠マラリア病態発症機構の解明.....	254
41. 自己免疫疾患における眼表面の血管異常の病態解明と新規治療法の開発.....	255
42. 卵巣癌診断のための新たなコンビネーションアッセイの確立.....	257
43. 原発性上皮性卵巣癌における DNA ミスマッチ修復異常の検討.....	258
44. N アセチル化転移酵素 2 (NAT2) の遺伝子多型が及ぼす JPH203 の安全性と 有効性に関する研究.....	259

## ② 保健学部

45. キチンによるアレルギー応答誘導機構の解明.....	263
46. 腫瘍形成 HPV のゲノム網羅解析による上皮内腫瘍の進展予測に関する研究.....	265
47. バドミントンにおける安全性と高い パフォーマンスを靴によってもたらしめるための研究.....	267
48. 微細加工技術を応用した放射線検出器の開発.....	269
49. 機械学習を用いた MRI の撮像時間短縮技術に関する研究.....	270
50. Digital Breast Tomosynthesis の画像評価.....	271
51. 糖尿病性皮質脊髄路障害の病態解明.....	272
52. 糖尿病に起因する横隔神経障害と運動単位の活動性の変化.....	273
53. 血液型 D 抗原の発現制御メカニズムの解明.....	274
54. 医用テレメータ使用環境下における院内電磁波環境の評価方法の検討.....	275
55. 院内デイケアの活動による入院患者の日中活動係数, 睡眠状態への影響.....	277
56. 高周波を用いた人工心肺装置の静脈リザーバ内貯液量連続モニタリング装置の 研究開発 .....	278
57. 高脂肪摂食モデル動物を用いた腸管粘膜内血清蛋白の免疫組織化学的解析.....	279
58. MRI 環境下における CO2 センサモジュールの影響に関する研究 .....	281
59. 抗悪性中皮腫抗体の作製と広範な抗腫瘍効果の解析.....	282
60. ヒトてんかん原性脳組織における酸化損傷タンパク質の網羅的探索.....	283

61. ヨード造影剤が 1H-MRS に及ぼす影響の検討.....	284
62. 体外循環回路接続部段差部位における血液流れに関する研究.....	286
63. 姿勢保持および日常的動作の安定性に関わる頭部および体幹部評価法の構築.....	287
64. 超高磁場 fMRI による身体バランスの危機認知に応答する神経機構の同定.....	289
③ 総合政策学部	
65. 日本における中国人居住者の中国伝統文化意識の研究.....	293



① 医学部



1. 統合失調症患者の *syntaxin1A*、*1B* 遺伝子解析と臨床症状との関連性の検討

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
小藤 剛史	医学部 RI 部門	助教	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
吉田 寿美子	国立精神・神経医療研究センター	臨床検査部部长	試料・情報の管理・解析
服部 功太郎	国立精神・神経医療研究センター	MGC バイオリソース管理室長	試料・情報の管理・解析
赤川 公朗	杏林大学医学部	名誉教授	試料の解析
藤原 智徳	杏林大学医学部	非常勤講師	試料の解析

## キーワード

統合失調症, シンタキシン 1 B, 遺伝子発現異常

## 研究分野

神経科学

## 1. 共同研究の目的

中枢神経には、シナプス伝達の制御に関わる *syntaxin1A* 遺伝子(*sy1A*) とその類似遺伝子である *syntaxin1B* (*sy1B*)が発現している。我々は、これらの遺伝子を欠損したマウスの表現型が、ヒト精神神経疾患でみられる障害と類似していることを明らかにした。また、ヒトの自閉性障害患者の一部において *sy1A* の発現異常がみられることを明らかにした。本研究は、ヒトの統合失調症における *sy1B* および *sy1A* 遺伝子を解析して、各遺伝子異常が精神神経疾患の発症や症状に関与する可能性について検討する。

## 2. 共同研究の内容・計画

倫理承認済みのナショナルセンター・バイオバンクに登録された統合失調症例のゲノム DNA 試料を用い、*sy1B* および *sy1A* 遺伝子の CNV 解析により、遺伝子のコピー数の増減の有無を検討する。また、遺伝子ゲノム構造配列の解析を行い、遺伝子変異や一塩基多型(SNP)について検討する。さらに、bisulfate 法およびメチル化シトシンに対する免疫沈降法により発現調節領域及びイントロン内の異常メチル化の有無を調べる。これらの結果に基づいて *sy1B* および *sy1A* 遺伝子異常と統合失調症の発症および臨床症状の関連を明らかにする。

## 3. 研究成果(経過)

シンタキシン 1 (*sy1*) は、中枢神経においてシナプス伝達の制御に関わっており、*sy1A* と *sy1B* の 2 種類が存在する。我々は *sy1A* を欠失したマウスが情動行動異常を、*sy1B* を欠失したマウスが統合失調症様の行動障害を生じることを明らかにした。また、ヒトの自閉症患者の一部において *sy1A* 遺伝子のコピー数が半減することを報告した。そこで、ヒトの統合失調症と *sy1A* および *sy1B* 遺伝子の関連について解析し、各遺伝子異常が精神神経疾患の発症や症状に関与する可能性について検討した。統合失調症例のゲノム DNA 試料を用いて、Copy Number assay により *sy1A* および *sy1B* 遺伝子のコピー数の増減の有無を検討した。健常者および患者各 100、計 200 例の遺伝子解析を行ったが、コピー数の異常は認められなかった。*sy1B* 遺伝子のエクソン内塩基配列の解析において、異常は見られなかった。また、一塩基多型の解析においても健常者と患者間で差は見つかっていない。以上のように、統合失調症と *sy1* 遺伝子の関連は認められなかった。自閉症患者においては、*sy1A* 遺伝子の発現量

の変動が確認されている。統合失調症患者における sy1 遺伝子発現量の解析や発現量の増減に関与する異常メチル化の検討なども必要と考える。

## 2. ヒト iPS 細胞を用いた皮膚付属器再生

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
大 山 学	医学部皮膚科学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
岡野 栄之	慶應義塾大学	教授	ヒト iPS 細胞の供給・分化誘導法指導

## キーワード

再生医学, ヒト iPS 細胞, 分化誘導, 皮膚, 付属器

## 研究分野

再生医学, 皮膚科学

## 1. 共同研究の目的

本研究では瘢痕性脱毛症などの難治性皮膚疾患の再生医療実現の技術的基盤としてのヒト iPS 細胞を用いた皮膚付属器の再生法の確立を目的とする。共同研究者の施設はヒト iPS 細胞研究の本邦における代表的拠点であり、申請者は既に共同研究を続けている。共同研究者からヒト iPS 細胞の維持、分化誘導に関する技術支援を受けることで円滑な実験計画の遂行が期待できる。共同研究者には本学で確立された技術を還元する。

## 2. 共同研究の内容・計画

既にライン化され多施設にて研究に使用されている共同研究者からうけたヒト iPS 細胞を使用する（本計画では新規 iPS 細胞の作成は行わない）。本学では、共同研究者の指導をうけつつフィーダーフリー化したヒト iPS 細胞を用いて組織特異的マーカーの発現をモニタリングしながら上皮系細胞（ケラチノサイト）と間葉系細胞（間葉系幹細胞・毛乳頭細胞・線維芽細胞など）に分化誘導する。得られた上皮・間葉系両方の細胞を3次元培養による組織再構築系あるいは *in vivo* の環境に導入・移植することで毛包をはじめとする皮膚付属器の器官再生を試みる。再生された構造体の形態的・分子生物学的解析は本学の施設で行う。

## 3. 研究成果（経過）

本研究では共同研究者の施設で、あるいは商業的に確立されフィーダーフリーの条件で維持されるヒト iPS 細胞を用いて毛包に代表される皮膚付属器の *in vitro* での再生を目指している。昨年度までの研究に引き続き iPS 細胞から皮膚付属器を構成する2つのコンポーネントである上皮系ケラチノサイトと間葉系細胞を組合せシート状の構造体を作成し、WNT など器官形成シグナルを作用させ胎生期における器官発生を模倣したアプローチの確立を模索していたが、本条件では iPS 細胞由来細胞を大量に必要とするにもかかわらず、生存率が低く組織再構築の効率を上げることが困難であった。そこで、コラーゲンゲルに間葉系細胞塊を埋没し、そこに予め付属器を模倣した形状に直接ケラチノサイトを射出する新たな組織再構築法を試みた。まず、通常ケラチノサイトと毛乳頭細胞由来細胞凝集塊を用いて方法論の確立に努めたところ、毛包類似構造体を比較的安定して作成することができた。次いで、ヒト iPS 細胞から間葉系細胞を誘導し、さらに毛乳頭細胞へと分化させた細胞で毛乳頭類似構造を作成し、前述の毛包類似構造を作成したところ発現強度こそ通常細胞と比べて弱いものの毛包関連マーカーを発現する毛包類似構造を作成することが可能であった。今後、本法のさらなる改良により再生効率の向上を目指す。



### 3. 真皮毛根鞘細胞の機能評価法の開発に関する研究

#### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
大 山 学	医学部皮膚科学	教授	統括

#### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
岸本 治郎	資生堂 GIC	室長	毛成長評価技術の開発
山西 治代	資生堂 GIC	室員	分化誘導技術の開発

#### キーワード

再生医学, 真皮毛根鞘細胞, 分化誘導, 毛成長, 計測技術

#### 研究分野

再生医学, 皮膚科学

#### 1. 共同研究の目的

毛誘導能を有する真皮毛根鞘細胞(DSCC)は脱毛症の罹患部への注入により症状の改善が期待されるため再生医療で注目されている。本研究の目的は、再生治療における本細胞の機能評価法として DSCC から毛乳頭細胞への分化誘導能を *in vitro* で評価する系を確立するとともに、実際に DSCC を用いた臨床研究が実施された際にその移植効果を評価する技術を確立することである。

#### 2. 共同研究の内容・計画

DSCC から毛乳頭細胞への分化を評価する方法については共同研究者から提供をうけた毛乳頭細胞を皮膚科学教室にて培養し、毛包発生に必要な発生関連シグナル活性化因子を種々の濃度・組合せで添加する。最も培養細胞で毛包発生関連マーカー (WNT、SHH、NOG など) の発強度が高まる条件を共同研究者にフォードバックし、共同研究者の施設にて DSCC をその条件で培養し、毛乳頭細胞のバイオマーカーの発現を評価する。また、毛成長評価技術に関しては共同研究者が開発中の解析技術に関して、研究代表者が臨床医学の見地からその有用性、実現可能性につき評価、監修する。

#### 3. 研究成果（経過）

本研究の目的は、再生医療においてその発毛促進作用から注目されている真皮毛根鞘細胞(DSCC)の機能評価法として DSCC から毛乳頭細胞への分化誘導能を *in vitro* で評価する系を確立するとともに、実際に DSCC を用いた臨床研究が実施された際にその移植効果を評価する技術を確立することである。共同研究者から提供をうけたヒト毛乳頭細胞を活用し、WNT 活性化因子に代表されるリガンドの添加、あるいはスフィアの作成などの手法により毛包発生シグナルが増強する条件の検討を行い、最適と思われる条件を共同研究者と共有した。共同研究者は毛乳頭細胞の前駆細胞と思われる DSCC をその条件下で培養し毛乳頭関連マーカーの発現の増強の程度を検討中である。また、実際に DSCC を用いて脱毛症に対する再生医療が実施された際に、その臨床効果を評価する毛密度測定法を共同研究者が行っているがその開発に臨床医の見地からアドバイスをを行い、測定精度を低下させる因子の同定とその改善法につき助言した。それを活かして改善された評価法のさらなる改良を現在遂行中である。

## 4. ヒト iPS 細胞を用いた真皮毛根鞘細胞への分化誘導の試み

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
大 山 学	医学部皮膚科学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
岸本 治郎	資生堂 GIC	室長	分化誘導条件の検討
佐藤 敬	資生堂 GIC	グループリーダー	分化誘導細胞の特性解析

## キーワード

再生医学, ヒト iPS 細胞, 分化誘導, 皮膚, 真皮毛根鞘細胞

## 研究分野

再生医学, 皮膚科学

## 1. 共同研究の目的

毛誘導能のある真皮毛根鞘細胞は脱毛症の罹患部への注入など再生医療での応用が期待できる素材である。しかし、ヒトから十分量の採取することは困難である。本計画ではヒト iPS 細胞から間葉系幹細胞を誘導し、さらに分化誘導することで真皮毛根鞘細胞の特性を有する細胞の作成を試みる。申請者らが iPS 細胞から間葉系幹細胞を誘導し、共同研究者らと分化誘導条件を検討する。得られた細胞の生物学的特性の検討は共同で実施する。

## 2. 共同研究の内容・計画

既にライン化され商業的に入手可能な、または CiRA などの学術機関により供給されるヒト iPS 細胞のみを使用する。申請者らの確立した分化誘導条件をもちいて間葉系幹細胞へ分化誘導する。次いで共同研究施設で同定された真皮毛根鞘細胞で特異的に発現が高いマーカーの発現をモニタリングしつつ、得られた間葉系幹細胞を毛乳頭活性化因子存在下など各種条件で培養する、あるいはヒト毛乳頭細胞と共培養することによりさらに分化誘導し加え真皮毛根鞘細胞の作成を試みる。また、最終的に誘導されたヒト iPS 由来細胞とヒト由来真皮毛根鞘細胞の機能的・分子生物学的解析を本学と共同研究者ら両方の施設で行う。

## 3. 研究成果（経過）

毛誘導能をもつ真皮毛根鞘細胞は脱毛症の罹患部への注入などによる発毛促進効果が期待できるなど再生医療での応用可能な素材であるが、ヒトから十分量の採取することは困難である。本計画ではヒト iPS 細胞から間葉系幹細胞を誘導し、さらに分化誘導することで真皮毛根鞘細胞の特性を有する細胞の作成を目的としている。これまで申請者らが維持培養しているヒト iPS 細胞由来間葉系細胞に WNT 活性化因子をはじめとする各種因子を作用させるなどの手法により、共同研究者が同定した真皮毛根鞘細胞のいくつかのマーカーの発現を得るなど一定の成果をあげることができたが、誘導・培養条件の再検討などの結果、機能的な真皮毛根鞘細胞への誘導は既存の方法では技術的に困難であり、実臨床への還元という観点からはアプローチを修正する必要があることが明らかとなり新たな共同研究課題に移行するべく研究計画を終了することとなった。

## 5. ヒト汗腺オルガノイドの開発に関する研究

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
大 山 学	医学部皮膚科学	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
相馬 勤	資生堂アドバンスト リサーチセンター	マネージャー	ヒト汗腺の分離・培養, オルガノイド作成技術の開発

### キーワード

再生医学, 汗腺, 培養, オルガノイド, 機能解析

### 研究分野

再生医学, 皮膚科学

#### 1. 共同研究の目的

ヒト汗腺は発汗による体温調節を担う皮膚付属器である。その一方で、多汗も日常生活を制限しうる。しかし、汗腺、特にヒト汗腺の機能解析は適したモデルがなく大きく立ち遅れている。そこで本研究では、共同でヒト皮膚組織から汗腺を分離し、培養する技術を確立するとともに、培養細胞を用いてオルガノイドを作成し、本学では発汗異常の病態解明、共同研究施設では制汗のための技術開発を行うことを目的とする。

#### 2. 共同研究の内容・計画

両施設で並行し、情報を共有しつつ、ヒト皮膚より実体顕微鏡下でのマイクロダイセクションと、コラゲナーゼ、ディスパーゼなどの酵素処理を併用し効率的な汗腺の分離方法を確立する。次いで細胞外基質のコーティング処理などした培養ディッシュでの培養により初代培養細胞を樹立する。それをコラーゲンゲルに封入することでオルガノイドの作成法を確立する。本学ではオルガノイドに副腎皮質ステロイドを作用させ分泌能に与える影響などを評価し特発性無汗症に対するステロイドパルス療法機序の解明などに役立てる。両施設ともヒト皮膚の利用に関する倫理申請は既に取得済みである。

#### 3. 研究成果（経過）

本研究では、ヒト皮膚組織から汗腺を分離し、培養する技術を確立するとともに、培養細胞を用いてオルガノイドを作成し、本学では発汗異常の病態解明、共同研究施設では制汗のための技術開発を行うことを目的としている。オルガノイドの作成のためには、まずヒト皮膚より汗腺を分離し、構成する細胞を効率的に培養する方法を確立することが必要である。計画初年度となる本年度は共同研究者の施設で確立したヒト皮膚より実体顕微鏡下でのマイクロダイセクションと、コラゲナーゼ、ディスパーゼなどの酵素処理を併用し効率的な汗腺の分離方法の本学への技術移転を行った。共同研究者の指導をうけながら、実際にヒト皮膚より汗腺組織を単離し培養に成功した。また、情報共有しつつ培養条件の最適化について可能な方法の文献的探索を行った。さらに、初代培養の安定した確立が可能となったため、現在、継代培養の方法について模索中である。

## 6. 胆管プラスチックステントのドレナージ効率の検証と新形状の模索

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
土岐 真朗	医学部消化器内科学	学内講師	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
久松 理一	医学部消化器内科学	教授	研究指導
嶋田 真也	ゼオンメディカル (株)	社員	実験遂行の調整と立案。ゼオンメディカルと日本ゼオン、杏林大学医学部の調整
品川 裕希	日本ゼオン (株)	研究員	実験内容の立案と実行

## キーワード

胆管, プラスティックステント, ドレナージ効率, 開存期間

## 研究分野

胆道

## 1. 共同研究の目的

近年、悪性胆道狭窄症例の増加に伴い、胆管プラスチックステントを使用する頻度は増加傾向にある。内視鏡的胆道ドレナージに使用する胆管プラスチックステント（以下 PS）は、様々なニーズにより製造メーカー各社から様々な形状が発売されているものの、ドレナージ効率等の明確な検証に基づいた使い分けがされていない現状がある。高価な金属ステントと比較して十分な開存期間が得られているとはいえ、開存期間の長いプラスチックステントを開発することは、患者の負担を軽減し、医療費削減にも寄与すると考えられる。

## 2. 共同研究の内容・計画

<検討 1> ドレナージ効率の高い PS の形状の法則性を模索する（机上実験）、<検討 2> 胆道閉塞部位による PS の形状によるドレナージ効率の検証（机上実験）、<検討 3> 新形状の PS の試作品を作成し短期、長期ドレナージ効率の検証（机上実験）、<検討 4> 製品化に向けて PS の素材、コーティングの検討（机上実験）。日本ゼオン総合開発センター メディカル研究所にて行う。机上実験では模擬胆汁（成分：胆汁酸 5%、オレイン酸 5%、エコーガム/ケトロール 0.5%、温度約 40℃に調整）、プラスチックステント（素材：ペパックス、径：7.5Fr、ステント長：10cm）を用いて行う。ストレートか pig tail タイプ、側孔の場所、個数、形状による違いを検証し、ドレナージ効率のより良いステントの形状、側孔について検証する。

## 3. 研究成果（経過）

<検討 1> ドレナージ効率の高い PS の形状の法則性を模索する（机上実験）：机上実験済み

日本ゼオン総合開発センター メディカル研究所にて行い、形状による違いを検証した。ドレナージ効率のより良いステントの形状、側孔についてサンプルを作成した。

<検討 2> 胆道閉塞部位による PS の形状によるドレナージ効率の検証（机上実験）

検討 1 で作成したサンプルを使用して、中下部胆管、肝門部胆管の模擬閉塞を仮定してステントの形状、側孔の位置の改良を加え、試作品を作成した。

<検討 3> 新形状の PS の試作品を作成し短期、長期ドレナージ効率の検証（机上実験）

試作品による短期ドレナージ効率を既存の PS の形状と比較し、有意差をもって効率が良いことを証明できた。

<検討 4> 製品化に向けて PS の素材、コーティングの検討（机上実験）。現在検討 4 施行の準備中である。

## 7. 膵臓癌検出における糖鎖修飾リボヌクレアーゼ 1 の有用性の検討

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
土岐 真朗	医学部消化器内科学	助教	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
仲田 大輔	東ソー株式会社	研究員	検体の測定とデータ解析
高橋 信一	医学部消化器内科学	特任教授	研究指導
久松 理一	医学部消化器内科学	教授	研究指導

### キーワード

膵臓癌, 早期発見, 糖鎖修飾 RNase1

### 研究分野

膵臓

#### 1. 共同研究の目的

膵臓の早期診断には大きなブレイクスルーは生まれず、医療機器の進歩にもかかわらず膵臓診断時の各ステージの割合は有意な変化を認めていない。切除可能な膵臓症例を増やすためには、医療機関の努力だけでは不十分であり、国民自らが健康をセルフチェックするシステムの構築が必要であると考えている。そのためには、低侵襲で簡便な、そして安価なスクリーニングシステムの開発が求められており、その一貫として、膵臓癌検出における糖鎖修飾リボヌクレアーゼ 1 (RNase1) の有用性について検討する。主要評価項目：糖鎖修飾リボヌクレアーゼ 1 (RNase1) による膵臓癌の特異的な検出率

#### 2. 共同研究の内容・計画

<研究 1>①当院を受診した新規膵臓癌症例 100 例、②当院を受診し膵臓癌が否定され症例 50 例を対象とする。東ソー株式会社の自動免疫診断装置を用いてリボヌクレアーゼ 1 の N 型糖鎖付加状態を測定し、膵臓癌検出における糖鎖修飾リボヌクレアーゼ 1 (RNase1) の有用性について検討する。

<研究 2>研究 1 で得られたデータを元にカットオフ値を設定し、膵臓癌と診断された新たな症例 85 例（現在プロトコル改訂申請中）を対象として、新規膵臓癌診断マーカーの臨床的有用性を確認する。

症例集積は 2020 年 3 月 31 日までとするが、症例が目標数に達した時点で解析を行う。

#### 3. 研究成果（経過）

2020 年 2 月 29 日現在、283 例（目標 335 例）の症例登録を終了しています。膵臓症例の登録は既に終了しており、現在、対照群の症例集積を行っております。2020 年 3 月 31 日で症例の登録を終了いたします。2019 年 7 月 12 日に第 50 回日本膵臓学会大会シンポジウムで成績を報告させていただきました。以下抜粋です。

- 膵臓診断における G3/t 比の ROC 解析の結果では、AUC0.949 と高い診断能が得られた。最適なカットオフ値は 0.0583 で、感度 78.8%、特異度 98%と高く、膵臓診断に有用であると考えられた。

- 糖鎖修飾 RNase1 の測定による膵臓の診断能は、切除可能症例において CA19-9、SPAN1 と比較し有意差はなかったが感度は 75%と最も高く、CA19-9 と組み合わせることでさらに 95.8%まで感度は上がり、RNase1 と CA19-9 の組み合わせは、早期の段階から膵臓を検出できるマーカーとして有用であると考えられた。

## 8. しびれ感覚を引き起こす感覚神経興奮メカニズム

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
八木 淳一	医学部統合生理学	准教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
小林 靖	防衛医科大学校	教授	神経細胞の免疫組織学的解析

## キーワード

異常感覚, 末梢神経, 虚血, 酸感受性イオンチャネル, パッチクランプ法

## 研究分野

神経科学

## 1. 共同研究の目的

しびれ感覚は、末梢神経の障害、あるいは組織の虚血と再灌流などで発生し、痛みとは独立した難治性の異常感覚である。しかし、しびれ感覚を引き起こす神経機構は未だ解明されていない。本申請者は、新規の記録法を開発し、組織の虚血状態で痛みの神経とは異なる「中閾値一触覚型神経」が放電することを見出した。平成 31 年度は、電気生理学的手法と免疫組織学的手法を併用して、虚血状態でしびれ感覚を引き起こす神経機構の解明を目指す。

## 2. 共同研究の内容・計画

実験には独自に開発した「麻酔下ラット標本-感覚神経パッチクランプ法」を用い、ラットの足首をマンシエットで圧迫し虚血性のしびれを実験的に再現して、その時の感覚神経の放電活動を記録する。この放電活動については、虚血による組織酸性化によって引き起こされるとの仮説を立てている。平成 30 年度は、酸性液、酸感受性イオンチャネルの遮断薬等を用い、しびれに関連する神経活動を再現あるいは抑制することで神経興奮のメカニズムを解析する。さらに、免疫染色法を用いて、しびれ感覚に関連する受容体・イオンチャネルを同定して、上記の仮説を検証する。

## 3. 研究成果（経過）

しびれ感覚は、末梢神経の障害、あるいは組織の虚血と再灌流などで発生し、痛みとは独立した難治性の異常感覚である。しかし、しびれ感覚を引き起こす神経機構は未だ解明されていない。本申請者は、独自に開発した「麻酔下ラット標本-脊髄後根神経節(DRG)ニューロンパッチクランプ法」を用い、ラットの足首をマンシエットで圧迫し虚血性のしびれを実験的に再現して、その時の感覚神経の放電活動を記録した。これまでに、組織の虚血状態で痛みの神経（Class I DRG ニューロン）とは異なる「中閾値一触覚型（Class II）DRG ニューロン」が放電することを見出した。Class II DRG ニューロンは、電気生理学的特徴として、神経の興奮性を抑える働きを持つ「一過性 K<sup>+</sup>チャネル」を高密度に発現し、酸性液の刺激により酸感受性イオンチャネル(ASIC)様の電流を発生した。虚血下の組織酸性化が ASIC チャネルを活性化し、さらに一過性 K<sup>+</sup>チャネル電流(A 電流)の減弱を起こして神経の興奮を促すことが示唆された。来年度を本企画の最終年度として、虚血状態でしびれ感覚を引き起こす神経機構について成果をまとめる予定である。

## 9. 妊娠糖尿病のインスリン分泌亢進不全における2型糖尿病感受性遺伝子 CDKAL1 の役割

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
今泉 美佳	医学部生化学	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
岡村 匡史	国立国際医療研究センター研究所	室長	CDKAL1 ノックアウトマウス、ノックインマウスの作成および in vivo 動物実験
青柳 共太	医学部生化学	講師	膵β細胞における小胞体ストレス、ミトコンドリア機能代謝解析
牧山 智彦	医学部生化学	助教	膵β細胞からのインスリン分泌実験

### キーワード

インスリン分泌, 妊娠糖尿病, CDKAL1, GWAS

### 研究分野

分子細胞生物学

#### 1. 共同研究の目的

妊娠期はインスリン抵抗性状態となり、その代償のために膵β細胞はインスリン分泌を著しく亢進させる。このインスリン分泌亢進機構の破綻は妊娠糖尿病発症の原因となるが、妊娠糖尿病におけるインスリン分泌亢進不全に関連する因子は未だ不明であり重要な研究課題となっている。最近、2型糖尿病感受性遺伝子である CDKAL1 の変異が妊娠糖尿病にも関連していることが報告された。本研究では CDKAL1 ノックアウトマウスを用いた解析により、CDKAL1 発現低下時の妊娠期インスリン分泌亢進不全の分子機構を解明し、CDKAL1 機能欠損と妊娠糖尿病との関連を明らかにする。

#### 2. 共同研究の内容・計画

妊娠 CDKAL1 ノックアウトマウスを用いて小胞体に局在する CDKAL1 の機能欠損がどのようなメカニズムで妊娠期β細胞からのインスリン分泌亢進不全を引き起こすのかを解明し、妊娠糖尿病発症の機序を考察する。

①CDKAL1 ノックアウトマウスを用いたインスリン分泌機能解析により、妊娠期の代償性インスリン分泌亢進のどの過程が障害を受けているのかを明らかにし、代償性インスリン分泌亢進における CDKAL1 の機能を明確にする。

②予備実験では妊娠 CDKAL1 ノックアウトβ細胞においてミトコンドリア機能低下を見出している。まず、小胞体機能低下とミトコンドリア機能低下との関連を明らかにする。次いで、妊娠期β細胞において CDKAL1 欠損によるミトコンドリア機能低下が引き起こす ATP 生成低下とインスリン分泌亢進不全との関連を明らかにする。

#### 3. 研究成果（経過）

インスリンはβ細胞内のインスリン顆粒に貯蔵されており、2相性に細胞外へ分泌される。この2相性インスリン分泌機構の解明は、インスリン分泌不全が成因の一つと考えられる2型糖尿病を予防し、新たな治療法を開発するためにも早急に解決すべき課題である。本研究では、入射角可変式全反射蛍光(V-TIRF)顕微鏡を開発改良し、特に今まで測定困難だった分泌第2相でのインスリン顆粒動態のイメージング解析を試みた。昨年度改良した V-TIRF 顕微鏡システムにさらに改良を加えて、GFP と mCherry を同時に測定可能な Two-color V-TIRF システムを開発した。このシステムを用いてβ細胞内インスリン顆粒(GFP)とアクチン(mCherry)の動態を同時解析したところ、分泌第2相において、アクチン層が作るインスリン顆粒の細胞内貯蔵部位よりインスリン顆粒が細胞膜に供給され、開口放出されるインスリン顆粒動態を高感度に検出した。このように本研究により、改良 V-TIRF 顕微鏡がインスリン分泌第2相の分子メカニズム解明に有効なシステムであることがわかった。

## 10. 入射角可変式全反射蛍光(V-TIRF)顕微鏡による2相性インスリン分泌のイメージング解析

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
今泉 美佳	医学部細胞生化学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
青柳 共太	医学部細胞生化学	講師	インスリン開口分泌解析
若園 佳彦	宮崎大学	助教	V-TIRF 顕微鏡開発
寺川 進	浜松医科大学	非常勤講師	V-TIRF 顕微鏡開発

## キーワード

インスリン, 開口分泌, TIRF イメージング

## 研究分野

分子細胞生物学

## 1. 共同研究の目的

インスリンは $\beta$ 細胞内のインスリン顆粒に貯蔵されており、2相性に細胞外へ分泌される。この2相性インスリン分泌機構の解明は、インスリン分泌不全が成因の一つと考えられる2型糖尿病を予防し、新たな治療法を開発するためにも早急に解決すべき課題である。私達は全反射蛍光(TIRF)顕微鏡を用いて細胞膜下でのGFP標識インスリン顆粒動態解析法を確立し、主に第1相インスリン分泌機構研究を行ってきた。しかし第2相インスリン分泌機構は今だ不明のままである。分泌第2相は細胞質から形質膜へ新たに移動した顆粒が担っており、解明に向けては、細胞膜だけを観察する現状のTIRF顕微鏡だけでは限界があり、より細胞内部まで同時に観察可能な顕微鏡システムが必須となる。本研究では、入射角可変式全反射蛍光(V-TIRF)顕微鏡を開発し、今まで測定困難だった細胞内部の顆粒の貯蔵から形質膜への移動、さらに開口放出までを高空間時間分解能で4D(x,y,z,time)イメージング解析し、第2相インスリン分泌機構を明らかにすることを目的とする。

## 2. 共同研究の内容・計画

- V-TIRF 顕微鏡の完成: V-TIRF 顕微鏡のプロトタイプに改良を加え(入射角の多段階化、多波長励起蛍光測定システム)、V-TIRF 顕微鏡システムを宮崎大学医学部・静岡英和学院グループ(若園・寺川)との共同研究により完成させる。
- V-TIRF 顕微鏡の特長は従来のTIRF顕微鏡と異なり、細胞のTIRF照明領域(形質膜下から細胞内部 $\sim$ 500nm)を多段階に分けて高速に変化させながら蛍光測定することができる。これにより共焦点法などで今まで測定困難だった領域での顆粒動態、すなわち顆粒貯蔵部位から形質膜へ顆粒の移動、さらに開口放出までを高空間時間分解能で4D画像解析することが可能となる。このV-TIRF顕微鏡解析により、本共同研究では特に第2相インスリン分泌でのインスリン顆粒輸送の分泌経路の構成過程を明確にする。

## 3. 研究成果(経過)

インスリンは $\beta$ 細胞内のインスリン顆粒に貯蔵されており、2相性に細胞外へ分泌される。この2相性インスリン分泌機構の解明は、インスリン分泌不全が成因の一つと考えられる2型糖尿病を予防し、新たな治療法を開発するためにも早急に解決すべき課題である。本研究では、入射角可変式全反射蛍光(V-TIRF)顕微鏡を開発改良し、特に今まで測定困難だった分泌第2相でのインスリン顆粒動態のイメージング解析を試みた。昨年度改良したV-TIRF顕微鏡システムにさらに改良を加えて、GFPとmCherryを同時に測定可能なTwo-color V-TIRFシステムを開発した。このシステムを用いて $\beta$ 細胞内インスリン顆粒(GFP)



とアクチン(mCherry)の動態を同時解析したところ、分泌第2相において、アクチン層が作るインスリン顆粒の細胞内貯蔵部位よりインスリン顆粒が細胞膜に供給され、開口放出されるインスリン顆粒動態を高感度に検出した。このように本研究により、改良 V-TIRF 顕微鏡がインスリン分泌第2相の分子メカニズム解明に有効なシステムであることがわかった。

## 11. 発汗機能からみる炎症性皮膚疾患の外用療法の検討

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
水川 良子	医学部皮膚科学	准教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
下田 由莉江	医学部皮膚科学	助教	水分量や発汗の測定, 評価
土肥 孝彰	マルホ株式会社	研究員	水分量や発汗の評価

## キーワード

炎症性皮膚疾患, 角質水分量, 発汗, ステロイド外用剤, 保湿剤

## 研究分野

皮膚免疫学

## 1. 共同研究の目的

本研究では、従来悪化因子と考えられてきた発汗の誘導が、炎症性皮膚疾患の治療戦略になりうるとの観点から、発汗負荷が皮膚疾患におよぼす影響、およびステロイド外用剤を含む各種外用剤が発汗にどのように影響しているのかを明らかにする。これらの結果は従来漠然と行われてきた外用剤の使用方法をデータの的に明らかにするとともに、より適切な炎症性皮膚疾患の外用治療の一助になると確信している。

## 2. 共同研究の内容・計画

本研究では、アトピー性皮膚炎を中心におよび高齢者に多い皮脂欠乏性湿疹、蕁麻疹様皮膚炎を対象に発汗機能とステロイド外用量、その使用法を検討してきた。2019年度は、ステロイド外用剤が皮膚バリア機能および発汗機能に与える影響をさらに詳細に検討する。多くの皮膚疾患において無造作に行われており、初診までに使用されてきたステロイド外用剤のランク、外用量、外用方法と、皮膚角質水分量 (SSH)、発汗機能測定、皮膚バリア機能 (TEWL) を測定し、ステロイド外用量をコントロールおよび保湿剤併用による上記項目の推移を皮膚所見と合わせて詳細に検討する。また、本年度はマウスモデルを用いた炎症性皮膚疾患の機序の解明と治療への応用をサブテーマとして実施する。

## 3. 研究成果 (経過)

発汗機能を伴う炎症性皮膚疾患における効率的な外用療法を確立するため、炎症性皮膚疾患の症状の改善に有用な外用療法の構築を目指した。

1、多くの皮膚疾患において外用療法は無造作に行われており、外用方法の違いが効果および発汗機能に影響するのかを検討した。その結果、ヘパリン類似物質含有クリームは一般的に言われている外用量(1FTU=0.5g)よりも多く使用した方が(3FTU)、発汗機能だけでなく皮膚紋理も改善することが明らかになった。

2、また、炎症性皮膚疾患の代表であるアトピー性皮膚炎における全身療法(anti-IL-4/IL-13 受容体抗体)が、皮膚所見だけでなく発汗機能も改善させるかについても検討した。薬剤投与により、発汗機能は徐々に改善し、皮膚紋理の改善も確認された。

今後は、外用と全身療法を組み合わせる方法により、炎症性皮膚疾患の一時的な改善だけでなく根本的な治癒を目指すことが可能かどうかにつき検討していく。

## 12. 心臓手術用低侵襲凝固治療装置に関する評価手法に関する研究

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
窪田 博	医学部心臓血管外科学	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
清水 一夫	東北大学	特任教授	凝固システム及び評価システムの検討
太田 信	東北大学	准教授	評価システムの全体設計
于 凱鴻	東北大学	研究員	評価システム設計

### キーワード

赤外線, 心房細動, 生体組織モデル, 生体流動工学

### 研究分野

心臓外科学

#### 1. 共同研究の目的

東北大学流体研究所等の研究者（光と熱が生体に及ぼす影響やシミュレーションを研究している生体医工学の研究者）との共同研究を実施することにより、開発中の赤外線凝固器による組織凝固に到る照射出力、照射時間、断続照射間隔等の基礎実験による客観的なデータを収集し、凝固治療における機序を明確にし、装置の性能を評価しうる指標を得ることを目的とする。

#### 2. 共同研究の内容・計画

- ①凝固治療のための基盤となる温度分布測定を評価するための環境を構築する。
- ②構築した評価環境と生体内での凝固性能を比較（動物実験等）し評価性能の最適化を図る。
- ③様々な凝固治療法との比較を行い、本研究方式の優位性、安全性を明確にする。

#### 3. 研究成果（経過）

様々な臓器の焼灼を近赤外光により焼灼するにあたり、その条件を明確にする必要がある。そこで、心筋臓器を使わず、*in vitro* 実験を行った。①その結果、心筋表面が焦げない条件として、近赤外線出力35%、(4秒照射-6秒消灯)を7回と近赤外線出力35%、(2秒照射-3秒消灯)を10回実施するという条件を見出した。②次に *In vitro* で臓器の焼灼を行い、焼灼状況を比較したところ、AtriCureで3.3~5.8mm、本装置で3.7~5.5mmの焼灼深さのデータが得られた。これらの条件を基に、動物実験を実施した。心臓の焼灼を行うにあたり、焼灼条件を上記2つに絞り、実験用動物（家畜ブタ）を用いて、評価を実施した。比較装置として、AtriCure製RF焼灼装置を用い、心筋の焼灼状況を本装置と比較した。病理標本を作成して、焼灼距離を計測した結果、AtriCureは1.2mm、本装置で0.5mmの中央値を得た。また、貫壁、内膜保持、血栓形成に関して、病理学的の差異はないと判定した。

## 13. 近赤外光を用いたアブレーション装置の研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
窪田 博	医学部心臓血管外科学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
清水 一夫	株式会社 ニューロシューティカルズ	開発部長	アブレーション装置の開発
三池 信也	株式会社 ニューロシューティカルズ	代表取締役	アブレーション装置の開発
中島 章夫	保健学部臨床工学科	准教授	アブレーション装置を使って、治療効果等の検証を行い、かつ、安全性に対する評価を行う。

## キーワード

赤外線, 心房細動, 生体組織モデル, 生体流動工学

## 研究分野

心臓外科学

## 1. 共同研究の目的

近赤外光を用いたアブレーション装置の研究開発を実施することを目的とする。

## 2. 共同研究の内容・計画

ハロゲンランプを使用し、近赤外光による組織の焼灼を行うことで筋組織深部まで焼灼が可能になるという研究代表者のこれまでの研究成果を基にニューロシューティカルズ社が医療機器の開発を担当し、研究代表者等は、杏林大学において、治療効果等の検証と安全性に対する評価を行う。

## 3. 研究成果（経過）

近赤外光を用いた光アブレーションを内視鏡手技で行うことを目指し、新しい装置構成により、共同研究先企業で開発を行っているが、焼灼温度が上がらず、装置の完成にいたっていない。

焼灼温度が上がらないため、プローブ長を当初予定から短くし、焼灼温度達成の目途を立て、試作を開始した。また、プローブと光源装置を接続するライトガイドについても、導光部分を太くするなど、工夫を凝らし、近赤外光の導光効率向上を目指し、試作を開始した。次に、光源装置について、ハロゲンランプの光量安定性が得られないため、ハロゲンランプの光をフィードバックして、光量の安定化が図れるように光フィードバック機能付きの光源装置の開発を行い、評価しているが、ハロゲンランプ自体のパラツキが大きく、安定した光量を得ることが難しく、開発に苦慮している状況であるが、安定的な光量を得るためにさらなる開発を進めている。

## 14. 糖尿病合併症新規マーカーの探索

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
秋元 義弘	医学部顕微解剖学	研究教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
遠藤 玉夫	東京都健康長寿医療センター	副所長	研究の立案, 指導
三浦 ゆり	東京都健康長寿医療センター	研究副部長	プロテオーム研究の指導, 遂行
千葉 優子	東京都健康長寿医療センター	副部長	プロテオーム研究の指導, 遂行

### キーワード

糖尿病, O-GlcNAc, 複合糖質, 糖鎖生物学, グライコプロテオミクス

### 研究分野

組織化学

#### 1. 共同研究の目的

これまで我々は、細胞質の糖修飾 (O-GlcNAc 化) 異常タンパク質の解析を行い、糖尿病に伴い腎臓において細胞骨格タンパク質であるアクチン、チューブリン、アクチニンなどに顕著な O-GlcNAc 修飾の変化が生ずることを明らかにしてきた。さらに本研究では、糖尿病及び合併症により発現変動する O-GlcNAc 化蛋白質をプロテオミクスと免疫組織化学法により網羅的に解析し、糖尿病の診断、治療に役立つ新規マーカーとなる蛋白質を明らかにする。

#### 2. 共同研究の内容・計画

糖尿病モデル動物の腎臓、神経、網膜、膵臓、血液 並びにヒトの組織と血液を用いて、O-GlcNAc の修飾が変化する蛋白質を調べる。さらに変動の認められたタンパク質について局在の変化を免疫組織化学的に検討する。この際、東京都健康長寿医療センター研究所プロテオミクス共同センターに設置されている機器および本学の共同研究施設の LC-MS (LTQ-Orbitrap Velos) を使用してプロテオーム解析を行う。

#### 3. 研究成果 (経過)

腎臓におけるリン酸化アクチンと O-GlcNAc 化アクチンの役割を解明することを目的に、アクチンのアミノ酸配列の中で O-GlcNAc 化とリン酸化の修飾が競合して起こるセリン残基の一つに注目し、リン酸化ペプチドおよび O-GlcNAc 化ペプチドを抗原として特異的抗体を作製し、この抗体を用いて免疫組織化学的にラット腎臓におけるリン酸化アクチンと O-GlcNAc 化アクチンの局在を調べた。その結果、リン酸化アクチンと O-GlcNAc 化アクチンは糸球体上皮細胞の細胞質のみならず核に局在すること、また尿管上皮細胞の核や微絨毛に局在することが明らかになった。さらに、培養糸球体上皮細胞を用いて局在を比較検討した。さらに糖尿病性腎症のヒト腎臓における糖修飾アクチンの発現の変化について免疫組織化学的に解析した。

## 15. ヒト唾液由来エクソソームの機能解析に関する研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
秋元 義弘	医学部顕微解剖学	研究教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
矢ノ下 良平	帝京平成大学	教授	研究の統括
小川 祐子	帝京平成大学	准教授	エクソソームの単離, 成分解析
三浦 ゆり	東京都健康長寿医療センター	研究副部長	プロテオーム解析

## キーワード

唾液, エクソソーム, 生体防御機構, 電子顕微鏡解析

## 研究分野

組織化学

## 1. 共同研究の目的

エクソソームは細胞から分泌される直径 30-100 nm の小胞である。これまで申請者らはヒト唾液にエクソソームが大量に存在することを見出し、プロテオーム解析およびトランスクリプトーム解析により、その性状を明らかにしてきた。唾液は単に食物消化に必要なだけでなく、外界から細菌などの異物が体内に侵入するのを防ぎ口腔内衛生環境を保つための重要な生体防御成分である。本研究の目的は、唾液エクソソームの生体防御機能について免疫系細胞に対する生物学的作用を明らかにすることである。

## 2. 共同研究の内容・計画

①唾液エクソソーム中に含まれる RNA を蛍光標識し、各種培養細胞への取り込みを蛍光顕微鏡や FACS 等で観察する。エクソソームの RNA 由来のタンパク質の発現はウェスタンブロッティングや、免疫蛍光染色で確認する。②野生型のマウスの口腔に蛍光標識したエクソソームを取り込ませ、一定時間経過後にマウスを無苦痛処理により殺処分し、消化管等から蛍光を指標にエクソソームの分布を検出する。エクソソームが集積している臓器、組織については組織切片を作成して、細胞内での局在を検討する。

## 3. 研究成果（経過）

研究成果（経過）：細胞外小胞(extracellular vesicles, EVs)は近年、新しい細胞間情報伝達機構として注目されている。我々はヒト唾液のゲルろ過クロマトグラフィーにより、サイズおよび構成成分の異なる 2 種類の EVs(EV-I、EV-II)を見いだした。いずれの EVs にも、EVs の一種である exosome のマーカータンパク質が検出されているが、それぞれの電顕写真では様々なサイズの小胞が存在する。そこで、2 種類の膜小胞をそれぞれ段階的に遠心し、性状を検討した。

EV-I 画分の 20k-ppt および EV-II 画分の 100 k-ppt に EVs が存在し、両者から exosome マーカータンパク質である Alix と TSG101 が検出された。EV-I 画分の 20k-ppt からは特徴的なタンパク質として ezrin、Annexin A1 およびアミノペプチダーゼ N (APN) が検出され、平均粒子径は 145 nm であった。EV-II 画分の 100k-ppt からは特徴的なタンパク質として CD9、IgA およびジペプチジルペプチダーゼ IV (DPP IV) が検出され、平均粒子径は 66 nm であった。EV-II 画分は遠心後のタンパク質の 50%が 100 k-sup に存在し、主成分は IgA や mucin 5B などのタンパク質であった。

## 16. トランスポーター遺伝子変異と尿酸代謝異常

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
櫻井 裕之	医学部薬理学	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
市田 公美	東京薬科大学	教授	研究総括
藤田 恭子	東京薬科大学	講師	変異体の作製、輸送実験
三輪 裕幸	東京薬科大学	助教	発現細胞の作製、輸送実験
木村 徹	医学部薬理学	学内講師	トランスポーター遺伝子解析
田中 弦	医学部薬理学	助教	卵母細胞での発現、輸送実験

### キーワード

尿酸, トランスポーター, 高尿酸血症, 低尿酸血症

### 研究分野

薬理学

#### 1. 共同研究の目的

血清尿酸値は、尿中への尿酸排泄能と尿酸産生量によって決定される。尿酸は、腎臓に発現する種々のトランスポーターにより再吸収、分泌が行われることが報告されてきた。しかし、それぞれのトランスポーターが実際の腎尿酸輸送に寄与するのかは十分に明らかにされていない。本研究では、現実におこりうる尿酸動態異常の機序を明らかにする。

#### 2. 共同研究の内容・計画

尿酸代謝異常疾患を持つ患者の末梢血からゲノム DNA を抽出する。目的とするトランスポーター遺伝子のエクソンおよびエクソン-イントロン境界領域を増幅できるプライマーを設計し、ダイレクトシーケンシング法により塩基配列を決定する。当該遺伝子に変異ないしアミノ酸置換を伴う多型が同定された場合には、**site-directed mutagenesis** 法により、患者において同定された変異を持つトランスポーター遺伝子を作成し、適切な遺伝子発現系（アフリカツメガエル卵母細胞、あるいはほ乳類培養細胞）を用いてその尿酸輸送活性を測定する。

#### 3. 研究成果（経過）

血清尿酸値は、尿中への尿酸排泄能と尿酸産生量によって決定される。尿酸は、腎臓に発現する種々のトランスポーターにより再吸収、分泌が行われることが報告されてきた。しかし、それぞれのトランスポーターが実際の腎尿酸輸送に寄与するのかは十分に明らかにされていない。本研究では、現実におこりうる尿酸動態異常の機序を明らかにすることを目的とし、東京薬科大学で発見された変異尿酸トランスポーターをアフリカツメガエル卵母細胞に発現させて、輸送能を解析した。

## 17. 多発性嚢胞腎に対する抗アミノ酸トランスポーター療法の検討

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
櫻井 裕之	医学部薬理学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
西尾 沙織	北海道大学	講師	モデルマウスの解析
木村 徹	医学部薬理学	学内講師	モデル細胞の解析

## キーワード

多発性嚢胞腎, LAT1

## 研究分野

薬理学

## 1. 共同研究の目的

遺伝性腎疾患のなかで最多の末期腎不全の原因となる多発性嚢胞腎に対して、がんに対しての有効性が報告されている L 型アミノ酸トランスポーター阻害薬 JPH203 が有効であるかを検証する。

## 2. 共同研究の内容・計画

北大西尾氏の所有する多発性嚢胞腎モデルマウスに JPH203 を投与して疾患の進行を抑制できるか評価する。本学薬理学教室では、すでに入手済みの多発性嚢胞腎モデル尿細管細胞を JPH203 存在下で培養し、細胞内信号伝達経路への影響を調べ、有効性のメカニズムを解明する。予備実験では嚢胞形成の抑制が認められたので、投与量や投与期間の影響をさらに検討する。

## 3. 研究成果（経過）

遺伝性腎疾患のなかで最多の末期腎不全の原因となる多発性嚢胞腎に対して、L 型アミノ酸トランスポーター阻害薬 JPH203 が有効であるかを検証する目的で、モデルマウスとモデル細胞により実験を行った。(1) 腎嚢胞細胞へのロイシン取り込みは主に LAT1 によって行われていた。(2) ADPKD モデルマウスに BCAA を負荷すると嚢胞の増大が加速した。(3) LAT1 特異的阻害薬 JPH203 の投与により ADPKD モデルマウス由来の腎尿細管細胞の増殖が抑制された。(4) LAT1 特異的阻害薬 JPH203 の投与により ADPKD モデルマウスの腎嚢胞形成と腎腫大が抑制された。の成果が上がり、杏林大と北大共同で特許出願に至った（特願 2019-190112）。



## 18. 尿路悪性腫瘍に対するアミノ酸トランスポーター阻害療法の基礎的検討

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
櫻井 裕之	医学部薬理学	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
澤崎 晴武	多摩北部医療センター	医長	細胞培養, 生化学的解析

### キーワード

尿路悪性腫瘍, 化学療法, アミノ酸トランスポーター

### 研究分野

腫瘍薬理学

#### 1. 共同研究の目的

尿道癌、膀胱癌などの尿路悪性腫瘍は、手術適応でなくなると予後が悪い。腫瘍細胞特異的に発現する LAT1 を標的とした治療が有効であるか、そうであるならメカニズムについて検討する。

#### 2. 共同研究の内容・計画

様々な尿路悪性腫瘍の細胞株を入手し、シスプラチン耐性株を樹立する。親株と耐性株についてアミノ酸トランスポーター LAT1 の発現を RTPCR やウエスタンブロット、免疫染色にて評価する。

それらの細胞株が、LAT1 を標的とした阻害薬で細胞株の増殖が阻害されるかを検討する。特に親株と耐性株につき、アミノ酸トランスポーター阻害療法への感受性に差があるかに注目して評価を行う。

#### 3. 研究成果（経過）

膀胱がんの細胞株を入手し、アミノ酸トランスポーターLAT1 の発現を調べた。LAT1 の競合的阻害薬 JPH203 でアミノ酸の取り込みは抑制されるが、LAT1 の発現がみられない細胞株があった。北多摩での手術症例の解析で、膀胱がんは LAT1 の発現がみられることがわかった。

膀胱がんにおいても LAT1 は腫瘍の悪性化や進展に関与している可能性が示唆された。

## 19. 包括的腸管細菌叢解析に基づく5-アミノサリチル酸の抗炎症作用機序の解明

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
久松 理一	医学部消化器内科学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
三好 潤	医学部消化器内科学	学内講師	マウス腸内細菌叢解析および免疫学的解析
和田 晴香	医学部消化器内科学	大学院生	マウス腸内細菌叢解析および免疫学的解析
日比 紀文	北里大学	センター長・特任教授	SPF および無菌動物飼育・実験
小林 拓	北里大学	副センター長・特任准教授	SPF および無菌動物飼育・実験
竹内 修	北里大学	部長補佐	SPF および無菌動物飼育・実験

## キーワード

腸管細菌叢, 5-アミノサリチル酸, 炎症性腸疾患

## 研究分野

消化器内科学

## 1. 共同研究の目的

炎症性腸疾患(IBD)患者数は増加傾向にあり、安全、有効かつ経済的な治療法の開発はきわめて重要な医学的、社会的課題である。その病態はまだ解明されていないが、腸管微生物叢(microbiota)が大きな役割を果たしていると考えられている。また、5-アミノサリチル酸(5-ASA)はIBDに対する治療薬として広く用いられているが、その作用機序は明らかではない。本共同研究では、5-ASAによる腸管 microbiota の変化を解析し(目的1)、その抗炎症効果を in vivo で評価する(目的2)とともに、その作用機序を探求する(目的3)ことを目的とする。

## 2. 共同研究の内容・計画

目的1について、5-ASAによる腸管 microbiota の変化を解析するために、SPF環境下マウスに5-ASAを経口摂取させて糞便中DNAを経時的に解析する。目的2について、5-ASAにより変化した腸管 microbiota を SPF環境下のデキストラン硫酸ナトリウム(DSS)誘導性腸炎マウスモデルに移入することにより、治療効果を検討する。さらに、無菌マウスに5-ASAにより変化した腸管 microbiota を移入・定着させた後に、DSS感受性を評価することにより、腸炎に対する予防効果も評価する。目的3については、目的1で得られた結果をもとに有効性に関与する微生物、代謝物の同定を目指すとともに、マウスの免疫状態の変化も解析する。

## 3. 研究成果(経過)

4週齢のSPF環境飼育マウス(野生型C57BL/6)を雌雄各10匹用意し、腸管微生物叢の均一化を図るため床敷を8週齢までの4週間にわたって週2回混合した。この手法は我々の既報に基づく(Miyoshi et al. PeerJ 2018)。8週齢に至ったマウスを雌雄それぞれ2群に分け、5-ASA投与群、無投与(対象)群とした。5-ASA投与群には、粉状通常餌に5-ASAを0.4%(重量)を加えた。対象群では、粉状通常餌のみを与えた。4週間の観察期間において、毎週、各マウスの体重測定を含む健康状態の確認および糞便回収を行った。観察期間内で5-ASA群に特記すべき有害事象は認められなかった。観察終了時点で全てのマ

ウスを解剖し、組織試料を採取した。全てのマウスの観察期間0週(5-ASA投与開始時)、2週および4週の糞便検体について、DNA抽出を行い、現在、16S rRNA gene amplicon sequencingを実施中である。回腸末端、近位結腸、遠位結腸については、組織学的評価のため、H&E染色切片を作成した。また電子顕微鏡による評価も顕微解剖学教室にご協力いただき、あわせて行っている。その他の組織試料は、解剖時に液体窒素で凍結したものを-80℃で保管しており、さらなる解析に使用予定である。

## 20. ディフィシル菌腸炎における糞便移植療法に変わる創薬への試み

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
米澤 英雄	医学部感染症学	講師	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
今井 健一	日本大学	教授	口腔マイクロビオータ解析

## キーワード

クロストリディウム・デフィシル, 口腔内マイクロビオータ, 腸内マイクロビオータ

## 研究分野

細菌学

## 1. 共同研究の目的

*Clostridium difficile* 腸炎は抗菌薬などの使用により、腸内マイクロビオータ細菌構成が異常を起こすことで発症する。近年、*C. difficile* 腸炎の治療法として糞便移植が脚光を浴びているが、有効な菌種構成については未確立である。本研究は、口腔内細菌が産生する抗菌物質（バクテリオシン）が及ぼす口腔内および腸内マイクロビオータへの影響を解析し、最終的には *C. difficile* の定着・増殖を阻害するような細菌を同定することを目的とする。

## 2. 共同研究の内容・計画

口腔内う蝕原因細菌である *Streptococcus mutans* は強い抗菌活性を示すランチオテックスバクテリオシン（LB）を産生する株が存在する。LBはその強い抗菌活性を保ったまま腸管へととり着き、腸内マイクロビオータの攪乱を起こす可能性が示唆された。また *C. difficile* を保菌者は口腔内に LB 産生細菌を保菌する確率が高いことを見出していることから、LB が腸内マイクロビオータを攪乱することで *C. difficile* が定着しやすい環境が出来ている可能性が考えられる。そこで本年度は *C. difficile* および LB 産生細菌の保菌および非保菌の腸内マイクロビオータ解析の比較検討より、*C. difficile* の定着・増殖を阻害するような細菌を同定する。また口腔内で産生された LB の腸内および口腔内マイクロビオータに与える影響についても検討を行う。

## 3. 研究成果（経過）

ランチオテックスバクテリオシン（LB）は、異常アミノ酸を含むランチオニンと呼ばれる環状構造を有し、グラム陽性細菌に強い抗菌活性を示す抗菌性ペプチドである。口腔内には LB を産生する細菌が数種類存在する。本研究では口腔に LB を産生する細菌を保有するヒトの腸内細菌叢を解析し、LB 産生細菌非保菌者との比較検討を行った。最初にう蝕原因細菌 *Streptococcus mutans* が産生する LB が腸内細菌叢を構成する細菌に抗菌活性を示すこと、さらに熱、酵素、酸処理に耐性を示すことを明らかとすることで、ヒトの口腔で産生された LB がその抗菌活性に影響を受けることなく腸管へ達する可能性を示した。次にヒトの腸内細菌叢解析より、LB 産生細菌を保有するヒトは腸内細菌叢の多様性が減少すること、減少するのは大多数をグラム陽性細菌が占める *Firmicutes* 門であることを明らかとした。さらにマウスに LB を産生する細菌の培養上清を経口投与することで、ヒトと同様に腸内細菌叢の多様性減少と、*Firmicutes* 門細菌の有意な減少が認められた。ヒトの腸内細菌叢の *dysbiosis* は、肥満や糖尿病、炎症性腸疾患などの全身疾患だけでなく自閉症などの神経系疾患の原因となることが明らかとされている。本研究結果は口腔内に LB 産生細菌を保有することが腸内細菌叢の *dysbiosis* を誘導する原因の1つとなることを示した。

## 21. 大脳皮質視覚野に可塑性を促す新しい視覚機能回復法

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
中島 剛	医学部統合生理学	学内講師	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
小宮山 伴与志	千葉大学	教授	実験実施時のアドバイス・指導等
大木 紫	医学部統合生理学	教授	実験実施時のアドバイス・指導等
寺尾 安生	医学部細胞生理学	教授	実験実施時のアドバイス・指導等
有安 諒平	医学部統合生理学	大学院生	実験実施・データ解析等
寺田 さとみ	医学部細胞生理学	助教	実験実施・データ解析等
入江 駿	医学部統合生理学	大学院生	実験実施・データ解析等

### キーワード

大脳皮質視覚野, 可塑性誘導, 視覚障害, 神経リハビリ

### 研究分野

臨床神経生理学

#### 1. 共同研究の目的

本共同研究の目的は、ヒト非侵襲的脳刺激法を用い、新しいコンセプトの視覚機能回復法を開発する。特に本課題では、① 視覚情報を受け取る脳領域（大脳皮質視覚野）の活動を、外部刺激（視覚刺激および経頭蓋的磁気刺激法）によって励起・長期増強させ、② 障害によって減衰した視覚入力を脳内で“増幅・強化”しようとするものである。今回は、視覚要素の中でも、とりわけ色覚の機能回復に焦点を絞る。具体的な研究内容は、我々が今まで培ってきた健常晴眼者での視覚野賦活法の基礎研究をベースに千葉大学と連携し、視覚障害患者への適応可能性と視覚機能回復について詳細な検討を行うものである。

#### 2. 共同研究の内容・計画

本研究内容と計画は、視覚要素の中でも、とりわけ色覚能を標的に研究を進める予定である。今回は、各種色彩刺激と視覚野への経頭蓋的磁気刺激を組み合わせた“連合性刺激”を繰り返すことにより、視覚野に可塑性誘導（シナプス増強）できるのか、について検討する。一般的なシナプスの性質から、ニューロンが強く活性化している時に入力が入ると、入力が入ったシナプスで効率増強が生じる。本研究課題では、視覚刺激による入力により視覚野ニューロンを活性化させ、その最中、タイミングよく、皮質視覚野直上へ経頭蓋的磁気刺激を行う。そして、その連合性刺激を繰り返すこと(1Hz, 5-20分程度)で、標的とする視覚経路の選択的増強が観察され、その効果がどの程度継続するのか確認する。これらの検討ののち、本介入手法が視機能改善に貢献するかを検討する。主に、賦活した色彩視に関連する視覚機能を定量的に評価する。

#### 3. 研究成果（経過）

本研究は、ヒト非侵襲的脳刺激法を用い、新しいコンセプトの視覚機能回復法を開発する。特に本課題では、① 視覚情報を

受け取る脳領域（大脳皮質視覚野）の活動を、外部刺激（視覚刺激および経頭蓋的磁気刺激法）によって励起・長期増強させ、  
② 障害によって減衰した視覚入力を脳内で“増幅・強化”しようとするものである。特に、視覚要素の中でも、とりわけ色覚の機能回復に焦点を絞る。

今回は、各種色彩刺激と視覚野への経頭蓋的磁気刺激を組み合わせる“連合性刺激”を繰り返すことにより、視覚野に可塑性誘導（シナプス増強）できるのか、について検討を行った。被験者（健常成人 31 名）は、安楽椅子に座り、LED ゴーグルによる色刺激（青色）と経頭蓋的磁気刺激（TMS, 皮質視覚野直上）による連合性刺激の繰り返し刺激（RCS）を 5 分間（1 Hz, 300 回）行った。

その結果、RCS 後、青色刺激により脳波上に誘発される視覚誘発電位の大きさ（N1-P1 成分）は、RCS 前に比して、1 時間程度、有意に増強した（長期増強効果）。興味深いことに、青色刺激単独、TMS 単独刺激の繰り返しでは、N1-P1 振幅の長期増強は確認されなかった。よって、今回の長期増強効果は、色刺激と TMS の連合性刺激が重要であることがわかった。また、青色刺激による RCS 後、赤色刺激による VEP 振幅の増強は確認されなかった。N1-P1 成分の起源は、一次視覚野であるとされている。よって、RCS は視覚経路、特に、一次視覚野ニューロン系を色彩選択的に可塑性誘導できる可能性があることがわかった。今後は、色覚異常を有する方や弱視患者への適応可能性等について検討する予定である。

## 22. ヒト脊髄内の代替神経システムを強化する新しい運動機能回復戦略

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
中島 剛	医学部統合生理学	学内講師	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
小宮山 伴与志	千葉大学	教授	実験実施時のアドバイス・指導等
四津 有人	茨城県立医療大学	准教授	実験実施・データ解析等
大木 紫	医学部統合生理学	教授	実験実施時のアドバイス・指導等
市村 正一	医学部整形外科学	教授	実験実施時のアドバイス・指導等
小西 一斉	医学部整形外科学	専修医	実験実施・データ解析等
渋谷 賢	医学部統合生理学	講師	実験実施・データ解析等

### キーワード

錐体路, 脊髄介在ニューロン, 可塑性誘導, 脊髄障害, 神経リハビリテーション

### 研究分野

臨床神経生理学

#### 1. 共同研究の目的

脊髄障害後、脳から脊髄への運動系下行路の再建は、運動機能の回復を促す重要な神経基盤となる。本研究は、ヒト脊髄内に代替神経システムを再構築する、新たな神経リハビリテーション法を開発する。特に、代替経路の主役となりうる、介在ニューロン系を介した運動経路を外部刺激等により強化し、障害脊髄を神経バイパスする運動機能回復法の確立を目指す。本課題では、我々が今まで培ってきた健常成人での脊髄賦活化研究をベースに、1. 脊髄障害患者における適応可能性と、2. 上肢巧緻運動の機能回復について詳細に検討する。

#### 2. 共同研究の内容・計画

現在、我々は、健常者を対象に、介在ニューロン系にシナプス増強効果（LTP）促す非侵襲的脊髄刺激法（錐体路と末梢神経への組み合わせ刺激の繰り返し）を開発している。これは海馬等で知られている LTP 効果を脊髄に応用したものである。今回は、これに他の手法を組み合わせ、簡略で更に長期的に増強効果が得られる、ハイブリッド型神経リハビリテーション法を開発を目指す。具体的には、脊髄介在ニューロンに持続的に入力を与えることが知られている 1. 筋への感覚入力（筋への振動刺激等）や 2. 身体の傾く感覚を誘導する前庭感覚刺激、さらには、3. 麻痺筋への運動イメージ・随意努力などを駆使するものである。まず、健常者で本手法の増強効果と最適な刺激パラメータ等を検討し、その後脊髄障害患者への応用可能性を探る。そして、本研究で開発した介入手法が、当該患者の上肢運動機能改善に有効かどうかについて検討をおこなう。この効果判定には、運動機能評価や電気生理学検査、さらには上肢巧緻運動（物体に腕を伸ばす運動や物体把持運動）の運動解析等も行う。

### 3. 研究成果（経過）

脊髄障害後、脳から脊髄への運動系下行路の再建は、運動機能の回復を促す重要な神経基盤となる。本研究は、ヒト脊髄内に代替神経システムを再構築する、新たな神経リハビリテーション法を開発する。特に、代替経路の主役となりうる、介在ニューロン系（INs）を介した運動経路を外部刺激等により強化し、障害脊髄を神経バイパスする運動機能回復法の確立を目指す。我々は、今までに、ヒト頸髄 INs にシナプス増強効果（LTP）促す非侵襲的脊髄刺激法（錐体路と末梢神経への組み合わせ刺激の繰り返し、RCS）を開発した。ただし、この増強効果の持続時間は1時間程度と短く、臨床応用を目指すにはさらにその効果を持続させる必要があった。そこで、本年度は、RCSの刺激条件、特に、刺激頻度と刺激時間に着目し、LTP効果の変化について検討を行った。

被験者（健常成人23名）には、弱い肘屈曲による上腕二頭筋の持続収縮を行わせ、その間に錐体路と末梢神経への組み合わせ刺激（CS、刺激間隔10ミリ秒）を行った。刺激時間に関する実験では、5秒に1回の頻度で、2.5、5、7.5、10分間、RCSを与えた。さらに刺激頻度に関わる実験では、0.2、0.5、1.0、2.0 Hzの頻度で60回のRCSを与えた。その結果、刺激時間・刺激頻度に依存して、上腕二頭筋の筋電図上に得られる運動誘発電位（MEP）の大きさと持続時間は、RCS後、有意に増大した。これらの結果から、RCSの頸髄INsへのLTP効果は、刺激頻度および刺激時間に依存して増強することがわかり、至適刺激パラメータの確立への基礎データが得られた。



## 23. 熱傷創に対する脂肪由来幹細胞（ADRC）の有効性及び安全性の検討

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
山口 芳裕	医学部救急医学	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
樽井 武彦	医学部救急医学	臨床教授	動物及び基礎実験の施行・結果解析
海田 賢彦	医学部救急医学	助教	動物及び基礎実験の施行・結果解析
朝日 通雄	大阪医科大学	教授	動物及び基礎実験の施行・結果解析
伊井 正明	大阪医科大学	講師	動物及び基礎実験の施行・結果解析

### キーワード

熱傷治療, 脂肪由来幹細胞（ADRC）, 創傷治癒, 安全性

### 研究分野

再生医療

#### 1. 共同研究の目的

ヒト脂肪由来幹細胞(ADRC)の熱傷創に対する治療効果と安全性を検討する。

#### 2. 共同研究の内容・計画

内容) 熱傷治療において ADRC の有用性と安全性を確認するために、小動物（マウス）と大動物（ブタ）を用いた動物実験を、大阪医科大学薬理学教室との共同研究として施行中。

計画) 実験 1) ヒトの脂肪吸引から得られた脂肪組織を原料とし、Cytori 社製 Celution を用いて ADRC を分離し、ヌードマウスの熱傷モデルに皮下注射して、熱傷創に対する有効性を評価した。動物実験は大阪医科大学の動物実験施設にて行った。

実験 2) ADRC を用いた *in vitro* の基礎実験も施行中（大阪医科大学および杏林大学にて施行）。現在上記の実験で得られた治験を論文投稿中。必要な追加実験を施行予定である。実験期間は、今後約 6 ヶ月～1 年間の予定である。

#### 3. 研究成果（経過）

前年度までにヒトの脂肪吸引から得られた脂肪組織から分離した凍結保存した ADRC を、ヌードマウスの熱傷モデルに局所投与し、熱傷創に対する有効性を確認していた。当初 ADRC と他の細胞との有効性に関する比較実験や臨床応用を踏まえた大動物での安全性を評価する予定であったが、米国の Foubert のグループから大動物における ADRC の有効性及び安全性に関する報告があり、4 月に大阪医科大学と協議し、熱傷創に対する ADRC の有効性と安全性の検討に関する共同実験は継続せず中止とした。

## 24. 熱傷創のデジタル写真画像を用いた面積及び深達度評価手法の検討・検証と診療支援ツールの開発研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
山口 芳裕	医学部救急医学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
田中 敏幸	慶應義塾大学	教授	画像解析全般
海田 賢彦	医学部救急医学	助教	画像と臨床上の情報リンク等
守永 広征	医学部救急医学	助教(任)	研究責任者, 研究全般
加藤 聡一郎	医学部救急医学	専修医	研究全般

## キーワード

写真画像, 熱傷面積, 熱傷深達度, 診療支援

## 研究分野

熱傷, 医用工学

## 1. 共同研究の目的

デジタル写真画像を用いて、正確な熱傷面積及び熱傷深達度を評価する手法を検討・検証し、重症度に応じた適切な熱傷診療を支援するための情報提供ツールを開発する。臨床医学領域（熱傷診療の専門性や特殊性）と医用工学領域（人体計測および画像解析技術等）の共同研究体制が必要であり、杏林大学医学部救急医学と慶應義塾大学理工学部物理情報工学科信号・画像処理研究室で協力して行う。

## 2. 共同研究の内容・計画

後向きに収集したデジタル写真画像を基に、全身を対象とした広範囲と、比較的狭い範囲を対象とした局所の画像に分けて研究を行う。解析に必要な条件を満たした熱傷創の画像、計 30 症例分を対象とする。広範囲画像を用いて、全身の熱傷面積率および熱傷深達度を自動で評価・概算する技術を検討する。局所画像を用いて、同一部位撮影画像の経時変化から、熱傷皮膚面積／健常皮膚面積の比を抽出するための評価手法を検討する。最終的に、撮影→解析→情報提供を一連の流れで遂行する前向き調査用プロトタイプの実現を目指す。体表面積や熱傷面積等の誤差が少ない計測手法で、臨床研究に耐えうる機能を達成する。

## 3. 研究成果（経過）

過年度において、解析に必要な条件を満たした熱傷創のデジタル写真画像（後向きに収集）計 30 症例分から、解析対象とする症例を選定した。熱傷専門医およびそれに準ずる医師によって、写真画像から熱傷創およびその深達度を評価しエリア分けを行った。これをもとに、全身を対象とした広範囲と、比較的狭い範囲を対象とした局所の画像に分けて画像解析を実施した。いくつかの研究実績を達成し、これらの結果について SICE 2017 conference や IIARS 2017 conference で報告を行った。IIARS 2017 conference では優秀研究発表賞を受賞した。

本年度は、研究責任者の留学等と重なったことで具体的な研究は実施できなかったが、本研究の成果を今後の発展に繋げるための打ち合わせを行い、追加症例を加えた新規研究に移行する形で、本研究を終了するに至った。

## 25. ラット/カイコ) -ハイブリッド Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase の K<sup>+</sup>親和性

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
丑丸 真	医学部科学	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
誉田 晴夫	医学部科学	非常勤講師	Na <sup>+</sup> /K <sup>+</sup> -ATPase の生化学的性質の分析
原 諭吉	東京医科歯科大学	客員教授	カイコ及びラット Na <sup>+</sup> /K <sup>+</sup> -ATPase の培養細胞内発現

### キーワード

Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase カイコ, ラット, 培養細胞

### 研究分野

生化学

#### 1. 共同研究の目的

Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase は動物細胞膜に存在する膜たんぱく質であり、その構成サブユニットα及びβ鎖を介して細胞内 Na<sup>+</sup>を細胞外へ、細胞外 K<sup>+</sup>を細胞内へ能動輸送している。これまでの研究によって、Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase の K<sup>+</sup>親和性をコントロールしているのはα鎖ではなくβ鎖であることを示してきた。平成 30 年度は、ラット Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase とカイコ Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase のハイブリッド Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase を用いて、われわれの仮説をさらに補強する。

#### 2. 共同研究の内容・計画

Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase の K<sup>+</sup>親和性をコントロールしているのはα鎖ではなく、β鎖であるとの仮説を直接実証するため、哺乳類よりも親和性が著しく K<sup>+</sup>親和性が低いカイコ Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase と、ラット Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase のα鎖、β鎖を用い、内因性 Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase を持たないカイコ卵巣由来培養細胞に(ラット/カイコ)ハイブリッド Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase を発現させ、その K<sup>+</sup>に対する親和性を比較定量する。昨年度は(カイコα/ラットβ)-Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase と(ラットα/カイコβ)-Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase を構築して K<sup>+</sup>親和性を測定し、これまでの結果を示唆する結果を得た。平成 30 年度は、(ラットα/ラットβ)-Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase のデータを加えて、これまでの研究をまとめる。

#### 3. 研究成果(経過)

チョウ目昆虫であるカイコの Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase は、哺乳類 Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase と比べ K<sup>+</sup>に対する親和性が 6・10 倍低い。Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase を構成するαおよびβ鎖の 1 次構造比較によって、α鎖のホモロジーはカイコと哺乳類では 70%以上あるのに対し、β鎖では 30%以下しかないことをすでに明らかにしてきた。そこで本実験では、カイコ Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase のαおよびβ鎖(野生型)と、カイコα鎖とラットβ鎖(ハイブリッド型)から成る Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase を、内因性 Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase を持たないカイコ卵巣由来培養細胞に発現させ、その Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase の K<sup>+</sup>親和性を調べた。その結果、ハイブリッド型 Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase の K<sup>+</sup>親和性は、野生型 Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase のそれよりも約 3 倍上昇した。この結果は「β鎖が Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase の K<sup>+</sup>親和性に関与している」との、これまでの仮説を支持した。

β鎖は糖鎖タンパク質であるが、糖鎖本数およびその構造がカイコと哺乳類の間では異なっていることを既に確認している。本実験でも、ハイブリッド型 Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase のラットβ鎖の糖鎖は、哺乳類型ではなくカイコ型になっていると推定されたが、そのことが K<sup>+</sup>親和性には直接影響していないと示唆された。

26. Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase・四量体分子への強心ステロイド（ウアバイン）の結合

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
丑丸 真	医学部化学		統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
林 雄太郎	千葉科学大学	非常勤講師	四量体標品の単離とウアバイン結合量測定
原 諭吉	東京医科歯科大学	名誉教授	結果の解析・評価
誉田 晴夫	医学部化学	非常勤講師	酵素反応と基質結合の解析

## キーワード

Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase, 四量体, 強心ステロイド, ウアバイン, 協同性

## 研究分野

生化学

## 1. 共同研究の目的

Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase は「細胞の発電所」の機能を持つ、典型的な膜タンパク質である。この発見の 60 年後の昨年、その機能単位の四次構造は、林らにより「四量体」であることが示された。この膜タンパク質とウアバインは、非常に特異的に、強力で結合し、完全に ATPase 活性を阻害する。最近の研究により、体内で作られた「ウアバイン様ホルモン物質」が、本態性高血圧症の原因物質とされている。この研究では、Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase 四量体とウアバインとの結合の、強さ（結合定数）、協同性、可逆性を測定し、従来の知見を再吟味する。それにより、このステロイド結合の生理作用の分子機構解明を目指すものである。

## 2. 共同研究の内容・計画

新規な方法（レクチン親和性クロマトグラフィー法）で、ブタ腎から Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase 四量体を単離する。四量体を、様々な溶液、温度などの条件で、様々な濃度の 3H-ウアバインとインキュベーションした後、ゲルろ過クロマトグラフィーに負荷し、四量体とともに溶出する放射能をラジオクロマト検出器で測定して、ウアバイン結合量を測定する。Scatchard plot 解析により、結合量のストイキオメトリー、結合定数、協同性を測定・評価する。

## 3. 研究成果（経過）

研究経過 4 分子の Protomer (P, 分子量 1.53 x 10<sup>5</sup>) から成る Tetraprotomer (T) 分子が機能単位である、との作業仮説に基づいてこの研究は進められている。従来の精製標品（部分的にどこかが変性したもの）を用いた研究では、1 モル当たりの、P 分子、Diprotomer (D, 2 分子の P から成る) 分子 および T 分子に、Ouabain (Oua) は、それぞれ 1, 2 および 2~3 モル結合して、その ATPase 活性を完全に阻害した（林らの結果）。これは、T 分子を構成する全ての P 体に Oua は結合せずに、その機能を停止させることを示している。従って、P または D 分子の ATPase 活性阻害の機構と、T 分子のそれとは異なることを示していて、Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase の分子機構を明らかにするうえで重要である。林らは、D 分子の X 線結晶構造解析データ（豊島ら）を用いて、T 分子の三次元分子像を 3D-Printing 法で製作した。その分子像からは、T 分子の細胞外に面した場所に存在する Oua 結合部位はほとんど塞がれ、Oua の結合は、T 構造が固定されている限り不可能である。従って、研究の焦点を当てるべきは、T 分子へ Oua はなぜ結合できるのか、および化学量論量未満の結合でなぜ Oua は、T 分子の機能を完全に停止できるのか、である。

新しい方法で単離した（従来標品より native な）T 分子を使って、「酵素活性の発現状態のように、コンホメーションを動的

に変化させた時に初めて、Oua は T 分子に結合し、静的にコンホメーションが固定されている状態では、Oua は T 分子に結合しない」との作業仮説のもとに、今後この研究を進める。

## 27. 依存症治療における天然化合物の効果に関する研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
中山 高宏	医学部細胞生理学	助教	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
濱田 博喜	岡山理科大学	教授	有機化合物の合成・修飾

## キーワード

syntaxin1A, KAT3, 天然化合物, 中脳報酬系, 依存症

## 研究分野

神経科学

## 1. 共同研究の目的

本計画では、中脳辺縁神経細胞において *stx1A* 遺伝子の発現誘導を決定している *KAT3* の阻害剤であり香辛料の有効成分として知られる 3 種類の食品天然化合物に着目し、(1)マウス生体内投与により脳内 *stx1A* 発現量を抑制可能であることを明らかにし、(2)ドーパミン合成・分泌阻害による依存症状に対する抑制効果を検証することを目的としている。

## 2. 共同研究の内容・計画

我が国において 2000 万人の罹患者を抱える依存症は、中脳辺縁ドーパミン神経の報酬系亢進によって引き起こされ、ドーパミン機能の阻害により症状が緩和されることが知られている。我々はこれまでに、神経モノアミン伝達に関わる *syntaxin1A* (*stx1A*) 遺伝子の発現量低下が、中脳辺縁系におけるドーパミン分泌抑制を起こすと共に、その発現は神経細胞における *KAT3* ヒストンアセチル化酵素による促進によって神経細胞・組織特異的に発現制御されていることを発見してきた。これらの知見に基づき、生化学・行動学的手法を用いてマウスの依存症状に対する治癒効果を検証する。

## 3. 研究成果（経過）

これまでに神経細胞でのみ *stx1A* プロモーター領域に結合する転写因子を精製し、質量分析、スーパーソフトアッセイ及び ChIP 解析を行ったところ、エピゲノム因子として知られるヒストンアセチル化酵素 *KAT3* の存在を同定してきた。この *KAT3* に対する阻害剤である *curcumin* および *C646* を作用させた結果、逆にそれらが抑制されることを発見してきた。更に *in vivo* における *STX1A* 発現抑制効果を確認する為にマウス腹腔内投与を 3 週間行ったところ、脳における *STX1A* タンパク質の発現量が抑えられることを確認した。また *ECD-HPLC* 解析により中脳におけるドーパミン濃度と分泌後代謝物 *HVA* との比率を求めることによるドーパミン合成・分泌機能を調べたところ、いずれもが低下を示すことも見出してきた。そこで *curcumin* 配糖体を事前投与した際のアルコール嗜好性に与える影響を自由選択試験により検証したところ、アルコールに対する嗜好性が低下することを発見した。今後、他の依存症についても引き続き解析を行う予定にしている。

## 28. 創薬のための統合オミックス解析による難治性ネフローゼの病因・病態探索

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
楊 國昌	医学部小児科学	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
清水 章	日本医科大学大学院	教授	形態観察 病理学的解析

### キーワード

ネフローゼ, 創薬, オミックス

### 研究分野

腎臓学

#### 1. 共同研究の目的

難治性ネフローゼは、末期腎不全の主要原因疾患である。その進展阻止は、医学的および医療経済の見地からも喫緊の課題である。難治性ネフローゼの病変の主座は、腎糸球体上皮障害である。この病理像は、初期には微小変化型、後期には巣状糸球体硬化症であるが、これらの病態のパスウェイは未知である。我々は、糸球体上皮特異的細胞膜蛋白分子である **crumbs2 (CRB2)** 機能異常を介した後天性ネフローゼモデルを樹立した。このモデルは、**CRB2** を介する **outside-in signaling** を発端とする糸球体上皮障害による腎症であり、時間依存性にヒトの微小変化型および巣状糸球体硬化症の病理像を呈する。本研究の目的は、まず統合オミックス解析により、本モデルでの各病型の病態特性、重症度バイオマーカー、ポドサイト内治療標的代謝部位の同定を行うことである。最終目的は、ハイスループットシステムでの探索対象となる治療標的分子群を同定し、抗ネフローゼ薬の創薬を行うことである。

#### 2. 共同研究の内容・計画

リコンビナント **CRB** の1回皮下注にて、4-5週後に100%の確立でネフローゼを発症するマウスモデルを樹立した。リコンビナント **CRB** をさらに作成する。ネフローゼ発症早期（微小変化）と後期（巣状糸球体硬化）の糸球体を単離し、プロテオミクス解析とメタボロミクス解析を行い、**CRB2** リン酸化亢進の下流パスウェイを同定する。同パスウェイに作用する化合物のスクリーニングを行うことで、新規の抗ネフローゼ薬の創薬研究につなげる。さらに、本モデルおよびネフローゼ患者尿中の **CRB2** の同定を行うために、抗 **CRB2** モノクローナル抗体を作成し、**ELISA** を樹立する。ネフローゼ惹起因子の同定として、培養細胞膜上の **CRB2** と結合するネフローゼ患者血清中の液性分子を、質量解析を用いて探索する。

#### 3. 研究成果（経過）

糸球体上皮細胞膜上に発現する **Crumbs2** の **out-side in** 刺激系を発端とする新規のネフローゼモデルマウスを樹立し、その単離糸球体を材料にプロテオーム解析を行った。その結果、ネフローゼ群糸球体において、コントロール群に比して2倍以上の高発現を示した蛋白群は187あり、そのうち、89蛋白（47.6%）はミトコンドリア関連分子であった。これは、糸球体上皮内でのリン酸化消費が亢進し、それに対応すべく、ダイナミックなミトコンドリア機能の代償が発動していることを示唆した。さらに、ネフローゼ糸球体ではアクチンの劇的な重合がみられたことから、**Crumbs2**-アクチン系を仲介する分子の一つ **ezrin** のシグナリングに焦点を当てた。その結果、ネフローゼ発症初期と、**Crumbs2** 発現培養糸球体上皮を用いた再現系において、**ezrin-cofilin** 系の活性化亢進が同定された。今後、この系を標的とする化合物をマウスに投与し、ネフローゼの新規の救済薬としての検証を行う。

一方、**crumbs2** の **out-side in** 刺激を惹起させる結合物の同定を、胸腺ライブラリーを用いた酵母-2-ハイブリッド法にて行った。その結果、ある種の **chemokine(chemokine-X)** を同定した。今後、この **chemokine X** の **ezrin-cofilin** リン酸化亢進能を検

証するとともに、ヒトネフローゼ血漿（血清）におけるその存在の同定を試みる。



## 29. 百日咳菌 BipA のバイオフィーム形成における機能の解析

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
花輪 智子	医学部感染症学	准教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
蒲地 一成	国立感染症研究所	室長	臨床分離株の提供および bipA 遺伝子の解析
大塚 奈緒	国立感染症研究所	主任研究官	臨床分離株の提供および BipA 欠損株の作成とその解析

### キーワード

百日咳菌, バイオフィーム, 定着因子, 臨床分離株, 外膜ベシクル

### 研究分野

細菌学

#### 1. 共同研究の目的

百日咳菌臨床分離株は宿主内でバイオフィームを形成することから本菌の病原性発現に重要であると考えられている。申請者らはこれまで百日咳菌のバイオフィーム形成過程で bipA の転写が顕著に亢進することを見出している。BipA は外膜に局在するタンパク質であり、本菌感染後に抗体が産生されることから宿主内で発現することが確認されているが、その機能は明らかとなっていない。そこで bipA 欠損変異株を用いてバイオフィーム形成における影響や外膜ヴェシクル (OMV) との関連について検討を行い、BipA の機能を明らかにする。

#### 2. 共同研究の内容・計画

百日咳菌臨床分離株では病原遺伝子の保有状況が異なり、多数の百日咳菌臨床分離株を保有している感染症研究所との共同研究により bipA 遺伝子の保有状況を調査する。また蒲地博士らは既にワクチンの製造に使用されている Tohama 株で bipA 変異株を作成していることから臨床分離株の変異株と合わせて解析を進める。

本共同研究により、百日咳菌の病原因子、BipA の機能を明らかにすることで、本菌の感染防御に向けた基礎的解析を行う。

#### 3. 研究成果 (経過)

百日咳菌の外膜タンパク質である BipA は感染伝播に関与していると考えられているが、その機能は明らかにされていない。さらに百日咳の患者血清中に抗 BipA 抗体が検出されることから、宿主内で発現されているものと考えられている。

外膜ベシクルはグラム陰性菌の表層から分泌される小胞であり、これはバイオフィームを構成する成分ともなっている。

これまで固相-液相バイオフィームの形成に BipA が関与していることが報告されていることから、本研究では百日咳菌臨床分離株、ワクチン株の BipA 欠損株を用いて気相-液相バイオフィームの形成、外膜ベシクルの産生を調べた。その結果、どちらも変異による変化がみられなかったことから、これらの性質に BipA が関与していないことが明らかとなった。また、外膜ベシクルに含まれるタンパク質を SDS-PAGE で解析したが、これらのパターンにも違いがないことが明らかとなった。しかしながらバイオフィーム表層の構造には違いが見られたことから、現在バイオフィーム中のタンパク質等の解析を試みている。

## 30. 網膜細動脈瘤破裂に伴う網膜下出血の臨床共同研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
井上 真	医学部眼科学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
森實 祐基	岡山大学	准教授	データ分析, 総括
土居 真一郎	岡山大学	助教	データ収集, 分析
齋藤 翔子	医学部眼科学	専攻医	データ収集

## キーワード

黄斑下出血, 網膜下出血, 網膜細動脈瘤, 硝子体手術, 組織プラスミノゲンアクチベーター

## 研究分野

網膜

## 1. 共同研究の目的

網膜細動脈破裂に合併して網膜下出血を生じることがある。黄斑部に出血がかかった場合には視力低下を伴い硝子体手術が必要になる。内境界膜下出血のみであれば術後の視力予後は良好であるが網膜内出血や網膜下出血を伴う場合には予後不良になると報告されている。しかしこれらの出血の所在が術前所見ではわかりにくいことが多い。そこで岡山大学を含めた多施設共同研究で多数例の検討を行い、術前の検査所見から出血の所在や術後の予後が推測できるか検討する。

## 2. 共同研究の内容・計画

網膜細動脈破裂に合併して網膜下出血を発症し硝子体手術もしくは硝子体内ガス注入を行った症例で術前の光干渉断層計 (Spectralis, Heidelberg もしくは Triton, Topcon) の所見と術中の出血の所見、もしくは術後の光干渉断層計の所見を比較して治療後の最終視力を推測する因子を検討する。

## 3. 研究成果 (経過)

網膜細動脈破裂に合併して網膜下出血を発症し硝子体手術もしくは硝子体内ガス注入を行った症例で術前の光干渉断層計 (Spectralis, Heidelberg もしくは Triton, Topcon) の所見と術中の出血の所見、もしくは術後の光干渉断層計の所見を比較して治療後の最終視力を推測する因子を検討する。現在解析中である。

### 31. Heads up 手術での HDR のタイミングの人工知能による検討

#### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
井上 真	医学部眼科学	教授	統括

#### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
田淵 仁志	ツカザキ病院	主任部長	人工知能モデル作成, 統計解析

#### キーワード

ヘッズアップ手術, 硝子体手術, high dynamic range, 人工知能

#### 研究分野

網膜

#### 1. 共同研究の目的

手術顕微鏡を覗かず手術顕微鏡に掲載されたビデオカメラと 3D モニターを観察しながら手術を行う heads-up 手術が眼科手術でも始まっている。眼内を照明する光量は網膜障害を予防するため限られており、カメラから得られた像は HDR (high dynamic range) 技術により基本的に増幅されモニターに表示される。HDR の副作用として画面が明るくなったり暗くなったりする極端な変化が生じる。HDR は独自のアルゴリズムで使用されるため、画面光量調整の最適化は従来の技術では不可能であった。人工知能 (AI) による動画解析を用いてどのような場面で HDR が機能しているのか、また、最適に HDR を使用方法がないのかを検討する。

#### 2. 共同研究の内容・計画

当院で施行された heads-up 手術で行った硝子体手術の手術ビデオを、個人情報を抹消した後にツカザキ病院人工知能研究チームへ送付する。ビデオから HDR がオンになったときと off になった時を人工知能に学習させ、どのような場面で HDR の切り替えが行われるか、HDR を off にしないように手術を行うにはどのようにしたらよいかを検討する。

#### 3. 研究成果 (経過)

当院で施行された heads-up 手術で行った硝子体手術の手術ビデオを、個人情報を抹消した後にツカザキ病院へ送付する。ビデオから HDR がオンになったときと off になった時を人工知能に学習させ、どのような場面で HDR の切り替えが行われるか、HDR を off にしないように手術を行うにはどのようにしたらよいかを検討する。現在解析中である。

## 32. 非小細胞肺癌から小細胞肺癌への形質転換現象とリプログラミング現象との関連性の検討

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
菅間 博	医学部病理学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
矢澤 卓也	独協医科大学	教授	分子病理学的解析、免疫組織化学的解析
佐藤 華子	独協医科大学	講師	分子病理学的解析、免疫組織化学的解析
藤原 正親	医学部病理学	准教授	分子病理学的解析、免疫組織化学的解析

## キーワード

肺癌, 小細胞癌, 非小細胞癌, 形質転換, リプログラミング

## 研究分野

病理学

## 1. 共同研究の目的

EGFR 遺伝子変異のある肺腺癌患者への Tyrosine kinase inhibitor 投与により、腺癌細胞に小細胞癌への形質転換が惹起されるとの報告が近年相次いで報告されている。また我々は非小細胞肺癌細胞への POU 遺伝子導入により小細胞肺癌への形質転換を起こすことに成功し、その過程でリプログラミング現象が引き起こされていることを *in vitro* において確認した。本共同研究では、複合型小細胞肺癌/大細胞神経内分泌癌組織において、同様のリプログラミング現象が惹起されているか否かについて検討することを目的とする。

## 2. 共同研究の内容・計画

小細胞肺癌、大細胞神経内分泌癌、および複数の組織型を示す神経内分泌肺癌(複合型小細胞肺癌/大細胞神経内分泌癌)の組織切片を用い、リプログラミングに関与する分子の転写産物に対するプローブを用いた *in situ hybridization* を行うことにより、リプログラミング現象の有無について検討する。対照には肺腺癌、肺扁平上皮癌の組織切片を用いる。

## 3. 研究成果(経過)

EGFR 遺伝子変異のある肺腺癌患者への tyrosine kinase inhibitor 投与により、腺癌細胞から小細胞癌への形質転換が惹起されるとの報告が相次いでいる。また、我々は非小細胞肺癌細胞への POU 遺伝子導入により小細胞肺癌への形質転換が起こることを見出し、その過程においてリプログラミング現象が引き起こされていることを *in vitro* 実験により確認しているが、どの非小細胞肺癌細胞にも起こる現象ではない。

そこで、リプログラミング現象を引き起こす必須条件を探索した。具体的には上記 POU 遺伝子 7 種に加え、神経内分泌形質発現に係る遺伝子である ASCL1、ND1、INSM1 を挿入した発現ベクターを作成し、これらを共導入することにより、リプログラミング現象を惹起する必須条件を明らかにした。

### 33. Helicobacter pylori 感染に関する基礎的研究

#### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
大崎 敬子	医学部感染症学	准教授	統括

#### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
米澤 英雄	医学部感染症学	講師	メタゲノム解析
高橋 志達	ミヤリサン製薬株式会社	所長	データ解析補助
岡 健太郎	ミヤリサン製薬株式会社	副部長	データ解析

#### キーワード

Helicobacter pylori, 萎縮性胃炎, 胃内細菌叢

#### 研究分野

感染症学

#### 1. 共同研究の目的

Helicobacter pylori 感染について細菌生態学的研究を行う。本研究期間内には H. pylori 陽感染スナネズミの胃内および腸内細菌叢の解析を実施し、感染症の病態における細菌叢の役割について考察する。本研究により胃炎や胃癌など H. pylori 感染により誘導される疾患の発症メカニズムの一端の解明ならびに H. pylori の定着を抑制する新たなプロバイオティクス細菌の開発につながることを期待される。

#### 2. 共同研究の内容・計画

共同承認後から杏林大学において動物実験の実施、実験サンプル(動物由来)の 16S メタゲノム解析  
2019 年 7 月から 9 月 胃炎の進行と胃内細菌叢の関係について論文投稿用のデータをまとめる。さらに、小腸内細菌叢の役割を明らかにするために、小腸内細菌叢の 16S メタゲノム解析を実施する

#### 3. 研究成果(経過)

Helicobacter pylori 感染について細菌生態学的研究を行った。本研究期間内には H. pylori 陽感染マウスの胃内および腸内細菌叢の解析を実施した。感染症の病態における細菌叢の役割について考察している。本研究により胃炎や胃癌など H. pylori 感染により誘導される疾患の発症メカニズムの一端の解明ならびに H. pylori の定着を抑制する新たなプロバイオティクス細菌の開発につながることを期待される。

また、本研究の一部について、以下の論文に報告した。

Zaman C, Osaki T, Furuta Y, Hojo F, Yonezawa H, Konno M, Kurata S, Hanawa T, Kamiya S: Enhanced infectivity of strains of Helicobacter pylori isolates from children compared with parental strains. J Med Microbiol 68(4):633-641, 2019

## 34. 新規プロバイオティクス候補細菌の培養法の検討

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
大崎 敬子	医学部感染症学	准教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
島田 和典	株式会社マイクロバイオータ	取締役	細菌の同定
蔵田 訓	医学部感染症学	講師	嫌気培養
神谷 茂	医学部感染症学	教授	助言・指導

## キーワード

プロバイオティクス, ビフィズス, アッカーマンシア, フェカリバクテリウム

## 研究分野

細菌学

## 1. 共同研究の目的

腸内常在細菌叢はヒトの健康の維持に密接に関わることが近年の研究から明らかとなっている。一方、抗菌薬の使用や、生活環境の変化、加齢により変動することが知られている。地域ごとにそこで生活するヒトの腸内細菌叢構成にある程度の共通性は示されているものの、個人間で比較した場合にはその構成に明らかな違いが存在している。本研究では腸内常在細菌叢が攪乱された際にその修復を速やかに促す機能を有する、個々のヒトの腸内細菌叢に合わせた、いわゆるテララーメイド型プロバイオティクスの実用化へ向けて、その方法を検討する。

## 2. 共同研究の内容・計画

1. ビフィドバクテリウム属細菌、フェカリバクテリウム属細菌、アッカーマンシア属細菌の、ヒト糞便からの最適な分離培養方法について検討する。  
培養後の菌種同定は、16SrRNA 遺伝子のシーケンスによって行う。
2. 上記細菌が高い生存率を維持できる長期保存方法について検討する。
3. 上記細菌のプロバイオティクスとしての使用に向けた、効率の高い大量培養法について検討を行う。

## 3. 研究成果（経過）

1. ヒト糞便からのビフィドバクテリウム属細菌の最適な分離培養方法について検討した。  
分離培養は既存の TOS プロピオン酸培地で効率よく分離することに成功した。
2. フェカリバクテリウム属細菌のヒト糞便からの最適な分離培養方法について検討している。

### 35. 薬剤耐性菌感染症に対するファージ療法の確立に向けた基礎的研究

#### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
松田 剛明	医学部救急医学	教授	統括

#### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
丹治 保典	東京工業大学	教授	ファージの分離・提供・解析
宮永 一彦	東京工業大学	助教	ファージの分離・提供・解析
神谷 茂	保健学部	教授	ブドウ球菌属菌の解析
大西 宏明	保健学部臨床検査医学	教授	ブドウ球菌属菌の分離・提供
花輪 智子	医学部感染症学	准教授	臨床分離株の解析、ファージの活性測定

#### キーワード

黄色ブドウ球菌, バクテリオファージ, ファージ療法, MRSA, MSSA

#### 研究分野

感染症学

#### 1. 共同研究の目的

クテリオファージ（以下ファージ）は宿主特異性が高く、感染宿主である細菌を溶菌し死滅させる一方で、ヒトの細胞には影響を与えない。現在の細菌感染症の治療は抗菌薬によるものが中心であるが、耐性菌の増加により新たな治療法の開発が必要となっている。

本研究ではファージ療法の確立を目的とし、治療に適したメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）を溶菌するファージのライブラリーを構築する。

#### 2. 共同研究の内容・計画

[研究内容] MRSA 臨床分離株等を用いてファージを単離し、溶菌活性、宿主域等を基にスクリーニングを行い、治療に適したファージライブラリーを構築する。

[計画]MRSA を中心に黄色ブドウ球菌の臨床分離株 120 株の遺伝型、バイオフィーム形成能を検討し、実験に用いる株を選別する。都市下水処理場(東京都)の下水流入水より採取したファージを単離し、スクリーニングにより宿主域の広いファージを得る。さらに病原遺伝子、薬剤耐性遺伝子を含むファージを除き、広い宿主域をもつ安定なファージを選別し、これらの性状について解析を行う。

#### 3. 研究成果（経過）

昨年までの研究成果により、丹治教授らが単離・解析した phiMR003 が、104 株の臨床分離株中、102 株に高い溶菌活性を示し、また用いた 13 株の表皮ブドウ球菌全てに非感受性であったことから患者由来 MRSA に広い宿主域を示すファージであることを明らかにしている。今年度は、マウスの背面に皮膚切除部位を作成し、ファージと MRSA を同時投与することで *in vivo* における効果を調べた。その結果、*in vitro* で高い溶菌活性を示した KYMR116 及び KYMR177 株はどちらも感染 2 日目には 1/105 の菌数低下がみられ、phiMR003 が *in vivo* においても高い溶菌活性を示すことが明らかとなった。特に KYMR117

は PVL 毒素産生株であり、USA300 クローンと同定されている。M R S A は発現する病原因子の種類により病態が異なるが、ファージ投与による菌数の減少、創傷部位の炎症などは菌株に依らずに改善が見られた。

一方、*in vitro* で溶菌活性を示さなかった KYMR58 を感染させ、ファージを投与したところ、1/10 程度の菌数の減少が観察された。組織中好中球の浸潤などには変化が見られなかったものの、傷口の状態の改善が見られ、これはファージが直接の宿主免疫系に作用して影響を与えた可能性が考えられた。



### 36. 妊娠糖尿病における腸内細菌叢の変化

#### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
田中 啓	医学部産科婦人科学	学内講師	統括

#### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
岩下 光利	医学部産科婦人科学	名誉教授	研究デザイン
宮澤 賢司	タカナシ乳業株式会社	商品研究所 チーフ	計測・解析
何方	タカナシ乳業株式会社	商品研究所 所長	計測・解析

#### キーワード

妊娠糖尿病, 腸内細菌叢, インスリン抵抗性

#### 研究分野

産科婦人科学

#### 1. 共同研究の目的

近年、生活習慣病、特に糖尿病と腸内細菌叢との関連が明らかになってきている。妊娠糖尿病は、妊娠中のインスリン抵抗性上昇に伴って、血糖コントロールが悪化する妊娠関連合併症である。妊娠糖尿病を罹患した女性は、将来の糖尿病予備軍とも考えられている。しかし、妊娠糖尿病妊婦と正常妊婦で、腸内細菌叢に違いがあるのかは明らかにされていない。日本人妊婦における妊娠糖尿病の罹患と腸内細菌叢の関係を明らかにする。

#### 2. 共同研究の内容・計画

林大学医学部付属病院産科通院中の妊娠糖尿病妊婦・正常妊婦（20例ずつ）の便検体よりDNAを抽出し、次世代シーケンサーを用いて腸内細菌叢の解析を行い、両者の傾向を比較する。研究の説明、参加登録、検体回収は杏林大学産科婦人科学教室が行う。DNA抽出および次世代シーケンサーを用いた腸内細菌の解析をタカナシ乳業研究所で行う。臨床的な患者情報を含めたデータの分析は杏林大学産科婦人科学教室（研究代表者）が行う。

#### 3. 研究成果（経過）

2018年4月より、研究計画書の通りに研究参加者をリクルートし、40名の参加同意を得た。2019年11月までに予定された検便検体をすべて回収した。回収されたサンプルよりDNAを抽出し、次世代シーケンサーによる計測を行った。2020年1月時点でデータの解析中であり、3月末までの終了予定である。共同研究は計画通り、2020年3月31日で終了する。

## 37. 遺伝子増幅法による呼吸器病原体の遺伝子同定試薬の臨床研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
滝澤 始	医学部呼吸器内科学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
藤田 崇	富士フィルム 和光純薬株式会社	主席研究員	試薬装置評価
皿谷 健	医学部呼吸器内科学	准教授	データ分析, 総括
石井 晴之	医学部呼吸器内科学	教授	データ分析

## キーワード

Mycoplasma pneumoniae, 全自動遺伝子解析装置, マイコプラズマ検出試薬

## 研究分野

呼吸器感染症

## 1. 共同研究の目的

株式会社 富士フィルム和光純薬にてすでに発売されている全自動遺伝子解析装置を用いたマイコプラズマ検出試薬についての試薬装置評価を行う。

## 2. 共同研究の内容・計画

杏林大学にて収集された咽頭ぬぐい液、喀痰の 70 検体を用いて、全自動遺伝子解析装置を用いてマイコプラズマ検出試薬の評価を富士フィルム和光純薬にて行う。各検体は「成人における呼吸器疾患のマイコプラズマ、クラミドフィラを主体とした細菌感染症の関与についての研究」(杏林大学倫理委員会承認番号: H24-080-05)にて収集されたものである。

## 3. 研究成果(経過)

富士フィルム和光純薬よりすでに発売されている全自動遺伝子解析装置を用いて、杏林大学にて収集された咽頭ぬぐい液、喀痰の 70 検体のマイコプラズマ検出試薬装置評価を行う予定だったが、研究方法を見直す必要が生じたため研究を中止致しました。

### 38. 抗マラリア活性化合物の評価研究

#### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
新倉 保	医学部感染症学	講師	統括

#### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
渡邊 信元	理化学研究所	ユニットリーダー	抗マラリア活性化合物の合成

#### キーワード

抗マラリア活性, 化合物, 作用機序, 薬剤開発

#### 研究分野

寄生虫感染症

#### 1. 共同研究の目的

マウスマラリア原虫を用いた化合物の抗マラリア活性等の評価

#### 2. 共同研究の内容・計画

理化学研究所環境資源科学研究センターが独自に開発した化合物 XYZ ならびにそのアナログを、マウスマラリア原虫を感染させたマウスに投与し、化合物 XYZ ならびにそのアナログのマラリア原虫に対する増殖阻害活性及びマラリア感染マウスに対する延命効果等を評価する。さらに、マラリア原虫に対する増殖阻害活性が認められた化合物の作用機序を解明する。

#### 3. 研究成果（経過）

これまでに本学で実施した *in vivo* 評価によって、理化学研究所環境資源科学研究センターが独自に開発した化合物 XYZ は抗マラリア活性を有すること、さらにマラリア原虫の殺滅に効果的な投与プロトコルを見出した。また、本学との共同研究を通じて、化合物 XYZ の標的分子を同定するに至った。今後、化合物 XYZ の作用機序の解明に挑む。

39. 抗マラリア活性化合物の *in vivo* 評価

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
新倉 保	医学部感染症学	講師	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
和田 章	理化学研究所	専任研究員	抗マラリア活性化合物の合成

## キーワード

抗マラリア活性, 化合物, 作用機序, 薬剤開発

## 研究分野

寄生虫感染症

## 1. 共同研究の目的

マラリアのマウスモデルを用いた化合物の抗マラリア活性等の評価

## 2. 共同研究の内容・計画

理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センターで開発された化合物 XL に抗マラリア活性があることが示唆されている。そこで、マラリアのマウスモデルを用いて、この化合物 XL ならびにそのアナログの抗マラリア活性をさらに詳細に解析し、マラリア原虫に対する増殖阻害機構を解明する。

## 3. 研究成果（経過）

理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センターで開発された化合物 XL に抗マラリア活性があることが示唆されている。本学で実施した *in vivo* 評価によって、マラリア原虫の殺滅に効果的な化合物 XYZ の投与プロトコルを見出した。今後、化合物 XL の体内動態の改善やのマラリア原虫に対する増殖阻害機構を解明する予定である。

#### 40. 脂肪組織を基軸とした新たな妊娠マラリア病態発症機構の解明

##### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
新倉 保	医学部感染症学	講師	統括

##### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
福富 俊之	医学部薬理学	助教	タンパク質解析
峯尾 松一郎	東京医科大学	実験助手	組織標本の作成

##### キーワード

マラリア, 妊娠, 重症化, 脂肪組織

##### 研究分野

寄生虫感染症

##### 1. 共同研究の目的

我々が独自に確立した妊娠中のマウスマラリアモデルを用いて、妊娠中のマラリアの病態重症化機序を明らかにする。

##### 2. 共同研究の内容・計画

脂肪組織は、妊娠時にホルモンやアディポカインを分泌することで妊娠維持に関わる重要な内分泌組織である。極めて最近、申請者は、妊娠マウスの脂肪組織には非妊娠マウスの脂肪組織と比較して7~8倍ものマラリア原虫感染赤血球が蓄積することを生体イメージング解析により見出した。妊娠中にマラリアに罹患すると流産や死産が多発することが報告されているが、脂肪組織と病態形成との関係は未だに多くの謎に包まれている。そこで本研究では、遺伝子改変マラリア原虫や遺伝子改変マウス、比較プロテオームなどを駆使して、脂肪組織を基軸とした新たな妊娠マラリア病態発症機構の解明を目指す。

##### 3. 研究成果（経過）

妊娠中にマラリアに罹患すると、マラリア原虫感染赤血球が“乳腺組織”に集積することが、これまでの研究成果により明らかにされている。一方、マラリア原虫感染赤血球の乳腺組織への集積による乳汁合成や分泌型IgA産生への影響については、ほとんど明らかにされていない。そこで本研究では、マラリアのマウスモデルを用いて、授乳期のマラリアによる乳腺組織への影響について明らかにすることを目的とした。乳腺組織の病理組織学的解析により、マラリア原虫を感染させたマウスでは、乳腺組織の組織異常が認められた。今後、乳腺組織の病態発症機序や乳腺組織におけるIgA産生細胞への影響について解析を進めていく予定である。

## 41. 自己免疫疾患における眼表面の血管異常の病態解明と新規治療法の開発

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
林 勇海	医学部眼科学	助教	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
小川 葉子	慶應義塾大学	特任准教授	臨床研究や実験手法などの指導 後方支援
平形 明人	医学部眼科学	教授	臨床上の指導
慶野 博	医学部眼科学	准教授	臨床上の指導

## キーワード

移植片対宿主病, 自己免疫疾患, 眼表面血管異常, 生体顕微鏡, エクソソーム

## 研究分野

眼科学, 免疫学

## 1. 共同研究の目的

自己免疫疾患および造血幹細胞移植後の移植片対宿主病(GVHD)におけるドライアイやマイボーム腺機能不全といった眼表面障害をきたす症例で眼瞼の血管走行異常を伴う場合が高頻度に認められることに注目した。本研究では、眼表面の血管病変という観点から臨床と基礎の両面にアプローチし、病態の解明と新規治療法の開発に繋げることを目的とする。

申請者は現在杏林アイセンターにて主に眼炎症を中心に臨床を行っており、将来的には免疫学の観点から本研究を眼炎症のテーマに広げ基礎と臨床の橋渡しを行い医学の発展に貢献する。

## 2. 共同研究の内容・計画

臨床研究では、GVHD 症例およびその他の自己免疫疾患の眼瞼、結膜、角膜輪部における血管異常の有無に関する生体顕微鏡所見および特殊解析ソフトによる検討を慶應ドライアイ外来にて行い、それらの臨床データ解析を杏林大学と慶應大学にて共同で行い、論文投稿を行う。

基礎研究では、自己免疫疾患病態を示すマウス GVHD モデルの作成と検体採取を慶應大学にて行い、眼瞼を中心に、涙腺、結膜での血管病的変化の解明、および血管内皮細胞前駆細胞であるファイブロサイトの細胞源、血管内皮細胞と免疫担当細胞との相互作用とエクソソームとの関連分泌因子の解明を行う。データ解析および自己免疫疾患に関する病態解明を杏林大学と慶應大学にて共同で行い、主に病態に関連する現在、様々な疾患の病態に関連するとされ注目されているエクソソーム関連分子に注目し病態に基づいた新規治療法の開発につなげる。

## 3. 研究成果（経過）

慶應義塾大学では主に基礎研究を中心に実施した。自己免疫疾患における眼表面の血管異常の病態形成に重要な役割を果たしていると考えられるエクソソームに注目し、そのマーカーの1つである CD63 抗体を用いて GVHD モデルマウスおよび対照群の眼瞼組織切片の免疫染色を施行、共焦点顕微鏡による蛍光撮影をおこなった。GVHD モデルマウスの眼瞼組織切片では対照群と比較し有意に CD63 発現が増加しており、主に脈管構造の内部に発現がみられたことから、血管内皮から分泌されたエクソソームが病態に関与している可能性が示唆された。

次に、自己免疫疾患の病態に応じて関連するエクソソームの性状が異なる可能性を考え、ヒト GVHD 症例およびその他の自己免疫疾患の一つであるシェーグレン症候群症例の凍結保存血清を用いて専用キットによるエクソソームの抽出を施行、その

濃度とサイズの解析結果を比較検討した。両症例間ではエクソソームのサイズ分布や濃度に差がみられ病態の違いに関係している可能性が考えられたが、今後症例数を増やした比較が必要と考えられた。

杏林大学では平形教授、慶野准教授の指導のもと日本眼科学会や眼炎症国際学会に参加するなど、臨床上の知見を広めた。上記実験成果についても今後情報を共有し、データ解析および自己免疫疾患に関する病態解明を共同で行う予定である。

## 42. 卵巣癌診断のための新たなコンビネーションアッセイの確立

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
小林 陽一	医学部産科婦人科学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
三上 幹男	東海大学	教授	測定, 解析

## キーワード

卵巣癌, 早期診断, バイオマーカー

## 研究分野

婦人科腫瘍学

## 1. 共同研究の目的

早期発見が困難な卵巣癌の、新たな診断ツールとしてのバイオマーカーを確立することを目的とする。

## 2. 共同研究の内容・計画

本研究では、我々が既に候補として選別した新たなバイオマーカーの候補と、東海大学において検討中の卵巣癌の新たな診断法において、その両者の併用による有用性を検討するため、当院で得られた血液検体を東海大学でも解析を行い、コンビネーションアッセイとしての有用性を検討する。

## 3. 研究成果（経過）

現在、当院からの検体を含めて解析を行っているところである。



#### 43. 原発性上皮性卵巣癌における DNA ミスマッチ修復異常の検討

##### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
小林 陽一	医学部産科婦人科学	教授	統括

##### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
渡部 洋	東北医科薬科大学	教授	研究の計画・統括
柴原 純二	医学部病理学	教授	検体の準備・提供
三沢 昭彦	医学部産科婦人科学	助教(任)	症例の抽出, 検体準備

##### キーワード

上皮性卵巣癌, DNA ミスマッチ修復異常, 抗 PD-1 抗体薬, 個別化癌治療

##### 研究分野

婦人科腫瘍学

##### 1. 共同研究の目的

卵巣癌の新たな治療戦略を確立するため、DNA ミスマッチ修復 (MMR) 機能異常を有する卵巣癌に対する有効な化学療法の適用による患者長期予後改善、および MMR 関連遺伝子情報に基づく将来的な化学療法の個別化を目的とする

##### 2. 共同研究の内容・計画

原発性上皮性卵巣癌 200 例の手術摘出組織を対象として、現在 MSI の判定に用いられているベセスダパネルに採用されるマイクロサテライトマーカーを用いて、正常組織との比較からの MSI の解析を行う。なお MSI-H および EMAST と判定された症例では、免疫組織染色による hMLH1, hMSH2, MSH 6, PMS2 および MSH3 蛋白の組織内発現を検討し、卵巣癌における MMR 機能異常の頻度および初回化学療法の有効性との関連性について検討を行う。

##### 3. 研究成果 (経過)

現在、検体を準備、送付し、解析を行っているところである。

## 44. N アセチル化転移酵素 2 (NAT2) の遺伝子多型が及ぼす JPH203 の安全性と有効性に関する研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
古瀬 純司	医学部腫瘍内科学	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
吉武 益広	ジェイファーマ株式会社	代表取締役社長	共同研究責任者
榊井 章憲	ジェイファーマ株式会社	臨床開発部長	本研究で得られた記録・情報の保存
馬場 祐了	ジェイファーマ株式会社	プロジェクトマネージャー	NAT2 遺伝子多型検査解析機関の監督
神谷 浩之	ジェイファーマ株式会社	プロジェクトマネージャー	研究計画書の作成及び改訂、本研究のデータマネジメントに関する業務、本研究の統計解析に関する業務、被験者登録の受付、適格性の再確認、研究総括報告書の作成
花 樹代美	ジェイファーマ株式会社	研究員	既存検体の保存、NAT2 遺伝子多型検査解析機関への検体の送付

## キーワード

N アセチル化転移酵素 2, 遺伝子多型, LAT1, JPH203, 抗悪性腫瘍薬

## 研究分野

腫瘍学

## 1. 共同研究の目的

N アセチル化転移酵素 2 (NAT2) 遺伝子多型の違いが JPH203 の人体に及ぼす安全性及び有効性を評価することを目的とする。

## 2. 共同研究の内容・計画

本研究では、インフォームドコンセントが得られた後（原則被検者又は代諾者からの文書同意を必要とするが、困難な場合はオプトアウトによる拒否機会を設ける）、国内第 I 相試験（治験実施計画書番号：JPH203-SBECD-PI）で得られた検体（既存血液検体）と国内第 I 相試験で得られた安全性と有効性データを後ろ向きに解析する。JPH203 が投与された患者の NAT2 遺伝子多型の解析を通じ、NAT2 遺伝子多型の違いが JPH203 の人体に及ぼす安全性及び有効性を評価する。

## 3. 研究成果（経過）

NAT2 は遺伝子多型により rapid, intermediate, slow と 3 つの表現型に分類される。Intermediate と slow を non-rapid タイプとして、JPH203 の安全性と有効性を解析した。JPH203 で治療された 16 人の固形がん患者のうち rapid タイプ、non-rapid タイプが 8 人ずつであった。2 人が Grade 3 の肝機能障害によって治療中止となったが、いずれの患者も rapid タイプであった。病勢制御が得られた患者は non-rapid タイプで 50%、rapid タイプで 12.5%と non-rapid タイプで有効性が高いことが示唆された。NAT2 の遺伝子多型は JPH203 の安全性と有効性を予測する因子になり得る。



② 保健学部



## 45. キチンによるアレルギー応答誘導機構の解明

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
新江 賢	保健学部臨床検査技術学科	講師	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
中江 進	東大医科学研究所	准教授	遺伝子改変マウスの提供
松本 健治	成育医療研究センター	研究部長	試薬・実験機器等の研究支援
須藤 カツ子	東京医科大	講師	遺伝子改変マウスの作製

## キーワード

キチン, アレルギー, キチナーゼ様タンパク質

## 研究分野

免疫・アレルギー

## 1. 共同研究の目的

これまで、タンパク質抗原単独では誘導されないが、ダニの主要な構成成分である「キチン」と共に吸入するとアレルギー応答が誘導されることを明らかとしている。しかしながら、受容体を始めとするキチンシグナルの伝達機構は不明である。代表者は、この機構に関与するキチン結合分子としてキチナーゼ様タンパク質「Chil1」をマウス肺より同定している。そこで、本共同研究では、ダニアレルギーの発症機構の解明を目的として、Chil1によるシグナル伝達機構の解明を目指す。

## 2. 共同研究の内容・計画

- 1)Chil1の産生細胞・産生機序の解明 Chil1は、無処置マウスの肺胞洗浄液中に多量に存在するが、その産生細胞や産生機構は不明である。そこで、肺におけるChil1産生細胞をFACS解析により同定する。ソーティングしたChil1分泌細胞を様々なサイトカインで刺激して、Chil1の産生機構を解明する。
- 2)Chil1遺伝子欠損マウスの作成とその解析 キチンによる喘息誘導におけるChil1の役割は不明である。そこで、CRISPR/Cas9システムを用いてChil1遺伝子欠損マウスを作製し、キチンによる喘息誘導におけるChil1の役割を明らかとする。

## 3. 研究成果（経過）

ダニ外殻の主要な構成成分であるキチンが、アレルギー誘導のアジュバントとして機能することが明らかとなっている。本申請では、この機構に関与するキチン結合分子であるキチナーゼ様タンパク質「Chil1」によるシグナル伝達機構の解明を目指した。

## 1)Chil1の産生細胞・産生機序の解明

マウスに生理食塩水もしくはキチンを吸入させ、肺組織におけるChil1の局在を免疫組織化学的に検討した。その結果、終末細気管支の気道上皮細胞、肺胞のI型・II型肺胞上皮細胞といった組織に常在する細胞に加え、肺胞マクロファージや好中球等の白血球もChil1を産生していることが明らかとなった。

## 2)Chil1遺伝子欠損マウスの作成とその解析

CRISPR/Cas9システムを用いてChil1遺伝子欠損マウスを作製を試みた。現在までに4匹の変異マウスが得られており、い

れも Chil1 遺伝子を欠損していることが明らかとなっている。

## 46. 腫瘍形成 HPV のゲノム網羅解析による上皮内腫瘍の進展予測に関する研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
大河戸 光章	保健学部臨床検査技術学科	准教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
笹川 寿之	金沢医科大学	主任教授	総括・プライマー・プローブ設計
小田 瑞恵	こころとからだの 元気プラザ*	診療部長	細胞擦過・組織生検・コルポ診
岡山 香里	群馬パース大学	講師	次世代シーケンス

## キーワード

ハイリスク型 HPV, 子宮頸部上皮内腫瘍

## 研究分野

病理学

## 1. 共同研究の目的

ヒト乳頭腫ウイルス (HPV) ワクチン接種が滞っている状況で、子宮頸がんを減少するためには、前癌病変である子宮頸部上皮内腫瘍を早期発見し、癌進展前に治療することが重要である。現在、進展予測の指標として 8 種の HPV 型が示されている。しかし 8 種の型陽性例を経過観察してもほとんどは消退するため、新たな指標の発見が熱望されている。

本研究課題の目的は、上皮内腫瘍の進展と HPV ゲノム網羅解析の関連性を調査することにより、腫瘍を形成する特定の HPV 型 (腫瘍形成 HPV) が進展に関与することを明らかにすることである。腫瘍形成 HPV と進展との関連性が明らかになることで、的確な治療が可能となり、多くの女性もつ上皮内腫瘍に対する不安・恐怖心が払拭され、さらに子宮頸がん減少に貢献できることが期待される。

## 2. 共同研究の内容・計画

上皮内腫瘍細胞から、HPV を検出し、次世代シーケンスを用いて網羅的に解析することで、腫瘍形成に関与する HPV を同定する。そのために擦過細胞および組織標本上から異型細胞のみを切り取って解析する。

上皮内腫瘍約 500 症例の擦過細胞標本と生検組織標本を用いる。擦過細胞標本上の異型細胞は、実体顕微鏡下において 27G の注射針で切り取り、また生検組織標本上の病変部位は Laser Microdissection (LMD) 法で切り取りする。次に切り取った細胞、組織をアルカリ処理して uniplex E6/E7 PCR 法を行い、電気泳動法によって HPV 型を決定する。さらに HPV 型に基づいて、次世代シーケンサーによる HPV ゲノム網羅解析を実施し、進展に関与する腫瘍形成に関与する HPV を同定する。

## 3. 研究成果 (経過)

我々の開発した uniplex E6/E7 PCR assay (J Med Virol, 2018) と独自の microdissection 技術 (Single-cell genotyping of human papillomavirus from cervical cytology specimens with simple manual microdissection ; Human Cell, in review) によって新事実を発見した。子宮頸部 Papanicolaou 染色標本上の扁平上皮細胞の核膜の肥厚とハイリスク型 HPV に関係性があることが明らかになった。(A study of the relationship between nuclear contour thickening, nuclear enlargement and human papillomavirus infection in squamous cells. Cytopathology. 2019)、また子宮頸部採取直後のコルポスコピー標本の生検から得られた組織病理学的結果に基づいて ASC-H 細胞の細胞学的特徴を公表した。(A Comparison of Cytomorphological Features of ASC-H Cells Based on Histopathological Results Obtained from a Colposcopic Target Biopsy Immediately after Pap



smear Sampling. Asian Pacific journal of cancer prevention. 2019)。さらに CIN を経過観察した患者の Papanicolaou 標本において Koilocyte の有無について評価し HPV を包括的に検出した。Koilocyte は腫瘍形成能力が特に高い HPV 型以外の細胞変性効果であり、CIN 2+への進行のリスクの評価において、Koilocyte の存在は有用な情報であることが分かった。(Koilocytic changes are not elicited by human papillomavirus genotypes with higher oncogenic potential. J Med Virol, 2020, in press)

## 47. バドミントンにおける安全性と高いパフォーマンスを靴によってもたらすための研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
倉林 準	保健学部理学療法学科	講師	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
阿部 秀夫	株) LA マイスター 株) KIZUNA ジャパン	代表取締役社長	全体の計画立案
土居 健次郎	株) LA マイスター	社員	計測・解析、開発・制作

## キーワード

バドミントン, 靴の開発, 靴の制作, パフォーマンス, シミュレーション

## 研究分野

スポーツ医・工学, 障害予防

## 1. 共同研究の目的

バドミントンは、三次元的に激しい動作をするのが特徴で、最も消費エネルギーの高い競技とされている。下肢の疾病も多く、急性外傷から慢性外傷まで多岐にわたる。しかしながら、予防を踏まえた競技パフォーマンスを引き出すためのバドミンントンの靴は、なかなかあるようでない。本共同研究では、上記を満たすための新しい靴の開発によって、バドミントン競技に安全と高いパフォーマンスを獲得することを目的としている。

## 2. 共同研究の内容・計画

2016年度2件特許出願を行い、2017年度に1件特許査定、特許第6288687号として特許公報に公開された(別紙)。2018年度は、会社側の都合で大きな進展を得ることはできなかった。2019年度は、2018年度に行えなかったバドミントン選手の足形計測、バドミントン選手の長期に及ぶ足底部運動特性の計測を行いたいと考えている。バドミントン特有のデータを収集しながら、靴開発の土台を構築していく予定である。また、共同研究先の(株)VKスポーツは、社名変更で(株)KIZUNAジャパンと変更になっている。2019年度の科研費申請はこれらの状況を踏まえて申請している。

## 3. 研究成果(経過)

2016年度2件特許出願を行い、2017年度に1件特許査定、特許第6288687号として特許公報に公開された(図1)。2018年度は、会社側の都合で大きな進展を得ることはできなかった。2019年度は、2018年度に行えなかったバドミントン選手の足形計測、バドミントン選手の長期に及ぶ足底部運動特性の計測を

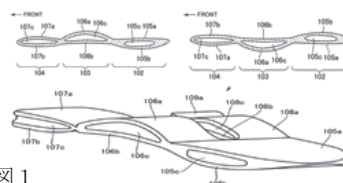


図1

行う予定であったが、相手側の都合で進めることがやはり行えなかった。別途、右図のような三次元CG(図2)を作成後、有限要素法を用いてシミュレーションを行った(図3)。特許取得したシャंक(図1)は、想定に近い機能を発揮していた。残念ながらこの共同研究

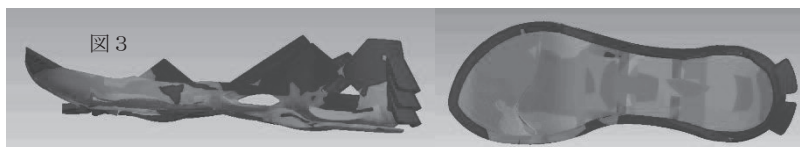


図3

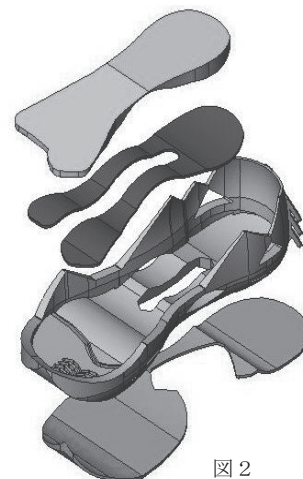


図2

は相手側の事情もあり、ここまでとすることとした。

## 48. 微細加工技術を応用した放射線検出器の開発

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
小池 貴久	保健学部診療放射線技術学科	准教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
宇野 彰二	高エネルギー加速器研究機構 (KEK)	教授	共同研究者 (検出器設計・開発)

## キーワード

放射線検出器, MPGD, GEM, X線, 中性子線

## 研究分野

総合領域

## 1. 共同研究の目的

Micro Pattern Gaseous Detector (MPGD) の1つである Gas Electron Multiplier (GEM) の開発、およびこの技術を用いた種々の放射線検出器の開発、および性能評価を行う。この検出器の特徴として、コンバーター（放射線信号変換素材）を変えることで、測定対象を変えることが可能で有り、X線、中性子線に対して、用途に応じた検出感度、エネルギー弁別画像の取得が可能である。特に、近年、新しい放射線治療法として脚光を浴びている BNCT（中性子捕捉療法）に用いる加速器ベース中性子源のビーム評価が可能な検出器の開発を目指す。

## 2. 共同研究の内容・計画

MPGD の1つである GEM は、基板に多数の細孔が開けられたもので、この両面間に高電圧を印加することで細孔内に形成される高電場を利用してガス増幅を行い、放射線の検出を行う。多数の孔が基盤上に一様に広がっている特徴から、それぞれの孔がガス放射線検出器として働くため既存の検出器に比べ高計数率に耐えられ、2次元的に様な性能が得られることからワイヤー型の検出器では不可能な2次元情報を得ることが可能である。本研究では昨年度より新たに開発した GEM 自体の評価・開発を含めた検出器に関する基本パラメーターの測定や測定器の電子回路設計を含めた検出器システムの研究・開発を行う。検出器の開発は主に KEK で行い、装置の性能・特性評価等について本学の放射線機器を用いて行う。

## 3. 研究成果（経過）

本研究では微細加工技術を応用した放射線検出器の1つである Gas Electron Multiplier (GEM) の開発を含めた放射線検出器に関する基本パラメーターの最適化や、放射線検出器の信号処理電子回路設計を含めた検出器システムの研究・開発を行っている。

今年度も、中性子捕捉療法 (BNCT) 用のビームモニタとして活用するために装置の改良を進めた。特に要求される仕様に合わせた改良 (エネルギー弁別能の向上) を加えることができ、実験施設 (京都大学原子炉) でのデータ収集も実施できた。さらには、新しい GEM の開発・評価を進めることができ、実際の中性子線治療条件でビームの状態を乱すことなく、リアルタイムに中性子ビームを評価できることの見通しを立てることができた。ビームモニタとして要求される検出器性能が明確になってきたので、さらに改良を加えていく予定である。

## 49. 機械学習を用いた MRI の撮像時間短縮技術に関する研究

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
久原 重英	保健学部診療放射線技術学科	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
竹内 純一	九州大学	教授	共同研究者（圧縮センシング技術）
川喜田 雅則	九州大学	学術研究員	共同研究者（機械学習技術）

### キーワード

MRI,高速撮像, 機械学習, 圧縮センシング, 画像再構成

### 研究分野

MRI

#### 1. 共同研究の目的

MRI (磁気共鳴映像装置) は放射線の被曝が無く、軟部組織の描出能に優れる等の特徴があるが、検査時間が長いことが問題であり、さらなる撮像時間の短縮化が求められている。撮像時間の短縮技術の一つとして、圧縮センシング技術の適用が試みられているが、基本的に繰り返し演算を用いるため再構成時間が長く、臨床適用は始まっているが、まだ必要な画質と許容時間内の画像再構成を両立した手法は十分には確立されていない。本研究の目的は、この問題点を解決するための新しいデータ収集・再構成手法を提案する事にある。

#### 2. 共同研究の内容・計画

一般に圧縮センシングでは、ランダムサンプリングによる収集データに対して、基本的に繰り返し演算による画像再構成を行うため再構成時間が長い。本研究では、機械学習を用いたアプローチを行う。機械学習に基づく手法は、学習に時間がかかる反面、学習後の処理は比較的短時間で可能なため、一般的な圧縮センシングに比べて再構成時間を短縮できる可能性がある。具体的には、MRI で得られた完全なデータならびに画像を正解値（教師データ）として持ちつつ、今年度は一部プロセスの多重化等を含め、サンプリングパターンや機械学習の構造ならびに各パラメータを変化させて最適化を行う。機械学習に基づく再構成アルゴリズムの検討は、主に九大・システム情報科学研究院にて行い、得られた画像の評価等を本学にて行う。

#### 3. 研究成果（経過）

MRI の撮像時間短縮法の一つに、通常の画像再構成に必要なデータ数よりも少ないデータを収集する方法があるが、得られる画像は低解像度の画像、もしくはアーチファクトを含んだ画像となる。圧縮センシング法ではアーチファクトを含んだ画像から所定のアルゴリズムと繰り返し演算にて元画像を復元するが、臨床適用にはまだ再構成時間が長いという問題がある。本研究では機械学習を用いた手法を用いることで、再構成時間の短縮が可能かどうかについての検討を行っている(\*)。今年度は、主に MRA 画像を対象とし、高速化によって得られる低解像度画像から、機械学習を用いて元画像を復元する方法について研究開発を行い、低解像度画像よりもより高分解能な画像が復元されることを確認すると共に、ESMRMB(European Society for Magnetic Resonance in Medicine and Biology)(ロッテルダム、オランダ、10月)にて連名にて1件発表した。今後、引き続き機械学習(ニューラルネットワーク)の他の構造での検討、ならびにMRIの他のサンプリングパターンでの検討等を行う。

(\*) 機械学習に基づく再構成アルゴリズムの検討は、主に九大・システム情報科学研究院にて行い、得られた画像の評価等を本学が担当している。

## 50. Digital Breast Tomosynthesis の画像評価

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
芝生 春菜	保健学部診療放射線技術学科	助教	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
田中 功	東京女子医科大学	代表技師長	研究指導およびデータ解析
谷垣 光司	東京女子医科大学	副技師長	研究指導およびデータ解析

## キーワード

マンモグラフィ, Digital Breast Tomosynthesis

## 研究分野

診療放射線技術学

## 1. 共同研究の目的

マンモグラフィは乳房病変の診断には必要不可欠であるが、若年者のマンモグラフィ撮影については乳線密度等について問題となることが多い。そこでこの問題を解決するための技術として3次元撮影となる Digital Breast Tomosynthesis (DBT) が注目されている。本研究では、マンモグラフィ精度管理用ファントムを用いて DBT で得られた画像と従来のマンモグラフィ (2D) 画像を比較することで画像評価をおこなう。

## 2. 共同研究の内容・計画

本学では Tomosynthesis 撮影が可能な MMG 装置 (SIEMENSE 社製 MAMMOMAT Inspiration) が 2018 年 3 月に導入された。DBT 撮影はメーカーによって撮影方法や画像処理方法が異なる。そこで、東京女子医科大学東医療センターの GE Healthcare 社製 Senographe Essential と本学の MMG 装置を用いてメーカー毎の撮影の特徴や画質を比較する。マンモグラフィの精度管理用ファントムである RMI156 ファントムを DBT 撮影および 2D 撮影にて撮影条件を変化させながら撮影する。各装置の DBT 画像や 2D 画像、2D 近似画像を比較し評価する。

## 3. 研究成果 (経過)

Digital Breast Tomosynthesis (DBT) 撮影では、Tomosynthesis 画像データを利用して 2D 近似画像である Volume Preview (VP) 画像を作成できる。今年度までに本研究では、新たな画像再構成技術として開発された VP 画像 (VP3.1) と従来の VP 画像 (VP1.1) および従来のマンモグラフィ画像 (2D) について撮影条件を変化させて評価した。VP3.1 および VP1.1 と 2D 画像を比較することにより、Tomosynthesis 撮影にて生成された 2D 画像の画質について明らかにすることができた。画像再構成技術の向上に伴う VP 画像の描出能の改良について検討することで、従来の 2D 撮影と同等もしくはそれ以上の Tomosynthesis 撮影の有用性が示唆された。今年度は乳線密度の違いによる描出能を評価するため、乳房擬似ファントムの作成を試みた。乳房を構成する乳腺や脂肪、に最適な材質の検討をした。また、Tomosynthesis 画像を評価するための 3D ファントムの構成についても検討した。次年度以降は共同研究施設での研究生を退室するため、共同研究は本年度をもって終了した。

## 51. 糖尿病性皮質脊髄路障害の病態解明

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
村松 憲	保健学部理学療法学科	准教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
志茂 聡	健康科学大学	准教授	皮質脊髄路軸索の超微形態の解析
丹羽 正利	保健学部作業療法学科	教授	皮質脊髄路軸索の電気生理学的解析

### キーワード

糖尿病, 運動野, 皮質脊髄路

### 研究分野

総合領域

#### 1. 共同研究の目的

最近、我々は糖尿病モデルラットの皮質脊髄路軸索の損傷とそれに伴う運動野の萎縮を発見し、末梢神経だけでなく中枢神経もまた糖尿病性神経障害の標的となることを示した (Muramatsu et al. 2018)。しかしながら、中枢神経内で生じる軸索損傷の詳細は不明であったため、電気生理学的手法を用いた単一軸索レベルでの興奮伝導と電子顕微鏡を用いた皮質脊髄路軸索の超微形態を調べることによって、糖尿病に起因して生じる皮質脊髄路軸索障害の詳細を明らかにすることを本共同研究の目的とする。

#### 2. 共同研究の内容・計画

[糖尿病ラット]実験にはストレプトゾトシンの腹腔内投与によって1型糖尿病を発症した13週齢のWistarラット(STZラット)12頭とその健常対照群である同週齢のWistarラット12頭を用いる。両群の動物は10週間もしくは20週間の通常飼育期間の後に実験に使用する。[実験]ケタミン(70 mg/kg)、キシラジン(5 mg/kg)麻酔下で維持したラットの頸髄、腰髄に刺激用のタングステン微小電極を刺入する。次に大脳皮質運動野に記録用のタングステン微小電極を刺入し、脊髄の電気刺激によって逆行性に発火する単一皮質脊髄路細胞のスパイクを記録して、皮質脊髄路軸索の伝導速度などを求める。実験終了後はペントバルビタールを腹腔内投与(50 mg/kg)し、深麻酔下で脱血後、灌流固定し、脳と脊髄を摘出する。摘出した脳と脊髄から切片を作成し、電子顕微鏡を用いて皮質脊髄路軸索の超微形態を観察する。電子顕微鏡は生理学研究所のものを利用する予定である。

#### 3. 研究成果(経過)

実験にはストレプトゾトシンの腹腔内投与によって1型糖尿病を発症した13週齢のWistarラットとその健常対照群である同週齢のWistarラットを用いた。ストレプトゾトシン投与後、病期20週間に達した糖尿病ラットは通常飼育を行う群(DM-SED)、有酸素運動を行う群(DM-AT)、スキトレーニングを行う群(DM-ST)に分類し、2週間の運動療法を行った。その後、ケタミン(70 mg/kg)、キシラジン(5 mg/kg)麻酔下で維持したラットの運動野を皮質内微小刺激法で刺激し、運動野における身体部再現を調べた。その結果、対照群に比べ、DM-SED, DM-AT群の運動野面積は大幅に減少していたが、DM-ST群には劇的な運動野面積の回復が生じた。以上の結果は糖尿病に起因する運動野面積の減少を改善するリハビリテーションとしてスキトレーニングが有効であることが示唆された。

## 52. 糖尿病に起因する横隔神経障害と運動単位の活動性の変化

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
村松 憲	保健学部理学療法学科	准教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
生友 聖子	東京医療学院大学	助教	横隔膜の組織学的解析
丹羽 正利	保健学部作業療法学科	教授	Single motor unit potential の解析

## キーワード

糖尿病, 横隔神経, 運動耐用能

## 研究分野

総合領域

## 1. 共同研究の目的

糖尿病患者において観察される運動耐用能低下は運動療法実施の障害となることが知られている。運動耐用能低下は筋力、代謝機能、呼吸機能などの様々な要因によって生じることが知られているが、糖尿病ではミトコンドリア機能異常に起因する筋の代謝障害が主因であると考えられてきた。しかし、最近、我々は糖尿病モデル動物の横隔神経運動ニューロンが減少することを見出し、横隔神経の損傷による運動時の換気量低下も耐用能低下の一因ではないかと考えるに至った。本共同研究では横隔膜の運動制御の基盤となる運動単位が糖尿病によってどのような影響を受けているのか明らかにすることを目的に行う。

## 2. 共同研究の内容・計画

実験にはストレプトゾドシンの投与によって1型糖尿病を発症した Wister 系ラット（糖尿病群）と健常なラット（対照群）を用いる。イソフルレン麻酔下で維持したラットの左頸部を切開し、腕神経叢から分枝する横隔神経に刺激用のカフ電極を設置する。次いで、腹部を切開し、横隔膜の筋電図を記録するための針電極を刺入する。以上の実験準備を終えたら、次に述べる3つの方法で運動単位の電気生理学的解析を行う。1) 横隔神経伝導速度の算出：横隔神経を電気刺激し、横隔膜から記録される M 波の潜時から伝導速度を算出する。2) 単一運動単位電位の記録（誘発電位）：横隔神経を最小強度で電気刺激することによって横隔膜から記録される単一運動単位電位を記録する。3) 単一運動単位電位の記録（自発発射）：横隔神経に刺入した記録電極から自発呼吸に関連して生じる筋活動電位を記録、単一運動単位電位を単離して運動単位の発火頻度とスパイク高の関係を明らかにする。以上のパラメーターを指標に、糖尿病によって横隔膜の運動単位がどのような影響を受け、また、横隔神経運動ニューロン減少をどのように補償しているのか明らかにする予定である。

## 3. 研究成果（経過）

実験にはストレプトゾトシンの腹腔内投与によって1型糖尿病を発症した Wistar ラットとその健常対照群である同週齢の Wistar ラットを用いた。両群の動物は20週間の通常飼育期間の後にイソフルラン麻酔下で過剰量のペントバルビタールナトリウムを腹腔内投与し安楽死させた上で横隔神経と横隔膜を採取し、横隔膜とそれを支配する横隔神経について神経筋接合部を中心に免疫組織化学染色を用いて観察した。その結果、糖尿病動物では運動神経終末部に変性が生じることがわかった。既に電気生理学的解析によって糖尿病を発症したラットでは single motor unit potential が大型化することを明らかにしていたが、神経筋接合部の損傷によって生じた除神経筋を残存する運動神経線維が再支配することによって生じている可能性が高いことがわかった。



### 53. 血液型 D 抗原の発現制御メカニズムの解明

#### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
三島 由祐子	保健学部臨床検査技術学科	学内講師	統括

#### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
池田 敏之	東京大学医学部附属病院	助教	研究責任者

#### キーワード

RhD 抗原, 発現制御メカニズム, 相互作用分子

#### 研究分野

輸血

#### 1. 共同研究の目的

輸血療法において RhD 抗原（以下 D 抗原）は ABO とならぶ主要血液型抗原である。D 抗原の発現は赤血球特異的であり、D 抗原関連分子群が正常に働かなくなると赤血球は正常な形態を保てなくなる。したがって D 抗原の発現制御メカニズムを解明することは、赤血球が正常な形態や機能を保ったりするメカニズムを解明する上でもきわめて重要である。本研究は RhD 抗原の発現制御メカニズムをこれら相互作用分子とスプライシング制御機構に着目して検討、その分子間ネットワークを明らかにすることを目的として実施する。

#### 2. 共同研究の内容・計画

RhD の既知の相互作用分子、候補分子について蛋白・蛋白間相互作用が具体的にどの蛋白間で起きているのか検討する。まず RhD の各アイソフォームを組み込んだ N 末端 Myc、Flag-tag 付の強制発現ベクターを作成、これと相互作用分子の全長・各機能ドメインの強制発現ベクターを 293 細胞に同時導入する。抗 Flag 抗体、抗 Myc 抗体を用いた免疫沈降で RhD 蛋白と直接相互作用するキーマジンを絞り込む。得られた直接相互作用分子については D 抗原の強制発現系と赤芽球系細胞株 K562 に同時導入し、正常 D 抗原発現細胞モデルの作成を試みる。

#### 3. 研究成果（経過）

RhD の各アイソフォーム（Wild, DEL7, DEL9, DEL78, DEL89, DEL789, 3-9CE）、RHCE を組み込んだ N 末端 Flag-tag 付の強制発現ベクターと、相互作用分子として Myc-tag あるいは HA-tag を付けた ANK1, RHAG の強制発現ベクターを作製し、293 細胞に同時導入して抗 Flag 抗体を用いた免疫沈降を実施した。しかし明らかな RhD タンパクの発現減弱は見られず、直接相互作用するキーマジンであることは言えないことがわかった。続いて新たな相互作用分子の候補として球状赤血球症原因遺伝子として知られる spectrinA, spectrinB, band3 を選択し、これらの Myc-tag、HA-tag、Flag-tag あるいは GFP-tag を付けた強制発現ベクターを作製、RhD の Myc-tag、HA-tag、Flag-tag あるいは GFP-tag を付けた各アイソフォームと様々な組み合わせで 293 細胞への同時導入、免疫沈降を検討している。SPTA, SPTB については分子量が大きいことから 293 細胞への導入効率に影響を及ぼす可能性があり、その対策を検討している。

## 54. 医用テレメータ使用環境下における院内電磁波環境の評価方法の検討

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
中島 章夫	保健学部臨床工学科	准教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
斎藤 人志	金沢医科大学氷見市民病院	教授	研究全体の立案
余川 絢音	金沢医科大学氷見市民病院	臨床工学技士	データ収集、及び分析、アンケート調査
鈴木 哲治	保健学部臨床工学科	助教	測定環境モデル・評価方法の確立

## キーワード

医用テレメータ, 電磁波ノイズ, LED 照明器具, 無線チャンネル管理, スペクトラムアナライザ

## 研究分野

医療電磁環境

## 1. 共同研究の目的

近年、携帯電話や無線 LAN 等の普及に加え、LED 照明器具の導入により、医療機関における医用テレメータの電波利用に伴うトラブル事例が生じるケースが顕在化している。総務省や電波環境協議会によれば、医用テレメータにおける電波障害に関して多くの事例が報告されており、また無線チャンネル管理も 48.1%に留まっている☆)。そこで、医用テレメータ使用環境下にて、院内設置の照明器具や通信機器、エネルギーを発する医療機器等から放射される電磁波を定量的に測定（電磁波干渉等の影響を調査）し、院内電磁波環境の新たな評価方法を検討することを目的とする。

(☆電波環境協議会,医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き. 電波環境協議会, 2016. p12-25.)

## 2. 共同研究の内容・計画

本研究は、電磁波を測定するアンテナシステムと電磁波の電力・電界強度を周波数成分で計測・解析可能なスペクトラムアナライザを用いて、院内医用テレメータ使用状況下における電磁波環境の評価を定量的に行う。まず、金沢医科大学氷見市民病院、及び石川県済生会金沢病院にて、使用されている医用テレメータのアンテナ方式・チャンネル範囲、CN 比等について調査するとともに、これまで医用テレメータ使用環境下において、照明器具や通信機器、他医療機器からの電磁干渉の事例について、病棟看護師、臨床工学技士を対象にアンケート調査を行う。次に、アンテナシステム、スペクトラムアナライザを用いて、アンケート調査結果から電磁干渉が生じた病棟や、照明器具などを交換した病棟、新規に導入した高出力エネルギーを持つ医療機器の使用場所等を中心に、院内医用テレメータ使用環境下での電磁波の電力・電界強度の測定・分析を行い、電磁波環境の新たな評価方法の確立を検討する。杏林大学では、測定環境モデルの確立、データ分析、院内電磁波環境の評価方法の分析を行う。

## 3. 研究成果（経過）

本研究は、電磁波を測定するアンテナシステムと電磁波の電力・電界強度を周波数成分で計測・解析可能なスペクトラムアナライザ（以下、スペアナ）を用いて、院内医用テレメータ使用状況下における電磁波環境の測定・解析による定量評価を目的としている。

2019 年度は、2018 年度に 2 回にわたり金沢医科大学氷見市民病院の医用テレメータが設置・使用されている病棟（合計 5 病棟）にて、電界強度の測定をスペアナ、及びアンテナシステムを用いて測定した結果について、データをまとめた。測定結果に

については、第 94 回日本医療機器学会大会（ME 機器使用環境下における院内電磁波環境評価、2019 年 6 月 15 日、大阪、発表者：余川絢音）、第 58 回日本生体医工学会大会（医用テレメータ使用環境下における院内電磁波環境の評価方法の検、2019 年 6 月 8 日、沖縄、発表者：中島章夫）にて発表した。

今後の計画として、金沢医科大学氷見市民病院にて、病院施行時の医用テレメータ用漏洩同軸ケーブルの配線ミスにより、テレメータ信号電波が規定通りに送受信されない電磁障害が生じていることが判明したため、スペアナ、アンテナシステムを用いて、電磁干渉が生じた病棟や、他病棟含めて、施行時の医用テレメータ用漏洩同軸ケーブルの配線を再度チェックし直すと共に、院内医用テレメータ使用環境下での電磁波の電力・電界強度の測定・分析を行い、不具合を生じさせない電磁波環境の評価方法の確立を検討する。杏林大学では、測定環境モデルの確立、データ分析、院内電磁波環境の評価方法の分析を行う。

## 55. 院内デイケアの活動による入院患者の日中活動係数、睡眠状態への影響

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
門馬 博	保健学部理学療法学科	講師	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
佐藤 雅晃	南多摩病院	副主任	介入研究の責任者
八並 光信	保健学部理学療法学科	教授	データ解析、研究遂行支援

## キーワード

院内デイケア, 活動量, 睡眠覚醒リズム

## 研究分野

リハビリテーション

## 1. 共同研究の目的

廃用症候群による影響は運動器、循環器、呼吸器、内分泌、代謝など多様に現れ、日常生活自立度を低下させる原因の一つである、長時間の離床と良好な日常生活動作能力とは密接に関連していると考えられている。

そこで今回、入院患者の入院生活中における活動量をアクチグラフにより計測し、院内デイケアへの参加が活動量、睡眠状態にどのように影響しているのかを検証することとした。

## 2. 共同研究の内容・計画

## 【対象】

1. 腰椎圧迫骨折の診断にて保存的加療中の入院患者。
2. 75歳以上で院内デイケア活動への参加に同意した者。
3. 研究への参加を承諾した者。

## 【方法】

1. 入院中の2週間においてアクチグラフを非利き手に装着する。
2. 上記により睡眠時間、日中活動量（活動指数）のデータを取得して分析する。
3. 平日（院内デイケアあり）と土日祝日（院内デイケアなし）を比較する。

## 3. 研究成果（経過）

2019年度の進捗としては以下のとおりである。

- ・ 門馬、佐藤、八並の3者によるミーティングを行い、使用機器（アクチグラフ）の取り扱いに関する打ち合わせを開催
- ・ 1名の入院症例を対象としたデータ収集の試行

以上の通り、入院患者を対象としたデータ収集を開始したが、使用機器の不具合、ならびに病院内における季節性インフルエンザの流行から研究の遂行が再度困難となったため、次年度に研究を継続することとなった。

## 56. 高周波を用いた人工心肺装置の静脈リザーバ内貯液量連続モニタリング装置の研究開発

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
中村 淳史	保健学部臨床工学科	講師	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
桑名 克之	泉工医科工業株式会社	部長補佐	共同研究助言・統括
脇田 俊昭	有限会社 啓	取締役	プロトタイプ測定装置の作成
五島 康人	株式会社さがみはら産業創造センター	インキュベーション・マネージャー	コーディネート業務

### キーワード

心臓手術, 人工心肺装置, 静脈リザーバ

### 研究分野

臨床工学

#### 1. 共同研究の目的

人工心肺 (CPB : cardiopulmonary bypass) を用いた心臓血管手術時の患者循環血液量は心筋保護液や輸液、患者尿量、脱血流量などで変化する。現在、CPB 中の循環血液量は静脈リザーバ (VR : venous reservoir) 内の血液量 (貯血量) を目視で監視を行い調節が行われている。VR 内貯血量は患者水分バランスの調整、血行動態把握、輸血量の決定、CPB 装置の安全性や自動化に重要な項目である。しかし、貯血量を連続的に数値化・モニタリングを行う装置は実用化されていない。そこで、本研究では VR 貯血量の連続的モニタリング装置の開発を行う。

#### 2. 共同研究の内容・計画

2019年1月～2019年5月

VR リザーバに血液および電解質液を充填させ、VR 内の液体積に対して LCR メータを用いて周波数 100Hz～数 MHz 帯域における電気的特性を取得する。結果より、測定に最適な周波数範囲の決定を行う。

2019年6月～12月

VR 内の液体積に対しての電気的特性より測定方法を確立し、プロトタイプの測定装置を作成する。次に、測定装置を使用して VR 貯血量が実用範囲内の精度で測定が可能か評価を行う。

#### 3. 研究成果 (経過)

##### 【2019年度 研究内容】

人工心肺で使用される静脈リザーバ (VR) に電解質液および血液を充填させ、VR の前壁面に導電性布テープを貼り、VR の液面レベルの変化による VR 内の液体積に対して LCR メータを用いて周波数 100Hz～1 MHz 帯域における電気的特性を取得した。

方法は図1のように VR 壁面に導電性布テープを貼り、VR 内溶液 (血液) と電極は VR 前壁により非接触とした。VR は HVR-FHP4(泉工医科工業株式会社)を使用し、電極は幅 4cm の導電性布テープ : E05U4020(星和電機株式会社)を VR の液面目盛線を中心に対称となるように貼り付けた。また液面レベル 40mL を基準 0cm とした。測定は、LCR メータ : ZM2376(エヌエフ回路設計ブロック株式会社)を使用した。今年度は①内溶液温度の影響、②血液の Ht 値の変化による影響、③液面レベルの増加に伴う電気的特性に関して、それぞれ静電容量 (Cp : Capacitance) の測定を行った。

## 57. 高脂肪摂食モデル動物を用いた腸管粘膜内血清蛋白の免疫組織化学的解析

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
丹羽 正利	保健学部作業療法学科	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
坂本 祐太	健康科学大学	助手	形態学的構造、免疫組織化学的所見の解析
志茂 聡	健康科学大学	准教授	形態学的構造、免疫組織化学的所見の解析
村松 憲	保健学部理学療法学科	准教授	糖尿病による所見の解析

## キーワード

高脂肪摂食, 急速凍結, 腸管免疫, 可溶性血清蛋白

## 研究分野

総合領域

## 1. 共同研究の目的

一般的に生命を構成する細胞や組織の機能は、動物生体内臓器の構造に依存しており、それを標的とする形態学的アプローチは重要である。肥満や高血糖による腸管免疫機能の低下はいくつか報告されているが、腸管粘膜における可溶性血清蛋白の局在は試料作製過程の脱水や包埋により、組織切片上での詳細な解析は困難であった。本研究では、麻酔下動物の血行動態を保ったまま急速凍結する生体内凍結技法により、高脂肪摂食下での腸管粘膜における免疫グロブリン(Ig)Aなどの可溶性血清蛋白の局在を免疫組織化学的に明らかにすることで、肥満や糖尿病における腸管免疫機能低下のメカニズムを解明することである。

## 2. 共同研究の内容・計画

動物モデルは、高脂肪食(60kcal%fat, Research Diets, inc)で16週間飼育された食事誘導性肥満・糖尿病モデルマウスと通常食(16kcal%fat, Lab Diet®)で飼育された同週齢マウスをコントロールとして用いる。麻酔下(三種混合薬;ドミツール、ミタゾラム、ベトルファール)にて小腸を露出し、イソペンタンプロパン混合寒材(-193℃)を腸管粘膜に直接かけ、正常な血行動態下で急速凍結を行う。凍結した腸管試料は凍結置換後にパラフィン包埋する。形態学的解析では、ヘマトキシリンエオジン染色を用いて粘膜上皮、粘膜固有層、陰窩、筋層の各組織構造を比較する。免疫組織化学的解析では、腸管組織内のIgA、IgM、IgG1などの可溶性血清蛋白に対する免疫染色を行う。発色にはDAB(diaminobenzidine)反応もしくは蛍光標識抗体を用いて、陽性部位を比較する。さらに、粘膜固有層内の陽性部位の面積および陽性細胞数、粘膜上皮の染色感度や腸絨毛内の陽性細胞の分布などは統計学的手法を用いて解析する。

## 3. 研究成果(経過)

肥満や糖尿病は腸管免疫機能を低下することが知られるが、従来の固定法では可溶性血清蛋白は流失するため、腸管液性免疫で機能するImmunoglobulin(Ig)Aの分布や保有細胞を組織切片上で観察することは困難であった。本研究では、生体に直接凍結寒剤をかけることで物質の移動と流失が起らずに臓器組織の局所に可溶性血清蛋白が保存される「生体内凍結技法」を用いてIgの分布を観察し、高脂肪食摂取(肥満・糖尿病モデル)マウスの腸管におけるIgA、IgM、IgG1局在を免疫組織化学的に解析した。本年では、20週齢マウスの高脂肪摂食群(以下、HFD群)と通常食摂食群(以下、STD群)の小腸を生体内凍結技法で固定し、パラフィン包埋試料を作製した。HE染色を用いた形態学的解析では、HFD群の単層円柱上皮細胞内には、STD群に比較して多くの空胞を認めた。免疫組織化学的解析では、STD群のIgAは粘膜固有層内の細胞に豊富な陽性像を認め

たが、HFD 群では陽性像は減少した( $p<0.05$ )。STD 群の IgM は粘膜固有層の細胞に陽性像を認めたが、HFD 群では陽性像は減少した( $p<0.05$ )。STD 群の IgG1 は粘膜固有層間質、血管および細胞に陽性像を認めたが、HFD 群では減少した細胞の陽性像のみを確認した ( $p<0.05$ )。HFD 群では IgA、IgG1 陽性細胞が減少したため、高脂肪食摂取によって腸管免疫機能が低下することを示唆した。今後の方針として、形質細胞のマーカーである CD138 と Ig の多重免疫染色により、小腸絨毛における形質細胞の IgA および IgG1 産生能や、IgM から IgA または IgG1 へのクラススイッチを詳細に検証する。さらに、Ig の局在に影響する要因を明らかにするため、病期の異なるマウス(8、12、16 週齢)を用いて、体重および血糖値と Ig 陽性細胞数を比較検証する。

## 58. MRI 環境下における CO2 センサモジュールの影響に関する研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
山本 智朗	保健学部診療放射線技術学科	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
小林 邦典	保健学部診療放射線技術学科	特任教授	実験実施
青木 利樹	日本光電工業株式会社	開発担当	ログ解析

## キーワード

MRI, CO2 センサ, 静磁場, アーチファクト

## 研究分野

診療放射線学

## 1. 共同研究の目的

検査の目的で小児に鎮静剤を使用する場合など、呼吸管理として SPO2 の評価は行われているが、CO2 管理は普及していない。そこで、MRI 環境下 (3TMRI 装置の静磁場中) における CO2 センサモジュールの影響はこれまで評価されていないため、長期間繰り返し静磁場下にモジュールをさらし、その影響が動作に現れるか調べる。また撮像シーケンスによる画像への影響を調査する。

## 2. 共同研究の内容・計画

- ①4 台の CO2 モジュールを充電したのち、3TMRI 装置の中心部に設置し、電源を投入し放電終了まで放置する。3 か月後、6 か月後、1 年後、2 年後にそれぞれ 1 台を製造企業に送り、静磁場による影響を調査する。
- ②CO2 モジュールが画質に影響を与えるのかを評価するため。円柱ファントム近傍にモジュールを置き、様々なパラメータで MRI 撮像を行い、ファントムの画質評価を行う。この評価には①とは異なるモジュールを使用する。

## 3. 研究成果 (経過)

承認後の令和 1 年 10 月 1 日から 4 台の CO2 センサーモジュールを静磁場にさらし、その影響を調べるためのデータ取得を継続している。予定通り 3 か月経過した令和 1 年 12 月 31 日までのモジュール 1 台を 1 月 6 日に引き上げ、さらにその評価確認用に別の 1 台を追加し、これまで通り継続して 4 台のモジュールを静磁場にさらしている。引き上げた 1 台からデータを取り出して、ログ解析を実施中である。

今後は引き続き静磁場での影響調査のデータ取得と、傾斜磁場をかけた場合の画像への影響調査を 4 月以降に行う予定である。これには別のモジュールを使用する。



## 59. 抗悪性中皮腫抗体の作製と広範な抗腫瘍効果の解析

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
水谷 奈津子	保健学部臨床検査技術学科	准教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
松岡 周二	順天堂大学	特任准教授	研究指導、抗体樹立
阿部 雅明	順天堂大学	主任研究員	分子同定、抗体精製

### キーワード

悪性中皮腫, 細胞増殖抑制, 悪性リンパ腫, 肺癌, 卵巣癌

### 研究分野

病理腫瘍学

#### 1. 共同研究の目的

1. 作製抗体の抗原分子の同定  
(各手法についてオリジナルの方法があり、その指導を受けながら行う)
2. 抗体の他の腫瘍との結合性および抗腫瘍効果の解析
3. 作製抗体の臨床検体に対する結合能の解析 (実施済)

#### 2. 共同研究の内容・計画

1. 分子の同定はほぼ完了しているが論文未発表。必要に応じて追試を行う。
2. 悪性リンパ腫や肺癌の一部の組織方に対して結合することが免疫染色により判明している。細胞増殖抑制効果や細胞障害性について検証する。
3. 既に臨床試験中の抗 CD26 抗体などとの比較試験を行う。
4. 順天堂大学病院ないでの臨床検体 (体腔液) での免疫染色を行う。ほとんど実施済であるが、一部をのぞいて論文未発表。各データの取り扱いについては順天堂大学医学部倫理委員会審査済 (2016 年論文参照 医院倫第 23-249 号) であり個人情報も削除済。顕微鏡写真は未撮影分があり、必要に応じて撮影し使用する。杏林大学保健学部へ標本を持ち込む場合は別途倫理委員会へ申請が必要である。

#### 3. 研究成果 (経過)

1. 第 1 報論文 (Establishment of anti-mesothelioma monoclonal antibodies, BMC Res Notes (2016) 9:324) で報告をした 4 抗体 (JMAM-1,2,3,4) のうち抗腫瘍活性の強い JMAM-1 抗体について分子の同定を行った。CD10 分子との結合が示され、CD10 transfectant 細胞を作成し、標的分子が CD10 であることを FACS 解析により証明した。2020 年度は、引き続き細胞周期との関係他、残りの 3 抗体についても解析する。
2. 同じく抗悪性中皮腫抗体として産学で開発されている抗 CD26 抗体との比較実験を行った。JMAM-1 抗体は、悪性中皮腫細胞に対し、わずかながらより強い細胞増殖抑制効果を示した。
3. 2019 年 9 月に京都で開催された第 78 回日本癌学会学術総会にて成果を発表した。

## 60. ヒトてんかん原性脳組織における酸化損傷タンパク質の網羅的探索

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
島田 厚良	保健学部臨床検査技術学科	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
柿田 明美	新潟大学脳研究所	教授	ヒト内側側頭葉組織の提供
古川 絢子	鈴鹿医療科学大学	助手	酸化損傷タンパク質の検出と同定

## キーワード

てんかん, 脳, 酸化ストレス, プロテオミクス質量分析

## 研究分野

病理学

## 1. 共同研究の目的

興奮毒性による神経細胞死に酸化ストレスが関与する事が知られているが、酸化ストレスがどのような機序で神経細胞死に関わるかは明らかでない。本研究では、慢性的な興奮毒性に曝されていると考えられるヒトてんかん外科切除脳組織を用いて、酸化損傷タンパク質を網羅的に検出し定量解析する。てんかん焦点において特異的に酸化傷害を受けるタンパク質を同定することによって、酸化ストレスが神経細胞死に果たす役割の解明と、てんかんの治療標的分子の探索に貢献したい。

## 2. 共同研究の内容・計画

本研究課題は平成 26 年度に新潟大学脳研究所が募集した「共同利用・共同研究」の「プロジェクト型研究—脳神経病理標本資源に関する共同研究」に、同研究所の柿田教授を「脳研共同研究者」として立て、島田が研究代表者として応募し採択されたことにより開始した。新潟大学に保存されている「ヒト固定標本・ヒト凍結死後脳」を利用することは採択時の審査を経て承認された。また、島田が平成 28 年度まで所属した愛知県心身障害者コロニー中央病院および発障害研究所倫理審査委員会においても承認されている。古川助手は本課題開始当初から共同研究者として上記役割を担い、現在に至るまでサンプルの管理を行っている。プロテオミクス解析は既に完了し、現在は論文投稿の段階にある。研究代表者は平成 29 年度から杏林大学所属となり、今後は論文の改訂に伴う追加実験等を行う可能性があることから、上記共同研究を本学でも承認いただきたく、ここに申請する。なお、本研究は杏林大学保健学部倫理審査に申請する予定である。

## 3. 研究成果（経過）

海馬硬化の程度を Watson らの分類に従って評価し、Grade IV を 10 例、対照として Grade 0/I を 10 例用いた。海馬 CA1 領域と、隣接する側頭葉新皮質領域からそれぞれ抽出したタンパク質を蛍光色素で標識し、二次元電気泳動を行った。各領域のタンパク質スポットの発現量を比較定量し、差があるスポットについては質量分析装置を用いてタンパク質を同定した。

その結果、Grade IV の海馬で有意に増加したタンパク質スポットは 8 個、減少したスポットは 24 個認められた。側頭葉新皮質で変動するタンパク質スポットは少なく、Grade IV で減少したスポットが 2 個、増加したスポットは 0 個であった。新皮質で減少したスポットは海馬でも減少していた。海馬で増加するタンパク質として同定出来たのは GFAP、Peroxiredoxin-6 であり、海馬硬化におけるグリオーシスに伴う反応性アストロサイトの増加を反映していると考えられる。また、神経新生や異常ネットワーク形成に関与する可能性が報告されている Stathmin が増加していた。海馬で減少するタンパク質として同定できたのは、タンパク質の折り畳みや分解に関与するタンパク質、ミトコンドリアに局在するタンパク質であり、海馬硬化を呈する組織はタンパク質品質管理やエネルギー産生が低下した状態にあると推察される。

## 61. ヨード造影剤が 1H-MRS に及ぼす影響の検討

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
只野 喜一	保健学部診療放射線技術学科	学内講師	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
磯辺 智範	筑波大学	教授	共同研究助言・統括
佐藤 英介	順天堂大学	講師	ファントム作成

### キーワード

ヨード造影剤, 1H-MRS, ファントム

### 研究分野

放射線技術学

#### 1. 共同研究の目的

脳腫瘍の診断においては造影 CT を用いるが、そこに 1H-MRS (Proton Magnetic Resonance Spectroscopy) を追加することで腫瘍の代謝物情報を得ることができ、より詳細な診断を行うことが可能となる。しかし、造影 CT 後の 1H-MRS では腫瘍内に造影剤が残留しており、1H-MRS のスペクトルに影響を与えることが知られている。そこで本研究ではヨード造影剤の濃度によってスペクトルにどのような影響が現れるかを評価し、造影 CT と 1H-MRS を連続施行する際に必要な検査インターバルを明らかにすることを目的とする。

#### 2. 共同研究の内容・計画

- ・ 脳を対象とした 1H-MRS において代表的な代謝物である NAA (n-acetyl aspartate), Cho (choline), Cr (creatinine) と濃度を変化させたヨード造影剤を含む 1H-MRS ファントムを作成し、ヨード造影剤濃度によるスペクトルの変化を観察し、診断に影響を及ぼさない上限のヨード造影剤濃度を検討する。
- ・ ヨード造影剤には化学組成の異なる様々な製品が存在するため、入手可能な薬剤について幅広く検討を行い、1H-MRS への影響が少ない薬剤を明らかにする。
- ・ 添付文書により提供されているヨード造影剤の排出率曲線から 1H-MRS に影響を及ぼさない程度までヨード造影剤濃度が低下する時間を明らかにする。
- ・ 1H-MRS 取得には本学の最新型 3T MRI を用いる。

#### 3. 研究成果 (経過)

現在臨床において広く用いられている 4 種類のヨード造影剤 (イオパミドール・イオヘキソール・イオベルソール・イオメプロール) を対象として、薬剤添付文書より算出した投与直後、15 分後、30 分後、1 時間後、2 時間後、4 時間後、6 時間後の血中濃度に相当するファントムを作成し、1H-MRS を取得した。その結果、イオパミドールが 1.7 ppm、イオヘキソールが 2.0 ppm、イオメプロールが 3.0~3.5 ppm にピークを持つことが明らかになった。イオベルソールは、3.5~4.0 ppm 付近にピークが認められたが、同範囲付近には H<sub>2</sub>O のピークがあり、分離が困難であった。また、イオヘキソールは 0.7 mM (6 時間後)、イオパミドールは 0.5 mM (4 時間後) において、ピークがノイズとほぼ同程度になったが、イオメプロールは投与後 6 時間の濃度でもピークが認められた。以上より、イオヘキソールとイオメプロールは診断に有用な脳内代謝物とピークが重なるため、診断へ影響を与えると考えられ、造影 X 線 CT 検査に連続して 1H-MRS を行う場合、この 2 種の造影剤は使用を避けることが望ましい。対して、イオベルソールのピークは脳内代謝物から離れた周波数範囲にあり、影響を与えにくいと推測される。また、

ヨード造影剤のピークがノイズと同程度になった濃度より、診断に影響を及ぼさない造影剤濃度の上限は、イオヘキソールで 0.7 mM (6 時間後)、イオバミドールでは 0.5 mM (4 時間後) である。

## 62. 体外循環回路接続部段差部位における血液流れに関する研究

### 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
福長 一義	保健学部臨床工学科	教授	統括

### 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
桑名 克之	株式会社泉工医科工業	部長補佐	共同研究助言・統括

### キーワード

心臓手術, 体外循環, 血液回路, 人工心肺装置

### 研究分野

臨床工学

#### 1. 共同研究の目的

体外循環回路の接続部（チューブとコネクタなど）にはわずかな段差が生じる。この段差により、血流が乱れ、血液適合性が低下することが指摘されている。そこで本研究では、体外循環回路の接続部における流れの変化を解析し、血液適合性などの観点から系統的に分析することで、製品改善への応用可能性について検討を行う。

#### 2. 共同研究の内容・計画

まずは現在の製品をモデルにした基本形状の体外循環回路接続部段差部位の流れの解析をおこなう。さらに臨床使用条件・状況を模擬した流れの解析をおこない、解析結果と血液適合性の関連性について検討をおこなう。

#### 3. 研究成果（経過）

体外循環回路では、血液ポンプやチューブ同士を接続するためにチューブコネクタが用いられている。構造上、接続部に生じる段差の部分において血栓が形成されやすい。本年度は、油膜法を用いた段差部の洗い流し評価方法を提案し、コネクタ流入部および流出部の洗い流しについての検討を行った。油膜法は、油膜を内壁に塗り、流れによる油膜の洗い流し具合を評価する手法である。実験に適した粘性や着色となるように、油（流動パラフィン）と顔料（油煙）、添加剤（オレイン酸）を組成とした油を調合した。人工心肺用の 3/8 インチチューブと硬質性コネクタ（MERA）、遠心ポンプを使用し、流量 3 L/min および 6 L/min の条件で、3 分間の洗い流し実験を 5 回ずつ行った。洗い流しの評価のため、段差部を撮影した後、画像処理ソフトを用いて、付着した油膜の視認面積を算出し、実験開始時を基準とした油膜の残存率を算出した。

コネクタ流入部段差の残存率は、3 L/min で  $24.4 \pm 2.01\%$ 、6 L/min で  $9.85 \pm 0.67\%$ 、流出部段差はそれぞれ  $96.6 \pm 0.77\%$ 、6 L/min で  $97.7 \pm 1.36\%$  となり、流入部は流出部よりも有意に残存率が減少した ( $p < 0.05$ )。先行研究においても、コネクタの流入側は流出側に比べ洗われやすいことが報告されており、本研究で提案した油膜法の有用性が示唆された。

## 63. 姿勢保持および日常的動作の安定性に関わる頭部および体幹部評価法の構築

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
跡見 友章	保健学部理学療法学科	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
田中 和哉	帝京科学大学	講師	実験の計画、計測、解析、考察
藤木 聡一郎	獨協医科大学	助教	実験の計画、計測、解析
跡見 順子	東京農工大学	特任教授	実験の計画、計測、解析
清水 美穂	東京農工大学	特任准教授	実験の計画、考察
畠山 望	東京農工大学	大学院生	実験の計画、計測、解析、考察
高田 勇	東京農工大学	大学院生	実験の計画、計測、解析、考察

## キーワード

身体バランス, 動作解析, 加速度センサ, 動画解析

## 研究分野

総合領域

## 1. 共同研究の目的

近年、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の概念が提唱され、身体バランスや歩き方など、運動の質的側面に着目した評価系の確立が必要となっている。

人体において頭部を含めた体幹部の質量比は、身体全体における 60%を占めるとされており、歩行動作や坐位での日常生活動作における効率性や安定性に大きな影響を与える。従って、姿勢・動作制御戦略における頭部・体幹部の評価は動作安定性および効率性の指標に含む必要がある。一方で、現在のバランス能力の評価系にはそれらの評価は含まれていない。

本研究は、汎用性の高い計測機器によって、立位姿勢や歩行における身体部位の偏位の質的な評価が可能となることを目的として実施する。

## 2. 共同研究の内容・計画

各種の姿勢保持および動作遂行課題を実施時の安定性について検討する。

1.計測機器：4K ビデオカメラ 2台・9 軸加速度センサ 5 個（センサ貼付部位：頭部・体幹部・骨盤・両足部）

2.動画解析：動画解析ソフトを用い、矢状面および前額面における頭部・体幹部・骨盤・下肢の平面座標を算出し、空間的位置偏位を検討

3.加速度解析：頭部・胸部・骨盤に生じる 3 軸加速度・3 軸角加速度変化を算出

4.評価：課題実施時の各体節における垂直性および加速度・角加速度変化を検討する。

なお、本申請研究は杏林大学倫理審査委員会の承認を得ている（2019・5）。今後、本共同研究申請の承認および関係機関での倫理審査申請・承認が得られた段階で研究を開始する。

### 3. 研究成果（経過）

#### 1. 実験の実施と結果：

①健常な右利き若年成人男性 14 名を対象に予備的実験を実施した。

②課題は立位での左右方向への重心移動課題とした。計測は小型無線多機能センサ (TSND-151, ATR-Promotions) を頭部、胸部、骨盤部、両下腿部に貼付し、各部位に生じる 6 軸方向の加速度を、計測・解析ソフト (ALTIMA, ATR-Promotions) を用いて Bluetooth 接続によって記録した。計測パラメータは、計測レンジを± 2G、サンプリング周波数を 50Hz とした。また、課題実施時の身体運動を前方よりカメラ (WEB Cam-c920r, Logicool) を用いて撮影した。解析は、頭部、胸部、骨盤部に生じる 3 平面 (前額面・矢状面・水平面) の加速度について、実効値 (Root Mean Square: RMS) を算出した。

③左右方向への重心移動課題では、テンポの相異により各体節に生じる加速度のばらつきが大きくなる傾向が確認された。

#### 2. 今後の方向性：

被験者数を増やし、解析を追加する予定である。

## 64. 超高磁場 fMRI による身体バランスの危機認知にตอบสนองする神経機構の同定

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
跡見 友章	保健学部理学療法学科	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
菊池 吉晃	首都大学東京	教授	MRI の計測と高次脳機能解析
久原 重英	保健学部診療放射線技術学科	教授	MRI の計測と解析
小林 邦典	保健学部診療放射線技術学科	特任教授	MRI の計測と解析

## キーワード

fMRI, 身体バランス, 危機認知

## 研究分野

総合領域

## 1. 共同研究の目的

近年社会的問題となっている高齢者の転倒恐怖感のように、身体バランス制御の破綻はヒトの高次な認知機能や行動にも影響を与える。一方で身体バランス制御と高次脳機能との関係性に関する研究は方法論的制限により少ない。申請者らは fMRI による先行研究にて、実際に不安定なバランス課題を経験した場合に、身体バランスが不安定な動画の提示によって、身体の危機認知に関する脳領域が活動することを示した (Atomi T, Kikuchi Y, 2014)。本研究では、バランス課題未経験の被験者に対して、先行研究同様の刺激動画を用いて運動イメージを行う条件で脳活動を計測し、先行研究の結果と比較する。

## 2. 共同研究の内容・計画

## 1. 研究の概要

本研究では、身体バランスの不安定性を表す刺激動画に対して、「動作観察課題と運動イメージ課題の併用」により能動的に自己投影する条件で活動する脳領域を確認する。

## 2. 対象者：健常な右利き成人男性 30 名

## 3. 課題：身体バランスの安定性に関する 2 種類の刺激動画を提示した際の脳活動を含む生理反応および主観的データを計測する。

## 4. 計測項目：①脳活動 (fMRI)、②生理データ (心電図・呼吸)、③主観評価

## 5. 解析：

①fMRI：解析ソフト SPM10 を用いて脳活動の解析および相関解析などを実施する。

②生理データ：呼吸リズム・心拍のパターンについて解析を実施する。

③主観的評価：各アンケート結果に対して ANOVA や多重比較などの統計解析を行う。

④脳活動と主観評価との関係：各データと脳活動との相関解析などを実施する。

## 3. 研究成果 (経過)

## 1.fMRI 撮像パラメータの確認と調整について：

跡見・小林・久原にて予備実験を実施し、実験に必要な撮像パラメータが井の頭キャンパス保有の MRI (Cannon medical system) にて撮像可能であることを確認した。



2. 刺激動画を用いた fMRI 実験の実施と結果：

- ① 健常な右利き若年成人男性 10 名を対象に実験を実施した。
- ② 課題は、2 条件のバランス課題（安定、不安定）の刺激動画に対して、自分自身が能動的に課題を実施しているようにイメージして観る条件（Motor Image：以下 MI）および他者が行っているのを観る条件（Action Observation：以下 AO）の 2 条件の観点を設定し、刺激提示時の脳活動を fMRI により計測した。
- ③ 脳活動の解析結果から、不安定条件でのみ MI で AO に対して、前庭感覚を含む多感覚統合関連（右側頭頭頂接部、左下頭頂小葉）、運動関連（右運動前野）、情動関連（両側島皮質）、自己認知関連（右中前頭回）の領域が有意に高い活動を示した。

3. 今後の方向性：

被験者数を増やし、解析を追加する予定である。

③ 総合政策学部



## 65. 日本における中国人居住者の中国伝統文化意識の研究

## 研究代表者

氏名	所属	職名	役割分担
劉迪	総合政策学部	教授	統括

## 共同研究者

氏名	所属	職名	役割分担
孫海英	北方工業大学（中国）	准教授	日本に居住する中国人の中国伝統文化意識についての調査とその結果分析などを協力する

## キーワード

華僑華人子女，中国語教育，中国語教室，立川市，埼玉県，千葉県

## 研究分野

地域社会・政治学

## 1. 共同研究の目的

中国語教室が華僑華人子女向けの子供の中国語の言語能力を維持させたり、レベルアップさせたりするのに大変重要な役割を担っている。本研究は東京都内及び周辺地域に分布されている中国語教室の全体像を把握し、また、増加しつつある華僑華人子女の母国語教育の需要やニーズに応じて、中国語教室がどのように子供向けの中国語教育を行っているか、どのような特色あるコースを設定しているかなど、子供の学習効果を上げる教学手段や教育法などを明らかにしたいと思う。

## 2. 共同研究の内容・計画

この研究は主に東京都及び周辺地域に設立されている中国語教室を考察対象とし、教室における子供向けの中国語教育に関する科目の設定や教材、または、講師の配置、及び学習者の学習効果を挙げる教育法などについて調査を行い、中国語教室における子供向けの中国語教育の現状を把握したいと思う。

- 1) 2019年1月 2018年9月に立川市に新設された大成中国語教室の運営状況を理解する上で、中国語教室の開設に面する難題などをまとめて見る。
- 2) 2019年2月～5月 埼玉県、千葉県にある中国語教室を中心にインタビューを行う。
- 3) 2019年6月 研究報告を完成する。

## 3. 研究成果（経過）

本研究は東京都内及び周辺地域に分布されている中国語教室の全体像を把握し、また、増加しつつある華僑華人子女の母国語教育の需要やニーズに応じて、中国語教室がどのように子供向けの中国語教育を行っているか、どのような特色あるコースを設定しているかなど、子供の学習効果を上げる教学手段や教育法などを明らかにすることを目的とする。主に東京都及び周辺地域に設立されている中国語教室を考察対象とし、教室における子供向けの中国語教育に関する科目の設定や教材、または、講師の配置、及び学習者の学習効果を挙げる教育法などについて調査を行い、中国語教室における子供向けの中国語教育の現状を把握するものである。

1. 2017年9月 来日後、劉迪教授と研究課題について検討し、中国語教室における中国人子供の中国語教育の実情の調査を行うことから研究を展開することを決めた。
2. 2017年10月 中国大使館、国立国語研究所などの機関を通して、華僑華人の中国語教育についての資料を収集した。
3. 2017年11月～2018年1月 アンケート調査の項目や内容の設定などを考え、アンケート調査票を作った。
4. 2018年2月12日 千代田国際語学院で行われた「第一回日本と中国の中国語教育」というシンポジウムに参加した。
5. 2018年2月24日 同源中国語学校の楊林校長と面談し、学校の運営状況、学生の中国語学習の実情などを了解する上、楊校長から研究課題を進行させるための資料提供などの協力も得た。

6. 2018年3月―8月 東京都の中国語学校を20校選定し、アンケート調査を始めた。
7. 2018年9月 アンケートに基づく研究報告を完成した。
8. 2018年10月―2019年3月 2018年9月に立川市に新設された大成中国語教室の運営状況や、中国語教室の開設に面する難題などをまとめて見た。
9. 2019年3―9月 最終研究報告を完成した。
10. 2019年9月 孫海英氏が中国に帰国した。

# 研 究 費 採 扱 一 覧



科学研究費助成事業（文部科学省・日本学術振興会）研究代表者一覧

(1) 科学研究費補助金

	部局名	研究者名	職位	研究種目	研究課題名
1	医学部	栗崎 健	教授	基盤研究(B)	ショウジョウバエ近縁種を利用した脳構造の進化・多様化を生み出す遺伝的機構の解析
2	医学部	大山 学	教授	基盤研究(B)	ヒト iPS 細胞を用いて再現した胎生期皮膚の発生誘導による付属器再生の試み
3	医学部	永根 基雄	教授	基盤研究(B)	中枢神経系悪性リンパ腫に特異的な遺伝子異常の機能解析と新規分子標的治療の開発
4	医学部	木崎 節子	教授	基盤研究(B)	運動による慢性炎症性疾患予防の分子機構：マクロファージ・インスリン受容体の役割
5	医学部	小林 一三	非常勤講師	基盤研究(B)	発がんに影響するピロリ菌の遺伝子とエピゲノム状態の PacBio 解読による探索
6	医学部	佐藤 徹	教授	基盤研究(B)	新規遺伝子異常検出法を用いた難病疾患肺高血圧症遺伝子診断カタログ作成と臨床的発展

(2) 学術研究助成基金助成金（平成 30 年度延長分）

	部局名	研究者名	職位	研究種目	研究課題名
1	医学部	加藤 健太郎	講師	基盤研究(C)	ショウジョウバエ変性空胞形成・修復へのグリア細胞の関与と分子基盤
2	保健学部	柴田 茂貴	教授	基盤研究(C)	最新の脳血管機能評価法の認知症への応用
3	保健学部	大木 幸子	教授	基盤研究(C)	行政における保健師の実践能力育成のためのケースメソッドプログラムの開発と検証
4	保健学部	坂井 志麻	教授	若手研究(B)	外来看護における在宅療養移行支援プログラムの開発
5	外国語学部	嵐 洋子	准教授	若手研究(B)	英語教育と連携した日本語教師養成プログラム開発のためのデータベース構築と教育実践
6	保健学部	丹羽 正利	教授	基盤研究(C)	高血糖や老化に起因する排便障害の病態解明
7	外国語学部	遠山 菊夫	教授	基盤研究(C)	伝統的心性の自覚から異文化コーディネーターとしての成長を促す英語教育法研究
8	外国語学部	八木橋 宏勇	准教授	基盤研究(C)	用法基盤モデルに基づく英語ライティング用教材「テンプレート」の開発
9	保健学部	下島 裕美	准教授	基盤研究(C)	人生後期における自伝的記憶の機能－他者に語る記憶と自己を振り返る記憶－
10	医学部	福富 俊之	助教	基盤研究(C)	血中短鎖脂肪酸濃度を決定付ける肝短鎖脂肪酸取込み調節機構の解明
11	医学部	荻田 香苗	教授	基盤研究(C)	火山噴火地域での大気粒子状物質等への曝露が自律神経機能に及ぼす影響
12	医学部	萬 知子	教授	基盤研究(C)	中心静脈カテーテル関連血流感染症撲滅のためのケアバンドル予防策徹底とその教育
13	医学部	近藤 琢磨	講師	基盤研究(C)	膵β細胞外ストレスによるインスリン分泌能低下の新規分子機構の解明
14	医学部	小林 敬明	助教	基盤研究(C)	結腸直腸癌における高酸素・高圧酸素併用化学療法の有効性について
15	医学部	鶴澤 康二	助教	基盤研究(C)	重症病態における内皮細胞機能変化の時間空間的イメージング手法による病態生理の解明
16	医学部	福原 浩	教授	基盤研究(C)	膀胱癌に対するウイルス療法と樹状細胞療法とを併用したウイルス免疫療法の確立
17	医学部	横山 純吉	非常勤講師	基盤研究(C)	抗 EGFR 抗体-蛍光法による転移リンパ節に対するリンパ管化学療法の開発



18	医学部	白石 知大	助教	基盤研究(C)	生体電気インピーダンスを用いた血行動態モニタリングの臨床応用
19	保健学部	柴田 滋子	講師	基盤研究(C)	訪問看護師のキャリアコミットメント向上支援プログラムの開発
20	医学部	田中 啓	医員	若手研究(B)	母体インスリン抵抗性に着目した胎盤発育機序の解明
21	医学部	中澤 春政	助教	若手研究(B)	敗血症の新たな治療薬の開発；骨格筋におけるタンパク質のファルネシル化に着眼して
22	保健学部	只野 喜一	助教	若手研究(B)	不変性をもった拡散テンソルファントムの開発

(3) 学術研究助成基金助成金（平成 27 年度採択分）

	部局名	研究者名	職位	研究種目	研究課題名
1	医学部	吉田 正雄	准教授	基盤研究(C)	白内障、緑内障および強度近視のリスク要因と一次予防対策解明のための分析疫学的研究

(4) 学術研究助成基金助成金（平成 28 年度採択分）

	部局名	研究者名	職位	研究種目	研究課題名
1	保健学部	角田 ますみ	准教授	基盤研究(C)	介護施設における倫理的問題の認識対処行動と有効な倫理研修プログラムの開発

(5) 学術研究助成基金助成金（平成 29 年度採択分）

	部局名	研究者名	職位	研究種目	研究課題名
1	保健学部	森 美加	助教	基盤研究(C)	臨床用 MR 装置および CT 装置を用いた出土木材年輪年代測定法の開発
2	保健学部	岸野 智則	教授	基盤研究(C)	脂肪の超音波検査で生活習慣病の病勢を計る
3	医学部	渋谷 賢	助教	基盤研究(C)	自己身体認識における運動システムの寄与の解明：ラバーハンド錯覚によるアプローチ
4	保健学部	照屋 浩司	教授	基盤研究(C)	骨を育てる子どもの生活習慣（小学校低学年児童を対象として）
5	外国語学部	齋藤 智志	教授	基盤研究(C)	ニーチェにおける科学主義と反科学主義の再検討—ショーペンハウアーとの対比のなかで
6	総合政策学部	藤原 究	准教授	基盤研究(C)	宗教法人制度における法人財産の性質と公益性のあり方に関する考察
7	医学部	今泉 美佳	教授	基盤研究(C)	アクティブゾーン蛋白質 ELKS のインスリン極性分泌における役割
8	保健学部	松友 紀和	講師	基盤研究(C)	圧縮センシングを用いた新しい SPECT 画像再構成法の開発
9	医学部	長谷川 浩	准教授	基盤研究(C)	動的・静的脳画像、心拍変動を用いた新たな軽度認知機能低下高齢者の安全運転支援開発
10	医学部	林田 真理	助教	基盤研究(C)	SLCO2A1 トランスポーターの機能解析
11	医学部	松下 健一	講師	基盤研究(C)	左室収縮能保持性心不全の病態解明と新規治療法開発に向けたトランスレーショナル研究
12	医学部	渡辺 雅人	助教	基盤研究(C)	sST は好中球性喘息の重要分子である：バイオマーカーおよび治療標的分子として
13	医学部	長瀬 美樹	教授	基盤研究(C)	メカノ感知応答システムの分子基盤と高血圧におけるその変容の解明
14	医学部	河野 浩之	助教	基盤研究(C)	側副血行の発達が決める、脳虚血ペナンプラの運命
15	医学部	青柳 共太	講師	基盤研究(C)	VAMP7 を介した膵β細胞のミトコンドリア品質管理と糖尿病発症機序の解明

## 研究費採択一覧

16	医学部	後藤田 貴也	教授	基盤研究(C)	脂肪蓄積関連遺伝子産物 SLC22A18 の機能調節分子の探索
17	医学部	櫻井 裕之	教授	基盤研究(C)	若年性排泄低下型高尿酸血症の病態解明
18	医学部	田中 絵里子	助教	基盤研究(C)	小児原発性巣状糸球体硬化症における表現型決定因子の RNA-seq 解析による解明
19	保健学部	小池 貴久	准教授	基盤研究(C)	ホウ素中性子捕捉療法に用いるリアルタイムパルス中性子ビームモニタシステムの開発
20	医学部	阪本 良弘	教授	基盤研究(C)	移植可能な iPS 細胞由来膵外分泌細胞の作成と膵液流出路を確保した移植方法の確立
21	医学部	大塚 弘毅	助教	基盤研究(C)	肺癌の先制医療を可能にする Germline 遺伝子変異診断開発の基盤研究
22	医学部	塩川 芳昭	教授	基盤研究(C)	髄液由来腫瘍核酸解析による中枢神経系悪性リンパ腫に対する非侵襲的新規診断法の開発
23	医学部	齊藤 邦昭	助教	基盤研究(C)	グリオーマ血清/髄液中 DNA 高感度解析による liquid biopsy の確立
24	医学部	横井 秀格	准教授	基盤研究(C)	神経ペプチド (Galanin) の解析にて斬新なアレルギー性鼻炎の病態と治療の解明
25	医学部	唐帆 健浩	准教授	基盤研究(C)	嚥下内視鏡と高解像度嚥下圧検査を組み合わせた新しい嚥下機能検査方法の開発
26	医学部	齋藤 康一郎	教授	基盤研究(C)	難治性再発性喉頭乳頭腫症に対する標準的な診療体制の確立
27	医学部	平形 明人	教授	基盤研究(C)	視神経篩状板異常に起因する網膜分離・剥離の病態解明
28	医学部	渡邊 交世	講師	基盤研究(C)	microRNA を用いた自己免疫性ぶどう膜炎の炎症制御と神経保護作用
29	医学部	慶野 博	准教授	基盤研究(C)	酸化ストレス関連分子 Nrf2 を介した自己免疫性ぶどう膜炎の制御
30	医学部	菅 浩隆	講師	基盤研究(C)	創傷治癒過程における免疫系細胞の役割についての包括的研究:「創傷免疫学」の確立
31	保健学部	太田 淳子	助教	基盤研究(C)	高齢者の熱中症予防対策としての口腔機能トレーニングプログラムの構築
32	医学部	百瀬 裕一	医員	若手研究(B)	難病疾患肺動脈性肺高血圧症の発症原因遺伝子の新規同定と機能解析
33	医学部	宮本 孝英	医員	若手研究(B)	嚥下モダリティーと栄養免疫から診る認知症診断の確立と肺炎サスセプティビリティ
34	保健学部	石川 純也	助教	若手研究(B)	クローン増殖能維持及び回復促進に帰す標的因子を探索する
35	保健学部	手塚 綾	助教	若手研究(B)	分娩後の心的外傷後成長とその関連要因に関する研究
36	保健学部	岡田 昌也	助教	若手研究(B)	双極性障害における個別支援を取り入れた集団心理教育プログラムの開発と効果
37	医学部	樋口 聡	助教	若手研究(B)	非心臓手術周術期心房細動の短期・長期予後への影響に関する前向き調査
38	保健学部	岩崎 也生子	講師	若手研究(B)	小児期高次脳機能障害患者・家族の生活困難さに関する概念モデルの検討と尺度開発
39	保健学部	平澤 愛	助教	若手研究(B)	認知症発症に関連する心機能の解明:最新の3次元超音波法を用いたアプローチ
40	医学部	三倉 直	医員	若手研究(B)	超音波による慢性閉塞性肺疾患の横隔膜機能評価

## (6) 学術研究助成基金助成金 (平成 30 年度採択分)

	部局名	研究者名	職位	研究種目	研究課題名
1	外国語学部	高木 眞佐子	教授	基盤研究(C)	党派抗争により分化する英国・初期印刷刊本の年代記の記述に関する研究
2	医学部	江頭 説子	特任講師	基盤研究(C)	公害患者運動の実証的・理論的研究－「地球環境問題」の原点としての「公害」再考－
3	医学部	須賀 圭	講師	基盤研究(C)	ゴルジストレス応答性 Syx5 と低分子化合物による Abeta 分泌調節と神経細胞保護
4	保健学部	渡部 和彦	教授	基盤研究(C)	熱ショック応答関連分子による筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 細胞質凝集体の形成抑制
5	医学部	秋元 義弘	教授	基盤研究(C)	糖尿病合併症における核内糖修飾アクトシンの役割の解明
6	医学部	松村 譲児	教授	基盤研究(C)	ピロリドン固定解剖体の特性の解明と解剖学研究・教育・研修への応用法の構築
7	医学部	柴原 純二	教授	基盤研究(C)	医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患の分子遺伝学的特徴の解明
8	保健学部	島田 厚良	教授	基盤研究(C)	骨髄に由来し脈絡叢を経由して脳に供給される免疫系細胞の動態と神経変性への関与
9	医学部	新倉 保	講師	基盤研究(C)	脂肪組織を基軸とした新たな妊娠マラリア病態発症機構の解明
10	保健学部	石井 さなえ	准教授	基盤研究(C)	鼻腔炎症に連動した嗅球投射ニューロンの変性と神経回路再生を決定する脳微小環境
11	医学部	町田 治彦	准教授	基盤研究(C)	逐次近似再構成を用いた超高精細 CT の画質向上と被ばく低減
12	医学部	福原 大介	助教	基盤研究(C)	病的血管新生に働く VEGF 下流分子を標的とする副作用のない未熟児網膜症治療の試み
13	医学部	松浦 稔	准教授	基盤研究(C)	炎症性腸疾患における鉄動態変化に基づくマクロファージ機能異常とその病態関与の解明
14	医学部	伊波 巧	学内講師	基盤研究(C)	難病疾患肺動脈性肺高血圧症の新規発症感受性遺伝子の同定と機能解析
15	医学部	高橋 良	講師	基盤研究(C)	ステロイドパルス療法における自然免疫細胞を介した即効性炎症反応抑制機序の解明
16	保健学部	滝 智彦	教授	基盤研究(C)	腫瘍の多様な染色体・ゲノム構造と異常転写産物形成の分子機構の統合解析
17	保健学部	新江 賢	講師	基盤研究(C)	キチナーゼによるダニアレルギー誘発機構の解析
18	医学部	井本 滋	教授	基盤研究(C)	トリプルネガティブ乳癌の免疫応答を制御する SOCS1 を標的とした新規治療法の開発
19	医学部	森山 潔	准教授	基盤研究(C)	高機能シミュレーターを用いた経鼻高流量酸素療法による換気効果の評価
20	医学部	小林 啓一	学内講師	基盤研究(C)	中枢神経系と全身性発生悪性リンパ腫の分子遺伝学的比較解析による起源・病態解明
21	医学部	野口 明男	講師	基盤研究(C)	神経膠腫アルキル化剤治療後の高度点変異誘導機序解明による個別化療法の開発
22	医学部	小林 陽一	教授	基盤研究(C)	ハイリスク卵巣内膜症性嚢胞を選別する新規バイオマーカーの探索
23	医学部	井上 真	教授	基盤研究(C)	共焦点眼底鏡による緑色光励起眼底自発蛍光を用いた黄斑疾患の機能評価と病態解明
24	医学部	米澤 英雄	講師	基盤研究(C)	口腔マイクロビオータが及ぼす腸内マイクロビオータへの影響の解明
25	医学部	武市 敏明	助教	基盤研究(C)	病理組織学的手法を用いた刺激性薬物乱用のスクリーニング検査の開発

## 研究費採択一覧

26	保健学部	柴崎 美紀 (小田切 美紀)	講師	基盤研究(C)	高齢者と栄養支援をつなぐ看護師の調整機能—地理情報システムによる小地域空間分析—
27	保健学部	竹田 里江	教授	基盤研究(C)	個人の能力・興味に合わせた前頭連合野リハビリテーションの背景をなす脳機能の解明
28	保健学部	村松 憲	准教授	基盤研究(C)	糖尿病性錐体路障害に対応する新しい糖尿病運動療法の開発
29	保健学部	藤澤 祐基	学内講師	基盤研究(C)	脳卒中片麻痺の上肢運動解析：CI療法は真に麻痺を回復しているか？
30	医学部	中島 剛	学内講師	基盤研究(C)	ヒト脊髄内の代替神経システムを強化する新しい運動機能回復法の開発
31	医学部	櫻井 拓他	講師	基盤研究(C)	ブラウンアディボカインをターゲットとした新規運動効果の探索
32	医学部	白土 健	助教	基盤研究(C)	糖尿病による動脈硬化亢進機構と運動効果：マクロファージのインスリンシグナルの役割
33	外国語学部	野口 洋平	准教授	基盤研究(C)	東アジアにおけるボーダーレス観光推進に向けたフレームワークの構築に関する研究
34	医学部	大江 悠樹	助教	若手研究	過敏性腸症候群に対する内部感覚曝露を取り入れた認知行動療法のランダム化比較試験
35	保健学部	上田 真樹子	助教	若手研究	分泌 miR-1246 isoform の腫瘍微小環境における役割
36	医学部	山崎 聡子	助教	若手研究	心音・心機図を用いた心臓診察による肺高血圧症早期診断の試み
37	医学部	高江洲 義和	講師	若手研究	双極性障害における概日リズム障害と認知・社会機能障害の複合的相互関係の検討
38	医学部	下田 由莉江	助教	若手研究	免疫学的特権破綻の観点からみた汗腺を標的とする自己免疫性疾患の病態解明
39	医学部	牧山 智彦	助教	若手研究	代償性インスリン分泌能亢進における P2X7 受容体の役割
40	医学部	安藤 直朗	助教	若手研究	生体蛍光イメージング解析を用いたアスコルビン酸の重症病態下内皮細胞機能への影響
41	医学部	渥美 剛史	助教	挑戦的萌芽研究	自閉症の特異な触覚時間分解能を担う認知神経回路のモデルマウスによる解析
42	総合政策学部	伊波 浩美	准教授	研究活動スタート支援	多国籍企業のソーシャルビジネスは、開発途上国の貧困問題を解決できるのか？
43	医学部	田口 慧	助教	研究活動スタート支援	がん治療用ヘルペスウイルスを用いた、肉腫におけるウイルス療法の検討

### (7) 学術研究助成基金助成金（平成 31 年度採択分）

	部局名	研究者名	職位	研究種目	研究課題名
1	総合政策学部	Malcolm Field	教授	基盤研究(C)	L1 群と L2 群が同じ科目で同等の学習効果を上げることができるかまたその要因は何か
2	保健学部	櫻井 未央	講師	基盤研究(C)	子どもの発達障害を養育者が受容する困難さは何か—障害受容を支える心理支援法の開発
3	保健学部	下島 裕美	教授	基盤研究(C)	人生後半における過去・未来エピソードの機能と時間的展望の個人差
4	医学部	平井 和之	講師	基盤研究(C)	ショウジョウバエ受精卵における紡錘体融合による二倍体核形成機構
5	医学部	加藤 健太郎	講師	基盤研究(C)	ショウジョウバエ発生過程における中枢神経系グリア細胞の脱分化を支える分子基盤
6	保健学部	跡見 友章	教授	基盤研究(C)	超高磁場 fMRI による身体バランスの危機認知に応答する神経機構の同定

7	保健学部	堀口 幸太郎	講師	基盤研究(C)	純化に成功したラット下垂体幹細胞を利用したホルモン産生細胞の発生メカニズムの解明
8	医学部	菅原 大介	助教	基盤研究(C)	幹細胞制御におけるニッチ細胞の糖鎖多様性に関する研究
9	医学部	千葉 知宏	講師	基盤研究(C)	脳腫瘍における特異的細胞膜表面マーカーの同定とその制御機構の解析
10	医学部	花輪 智子	准教授	基盤研究(C)	新たな百日咳ワクチンの開発に向けて・外膜ベシクルと宿主細胞の相互作用
11	医学部	海老原 孝枝	准教授	基盤研究(C)	高齢者肺炎における、DPP-IV 阻害剤の pros and cons
12	医学部	皿谷 健	准教授	基盤研究(C)	呼吸音のクラウドシステムの確立と在宅・遠隔医療への応用
13	医学部	平野 照之	教授	基盤研究(C)	脳機能局在を考慮した虚血コア判定システムの開発
14	医学部	久松 理一	教授	基盤研究(C)	包括的微生物叢解析による 5-ASA 抗炎症作用機序の解明と新規 IBD 治療戦略の探索
15	医学部	楊 國昌	教授	基盤研究(C)	創薬のための統合オミックス解析による難治性ネフローゼの病因・病態探索
16	医学部	木村 徹	学内講師	基盤研究(C)	抗アミノ酸療法を用いた多発性嚢胞腎の治療戦略
17	医学部	川上 貴久	学内講師	基盤研究(C)	マクロファージの低酸素センサー-PHD を標的とした腎疾患新規治療の開発
18	医学部	水川 良子	教授	基盤研究(C)	薬剤性過敏症候群をモデルとする自己免疫性疾患発症のリスクファクターの解明
19	医学部	田中 弦	助教	基盤研究(C)	尿酸と L-dopa の相互調節機序の解明
20	医学部	麻賀 創太	講師	基盤研究(C)	HMG-CoA レダクターゼ制御によるトリプルネガティブ乳癌新規治療法の開発
21	医学部	丸山 啓介	講師	基盤研究(C)	外視鏡を用いた拡張現実による脳手術ナビゲーションの開発
22	医学部	福原 浩	教授	基盤研究(C)	間質性膀胱炎に対する TRP 受容体遺伝子発現型 HSV-1 を用いた新規疼痛治療の開発
23	医学部	増田 正次	講師	基盤研究(C)	蝸牛外側壁組織培養と生細胞蛍光イメージングを用いた難聴予防・治療戦略の探索
24	医学部	岡田 アナベル・あやめ	教授	基盤研究(C)	microRNA を用いた Vogt-小柳-原田病における新しいバイオマーカーの探索
25	医学部	菖田 慎一	助教	基盤研究(C)	マイクロプラスチック摂取が糖尿病モデル水棲生物の合併症と生殖機能に及ぼす影響
26	総合政策学部	北島 勉	教授	基盤研究(C)	タイの若者を対象とした HIV 検査受検促進プログラムの有効性の検討
27	保健学部	佐々木 裕子	准教授	基盤研究(C)	父親に焦点を当てた出産前からの産後うつ予防ペアレンティングプログラムの開発と効果
28	保健学部	亀崎 路子	教授	基盤研究(C)	子ども支援のための関係職種との協働をコーディネートする養護教諭の実践モデルの策定
29	医学部	金城 真実	学内講師	基盤研究(C)	女性特有の骨盤底障害による QOL 低下とロコモ等への重症化を予防する医療環境の構築
30	医学部	市川 弥生子	准教授	基盤研究(C)	2 型糖尿病の高リスク疾患関連遺伝子による新しい病態と分子機構の解明
31	医学部	安田 和基	教授	基盤研究(C)	ヒト非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の肝遺伝子発現クラスター調節因子の検討

## 研究費採択一覧

32	外国語学部	古本 泰之	准教授	基盤研究(C)	地域内での美術館の集積を活用したアートによる観光振興の可能性に関する研究
33	保健学部	近藤 知子	教授	基盤研究(C)	医療・介護職が 3D プリント福祉用具を簡易に作成するための教育プログラム開発
34	総合政策学部	長谷部 弘道	講師	若手研究	日本の総合電機企業における経営者教育の実態とその変遷をめぐる研究
35	保健学部	島田 正亮	講師	若手研究	措置変更における効果的な施設間協働体制の構築に関する研究
36	医学部	磯谷 一暢	助教	若手研究	mTORC1 の細胞内分布パターンが早期肺腺癌の再発と予後に与える影響の検討
37	保健学部	三浦 晶大	助教	若手研究	胎児炎症反応において頭部の原始マクロファージが早産児脳障害を誘発するメカニズム
38	医学部	徳重 真一	助教	若手研究	視線解析を用いた認知症の診断方法の開発
39	保健学部	三島 由祐子	助教	若手研究	血液型 D 抗原の発現制御メカニズムの解明
40	医学部	大田原 正幸	助教	若手研究	マイクロ流路を用いた好中球遊走能解析による新たな感染マーカー開発と熱傷への応用
41	医学部	田中 啓	学内講師	若手研究	血小板膜糖タンパクに着目した妊娠高血圧症候群の病態解明
42	医学部	下山 勇人	医員	若手研究	両側側腹部圧迫法が導く呼吸機能回復と呼吸器合併症減少の可能性
43	保健学部	前田 直	助教	若手研究	精神障害者の配偶者に対するライフステージの変化に伴った支援プログラムの開発
44	保健学部	長島 泉	助教	若手研究	手の心的回転課題を用いた運動イメージ訓練と臨床研究の発展に寄与する基礎的研究
45	保健学部	原田 祐輔	助教	若手研究	脳卒中患者における手の心的回転課題の臨床応用に関する研究
46	保健学部	大城 直美	助教	若手研究	中枢神経障害という新たな視点から糖尿病による排便機能障害の病態解明
47	医学部	平吹 一訓	医員	若手研究	最新の三次元心エコーを用いた起立耐性低下の機序解明と健康な体力の上限設定への応用
48	医学部	畑 典孝	助教	若手研究	3次元心臓超音波機器を用いた健常人の運動中における心臓機能の検討
49	保健学部	松村 将司	学内講師	若手研究	小学生バドミントン選手の傷害予防プログラムの開発

### 科学研究費助成事業（日本学術振興会）研究分担者一覧（研究代表者：学内研究者）

	部局名	研究者名	職位	研究種目	研究課題名	研究代表者	
1	保健学部	大城 直美	助教	基盤(C) (延長)	高血糖や老化に起因する排便障害の病態解明	保健学部	丹羽 正利
2	保健学部	村松 憲	准教授				
3	外国語学部	倉林 秀男	准教授	基盤(C) (延長)	伝統的心性の自覚から異文化コーディネーターとしての成長を促す英語教育法研究	外国語学部	遠山 菊夫
4	外国語学部	八木橋 宏勇	准教授				
5	外国語学部	楠家 重敏	教授				
6	医学部	木村 徹	助教	基盤(C) (延長)	血中短鎖脂肪酸濃度を決定付ける肝短鎖脂肪酸取込み調節機構の解明	医学部	福富 俊之

7	医学部	吉田 正雄	講師	基盤(C) (延長)	火山噴火地域での大気粒子状物質等への曝露が自律神経機能に及ぼす影響	医学部	荻田 香苗
8	医学部	森山 潔	准教授	基盤(C) (延長)	中心静脈カテーテル関連血流感染症撲滅のためのケアバンドル予防策徹底とその教育	医学部	萬 知子
9	医学部	石田 均	教授	基盤(C) (延長)	膵β細胞外ストレスによるインスリン分泌能低下の新規分子機構の解明	医学部	近藤 琢磨
10	医学部	正木 忠彦	教授	基盤(C) (延長)	結腸直腸癌における高酸素・高圧酸素併用化学療法の有効性について	医学部	小林 敬明
11	医学部	萬 知子	教授	基盤(C) (延長)	重症病態における内皮細胞機能変化の時間空間的イメージング手法による病態生理の解明	医学部	鵜澤 康二
12	医学部	安藤 直朗	助教				
13	医学部	加藤 健太郎	講師	基盤(B)	ショウジョウバエ近縁種を利用した脳構造の進化・多様化を生み出す遺伝的機構の解析	医学部	粟崎 健
14	医学部	平井 和之	講師				
15	医学部	高橋 良	講師	基盤(B)	ヒト iPS 細胞を用いて再現した胎生期皮膚の発生誘導による付属器再生の試み	医学部	大山 学
16	保健学部	芝生 春菜	助教	基盤(C)	臨床用 MR 装置および CT 装置を用いた出土木材年輪年代測定法の開発	保健学部	森 美加
17	保健学部	久原 重英	教授				
18	保健学部	小林 邦典	特任教授				
19	医学部	森 秀明	教授	基盤(C)	脂肪の超音波検査で生活習慣病の病勢を計る	保健学部	岸野 智則
20	保健学部	四倉 正之	教授				
21	医学部	川村 直弘	講師				
22	保健学部	橋本 雄幸	教授	基盤(C)	圧縮センシングを用いた新しい SPECT 画像再構成法の開発	保健学部	松友 紀和
23	保健学部	山本 智朗	教授				
24	医学部	久松 理一	教授	基盤(C)	SLCO2A1 トランスポーターの機能解析	医学部	林田 真理
25	医学部	皿谷 健	講師	基盤(C)	sST は好中球性喘息の重要分子である：バイオマーカーおよび治療標的分子として	医学部	渡辺 雅人
26	医学部	滝澤 始	教授				
27	医学部	田村 仁樹	助教				
28	医学部	本多 紘二郎	助教				
29	医学部	平野 照之	教授	基盤(C)	側副血行の発達が決める、脳虚血ペナンプラの運命	医学部	河野 浩之
30	医学部	山本 隆史	助教	基盤(C)	脂肪蓄積関連遺伝子産 SLC22A18 の機能調節分子の探索	医学部	後藤田 貴也

31	医学部	渡邊 卓	教授	基盤(C)	肺癌の先制医療を可能にする Germline 遺伝子変異診断開発の 基盤研究	医学部	大塚 弘毅
32	医学部	藤原 正親	准教授				
33	医学部	田中 良太	講師				
34	医学部	松島 早月	実験助手				
35	医学部	大西 宏明	教授				
36	医学部	川田 往嗣	助教	基盤(C)	神経ペプチド (Galanin) の解析 にて斬新なアレルギー性鼻炎の病 態と治療の解明	医学部	横井 秀格
37	医学部	井上 真	教授	基盤(C)	視神経篩状板異常に起因する網膜 分離・剥離の病態解明	医学部	平形 明人
38	医学部	北 善幸	講師				
39	保健学部	中島 恵美子	教授	基盤(C)	高齢者の熱中症予防対策としての 口腔機能トレーニングプログラムの 構築	保健学部	太田 淳子
40	医学部	神谷 茂	教授	基盤(B)	発がんに影響するピロリ菌の遺伝 子とエピゲノム状態の PacBio 解 読による探索	医学部	小林 一三
41	医学部	山本 幸子	講師	基盤(C)	ゴルジストレス応答性 Syx5 と低 分子化合物による Abeta 分泌調節 と神経細胞保護	医学部	須賀 圭
42	医学部	丑丸 真	教授				
43	保健学部	村田 麻喜子	講師	基盤(C)	熱ショック応答関連分子による筋 萎縮性側索硬化症 (ALS) 細胞質 凝集体の形成	保健学部	渡部 和彦
44	医学部	宮東 昭彦	准教授	基盤(C)	糖尿病合併症における核内糖修飾 アクチンの役割の解明	医学部	秋元 義弘
45	医学部	長瀬 美樹	教授	基盤(C)	ピロリド固定解剖体の特性の解 明と解剖学研究・教育・研修への 応用法の構築	医学部	松村 譲児
46	医学部	千葉 知宏	学内講師	基盤(C)	医原性免疫不全症関連リンパ増殖 性疾患の分子遺伝学的特徴の解明	医学部	柴原 純二
47	医学部	大森 嘉彦	助教				
48	医学部	横山 健一	教授	基盤(C)	逐次近似再構成を用いた超高精細 CT の画質向上と被ばく低減	医学部	町田 治彦
49	医学部	福富 俊之	助教	基盤(C)	病的血管新生に働く VEGF 下流分 子を標的とする副作用のない未熟 児網膜症治療の試み	医学部	福原 大介
50	医学部	本保 晃	助教	基盤(C)	高機能シミュレーターを用いた経 鼻高流量酸素療法による換気効果 の評価	医学部	森山 潔
51	医学部	萬 知子	教授				
52	医学部	永根 基雄	教授	基盤(C)	中枢神経系と全身性発生悪性リン パ腫の分子遺伝子学的比較解析に よる起源・病態解明	医学部	小林 啓一
53	医学部	永根 基雄	教授	基盤(C)	神経膠腫アルキル化剤治療後の高 度点変異誘導機序解明による個別 化療法の開発	医学部	野口 明男



54	医学部	伊東 裕二	講師	基盤(C)	共焦点眼底鏡による緑色光励起眼底自発蛍光を用いた黄斑疾患の機能評価と病態解明	医学部	井上 真
55	医学部	慶野 博	准教授				
56	医学部	北村 修	教授	基盤(C)	病理組織学的手法を用いた刺激性薬物乱用のスクリーニング検査の開発	医学部	武市 敏明
57	医学部	桐生 京佳	准教授				
58	医学部	大浦 紀彦	教授	基盤(C)	高齢者と栄養支援をつなぐ看護師の調整機能—地理情報システムによる小地域空間分析—	保健学部	柴崎 美紀 (小田切美紀)
59	保健学部	中島 恵美子	教授				
60	保健学部	丹羽 正利	教授	基盤(C)	糖尿病性錐体路障害に対応する新しい糖尿病運動療法の開発	保健学部	村松 憲
61	医学部	岡島 康友	教授	基盤(C)	脳卒中片麻痺の上肢運動解析：CI療法は真に麻痺を回復しているか？	保健学部	藤澤 祐基
62	保健学部	中野 尚子	教授				
63	医学部	栗崎 健	教授	基盤(C)	ショウジョウバエ発生過程における中枢神経系グリア細胞の脱分化を支える分子基盤	医学部	加藤 健太郎
64	医学部	平井 和之	講師				
65	保健学部	久原 重英	教授	基盤(C)	超高磁場 fMRI による身体バランスの危機認知に応答する神経機構の同定	保健学部	跡見 友章
66	保健学部	小林 邦典	特任教授				
67	医学部	神崎 恒一	教授	基盤(C)	高齢者肺炎における、DPP-IV 阻害剤の pros and cons	医学部	海老原 孝枝
68	医学部	永井 久美子	実験助手				
69	医学部	田中 絵里子	助教	基盤(C)	創薬のための統合オミックス解析による難治性ネフローゼの病因・病態探索	医学部	楊 國昌
70	医学部	要 伸也	教授	基盤(C)	マクロファージの低酸素センサー PHD を標的とした腎疾患新規治療の開発	医学部	川上 貴久
71	医学部	田口 慧	助教	基盤(C)	間質性膀胱炎に対する TRP 受容体遺伝子発現型 HSV-1 を用いた新規疼痛治療の開発	医学部	福原 浩
72	医学部	渡邊 交世	非常勤講師	基盤(C)	microRNA を用いた Vogt-小柳-原田病における新しいバイオマーカーの探索	医学部	岡田 アナベル・あやめ
73	医学部	吉田 正雄	准教授	基盤(C)	マイクロプラスチック摂取が糖尿病モデル水棲生物の合併症と生殖機能に及ぼす影響	医学部	菅田 慎一
74	医学部	荻田 香苗	教授				
75	医学部	栗崎 健	教授	基盤(C)	2型糖尿病の高リスク疾患関連遺伝子による新しい病態と分子機構の解明	医学部	市川 弥生子
76	保健学部	原田 祐輔	助教	基盤(C)	医療・介護職が 3D プリント福祉用具を簡易に作成するための教育プログラム開発	保健学部	近藤 知子

科学研究費助成事業（日本学術振興会）研究分担者一覧（研究代表者：学外研究者）

	部局名	研究者名	職位	研究種目	研究課題名	研究代表者	
1	医学部	江頭 説子	講師	基盤(C)	派遣労働のキャリア形成：専門性・職域・年齢制限を軸とした社会的アプローチ	聖心女子大学	大槻 奈巳
2	医学部	水川 良子	教授	基盤(C)	DPP-4 阻害薬関連類天疱瘡における発症機序の免疫学的解析	川崎医科大学	杉山 聖子
3	医学部	高橋 良	講師				
4	医学部	要 伸也	教授	基盤(C)	初発 AAV 前向きコホートデータを用いた臨床病型・治療・バイオマーカーの多層的研究	東京女子医科大学	堤野 みち
5	保健学部	佐々木 裕子	准教授	基盤(C)	産後うつへの予防にむけた心理教育的育児介入プログラム WWWT 日本版の開発と効果	順天堂大学	高橋 真理
6	総合政策学部	長谷部 弘道	講師	基盤(C)	移民政策としてみた高度外人材受け入れ政策の日本の特徴	法政大学	上林 千恵子
7	保健学部	久原 重英	教授	基盤(C)	機械学習による MRI の撮像時間短縮	名古屋大学	川喜田 雅則
8	保健学部	神谷 茂	教授	基盤(C)	ウェルシュ菌敗血症における致死的血管内溶血機構の解明	日本大学	須崎 愛
9	保健学部	坂井 志麻	教授	基盤(C)	退院直後における外来看護の新たな展開を目指した入院時～退院 6 か月後までの追跡調査	神奈川工科大学	入江 慎治
10	保健学部	柴崎 美紀	講師	基盤(C)	地域包括ケアシステムにおける住民の「自助」意識に働きかける自治体活動モデルの検討	国際医療福祉大学	鳥本 靖子
11	保健学部	近藤 知子	教授	基盤(C)	ハンドル型電動車椅子の安全利用促進のための走行操作ログによる技能評価ツールの開発	帝京科学大学	竹嶋 理恵
12	保健学部	門馬 博	講師				
13	保健学部	一場 友実	講師	基盤(C)	ボッチャ選手における呼吸筋トレーニングを活用した強化プログラムの開発	大阪府立大学	片岡 正教
14	医学部	山口 芳裕	教授	基盤(C)	心肺停止患者の心電図波形解析に基づく除細動適用成否予測システムの構築	東京都市大学	大屋 秀稔
15	保健学部	五十 嵐昂	助教				
16	保健学部	柴田 茂貴	教授	挑戦的萌芽	認知症を防ぐオン・ベッド・リハビリテーションシステムの開発	産業技術総合研究所	菅原 順
17	保健学部	平澤 愛	学内講師				
18	保健学部	神谷 茂	教授	基盤(C)	胃癌予防のための中学・高校生ピロリ菌検診と除菌治療：実施方法の検討	兵庫医科大学	奥田 真珠美
19	医学部	大崎 敬子	准教授				
20	医学部	高江洲 義和	講師	基盤(C)	個別化した睡眠の改善による学生の欠席・不調の改善	東京医科大学	志村 哲祥
21	医学部	川上 貴久	学内講師	基盤(C)	細胞内低酸素センサーを標的とする慢性腎臓病の治療介入	東京大学	田中 哲洋
22	医学部	新倉 保	講師	基盤(C)	マラリア免疫における $\gamma\delta$ T 細胞疲弊の意義とその分子基盤の解明	長崎大学	井上 信一

23	医学部	堅田 智久	助教(任)	基盤(C)	心臓の組織再生に関わる Islet-1 の転写制限機構の解析	立教大学	木下 勉
24	医学部	武市 敏明	助教(任)	基盤(C)	血管壁の極性とプロテアーゼ活性に着目した頭蓋内組織脆弱性の解析	金沢大学	塚 正彦
25	保健学部	三浦 大志	講師	基盤(C)	目撃者遂行型調査による記憶の促進と誤記憶の抑制に関する研究	慶應義塾大学	松尾 加代
26	保健学部	三浦 大志	講師	挑戦的	視覚情報による人違い現象の解明：人違いの心理学の創生に向けて	慶應義塾大学	伊東 裕司
27	保健学部	望月 秀樹	教授	基盤(C)	脳卒中リハビリにおける運動イメージ訓練開発のための経時的脳機能計測	東京家政大学	下田 信明
28	保健学部	角田 ますみ	准教授	基盤(C)	教養教育と専門教育を架橋する「看護人文学」の構築に向けた基礎的研究	亀田医療大学	足立 智孝
29	保健学部	吉野 純	教授	基盤(C)	学校と医療の文化的考察に基づく慢性疾患の子どもへの支援連携プログラムの開発	秀明大学	飯村 直子
30	医学部	大江 悠樹	助教	基盤(C)	不眠を対象とした看護師による 10 分間 CBT の効果	敦賀大学	長井 麻希江
31	保健学部	金子 多喜子	准教授	基盤(C)	看護師のキャリア成熟とキャリアレジリエンスの獲得が職業的アイデンティに及ぼす効果	目白大学	伊藤 まゆみ
32	保健学部	酒井 透江	講師	基盤(C)	高齢者の脆弱な皮膚に対する効率性の高いスキンケアマネジメント方法の構築	札幌市立大学	貝谷 敏子
33	外国語学部	八木橋 宏勇	准教授	基盤(C)	言語獲得理論に基づく小学校英語教育の高度化学習プログラムの開発	兵庫教育大学	菅井 三実
34	保健学部	榎本 雪絵	准教授	基盤(C)	多職種・他機関連携による地域包括システムへの「栄養改善」実装化モデルの構築	順天堂大学	藤尾 祐子
35	保健学部	笠原 順子	講師	挑戦的萌芽	地域での「共食の場」を通じた介護予防の効果—住民主体の活動における実践的研究	大阪大学	木村 友美

平成31年度厚生労働科学研究費補助金 研究代表者

	部局名	研究者名	職位	研究事業名	研究課題名
1	医学部	山田 昌和	教授	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	成人眼科検診による眼科疾患の重症化予防効果及び医療経済学的評価のための研究
2	総合政策学部	北島 勉	教授	エイズ対策政策研究事業	HIV検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究

平成31年度厚生労働科学研究費補助金 研究分担者

	部局名	研究者名	職位	研究事業名	研究課題名	研究代表者	
1	医学部	要 伸也	教授	腎疾患政策研究事業	腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築	川崎医科大学	柏原 直樹
2	医学部	要 伸也	教授	難治性疾患政策研究事業	難治性腎障害に関する調査研究	新潟大学	成田 一衛
3	医学部	要 伸也	教授	難治性疾患政策研究事業	難治性血管炎に関する調査研究	東京女子医科大学	針谷 正祥
4	医学部	駒形 嘉紀	教授				
5	医学部	佐藤 徹	教授	難治性疾患政策研究事業	難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	千葉大学	巽 浩一郎
6	医学部	久松 理一	教授	難治性疾患政策研究事業	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	東邦大学	鈴木 康夫
7	医学部	久松 理一	教授	難治性疾患政策研究事業	ベーチェット病に関する調査研究	横浜市立大学	水木 信久
8	医学部	長島 文夫	教授	がん対策推進総合研究事業	高齢者のがん医療の質の向上に資する簡便で効果的な意思決定支援プログラムの開発に関する研究	国立がん研究センター	小川 朝生
9	医学部	長島 文夫	教授	がん対策推進総合研究事業	高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究	福岡大学	田村 和夫
10	医学部	神崎 恒一	教授	認知症政策研究事業	認知症の人やその家族の視点を重視した認知症高齢者にやさしい薬物療法のための研究	東京大学	秋下 雅弘
11	医学部	高江州 義和	講師	障害者政策総合研究事業	向精神薬の適切な継続・減量・中止等の精神科薬物療法の出口戦略の実践に資する研究	秋田大学	三島 和夫
12	医学部	大山 学	教授	難治性疾患政策研究事業	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	島根大学	森田 栄伸
13	医学部	唐帆 健浩	准教授	長寿科学政策研究事業	嚥下造影および嚥下内視鏡を用いない食形態判定のためのガイドラインの開発	東邦大学医療センター佐倉病院	藤谷 順子
14	医学部	山田 昌和	教授	難治性疾患政策研究事業	角膜難病の標準的診断法および治療法の確立を目指した調査研究	大阪大学	西田 幸二
15	医学部	山田 深	准教授	政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)	社会構造の変化を反映し医療・介護分野の施策立案に効果的に活用し得る国際統計分類の開発に関する研究	国立成育医療研究センター	橋本 圭司
16	医学部	関口 進一郎	助教	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)	親子の心の診療を実施するための人材育成方法と診療ガイドライン・保健指導プログラムの作成に関する研究	久留米大学	永光 信一郎

17	医学部	後藤田 貴也	教授	難治性疾患政策研究事業	原発性高脂血症に関する調査研究	国立循環器病研究センター	斯波 真理子
18	保健学部	大木 幸子	教授	エイズ対策政策研究事業	地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究	ふれいす東京	樽井 正義
19	医学部	山口 芳裕	教授	地域医療基盤開発推進研究事業	2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における救急・災害医療提供体制に関する研究	日本医科大学	横田 裕行
20	医学部	岸本 暢将	准教授	免疫・アレルギー疾患政策研究事業	我が国の間接リウマチ診療の標準化に関する臨床疫学研究	東京女子医科大学	針谷 正祥
21	医学部	岸本 暢将	准教授	難治性疾患政策研究事業	強直性脊椎炎に代表される脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	大阪大学	富田 哲也
22	医学部	久松 理一	教授	難治性疾患政策研究事業	発汗異常を伴う稀少難治性疾患の治療指針作成、疫学調査の研究	東京医科歯科大学	横関 博雄
23	医学部	神崎 恒一	教授	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	脂質異常症改善薬の臨床評価に関するガイドラインの合理化・国際統合化に向けた研究	日本動脈化学会	山下 静也
24	医学部	井本 滋	教授	がん対策推進総合研究事業	全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究	札幌医科大学	平田 公一
25	医学部	水谷 友紀	学内講師	がん対策推進総合研究事業	高齢者のがん医療の質の向上に資する簡便で効果的な意思決定支援プログラムの開発に関する研究	国立がん研究センター	小川 朝生
26	医学部	大崎 敬子	准教授	新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	ヘリコバクター・ピロリの薬剤耐性モニタリングと除菌戦略の立案	北海道大学	杉山 敏郎
27	保健学部	坂井 志麻	教授	地域医療基盤開発推進研究事業	在宅医療の提供体制の評価指標の開発のための研究	埼玉県立大学	川越 雅弘
28	外国語学部	宮首 弘子	教授	エイズ対策政策研究事業	HIV 検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究	杏林大学	北島 勉

**平成 31 年度日本医療研究開発機構研究費 (A-MED) 研究開発代表者**

	部局名	研究者名	職名	研究事業名	研究開発課題名
1	医学部	吉野 秀朗	特任教授	循環器病疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	急性大動脈解離発症前造影 CT 画像の解析
2	医学部	副島 京子	教授	健康・医療情報を活用したヘルスケア・イノベーション基盤整備事業【IoT等活用行動変容研究事業】	腕時計型脈波モニタリング機器を用いた無症候性心房細動検出と心房細動治療効果向上のための日常生活健康データ活用の検討
3	医学部	古瀬 純司	教授	革新的がん医療実用化研究事業	切除不能膵癌に対する標準治療の確立に関する研究
4	医学部	海老原 孝枝	准教授	長寿・障害総合研究事業 長寿科学研究開発事業	高齢者の誤嚥性肺炎の予防・早期発見のための研究
5	医学部	尾崎 峰	教授	臨床試験・治験推進研究事業	静脈奇形に対するモノエタノールアミノオレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性および安全性の検討

研究費採択一覧

6	医学部	永根 基雄	教授	革新的がん医療実用化研究事業	再発膠芽腫に対するテモゾロミド用量強化法を用いた標準治療確立に関する研究
7	医学部	長瀬 美樹	教授	革新的先端研究開発支援事業 ソロタイプ「メカノバイオロジー機構の解明による革新的医療機器及び医療技術の創出」研究開発領域	腎糸球体ポドサイトのメカノバイオロジーの解明と糸球体内圧評価法の開発
8	医学部	大西 宏明	教授	先進的医療機器・システム等技術開発研究事業	迅速ウイルス検出機器導入実証

平成 31 年度日本医療研究開発機構研究費 (A-MED) 研究開発分担者

	部局名	研究者名	職名	研究事業名	分担研究開発課題名	研究代表者	
1	医学部	要 伸也	教授	難治性疾患実用化研究事業	MPA, GPA の治療戦略の策定	東京女子医科大学	針谷 正祥
2	医学部	石井 晴之	教授	難治性疾患実用化研究事業	続発性肺胞蛋白症の診断治療管理指針の作成	近畿中央呼吸器センター	井上 義一
3	医学部	佐藤 徹	教授	難治性疾患実用化研究事業	慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) に対する Balloon pulmonary angioplasty (BPA) の有効性と安全性に関する多施設レジストリー研究	国立循環器病研究センター	小川 久雄
4	医学部	伊波 巧	学内講師	難治性疾患実用化研究事業	慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設共同レジストリー研究	九州大学	阿部 弘太郎
5	医学部	久松 理一	教授	免疫アレルギー疾患等実用化研究事業	FMF 関連腸炎の臨床データ一解析	札幌医科大学	仲瀬 裕志
6	医学部	森 秀明	教授	臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究	近畿大学	工藤 正俊
7	医学部	古瀬 純司	教授	革新的がん医療実用化研究事業	切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	国立がん研究センター	秋元 哲夫
8	医学部	古瀬 純司	教授	臨床研究・治験推進研究事業	産学連携全国がんゲノムスクリーニング (SCRUM-Japan) 患者レジストリを活用した HER2 陽性の切除不能または再発胆道癌に対する医師主導治験	国立がん研究センター	森実 千種
9	医学部	長島 文夫	教授	革新的がん医療実用化研究事業	認知症合併に対応した最適の治療選択と安全性の向上を目指した支援プログラムの開発	国立がん研究センター	小川 朝生
10	医学部	長島 文夫	教授	革新的がん医療実用化研究事業	高齢者 HER2 陽性進行乳癌に対する T-DM1 療法とペルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	国立がん研究センター	田村 研治
11	医学部	長島 文夫	教授	ロボット介護機器開発・標準化事業	ターミナルケアにおけるロボット介護機器の効果検証	大内病院	松井 敏史

12	医学部	長島 文夫	教授	革新的がん医療 実用化研究事業	高齢者機能評価表 (Geriatric Assessment; GA) を組み込んだ iPad を使い、GA の結果に基づいた多職種による介入が患者満足度を上昇させるか、多施設共同第 3 相臨床試験で検証する。	島根大学	津端 由佳里
13	医学部	神崎 恒一	教授	長寿・障害総合 研究事業認知症 研究開発事業	軽度認知障害者ならびに軽度認知症患者の情報登録に関する研究	国立長寿医療 研究センター	鳥羽 研二
14	医学部	神崎 恒一	教授	長寿・障害総合 研究事業認知症 研究開発事業	神経内科・老年内科・精神科領域のデータ収集と解析	国立長寿医療 研究センター	佐治 直樹
15	医学部	阪本 良弘	教授	革新的がん医療 実用化研究事業	根治が見込める癌に対する外科侵襲の軽減と QOL 改善を目指した標準治療法確立のための多施設共同第三相試験	国立がん研 究センター	島田 和明
16	医学部	須並 英二	教授	革新的がん医療 実用化研究事業	小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究	国立がん研 究センター	金光 幸秀
17	医学部	楠田 聡	客員教授	再生医療実用 化研究事業	低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞治療に関する研究	大阪市立大学	新宅 治夫
18	医学部	楠田 聡	客員教授	臨床研究・治験 推進研究事業	治験体制構築	東京医科歯科大学	森 雅亮
19	医学部	塩川 芳昭	教授	循環器疾患・糖尿 病等生活習慣病対 策実用化研究事業	発症時刻不明の急性期脳梗塞に対する適正な血栓溶解療法への推進を目指す研究	国立循環器病 研究センター	豊田 一則
20	医学部	塩川 芳昭	教授	循環器疾患・糖尿 病等生活習慣病対 策実用化研究事業	脳卒中を含む循環器病対策の評価指標に基づく急性期医療体制の構築に関する研究	九州大学	飯原 弘二
21	医学部	永根 基雄	教授	革新的がん医療 実用化研究事業	TERT を標的とした再発膠芽腫に対するエリプリンの医師主導治験	国立がん研 究センター	成田 義孝
22	医学部	永根 基雄	教授	革新的がん医療 実用化研究事業	可及的摘出術が行なわれた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	北里研究所	隈部 俊宏
23	医学部	森井 健司	教授	革新的がん医療 実用化研究事業	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	岡山大学	尾崎 敏文
24	医学部	福原 浩	教授	革新的がん医療実 用化研究事業	前立腺癌に対するウイルス療法の開発	東京大学	藤堂 具紀
25	医学部	福原 浩	教授	再生医療・遺伝子 治療の産業化に向 けた基盤技術開発 事業遺伝子治療製 造技術開発	がん治療用 HSV-1 の開発	東京大学	藤堂 具紀
26	医学部	福原 浩	教授	次世代がん医療 創生研究事業	新規がん治療用 HSV-1 の作製と評価	東京大学	藤堂 具紀

## 研究費採択一覧

27	医学部	福原 浩	教授	橋渡し研究戦略的推進プログラム	ウイルス療法の臨床開発（前立腺癌）	東京大学	藤堂 具紀
28	医学部	平形 明人	教授	長寿・障害総合研究事業障害者対策総合研究開発事業（感覚器障害分野）	ロービジョン外来における読書評価に関する実態調査と新しい読書評価アプリの評価	東京女子大学	小田 浩一
29	医学部	唐帆 健浩	准教授	長寿・障害総合研究事業障害者対策総合研究開発事業（感覚器障害分野）	嚥下障害に対する包括的嚥下障害基礎訓練法の開発と有効性の検討	東北大学	香取 幸夫
30	医学部	増田 正次	講師	長寿・障害総合研究事業認知症研究開発事業	耳鼻咽喉科領域のデータ収集と解析	国立長寿医療研究センター	佐治 直樹
31	医学部	平野 照之	教授	臨床研究・治験推進研究事業	患者登録と追跡調査の遂行	国立循環器病研究センター	豊田 一則
32	医学部	大西 宏明	教授	先進的医療機器・システム等技術開発事業	迅速ウイルス検出機器導入実証	杏林製薬	塩野谷 通
33	保健学部	滝 智彦	教授	革新的がん医療実用化研究事業	小児骨髄系腫瘍に対する標準的治療法の確立	京都大学	足立 壮一
34	医学部	駒形 嘉紀	教授	臨床研究・治験推進研究事業	治験の実施に関する研究[トシリズマブ]	日本医師会	日本医師会
35	医学部	河野 隆志	准教授	健康・医療情報を活用したヘルスケア・イノベーション基盤整備事業【IoT等活用行動変容研究事業】	腕時計型脈波モニタリング機器を用いた無症候性心房細動検出と心房細動治療効果向上のための日常生活健康データ活用の検討	杏林大学	副島 京子
36	医学部	合田 あゆみ	講師				
37	医学部	野々口 紀子	助教				
38	医学部	古瀬 純司	教授	革新的がん医療実用化研究事業	消化器神経内分泌癌に対する標準治療の確立に関する研究	国立がん研究センター	森実 千種
39	医学部	古瀬 純司	教授	革新的がん医療実用化研究事業	胆道癌に対する治療法の確立に関する研究	国立がん研究センター	奥坂 拓志
40	医学部	永根 基雄	教授	革新的がん医療実用化研究事業	プロトコール治療、データ提出、追跡、免疫組織化学的並びに分子生物学的解析	埼玉医科大学	西川 亮
41	医学部	永根 基雄	教授	革新的がん医療実用化研究事業	予後不良の神経膠腫に対する標準治療の確立と希少癌組織のバイオバンクを目的とした多施設共同研究	国立がん研究センター	成田 義孝



42	医学部	小林 啓一	学内講師	革新的がん医療 実用化研究事業	再発膠芽腫に対するテモゾ ロミド用量強化法を用いた 標準治療確立に関する研究	杏林大学	永根 基雄
43	医学部	齋藤 邦昭	学内講師				
44	医学部	唐帆 健浩	准教授	長寿・障害総合研 究事業 長寿科学 研究開発事業	高齢者の誤嚥性肺炎の予 防・早期発見のための研究	杏林大学	海老原 孝枝
45	医学部	楠田 聡	客員教授	医薬品等規制調 和・評価研究事業	小児医薬品の早期実用化に 資するレギュラトリーサイ エンス研究	成育医療研 究センター	中村 秀文

#### 平成31年度国立がん研究センター研究開発費 分担研究者

	部局名	研究者名	職名	委託事業課題名	主任研究者	
1	医学部	古瀬 純司	教授	成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤 研究 (JCOG)	国立がん研究センター	大江 裕一
2	医学部	永根 基雄	教授	成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤 研究 (JCOG)	国立がん研究センター	大江 裕一

#### 平成31年度長寿医療研究開発費 分担研究者

	部局名	研究者名	職名	分担研究課題名	主任研究者	
1	医学部	神崎 恒一	教授	認知症と脳血管障害の発症を予測し脳小血管病を 反映しうる新規バイオマーカーのエビデンス確立	国立長寿医療 研究センター	佐治 直樹
2	医学部	神崎 恒一	教授	高齢者の認知機能低下に配慮した至適血圧域の解 明:老年期にある健常者と軽度認知機能低下患者を 対象とした、認知機能保持ないしその改善を最終目 的とした、適切な血圧管理法に関する研究	国立長寿医療 研究センター	樂木 宏実
3	医学部	長谷川 浩	准教授	高齢者の認知機能低下に対する、心機能への修飾を 介した、新規の予防法と治療法の開発 (高齢者に普 遍的に合併する左室拡張障害が脳循環へ与える影 響に着目して)	国立長寿医療 研究センター	清水 敦哉

#### 平成31年度精神・神経疾患研究開発費 分担研究者

	部局名	研究者名	職名	分担研究課題名	主任研究者	
1	医学部	高江洲 義和	講師	社会機能/QOL 改善と出口戦略を見据えた睡眠障 害のクリニカルパスの開発	国立精神・神経 医療研究センター	栗山 健一

#### 平成31年度文部科学省 ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)

	部局名	研究者名	職名	研究開発課題名
1	医学部	栗崎 健	教授	ショウジョウバエ遺伝資源の総合的維持管理および提供 (ショウジョウバエ近縁種突 然変異系統の収集・維持管理・提供)

#### 平成31年度産学共同実用化開発事業研究費 (ワクチンアジュバント)

	部局名	研究者名	職名	テーマ名
1	医学部	倉井 大輔	准教授	COPD 患者を対象とした RSV 感染症に起因する疫病負担の前向き観察研究

#### 平成31年度次世代医療機器・再生医療等製品評価指標作成事業

	部局名	研究者名	職名	研究課題名
1	医学部	大浦 紀彦	教授	—

#### 日本私立学校振興・共済事業団 大学間連携等による共同研究

	部局名	研究者名	職名	研究課題名
1	医学部	今泉 美佳	教授	妊娠糖尿病のインスリン分泌亢進不全における 2 型糖尿病感受性遺伝子 CDKAL1 の役割

## 研究費採択一覧

2	医学部	櫻井 裕之	教授	多発性嚢胞腎に対する抗アミノ酸トランスポーター療法の検討
3	医学部	米澤 英雄	講師	ディフィシル菌腸炎における糞便移植療法に変わる創薬への試み
4	医学部	中島 剛	学内講師	大脳皮質視覚野の可塑性を促す新しい視覚機能回復法
5	医学部	楊 國昌	教授	創薬のための統合オミックス解析による難治性ネフローゼの病因・病態探索

### 杏林大学医学部 (共同研究プロジェクト・研究奨励賞)

#### 【共同研究プロジェクト】

	部局名	研究者名	職名	研究課題名
1	医学部	多武保 光宏	講師	AI 搭載 3T MRI による膀胱癌の筋層浸潤リスク評価法 VIRADS の前向き検証
2	医学部	大崎 敬子	准教授	胃癌予防をめざした胃内細菌叢の研究
3	医学部	柴原 純二	教授	MTX 関連リンパ増殖性疾患 (DLBCL 型) の臨床病理学的・分子遺伝学的解析

#### 【研究奨励賞】

	部局名	研究者名	職名	研究課題名
1	医学部	佐藤 俊明	特任准教授	徐脈性不整脈に対するヒス束ペーシングの電氣的指標に関する検討

#### 【ユニーク研究助成】

	部局名	研究者名	職名	研究課題名
1	医学部	田中 良太	准教授	本学における Off the job training を活用した外科縫合や内視鏡手技のトレーニングカリキュラムの検証実験

#### 【若手支援研究費】

	部局名	研究者名	職名	研究課題名
1	医学部	白土 健	学内講師	マクロファージの炎症性応答における O-結合型 N-アセチルグルコサミン修飾の生理的役割
2	医学部	中山 真紀子	助教	制御性 T 細胞の安定化による自己免疫性ぶどう膜炎の制御
3	医学部	三好 潤	学内講師	包括的微生物叢解析による炎症性腸疾患治療薬の抗炎症機序の解明
4	医学部	小藤 剛史	助教	シナプス機能に対するグリア細胞のシタキシン 1 の役割
5	医学部	徳重 真一	助教(任)	家族性パーキンソン病に対する脳深部刺激療法が眼球運動に及ぼす影響およびその病態の解明
6	医学部	倉田 麻衣子	学内講師	円形脱毛症の予後に与えるアトピー素因の影響の検討
7	医学部	渡邊 格	助教(任)	難治性慢性咳嗽患者の喉頭運動・感覚機能に関する研究
8	医学部	磯谷 一暢	助教(任)	細胞内輸送が早期肺腺癌の予後に与える影響の解析



学会等の研究活動に対する表彰者費一覧



## 学会等の研究活動に対する表彰者一覧

学会等の研究活動に対する表彰者リスト

氏名	学会名	賞の名称	受賞年月日	研究課題	(受賞時)
田口 慧	第107回日本泌尿器科学会総会	副腎腫瘍・後腹膜腫瘍・精巣腫瘍部門 総会賞	2019年4月18日	緩徐増殖性腫瘍に対するプロモータ制御型がん治療用ヘルペスウイルスの活用-後腹膜脂肪肉腫での検討	医学部 泌尿器科学 助教
中島 章夫	一般社団法人 日本医療機器学会	著述賞	2019年6月13日	「最新臨床検査額講座 医用工学概論」医歯薬出版株式会社	保健学部 臨床工学科 准教授
高江洲 義和	日本うつ病学会	下田光造賞	2019年7月5日	概日リズム睡眠・覚醒障害は寛解期双極性障害患者の早期再燃の予測因子となる：48週間の前向き観察研究	医学部 精神神経科学 講師
久松 理一	FALK Symposium 215	3rd Poster Prize	2019年7月6日	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance A prospective randomized clinical trial (DIAMOND2)	医学部 内科学(Ⅲ) 教授
渡辺 邦太郎	第32回日本疼痛漢方研究会 学術集会	優秀賞	2019年7月6日	プレガバリンの薬剤性めまいと半夏白朮天麻湯：神経障害性疼痛モデルラットを用いた動物行動学的検証	医学部 麻酔科学 任期制助教
渡部 和彦	第60回日本神経病理学会総会 学術研究会	優秀口演賞	2019年7月15日	培養ニューロン細胞質TD P-43凝集体形成を抑制する分子の探索	保健学部 臨床検査 技術学科 教授
横田 泰佑	日本集中治療医学会第3回関東甲信越支部学術集会	最優秀演題賞	2019年7月27日	呼吸サポートチームによる呼吸回数的重要性に関する啓発活動とその測定調査結果	医学部 麻酔科学 任期制助教
三好 潤	第56回日本消化器免疫学会総会	学術奨励賞	2019年8月2日	周産期母体への抗生剤曝露により子に生じる腸管dysbiosis、免疫発達異常、炎症性腸疾患リスクの上昇	医学部 内科学(Ⅲ) 学内講師
村松 憲	糖尿病性神経障害を考える会	優秀演題賞	2019年8月31日	1型糖尿病ラットの委縮した大脳皮質運動野はスキルトレーニングによって拡大する	保健学部 理学療法学科 准教授
村松 憲	第6回日本糖尿病理学療法学術大会	学術集会長賞	2019年9月14日	糖尿病によって委縮した大脳皮質運動野はスキルトレーニングによって回復する	保健学部 理学療法学科 准教授
大浦 紀彦	The European Pressure Ulcer Advisory Panel (EPUAP)2019	Best Poster Presentation	2019年9月20日	Basic concepts of Intraoperative Acquired Pressure Injury prevention measures for the Park-bench position and Relton-Hall frame prone position in the operating room.	医学部 形成外科学 教授

金城 真実	日本性機能学会 第30回学術総会	日本性機能学会 学会賞	2019年9月22日	女性腹圧性尿失禁患者における中部尿道スリング術による性機能の評価	医学部 泌尿器科学 学内講師
高江洲 義和	日本時間生物学会	日本時間生物学会 奨励賞	2019年10月13日	双極性障害と概日リズム睡眠障害の関連ならびに時間生物学的治療介入の再発予防効果	医学部 精神神経科学 講師
桶川 隆嗣	第57回日本癌治療学会学術集会	優秀演題賞	2019年10月25日	去勢抵抗性前立腺癌治療における循環腫瘍細胞クラスターの有用性	医学部 泌尿器科学 教授
吉田 正雄	第78回日本公衆衛生学会総会	優秀ポスター賞	2019年10月25日	屈折度数の変動に関する大規模疫学調査 -日本人約29万眼を対象にした5年間の追跡研究-	医学部 衛生学 公衆衛生学 准教授
堀口 幸太郎	日本神経内分泌学会	川上正澄賞	2019年10月25日	下垂体前葉におけるS100β陽性細胞の多様性	保健学部 臨床検査 技術学科 講師
中村 淳史	日本体外循環技術医学会	JaSECT Award 2019 優秀論文賞	2019年10月5日	Effects of bubble size differences on the bubble-trapping performance of arterial line filters	保健学部 臨床工学科 講師
山田 賢治	第48回 杏林医学会総会	第48回 杏林医学会総会 優秀賞	2019年11月16日	上肢末梢血管の周囲に分布する末梢神経~Sihler染色による解剖体の検討	保健学部 救急救命学科 教授
石井 さなえ	第48回 杏林医学会総会	第48回 杏林医学会総会 優秀賞	2019年11月16日	慢性鼻腔炎症に誘導される脳組織の可塑的变化	保健学部 臨床検査 技術学科 准教授
白土 健	第48回 杏林医学会総会	第48回 杏林医学会総会 準優秀賞	2019年11月16日	マクロファージにおけるO-結合型N-アセチルグルコサミン修飾と炎症性応答のクロストークの解析	医学部 衛生学 公衆衛生学 学内講師
齋藤 大祐	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	優秀ポスター賞	2019年11月29日	潰瘍性大腸炎に対する Vedolizumab による寛解導入療法の治療効果予測に関する検討	医学部 内科学(III) 助教
三好 潤	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	優秀ポスター賞	2019年11月29日	成分経腸栄養剤の摂取による腸内環境の変化-健常人におけるパイロット検討	医学部 内科学(III) 学内講師

学位論文要旨および審査要旨





## 〔博士（医学）〕

氏名 佐々木 重 嘉

〈学位〉	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	<i>PIMI</i> 遺伝子 K115N 変異は Pim-1 細胞内局在の変化および BAD リン酸化の亢進を介して細胞死を抑制する
	授与番号	博甲医 第469号	論文審査委員	主査 高山信之 副査 大西宏明 横山健一 栗崎 健 長瀬美樹
	授与年月日	令和元年12月18日		
	授与の要件	学位規程第5条		

## 学位論文の要旨

**背景：**中枢神経系悪性リンパ腫（PCNSL）は難治性悪性脳腫瘍の一つであり、本邦において増加傾向にある。近年の網羅的遺伝子解析の報告において、特にPCNSL症例で高頻度に変異を有する遺伝子群が同定されてきたが、これらの遺伝子群の変異のPCNSLにおける意義は未だ明らかでない。これらの変異遺伝子群のうち、*PIMI* 遺伝子は様々な癌腫において癌原遺伝子となっている可能性が示唆されている遺伝子であるが、PCNSL症例において100%の高頻度で点突然変異を認めた。そこで我々は*PIMI* 遺伝子に着目し、その変異について腫瘍原性への寄与について検討するため機能解析を行った。

**方法：**これらの*PIMI* 遺伝子変異群のうち、高頻度に認められた点突然変異群の発現ベクターを作成してヒト癌細胞株に発現させ、特に臨床的に予後不良との関連が認められたK115N変異を中心に、血清除去下での抗腫瘍薬（カンプトテシン）処理による細胞死ならびに分子シグナルの変化、細胞免疫染色法ならびに細胞分画法によりPim-1細胞内局在を検討した。

**結果：**野生型Pim-1（野生型）を発現させた細胞と比較してPim-1 K115N変異体（K115N変異体）を発現させた細胞にて、Pim-1によりリン酸化を受けて不活化されることが知られているアポトーシス促進性Bcl-2ファミリータンパク質であるBCL-2 associated death promoter（BAD）のリン酸化の上昇（ $p=0.003$  [short form],  $p=0.041$  [long form]）ならびに細胞死誘導の低下を認めた。また、K115N変異体導入発現細胞では、野生型と比較して相対的にPim-1分子の細胞質内での局在をより多く認め（細胞免疫染色法： $p=0.028$  [short form], 細胞分画法： $p=0.033$  [short form],  $p=0.007$  [long form]）、更に、K115N変異体（long form）導入発現細胞に対する糖鎖修飾阻害剤処理によってK115N変異体の細胞質内局在は低下した（ $p=0.028$ ）。

**考察：**K115N変異体はPim-1分子の糖鎖修飾による細胞質内局在の上昇によって、細胞質内に存在するBADリン酸化の亢進を介して細胞死の抑制に寄与する可能性が示唆された。

PCNSLにはほぼ必発する*PIMI* 変異の少なくとも一部は、PCNSLの発生に関与する可能性が考えられ、このような症例においては今後Pim-1の治療標的としての更なる検討が望まれる。

## 論文審査結果の要旨

**背景：**中枢神経系悪性リンパ腫（PCNSL）は難治性悪性脳腫瘍の一つであり、本邦において増加傾向にある。近年の網羅的遺伝子解析の報告において、特にPCNSL症例で高頻度に変異を有する遺伝子群が同定されてきたが、これらの遺伝子群の変異のPCNSLにおける意義は未だ明らかでない。これらの変異遺伝子群のうち、*PIMI* 遺伝子は様々な癌腫において癌原遺伝子となっている可能性が示唆されている遺伝子であるが、PCNSL症例において100%の高頻度で点突然変異を認めた。そこで本研究では*PIMI* 遺伝子に着目し、その変異について腫瘍原性への寄与について検討するため機能解析を行った。

**方法：**これらの*PIMI* 遺伝子変異群のうち、高頻度に認められた点突然変異群の発現ベクターを作成してヒト癌細胞株に発現させ、特に臨床的に予後不良との関連が認められたK115N変異を中心に、血清除去下での抗腫瘍薬（カンプトテシン）処理による細胞死ならびに分子シグナルの変化、細胞免疫染色法ならびに細胞分画法によりPim-1細胞内局在を検討した。

**結果：**野生型Pim-1（野生型）を発現させた細胞と比較してPim-1 K115N変異体（K115N変異体）を発現させた細胞にて、Pim-1

によりリン酸化を受けて不活化されることが知られているアポトーシス促進性Bcl-2ファミリータンパク質であるBCL-2 associated death promoter（BAD）のリン酸化の上昇（ $p=0.003$  [short form],  $p=0.041$  [long form]）ならびに細胞死誘導の低下を認めた。また、Pim-1導入発現細胞において、Pim-1分子の細胞内局在を検討したところ、K115N変異体は、野生型と比較して、相対的に細胞質内での局在がより多く認められた（細胞免疫染色法： $p=0.028$  [short form], 細胞分画法： $p=0.033$  [short form],  $p=0.007$  [long form]）。更に、K115N変異体（long form）導入発現細胞に対する糖鎖修飾阻害剤処理によって、K115N変異体の細胞質内局在は低下した（ $p=0.028$ ）。

**考察：**K115N変異体は、Pim-1分子の糖鎖修飾による細胞質内局在の上昇によって、細胞質内に存在するBADリン酸化の亢進を介して細胞死の抑制に寄与する可能性が示唆された。PCNSLにはほぼ必発する*PIMI* 変異の少なくとも一部は、PCNSLの発生に関与する可能性が考えられ、このような症例においては、今後Pim-1の治療標的としての更なる検討が望まれる。

本研究は、腫瘍化におけるPim-1の関与について新たな知見をもたらすものであり、審査の結果、学位論文として価値あるものと認められた。

〔博士（医学）〕

氏名 三 浦 陽 平

〔学位〕	種 類 博士（医学）	論 文 項 目 肺高血圧患者におけるエボプロステノールの使用と胃の皺壁肥厚の関連性に関する検討
	授与番号 博甲医 第470号	論文審査委員 主査 久松理一
	授与年月日 令和元年12月18日	副査 大木 紫 森 俊幸 窪田 博 大崎敬子
	授与の要件 学位規程第5条	

### 学 位 論 文 の 要 旨

【緒言】 プロスタサイクリン製剤（PGI<sub>2</sub>製剤）であるエボプロステノールで治療を受けた特発性肺動脈性肺高血圧症（IPAH）および遺伝性肺動脈性肺高血圧症（HPAH）の患者の複数の剖検例で胃の皺壁肥厚及び、胃粘膜の過形成を認めた。本研究ではIPAH及びHPAHの患者に対して上部消化管造影検査を施行しエボプロステノールの使用と胃の皺壁肥厚の関連性を評価した。更に血液検査と右心カテーテル検査を用いて、皺壁肥厚の有無と栄養状態及び循環動態の関連性を検討した。

【対象と方法】 対象は2016年4月から2017年3月の間に当院で経過を追跡したIPAH、HPAHの患者で、同意を得て上部消化管造影検査を施行できたエボプロステノール投与群16例と同非投与群7例とした。消化管造影検査を専門とする放射線診断医により胃皺壁が最大となる部分と最小となる部分を計測し、平均値4 mm以上で皺壁肥厚ありとした。血液検査所見（血清アルブミン、血清総コレステロール、末梢血リンパ球数、Brain natriuretic peptide (BNP)）及び、右心カテーテル検査所見（上部消化管造影検査施行日直近のデータ）と胃の皺壁肥厚との関係を検討した。

【結果】 エボプロステノール投与群の胃皺壁幅の平均値は中央値で5.5 mm [4.8-6.3] で、同非投与群の胃皺壁幅の平均値は中央値で3.1 mm [2.7-3.3] であり、有意にエボプロステノール投与群の胃皺壁幅の方が大きかった（ $P < 0.05$ , Mann-Whitney U検定）。また皺壁肥厚の定義を4 mm以上とすると、エボプロステノール投与群16名中15名、同非投与群7名中1名に皺壁肥厚を認め、エボプロステノール投与群で有意に多かった（ $P < 0.05$ , Fisherの直接確率検定）。皺壁肥厚あり群となし群で栄養状態の指標と循環動態の指標に統計的有意差は認めなかったが、血清アルブミン値はエボプロステノール投与群で4.0 g/dlで、同非投与群で4.3 g/dlであり、エボプロステノール投与群で低値の傾向がみられた。

【結論】 肺高血圧患者におけるエボプロステノールの使用が胃の皺壁肥厚を来す可能性が示唆された。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

【緒言】 プロスタサイクリン製剤（PGI<sub>2</sub>製剤）であるエボプロステノールで治療を受けた特発性肺動脈性肺高血圧症（IPAH）および遺伝性肺動脈性肺高血圧症（HPAH）の患者の複数の剖検例で胃の皺壁肥厚及び、胃粘膜の過形成を認めた。本研究ではIPAH及びHPAHの患者に対して上部消化管造影検査を施行しエボプロステノールの使用と胃の皺壁肥厚の関連性を評価した。更に血液検査と右心カテーテル検査を用いて、皺壁肥厚の有無と栄養状態及び循環動態の関連性を検討した。

【対象と方法】 対象は2016年4月から2017年3月の間に当院で経過を追跡したIPAH、HPAHの患者で、同意を得て上部消化管造影検査を施行できたエボプロステノール投与群16例と同非投与群7例とした。消化管造影検査を専門とする放射線診断医により胃皺壁が最大となる部分と最小となる部分を計測し、平均値4 mm以上で皺壁肥厚ありとした。血液検査所見（血清アルブミン、血清総コレステロール、末梢血リンパ球数、Brain natriuretic peptide (BNP)）及び、右心カテーテル検査所見（上部消化管造影検査施行日直近のデータ）と胃の皺壁肥厚との関係を検討した。

【結果】 エボプロステノール投与群の胃皺壁幅の平均値は中央値で5.5 mm [4.8-6.3] で、同非投与群の胃皺壁幅の平均値は中央値で3.1 mm [2.7-3.3] であり、有意にエボプロステノール投与群の胃皺壁幅の方が大きかった（ $P < 0.05$ , Mann-Whitney U検定）。また皺壁肥厚の定義を4 mm以上とすると、エボプロステノール投与群16名中15名、同非投与群7名中1名に皺壁肥厚を認め、投与群で有意に多かった（ $P < 0.05$ , Fisherの直接確率検定）。皺壁肥厚あり群となし群で栄養状態の指標と循環動態の指標に統計的有意差は認めなかったが、血清アルブミン値はエボプロステノール投与群で4.0 g/dlで、同非投与群で4.3 g/dlであり、エボプロステノール投与群で低値の傾向がみられた。

【結論】 肺高血圧患者におけるエボプロステノールの使用が胃の皺壁肥厚を来す可能性が示唆された。

本研究は肺高血圧症治療薬エボプロステノール投与が胃皺壁肥厚を来す可能性を示したものである。そのメカニズムはまだ不明ながら、組織学的には過形成性変化を来す可能性を実際の患者ではじめて指摘した。同剤の長期使用における重要な情報を提供する研究と評価し学位論文として認めるものである。

## 〔博士（医学）〕

氏名 石 飛 実 紀

〔学位〕	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	2型糖尿病患者における血清乳酸値の意義に関する横断研究
	授与番号	博甲医 第471号	論文審査委員	主査 森 秀明 副査 阪本良弘 後藤田貴也 櫻井裕之 要 伸也
	授与年月日	令和2年3月11日		
	授与の要件	学位規程第5条		

## 学位論文の要旨

**背景：**乳酸は、運動後に増加するグルコース代謝物または肝臓での糖新生基質と考えられていたが、近年、代謝作用や抗炎症作用を含めた多彩な生理機能を持つ可能性が新たに報告されている。糖尿病モデルの膵臓においては、Warburg様効果による解糖系および嫌気性代謝の亢進から、乳酸産生増加をきたす可能性が示唆されており、ヒトにおいても、糖尿病状態での血清乳酸値上昇や、血清乳酸値と糖尿病の新規発症の関連が報告されるなど、糖尿病と乳酸の関連が注目されているが、糖尿病患者に限った血清乳酸値の詳細な検討はほとんど報告がなく、臨床における病態との関係は未だ明らかではない。本研究では、糖尿病患者における血清乳酸値に関連する因子を明らかにするため、2型糖尿病患者を対象に、血清乳酸値と血清学的指標及び、体組成指標との相関の統計学的な検討を行った。

**方法：**杏林大学医学部付属病院通院中の2型糖尿病患者を対象として、空腹時採血及び生体インピーダンス法による体組成分析を施行した。対象患者数は103名、平均HbA1c：6.8±0.08%，平均空腹時血清乳酸値：1.07±0.03 mmol/L（レンジ：最大値0.53 mmol/L、最小値2.66 mmol/L）であった。対象患者の血清乳酸値（基準値：0.46 mmol/L-1.88 mmol/L）は、101名が基準値内、2名が基準値を上回っていた。まず、空腹時血清乳酸値と、その他の各種血清学的指標及び、体組成指標との単相関分析を行い、血清乳酸値に関与しうる変数の抽出を行った。続いて、単相関で有意だった変数に加え、臨床的な見地から重要と考えられた空腹時血糖値、HbA1c、総ビリルビン、3-ヒドロキシ酪酸を含めた19変数を用い、ステップワイズ法による重回帰分析を施行した。さらに、肝障害合併有無での血清乳酸値の比較、及び、糖尿病治療薬による血清乳酸値との関係についても追加検討した。解析結果は、平均値±標準誤差で示し、相関はP<0.05を有意とした。

**結果：**乳酸値は、空腹時血糖値、HbA1cとの有意な相関はなく、体重、体脂肪量などの体組成指標、インスリン抵抗性指標、肝酵素など15変数と相関を認めた。重回帰分析の結果、ALT（正相関）、総ビリルビン（負相関）が血清乳酸値の説明変数として有意性を示した。また、血清乳酸値は、ALT優位の肝障害群で正常群と比べ有意に高値を認めた。メトホルミンを含め、糖尿病薬物治療の内容による乳酸値の変化は認めなかった。

**結論：**本研究において、2型糖尿病患者の空腹時血清乳酸値は、予想された糖尿病のコントロール状態や治療薬との間に有意な関連は見いだせず、血糖コントロールとは無関係にALTとの重相関を認め、肝脂肪化との関連が考えられた。総ビリルビンとの負の関連性は、ビリルビンの抗酸化作用が関係する可能性があるが、単相関では有意でなかった。本研究は探索的であり、得られた結果は、より大きな別集団での検証が必要と考えられた。

## 論文審査結果の要旨

**背景：**乳酸は、運動後に増加するグルコース代謝物または肝臓での糖新生基質と考えられていたが、近年、代謝作用や抗炎症作用を含めた多彩な生理機能を持つ可能性が新たに報告されている。しかし一方で、糖尿病患者に限った血清乳酸値の詳細な検討の報告は少なく、臨床病態との関係は未だ明らかではない。本研究では、糖尿病患者における血清乳酸値に関連する因子を明らかにするため、2型糖尿病患者を対象に、血清乳酸値と血清学的指標及び、体組成指標との相関の検討を行った。

**方法：**杏林大学医学部付属病院通院中の2型糖尿病患者を対象として、空腹時採血及び生体インピーダンス法による体組成分析を施行した。対象患者数は103名、平均HbA1c：6.8±0.08%，平均空腹時血清乳酸値：1.07±0.03 mmol/L（レンジ：最大値2.66 mmol/L、最小値0.53 mmol/L）であった。対象患者の血清乳酸値（基準値：0.46 mmol/L-1.88 mmol/L）は、101名が基準値内、2名が基準値を上回っていた。まず、空腹時血清乳酸値と、その他の各種血清学的指標及び、体組成指標との単相関分析を行い、血清乳酸値に関与しうる変数の抽出を行った。続いて、単相関で有意だった変数に加え、臨床的な見地から重要と考えられた空腹

時血糖値、HbA1c、総ビリルビン、3-ヒドロキシ酪酸を含めた19変数を用い、ステップワイズ法による重回帰分析を施行した。さらに、肝障害合併有無での血清乳酸値の比較、及び、糖尿病治療薬による血清乳酸値との関係についても追加検討した。解析結果は、平均値±標準誤差で示し、相関はP<0.05を有意とした。

**結果：**乳酸値は、空腹時血糖値、HbA1cとの有意な相関はなく、体重、体脂肪量などの体組成指標、インスリン抵抗性指標、肝酵素など15変数と相関を認めた。重回帰分析の結果、ALT（正相関）、総ビリルビン（負相関）が血清乳酸値の説明変数として有意性を示した。また、血清乳酸値は、ALT優位の肝障害群で正常群と比べ有意に高値を認めた。メトホルミンを含め、糖尿病薬物治療は有意な説明変数とはならなかった。

**結論：**本研究において、2型糖尿病患者の空腹時血清乳酸値は、予想された糖尿病のコントロール状態や治療薬との間に有意な関連は見いだせず、血糖コントロールとは無関係にALTとの重相関を認め、肝脂肪化との関連が考えられた。総ビリルビンとの負の関連性は、ビリルビンの抗酸化作用が関係する可能性があるが、単相関では有意でなかった。本研究は糖尿病患者における血清乳酸値に関連した新たな知見をもたらすものであり、審査の結果、学位論文として価値あるものと認められた。

〔博士 (医学)〕

氏名 舩田 一 樹

〔学位〕	種 類	博士 (医学)	論 文 項 目	慢性糖尿病モデルラットにおける下部尿路機能障害の病態とNO/cGMPシグナル伝達経路の関与
	授与番号	博甲医 第472号	論文審査委員	主査 要 伸也
	授与年月日	令和2年3月31日	副査	長瀬美樹 永根基雄 後藤田貴也 安田和基
	授与の要件	学位規程第5条		

学 位 論 文 の 要 旨

〔目的〕 糖尿病患者の多くが下部尿路機能障害を有していると推定される。本研究は、1) STZ誘発DMモデルラットを用いて膀胱排尿筋収縮機能低下を示唆するまでの膀胱排尿筋収縮機能の慢性期までの経時的变化を検討し、2) 特に慢性期において、膀胱のみではなく尿道を含めた下部尿路の機能障害を解析し、3) その機能障害に、尿道弛緩に役割を果たすNO/cGMP系が関与するか否か、L-アルギニン (NO基質) またはタダラフィル投与による可逆性や関与を調査した。

〔方法〕 雄性Wistarラット (9週齢) を2群に分け、糖尿病群 (DM群) は60 mg/kgのSTZを腹腔内投与し、2日後に血糖値が300 mg/dL以上のものを用いた。偽投薬群 (Sham群) はクエン酸緩衝液を投与した。1) 各薬剤投与後4, 8, 12, 16週に、KCl, カルバコール (CCh) 及び経壁電気刺激 (EFS) に対する膀胱排尿筋条片の収縮反応を測定した。2) 膀胱収縮機能低下の開始が示唆された16週において、膀胱内圧測定 (CMG) および等容量性膀胱律動収縮と尿道灌流圧同時測定を行った。3) *in vivo* 実験では、タダラフィル, L-アルギニンをを用いたNO/cGMP伝達経路の機能的変化も検討した。4) 摘出膀胱の組織学的評価を行った。

〔結果〕 摘出排尿筋収縮反応では、KCl収縮反応は、全時点で2群間に有意差はなかった。CCh収縮反応は、DM群が全時点で有意に高かったが、EFS収縮反応においては若干の増減反応を認めたが、いずれも有意差は認めなかった。CMGでは、DM群は、排尿量、残尿量、膀胱容量、排尿開始圧、最大排尿圧、非排尿性膀胱収縮の振幅及び頻度が有意に増大した。等容量性膀胱律動収縮と尿道灌流圧同時測定では、最低尿道灌流圧及び高頻度振動出現時の平均尿道圧が有意に高く、L-アルギニンやタダラフィルはこれらを改善させた。膀胱標本では、DM群で膀胱リモデリングが確認された。

〔結論〕 STZ誘発DMラットでは、膀胱の末梢神経障害による排尿筋収縮機能低下は16週以降の慢性期に出現する可能性がある。また、この時期には排尿時の尿排出障害と同時に蓄尿時の排尿筋過活動を示唆する所見が観察された。この内、尿排出障害は、膀胱収縮機能障害よりもむしろ、NO/cGMP伝達経路を介した尿道弛緩機能障害が関与することが示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

〔目的〕 糖尿病患者の多くが下部尿路機能障害を有しているとされる。本研究の目的は、1) STZ誘発糖尿病 (DM) モデルラットを用いて、膀胱排尿筋収縮機能低下を示すまでの経時的变化を検討し、2) 特に慢性期において、膀胱、尿道を含めた下部尿路の機能障害の病態を解析するとともに、3) この機能障害に、尿道弛緩に重要な役割をもつと考えられるNO/cGMP系が関与するか否かを明らかにすることである。

〔方法〕 雄性Wistarラット (9週齢) を2群に分け、DM群は60 mg/kg ストレプトゾトシン (STZ) の腹腔内投与にて作成、偽投薬群 (Sham群) はクエン酸緩衝液を投与した。1) 4, 8, 12, 16週に、KCl, カルバコール (CCh) および経壁電気刺激 (EFS) に対する膀胱排尿筋条片の収縮反応を測定、2) 膀胱収縮機能の変化が示唆された16週に、膀胱内圧測定 (CMG)、および等容量性膀胱律動収縮と尿道灌流圧の同時測定を行い、3) *in vivo* 実験として、L-アルギニン (NO基質)、タダラフィル投与後に下部尿路障害各指標の変化を検討、さらに4) 摘出膀胱の組織学的評価を行った。

〔結果〕 摘出排尿筋のKCl収縮反応は全時点で2群間に有意差はなかったが、CCh収縮反応は全時点でDM群の方が有意に高く、

排尿筋のムスカリン受容体感受性増大が示唆された。一方、EFS収縮反応は、16週においてDM群で膀胱収縮機能の減弱が示唆されたが、有意差はなかった。16週の膀胱内圧測定では、DM群はSham群と比較して排尿量、残尿量、膀胱容量、排尿開始圧、最大排尿圧、非排尿性膀胱収縮の振幅および頻度がいずれも有意に増大していた。等容量性膀胱律動収縮と尿道灌流圧同時測定では、最低尿道灌流圧および高頻度振動出現時の平均尿道圧が有意に高く、さらにL-アルギニンやタダラフィルはこれらを改善させた。膀胱標本では、DM群で膀胱リモデリングが確認された。

〔結論〕 STZ誘発DMラットでは、膀胱の末梢神経障害による排尿筋収縮機能低下は16週以降に出現すると考えられる。この慢性期においては、尿排出障害と同時に蓄尿時の排尿筋過活動が見られ、この尿排出障害には、膀胱収縮機能障害よりもNO/cGMP伝達経路を介した尿道弛緩機能の減弱が関与していることが示唆された。

審査の結果、本研究は、糖尿病モデルの慢性期における下部尿路機能障害の病態を統一的に明らかにした初めての研究であり、治療の可能性を示唆している点で臨床的意義もあることから、学位論文として価値あるものと認めた。

## 〔博士 (医学)〕

氏名 廣川 達也

〔学位〕	種 類 博士 (医学)	論 文 項 目	甲状腺腫瘍における <i>TERT</i> プロモータの一塩基多型の腫瘍増大への影響
	授与番号 博甲医 第473号	論文審査委員	主査 平野浩一
	授与年月日 令和2年3月31日		副査 今泉美佳 多久嶋亮彦 森井健司 櫻井裕之
	授与の要件 学位規程第5条		

## 学位論文の要旨

【目的】 Telomerase Reverse Transcriptase (*TERT*) はテロメアを伸長する逆転写酵素で、一般に腫瘍では *TERT* 遺伝子発現が亢進し、テロメア短縮による細胞老化を回避し、腫瘍の不死化に寄与している。甲状腺腫瘍では *TERT* プロモータ領域の点突然変異の C228T と C250T が腫瘍増殖や悪性度に関与することが明らかになっている。 *TERT* プロモータ領域の一塩基多型である rs2853669 (以下 rSNP) が腫瘍増大に関係するといくつかの腫瘍で報告されているが、甲状腺腫瘍では殆ど検討されてない。甲状腺腫瘍における *TERT* プロモータの rSNP と C228T、C250T が腫瘍増大へ及ぼす影響とその分子メカニズムを明らかにするため、臨床病理学的並びに実験病理学的に検討した。

【対象・方法】 杏林大学医学部付属病院で切除された甲状腺腫瘍 (乳頭癌: 58 例, 濾胞癌: 19 例, 濾胞腺腫: 59 例) を対象とした。ホルマリン固定パラフィン包埋標本の腫瘍部より DNA を抽出し、対象領域を PCR で増幅後シーケンスし、rSNP、C228T、C250T 及び BRAF (V600E) 変異の有無を解析し、腫瘍の臨床病理学的事項との関係を比較検討した。8 種の甲状腺由来細胞株を対象として、*TERT* mRNA の発現量を定量 RT-PCR にて検討した。野生型、rSNP、C228T、C250T の 6 種の組み合わせを持つ *TERT* プロモータ配列を作成し、培養細胞に導入して、各配列のプロモータ活性をルシフェラーゼ解析で比較検討した。

【結果】 乳頭癌では、rSNP は C228T と同様に大きい腫瘍に多く、両者を有する場合は大きな腫瘍を形成している頻度が更に高かった。濾胞腺腫では rSNP は大きな腫瘍に多かったが、濾胞癌では数が少ないため腫瘍径との有意差はなかった。ただし、濾胞癌と濾胞腺腫を合わせた濾胞性腫瘍の rSNP は乳頭癌より頻度が多く、アジア人集団のアレル頻度に比べ明らかに多かった。乳頭癌起源の 3 種の細胞株は rSNP と C228T の両者を有し、*TERT* mRNA の発現が高かった。ルシフェラーゼ解析では rSNP は野生型よりも *TERT* プロモータの転写活性が高く、C228T と同程度であった。rSNP と C228T が共存すると転写活性は更に亢進した。C250T は単独及び rSNP との共存でも有意な転写活性の亢進を示さなかった。

【考察】 臨床病理学的に、rSNP は乳頭癌のみならず濾胞性腫瘍でも腫瘍の大きさと関係があると考えられ、rSNP は甲状腺高分化型腫瘍の成長、増大に影響を与えていることが示唆された。特に乳頭癌では rSNP と C228T の両方を持つ腫瘍が、それぞれ単独より増大傾向が強いと考えられる。ルシフェラーゼ解析より、rSNP は単独及び C228T の組み合わせで *TERT* プロモータ活性を亢進させることが確認された。また rSNP のプロモータ活性は C250T よりも強い可能性が示唆された。

【結語】 甲状腺腫瘍において、rSNP は C228T と同様 *TERT* プロモータ活性を亢進し、*TERT* の発現を介して腫瘍の成長、増大に影響を及ぼすと考えられる。

## 論文審査結果の要旨

【目的】 Telomerase Reverse Transcriptase (*TERT*) はテロメアを伸長する逆転写酵素で、一般に腫瘍では *TERT* 遺伝子発現が亢進し、テロメア短縮による細胞老化を回避し、腫瘍の不死化に寄与している。甲状腺腫瘍では *TERT* プロモータ領域の点突然変異の C228T と C250T が腫瘍増殖や悪性度に関与することが明らかになっている。 *TERT* プロモータ領域の一塩基多型である rs2853669 (以下 rSNP) が腫瘍増大に関係するといくつかの腫瘍で報告されているが、甲状腺腫瘍では殆ど検討されてない。甲状腺腫瘍における *TERT* プロモータの rSNP と C228T、C250T が腫瘍増大へ及ぼす影響とその分子メカニズムを明らかにするため、臨床病理学的並びに実験病理学的に検討した。

【対象・方法】 杏林大学医学部付属病院で切除された甲状腺腫瘍 (乳頭癌: 58 例, 濾胞癌: 19 例, 濾胞腺腫: 59 例) を対象とした。ホルマリン固定パラフィン包埋標本の腫瘍部より DNA を抽出し、対象領域を PCR で増幅後シーケンスし、rSNP、C228T、C250T 及び BRAF (V600E) 変異の有無を解析し、腫瘍の臨床病理学的事項との関係を比較検討した。8 種の甲状腺由来細胞株を対象として、*TERT* mRNA の発現量を定量 RT-PCR にて検討した。野生型、rSNP、C228T、C250T の 6 種の組み合わせを持つ *TERT* プロモータ配列を作成し、培養細胞に導入して、各配列のプロモータ活性をルシフェラーゼ解析で比較検討した。

【結果】 乳頭癌では、rSNP は C228T と同様に大きい腫瘍に多く、

両者を有する場合は大きな腫瘍を形成している頻度が更に高かった。濾胞腺腫では rSNP は大きな腫瘍に多かったが、濾胞癌では数が少ないため腫瘍径との有意差はなかった。ただし、濾胞癌と濾胞腺腫を合わせた濾胞性腫瘍の rSNP は乳頭癌より頻度が多く、アジア人集団のアレル頻度に比べ明らかに多かった。乳頭癌起源の 3 種の細胞株は rSNP と C228T の両者を有し、*TERT* mRNA の発現が高かった。ルシフェラーゼ解析では rSNP は野生型よりも *TERT* プロモータの転写活性が高く、C228T と同程度であった。rSNP と C228T が共存すると転写活性は更に亢進した。C250T は単独及び rSNP との共存でも有意な転写活性の亢進を示さなかった。

【考察】 臨床病理学的に、rSNP は乳頭癌のみならず濾胞性腫瘍でも腫瘍の大きさと関係があると考えられ、rSNP は甲状腺高分化型腫瘍の成長、増大に影響を与えていることが示唆された。特に乳頭癌では rSNP と C228T の両方を持つ腫瘍が、それぞれ単独より増大傾向が強いと考えられる。ルシフェラーゼ解析より、rSNP は単独及び C228T の組み合わせで *TERT* プロモータ活性を亢進させることが確認された。また rSNP のプロモータ活性は C250T よりも強い可能性が示唆された。

【結語】 甲状腺腫瘍において、rSNP は C228T と同様 *TERT* プロモータ活性を亢進し、*TERT* の発現を介して腫瘍の成長、増大に影響を及ぼすと考えられる。

本研究は甲状腺分化癌の増殖因子に関し有用な知見を有しており、学位論文として価値のあるものと判断した。

〔博士（医学）〕

氏名 吉池信哉

〔学位〕	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	乳癌における可溶性アデニル酸シクラーゼの発現パターン
	授与番号	博甲医 第474号	論文審査委員	主査 阿部展次 副査 平野浩一 秋元義弘 木崎節子 福原 浩
	授与年月日	令和2年4月17日		
	授与の要件	学位規程第5条		

### 学位論文の要旨

【背景と目的】可溶性アデニル酸シクラーゼ（soluble adenylyl cyclase：以下sAC）は、従来のACと異なり細胞膜ドメインを持たず細胞質や核に局在する。sACは、前立腺癌や悪性黒色腫で発現亢進や核内局在が報告されているが、乳癌では検討されていない。本研究の目的は、正常乳腺および乳癌におけるsACの発現パターンを明らかにし、その意義を細胞の増殖能およびsACの下流シグナルに着目して検討することである。

【対象と方法】通常型の浸潤性乳癌70例の手術検体を免疫組織化学的に解析した。対照として切除検体の非腫瘍部と10例の生検検体の授乳期乳腺を用いた。浸潤性乳癌はER、HER2、CK5/6、Ki-67の免疫染色で分化形質の亜型分類をした。sACの発現量と核内局在は、免疫染色を行い半定量的に解析した。ゴルジ体への局在は、抗GM130/GOLGA2抗体と抗sAC抗体の蛍光免疫二重染色で確認した。腫瘍の増殖能はKi-67陽性率で算出した。核内sACの下流シグナルは、抗pCREB抗体を用いて免疫染色で検討した。

【結果】非授乳期乳腺では、sACは乳腺上皮の細胞質でびまん性に発現しており、筋上皮と周囲間質には発現を認めなかった。細胞質の顆粒状局在や核内局在が散見された。授乳期乳腺では細胞質の顆粒状発現が目立ち、ゴルジ体への局在を認めた。浸潤性乳癌70例は、luminal A16例、luminal B21例、HER2-enriched 16例、triple-negative（以下TN）17例に亜型分類された。いずれの分化形質亜型の乳癌でも、sACは細胞質でびまん性に発現していたが、luminal B type乳癌では細胞質の発現量が低下していた。TN type乳癌ではsACの核内局在が高頻度に見られ、特にCK5/6陽性のbasal like typeのTN type乳癌で多く認められた。sACが核内に局在するTN type乳癌はKi-67陽性率がより高かった。sACの核内局在部位とpCREBの発現領域は、必ずしも一致しなかった。

【考察・結論】本研究は、sACが正常乳腺および乳癌において多様な発現パターンを示すことを明らかにし、各発現パターンがそれぞれ固有の機能を担うと推測された。授乳期乳腺におけるsACのゴルジ体への局在は、乳腺上皮の最終分化機能である乳汁分泌に関連すると考えられる。乳癌においては、TN type乳癌でsACが核に高率に局在しており、腫瘍増殖との関連が示唆された。sACの核内局在は、TN type乳癌の悪性度を評価する指標になりうると考えられる。核内sACの下流シグナルについては、CREBのみでなく複雑なシグナル経路が関与すると考えられる。今後、sACの局在部位による下流のシグナル経路の解明が進むことで、正常乳腺および乳癌におけるsACの発現パターンの意義が明らかになると期待される。

### 論文審査結果の要旨

【背景】可溶性アデニル酸シクラーゼ（soluble adenylyl cyclase：以下sAC）は、従来のACと異なり細胞膜ドメインを持たず細胞質や核に局在する。前立腺癌や悪性黒色腫でsAC発現亢進や核内局在が報告されつつあるが、乳癌では検討されておらず、その発現パターンは未知である。

【目的】乳癌におけるsACの発現パターンを明らかにし、細胞の増殖能およびsACの下流シグナルに着目することにより、乳癌におけるsAC発現の意義を明らかにする。

【対象】通常型浸潤性乳癌切除例70例を対象とした。対照として非腫瘍部正常乳腺と授乳期乳腺（10例の生検検体）を用いた。

【方法】乳癌はER、HER2、CK5/6、Ki-67の免疫染色で分化形質の亜型分類をし、それぞれにおけるsAC免疫染色で得られたsAC発現パターンを検討した。sACの細胞質発現量は、免疫染色の結果を用いて半定量的に算出（H-score）した。ゴルジ体への局在は、抗GM130/GOLGA2抗体と抗sAC抗体の蛍光免疫二重染色で確認し、腫瘍の増殖能はKi-67陽性率で算出した。核内sACの下流シグナルは、抗pCREB抗体を用いて免疫染色で検討した。

【結果】正常乳腺では、sACは乳腺上皮の細胞質でびまん性に発現し、一部顆粒状局在や核内局在が散見された。授乳期乳腺では

細胞質の顆粒状発現が目立ち、ゴルジ体への局在を認めた。乳癌は、luminal A16例、luminal B21例、HER2-enriched 16例、triple-negative（以下TN）17例に亜型分類された。いずれの分化形質亜型の乳癌でも、sACは細胞質でびまん性に発現していたが、luminal B type乳癌の細胞質発現量は正常乳腺と比較して有意に低下（H-score：164 vs. 197）しており、他の癌亜型に比しても有意に低値であった。sAC核内局在はTN type乳癌で他の癌亜型に比べ高頻度（65 vs. 32%）にみられ、特にCK5/6陽性のbasal like subtypeのTN type乳癌でその傾向が強かった。sACが核内に局在するTN type乳癌は非核内局在の症例に比べKi-67陽性率が高かった（63 vs. 37%）。sACの核内局在部位とpCREBの発現領域は、必ずしも一致しなかった。

【結論】sACは正常乳腺、授乳期乳腺、乳癌において多彩な発現パターンを示し、それぞれ固有の機能を担うものと推察された。核内に局在するsACの下流シグナルについては、CREBのみでなく複雑なシグナル経路の関与が考えられた。sAC核内局在を認めるTN type乳癌では細胞増殖能が有意に高いことが明らかとなり、本所見がTN type乳癌の悪性度を反映する1つの指標になり得る可能性が展望された。

sACの乳癌組織での検討は先行研究がなく、大変意義のある研究結果である。審査委員全員一致で学位授与に値するとの結論を得た。

〔博士（医学）〕

氏名 片岡 功

〔学位〕	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	胃癌においてDNMT3A高発現は生物学的悪性度および胎児消化管分化と関連する
	授与番号	博甲医 第475号	論文審査委員	主査 長島文夫
	授与年月日	令和2年4月17日		副査 近藤晴彦 大西宏明 後藤田貴也 森 秀明
	授与の要件	学位規程第5条		

### 学位論文の要旨

〔背景・目的〕胃癌は組織学的・分子遺伝学的に不均一な集団であり、近年報告された胎児消化管分化を示す胃癌は予後不良の一群として知られる。我々はThe Cancer Genome Atlas (TCGA)の胃癌RNA-Seqデータの解析により、胃癌組織では、DNA methyltransferase 3A (DNMT3A)が、代表的な胎児消化管分化マーカーであるsal-like protein 4 (SALL4)と共発現することを見出した。本研究では、胃癌におけるDNMT3A発現の臨床病理学的意義、特に胎児消化管分化との関連性の解明を目的とした検討を行った。

〔対象と方法〕2008年から2014年に外科切除された単発胃癌症例346例を対象とし、組織マイクロアレイを用いた免疫組織化学染色を行い、以下の検討を行った。

1)胃癌におけるDNMT3A, 3Bの発現, 2)既知の形質マーカー (CD10, MUC2, MUC5AC, MUC6)の発現, 3)胃癌分子亜型の代用マーカー (surrogate marker) (EBV-encoded small RNA (EBER), MLH1, E-cadherin, p53)と胎児消化管マーカー (SALL4, glypican-3)の発現, 4)DNMT3A, 3Bの発現と臨床病理学的所見および2) 3)との関連についての統計学的検討を行った。

〔結果〕DNMT3A, 3Bの発現はそれぞれ胃癌の34.7% (120/346), 0.3% (1/346)に認められた。DNMT3A陰性胃癌と比較し、DNMT3A陽性胃癌はLauren分類における腸型、乳頭状・管状腺癌の像を呈する頻度が高く (各々  $P < 0.001$ )、リンパ管・静脈侵襲、リンパ節転移が高頻度であった (各々  $P < 0.001$ )。再発率も高く ( $P = 0.0072$ )、中でも肝転移が高頻度にみられ ( $P < 0.0001$ )、全生存率・無再発生存率とも不良であった (各々  $P < 0.05$ )。DNMT3A陽性胃癌の形質については、CD10の発現が有意に高く ( $P = 0.02$ )、MUC5ACの発現は有意に低い結果であった ( $P = 0.0019$ )。胃癌分子亜型のsurrogate markerの中ではp53の過剰発現が高頻度であった ( $P = 0.0003$ )。DNMT3A陽性胃癌は形態的に胎児消化管分化を示す割合が高く ( $P < 0.0001$ )、DNMT3A陰性胃癌よりも胎児消化管マーカーであるSALL4 ( $P < 0.0001$ ) およびglypican3 ( $P < 0.0001$ )を発現する頻度が高かった。

〔考察・結論〕胃癌においてDNMT3A発現は高悪性度、胎児消化管分化と関連した。近年DNMTは各種悪性腫瘍の治療標的として注目されており、本研究結果は、予後不良として知られる胎児消化管分化を示す胃癌に対する新たな治療戦略を示唆する結果と考えられた。

### 論文審査結果の要旨

〔背景・目的〕胃癌は組織学的・分子遺伝学的に不均一な集団であり、近年報告された胎児消化管分化を示す胃癌は予後不良の一群として知られる。我々はThe Cancer Genome Atlas (TCGA)の胃癌RNA-Seqデータの解析により、胃癌組織では、DNA methyltransferase 3A (DNMT3A)が、代表的な胎児消化管分化マーカーであるsal-like protein 4 (SALL4)と共発現することを見出した。本研究では、胃癌におけるDNMT3A発現の臨床病理学的意義、特に胎児消化管分化との関連性の解明を目的とした検討を行った。

〔対象と方法〕2008年から2014年に外科切除された単発胃癌症例346例を対象とし、組織マイクロアレイを用いた免疫組織化学染色を行い、以下の検討を行った。

1)胃癌におけるDNMT3A, 3Bの発現, 2)既知の形質マーカー (CD10, MUC2, MUC5AC, MUC6)の発現, 3)胃癌分子亜型の代用マーカー (surrogate marker) (EBV-encoded small RNA (EBER), MLH1, E-cadherin, p53)と胎児消化管マーカー (SALL4, glypican-3)の発現, 4)DNMT3A, 3Bの発現と臨床病理学的所見および2) 3)との関連についての統計学的検討を行った。

〔結果〕DNMT3A, 3Bの発現はそれぞれ胃癌の34.7% (120/346),

0.3% (1/346)に認められた。DNMT3A陰性胃癌と比較し、DNMT3A陽性胃癌はLauren分類における腸型、乳頭状・管状腺癌の像を呈する頻度が高く (各々  $P < 0.001$ )、リンパ管・静脈侵襲、リンパ節転移が高頻度であった (各々  $P < 0.001$ )。再発率も高く ( $P = 0.0072$ )、中でも肝転移が高頻度にみられ ( $P < 0.0001$ )、全生存率・無再発生存率とも不良であった (各々  $P < 0.05$ )。DNMT3A陽性胃癌の形質については、CD10の発現が有意に高く ( $P = 0.02$ )、MUC5ACの発現は有意に低い結果であった ( $P = 0.0019$ )。胃癌分子亜型のsurrogate markerの中ではp53の過剰発現が高頻度であった ( $P = 0.0003$ )。DNMT3A陽性胃癌は形態的に胎児消化管分化を示す割合が高く ( $P < 0.0001$ )、DNMT3A陰性胃癌よりも胎児消化管マーカーであるSALL4 ( $P < 0.0001$ ) およびglypican3 ( $P < 0.0001$ )を発現する頻度が高かった。

〔考察・結論〕胃癌においてDNMT3A発現は高悪性度、胎児消化管分化と関連した。近年DNMTは各種悪性腫瘍の治療標的として注目されており、本研究結果は、予後不良として知られる胎児消化管分化を示す胃癌に対する新たな治療戦略を示唆する結果と考えられた

〔審査結果〕論文審査委員で協議し、本研究は学位論文にふさわしい内容と判断された。



〔博士 (医学)〕

氏名 平 吹 一 訓

(学位)	種 類 博士 (医学)	論 文 項 目	非アスリートと持久性アスリートを対象とした三次元心臓超音波検査による神経調節性失神の発症機序の解明：起立耐性能力および左室捻転運動の比較検討を中心に
	授与番号 博甲医 第476号	論文審査委員	主査 横山健一 副査 大木 紫 窪田 博 坂田好美 吉田正雄
	授与年月日 令和2年4月17日		
	授与の要件 学位規程第5条		

### 学位論文の要旨

**【緒言】** 救急外来の診療において神経調節性失神は頻度の高い症候である。その発症機序の解明は有効な治療法の開発や高リスク患者の抽出に関して重要である。起立耐性能力は高体力者で低いことがわかっており、心臓リモデリングの関与が示唆されている。さらに左室捻転運動が起立耐性能力を規定する可能性が報告されているが、失神や前失神時の左室機能を報告した研究はほとんどなく、起立耐性能力と左室機能の関連については不明な点が多い。そこで本研究では非アスリートと持久性アスリートにおける高度な起立負荷時の左室機能の変化を三次元心臓超音波検査（3D心エコー）を用いて明らかにすることで、神経調節性失神の機序を解明することを目的とした。

**【方法】** 男性の非アスリート（非ア群）12名（年齢：25±5歳）と持久性アスリート（持ア群）12名（年齢：23±8歳）を対象として、下肢陰圧負荷（Lower Body Negative Pressure：LBNP）試験を行い、左室機能を3D心エコーにて測定した。測定項目毎に安静時（Baseline）、最大負荷1/2のステージ（LBNP1/2max）、前失神直前ステージ（LBNPpre-max）の3段階で比較した。また、非ア群と持ア群の間で上記の3段階における左室機能の変化について比較した。

**【結果】** 非ア群ではLBNPの増強に伴い、駆出率（Baseline：62±3、LBNP1/2max：55±5、LBNPpre-max：43±9%、平均値±標準偏差、 $p<0.05$ 、ANOVA）、長軸方向グローバルストレイン（ $-20.5\pm 2.8$ 、 $-17.6\pm 2.7$ 、 $-13.6\pm 4.7\%$ 、 $p<0.05$ ）、円周方向グローバルストレイン（ $-31.2\pm 3.7$ 、 $-26.8\pm 3.3$ 、 $-19.4\pm 5.3\%$ 、 $p<0.05$ ）は有意に低下した。LBNPpre-maxにおいて、Torsion（ $1.9\pm 0.6$ 、 $1.9\pm 0.7$ 、 $3.1\pm 1.1^\circ/\text{cm}$ 、 $p<0.05$ ）は増加し、Peak Untwisting Rate（ $-138\pm 42$ 、 $-164\pm 50$ 、 $-245\pm 88^\circ/\text{sec}$ 、 $p<0.05$ ）は加速した。一方、持ア群では非ア群とほぼ同様の結果となったが、Peak Untwisting Rateについてののみ非ア群と異なる結果を認めた。持ア群においてPeak Untwisting Rate（ $-125\pm 41$ 、 $-127\pm 37$ 、 $-161\pm 51^\circ/\text{sec}$ ）は陰圧負荷中に変化を認めず、2群間で比較するとLBNPpre-maxで非ア群の方が有意に速かった（ $p<0.05$ ）。LBNPpre-maxでのPeak Untwisting Rateについて重回帰分析を行ったところ、Torsionと球率率に有意な負の影響を認めた。

**【考察】** 非ア群において、高度な起立負荷時には左室心筋ストレインと左室駆出率は低下したが、左室Torsionは増加し、左室Peak Untwisting Rateは加速した。これは効率的に一回心拍出量を保つための代償機構であると考えられる。一方、持ア群ではこの左室Peak Untwisting Rateの加速が認められず、起立耐性能力低下の一因であると考えられた。また、失神の機序解明に対して3D心エコーを用いたのは世界で初である。

**【結語】** 左室捻転運動は起立負荷時の一回心拍出量維持の中心的役割を担っている。3D心エコーを用いて測定された左室の形態や機能は神経調節性失神の予測因子となる可能性がある。

### 論文審査結果の要旨

**【緒言】** 救急外来の診療において神経調節性失神は頻度の高い症候である。その発症機序の解明は有効な治療法の開発や高リスク患者の抽出に関して重要である。起立耐性能力は高体力者で低いことがわかっており、心臓リモデリングの関与が示唆されている。さらに左室捻転運動が起立耐性能力を規定する可能性が報告されているが、失神や前失神時の左室機能を報告した研究はほとんどなく、起立耐性能力と左室機能の関連については不明な点が多い。そこで本研究では非アスリートと持久性アスリートにおける高度な起立負荷時の左室機能の変化について、三次元心臓超音波検査（3D心エコー）を用いて明らかにすることで、神経調節性失神の機序を解明することを目的とした。

**【方法】** 男性の非アスリート（非ア群）12名（年齢：25±5歳）と持久性アスリート（持ア群）12名（年齢：23±8歳）を対象として、下肢陰圧負荷（Lower Body Negative Pressure：LBNP）試験を行い、左室機能を3D心エコーにて測定した。測定項目毎に安静時（Baseline）、最大負荷1/2のステージ（LBNP1/2max）、前失神直前ステージ（LBNP pre-max）の3段階で比較した。また、非ア群と持ア群の間で上記の3段階における左室機能の変化について比較した。

**【結果】** 非ア群ではLBNPの増強に伴い、駆出率（Baseline：62±3、LBNP1/2max：55±5、LBNPpre-max：43±9%、平均値±標準偏差、 $p<0.05$ 、ANOVA）、長軸方向グローバルストレイン（ $-20.5\pm 2.8$ 、 $-17.6\pm 2.7$ 、 $-13.6\pm 4.7\%$ 、 $p<0.05$ ）、円周方

向グローバルストレイン（ $-31.2\pm 3.7$ 、 $-26.8\pm 3.3$ 、 $-19.4\pm 5.3\%$ 、 $p<0.05$ ）は有意に低下した。LBNP pre-maxにおいて、Torsion（ $1.9\pm 0.6$ 、 $1.9\pm 0.7$ 、 $3.1\pm 1.1^\circ/\text{cm}$ 、 $p<0.05$ ）は増加し、Peak Untwisting Rate（ $-138\pm 42$ 、 $-164\pm 50$ 、 $-245\pm 88^\circ/\text{sec}$ 、 $p<0.05$ ）は加速した。一方、持ア群では非ア群とほぼ同様の結果となったが、Peak Untwisting Rateについてののみ非ア群と異なる結果を認めた。持ア群においてPeak Untwisting Rate（ $-125\pm 41$ 、 $-127\pm 37$ 、 $-161\pm 51^\circ/\text{sec}$ ）は陰圧負荷中に変化を認めず、2群間で比較するとLBNP pre-maxで非ア群の方が有意に速かった（ $p<0.05$ ）。LBNP pre-maxでのPeak Untwisting Rateについて重回帰分析を行ったところ、Torsionと球率率に有意な負の影響を認めた。

**【考察】** 非ア群において、高度な起立負荷時には左室心筋ストレインと左室駆出率は低下したが、左室Torsionは増加し、左室Peak Untwisting Rateは加速した。これは効率的に一回心拍出量を保つための代償機構であると考えられる。一方、持ア群ではこの左室Peak Untwisting Rateの加速が認められず、起立耐性能力低下の一因であると考えられた。また、失神の機序解明に対して3D心エコーを用いたのは世界で初である。

**【結語】** 左室捻転運動は起立負荷時の一回心拍出量維持の中心的役割を担っている。3D心エコーを用いて測定された左室の形態や機能は神経調節性失神の予測因子となる可能性がある。本研究は神経調節性失神の機序の解明に新たな知見をもたらすものであり、審査の結果、学位論文として価値のあるものと認められた。

〔博士 (医学)〕

氏名 高田 大

〔学位〕	種 類 博士 (医学)	論 文 項 目	マウス精巣における glucocorticoid induced transcript 1 の発現
	授与番号 博甲医 第477号	論文審査委員	主査 秋元義弘
	授与年月日 令和2年9月16日		副査 浮山越史 桶川隆嗣 今泉美佳 安田和基
	授与の要件 学位規程第5条		

学位論文の要旨

【目的】糖質ステロイドは、その受容体 (GR) を介して胸腺T細胞のアポトーシスを導くが、一方では glucocorticoid induced transcript 1 (GLCCII) long form を誘導し、その結合蛋白LC8のアポトーシス作用を抑制する。精巣の GLCCII については、mRNA としては long form に加えて short form の存在が示唆され、さらに promoter についても、胸腺と共通する部位に加えて、精巣特異的領域の可能性が推測されている。しかし、short form の蛋白の存在、各 isoform を発現する精細胞の種類、そして精子形成過程における GLCCII の分子機能については未知である。本研究は、精子形成過程に果たす GLCCII の分子機能の解明を目的とした。

【方法】2週齢 (前性成熟期) と9週齢 (性成熟期) のマウス精巣を材料とした。アポトーシス誘導分子 (cleaved-caspase-3, caspase-9, Bim) の発現量の比較を Western blot 法で検討した。2種類の抗 GLCCII 抗体 (両 isoform を認識あるいは long form のみを認識) による免疫組織化学と Western blot 法を行った。GLCCII の機能リガンドとして知られている dynein light chain 1 (LC8) についても免疫組織化学を行った。両 isoform 共通の mRNA 部位を標的とした *in situ* hybridization を行った。両 isoform の GLCCII と LC8 との結合性を同定するために、各 GLCCII-FLAG コンストラクトを HEK293 細胞に発現後、GLCCII との沈降産物を材料に Western blot 法を行った。9週齢の精巣を材料に、抗 GLCCII 抗体で免疫沈降を行い、LC8 と GLCCII の蛋白結合性について検討した。GLCCII の遺伝子発現の誘導物質を同定するために、9週齢の精巣を材料に、糖質ステロイド受容体 (GR)、アンドロゲン受容体 (AR)、エストロゲン受容体 (ER) について、Western blot 法と免疫組織化学を行った。

【結果】9週齢では2週齢に比して、精巣内のアポトーシス活性は低下していた。GLCCII 蛋白の発現は、2週齢では long form のみであり、9週齢では long form と short form であった。蛋白の発現細胞については、long form は精母細胞、short form は円形精子細胞と伸張精子細胞 (残余小体部位) であった。一方、GLCCII mRNA の発現は、精母細胞と円形精子細胞にみられたが、伸張精子細胞にはなかった。LC8 蛋白は、精母細胞、円形精子細胞、伸張精子細胞そして精子に観察された。Long form と short form のいずれも、LC8 と結合することが判明した。各種ホルモン受容体については、精母細胞には GR、ER が、円形精子細胞には ER が発現していた。

【考察と結論】本研究は、精巣では2種類の GLCCII 蛋白が存在し、そのうちの long form は精母細胞に、short form は円形精子細胞に発現することを明らかにした。さらに、この short form もアポトーシス惹起分子 LC8 と結合することが証明された。精細胞における GR、AR、ER の発現部位をもとに考えると、前性成熟期では、糖質ステロイドは GR を介して、精母細胞での long form GLCCII を誘導し、同細胞の活発なアポトーシスを抑制すると考えられた。一方、性成熟期では、アロマトラーゼにより testosterone が estrogen に変換されることから、円形精子細胞では、ER を介する精巣特異的プロモーターの発現により、short form GLCCII が誘導されると推測された。この short form は、活発なアポトーシスの主座である円形精子細胞において、LC8 のアポトーシス誘導を強く制御することで、精子細胞から精子にいたる分化過程の推進に寄与することが示唆された。

論文審査結果の要旨

【目的】糖質ステロイドは、その受容体 を介して胸腺T細胞のアポトーシスを導くが、一方では glucocorticoid induced transcript 1 (GLCCII) long form を誘導し、その結合蛋白LC8のアポトーシス作用を抑制する。マウス精巣の GLCCII については、mRNA としては long form に加えて short form の存在が示唆され、さらに promoter についても、胸腺と共通する部位に加えて、精巣特異的領域の可能性が推測されている。しかし、short form の蛋白の存在、各 isoform を発現する精細胞の種類、そして精子形成過程における GLCCII の分子機能については未知である。本研究は、精子形成過程に果たす GLCCII の分子機能の解明を目的とした。

【方法】2週齢 (前性成熟期) と9週齢 (性成熟期) のマウス精巣を材料とした。アポトーシス誘導分子 (cleaved-caspase-3, caspase-9, Bim) の発現量の比較を Western blot 法で検討した。2種類の抗 GLCCII 抗体 (両 isoform を認識あるいは long form のみを認識) による免疫組織化学と Western blot 法を行った。GLCCII の機能リガンドとして知られている dynein light chain 1 (LC8) についても免疫組織化学を行った。両 isoform 共通の mRNA 部位を標的とした *in situ* hybridization を行った。両 isoform の GLCCII と LC8 との結合性を同定するために、各 GLCCII-FLAG コンストラクトを HEK293 細胞に発現後、GLCCII との沈降産物を材料に Western blot 法を行った。9週齢の精巣を材料に、抗 GLCCII 抗体で免疫沈降を行い、LC8 と GLCCII の蛋白結合性について検討した。GLCCII の遺伝子発現の誘導物質を同定するために、9週齢の精巣を材料に、糖質ステロイド受容体 (GR)、アンドロゲン受容体 (AR)、エストロゲン受容体 (ER) について Western blot 法と免疫組織化学を行った。

【結果】9週齢では2週齢に比して、精巣内のアポトーシス活性は低下していた。GLCCII 蛋白の発現は、2週齢では long form のみであり、9週齢では long form と short form であった。蛋白の発現細胞については、long form は精母細胞、short form は円形精子細胞と伸張精子細胞 (残余小体部位) であった。一方、GLCCII mRNA の発現は、精母細胞と円形精子細胞にみられたが、伸張精子細胞にはなかった。LC8 蛋白は、精母細胞、円形精子細胞、伸張精子細胞そして精子に観察された。long form と short form のいずれも、LC8 と結合することが判明した。各種ホルモン受容体については、精母細胞には GR と ER が、円形精子細胞には ER が発現していた。

【考察と結論】本研究は、精巣では2種類の GLCCII 蛋白が存在し、そのうちの long form は精母細胞に、short form は円形精子細胞に発現することを明らかにした。さらに、この short form もアポトーシス惹起分子 LC8 と結合することが証明された。精細胞における GR、AR、ER の発現部位をもとに考えると、前性成熟期では、糖質ステロイドは GR を介して、精母細胞での long form GLCCII を誘導し、同細胞の活発なアポトーシスを抑制すると考えられた。一方、性成熟期では、アロマトラーゼにより testosterone が estrogen に変換されることから、円形精子細胞では、ER を介する精巣特異的プロモーターの発現により、short form GLCCII が誘導されると推測された。この short form は、活発なアポトーシスの主座である円形精子細胞において、LC8 のアポトーシス誘導を強く制御することで、精子細胞から精子にいたる分化過程の推進に寄与することが示唆された。

本研究の内容は、マウス精細胞における GLCCII によるアポトーシス制御機構の一部を解明するものであり、審査委員全員で学位授与に値するとの結論を得た。

〔博士（医学）〕

氏名 大田原 正 幸

〔学位〕	種 類 博士（医学）	論 文 項 目	マイクロ流路アッセイを用いた熱傷後の循環血液中好中球細胞外トラップ増加に関する研究
	授与番号 博乙医 第603号	論文審査委員	主査 佐藤 徹
	授与年月日 令和元年7月17日		副査 古瀬純司 丑丸 真 木崎節子 大西宏明
	授与の要件 学位規程第6条		

学位論文の要旨

【背景】毛細血管網を通過できない血中にある長鎖の細胞外DNA（cell free DNA；cf-DNA）は毛細血管閉塞による末梢循環不全を惹起する事で二次的臓器損傷や創傷治癒遅延を引き起こすと言われるが、その由来は解明されておらず、従来のcf-DNA測定法ではchromatin（長鎖）とoligonucleotide（短鎖）とを区別することが出来なかった。今回我々は、毛細血管閉塞を起こし得る長鎖cf-DNAのみを機械的に捕捉するマイクロ流路デバイスを用いて、その分離・定量化を試みた。また、血中の好中球細胞外トラップ（circulating Neutrophil Extracellular Traps；cNETs）に着目し、動物モデルを用いて熱傷と二次的敗血症後に認めるcf-DNAの由来がcNETsであるかを調べた。

【方法】長鎖cf-DNAのみを選択的に捕捉するマイクロ流路デバイスを毛細血管構造に模して設計し、好中球から刺激誘発したcNETsをds-DNA分解酵素であるDNaseを用いて分解（短鎖）群と非分解（長鎖）群に分け、cf-DNA測定の従来法と比較することで、長鎖cf-DNAの選択的分離におけるマイクロ流路デバイスを使用したアッセイの有用性を検討した。次に熱傷受傷後のcf-DNAの由来を調べるため、免疫蛍光法と正常・無顆粒球症群を作成し検討した。熱傷ラットの重症（30%）群と軽症（3-4%）群で長鎖cf-DNA量を比較し、重症熱傷後および盲腸結紮穿刺による二次的敗血症後の長鎖cf-DNA量の経時変化を評価した。

【結果】マイクロ流路アッセイは従来の血中DNA測定法と異なり、長鎖cf-DNAを特異的に定量することが出来た。マイクロ流路デバイスに捕捉された熱傷ラットのcf-DNAの分布はNeutrophil Elastase陽性分布とほぼ一致し、ラット熱傷モデルでは無顆粒球症群で有意に長鎖cf-DNAが減少している事から、熱傷後のcf-DNAの由来がcNETsであることが示唆された。重症熱傷後、長鎖cNETs量は第一病日に有意に増加し、その後数日かけて減少し、盲腸結紮穿刺による二次的敗血症群では、穿刺後有意に再上昇した。

【結論】本研究において、マイクロ流路アッセイが長鎖cf-DNAの定量化に有用であり、熱傷後のcf-DNAがcNETs由来である事が示された。また重症熱傷では感染を伴わずともcNETs誘発によって末梢循環不全を起こし得る長鎖cNETsが増加するが、その量は熱傷の重症度によって異なり、経時的に変化することが示唆された。

論文審査結果の要旨

【背景】毛細血管網を通過できない血中にある長鎖の細胞外DNA（cell free DNA；cf-DNA）は毛細血管閉塞による末梢循環不全を惹起することで二次的臓器損傷や創傷治癒遅延を引き起こすと言われる。しかし、従来のcf-DNA測定法ではchromatin（長鎖）とoligonucleotide（短鎖）とを区別することができず、cf-DNAの由来も不明であった。本研究では、毛細血管構造に模して設計されたマイクロ流路デバイスを使って、末梢循環不全を起こし得る血中長鎖cf-DNAの分離が可能かを検討し、また長鎖cf-DNAの定量化を試みた。更に、cf-DNAの一種である血中好中球細胞外トラップ（circulating Neutrophil Extracellular Traps；cNETs）に着目し、熱傷時に発生するcf-DNAがcNETsであるか否かを調べると共に、熱傷と敗血症が加わった時のcf-DNA量の変化を本デバイスにより観察した。

【方法】好中球から刺激誘発したcNETsについて、DNaseを用いて長鎖を短鎖に分解する前後で、マイクロ流路デバイスおよび従来法により定量化比較し、長鎖と短鎖の分離定量化における本デバイスの有用性を検討した。次に熱傷ラットcf-DNAのNeutrophil Elastase（NE）蛍光抗体染色、および無顆粒球症ラットの熱傷受傷後cf-DNA定量化により、熱傷ラットのcf-DNAの由来がcNETs

であるか否かを検討した。更に熱傷ラットの重症群（熱傷域30%）と軽症群（熱傷域3～4%）で長鎖cf-DNA量を比較し、重症熱傷後および盲腸結紮穿刺による二次的敗血症後の長鎖cf-DNA量の経時変化を評価した。

【結果】従来法で定量化したcNETs量はDNase処理後も不変であったのに対し、マイクロ流路アッセイで定量化したcNETs量はDNase処理後に有意に減少したことから、マイクロ流路アッセイにより長鎖cNETsの分離定量化が可能であると考えられた。マイクロ流路で捕捉された熱傷ラットのcf-DNA分布はNE陽性分布とほぼ一致し、熱傷後の長鎖cf-DNA量は無顆粒球症群で正常群に比べ有意に減少していることから、熱傷後のcf-DNAが好中球由来のcNETsであることが示唆された。実験的に作成した重症熱傷ラットでは軽症熱傷ラットより長鎖cNETs量が多く、第1病日に有意に増加した後数日かけて減少し、盲腸結紮穿刺による二次的敗血症では穿刺後有意に再上昇した。

【結論】本研究により、マイクロ流路アッセイが長鎖cf-DNAの定量化に有用であることが示された。また熱傷後においては、末梢循環不全を起こし得るcNETs由来の長鎖cf-DNAが増加することが示唆された。本研究の内容は、熱傷後のcNETsが臓器損傷等に果たす役割の解明に資するもので、学位の授与に値するものと考えられた。

## 〔博士（医学）〕

氏名 百瀬裕一

〈学位〉	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	遺伝性肺動脈性肺高血圧症患者におけるBMPR2遺伝子のde novo変異
	授与番号	博乙医 第604号	論文審査委員	主査 長島文夫
	授与年月日	令和元年9月18日	副査	菅間 博 楊 國昌 後藤田貴也 石井晴之
	授与の要件	学位規程第6条		

## 学位論文の要旨

肺動脈性肺高血圧症（PAH）は我が国の指定難病であり、発症率は20-30例/100万人といわれている。発症原因ははまだ全容解明されていないが、BMPR2遺伝子変異は孤発例の約3割、家族例の約8割で認められている。しかしながらde novo変異に関しての詳細な検討はなされていない。PAHにおいてBMPR2遺伝子変異情報の検討は重要と考えられ、本研究では、PAH家系を対象にBMPR2遺伝子変異について追加解析を行った。

**方法：**2010年8月から2014年6月まで杏林大学医学部付属病院で通院加療を行ったPAH症例のうちBMPR2遺伝子変異を認めた15症例の家系を対象に行った。病歴や家族歴を聴取して確認し、de novo変異が認められた症例に対しては生物学的親子関係の有無についてDNA鑑定を行い追加分析した。

**結果：**15家系に対して家族歴の聴取、遺伝子解析を行ったが、2家系は情報が不十分であり除外とし、13家系に対して2世代にわたってBMPR2変異を分析した。

この分析で3パターンの変異の伝播を認めた。1つは父親からの遺伝である。6家系該当し、うち4家系の父親のBMPR2変異保因者は肺高血圧症を発症していなかった。次に母親からの遺伝である。4家系該当し、すべての母親は肺高血圧症と診断されており「遺伝的表現促進」の傾向が認められた。最後が両親ともにBMPR2変異はなく、患者自身にde novo変異が生じたことで患者自身が発端者となった3家系が該当した。

**考察：**PAHにおけるde novo変異についても報告はあるが、家族関係をDNA鑑定で確認した解析はなく、本論文は生物学的な親子関係を確認した上でde novo変異を確認した初めての論文となった。

本研究では、2世代目に属する症例の中に10代からPAHに罹患していた症例があり遺伝的促進による若年発症の可能性が考えられた。次世代に変異遺伝子が伝播されない可能性があることにより、de novo変異と非伝達性突然変異との間に生じるバランスで、PAH患者の有病率が維持される可能性がある。また、男女別の遺伝子の浸透度は、男性が女性よりも低く（0.38対0.55）、これは過去の報告からエストロゲン代謝の関与が性差に影響していると考えられた。

**結語：**DNA鑑定を用いてde novo変異を確認することが出来た。本研究はランダムなde novo変異がBMPR2にみられる多様な突然変異の原因になっている可能性を示唆している。

## 論文審査結果の要旨

**背景：**肺動脈性肺高血圧症（PAH）は我が国の指定難病であり、発症率は20-30例/100万人といわれている。発症原因ははまだ全容解明されていないが、BMPR2遺伝子変異は孤発例の約3割、家族例の約8割で認められている。しかしながらde novo変異に関しての詳細な検討はなされていない。PAHにおいてBMPR2遺伝子変異情報の検討は重要と考えられ、本研究では、PAH家系を対象にBMPR2遺伝子変異について追加解析を行った。

**方法：**2010年8月から2014年6月まで杏林大学医学部付属病院で通院加療を行ったPAH症例のうちBMPR2遺伝子変異を認めた15症例の家系を対象に行った。病歴や家族歴を聴取して確認し、de novo変異が認められた症例に対しては生物学的親子関係の有無についてDNA鑑定を行い追加分析した。

**結果：**15家系に対して家族歴の聴取、遺伝子解析を行ったが、2家系は情報が不十分であり除外とし、13家系に対して2世代にわたってBMPR2変異を分析した。

この分析で3パターンの変異の伝播を認めた。1つは父親からの遺伝である。6家系該当し、うち4家系の父親のBMPR2変異保

因者は肺高血圧症を発症していなかった。次に母親からの遺伝である。4家系該当し、すべての母親は肺高血圧症と診断されており「遺伝的表現促進」の傾向が認められた。最後が両親ともにBMPR2変異はなく、患者自身にde novo変異が生じたことで患者自身が発端者となった3家系が該当した。

**考察：**PAHにおけるde novo変異についても報告はあるが、家族関係をDNA鑑定で確認した解析はなく、本論文は生物学的な親子関係を確認した上でde novo変異を確認した初めての論文である。2世代目に属する症例の中に10代からPAHに罹患していた症例があり遺伝的促進による若年発症の可能性が考えられた。次世代に変異遺伝子が伝播されない可能性があることにより、de novo変異と非伝達性突然変異との間に生じるバランスで、PAH患者の有病率が維持される可能性がある。また、男女別の遺伝子の浸透度は、男性が女性よりも低く（0.38対0.55）、これは過去の報告からエストロゲン代謝の関与が性差に影響していると考えられた。本研究はランダムなde novo変異がBMPR2にみられる多様な突然変異の原因になっている可能性を示唆している。

審査の結果、学位論文として価値あるものと判断した。

〔博士（医学）〕

氏名 倉田麻衣子

〈学位〉	種類	博士（医学）	論文項目	尋常性天疱瘡における単純ヘルペスウイルスの再活性化についての検討—病初期の唾液中HSV-DNA検出の臨床的意義—
	授与番号	博乙医 第605号	論文審査委員	主査 大西宏明
	授与年月日	令和元年9月18日	副査	齋藤康一郎 荻田香苗 駒形嘉紀 大崎敬子
	授与の要件	学位規程第6条		

学位論文の要旨

尋常性天疱瘡（pemphigus vulgaris：PV）は粘膜・皮膚に水疱・びらんを生じ、特に口腔粘膜優位に病変をもつ自己免疫性疾患であり、その発症は抗デスマグレイン（Dsg）1及び3抗体による。誘因として感染症などの関与が想定されているが未だ確定されたものはない。単純ヘルペスウイルス（*human alphaherpesvirus*：HSV）は過去の報告において、PVの発症・増悪に関与することが示唆されているが、両者の関連についての検討は未だ不十分である。本研究ではPV症例において唾液中HSV-DNA、抗HSV抗体価、抗Dsg抗体価を経時的に測定し、HSV感染とPVの発症および臨床像との関連を明らかにすることを試みた。まず2例のPV症例で検討を行ったところ、病初期でのみ唾液中のHSV-DNAが検出され、抗HSV、抗Dsg抗体価は病初期から経時的に高値であった。次いで2症例を含むPV16例、および対照群としてHSV感染症（口唇ヘルペス、カポジ水痘様発疹症）43例及びHSVの関与が考えられる他の炎症性皮膚疾患（PVと同じく口唇、頬粘膜、歯肉病変が特徴的である、水疱性類天疱瘡、口腔扁平苔癬、ステイブンス・ジョンソン症候群）23例の唾液中HSV-DNAおよび抗HSV抗体価を比較した。PV16例中6例（37.5%）からは発症初期に限って唾液中HSV-DNAが検出され、カポジ水痘様発疹症（56.5%）よりも低かったが、口唇ヘルペス（30.0%）と同程度の陽性率を示した。他の炎症性皮膚疾患では唾液中HSV-DNAは検出されなかった。PV発症初期の唾液1ml当たりのHSV-DNA量は口唇ヘルペスやカポジ水痘様発疹症と比較し高い傾向がみられたが有意差はなかった。発症初期の血清HSV-IgG抗体価は239.9±44.3であり、口唇ヘルペス（89.8±15.1）やカポジ水痘様発疹症（115.6±23.1）、他の炎症性皮膚疾患と比較してPV症例で有意に高かった（いずれもp<0.05）。唾液中HSV-DNAの検出の有無は発症初期の臨床症状の重症度には関連していなかったが、唾液中HSV-DNA陽性PV症例の大部分（83.3%）はステロイド抵抗性であり、唾液中HSV-DNA陰性PV症例の多く（70.0%）はステロイド内服単剤で病勢を抑えられていた。以上より、HSVは一部のPVにおいて発症初期で再活性化しPV発症の誘因となっている可能性が考えられた。また、発症初期での唾液中HSV-DNA検出法がPV症例におけるステロイド抵抗性を予測するために有用な非侵襲的方法である可能性が考えられた。

論文審査結果の要旨

尋常性天疱瘡（pemphigus vulgaris：PV）は粘膜・皮膚に水疱・びらんを生じ、特に口腔粘膜優位に病変をもつ自己免疫性疾患であり、その発症は抗デスマグレイン（Dsg）1及び3抗体による。誘因として感染症などの関与が想定されているが未だ確定されたものはない。単純ヘルペスウイルス（*human alphaherpesvirus*：HSV）は過去の報告において、PVの発症・増悪に関与することが示唆されているが、両者の関連についての検討は未だ不十分である。本研究ではPV症例において唾液中HSV-DNA、抗HSV抗体価、抗Dsg抗体価を経時的に測定し、HSV感染とPVの発症および臨床像との関連を明らかにすることを試みた。

まず2例のPV症例で検討を行ったところ、病初期でのみ唾液中のHSV-DNAが検出され、抗HSV、抗Dsg抗体価は病初期から経時的に高値であった。次いで2症例を含むPV16例、および対照群としてHSV感染症（口唇ヘルペス、カポジ水痘様発疹症）43例及びHSVの関与が考えられる他の炎症性皮膚疾患（PVと同じく口唇、頬粘膜、歯肉病変が特徴的である、水疱性類天疱瘡、口腔扁平苔癬、ステイブンス・ジョンソン症候群）23例の唾液中HSV-DNAおよび抗HSV抗体価を比較した。PV16例中6例（37.5%）からは発症初期に限って唾液中HSV-DNAが検出され、

カポジ水痘様発疹症（56.5%）よりも低かったが、口唇ヘルペス（30.0%）と同程度の陽性率を示した。他の炎症性皮膚疾患では唾液中HSV-DNAは検出されなかった。PV発症初期の唾液1ml当たりのHSV-DNA量は口唇ヘルペスやカポジ水痘様発疹症と比較し高い傾向がみられたが有意差はなかった。発症初期の血清HSV-IgG抗体価は239.9±44.3であり、口唇ヘルペス（89.8±15.1）やカポジ水痘様発疹症（115.6±23.1）、他の炎症性皮膚疾患と比較してPV症例で有意に高かった（いずれもp<0.05）。唾液中HSV-DNAの検出の有無は発症初期の臨床症状の重症度には関連していなかったが、唾液中HSV-DNA陽性PV症例の大部分（83.3%）はステロイド抵抗性であり、唾液中HSV-DNA陰性PV症例の多く（70.0%）はステロイド内服単剤で病勢を抑えられていた。

以上より、HSVは一部のPVにおいて発症初期で再活性化しPV発症の誘因となっている可能性が考えられた。また、発症初期での唾液中HSV-DNA検出法がPV症例におけるステロイド抵抗性を予測するために有用な非侵襲的方法である可能性が考えられた。

本研究の内容は、HSVがPVの発症及びステロイド抵抗性に果たす役割の解明に資するもので、学位の授与に値するものと考えられた。

学位論文要旨および審査要旨

〔博士（医学）〕

氏名 池谷 敬

〔学位〕	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	大腸憩室出血に対する内視鏡的バンド結紮術後における早期再出血のリスク因子について
	授与番号	博乙医 第606号	論文審査委員	主査 阿部展次
	授与年月日	令和元年10月11日	副査	神崎恒一 長瀬美樹 樽井武彦 柴原純二
	授与の要件	学位規程第6条		

学位論文の要旨

大腸憩室出血は下部消化管出血の原因として最も多いとされ、本邦で罹患率が増加し臨床上で重要な疾患となっている。出血源である責任憩室を同定した際は内視鏡治療が行われ、クリップ法が本邦では中心であるが、クリップ法では血管を直接把持できない場合に再出血が多いと報告されている。近年、食道静脈瘤に対し行われる内視鏡的バンド結紮術を大腸憩室出血に応用したEndoscopic Band Ligation：EBLの簡便性、有効性が報告されている。治療後早期（30日以内）の再出血率がクリップ法に比しEBLで低いことが示されているが、EBLでも10%前後に再出血を生じ、EBLにおける早期再出血のリスク因子および再出血時の対応を明らかにするために本研究を行った。

聖路加国際病院消化器内科にて、2009年6月から2014年10月に大腸憩室出血に対しEBLを施行した101症例を対象に、主要評価項目として再出血のリスク因子を、副次評価項目として再出血時の対応とその治療成績について後方視的に検討した。EBL後30日以内に再出血を認めた再出血群と再出血を認めない非再出血群の2群に分け、年齢、基礎疾患、抗血小板薬・NSAIDsの服用、憩室出血の出血分類、責任憩室の部位、EBL時の吸引による憩室の完全内反の有無について比較検討した。出血分類は内視鏡所見から、活動性出血、露出血管、濃い凝血塊に分類した。

再出血群は15例（15%）で、単変量解析では、再出血群と非再出血群の2群間で早期再出血に関する統計学的有意差は認めなかった。単変量で $P < 0.2$ であった。臨床的に再出血に関わる因子と推定した50歳未満、基礎疾患、責任憩室の部位、出血分類、憩室内反の有無に対し多変量解析を行った。50歳未満、左側結腸の責任憩室、出血分類が活動性出血の3項目が独立した危険因子（ $P < 0.05$ ）として統計学的有意差を認めた。

副次評価項目であるEBL治療後の潰瘍底は、バンドの脱落、露出血管を有する潰瘍、露出血管の無い潰瘍、黄色の壊死組織に分類した。再出血例は患者希望による手術例1例を除き保存的もしくは内視鏡治療で止血が得られた。バンドの脱落例に対し再度EBLが、露出血管を有する潰瘍ではクリップが有効であった。露出血管がない潰瘍や壊死組織は保存的に経過観察が可能であった。EBL後の早期再出血に対し、潰瘍底の内視鏡所見に応じた各々の対応法が分類された。

本研究から、50歳未満、左側結腸の責任憩室、活動性出血の責任憩室が大腸憩室出血におけるEBL後の早期再出血の高危険群である可能性が示された。

論文審査結果の要旨

〔背景〕本邦でも罹患率が増加している大腸憩室症からの出血は下部消化管出血の原因として最も多い。大腸憩室出血は自然止血もあり得るが、多くは内視鏡的止血術が行われる。内視鏡的止血術には種々なものが開発されてきたが、現在ではクリップ法によるものが主たるものである。しかし、その再出血率は依然として高く（17-50%）、この領域で議論的となっていた。一方、著者の施設を中心に、大腸憩室出血に対する内視鏡的バンド結紮術（Endoscopic Band Ligation：EBL）の有用性、優位性（クリップ法に比し低出血率）が報告されてきた。しかし、EBL後でも10%前後に早期に再出血を生じる可能性があることから、EBL後早期再出血のリスクファクターの解明は喫緊の課題であった。〔目的〕大腸憩室出血に対するEBL後早期再出血のリスクファクターを明らかにする。

〔対象と方法〕聖路加国際病院消化器内科にて、2009年6月から2014年10月に大腸憩室出血に対しEBLを施行した101症例を対象とした。これらを早期再出血群（EBL後30日以内）と非出血群に分け、患者背景や臨床因子、手技関連因子（年齢、基礎疾患、抗血小板薬・NSAIDsの服用、憩室出血の出血分類、責任憩室の部位、EBL時の吸引による憩室の完全内反の有無）について比較検討を行った。出血分類は内視鏡所見から、活動性出血、露出血管、濃い凝血塊付着に分類した。また、早期再出血のリスクファクター

を多変量ロジスティック回帰分析で検討し、副次評価項目として再出血時の対応とその治療成績について後方視的に検討した。

〔結果〕早期再出血は15例（15%）に認めた。早期再出血群と非出血群の両群間で、患者背景や臨床因子、手技関連因子に有意差を認めたものはなかった。年齢にカットオフ値を設け、50歳未満の若年者、および単変量解析で $P$ 値0.2未満の因子、臨床的に再出血に関わると考えられる因子などを用いた多変量ロジスティック回帰分析では、50歳未満、左側結腸憩室、出血分類で活動性出血、の3項目がEBL後早期再出血の独立したリスクファクターとして抽出された。また、再出血時、EBL部の内視鏡的な潰瘍底所見は5つの所見（①バンドの脱落、②露出血管を有する潰瘍、③露出血管の無い潰瘍、④黄色の壊死組織、⑤別の部位からの出血）に分類可能であり、それぞれに対する適切な臨床対応が整理可能であった。

〔結論〕50歳未満、左側結腸憩室、出血分類で活動性出血、の3項目は、大腸憩室出血に対するEBL後の早期再出血のリスクファクターである可能性が高く、これらを有する患者においてはEBL後嚴重な経過観察を要すると考えられた。また、EBL後再出血時の潰瘍底所見は、適切な臨床対応を指針するものとなること示唆された。

左側結腸の組織構築がEBLの成功可否に関与するという事実は新規性もあり興味深い。日常臨床に直結する論文であり、学位授与に値すると考える。

〔博士（医学）〕

氏名 小松原 弘一郎

〔学位〕	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	急性期脳主幹動脈閉塞に対する大学病院での診療体制改善に向けた取り組みについて
	授与番号	博乙医 第607号	論文審査委員	主査 副島京子
	授与年月日	令和元年10月16日	副査	横山健一 寺尾安生 神崎恒一 柴原純二
	授与の要件	学位規程第6条		

学位論文の要旨

【背景】2015年に脳主幹動脈閉塞症例に対するステント型血栓回収デバイス脳血管内治療の有効性が科学的に証明され、脳梗塞急性期治療は大きく変化した。発症から再開通までの時間短縮が患者の転帰を決定する重要要因であることが証明され、時間短縮の取り組みが急務となった。縦割りの診療体制など構造的に救急患者の集学的加療に不向きとされていた大学病院において、来院から諸検査、血管内治療完了までの時間短縮の実現性についての検討は行われていない。そこで本研究では、杏林大学付属病院（以下、当施設）における脳主幹動脈閉塞症例搬入から再開通までの時間短縮の取り組みと効果について後方視的に検討した。

【対象と方法】2012年1月から2015年10月までの期間に当施設に入院しrt-PA静注療法後、経皮的血栓回収療法を施行した脳主幹動脈閉塞のうち特殊な病型を除く43例（連続47例（男性25例、女性22例、平均年齢77.4歳）を対象とした。再開通までの時間短縮（情報伝達・患者動線変更、MRIプロトコルの見直し等）に取り組んだ2014年5月を境に前後2群に分けた。診療内容ごとに発症から患者搬入まで（O2D）、患者搬入から画像撮影まで（D2I）、画像撮影からrt-PA投与まで（I2N）、rt-PA投与から鼠径部穿刺まで（N2P）、鼠径部穿刺から有効再開通まで（P2R）、及びこれらを加算した、患者搬入から鼠径部穿刺まで（D2P）、患者搬入から有効再開通まで（D2R）、発症から有効再開通まで（O2R）の経過時間、背景、治療内容および転帰（入院日数、90日後のmRS）を比較した。

【結果】取り組み前群と比較して、取り組み後群のD2I、I2N、N2P及びD2P、D2R、O2Rはすべて有意な時間短縮が認められた（ $p < 0.05$ ）。症候性頭蓋内出血に有意差はなく、取り組み後に手技に伴う合併症は認められなかった。臨床転帰（90日後mRS）に有意差はなく、入院期間は短縮傾向（ $p = 0.085$ ）であった。取り組み後群で80歳以上の高齢者の割合が多く認められた（ $p = 0.068$ ）にも関わらず、血栓回収療法に伴う症候性頭蓋内出血、穿刺部出血などの合併症は有意差は認められなかった。

【考察】本研究による時間短縮の取り組みによりD2I、I2N、N2P及びD2P、D2R、O2Rにおいて有意な時間短縮が認められた。80歳以上の高齢者は転帰悪化の単独因子と報告されているものの、取り組み後の転帰に悪化が認められなかった。診療体制の改善により再開通時間の短縮が得られたことが要因の一つと考えられた。また、高齢者においては経皮的血栓回収療法後の症候性頭蓋内出血は予後悪化要因であるが、本研究では頭蓋内出血発生の有意差はなく、高齢者においても安全に治療できたことが転帰悪化につながらなかったもう一つの要因と考えられた。

【結語】当施設での脳主幹動脈急性閉塞に対する再開通時間を短縮するための診療体制改善の取り組みにより、患者搬入から有効再開通までの時間短縮において有意な時間短縮が認められた。転帰不良とされる80歳以上の高齢者が含まれていたにもかかわらず、臨床転帰（90日後mRS）に悪化は認められず、本研究における診療体制の改善は有用であると考えられた。

論文審査結果の要旨

【背景】2015年に脳主幹動脈閉塞症例に対するステント型血栓回収デバイス脳血管内治療の有効性が科学的に証明され、脳梗塞急性期治療は大きく変化した。発症から再開通までの時間短縮が患者の転帰を決定する重要要因であることが証明され、時間短縮の取り組みが急務となった。縦割りの診療体制など構造的に救急患者の集学的加療に不向きとされていた大学病院において、来院から諸検査、血管内治療完了までの時間短縮の実現性についての検討は行われていない。そこで本研究では、杏林大学付属病院（以下、当施設）における脳主幹動脈閉塞症例搬入から再開通までの時間短縮の取り組みと効果について後方視的に検討した。

【対象と方法】2012年1月から2015年10月までの期間に当施設に入院しrt-PA静注療法後、経皮的血栓回収療法を施行した脳主幹動脈閉塞のうち特殊な病型を除く43例（連続47例（男性25例、女性22例、平均年齢77.4歳）を対象とした。再開通までの時間短縮（情報伝達・患者動線変更、MRIプロトコルの見直し等）に取り組んだ2014年5月を境に前後2群に分けた。診療内容ごとに発症から患者搬入まで（O2D）、患者搬入から画像撮影まで（D2I）、画像撮影からrt-PA投与まで（I2N）、rt-PA投与から鼠径部穿刺まで（N2P）、鼠径部穿刺から有効再開通まで（P2R）、及びこれらを加算した、患者搬入から鼠径部穿刺まで（D2P）、患者搬入から有効再開通まで（D2R）、発症から有効再開通まで（O2R）の経過時間、背景、治療内容および転帰（入院日数、90日後のmRS）を比較した。

【結果】取り組み前群と比較して、取り組み後群のD2I、I2N、N2P及びD2P、D2R、O2Rはすべて有意な時間短縮が認められた（ $p < 0.05$ ）。症候性頭蓋内出血に有意差はなく、取り組み後に手技に伴う合併症は認められなかった。臨床転帰（90日後mRS）に有意差はなく、入院期間は短縮傾向（ $p = 0.085$ ）であった。取り組み後群で80歳以上の高齢者の割合が多く認められた（ $p = 0.068$ ）にも関わらず、血栓回収療法に伴う症候性頭蓋内出血、穿刺部出血などの合併症は有意差は認められなかった。

【考察】本研究による時間短縮の取り組みによりD2I、I2N、N2P及びD2P、D2R、O2Rにおいて有意な時間短縮が認められた。80歳以上の高齢者は転帰悪化の単独因子と報告されているものの、取り組み後の転帰に悪化が認められなかった。診療体制の改善により再開通時間の短縮が得られたことが要因の一つと考えられた。また、高齢者においては経皮的血栓回収療法後の症候性頭蓋内出血は予後悪化要因であるが、本研究では頭蓋内出血発生の有意差はなく、高齢者においても安全に治療できたことが転帰悪化につながらなかったもう一つの要因と考えられた。

【結語】当施設での脳主幹動脈急性閉塞に対する再開通時間を短縮するための診療体制改善の取り組みにより、患者搬入から有効再開通までの各時間枠において有意な時間短縮が認められた。転帰不良とされる80歳以上の高齢者が含まれていたにもかかわらず、臨床転帰（90日後mRS）に悪化は認められず、本研究における診療体制の改善は有用であると考えられた。審査の結果、学位論文として価値あるものと判断した。

## 〔博士（医学）〕

氏名 大森 雅夫

〔学位〕	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	頸髄症患者における巧緻運動障害の計量的評価法の開発
	授与番号	博乙医 第608号	論文審査委員	主査 岡島康友 副査 栗崎 健 寺尾安生 千葉厚郎 平野照之
	授与年月日	令和元年11月20日		
	授与の要件	学位規程第6条		

## 学位論文の要旨

脊髄圧迫に起因する頸髄症は、手にしびれ、巧緻性障害などの症状を引き起こす。重症度の評価として、本国では日本整形外科学会頸髄症治療判定基準（JOAスコア）（手の巧緻運動、感覚機能を含む6項目とその合計）が頻用されている。しかし、JOAスコアは評価の一部が非計量的であり検査者により評価に差異が生じる可能性がある。そこで本研究は、日常動作に近い、小物体に手を伸ばして把持・挙上する到達把持運動を定量的に計測するシステムを開発し、得られる運動指標が頸髄症患者の手の巧緻運動障害を計量的に評価した。参加者は、杏林大学病院整形外科を受診し同意書を得た頸髄症患者23名（平均年齢65.0歳）と、同年齢の健常者30名（63.4歳）であり、すべての患者でJOAスコアを判定した。被験者は椅座し、音刺激を合図に開始位置から36 cm離れた机の上に置かれた4 cm四方の箱に右手を伸ばし、母指と示指で把持するよう求められた。皮膚感知情報の影響を検討するため、滑りやすさの異なる3つの素材のいずれかを物体把持面に付着させた。課題中の母指、示指、手首の位置と物体への把持力が計測された。到達運動中に把持準備として現れる母指と示指の開口の最大値は、術前患者の方が健常者よりも有意に大きく（ $p < 0.01$ ）、生じるタイミングは有意に遅かった（ $p < 0.05$ ）。物体の把持力は、患者では素材による調整が見られず（素材間の比較 $p > 0.1$ ）、最も滑りやすい条件において患者で低下する傾向が見られた。除圧術直後の患者（15名）は、巧緻運動に関するJOAスコア（巧緻運動と合計）に改善が見られ、音刺激に対する反応時間および到達運動の動作時間が改善傾向を示した。更に重回帰分析を行ったところ、今回の課題で得られた指標により、巧緻運動に関するJOAスコアを有意に予測できた（ $p < .01$ , 補正 $r^2 = .50$ ）。予測に貢献したのは大きい順に、動作時間、指の最大開口までの時間、滑りにくい条件下の把持力、最も滑りやすい条件下の把持力であった。滑りにくい条件下の把持力は、感覚機能に関するJOAスコアと負の相関を示した。本研究の結果により、手の巧緻運動機能は手指の筋力だけでなく、上肢の運動機能全般や感覚機能にも依存することが示された。今回開発した到達把持運動の計測システムにより得られたparameterよりJOA運動scoreが予測でき、一部非計量的の評価が含まれるJOA運動スコアが計量的評価同様に有用であることを示すことが出来た。

## 論文審査結果の要旨

**【背景と目的】** 頸髄圧迫に起因する頸髄症の上肢症状として、手の感覚障害や巧緻運動障害がある。臨床の評価として、本邦では日本整形外科学会頸髄症治療判定基準（JOAスコア）が用いられているが、主観的な評価項目や日常行うことのない運動が評価項目として使われるなどの問題がある。そこで本研究では日常的な巧緻運動の1つ、すなわち小物体に手を伸ばして把持して挙上する運動を課題として巧緻運動を定量計測するシステムを開発し、頸髄症患者の巧緻運動障害に臨床応用した結果、新しい知見を得たので報告する。**【対象と方法】** 杏林大学病院整形外科に手術目的で入院した右利き頸髄症患者23名（平均年齢65.0歳）と年齢を一致させた右利き健常者30名を対象にした。患者群ではMRIで頸髄圧迫像を確認し、JOAスコアで上肢の障害を評価した上で巧緻運動を計測した。机上の定位置に置いた立方体ブロックを母指と示指で把持し一定の高さに挙上する動作を課題とし、合図から運動開始までの反応時間、運動所要時間、手指・手関節の三次元運動軌跡、把持運動中の母指・示指先の最大開大幅、最大開大までに至る時間などを評価指標とした。また、指の感覚障害の運動への影響を検討するため、ブロック表面には滑りやすさの異なる3つの素材を用意し、圧センサーで運動課題実施中の把持力の変化も記録した。なお、患者23名中15名については術後にJOAスコア評価ととも

に巧緻運動計測を行い、術前と比較した。

**【結果】** 把持運動では目標物に手が近付くと母指と示指が開大して把持の準備運動が現れるが、患者群では健常者群と比較して母指と示指の最大開大幅は有意に大きく、幅が最大に至るまでの時間は有意に遅れた。健常者群では滑りやすい素材でブロック把持力は増加したが、患者では素材による差はなかった。脊髄除圧術直後の患者15名ではJOAスコアに有意な改善が見られ、母指と示指の開大幅が最大になる時間は有意に短縮した。重回帰分析では、今回用いた巧緻運動の指標でJOAスコアを予測できること（ $r^2 = .50$ ）、すなわち巧緻運動評価としての妥当性が示され、その寄与率は動作時間、最大開大までの時間、滑りにくい条件下の把持力の順で高かった。

**【結語】** 目標物へ手指を伸ばし把持する運動の解析によって頸髄症による巧緻運動障害を定量評価する方法を考案した。頸髄症では運動調節障害のために把持準備を意味する母指と示指間の開大幅は過大になり、かつ最大開大までの時間も遅れることが示された。また、最大開大までの時間や指尖感知情報をもとにした把持力調節の障害はJOAスコア、つまり臨床評価による障害度とも一致した。本研究では頸髄症による巧緻運動障害が単なる運動の問題ではなく、体性感覚や視覚的物体認知が関与する運動準備を含めた総合的な障害である可能性を示し、当該臨床研究の新しい側面を切り開いた。以上、審査の結果、学位論文として価値あるものと認めた。



〔博士（医学）〕

氏名 海田 賢彦

〈学位〉	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	凍結保存した脂肪組織由来再生細胞の熱傷創に対する治療効果
	授与番号	博乙医 第609号	論文審査委員	主査 大浦紀彦
	授与年月日	令和元年12月18日	副査	長瀬美樹 浮山越史 大山 学 今泉美佳
	授与の要件	学位規程第6条		

### 学位論文の要旨

**はじめに：**創傷治療における脂肪組織由来再生細胞（Adipose tissue Derived Regenerative Cells：ADRCs）の有効性は数多く報告され臨床応用も検討されている。臨床面においてはADRCsの分離に時間を要することが難点である。凍結保存したADRCsに新鮮ADRCsと同様の創傷治療促進効果が認められれば、迅速かつ複数回の投与が可能となる。そこで本研究では熱傷創に対する凍結保存ADRCsの治療効果を新鮮ADRCsと比較し評価した。

**方法：**Ⅲ度熱傷・全層欠損ヌードマウスモデルを用いて新鮮群、凍結群と対照群、それぞれ6匹ずつ作成した。新鮮群では同一患者の脂肪組織から分離したADRCsを、凍結群では-80℃で40日凍結保存後に融解したADRCsを用い細胞数を $5 \times 10^4$ 個に調整し、人工真皮に浸漬させ創面を被覆し、創面積の縮小率、12日目に採取した再生組織の厚さ、コラーゲン産生、血管新生について評価した。さらに2群における構成細胞の比率の違い、ADRCs培養血清の線維芽細胞と角化細胞に対する遊走・増殖促進効果、各種成長因子の分泌についてin vitroで検討した。

**結果：**創面積の縮小率、組織再生、血管新生において、凍結群は、新鮮群と比して同程度に治療効果を認め、1型コラーゲンは凍結群で有意に多く産生されていた。線維芽細胞と角化細胞に対する遊走能促進効果は両群とも同程度であったが、増殖能は両細胞ともに凍結群で有意に上昇していた。凍結、新鮮ADRCsの各上清に分泌された成長因子の解析では、凍結群において、EGF、FGF2、HGFが高レベルで発現を認めた。細胞表面抗原による構成細胞の比率の解析では凍結群においてCD90、29陽性細胞の割合が増加しており、間葉系幹細胞が増加した可能性が示唆され、本研究における凍結保存ADRCsの優位性の要因の一つと考えられた。

**結論：**マウス熱傷モデルにおいて凍結保存ADRCsは、新鮮ADRCsと比べ熱傷創に対して同等の治療効果を示した。凍結操作によって間葉系幹細胞が増加した可能性も考えられ、凍結操作は、迅速かつ複数回投与が可能である臨床的有用性だけでなく、創傷治療の観点からも新鮮ADRCsよりも同等かやや優位であることが示された。凍結保存ADRCsの臨床応用は、新しい熱傷治療法の確立につながる可能性がある。

### 論文審査結果の要旨

**背景：**創傷治療における脂肪組織由来再生細胞（Adipose tissue Derived Regenerative Cells：ADRCs）の有効性は数多く報告され臨床応用も検討されている。臨床面においてはADRCsの分離に時間を要することが難点である。凍結保存したADRCsに新鮮ADRCsと同様の創傷治療促進効果が認められれば、迅速かつ複数回の投与が可能となる。そこで本研究では熱傷創に対する凍結保存ADRCsの治療効果を新鮮ADRCsと比較し評価した。

**方法：**Ⅲ度熱傷・全層欠損ヌードマウスモデルを用いて新鮮群、凍結群と対照群、それぞれ6匹ずつ作成した。新鮮群では同一患者の脂肪組織から分離したADRCsを、凍結群では-80℃で40日凍結保存後に融解したADRCsを用い細胞数を $5 \times 10^4$ 個に調整し、人工真皮に浸漬させ創面を被覆し、創面積の縮小率、12日目に採取した再生組織の厚さ、コラーゲン産生、血管新生について評価した。さらに2群における構成細胞の比率の違い、ADRCs培養血清の線維芽細胞と角化細胞に対する遊走・増殖促進効果、各種成長因子の分泌についてin vitroで検討した。

**結果：**創面積の縮小率、組織再生、血管新生において、凍結群は、新鮮群と比して同程度に治療効果を認め、1型コラーゲンは凍結

群で有意に多く産生されていた。線維芽細胞と角化細胞に対する遊走能促進効果は両群とも同程度であったが、増殖能は両細胞ともに凍結群で有意に上昇していた。凍結、新鮮ADRCsの各上清に分泌された成長因子の解析では、凍結群において、EGF、FGF2、HGFが高レベルで発現を認めた。細胞表面抗原による構成細胞の比率の解析では凍結群においてCD90、29陽性細胞の割合が増加しており、間葉系幹細胞が増加した可能性が示唆され、本研究における凍結保存ADRCsの優位性の要因の一つと考えられた。

**結論：**マウス熱傷モデルにおいて凍結保存ADRCsは、新鮮ADRCsと比べ熱傷創に対して同等の治療効果を示した。凍結操作によって間葉系幹細胞が増加した可能性も考えられ、凍結操作は、迅速かつ複数回投与が可能である臨床的有用性だけでなく、創傷治療の観点からも新鮮ADRCsよりも同等かやや優位であることが示された。凍結保存ADRCsの臨床応用は、新しい熱傷治療法の確立につながる可能性がある。

**審査の結果：**凍結保存した脂肪組織由来再生細胞は熱傷創に有用であることを初めて示すとともに新たな熱傷治療の発展に寄与すると考えられることから学位論文として価値のあるものと認められた。

## 〔博士（医学）〕

氏名 阿部 泰明

〈学位〉	種 類 博士（医学）	論 文 項 目	頭蓋内共存症により発症前より意識レベルが低下していた状態を伴う慢性硬膜下血腫の予後に関する研究
	授与番号 博乙医 第610号	論文審査委員	主査 神崎恒一
	授与年月日 令和2年3月11日		副査 北村 修 樽井武彦 千葉厚郎 荻田香苗
	授与の要件 学位規程第6条		

## 学位論文の要旨

**背景：**慢性硬膜下血腫（chronic subdural hematoma：CSDH）は多くの場合穿頭ドレナージ術で症状が改善するが、認知症や精神疾患、脳卒中の既往等の頭蓋内共存症によりCSDHの発症前より意識レベルの低下が存在していた状態であった場合、診断が遅れ不良な転機を取る例が散見される。このような事例に着想を得て、頭蓋内共存症により発症前より意識レベルが低下していた状態の有無が、CSDHの重症度および治療成績に寄与するかどうかを明らかにすることを目的として研究を行った。

**方法：**2010年～2012年に当科で手術加療を行ったCSDH連続220例のうち、術後90日追跡が可能であった188例を対象とした。頭蓋内共存症の存在のためCSDHの発症前よりGlasgow Coma Scale（GCS）が14点以下であることが家族や介護者などに認識されていたものを「頭蓋内共存症により意識レベルが低下した状態」と定義した。術後90日時点のmodified Rankin Scale（mRS）、術後合併症発生率・死亡率、再発率と基礎疾患との関係を後方視的に解析した。

**結果：**188例の平均年齢は77.0歳（33～101歳）で、うち女性が56例であった。頭蓋内共存症により意識レベルが低下した状態は46例（24%）で見られ、頭蓋内共存症の内訳は認知症30例、脳梗塞10例、精神疾患3例、その他3例であった。意識レベル低下群は、意識レベル低下のない群と比較し、有意に高齢で（平均年齢83.6歳vs74.8歳： $p < 0.001$ ）、術前GCSが低く（平均12.6点vs14.5点： $p < 0.001$ ）、術前mRSが高かった（平均3.1点vs1.9点： $p < 0.001$ ）。全188例での術後90日時点でのmRSは平均1.2点であり、意識レベル低下群で有意に高かった（平均2.6点vs0.7点： $p < 0.001$ ）。繰り返しのある一元配置分散分析を行った結果、意識レベル低下状態とmRSに交互作用が認められた（ $p < 0.01$ ）。すなわち意識レベル低下群ではmRSの改善の度合いが有意に不良であった。多重ロジスティック回帰分析の結果、90日後mRSが3点以上の予後不良に有意に関連する因子は、意識レベル低下状態、年齢、術前GCSであった。また、術後合併症発生率および死亡率は意識レベル低下群で有意に高かった（各 $p < 0.01$ ）一方、慢性硬膜下血腫の再発率には両群に有意差はなかった。

**結論：**頭蓋内共存症により意識レベルがCSDH発症前より低下していた状態は高齢のCSDH患者に多く、重症度および術後90日時点での合併症の発生ならびに死亡などの治療成績に負の影響を与えていた。

## 論文審査結果の要旨

**【背景】**慢性硬膜下血腫（chronic subdural hematoma：CSDH）は多くの場合穿頭ドレナージ術で症状が改善するが、認知症や精神疾患、脳卒中の既往等の頭蓋内共存症によりCSDHの発症前より意識レベルの低下が存在していた状態であった場合、診断が遅れ不良な転機を取る例が散見される。このような事例に着想を得て、頭蓋内共存症により発症前より意識レベルが低下していた状態の有無が、CSDHの重症度および治療成績に寄与するかどうかを明らかにすることを目的として研究を行った。

**【方法】**2010年～2012年に当科で手術加療を行ったCSDH連続220例のうち、術後90日追跡が可能であった188例を対象とした。頭蓋内共存症の存在のためCSDHの発症前よりGlasgow Coma Scale（GCS）が14点以下であることが家族や介護者などに認識されていたものを「頭蓋内共存症により意識レベルが低下した状態」と定義した。術後90日時点のmodified Rankin Scale（mRS）、術後合併症発生率・死亡率、再発率と基礎疾患との関係を後方視的に解析した。

**【結果】**188例の平均年齢は77.0歳（33～101歳）で、うち女性が56例であった。頭蓋内共存症により意識レベルが低下した状態は46例（24%）で見られ、頭蓋内共存症の内訳は認知症30例、

脳梗塞10例、精神疾患3例、その他3例であった。意識レベル低下群は、意識レベル低下のない群と比較し、有意に高齢で（平均年齢83.6歳vs74.8歳： $p < 0.001$ ）、術前GCSが低く（平均12.6点vs14.5点： $p < 0.001$ ）、術前mRSが高かった（平均3.1点vs1.9点： $p < 0.001$ ）。全188例での術後90日時点でのmRSは平均1.2点であり、意識レベル低下群で有意に高かった（平均2.6点vs0.7点： $p < 0.001$ ）。繰り返しのある一元配置分散分析を行った結果、意識レベル低下状態とmRSに交互作用が認められた（ $p < 0.01$ ）。すなわち意識レベル低下群ではmRSの改善の度合いが有意に不良であった。多重ロジスティック回帰分析の結果、90日後mRSが3点以上の予後不良に有意に関連する因子は、意識レベル低下状態、年齢、術前GCSであった。また、術後合併症発生率および死亡率は意識レベル低下群で有意に高かった（各 $p < 0.01$ ）一方、慢性硬膜下血腫の再発率には両群に有意差はなかった。

**【結論】**頭蓋内共存症により意識レベルがCSDH発症前より低下していた状態は高齢のCSDH患者に多く、重症度および術後90日時点での合併症の発生ならびに死亡などの治療成績に負の影響を与えていた。

以上、審査の結果、本研究は学位論文として価値あるものと判断した。

〔博士（医学）〕

氏名 高橋 幸宏

〔学位〕	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	新生児期および乳児期のRoss手術—本邦における成績と今後の課題に関する考察—
	授与番号	博乙医 第611号	論文審査委員	主査 赤木美智男
	授与年月日	令和2年3月11日	副査	大木 紫 長瀬美樹 坂田好美 保崎 明
	授与の要件	学位規程第6条		

学位論文の要旨

〔背景〕 新生児・乳児期に発症する重症大動脈弁疾患群において、Ross手術は重要な治療戦略の一つである。しかし、本邦での新生児・乳児期Ross手術に関する総合的な研究報告は無い。1歳未満Ross手術症例の転帰を検討し、この時期にRoss手術を行う妥当性を考察する。

〔対象と方法〕 対象は、1996～2017年の1歳未満Ross手術13例（新生児3例）である。診断は大動脈弁狭窄症10例、大動脈弁閉鎖不全症3例であった。成績と術後遠隔期の問題点、再手術の必要性、Autograft機能を後方視的に検討して、Ross手術の質向上の課題を考察した。

〔結果〕 観察期間中央値10.8年で全例生存した。手術日齢中央値166日（9～356）、体重5.7 kg（2.8～8.9）であった。9例は左心機能低下、人工呼吸器管理や強心剤の使用から緊急でRoss手術を施行した。同時手技は、Konno弁輪拡大2例、大動脈弁輪縫縮1例、縮窄解除3例。体外循環時間 $178 \pm 37$ 分、遮断時間 $131 \pm 29$ 分。ECMO管理2例、胸骨二期的閉鎖7例、腹膜透析4例、人工呼吸器管理中央値5日、ICU滞在中央値7日であった。身体の成長に伴い、Autograft弁輪径は正常値の95%予測区間内で推移した。バルサルバ洞径は正常値以上に拡大する症例を認めたが、弁機能は良好であった。左心系の再手術は、冠血行再建術と大動脈弁下狭窄解除術各1例で、再手術回避率は5年84%、10年84%、15年84%。右心系再手術は11例で、主要因は導管狭窄の進行であり、再手術回避率は5年25%、10年9%、15年9%であった。

〔考察〕 新生児・乳児期Ross手術の生命予後は良好であった。左心系のAutograft弁機能は良好に維持され、自己組織で大動脈弁置換を行うRoss手術の最大の長所が示された。しかし、右心系の導管再手術は早期に必要で、今後再建方法について再検討すべきである。また、術後は長期管理症例が多く、全身状態の早期回復のための周術期管理の工夫が必要と考えられた。

〔結論〕 Ross手術は、新生児・乳児期の重症大動脈弁疾患に対して有用な一治療戦略と成り得る。

論文審査結果の要旨

〔背景と目的〕 乳児期（新生児を含む）に発症する重症大動脈弁疾患群の治療方法には様々なものがあるが、自己の肺動脈弁（autograft）を大動脈基部に移植するRoss手術は、大動脈弁を含む左室流出路の完全な狭窄解除と閉鎖不全の予防が可能でかつ身体の成長に伴って弁も成長するという大きな利点を有する。一方、右室流出路を人工物で作成しなければならないことや手術侵襲が大きく手術死亡率が高いことなどが問題点である。Ross手術を乳児期に行った症例の手術成績や遠隔成績を検討した報告は、日本ではまだ無い。本研究は、乳児期にRoss手術を行った症例の手術成績と遠隔成績を後方視的に検討し、Ross手術を乳児期に行うことの妥当性と問題点を明らかにすることを目的とした。

〔対象と方法〕 著者の所属する榊原記念病院で乳児期にRoss手術を施行し、かつ術後2年以上経過観察を行った13例を対象とし、術前の状態、手術、退院後の経過（特にautograft弁と右室流出路の状態）、再手術の有無などについて、後方視的に検討した。

〔結果〕 手術日齢の中央値は166日（9～356）、体重5.7 kg（2.8～8.9）であった。同時手技は、Konno弁輪拡大2例、大動脈弁輪縫縮1例、大動脈縮窄解除3例。体外循環時間は $178 \pm 37$ 分、大動脈遮断時間は $131 \pm 29$ 分。術後はECMO管理2例、胸骨二期的閉鎖

7例、腹膜透析4例。人工呼吸器管理の中央値5日、ICU滞在中の中央値7日であった。13例全員が生存し、観察期間の中央値は10.8年であった。身体の成長に伴いautograft弁輪径は正常値の95%予測区間内で推移し弁機能は良好に保たれていたため、大動脈弁の再置換を必要とした症例はなかった。右心系は、著者らのオリジナルであるePTFE（expanded polytetrafluoroethylene）シートで作成した3弁付き人工血管（7例に使用）の弁機能はよく保たれていたが、十分なサイズの導管を入れられなかった症例では導管狭窄の進行により11例で再手術を行った。

〔結論〕 新生児・乳児期Ross手術の生命予後は良好であった。Autograft弁の機能は良好に維持され、Ross手術の最大の長所が示された。しかし、右心系の導管再手術は比較的早期に必要で、再建方法について再検討すべきである。右心系の再手術の問題は残るものの、低い手術死亡率とautograft弁の機能が長期に良好に維持されることから、本手術を乳児期に行うことの妥当性が示された。

〔審査の結果〕 本研究は新生児期を含む乳児期Ross手術症例を総合的に検討したものとしては本邦で唯一のものであり、良好な手術成績、autograftの長期経過、右室流出路への3弁付き人工血管の使用、右心系再手術の問題など、臨床上重要な新しい知見を示したものであり、学位論文として価値あるものと認める。

〔博士（医学）〕

氏名 伊 東 大 樹

〈学位〉	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	乳房切除後に同時乳房再建術を施行した乳癌患者における皮弁壊死のリスク因子
	授与番号	博乙医 第612号	論文審査委員	主査 近藤晴彦 副査 菅間 博 小林陽一 長瀬美樹 水川良子
	授与年月日	令和2年4月17日		
	授与の要件	学位規程第6条		

学 位 論 文 の 要 旨

**背景：**乳癌術後の整容性の保持を目指した同時乳房再建術である皮膚温存乳房切除術（skin-sparing mastectomy, SSM）と乳頭温存乳房切除術（nipple-sparing mastectomy, NSM）は標準的な術式である。一方、乳頭乳輪複合体（nipple-areolar complex, NAC）を含む皮弁壊死は重大な合併症である。そこで、乳癌患者の乳房切除後の同時乳房再建術における皮弁壊死のリスクを軽減することを目的として、皮弁壊死のリスク因子について検討した。

**方法：**対象は2006年から2016年に当大学病院にて同時乳房再建術を施行した412例である。臨床病理学的因子に加え、body mass index (BMI)、喫煙歴、糖尿病、術前薬物療法、術式、皮切部位、術者、切除検体量、再建方法、MRIにより計測した乳頭腫瘍間距離（distance from nipple to tumor, DNT）、皮膚腫瘍間距離（distance from skin to tumor, DST）、切除検体量、全手術時間と皮弁壊死の関連性を解析した。

**結果：**NSM, SSM, 全乳房切除術は、123例（30%）、96例（23%）、193例（47%）であった。乳房再建術は、テッシュエキスパンダー 379例（92%）、シリコンインプラント 8例（2%）、自家組織移植 25例（6%）であった。皮弁壊死は全症例の7%、NAC壊死はNSM症例の13%で認められた。単変量解析の結果、体重、術式（NSM）、切除検体量、全手術時間は皮弁壊死のリスク因子であり、体重、BMI、切除検体量、全手術時間がNAC壊死のリスク因子であった。なお、DNT及びDSTは皮弁壊死とNAC壊死のリスク因子ではなかった。多変量解析の結果、切除検体量及び全手術時間は皮弁壊死に関する有意なリスク因子であり、切除検体量と全手術時間は有意ではないもののNAC壊死との間に傾向を認めた。

**結論：**乳房切除量が大きい症例では広範囲の乳腺切除に伴い、皮弁壊死のリスクが高くなることが示唆された。DSTあるいはDNTと皮弁壊死との関連性について過去に報告がなく、本論文ではリスク因子として検討したが、腫瘍の位置は皮弁壊死に影響しないことが明らかとなった。以上から、患者の希望に応じて同時乳房再建術は可能であるが、皮弁壊死とNAC壊死のリスク因子を考慮した上で再建方法を選択すべきであることが明確となり、乳癌診療に有益な情報を提供する意義ある内容と判断された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

**背景：**乳癌術後の整容性の保持を目指した同時乳房再建術である皮膚温存乳房切除術（skin-sparing mastectomy, SSM）と乳頭温存乳房切除術（nipple-sparing mastectomy, NSM）は標準的な術式である。一方、乳頭乳輪複合体（nipple-areolar complex, NAC）を含む皮弁壊死は重大な合併症である。そこで、乳癌患者の乳房切除後の同時乳房再建術における皮弁壊死のリスクを軽減することを目的として、皮弁壊死のリスク因子についての検討がなされた。

**方法：**対象は2006年から2016年に杏林大学病院にて同時乳房再建術を施行した412例である。臨床病理学的因子に加え、body mass index (BMI)、喫煙歴、糖尿病、術前薬物療法、術式、皮切部位、術者、切除検体量、再建方法、MRIにより計測した乳頭腫瘍間距離（distance from nipple to tumor, DNT）、皮膚腫瘍間距離（distance from skin to tumor, DST）、切除検体量、全手術時間と皮弁壊死の関連性を解析した。

**結果：**NSM, SSM, 全乳房切除術は、123例（30%）、96例（23%）、193例（47%）であった。乳房再建術は、テッシュエキスパンダー 379例（92%）、シリコンインプラント 8例（2%）、自家組織移

植 25例（6%）であった。皮弁壊死は全症例の7%、NAC壊死はNSM症例の13%で認められた。単変量解析の結果、体重、術式（NSM）、切除検体量、全手術時間は皮弁壊死のリスク因子であり、体重、BMI、切除検体量、全手術時間がNAC壊死のリスク因子であった。なお、DNT及びDSTは皮弁壊死とNAC壊死のリスク因子ではなかった。多変量解析の結果、切除検体量及び全手術時間は皮弁壊死に関する有意なリスク因子であり、切除検体量と全手術時間は有意ではないもののNAC壊死との間に傾向を認めた。

**結論：**乳房切除量が大きい症例では広範囲の乳腺切除に伴い、皮弁壊死のリスクが高くなることが示唆された。DSTあるいはDNTと皮弁壊死との関連性については過去に報告がなく、本研究においてはリスク因子として検討したが、腫瘍の位置は皮弁壊死に影響しないことが明らかとなった。以上から、患者の希望に応じて同時乳房再建術は可能であるが、皮弁壊死とNAC壊死のリスク因子を考慮した上で再建方法を選択すべきであることが明確となり、乳癌診療に有益な情報を提供する意義ある内容と判断された。

審査の結果、本研究は、学位論文として価値あるものであると考えられた。

〔博士（医学）〕

氏名 西 沢 知 剛

〔学位〕	種 類 博士（医学）	論 文 項 目 OHAT（Oral Health Assessment Tool）および口腔内細菌数を指標とした誤嚥性肺炎リスク評価のための研究
	授与番号 博乙医 第613号	論文審査委員 主査 長谷川浩
	授与年月日 令和2年7月15日	副査 大木 紫 久松理一 齋藤康一郎 花輪智子
	授与の要件 学位規程第6条	

### 学 位 論 文 の 要 旨

【背景・目的】誤嚥性肺炎は嚥下障害、口腔衛生不良、栄養状態不良などの危険因子が発症に関与する。そこで誤嚥性肺炎のリスク評価に有益な検査法を検証することを目的とした。

【方法】誤嚥性肺炎（AP）群22例、市中肺炎（CAP）群20例、対照（Con）群20例（肺癌の診断で、化学療法目的で入院した患者）を対象に前向き研究を施行した。口腔衛生状態を評価するOral Health Assessment Tool（OHAT）、Performance Status（PS）、Body Mass Index（BMI）、血液検査、および口腔内細菌数を評価した。OHATは非専門家でも評価可能であり、口唇、舌、歯肉/粘膜、唾液、残存歯、義歯、口腔清掃、歯痛の8項目を0～2の3段階で評価し、数字が高いほど病的状態を示す。血液検査は、血清アルブミン（Alb）、CRP、CRP/Alb、白血球数（WBC）を測定した。また咳反射を調節するサブスタンスPの減少に関連した誤嚥の発症に着目し、血漿中サブスタンスP濃度を測定した。

【結果】AP群のOHATスコアは、CAP群、Con群と比較して有意に不良であった（AP群 $5.13 \pm 0.18$ 、CAP群 $4.40 \pm 0.26$ 、Con群 $3.90 \pm 0.22$ 、APvsCon  $p < 0.05$ ；APvsCAP  $p < 0.05$ ）。OHAT5.5点以上の場合、AP群の可能性がCAP群よりも2.1倍高いことがわかった。入院時のAP群の口腔内細菌数（ $7.20 \pm 0.11 \log_{10}$  cfu/mL）は、CAP群（ $6.89 \pm 0.12 \log_{10}$  cfu/mL）より有意に高かった。さらにAP群において、OHATと入院時の口腔内細菌数の両者は有意な正の相関を示した。口腔ケアを併用した肺炎治療を行い、退院時のAP群の口腔内細菌数はCAP群と同等レベルまで有意に減少した。AP群、CAP群のBMI、Alb、CRP、CRP/Alb、WBCは、Con群よりも有意に低かった。血漿中サブスタンスP濃度は3群間に有意差はなかった。

【考察】OHATスコアの比較から、AP群とCAP群の鑑別診断に有用である可能性が示唆された。AP群においてOHATと口腔内細菌数は相関しており、誤嚥性肺炎のリスク評価として有用である可能性が考えられた。本研究の限界として、年齢、併存疾患、PSなどの影響を検討する必要がある、多変量解析に耐えうる十分なサンプル数での検討が今後必要と考えられた。

【結論】OHATスコアは誤嚥性肺炎の鑑別に有用である可能性があり、さらにOHATと口腔内細菌数の相関が示されたことより、OHATが誤嚥性肺炎のリスク評価にも役立つ可能性があると考えられた。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

【背景・目的】誤嚥性肺炎は嚥下障害、口腔衛生不良、栄養状態不良などの危険因子が発症に関与する。そこで誤嚥性肺炎のリスク評価に有益な検査法を検証することを目的とした。

【方法】誤嚥性肺炎（AP）群22例、市中肺炎（CAP）群20例、対照（Con）群20例（肺癌の診断で、化学療法目的で入院した患者）を対象に前向き研究を施行した。口腔衛生状態を評価するOral Health Assessment Tool（OHAT）、Performance Status（PS）、Body Mass Index（BMI）、血液検査、および口腔内細菌数を評価した。OHATは非専門家でも評価可能で、口唇、舌、歯肉/粘膜、唾液、残存歯、義歯、口腔清掃、歯痛の8項目を0～2の3段階で評価し、数字が高いほど病的状態を示す。血液検査は、血清アルブミン（Alb）、CRP、CRP/Alb、白血球数（WBC）を測定した。また咳反射を調節するサブスタンスPの減少に関連した誤嚥の発症に着目し、血漿中サブスタンスP濃度を測定した。

【結果】AP群のOHATスコアは、CAP群、Con群と比較して有意に不良だった（AP群 $5.13 \pm 0.18$ 、CAP群 $4.40 \pm 0.26$ 、Con群 $3.90 \pm 0.22$ 、APvsCon  $p < 0.05$ ；APvsCAP  $p < 0.05$ ）。OHAT5.5点以上の場合、AP群である可能性がCAP群よりも2.1倍高いことがわかった。入院時のAP群の口腔内細菌数（ $7.20 \pm 0.11 \log_{10}$  cfu/

mL）は、CAP群（ $6.89 \pm 0.12 \log_{10}$  cfu/mL）より有意に高かった。口腔ケアを併用した肺炎治療を行い、退院時のAP群の口腔内細菌数はCAP群と同等レベルまで有意に減少した。さらにAP群において、OHATと入院時の口腔内細菌数の両者は有意な正の相関を示した。AP群、CAP群のBMI、Alb、CRP、CRP/Alb、WBCは、Con群よりも有意に低かった。血漿中サブスタンスP濃度は3群間に有意差はなかった。

【結論】OHATスコアの比較から、AP群とCAP群の鑑別診断に有用である可能性が示唆された。またAP群においてOHATと口腔内細菌数は相関しており、誤嚥性肺炎のリスク因子評価としても有用である可能性が考えられた。本来であれば年齢、併存疾患、PSなどの影響を検討する必要があるが、しかしながら本研究の限界としてサンプル数の不足があり、今後多変量解析に耐えうる十分なサンプル数での検討が必要と考えられた。

【審査の結果】本論文はOHATスコアが誤嚥性肺炎の鑑別に有用である可能性を示し、さらにOHATと口腔内細菌数の相関を示すことを初めて明らかにしたという研究成果を示す内容である。OHATは簡易に行えるスクリーニング検査といった観点から、今後医療のみでなく介護現場などにおける誤嚥性肺炎のリスク評価や介入の評価にも役立つと考えられる。以上より学位論文として適正と判断した。

## 〔博士（医学）〕

氏名 八木橋 巖

〈学位〉	種 類	博士（医学）	論 文 項 目	液体クロマトグラフィー質量分析法を用いた薬物過量服用患者に対する薬物分析の診断精度に関する研究
	授与番号	博乙医 第614号	論文審査委員	主査 萬 知子
	授与年月日	令和2年9月16日		副査 大木 紫 長谷川浩 渡邊衡一郎 北村 修
	授与の要件	学位規程第6条		

## 学位論文の要旨

【背景と目的】薬物過量服用（以下OD）は主に自傷目的で処方薬等を過量服用した病態で、数種類の薬剤を大量に内服されることも多く、救急搬送される患者の中で比較的頻度が高い。拮抗薬を含めた専門的治療を行うためには服用薬物の情報が不可欠だが、意識障害を伴っていたり治療に非協力的であったりして、情報が得られないことも多い。服用薬物の検出に診断用検査キット（TriageDOA<sup>®</sup>、以下Triage）を用いることが多く簡便に施行できるが、尿検体から予め決められた7種類の薬物のみの検出が可能である。様々な薬物を尿以外の検体からも検出できる方法が必要である。液体クロマトグラフィー質量分析法（以下LC/MS）が候補としてあげられるが、OD患者への臨床応用の報告はほとんどない。本研究のアウトカムとして、OD患者に対しLC/MSで服用薬物を検出できるか、およびその信頼度を明らかにすることとした。

【方法】2011年から2014年に当高度救命救急センターで加療したOD患者のうち、胃内容物、血清、および尿の各検体をLC/MSを用いて分析した279名を対象とし、後方視的に検討した。自傷目的で過量服用した薬物とLC/MSにより検出された薬物との検出率、一致率等を検体採取部位間で比較した。ここで、過量服用した薬物は、空包などの状況証拠と本人の申告から推定した。またLC/MSとTriageの診断精度の比較も行った。データは平均±標準誤差で記載した。

【結果】患者は $3.2 \pm 0.1$ 種類の薬物を過量服用し、 $4.6 \pm 0.4$ 時間後に搬送された。全体で $3.5 \pm 0.1$ 種類の薬物がLC/MSによって検出され、胃内容物、血清、および尿からそれぞれ $2.4 \pm 0.1$ 、 $1.9 \pm 0.1$ 、および $2.2 \pm 0.1$ 種類であった。過量服用後4時間未満では、胃内容物から他の部位より多くの薬物が検出された（ $p < 0.01$ ）。服用薬物の検出率（検出薬物のうち服用薬物と一致した種類/服用薬物の種類）は、胃内容物で最も高かった（ $0.56 \pm 0.03$ ）（ $p < 0.01$ ）。検出薬物の一致率（検出薬物のうち服用薬物と一致した種類/検出薬物の種類）は、胃内容物と血清でそれぞれ $0.74 \pm 0.02$ 、 $0.78 \pm 0.02$ と比較的良好だった。また、服薬情報の無い25人においても、 $3.8 \pm 0.4$ 種類の薬物が検出された。Triageとの比較では、ベンゾジアゼピン系ならびに三環系抗うつ薬の検出の感度・特異度は、TriageとLC/MSはほぼ同等であった。また、Triageで検出できない薬物に対するLC/MSの感度・特異度も十分に高いことが分かった。

【結論】LC/MSは過量服用した薬物の検出に有用であった。特に服薬情報が得られない場合やTriage等で検出できないODが疑われる場合に、LC/MSで分析するか、それが可能な施設への転送を考慮すべきである。

## 論文審査結果の要旨

【背景と目的】薬物過量服用（以下OD）は主に自傷目的で処方薬等を過量服用した病態で、数種類の薬剤を大量に内服されることも多く、救急搬送される患者の中で比較的頻度が高い。拮抗薬を含めた専門的治療を行うためには服用薬物の情報が不可欠だが、意識障害や治療に非協力的のため、情報が得られないことも多い。服用薬物の検出に診断用検査キット（TriageDOA<sup>®</sup>、以下Triage）を用いることが多く簡便に施行できるが、尿検体から予め決められた7種類の薬物のみの検出が可能である。様々な薬物を尿以外の検体からも検出できる方法が必要である。液体クロマトグラフィー質量分析法（以下LC/MS）が候補としてあげられるが、OD患者への臨床応用の報告はほとんどない。本研究のアウトカムとして、OD患者に対しLC/MSで服用薬物を検出できるか、およびその信頼度を明らかにすることとした。

【方法】2011～2014年に当高度救命救急センターで加療したOD患者のうち、胃内容物、血清、および尿の各検体をLC/MSを用いて分析した279名を対象とし、後方視的に検討した。自傷目的で過量服用した薬物とLC/MSにより検出された薬物との検出率、一致率等を検体採取部位間で比較した。過量服用した薬物は、空包などの状況証拠と本人の申告から推定した。またLC/MSと

Triageの診断精度の比較も行った。データは平均±標準誤差で記載した。

【結果】患者は $3.2 \pm 0.1$ 種類の薬物を過量服用し、 $4.6 \pm 0.4$ 時間後に搬送された。全体で $3.5 \pm 0.1$ 種類の薬物がLC/MSによって検出され、胃内容物、血清、および尿からそれぞれ $2.4 \pm 0.1$ 、 $1.9 \pm 0.1$ 、および $2.2 \pm 0.1$ 種類であった。過量服用後4時間未満では、胃内容物から他の部位より多くの薬物が検出された（ $p < 0.01$ ）。服用薬物の検出率（検出薬物のうち服用薬物と一致した種類/服用薬物の種類）は、胃内容物で最も高かった（ $0.56 \pm 0.03$ ）（ $p < 0.01$ ）。検出薬物の一致率（検出薬物のうち服用薬物と一致した種類/検出薬物の種類）は、胃内容物と血清でそれぞれ $0.74 \pm 0.02$ 、 $0.78 \pm 0.02$ と比較的良好だった。また、服薬情報の無い25人においても、 $3.8 \pm 0.4$ 種類の薬物が検出された。Triageとの比較では、ベンゾジアゼピン系ならびに三環系抗うつ薬の検出の感度・特異度は、TriageとLC/MSはほぼ同等であった。また、Triageで検出できない薬物に対するLC/MSの感度・特異度も十分に高かった。

【結論】LC/MSは過量服用した薬物の検出に有用であった。特に服薬情報が得られない場合やTriage等で検出できないODが疑われる場合に、LC/MSで分析するか、それが可能な施設への転送を考慮すべきである。

新規性を含め、学位論文として適切であると認めました。

〔博士（保健学）〕

氏名 内 田 賢 一

〈学位〉	種 類 博士（保健学）	論 文 項 目	地域在住高齢者の身体活動量に対する非監視下低強度ホームエクササイズの介入効果
	授与番号 博甲保 第58号	論文審査委員	主査 小林 治
	授与年月日 令和2年3月31日		副査 四倉正之 山田賢治 石黒友康
	授与の要件 学位規程第5条		

学 位 論 文 の 要 旨

高齢者の健康増進において身体活動量の増加は、身体機能及び認知機能の改善を図るための重要な要因であり、呼吸循環器系疾患の発症率の軽減、死亡率の低下、転倒予防に寄与する有益な健康行動として認知されている。世界保健機関（WHO）は、高齢者において健康増進のために1週間あたりの中強度身体活動時間（MIPA）を150分以上確保することを推奨している。これまでに効果的・効率的に身体活動量の増加を図るための方略について検証されてきているが、その方法論は十分に確立されていない。そこで本研究では、地域在住高齢者において身体活動量の向上を図るための運動介入である非監視下低強度ホームエクササイズの効果と、指導した運動に対する定期的なモニタリングとフィードバックの実施の有無が身体活動量に及ぼす影響を検証した。

まず、地域在住高齢者23名を、1日3000歩の速歩にて有酸素運動を行う群（FW群、11名）と、ゴムチューブを用いた上肢の筋力増強運動を行う群（RT群、12名）に割り付けた。介入前の初回のみ運動方法を指導した後、運動内容に関する定期的なモニタリングは行わず、両群ともに6か月間毎日ホームエクササイズを実施した。その結果、FW群とRT群の両群ともに身体活動量に有意な増加は認められなかった。

次に、地域在住高齢者24名を、先行して検証した方法と同様の運動内容を実施するFW群（10名）とRT群（14名）に割り付けた。そして、介入前の初回に運動方法を指導した後、2週に1回の頻度で運動状況の定期的なモニタリングとフィードバックを行いながら、両群ともに6か月間毎日ホームエクササイズを実施した。その結果、1週あたりのMIPAは、FW群は介入前136.7 ± 90.4分から介入6か月後170.3 ± 121.9分に、RT群は介入前141.2 ± 82.7分から介入6か月後176.0 ± 87.5分に増加した。両群ともに、介入前と比較して介入6か月後はMIPAが有意に増加し、WHOが推奨するMIPA 150分以上の水準を上回った。非監視下低強度のホームエクササイズは、地域在住高齢者のMIPAを増加する方法として有効であり、その際に定期的なモニタリングとフィードバックを行うことが介入効果を確保するための重要な要件になると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

WHOによると高齢者の身体活動量の増加は、加齢によって低下する身体機能及び認知機能の改善が望めるだけでなく、併発する糖尿病、高血圧症、脂質代謝異常症といった生活習慣病の病勢の改善に加え虚血性心疾患や脳血管疾患の発生予防や抑うつ改善に効果があるとして、1週間あたりの中強度身体活動時間（MIPA）の150分以上の確保を推奨している。本論文は、超高齢社会である日本の地域在住高齢者を対象として身体活動量の向上を図るための運動介入である非監視下低強度ホームエクササイズの効果と、指導した運動に対する定期的なモニタリングとフィードバックの実施の有無が身体活動量に及ぼす影響を検証することにより、高齢者の身体活動量の向上を図るための具体的な方策を示した興味深いものである。

モニタリング・フィードバックを行なわない群23名（うち速歩を行うFW群11名、レジスタンストレーニングを行うRT群12名）と行う（MF+）群24名（MF+FW群10名、MF+RT群

14名）について6ヶ月間の比較検討を行った。結果、ホームエクササイズの1週間あたりの実施時間はFW群136.7 ± 90.4時間からMF+FW群70.3 ± 121.9分に、RT群141.2 ± 82.7分からMF+RT群176.0 ± 87.5分に増加した。すなわち両群ともに、介入前と比較して介入6か月後はMIPAが有意に増加し、WHOが推奨するMIPA150分以上の水準を上回ることが示された。本研究は、本学の博士論文の審査基準である新規性、独創性あるいは有用性と十分な学術的価値を持つ保健学分野の論文であると認められ、査読制度がある学術雑誌に掲載される水準を満たしているものと考えられるが、研究対象者数を増やすあるいは観察期間を延長する等、今後のさらなる展開が期待される。

本研究はすでに本学の倫理審査委員会の承認を得たものであるが、その後、論文題目等が変更されている。倫理審査委員会への変更申請は既になされているので、論文中の承認番号を新たなものに修正されたい。

以上の経緯を踏まえ、本論文は承認番号の修正をもって、本学の博士論文としてふさわしいものと結論した。

## 〔博士（保健学）〕

氏名 小 濱 優 子

〔学位〕	種 類	博士（保健学）	論 文 項 目	会話および用手的介入がケア対象者および施術者の心身に及ぼす影響に関する基礎的検討
	授与番号	博甲保 第59号	論文審査委員	主査 四倉正之
	授与年月日	令和2年3月31日	副査	柴田茂貴 松岡 恵 只浦寛子
	授与の要件	学位規程第5条		

## 学位論文の要旨

【目的】 会話および手を用いた介入がケア対象者および実施者に及ぼす心身への影響について、その自律神経および気分に対するリラクセーション効果を評価することを目的とした。

【方法】 大学生30名を対象に、2人一組で会話のみ、被施術・施術（会話下で介入）の3つの役割について、クロスオーバー試験による介入（ハンドマッサージ15分）を行い、介入前から後の持続的な心拍変動（HF,LF/HF,MHR）を測定し、POMS2については前後比較を行った〔研究Ⅰ〕。次に、会話無しで、大学生16名を対象に2人一組で被施術・施術の役割について、研究Ⅰと同様の研究デザインと方法を用いて実施した。座位安静をコントロールとした〔研究Ⅱ〕。HRV及びPOMS2のデータ分析方法は、研究Ⅰでは反復測定分散分析及び多重比較、平均値の差の検定（対応のあるt検定）、研究Ⅱではフリードマン検定及び多重比較、ウィルコクソンの符号付順位検定を行った。

【結果】 15分間の安静座位では、10-11分頃から有意な副交感神経活動の増加がみられ、ネガティブな気分が有意に軽減していたがポジティブな気分の低下も有意であった。会話では、交感神経活動の有意な増加がみられるとともに有意なネガティブな気分の軽減、ポジティブな気分増加の傾向がみられた。会話無しの被施術では、7-8分頃より有意な副交感神経活動の増加がみられ、介入後安静まで継続するとともに、一部のネガティブな気分の軽減がみられ、ポジティブな気分は変化がなかった。会話有りの被施術では、交感神経活動の増加と副交感神経活動の低下がみられたが、MHRのみ介入中から介入後まで有意に減少し、指標間に乖離がみられた。前後比較ではすべてのネガティブ項目が有意に軽減していた。施術者では、会話の有無に関わらず交感神経活動の有意な増加が認められた。交感神経活動のレベルは会話のみと同程度であり、副交感神経活動の有意な変化はなかった。会話有りではすべてのネガティブ項目が有意に軽減したが、会話無しでは1項目であった。

【結論】 用手的介入は、会話による交感神経の活性を抑制していた。被施術では、心拍変動からみると会話無しのほうがリラクセーション効果が顕著であり、気分に関しては会話有りのほうがリラクセーション効果は高いことが判明した。また、施術者は会話有りにおいて、気分におけるリラクセーション効果がみられることが判明した。これらのことは、用手的介入の実践にあたり、有用な知見であると考えられる。

<略語一覧> HRV：Heart Rate Variability, HF：High Frequency, LF/HF：Low Frequency/High Frequency, MHR：Mean Heart Rate, POMS2：Profile of Mood States2

## 論文審査結果の要旨

用手的介入のひとつであるハンドマッサージにおける被施術者および施術者に対するリラクセーション効果を、心拍変動解析を用いた自律神経活動分析および心理検査（POMS2）により検討した研究である。心拍変動解析では周波数領域では高周波数成分（0.15～0.4Hz）を副交感神経機能の、低周波数成分/高周波数成分を交感神経機能の活動指標とし、さらに時間領域では平均心拍数を分析した。研究Ⅰはボランティア大学生30名を対象に、15組にわけ、会話のみと会話有りのハンドマッサージを15分間実施し、その前、中、後の心拍変動解析を用いた自律神経活動の変動と、前後におけるPOMS2を用いた心理状態の変化を検討した。研究Ⅱはボランティア大学生16名を対象に、座位安静のみと会話無しのハンドマッサージを研究Ⅰと同様の方法で検討した。

その結果、以下のような結論が得られた。1）ハンドマッサージは会話無しの場合は被施術者の副交感神経活動を活性化させ、ネガティブな気分を軽減させるなど、リラクセーションをもたらす効果があった。この会話無しのハンドマッサージのリラクセーション効果は、座位安静と同程度であった。2）会話は、会話のみ、被施術者、施術者ともに交感神経活動を活性化させ副交感神経

活動の減少をもたらすことが示されたが、ネガティブな気分を軽減させる効果があった。3）会話有りのハンドマッサージでは、被施術者の心拍数を減少させ、被施術者および施術者のネガティブな気分を軽減させる効果をもたらすことが明らかとなった。施術者に関しては自律神経活動からみたリラクセーション効果は認められず、一部のネガティブ気分の軽減効果のみであった。4）ハンドマッサージの施術は、交感神経活動を活性化させるが、会話と同程度の交感神経活動であり施術者の負担は少なく、日常的なケアとして取り入れ易いことが示唆された。

本論文は、ハンドマッサージにおけるリラクセーション効果を、コントロールを含めたさまざまな条件で詳細に分析しており、このような研究は先行研究にはみあたらない。本論文により、実際の用手的介入では必然的に伴う会話が心理的なリラクセーションに寄与しているが、一方で会話は交感神経活動を活性化させる方向に働いており、ハンドマッサージはこの交感神経活動活性を抑制していることが示された。このことは新知見であり、本論文の成果のひとつといえる。

慎重な審査の結果、本論文は博士論文としての十分な価値を有していると判断した。



〔博士（学術）〕

氏名 武田 亜湖

〈学位〉種類	博士(学術)	論文項目	中小企業を取り巻く課題に対する社会科学研究		
授与番号	博甲国第 45 号				
授与年月日	2020.03.31				
授与の条件	学位規程第 5 条	論文審査員	主査	内藤 高雄	
			副査	藤原 究 棚村 政行	

学位論文の要旨

わが国における企業数は約 359 万社であり、中小企業・小規模事業者（以下「中小企業」という。）はその 99.7%を占めている。中小企業はさまざまな存立形態でわが国の経済発展に大きく貢献しており、また特殊な技術や能力を引継ぎながら地域の伝統や文化を守るなど、多様な役割を担っており、わが国の経済は中小企業に支えられていると言っても過言ではない。しかしながら同時に中小企業ならではの多種多様な問題を抱えており、さまざまな観点から解決策を模索する必要がある。本稿では以下 4 つの問題に着目する。

第 1 章においては、遺留分制度が明治民法下で制定された背景には、当時の家族的な背景や国家行政的な視点から必要だったという理由があり、150 年以上経過した現代においてにおいてもなお、大きな制度変更なしにそのまま存続されていることには大きな疑問がある点について検討を行った。遺留分制度の法的な背景から考えて、家族のあり方や家計財産の形成方法が大きく変化していく中で、条文上大きな変化のないことの問題点を指摘するとともに、近年、事業承継への対応を目的とした遺留分制度に対する改正が行われているにも関わらず、中小企業の事業承継に対する有効な支援になっていないという点についても指摘した。こうした検討の結果として、遺留分制度は現代の社会事情に照らしてその有用性は低く、特に中小企業の事業承継においては大きな障害となり続けており、今後制度自体を廃止するか、事業承継に関わる株式等については遺留分の範囲から除外するなどの対応が必要であるとの指摘を行った。

第 2 章においては事業承継税制のあり方について考察した。わが国の経済活動は中小企業によって支えられているが、経営者の高齢化や後継者不足により、このままの状態だと今後 10 年の間に約 650 万人の雇用、約 22 兆円の GDP が失われる可能性があるとして予想されている。収益性の高い優良な企業でも、この問題により廃業に追い込まれているケースが多く、その理由の一つは事業承継の準備を早期に着手することの重要性について理解が薄いことが挙げられる。

このような状況を改善するために、平成 20 年において「中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律」が成立し、現経営者から後継者へ経営と資産を引き継ぐ場合に、円滑に承継が行われるように承継に係る税負担を軽減させることとした。その後何度か改正が行われ、要件が緩和され、災害時の対応についても整備された。さらに、平成 30 年度において事業承継税制の特例が創設され、10 年の間に事業承継を集中的に促進することを目的に税負担の軽減や適用要件の緩和、第三者承継の促進を目的とした支援措置などが新たに導入された。しかし、今回の改正により複数株主から複数後継者への承継が可能となったことから、対象者パターンが増えたこと、また、要件や選択肢が増えたことなどから、実際に制度を利用する場合には制度を十分に理解した上で、それぞれのケースごとにシミュレーションを行い、慎重に検討を進めることが必要となり、中小企業者にとって負担となる可能性がある。

もう一つの課題として、改正された事業承継税制について内容を理解していない中小企業者が多いことが挙げられ、事業承継に関する情報は中小企業庁や全国の自治体等の支援機関で得られることを経営者に周知徹底することが必要であり、さらに、今後は税制面のサポートだけでなく経営者の事業承継への理解や早期の計画的な取組を促すことを重視し、それをサポートする体制を強化することが求められる。

第 3 章においては消費税の問題について考察した。わが国は多額の財政赤字が続く中、深刻な少子・高齢化に伴い社会保障費が急増し、早急な財源確保及び財政の健全化が必要とされ、対策の一つとして令和元年 10 月 1 日において消費税率が 10%へ引き上げられた。同時に軽減税率が導入され、令和 5 年 10 月 1 日には仕入税額控除についてインボイス方式が導入されることが決定されている。消費税増税には国民の理解を得ることが重要であるが、消費税には消費者が負担した消費税額相当分が国庫に納付されず、事業者の手元に残る益税という問題や、低所得者ほど負担割合が大きくなるという逆進性という問題があり、公平で中立的な税とは言えない。さらに、軽減税率にかかるみなし課税や簡易型インボイスが導入されることで新たに益税を生むことになるため見過ごすことのできない問題である。益税が生じる原因として事業者免税点制度や簡易課税制度、95%ルールなど、中小企業者に対する特例措置が挙げられる。

いずれの制度も消費税導入の際に中小企業者の事務負担を軽減するために用意されたものであるが、30 年近くが経過した現在は、多くの中小企業者が会計ソフトを利用しているため、当初の政策目的の多くは解消されていることから、基本的に縮小や廃止を検討する必要があると考えられる。

逆進性の改善策として軽減税率制度及び給付付き税額控除が挙げられ、制度としては給付付き税額控除の方が有効であり、多くの支持を得ているが、個人の所得の正確な把握が可能であるか不明であるため、課題が多いものの低所得者に手を差し伸べられる軽減

税率制度の導入が適正だと考えられる。

第4章においては中小企業のタックス・コンプライアンスの実現について考察した。中小企業は大企業に比べ、人的資源や財源の確保に限界があり、経営において多数の問題を抱えており、その一つとしてわが国における中小企業のCSRへの取り組みについて十分でないことが挙げられる。CSRの一つの柱とされているコンプライアンスは企業の安定的な発展と事業の継続のために非常に重要な問題であり、特にタックス・コンプライアンスについては軽視されやすいため、本節では、タックス・コンプライアンスに実現について考察した。

国税は原則として申告納税方式によることとされ、租税民主主義において最も適した方法とされている。納税者のタックス・コンプライアンスが前提となっているが、中小企業では、コンプライアンスよりも税金コストを低く抑えたい動機が働き、利益調整や過度な節税が行われる可能性が考えられる。中小企業の利益調整や過度な節税を社会的ジレンマと捉え、このジレンマ状況を解決するためのアプローチとして5つのメカニズム、血縁淘汰、直接互惠、間接互惠、マルチレベル淘汰、ネットワーク互惠が先行研究で示されており、これらのメカニズムによって、協力行動形成に寄与する可能性があることが多くの研究で検討されている。現実的には、企業の置かれている状況が異なることから、個別の問題を明らかにすることが重要であることが分かった。

中小企業のタックス・コンプライアンスの実現のためには、支援者の存在が重要となる。中小企業の納税・事業承継にあたって、デジタル化にむけたコスト負担の問題や、個別の家族問題など個別具体的な事情に対応するためには、法制度の改正だけでなく、経営支援の在り方を考える必要がある。

### 論文審査結果の要旨

武田亜湖氏より提出された博士学位申請論文「中小企業を取り巻く課題に対する社会科学的研究」は、武田氏が本学大学院国際開発専攻博士課程前期における知原信良教授の指導の下での租税法の研究、および本学大学院国際開発問題専攻博士課程後期における、藤原准教授の指導の下での民法の研究の成果としてまとめたものであり、いわば武田氏の本学大学院国際協力研究科での5年間の研究の集大成と言えるものである。

#### 【論文の構成】

本論文は序章および終章と、4つの章から構成されており、具体的な構成は以下のとおりである。

#### 序章

##### 第1章 遺留分制度のしくみ

###### 1. 概要

- (1) 遺留分制度の意義とは
- (2) 遺留分制度の問題点

###### 2. 遺留分制度の沿革

###### 3. 明治民法上の遺留分

###### 4. 現行法における遺留分制度のあらまし

- (1) 改正の流れ
- (2) 現行民法上における遺留分制度の根拠
- (3) 現行遺留分制度の構造

###### 5. 遺留分制度と事業承継

- (1) 承継円滑化法における遺留分に関する民法の特例
- (2) 承継円滑化法の立法までの背景
- (3) 現代における遺留分制度の意義

##### 第2章 中小企業の事業承継のあり方

###### 1. 概要

###### 2. 中小企業経営の承継と革新

- (1) 中小企業経営の特徴
- (2) 承継方法
- (3) 事業承継を契機とした中小企業の経営パフォーマンス

###### 3. 事業承継の現状

- (1) 経営者の高齢化
- (2) 後継者の育成
- (3) 経営者交代による売上高

###### (4) 承継方法

###### (5) 事業承継のタイミング

##### 4. 事業承継税制について

###### (1) 概要

###### (2) 事業承継税制の導入と改正の流れ

##### 5. 事業承継税制改正によるケースごとの検討

###### (1) 自社株承継方法

###### (2) 遺留分

##### 6. 事業承継税制の課題

##### 7. まとめ

#### 第3章 消費税における中小企業者に対する優遇措置の特例

##### 1. 概要

##### 2. 日本の消費税を取り巻く状況

- (1) 消費税導入及び消費税率引き上げの経緯
- (2) 消費税の課税制度
- (3) 消費税の優位性

##### 3. 消費税の問題と改善策

- (1) 逆進性
- (2) 逆進性の緩和策

##### 4. 中小企業に対する特例措置の問題

- (1) 中小企業に対する特例措置と益税
- (2) 益税の現状
- (3) 中小企業に対する優遇措置の特例の今後のあり方と

##### 益税の改善策

##### 5. 消費税10%引き上げに伴う新たな課題

- (1) 軽減税率
- (2) インボイス方式と益税問題
- (3) マイナンバー制度

##### 6. まとめ

#### 第4章 中小企業のタックス・コンプライアンスの実現

##### 1. 概要

##### 2. タックス・コンプライアンス

##### 3. 社会的ジレンマとサンクション・システム

##### 4. 中小企業の抱える問題とその支援

- (1) コスト問題
- (2) 同族企業と事業承継問題

##### 5. 税理士の役割

##### 6. まとめ

終章  
脚注

【論文の概要】

本論文は個人事業者をも含めた中小企業を対象に、4つの視点から武田氏の主張を論じている。

まず第1章では遺留分制度に焦点を当て、制度の展開が及ぼす中小企業への影響について考察している。

遺留分制度が初めて創設された明治民法は、「家」制度や「家督制度」をベースに作成されている。当時の家族的な背景や国家行政的な視点から必要であったという理由があった。従ってその明治民法の下での遺留分制度創設の目的は、家督相続をする長男が自分の継ぐべき財産が他の相続人に移行してしまったときにそれを取り戻す手段であった。

しかしながら、第二次世界大戦後に家督制度が廃止されたことにより、遺留分制度も変更されることになる。家督制度を守るための遺留分制度は、家督制度がなくなった現状では、異なる目的に移行することになる。すなわち戦後の民法における遺留分制度は、相続人が期待する法定相続分が失われてしまうことを防ぐことを目的としているのである。それにもかかわらず家族のあり方や家計財産の形成方法が大きく変化していく中で、遺留分制度については条文上、大きな変化がないことの問題点を武田氏は指摘している。

以上のように遺留分制度の展開を論じたうえで、この現代の遺留分制度が、中小企業の事業承継の場面で、大きな障害となっていることを武田氏は指摘している。つまり高齢の経営者が自社株式について事業承継を受ける予定の後継者に集中的に承継しようとした時、結果として遺留分制度の問題が発生するのである。もちろん政府も承継円滑化法などの民法の特例を成立させるなど、中小企業の事業承継支援に関しての支援を行っているが、遺留分制度は中小企業の事業承継において依然として障害となっており、遺留分制度を放置することによる不利益は大きいと指摘している。

次いで第2章では、第1章で論じた遺留分制度が障害になっている、中小企業の事業承継税制を考察している。

中小企業の事業承継の方法には一般に、親族承継、親族外承継、M&Aの3つがある。従来はこのうち、親族承継が主流であった。基本的には長男が後を継ぐことで「家」を存続させてきた。しかしながら核家族化や後継者自身の将来への不安などから、親族承継が困難になってきていることを武田氏は指摘している。中小企業を取り巻く環境の変化、とりわけ少子高齢化が進み、家族のあり方が多様になった現代では、親族承継は現代の経営にそぐわない方法になってきている。事業承継は単なる世代交代ではなく、事業を革新させると同時にその事業を拡大し、さらなる未来の価値につなぐという意味で、親族外承継やM&Aなど、様々な方法を取り入れる必要があることを、様々な機関の著したデータを基に、武田氏は指摘している。

また平成20年に成立した「中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律」をはじめとした、現経営者から後継者に経営と資産を引き継ぐ場合の承継の円滑化を狙いとした、様々な税負担の軽減制度が整備されたが、その事業承継税制の内容が、中小企業の経営者に十分に理解されていないことを武田氏は指摘している。中小企業庁や全国の自治体、商工会議所などの支

援機関で得られる情報を、中小企業の経営者に周知徹底する必要があると言える。そういう意味で、事業承継の円滑化に向けて、税制面の対策だけでなく、経営者の事業承継への理解や早期の計画的な取り組みを促すことが重要であると、武田氏は論じている。

この「中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律」はその後何度か改正され、適用要件の緩和や複数後継者への承継などが導入されたが、要件や選択肢が増えたことで制度が複雑になり、それぞれのケースごとのシミュレーションを行うなど、慎重に検討を進める必要が生まれ、そのことが中小企業経営者にとって負担になることも指摘されている。

さらに第3章では、中小企業に関わる消費税の優遇措置について考察している。

武田氏は昭和45年の大平内閣での一般消費税導入問題から、昭和63年の竹下内閣での消費税導入までの経緯、および導入された消費税の内容とその後の令和元年の税率10%への引き上げまでの過程を詳細に論じている。そのうえで消費税の諸問題のうち、中小企業に対する各種優遇措置に伴う益税の問題について、特意的を絞って、具体的な事例を交えて考察している。

中小企業に対する優遇措置としては、免税点制度、限界控除制度、簡易課税制度などが挙げられる。武田氏はこれらの優遇措置について、消費税導入の際に中小企業の事務負担を軽減する目的で導入されたものであり、導入時より30年が経過した現在では、コンピュータの飛躍的發展もあり、基本的に廃止または縮小することを、提案している。とりわけ簡易課税制度については、公平性や信頼性を著しく欠くことから、制度の信頼性を著しく損なうとして、直ちに廃止するべきであると結論付けている。

さらには令和元年の税率10%への引き上げに伴って導入された優遇措置については、拙速な完成を目指すことなく、数年の経過措置を講じながら制度を完成させるべきであるとしている。

最後に第4章では中小企業のタックス・コンプライアンスの実現の問題について論じている。

中小企業は大企業に比べて、人的資源や財源の確保に限界があり、経営において多数の問題を抱えている。その一つとして武田氏はわが国の中小企業のCSRへの取り組みについて十分でないことを指摘している。CSRの一つの柱とされているコンプライアンスは企業の安定的な発展と事業の継続のために非常に重要な問題であり、とりわけタックス・コンプライアンスについては、中小企業においては、軽視されやすい。従って第4章ではタックス・コンプライアンスの実現について、税制の問題を解決するためには、税務当局と企業の両者の役割について理解を必要があるとの問題意識に立ち、中小企業側に要求されるタックス・コンプライアンスの実現の議論を通して、考察している。

武田氏は租税民主主義に最も適した方法として、現行の申告納税方式を挙げている。この制度は納税者のタックス・コンプライアンスが前提となっているが、中小企業では、コンプライアンスよりも税金コストを低く抑えたい経営者の動機が働き、利益調整や過度の節税が行われる可能性を指摘している。この利益調整や過度の節税を社会的ジレンマとして捉え、このジレンマを解決手段として、血縁淘汰、直接互惠、間接互惠、マルチレベル淘汰、ネットワーク互惠の5つのメカニズムを指摘して

いる。

そのうえで武田氏は中小企業の抱える問題として、税制の複雑化に伴うコスト問題とそれに伴うデジタル化の問題、同族企業と事業承継問題、が存在していることを指摘した。そしてこれらの問題を解決するために、経営者の感じていることを正しく翻訳し、中小企業の経営者からコンサルティング能力を期待される存在として、税理士の役割の重要性を指摘している。

しかしながら現状では、多くの税理士は取引の記帳に関するチェックや納税に関する書類の作成と助言をその業務の中心としている。そしてこうした状況は中小企業の衰退に少なからず影響を与えていると指摘している。

税理士は企業の内集団と外集団との境界に位置し、内的淘汰圧と外的淘汰圧の両面から企業の行動を規律しうる立場にいる。今後は税理士の能力向上のために、税理士試験の科目や研修制度など多くの視点から、税理士制度の改革が重要であり、現実には多くのコストを負担できない中小企業経営者にとって、重要な役割を果たすと、結論付けている。

#### 【論文の評価】

本論文は、わが国経済において重要な役割を果たしている中小企業の抱える問題について、詳細な分析を行った上で、その現状と克服すべき課題について幅広く検討が行われており、これまで行われてきた中小企業支援対策の諸政策と比較してその実現可能性や実効性において優れた部分を含んでおり、学術的にはもちろん、政策論的にもその価値は高い。とくに本論文では、従来から課題とされてきた中小企業の後継者問題について、遺留分制度の沿革から丁寧に検討を重ね、行政上の取り組みにおける問題点について鋭い指摘を行っている点において優れているといえる。さらには、経営学的な視点から、中小企業経営者のジレンマについても検討し、そこから導かれる中小企業経営者の行動規範と社会において求められる経営的なモラルとをバランスさせることの重要性とその他中小企業の抱える問題点について、両者を解決するための方策を多角的・学際的に描出している点においても、独創的かつ斬新な業績であるといえる。本論文は、これまで克服できなかった中小企業の課題という現代的な課題に対して考察を加えるもので、今後のさらなる研究の発展が期待される。

本論文の特に評価できる点は以下の通りである。

第1に本論文が個人事業者をも含めた中小企業を対象として、遺留分制度、事業承継、消費税、およびタックス・コンプライアンスといった問題について、法令や先行研究を丹念に収集・理解し、その上でそれぞれの分野について、自らの主張を展開し、包括的にまとめたことである。一般に社会科学の諸分野で企業を研究対象とする場合、大企業を研究対象とする場合が通常である。中小企業を対象に研究する場合でも、ある一つの分野の研究が一般的であり、本論文のように多方面から学際的に問題解決を目指した研究はほとんどなく、こうした点について、積極的意欲的に解明を試みている点において大いに評価することができる。

第2に本論文では多岐にわたる研究分野を網羅するため、非常に多くの文献や資料に対して丹念な調査が行われている。論文では多くの引用・参考文献が掲載されているが、この中には

民法関係や税法関係の法令、民事法や租税法に加えて、経営学や経済学など、国内外の膨大な先行研究などの文献、さらには国税庁、中小企業庁、財務省などの公的機関が発表するデータなどが含まれている。こうした資料を十分に検討し、その中から課題に対して必要なものを十分に用意しており、これらの点において、資料自体を類型化し、網羅的に分析するという作業は、幅広い研究領域をカバーする手堅い研究能力を裏付ける証拠となっている。

第3に本論文が個人事業者をも含めた中小企業を対象に、民事法、租税法に加えて、それらの民事法や租税法の問題を解決するために、タックス・コンプライアンスの実現の問題、すなわち経営学的視点から考察していることである。これは中小企業の抱える諸問題の解決について、立体的で複眼的な視点で考察を行っている。経営学的な視点を導入することで、従来の中小企業向けの施策においてかけていた視点を明らかにしており、こうした立論自体これまでの課題を解決しうる優れた立論であるといえ、学界に一定の影響を与えるものであり、優れた学術的評価に値すると言える。

第4に本論文の結論ともいえる部分、すなわち中小企業の抱える、税制の複雑化に伴うデジタル化等のコスト問題、および同族企業と事業承継問題を解決するために、中小企業の経営者と税務当局等の行政機関をつなぐ存在として、税理士の役割の重要性を指摘したことである。公認会計士が監査業務を中心に、専ら大企業をターゲットにしているのに対し、個人事業者をも含めた中小企業の経営者と関わりの深い税理士は、経営者が企業の情報を共有できる重要な存在である一方で、コンサルティングにおいてまだそのリソースを活かしきれていないという現状に問題提起をしている。こうした視点は、税理士の職域拡大という視点からは提言があったものの、こうした業務拡大の必要性を学際的に裏付ける研究を行っているという点において、革新的で優れた考察である。

しかしながら、本論文は、以上のような優れた研究成果や学界における理論水準を示すものであるものの、問題点が全くないわけではない。

例えば経営学的研究はタックス・コンプライアンスの観点からの研究にとどまっており、さらなる経営学的研究も望まれる。また諸文献を丹念に研究しているがあくまで机上の研究にとどまっており、中小企業の経営者と税務当局等の行政機関をつなぐ存在としての税理士の役割については、実証的な研究、すなわち実務における課題や問題を実証的に検証する必要があると考えられる。この点については、今後、武田氏が税理士として実際に実務に携わった際に、さらなる研鑽を踏まえて研究をまとめ、成果を発表することを期待するものである。

ただ、こうした検討課題は残されているものの、本論文はこれまで検討されなかった、中小企業の抱える課題に対する複眼的な検討を行うという挑戦的で独創的な視点の研究であるといえ、この分野における有益かつ具体的な示唆を与えてくれるものであると評価することができる。上に挙げた課題は今後の研究の進行におけるさらなる発展を期するためのものであって、これにより、本論文の評価がいささかも損なわれるものではない。さらには、口頭発表ならびに口頭試問でも明晰に論旨を述べ、質問には的確に答えて、時間をかけて丹念に作成された論

## 学位論文要旨および審査要旨

文であることが確認できた。以上のことから、審査員一同はこの研究の学術的価値を認め、博士（学術）の学位を受けるに値するものと認める。

令和元年度（平成31年度）杏林大学研究業績集

令和3年3月31日 発行

編集人 大 瀧 純 一  
発行所 杏 林 大 学  
東京都三鷹市新川6-20-2  
編 集 研究推進センター